

栃木県埋蔵文化財調査報告第 362 集

東谷・中島地区遺跡群 16

—都市再生機構による東谷・中島土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査—

西刑部西原遺跡

(古墳・奈良・平安時代編)

2013. 3

栃木県教育委員会
財)とちぎ未来づくり財団

東谷・中島地区遺跡群 16

—都市再生機構による東谷・中島土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査—

西刑部西原遺跡 (古墳・奈良・平安時代編)

2013. 3

栃木県教育委員会
(財)とちぎ未来づくり財団



西刑部西原遺跡 3区全景（北上空から）



西刑部遺跡 13区北部全景（南上空から）

序

東谷・中島地区遺跡群は、栃木県の中央部、宇都宮市南部から上三川町北部に位置しています。この地域は、なだらかに広がる低台地と肥沃な沖積地に恵まれているため、杉村遺跡・立野遺跡・西刑部西原遺跡・砂田遺跡などの原始・古代の集落跡と、東谷古墳群・中島笹塚古墳群・磯岡北古墳群・琴平塚古墳群をはじめとする多くの古墳群が所在します。

このたび、独立行政法人都市再生機構による土地区画整理事業に先立ち、事業地域内に所在する12遺跡の取り扱いについて、関係機関と協議の上、平成6年度から記録保存を目的とした発掘調査を行ってきました。

このうち、西刑部西原遺跡の発掘調査では、多くの土器・石器類や金属製品等が出土しました。特に平安時代の井戸から見つかった木製の馬具は極めて貴重な出土例といえるものです。

本報告書は、西刑部西原遺跡の古墳時代から奈良・平安時代における集落跡の発掘調査成果をまとめたものです。本書が県民の皆様にとって郷土の歴史を理解する一助になるとともに、各方面において広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なる御協力をいただきました独立行政法人都市再生機構、宇都宮市教育委員会、上三川町教育委員会をはじめとする関係機関、並びに関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成25年3月

栃木県教育委員会

教育長 古澤 利通

例 言

1. 本書は独立行政法人都市再生機構による東谷・中島土地地区画整理事業に伴い発掘調査が実施された東谷・中島地区遺跡群のうち、上三川町および宇都宮市に所在する西刑部西原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は栃木県教育委員会の指導のもと、財団法人とちぎ未来づくり財団が独立行政法人都市再生機構と受託契約を締結し、埋蔵文化財センターが実施している。

計画地内の発掘調査は平成6年度から平成20年度まで実施した。このうち西刑部西原遺跡は平成9年度に1区（琴平塚1号墳）と試掘調査、平成11年度に2区（琴平塚2号墳～13号墳及び推定東山道）の本調査、平成12年度は3・4区、平成13年度は5～7区（琴平塚14号墳及び推定東山道を含む）、平成15年度は8区（琴平塚9号墳の周溝一部及び推定東山道の一部を含む）、平成17年度は9～11区、平成18年度は12区、そして平成19年度は13・14区の本調査を実施した。

このうち推定東山道部分は平成14年度に、琴平塚古墳群は平成15年度に、また旧石器・縄文・弥生時代編は平成23年度にそれぞれ調査報告書を刊行している。平成20年度から、これらを除く集落部分の整理作業を断続的に行っており、今回は古墳時代及び奈良・平安時代の遺構・遺物について報告するものである。

3. 東谷・中島遺跡群の発掘調査は以下の担当者により実施した。

平成6年度 菅谷 豊、塚本師也、塚原孝一

平成7年度 中山 晋、稲木 実、関口正明、増山孝之、山本訓志、塚原孝一、安永真一、藤田直也

平成8年度 中山 晋、稲木 実、増山孝之、山本訓志、塚原孝一、石川幸広、藤田直也

平成9年度 初山孝行、小島昭寿、増山孝之、山本訓志、塚原孝一、石川幸広、高野瑞枝、藤田直也

平成10年度 初山孝行、松本 敏、名越侍郎、岡部正晴、小島昭寿、増山孝之、山本訓志、中村享史、塚原孝一、内山敏行、石川幸広、高野瑞枝、柿沼利幸、藤田直也、大島美智子、田中裕子

平成11年度 田代 隆、松本 敏、名越侍郎、岡部正晴、小島昭寿、後藤信祐、中村享史、塚原孝一、内山敏行、和久井宏行、高野瑞枝、柿沼利幸、上原康子、藤田直也、大島美智子、田中裕子、
(発掘補助員) 佐藤 齊

平成12年度 田代 隆、名越侍郎、江頭 進、中村享史、内山敏行、上原康子、藤田直也、矢野里織、
(発掘補助員) 佐藤 齊、田崎真理

平成13年度 田代 隆、江頭 進、中村享史、内山敏行、江原 英、谷中 隆、藤田直也、矢野里織、
(発掘補助員) 田崎真理

平成14年度 田代 隆、江頭 進、馬場秀典、中村享史、内山敏行、谷中 隆、藤田直也、矢野里織、
(発掘補助員) 田崎真理

平成15年度 田代 隆、小出功一、馬場秀典、中村享史、内山敏行、谷中 隆、藤田直也、塚田浩久、
(発掘補助員) 岡田 圭、田崎真理

平成16年度 田代 隆、津野 仁、小出功一、馬場秀典、内山敏行、谷中 隆、今平昌子、
(発掘補助員) 田崎真理

平成17年度 田代 隆、津野 仁、小出功一、馬場秀典、内山敏行、谷中 隆、今平昌子、
(発掘補助員) 田村雅樹

平成18年度 田代 隆、津野 仁、篠原浩恵、内山敏行、谷中 隆、中山真理、
(発掘補助員) 津野田陽介

平成19年度 後藤信祐、大瀧貴史、石田善成、内山敏行、谷中 隆、今平昌子、宮田宣浩、峰崎武昭、
田村雅樹、(発掘補助員) 津野田陽介

平成20年度 後藤信祐、内山敏行、今平昌子、亀田幸久
平成21年度 塚原孝一、内山敏行、今平昌子、亀田幸久
平成22年度 内山敏行、今平昌子、亀田幸久、藤田直也
平成23年度 内山敏行、今平昌子、亀田幸久
平成24年度 中村享史、内山敏行、亀田幸久

4. 西刑部西原遺跡（琴平塚古墳群も含む）の発掘調査は、以下の担当者により実施した。

平成9年度（西刑部西原遺跡1区試掘・本調査）初山孝行、小島昭春、増山孝之、山本訓志、藤田直也
平成11年度（西刑部西原遺跡2区本調査）名越待郎、岡部正晴、中村享史、内山敏行、高野瑞枝、大島美智子
平成12年度（西刑部西原遺跡3・4区本調査）名越待郎、岡部正晴、江頭進、中村享史、上原康子
平成13年度（西刑部西原遺跡5～7区本調査）江頭進、中村享史、江原英、矢野香織、田崎真理
平成15年度（西刑部西原遺跡8区本調査）小出功一、谷中隆、岡田圭
平成17年度（西刑部西原遺跡9～11区本調査）田代隆、小出功一、馬場秀典、田村雅樹
平成18年度（西刑部西原遺跡12区本調査）田代隆、中山真理、津野田陽介
平成19年度（西刑部西原遺跡13・14区本調査）後藤信祐、今平昌子、大瀧貴史、石田善成、崎崎武昭、
田村雅樹、津野田陽介

5. 本書の作成・執筆・編集は（財）とちぎ未来づくり財団 亀田幸久が行った。また第5章 西刑部西原遺跡の自然科学分析はパリオ・サーヴェイ株式会社が行った。

6. 西刑部西原遺跡の発掘調査にあたり、以下の委託事業を実施した。

基準点測量及び杭打ち・航空写真撮影・航空写真撮影図化・航空写真合成：中央航業株式会社、理化学分析（本製品樹種・種実遺体・昆虫遺体同定、塗膜破片作成・観察）：パリオ・サーヴェイ株式会社、本製品保存処理：株式会社東都文化財保存研究所

7. 遺構写真は各調査担当者が、遺物写真撮影は亀田幸久が撮影した。遺物のX線撮影は車塚晋久、航空写真は中央航業株式会社が撮影した。

8. 発掘調査の実施並びに報告書の作成にあたっては栃木県教育委員会文化財課の指導を受けると共に、次の方々の御指導、御協力を賜った。

都市再生機構栃木開発事務所、宇都宮市教育委員会、上三川町教育委員会、栃木県立博物館
秋元陽光、上野修一、内川隆志、今平利幸、塙静夫、深谷昇、森嶋秀一、山口耕一（敬称略）

9. 本遺跡については、既に栃木県教育委員会『栃木県埋蔵文化財保護行政年報』21平成9年度（1997）、同23平成11年度（1999）、同24平成12年度（2000）、同25平成13年度（2001）、同27平成15年度（2003）、同29平成17年度（2005）、同30平成18年度（2006）、同31平成19年度（2007）、同33平成21年度（2009）、『埋蔵文化財センター年報』第9号（平成11年度）、同第10号（平成12年度）、同第11号（平成13年度）、同第15号（平成17年度）、同第16号（平成18年度）、同第17号（平成19年度）、同第18号（平成20年度）、同第19号（平成21年度）、同第20号（平成22年度）、同第21号（平成23年度）、宇都宮市教育委員会文化課『宇都宮市文化財年報』第16号〔平成11年度〕、同第17号〔平成12年度〕、同第18号〔平成13年度〕、同第20号〔平成15年度〕、同第22号〔平成17年度〕、同第23号〔平成18年度〕、同第24号〔平成19年度〕、同第25号〔平成20年度〕、『栃木県埋蔵文化財センター便り』2011.6月号（平成23年）などで一部概要が公表されているが、本書をもって正式報告とする。

10. 本報告書名は遺跡名ではなく、業務名である。

11. 本遺跡に係わる出土遺物・実測図・写真等の資料は、財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターで保管している。

12. 発掘調査協力者は次のとおりである。(順不同・敬称略)

会沢嘉明、青木良人、青柳 茂、阿久津友恵、阿久津正代子、阿久津フミ、阿久津昌子、阿久津容子、朝倉榮子、阿部利三郎、鮎澤賢三、荒井光美、新井みや子、飯田国松、石井けい子、石川晶子、石川てる子、石川東司、石川良子、石崎幸子、石崎富美子、石塚洋太郎、石原昌子、石原朋子、石浜ふみ子、岩本文子、石渡ヨシイ、磯崎恵子、伊東祐子、稲垣 節、稲川洋子、稲葉るみ子、今井光子、入江キイ、入江セツ、入江タカ子、入江つや子、入江 徹、入江文子、入江通子、入江晴江、岩井タイ、猪瀬岩夫、岩本文子、上野久子、上野やえ子、白井ツヤ、植松雄介、榎本健夫、大垣一子、大谷三恵子、大田勝雄、大田リエ子、大垣カツ、大塚アエ、大塚サダ、大塚スガ、大塚 清、大塚タマ子、大塚三代子、岡田イセ、岡田紀子、岡田 満、尾島サキ、小椋朋子、小澤一雄、小貫邦生、柿沼 武、片山重子、加藤明美、加藤家康、加藤盛枝、加藤マツエ、川島利子、川島 昭、川畑忠久、河村祐治、木村昭絵、木村孝子、北村 順、工藤英子、栗原 徹、黒須エイ、黒須多喜子、黒川テル子、黒川法子、黒田 史、熊木秀男、毛塚雪子、小高真理子、小島清子、小林ミツエ、小林マス、小松寅雄、郷間和子、今能のぞみ、斉藤幸子、斉藤近由、斉藤みつ、坂井原弓子、坂入厚子、坂入寛子、坂田実徳、坂本キミ子、櫻井洋之、櫻井靖久、笹崎剛夫、佐藤武尚、佐藤ツヤ子、佐藤ミサ子、佐藤ヨシ、佐藤芳夫、椎貝フヂエ、椎貝祥子、篠崎一美、篠原サク、篠原信子、清水タネ、清水裕子、柴タミ子、下谷文男、白井チセ子、杉山 巧、鈴木恒正、鈴木ヨシ子、須永剛生、田崎信夫、田崎真理、高木ハマ、高田滋子、高嶋一平、高島勝正、高嶋嗣子、高嶋キヨノ、高島典子、高島秀子、高嶋ミヨ子、高瀬智代子、高野ヨシ子、高橋朝美、高橋政昌、高橋晴子、高橋洋子、高橋平次、高橋松男、高秀ハツエ、高松道子、高松美和子、高松米子、高山シズ江、田崎照明、田仲コト、田仲 静男、田中征子、田仲ヤス、津野田陽介、鶴見世及、対馬順子、圓谷由貴子、手塚智彦、寺内キイ、寺内きぬ、寺内 尉、寺内ミツエ、寺内千代子、豊田孝子、仲沢 隼、直井清之、直井朋一、中山伸子、新村義一、根本有理子、野口コウ、野口忠士郎、野崎久美子、野沢伸嘉、野沢トシ、野沢トミ、野澤 守、野沢 充、畠山 弘、橋本フジ、林 孝行、馬場キワ、伴三千代、平井克美、平井待子、平石キヨノ、福富 準、広田愛子、深澤光一、深沢勝和、福田純子、福田安家、福田ツヤ、福田林蔵、藤原美枝、古谷安司、堀中国代、星野高雄、細野重信、本田 篤、本牧キン、増山晃広、増淵キミ、増淵京子、増淵フミ、増淵三枝子、増淵正広、増淵三男、増淵皓三、松沼 朗、松本かおる、真分フキ、三上あけみ、美野輪説二、宮本スミエ、宮本恒雄、宮本俊明、室井キン、毛利沙和子、茂垣 栄、李保美枝、望月スズイ、百瀬洋子、森田幸江、安井嘉津子、谷田部キヨ子、矢田部敏雄、柳田加子、柳田悦子、梁嶋ヨシ、山崎千代子、山崎洋子、吉沢明世、吉沢良助、吉沢千代、吉田みつえ、渡辺昭二郎、渡辺洋子、渡辺四郎、渡辺フミ

13. 整理作業・報告書作成作業の参加者は次のとおりである。(順不同・敬称略)

赤羽根清美、稲葉順子、太田由美、岡田陽子、生内千春、尾見 愛、後藤幸子、高田菜都実、武田智子、田崎 望、筑井くみこ、根本明美、石川高子、村上啓子、本西幸子、山中貴博

凡 例

(遺跡)

遺跡の略号 略号は確認調査を「UT・TN」とし本調査を「UT・NS」とした。また調査区の表示は略号の後ろに付した(例:西荆部西原遺跡13区→UT・NS-13)。

公共座標 各調査区の全体図には国土調査法による平面直角座標第IX系の座標値を記入した。各遺構の配置については、国家座標第IX系に基づく東谷・中島地区遺跡群全体を覆うグリッドにより表記した。また、挿入図の方向については、座標北(平面直角座標第IX系のX軸方向)である。なお、本書の座標値は平成14年(2002年)4月から試行されている世界測地系に基づく座標値は使用していないが、緯度・経度の表示は世界測地系による数値を示した。

(遺構)

遺構略号 竪穴建物跡:SI、掘立柱建物跡:SB、井戸:SE、土坑:SK、溝:SD、道路状遺構:SF、古墳:SZ、性格不明遺構(円形周溝遺構・方形竪穴状遺構・円形有段遺構・遺物集中地点など):SXの略号で表した。基本的に調査区ごとに種別によらず確認された遺構順に番号を付したが、既に報告済みの古墳及び、道路状遺構は報告書記載の遺構番号を踏襲した。

縮尺 今回掲載した遺構実測図は原則として、竪穴建物跡・掘立柱建物跡・円形周溝遺構・井戸・土坑・ピット:1/80、遺物集中地点:1/20、道路遺構:1/100、古墳:1/200である。また溝跡や各調査区の遺構配置図および遺構全体図は必要に応じて縮尺を変更している。

方位 図示した方位は、小縮尺の地形図(第1図)が真北、他の図中では座標北(平面直角座標第IX系のX軸方向)である。遺構の主軸方向は座標北に対する振れを示す。

標高 断面図基準線の値は海拔標高で、水系記号または土層注記の下段に記載した。

(遺物)

遺物番号 遺物は基本的に古い方から時代毎に行っている。この番号は、本文、遺物出土状況図、遺物実測図、遺物観察表、写真図版等に共通する。

計測値 遺物計測表における長さ・幅・厚さはそれぞれの最大値を表し、計測値は、数値のみ=計測値、()=復元値あるいは推定値、[]=残存値を示す。

縮尺 遺物実測図は基本的に土器類:1/4、石器類:1/4、土製品・石製品:1/2、鉄製品:1/2、銅製品:原寸、和鏡:原寸だが、大型の遺物に関しては1/5、1/6で掲載した場合があり、縮尺はその都度スケールを入れ縮尺も表記している。なお、遺物写真図版の縮尺については不統一で、金属製品は基本的に実測図と同一(1/2)としたが、厳密なものではない。土器類・石器類・土製品・石製品は縮尺不同である。

破片実測の遺物 断面図の左側に内面、右側に外面を配置する。

器質 須恵器は断面黒塗り、灰輪陶器は断面にスクリーントーンを入れた。金属製品の断面には斜線を記した。また実測図には必要に応じてスクリーントーンを入れたものがあるが、特に凡例は設けずその都度説明を記載した。

色調 土器・石器類の色調は標準土色帖をもとに記載した。

胎土 混和材の多少を基準に「粗い/やや粗い/やや緻密/緻密」とする。混和材が鉱物・岩石の場合:長径0.5mm未満は「細砂」、0.5～2.0mmは「砂」、2.0mm以上は「礫」とする。混和材が鉱物・岩石以外の場合、直径0.5mm未満は「細粒」0.5～2.0mmは「粒」、2.0mm以上は「粗粒」とする。混和材の色は「灰・白・黒・赤・透明」とする。半透明のものは「透明」とする。

焼成 「硬質/やや硬質/軟質/やや軟質」とする。

出土量 不掲載遺物の出土量は小コンテナ箱(内法:54×34×10cm)で換算した。

目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
第1章 調査の経過	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法	3
第3節 調査の経過	5
第2章 遺跡の環境	
第1節 地理的環境	8
第2節 歴史的環境	12
第3章 発見された遺構と遺物	
第1節 調査の概要	23
第2節 標準土層	24
第3節 3区の遺構と遺物	
1. 竪穴建物跡	26
2. 掘立柱建物跡	185
3. 円形周溝遺構	196
4. 性格不明遺構	198
5. 井戸	203
6. 溝	213
7. 円形有段遺構	214
8. 土坑	216
9. ビット	221
10. 遺構外出土の遺物	222
第4節 4区の遺構と遺物	
1. 竪穴建物跡	225
2. 溝	230
3. 土坑	231
4. 遺構外	231
第5節 5区の遺構と遺物	
1. 竪穴建物跡	234
2. 掘立柱建物跡	245
3. 円形周溝遺構	247
4. 土坑	247
5. ビット	251
第6節 6区の遺構と遺物	
1. 溝	253
2. 土坑	253
3. ビット	254
第7節 7区の遺構と遺物	
1. 竪穴建物跡	256
2. 円形有段遺構	262
3. 土坑	263
4. 道路状遺構	263
第8節 8区の遺構と遺物	
1. 土坑	264
2. 古墳	265

3. 道路状遺構	266
第9節 9区の遺構と遺物	
1. 竪穴建物跡	271
2. 掘立柱建物跡	301
3. 性格不明遺構	305
4. 井戸	307
5. 溝	307
6. 土坑	311
7. ビット	312
第10節 10区の遺構と遺物	
1. 竪穴建物跡	320
2. 掘立柱建物跡	324
3. 円形周溝遺構	326
4. 溝	327
5. 土坑	329
6. ビット	330
第11節 11区の遺構と遺物	
1. 竪穴建物跡	336
2. 溝	337
3. 土坑	339
4. ビット	339
第12節 12区の遺構と遺物	
1. 竪穴建物跡	342
2. 掘立柱建物跡	354
3. 土坑	356
4. ビット	357
5. 遺構外	359
第13節 13区の遺構と遺物	
1. 竪穴建物跡	361
2. 掘立柱建物跡	421
3. 円形周溝遺構	427
4. 円形有段遺構	435
5. 性格不明遺構	435
6. 井戸	436
7. 溝	439
8. 土坑	449
9. ビット	455
10. 遺構外	461
第14節 14区の遺構と遺物	
1. 竪穴建物跡	463
2. 円形周溝遺構	466
3. 溝	467
4. 土坑	467
5. ビット	468
第15節 試掘トレンチ	470
第4章 まとめと成果	
第1節 遺構の変遷について	472
第2節 出土遺物について	476
第5章 西刑部西原遺跡の自然化学分析	
第1節 西刑部西原遺跡3区の自然科学分析(1)	479
第2節 西刑部西原遺跡3区の自然科学分析(2)	484

挿図目次

第1図 道跡位置図	2	第60図 西部部西原道跡3区 SI-18 実測図	80
第2図 東谷・中島地区道跡群道跡配置図	4	第61図 西部部西原道跡3区 SI-18 出土遺物	80
第3図 西部部西原道跡調査区割図 (S=1/4,000)	7	第62図 西部部西原道跡3区 SI-19 実測図	81
第4図 道跡位置図	8	第63図 西部部西原道跡3区 SI-19 出土遺物	81
第5図 地形図 (1/600,000)	9	第64図 西部部西原道跡3区 SI-22 実測図	82
第6図 周辺地形図 (S=1/100,000)	10	第65図 西部部西原道跡3区 SI-22 出土遺物	83
第7図 周辺の道跡分布図	14	第66図 西部部西原道跡3区 SI-24 実測図・出土遺物	84
第8図 東谷・中島地区道跡群全体図	16	第67図 西部部西原道跡3区 SI-26 出土遺物	85
第9図 標準上層採取地点	24	第68図 西部部西原道跡3区 SI-26 実測図	86
第10図 西部部西原道跡標準上層図 (S=1/60)	24	第69図 西部部西原道跡3区 SI-30 実測図	87
第11図 西部部西原道跡3区 全体図 (1/1,200)	25	第70図 西部部西原道跡3区 SI-30 出土遺物	88
第12図 西部部西原道跡3区 SI-1 実測図 (1)	26	第71図 西部部西原道跡3区 SI-31 実測図	89
第13図 西部部西原道跡3区 SI-1 実測図 (2)	27	第72図 西部部西原道跡3区 SI-31 出土遺物	90
第14図 西部部西原道跡3区 SI-1 出土遺物 (1)	28	第73図 西部部西原道跡3区 SI-32 実測図	92
第15図 西部部西原道跡3区 SI-1 出土遺物 (2)	29	第74図 西部部西原道跡3区 SI-32 出土遺物	93
第16図 西部部西原道跡3区 SI-1 出土遺物 (3)	30	第75図 西部部西原道跡3区 SI-33 実測図	94
第17図 西部部西原道跡3区 SI-2 実測図 (1)	32	第76図 西部部西原道跡3区 SI-33 出土遺物	95
第18図 西部部西原道跡3区 SI-2 出土遺物 (1)	33	第77図 西部部西原道跡3区 SI-34 出土遺物	96
第19図 西部部西原道跡3区 SI-2 実測図 (2)	33	第78図 西部部西原道跡3区 SI-34 実測図	97
第20図 西部部西原道跡3区 SI-2 出土遺物 (2)	34	第79図 西部部西原道跡3区 SI-35 実測図	98
第21図 西部部西原道跡3区 SI-2 出土遺物 (3)	35	第80図 西部部西原道跡3区 SI-35 出土遺物	99
第22図 西部部西原道跡3区 SI-3 実測図 (1)	38	第81図 西部部西原道跡3区 SI-36 実測図 (1)	100
第23図 西部部西原道跡3区 SI-3 実測図 (2)	39	第82図 西部部西原道跡3区 SI-36 実測図 (2)	101
第24図 西部部西原道跡3区 SI-3 出土遺物 (1)	39	第83図 西部部西原道跡3区 SI-36 出土遺物 (1)	101
第25図 西部部西原道跡3区 SI-3 出土遺物 (2)	40	第84図 西部部西原道跡3区 SI-36 出土遺物 (2)	102
第26図 西部部西原道跡3区 SI-4 出土遺物 (1)	42	第85図 西部部西原道跡3区 SI-37 出土遺物 (3)	103
第27図 西部部西原道跡3区 SI-4 実測図	43	第86図 西部部西原道跡3区 SI-38 実測図	105
第28図 西部部西原道跡3区 SI-4 出土遺物 (2)	43	第87図 西部部西原道跡3区 SI-38 出土遺物	106
第29図 西部部西原道跡3区 SI-5 実測図 (1)	45	第88図 西部部西原道跡3区 SI-39 実測図	108
第30図 西部部西原道跡3区 SI-5 実測図 (2)	46	第89図 西部部西原道跡3区 SI-39 出土遺物	109
第31図 西部部西原道跡3区 SI-5 出土遺物 (1)	46	第90図 西部部西原道跡3区 SI-40 実測図	110
第32図 西部部西原道跡3区 SI-5 出土遺物 (2)	47	第91図 西部部西原道跡3区 SI-40 出土遺物	111
第33図 西部部西原道跡3区 SI-6 実測図	50	第92図 西部部西原道跡3区 SI-41 出土遺物	112
第34図 西部部西原道跡3区 SI-6 出土遺物	51	第93図 西部部西原道跡3区 SI-41 実測図	113
第35図 西部部西原道跡3区 SI-7 実測図	53	第94図 西部部西原道跡3区 SI-42 出土遺物 (1)	114
第36図 西部部西原道跡3区 SI-7 出土遺物 (1)	54	第95図 西部部西原道跡3区 SI-42 実測図	115
第37図 西部部西原道跡3区 SI-7 出土遺物 (2)	55	第96図 西部部西原道跡3区 SI-42 出土遺物 (2)	116
第38図 西部部西原道跡3区 SI-8 実測図	57	第97図 西部部西原道跡3区 SI-43 実測図	117
第39図 西部部西原道跡3区 SI-8 出土遺物 (1)	58	第98図 西部部西原道跡3区 SI-43 出土遺物	117
第40図 西部部西原道跡3区 SI-8 出土遺物 (2)	59	第99図 西部部西原道跡3区 SI-46 実測図	118
第41図 西部部西原道跡3区 SI-10 実測図	61	第100図 西部部西原道跡3区 SI-46 出土遺物	118
第42図 西部部西原道跡3区 SI-10 出土遺物	62	第101図 西部部西原道跡3区 SI-47 実測図	119
第43図 西部部西原道跡3区 SI-11 実測図 (1)	63	第102図 西部部西原道跡3区 SI-47 出土遺物	120
第44図 西部部西原道跡3区 SI-11 実測図 (2)	64	第103図 西部部西原道跡3区 SI-50 実測図	121
第45図 西部部西原道跡3区 SI-11 出土遺物 (1)	64	第104図 西部部西原道跡3区 SI-50 出土遺物	122
第46図 西部部西原道跡3区 SI-11 出土遺物 (2)	65	第105図 西部部西原道跡3区 SI-51 実測図	123
第47図 西部部西原道跡3区 SI-11 出土遺物 (3)	66	第106図 西部部西原道跡3区 SI-51 出土遺物	123
第48図 西部部西原道跡3区 SI-12 出土遺物	68	第107図 西部部西原道跡3区 SI-52 出土遺物 (1)	124
第49図 西部部西原道跡3区 SI-12 実測図	69	第108図 西部部西原道跡3区 SI-52 実測図	125
第50図 西部部西原道跡3区 SI-13 実測図 (1)	70	第109図 西部部西原道跡3区 SI-52 出土遺物 (2)	126
第51図 西部部西原道跡3区 SI-13 実測図 (2)	71	第110図 西部部西原道跡3区 SI-53 実測図 (1)	127
第52図 西部部西原道跡3区 SI-13 出土遺物 (1)	71	第111図 西部部西原道跡3区 SI-53 実測図 (2)	128
第53図 西部部西原道跡3区 SI-13 出土遺物 (2)	72	第112図 西部部西原道跡3区 SI-53 実測図 (3)	129
第54図 西部部西原道跡3区 SI-14 実測図	74	第113図 西部部西原道跡3区 SI-53 出土遺物 (1)	130
第55図 西部部西原道跡3区 SI-14 出土遺物	75	第114図 西部部西原道跡3区 SI-53 出土遺物 (2)	131
第56図 西部部西原道跡3区 SI-15 実測図	77	第115図 西部部西原道跡3区 SI-54 実測図	132
第57図 西部部西原道跡3区 SI-15 出土遺物	77	第116図 西部部西原道跡3区 SI-54 出土遺物 (1)	133
第58図 西部部西原道跡3区 SI-16 出土遺物	78	第117図 西部部西原道跡3区 SI-54 出土遺物 (2)	134
第59図 西部部西原道跡3区 SI-16 実測図	79	第118図 西部部西原道跡3区 SI-56 実測図	135

第 119 回	西側部西原道跡 3 区	SI-56 出土遺物	135
第 120 回	西側部西原道跡 3 区	SI-58 実測図 (1)	136
第 121 回	西側部西原道跡 3 区	SI-58 実測図 (2)	137
第 122 回	西側部西原道跡 3 区	SI-58 出土遺物 (1)	137
第 123 回	西側部西原道跡 3 区	SI-58 出土遺物 (2)	138
第 124 回	西側部西原道跡 3 区	SI-59 実測図	140
第 125 回	西側部西原道跡 3 区	SI-59 出土遺物	141
第 126 回	西側部西原道跡 3 区	SI-60 実測図	141
第 127 回	西側部西原道跡 3 区	SI-60 実測図・出土遺物	142
第 128 回	西側部西原道跡 3 区	SI-61 実測図	143
第 129 回	西側部西原道跡 3 区	SI-61 出土遺物	144
第 130 回	西側部西原道跡 3 区	SI-71 実測図・出土遺物	145
第 131 回	西側部西原道跡 3 区	SI-74 実測図 (1)	146
第 132 回	西側部西原道跡 3 区	SI-74 実測図 (2)	147
第 133 回	西側部西原道跡 3 区	SI-74 出土遺物	148
第 134 回	西側部西原道跡 3 区	SI-77 実測図	150
第 135 回	西側部西原道跡 3 区	SI-77 出土遺物	151
第 136 回	西側部西原道跡 3 区	SI-78 実測図	152
第 137 回	西側部西原道跡 3 区	SI-78 出土遺物	153
第 138 回	西側部西原道跡 3 区	SI-81 実測図	154
第 139 回	西側部西原道跡 3 区	SI-81 出土遺物	155
第 140 回	西側部西原道跡 3 区	SI-82 実測図	156
第 141 回	西側部西原道跡 3 区	SI-82 出土遺物	156
第 142 回	西側部西原道跡 3 区	SI-83 実測図 (1)	157
第 143 回	西側部西原道跡 3 区	SI-83 実測図	158
第 144 回	西側部西原道跡 3 区	SI-83 出土遺物	158
第 145 回	西側部西原道跡 3 区	SI-84 実測図	159
第 146 回	西側部西原道跡 3 区	SI-84 出土遺物	160
第 147 回	西側部西原道跡 3 区	SI-85 実測図	162
第 148 回	西側部西原道跡 3 区	SI-85 出土遺物 (1)	162
第 149 回	西側部西原道跡 3 区	SI-85 出土遺物 (2)	163
第 150 回	西側部西原道跡 3 区	SI-85 出土遺物 (3)	164
第 151 回	西側部西原道跡 3 区	SI-86 実測図	167
第 152 回	西側部西原道跡 3 区	SI-86 出土遺物 (1)	167
第 153 回	西側部西原道跡 3 区	SI-86 出土遺物 (2)	168
第 154 回	西側部西原道跡 3 区	SI-87 出土遺物	169
第 155 回	西側部西原道跡 3 区	SI-87 実測図	170
第 156 回	西側部西原道跡 3 区	SI-88 実測図	172
第 157 回	西側部西原道跡 3 区	SI-88 出土遺物 (1)	172
第 158 回	西側部西原道跡 3 区	SI-88 出土遺物 (2)	173
第 159 回	西側部西原道跡 3 区	SI-89 実測図	174
第 160 回	西側部西原道跡 3 区	SI-89 出土遺物	174
第 161 回	西側部西原道跡 3 区	SI-90 実測図	176
第 162 回	西側部西原道跡 3 区	SI-90 出土遺物	176
第 163 回	西側部西原道跡 3 区	SI-91 実測図	177
第 164 回	西側部西原道跡 3 区	SI-91 出土遺物 (1)	178
第 165 回	西側部西原道跡 3 区	SI-91 出土遺物 (2)	179
第 166 回	西側部西原道跡 3 区	SI-91 出土遺物 (3)	180
第 167 回	西側部西原道跡 3 区	SI-92 実測図	182
第 168 回	西側部西原道跡 3 区	SI-92 出土遺物	182
第 169 回	西側部西原道跡 3 区	SI-96 実測図	183
第 170 回	西側部西原道跡 3 区	SI-105 実測図	184
第 171 回	西側部西原道跡 3 区	SB-7 実測図・出土遺物	185
第 172 回	西側部西原道跡 3 区	SB-73 実測図・出土遺物	186
第 173 回	西側部西原道跡 3 区	SB-100 実測図 (1)	187
第 174 回	西側部西原道跡 3 区	SB-100 実測図 (2)	188
第 175 回	西側部西原道跡 3 区	SB-101 実測図・出土遺物	189
第 176 回	西側部西原道跡 3 区	SB-102 実測図	191
第 177 回	西側部西原道跡 3 区	SB-103 実測図	191
第 178 回	西側部西原道跡 3 区	SB-106 実測図・出土遺物	193
第 179 回	西側部西原道跡 3 区	SB-114 実測図	195

第 180 回	西側部西原道跡 3 区	SX-17 実測図・出土遺物	196
第 181 回	西側部西原道跡 3 区	SX-28 実測図・出土遺物	197
第 182 回	西側部西原道跡 3 区	SX-29 実測図	198
第 183 回	西側部西原道跡 3 区	SX-29 出土遺物	198
第 184 回	西側部西原道跡 3 区	SX-112 実測図	199
第 185 回	西側部西原道跡 3 区	SX-21 実測図	199
第 186 回	西側部西原道跡 3 区	SX-21 出土遺物	200
第 187 回	西側部西原道跡 3 区	SE-23 実測図	203
第 188 回	西側部西原道跡 3 区	SE-23 出土遺物 (1)	204
第 189 回	西側部西原道跡 3 区	SE-23 出土遺物 (2)	205
第 190 回	西側部西原道跡 3 区	SE-27 実測図	207
第 191 回	西側部西原道跡 3 区	SE-37 実測図	207
第 192 回	西側部西原道跡 3 区	SE-37 出土遺物	208
第 193 回	西側部西原道跡 3 区	SE-75 実測図・出土遺物	209
第 194 回	西側部西原道跡 3 区	SE-76 実測図・出土遺物	210
第 195 回	西側部西原道跡 3 区	SE-95 実測図・出土遺物	211
第 196 回	西側部西原道跡 3 区	SE-107 実測図・出土遺物	212
第 197 回	西側部西原道跡 3 区	SD-57 実測図・出土遺物	213
第 198 回	西側部西原道跡 3 区	SK-45 実測図	214
第 199 回	西側部西原道跡 3 区	SK-45 出土遺物	215
第 200 回	西側部西原道跡 3 区	SK-62・64・72 出土遺物	216
第 201 回	西側部西原道跡 3 区	土坑実測図 (1)	217
第 202 回	西側部西原道跡 3 区	土坑実測図 (2)	219
第 203 回	西側部西原道跡 3 区	SK-99・108～110・116 出土遺物	220
第 204 回	西側部西原道跡 3 区	ビット実測図	221
第 205 回	西側部西原道跡 3 区	遺構外出土遺物	223
第 206 回	西側部西原道跡 4 区	全体図 (S-1/600)	225
第 207 回	西側部西原道跡 4 区	SI-1 実測図	226
第 208 回	西側部西原道跡 4 区	SI-1 出土遺物 (1)	226
第 209 回	西側部西原道跡 4 区	SI-1 出土遺物 (2)	227
第 210 回	西側部西原道跡 4 区	SI-2 実測図	228
第 211 回	西側部西原道跡 4 区	SI-2 出土遺物	228
第 212 回	西側部西原道跡 4 区	SI-3 実測図	229
第 213 回	西側部西原道跡 4 区	SI-3 出土遺物	229
第 214 回	西側部西原道跡 4 区	SD-7 実測図・出土遺物	230
第 215 回	西側部西原道跡 4 区	土坑実測図	231
第 216 回	西側部西原道跡 4 区	SK-4 出土遺物	231
第 217 回	西側部西原道跡 4 区	遺構外出土 群蝶双蓋鏡	232
第 218 回	西側部西原道跡 5 区	全体図 (S-1/600)	233
第 219 回	西側部西原道跡 5 区	SI-1 実測図	234
第 220 回	西側部西原道跡 5 区	SI-1 出土遺物	235
第 221 回	西側部西原道跡 5 区	SI-4 実測図	236
第 222 回	西側部西原道跡 5 区	SI-4 出土遺物 (1)	236
第 223 回	西側部西原道跡 5 区	SI-4 出土遺物 (2)	237
第 224 回	西側部西原道跡 5 区	SI-5 実測図	239
第 225 回	西側部西原道跡 5 区	SI-5 出土遺物 (1)	240
第 226 回	西側部西原道跡 5 区	SI-5 出土遺物 (2)	241
第 227 回	西側部西原道跡 5 区	SI-14 実測図 (1)	242
第 228 回	西側部西原道跡 5 区	SI-14 実測図 (2)	243
第 229 回	西側部西原道跡 5 区	SI-14 出土遺物 (1)	244
第 230 回	西側部西原道跡 5 区	SI-14 出土遺物 (2)	245
第 231 回	西側部西原道跡 5 区	SB-19 実測図	246
第 232 回	西側部西原道跡 5 区	SB-21 実測図	246
第 233 回	西側部西原道跡 5 区	SB-22 実測図	247
第 234 回	西側部西原道跡 5 区	SX-3 実測図	248
第 235 回	西側部西原道跡 5 区	SX-3 出土遺物	248
第 236 回	西側部西原道跡 5 区	土坑実測図 (1)	249
第 237 回	西側部西原道跡 5 区	土坑実測図 (2)	250
第 238 回	西側部西原道跡 5 区	SK-8 出土遺物	250
第 239 回	西側部西原道跡 5 区	ビット実測図	251

第 240 回	西部部西原道跡 6 区	全体図 (S=1/600)	—252
第 241 回	西部部西原道跡 6 区	SD-10・11 実測図	—253
第 242 回	西部部西原道跡 6 区	土坑実測図	—254
第 243 回	西部部西原道跡 6 区	P-1 実測図	—254
第 244 回	西部部西原道跡 7 区	全体図 (S=1/800)	—255
第 245 回	西部部西原道跡 7 区	SI-3 実測図	—256
第 246 回	西部部西原道跡 7 区	SI-3 出土遺物	—256
第 247 回	西部部西原道跡 7 区	SI-4 実測図	—257
第 248 回	西部部西原道跡 7 区	SI-4 出土遺物	—258
第 249 回	西部部西原道跡 7 区	SI-5 実測図	—260
第 250 回	西部部西原道跡 7 区	SI-5 出土遺物 (1)	—260
第 251 回	西部部西原道跡 7 区	SI-5 出土遺物 (2)	—261
第 252 回	西部部西原道跡 7 区	SI-6 実測図	—261
第 253 回	西部部西原道跡 7 区	SX-7 実測図	—262
第 254 回	西部部西原道跡 7 区	SX-7 出土遺物	—262
第 255 回	西部部西原道跡 7 区	土坑実測図	—263
第 256 回	西部部西原道跡 7 区	SF-13 出土遺物	—263
第 257 回	西部部西原道跡 8 区	全体図 (1/300)	—264
第 258 回	西部部西原道跡 8 区	SK-1 実測図	—265
第 259 回	西部部西原道跡 8 区	峰平塚 9 号墳実測図	—266
第 260 回	西部部西原道跡 8 区	SF-13 実測図 (1)	—267
	路面の盛り込み状況		
第 261 回	西部部西原道跡 8 区	SF-13 実測図 (2)	—268
	路床の掘方の状況		
第 262 回	西部部西原道跡 8 区	SF-13 出土遺物	—269
第 263 回	西部部西原道跡 9 区	全体図 (S=1/600)	—270
第 264 回	西部部西原道跡 9 区	SI-1 実測図	—271
第 265 回	西部部西原道跡 9 区	SI-1 出土遺物 (1)	—272
第 266 回	西部部西原道跡 9 区	SI-1 出土遺物 (2)	—273
第 267 回	西部部西原道跡 9 区	SI-1 出土遺物 (3)	—273
第 268 回	西部部西原道跡 9 区	SI-7 実測図	—275
第 269 回	西部部西原道跡 9 区	SI-7 出土遺物	—275
第 270 回	西部部西原道跡 9 区	SI-9 出土遺物	—276
第 271 回	西部部西原道跡 9 区	SI-9 実測図	—277
第 272 回	西部部西原道跡 9 区	SI-10 出土遺物	—278
第 273 回	西部部西原道跡 9 区	SI-10 実測図	—279
第 274 回	西部部西原道跡 9 区	SI-11 実測図	—280
第 275 回	西部部西原道跡 9 区	SI-11 出土遺物	—280
第 276 回	西部部西原道跡 9 区	SI-12 出土遺物	—281
第 277 回	西部部西原道跡 9 区	SI-12 実測図 (1)	—282
第 278 回	西部部西原道跡 9 区	SI-12 実測図 (2)	—283
第 279 回	西部部西原道跡 9 区	SI-13 出土遺物	—284
第 280 回	西部部西原道跡 9 区	SI-13 実測図	—285
第 281 回	西部部西原道跡 9 区	SI-14 実測図	—287
第 282 回	西部部西原道跡 9 区	SI-14 出土遺物	—288
第 283 回	西部部西原道跡 9 区	SI-15 実測図 (1)	—289
第 284 回	西部部西原道跡 9 区	SI-15 実測図 (2)	—290
第 285 回	西部部西原道跡 9 区	SI-15 出土遺物	—291
第 286 回	西部部西原道跡 9 区	SI-16 実測図	—292
第 287 回	西部部西原道跡 9 区	SI-16 出土遺物	—292
第 288 回	西部部西原道跡 9 区	SI-17 出土遺物	—293
第 289 回	西部部西原道跡 9 区	SI-17 実測図	—294
第 290 回	西部部西原道跡 9 区	SI-21 実測図	—295
第 291 回	西部部西原道跡 9 区	SI-21 出土遺物	—295
第 292 回	西部部西原道跡 9 区	SI-26 実測図	—296
第 293 回	西部部西原道跡 9 区	SI-26 出土遺物	—296
第 294 回	西部部西原道跡 9 区	SI-27 実測図	—297
第 295 回	西部部西原道跡 9 区	SI-27 出土遺物	—298
第 296 回	西部部西原道跡 9 区	SI-49 実測図	—299
第 297 回	西部部西原道跡 9 区	SI-49 出土遺物	—300
第 298 回	西部部西原道跡 9 区	SB-8 実測図	—301

第 299 回	西部部西原道跡 9 区	SB-22 実測図・出土遺物	—302
第 300 回	西部部西原道跡 9 区	SB-23 実測図・出土遺物	—303
第 301 回	西部部西原道跡 9 区	SB-35 実測図	—304
第 302 回	西部部西原道跡 9 区	SX-25 実測図・出土遺物	—305
第 303 回	西部部西原道跡 9 区	SX-29 実測図・出土遺物	—306
第 304 回	西部部西原道跡 9 区	SE-6 実測図	—307
第 305 回	西部部西原道跡 9 区	SD-2 実測図・出土遺物	—307
第 306 回	西部部西原道跡 9 区	SD-3 実測図・出土遺物	—308
第 307 回	西部部西原道跡 9 区	SD-19・28・36 実測図	—309
第 308 回	西部部西原道跡 9 区	SD-120 実測図	—310
第 309 回	西部部西原道跡 9 区	SD-120 出土遺物	—311
第 310 回	西部部西原道跡 9 区	土坑実測図	—312
第 311 回	西部部西原道跡 9 区	ビット実測図 (1)	—313
第 312 回	西部部西原道跡 9 区	P-29 出土遺物	—314
第 313 回	西部部西原道跡 9 区	ビット実測図 (2)	—314
第 314 回	西部部西原道跡 9 区	ビット実測図 (3)	—315
第 315 回	西部部西原道跡 9 区	ビット実測図 (4)	—316
第 316 回	西部部西原道跡 10 区	全体図 (S=1/400)	—319
第 317 回	西部部西原道跡 10 区	SI-1 実測図	—320
第 318 回	西部部西原道跡 10 区	SI-1 出土遺物	—321
第 319 回	西部部西原道跡 10 区	SI-2 実測図	—322
第 320 回	西部部西原道跡 10 区	SI-2 出土遺物	—323
第 321 回	西部部西原道跡 10 区	SI-25 実測図	—324
第 322 回	西部部西原道跡 10 区	SB-19 実測図	—324
第 323 回	西部部西原道跡 10 区	SB-21 実測図	—325
第 324 回	西部部西原道跡 10 区	SB-22 実測図	—326
第 325 回	西部部西原道跡 10 区	SX-6 実測図	—326
第 326 回	西部部西原道跡 10 区	SX-6 出土遺物	—327
第 327 回	西部部西原道跡 10 区	SD-7・15・20 実測図	—328
第 328 回	西部部西原道跡 10 区	土坑実測図	—329
第 329 回	西部部西原道跡 10 区	P-46 出土遺物	—330
第 330 回	西部部西原道跡 10 区	ビット実測図 (1)	—331
第 331 回	西部部西原道跡 10 区	ビット実測図 (2)	—332
第 332 回	西部部西原道跡 10 区	ビット実測図 (3)	—333
第 333 回	西部部西原道跡 11 区	全体図 (S=1/400)	—335
第 334 回	西部部西原道跡 11 区	SI-1 実測図	—336
第 335 回	西部部西原道跡 11 区	SI-1 出土遺物	—337
第 336 回	西部部西原道跡 11 区	SD-2 実測図・出土遺物	—338
第 337 回	西部部西原道跡 11 区	SD-3 実測図	—338
第 338 回	西部部西原道跡 11 区	土坑実測図	—339
第 339 回	西部部西原道跡 11 区	ビット実測図 (1)	—340
第 340 回	西部部西原道跡 11 区	ビット実測図 (2)	—341
第 341 回	西部部西原道跡 12 区	全体図 (S=1/400)	—342
第 342 回	西部部西原道跡 12 区	SI-1 実測図 (1)	—343
第 343 回	西部部西原道跡 12 区	SI-1 実測図 (2)	—344
第 344 回	西部部西原道跡 12 区	SI-1 出土遺物 (1)	—344
第 345 回	西部部西原道跡 12 区	SI-1 出土遺物 (2)	—345
第 346 回	西部部西原道跡 12 区	SI-1 出土遺物 (3)	—346
第 347 回	西部部西原道跡 12 区	SI-2 出土遺物	—349
第 348 回	西部部西原道跡 12 区	SI-2 実測図	—350
第 349 回	西部部西原道跡 12 区	SI-3 出土遺物	—351
第 350 回	西部部西原道跡 12 区	SI-3 実測図 (1)	—352
第 351 回	西部部西原道跡 12 区	SI-3 実測図 (2)	—353
第 352 回	西部部西原道跡 12 区	SB-6 実測図	—354
第 353 回	西部部西原道跡 12 区	SB-7 実測図	—355
第 354 回	西部部西原道跡 12 区	SB-9 実測図	—356
第 355 回	西部部西原道跡 12 区	土坑実測図	—356
第 356 回	西部部西原道跡 12 区	ビット実測図 (1)	—357
第 357 回	西部部西原道跡 12 区	ビット実測図 (2)	—358
第 358 回	西部部西原道跡 12 区	調査区一括出土遺物	—359
第 359 回	西部部西原道跡 13 区	全体図 (S=1/800)	—360

第 360 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-1 実測図 (1)	361
第 361 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-1 実測図 (2)	362
第 362 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-1 出土遺物	362
第 363 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-2 実測図 (1)	364
第 364 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-2 実測図 (2)	365
第 365 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-2 出土遺物	366
第 366 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-12 実測図	368
第 367 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-12 出土遺物	369
第 368 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-26 実測図	371
第 369 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-26 出土遺物	372
第 370 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-27 実測図 (1)	373
第 371 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-27 実測図 (2)	374
第 372 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-27 出土遺物 (1)	375
第 373 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-27 出土遺物 (2)	376
第 374 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-29 実測図	378
第 375 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-29 出土遺物	378
第 376 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-36 出土遺物	379
第 377 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-36 実測図	380
第 378 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-37 出土遺物	381
第 379 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-37 実測図 (1)	382
第 380 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-37 実測図 (2)	383
第 381 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-37 実測図 (3)	384
第 382 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-38 実測図	385
第 383 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-38 出土遺物	386
第 384 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-39 実測図	387
第 385 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-39 出土遺物	388
第 386 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-40 実測図	389
第 387 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-40 出土遺物	390
第 388 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-52 出土遺物	391
第 389 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-52 実測図	392
第 390 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-56 出土遺物	393
第 391 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-56 実測図	394
第 392 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-57 実測図	395
第 393 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-57 出土遺物	396
第 394 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-62 実測図・出土遺物	396
第 395 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-89 実測図	397
第 396 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-89 実出土遺物	398
第 397 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-90 実測図	399
第 398 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-91 実測図・出土遺物	400
第 399 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-92 実測図	401
第 400 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-92 出土遺物	401
第 401 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-96 出土遺物	402
第 402 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-96 実測図	403
第 403 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-97 実測図	405
第 404 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-97 出土遺物	406
第 405 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-100 実測図	407
第 406 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-100 出土遺物	408
第 407 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-101 実測図 (1)	409
第 408 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-101 実測図 (2)	410
第 409 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-101 出土遺物	410
第 410 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-102 実測図	412
第 411 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-102 出土遺物	412
第 412 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-105 実測図	413
第 413 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-105 出土遺物	414
第 414 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-110 実測図	415
第 415 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-110 出土遺物	415
第 416 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-115 実測図	416
第 417 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-115 出土遺物	417
第 418 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-116 実測図・出土遺物	417
第 419 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-117 実測図	418
第 420 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-117 出土遺物	419

第 421 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-118 実測図	420
第 422 回	西側部西原遺跡 13 区	SI-118 出土遺物	420
第 423 回	西側部西原遺跡 13 区	SB-17 実測図	421
第 424 回	西側部西原遺跡 13 区	SB-17 出土遺物	422
第 425 回	西側部西原遺跡 13 区	SB-18 実測図・出土遺物	423
第 426 回	西側部西原遺跡 13 区	SB-44・66・67 実測図	425
第 427 回	西側部西原遺跡 13 区	SB-82 実測図・出土遺物	426
第 428 回	西側部西原遺跡 13 区	SX-16 実測図	427
第 429 回	西側部西原遺跡 13 区	SX-20 実測図・出土遺物	428
第 430 回	西側部西原遺跡 13 区	SX-21 実測図・出土遺物	430
第 431 回	西側部西原遺跡 13 区	SX-22 実測図・出土遺物	431
第 432 回	西側部西原遺跡 13 区	SX-34 出土遺物	431
第 433 回	西側部西原遺跡 13 区	SX-25・34 実測図	432
第 434 回	西側部西原遺跡 13 区	SX-47 実測図	432
第 435 回	西側部西原遺跡 13 区	SX-98 出土遺物	433
第 436 回	西側部西原遺跡 13 区	SX-98 実測図	434
第 437 回	西側部西原遺跡 13 区	SX-94 実測図	435
第 438 回	西側部西原遺跡 13 区	SX-28・35 実測図・出土遺物	436
第 439 回	西側部西原遺跡 13 区	SE-11 実測図・出土遺物	436
第 440 回	西側部西原遺跡 13 区	SE-81 実測図・出土遺物	437
第 441 回	西側部西原遺跡 13 区	SE-93 実測図・出土遺物	438
第 442 回	西側部西原遺跡 13 区	SE-122 実測図	438
第 443 回	西側部西原遺跡 13 区	SD-6 実測図・出土遺物	440
第 444 回	西側部西原遺跡 13 区	SD-49・53・80 実測図	440
第 445 回	西側部西原遺跡 13 区	SD-23 実測図	441
第 446 回	西側部西原遺跡 13 区	SD-95 実測図	441
第 447 回	西側部西原遺跡 13 区	SD-95 出土遺物	442
第 448 回	西側部西原遺跡 13 区	SD-99 実測図	443
第 449 回	西側部西原遺跡 13 区	SD-103 実測図・出土遺物	444
第 450 回	西側部西原遺跡 13 区	SD-108 実測図	445
第 451 回	西側部西原遺跡 13 区	SD-111 実測図・出土遺物	446
第 452 回	西側部西原遺跡 13 区	SD-113 実測図	447
第 453 回	西側部西原遺跡 13 区	SD-119・120 実測図	448
第 454 回	西側部西原遺跡 13 区	土坑実測図 (1)	450
第 455 回	西側部西原遺跡 13 区	土坑実測図 (2)	451
第 456 回	西側部西原遺跡 13 区	土坑実測図 (3)	452
第 457 回	西側部西原遺跡 13 区	土坑実測図 (4)	453
第 458 回	西側部西原遺跡 13 区	土坑出土遺物	454
第 459 回	西側部西原遺跡 13 区	ビット実測図 (1)	456
第 460 回	西側部西原遺跡 13 区	ビット実測図 (2)	457
第 461 回	西側部西原遺跡 13 区	ビット実測図 (3)	458
第 462 回	西側部西原遺跡 13 区	ビット実測図 (4)	459
第 463 回	西側部西原遺跡 13 区	ビット出土遺物	460
第 464 回	西側部西原遺跡 13 区	遺構外出土遺物	461
第 465 回	西側部西原遺跡 14 区	全林図 (S=1/400)	462
第 466 回	西側部西原遺跡 14 区	SI-1 実測図・出土遺物	463
第 467 回	西側部西原遺跡 14 区	SI-2 実測図・出土遺物	464
第 468 回	西側部西原遺跡 14 区	SI-8 実測図	465
第 469 回	西側部西原遺跡 14 区	SI-8 出土遺物	465
第 470 回	西側部西原遺跡 14 区	SX-3 実測図・出土遺物	466
第 471 回	西側部西原遺跡 14 区	SX-9 実測図・出土遺物	466
第 472 回	西側部西原遺跡 14 区	SD-12 実測図	467
第 473 回	西側部西原遺跡 14 区	SK 実測図・出土遺物	468
第 474 回	西側部西原遺跡 14 区	ビット実測図	469
第 475 回	西側部西原遺跡	試験トレンチ出土遺物	470
第 476 回	西側部西原遺跡	遺構変遷図 (1)	473
第 477 回	西側部西原遺跡	遺構変遷図 (2)	474
第 478 回	西側部西原遺跡	遺構変遷図 (3)	475
第 479 回	西側部西原遺跡 3 区 SE-23 出土の木材		489
第 480 回	西側部西原遺跡 3 区 SE-75 出土の種実遺体		490

表目次

第 1 表	東谷・中島地区道跡群一覧表	5	第 57 表	3 区 SI-86 出土遺物観察表	166
第 2 表	東谷・中島地区周辺の道跡	15	第 58 表	3 区 SI-87 出土遺物観察表	171
第 3 表	3 区 SI-1 出土遺物観察表	28	第 59 表	3 区 SI-88 出土遺物観察表	173
第 4 表	3 区 SI-2 出土遺物観察表	35	第 60 表	3 区 SI-89 出土遺物観察表	175
第 5 表	3 区 SI-3 出土遺物観察表	41	第 61 表	3 区 SI-90 出土遺物観察表	175
第 6 表	3 区 SI-4 出土遺物観察表	44	第 62 表	3 区 SI-91 出土遺物観察表	178
第 7 表	3 区 SI-5 出土遺物観察表	48	第 63 表	3 区 SI-92 出土遺物観察表	181
第 8 表	3 区 SI-6 出土遺物観察表	52	第 64 表	3 区 SB-70 出土遺物観察表	185
第 9 表	3 区 SI-7 出土遺物観察表	54	第 65 表	3 区 SB-73 出土遺物観察表	186
第 10 表	3 区 SI-8 出土遺物観察表	56	第 66 表	3 区 SB-101 出土遺物観察表	190
第 11 表	3 区 SI-10 出土遺物観察表	60	第 67 表	3 区 SB-106 出土遺物観察表	192
第 12 表	3 区 SI-11 出土遺物観察表	66	第 68 表	3 区 SX-17 出土遺物観察表	196
第 13 表	3 区 SI-12 出土遺物観察表	68	第 69 表	3 区 SX-28 出土遺物観察表	197
第 14 表	3 区 SI-13 出土遺物観察表	72	第 70 表	3 区 SX-29 出土遺物観察表	197
第 15 表	3 区 SI-14 出土遺物観察表	76	第 71 表	3 区 SX-21 出土遺物観察表	201
第 16 表	3 区 SI-24 出土遺物観察表	76	第 72 表	3 区 SE-23 出土遺物観察表	206
第 17 表	3 区 SI-16 出土遺物観察表	78	第 73 表	3 区 SE-37 出土遺物観察表	208
第 18 表	3 区 SI-18 出土遺物観察表	81	第 74 表	3 区 SE-75 出土遺物観察表	210
第 19 表	3 区 SI-19 出土遺物観察表	81	第 75 表	3 区 SE-76 出土遺物観察表	211
第 20 表	3 区 SI-22 出土遺物観察表	83	第 76 表	3 区 SE-95 出土遺物観察表	212
第 21 表	3 区 SI-24 出土遺物観察表	85	第 77 表	3 区 SE-107 出土遺物観察表	212
第 22 表	3 区 SI-26 出土遺物観察表	86	第 78 表	3 区 SD-57 出土遺物観察表	214
第 23 表	3 区 SI-30 出土遺物観察表	88	第 79 表	3 区 SK-45 出土遺物観察表	216
第 24 表	3 区 SI-31 出土遺物観察表	90	第 80 表	3 区 土坑計測表	217
第 25 表	3 区 SI-32 出土遺物観察表	91	第 81 表	3 区 SK-62 出土遺物観察表	218
第 26 表	3 区 SI-33 出土遺物観察表	93	第 82 表	3 区 SK-63 出土遺物観察表	218
第 27 表	3 区 SI-34 出土遺物観察表	96	第 83 表	3 区 SK-64 出土遺物観察表	218
第 28 表	3 区 SI-35 出土遺物観察表	99	第 84 表	3 区 SK-72 出土遺物観察表	218
第 29 表	3 区 SI-36 出土遺物観察表	103	第 85 表	3 区 SK-99 出土遺物観察表	218
第 30 表	3 区 SI-38 出土遺物観察表	107	第 86 表	3 区 SK-108 出土遺物観察表	218
第 31 表	3 区 SI-39 出土遺物観察表	109	第 87 表	3 区 SK-109 出土遺物観察表	218
第 32 表	3 区 SI-40 出土遺物観察表	111	第 88 表	3 区 SK-110 出土遺物観察表	220
第 33 表	3 区 SI-41 出土遺物観察表	112	第 89 表	3 区 SK-116 出土遺物観察表	220
第 34 表	3 区 SI-42 出土遺物観察表	115	第 90 表	3 区 ビット計測表	222
第 35 表	3 区 SI-43 出土遺物観察表	117	第 91 表	3 区 遺構外出土遺物観察表	222
第 36 表	3 区 SI-46 出土遺物観察表	118	第 92 表	4 区 SI-1 出土遺物観察表	227
第 37 表	3 区 SI-47 出土遺物観察表	119	第 93 表	4 区 SI-2 出土遺物観察表	228
第 38 表	3 区 SI-50 出土遺物観察表	122	第 94 表	4 区 SI-3 出土遺物観察表	230
第 39 表	3 区 SI-51 出土遺物観察表	124	第 95 表	4 区 SD-7 出土遺物観察表	230
第 40 表	3 区 SI-52 出土遺物観察表	125	第 96 表	4 区 土坑計測表	231
第 41 表	3 区 SI-53 出土遺物観察表	128	第 97 表	4 区 SK-4 出土遺物観察表	231
第 42 表	3 区 SI-54 出土遺物観察表	133	第 98 表	4 区 遺構外出土遺物観察表	231
第 43 表	3 区 SI-56 出土遺物観察表	135	第 99 表	5 区 SI-1 出土遺物観察表	235
第 44 表	3 区 SI-58 出土遺物観察表	139	第 100 表	5 区 SI-4 出土遺物観察表	237
第 45 表	3 区 SI-59 出土遺物観察表	141	第 101 表	5 区 SI-5 出土遺物観察表	238
第 46 表	3 区 SI-60 出土遺物観察表	142	第 102 表	5 区 SI-14 出土遺物観察表	241
第 47 表	3 区 SI-61 出土遺物観察表	143	第 103 表	5 区 SX-3 出土遺物観察表	248
第 48 表	3 区 SI-71 出土遺物観察表	146	第 104 表	5 区 土坑計測表	250
第 49 表	3 区 SI-74 出土遺物観察表	149	第 105 表	5 区 SK-8 出土遺物観察表	250
第 50 表	3 区 SI-77 出土遺物観察表	151	第 106 表	5 区 ビット計測表	251
第 51 表	3 区 SI-78 出土遺物観察表	153	第 107 表	6 区 土坑計測表	253
第 52 表	3 区 SI-81 出土遺物観察表	155	第 108 表	6 区 ビット計測表	254
第 53 表	3 区 SI-82 出土遺物観察表	156	第 109 表	7 区 SI-3 出土遺物観察表	256
第 54 表	3 区 SI-83 出土遺物観察表	158	第 110 表	7 区 SI-4 出土遺物観察表	259
第 55 表	3 区 SI-84 出土遺物観察表	160	第 111 表	7 区 SI-5 出土遺物観察表	259
第 56 表	3 区 SI-85 出土遺物観察表	161	第 112 表	7 区 SX-7 出土遺物観察表	262

第113表	7区	土坑計測表	263
第114表	7区	SF-13出土遺物観察表	263
第115表	8区	SK-1計測表	265
第116表	8区	SF-13出土遺物観察表	269
第117表	9区	SI-1出土遺物観察表	274
第118表	9区	SI-7出土遺物観察表	276
第119表	9区	SI-9出土遺物観察表	276
第120表	9区	SI-10出土遺物観察表	278
第121表	9区	SI-11出土遺物観察表	280
第122表	9区	SI-12出土遺物観察表	281
第123表	9区	SI-13出土遺物観察表	286
第124表	9区	SI-14出土遺物観察表	286
第125表	9区	SI-15出土遺物観察表	290
第126表	9区	SI-16出土遺物観察表	293
第127表	9区	SI-17出土遺物観察表	294
第128表	9区	SI-21出土遺物観察表	295
第129表	9区	SI-26出土遺物観察表	296
第130表	9区	SI-27出土遺物観察表	298
第131表	9区	SI-49出土遺物観察表	298
第132表	9区	SB-22出土遺物観察表	303
第133表	9区	SB-23出土遺物観察表	304
第134表	9区	SX-25出土遺物観察表	305
第135表	9区	SX-29出土遺物観察表	306
第136表	9区	SD-2出土遺物観察表	308
第137表	9区	SD-3出土遺物観察表	309
第138表	9区	SD-120出土遺物観察表	311
第139表	9区	土坑計測表	311
第140表	9区	P-29出土遺物観察表	315
第141表	9区	ビット計測表	317
第142表	10区	SI-1出土遺物観察表	321
第143表	10区	SI-2出土遺物観察表	323
第144表	10区	SX-6出土遺物観察表	327
第145表	10区	土坑計測表	330
第146表	10区	P-46出土遺物観察表	333
第147表	10区	ビット計測表	333
第148表	11区	SI-1出土遺物観察表	337
第149表	11区	SD-2出土遺物観察表	338
第150表	11区	土坑計測表	339
第151表	11区	ビット計測表	339
第152表	12区	SI-1出土遺物観察表	347
第153表	12区	SI-2出土遺物観察表	351
第154表	12区	SI-3出土遺物観察表	353
第155表	12区	土坑計測表	356
第156表	12区	ビット計測表	358
第157表	12区	調査区一括出土遺物観察表	359
第158表	13区	SI-1出土遺物観察表	363
第159表	13区	SI-2出土遺物観察表	367
第160表	13区	SI-12出土遺物観察表	369
第161表	13区	SI-26出土遺物観察表	370
第162表	13区	SI-27出土遺物観察表	375
第163表	13区	SI-29出土遺物観察表	379
第164表	13区	SI-36出土遺物観察表	381
第165表	13区	SI-37出土遺物観察表	383
第166表	13区	SI-38出土遺物観察表	386
第167表	13区	SI-39出土遺物観察表	388
第168表	13区	SI-40出土遺物観察表	390
第169表	13区	SI-52出土遺物観察表	392
第170表	13区	SI-56出土遺物観察表	393
第171表	13区	SI-57出土遺物観察表	396
第172表	13区	SI-62出土遺物観察表	396
第173表	13区	SI-89出土遺物観察表	398

第174表	13区	SI-91出土遺物観察表	400
第175表	13区	SI-92出土遺物観察表	402
第176表	13区	SI-96出土遺物観察表	404
第177表	13区	SI-97出土遺物観察表	406
第178表	13区	SI-100出土遺物観察表	408
第179表	13区	SI-101出土遺物観察表	411
第180表	13区	SI-102出土遺物観察表	412
第181表	13区	SI-105出土遺物観察表	414
第182表	13区	SI-110出土遺物観察表	416
第183表	13区	SI-115出土遺物観察表	417
第184表	13区	SI-116出土遺物観察表	418
第185表	13区	SI-117出土遺物観察表	419
第186表	13区	SI-118出土遺物観察表	420
第187表	13区	SB-17出土遺物観察表	422
第188表	13区	SB-18出土遺物観察表	424
第189表	13区	SB-82出土遺物観察表	427
第190表	13区	SX-20出土遺物観察表	429
第191表	13区	SX-21出土遺物観察表	430
第192表	13区	SX-22出土遺物観察表	431
第193表	13区	SX-34出土遺物観察表	431
第194表	13区	SX-98出土遺物観察表	433
第195表	13区	SX-28出土遺物観察表	435
第196表	13区	SX-35出土遺物観察表	435
第197表	13区	SE-11出土遺物観察表	437
第198表	13区	SE-81出土遺物観察表	437
第199表	13区	SE-93出土遺物観察表	437
第200表	13区	SD-6出土遺物観察表	442
第201表	13区	SD-23出土遺物観察表	442
第202表	13区	SD-95出土遺物観察表	442
第203表	13区	SD-103出土遺物観察表	443
第204表	13区	SD-111出土遺物観察表	445
第205表	13区	SD-113出土遺物観察表	447
第206表	13区	土坑計測表	449
第207表	13区	SK-9出土遺物観察表	452
第208表	13区	SK-15出土遺物観察表	452
第209表	13区	SK-33出土遺物観察表	454
第210表	13区	SK-42出土遺物観察表	454
第211表	13区	SK-46出土遺物観察表	454
第212表	13区	SK-71出土遺物観察表	454
第213表	13区	SK-85出土遺物観察表	454
第214表	13区	ビット計測表	455
第215表	13区	P-14出土遺物観察表	460
第216表	13区	P-56出土遺物観察表	460
第217表	13区	P-93出土遺物観察表	460
第218表	13区	遺構外出土遺物観察表	461
第219表	14区	SI-1出土遺物観察表	463
第220表	14区	SI-2出土遺物観察表	463
第221表	14区	SI-8出土遺物観察表	464
第222表	14区	SX-3出土遺物観察表	466
第223表	14区	SX-9出土遺物観察表	467
第224表	14区	土坑計測表	468
第225表	14区	SK-4出土遺物観察表	468
第226表	14区	SK-13出土遺物観察表	468
第227表	14区	ビット計測表	469
第228表	西明部西原遺跡	試掘トレンチ出土遺物	470
第229表	西明部西原遺跡	各調査区遺構時期変遷表	472
第230表	西明部西原遺跡3区	の樹種同定結果	479
第231表	西明部西原遺跡3区	の種実体同定結果	480
第232表		種実同定結果	485
第233表		検出分類一覧	488

図版目次

巻頭カラー図版

- 西州部西原遺跡 3区全景（北上空から）
- 西州部遺跡 13区北部全景（北上空から）

図版一 西州部西原遺跡全景・3区航空写真

- 西州部西原遺跡 全景（東上空から）
- 3区航空写真（南西上空から）

図版二 3区遺構

- 3区 SI-1 掘方（南から）
- 3区 SI-1 カマド遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-2 遺物出土状況（東から）
- 3区 SI-2 炭化材出土状況（南から）
- 3区 SI-2 カマド掘方（南から）
- 3区 SI-2 紡錘車出土状況（東から）
- 3区 SI-2 坏・紡錘車出土状況（南から）
- 3区 SI-2 鎌出土状況（北から）

図版三 3区遺構

- 3区 SI-3 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-3 完掘（南から）
- 3区 SI-3 掘方（南から）
- 3区 SI-3 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-4 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-4 完掘（南から）
- 3区 SI-4 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-5 遺物出土状況（南から）

図版四 3区遺構

- 3区 SI-5 完掘（南から）
- 3区 SI-5 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-5 紡錘車出土状況（東から）
- 3区 SI-6 遺物出土状況（西から）
- 3区 SI-6 完掘（南から）
- 3区 SI-7 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-7 完掘（南から）
- 3区 SI-7 カマド完掘（南から）

図版五 3区遺構

- 3区 SI-7 カマド袖断ち割り状況（南から）
- 3区 SI-7 高坏出土状況（東から）
- 3区 SI-8 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-8 須臾器費出土状況（南から）
- 3区 SI-10 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-10 完掘（南から）
- 3区 SI-10 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-11 遺物出土状況（南から）

図版六 3区遺構

- 3区 SI-11 完掘（南から）
- 3区 SI-11 カマド遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-11 鉄鎌出土状況（南から）
- 3区 SI-12 完掘（南から）
- 3区 SI-12 カマド袖断ち割り状況（南から）
- 3区 SI-13 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-13 カマド遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-13 掘方（南から）

図版七 3区遺構

- 3区 SI-14 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-14 完掘（南から）
- 3区 SI-14 カマド遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-14 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-15 完掘（西から）
- 3区 SI-15 カマド完掘（西から）
- 3区 SI-15 掘方（西から）
- 3区 SI-16 完掘（南から）

図版八 3区遺構

- 3区 SI-16 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-18 遺物出土状況（西から）
- 3区 SI-18・19 掘方（南から）
- 3区 SI-18 カマド完掘（西から）
- 3区 SI-18 P1遺物出土状況（西から）
- 3区 SI-18 完掘（西から）
- 3区 SI-18 セクション（南から）
- 3区 SI-22 遺物出土状況（南から）

図版九 3区遺構

- 3区 SI-22 完掘（南から）
- 3区 SI-22 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-22 掘方（南から）
- 3区 SI-22 鉄製品出土状況（東から）
- 3区 SI-22 刀装具（定金物）出土状況（東から）
- 3区 SI-24 完掘（南西から）
- 3区 SI-26 完掘（南東から）
- 3区 SI-26 カマド完掘（南から）

図版一〇 3区遺構

- 3区 SI-30 完掘（南から）
- 3区 SI-30 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-31 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-31 完掘（南から）
- 3区 SI-31 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-32 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-32 完掘（南から）
- 3区 SI-32 カマド完掘（南から）

図版一一 3区遺構

- 3区 SI-33 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-33 完掘（南から）
- 3区 SI-34 完掘（南から）
- 3区 SI-34 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-35 完掘（南から）
- 3区 SI-36 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-36 完掘（南から）
- 3区 SI-36 カマド完掘（南から）

図版一二 3区遺構

- 3区 SI-36 坏出土状況（西から）
- 3区 SI-36 糞・糞出土状況（東から）
- 3区 SI-38 完掘（東から）
- 3区 SI-38 掘方（東から）
- 3区 SI-38 轡の引手出土状況（西から）
- 3区 SI-39 完掘（南から）
- 3区 SI-40 完掘（南から）
- 3区 SI-40 カマド完掘（南から）

図版一三 3区遺構

- 3区SI-40 掘方(南から)
- 3区SI-41 カマド完掘(南から)
- 3区SI-41 掘方(西から)
- 3区SI-42 遺物出土状況(西から)
- 3区SI-43 遺物出土状況(西から)
- 3区SI-46 カマド完掘(南から)
- 3区SI-46 カマドセクション(南から)
- 3区SI-47 遺物出土状況(北西から)

図版一四 3区遺構

- 3区SI-47 完掘(南から)
- 3区SI-47 カマド完掘(西から)
- 3区SI-50 遺物出土状況(東から)
- 3区SI-50 完掘(南から)
- 3区SI-50 カマド完掘(南東から)
- 3区SI-51 完掘(西から)
- 3区SI-52・58 完掘(北から)
- 3区SI-52 カマド完掘(南から)

図版一五 3区遺構

- 3区SI-52 掘方(南から)
- 3区SI-52 紡錘車出土状況(西から)
- 3区SI-53 遺物出土状況(南から)
- 3区SI-53 完掘(南から)
- 3区SI-53 カマド完掘(南から)
- 3区SI-53 掘方(南から)
- 3区SI-53 間仕切溝セクション(西から)
- 3区SI-53・54 遺物出土状況(南西から)

図版一六 3区遺構

- 3区SI-54 完掘(南西から)
- 3区SI-54 カマド完掘(南から)
- 3区SI-54 カマド前面遺物出土状況(南から)
- 3区SI-54 掘方(南から)
- 3区SI-54 紡錘車出土状況(北西から)
- 3区SI-56 掘方(南から)
- 3区SI-58 遺物出土状況(南から)
- 3区SI-58 完掘(北西から)

図版一七 3区遺構

- 3区SI-58 耳環出土状況(南から)
- 3区SI-59 カマド完掘(南から)
- 3区SI-60 完掘(南東から)
- 3区SI-60 遺物出土状況(東から)
- 3区SI-61 北東部遺物出土状況(北から)
- 3区SI-61 北東部完掘(北から)
- 3区SI-71 完掘(南から)
- 3区SI-71 掘方(南から)

図版一八 3区遺構

- 3区SI-74 完掘(南から)
- 3区SI-74 カマド完掘(南から)
- 3区SI-74 掘方(南から)
- 3区SI-77 完掘(南西から)
- 3区SI-77 カマド完掘(南西から)
- 3区SI-77 掘方(南から)
- 3区SI-78 完掘(南から)
- 3区SI-78 カマド完掘(西から)

図版一九 3区遺構

- 3区SI-81 完掘(南から)
- 3区SI-81 カマド完掘(南から)
- 3区SI-82 遺物出土状況(南から)
- 3区SI-82 完掘(南から)
- 3区SI-82 P3セクション(北から)
- 3区SI-82 遺物出土状況(南から)
- 3区SI-83 完掘(西から)
- 3区SI-83 カマド完掘(西から)

図版二〇 3区遺構

- 3区SI-83 掘方(西から)
- 3区SI-84 遺物出土状況(北から)
- 3区SI-84 完掘(南から)
- 3区SI-84 掘方(南から)
- 3区SI-85 遺物出土状況(南から)
- 3区SI-85 カマド完掘(南から)
- 3区SI-85 掘方(南から)
- 3区SI-86・87・88 遺物出土状況(西から)

図版二一 3区遺構

- 3区SI-86・87・88 完掘(南から)
- 3区SI-87 カマド完掘(南から)
- 3区SI-87 貯蔵六遺物出土状況(南から)
- 3区SI-87 掘方(南から)
- 3区SI-88 完掘(南から)
- 3区SI-88 カマド完掘(南から)
- 3区SI-88 入口ピット遺物出土状況(北西から)
- 3区SI-89 完掘(南から)

図版二二 3区遺構

- 3区SI-89 カマド遺物出土状況(南から)
- 3区SI-90 南西部遺物出土状況(西から)
- 3区SI-90 完掘(南から)
- 3区SI-90 カマド完掘(南から)
- 3区SI-90 刀子出土状況(南から)
- 3区SI-91 遺物出土状況(西から)
- 3区SI-91 完掘(南から)
- 3区SI-91 カマド完掘(南から)

図版二三 3区遺構

- 3区SI-92 遺物出土状況(南から)
- 3区SI-92 完掘(南から)
- 3区SI-92 カマド完掘(南から)
- 3区SB-70 完掘(南から)
- 3区SB-70 P6セクション(東から)
- 3区SB-73 完掘(北から)
- 3区SB-73 P2上面遺物出土状況(南から)
- 3区SB-100 完掘(西から)

図版二四 3区遺構

- 3区SB-100 P11セクション(南から)
- 3区SB-101 完掘(西から)
- 3区SB-101 P8セクション(南から)
- 3区SB-101 P12セクション(南から)
- 3区SB-102 完掘(東から)
- 3区SB-103 完掘(西から)
- 3区SB-103 P2セクション(南から)
- 3区SB-114 完掘(南から)

図版二五 3区遺構

- 3区SB-106 P7セクション (西から)
- 3区SX-17・SI-90 セクション (南から)
- 3区SX-17 セクション (南から)
- 3区SX-29 確認状況 (南から)
- 3区SX-29 B・B'セクション (南東から)
- 3区SX-28 セクション (南から)
- 3区SX-21 セクション (北から)
- 3区SX-21 遺物出土状況 (北西から)

図版二六 3区遺構

- 3区SE-23 上面セクション (南から)
- 3区SE-23 底面遺物出土状況 (東から)
- 3区SE-27 セクション (西から)
- 3区SE-27 完掘 (西から)
- 3区SE-27 底面アップ (西から)
- 3区SE-37 上部セクション (南から)
- 3区SE-37 底面セクション (南から)
- 3区SE-37 完掘 (南東から)

図版二七 3区遺構

- 3区SE-75 中央部セクション (西から)
- 3区SE-75 底面付近のセクション (西から)
- 3区SE-75 遺物出土状況 (西から)
- 3区SE-76 完掘 (南から)
- 3区SE-95 上面セクション (南西から)
- 3区SE-95 完掘 (南から)
- 3区SE-107 セクション (南から)
- 3区SE-107 完掘 (南から)

図版二八 3区遺構

- 3区SD-57 完掘 (南から)
- 3区SD-57 D・D'セクション (東から)
- 3区SK-25 完掘 (南から)
- 3区SK-45 遺物出土状況 (西から)
- 3区SK-45 完掘 (南から)
- 3区SK-62 遺物出土状況 (南から)
- 3区SK-63 完掘 (南から)
- 3区SK-94 完掘 (南から)

図版二九 4区遺構

- 4区SI-1 遺物出土状況 (南から)
- 4区SI-2 完掘 (南から)
- 4区SI-2 カマド完掘 (南から)
- 4区SI-3 遺物出土状況 (東から)
- 4区SI-3 完掘 (北東から)
- 4区SD-7 完掘 (南東から)
- 4区遺構外 和蹟出土地点 (南から)
- 4区遺構外 和蹟出土状況 (南から)

図版三〇 5区・6区航空写真

- 5区航空写真 (北東上空から)
- 6区航空写真 (東上空から)

図版三一 5区遺構

- 5区SI-1 北西部遺物出土状況 (北から)
- 5区SI-1 完掘 (南から)
- 5区SI-1 カマド完掘 (南から)
- 5区SI-4 遺物出土状況 (南から)
- 5区SI-4 完掘 (南から)
- 5区SI-4 カマド遺物出土状況 (南から)

- 5区SI-4 須恵器出土状況 (南東から)
- 5区SI-5 掘方 (南から)

図版三二 5区遺構

- 5区SI-5 遺物出土状況 (南から)
- 5区SI-5 カマド遺物出土状況 (南から)
- 5区SI-14 北部遺物出土状況 (西から)
- 5区SI-14 完掘 (南から)
- 5区SI-14 掘方 (南から)
- 5区SI-14 カマド遺物出土状況 (南から)
- 5区SB-19 完掘 (東から)
- 5区SB-21 周辺 (西から)

図版三三 5区遺構

- 5区SB-22 完掘 (東から)
- 5区SB-22 P7セクション (南から)
- 5区SB-22 P8セクション (南から)
- 5区SX-3 完掘 (南から)
- 5区SX-3 北西コーナー (北から)
- 5区SX-3 周溝内西側遺物出土状況 (北東から)
- 5区SK-16 完掘 (南から)
- 5区SK-25 完掘 (南から)

図版三四 6区遺構

- 6区SD-10 西側 (東から)
- 6区SD-11 全景 (北西から)
- 6区SK-2 完掘 (南から)
- 6区SK-3 完掘 (南から)
- 6区SK-5 完掘 (南から)
- 6区SK-6 遺物出土状況 (南から)
- 6区SK-7 完掘 (南から)
- 6区SK-8 完掘 (南から)

図版三五 7区西部・6区・7区東部航空写真

- 7区西部航空写真 (南西上空)
- 6区・7区東部航空写真 (南西上空)

図版三六 7区遺構

- 7区SI-3 完掘 (南から)
- 7区SI-3 掘方 (西から)
- 7区SI-4 遺物出土状況全景 (南から)
- 7区SI-4 貼床面柱穴 (南から)
- 7区SI-4 カマド遺物出土状況 (南から)
- 7区SI-5 遺物出土状況 (南から)
- 7区SI-5 完掘 (南から)
- 7区SI-5 カマド完掘 (南から)

図版三七 7区遺構

- 7区SI-6 完掘 (南から)
- 7区SI-6 掘方完掘 (南から)
- 7区SX-7 南側遺物出土状況 (南から)
- 7区SX-7 有段下部セクション (南から)
- 7区SX-7 有段下部セクション (南から)
- 7区SX-7 下部被穴アップ (東から)
- 7区SX-7 焼土範囲状況 (南から)
- 7区SX-7 完掘全景 (南上から)

図版三八 8区遺構

- 8区全景 (北から)
- 8区野平塚9号埴川溝 ブリッジ状部分 (北から)
- 8区野平塚9号埴川溝 ブリッジ状部分完掘 (南から)

8区等平塚9号墳周溝 遺物出土状況(南から)
8区等平塚9号墳周溝 東部完掘(南東から)
8区等平塚9号墳周溝 東部完掘(北西から)
8区等平塚9号墳周溝 北部完掘(東から)
8区等平塚9号墳周溝 北部完掘(西から)

図版三九 8区遺構

8区SK-1 南北セクション(東から)
8区SK-1 北部南北セクション(東から)
8区SK-1 完掘(南から)
8区SK-1 掘方セクションA・A'・B・B'(南から)
8区SK-1 掘方完掘(南から)
8区SF-13 セクション(南から)
8区SF-13 (道路状遺構) 路床の掘方(北から)
8区SF-13 (道路状遺構) 作業風景(北から)

図版四〇 9区北部・南部航空写真

9区北部航空写真(北東上空から)
9区南部航空写真(南上空から)

図版四一 9区遺構

9区SI-1 遺物出土状況(南から)
9区SI-1 カマド完掘(南から)
9区SI-1 刀子・農具出土状況(南から)
9区SI-1 紡錘車出土状況(西から)
9区SI-7 完掘(北から)
9区SI-7 伊完掘(北から)
9区SI-9 完掘(南から)
9区SI-9 カマド遺物出土状況(南から)

図版四二 9区遺構

9区SI-10 完掘(南から)
9区SI-10 カマド完掘(南から)
9区SI-10 カマド遺物出土状況(南から)
9区SI-11 完掘(南から)
9区SI-11 カマド完掘(南から)
9区SI-12 張出ビット(P6) 遺物出土状況(南から)
9区SI-12 北部完掘(南から)
9区SI-12 カマド完掘(南から)

図版四三 9区遺構

9区SI-12 張出ビット(P6) 完掘(南から)
9区SI-13・14 遺物出土状況(南から)
9区SI-13 カマド完掘(南から)
9区SI-14 遺物出土状況(南から)
9区SI-14 カマド遺物出土状況(南から)
9区SI-15 遺物出土状況(南から)
9区SI-15 完掘(南から)
9区SI-15 カマド遺物出土状況(南から)

図版四四 9区遺構

9区SI-16 遺物出土状況(南から)
9区SI-16 完掘(南から)
9区SI-17 遺物出土状況(南から)
9区SI-17 カマド完掘(南から)
9区SI-17 完掘(南から)
9区SI-21 完掘(南から)
9区SI-21 遺物出土状況(南から)
9区SI-26 完掘(南から)

図版四五 9区遺構

9区SI-26・SD-3 遺物出土状況(南から)
9区SI-27 完掘(西から)
9区SI-27 カマド遺物出土状況(西から)
9区SI-49 遺物出土状況(南から)
9区SI-49 カマド完掘(南から)
9区SB-8 完掘(南から)
9区SB-22 完掘(南から)
9区SB-22 P2、P-31セクション(西から)

図版四六 9区遺構

9区SB-23・SI-9 完掘(南から)
9区SB-23 P1セクション(北東から)
9区SB-35 完掘(東から)
9区SX-25 完掘(東から)
9区SX-25 完掘(東から)
9区SX-29 セクション(東から)
9区SX-29 底部(東から)
9区SE-6 完掘(南から)

図版四七 9区遺構

9区SE-6 断ち割り(西から)
9区SD-2 完掘(北東から)
9区SD-3 完掘(南から)
9区SD-3 北部完掘(南から)
9区SD-28 完掘(北西から)
9区SD-36 完掘(東から)
9区SD-120 完掘(北東から)
9区SK-4 完掘(南から)

図版四八 9区遺構

9区SK-5 完掘(南から)
9区SK-20 セクション(南から)
9区SK-20 完掘(南から)
9区SK-24 セクション(西から)
9区SK-30 完掘(東から)
9区SK-31・32 完掘(東から)
9区SK-33 完掘(南から)
9区SK-34 完掘(東から)

図版四九 10区・11区航空写真

10区航空写真(西上空から)
11区航空写真(北西上空から)

図版五〇 10区遺構

10区SI-1 遺物出土状況(東から)
10区SI-1 完掘(東から)
10区SI-1 カマド遺物出土状況(南から)
10区SI-2 遺物出土状況(南から)
10区SI-2 完掘(南から)
10区SI-2 カマド完掘(南から)
10区SB-19・SI-2 遺物出土状況(東から)
10区SB-19 P6セクション(東から)

図版五一 10区遺構

10区SB-21 完掘(南から)
10区SB-21 P4、SB-22 P6 完掘(東から)
10区SB-22 完掘(南から)
10区SB-22 P8 完掘(西から)
10区SX-6 完掘(南から)
10区SX-6 P1 完掘(南東から)

10 区 SD-7 完掘 (西から)
10 区 SD-15 完掘 (東から)

図版五二 10 区遺構

10 区 SD-20 完掘 (北西から)
10 区 SK-3 完掘 (南から)
10 区 SK-4 完掘 (南から)
10 区 SK-5 完掘 (南西から)
10 区 SK-9 完掘 (南から)
10 区 SK-12 完掘 (西から)
10 区 SK-13 完掘 (西から)
10 区 SK-17 完掘 (南から)

図版五三 11 区遺構

11 区 SI-1 完掘 (西から)
11 区 SI-1 カマド完掘 (南から)
11 区 SD-2・SK-4 完掘 (南から)
11 区 SD-2 須恵器出土状況 (東から)
11 区 SD-2 セクション (南から)
11 区 SD-3 完掘 (東から)
11 区 SK-5 完掘 (南西から)
11 区 SK-6 完掘 (西から)

図版五四 12 区遺構

12 区 SI-1 遺物出土状況 (西から)
12 区 SI-1 完掘 (南から)
12 区 SI-1 東カマド遺物出土状況 (西から)
12 区 SI-1 東カマド遺物出土状況 (西から)
12 区 SI-1 東カマドセクション (東から)
12 区 SI-1 北カマド完掘 (南から)
12 区 SI-1 北西部坏出土状況 (南から)
12 区 SI-1 掘方 (南から)

図版五五 12 区遺構

12 区 SI-2 遺物出土状況 (南から)
12 区 SI-2 カマド完掘 (南から)
12 区 SI-2 坏出土状況 (南から)
12 区 SI-2 掘出土状況 (西から)
12 区 SI-2 掘方 (南から)
12 区 SI-3 完掘 (西から)
12 区 SI-3 カマド完掘 (南から)
12 区 SI-3 掘方 (南から)

図版五六 12 区遺構

12 区 SB-6 完掘 (南から)
12 区 SB-6 P1 完掘 (南から)
12 区 SB-7 完掘 (南から)
12 区 SB-7 P1 完掘 (南から)
12 区 SB-9 完掘 (南から)
12 区 SB-9 P3 完掘 (南から)
12 区 SK-8 完掘 (南から)
12 区 SK-11 完掘 (南から)

図版五七 13 区北半部・南半部航空写真

13 区北半部航空写真 (南東上空から)
13 区南半部航空写真 (南上空から)

図版五八 13 区遺構

13 区 SI-1 完掘 (南から)
13 区 SI-1 遺物出土状況 (南から)
13 区 SI-1 カマド完掘状況 (南から)

13 区 SI-2 遺物出土状況 (南から)
13 区 SI-2 完掘 (南から)
13 区 SI-2 掘方 (南から)
13 区 SI-2 カマドセクション (東から)
13 区 SI-2 耳堀出土状況 (南から)

図版五九 13 区遺構

13 区 SI-12 完掘 (南から)
13 区 SI-12 カマド完掘 (南から)
13 区 SI-12 カマド遺物出土状況 (南から)
13 区 SI-26 遺物出土状況 (南から)
13 区 SI-26 完掘 (南から)
13 区 SI-26 カマド完掘 (南から)
13 区 SI-29 遺物出土状況 (東から)
13 区 SI-29 完掘 (南から)

図版六〇 13 区遺構

13 区 SI-29 カマド遺物出土状況 (南から)
13 区 SI-36 遺物出土状況 (南から)
13 区 SI-36 カマド遺物出土状況 (南から)
13 区 SI-36 掘方 (南西から)
13 区 SI-37 遺物出土状況 (西から)
13 区 SI-37 掘方 (南から)
13 区 SI-37 東カマド完掘 (西から)
13 区 SI-37 北カマド完掘 (南から)

図版六一 13 区遺構

13 区 SI-37 北カマド掘方 (南から)
13 区 SI-38 完掘 (南から)
13 区 SI-38 掘方 (南から)
13 区 SI-38 カマド軸断ち割り状況 (南から)
13 区 SI-39 遺物出土状況 (南から)
13 区 SI-39 完掘 (南西から)
13 区 SI-40 遺物出土状況 (南西から)
13 区 SI-40 遺物出土状況アップ (南から)

図版六二 13 区遺構

13 区 SI-52 完掘 (南から)
13 区 SI-52 カマド完掘 (南から)
13 区 SI-52 貯蔵穴遺物出土状況 (南から)
13 区 SI-56 遺物出土状況 (南から)
13 区 SI-56 カマド完掘 (南から)
13 区 SI-57 セクション (南から)
13 区 SI-57 カマド遺物出土状況 (南から)
13 区 SI-57 カマド掘方 (南から)

図版六三 13 区遺構

13 区 SI-62・SK-61 完掘 (南から)
13 区 SI-89 完掘遺物出土状況 (東から)
13 区 SI-89 完掘 (南から)
13 区 SI-89 カマド完掘 (南から)
13 区 SI-89 東部遺物出土状況 (西から)
13 区 SI-90 完掘 (東から)
13 区 SI-91 完掘 (西から)
13 区 SI-91 掘方 (西から)

図版六四 13 区遺構

13 区 SI-92 完掘 (西から)
13 区 SI-96 遺物出土状況 (南から)
13 区 SI-96 カマド完掘 (西から)
13 区 SI-97 遺物出土状況 (南から)

13区SI-97 完掘(南から)
13区SI-97 カマド遺物出土状況(南から)
13区SI-100 完掘(南から)
13区SI-100 掘方(東から)

図版六五 13区遺構

13区SI-100 遺物出土状況(北から)
13区SI-101 完掘(南から)
13区SI-101 カマド完掘(南から)
13区SI-101 掘方(南から)
13区SI-102 遺物出土状況(東から)
13区SI-102 完掘(南から)
13区SI-105 完掘(南から)
13区SI-105 カマド遺物出土状況(南から)

図版六六 13区遺構

13区SI-110 遺物出土状況(南から)
13区SI-110 完掘(南から)
13区SI-110 カマド完掘(南から)
13区SI-115 遺物出土状況(南から)
13区SI-115 掘方(南から)
13区SI-116 遺物出土状況(南から)
13区SI-117 完掘(南から)
13区SI-117 遺物出土状況(南から)

図版六七 13区遺構

13区SI-117 カマド遺物出土状況(南から)
13区SI-118 遺物出土状況(東から)
13区SB-17 完掘(西から)
13区SB-17 P3完掘(東から)
13区SB-17 P6完掘(南から)
13区SB-17 P10完掘(東から)
13区SB-17・18 完掘(西から)
13区SB-18 P1完掘(南から)

図版六八 13区遺構

13区SB-18 P2完掘(南から)
13区SB-18 P3完掘(南から)
13区SB-18 P8完掘(西から)
13区SB-44 完掘(西から)
13区SB-44 P4完掘(南から)
13区SB-66 完掘(西から)
13区SB-66 P1完掘(南から)
13区SB-67 完掘(西から)

図版六九 13区遺構

13区SB-67 P4完掘(西から)
13区SB-67 P5完掘(西から)
13区SB-67 P6セクション
13区SB-82 完掘(西から)
13区SB-82 遺物出土状況
13区SX-16 完掘(南から)
13区SX-20 完掘(南から)
13区SX-20・21 セクション(南から)

図版七〇 13区遺構

13区SX-21 完掘(南から)
13区SX-21・22 セクション(南から)
13区SX-21・22 前面の状況(南から)
13区SX-22 完掘(南から)
13区SX-25 完掘(東から)

13区SX-28・34 完掘(南から)
13区SX-34 遺物出土状況(南から)
13区SX-35 完掘(南から)

図版七一 13区遺構

13区SX-47 完掘(南から)
13区SX-98 西半部完掘(南から)
13区SX-98 東半部完掘(東から)
13区SX-98 セクション(南西から)
13区SX-94 完掘(東から)
13区SE-11 完掘(東から)
13区SE-11 セクション(南から)
13区SE-81 全体完掘(南から)

図版七二 13区遺構

13区SE-81 中央部完掘(南から)
13区SE-93 セクション(南から)
13区SE-93 完掘(南東から)
13区SD-6 完掘(南から)
13区SD-6 セクション(南から)
13区SD-23 完掘(南から)
13区SD-49 完掘(東から)
13区SD-53 完掘(東から)

図版七三 13区遺構

13区SD-80 完掘(東から)
13区SD-95 完掘(南から)
13区SD-99 完掘(西から)
13区SD-103 完掘(南から)
13区SD-108 完掘(南から)
13区SD-111 完掘(南から)
13区SD-113 完掘(西から)
13区SD-119・120 完掘(南から)

図版七四 13区遺構

13区SK-3 完掘(南から)
13区SK-9 遺物出土状況(南から)
13区SK-9 完掘(南から)
13区SK-10 完掘(南から)
13区SK-45・46 完掘(東から)
13区SK-50・51 完掘(東から)
13区SK-54 完掘(東から)
13区SK-55 完掘(南東から)

図版七五 13区遺構

13区SK-58・P-65 完掘(南から)
13区SK-71 完掘(東から)
13区SK-73 完掘(東から)
13区SK-86 完掘(南から)
13区SK-88 完掘(南から)
13区SK-107 完掘(南から)
13区SK-112 完掘(南から)
13区調査区全景(南から)

図版七六 14区遺構

14区SI-1 完掘(西から)
14区SI-2 完掘(東から)
14区SI-2 カマド完掘(南から)
14区SI-8 完掘(南から)
14区SI-8 カマド遺物出土状況(南から)
14区SX-3 完掘(東から)

- 14区SX-3 南セクション (南から)
14区SX-3 北セクション (南から)
- 図版七七 14区遺構
14区SX-9 完掘 (南から)
14区SX-9 B-E セクション (南から)
14区SD-12 完掘 (南東から)
14区SK-4 完掘 (南から)
14区SK-6 完掘 (南から)
14区SK-5 セクション (南から)
14区SK-11 完掘 (南から)
14区SK-13 セクション (南から)
- 図版七八 西刑部西原遺跡3区(1)
SI-1 出土遺物
SI-2 出土遺物
- 図版七九 西刑部西原遺跡3区(2)
SI-2 出土遺物
SI-3 出土遺物
- 図版八〇 西刑部西原遺跡3区(3)
SI-3 出土遺物
SI-4 出土遺物
SI-5 出土遺物
- 図版八一 西刑部西原遺跡3区(4)
SI-5 出土遺物
SI-6 出土遺物
SI-7 出土遺物
SI-8 出土遺物
- 図版八二 西刑部西原遺跡3区(5)
SI-8 出土遺物
SI-10 出土遺物
SI-11 出土遺物
- 図版八三 西刑部西原遺跡3区(6)
SI-11 出土遺物
SI-12 出土遺物
SI-13 出土遺物
SI-14 出土遺物
SI-16 出土遺物
- 図版八四 西刑部西原遺跡3区(7)
SI-16 出土遺物
SI-18 出土遺物
SI-24 出土遺物
SI-30 出土遺物
SI-31 出土遺物
SI-32 出土遺物
SI-36 出土遺物
- 図版八五 西刑部西原遺跡3区(8)
SI-36 出土遺物
SI-38 出土遺物
- 図版八六 西刑部西原遺跡3区(9)
SI-38 出土遺物
SI-39 出土遺物
SI-41 出土遺物
- SI-42 出土遺物
SI-46 出土遺物
SI-47 出土遺物
- 図版八七 西刑部西原遺跡3区(10)
SI-47 出土遺物
SI-50 出土遺物
SI-51 出土遺物
SI-52 出土遺物
SI-53 出土遺物
- 図版八八 西刑部西原遺跡3区(11)
SI-53 出土遺物
SI-54 出土遺物
SI-58 出土遺物
- 図版八九 西刑部西原遺跡3区(12)
SI-60 出土遺物
SI-61 出土遺物
SI-71 出土遺物
SI-74 出土遺物
- 図版九〇 西刑部西原遺跡3区(13)
SI-74 出土遺物
SI-77 出土遺物
SI-78 出土遺物
SI-81 出土遺物
SI-82 出土遺物
SI-84 出土遺物
SI-85 出土遺物
- 図版九一 西刑部西原遺跡3区(14)
SI-85 出土遺物
SI-86 出土遺物
- 図版九二 西刑部西原遺跡3区(15)
SI-86 出土遺物
SI-87 出土遺物
SI-88 出土遺物
- 図版九三 西刑部西原遺跡3区(16)
SI-88 出土遺物
SI-90 出土遺物
SI-91 出土遺物
- 図版九四 西刑部西原遺跡3区(17)
SI-91 出土遺物
SI-92 出土遺物
SX-21 出土遺物
- 図版九五 西刑部西原遺跡3区(18)
SX-21 出土遺物
SE-23 出土遺物
- 図版九六 西刑部西原遺跡3区(19)
SE-23 出土遺物
- 図版九七 西刑部西原遺跡3区(20)
SE-23 出土遺物
SE-75 出土遺物

図版九八 西荆部西原遺跡 3区 (21)

SE-76 出土遺物
SE-95 出土遺物
SD-57 出土遺物
SK-45 出土遺物
グリッド出土遺物

図版九九 西荆部西原遺跡 4区・5区 (1)

4区 SI-1 出土遺物
4区 SI-2 出土遺物
4区 SI-3 出土遺物
5区 SI-1 出土遺物
5区 SI-4 出土遺物
5区 SI-5 出土遺物

図版一〇〇 西荆部西原遺跡 5区 (2)

SI-5 出土遺物
SI-14 出土遺物

図版一〇一 西荆部西原遺跡 7区・9区 (1)

7区 SI-4 出土遺物
7区 SI-5 出土遺物
9区 SI-1 出土遺物
9区 SI-7 出土遺物
9区 SI-9 出土遺物
9区 SI-10 出土遺物
9区 SI-12 出土遺物

図版一〇二 西荆部西原遺跡 9区 (2)

SI-12 出土遺物
SI-13 出土遺物
SI-14 出土遺物
SI-15 出土遺物

図版一〇三 西荆部西原遺跡 9区 (3)

SI-15 出土遺物
SI-16 出土遺物
SI-17 出土遺物
SI-21 出土遺物
SI-26 出土遺物
SI-27 出土遺物
SI-49 出土遺物
SD-3 出土遺物
SD-120 出土遺物

図版一〇四 西荆部西原遺跡 10区・11区・12区 (1)

10区 SI-1 出土遺物
10区 SI-2 出土遺物
11区 SI-1 出土遺物
11区 SD-2 出土遺物
12区 SI-1 出土遺物

図版一〇五 西荆部西原遺跡 12区 (2)・13区 (1)

12区 SI-1 出土遺物
12区 SI-2 出土遺物
12区 SI-3 出土遺物
13区 SI-1 出土遺物
13区 SI-2 出土遺物

図版一〇六 西荆部西原遺跡 13区 (2)

SI-2 出土遺物

SI-12 出土遺物
SI-26 出土遺物

図版一〇七 西荆部西原遺跡 13区 (3)

SI-26 出土遺物
SI-27 出土遺物
SI-29 出土遺物

図版一〇八 西荆部西原遺跡 13区 (4)

SI-29 出土遺物
SI-36 出土遺物
SI-38 出土遺物
SI-40 出土遺物
SI-52 出土遺物
SI-56 出土遺物
SI-89 出土遺物

図版一〇九 西荆部西原遺跡 13区 (5)

SI-89 出土遺物
SI-96 出土遺物
SI-97 出土遺物
SI-100 出土遺物
SI-101 出土遺物

図版一一〇 西荆部西原遺跡 13区 (6)

SI-102 出土遺物
SI-105 出土遺物
SI-110 出土遺物
SI-115 出土遺物
SI-116 出土遺物
SI-117 出土遺物
SB-17 出土遺物
SX-20 出土遺物
SX-21 出土遺物
SX-34 出土遺物
SX-98 出土遺物

図版一一一 西荆部西原遺跡 13区 (7)・14区・TN 試掘トレンチ

13区 SD-111 出土遺物
13区 SD-113 出土遺物
13区遺構外出土遺物
14区 SI-8 出土遺物
14区 SX-9 出土遺物
TN 試掘トレンチ出土遺物

図版一一二 西荆部西原遺跡 鉄製品 (鎌・直刀)

図版一一三 西荆部西原遺跡 鉄製品 (鎌・手鎌・鋤先・鋤等)

図版一一四 西荆部西原遺跡 鉄製品 (紡錘車)

図版一一五 西荆部西原遺跡 鉄製品 (刀子・櫛等) その他の金属製品 (釧付足金物等)

図版一一六 西荆部西原遺跡 鉄滓・青銅鏡 X線写真

図版一一七 西荆部西原遺跡 青銅鏡 (群蝶双雀鏡)

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

宇都宮テクノポリス計画は、「高度な技術をもつ産業の集積、産・学・官の共同研究と技術交流による頭脳ネットワークの形成、そして、自然と都市機能が調和した快適な空間づくり」を目標に、栃木県が昭和58年7月新栃木時代創造計画で開発計画を策定し、翌年5月に高度技術工業集積地開発促進法（テクノポリス法）に基づき通商産業省の開発計画の承認を受けた。

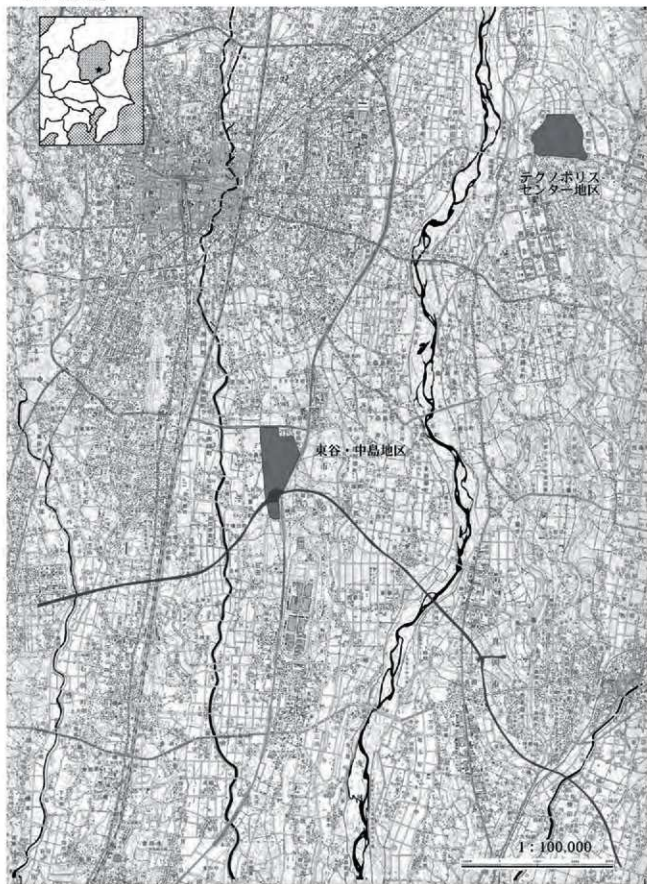
この開発計画を受け、昭和60年度より県企画部と県教育委員会で、開発区域内遺跡の取り扱いについて協議が開始された。また、平成元年度には、栃木県と宇都宮市が住宅・都市整備公団（以下、公団という）に開発の要請を行う。公団はこれを承認し、平成2年度より開発区域の用地取得に入る。

公団が主体となるテクノポリス計画は、宇都宮テクノポリスセンター土地画整理事業と東谷・中島土地画整理事業である。前者事業区域は、宇都宮市野高谷町・刈沼町・板戸町にまたがる地区（以下、「センター地区」という）の177.2haに及び、住宅を核に県工業技術センター、産業支援施設、商業施設、民間研究施設、小中学校などを整備したニュータウン計画で、テクノポリスが目指す「産・学・住・遊」の拠点整備をも担う。後者事業区域は宇都宮市東谷町・中島町・砂田町・平塚町・屋板町・上横田町・西刑部町と上三川町磯岡・西汗にまたがる地域（以下、「東谷・中島地区」という）の137.5haに及ぶ。計画は北関東横断自動車道路や新4号国道などの広域交通網の結び付いた利便性を生かし、流通業務施設や先端技術、高度技術産業の研究・工場などの整備を図ることにある。

平成2年7月には公団から県教育委員会への事業区域内の埋蔵文化財の有無について照会がなされた。県教育委員会からの回答は、東谷・中島地区については、「周知されている遺跡6か所と遺跡の可能性のある区域を含め、約90haの確認調査が必要」であった。その後、開発事業と埋蔵文化財調査のスケジュールを調整するための協議が継続された。

平成6年8月、埋蔵文化財の保護と開発事業の円滑な推進を図るため、県教育委員会・宇都宮市・公団・埋蔵文化財センターの四者による事業区域内の分布調査が実施された。その結果、センター地区については「周知されている遺跡8か所・面積267,000㎡、試掘が必要な地点7か所・面積95,500㎡」、東谷中島地区については「周知されている遺跡12か所・面積490,400㎡、試掘が必要な地点8か所・面積340,600㎡」、であった。この結果を基に同月発掘調査を開始するための協議が行われ、同年9月1日付けで、県文化課の調整のもと公団と（財）栃木県文化振興事業団・埋蔵文化財センターが、「宇都宮テクノポリスセンター地区埋蔵文化財発掘調査」の受託契約を締結し、確認調査がなされた。平成8年4月からは調査規模の拡大に伴い、宇都宮市が同地区の発掘調査を担当することとなった。

なお、平成8年12月には東谷・中島地区、平成9年4月にはセンター地区の区画整理事業が各々建設大臣の事業認可を受け、開発事業が事実上開始された。このため、公団・県文化財課・宇都宮市・埋蔵文化財センターは年数回の綿密な協議を重ねつつ、開発事業計画に沿った発掘調査を実施している。なお開発事業は平成11年から都市基盤整備公団、平成16年から都市再生機構に継承された。また（財）栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センターは外郭団体の統廃合により平成12年度から（財）とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センターとなり、さらに平成23年度からは（財）とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターとして業務を継承している。



第1図 遺跡位置図

第2節 調査の方法

独立行政法人都市再生機構（旧住宅・都市整備公団および都市基盤整備公団）による東谷・中島土地画整理事業の事業区域は、東西約1.0km、南北約2.5kmの137.5haに及ぶ。

調査対象地域は、周知の遺跡範囲及び平成6年8月に景文化課により実施された事業予定地区内の遺跡踏査した成果に基づいて決定された。この結果、東谷・中島地区遺跡群の10地区12遺跡、調査対象面積831,000㎡が把握された。対象面積が膨大であることにより、これらの遺跡範囲の確定及び調査事業量の把握が急務とされた。よって、住宅・都市整備公団による用地取得の完了した部分より確認調査を実施し、その結果に基づき概ね公団の示す調査優先地区について順次本調査を行った。確認調査の結果によっては遺構外とされる地区もあり、随時本調査地区より除外した。また、平成9年には発掘調査の進展に伴い調査対象地区の見直しを行った。この結果、調査対象地区は確認調査により遺跡外とした地区も含め10地区12遺跡、896,800㎡となった。さらに、2006（平成18）年度に面積の見直しがなされ、総面積887,600㎡となった。

〔確認調査〕

本調査に先行する確認調査は、遺跡範囲の確定及び遺構全体量の把握等が目的とされる。調査にあたっては調査対象範囲内にトレンチを設け、概ねローム層上面まで掘削することにより遺構・遺物の有無、また、その遺存状況の把握に努めた。調査対象面積に対するトレンチ総面積は5～10%を目安とした。

グリッド設定 調査対象地区南西外を原点（ $X=0$ 、 $Y=0$ ）とする局座標を定めた。原点は日本測地系による平面直角座標第IV系 $X=+52,800$ 、 $Y=+6,400$ （世界測地系では $X=53154.1623$ 、 $Y=6107.0425$ ）の位置である。この座標軸は調査対象地区全体を覆い、20m単位に南から北へ $X=0\sim 130$ 、西から東へ $Y=0\sim 60$ と展開する。また、20m×20mの1グリッドの名称は南西隅の座標値で呼ぶ。1グリッド内の細分は小数点以下の座標値を用い、同様の方法で行う。以上のグリッドは本調査時においても踏襲した。

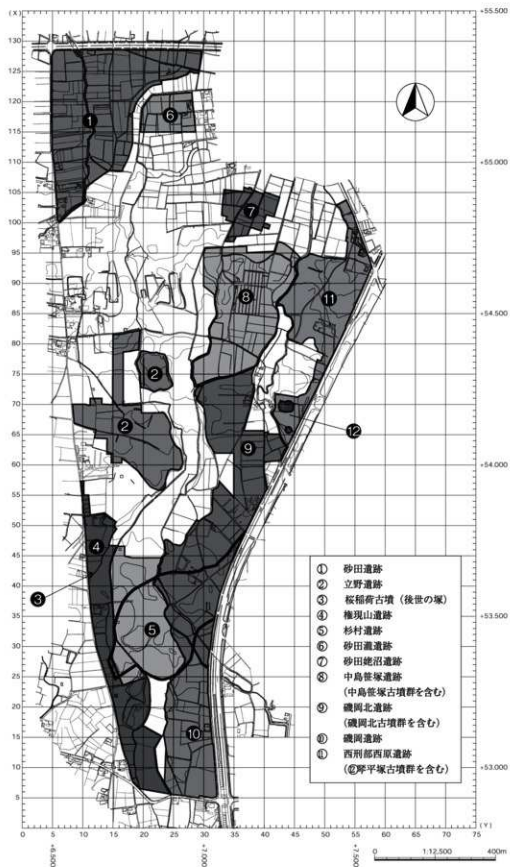
トレンチの設定 トレンチは幅約2m、グリッドラインの北側に沿って20ないし40mに一本の割合で東西方向に設けることを基本とした。これは、地形が概ね南北に延びる低地部とその東西の低台地部により形成されていることによる。記号“TX”にX軸の座標軸値を添えてトレンチの名称とし、必要に応じてY軸の座標値（ $Y=0\sim 60$ ）を添える。なお、対象地区の微地形の相違等状況の変化によっては柔軟に対応した。

トレンチの発掘 重機を用い、精査の後、図面と写真による記録を行い、遺物を取り上げた。また、必要に応じ、一部遺構の精査、自然科学分析を実施した地区もある。

〔本調査〕

公団の示す地区とその優先順位に従って実施した。これは公団の用地取得状況と工事展開に従ったものである。よって、調査時にはこれを10地区12遺跡における調査地区とし、遺跡名に算用数字を付して調査地区名とした。2000（平成12）年度までは算用数字ではなくローマ数字（Ⅰ区、Ⅱ区、Ⅲ区）を使用していたが、この報告ではすべて算用数字を用いる。遺構の管理は各調査区で行い、種別によらず通し番号とした。遺物は出土遺構単位で管理し、種別に関係なく通し番号を付した。

現地調査は、重機による表土除去、基準杭設定、遺構確認、各遺構精査、航空写真撮影・測量図化、遺物洗浄、必要に応じ自然科学分析等の手順で概ね実施した。調査方法は担当間で統一を図り、図面・写真等の等質な記録作成に努めた。なお、表土除去、基準点測量、航空写真撮影・測量図化、自然科学分析等は委託業務とし、作業の効率化を図った。



第2図 東谷・中島地区遺跡群遺跡配置図

第1表 東谷・中島地区遺跡群一覧表

No	遺跡名	略号	所在地	面積 (㎡)	時代・種別	調査前の状況
1	砂田遺跡	UT-SN	宇都宮市砂田町字蘆、同市屋根町字赤沢・字赤沢向、同市中島町字十里木	145,200	旧石器剥片、縄文時代陥穴、古墳～平安集落、方形周溝、近世墓、近世以降の堤防	田畑等
2	立野遺跡	UT-TT	宇都宮市東谷町字立野、同市中島町字小路谷田	122,800	縄文・古墳時代と中世の集落、弥生時代土坑、終末期方墳、奈良時代屋六建物、近世の溝	田畑・林
4	権現山遺跡 (3枚橋荷古墳を含む)	UT-GN UT-SG	宇都宮市東谷町字立野・字杉村・字下原、同市砂田町字吉原・字原田、上三川町磯岡字西谷	92,000	古墳時代集落・豪族居館、縄文・平安時代竪穴建物、奈良・平安時代の推定東山道、中世集落	畑地等
5	杉村遺跡	UT-SG	宇都宮市砂田町字原田他、上三川町磯岡字コムナセゴ	22,000	古墳～奈良時代・中世集落、古墳～平安時代の推定東山道	田畑・林等
6	砂田遺跡	UT-ST	宇都宮市砂田町字蘆	60,000	古墳～奈良時代の遺物散布地	田畑等
7	砂田蛇沼遺跡	UT-SU	宇都宮市砂田町字蛇沼	16,400	古墳～平安時代の集落	田等
8	中島笹塚遺跡 (中島笹塚古墳群を含む)	UT-NK	宇都宮市砂田町字笹塚・吉原蛇沼	91,100	旧石器時代、縄文土坑、弥生土器、古墳群 16 基と土壇墓、古墳～奈良時代と中世の集落	畑・林
9	磯岡北遺跡 (磯岡北古墳群を含む)	UT-SG	宇都宮市砂田町字笹塚、上三川町磯岡字笹塚、同町磯岡字コムナセゴ	128,100	縄文～奈良時代・中世集落、古墳群 10 基と土壇墓等、奈良・平安時代の推定東山道	田等
10	磯岡遺跡	KM-IS	上三川町磯岡字中原・同町磯岡字屋敷西浦	72,000	縄文・古墳～平安時代集落、弥生時代土坑	田畑等
11	西刑部西原遺跡 (12等平塚古墳群を含む)	UT-SN	宇都宮市平塚町西原、同市西刑部町西原、上三川町西汗字西赤地	138,000	縄文時代陥穴、旧石器・古墳～平安時代集落、古墳群 14 基、奈良・平安時代の推定東山道	田畑等

*4・9・10の各遺跡は5杉村遺跡とは別遺跡だが、現地調査時に「杉村遺跡」(UT-SG)の名称や略号を用いた部分がある。
*確認調査の略号はUT-TNとし、本遺跡群内における位置はトレンチ及びグリッド番号で示した。

第3節 調査の経過

〔確認調査〕 関係機関との協議、事務処理、調査方針の策定を経て、確認調査は平成9年度と平成12年度に実施した。作業の手順は前述のとおりであるが、基本的には①重機による東西方向のトレンチ掘削②人力でのトレンチ内精査③遺構確認状況等の記録（写真撮影や平面実測）の順序で実施した。

〔本調査〕 本調査は調査区を1区から14区に分け、述べ11年間に亘り断続的に実施した。各調査区と調査年度をみると、1区は平成9（1997）年度、2区は平成11（1999）年度、3・4区は平成12（2000）年度、5・6・7区は平成13（2001）年度、8区は平成15（2003）年度、9・10・11区は平成17（2005）年度、12区は平成18（2006）年度、13・14区は平成19（2007）年度である。

3区 面積 8,200㎡ 調査期間 平成12年度(2000年4月4日～2001年2月6日) 遺構 竪穴建物跡63棟、掘立柱建物跡8棟、円形周溝遺構3基、性格不明遺構2基、井戸7本、溝1条、円形有段遺構1基、土坑20基 工程 表土除去は前年度に5,800㎡が終了（残り2,400㎡は9月13～18日に実施）。遺構確認作業5月9～24日。グリッド杭設置後、配置図を作成。遺構発掘5月25日～平成13年2月21日。12月20日に4区と合わせ航空写真撮影。1月23日～2月6日まで旧石器調査。井戸断ち割りは1月29日に実施。

4区 面積 900㎡ 調査期間 平成12年度(2000年9月13日～10月20日) 遺構 竪穴建物跡3棟、溝1条、土坑3基 工程 表土除去は9月13日、遺構確認・遺構発掘は10月4～20日にかけて実施。

5区 面積 3,000㎡ 調査期間 平成13年度(2001年5月1日～7月12日) 遺構 竪穴建物跡4棟、掘立柱建物跡3棟、円形周溝遺構1基、土坑20基 工程 表土除去は2月22～28日、グリッド杭設置は3月1日。遺構確認・遺構発掘は5月16日～6月18日。航空写真は7月12日に撮影。

6区 面積 2,800㎡ 調査期間 平成13年度(2001年5月1日～8月6日) 遺構 溝2条、土坑8基 工程 表土除去は2月22～28日。3月1日グリッド杭を設置。遺構確認は5月14～30日。同時に遺構配置図を作成。遺構発掘は、旧石器時代の調査を6月13日～7月16日まで実施。7月12日に航空写真を撮影。

7区 面積 4,800㎡ 調査期間 平成13年度(2001年11月5日～2002年1月28日) 遺構 古代の道路

状遺構、竪穴建物跡4棟、円形有段遺構1基、土坑3基 工程 表土除去は11月5～27日。遺構確認・遺構発掘は11月26日～1月28日。1月24日航空写真撮影。旧石器調査を1月7～28日に実施。

8区 面積 100㎡ 調査期間 平成15年度(2003年9月11日～2003年10月10日) 遺構 道路状遺構、琴平塚9号墳、土坑1基 工程 表土除去9月11～12日。遺構確認・発掘は9月16日～10月10日まで実施。

9区 面積 1,200㎡ 調査期間 平成17年度(2005年7月7日～2006年2月23日) 遺構 竪穴建物跡15棟、掘立柱建物跡4棟、溝6条、井戸1本、性格不明遺構2基、土坑10基 工程 表土除去は7月11～13日。遺構確認・遺構発掘は南部が7月15日～8月30日。北部が10月11日～2月23日まで実施。

10区 面積 600㎡ 調査期間 平成17年度(2005年11月28日～2006年1月26日) 遺構 竪穴建物跡3棟、掘立柱建物跡3棟、円形周溝遺構1基、溝3条、土坑13基 工程 表土除去は11月28～30日に実施。遺構確認は12月2～7日。遺構発掘は12月8日～1月18日まで実施。航空写真は1月26日に撮影。

11区 面積 450㎡ 調査期間 平成17年度(2005年12月14日～2006年2月17日) 遺構 竪穴建物跡1棟、溝2条、土坑3基 工程 表土除去は12月14～19日に実施。遺構確認は1月10・11日。遺構発掘は1月16日～2月6日まで実施。1月26日航空写真撮影。2月13日に旧石器調査を実施。

12区 面積 600㎡ 調査期間 平成18年度(2006年12月4日～2007年1月25日) 遺構 竪穴建物跡3棟、掘立柱建物跡3棟、土坑3基 工程 表土除去は12月4・5日に実施、12月6～12日に遺構確認の後グリッド杭設置。遺構発掘は12月10～17日、旧石器調査は1月18～25日まで実施。

13区 面積 3,375㎡ 調査期間 平成19年度(2007年7月3日～12月27日) 遺構 竪穴建物跡30棟、掘立柱建物跡6棟、円形周溝遺構8基、円形有段遺構1基、性格不明遺構2基、井戸4本、溝13条、土坑56基 工程 南部表土除去は7月3～9日。遺構確認・遺構発掘は7月20日～10月9日まで。北部表土除去は10月23～25日に行った。遺構確認・遺構発掘は10月30日～12月27日まで実施。航空写真は9月20日と1月22日に撮影。

14区 面積 540㎡ 調査期間 平成19年度(2007年12月6～20日) 遺構 竪穴建物跡3棟、円形周溝遺構2基、溝1条、土坑5基 工程 表土除去12月6・7日。遺構確認・遺構発掘は12月10～20日。

【整理作業・報告書作成作業】

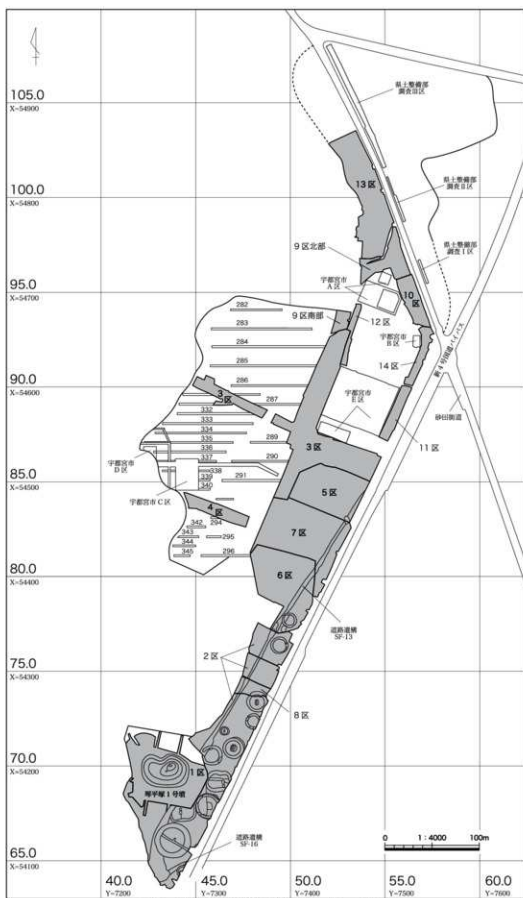
基礎整理作業は発掘調査と並行し随時実施していたが、本格的な整理作業は平成20年度から開始した。

1. 遺物整理作業の手順は、①水洗・注記作業②接合復元③拓本・実測④トレース(黒入れ)⑤版組⑥写真撮影の手順で実施した。なお実測遺物のうち調整の細かな遺物については、デジタルカメラを用いた写真実測を行い、作業の効率化および精度の向上を図った。また、遺物トレースに際しては、すべて手作業で行った。主にロットリングを用いたが、細部の調整には丸ペンを使用した。

2. 遺構図面整理作業の手順は、①図面整理②遺構図修正・第2原因作成③トレース④版組の順に実施した。多くの遺構図版はコンピュータトレース(Illustrator CS 2を使用)し、データ上でレイアウトまで行ったが、必要に応じて手作業でのトレースを実施したものもある。

3. 遺構写真は主に発掘調査時に現場で撮影したモノクロネガフィルムを使用し①紙焼き②トリミング指定・割付③キャプション記入を行い、版下とした。遺物写真は①デジタルカメラによるカラー写真撮影②InDesignによる割付にキャプション入力を行い、データにて入稿した。巻頭写真はカラーポジフィルムを直接スキャニングしたデータを出力したものを使用している。

報告書の編集は1～3で作成した図版・データをもとに①図表類の割付作業 ②原稿執筆 ③編集作業を経て、平成25年3月に『西荆部西原遺跡 古墳・奈良・平安時代編』の報告書刊行の運びとなった。



第3図 西刑部西原遺跡調査区割図 (S = 1/4,000)

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

位置 東谷・中島地区遺跡群は栃木県域の南東部、宇都宮市と河内郡上三川町に跨り、宇都宮市街地から南南東へ約7km、上三川町の中心地から北へ約5kmに位置する。東へ約5kmに鬼怒川、西へ約1.5kmに田川がそれぞれ南流する。周辺は起伏の少ない田園地帯が広がっており、各遺跡の発掘調査前の状況は水田、畑地、平地林が主で、一部に宅地が見られた。一方、本遺跡群は、東側が国道4号バイパス（新4号国道）、西側は旧上三川街道、南側は県道雀宮・真岡線、北側は宇都宮環状線に接する。また、地区内に北関東自動車道路の宇都宮・上三川インターチェンジが位置し、交通の要衝としてその重要度を高めつつある。こうした利便性と相まって、近年、本地域は流通業務施設や商業施設等の進出と市街地化が進行している。西刑部西原遺跡は、東谷・中島土地区画整理地区（完成後の名称は「インターパーク宇都宮南」）の東部やや北寄りに位置する。

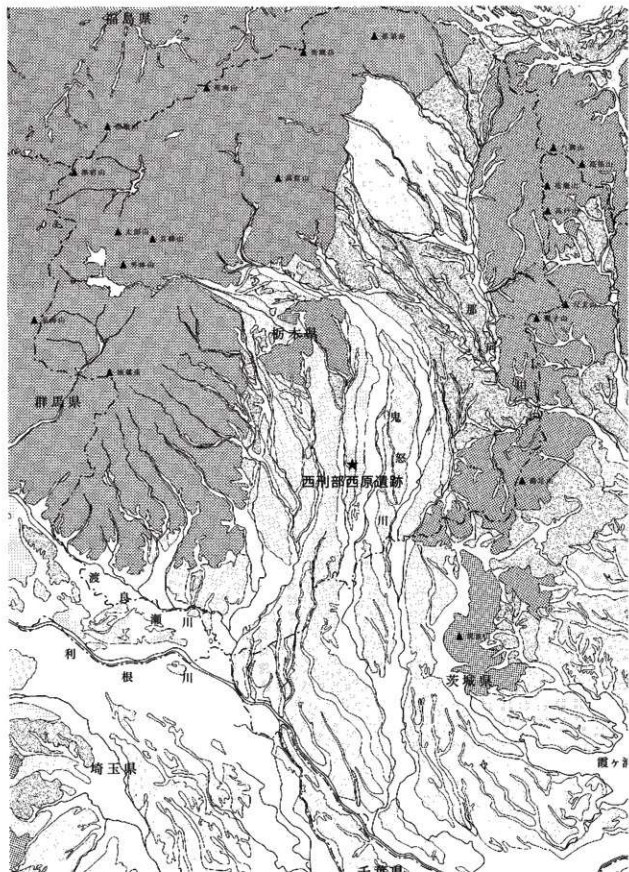
現況 西刑部西原遺跡は宇都宮市平塚町字西原および上三川町大字西汗に所在する。遺跡範囲は南北約900mと南北に長い、ほぼ中心の3区は北緯36度29分41秒・東経139度54分45秒に位置している（世界測地系）。遺跡の西側に南流する小河川「無名瀬川」（*2）による狭い開析谷があり標高85.0～87.5mの微高地上に立地する。対岸には中島笹塚遺跡が所在し、その西側は「中島谷田」（*1）に連続する開析谷に面している。

西刑部西原遺跡の総面積は49,600㎡におよび、主な遺構は古墳群、古墳時代～平安時代の集落跡、古代の道路遺構などである。今回報告する古墳・奈良・平安時代の集落跡については、その遺構・遺物は遺跡北半部に集中している。今回の報告で該当する主な調査区の面積を見てみると、3区：8,200㎡、4区：900㎡、5区：3,000㎡、6区：2,800㎡、7区：4,800㎡、8区：100㎡、9区：1,200㎡、10区：600㎡、11区：450㎡、12区：600㎡、13区：3,375㎡、14区：540㎡、となっている。調査前の状況は一部に宅地があったものの、その他殆どは畑地と水田であった。

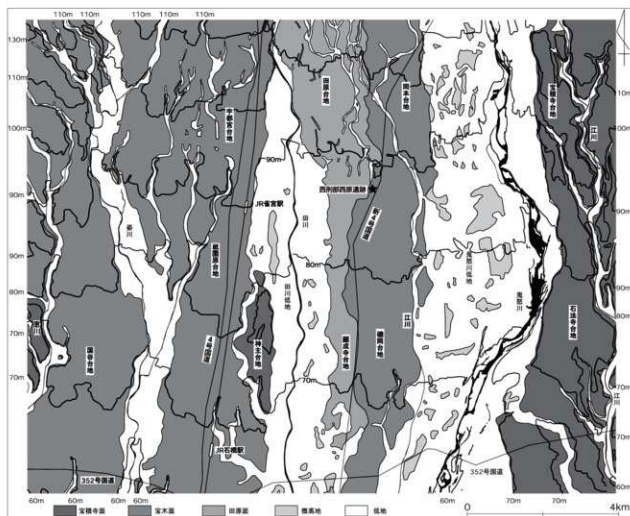
地形の分類 栃木県は関東地方の北部に位置し、東と南を茨城県、西を群馬県、北を福島県と境を接している。栃木県域の地形は、大きく見ると、東部山地、中央部平地、西部山地に分けられる。東部山地は八溝、鷲子、鷲足などの山塊からなる八溝山地、西部山地は那須、高原、日光、足尾などの山塊からなる下野山地と足尾山地である。東西の山地は南北に連なっており、両者に挟まれるように中央部平地が広がる（阿久津1981）。本遺跡は中央部平地に位置する。中央部平地は関東平野の北縁をなし、山地から南北に延びる丘陵とそれに平行するように延びる台地と低地・河川からなる。これらの台地と低地・河川は、東から鬼怒川低地（鬼怒川）、岡本・磯岡台地（宝木段丘面＝中位段丘面）、田原・願成寺台地（田原段丘面＝下位段丘面）、田川低地（田川）、神主台地（宝積寺段丘面＝



第4図 遺跡位置図



第5圖 地形圖 (1/600,000)



第6図 周辺の地形図 (S=1/100,000)

上位段丘面)、宇都宮・祇園原台地(宝木段丘面=中位段丘面)と分類されている。

田原・願成寺台地 砂田姥沼・砂田瀧両遺跡を含む東谷・中島地区遺跡群の大半の遺跡(砂田・立野・磯岡・磯岡北・中島世塚・権現山・杉村)と、その周辺の関連遺跡群(東谷古墳群の東半部や上石田遺跡・砂田東遺跡)は、田原・願成寺台地上に立地する(第5～7図)。この台地は、中央部低地の中央に南北に連なり、鬼怒川低地(鬼怒川)と田川低地(田川)に挟まれている。宇都宮市北部の今里町～北東部の上田原町～宇都宮市市街地東部の砂田町・東谷町～河内郡上三川町願成寺・上蒲生周辺にかけての台地であり、全長は約33km、東西の幅は2～2.5km、標高は170～68mである。台地の北から南への傾斜は平均すると4.2/1000mであり、田川低地との比高は1～2mほどである。台地内部には、小河川によって形成された細かな開析低地が発達している。東側にある一段高い岡本・磯岡台地とは約2mの比高があるが、両地形面の差は南に行くほど不明瞭となる。

田原・願成寺台地の台地表層部は、田原段丘礫層を最も新しい田原ロームが0.5～2mの厚さで覆っており、南に行くほど薄くなっている。田原ロームの鍵層である七本桜軽石層(Nt-S)と今市軽石層(Nt-I)は日光の男体山から噴火した火山灰(ともに1.4～1.5万年cal BP)で、栃木県域北部に分布する。宇都宮市街地北

方付近ではやや薄くなり、これ以南では本遺跡群のようにローム層中に軽石が点在する程度となる。田原ロームの下には、砂質土・砂層の厚い堆積が認められる。

田川低地 東谷・中島地区遺跡群の西方には田川低地が広がり、その微高地上には東谷古墳群の西半部や百目鬼遺跡・東谷北浦遺跡が位置している（第7図）。田原・願成寺台地と田川低地との境には、南流する赤沢川（井川）がある。田川低地は、宇都宮市域の北から宇都宮市街地を通過して南へ延び、田原・願成寺台地の西側に幅1.5～2kmにわたって分布する。この低地は、現在水田となっている田川の旧河道とされる部分と、それより1～1.5mほど上位で現在は集落が分布する自然堤防などの微高地とに識別することが可能である。低地や微高地の形成時期などを決める資料は得られていないが、およそ2万年前以降に田川の営力によりできたものと推定されている。

岡本・磯岡台地 田原・願成寺台地の東側には岡本・磯岡台地が広がり、東谷・中島地区遺跡群の東端部にある西刑部西原遺跡および琴平塚古墳群や、東側にある西赤堀遺跡などが所在する。田原・願成寺台地と岡本・磯岡台地との境には、南流する無名瀬川（*2）がある。岡本・磯岡台地は、宇都宮市白沢・岡本～宇都宮市平出・猿山～上三川町磯岡・日産自動車用池～下野市三王山周辺の南北に長い台地である。全長約35km、東西幅1.5～2.5km、標高162.5～54mである。台地の北から南への傾斜は4.5/1000～1/1000で南ほど緩傾斜となる。鬼怒川低地との比高は、白沢付近で約15mあり明瞭だが、南へ行くほど緩斜面状を呈する。台地表層部は宝木段丘礫層を田原ロームと宝木ロームが厚さ5～10mほどで覆っている。厚さは南に行くほど薄くなる。台地内部は、小河川によって形成された細かな開析低地が発達している。

* 1 「にしやだ」および「なかじまやだ」の通称は、宇都宮市砂田町在住の福田林蔵氏（1930年生）からの御教示による。漢字表記は推定である。

* 2 「むなせがわ」の漢字表記は、開発前の10,000分の1地形図による（上三川町役場1981年作成）。「武名瀬川」や「田川用水」とも表記・呼称されている。

<参考文献>

- 栃木県企画部土地対策課 1984 『土地分類基本調査 壬生』
 経済企画庁総合開発局国土調査課 1960 『土地分類基本調査 地形・表層地質・土壌調査 宇都宮』
 上三川町史編さん委員会 1979 『上三川町史』資料編 原始・古代・中世 上三川町
 宇都宮市史編さん委員会 1979 『宇都宮市史』第一巻 原始・古代編 宇都宮市
 阿久津純 1981 「自然と環境」栃木県史編さん委員会編『栃木県史』通史編1 原始・古代一 栃木県 pp.11-36

第2節 歴史的環境

東谷・中島地区遺跡群内及び周辺地域においては、古墳時代から平安時代を中心とした遺跡が多く、分布密度も極めて高い。ここでは本遺跡から確認された遺構・遺物と比較しながら周辺の遺跡を概観してみることにした。なお西刑部西原遺跡は、今回報告するUR調査区に加え、必要に応じて埋蔵文化財センターが調査した県道拡幅部分、宇都宮市が行った民間開発に伴う調査区も含め述べるものとする。

古墳時代前期 田川東岸の東谷・中島地区周辺では、本格的な古墳時代集落は中期前葉に現れる。それまでは小規模な集落が点在する程度である。西刑部西原遺跡北部の県道拡幅部分から4世紀末葉の3軒の建物跡が確認されている(植木2010)。また東谷・中島地区内では砂田姥沼遺跡2区SI-1と3区SI-5が前期の竪穴建物である。この他に西刑部古屋原遺跡SI-02(145:清水2002)、砂田東遺跡B区SI-12・13(104:中山1996)がある。田川東岸の低台地では、粕内遺跡に前期の遺物がある(94:前沢1979)。

前期末～中期初めの建物は、杉村遺跡北関東自動車道路調査区の60・69・70号住居跡(藤田・安藤2000, p.410)、その北側の立野遺跡5区SI-14(108:内山2005, pp.122-123,739)、西方の東谷北浦遺跡SI-139(160:篠原・亀田2009)がある。

前期古墳と同じく前期の集落も田川西岸の茂原地域に多い。大日塚・愛宕塚古墳下層(75・76:久保編1990)・愛宕塚東(73:名取他1998, pp.87-89)・西下谷田(50:今平2006)の各遺跡に前期前半の集落が見られる。権現山北遺跡で前期後葉の竪穴1棟(72:大島編1979)、上ノ原遺跡で竪穴6棟(56:大川他1992)、殿山遺跡で1棟(85:大川他1995, p.230)が報告されている。田川西岸に面する台地では、木田遺跡(68:橋本県教委1988, p.77)に前期の竪穴建物がある。やや西方にある西川田川の析析谷では、天狗原遺跡(36:神野1994)に竪穴3棟、留西遺跡(23:宇都宮市1983, p.317)と留西南遺跡(25:名取他1996, p.31)に前期の遺物がある。

前期～中期初頭の古墳 田川東岸では、前期古墳が小規模で数も少ない。最初に現れるのは小形方墳で、西刑部古屋原2・4号墳(145:辺長10～14m、清水2002)や上郷26・27号墳(172の西部:辺長11～14m、秋元2000)である。中島塚7・8号墳も中期初頭の小型方墳と思われる(150:辺長7.1～12.6m、内山2008)。この他、権現山遺跡B区(112)の土壌墓2基が前期末～中期初頭である(谷中他2001, III-p.284)。

東谷・中島地区から田川をはさんだ対岸(西岸)では、有力な首長墳が築かれる。前方後方墳3基を含む茂原古墳群がよく知られている(久保編1990)。大日塚古墳(75:墳長35.8m・箱式木棺・素文鏡1面)・愛宕塚古墳(76:墳長50m・舟形木棺・S字文または重圈文鏡)・権現山古墳(74:墳長63m)の3基で、大形化している権現山古墳が最後に築かれたと推定されている。小形墳としては、牛塚東遺跡で辺長11mと6mの方墳(32:今平1993)、北原東遺跡に辺長13.0×11.8mの方墳(50の南端部:安永2001)、殿山遺跡に「方形周溝墓」2基(85:大川他1995, p.7)がある。上神主浅間神社古墳(82の北端)は墳径53～54mで、茂原古墳群に続いて方系墳から円墳に転換した中期初頭頃の首長墳である(石部・秋元編1994)。茂原周辺地域以外では、城南3丁目遺跡2号墳が方墳の可能性(12:今平1996)。

古墳時代中期の集落 西刑部西原遺跡から確認された古墳時代中期の建物は調査区北部の14区で1軒(中期末葉:SI-2)が確認されるのみである。中期集落は周辺に数多い。田川東側地域では、上述した前期末～中期初頭の集落(立野5区SI-14、杉村遺跡60・69・70号住居、東谷北浦遺跡SI-139)の次段階から、東谷・

中島地区周辺に多数の中期集落が見れる。東谷北浦遺跡(160)のSD-77・87が中期初頭の溝で、東谷古墳群の初期首長墳と推定される笹塚古墳(117)のすぐ東北にある。東谷古墳群と周辺遺跡群の形成が中期初頭に東谷北浦遺跡から始まってきたことを示すものかもしれない。その中核である権現山遺跡は、豪族居館(首長居宅)と考えられる施設をSG 1区とSG 5区に含み、周辺の竪穴建物も高密度で(4区・SG 5区・SG10区・北関東自動車道A区)、遺物の量・質も豊富である。

周辺の中期集落群は中核である権現山遺跡と同時か、または少し遅れて現れる。その例は、砂田姥沼遺跡の1区と宇都宮市調査区D区(水野・柏崎 2008)や砂田4・6区(津野他 2007)、立野5・6区周辺(後述)、杉村(藤田他 2000)、磯岡(塚原 1999・藤田他 2000・高野他 2004・津野 2005・栗田 2005)の諸遺跡がある(103,108,146,160,164)。北東方の砂田東遺跡(104:中山 1996)やその東方の成願寺遺跡(144:篠原編 2000)も、東谷・中島地区の諸遺跡と時期をそろえるように形成される。

開析谷を挟んで西側集落の立野遺跡と、東側墓域の中期群集墳が対応して営まれる。立野遺跡(108)の5区・6区・宇都宮市調査A地区周辺で調査した91棟の古墳時代竪穴建物は、約半数の44棟が中期で、磯岡北古墳群(153)と中島笹塚古墳群(150)に先行する中期中葉に13棟、中島笹塚古墳群の前半期および磯岡北古墳群に対応する中期後葉に9棟が確認されている。磯岡北古墳群の造営停止後、中島笹塚古墳群の後半期に対応する中期末は立野5・6区周辺の竪穴建物が最も多い時期で、3区の単独建物を含めて21棟ある(内山 2005, pp.735-742; 水野他 2005, p.35)。このうち2棟はそれぞれ辺長14.5mと12mで(宇都宮市調査A地区SI-2・3)、古墳時代を通じて最大級の竪穴建物である。

開析谷の東側でも、少数の集落が形成される。磯岡北遺跡(153)では、磯岡北古墳群の造営前・造営後の竪穴建物6棟がSG17区(内山 2006)・SG11区(藤田 2003)と宇都宮市調査A・B区(勝見 2005)にある。中島笹塚遺跡(150)でも5区に中期(中葉?)の竪穴建物1棟と円筒形土坑3基がある。

田川西岸では、塚山古墳群(17)を中心とする兵庫川・西川田川の谷に大集落が見れる。北若松原遺跡は塚山古墳群とほぼ同じ頃の集落で、竪穴24棟が調査された(16:宇都宮市 1992, p.38; 1994, p.30)。中原(二軒原)遺跡も同様と思われる(20:寺内他 1939b)、若松原(19)・西原北(22:名取他 1996, p.36)の両遺跡と一連の大集落であろう。若松原遺跡周辺と北若松原遺跡では石製模造品が豊富で、白玉生産を示す未成品も多数採集され(名取他 1998, pp.108-133)。塚山古墳群と対応する拠点集落の手工業生産地区と見てよい。北方の雷電山遺跡にはTK-23～47型式期の特異な長方形竪穴建物群がある(6:今平 1994)。

また、田川西岸で前期の中核地域だった神主台地の茂原周辺にも大集落がある。殿山遺跡(85:大川他 1995)では、首長居宅と見られる辺長50mの方形区画溝の周囲で調査した447棟の竪穴建物の大半が中～後期で、陶質土器(定森 1999)・初期須恵器・鍛冶遺構や、凝灰岩切石の竈焚口枠(水野他 2005, p.36)などを伴う。権現山北遺跡(72)では中前期～中葉の竪穴8棟と中期末葉の1棟を調査した。ここでは権現山4区・立野5区等と同様の円筒形土坑群が、遺物からみて中期の集落に伴うらしい(大島編 1979, pp.132-145)。

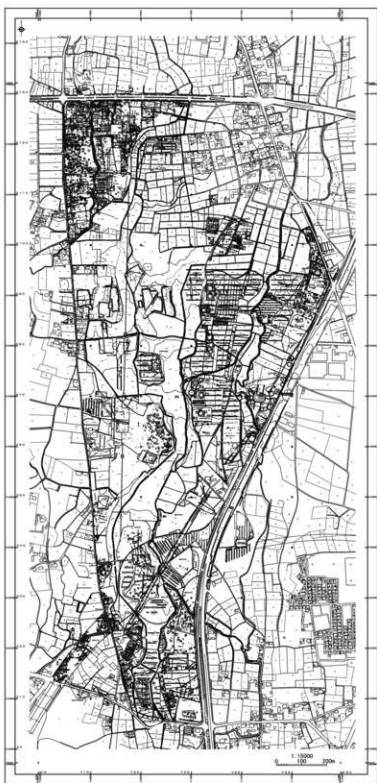
中期古墳 田川東岸では、栃木県域中央部を代表する中期古墳群の東谷古墳群が、東谷・中島地区のすぐ西側に造られる(橋本・谷中 2001)。双子塚(墳長73m)・笹塚(100m:小森 1979, 秋元・今平 1998)の前方後円墳2基と、鶴舞塚(径53m:梁木 1984)・松の塚(48m:谷中他 2001)・権現塚(30m)・車塚(35m)の大形円墳が北西から南東へ順に立地し、おおよその順序で築かれた可能性がある(112-118)。東谷地域における中期後半の首長墳は墳輪のない大形円墳になる。田川東岸で墳輪を持つ中期後葉の前方後円墳は墳長40mの八龍塚古墳がある(179:秋元 1989)。中期群集墳としては東谷古墳群の東半部に含まれる円墳群



第7図 周辺の遺跡分布図

第2表 東谷・中島地区周辺の遺跡

No	遺跡名	No	遺跡名	No	遺跡名
1	本村遺跡	66	畑内遺跡	129	猫山東遺跡
2	開南1丁目遺跡	67	大川遺跡	130	榎木取遺跡・榎木取古墳群
3	かんセンター東遺跡	68	本山遺跡	131	東原古墳群
4	西原境遺跡	69	多の遺跡	132	西原中塚
5	赤松遺跡	70	上大瀬川行内遺跡	133	さるやま城遺跡・さるやま城古墳群
6	赤福山遺跡	71	長持塚古墳	134	猫山遺跡
7	江曾島北原遺跡	72	梅島山北遺跡	135	福徳野内池遺跡
8	明道遺跡	73	愛宕塚遺跡	136	根本内古墳群
9	江曾島北原南遺跡	74	茂原古墳	137	桑島古墳群
10	おしめ女遺跡	74	茂原梅島古墳	138	飯塚古墳
11	大野林遺跡	75	茂原大日塚古墳	139	藤原遺跡
12	城南3丁目遺跡	76	茂原愛宕塚古墳	140	南宮古墳
13	城南3丁目南遺跡	77	小松遺跡	141	ノ楯山遺跡
14	宮の内遺跡	78	江田遺跡	142	成瀬寺止遺跡
15	塚山北遺跡	79	上神上・茂原遺跡	143	大畑行遺跡(小塚原遺跡)
16	北石松原遺跡	80	茂原城址	144	成瀬寺遺跡
17	塚山古墳群	80	茂原原遺跡	145	西原部古塚原遺跡・西原部古塚原古墳群
	塚山古墳(1号墳)	81	北志田遺跡	146	西原部西原遺跡
	塚山古墳(2号墳)	82	神上古墳群	147	大瀬高塚群
	塚山古墳(3号墳)		上神上茂原神社古墳(神上1号墳)	148	中道遺跡
18	一向寺伊院付五遺跡		上神上孤塚古墳(神上5号墳)	149	観戸遺跡
19	西松原遺跡		北志田古墳(神上7号墳)	150	中島伊保遺跡(中島伊保古墳群を含む)
20	二軒屋遺跡(中原遺跡)		下原古墳(神上20号墳)	151	後河塚遺跡
21	旭ヶ丘団地遺跡	83	向原遺跡	152	古塚原高塚群
22	西原北遺跡	84	向原南遺跡	153	磯岡北遺跡(磯岡北古墳群を含む)
23	留西遺跡	85	船山遺跡	154	野平塚古墳群
24	十里木遺跡	86	薄田遺跡	155	西沢遺跡
25	留西南遺跡	87	台内寺遺跡	156	平塚原粗浮遺跡
26	若松原南遺跡	88	丸山砥神社古墳	157	不動堂遺跡
27	綾女塚古墳	89	芋内遺跡	158	内野遺跡
28	富宮東原遺跡	90	上石田遺跡	159	下小塚原遺跡
29	車の宮四丁目遺跡	91	石田遺跡	160	東谷北遺跡群
30	富宮東遺跡	92	上瀬川の古墳群	161	西赤塚遺跡・西赤塚古墳群
31	大谷田遺跡	93	十三塚古墳(上瀬川1号墳)	162	南浦遺跡
32	牛塚東遺跡	93	後志部東遺跡	163	高島郡跡・高島遺跡群
33	新宮牛塚古墳	94	船内遺跡	164	磯岡遺跡
34	二子塚北遺跡	95	栄跡跡	165	磯岡・西行の古墳群
35	針ヶ丘二子塚古墳	96	大塚神社古墳群		早倉東原宮内塚古墳(磯岡・西行3号墳)
36	大野原遺跡	97	下堂愛宕塚遺跡	166	西赤塚東遺跡
37	島の前遺跡	98	下堂大塚古墳	167	磯岡北遺跡
38	宇都宮機張南遺跡	99	東川田城	168	西赤塚長塚古墳(磯岡・西行2号墳)
39	赤土山遺跡	100	菅谷遺跡	169	西赤塚南遺跡
40	多功神塚古墳群	101	赤沢遺跡	170	西田遺跡
41	富士見川原北遺跡	102	下赤島西原古墳群	171	西林ノ内遺跡
42	岡田山遺跡	103	砂田遺跡	172	上郷の古墳群
43	茂原北原遺跡	104	砂田東遺跡		愛宕神社古墳(上郷1号古墳)
44	石川坪遺跡	105	砂田西遺跡		野塚古墳(上郷2号墳)
45	富士見川山遺跡	106	砂田沢原遺跡		上郷塚原古墳(上郷3号墳)
46	明ノ内遺跡	107	赤沢高塚群		長塚古墳(上郷D3号墳)
47	西の前遺跡	108	立野遺跡		しらみ塚古墳(上郷4号墳)
48	上原遺跡	109	稲荷塚古墳(古墳ではなく後世の塚)		上郷26・27号墳
49	前原遺跡	110	梅島山遺跡	173	仏沼遺跡
50	西下田遺跡(北原東遺跡)	111	杉田遺跡	174	駒成寺遺跡
51	下谷山北原古墳	112	東谷古墳群	175	上瀬川遺跡
52	北原遺跡	112	梅島山遺跡B区(原古墳群)	176	大野遺跡
53	大木遺跡	113	車塚古墳群	177	西沢遺跡
54	一本松遺跡	114	梅原塚古墳群	178	越田遺跡
55	若林北遺跡	115	松の塚古墳	179	上三川地区の古墳群
56	上ノ原遺跡	116	二子塚古墳		丸塚塚古墳(上三川1号墳)
57	若林南遺跡	117	伊塚古墳	180	上三川城跡
58	丸山遺跡	118	龍舞塚古墳	181	大野遺跡
59	谷塚北遺跡	119	新谷行遺跡	182	石井城跡
60	谷塚南遺跡	120	三日月神社古墳	183	高尾神社古墳
61	東浦遺跡	121	三日月神社南古墳群	184	桑島城跡
62	丸山古墳群	122	十ヶ塚遺跡	185	松本遺跡
	丸山神社古墳(丸山1号墳)	123	久保岡南山古墳	186	高塚神社古墳(西木代1号墳)
	丸山藤原塚古墳(丸山9号墳)	124	久保岡北遺跡	187	五丁免遺跡
	新山古墳(丸山13号墳)		久保岡北遺跡(1号墳)	188	中畑遺跡
	長塚古墳(丸山D20号墳)	125	迫倉北遺跡	189	上郷遺跡
63	新山遺跡	126	石井久保山古墳群	190	五堂遺跡
64	稲穂塚遺跡	127	大久保行山遺跡	191	白日免遺跡
65	横塚遺跡	128	天王山遺跡		



第8図 東谷・中島地区道跡群全体図

(112:谷中他 2001)と、磯岡北古墳群(153:内山 2006)・中島笹塚古墳群(150)・西刑部古屋原1・3・5・6・7号墳(145:墳径14~28m:清水 2002)がある。磯岡北と中島笹塚の古墳群は、立野遺跡5・6区周辺の集落に対応する墓域と推定される(第7図)。中島笹塚2・10号墳と磯岡北3号墳でそれぞれ円墳から小形羨道を1面ずつ出土している点は(とちぎ埋文 2005b)、次に述べる田川西岸の状況と同様である。

田川西岸では、東岸の東谷笹塚古墳に続いて塚山古墳群が現れる(17:宇都宮大 1995・2003)。また、雀宮牛塚古墳が豊富な副葬品を持つ(33:大和久 1969)。塚山(墳長98.3m)→塚山西(63.1m)→雀宮牛塚(56.7m)・塚山南古墳(58.0m)の順で、TK-216~23型式期に築かれた可能性が高い。塚山西・南古墳並行期に、本村遺跡(1:富川 2004)の2号墳(径24m・乳文鏡1面・銀杏葉文線刻埴輪他)、城南3丁目遺跡(12:今平 1996)の1号墳(径12.9m・木棺2基・乳文鏡1面)など、副葬品がやや豊富な中小古墳がつくられる。

古墳時代後期・終末期の集落 砂田姥沼遺跡の他、権現山遺跡、立野遺跡5・6区周辺(108:内山 2005, p.742)の古墳時代集落は終末期前半(8段階=7世紀前半)、砂田姥沼遺跡や杉村遺跡も終末期後半(9段階=7世紀後半)までには衰退する。中期集落の項で上述した周辺各遺跡も、多くが同様な状況を示す。

それに代わって、砂田遺跡(103:藤田他 2002・中山他 2005・津野他 2007)と、東側の岡本台地上にある西赤堀(161:安藤 1996・亀田 2007)・瑞穂野田地(135:岩上他 1978)・大関台(143:杉浦 2001)の各遺跡が中心的な集落になってゆく。西刑部西原遺跡もこの例に漏れず、この時期から急激に遺構数が増え、特に7世紀前半から中葉にかけては40軒もの竪穴建物跡が確認されている。竪穴建物跡の増加と期を同じくして円形周溝遺構も増え、時期の推定できるもので6基が認められる。

砂田姥沼遺跡は1区~3区に17棟の竪穴があるが、部分的な調査になるが宇都宮市調査区(大塚他 2007)3棟・B区(小林・大橋 2007)1棟・C区(白崎・岩崎 2008)3棟・D区(水野・柏崎 2008)9棟・E区(佐々木他 2008)1棟の竪穴が確認され、併せて34棟にも及ぶ後~終末期の集落がある。2区には宇都宮市調査C区や3区へと続く大溝、その大溝に降りる通路状遺構が3基あり、後~終末期にかけて使用された可能性がある。

また、後期から出現する集落も見られる。中期群集墳が形成された中島笹塚・磯岡北遺跡では、墓域が消滅する後期以降に集落が現れる(150・153)。中島笹塚遺跡では、部分的な調査で後~終末期集落が知られ、一部は奈良時代へ続く可能性がある。磯岡北遺跡は、宇都宮市調査B区(勝見 2005)とSG3区・SG11区(藤田 2003)に終末期の建物知られる。

田川の西岸地域でも同様な状況がある。神主台地の中核的集落として中期から続く殿山遺跡(85)は、後期には向原遺跡(83:大川・三輪 2000)や向原南遺跡(84:大川・吉岡他 1992)も加わり、終末期前半まで継続する。権現山北遺跡(72)も後期後半までは集落がみられる。殿山遺跡KT-100などを最後として、終末期後半にはこれらの集落群が消滅し、南側の薄市遺跡(86:秋元編 1988)と北側の西下谷田遺跡(50:板橋編 2003, 2006・今平 2008)に中心が移る。西下谷田遺跡は竪穴建物86棟と掘立柱建物45棟の他に門を持つ150×108mの板垣区画施設を含み、河内評家かと考えられている(板橋 2007)。

中期後半における田川西岸地域の中心であった塚山古墳群周辺の集落は、後期以後の状況が不明確である。弥生後期・古墳前期の項でも触れた天狗原遺跡(36)では、古墳後期の竪穴建物や、立野5区と同様の円筒形土坑・円形周溝遺構がある。関道遺跡(8:赤石澤 1988)は古墳後期~奈良時代まで続くようである。

後期・終末期古墳 田川東岸の後期前半では、琴平塚1号墳が最大の古墳である(154:長52m・二重周溝、中村 2004)。ただし中期末の可能性もある。笹塚古墳以降の東谷・中島地区周辺でしばらく途絶えていた前

方後円墳と埴輪樹立がここで再開する。他に、墳長31mのしらみ塚古墳がある(172の西部:秋元2000)。田川西岸の後期前半では、墳長48.8mの上神子孤塚古墳が最大である(82の北西部:石部・秋元編1995)。琴平塚1号・上神子孤塚・しらみ塚は、いずれも前方部が短い帆立貝形前方後円墳である。琴平塚1号墳を中心として後期前半から群集墳が形成される(中村2004)。下桑島西原古墳群(102:今平他2002)では後期前半の円墳2基と後期後半の墳長35mの前方後円墳1基(140:南原古墳)が知られ、周溝内の木棺直葬・竪穴式小石室や、古墳外の土壌墓も見られる点が琴平塚古墳群と同様な時期・群構成である。

後期後半に古墳が増えて群集墳が盛行し、その中に前方後円墳が所在する(中村2004, p.190)。田川東岸では墳長68mの上郷孤塚古墳が最大である(172の東端:前澤1979, p.414)。東谷・中島地区では琴平塚3・5号墳(長25.0mと23.7m)がある。周辺に長50.5mの久部愛宕塚(124:梁木他1995)、32~38mの根本西台1・2・5号墳(136:水野他2008b・c)、38.5mの飯塚古墳(138:斎藤他2003)、30~40mの西刑部古原8号墳(152:清水2002)、42mの西赤堀1号墳と27mの同2号墳(161:安藤編1996)、39mの西赤堀孤塚(168:大川・水野他1987/中山・井他2005)、36mの高尾神社古墳(183:内山1998,2000)などがある。墳長36mの屋敷東浦愛宕塚古墳(165:前澤1979, p.398)も後期後半と推定される。径43.5mの下栗大塚古墳は終末期大形円墳と想定される(98:宇都宮市1996, pp.2,3)。後~終末期群集墳は成願寺(144:篠原編2000)・西赤堀(161:安藤1996・亀田2007)両遺跡、単独所在の小形方墳が立野遺跡5区にある(108:内山2005)。

田川西岸では、推定長45m以上の本村3号(1の北部:水野他2007)、40~50mの綾女塚(27:秋元・飯田他1998)、30~40m前後の針ヶ谷二子塚(35:宇都宮市1990)、43mの大山孤塚(62の南端:前澤1979)、47.4mの後志部(82の中央:石部他1998)が後期後半の前方後円墳である。墳形不明の十里木古墳(24:宇都宮市1998, p.16)は切石石室で7世紀初葉とされる(秋元・飯田他1998, pp.114,128)。市街地化していない地域では、これら首長墳の周囲に群集墳を確認できる(1本村古墳群・62大山古墳群・82神主古墳群)。また、円墳だけの古墳群もみられる(50西下谷田古墳群:今平2008)。

奈良・平安時代 西刑部西原遺跡では奈良時代に入り再び遺構数の増加が見られる。特に3区を中心に8世紀前葉には19棟の竪穴建物跡が確認され、8世紀中葉から後半にかけて更に21棟の竪穴建物跡が調査された。この時期は竪穴建物以外では大型の掘立柱建物跡(3区SB-100)や井戸跡も6本確認されている。また3区SK-45、7区SX-7、9区SX-25は円形有段遺構と考えられる。平安時代になると遺構数は激減し、竪穴建物跡は9棟に留まる。注目される遺構としては井戸跡(3区SE-23)がある。「来」の墨書をもつ須臾器類の他、居木をはじめとする多くの木製品・自然遺物が出土している。

砂田姥沼遺跡では奈良時代以降の建物は少なく、3区に9世紀代の2棟があり、大溝とその溝に降りる通路状遺構(10段階・11段階=8世紀前半)の2基がある。杉村遺跡ではGN1区に1棟と北開東自動車道調査区(藤田・安藤2000)に2棟の奈良時代前葉の竪穴建物があり、未報告書であるが権現山SG10区(旧称は杉村X区:とちぎ理文2000, p.32)で9世紀代の1棟がある。また、古代の溝が権現山SG1区に1条ある。権現山・杉村遺跡・磯河北・杉村北・西刑部西原遺跡に続く古代道路状遺構は東山道と推定されている(藤田2003・亀田1999)。上記の遺跡にはこの道路状遺構以外は古代の遺構・遺物が少ない。立野遺跡(108)でも古代の遺構が希薄で、5区に奈良時代末頃の単独建物がある。立野遺跡では4・7・8区の大溝と、その溝に降りる2区の通路遺構が注意される(内山2005, pp.748-749)。東に隣接する磯河北SG3・SG4区でもそれぞれ単独の竪穴建物がある(藤田2003, pp.167-172,177-179)。磯河北遺跡の各古墳や中世溝にも7世紀末~奈良時代の須臾器が少量混入していた(153:内山2006)。中島塚遺跡では古墳終末期~奈良

時代の集落と、奈良時代の溝を通過する道路状遺構（8区）を調査した。東側の磯岡遺跡（164）でも8～9世紀代の竪穴・掘立柱建物が少数あり、漆紙文書の貝注曆（塚原編 1999, pp.442-445）と円面硯・獸脚・鉄鉢形土器（津野 2005, p.103,112,117,294）が見られる。

東側の高位台地上に大規模な古代の集落・猿山（134；川原他 1981；常川他 1978）・瑞穂野団地（135；岩上他 1978；水野他 2008b）・大関台（143；杉浦 2001）・西刑部西原3区（146；とちぎ理文 2001）・西赤堀（161；前澤 1976・安藤 1996・亀田 2007）がある。遺跡の立地が総じて東へ進むことが指摘されている（橋本 2002, p.13）。

東谷・中島地区遺跡群の多くが立地する田原低台地では、砂田遺跡が最も大規模である（103；芹澤 1993/藤田・田代 2002/中山・青木他 2005/津野・篠原・今平 2007）。8世紀代に掘立柱建物跡の比率が高い集落である。砂田3区SI-97に「中嶋」の墨書土器があり、『倭名抄』の郷名に見られない「中島」の地名が9世紀から現代まで続くことを示した（藤田他前掲）。同遺跡5区の墨書土器から9世紀中～後葉に「大麻」部集団等が居住したと解釈されている（津野他前掲, p.687）。県調査分の砂田24区（津野他前掲）や宇都宮市調査分のA地区（中山・青木他 2005）では、旧河道に降りてゆく古墳後期と平安時代の水場遺構がある。

田川西岸台地にある上神主・茂原遺跡（79；秋元・保坂 1999；深谷他 2003）は、西下谷田遺跡を引き継いで7世紀後葉に成立する。推定東山道に取り付く位置にあり、奈良時代の河内郡家政庁と、人名瓦を伴う瓦葺倉を含む正倉群と考えられている。また、多功遺跡（69；秋元他 1997）も河内郡衙と推定されている。

中世 西刑部西原遺跡では明確な中世の遺構は確認できなかった。但し調査4区から和鏡が単独で出土していることから、時期不明の土坑や溝などに一部中世の遺構が含まれる可能性は十分ある。和鏡（群蝶双雀鏡）は完形品で、その特徴から鎌倉時代の所産と考えられる。砂田遺跡では中世の遺構は、土坑1基・井戸1本がある。砂田姥沼遺跡では宇都宮市調査B区（小林・大橋 2007）で土坑1基・溝1条、C区（白崎・岩崎 2008）には土坑3基・溝2条、D区（水野・柏崎 2008）に土坑3基・溝1条・井戸1本がある。遺物には陶器片・土師質土器片・砥石が認められている。権現山遺跡SG1区では不整形の区画溝内に13世紀後半～14世紀前半を中心とする竪穴遺構2基・土坑2基・井戸1本が認められた。方形区画溝は未報告であるが権現山SG10区にもあり、区画内外に柱穴群や井戸を伴う（とちぎ理文 2000, p.32）。すぐ北側の立野遺跡（108）では、5区に方形区画溝・8区に方形竪穴遺構1基（内山 2005）、宇都宮市調査A地区に方形竪穴遺構群（水野他 2005）がある。

台地の東端から西端まで、古墳群の周溝をも連結・利用しながら伸びる13世紀ころの長い溝が、磯岡北古墳群の北端部に認められる（磯岡北遺跡SG12・SG16～17区）。常滑産陶器・青磁碗・かわらけが見られ、磯岡北古墳群周辺を中世に利用していたようである。集落に関わる遺構としては方形竪穴があり、磯岡北遺跡SG3区で1基（153；藤田 2003, p.173）と、同じく磯岡北遺跡の一部に含まれる「杉村北遺跡」（亀田 1999）で2基が確認され、後者では井戸が隣接している。

東谷・中島地区の周辺は、鎌倉・室町時代において宇都宮氏および芳賀氏の支配下にあったことが知られている。小規模な城館として刑部城（186の北東1km）・桑島城（184）・高島館（163）がある。また北方には石井城（182）・さるやま城（133；宇都宮市 2005b, p.12）があり、これらの分布から、中世から鬼怒川低地の開発が本格的に行われたものと考えられている（橋本 2002, p.19）。大関台遺跡（143）では長辺80mの方形区画溝を戦時の臨時拠点と考える意見がある（杉浦 2001, p.386）。立野遺跡5区や権現山遺跡SG1区・SG10区の方形区画溝はより小規模で溝も浅く、大関台遺跡と同様な性格と考えてよいかどうかは不詳である。

(第2章第2節 参考文献)

- 赤石澤亮 1988 『関道道跡』 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第25集 宇都宮市教育委員会
- 秋元陽光編 1988 『陣市道跡・大山道跡』 上三川町埋蔵文化財調査報告第7集 上三川町教育委員会 (栃木県河内郡)
- 秋元陽光編 1989 『八尾塚古墳』 上三川町埋蔵文化財調査報告第8集 上三川町教育委員会 (栃木県河内郡)
- 秋元陽光編 2000 『上三川町の古墳』 I 上三川町埋蔵文化財調査報告第21集 上三川町教育委員会 (栃木県河内郡)
- 秋元陽光編 2003 『上三川町における古墳の素描・古墳から見た古墳時代集団の抽出』 『栃木の考古学』 堤静夫先生古稀記念論文集「栃木の考古学」刊行会 (宇都宮) pp.225-238.
- 秋元陽光・飯田光史・藤原真理 1998 『鏡女塚古墳の課題』 『栃木県考古学会誌』 第19集 栃木県考古学会 宇都宮 pp.109-133.
- 秋元陽光・大橋泰夫 1988 『栃木県河内郡の古墳時代後期の首長墓の動向』 『栃木県考古学会誌』 第9集 栃木県考古学会 宇都宮 pp.7-40.
- 秋元陽光・君島利行・瀧田開伸・藤田典夫・植木茂雄 1985 『大町道跡』 上三川町埋蔵文化財調査報告第5集 上三川町教育委員会 (栃木県河内郡)
- 秋元陽光・今平利幸 1998 『宇都宮市東谷塚古墳出土の遺物』 『考古』 第13号 宇都宮大学考古学研究会 宇都宮 pp.41-64.
- 秋元陽光・保坂知子・及川真紀 1997 『多功道跡』 III 上三川町埋蔵文化財調査報告第16集 上三川町教育委員会 (栃木県河内郡)
- 秋元陽光・保坂知子 1999 『上神主・茂原道跡』 I 上三川町埋蔵文化財調査報告第19集 上三川町教育委員会 (栃木県河内郡)
- 安藤美保編 1996 『西赤坂道跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第178集 栃木県教育委員会・(財) 栃木県文化振興事業団
- 五十嵐利勝 1979 『権現山北道跡採集の石器について』 『権現山北道跡』 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第5集 宇都宮市教育委員会 pp.177-182.
- 五十嵐利勝 1981 『宇都宮市二軒屋道跡発掘調査報告』 『下野考古学』 2 下野考古学研究会 宇都宮 pp.1-140.
- 石部正志・秋元陽光編 1994 『上神主渡間神社古墳・多功大塚古墳』 上三川町埋蔵文化財調査報告第12集 上三川町教育委員会 (栃木県河内郡)
- 石部正志・秋元陽光編 1995 『上神主孤塚古墳』 上三川町埋蔵文化財調査報告第13集 上三川町教育委員会 (栃木県河内郡)
- 石部正志・秋元陽光・飯田光史編 1998 『後志部古墳』 上三川町埋蔵文化財調査報告第17集 上三川町教育委員会 (栃木県河内郡)
- 板橋幸彦編 2003 『西下谷田道跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第273集 栃木県教育委員会・(財) ちぎ生進学習文化財団
- 板橋幸彦編 2006 『西下谷田道跡II』 栃木県埋蔵文化財調査報告第297集 栃木県教育委員会・(財) ちぎ生進学習文化財団
- 板橋幸彦 2007 『県内の郡内視教官館について—古代下野河内郡内郡を中心として—』 『上神主・茂原宮道跡の諸問題』 栃木県考古学会 宇都宮 pp.51-64.
- 岩上照朗・石橋知明編 1978 『宇都宮市瑞穂野地田道跡』 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第4集 宇都宮市教育委員会
- 植木茂雄 2010 『西郡内西原道跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第329集 栃木県教育委員会・(財) ちぎ生進学習文化財団
- 内山敏行 1998 『宇都宮市上島岡 高尾神社古墳発掘調査報告(1)』 『栃木県埋蔵文化財調査報告年報』 20 平成8年度 (1996)
- 栃木県埋蔵文化財調査報告第217集 栃木県教育委員会 pp.117-137.
- 内山敏行 2000 『宇都宮市上島岡 高尾神社古墳発掘調査報告(2)』 『栃木県埋蔵文化財調査報告年報』 22 平成10年度 (1998)
- 栃木県埋蔵文化財調査報告第233集 栃木県教育委員会 pp.97-121.
- 内山敏行 2005 『東谷・中島地区道跡群5 立野道跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第290集 栃木県教育委員会・(財) ちぎ生進学習文化財団
- 内山敏行 2006 『東谷・中島地区道跡群7 磯岡北古墳群』 栃木県埋蔵文化財調査報告第299集 栃木県教育委員会・(財) ちぎ生進学習文化財団
- 内山敏行 2008 『東谷・中島地区道跡群9 中島笹塚古墳群・中島塚道跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第311集 栃木県教育委員会・(財) ちぎ生進学習文化財団
- 内山敏行 2010 『東谷・中島地区道跡群10 権現山道跡北部・杉村道跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第331集 栃木県教育委員会・(財) ちぎ生進学習文化財団
- 宇都宮市教育委員会社会教育課編 1983 『宇都宮の道跡』 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第10集
- 宇都宮市教育委員会文化課 1990～2009 『宇都宮市文化財年報』 第6号『平成元年年度』～第25号『平成20年度』
- 宇都宮大学考古学研究会 1995 『塚山古墳外形確認調査報告』 『考古』 第9号
- 宇都宮大学考古学研究会 2003 『塚山古墳 塚山南古墳』 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第48集 宇都宮市教育委員会
- 江原美奈子・深谷昇 2004 『島田道跡』 III 縄文時代編1 上三川町埋蔵文化財調査報告第28集 上三川町教育委員会 (栃木県河内郡)
- 江原美奈子・深谷昇 2005 『島田道跡』 IV 縄文時代編2 上三川町埋蔵文化財調査報告第31集 上三川町教育委員会 (栃木県河内郡)
- 江原美奈子・深谷昇 2006 『島田道跡』 V 縄文時代編3 上三川町埋蔵文化財調査報告第33集 上三川町教育委員会 (栃木県河内郡)
- 海老原節雄 2004 『アメリカ石工とその周辺』 『唐澤考古』 第23号 唐澤考古会 佐野 pp.1-16.
- 大川清・水野和敏・矢野淳一 1987 『栃木県上三川町 西赤坂塚古墳』 上三川町教育委員会 (栃木県河内郡)
- 大川清・三輪孝幸 2000 『向原道跡』 上三川町埋蔵文化財調査報告第22集 上三川町教育委員会 (栃木県河内郡)
- 大川清・吉岡秀範・三輪孝幸・中島雄一 1992 『栃木県上三川町 上ノ原・向原南道跡』 日本農業史研究所報告第43冊 馬淵 (栃木県那須郡)
- 大川清・吉岡秀範・三輪孝幸・中島雄一 1995 『栃木県上三川町 願山道跡』 日本農業史研究所報告第46冊 馬淵 (栃木県那須郡)
- 大和和子編 1979 『権現山北道跡』 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第5集 宇都宮市教育委員会
- 大和和子編 1992 『宇都宮市柿木坂道跡の加賀利王式土器』 『栃木県考古学会誌』 14 宇都宮 pp.93-100.
- 大和久野平 1969 『鹿宮牛塚古墳』 宇都宮市教育委員会 (1984年『牛塚古墳』として再刊)
- 大和久野平 (東京農業研究所編) 2007 『砂田建沼道跡 B区』 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第64集 宇都宮市教育委員会
- 勝一編 (埋蔵文化財調査支援機構共同編) 2005 『磯岡北道跡』 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第53集 宇都宮市教育委員会
- 亀田幸久 1999 『杉村北道跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第221集 栃木県教育委員会・(財) 栃木県文化振興事業団
- 亀田幸久 2007 『西赤坂道跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第304集 栃木県教育委員会・(財) ちぎ生進学習文化財団
- 亀田幸久 2008 『宇都宮市立野道跡の縄文草創期土器について』 『唐澤考古』 27 唐澤考古会 佐野 pp.29-32.
- 亀田幸久 2012 『東谷・中島道跡群12 西郡内西原道跡(旧石器・縄文・弥生時代編)』 栃木県埋蔵文化財調査報告第354集 栃木県教育委員会・

(財) とちぎ未来づくり財団

- 川原由典・中山晋 1981 『龜山遺跡 付久部古墳群』 栃木県埋蔵文化財調査報告第 38 集 栃木県教育委員会
- 神野安伸 1994 『天狗原遺跡』 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第 34 集 宇都宮市教育委員会
- 久保三 1990 『茂原古墳群』 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第 28 集 宇都宮市教育委員会
- 栗田芳隆編 1971 『栃木土産産物』 先史 7 朝野大学考古学研究会 東京
- 梨田依行 2005 『磯岡遺跡第 2 次調査報告』 上三川町埋蔵文化財調査報告第 32 集 上三川町教育委員会 (栃木県河内郡)
- 小森哲也 1979 『宇都宮市世界遺産出土の円筒埴輪の年代的位置づけ』 『考古』 第 2 号 宇都宮大学考古学研究会 宇都宮 pp.60-83.
- 今平利幸 1993 『牛塚東遺跡』 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第 32 集 宇都宮市教育委員会
- 今平利幸 1994 『雷電山遺跡』 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第 34 集 宇都宮市教育委員会
- 今平利幸 1996 『城南 3 丁目遺跡』 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第 39 集 宇都宮市教育委員会
- 今平利幸 2006 『西下谷田遺跡—弥生・古墳時代前期編—』 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第 56 集 宇都宮市教育委員会
- 今平利幸 2008 『西下谷田遺跡—古代編 II—』 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第 65 集 宇都宮市教育委員会
- 今平昌子 1999 『一本松遺跡・文珠山遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第 230 集 栃木県教育委員会・(財) 栃木県文化振興事業団
- 今平昌子 2012 『東谷・中島地区遺跡群 13 砂田遺跡 (10 区・12 区・13 区・16 区・27 区)』 栃木県埋蔵文化財調査報告第 355 集 栃木県教育委員会・(財) とちぎ未来づくり財団
- 今平利幸・梁本誠 2002 『下巻島原古墳群』 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第 30 集 宇都宮市教育委員会
- 斎藤恒夫・鈴木直孝・栃本さや・大塚伸子 2003 『宇都宮市飯塚古墳調査報告』 『考古』 第 14 号 宇都宮大学考古学研究会 宇都宮 pp.1-10.
- 定森秀夫 1999 『陶瓦土器から見た東日本と朝鮮』 『青丘学術論叢』 第 15 集 韓国文化研究振興財団 東京 pp.5-93.
- 藤原浩志編 2000 『成瀬寺遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第 239 集 栃木県教育委員会・(財) 栃木県文化振興事業団
- 藤原浩志・一鬼田幸久 2009 『権現山遺跡・東谷北浦遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第 318 集 栃木県教育委員会・(財) とちぎ生涯学習文化財団
- 清水正幸 2002 『西側部古原原遺跡』 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第 46 集 宇都宮市教育委員会
- 下野考古学研究会 1993 『石川坪遺跡』 『下野考古』 19 宇都宮
- 白崎智隆 (埋蔵文化財発掘調査支援協同組合編) 2008 『砂田原遺跡 (C 区)』 宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第 62 集 埋蔵文化財発掘調査支援協同組合・宇都宮市教育委員会
- 白崎智隆 (埋蔵文化財発掘調査支援協同組合編) 2010 『西側部原原遺跡 (E 区)』 宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第 76 集 埋蔵文化財発掘調査支援協同組合・宇都宮市教育委員会
- 鈴木剛編 2001 『大田古遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第 251 集 栃木県教育委員会・(財) とちぎ生涯学習文化財団
- 村本正博 1991 『栃木「史上」研究の課題』 『古代』 第 91 号 早稲田大学考古学会 東京 pp.133-171.
- 芹澤清八 1993 『砂田 A 遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第 132 集 栃木県教育委員会
- 芹澤清八 2003 『大田北遺跡出土尖頭器の再評価』 『栃木考古学会誌』 24 栃木考古学会 宇都宮 pp.5-20.
- 高野浩志・戸部孝一・深谷昇・平岡和夫 2004 『磯岡遺跡』 上三川町埋蔵文化財調査報告第 29 集 宇都宮市基礎整備公団・上三川町教育委員会・山武考古学研究所
- 田代 寛 1968 『林木遺跡の袋状土壇』 塩谷郷土史館研究報告第 2 集 氏家 (栃木県塩谷郡)
- 田代己巳 1996 『宮の内 A 遺跡・宮の内 B 遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第 175 集 栃木県教育委員会・(財) 栃木県文化振興事業団
- 塚原孝一編 1999 『東谷・中島地区遺跡群 No.1 磯岡遺跡 (I 区)』 栃木県埋蔵文化財調査報告第 229 集 栃木県教育委員会・(財) 栃木県文化振興事業団
- 常川秀夫・山野井清人 1978 『龜山 A 遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第 24 集 (原本では第 20 集と記載) 栃木県教育委員会
- 津野 仁 2005 『東谷・中島地区遺跡群 6 磯岡遺跡 (2~7 区)』 栃木県埋蔵文化財調査報告第 292 集 栃木県教育委員会・(財) とちぎ生涯学習文化財団
- 津野 仁・藤原浩志・今平昌子 2007 『東谷・中島地区遺跡群 8 砂田遺跡 (4~6・18・19・23・24 区)』 栃木県埋蔵文化財調査報告第 305 集 栃木県教育委員会・(財) とちぎ生涯学習文化財団
- 寺内武夫・藤崎善之助 1939a 『下野中原遺跡調査概報—第一回—』 『考古』 10-10 東京考古学会 pp.514-527.
- 寺内武夫・藤崎善之助 1939b 『下野中原遺跡調査概報—第二回—』 『考古』 10-11 東京考古学会 pp.537-555.
- 栃木県教育委員会事務局文化課 1988 『栃木県埋蔵文化財保護行政年報 (昭和 62 年度)』 栃木県埋蔵文化財調査報告第 99 集 栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1997 『埋蔵文化財センター年報』 第 7 号 (平成 9 年度)
- 栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999 『埋蔵文化財センター年報』 第 9 号 (平成 11 年度)
- 栃木県立なす川上記の丘資料館 1999 『栃木の道跡』 第 7 回企画展図録 小川 (栃木県那須郡) p.45
- とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2000 『埋蔵文化財センター年報』 第 10 号 (平成 12 年度版)
- とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2001 『埋蔵文化財センター年報』 第 11 号 (平成 13 年度版)
- とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2002 『埋蔵文化財センター年報』 第 12 号 (平成 14 年度版)
- とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2003 『埋蔵文化財センター年報』 第 13 号 (平成 15 年度版)
- とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2004 『埋蔵文化財センター年報』 第 14 号 (平成 16 年度版)
- とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2005a 『埋蔵文化財センター年報』 第 15 号 (平成 17 年度版)
- とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2005b 『中島原遺跡跡と磯岡遺跡』 『栃木県埋蔵文化財センター—だより やまかいどう』 No.39 栃木県教育委員会 p.5
- とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2006a 『埋蔵文化財センター年報』 第 16 号 (平成 18 年度版)
- とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2006b 『砂田純沼遺跡 3 区』 『栃木県埋蔵文化財センター—だより やまかいどう』 No.41 栃木県教育委員会 p.5
- とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2007 『埋蔵文化財センター年報』 第 17 号 (平成 19 年度版)
- 富川 努 2004 『本村遺跡 (弥生・古墳編)』 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第 49 集 宇都宮市教育委員会
- 中村孝史 2004 『東谷・中島地区遺跡群 4 牛塚古墳群』 栃木県埋蔵文化財調査報告第 283 集 栃木県教育委員会・(財) とちぎ生涯学習文化財団
- 中山 晋 1996 『砂田東遺跡・上横田 A 遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第 176 集 栃木県教育委員会・(財) 栃木県文化振興事業団

- 中山哲也・井 博幸・三輪孝幸(日本窯業史研究所編)2005『西赤堀塚古墳第2次調査報告』上三川町埋蔵文化財調査報告第30集 上三川町教育委員会
- 中山哲也・青木健二・倉田有子(日本窯業史研究所編)2005『砂田道跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第54集 宇都宮市教育委員会
名取昭昭・武藤健三・五十嵐利勝 1994『宇都宮市二軒屋遺跡第二次調査報告』『下野考古学』21 下野考古学研究会 宇都宮 pp.1-146
- 名取昭昭・武藤健三・五十嵐利勝 1996『雀宮周辺の分布調査 6』『下野考古学』24 下野考古学研究会 宇都宮 pp.1-60
- 名取昭昭・武藤健三・五十嵐利勝 1998『雀宮周辺の分布調査 補足編』『下野考古学』26 宇都宮
- 橋本照朗・谷中隆 2001『東谷古墳群』と権現山道跡・百日鬼道跡。『権現山道跡・百日鬼道跡』橋本県埋蔵文化財調査報告第257集 橋本県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 橋本照朗 2002『大谷酒屋伝説の歴史的背景について』『研究紀要』10 (財)とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター pp.1-20
- 上生朗治・越智徹・富川努 2008『中島塚遺跡 (A区)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第63集 山武考古学研究所・宇都宮市教育委員会 ※ 西側部西原道跡 (C区・D区) を含む
- 上生朗治・宮田和男・越智徹・大塚塚之(山武考古学研究所編)2007a『西側部西原道跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第59集 宇都宮市教育委員会 ※ 西側部西原道跡A区
- 上生朗治・宮田和男・越智徹・大塚塚之(山武考古学研究所編)2007b『砂田道跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第60集 宇都宮市教育委員会
- 深谷賢・梁木誠・田無彦彦 2003『上神主・茂原宮新道跡』上三川町埋蔵文化財調査報告第27集・宇都宮市埋蔵文化財調査報告第47集 上三川町教育委員会・宇都宮市教育委員会
- 藤田直也・田代隆 2002『東谷・中島地区道跡群 2 砂田道跡 (1区・2区・3区)』橋本県埋蔵文化財調査報告第265集 橋本県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 藤田直也 2003『東谷・中島地区道跡群 3 樺定東山道跡地区』橋本県埋蔵文化財調査報告第274集 橋本県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 藤田直也 2011『東谷・中島地区道跡群 11 砂田道跡 (1区・2区・3区)・砂田道跡 (1区・2区・3区)』橋本県埋蔵文化財調査報告第337集 橋本県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 藤田典夫・安藤美保編 2000『杉村・磯間・磯間北』橋本県埋蔵文化財調査報告第241集 橋本県教育委員会・(財)橋本県文化振興事業団
- 前澤輝政 1976『西赤堀道跡』上三川町教育委員会
- 前澤輝政 1979『原始・古代編』上三川町史編さん委員会編『上三川町史』資料編 原始・古代・中世 上三川町
- 増田清子・梁島佐知子 1985『宇都宮市茂原町愛宕塚東道跡採集の発生土器』『考古』第5号 宇都宮大学考古学研究会 pp.15-21
- 水野順敏・河野一也・栗田欣行(日本窯業史研究所編)2005『立野道跡 (A地区)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第55集 宇都宮市教育委員会
- 水野順敏・柏崎広伸・井 博幸・三辻利一・三輪孝幸(日本窯業史研究所編)2007『本村古墳群・本村道跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第58集 宇都宮市教育委員会
- 水野順敏・柏崎広伸(日本窯業史研究所編)2008a『砂田道跡 (D区)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第67集 宇都宮市教育委員会
- 水野順敏・柏崎広伸 2008b『みずほの台道跡群 (根本西台古墳群第2次・瑞穂野田地道跡東地区)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第68集 宇都宮市教育委員会
- 水野順敏・柏崎広伸 2008c『みずほの台道跡群 II (根本西台古墳群第3次・西側部上原道跡)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第69集 宇都宮市教育委員会
- 森嶋秀一 2004『204 上三川町・宇都宮市上神主・茂原宮新道跡出土の大型尖頭器』『Aesculus』No.22 Aesculus同人(橋本県石器時代研究会) 宇都宮 pp.1-3
- 安永真一 2001『上神主・茂原 茂原向原 北原東』橋本県埋蔵文化財調査報告第256集 橋本県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 谷中隆・大島美智子編 2001『権現山道跡・百日鬼道跡』橋本県埋蔵文化財調査報告第257集 橋本県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 梁木誠 1984『鶴舞古墳』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第13集 宇都宮市教育委員会
- 梁木誠・今平利幸 1995『久部愛宕塚古墳・谷江山古墳・御蔵山古墳』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第37集 宇都宮市教育委員会
- 山崎芳家 1970『宇都宮市兵庫塚A地点・B地点および針ヶ谷道跡について』『足跡』2 宇都宮学園高等学校地理・歴史研究会 宇都宮 pp.22-26
- 渡辺邦夫・上野修一 1993『宇都宮市石川坪道跡出土の石製品』『Aesculus』19 Aesculus同人 宇都宮 pp.15-16

第3章 発見された遺構と遺物

第1節 調査の概要

調査区と遺構

西刑部西原遺跡は東谷・中島土地区画整理事業地内の北東部に位置し、岡本・磯岡台地の西側縁辺上にあたる。小河川を挟んだ西側の中島笹塚遺跡は田原・成願寺台地東側縁辺部となる。遺跡の標高は南端部で85.0 m前後、北端部で87.5 m前後と遺跡内の傾斜は2/1,000～3/1,000程度の非常に緩やかな傾斜となっている。また西側の低地に緩やかに傾斜しているが、居住域は概ね平坦面に立地していると言える。

西刑部西原遺跡のうち、東谷・中島土地区画整理事業地内（以下センターU R調査区と仮称）は13の調査区に分け調査を実施した。ここでは、前述した琴平塚古墳群と道路遺構（推定東山道）以外にも、既に調査報告がなされている、宇都宮市教委調査区域と、県道拡幅に伴い埋蔵文化財センターで調査した区域の状況を若干補足してみたい。

宇都宮市教委調査A・B区

調査年度 平成18（2006）年度 **原因** 民間開発（山品商事株式会社） **面積** 1,000㎡ **概要** センターU R調査区の9・10区南西部に近接。古墳時代中期から～平安時代の竪穴建物跡12軒のほか掘立柱建物跡2棟、土坑・小ピット・溝等を調査。注目される遺物としては平安時代の住居跡から鋸が出土している。古墳時代以前の遺構・遺物は確認できなかった。

宇都宮市教委調査C・D区

調査年度 平成19（2007）年度 **原因** 民間開発（福田屋百貨店） **面積** 1,700㎡ **概要** 古墳時代後期から奈良・平安時代の竪穴建物跡8軒、土坑8基、小ピット17基、溝11条などを調査。センターU R調査区の4区北西部に近接する。限られた調査範囲であったが、C区から住居跡が集中して確認され、遺構密度が希薄と考えられていた遺跡西部においてその居住域を確認することができた。古墳時代以前の遺構・遺物は確認できなかった。

宇都宮市教委調査E区

調査年度 平成21（2009）年度 **原因** 民間開発（有限会社日環） **面積** 4,400㎡ **概要** 古墳時代後期から～平安時代の竪穴建物跡17軒、掘立柱建物跡19棟、柵列1列、円形周溝遺構6基、円形有段遺構1基、土坑・溝・小穴多数が出土した。E区はセンターU R調査区の3区と境を接しており、ここは最も集落の密集する区域となっている。遺構数のピークは7世紀中葉～後葉と、9世紀中葉～後葉の2時期に亘り、竪穴住居跡と掘立柱建物跡を伴った遺構群が集中することが判明した。古墳時代以前の遺構・遺物は、縄文時代の土坑3基と、中期の土器片及び石鏃がそれぞれ1点出土した。

県土整備部調査区

調査年度 平成21（2009）年度 **原因** 県道二宮宇都宮線（通称砂田街道）改良工事に伴う調査 **調査面積** 925㎡ **概要** センターUR調査区の9・10・13区と県道を挟み近接する。狭小な調査範囲であったが、古墳時代前期～平安時代の竪穴建物跡20軒、掘立柱建物跡1棟、円形周溝遺構2基、井戸2本、土坑32基を確認した。4世紀末の住居跡が4軒あり、本遺跡において初めて前期の遺構を確認した。また9世紀中葉の住居跡から径が復元可能な2個体分の製塩土器が出土した。古墳時代以前の遺構は確認できず、僅かに縄文時代早期と中期の土器片が出土したのみである。

第2節 標準土層

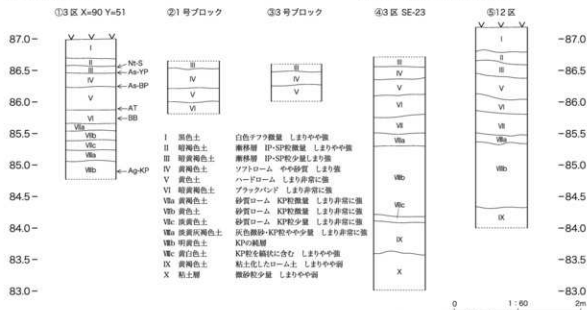
標準土層は、遺構・遺物が比較的集中する3区を中心計5カ所について第9・10図に示した。

遺跡は南北または南西方向に対して非常に緩やかに傾斜している。標準土層の採取地点は古墳時代から平安時代の集落密集地と一致しており、概ね平坦面となっている。各地区の層位を比較した結果、埋没谷などの現地形と異なるような状況は確認できなかった。①は3区旧石器ブロック西側を深掘りしたもの。④は3区北部の井戸断割り時に採取、①とほぼ同一の堆積状況を確認できた。②・③は3区旧石器ブロック中の標準土層であり、Ⅳ層からⅤ層中にかけて、石器類および礫群の出土が確認されている。⑤は12区中央東壁際で採取。その結果、3区と較べ若干標高が高いが、基本的な層序に変化は見られないことが判明した。

各層位を補足すると、Ⅰ層：層厚30～40cm程度、本遺跡で確認される主な白色テフラは浅間C軽石(As-C:3世紀後半あるいは3世紀末)、榛名二ヶ岳渋川テフラ(Hr-FA:6世紀初頭)、浅間Bテフラ(As-B:1108年)の3種類が確認されている。Ⅱ層：層厚15cm前後の漸移層である。Ⅲ層：層厚10～20cmで、男体七本椀テフラ(Nt-S)が検出される。上面は遺構確認面となっている。Ⅳ層：上面から浅間板黄褐色テフラ(As-YP)、下層から浅間褐色板砂テフラ(As-BP)が確認された。旧石器出土層位である。Ⅴ層：層厚20～35cm、上面～中位にかけて旧石器が出土。Ⅵ層：ブラックバンド。Ⅴ層とⅥ層の境に始良Tn火山灰(AT)が確認される。Ⅶa～Ⅶc層：鹿沼軽石粒(Ag-KP)を微量含む砂質ローム。Ⅶa層：層厚15～20cm、灰色微砂粒・KP粒を含む。Ⅶb層：KPの純層。層厚約1m。Ⅶc層：層厚約10cm。Ⅷ層：層厚50cm。Ⅷ層：粘土層。層厚60cm以上。



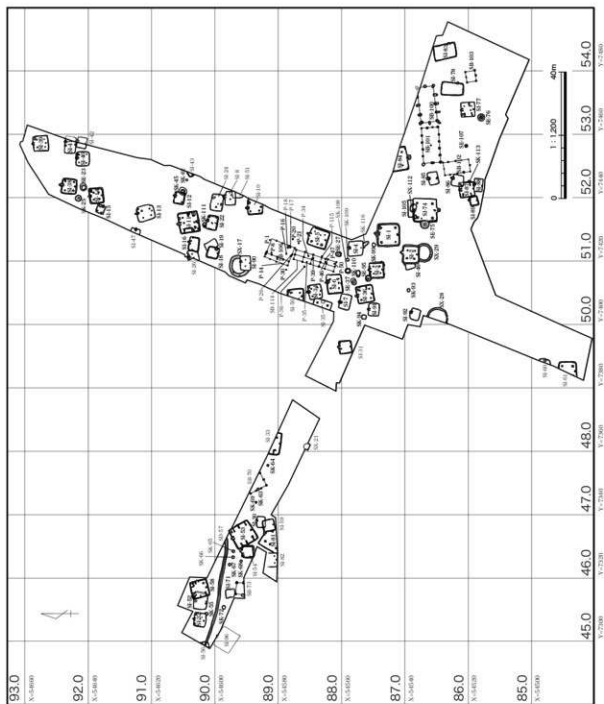
第9図 標準土層採取地点



第10図 西刑部西原遺跡標準土層図 (S=1/60)

第3節 3区の遺構と遺物

本調査区では古墳時代後期から平安時代の竪穴建物跡 63 棟、掘立柱建物跡 8 棟、円形周溝遺構 3 基、性格不明遺構 2 基、井戸 7 本、溝 1 条、円形有段遺構 1 基、土坑 20 基、ピット 18 基が確認された。本遺跡内で遺構・遺物とも最大規模の調査区である。

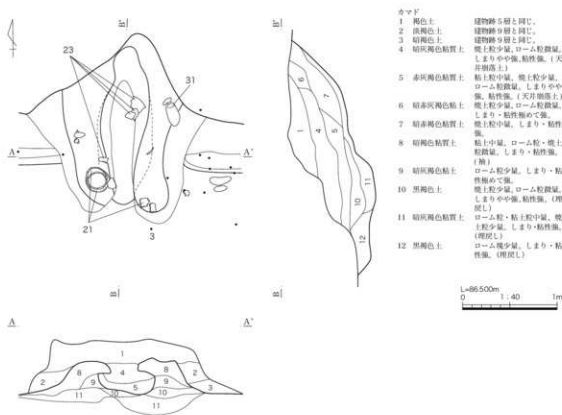


第11図 西刑部西原遺跡3区 全体図 (1/1,200)

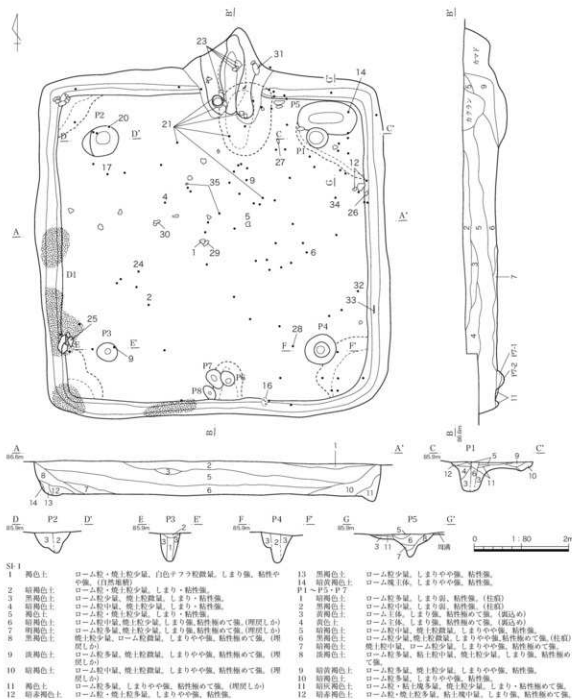
1. 竪穴建物跡

3区 SI-1 (遺構：第12・13図、遺物：第14～16図、図版二・七八・一一二・一一三・一一六)

位置 グリッド 87.0-51.0・87.0-51.5 重複遺構 無し。平面形 隅丸方形 規模 東西 7.31×南北 7.18 m 主軸方向 N-1°-W 覆土 褐色土または暗褐色土主体の計14層に分層。14～12層は壁前落土、11～6層は人為的埋戻し、5～1層は自然堆積と考えられる。壁 壁高は確認面から34～73 cm残る。床 地山のローム層を床面とする。硬化部分は確認できなかった。柱穴 主柱穴は計4本確認された。P1 (径44～33 cm、深さ62 cm)、P2 (径76～56 cm、深さ42 cm)、P3 (径42～38 cm、深さ62 cm)、P4 (径64～63 cm、深さ57 cm)。入口ピット 南壁際中央部のP6～8は入口ピットと考えられるが、覆土・切り合いは不明である。P6 (径35～26 cm、深さ16 cm)、P7 (径43～29 cm、深さ13 cm)、P8 (径33～21 cm、深さ19 cm)。貯蔵穴 P5 (長軸133～短軸54 cm、深さ15 cm)は東西軸の楕円形を呈し、北西コーナーに位置する。壁溝 D1 (幅25～48 cm、深さ5～11 cm)はカマドを除く壁際を全周する。掘方 四隅を掘り下げローム土で埋戻している。カマド 北壁際中央部に位置する。壁をV字状に掘り込んでおり、煙道は約50°の角度で直線的に立ち上がる。袖は暗褐色及び灰褐色粘土で構築されており、右袖からは倒立した長胴甕(22)が確認された。焚口部から燃焼部は暗灰褐色土及び黒色土で埋戻し、火床面としている。

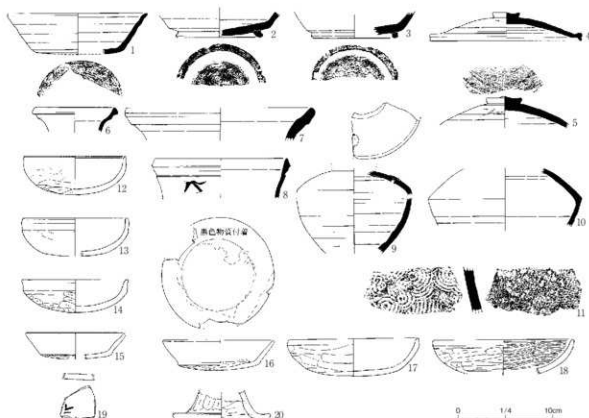


第12図 西刑部西原遺跡3区 SI-1実測図(1)



第13図 西刑部西原遺跡3区 SI-1実測図(2)

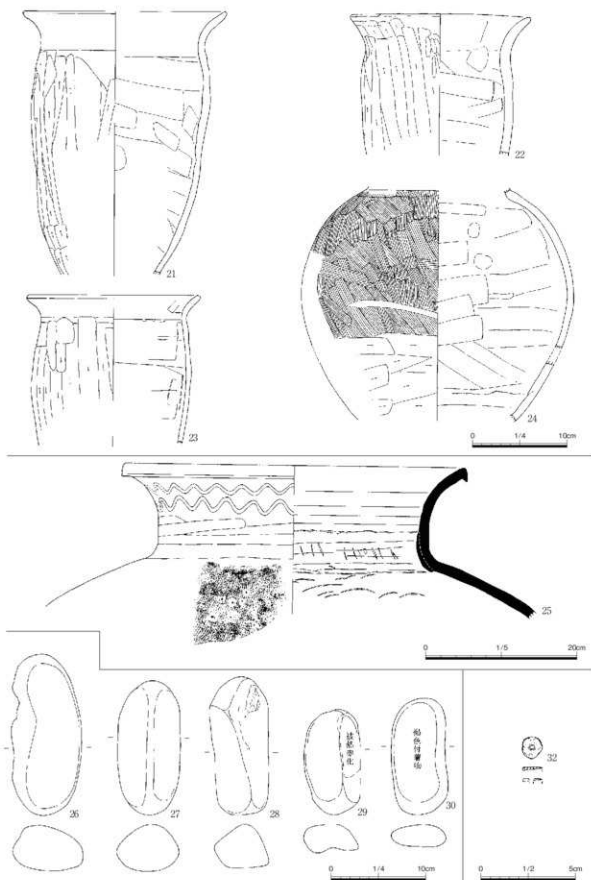
遺物 計35点を図示した。須臾器類は甕・杯・高台付杯の他に瓶類がある。大型の須臾器甕(25)は太い一本描きの沈線による粗大な波状文がみられ、頸部内面に帯状の補強を施している。8は大型の須臾器平瓶と考えられる。9は肩部に孔を穿いた痕跡を残す長頸瓶。東海産か。鉄製品は懸籠式の鉄鏝(33)と手鎌(34)がある。また、1点のみだが、椀形鍛冶滓の破片(35)が出土している。遺物から奈良時代(8世紀中葉)の建物跡と考えたい。土師器類が主体をなす不掲載遺物は小コンテナ1.3箱、礫は約6.5kgが出土した。図示していないが、白色針状物が混入する土師器甕胴部破片が少量見られた。



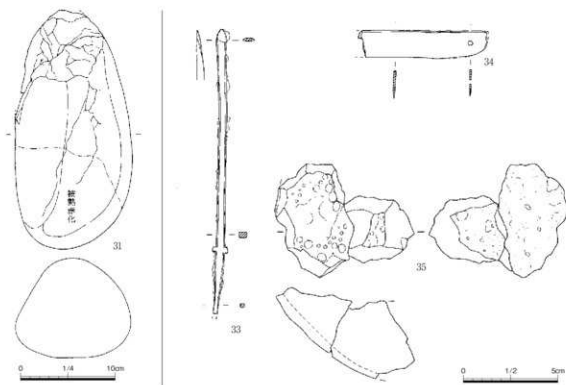
第14図 西刑部西原遺跡3区 SI-1出土遺物(1)

第3表 3区 SI-1 出土遺物観察表

複製番号	器種	法厚(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・層土(cm)	現存
1	須恵器 杯	口(14.6) 高 4.3	内外面ロクロナテ。底部外面回転ヘラケズリのちナデ。2次底部面をもつ。	内: 10YR6/4 にぶい黄緑 2.5Y/3 にぶい黄 外: 2.5Y7/3 浅黄 10YR7/4 にぶい黄橙	縹赤、白細砂、動転状の 縹(縹白か) 焼成: 中々硬質	No 94 35.9	口縁部～底 部 1/3
2	須恵器 高台付 杯	底(9.0) 高 [2.7]	底部外面回転ヘラケズリのち高台彫付。	内: N5.0 灰 外: (底部高台内) 7.5Y6/1 灰 (底部～高台) 10Y6/1 オリー ブ灰	縹赤、白細砂、黒砂、縹 焼成: 硬質	No 11 28.6	底部 1/2、 体部一部
3	須恵器 高台付 杯	高 [2.8]	内外面ロクロナテ。底部外面回転ヘラケズリのち高台 彫付。	内: 2.5Y7/1 灰白 外: 5Y7/1 灰白	中々硬質、白細砂、灰砂、 白・灰縹 焼成: 中々硬質	No 50 58.7	底部 1/2、 体部一部
4	須恵器 蓋	口 [15.8] 高 3.0 Yr1 2.8	内外面ロクロナテ。天井部外面回転ヘラケズリのちツ マミ彫付。	内外面とも 10YR7/1～6 灰白、にぶい黄橙、明黄 橙	中々硬質、黒縹、白灰砂、 赤色粒、白灰細砂 焼成: 中々硬質	No 12 37.9	天井部～口 縁部 1/5
5	須恵器 蓋	口 [12.6] 高 [3.3] Yr1 3.8	天井部外面回転ヘラケズリのちツマミ彫付け。天井部 外面ヘラ記号あり。	内: 10YR6/3 にぶい黄緑 外: 2.5Y7/3 浅黄 2.5Y4/4 黄橙	中々硬質、白細砂、灰砂、 赤色粒 焼成: 中々硬質	No 101 36.0	天井部～体 部 1/4
6	須恵器 長頸瓶	口(8.2) 高 [2.6]	内外面ロクロナテ。内外面に自然輪付着。輪のかなり 少ない場所に残ったもののみ。	内外面とも 7.5Y6/1 灰	縹赤、白細砂、白縹 焼成: 硬質	No 37 7.9	口縁部 1/4
7	須恵器 蓋	口 [19.4] 高 [3.5]	内外面ロクロナテ。外面に薄く黒色の自然輪が付着。	内外面とも 5Y6/1 灰	縹赤、白・灰細砂、白砂 焼成: 硬質	覆土中	口縁部 1/6
8	須恵器 平皿	口 [13.8] 高 [4.5]	内外面ロクロナテ。口縁部直下に筆書か(文字不明)。 口縁部外面に自然輪付着。	内: 5Y6/1 灰 外: 7.5Y7/1 灰白	縹赤、白細砂、黒砂 焼成: 硬質	覆土中	口縁部 2/5
9	須恵器 飯甕	口 [8.2) 高 [12.0]	胴部外面下部回転ヘラケズリ。胴部内面ロクロナテ 縹。肩部には、外面から孔を穿ったのち粘土で塞いだ 短脚あり。空気抜き穴と考えれば「風船技法」による 成形が想定される。肩部に緑黄色の自然輪、東海産か。	内: 2.5Y7/1 灰白 外: 2.5Y6/1 黄灰	縹赤、白細砂、黒砂 焼成: 硬質	No 3・48 50.7	胴部破片
10	須恵器 飯甕	高 [6.1]	内外面ロクロナテ。自然輪付着。肩は碧瑠璃玉粒に準拠 な輪をもつ。	内: 2.5Y7/2 灰黄 外: 5Y7/1 灰白 2.5Y5/2 黄灰黄	縹赤、白・灰細砂 焼成: 硬質	覆土中	肩部 1/8
11	須恵器 甕	高 [4.0]	内面同心円状であて具痕。外面は平行明きが重なるた め格子目状に見える。	内: 7.5Y5/1 灰 外: N3.0 暗灰	中々硬質、白・灰細砂、白 赤縹 焼成: 中々硬質	覆土中	胴部破片



第15図 西刑部西原遺跡3区 SI-1出土遺物(2)



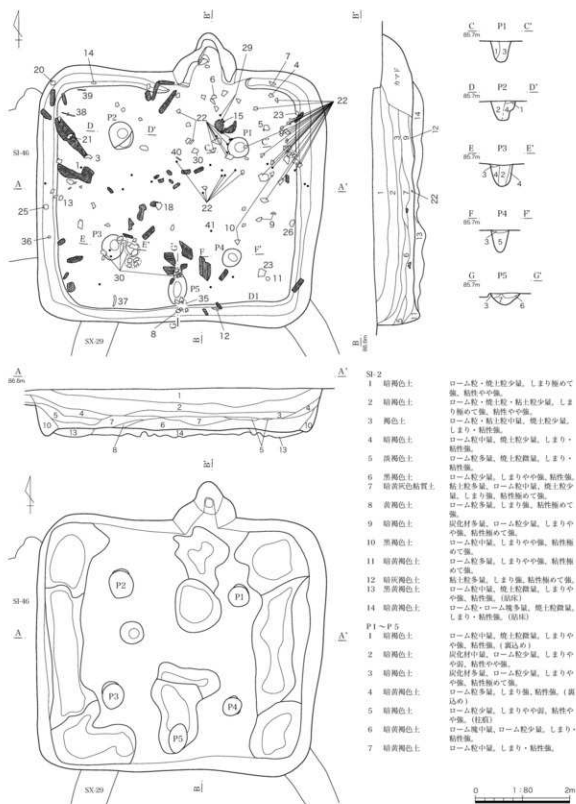
第16図 西刑部西原遺跡3区 SI-1出土遺物(3)

12	土師器 土坏	口 10.5 高 4.0	体部内面上へ口縁部外面ヨコナデ。体部外面上平ナデ、下平部ヘラケズリ。内面黒色処理。口縁部内面に沈積あり。腹内産出器の模倣体か。	内：2.5Y2/1 黒 外：10YR5/3 に近い黄褐色	中・中微密。白磁砂。赤色粒 焼成：中・中微密	№118・125 4.3 (№118)	口縁部一体 部1/2
13	土師器 土坏	口 (10.9) 高 3.9	内面ヨコナデ。体部外面調整不明(一部にヘラケズリの痕跡あり)。口縁部外面磨仕上げ。	内：2.5Y2/1 黒 外：2.5YR5/6 明赤褐色	中・中粗い。白磁砂。灰砂。赤色粒 焼成：中・中微密	覆土中	口縁部一体 部2/5
14	土師器 土坏	口 11.0 高 3.5	体部内面へ口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。口縁部内外面磨仕上げ。	内：10YR6/2 灰黄褐色 外：10YR6/3 に近い黄褐色	中・中微密。白・黒・透明細砂。赤色粒少量 焼成：中・中微密	№143 貯蔵穴	完存
15	土師器 土坏	口 (10.3) 高 [2.8]	内面へ口縁部外面ヨコナデのち磨仕上げ。体部外面ヘラケズリ。	内外面とも 10YR7/3 に近い黄褐色	中・中微密。白磁砂 焼成：中・中微密	P5 29.8	口縁部 1/2、底部 1/4
16	土師器 土坏	口 11.4 高 3.3	体部内面へ口縁部外面ヨコナデ。体部外面手持ちヘラケズリ。内面(主に口縁部)には黒色物付着(油煙または漆か)。有明目に転用されたものか。	内：10YR5/2 灰黄褐色 外：7.5YR5/3 に近い黄褐色	中・中微密。白磁砂。赤色粒 焼成：中・中微密	№25 16.3	口縁部 4/5、底部 完存
17	土師器 土坏	口 13.6 高 3.9	体部内面へ口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内面へ口縁部外面磨仕上げ。内面の漆は剥がれてしまったものか。	内外面とも 5YR7/6 橙	中・中微密。赤色粒 焼成：中・中微密	№14。覆 土上面 38.7	口縁部 2/3、底部 完存
18	土師器 土坏	口 (14.6) 高 [3.6]	内面ヨコナデのちヘラヒギナデ。口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。	内：7.5YR6/6 橙 外：10YR3/2 黒褐色 7.5YR6/6 橙	中・中微密。白磁砂。赤色粒 焼成：硬質	覆土中	口縁部1/3
19	土師器 土坏	—	底部外面の黒色物は厚漬か。磨滅が顕著で解説不能。	内外面とも 10YR7/4 に近い黄褐色	中・中微密。灰磁砂 焼成：中・中微密	覆土中	底部破片
20	土師器 高坏	底 10.2 高环 [20.3]	脚部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ及びヘラナデ。内面ヘラナデまたはナデ。漆が大きく剥がれつき。	内外面とも 7.5YR4/4 橙	中・中微密。赤色粒。白砂。白磁砂 焼成：中・中微密	№55 2.2	高台部1/2
21	土師器 土坏	口 20.9 高 [29.1]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナデのちヒビナデ、下位ヘラケズリ。	内：10YR5/4 に近い黄褐色 外：10YR7/6 明黄褐色	中・中粗い。白・黒・灰磁砂。黒砂。赤色粒 焼成：中・中微密	№20・64・ 102・131・ 132・135。 子丁 床組 (№64)	口縁部一帯 胴部1/2完存。 胴下部 1/3
22	土師器 土坏	口 (18.7) 高 [15.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。口縁部外面ヘラナデのち胴部へ胴部ヘラケズリのち胴部に短いタテヘラナデ。外面の一部は焼熟し紅色に変色。	内：10YR5/2 灰黄褐色 外：2.5YR5/6 明赤褐色	中・中粗い。白・黒・灰磁砂。黒砂。赤色粒 焼成：中・中微密	№133 7.8	口縁部 1/2、胴部 土上完存
23	土師器 土坏	口 17.6 高 [16.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。非常に薄手で丁寧なつくり。	内：7.5YR6/4 に近い黄褐色 外：7.5YR5/4 に近い黄褐色	中・中粗い。白磁砂。灰・黒砂。赤色粒 焼成：中・中微密	№130・134 12.0 (№ 130)	口縁部 4/5、胴部 土上4/5
24	土師器 土坏	高 [24.6]	縁部のハケ漆。胴部内面上部ヘラナデ及び強造押止。下縁部ナデ。胴部外面上平ヘラケ。胴部外面下平ヘラケズリ。	内外面とも 5YR5/4 に近い黄褐色	中・中微密。白磁砂。黒。赤色粒 焼成：中・中微密	№19・80 床瓦 (№ 80)	胴部1/5

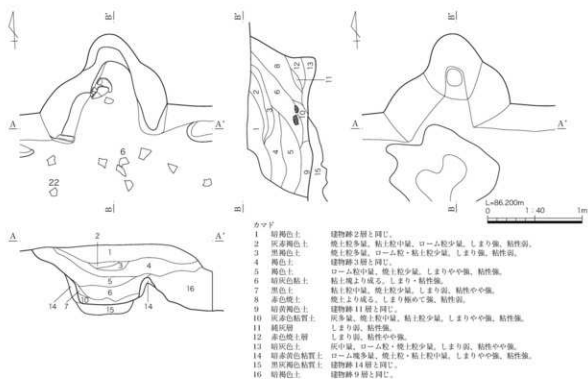
25	須恵器 口高	(44.6) [17.5]	口縁部外面磨面状況(2条)。須恵器外面横位のナシ。須恵器内面口ケノナシのち編法の粘土帶貼付。側部外面平ら引き。側部内面不明瞭な無文である。須恵器内外面褐色の付着。側部外面時灰し黄色く発色。	内:5Y6/1灰 5Y5/1灰 外:5Y7/2灰白	磨面。白磁砂、白磁 焼成;焼貫	№79 48.2	口縁部1/2
26	石器 編物石	長18.9 幅7.4 厚4.8 重[746.7]	未加工の砥石。 平面形:右側縁に挟まれる楕円形 断面形:不整な楕円形	10YR6/4に近い黄橙	-	№116 床直	部欠
27	石器 編物石	長14 幅6.5 厚3.0 重676.5	未加工の自然砥石。 平面形:楕円形 断面形:不整な鋭角三角形	7.5Y6/1灰	-	№76 床直	完存
28	石器 編物石	長14.6 幅5.7 厚4.6 重583.1	未加工の自然砥石。 平面形:杖状 断面形:楕丸の不整形	7.5Y6/2灰オリーブ	-	№40 床直	完存
29	石器 編物石	長11.1 幅5.8 厚3.0 重311.1	未加工の自然砥石。右側面に僅かに赤みあり。焼熱したものか。 平面形:やや不整な楕円形 断面形:不整な楕円形	2.5Y6/2灰黄	-	№95 24.3	部分欠損
30	石器 編物石	長12.3 幅5.7 厚2.3 重299.2	未加工の自然砥石。表面に褐色の付着物。若干光沢あり。 平面形:楕円形 断面形:扁平な楕円形	5Y7/1灰白	-	№90 50.5	完存
31	石器 編物石	長26.9 幅12.1 厚10.5 重859.6	全面的に著しく焼熱しており、上端部は破損。3片の破片が接合。カマド焼製材か。 平面形:不整な楕円形 断面形:鋭角三角形	10R4/3赤褐	-	K141 (カマド内) 8.6	先端部 1/10程度 欠損
32	石製 雑品 白玉	径1.0~1.1 厚[0.2] 孔0.2 重[0.2]	平面形は鋭角三角形。切羽同様の形状を残す。 断面は僅かに丸みをもち、側面研削は鋭く、裏面は大きく割欠損したものか。	N4/0灰	粘取岩	№51 40.0	部分欠損
33	鉄製 鉄鏝	長[15.0] 重[9.8]	鋸歯式の長柄鏝。鏝身断面は片方で最大幅5.5mm。両側断面は長方形。鍍銀。草下端部を欠損。	一	鉄製	№83 5.5	部分欠損
34	鉄製 手鏝	長[6.8] 重[5.6]	端部的一方を欠損。孔は径2.2mmの円形。鏝身は薄く断面平直。端部は丸みをもち。	一	鉄製	№108 3.4	部分欠損
35	鉄片	長[5.0] 幅[6.3] 厚[3.9] 重[124.1]	極細鋼片。鏝身で重傷あり。鋼片の一部を除いて、その他は全て硬面(硬面は7面)。上端中央部に茶褐色の錆化部あり。裏面に気孔の多い部分が付着。下面は灰色の磨削が4.0~5.0mmの厚さで行着。	表:サビ色 5YR4/4に 近い赤褐 サビ黒7.5Y4/1灰 裏:サビ黒 5Y5/1灰	硬面度:6	№81/99 39.8 (№99)	部分欠損

3区SI-2 (遺構:第17・18園、遺物:第19~21園、図版二・七八・七九・一一二・一一四・一一五)

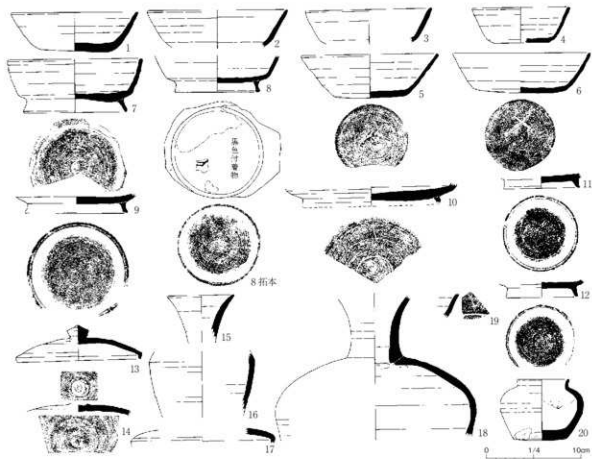
位置 グリッド 86.5-50.5・86.5-51.0・87.0-50.5・87.0-51.0 重複遺構 SI-46、SX-29より新しい。平面形 隅丸方形 規模 東西5.99×南北5.44m 主軸方向 N-3°-E 覆土 12層に分層、ローム粒子を多く含む暗褐色土・黄褐色土主体で、いずれもしまりが強い。このうち床面直上の9層は炭化材を多量に含むが、焼土の混入は殆ど見られない。自然堆積と考えられる。壁高 確認面から46~90cm残る。壁面は概ね直線的に立ち上がる。床 概ね平坦だが、ほぼ全面が貼床。硬化部分は確認できなかった。柱穴 主柱穴はP1(径43~43cm、深さ38cm)、P2(径57~50cm、深さ40cm)、P3(径50~45cm、深さ35cm)、P4(径43~36cm、深さ46cm)の計4本確認。この内P1~P3は柱痕が残る。入口ピット 南壁際中央部にP5(径59~39cm、深さ22cm)あり。貯蔵穴 未確認。壁溝 D1(幅20~30cm、深さ5~14cm)はカマド両脇を除き壁際を全周するが、全体的に浅く不明瞭。掘方 全体的に浅く小さな凹凸あり。四隅の掘り込みは10~22cm、及び入口ピット北部の掘り込みは20cm。カマド 北壁中央部に位置する。煙道は壁際を凸字状に掘り込んでおり、底面から垂直に立ち上がった後くの字に曲がる。袖部の残りは悪く、少量の構架材(黄褐色粘土)が残るのみである。6層は天井崩落土か。遺物は覆土中から土師器製破片が少量出土した。遺物 計41点を図示した。須恵器は坏と高台付坏が多い。紡錘車(鉄製・石製)の出土が目立つ。7の底部外面には赤色の顔料(朱燻か?)が付着する。8底面の墨書は褐色付着物のため解読不明。9・11・12の高台付坏底部破片は、破面を打ち欠いて整えた痕跡があり、他用途に転用された可能性がある。6の高台付坏底部外面、14の須恵器蓋内面、19の須恵器坯部外面にはヘラ記号が見られる。20は小型の短頸壺で内面に黒色付着物あり。23はロクロ成形の大型鉢で被熱顕著。25・26は内外面にヘラ



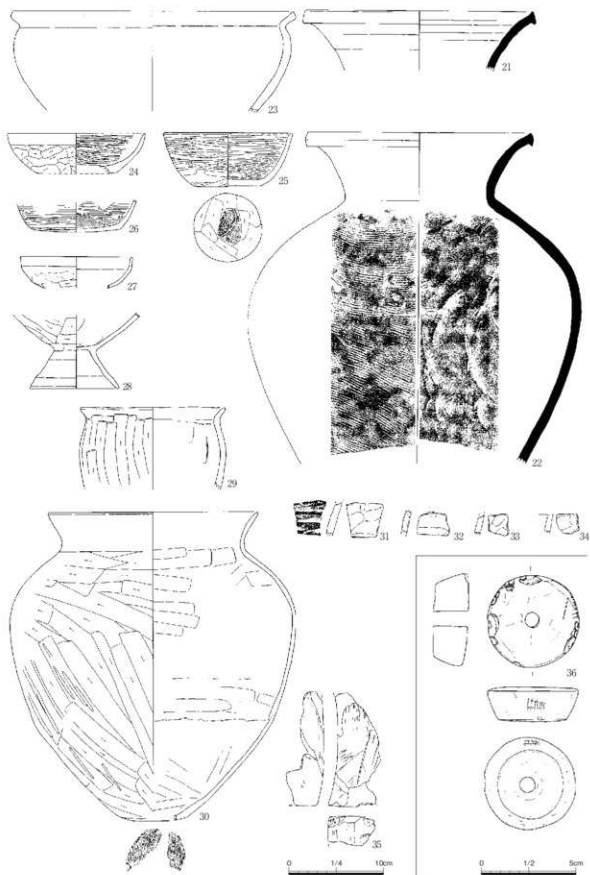
第17図 西刑部西原遺跡3区 SI-2実測図(1)



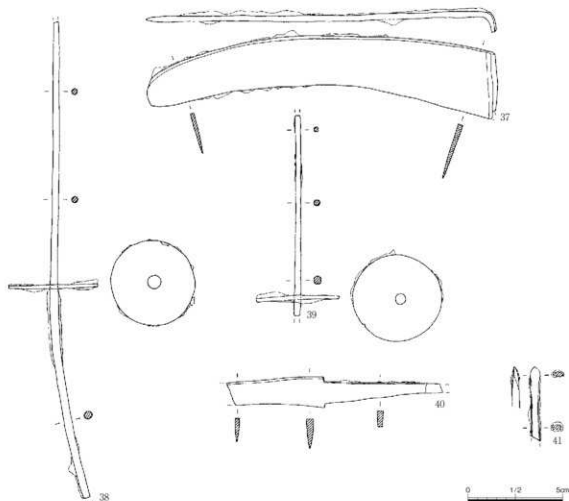
第18図 西刑部西原遺跡3区 SI-2実測図(2)



第19図 西刑部西原遺跡3区 SI-2出土遺物(1)



第20図 西刑部西原遺跡3区 SI-2出土遺物(2)



第21図 西刑部西原遺跡3区 SI-2出土遺物(3)

ミガキを施すロクロ成形の土師器片。27は北武蔵系の土師器片。30はやや異形の武蔵型甕。31～34は白色針状物が混入する土師器片。31は甕、32～34は製塩土器である。36は石製紡錘車で側面に梯子状の線刻あり。鉄製品は鎌・紡錘車・鉄織・刀子などがある。38・39は鉄製紡錘車。38は軸の両端部を欠損するが残存長は25.4cmある。39は一方の軸を大きく欠失している。この他不掲載遺物は在地の土師器甕のほか少量の常総型甕や武蔵型甕、須恵器環、須恵器甕などがあるが、礫を除き床面直上の遺物は少ない。不掲載遺物の総量は小コンテナ6箱程度である。遺物から8世紀後葉の建物跡と考えたい。

第4表 3区 SI-2出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・出土(cm)	残存
1	須恵器環	口 13.1 底 7.0 高 4.2	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。	内外面とも5Y6/2灰オリーブ	織布、灰・白細砂、灰・白砂 焼成：硬質	№96 27.3	1/3、底部2/3
2	須恵器環	口 14.5 高 [3.9]	内外面ロクロナデ。	内外面とも7.5Y6/1灰	織布、白細砂、黒砂、赤色粒 焼成：硬質	覆土中	1/3部～底部2/3
3	須恵器環	口 13.1 高 [3.5]	内外面ロクロナデ。体部内面下部が斜面するため、高台付環の可能性あり。	内外面とも5Y6/1灰	やや織布、白・灰・黒細砂～砂 焼成：硬質	№22 22.0	1/3部～底部4/5

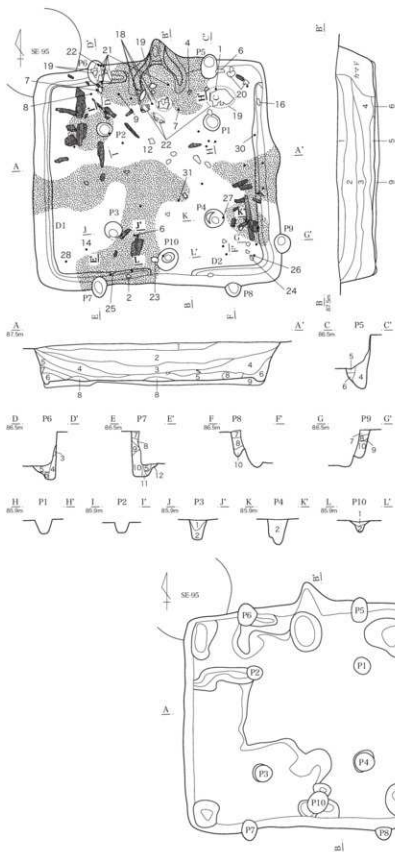
第3章 発見された遺構と遺物

4	環状部	口 (10.2) 底 3.7	内外面口クロナテ。回転へら切りか。口縁部外面に自然動着、伏せて巻かれた跡か。	内外面とも N5/0 灰	磁器、灰・白磁砂、白色粒 焼成：中々硬質	No 40 86.4	口縁部 1/6、底部 1/2
5	環状部	口 (14.2) 底 7.4 高 4.5	内外面口クロナテ。底部外面回転へら切りのちナテ。	内：2.5Y7/3 浅黄 外：2.5Y7/4 黄灰	中々硬質、白・灰・黒磁砂、白磁、赤色粒 焼成：中々硬質	No 45 75.8	口縁部 2/5、底部 9/10
6	環状部	口 (14.4) 底 7.4 高 4.2	内外面口クロナテ。底部外面回転へら切りのちへら記号あり。2底底部を有する環。	内外面とも 2.5Y7/3 浅黄	中々硬質、白・黒磁砂、赤色粒 焼成：中々硬質	No 124、カ 19.8	口縁部 1/2、底部 完存
7	環状部	口 14.0 底 (10.7) 高 5.6	底部外面へら切りのち高台付付。底部外面に赤色付着物あるが、研磨痕はないためパレット風にも使用したの。赤色物は高台の剥離面にも付着、高台部分のほど割れから読み込んだものか。または高台が割れたのち使った可能性もあり。	内：7.5Y5/1 灰 外：7.5Y4/1 灰	中々硬質、白・黒磁砂、白磁 焼成：硬質	No 68、カ マド 39.9	口縁部 2/2、高台 3/4、高台 1/8
8	環状部	底 8.6 高 [3.8]	内外面口クロナテ。底部外面回転へら切りのち外側へラケズリのち高台付付。底部外面に若干の研磨痕あり。底部外面に溝あり。断面には硬質後酸化物が付着しており文字は不明。	内外面とも 5Y7/2 灰	磁器、黒・灰磁砂、灰粒 焼成：硬質	No 11 15.0	底部1/8、 底部完存
9	環状部	底 10.5 高 [2.0]	底部外面回転へら切りのち高台付付。底部外面に赤色付着物あるが研磨の痕跡はないため、パレット風にも使用か。定位置で安定させるため底部を打ち直して調整したらしい。	内外面とも 7.5YR5/3 に 近い	磁器、灰・白磁砂、灰・白砂 焼成：中々硬質	No 17・20 20.5 (No 17)	底部完存、 高台一部欠 損
10	環状部	底 (14.2) 高 [3.8]	口クロナテ。底部外面回転へら切りのち内側回転へラケズリのち高台付付。底部外面へら記号あり。	内外面とも 5Y6/1 灰	中々硬質、黒・白・灰磁砂、黒・白砂 焼成：中々硬質	No 14・77 40.7 (No 14)	底部2/5
11	環状部	底 8.0 高 [1.6]	口クロナテ。底部外面回転へら切りのち高台付付。底部外面中心部付着に若干の研磨痕あり。	内外面とも N5/0 灰	磁器、白・灰・黒磁砂、白砂、白磁 焼成：硬質	No 126 16.3	
12	環状部	底 7.4 高 [1.8]	底部外面へラケズリのち高台付付。底部外面は研磨。底部外面 1/2 ほどの範囲に黒色付着物 (部) あり。底部内面の黒色付着物は磁面にも見られるため、硬質後、2次的に熟した際のヌスの可能性もある。	内：7.5Y3/1 オリーブ黒 外：7.5Y4/1 灰	中々硬質、白磁砂、白磁 焼成：硬質	No 17 20.5	底部3/4
13	環状部	口 13.0 底 3.7 高 2.2	内外面口クロナテ。大月外面回転へラケズリのちツマミ取付けのちナテ。ツマミ宝珠状。	内：5Y6/1 灰 外：5Y7/2 灰白	磁器、白・灰・黒磁砂・白砂 焼成：中々硬質	No 7 21.6	口縁部 1/2
14	環状部	高 [1.4]	内外面口クロナテ。大月外面回転へラケズリのちツマミ取付けのちナテ。大月部内面へら記号あり。	内：5Y5/1 灰 外：N5/0 灰	磁器、灰・白磁砂、白砂 焼成：硬質	No 26 43.5	大月部 3/4
15	環状部	口 (6.8) 高 [5.0]	外に若干の黒色の口縁部付着。内外面口ロ住付け。外側に黒色の自然動着付着。	内：10YR5/1 期灰 外：2.5Y4/1 灰	磁器、白・黒磁砂、白砂 焼成：硬質	No 98 26.8	口縁部 1/2
16	環状部	口 (11.1) 高 [11.1]	内外面口クロナテ。肩の強りは中々弱い。	内：2.5Y3/2 黒黄 外：5Y5/1 灰	磁器、白・灰・黒磁砂、黒砂 焼成：硬質	甌土中、地 味直 上下 1/4	
17	環状部	口 (1.7) 高 [15.1]	内外面口クロナテ。肩部に自然動。肩の強りが強い。	内：2.5Y6/2 浅黄 外：2.5Y7/1 灰白	中々硬質、白・黒磁砂、白磁 焼成：硬質	甌土中 1/6	
18	環状部	口 21.0 高 [15.0]	内外面口ロ住上げ。頸部内面及び肩部には自然動が付着する。	内外面とも 2.5Y7/1 灰白	磁器、灰・白・黒磁砂、黒砂 焼成：硬質	No 9 22.4	頸部 1/4
19	環状部	口 23.8 高 [2.6]	内外面へら記号あり。内外面口クロナテ。底部外面下半部に沈積状の口ロ目。	内：10Y5/1 灰 外：N5/0 灰	中々硬質、白磁砂、白磁 焼成：硬質	甌土中 1/6	
20	環状部	口 5.4 底 8.8 高 6.5	口クロナテ。頸部外面下半部回転へラケズリのちナテ。頸部外面下半部手持ちへラケズリ。口縁部～肩部 1/2 に梨地状の付着物。漆の可能性あり。内面薄い黒色付着物あり。頸部内面付着物あり。口縁部～肩部にかけ開いた際が見られる。	内外面とも 5YR/1 灰白	磁器、灰・白磁砂、白砂、白磁 焼成：硬質	No 25 12.0	完存
21	環状部	口 (23.8) 高 [6.3]	内外面口クロナテ。口縁部に黄色の粒。頸部に蹄蹄状の自然動付着。	内：5Y6/1 灰 外：5Y5/1 灰	磁器、白・灰磁砂、白・灰砂 焼成：硬質	No 23 28.0	口縁部 1/3
22	環状部	口 23.5 底 35.3 高 [35.0]	口縁部～頸部外面口クロナテ。頸部外面平打。頸部内面無文で共に (うすうす) と木口状の圧痕残存。頸部一部に蹄蹄状の自然動付着。	内：10YR6/1 期灰 外：2.5Y6/1 黄灰	磁器、白・灰・黒磁砂、黒砂 焼成：硬質	No 30・40 110・40 11・20 94・99 81・94 90・93 88・97・100 81・93 (No 30 40)	口縁部 5/12、頸部 2/3
23	土師器	口 (29.4) 大 10.4	頸部から口縁部にかけての字に外反し。口縁部に平皿面をもつ。内外面口クロナテ。焼熱により全体的に焼熱化しており、一部外面に黒灰あり。口縁部内面の一部に黒色付着物 (炭化物) あり。	内：7.5YR7/6 橙 外：5YR6/6 橙	中々硬質、白・灰・黒磁砂、白砂 焼成：中々硬質	No 12・42、 22.2 (No 12)	口縁部～側 部上 1/4
24	土師器	口 14.3 底 8.8 高 [4.2]	口縁部内面口クロナテ。体部内面口コヘウミガキ。底部外面滑潤面のち磁化のへラケズリ。底部外面多量にへラケズリ。底面は平磁。径は復元したが、赤みが大きく遺存度は低い。	内外面とも 10YR7/3 に 近い黄橙	中々硬質、灰・白・黒磁砂、黒砂 焼成：中々硬質	甌土中 1/6	
25	土師器	口 13.3 底 7.0 高 5.7	内面ミガキのち黒色処理。口縁部～体部内面口クロナテのちへらミガキ。口縁部～体部外面口クロナテのちへらミガキ。底部外面回転へら切りのち内側多量にへラケズリ。外面のミガキは、磁化内面ミガキと較べ極度で薄。	内：7.5Y2/0 黒 外：10YR6/4 に近い黄橙	磁器、黒・白磁砂、黒・白砂 焼成：中々硬質	No 54 14.5	完存
26	土師器	底 9.0 高 [3.3]	内外面口クロナテ。内面へらミガキのち黒色処理。体部外面口コヘウミガキ。体部外面下半部手持ちへラケズリ。底部外面多量にへラケズリ。	内：2.5Y2/1 黒 外：7.5YR5/6 明黄	中々硬質、白色・灰磁砂、黒砂、赤色粒 焼成：中々硬質	No 19 11.0	底部1/2、 底部1/2

27	土師器 坪	口 [11.5] 高 [3.2]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面上位 指痕押止。下位ヘラケズリ。器厚は極めて薄い(2.5 ～3.5mm)。北武蔵系の坏と考えられる。	内外面とも 7.5YR6/6 橙 黄	やや織密。灰砂 焼成；やや軟質	覆土中	口縁部 1/4
28	土師器 台付甕	底 9.0 高 (7.0) 底面径 [8.0]	胴部外面ヨコナデ。胴部内面ヨコナデ。底部外面ナデ。 底部内面ヘラツナツのちナデか。胴部内面。底部外面に スス付着。	内：5YR6/6 橙 外：5YR5/8 明赤黄	やや粗い。白・灰黒細砂、 白砂 焼成；やや軟質	覆土中	底部完存
29	土師器 甕	口 14.9 高 [8.9]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面 ヘラケズリ。破損したのち著しく焼熟した破片が数点 確認される。	内：7.5YR6/3 に近い黄 外：7.5YR6/6 橙	やや織密。灰・黒・白細 砂。赤色粒、白色粒 焼成；やや軟質	№96・97 28.8 (№ 97)	口縁部 2/3、胴上 半2/5
30	土師器 甕	径 (29.9) 高 32.4	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面下部ナデ。上半部 ヘラナデ。胴部外面上平ナメまたはココヘラケズリ。 下半部はナメヘラケズリのちヘラミが主。底部外面 ヘラケツのちヒラ面あり。器底の器底や中や特殊な彫形 の武蔵型。内面の制作坯土が不明。	内：5YR4/6 赤黄 外：5YR5/6 明赤黄	やや織密。白・灰黒細砂。白・ 黒・赤・灰 焼成；やや軟質	№56・57 58・59・ 60・119 3.5 (№ 59)	口縁部～胴 部 1/3、胴 部 1/4
31	土師器 製塩土 器か	高 [3.5]	内面ヘラナデ(条痕に近い甲殻的な彫形)。外面ナデ・ 指痕押止。焼熟の指痕跡どなし。	内外面とも 10YR7/6 明 黄	やや織密。白・灰黒細砂。 灰砂。赤色粒。少量白色 針状物 焼成；やや軟質	覆土中	胴部破片
32	土師器 製塩土 器	高 [2.3]	内面ナデ。指痕押止あり。外面ナデ。接合痕残る。焼 成度は低い。	内：7.5YR6/4 に近い黄 外：7.5YR7/6 橙	やや粗い。黒・白・灰黒 細砂。白砂。赤色粒。白色 針状物 焼成；やや軟質	覆土中	胴部破片
33	土師器 製塩土 器	高 [2.0]	内面ナデ。外面ナデ及び指痕押止。破片上部は接合部 より折断。焼熟による変色が顕著。断面はピンク色。 内面は部分的に灰白色を呈する。	内：2.5YR6/6 橙 外：2.5YR8/6 橙	やや織密。白・灰黒細砂。白・ 黒砂。白色針状物 焼成；やや軟質	覆土中	胴部破片
34	土師器 製塩土 器	高 [2.0]	内面ナデ。外面ナデ。指痕押止。口縁部端部はヘラケ ツにより面取りされ、甲面を有する。著しく焼熟 している。	内：5YR6/6 橙 外：7.5YR7/6 橙	やや織密。白・黒・灰黒 細砂。赤色粒。白色針状物 焼成；やや軟質	覆土中	口縁部破片
35	石製品 砥石	長 [12.0] 幅 [4.6] 厚 [3.1] 重 [157.8]	長軸方向2面に縦面が認められる。正面の磨面は深く 粗いものが多い。左側面は殆ど磨面が確認できない。	2.5Y5/3 黄緑	層状岩質	№62 6.0	残 1/4
36	石製品 紡錘車	径 4.8 幅 4.8 厚 1.8 重 58.0	全面が人変に研削されており、僅かに指痕が残るが、 風化のため光沢はない。側面には小さな棒状の線刻 あり。載面円錐形を呈する。	2.5Y6/3 に近い黄	粘板岩	№53 17.7	完存
37	鉄製品 鎌	長 18.5 幅 3.4 重 [57.1]	内に緩やかな丸みをもつ曲刀鎌。基部をL字形に曲げ る。歯厚は1cm弱。刃部断面は平直。鎌は角鎌で、 最大幅は3.0cm。	—	鉄製	№61 8.0	ほぼ完存
38	鉄製品 紡錘車	長 [25.2] 幅 4.5 重 [30.4]	紡錘径4.5cm。厚さ約2.5cm。紡錘車中心部に径約7 mmの円形孔あり。残存軸長25.4cm。軸の断面形はほぼ 円形。軸径は2.7～4.2mmと下側が太い。	—	鉄製	№66 7.0	部分欠損
39	鉄製品 紡錘車	長 [10.6] 幅 4.6 重 [23.6]	紡錘径4.6cm。厚さ2.5cm。孔径5.0～6.0mmで中心 から僅かに外れる。残存軸長10.6cm。軸断面形は丸丸 方形だが上部は方形に近い。軸径2.8～3.8mmと紡錘 車付辺が最も太い。	—	鉄製	№65 7.0	部分欠損
40	鉄製品 刀子	長 [11.4] 幅 1.6 重 [13.1]	両部の刀子。鎌は平直で最大幅は4.0mm。刃部は平直り。 葉の断面形は逆舟形。刃先及び基部端欠損。	—	鉄製	№32 深高	部分欠損
41	鉄製品 鉄鏝	長 [4.0] 厚 [0.4] 重 [2.6]	鋳造式の長頭鏝。葉身断面は片丸で最大幅5.0mm。頂 部断面は長方形。葉端・基部は欠損しており形状不明。	—	鉄製	№81 33.5	部分残存

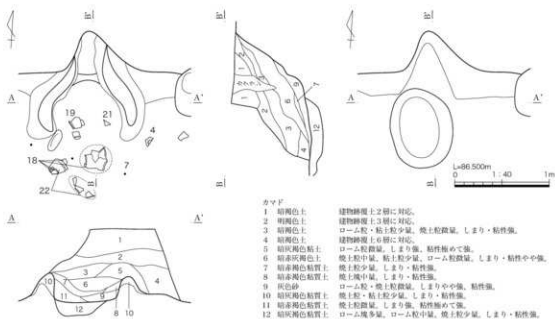
3区S-3 (遺構：第22・23図、遺物：第24・25図、図版三・七九・八〇・一一二・一一三・一一五)

位置 グリッド 87.0-50.5・87.5-50.5 重複遺構 SE-95 より新しい。平面形 隅丸方形 規模 東西 5.13
× 南北 4.80 m 主軸方向 ほぼ真北 覆土 8層に分層。下層の6～8層は焼土を多量含み、大型の炭化材
が混入する。上層は黒褐色土及び明褐色土主体、1・2層は白色テフラを多く含む。壁 壁高は67～78
cm。床 ほぼ全面が貼床。硬化面は確認できなかった。若干の凹凸あり。柱穴 P1 (径35cm、深さ31
cm)、P2 (径32～28cm、深さ22cm)、P3 (径38～32cm、深さ44cm)、P4 (径42～39cm、深さ50cm)
は主柱穴と考えられる。柱痕は確認できなかった。P5 (径51～34cm、深さ42cm)、P6 (径49～33cm、
深さ24cm)、P7 (径44～30cm、深さ22cm)、P8 (径32～29cm、確認面から50cm)、P9 (径41～35
cm、確認面から60cm) は壁柱穴と思われる。北壁のP5・P6及び南壁のP7は床面より深い。P8・P9は
壁面途中までの掘り込みである。入口ピット P10 (径46～41cm、深さ24cm) は南壁中央部に位置する。
貯蔵穴 確認できなかった。壁溝 北東コーナー及び入口ピット周辺を除く壁際に認められる。西壁際
をD1 (幅25～40cm、深さ10cm)、と東壁際をD2 (幅25～45cm、深さ6cm)とした。掘方 南西部
の掘り込みは浅く7～10cmほど、四隅に土坑状の掘り込みが見られる。カマド 北壁中央部に位置する。



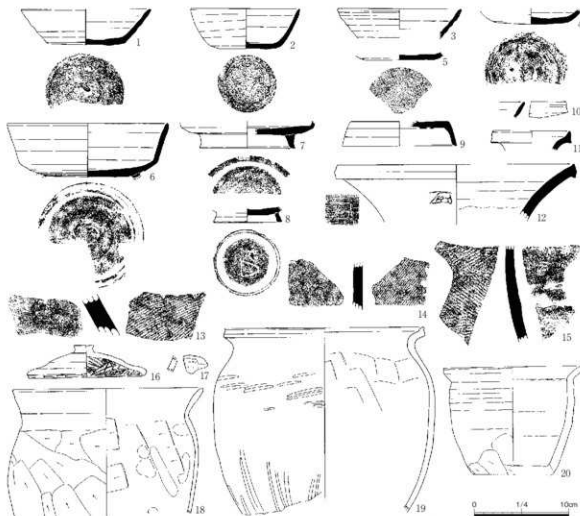
- SI-3
- 1 黒褐色土 白色アフラク少量, ローム殻・焼土粒散見。しまり・粘性極めて強。(自然堆積)
 - 2 暗褐色土 ローム粒少量, 焼土粒・白色アフラク散見。しまり強, 粘性極めて強。(自然堆積)
 - 3 明褐色土 ローム粒少量, ローム塊中量, 焼土粒散見。しまり・粘性強。(厚層しん)
 - 4 黒褐色土 ローム粒少量, 焼土粒散見。しまり強, 粘性極めて強。(厚層しん)
 - 5 明褐色土 ローム粒少量, 焼土粒中量, しまり強, 粘性極めて強。(厚層しん)
 - 6 暗褐色土 ローム粒少量, しまり中々強, 粘性極めて強。
 - 7 褐色土 ローム粒・焼土粒多量。しまり中々強, 粘性極めて強。(厚層しん)
 - 8 暗赤褐色土 ローム粒・焼土塊多量。しまり・粘性強。
 - 9 暗褐色土 ローム塊多量, ローム粒少量, しまり強。
- P3～P10
- 1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒中量。しまり中々強, 粘性極めて強。
 - 2 褐色土 ローム粒多量, しまり中々強, 粘性極めて強。
 - 3 明褐色土 ローム粒多量, ローム塊中量, 焼土粒散見。しまり・粘性強。(厚層しん)
 - 4 暗赤褐色土 ツフトローム粒多量, しまり中々強, 粘性強。
 - 5 暗褐色土 建物跡面上6層と同じ。
 - 6 暗褐色土 ローム粒・ローム塊多量, しまり中々強, 粘性強。
 - 7 暗褐色土 建物跡面上2層と同じ。
 - 8 暗褐色土 建物跡面上3層と同じ。
 - 9 暗赤褐色土 ツフトローム粒多量, しまり中々強, 粘性強。
 - 10 暗褐色土 ローム粒少量, しまり中々強, 粘性強。
 - 11 黄色土 ローム塊, しまり・粘性極めて強。
 - 12 暗赤褐色土 ローム粒多量, しまり強, 粘性極めて強。

第22図 西刑部西原遺跡3区 SI-3実測図(1)

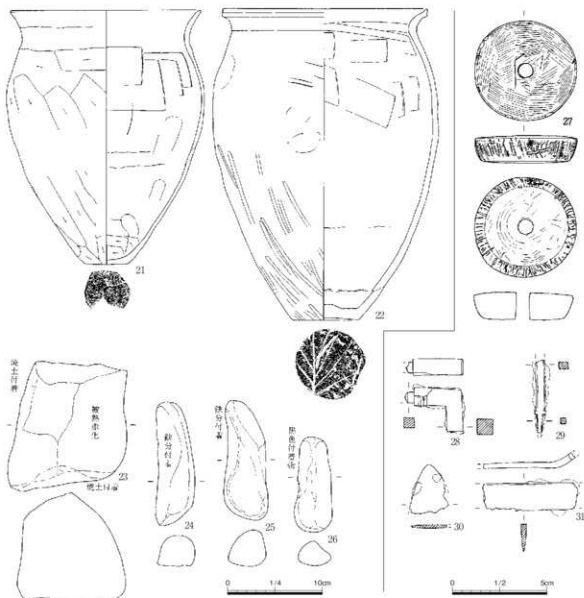


- カマド
- 1 暗褐色土 建物跡層上2層に対応。
 - 2 明褐色土 ローム殻・粘土粒少量。焼土粒散見。しまり・粘性強。
 - 3 暗褐色土 建物跡層上6層に対応。
 - 4 暗褐色土 ローム殻散見。しまり強。粘性極めて強。
 - 5 暗赤褐色土 焼土粒中量。粘土粒少量。ローム殻散見。しまり・粘性やや強。
 - 6 暗赤褐色土 焼土粒少量。しまり・粘性強。
 - 7 暗赤褐色土 焼土粒中量。しまり・粘性強。
 - 8 暗赤褐色土 焼土粒中量。しまり・粘性強。
 - 9 灰色砂 ローム殻・焼土粒散見。しまりやや強。粘性強。
 - 10 暗赤褐色粘質土 焼土粒・粘土粒少量。しまり・粘性強。
 - 11 暗赤褐色粘質土 焼土粒少量。しまり強。粘性極めて強。
 - 12 暗赤褐色粘質土 ローム塊多量。ローム殻中量。焼土粒少量。しまり・粘性強。

第23図 西刑部西原遺跡3区 SI-3実測図(2)



第24図 西刑部西原遺跡3区 SI-3出土遺物(1)



第25図 西刑部西原遺跡3区 SI-3出土遺物(2)

煙道は北壁を三角形に掘り込み、50°の角度で直線的に立ち上がる。袖は暗灰褐色粘土を主体に構築している。覆土中の焼土量は比較的小さい。使用期間が短かったためか。遺物 計31点を図示した。須恵器環・高台付環・須恵器裹のほか、内面にミガキを施した土師器蓋・裹などがある。この他石製紡錘車や、鉄製品（鉄鎌・刀子など）が出土している。8の高台付環は底部外面に台形のヘラ記号があり、一部に赤色顔料の付着が見られる。12の須恵器裹は頸部に「厨」に似た焼成前の刻書が見られる。27は扁平な滑石製の石製紡錘車。下面・側面は特に入念に研磨している。28は不明鉄製品だが、鍵の部品の可能性も考えられる。不掲載遺物の総量は小コンテナ7箱、量は4.1kgである。遺物から奈良時代前葉の建物跡と考えられる。

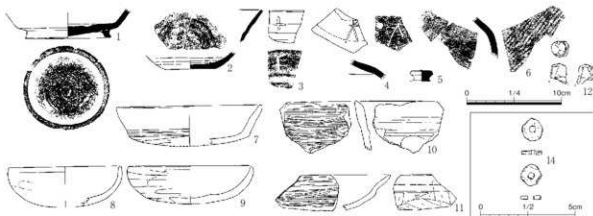
第5表 3区 Si-3出土遺物観察表

図録番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (m)	現存
1	須恵器 坪	口 (13.4) 底 8.2 高 3.9	内外面ロクロナデ。底部外面回転へろ切りのちナデ。	内外面とも 10Y5/1 灰	中・中級焼、白・灰陶砂、白・灰砂、白磁 焼成；灰質	№ 8 1.8	口縁部 1/2、底部 3/4
2	須恵器 坪	口 11.6 底 5.9 高 4.2	内外面ロクロナデ。底部外面回転率切りのち外周回転へラケズリ。2次底部面を有する。	内外面とも 7.5Y4/1 灰	中・中級焼、白色粘多量 焼成；中・中級質	№ 70 床直	口縁部 3/4、底部 完存
3	須恵器 坪	口 (12.8) 高 (3.1)	内外面ロクロナデ。クロコ口は明瞭だが、特に口縁部外面は洗滌状を呈する。	内外面とも 10BG5/1 青	中・中級焼、白色粘、白磁 焼成；灰質	覆土中	口縁部～体 部 1/4
4	須恵器 高付 坪	底 8.4 高 (1.6)	底部外面回転へラケズリ。底部外面に自然粘付着。状せで焼いたものか。	内：5Y5/1 灰 外：N4/0 灰	中・中級焼、白・白陶砂、黒・白砂 焼成；灰質	№ 79 13.6	底部 3/5
5	須恵器 坪	底 (7.1) 高 (0.8)	底部内面ロクロナデ。底部外面回転率切りのち外周回転へラケズリ。	内：7.5Y5/1 灰 外：5Y5/2 灰オリーブ	中級焼、白陶砂、黒砂 焼成；灰質	覆土中	底部 1/3
6	須恵器 高付 坪	口 17.0 高 (5.6)	底部外面回転へラケズリのち接合洗滌の高直付着。底部内面中心部は磨滅し平滑、ぐらつきを帯びたため削られた（折れた）高直の破損面を研削している。	内外面とも 10Y5/1 黄灰	中・中級焼、白・黒陶砂、白・黒磁 焼成；中・中級質	№ 68・71 床直 (№ 68)	口縁部～底 部 1/2
7	須恵器 高付 坪	底 (9.9) 高 (2.9)	内外面ロクロナデ。底部外面回転へラケズリのち接合洗滌の高直付着。	内：5Y5/1 灰 外：N5/0 灰	中・中級焼、白・白陶砂、白・黒砂、白磁 焼成；灰質	№ 23 51.4	底部 1/4
8	須恵器 高付 坪	底 7.0 高 (1.6)	底部外面に有形のへろ記号あり。底部外面には赤色物(朱)がが全体の付着。磨滅が激しいため、パレットとして使用か。底部縁部は打ち欠いて成形したと思われる。	内外面とも 10YR5/1 黄	中・中級焼、白色粘、黒砂 粘や多量、礫や星 焼成；灰質	№ 24 1.2	底部完存
9	須恵器 知照 蓋	口 (12.0) 底 (10.2) 高 (2.6)	内外面～体部下端回転へラケズリ。ツマミ欠損。体部は僅かに丸みをもち、端部は内側ぞり状を呈する。	内：5Y7/2 灰白 外：2.5Y7/2 灰黄	中級焼、灰・白・黒陶砂、灰・白砂、赤色粒 焼成；灰質	№ 17 65.1	天井部から 端部 1/4
10	須恵器 高	口 (1.8)	内外面ロクロナデ。口縁部は2重の洗滌状のクロコ口あり。新緑系土層の可能性あり。	内：7.5Y5/1 灰 外：10G5/1 緑灰	中・中級焼、白陶砂 焼成；灰質	覆土中	口縁部破片
11	須恵器 高	口 (8.0) 高 (2.1)	内外面ロクロナデ。外面に薄く自然粘付着。	内：10YR5/1 灰 外：10G5/1 赤灰	中・中級焼、白陶砂 焼成；中・中級質	覆土中	口縁部 1/4
12	須恵器 蓋	口 (24.8) 高 (5.6)	内外面ロクロナデ。底部内面中心部を中心にスベスベした部分がある。何らかの使用痕（こね鉢状の磨り）方かにより磨耗たと考えられる。内面に自然粘付着。へろ磨き「別」か。へろ磨きは焼成前のもの。	内外面とも 2.5Y5/1 黄灰	中級焼、白・白・黒陶砂 焼成；灰質	№ 59 39.0	口縁部 1/5
13	須恵器 蓋	高 (4.8) 厚 1.7	外面平行叩き。内面無文であて具痕。	内：2.5Y5/1 黄灰 外：N5/0 灰	中級焼、白陶砂、白・黒砂 焼成；灰質	覆土中	側面破片
14	須恵器 厚	高 (4.8) 厚 1.9	外面平行叩き。内面木製のあて具痕（木目がうっすらみえる）。	内：2.5YR6/2 灰黄 外：2.5Y6/1 黄灰	中級焼、灰・黒砂、灰・白砂 焼成；灰質	№ 33 67.6	側面破片
15	須恵器 蓋	高 (10.2) 厚 1.2	内面土質無文であて具痕。輪槽あり。外面平行叩き。外面自然粘付着。	内：10Y5/1 灰 外：N3/0 黄灰	中級焼、白陶砂、白磁 焼成；灰質	覆土中	側面破片
16	土師器 土鍋	口 11.9 高 3.4 底 2.1	外面天井回転へラケズリ。外面ツマミ痕付。外面端部へラミガキ。内面へラミガキのち黒色処理。	内外面とも 10YR6/4 に ぶい・黄緑	中・中級焼、白・灰・黒陶砂、 黒砂、礫 焼成；中・中級質	№ 1 床直	完存
17	土師器 蓋	高 (1.8) 口 23.0	外面へラケズリ。内面ナデ。	内外面とも 10YR4/3 に ぶい・黄緑	粗い、白・透明粗砂、透 明磁、白色粘状物 焼成；灰質	覆土中	側面破片
18	土師器 蓋	口 23.0 高 (14.5)	口縁部内外面ヨコナデ。側部外面上平傾位へラケズリのち斜位へラケズリ。側部内面へラナデ、側部閉止。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	中級焼、白・透明・黒陶砂、 白磁 焼成；中・中級質	№ 11・13・ 16 2.8 (№13)	口縁部～側 部上 5/6
19	土師器 蓋	口 (20.8) 高 (19.6)	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部つまみ上げ。側部外面上平平行叩きのちナデ。下部ナデのち縦方向のへラミガキ。内面へラナデ。	内外面とも 5YR5/6 明赤	粗い、白・透明粗砂、白・透 明磁 焼成；灰質	№ 10・22・ 49・76 床直 (№10)	口縁部 1/3
20	土師器 小型 土鍋	口 14.3 底 8.4 高 11.3	内外面ロクロ成。側部外面下部一部ロクロナデのちへラケズリ。底部外面ナデのち側面または数箇所へラミガキ。	内：7.5YR6/6 橙 外：7.5YR7/6 橙	中・中級焼、黒砂、透明・ 白磁、赤色粒 焼成；中・中級質	№ 2・5 床直	口縁部 3/4、 底部完存、 側部 3/4
21	土師器 蓋	口 (20.0) 底 4.5 高 26.7	口縁部内外面ヨコナデ。側部外面上平傾位へラケズリ。下部斜位へラケズリ。側部内面上へラナデ。中位ナデ。底部縁の粗いへラナデ。底部外面一方へラケズリ。ほぼ全面に粘土着色。（カマド構築材と考えられる。）	内：5YR4/4 にぶい・黄 外：5YR4/6 赤黄 10YR2/2 黄栗	中・中級焼、白・黒・黒陶砂 焼成；中・中級質	№ 18・19・ 21・66・67・ 78 床直 (№78)	口縁部 1/3、底部 3/4、側部 完存
22	土師器 蓋	口 21.4 底 7.0 高 32.7	口縁部内外面ヨコナデ。側部外面上下（平行）叩きのちナデ。下部縁ならミガキ。側部内面へラナデ一部ナデ。底部外面に木炭痕。	内：5Y6/6 青 外：5Y4/8 赤黄	中・中級焼、白・灰・黒砂、白・ 灰・透明粗砂、白・黄 緑 焼成；中・中級質	№ 10・12・ 15・20 床直 (№10)	口縁部完 存。底部完 存
23	石函 輪軸 石	長 (13.2) 幅 11.4 厚 (11.2) 重 (290.0)	未加工の自然礫。全面磨滅。部分的に幾士付着。	10R3/1 暗赤灰	—	№ 34 15.3	部欠
24	石函 輪軸 石	長 13.1 幅 3.9 厚 3.3 重 220.0	未加工の自然礫。幾士付着。平面形；不整な楕円形 断面形；丸三角形	10YR6/4 にぶい・黄緑	—	№ 82 9.5	完存
25	石函 輪軸 石	長 12 幅 4.0 厚 4.0 重 280.3	未加工の自然礫。幾士付着。平面形；不整な楕円形 断面形；丸三角形	2.5Y0/3 にぶい・黄	—	№ 73 床直	完存
26	石函 輪軸 石	長 10.0 幅 4.0 厚 2.55	未加工の自然礫。黒色物付着。平面形；長楕円形 断面形；丸三角形	10YR6/4 にぶい・黄緑	—	№ 80 9.5	完存

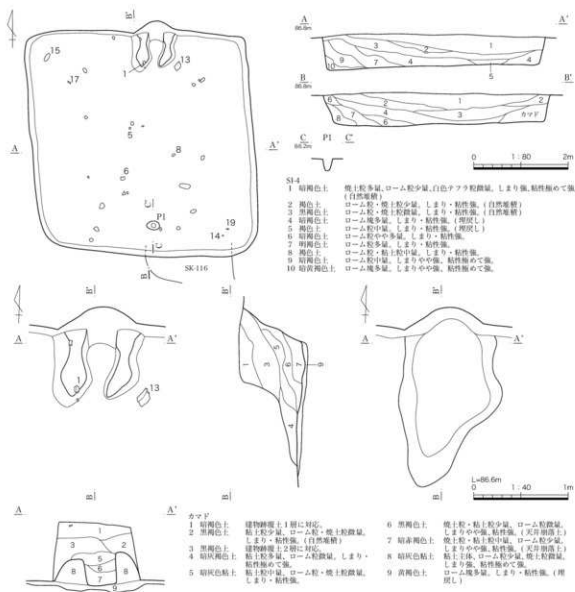
27	石製品 鉄線車	長 5.4 幅 5.3 厚 1.5 孔径(0.5-0.7) 重 77.3	上面：線状の明瞭な磨痕あり。下面：研磨されるが、線状の磨痕が僅かに残る。孔周辺に同心円状の磨痕あり。側面：水平方向の磨痕残るが、概ね下面と同様平らに研磨した後、太刀の垂直方向の浅磨痕の痕りを加える。断面台形。上面・下面は僅かにレンズ状に膨らむ。側面は僅かに弧状を示す。	7.5GY1/3暗緑灰	磨石片岩	No 75 床直	完存
28	鉄製品 鎌か	長 [3.0] 幅 2.2 重 17.6	残存部の平面形はし字形。左端は段を境に細くなり、その先を欠損。段の部分には薄い有機質を帯いた面跡あり。断面は全て角の明瞭な正方形を示す。断面は細い部分で、一辺4.0～5.0mmその他は一辺8.0～9.0mm。	-	鉄製	No 32 9.7	部分残存
29	鉄製品 鉄鏝	長 [3.9] 幅 0.5 厚 0.4 重 [3.1]	長距離と考えられる。柄と露痕の軸、葉の一部が残る。柄の断面形は長方形だが、基部は正方形を示す。葉身と葉下部を欠損。	-	鉄製	覆土中	部分残存
30	鉄製品 鉄鏝	長 [2.6] 幅 [2.0] 厚 0.2 重 [2.0]	鏝身の一部のみ残存。やや大型の鏝と考えられる。	-	鉄製	No 57 41.0	部分残存
31	鉄製品 刀子	長 5.0 幅 1.3 厚 0.2 重 8.3	刀子の破片。折れた(または折った)面跡あり。背は直線的で、平田角の最大幅は約3.0mm。刃部は平直で、切先・基部を大きく欠損する。	-	鉄製	No 28 26.0	部分残存

3区 SI-4 (遺構：第27図、遺物：第26・28図、図版三・八〇・一一二・一一五)

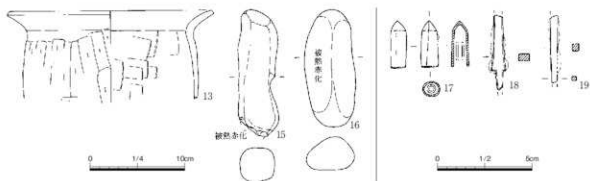
位置 グリッド87.5-51.0 重複遺構 SK-116より古い。平面形 隅丸の正方形(菱形状) 規模 東西4.67×南北4.73m 主軸方向 N-5°-W 覆土 暗褐色土及び褐色土を主体とする10層に分層。10層は壁崩落土か。4・5層は人為埋戻しの可能性あり。1層中には白色テフラを含む。浅間B軽石か。8層から3層まではローム粒や粘土粒を多く含む人為埋戻し。1・2層は自然堆積と考えられる。壁 壁高は50～70cm。東壁が若干崩れるが、遺存状況は概ね良好で直線的に立ち上がる。床 ロームの地山を床面とする。住居南西部にやや傾斜するが、概ね平坦。柱穴 確認できなかった。入口ピット 南壁際中央部にP1(径28～18cm、深さ25cm)が見られるが覆土の状況などは確認できなかった。貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。カマド 北壁中央部やや東寄りに位置する。壁の掘り込みは浅い弧状を呈し、煙道は60°で立ち上がる。床面の掘方は極めて浅いが、ローム土で埋戻した上に灰褐色粘土で袖を構築する。袖部内側には天井崩落土5・6層が厚く堆積する。遺物 計19点を図示したが、床面直上の遺物は皆無である。3・4は焼成前のヘラ記号(刻書か)が認められる。このうち「大」字状のヘラ記号はSI-5からも出土する。被熱した礫のうち16はカマド覆土中より出土。支脚の可能性あり。17は先端の尖ったキャップ状を呈する弓管形鉄製品。内部には炭化材が残る。不掲載遺物は武蔵型・常総型の囊小破片や、須恵器裏などを含み、少量の焼成粘土塊も見られる。不掲載遺物の総量は小コンテナ2箱ほど。遺物から8世紀前葉の建物跡と考えたい。



第26図 西刑部西原遺跡3区 SI-4出土遺物(1)



第27図 西刑部西原遺跡3区 SI-4実測図



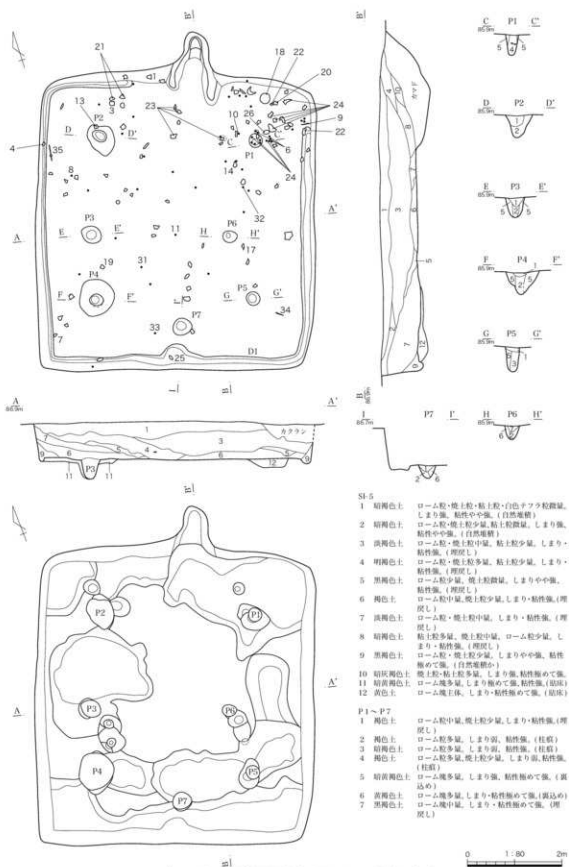
第28図 西刑部西原遺跡3区 SI-4出土遺物(2)

第6表 3区 S1-4 出土遺物観察表

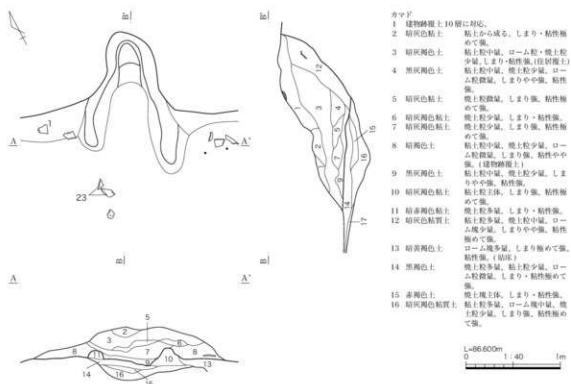
採取番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・土上 (cm)	残存
1	須恵焼高台付環	底 8.8 高 3.1	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリの高台付。高台周縁及び下部下端に磨耗。	内外面とも 7.5Y7/2 灰白	中々緻密。白・灰・黒細砂。灰・黒砂。白練焼成・破変	No. 8 39.9	底部完存、 体部一部
2	須恵焼環	底 5.0 高 1.7	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りちのちスノコ痕か。底部外面作柄跡のあて具痕あり。	内：5Y4/2 灰オリーブ 外：5Y4/1 灰白	細密。白・黒細砂 焼成・破変	甌土中	底部 1/2、 体部一部
3	須恵焼環	底 3.4	内外面ロクロナデ。体部外面下部磨耗回転ヘラケズリ。体部断面に土文字のへらひきあり。	内：10Y8/1 灰白 外：5Y6/1 灰白	細密。白・灰・黒細砂 焼成・破変	甌土中	口縁部破片
4	須恵焼蓋か	高 1.8	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリのちへらひき。	内：5Y3/2 オリーブ黒 外：10Y7/1 灰白	中々粗い。白・黒細砂 焼成・破変	甌土中	天井部破片
5	須恵焼環	高 1.1 径 2.3	ツマミ部のみ残存。ロクロナデ。	内外面とも 7.5Y8/1 灰白	細密。白・黒細砂 焼成・破変	No. 18 24.1	ツマミ部破片
6	須恵焼鏝	高 4.5	外面平打可。内面磨かろうすらしらした同心円状あて具痕。東面磨か。SI-18、SI-35-4 と同一個体の可能性大。	内：2.5Y6/3 に近い黄 外：7.5Y8/3 に近い黄	細密。白練。黒砂粒 焼成・破変	No. 5、SI31 36.5	同一個体破片
7	土師環	口 15.2 高 4.2	体部内面・口縁部外面ヨコナデ。磨上げ。体部外面ナデのちヘラケズリ。	内外面とも 10Y8/3 浅黄橙	中々緻密。黒・白・黒細砂。黒砂粒焼成・中々破変	甌土中	口縁部 1/3
8	土師環	口 11.8 高 4.2	体部内面上平・口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラナデか(割傷部跡のみ調整不明瞭)。	内：5YR6/6 橙 外：7.5YR5/3 に近い黄	中々緻密。白・透明細砂。赤色粒 焼成・中々破変	No. 8 39.9	口縁部 1/10、体部 1/5
9	土師環	口 12.8 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヨコヘラケズリ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	細密。白・黒細砂。赤色粒 焼成・破変	甌土中	口縁部一底 部 1/6
10	土師高鉢か	高 5.2	内面ヘラミガキ。黒色仕上げ。口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラナデ。体部外面タール状付着物あり(吹きこぼれた炭化物か)。胎土は黄緑と類似する。	内：10YR3/3 に近い黄緑 外：7.5YR5/3 に近い黄	中々粗い。灰・黒細砂。灰・黒・白砂。白色粒 焼成・中々破変	甌土中	口縁部破片
11	土師高杯	高 6.0	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部内面・体部内面ヘラミガキ。体部外面ヘラケズリ。	内外面とも 5YR6/6 橙	中々緻密。黒・白・黒細砂。黒砂。赤色粒。黒雲母 焼成・中々破変	甌土中	口縁部 1/2
12	土師土製品	高 2.0	ヘラナデまたはナデ。土師器蓋あるいは土師のツマミ部分か。	内外面とも 5YR7/4 に近い黄	中々緻密。黒・白・黒細砂。黒・白砂 焼成・中々破変	甌土中	ツマミ部破片
13	土師鏝	口 22.1 高 9.4	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラナデ。胴部外面縦方向ヘラケズリ。	内外面とも 7.5YR6/4 に近い黄	中々粗い。白・黒細砂。灰・黒砂。灰練 焼成・中々破変	No. 17 21.3	口縁部 1/3
14	石製模造品 白玉	径 10~12 厚 0.2 重 0.3	平面形：中々不整な円形。孔径約 3.0 mm。断面形：長方形だが、薄く割かれた可能性あり。側面研削は鋭くで粗粒。一部に切削工程の痕跡を明瞭に残す。	10Y4/1 灰	粘板岩	No. 13 62.1	ほぼ完存
15	石製輪物軸	長 13.5 幅 4.3 厚 4.1 重 324.0	下端面は強く鋭熱し破損したものか。断面形：楕円形	2.5Y6/4 に近い黄	—	No. 24 27.8	部欠
16	石製輪物軸	長 12.3 幅 5.1 厚 3.5 重 327.5	全体的に強く鋭熱。断面はほのかに赤変している。断面形：長い楕円形	10YR6/4 に近い黄橙	—	カマド	完存
17	不明鉄製品	長 2.5 径 0.8~0.9 重 2.2	キヤップ状を呈する用途不明鉄製品。板状素材を曲げて筒状にしたもの。切込みを内れ先端部を円筒状にしたものか。側面に僅かに接合痕が見られるが不明瞭。内部には炭化した竹管状の木質が残る。	—	鉄製	No. 23 28	完存
18	鉄製品 鉄鏝	長 4.0 幅 0.8 厚 0.4 重 4.4	頭部上下及び基下部を欠損。頭部の断面は長方形。柄は台形形で、表面面に段差はない。	—	鉄製	甌土中	部分残存
19	鉄製品 鉄鏝か	長 3.5 幅 0.4 重 2.1	上端部・下端部を欠損。下部に行くほど細く。断面形は正方形。鉄鏝某部と思われるが、釘の可能性もある。	—	鉄製	No. 14 59.7	部分残存

3区 S1-5 (遺構：第29・30図、遺物：第31・32図、図版三・四・八〇・八一・一一二〜一一五)

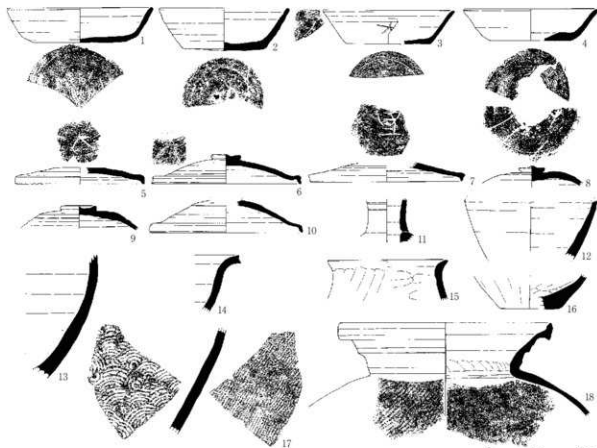
位置 グリッド 88.0-51.0・88.0-51.5・88.5-51.0 重複遺構 無し。平面形 隅丸方形 規模 東西 5.83 × 南北 6.29 m 主軸方向 N-23° - E 覆土 暗褐色土及び黒褐色土主体の 10 層からなる。主に下層 (4 層以下) は人為埋戻し、上層 (1~3 層) は自然堆積との所見あり。壁 壁は概ね直線的に立ち上がる。壁高は 57~88 cm 残存。床 若干の凹凸をもつが概ね平坦。中央部はローム地山を床面とし、外周は貼床。硬化面は確認できなかった。柱穴 P1 (径 29~28 cm、深さ 40 cm)、P2 (径 64~54 cm、深さ 46 cm)、P4 (径 82~76 cm、深さ 45 cm) P5 (径 29~29 cm、深さ 50 cm) は主柱穴か。P3 (径 44~36 cm、深さ 41 cm)、P6 (径 30~26 cm、深さ 33 cm) は主柱穴の間にあるが、間隔は不揃いである。この内 P1・P3~P5 は柱痕が残っていた。入口ヒット P7 (径 40~35 cm、深さ 27 cm) は、南壁際から 40 cm 離れる。



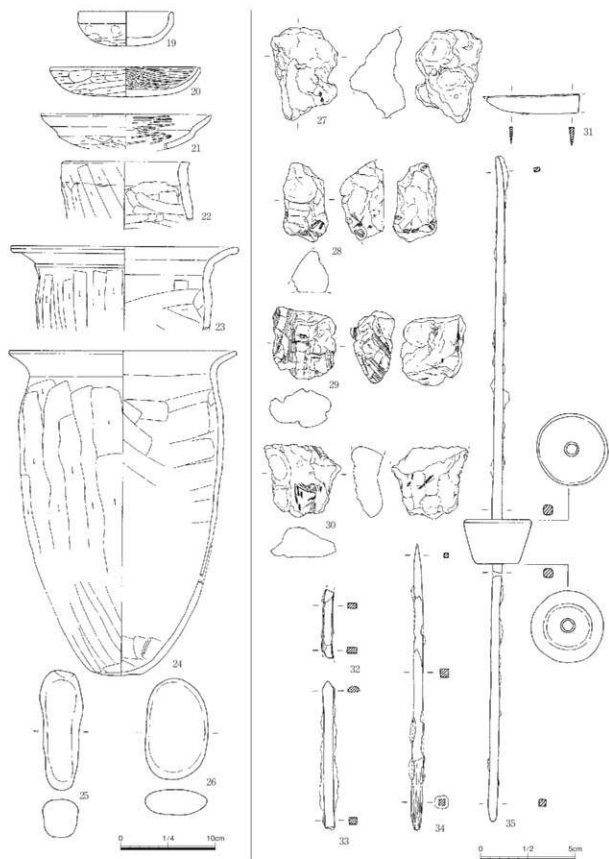
第29図 西刑部西原遺跡3区 SI-5実測図(1)



第30図 西刑部西原遺跡3区 SI-5実測図(2)



第31図 西刑部西原遺跡3区 SI-5出土遺物(1)



第32図 西刑部西原遺跡3区 SI-5出土遺物(2)

貯蔵穴 確認できなかつた。壁溝 D1 (幅 15～31 cm、深さ 10 cm) は、カマド東側から北東隅およびカマド西側の一部を除いて壁際を巡る。壁溝は南壁中央部で若干突出するが、入口ピットとの関連が想定される。掘方 中央部を掘り残し周囲は土坑状 (深さ 10～24 cm) に浅く掘り込み、ローム塊主体の 11・12 層で埋戻している。カマド 北壁中央部に位置する。煙道は壁際を U 字形に掘り込み、やや丸みをもって立ち上がる。袖部は残存不良だが、主に暗灰褐色粘土で構築される。覆土中の焼土は少ないが、14～16 層の貼床中に焼土が多く、作り直した可能性がある。遺物 計 35 点を図示した。覆土中～上層の遺物が多い。須恵器環及び蓋はヘラ記号をもつものが多い。3・5・6 のヘラ記号は「A」の字状で、SI-4 に同様の遺物が見られる。9 のヘラ描きは「里」か。18 は幅広で厚手の複合口縁をもつ凸帯装か、胴部は極めて薄い。内面の同心円状あて具痕は浅く細かい。湖西産か。34 は基部に木質が残る。錐か。35 は鉄製軸に石製紡輪が付された完形品の紡錘車。軸上端部は細く、断面は偏平に加工される。そのほか少量の焼成粘土塊が見られる。この他に掲載遺物は小コンテナ 2.5 箱で、量は 1.3 kg 出土した。図示しなかつたが、土師器装は常規型装及び下野型相形の装を少量含む。遺物から奈良時代中葉の建物跡と考えられる。

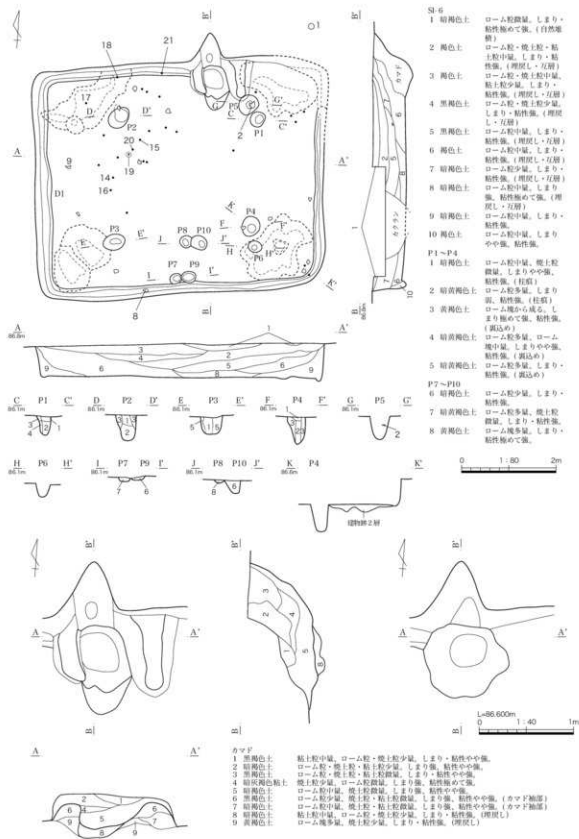
第7表 3区 SI-5 出土遺物観察表

編號 番号	器種	法量 (cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色 調	胎土・素材・焼成	出土位置・ 床土 (cm)	残 存
1	須恵器 環	口 (15.2) 底 (9.6) 高 3.6	内外面ロクロナデ。底部外面回転糸切りのち外周回転ヘラケズリ。	内外面とも 7.5Y8/1 灰白	細密。黒・白磁砂。黒・白磁砂、白磁砂 焼成：硬質	No. 34 73.3	口縁部～底部 1/6、底部 1/3
2	須恵器 環	口 (13.4) 底 8.4 高 4.5	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのち外周回転ヘラケズリ。	内外面とも 7.5Y4/1 灰	中々緻密。灰・白磁砂、灰・白・黒砂、白磁砂 焼成：中硬質	覆土中	口縁部 1/8、底部 3/5
3	須恵器 環	口 (13.8) 底 (8.7) 高 3.5	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリ。体部外面へラ記号あり「大」か。横断面に歪むため直径は参考値(最小6.5cm～最大7.4cm)の中間のφ6.9cmで復元。	内：2.5Y7/2 灰黄 外：2.5Y7/1 灰白	細密。灰磁砂。黒砂 焼成：中硬質	No. 38 7.8	口縁部 1/2、底部 1/3
4	須恵器 環	口 (14.0) 底 (8.5) 高 3.3	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリ。	内：5Y6/1 灰 外：5Y5/1 灰	細密。灰・白磁砂、白磁砂 焼成：硬質	No. 47、上 69.1	口縁部 1/10、底部 1/2
5	須恵器 蓋	口 (13.3) 高 (1.7)	内外面ロクロナデ。大開口外面回転ヘラケズリのちへラ記号「大」か。	内：7.5Y5/1 灰 外：5GY5/1 オリーブ灰	中々緻密。灰・白磁砂、黒・白磁砂、白磁砂 焼成：硬質	No. 47、上 69.1	口縁部～大 開口部 1/2
6	須恵器 蓋	口 15.6 高 3.2 φ：3.3	内外面ロクロナデ。大開口外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付け。大開口外面にヘラ記号「大」か。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：5Y6/1 灰	細密。灰・白磁砂、黒砂、白磁砂 焼成：硬質	No. 108・ 110・111 3.1 (No.111)	大開口完 成。体部～ 口縁部 1/2
7	須恵器 蓋	口 (16.0) 高 (2.0)	体部外面に焼成前のへら書きあり「里」か。内外面ロクロナデ。	内：7.5Y7/2 灰白 外：7.5Y8/1 灰白	中々緻密。黒・透明・白磁砂 焼成：硬質	No. 81 24.5	口縁部 1/8
8	須恵器 蓋	高 (2.3)	内外面ロクロナデ。大開口回転ヘラケズリのちツマミ貼付。大開口～体部にかへラ記号あり。	内外面とも N4/0 灰	細密。灰・白磁砂、白・黒砂 焼成：硬質	No. 79 36.7	底部欠損
9	須恵器 蓋	高 (2.4)	内外面ロクロナデ。大開口外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付。ツマミは厚さ1.4mmの板状を呈する。	内：5YR4/2 灰黄 外：5YR5/4 に赤い赤濁	中々粗い。白磁砂、白磁砂、白・黒砂 焼成：硬質	No. 32 22.9	大開口～体 部 2/3
10	須恵器 蓋	口 (16.0) 高 (3.4)	ロクロナデ。大開口外面回転ヘラケズリ。ツマミ欠損。	内：5Y7/2 灰白 外：2.5Y7/1 灰白	細密。灰・白磁砂、灰砂 焼成：硬質	No. 117、土量 0.9	大開口～端 部 2/5
11	須恵器 長頸瓶	高 (3.7) 頸 4.4	内外面ロクロナデ。軸の発色が半良で 1/2 程度が褐色を呈する。	内外面とも 2.5Y7/2 灰黄	細密。白磁砂。灰・黒砂 焼成：硬質	No. 70 71.6	頸部破片
12	須恵器 長頸瓶	高 (5.7) 径 (14.1)	内外面ロクロナデ。破片上端の僅かな屈曲あり。肩の径 (14.1) 張る長頸瓶と推される。	内：5Y6/2 灰オリーブ	中々緻密。白・灰・黒濁砂、白・灰・黒砂 焼成：硬質	覆土中	胴部下平 1/6
13	須恵器 鉢	高 (12.5) 厚 1.5	内外面ロクロナデ。	内：7.5Y7/1 灰白 外：5Y7/1 灰白	中々粗い。灰磁砂、白磁砂 焼成：中硬質	No. 44、ペ ルト 76.0	胴部破片
14	須恵器 鉢	高 (16.0)	内外面ロクロナデ。内面ロクロナデのち磨き。外反する1線磁器に匹みをもつ。	内外面とも 2.5Y6/1 オ リーブ灰	中々粗い。白磁砂、白磁砂 焼成：中硬質	No. 98 10.8	口縁部破片
15	須恵器 小壺	高 (6.2) 高 (4.4)	ロクロナデのち製部外面へラナデ。胴部内面ナデ。胴部外面の一部に黒色の付着物あり。炭化物か。	内：N5/0 灰 外：N7/0 灰	中々粗い。白・透明磁砂 焼成：硬質	覆土中	口縁部 1/6
16	須恵器 瓶状片	底 (6.4) 高 (3.7)	胴部外面縦位の弱いナデ。胴部内面ナデのちへラナデ。底部外面ナデ。胴部下端～底部外面にかけ灰色の自然剥付。	内外面とも 10Y5/1 灰	中々緻密。黒・白磁砂、白・黒砂、白磁砂 焼成：硬質	ペルト	底部 1/3
17	須恵器 蓋	厚 1.0	外面平打町。内面同心円状あて具痕。	内：N4/0 灰 外：N5/0 灰	粗い。白・透明磁砂、白・透明。赤色粒 焼成：硬質	No. 27 57.0	胴部破片

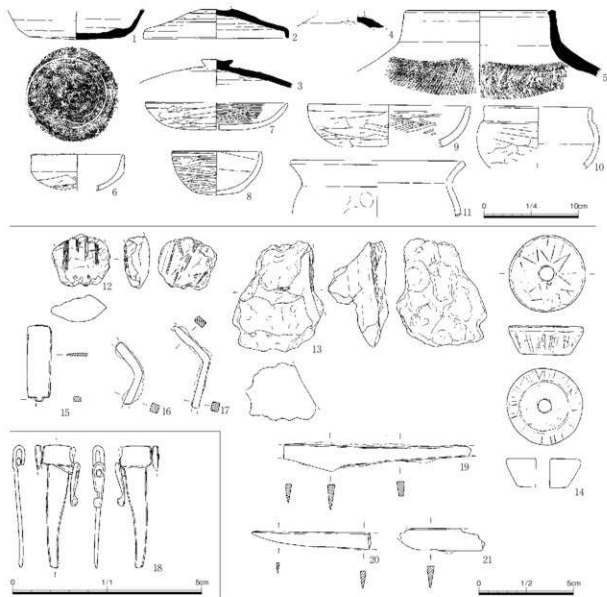
18	須恵器 費(転 用器台)	口 22.3 高 [8.4]	内外面ロクロナデ。胴部外面平行引き。胴部内面同心円状あて具痕。あて具の圧痕は浅く均一、非常に繊細で、木口を利用したものと考えられる。胴部内面に柄の圧痕がみられ、柄の長い器で器を使用したものか。この凸凹を平部にするために胴部内面には強めのナデを施す。口縁-頸部外面には付厚。東面産か。	内：2.5Y7/3 浅黄 外：10YR5/4 に近い黄褐色	細砂、白・灰緑砂、白・灰緑砂、透明緑 焼成；硬質	№ 103 26.4	口縁部-胴部 土境付近
19	土師器 坪	口 (9.8) 高 3.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上下部指押し及び平テ。下部へラナデ。内面-体部外面上平塗仕上げ。赤みが大きく付厚を考慮。器人品か。	内：2.5YR/3 淡黄 外：10YR8/6 明赤褐色	やや微砂、白磁砂 焼成；やや硬質	№ 75 24.9	口縁部-体 部 1/4
20	土師器 皿か	口 (15.7) 高 3.1	口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内面へラミガキ。平底は曲むが十分な平底ではない。	内：2.5YR/8 明赤褐色 外：2.5YR5/6 明赤褐色	やや微砂、白・黒磁砂、黒砂、赤色粒 焼成；やや硬質	№ 115 23.0	口縁部-体 部 3/4
21	土師器 高坪	口 (18.0) 高 (3.6)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	内外面とも 2.5YR6/6 橙	やや微砂、白・黒磁砂、白・黒磁砂、白磁、赤色粒 焼成；やや硬質	№ 37・39 10.8	口縁部-体 部 1/5
22	土師器 費	口 12.7 高 [6.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ナデあるいはヘラナデ。胴部外面斜位のヘラケズリ。全体に赤みが大きく、ヘラケズリ後に口縁部の仕上げのヨコナデを行っている。口縁部の平面面はケズリなどの調整時に定位置にしたものか。	内：10YR6/4 に近い橙 外：5YR6/6 橙	やや微砂、白・灰緑砂、灰・白砂、黒磁砂、赤色粒 焼成；やや硬質	№ 112・ 116 23.0 (№ 116)	口縁部 7/12
23	土師器 費	高 [8.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面タテヘラケズリ。	内：5YR6/6 橙 外：7.5YR6/4 に近い橙	やや微砂、灰・白磁砂、黒・透明・白砂、赤色粒 焼成；やや軟質	№ 64・66・ 95 16 (№ 97)	口縁部 1/5、胴部 上平 1/4
24	土師器 費	口 23.6 高 5.2 高 [34.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部上平タテヘラケズリ。胴部下平ヘラケズリのちナナデ。胴部内面ヘラナデ。底部外面ヘラケズリのちナデ。	内：7.5YR6/6 橙 外：5YR5/6 明赤褐色	やや微砂、白・黒磁砂、黒砂、白磁、赤色粒 焼成；やや軟質	№ 24・25・ 93・94・95・ 106・113・ 114 2.6 (№ 94)	胴部 1/8 欠 損
25	石器 編物石	長 12.6 幅 3.7 厚 4.1 重 400.0	未加工の自然産。平面形；不整な楕円形 断面形；楕円方形	5G/1 暗緑灰	-	№ 119 2.9	完存
26	石器 編物石	長 10.6 幅 6.5 厚 2.6 重 257.0	未加工の自然産。平面形；楕円形 断面形；楕円形	7.5YR7/4 に近い橙	-	№ 26 9.9	完存
27	焼成粘 土塊	縦 4.6 横 3.3 厚 2.0 重 [18.6]	裏面2か所に指押印あり。胎土が精練されていないためか、質量は非常に軽い。表面に破面あり。	5YR7/4 に近い橙	粗い。砂粒。磁。白色粒、ワラごく少量 焼成；軟質	覆土中	部欠
28	焼成粘 土塊	縦 4.3 横 2.5 厚 [2.2] 重 [13.8]	表面は縦、ナメタのナデあり。表面は楕円。裏面は縦位のナデ。上左右4面が破面となっている。	7.5YR7/6 橙	やや微砂、白・黒・透明 磁砂、赤色粒 焼成；軟質	覆土中	部欠
29	焼成粘 土塊	縦 3.8 厚 14.6	表面右側面にワラの圧痕が多い。目立った破面はみられない。	7.5YR7/4 に近い橙	粗い。赤色粒 焼成；軟質	覆土中	完存
30	焼成粘 土塊	縦 3.7 横 3.4 厚 1.6 重 [13.5]	左側面に指押印あり。粘土は水浸しに近い状態でつくられたと考えられる。胎土は№ 27 と類似している。上部に破面あり。	5YR6/6 橙	細砂、砂粒少量。白色磁 白色粒、ワラ少量 焼成；軟質	覆土中	部欠
31	鉄製品 刀子	長 [5.0] 幅 1.0 厚 0.3 重 [3.3]	刀子切先付近の破片。背は直線的で、平坦な縁の最大幅は約3.0mm。刃部は平造り。	-	鉄製	№ 73 41.9	部分残存
32	鉄製品 鉄鏝	長 [3.6] 幅 0.6 厚 0.3 重 [2.3]	長距離の頸部破片か。断面長方形で、下部がやや窄幅となる。	-	鉄製	№ 12 76.5	頸部のみ残 存
33	鉄製品 鉄鏝	長 [7.8] 幅 0.6 厚 0.4 重 [8.3]	鑿形式の長距離。断面は鋼化面著で不明瞭だが片丸式と思われる。最大幅6.0mm。頸部断面は長方形。鋭角・キは欠損している。	-	鉄製	№ 84 13.4	鏝身・頸部 残存
34	鉄製品 鉄鏝	長 15.1 幅 0.6 厚 0.6 重 [2.8]	ほぼ完成品の鏝。先端は鋭く中央部に最大幅をもつ。断面形は縦の正方形。刃部と茎の明確な形状はなく、木質の付着した5.0mmほどの縦割が柄に装着された部分と考えられる。	-	鉄製	№ 30 29.3	完存
35	鉄製品 紡錘車 (紡錘は 石製)	長 35.2 重 81.8	石製紡錘車の上面径3.8cm、下面径2.2cm、厚さ2.3cm。鉄分が付着し不明瞭だが、側面に浅く切削痕あり。中心部に径8.0mmの円形孔。鉄製軸の断面形は中央部付近では楕円方形。先端部では長方形。下端部はほぼ正方形。軸径は中央部が最も太く約5.0～6.0mm。	-	軸：鉄製 紡錘車：産灰岩か	№ 48 2.4	完存

3区 SI-6 (遺構：第33図、遺物：第34図、図版四・八一～一一二・一一三・一一五)

位置 グリッド 87.5-50.5・88.0-50.0・88.0-50.5 重複遺構 無し。 平面形 隅丸長方形 規模 東西 6.03×南北 4.95 m 主軸方向 N-2°-E 覆土 褐色土及び暗褐色土からなる10層に分層される。ローム粒子を多く含む。2～8層は人為埋戻しの可能性が高い。壁 壁は直線的に立ち上がる。壁高は58～74



第33図 西刑部西原遺跡3区 SI-6実測図



第34図 西刑部西原遺跡3区 SI-6出土遺物

cm残る。床 中央部はローム地山を床面とし、概ね平坦。硬化面は確認できなかった。柱穴 P1 (径32～30 cm、深さ45 cm)、P2 (径51～39 cm、深さ57 cm)、P3 (径45～34 cm、深さ38 cm)、P4 (径42～37 cm、深さ61 cm) は主柱穴か。柱痕が残るものが多い。P5 (径44～41 cm、深さ50 cm)、P6 (径29～24 cm、深さ26 cm) は支柱穴か、P7～P9は5～10 cmと浅く用途不明だが、入口施設に関わるものか。やや深いP10 (径35～28 cm、深さ28 cm) も同様か。貯蔵穴 確認できなかった。壁溝 D1 (幅15～37 cm、深さ6 cm) が北東隅を除く壁際を巡る。掘方 四隅を土坑状に掘り窪める。カマド 北壁中央部やや東寄りに位置し、壁をV字状に掘り込む。煙道は丸みをもち、約50°の角度で立ち上がる。袖はローム土と灰褐色粘土の混合土で構築されるが、残りは悪い。焼土・炭化物など極めて少ない。使用頻度が低かったためか。遺物 計21点を図示した。遺物は主に覆土上層から出土し、量も少なく総量はコンテナ2箱程

第3章 発見された遺構と遺物

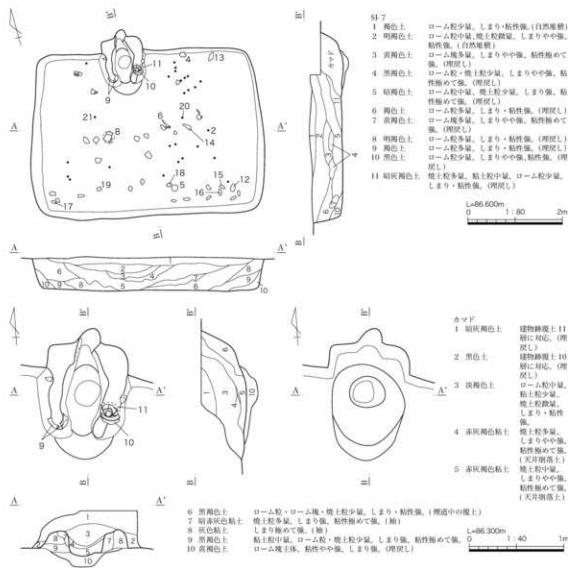
度である。須恵器は坏・蓋の他短頸壺破片がある。6・9・10は混入品か。鉄製品は15の斧箭式の長頸燵や、19～21の刀子破片がある。18は不明銅製品。長さ3.2cmの小型品だが、蝶番または鉸貝に似た構造をもち、非常に精緻な作りである。遺物から奈良時代中葉の建物跡と考えたい。

第8表 3区 SI-6出土遺物観察表

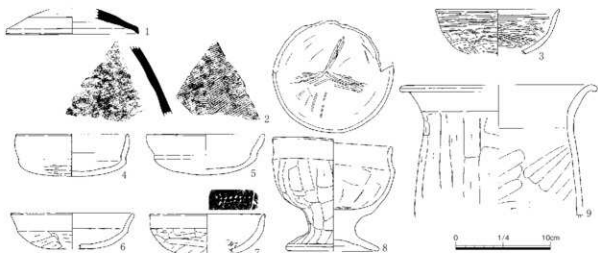
発見番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵器 坏	底 10.0 高 [3.4]	内外面口コナデ。底部外面回転ヘラ切りのち回転ヘラケズリ。	内外面とも 2.5Y7/4 浅灰	中や緻密、灰・白磁砂、灰・黒砂、灰燼 焼成：硬質	覆土中	坏部～底部 1/8
2	須恵器 高	口 (15.0) 高 [3.1]	内外面口コナデ。大丹部外面回転ヘラケズリ。	内外面とも N6/0 灰	中や粗い、白磁砂～燼 焼成：硬質	No 43 (PS 覆土中)	坏部～底部 1/4、 大丹部～体 部 1/3
3	須恵器 蓋	高 [2.9] 径 3.3	内外面口コナデ。大丹部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付。	内：5G5/1 緑灰 外：5G5/1 オリーブ灰	緻密、白・黒磁砂～粗砂 焼成：硬質	覆土中	ツマミ冠存、 大丹部～体 部一部
4	須恵器 長頸燵	高 [1.2]	内外面口コナデ。破片の上部下部ともに接合部から剥離。	内外面とも 2.5Y8/1 灰白	緻密、灰・白・黒磁砂、灰砂 焼成：中や軟質	覆土中	頸部破片
5	須恵器 短頸燵	口 (15.2) 高 [7.1]	口縁部内外面口コナデ。胴部外面平打ち。胴内面あて貝面あり（あて貝はあまり類をみないタイプ）。口縁部外面～胴部にかけて隆起。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：2.5Y7/2 灰黄	緻密、黒・白・灰磁砂、黒・白・灰砂、白・灰燼、赤色粒 焼成：硬質	覆土中	口縁部 1/12 胴部、 1/6
6	土師器 坏	口 (9.6) 高 [3.8]	体部内面～口縁部外面口コナデ。体部外面斜位のヘラケズリ。内外面平打ち。	内：7.5Y8/7 橙 外：7.5Y8/4 に5.5 黄	緻密、白・透明磁砂～粗砂、赤色粒 焼成：中や軟質	覆土中	口縁部～体 部 1/6
7	土師器 坏	口 (14.9) 高 [2.9]	赤色系坏。内面ヘラミガキ。口縁部外面口コナデ。体部外面ヘラケズリ。平底化は進んでいるが、明確な線はみられない。	内外面とも 2.5Y8/8 明赤	中や緻密、白・透明・黒磁砂、白・黒砂、白色粒 焼成：中や軟質	覆土中	口縁部 1/10、体部 1/4
8	土師器 坏	口 9.3 底 4.6 高 4.5	内面～口縁部外面口コナデ。体部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。あるいは一部ナデ付。底部外面多方向ヘラケズリのちツマミ。内外面平打ち。底部は平底に近づくが、中や丸みを帯びる。	内：7.5Y8/7 橙 外：7.5Y8/6 橙	中や緻密、白・黒磁砂～粗砂、赤色粒 焼成：中や軟質	No 6 1.5	ほぼ冠存
9	土師器 坏	口 (16.8) 高 [4.3]	口縁部内面口コナデのちヘラミガキ。口縁部外面口コナデ。体部内外面口コナデ。体部外面ヘラケズリ。体部外面上平～内面にかけ平打ち。	内：7.5Y8/4 浅黄橙 外：7.5Y8/7 橙	中や緻密、黒・白磁砂、黒・灰砂、赤色粒 焼成：中や軟質	No 4 34.3	口縁部～体 部 1/4
10	土師器 坏	口 (11.2) 高 [6.5]	口縁部内外面口コナデ。体部外面口コナデ。体部内外面平打ち。	内：7.5Y8/4 3 黄 外：7.5Y8/3/1 黒	中や緻密、黒・白磁砂～粗砂 焼成：中や軟質	覆土中	口縁部 1/6、 体部上 1/4
11	土師器 甕	口 (18.0) 高 [5.9]	口縁部内外面口コナデ。体部外面上平部指通埋止。胴部内面ヘラナデ付。外面一部スス付着。	内外面とも 7.5Y8/6 橙	中や緻密、黒・白磁砂、黒・白・黒砂、雲母片、赤色粒少量 焼成：中や軟質	覆土中	口縁部 1/3
12	埴成粘 土塊	長 [2.5] 幅 3.0 厚 1.4 重 [6.8]	上半部を欠損。レンズ状の断面。平面形はやや不整な円形。ワラ脱粒あり。	7.5Y8/7/4 にぶい橙	緻密、黒砂粒、ワラ 焼成：軟質	覆土中	部分欠損
13	埴成粘 土塊	長 [5.6] 幅 [4.7] 厚 [3.1] 重 [34.9]	平滑な右側面はナデを施したものが。その他は破面か。ワラ脱粒あり。	5YR6/6 橙	緻密、微量の赤色粒、ワラ 焼成：軟質	覆土中	部欠
14	石製品 続縄文 車	長 4.0 幅 2.6 厚 1.5 重 41.1	断面は全面が研削。上面には縦溝文、側面の放射状縦線は工具痕か。上面孔周辺には細かな鋭打痕あり。使用痕か。下面の孔周辺には放射状の増痕あり。製作時の工具痕あるいは文様か。断面形は楕円台形。	10Y3/2 オリーブ黒	結晶片岩	No 5 4.0	冠存
15	鉄製品 鉄鏃	長 [4.0] 幅 1.2 厚 0.3 重 [3.5]	方頭箭筒式の長頸鏃か。鏃身部のみ残存。頸は直内径で、鏃身は薄く、刃部は片側のみの認められる。	—	鉄製	No 2 21.1	鏃身部のみ 残存
16	鉄製品 釘か	長 [3.8] 重 [3.4]	上端で端具に欠損する。一辺4mmほどの断面正方形。くの字に曲がっている。	—	鉄製	No 35 48.3	部分残存
17	鉄製品 鉄鏃か	長 [5.2] 幅 [4.8]	長頸鏃の頸部は考えられる。断面長方形。上部の断面幅6mm、厚3mm、くの字に曲がる。	—	鉄製	No 1 33.6	部分残存
18	不明銅 製品	長 3.3 幅 1.2 厚 0.3 重 2.1	器具成いは蝶番番式の銅製品。断面楕円形の軸挿入部に、細い水流形状の部品を差し込んでいる。銅板の一端で軸挿を一生に巻いて軸受け部としている。各状部分は下部部に行くにつれ幅が狭くなる。軸受け部分は滑り、軸の一端がはみ出している。仏具などの金具とも考えられるが用途は不明。	—	銅製	No 3 7.4	部分欠損
19	鉄製品 刀子	長 [10.0] 幅 1.4 重 [13.4]	頸は刃部側にあり、刃は持たない。縁は最大幅4mm。茎の断面形は下側が鋭い楕円形。切先及び基部部は欠損する。	—	鉄製	No 4 37.7	部分欠損
20	鉄製品 刀子	長 [6.3] 幅 [0.9] 重 [3.6]	切先のみ残存。切先は細く尖る。縁は平円で幅3mm。刃部は平刃である。縁表面のはざめが粗くしたためか。	—	鉄製	No 37 57.6	部分残存
21	鉄製品 刀子	長 [4.5] 幅 [1.1] 重 [3.1]	切先付近の破片。切先は欠損。縁は平円で、幅3.5mmほど。刃部は平刃り。	—	鉄製	No 36 57.8	部分残存

3区 SI-7 (遺構: 第35図、遺物: 第36・37図、図版四・五・八一・一一三・一一六)

位置 グリッド 87.5-50.0-88.0-50.0 重複遺構 無し。平面形 隅丸長方形 規模 東西4.85×南北3.50m 主軸方向 N-12°-E 覆土 11層に分層ローム粒を多く含む。壁 壁高は54~67cm。床 ローム地山を床面とする。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。カマド 北壁西寄りに位置し、壁を凸字形に掘り込む。煙道は始め緩やかだが、その後65°の急角度で立ち上がる。袖は灰色粘土主体で構築される。壁内面は著しく被熱し赤化する。土師器裏(9・10・11)はカマド芯材に使用された土器である。遺物 21点を図示した。覆土中層から上層に遺物が多い。3は内外面にヘラミガキを施す非在地形の土器。8は底部内面に焼成前の補修痕が見られる。カマド袖芯材に使われた10(常総型裏)は早い時期に入ってきた遺物。この他不掲載遺物は小コンテナ1箱分の遺物が確認できる。古墳時代終末期(7世紀前半~中葉)の建物跡と考えられる。



第35図 西刑部西原遺跡3区 SI-7実測図



第36図 西刑部西原遺跡3区 SI-7出土遺物(1)

第9表 3区 SI-7出土遺物観察表

図表番号	部種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・構成	出土位置・層上(cm)	現存
1	須恵器蓋	口 (13.8) 高 (2.7)	内外面口クロナデ。天开部外面回転ヘラケズリ。混入品。	内：5Y7/2 灰白 外：5Y7/1 灰白	中・中粗い。砂粒中や多量。赤・白色霞や少量。焼成：中・中粗	覆土中	大井部一端部1/6 ツマミ欠損
2	須恵器蓋	高 (8.0) 厚 0.8	外面細かな平行引き。内面粗りの浅い平行線の彫られたあて貝層(板状の貝片)。胎土から炭焼跡の土層と考たい。	内：5Y7/2 灰白 外：5Y6/1 灰	中・中粗い。白・黒・灰緑砂。灰・黒・白・透明砂。雲母片。焼成：中・中粗	No 17 72.4	割部破片
3	土師器杯	口 (13.0) 高 (4.7)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのち内面ヘラケズリナデ。体部内面黒色塗仕上げ。他地域の土層と考えられる。	内外面とも 7.5YR7/4 にぶい橙	中・中粗い。灰・黒・白緑砂。灰・黒砂。雲母片。焼成：中・中粗	覆土中	口縁部1/4, 体部2/5
4	土師器杯	口 (11.6) 高 4.4	口縁部外面-内面全面ヨコナデ。体部外面多方向ヘラケズリ。体部外面及び内面平滑仕上げ。	内：10Y2/1 黒 外：10YR7/4 にぶい橙	中・中粗い。白・黒粗砂。焼成：中・中粗	No 15 No 61	口縁部1/8, 底面1/3 ほぼ完好
5	土師器杯	口 (12.2) 高 4.3	内面及び口縁部外面ヨコナデのち塗仕上げ。体部外面及び口縁部内外面は剥落跡で調整不明。	内：10YR8/3 浅黄橙 外：10YR8/3 浅黄橙	中・中粗い。白・黒粗砂。黒砂。焼成：中・中粗	No 11 12.4	ほぼ完好
6	土師器杯	口 (12.7) 高 3.8	体部内面-口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。全面に塗仕上げ。	内：2.5Y2/1 黒 外：2.5Y6/2 灰黄	細砂。白微細粒。焼成：硬質	No 62 5.0	口縁部-体部1/4
7	土師器杯	口 (11.9) 高 (4.2)	内面-口縁部外面ヨコナデのち塗仕上げ。体部外面ヘラケズリ。体部内面に髹の圧痕あり。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	中・中粗い。白・灰・黒粗砂。赤色粒。焼成：中・中粗	覆土中	口縁部-体部1/2
8	土師器台付鉢	口 12.35 底 9.9 高 12.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部-底部内面ヘラナデ。胴部-胴部外面ヘラケズリ。胴部底部内面ヨコナデ。底部内面に乾癩状のヒビ割れ跡のミガキあり。	内外面とも 7.5YR6/8 橙	中・中粗い。白・黒・灰緑砂。白・黒・灰砂。黒・灰緑。白色粒。赤色粒。焼成：中・中粗	No 51 7.8	口縁部1/2, 胴部完好
9	土師器	口 (21.6) 高 (14.4)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。カマド焼製窯材に使用。	内：5YR6/8 橙 外：5YR5/8 明赤	中・中粗い。白・灰・黒・透明粗粒-微。赤色粒。焼成：中・中粗	No 68 カマド芯材	胴部上平- 口縁部1/2
10	土師器	口 (22.7) 高 (12.5)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ。胴部内面ヘラナデ。口縁部のつまみ1/4が小さく吉手の様相を呈する。カマド焼製窯材に使用。	内外面とも 7.5YR6/8 橙	中・中粗い。白・透明・灰・黒粗砂-微。雲母片。焼成：硬質	No 67・64 10.1 (No.66)	胴部上平- 口縁部1/3
11	土師器	高 (18.6) 径 19.0	胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヨコまたはナメナデ。一部強靱性あり。カマド焼の窯業材に転用される。	内：5YR5/8 明赤 外：5YR6/8 橙	中・中粗い。白・灰・透明・黒粗砂-微。雲母片。焼成：中・中粗	No 66 20.2	胴部完好。 口縁部、底部欠損
12	石製 副物石	長 12.6 幅 3.7 厚 4.1 重 400.0	未加工の自然産。平面形：楕円形 断面形：カマボコ形	2.5Y7/3 浅黄	—	No 22 床直	存在
13	石製 副物石	長 10.6 幅 6.5 厚 2.6 重 257.0	全体に軽微赤化。部分的に黒色を呈するスズが付着したものの。平面形：細長し棒状 断面形：隅丸三角形	10YR4/2 灰黄赤	—	No 16 65.9	存在
14	石製 副物石	長 14.6 幅 5.0 厚 5.1 重 587.0	未加工の自然産。平面形：楕円形 断面形：不整な方形	2.5Y6/1 黄灰	—	No 59 8.3	存在
15	石製 副物石	長 14 幅 5.5 厚 4.2 重 319.0	未加工の自然産。平面形：円形 断面形：長し楕円形	5YR5/6 明赤	—	No 24 床直	存在
16	石製 副物石	長 14.2 幅 5.8 厚 4.3 重 448.0	未加工の自然産。平面形：楕円形 断面形：隅丸三角形	5YR2/2 灰白	—	No 25 床直	存在

3区 SI-8 (遺構: 第38図、遺物: 第39・40図、図版五・八一・八二・一一三〜一一五)

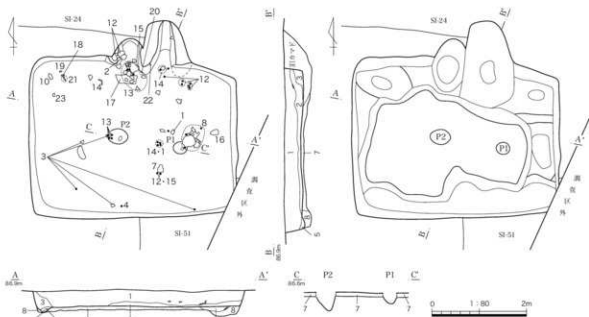
位置 グリッド 89.5-51.5・89.5-52.0 重複遺構 SI-24・SI-51より新しい。平面形 長方形を呈する。

規模 東西4.32×南北3.44 m 軸方向 ほぼ真北 覆土 1～5層に分層。いずれも自然堆積と考えられる。壁 壁高は32～39 cmで壁面は直線的に立ち上がる。床 ほぼ全面が貼床。概ね平坦で、硬化部分は確認できなかった。柱穴 P1 (径28～25 cm、深さ25 cm)、P2 (径43～32 cm、深さ40 cm)の2本があるが、覆土の様子を確認できず不明瞭な点が多い。入口ピット・貯蔵穴 確認できなかった。

壁溝 西壁際の断面に若干の痕跡が残るが平面では確認できなかった。掘方 平坦な中央部を鳥状に掘り残し、周縁部は深さ10～20 cmのやや浅い土坑状を呈する。カマド 新旧2基確認。旧カマドは北壁やや東寄りに位置し、壁をU字形に掘り込む。煙道は残存部では40°の角度で直線的に立つ。袖は壁面から検出され、暗灰褐色粘土を主体とする。煙道は床面を20 cm掘り下げたのち埋戻している。新カマドは旧カマド西脇に近接し一回り規模が小さい。壁を半円形に掘り込み、煙道はなだらかに傾斜したのち70°近い角度で立つ。遺物は12の常総型須、須恵器環などが出土。カマド前面には芯材と考えられる焼熟した凝灰岩製切石が出土。遺物 計24点を図示した。須恵器環・ロクロ整形の土師器・須環・鉄製品などがある。遺物は覆土上層から中層から多く出土。2の須恵器環は床面直上。土師器裏は常総型が多い。この他、不掲載物は土師器裏小破片が主体で、200点弱と非常に少ない。鉄製品は紡錘車(19)の他、鋳物(24:銅か)などがある。不掲載の鏝の重量は3.7 kgである。須恵器環の底部比率が小さく、平安時代(9世紀中～後葉)の建物跡と考えられる。

第10表 3区 SI-8出土遺物観察表

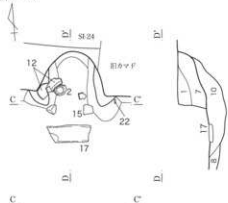
図号 番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・ 床土 (cm)	残存
1	須恵器 環	口 12.3 底 6.0 高 3.5	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのチナデ。須環は直く。2次底面外面。	内: 5Y5/1 灰 外: 5Y5/2 灰オリーブ	中々緻密。白・黒・白細砂。灰・白砂。黒・灰・白微粉。焼成: 中々硬質	No 14・17 19.0 (No 17)	口縁部 2/5。底部 完存
2	須恵器 環	高 6.3 底 3.5 高 [2.0]	ロクロナデ。回転糸切り。外面の一部に黒色の付着物あり。また底部外面に焼土(焼熟した粘土か)付着。内面中央部磨滅し平坦。	内外面とも 5Y5/1 灰	中々緻密。白・黒・灰細砂。白・黒砂。焼成: 中々硬質	K40 床底	底部完存
3	須恵器 高付付 環	口 (15.2) 底 8.2 高 7.5	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラツズリの高付糸切りのチナデ。底部外面ねじまの跡あり。	内外面とも 7.5Y4/1 灰	中々緻密。白・黒・灰細砂～微粉。焼成: 中々硬質	No 8・9・ 11・25 25.0 (No 9)	口縁部 1/4。底部 完存
4	須恵器 塊	口 (16.4) 高 [3.1]	口縁部はやや外反。内外面ロクロナデ。内面のみ細粉。炭投差か。	内: 2.5Y2/1 黒 外: 2.5Y7/2 灰黄	細密。白・黒・灰細砂。黒色粘。焼成: 硬質	No 8・9・ 24 2.7	口縁部～体 部 1/5
5	須恵器 蓋	口 (14.6) 高 [2.1]	内外面ロクロナデ。	内: 17.5Y6/1 灰 外: 2.5Y6/1 黄灰	細密。白・炭細砂。焼成: 硬質	No 36 不明	口縁部～体 部 1/8
6	須恵器 小型 短頸 須	口 (4.5) 径 (7.3) 短頸 高 [2.9]	内外面ロクロナデ。頸部～胴部にかけて自然輪付着。	内: 2.5Y6/2 灰黄 外: 2.5Y6/1 灰黄	中々緻密。灰・黒・白細砂。灰・黒・白砂。焼成: 中々硬質	覆土中	口縁部 1/4。胴部 上半 1/6
7	須恵器 須	厚 1.2	内面うすらしたとしか細かいうり平行で具。外面平行叩き。	内: 7.5Y4/1 灰 外: 10YR4/1 褐灰	中々緻密。白・灰細砂。白砂。白微粉。焼成: 硬質	No 13 10.5	胴部破片
8	須恵器 須	口 (22.3) 底 (15.6) 高 (31.8)	口縁部内外面ロクロ仕上げ。口縁部外面端部貼土帯の筋付けのチロクロナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部内面上部部面転糸切り。下部チナデ。底部内面磨滅付・エッジナデ。胴部外面斜位の平行叩き。胴部及び下部部は叩きが重なり、格子状を呈する。胴部外面下部部チナメまたはヨコヘラナデ。	内: 7.5Y6/1 灰 外: 5Y5/1 灰	中々緻密。白砂。小硬。焼成: 中々硬質	No 18 10.4	胴下平 3/4。胴部 外面割落
9	土師器 環	口 (11.7) 底 6.3 高 4.0	内外面ロクロナデ。内面ヘラミガキのち黒色処理。底部外面回転糸切り。	内: 10YR8/4 浅黄橙 外: 7.5YR7/6 橙	中々緻密。白・灰・黒細砂。白・黒砂。赤色粘。焼成: 中々硬質	覆土中	口縁部 1/6。底部 1/3
10	土師器 環	口 (16.0) 底 7.5 高 5.1	内外面ロクロナデ。内面ヘラミガキのち黒色処理。底部外面回転糸切り。糸切りの際、底部を薄くすじすぎたため、糸切りをやり直している。その際生じた段差部分に粘土を貼付け直ししている。	内: 7.5Y2/1 黒 外: 7.5YR6/6 橙	中々緻密。白・黒細砂～粗砂。赤色粘。焼成: 中々硬質	No 4 4.0	口縁部 1/4。底部 2/3
11	土師器 環	厚 0.5	環底部内面にへら掻きあり。放射状のミガキを模したものが、内面黒色処理。外面ヘラツズリ。7里配土師器の器入品か。	内: 5Y2/1 黒 外: 2.5Y7/3 灰黄	中々緻密。白細砂。焼成: 中々軟質	覆土中	底部小破片
12	土師器 製	口 20.0 製 24.1 高 [25.1]	口縁部内外面ロクロナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面上下部ナデ及び指押直上。胴部外面下部ヨコヘラツズリのちタテヘラナデの強いヘラミガキ。常総型裏。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	中々緻密。灰・白・黒・透明細砂。灰・白砂。雲母片。焼成: 中々硬質	No 12・21 23・K39 7.8 (No 23)	胴部上半 1/2。胴部 下半 1/6



- SI-8
- 1 暗褐色土 白色アフラ粒少量、ローム粒・粘土粒微量、しまり強、粘性中強、(自然堆積)
 - 2 褐色土 ローム粒中量、焼土粒・粘土粒少量、しまり・粘性強、(自然堆積)
 - 3 黒褐色土 ローム粒少量、しまり中強、粘性強、(自然堆積)

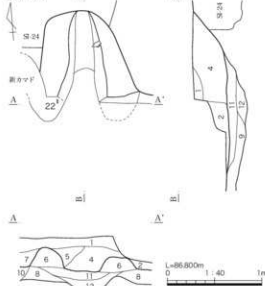
- 4 明褐色土 ローム粒多量、しまり中強、粘性強、(自然堆積)
- 5 暗褐色土 ローム堆より成る、しまり中強、粘性強、(自然堆積)
- 6 淡褐色土 ローム粒・粘土粒、粘土粒中量、しまり・粘性強、(埋戻し)
- 7 暗褐色土 ローム粒多量、しまり・粘性強、(埋戻し)
- 8 暗褐色土 ローム粒中量、しまり中強、粘性強、(埋戻し)

新カマド



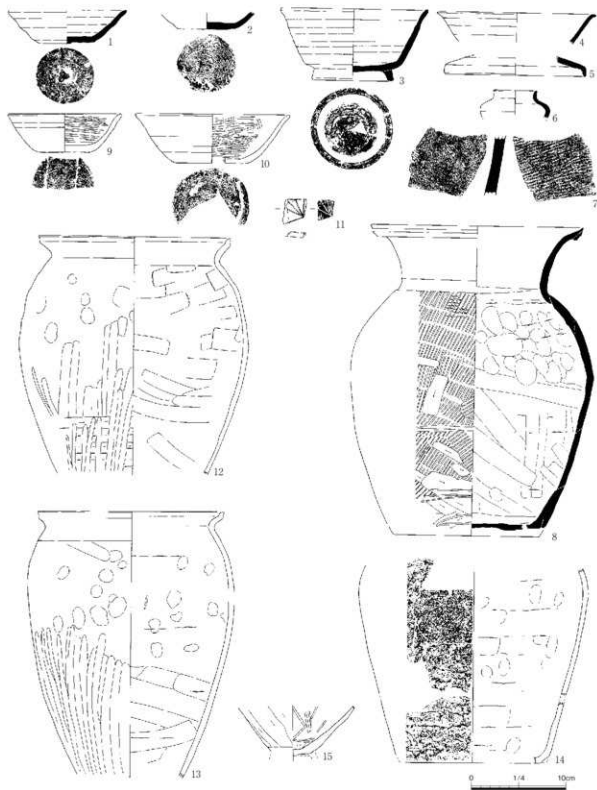
- カマド
- 1 暗褐色土 建物跡覆土1層に付心。
 - 2 褐色土 建物跡覆土2層に付心。
 - 3 明褐色土 建物跡覆土4層に付心。
 - 4 暗褐色粘土 焼土粒少量、ローム粒微量、しまり強、粘性極めて強。(新カマド下層土)
 - 5 淡褐色粘土 焼土粒少量、しまり強、粘性極めて強。(旧カマド覆土)
 - 6 暗灰褐色粘土 焼土粒少量、ローム粒微量、しまり・粘性極めて強。(旧カマド層)

旧カマド

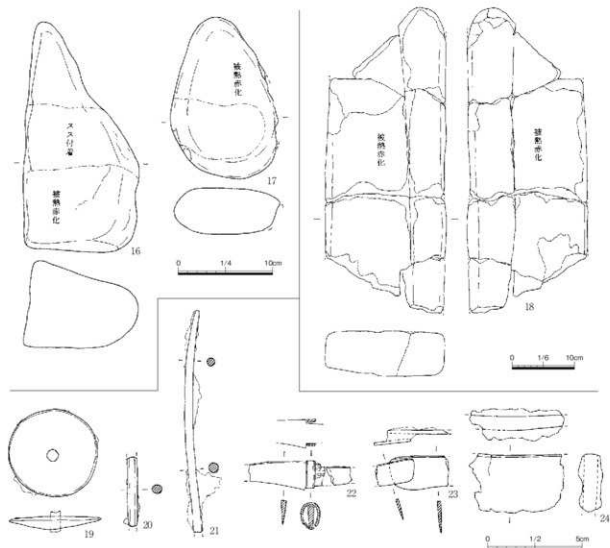


- 7 暗赤褐色粘土 焼土粒多量、しまり・粘性極めて強。(新カマド層)
- 8 暗褐色土 建物跡覆土7層に付心。
- 9 暗褐色土 建物跡覆土6層に付心。
- 10 暗赤褐色粘土 焼土粒多量、しまり・粘性極めて強。(新カマド)
- 11 灰赤褐色粘土 焼土粒中量、しまり・粘性極めて強。(旧カマド)
- 12 灰褐色粘土 焼土粒少量、しまり・粘性極めて強。(旧カマド)

第38図 西刑部西原遺跡3区 SI-8実測図



第39図 西刑部西原遺跡3区 SI-8出土遺物(1)



第40図 西刑部西原遺跡3区 SI-8出土遺物(2)

13	土師器 甕	口 19.4 胴 21.8 高 [28.1]	口縁部内外面ココナデ。胴部内面上半部凸凹。下半部ヘラナデ。胴部外面上半部凸凹。下半部ココヘラケズリのち縦位のナデ。胴部外面うっすらと赤化した粘土付着。煎じ空焚。	内: 10YR6/4 に近い黄褐色 外: 10YR5/3 に近い黄褐色 底: 7.5YR5/4 に近い赤褐色	やや粗い。白・透明・灰 緑砂～緑。雲母片 焼成; やや軟質	№7・28・ 28.2・ベルト 7.4 (№28- 2)	口縁部内面 胴部2/3 底部欠損
14	土師器 甕	高 [20.7 (14.4)]	内面ヘラナデ・煎じ空焚。胴部外面斜位の平行帯のち横位の波状紋があるいは叩き目自体に付された(横細か)可能性もあるが不明瞭。煮沸具として使用されたためか。外面の割傷が激しく調整不明。煎じ空焚。	内: 10YR5/3 に近い黄褐色 外: 7.5YR5/4 に近い赤褐色	やや粗い。白緑砂。透明 砂。白濁 焼成; やや軟質	№6・14・ 29。カマ 下。カマ 16.9 (№6)	胴部1/5 底部一部
15	土師器 台付甕	高 [4.7]	内面やや幅広いココヘラナデのち縦位ヘラナデ。外面やや狭めのヘラナデ。胴部及び底部の接合部には粘土を足して補修。	内外面とも7.5YR5/4 に近い赤褐色	やや軟質。白・灰・黒緑 砂。黒・白砂。赤色粒 焼成; やや軟質	№12・S51 №4・20 9.5 (№12)	底部3/4
16	石器 鏡鏢	長 24.3 幅 12.1 厚 9.2 重 35.87	未加工の自然産。下半部は強く赤化。中央は黒色を呈する。ススまたはタールが付着したもの。 平面形: 半楕円丸内形 断面形: D字形	2.5YR3/6 暗赤褐色	-	№32 23.2	完存
17	石器 鏡鏢	長 17.3 幅 10.1 厚 5.0 重 1370.1	赤化はやや強く部分的にスス付着か。 平面形: 水滸形 断面形: 楕円形	2.5YR3/6 暗赤褐色	-	№35 9.4	
18	切石 (カマ下 構築材)	長 46.1 幅 19.0 厚 7.1 重 3144.0	腐坑付製の切石を用いたカマ下構築材(芯材か)。遺物 全面が強く熱を受けて赤化しており非常に脆い。	7.5YR7/6 橙	腐坑付	№30 9.0	部分欠損
19	鉄製品 鉄鏢身	長 [1.1] 径 4.6 重 [22.5]	鉄鏢径4.6cm。断面形は下面がレンズ状を呈し、厚さ7.0mm。孔は楕円形に近く、径6.0mm前後。残存軸長1.1cm。軸断面形は楕円形だが上部は方形に近い。軸径5.0mm前後。	-	鉄製	№2 9.7	鉄鏢身部分 完存
20	鉄製品 鉄鏢身	長 [3.6] 重 [2.6]	鉄鏢身軸か。断面形は楕円形。最大径5.5mm。	-	鉄製	№1 6.8	軸一部

第3章 発見された遺構と遺物

21	鉄製品 紡錘車軸	長 11.7 重 12.3	紡錘車軸か。断面形は円形。最大径 5.5 mm。先端部は細く、土埋まりと考えられる。	—	鉄製	No.27 40.2	軸一部
22	鉄製品 刀子	長 5.3 幅 1.5 重 7.3	高麗の刀子。縁は平刃で最大幅は 3.0 cm。刃部は平直で、柄部の幅 5.0 cm で木眼が見える。革の断面形は透直形。柄部を欠損。	—	鉄製	No.3 7.1	部分残存
23	鉄製品 手鏡か	長 3.8 幅 1.8 重 5.4	折り曲げて観察したと鑑別が、錆びで検査したものか。X線では確認できなかった。若干弧状に伏れた月部は拭き取られたためか。	—	鉄製	No.37 21.2	部分残存
24	鉄製品 罽布 (鏡か)	高 3.1 厚 0.7~0.8 重 141.9	罽布の口縁部破片か。小鏡片で、錆化による歪みもあり、厚 0.7~0.8 mm 程度の復元は困難だが、平口縁で若干丸みをもって立ち上がるようである。	—	鉄製	No.26 38.6	口縁部破片

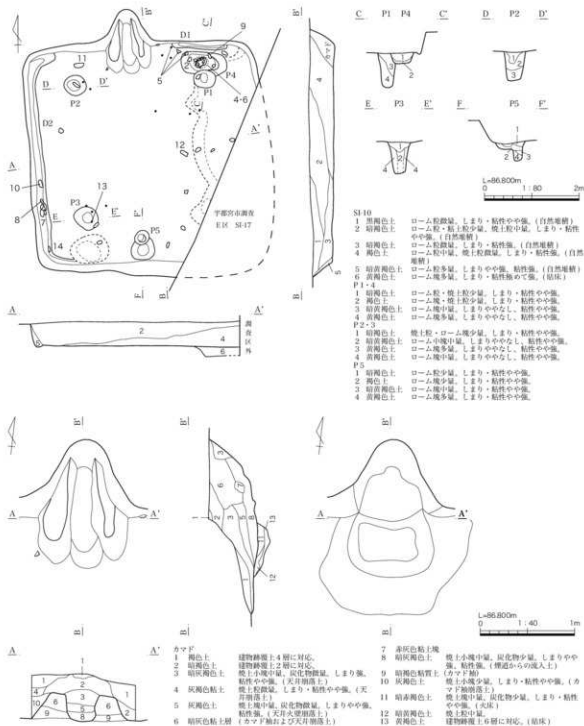
3区 SI-10 (遺構：第 41 図、遺物：第 42 図、図版五・八二)

位置 グリッド 89.0-51.5・89.5-51.5 重複遺構 無し。 平面形 隅丸正方形。なお住居の南東部は宇都宮市教委調査 E 区 SI-017 として報告済みである。規模 東西 4.90×南北 4.80 m 主軸方向 N-4°-W

覆土 暗褐色土及び黄褐色土主体の 5 層に分層される。自然堆積。壁 壁高は 41~51 cm、壁は直線的に立ち上がる。床 中央部から西部はローム地山を床面とするが、東部に貼床あり。硬化面は確認できなかった。柱穴 P1 (径 45~37 cm、深さ 70 cm)、P2 (径 45 cm、深さ 64 cm)、P3 (径 51~43 cm、深さ 66 cm) の計 3 本が確認されるが、本来 4 本柱穴であろう。入口ピット P5 (長軸 62~短軸 50 cm、深さ 42 cm) は南壁中央部壁際にある。南側の浅い掘り込みは抜き取り痕か。貯蔵穴 P4 (長軸 96~短軸 45 cm、深さ 24 cm) は P1 と接し平面形は隅丸長方形。壁溝 D1 (幅 20~33 cm、深さ 8 cm) は西壁際に、D2 は (幅 15~20 cm、深さ 8 cm) カマド東側に残るが、掘り込みは浅い。カマド 北壁位置中央部を隅丸三角形に掘り込むが、掘方の煙道先端は凸字状。燃焼部は方形に掘り窪め埋戻している。遺物 土師器環・鉢・甕などがある。遺物は覆土上層に多い。1 はカマド覆土中、4・6 は貯蔵穴中から出土。7・8・14 は西壁際の床面付近から出土。編物石か。この他不掲載物は土師器類が主で、小コンテナ 1 箱と少ない。古墳時代終末期(7 世紀前葉~中葉)の建物跡と考えられる。

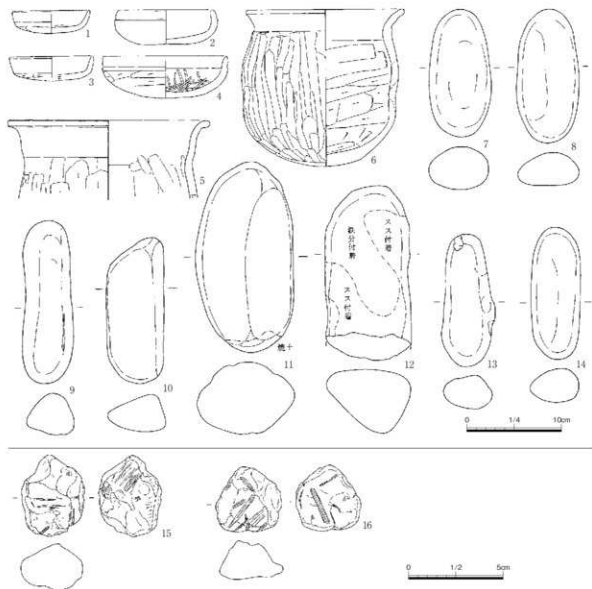
第 11 表 3 区 SI-10 出土遺物観察表

発掘番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・埋土 (cm)	残存
1	土師器 環	口 (7.9) 高 2.3	体部内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラナデか。	内外面とも 2.5Y8/3 淡黄	細泥、黒・白細砂、赤粒 焼成：中・中硬質	カマド	口縁部 1/8、 体部 1/2
2	土師器 環	口 (10.0) 高 3.6	口縁部内外面ヨコナデのち透直上げ。体部内外面磨粒剥離が著しく調整不明。	内外面とも 7.5Y7/6 橙	中・中硬質、白・黒粗砂、 赤色粒 焼成：軟質	No.37 (貯蔵穴覆土中層)	No.37 (貯蔵穴覆土中層) 体部は残存
3	土師器 環	口 8.7 高 2.3	内面磨減のため調整不明。口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面透直上げ。	内外面とも 10YR7/4 に近い黄橙	細泥、灰・黒・白細砂 焼成：中・中硬質	カマド	口縁部 1/8、 体部 1/3
4	土師器 環	口 12.8 高 4.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面疎らな多方向ミガキ。体部外面ヘラケズリ。ほぼ全面透直上げ。	内：7.5YR6/4 に近い青 外：10YR7/4 に近い黄橙	中・中硬質、灰・白細砂、 黒砂少量、赤色粒 焼成：中・中硬質	No.42 (貯蔵穴覆土中層)	ほぼ残存
5	土師器 甕	口 (20.8) 高 [8.3]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面上タテヘラナデのちナメナデ。胴部外面ナデのちタテヘラケズリ。胴部外面僅かに炭化物付着。	内外面とも 5YR4/6 赤黄	中・中硬質、白・黒・透明、 灰黒砂~黒 焼成：中・中硬質	No.13・15・16 (No.15)	口縁部 1/2 体部 1/2
6	土師器 鉢	口 16.3 高 16.5	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。底外面一方ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデのち中位ののみヘラケズリ。胴部、外面に赤化部分及び黒斑あり。炭として使用されたものか。	内：2.5Y7/2 灰黄 外：7.5YR7/4 に近い黄橙	中・中硬質、白・灰・黒細砂、白・黒・灰砂 焼成：中・中硬質	No.42 (貯蔵穴覆土下層)	口縁部 2/3、 体部~底面 4/5
7	石製 編物石	長 13.3 幅 6.4 厚 4.5 重 536.9	未加工の自然産。平面形：楕円形 断面形：楕円形	5Y7/2 灰	—	No.1 1.9	完存
8	石製 編物石	長 13.9 幅 6.4 厚 3.4 重 507.9	未加工の自然産。平面形：楕円形 断面形：カマボコ状	2.5Y5/2 暗灰黄	—	No.3 2.0	完存
9	石製 編物石	長 17.0 幅 5.4 厚 4.6 重 551.0	未加工の自然産。平面形：長方形 断面形：隅丸三角形	2.5Y7/4 淡黄	—	No.40 貯蔵穴覆土下層	完存
10	石製 編物石	長 15.1 幅 6.1 厚 3.9 重 575.0	未加工の自然産。平面形：隅丸の方形 断面形：隅丸三角形	2.5GY6/1 オリーブ灰	—	No.6 1.8	完存



第41図 西刑部西原遺跡3区 SI-10実測図

11	石部 被熱磚	長 20.0 幅 10.3 厚 7.4 重 1884.0	未加工の自然磚。下端部に焼土付着。 断面形：不整な楕円形	7.5R6/1 赤灰	-	No.10 床直	完存
12	石部 被熱磚	長 18.2 幅 (8.8) 厚 (6.6) 重 1995.4	未加工の自然磚。スス及び鉄分付着。 平面形：楕円形 断面形：楕圓三角形	7.5YR6/3に5%焼	-	No.25 1.6	部残
13	石部 編物石	長 13.9 幅 6.5 厚 3.5 重 418.0	未加工の自然磚。 平面形：不整な楕円形 断面形：不整な楕円形	5PB4/1 暗青灰	-	No.32 南西柱六層 土中割	完存

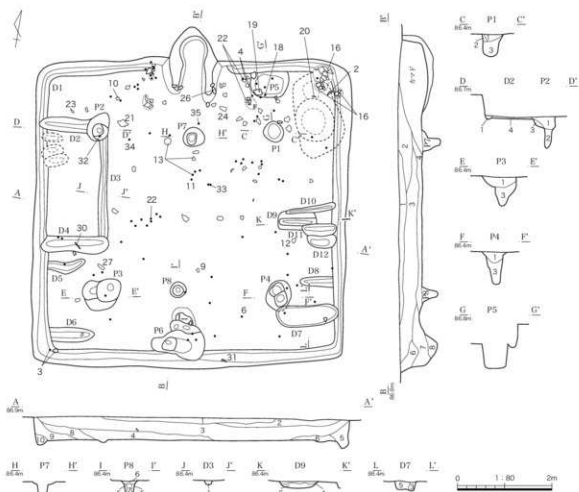


第42図 西刑部西原遺跡3区 SI-10出土遺物

14	石原 礫物石	長 13.8 幅 5.2 厚 3.5 重 437.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：楕形	10V7/1 灰白	—	No.35 南西壁溝 6.9	完存
15	焼成粘 土塊	縦 4.3 横 3.1 厚 2.4 重 13.5	磨滅面著で破面などは不明瞭。ワラ長面が目立つ。	7.5YR8/4 浅黄橙	中々緻密、ワラ、赤色粘 子、細砂 焼成：中々軟質	覆土中	完存か
16	焼成粘 土塊	長 3.5 幅 3.4 厚 2.0 重 11.1	磨滅面著で破面などは不明瞭。	7.5YR8/2 灰白	中々緻密、微砂、ワラ 焼成：軟質	カマド	完存か

3区 S1-11 (遺構: 第43・44図、遺物: 第45~47図、図版五・六・八二・八三・一一二・一一三)

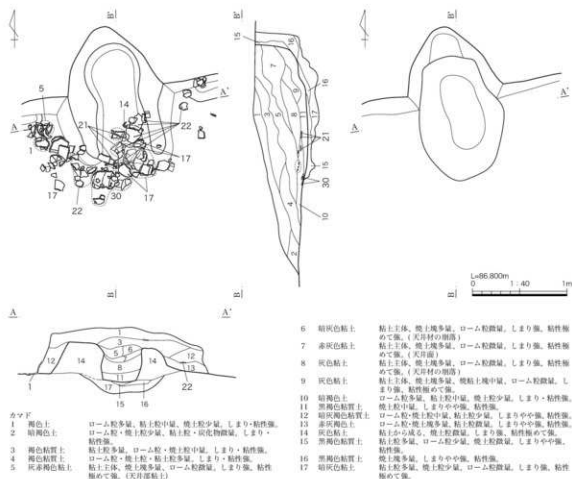
位置 グリッド 90.5-51.0・90.5-51.5・90.0-51.0・90.0-51.5 重複遺構 無し。平面形 隅丸方形 規模 東西6.53×南北6.44 m 主軸方向 N-9°-W 覆土 自然堆積 壁 壁高28~54 cm 床 北東隅付近を除きローム地山を床面とする。柱穴 P1 (径44~43 cm、深さ44 cm)、P2 (径60~44 cm、深さ62 cm)、P3 (径77~62 cm、深さ60 cm)、P4 (径65以上~50 cm、深さ67 cm)。入口ピット P6 (径111~77 cm、深さ30 cm) 貯蔵穴 P5 (長軸80~短軸55 cm、深さ50 cm)。壁溝 D1 (幅17~39 cm、深さ15~20 cm) は壁際を全周。間仕切り溝 D2 (幅27~30 cm、深さ7 cm)、D3 (長さ250 cm、幅13~20 cm、深さ14 cm)、D4 (幅31~36 cm、深さ17 cm)、D5 (幅17~25 cm、深さ17 cm)、D6 (長さ



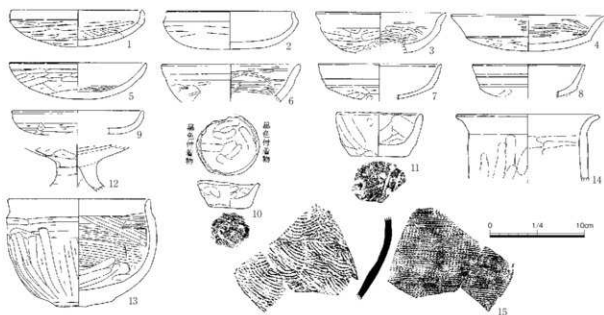
S1-11

- | | | | | |
|---------|---------------------------------------|-----------|-----------------------------------|---------------------|
| 1 暗黄褐色土 | ローム粒多量、焼土粒中量、しまり・粘性強。(自然堆積) | 3 黄色土 | ローム塊より成る。しまりや中強、粘性極めて強。 | |
| 2 褐色土 | 焼土粒多量、ローム粒・粘土粒少量、しまり・粘性強。(自然堆積) | 4 黄褐色土 | ローム塊多量。しまり強、粘性極めて強。 | |
| 3 暗褐色土 | 焼土粒中量、ローム粒少量、粘土粒微量。しまり・粘性強。(自然堆積) | 5 暗褐色土 | 粘土粒多量、焼土粒中量、ローム粒微量。しまりや中強、粘性強。 | |
| 4 褐色土 | ローム粒多量、焼土粒中量、粘土粒微量。しまり強、粘性極めて強。(自然堆積) | 6 暗褐色土 | 焼土粒・粘土粒中量、ローム粒少量。しまりや中強、粘性強。 | |
| 5 黒褐色土 | ローム粒・焼土粒少量、しまりや中強、粘性極めて強。(自然堆積) | 7 暗褐色土 | ローム粒・焼土粒少量、しまりや中強、粘性極めて強。 | |
| 6 褐色土 | ローム粒・焼土粒少量、しまり・粘性強。(自然堆積) | 8 褐色土 | ローム粒中量、焼土粒少量、しまり強、粘性極めて強。(自然堆積) | |
| 7 暗褐色土 | 焼土粒中量、ローム粒・粘土粒少量、しまり強、粘性極めて強。(自然堆積) | 9 暗褐色土 | ローム粒少量、焼土粒微量。しまりや中強、粘性極めて強。(自然堆積) | |
| 8 褐色土 | ローム粒中量、焼土粒少量、しまり強、粘性極めて強。(自然堆積) | 10 黒褐色土 | ローム粒・焼土粒少量、しまりや中強、粘性極めて強。(自然堆積) | |
| 9 暗褐色土 | ローム粒少量、焼土粒微量。しまりや中強、粘性極めて強。(自然堆積) | P1-P4, D2 | ローム粒・焼土粒少量、しまりや中強、粘性極めて強。(自然堆積) | |
| 10 黒褐色土 | ローム粒・焼土粒少量、しまりや中強、粘性極めて強。(自然堆積) | 2 | 暗黄褐色土 | ローム粒多量。しまり強、粘性極めて強。 |

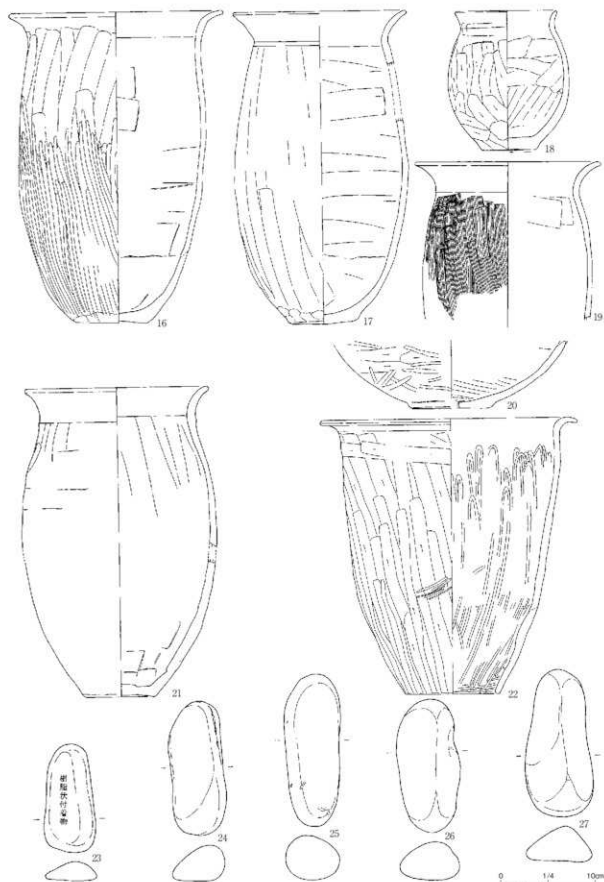
第43図 西刑部西原遺跡3区 S1-11実測図(1)



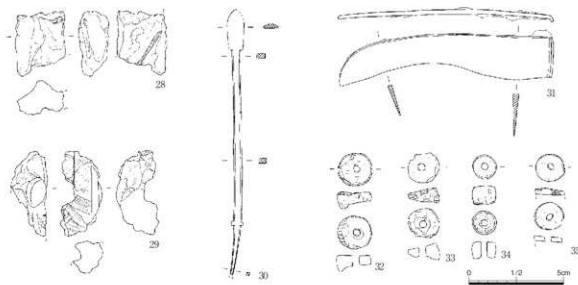
第44図 西刑部西原遺跡3区 SI-11 実測図(2)



第45図 西刑部西原遺跡3区 SI-11 出土遺物(1)



第46図 西刑部西原遺跡3区 SI-11出土遺物(2)



第47図 西刑部西原遺跡3区 SI-11出土遺物(3)

92 cm、幅25～32 cm、深さ11 cm)、D7(長さ129 cm、幅43～45 cm、深さ17 cm)、D8(長さ68 cm、幅15～21 cm、深さ5 cm) D9(長さ130 cm、幅35～88 cm、深さ15 cm)。掘方 北東隅に深さ20 cmほどの浅い土坑状の掘り込みあり。カマド 北壁中央を三角形に掘り込む。掘方の底面は凸字状。袖部は灰色粘土で構築。焼焼部及び煙道部にかけ、黒褐色粘質土で埋戻す。遺物 土師器環・鉢・甕・甔の他、焼成粘土塊、鉄線・鎌などの鉄製品、白玉などが出土。1・4・5の土師器環、16・17・19～22の土師器甕・甔はいずれも床面直上の出土。7・8は体部外面に明瞭な稜線をもつ北武蔵系の環。10・11は手捏ね土器。不掲載遺物は小コンテナ6箱分。不掲載物の総重量は1.8 kg。古墳時代後期末葉の建物跡と考えられる。

第12表 3区 SI-11出土遺物観察表

掲載番号	部材	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	土師器環	口 13.7 高 3.8	内面ヨコナデのち丁寧なヘラナデ。口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのちや中軟質ナデ。	内：2.5Y4/2 暗灰黄 外：2.5Y5/3 黄期	中や粗い。黒・透明・白 粘砂 焼成：中や軟質	No 148 床直	口縁部 3/4、底部 ほぼ存在
2	土師器環	口 (13.3) 高 3.9	内面～口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヨコヘラケズリ。内外面漆仕上げ。器面の磨滅顕著。	内外面とも 10Y8/4 浅黄	中や粗い。白粘砂 焼成：中や軟質	No 81 32.4	口縁部一体 部 4/5
3	土師器環	口 14.0 高 4.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ。体部外面ヘラケズリ。内面～体部外面漆仕上げ。	内：7.5Y8/4 に近い 外：7.5Y8/6 橙	中や軟質。白粘砂、赤粘砂 焼成：中や軟質	No 38・20 39.9 (No 39)	口縁部一体 部 1/3
4	土師器環	口 16.1	内面ヘラミガキのち黒色処理。口縁部外面ヨコナデのちヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのち強いナデあるいはヘラミガキナ。	内：7.5Y7/4 に近い 外：10Y8/7 明黄期	中や軟質。黒・白・灰 粘砂。灰・透明砂。白色粘砂 焼成：中や軟質	No 110・138 138)	口縁部 2/5、体部 3/4
5	土師器環	口 14.6 高 3.9	口縁部外面～内面ヨコナデ。内面底部付近にまばらなヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのち上半部は丁寧なナデ。下半部はナデ。内面～体部外面上平塗仕上げ。	内：7.5Y8/4 に近い 外：10Y8/4 に近い 黄期	中や粗い。炭粘砂、赤色粘砂 焼成：中や軟質	No 166 床直	口縁部一体 部 2/3
6	土師器環	口 (14.3) 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。内面ややまばらなヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。全面漆仕上げ。	内：10Y8/4 に近い 外：7.5Y8/7 に近い 黄期	中や軟質。白粘砂～粗砂 焼成：中や軟質	No 16 30.6	口縁部一体 部 上平 1/3
7	土師器環	口 (12.8) 高 3.7	内面ヨコナデ。口縁部外面2段の稜線あり。体部外面ヨコヘラケズリのち底部一方へラケズリ。北武蔵系のほか。	内：2.5Y4/1 黄灰 外：2.5Y3/3 暗オリーブ期	中や軟質。白・灰・黒・透明細砂。灰砂。白色粘砂 焼成：中や軟質	甕土中	口縁部一体 部 1/3
8	土師器環	口 (12.0) 高 3.4	内面磨滅顕著だがヨコナデか。口縁部外面明瞭な2段の稜線あり。体部外面ヘラケズリか。北武蔵系のほか。内面平のたむ口縁は参考。	内外面とも 10Y8/7 に近い 黄期	中や軟質。白・灰・黒・透明細砂。黒・灰砂 焼成：中や軟質	甕土中	口縁部一体 部 1/8
9	土師器環	口 (13.6) 高 2.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。体部外面ヨコヘラケズリ。口縁部底縁磨滅の顕著。	内外面とも 5Y8/6 橙	細砂。白粘砂。黒。赤粘砂 焼成：中や軟質	No 3 38.9	口縁部一体 部 1/5
10	土師器手捏ね土器	口 6.5 高 2.9	内面ユビナデ。外面高透明仕上げ。底部外面滑かにワラの正敷か。口縁部中央に黒褐色の付着物(塗)あり。	内：7.5Y8/4 に近い 外：2.5Y3/2 黒期	中や粗い。黒粘砂。赤色粘砂 焼成：中や軟質	No 48 33.6	ほぼ存在

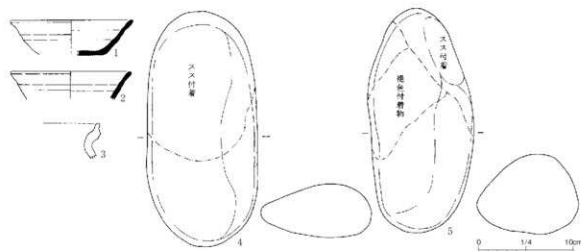
11	土師器 手押ね 土器	口 (9.9) 底 6.0 高 4.6	内面ヘラナデ。外面ナデ及び指道押正。底部外面ナデおよびワラの圧縮か。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや磁質。灰・白磁砂・赤色粒 焼成；やや軟質	№ 99 114	口縁部 1/4、底部 1/2
12	土師器 高杯	口 14.5 高 4.1	口縁内外面ナデ。杯部外面ヘラケズリ。胴部内面コナデの下部押正。胴部外面ナデ。	内：2.5Y3/2 黒黒 外：10YR5/2 灰黄褐色	やや磁質。白磁砂。赤色粒 焼成；やや軟質	№ 125 34.6	胴部 2/3、 底部一部
13	土師器 鉢	口 14.7 底 6.6 高 11.3	胴部内外面コナデ。体部内面ハウリ調整の底部内外面ナデ。体部外面上平コヘラケズリ以下タテヘラケズリ。底部外面ナデ。	内：5Y2/1 黒 外：10YR7/6 に近い黄褐色	やや磁質。黒磁砂。赤色粒 焼成；やや軟質	№ 112・126 118・129 118 (№ 112)	口縁部～体部 1/3、底部 底面
14	土師器 甕	口 15.3 高 [7.2]	胴部内外面コナデ。胴部内面コヘラナデ。胴部外面タテヘラナデ。小型の甕。被熱磁質。黒黒高杯。やや歪む。	内外面とも 2.5Y7/4 浅黄	粗い。白・黒・透明・灰 磁砂～硬 焼成；軟質	10.9	口縁部 1/4、胴部 上平 3/4
15	須恵器 高	高 [8.9]	内面同心円状突起有。外面格子印有。	内：5G/6/1 オリーブ灰 外：N2/6 黒	やや粗い。白・透明・黒 磁砂～粗砂 焼成；硬質	覆土中	胴部破片
16	土師器 甕	口 22.2 底 7.6 高 32.7	口縁部内外面コナデ。胴部外面上平タテヘラナデ。胴部外面下平タテヘラミガキ。下部部ヘラケズリ。	内：10YR5/2 灰黄褐色 外：10YR6/3 に近い黄褐色	やや粗い。白・透明・灰・ 黒磁砂～硬 焼成；やや軟質	№ 82・105・ 114、覆土 底面 (№ 82)	ほぼ完存
17	土師器 土師甕	口 18.3 底 34.1-78 高 73.0	胴部内外面コナデ。胴部外面ヘラケズリのナデか（被熱磁質で不明）。外面下部部はナデ。胴部内面ヘラナデ。底部外面多方向ヘラケズリ。部分的に焼土付着。	内外面とも 7.5YR4/6 に 近い橙	やや粗い。白・灰・黒磁 砂。白磁 焼成；やや軟質	№ 150・ 155・158・ 169・171 底面 (№ 169・171)	ほぼ完存
18	土師器 甕	口 10.6 底 5.8 高 14.7	口縁部内外面コナデ。胴部外面上平タテヘラケズリ。下部部ナメヘラケズリ。胴部～底部内面ヘラナデ。底部外面ヘラケズリのナデヘラナデか。外面一部黒色物付着。内面は全面的に赤化。	内：5YR6/6 橙 外：5YR7/8 橙	やや磁質。白・透明・黒 磁砂～硬。赤色粒 焼成；やや軟質	№ 145・166 30.9	口縁部 3/4、底部 完存
19	土師器 甕	口 [19.2] 高 [16.8]	口縁部内外面コナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ナデ位のハケ目。一部被熱による赤化及び炭化物付着。	内：5YR6/6 橙 外：7.5YR7/6 橙	やや磁質。白・黒・灰磁砂・ 黒・灰砂。透明磁。白色粒 焼成；やや軟質	№ 146・166 底面 (№ 146)	口縁部～胴部 1/4
20	土師器 甕	底 (8.1) 高 [7.0]	胴部内面コヘラケズリのヘラミガキ。底部外面窪みあり。本底蓋または被熱物有。胴部内面ヘラナデ。胴下部被熱赤化。	内：10YR7/6 明黄褐色 外：5YR5/8 明黄褐色	やや粗い。白・透明・灰・ 粗砂。白磁 焼成；やや軟質	№ 80 底面	胴部 2/5、 胴部下平 1/3
21	土師器 甕	口 [19.1] 高 [37.7] 底 7.4	口縁部内外面コナデ。胴部内面タテヘラナデ。胴部外面タテヘラケズリ。蓋面は磨滅著しく調整不明。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや粗い。白・灰・黒磁砂・ 黒・灰・白砂。白・黒磁 砂。赤色粒 焼成；やや軟質	№ 62・156・ 157・158・ 168・170・ 172 157・168・ 170・172)	口縁部 1/2、 胴下部完 存
22	土師器 甕	口 27.0 底 (10.0) 高 29.1	喉口の腹。口縁部内外面コナデ。胴部内面人念なタテヘラミガキ。口縁部外面コヘラケズリ。胴部外面タテヘラケズリのナデ下部部が粗いナデ。底部ヘラケズリにより穿孔。全体的に摩滅・風化が進む。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	粗い。灰・黒砂。赤色粒 焼成；軟質	№ 82・114・ 117・140・ 146・153・ 163・163・ 83・84・ 底面 (№ 140)	口縁部 4/5、底部 1/2
23	石器 編物石	長 11.3 幅 5.3 厚 2.0 重 188.0	全体的に褐色付着物（漆か）あり。	5Y4/2 灰オリーブ	-	№ 45 6.4	口縁部
24	石器 編物石	長 14.1 幅 5.5 厚 3.7 重 421.1	未加工の自然産。 平面形：楕円形 断面形：水滸形	7.5Y7/1 灰白	-	№ 65 37	完存
25	石器 編物石	長 16.2 幅 5.6 厚 4.7 重 644.8	未加工の自然産。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	2.5Y7/1 灰白	-	覆土中	完存
26	石器 編物石	長 14 幅 6.4 厚 4.0 重 574.0	未加工の自然産。 平面形：楕円形 断面形：楕丸三角形	7.5YR7/2 明黄灰	-	№ 108 39.5	完存
27	石器 編物石	長 15.5 幅 7.0 厚 3.8 重 528.5	未加工の自然産。 平面形：縦やかな楕円形 断面形：楕丸三角形	2.5Y5/2 暗黄灰	-	№ 27 29.5	完存
28	埴成粘 土塊	長 2.8 幅 2.5 厚 1.6 重 7.4	右側面に断面による窪みあり。器表面には部分的にワシ痕跡がみられる。砂質で軽い（密度の低い）胎土を使用している。	7.5YR7/4 に近い橙	磁質。微砂粒。赤色粒 焼成；軟質	覆土中	部分欠損
29	埴成粘 土塊	長 4.5 幅 1.4 厚 1.8 重 8.1	左側面はナデ及び指道押正が主。一部に横線圧痕あり。器人物は少なく、比較的良好的な胎土を使用。左側面にはワラ状の圧痕多数あり。一部指道の押正が残る。	7.5YR7/4 に近い橙	磁質。微砂粒 焼成；軟質	覆土中	完存か
30	鉄製品 鉄鏃	長 [14.0] 幅 0.9 重 [6.7]	長距離。鏃身は柳葉式の片丸造りで側は直角。厚さ 2.5 mm。断面は長方形で、幅 4.0～5.0 mm。横溝無。基は上端部を欠損。	7.5YR7/4 に近い橙	鉄質	№ 2 33.5	胴下部の み欠損
31	鉄製品 鏃	長 11.3 厚 2.3 重 22.1	内は全体的に硬やかな丸みをもち、先端部で丸みを明瞭。刃部は平直りで大きく鋭角属する。基部は浅くくの字に曲がる。面子幅 3.0 mm。幅は約 3.0 mm。	5Y5/1 灰	粘砂質	№ 40 20.1	部分 欠損
32	石製 器 臼玉	径 17～18 厚 0.47～0.87 孔 Ø33～0.36 重 2.8	表面は未加工。裏面孔周辺に小さな窪み。大きな段差あり。突出した部分にのみ若干の磨損を認む。側面位置または斜位の粗い磁質により丸みを帯びる。孔の内面に段差あり。	5Y5/1 灰	粘砂質	№ 40 20.1	部分 欠損

第3章 発見された遺構と遺物

33	石製模造品 白玉	径 1.4～1.6 厚 0.25～0.75 孔 0.34～0.35 重 2.0	表面は明開面より研磨。裏面はキメの細かい研磨。孔周辺に大きな剥離。側面は粗い研磨を施すが、切肉痕を残す。側面はやや丸みを帯びる。	5Y5/1 灰	粘板岩	No 44 20.0	完存
34	石製模造品 白玉	径 1.5 厚 0.82～0.95 孔 0.33～0.37 重 2.5	表面研磨。裏面は一部に研磨あり。側面と似た粗い研磨のみあり。側面は粗い研磨により丸みをもつ。孔片面から穿孔したもののか。	5Y6/2 灰オリーブ	滑石	No 41 16.直	完存
35	石製模造品 白玉	径 2.8～2.5 厚 0.25～0.31 孔 0.28～0.3 重 0.9	表面は明開面（自然面・研磨面か）を一部残す。裏面は加工。研磨したものと考えられる。側面は粗い研磨を施すか切肉痕残る。若干丸みを帯びる。	5Y5/1 灰	粘板岩	No 42 36.2	完存

3区 SI-12（遺構：第49図、遺物：第48図、図版六・八三）

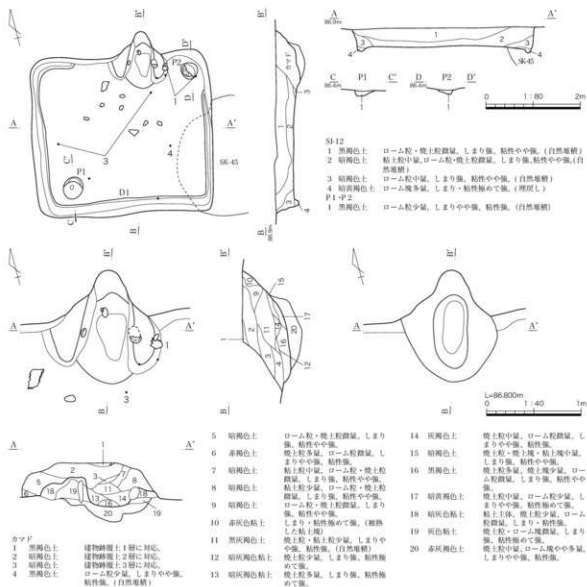
位置 グリッド 90.0-51.5・90.0-52.0・90.5-51.5・90.5-52.0 重複遺構 SK-45 より新しい。平面形 隅丸方形 規模 東西3.74 m以上×南北3.40 m 主軸方向 N-9°-E 覆土 いずれも自然堆積か。壁 壁高は36～43 cm残存。床 ローム地山。若干の凹凸あるが概ね平坦。柱穴・入口ピット・貯蔵穴 確認できなかった。ピット P1（径49×42 cm、深さ18 cm）、P2（径35×35 cm、深さ9 cm）はいずれも浅く性格不明。壁溝 D1（幅5～17 cm、深さ8 cm）は壁際3/4の範囲に確認。カマド 北壁中央やや東寄り、張りの弱い凸字形に掘り込む。煙道の立ち上がりは50°。袖出土礫は芯材か。遺物 1は床直出土の須恵器片。4・5は支脚かカマド芯材の礫か。不掲載遺物は礫主体（重量6.3 kg）。その他遺物は裏胴部破片が主で、小コンテナ箱 1/3 程度。平安時代中葉の建物跡と考えられる。



第48図 西刑部西原遺跡3区 SI-12 出土遺物

第13表 3区 SI-12 出土遺物観察表

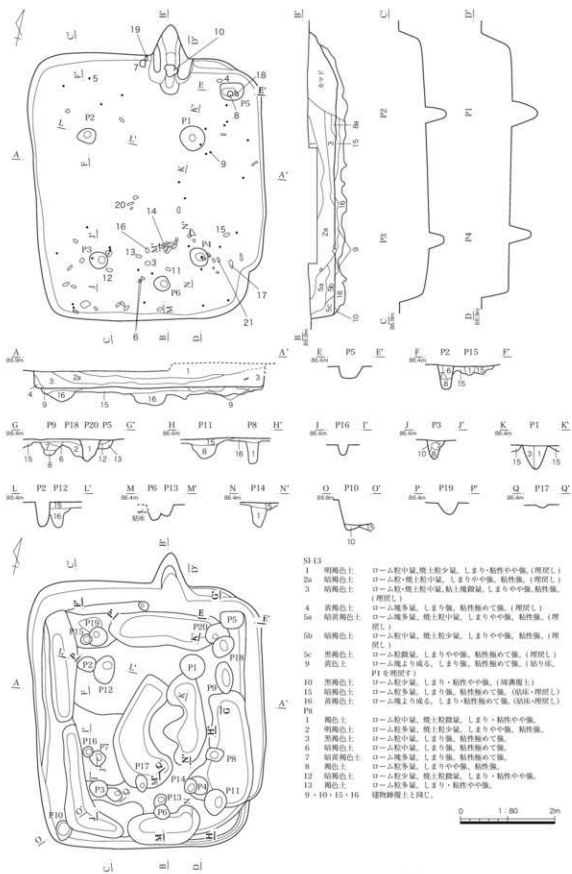
掲載番号	部種	法量(m/g)	技法・特徴	色調	粘土・素材・装成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 坏	口 12.5 径 (6.8) 高 3.7	内外面口クロナデ。底部外面部施ヘラケズリのみナデ。益子産（産ノ久・倉見沢産）。	内外面とも 7.5Y4/1 灰	中々粗い。白粗砂～礫 装成：中々破質	No 6・10・ K18. カマド 床底 (No.6)	口縁部 1/2。底部 1/3。
3	須恵器 坏	口 (12.5) 高 (2.6)	内外面口クロナデ。	内外面とも 7.5Y5/1 灰	中々緻密。白粗砂～礫 装成：破質	No 1. カマド 35.2	口縁部破片 1/6
3	土師器 片	高 (3.1)	口縁部内外面口クロナデ。口縁部ツマミ上げ。常態帯 装の口縁部破片。	内外面とも 5Y8/4 に 近い赤褐色	粗い。白・透明粗砂～礫。 赤色粒。雲母片 装成：中々破質	No 5 口縁部破片 床上	口縁部破片
4	石製 輪物石	長 24.8 幅 11.6 厚 5.7 重 2419.0	表面上部黒色付着物（スズ）あり。 平面形：楕円形 断面形：不整な楕円形	7.5Y1/3 オリーブ黒	—	No 19 23.1	完存
5	石製 輪物石	長 23.4 幅 10.7 厚 8.4 重 2890.0	スズ及び褐色付着物（漆か）あり。 平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸三角形	10R3/3 明赤色	—	No 20 22.7	完存



第49図 西刑部西原遺跡3区 SI-12実測図

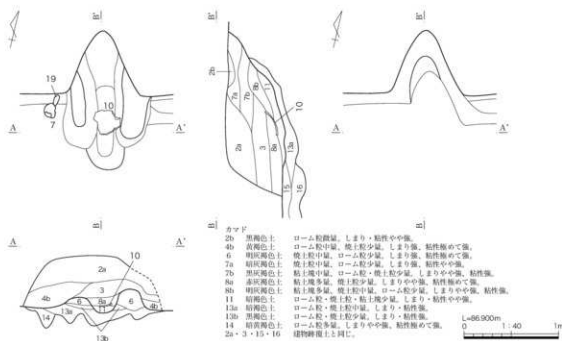
3区 SI-13 (遺構：第50・51図、遺物：第52・53図、図版六・八三)

位置 グリッド91.0-51.5・90.5-51.5 重複関係 同一建物内で複数回(3時期か)の建替えあり。平面形 東部に若干の張り出しをもつ隅丸長方形。東西4.8×南北5.54m。主軸方向 N-16°-E 覆土 暗褐色土主体とし、人為埋戻しと考えられる。壁 壁高35～56cm。床 概ね平坦で硬化面は未確認。全面が貼床。柱穴 主柱穴はP1(径54×42cm、深さ49cm)、P2(径40×32cm、深さ51cm)、P3(径40×29cm、深さ37cm)、P4(径42×23cm、深さ45cm)である。以下床下から確認されたビットは、P7(径34×30cm、深さ14cm)、P8(径40×35cm、深さ55cm)、P9(径67×39cm、深さ34cm)、P10(深さ13cm)、P11(径58×42cm、深さ41cm)、P12(径60×32cm、深さ41cm)、P14(径57×29cm、深さ43cm)、P15(径23cm、深さ19cm)。P16(径22cm、深さ13cm)、P18(径71×52cm、深さ47cm)、P19(径42×33cm、深さ24cm)、P20(径50×40cm、深さ43cm)がある。位置的にはP7・P8・P15・P18が対応する可能性が高いが、その他のビットの対応関係は明確に把握できなかった。入口ビット P6(径

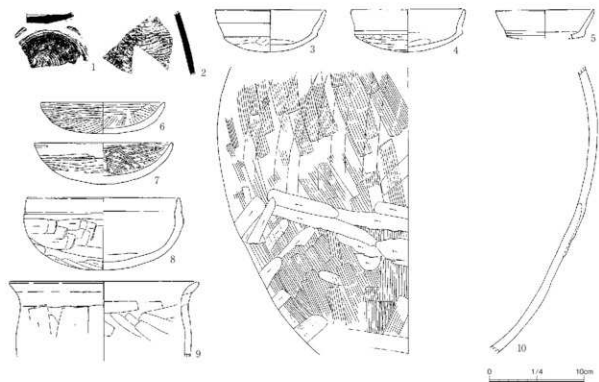


- SI-13
- 1 褐色土上 コーム粒中量、焼土粒少量、しまり・粘性中強。(埋戻し)
 - 2a 暗褐色土上 コーム粒・焼土粒中量、しまり中強、粘性強。(埋戻し)
 - 3 暗褐色土上 コーム粒・焼土粒中量、粘土層隙状、しまり中強、粘性強。(埋戻し)
 - 4 黄褐色土上 コーム多量、しまり強、粘性極めて強。(埋戻し)
 - 5a 暗褐色土上 コーム多量、焼土粒中量、しまり中強、粘性強。(埋戻し)
 - 5b 暗褐色土上 コーム粒中量、焼土粒少量、しまり中強、粘性強。(埋戻し)
 - 5c 黒褐色土上 コーム粒微量、しまり中強、粘性極めて強。(埋戻し)
 - 9 黄色土上 コーム焼より成る、しまり強、粘性極めて強。(陥り坑、P1を埋戻す)
 - 10 黒褐色土上 コーム粒少量、しまり・粘性中強。(埋戻覆土)
 - 15 暗褐色土上 コーム粒少量、しまり強、粘性極めて強。(灰坑・埋戻し)
 - 16 黄褐色土上 コーム焼より成る、しまり・粘性極めて強。(灰坑・埋戻し)
 - P8 褐色土上 コーム粒中量、焼土粒微量、しまり・粘性中強。
 - 1 褐色土上 コーム粒中量、焼土粒微量、しまり・粘性中強。
 - 2 明褐色土上 コーム粒多量、焼土粒少量、しまり中強、粘性強。
 - 3 暗褐色土上 コーム粒少量、しまり強、粘性極めて強。
 - 4 暗褐色土上 コーム粒中量、しまり強、粘性極めて強。
 - 5 暗褐色土上 コーム焼多量、しまり強、粘性極めて強。
 - 6 暗褐色土上 コーム焼多量、しまり強、粘性極めて強。
 - 7 暗褐色土上 コーム焼多量、しまり強、粘性極めて強。
 - 8 褐色土上 コーム粒多量、しまり中強、粘性強。
 - 12 暗褐色土上 コーム粒少量、焼土粒微量、しまり・粘性中強。
 - 13 褐色土上 コーム粒多量、しまり・粘性中強。
 - 9・10・15・16 建物跡覆土と同じ。

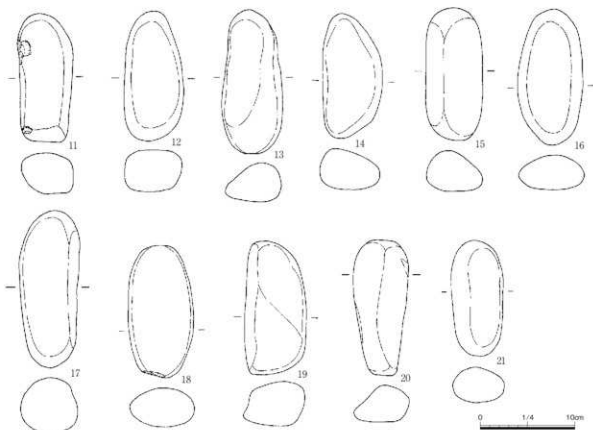
第50図 西刑部西原遺跡3区 SI-13実測図(1)



第51図 西刑部西原遺跡3区 SI-13実測図(2)



第52図 西刑部西原遺跡3区 SI-13出土遺物(1)



第53図 西刑部西原遺跡3区 SI-13出土遺物(2)

第14表 3区 SI-13出土遺物観察表

発掘番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	現存
1	須恵器 高台付 坏	高 [0.9]	底部外面に旋糸切りのちり間四角にヘラケズリ。高台面付口のちりコナナデ。高台部割断。接合伏線あり。器人品。	内：2.5Y6/2 灰黄 外：5Y7/2 灰白	織物、黒細砂、白砂 焼成：硬質	覆土中	底部1/3
2	須恵器 甕	厚 0.3	内面同心円状あて貝痕。外面平行甲きのちりキ目あるが、外面自然磨付着のため不明瞭。	内：10Y5/1 灰 外：10Y4/2 オリーブ灰	織物、白練、シミ状の黒色粒、白色粒 焼成：硬質	覆土中	断面破片
3	土師器 坏	口 11.4 高 4.4	内面全面及び口縁部外面ヨコナデ。底部内面ナデ。体外面ヘラケズリ。内面及び口縁部外面上半部仕上げ。体外面自然磨面着。	内：10Y8/2 灰白 外：7.5Y8/1 灰白	中々織物、細砂、微量の黒色粒、石具粒 焼成：中々軟質	№73 9.8	現存
4	土師器 坏	口 (11.8) 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体外内面ナデ。体外面ヘラケズリ。内面及び口縁部外面仕上げ。	内：7.5Y8/2 灰白 外：2.5Y7/2 灰黄	中々織物、白・黒粗砂 焼成：中々軟質	№53、覆土中 5.2	口縁部1/3、 体部～底部 1/2
5	土師器 坏	口 (10.4) 高 [2.8]	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部外面下端部沈線状。体部(底部)外面多方向ヘラケズリ。内面及び口縁部外面仕上げ。	内外面とも 10Y8/4 に 近い赤褐色	中々織物、黒粗砂、赤色粒 焼成：軟質	№55・58 9.9 (№ 58)	口縁部1/4、 体部～底部 1/2
6	土師器 坏	口 (12.9) 高 3.3	内面全面ヘラミガキ。口縁部外面ヨコナデのちへラミガキ。体外外面～底部外面ヘラケズリのちへラミガキ。口縁部内外面に僅かに黒～暗褐色の部分あり。	内外面とも 5Y8/5 に 近い赤褐色	中々織物、白細砂、赤色粒、雲母鱗片 焼成：中々軟質	№62 52.5	口縁部1/3、 体部～底部 1/2
7	土師器 坏	口 14.4 高 4.4	内面中細めの不定方向ヘラミガキ。口縁部外面ヨコナデ。体外外面ヘラケズリ(又はヘラナデか)のちや中細らなヘラミガキ。器面全面が黒色を呈する。底部外面使用による磨面が顕著。	内：10Y3/1 オリーブ黒 外：7.5Y3/1 オリーブ黒	中々織物、白練、黒細砂、白色粒、赤色粒、極めて微量の白色針状物 焼成：中々硬質	№80 床直	口縁部～底 部1/3
8	土師器 甕	口 (15.8) 高 7.7	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体外外面多方向ヘラケズリ。底部外面一方向ヘラケズリ。	内：7.5Y8/7 暗 外：10Y8/4 淡黄褐色	中々織物、赤色粒、微量の石具粒・白色粒 焼成：中々軟質	№81 9.4	口縁部～体 部1/3、底 部現存

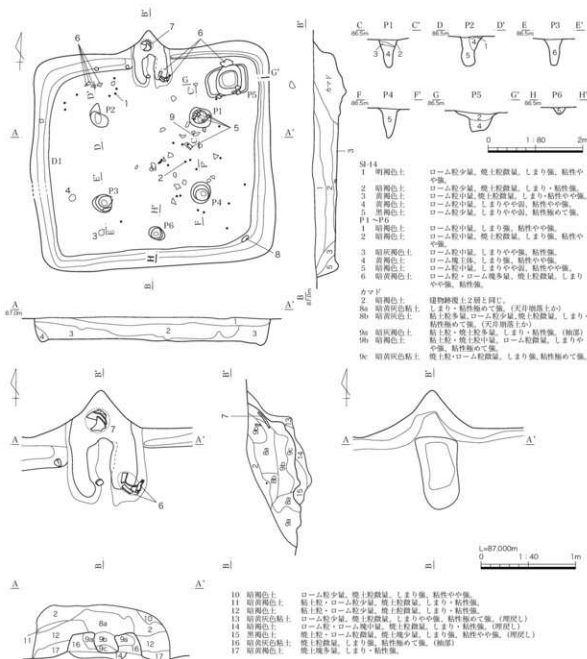
9	土師器 甕	口 (19.8) 高 [9.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテ色ヘラケズリ。胴部内面ナデ及びヘラナデ。口縁部に明瞭な輪積面を有す。	内：7.5YR6/6 橙 外：2.5Y5/3 黄褐	粗い、粗砂～砂、白色粒、赤色粒 焼成：軟質	№ 78 24.2	口縁部～胴部 上半 1/4
10	土師器 甕	径 (40.0) 高 [30.5]	内面磨耗のため調整不備。胴部外面縦色及び肩付のハケ割れの中位はヘラケズリ及びヘラナデ。上半部は非常に強いタテヘラナデ。器面（特に内面）は甚熟著しく磨滅している。	内外面とも 5YR6/4 に近い 黄	やや粗い、軽石色の白濁、白色粒、石炭粒、黒色ガラス質粒、細砂粒 焼成：やや軟質	K1 1.3	胴部 1/4
11	石器 編物石	長 13.4 幅 5.5 厚 4.2 重 502.2	左側面及び下端破面に剥離面あるいは敲打痕あり。	2.5Y7/2 灰黄	—	№ 64 26.4	完存
12	石器 編物石	長 13.5 幅 6.0 厚 4.3 重 530.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：隅丸方形	2.5YR/3 淡黄	—	№ 2 32.9	完存
13	石器 編物石	長 15 幅 5.9 厚 4.0 重 597.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：隅丸三角形	5Y7/2 灰白	—	№ 10 8.1	完存
14	石器 編物石	長 12.8 幅 6.3 厚 4.0 重 553.0	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：不整な楕円形	10Y6/1 灰	—	№ 69 床直	完存
15	石器 編物石	長 13.8 幅 5.9 厚 4.2 重 576.7	未加工の自然礫。 平面形：楕形 断面形：不整な方形	2.5Y7/1 灰白	—	№ 44 床直	部残
16	石器 編物石	長 14.2 幅 6.9 厚 3.5 重 538.2	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	10YR5/1 暗灰	—	№ 66 1.6	完存
17	石器 編物石	長 16.4 幅 6.0 厚 5.7 重 915.7	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：不整な円形	2.5Y6/3 に近い黄	—	№ 42 0.6	完存
18	石器 編物石	長 15 幅 6.7 厚 4.0 重 568.0	上端部、下端部破面に剥離面、あるいは敲打痕あり。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	5G7/1 明オリブ灰	—	№ 82 10.2	完存
19	石器 編物石	長 14.0 幅 6.5 厚 4.6 重 695.5	未加工の自然礫。 平面形：隅丸長方形 断面形：隅丸長方形	7.5Y7/2 灰白	—	№ 85 6.7	完存
20	石器 編物石	長 14.2 幅 3.8 厚 3.8 重 485.0	未加工の自然礫。表面黒色の付着物あり。 平面形：楕円形 断面形：隅丸三角形	7.5Y5/2 灰オリブ	—	№ 24 27.2	三角
21	石器 編物石	長 12.2 幅 5.4 厚 3.8 重 389.7	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	2.5Y6/3 に近い黄	—	№ 41 床直	完存

35～31 cm、深さ 32 cm) は床面から確認。P13 (径 53～27 cm、深さ 33 cm)、P17 (径 36～18 cm、深さ 6 cm) は張床下から確認された旧時期の入口ピットか。貯蔵穴 P5 (長軸 53×短軸 33 cm、深さ 19 cm) は北東コーナーにある。壁溝 南東コーナー付近の床下から一部確認されたが、浅く不明瞭。掘方 壁際を土坑状に掘り込む。20～30 cmの深さをもつ。カマド 北壁中央部やや東寄りの壁をV字形に掘り込む。煙道の立ち上がりは 40°である。袖などには明灰褐色粘土を使用する。燃焼部は焼土粒子を多く含む 13a 層で埋戻される。10 は極めて強く被熱した大型の土師器裏破片。カマド芯材に転用されたものか。遺物 計 21 点を図示した。土師器環・埴・甕・多量の礫・編物石などで、その殆どが覆土層から中層にかけて出土した。床面直上の土器は 7 の土師器環のみである。不掲載遺物の総量は小コンテナ 1 箱弱。礫の重量は 15 kg と本調査区内で最も多い。1 は混入品か。遺物から古墳時代終末期 (7 世紀後半) の住居跡と考えたい。

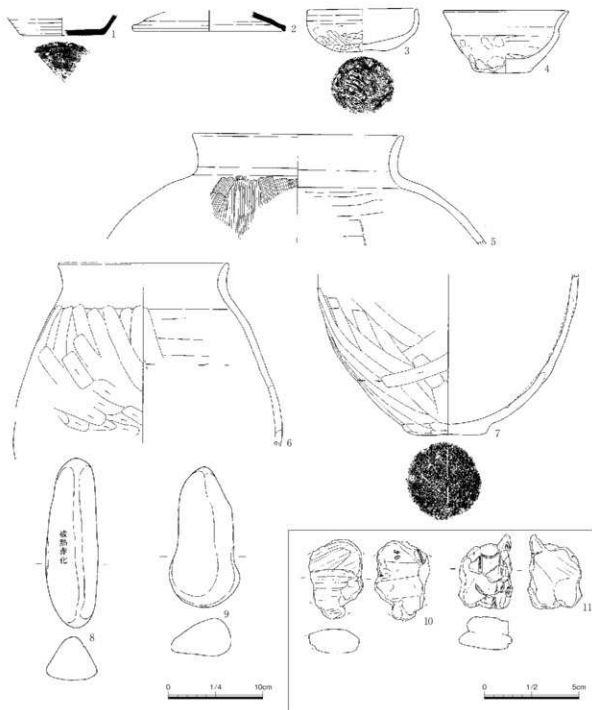
3区 Si-14 (遺構：第 54 図、遺物：第 55 図、図版七・八三)

位置 グリッド 91.5-52.0・91.5-51.5 重複遺構 無し。平面形 隅丸方形 規模 東西 4.98×南北 4.59 m 主軸方向 N-3.5°-W 覆土 自然堆積 壁 壁高 42～53 cm 床 やや細かな凹凸を有する。柱

穴 P1 (径60～54 cm、深さ59 cm)、P2 (径50～27 cm、深さ59 cm)、P3 (径40 cm、深さ55 cm)、P4 (径42 cm、深さ62 cm)。入口ピット P6 (径31～27 cm、深さ15 cm) 貯蔵穴 P5 (長軸89×短軸62 cm、深さ45 cm)。壁溝 D1 (幅20～38 cm、深さ4～8 cm)、はカマドを除く建物跡壁際を巡る。カマド北壁中央部を裾の広がる山形に掘り込む。煙道は垂直に立ち上がった後、くの字に傾斜する。遺物 須恵器環・蓋類、土師器環・環、編物石などが出土。3・4・6・8が床面直上。3の土師器環は底部外面に静止糸切りがみられる。不掲載遺物は小コンテナ約1/2箱で、礫の総重量は3.2 kgである。遺物から古墳時代終末期の建物跡と考えられる。



第54図 西刑部西原遺跡3区 SI-14実測図



第55図 西刑部西原遺跡3区 SI-14出土遺物

第15表 3区 SI-14 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(m/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵器 坏	底 8(0) 高 2(0)	ロクロナデ。体部外面下部回転ヘラケズリ。底部外面回転ヘラツリ。ちね道回転ヘラケズリ。混入品。	内外面とも 5Y5/1 灰	網罟、白磁砂、白色粘りや多量、黒色粘り少量 焼成：破質	No 18 25.9	底部1/5 体部一部
2	須恵器 高	口 15(8) 底 2(0)	ロクロナデ。口縁端部に明瞭な沈線あり。混入品。	内外面とも 5B4/1 明青灰	網罟、白磁砂 焼成：破質	No 26 30.3	口縁部 1/8
3	土師器 坏	口 11.3 底 4.0-4.5 高 4.5	口縁部外面～内面全面ヨコナデ。体部外面上下ナデ。口縁部内面、下部ヘラケズリ。底部外面静止水切り。ちね道周辺ヘラケズリ。内外面ほぼ全面に漆仕上。	内外面とも 7.5Y6/ 橙	やや磁罟、白磁、白色粘り、赤色粘り、赤煤 焼成：やや軟質	No 49 床底	口縁部一部欠損
4	土師器 埴	口 13.2 底 5.8-6.6 高 6.6	口縁部外面内面全面及びヨコナデ。底部内面ヘラナデ。体部外面指節押圧・ユビナデ。底部外面無調整。	内：10YR7/6 明黄褐色 外：10YR8/4 浅黄褐色	粗い、白・透明・灰黒砂り～硬、黒色粘り 焼成：やや軟質	No 50 床底	口縁部1/2、底部定存、製部3/4
5	土師器 ハケ調整 埴	口 6(2) 高 11(3)	口縁部内外面ヨコナデ。製部外面タテハケ目。製部内面横方向のヘラナデ。大型の埴。製部最大径40cm以上。	内：7.5Y2/1 黒 外：10YR8/4 に近い黄褐色	やや磁罟、砂粘り、白色粘りや多量、石炭粘り量、白色非粘土物量 焼成：やや軟質	No 40・59・ 61・62 2.8 (No 40)	No 40・59・ 1/4、製部 上半1/10
6	土師器 高	口16.5-17.0 高 18(0)	口縁部内外面ヨコナデ。製部外面上半部ナメヘラケズリ。ちね道ヘラナデ。外面下半部は斜位のケズリまたは斜位のナデか、内面横位のヘラナデ。側面の約50%に赤変か所が認められる。	内：10YR6/6 明黄褐色 外：7.5YR6/6 橙	やや磁罟、白磁、砂粘り少量、長石粒、石英粒 焼成：軟質	No 48・52・ 61・62 床底 (No 52・ 68・71・73)	口縁部一側 2/3、底部 定存
7	土師器 埴	径 27.6 高 8.0 厚 11(7)	内面底流溝溝で調整不明。製部外面ヘラケズリ。ちね道ナメヘラナデ。輪縁み体止道ヘラケズリで成形。下端部ヘラナデ。外面ほぼ全面にスス付着。一部に炭化物付着。	内：5YR6/8 橙 外：5YR6/6 橙	やや磁罟、白・灰・黒磁砂り、灰・黒粘り、白色粘り、灰色粘り、赤色粘り 焼成：やや軟質	No 72 24.0	胴下部 2/3、底部 定存
8	石器 編物石	長 17.8 幅 5.4 厚 4.4 重 552.0	未加工の自然礫。表面を中心に焼熟赤化。平面形：楕円形 断面形：隅丸三角形	10YR6/4 に近い黄褐色	—	No 33 床底	定存
9	石器 編物石	長 14.5 幅 6.4 厚 3.9 重 534.0	未加工の自然礫。平面形：楕円形 断面形：隅丸三角形	2.5Y6/2 灰黄	—	No 56 4.4	定存
10	焼成粘 土塊	長 4.2 幅 2(7) 厚 1.3 重 10.2	表面ナデ。裏面僅かなワラ圧痕。比較的頁状粘土系素材とする。両側縁は折損したと考えられる。表面・裏面ともレンズ状に丸みをもつ。	5YR7/6 橙	やや磁罟、赤色粘り、小砂粒、ワラ 焼成：軟質	覆土中	一部欠損
11	焼成粘 土塊	長 3.8 幅 2.7 厚 1.7 重 10.6	表面・裏面にワラ圧痕多量。裏面ナデか。胎土は混入物が多いため不明。	10YR8/4 浅黄褐色	粗い、赤色粘り、白色粘り、砂粘り、ワラ 焼成：軟質	覆土中	一部欠損か

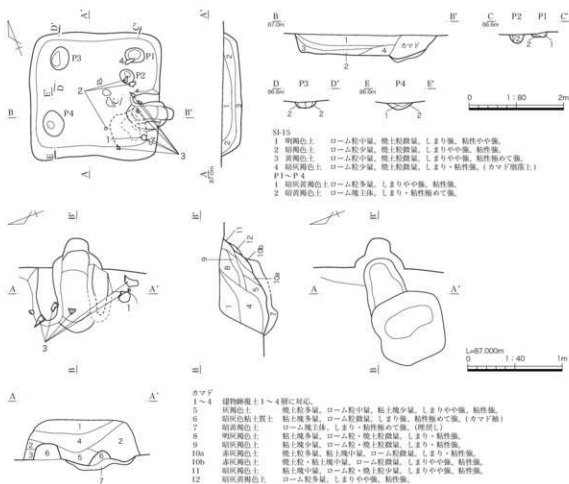
3区 SI-15 (遺構：第56図、遺物：第57図、図版7)

位置 グリッド 91.5・51.5 重複遺構 無し。平面形 隅丸正方形 規模 一辺 2.8 m 主軸方向 N-110.5° - E 覆土 自然堆積か。壁 壁高 26 ~ 42 cm、北部がやや浅い。床 細かな凹凸多いが概ね平坦。柱穴・入口ピット・貯蔵穴 未確認。P1 (径 40 ~ 29 cm、深さ 9 cm)、P2 (径 30 cm、深さ 18 cm)、P3 (径 47 ~ 38 cm、深さ 12 cm)、P4 (径 54 ~ 43 cm、深さ 12 cm) は掘り込みも浅く床下掘りの可能性もある。

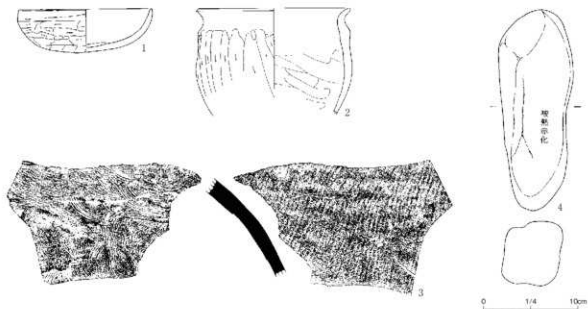
壁溝・掘方 未確認。カマド 東壁中央部やや南寄りをも字状に掘り込む。煙道の立ち上がりは約 50°。火床面は浅く掘り込み、ローム土で埋戻している。袖は灰色粘土主体。遺物 土師器坏・炭類、須恵器甕、編物石などが覆土中より出土。3の須恵器甕胴部には焼成前のヘラ描きが認められる。床面直上遺物はない。不掲載遺物は土師器小破片主体で、小コンテナ箱 1/3 程度。礫の重量は 3.0 kg。古墳時代終末期の建物跡か。

第16表 3区 SI-15 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(m/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	土師器 坏	口 127 ~ 146 高 4.6	内面全面及び口縁部外面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。底部外面ヘラケズリ。ちね道、口縁部外面及び体部上半一部に漆残存。口縁部赤みあり。	内：5YR6/6 橙 外：5YR7/8 橙	やや磁罟、白磁、黄砂粘り、白色粘り、赤色粘り 焼成：やや軟質	No 15 8.6	口縁部～体部 3/4
2	土師器 高	口 115(9) 高 11(3)	口縁部内外面ヨコナデ。製部内面ナメヘラナデ。製部外面ナメヘラケズリ。製部上半一部に黒泥及び僅かな赤変が認められる。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや磁罟、白・灰・黒磁砂り 焼成：やや軟質	No 2・3・14 5.4 (No 14)	口縁部 1/3、製部 上半 1/2
3	須恵器 埴	厚 12(0)	内面口の細かい同心円状痕が良好。外面平行叩きのちね道。外面に焼成前のヘラ描きがあるが浅く不明瞭。	内：10Y5/1 灰 外：N4/0 灰	網罟、白磁砂 焼成：破質	No 4・5・6・ 9・10・13 5.4 (No 13)	両側部
4	石器 編物石	長 21.2 幅 6.7 厚 6.8 重 1670.1	焼熟による赤化部分が多い。平面形：楕円形 断面形：隅丸方形	2.5YR4/8 赤褐色	—	No 1 33.3	定存



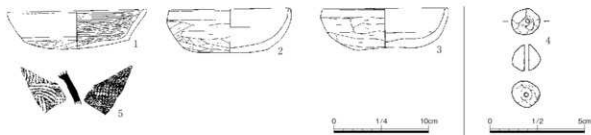
第56図 西刑部西原遺跡3区 SI-15実測図



第57図 西刑部西原遺跡3区 SI-15出土遺物

3区 SI-16 (遺構：第59図、遺物：第58図、図版七・八・八三・八四)

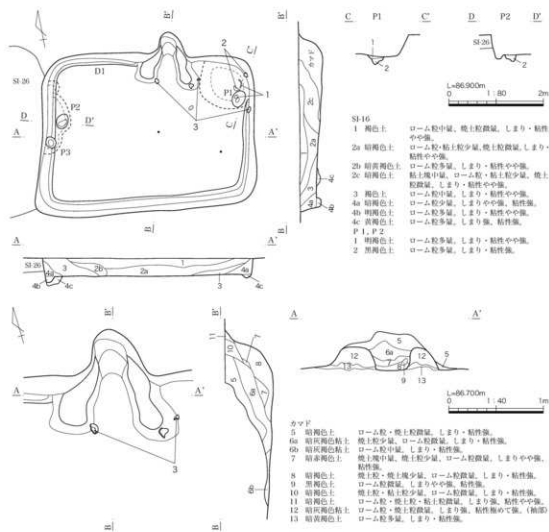
位置 グリッド90.50-51.0 重複遺構 古墳時代終末期の住居跡SI-26より新しい。平面形 隅丸長方形
規模 東西4.5×南北3.4m 主軸方向 N-12°-E 覆土 褐色土及び暗褐色土主体の自然堆積と考えられる。壁 壁高33～46cm 床 ローム面を地山としほぼ平坦。硬化面は未確認。柱穴・入口ピット・貯蔵穴 確認できなかった。ピット P1(径36～26cm、深さ16cm)、P2(径33～25cm、深さ14cm)。P3があるが、柱穴かどうかは不明瞭。壁溝 D1(幅18～22cm、深さ5cm)は北東コーナーを除き壁際に掘られる。掘方 北東隅に深さ15cmほどの浅い掘り込みあり。カマド 北壁中央部やや東寄りに作られる。煙道部はやや不整なU字状に掘り込み、立ち上がりの角度は73°である。ローム地山を火床面とし、焼土の量はやや少ない。遺物はカマド床面から3の土師器環が出土する。遺物 覆土中から土師器環・甕類を中心に少量が出土、うち5点を図示した。1は床面直上出土の土師器環。外反口縁で、内面は入念なヘラミガキのち黒色処理を施している。4は漆仕上げの土玉である。不掲載遺物は土師器環・甕類を中心に小コンテナ箱2/5程度、礫は300gである。奈良時代前葉(8世紀前葉)の建物跡か。



第58図 西刑部西原遺跡3区 SI-16 出土遺物

第17表 3区 SI-16 出土遺物観察表

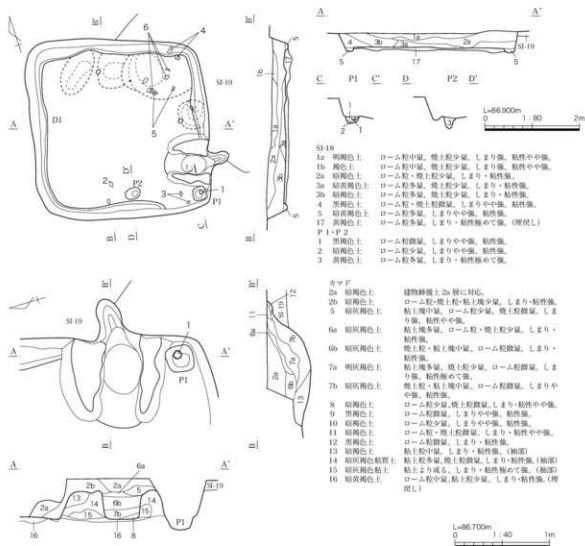
図版番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	現存
1	土師器環	口 14.3 高 4.0	口縁部外面ヨコナデ。内面ヘラミガキのち黒色処理。体部外面ヘラケズリ。	内外面とも10YR7/4にふい黄褐色	中・中硬密。白・灰・細砂。白・黒砂 焼成：中・中硬質	No.3 床直	ほぼ完存
2	土師器環	口 12.8 高 4.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。平底に近い。	内外面とも10YR7/4にふい黄褐色	中・中硬密。白・黒細砂。赤鉄。黒砂 焼成：中・中硬質	No.4-6 4.5 (No.4)	ほぼ完存
3	土師器環	口 13.0 高 4.2	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面～底部外面ヘラケズリ。体部～底部内面ヘラナデか。	内：10YR5/3にふい黄褐色 外：7.5YR7/6橙	中・中硬密。赤鉄 焼成：中・中硬質	No.7・カマド No.9・カマド No.10 No.11	ほぼ完存
4	土製品土玉	径 1.5 厚 1.4 孔 0.2～0.25 重 1.9	不整な球状を呈する土製玉。器面はヘラナデ整形のち漆仕上げ。孔径は2.0～2.5mm。ほぼ円形で黄面から剥突する。	2.5Y5/1 黄灰	中・中硬密。白細砂 焼成：中・中硬質	北側表探	完存
5	須恵器甕	高 [3.7] 厚 1.0	内面同心円状又は貝殻。外面格子明き。カキ目あり。直入品か。	内：7.5Y5/1 灰 外：7.5Y4/1 灰	細密。白細砂 焼成：硬質	覆土中	胴部破片



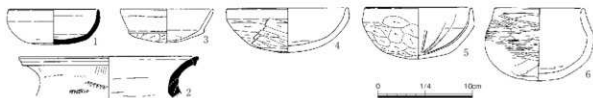
第59図 西刑部西原遺跡3区 SI-16実測図

3区 SI-18 (遺構：第60図、遺物：第61図、図版八・八四)

位置 グリッド 90.0-51.0・89.5-51.0 重複遺構 古墳時代終末期のSI-19より新しい。平面形 隅丸方形 規模 一辺約3.7m 主軸方向 N-114°-E 覆土 自然堆積 壁 壁高は30~40cm残存。床 全面貼床で概ね平坦。ピット P2 (径32~23cm、深さ24cm)は入口ピットか。貯蔵穴 P1 (一辺27cm、深さ13cm)。覆土中から1の須恵器坏出土。壁溝 D1 (幅10~23cm、深さ5cm)は南壁東部を除き壁際を巡る。掘方 北壁際を中心に深さ10cm前後の土坑状の掘り込みあり。カマド 東壁の南東コーナー付近に位置し、煙道をU字状に掘り込む。袖は灰褐色粘土で構築する。遺物 5・6は床面直上出土。不掲載遺物は小コンテナ1/3程度と少ない。古墳時代終末期の建物跡と考えたい。



第60図 西刑部西原遺跡3区 SI-18実測図



第61図 西刑部西原遺跡3区 SI-18出土遺物

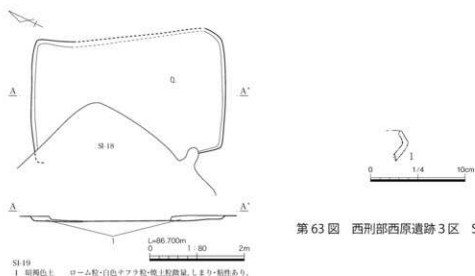
第18表 3区 SI-18 出土遺物観察表

図録番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 埴	口 9.4 高 3.7	内外面ロクロナデ。体部外面下縁～底部外面回転ヘラケズリ。	内：2.5Y7/2 灰黄 外：2.5Y7/1 灰白	やや緻密。細砂粒。灰白 礫、白色粒 焼成：やや硬質	No.14 89.1	口縁部一部 欠損
2	須恵器 甕	口 (18.4) 高 [14.4]	口縁部～頸部ロクロナデ。頸部はタケカキ白のちヨコナデ。深い平行叩きの一部が見られる。頸部内面の接合部研削。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：10YR6/1 粗灰	やや緻密。白・灰・黒 細砂、灰礫 焼成：やや硬質	No.11 16.4	口縁部 1/6
3	土師器 埴	口 9.6 高 3.5	口縁部外面及び内面全面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。内面全面及び口縁部外面塗仕上げ。	内外面とも 7.5YR8/4 浅 黄緑	粗砂、細砂粒、赤色粒 焼成：やや軟質	No.8・9 4.0 (No.8)	ほぼ完存
4	土師器 埴	口 12.6 高 4.6	口縁部外面及び内面全面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。底部内面ナデ。口縁部内外面及び体部一部塗仕上げ。	内外面とも 7.5YR7/6 粗 黄緑	粗砂、微砂粒、赤色粒 焼成：やや軟質	No.5・6 5.1 (No.6)	完存
5	土師器 埴	口 11.2 高 5.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面～底部内面ナデ。体部外面～底部外面ヘラケズリ。内面には焼成前の放射状の沈痂あり。口縁部外面の一部に塗残る。	内外面とも 7.5YR8/4 浅 黄緑	やや緻密。灰砂、赤色粒 焼成：やや軟質	No.2・15・ 16 床底 (No.15)	口縁部 2/3
6	土師器 鉢	口 (9.2) 底 11.5 高 7.7	内面全面ヨコナデ。口縁部外面ヨコナデのちチナメヘラミガキ。体部外面ヨコヘラケズリのちヨコヘラミガキ。内面全面及び体部上平塗仕上げ。	内外面とも 7.5YR7/6 粗 黄緑	やや緻密。白・灰・黒 砂、黒砂、赤色粒 焼成：やや硬質	No.2・4 床底 (No.3-4)	口縁部 1/4

3区 SI-19 (遺構：第62図、遺物：第63図)

位置 グリッド 90.0-51.0・89.5-51.0 重複遺構 古墳時代終末期の建物跡 SI-18 に切られる。平面形不整な隅丸長方形 規模 東西 2.5×南北 4.1m 主軸方向 N-26°-W 覆土 暗褐色土 1層からなる。

自然堆積か。壁 壁高 6～10cm 床 概ね平坦で貼床無し。硬化面は未確認。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝・カマド・掘方 確認できなかった。遺物 在地産土師器製の胴部破片や環破片が少量出土。図示可能な 1 点を掲載した。不掲載遺物の総量は小コンテナ箱 1/3 程度、礫 0.6 kg である。遺物から古墳時代後期～終末期の建物跡と考えられるが、柱痕なども見られず、不明瞭な点も多い。



第62図 西刑部西原遺跡3区 SI-19 実測図

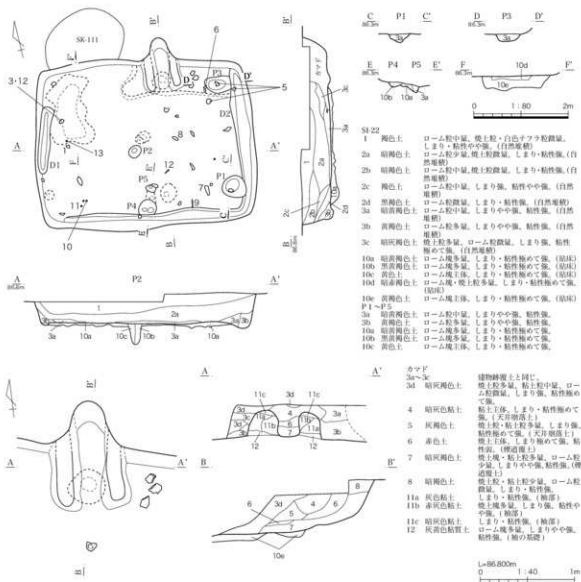
第63図 西刑部西原遺跡3区 SI-19 出土遺物

第19表 3区 SI-19 出土遺物観察表

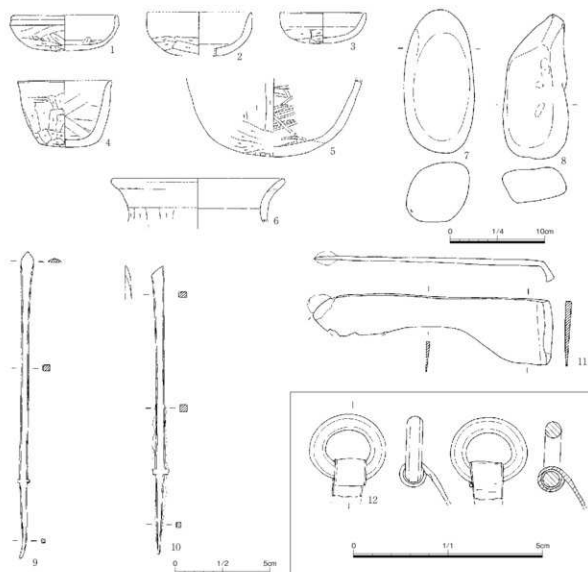
図録番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	土師器 埴	高 1.7	口縁部内外面ヨコナデのち塗仕上げ。体部外面ヘラケズリ。	内：7.5YR6/6 粗 外：7.5YR7/6 粗	やや緻密。透明・白・灰・ 黒細砂～粗砂、赤色粒 焼成：軟質	覆土中	口縁部破片

3区 SI-22 (遺構：第64図、遺物：第65図、図版八・九・一一二・一一三・一一五)

位置 グリッド 89.5-51.0・89.5-51.5・90.0-51.0・90.0-51.5 重複遺構 SK-111より新しい。平面形 隅丸長方形 規模 東西4.60×南北3.65 m 主軸方向 N-12°-E 覆土 自然堆積 壁 壁高は41～68 cm。床 ほぼ全面が貼床で、若干の凹凸あり。硬化面は未確認。ピット P1 (径48 cm、深さ15 cm)、P2 (径26 cm、深さ42 cm)があるが、柱穴かは不明。入口ピット P4 (径37～32 cm以上、深さ11 cm)、P5 (径21～16 cm、深さ15 cm)。貯蔵穴 P3 (長軸54×短軸34 cm、深さ26 cm) 壁溝 D1 (幅21～25 cm、深さ12 cm)、D2 (幅27～38 cm、深さ5 cm)。掘方 全体に小さな凹凸あり。北西部に土坑状の掘り込みあり。カマド 北壁中央部をU字状に掘り込む。煙道の立ち上がりは65°。焼土が多く、長期間使用されたものか。遺物 土師器環・表類の他、金属製品が多い。9・10はほぼ完形の鉄鍔。12は鍔付足金物である。環部は銅地銀張、脚部は銀製で、先端部を欠損している。いずれも床面付近から出土した。不掲載土器の総量は小コンテナ箱 1/3、礫重量は1.6 kg。古墳時代終末期の住居跡としたい。



第64図 西刑部西原遺跡3区 SI-22 実測図



第65図 西刑部西原遺跡3区 SI-22 出土遺物

第20表 3区 SI-22 出土遺物観察表

図帳番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	土師器 坪	口 (11.0) 高 3.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。下部～底部外面ヘラケズリ。内面全面及び口縁部外面塗仕上げ。	内：5YR5/6 明赤陶 外：7.5YR4/4 黄	中～緻密。灰砂 焼成；中～軟質	No.32 6.2	口縁部～底部 1/5
2	土師器 坪	口 (10.8) 高 [4.5]	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部内面ナデ。体部外面タテヘラケズリ。底部外面～方向ヘラケズリ。内外面塗仕上げ。胴部～底部外面磨減が顕著。	内：2.5YR/4 浅黄橙 外：2.5Y7/3 浅黄	中～緻密。白・黒・灰・透明黒砂 焼成；中～軟質	覆土中	口縁部～底部 2/5
3	土師器 坪	口 9.0 高 3.2	口縁部内外面ヨコナデ。底部～体部内面ナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。磨減し不明瞭だが、塗仕上げか。	内：10YR7/4 に近い黄褐色 外：7.5YR8/3 浅黄橙	中～緻密。黒磁砂。赤粘 焼成；中～軟質	No.2 3.6	口縁部～底部 2/3
4	土師器 小型鉢	口 [11.8] 高 7.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部内面ナデ。体部外面タテヘラケズリ。後下縁部ヨコヘラケズリ。底部外面多方向ヘラケズリ。	内：2.5Y6/2 灰黄 外：2.5Y6/3 に近い黄	中～緻密。白・黒・灰・透明黒砂 焼成；中～軟質	覆土中	口縁部～底部 一部、底部完存
5	土師器 鉢	高 [8.3]	底部～体部内面磨減ヘラナデのちヘラミガキ。体部外面タテヘラケズリ。ち体部下縁部ヨコヘラケズリ。底部外面～方向ヘラケズリ。内面一部に塗痕跡あり。	内：10YR6/3 に近い黄褐色 外：10YR7/4 に近い黄褐色	中～緻密。白磁砂。赤粘 焼成；中～軟質	No.7-8-9 床直 (No.8)	底部は正定存。体部下半 1/4
6	土師器 甕	口 18.0 高 (4.6)	口縁部内外面ヨコナデ。外面に接合痕跡。胴部外面ヘラケズリのちナデ。口縁部は平坦で中～外側削ぎ状。	内：5YR4/4 に近い赤褐色 外：7.5YR3/2 黒濁	中～緻密。白砂。雲母片 焼成；中～硬質	No.6 床直	口縁部1/4

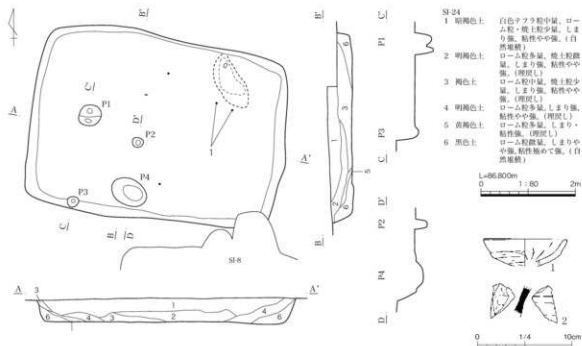
7	石器 扁物石	長 14.9 幅 6.5 厚 6.3 重 882.6	未加工の自然産。 平面形：楕円形 断面形：不整な楕形	2.5Y7/4 浅黄	—	No 13 3.4	完存
8	石器 扁物石	長 14.1 幅 5.5 厚 3.7 重 421.1	未加工の自然産。 平面形：不整形 断面形：不整な楕円長方形	5Y6/2 灰オリーブ	—	No 28 1.4	完存
9	鉄製品 鉄鏃	長 16.1 重 9.8	製鋳式の長頭鏃。鏃身は幅 6.5 mm、厚さ 1.8 mm の片丸造り。頭部断面は正方形に近い。鈍頭鏃。	—	鉄製	No 23 1.1	完存
10	鉄製品 鉄鏃	長 15.1 重 11.2	片刃鋳式の長頭鏃。鏃身最大幅 6 mm。頭部断面は正方形方で一辺 4.0 mm ほど。鈍頭鏃。	—	鉄製	No 18・19 床直	完存
11	鉄製品 鏃	長 12.5 幅 3.4 厚 29.7	直方体の鏃。刃部は平造り。中央部が大きく欠れる方眼型鏃りしたものか。鏃は角造りで最大幅は 3.2 mm。端部は 1.0 cm ほどの幅で、くの字に折り返げる。	—	鉄製	No 2 3.6	先端部一部欠損
12	銅製品 刀装具 (釧付足 金物)	長 [2.0] 幅 2.2 厚 0.8 重 [6.3]	銅口金具の下端部に付した銅用金具。鏃は鈍頭鏃型。長さ 2.0 cm、短径推定 1.7 cm の楕円形。材の太さは約 4.0 mm。銅製の舌部は下端部を大きく欠損する。幅 8.0 mm 前後。厚さ 1.0 ~ 1.5 mm の帯状材を用いる。丸めた鏃の挿入部を広くするため、端部を斜めに面取りしたものと考える。接合は釧付けによるものか。	—	銅・銀	No 25 床直	舌端部欠損

3区 SI-24 (遺構・遺物：第66図、図版九・八四)

位置 グリッド 90.0-51.5・90.0-52.0・89.5-51.5・89.5-52.0 重複遺構 平安時代の建物跡 SI-8 より古い。

平面形 隅丸長方形 規模 東西 5.3×南北 4.0 m 主軸方向 N-10°-E 覆土 自然堆積 壁 壁高 38~52 cm 床 ローム地山を床面とし、ほぼ平坦。ピット P1 (径 46 cm、深さ 39 cm)、P2 (径 22 cm、深さ 26 cm)、P3 (径 23 cm、深さ 8 cm)、P4 (径 77~54 cm、深さ 17 cm) は覆土などの情報が無く性格不明。

貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 北東隅付近に深さ 20 cm 弱の掘り込みあり。カマド 確認できなかった。遺物 図示可能な遺物は 2 点のみである。1 は覆土上層から出土した小型の土師器杯。2 の須恵器瓶類は混入品か。不掲載遺物は土師器類の胴部破片が主で、小コンテナ箱 2/5 ほど。カマドをもたない時代の建物とも思われるが、遺物から古墳時代終末期の建物跡としたい。



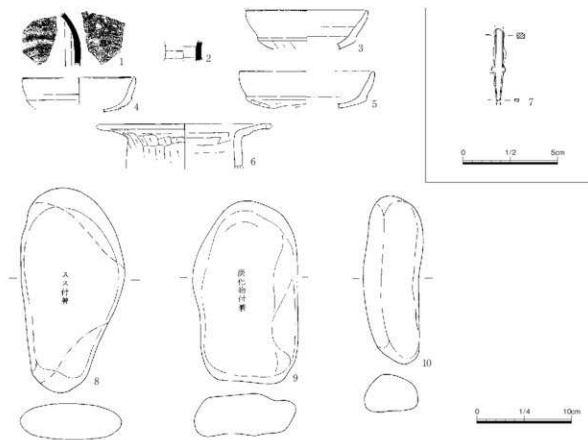
第66図 西刑部西原遺跡3区 SI-24 実測図・出土遺物

第21表 3区 SI-24 出土遺物観察表

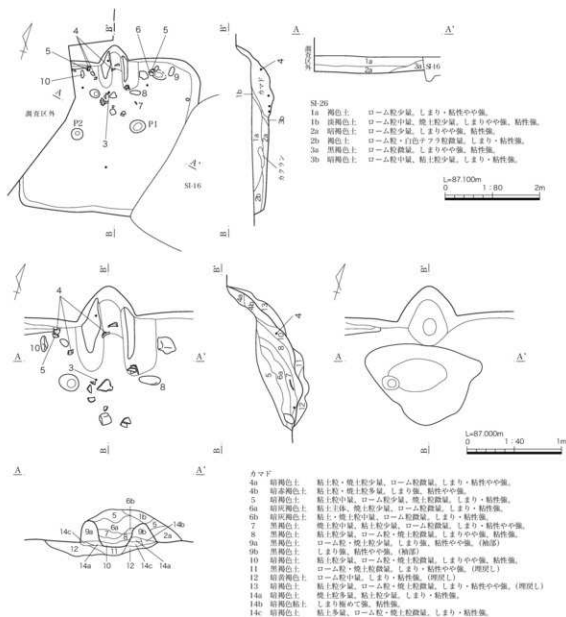
図版番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(m)	現存
1	土師器 環	口 8.6 高 [2.8]	口縁部内外面ヨコナデ。体部一底部外面へラケズリ。内外面黒色彫理あるいは漆仕上げか。内面に放射状紋あり。へラミガキを極したものが。	内外面とも 2.5GY2/1 黒	中今織物。白・透明細砂 ～粗砂 焼成：中今硬質	No.4 44.7	口縁部 3/4。体部 ～底部 1/3
2	須恵器 瓶類	高 [2.9]	内外面ロクロナデ。	内：5Y7/1 灰白 外：5Y7/2 灰	織物。白・灰細砂 焼成：硬質	覆土中	底部破片

3区 SI-26 (遺構：第68図、遺物：第67図、図版九)

位置 グリッド 90.0-51.0 重複遺構 奈良時代前葉の建物跡 SI-16 より古い。平面形 隅丸方形 規模東西約 3.9×南北 3.3 m 主軸方向 N-13°-W 覆土 自然堆積 壁 壁高は 19~38 cm 残る。床概ね平坦。貼床・硬化面・柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。カマド 北壁中央部に位置し、壁を三角形に掘り込む。煙道部に厚く焼土が堆積する。遺物 計 10 点を図示した。3~5 は床面直上から出土した土師器環で、径が小さくミガキが少ない。7 は鞆籠被の鉄鏝破片。8・9 は被熱しており、カマド構築材か支脚の可能性もある。1・2 の須恵器類は混入品と考えられる。不掲載遺物の総量は土器類は小コンテナ箱 1/3 程度。礫の重量は 3.2 kg である。遺物から古墳時代終末期（7 世紀後半）の建物跡と考えたい。



第67図 西刑部西原遺跡3区 SI-26 出土遺物



第68図 西荆部西原遺跡3区 SI-26実測図

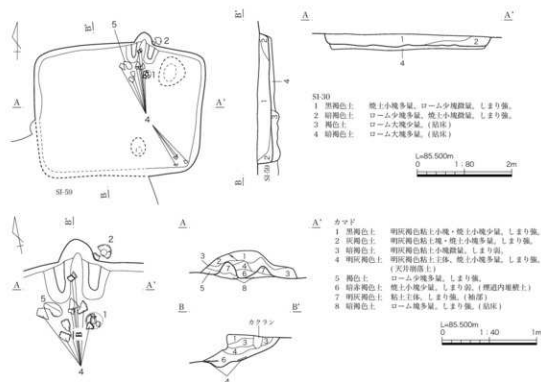
第22表 3区 SI-26出土遺物観察表

編號番号	器略	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須出器 横板	高 [5.6]	内外面ロケロナデのち外面カキ目。外面にモミ圧痕あり。混入品か。	内：2.5Y8/1 灰白 外：2.5Y5/1 黄灰	緻密、灰細砂 焼成：中強軟質	覆土中	胴部破片
2	須出器 横板	高 [2.0]	内面ロケロナデ。混入品か。	内：5Y6/1 灰 外：2.5Y5/1 黄灰	緻密、灰細砂 焼成：中強軟質	覆土中	胴部1/3
3	土師器 杯	口 [13] 高 [4.2]	口縁部内外面ロケロナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラウケズリ。	内：5YR7/6 橙 外：5YR7/8 橙	中強軟質、白・灰・黒細砂～粗砂 焼成：中強軟質	No 17 床直	口縁部～体部1/3
4	土師器 杯	口 [12.0] 高 [3.7]	口縁部内外面ロケロナデ。内面及び底部外面割落著しく調整不明。	内：10Y88/4 浅黄橙 外：5YR7/6 橙	中強軟質、黒細砂 焼成：軟質	No 14+25+26 床直	口縁部2/3
5	土師器 杯	口 [14.0] 高 [3.9]	口縁部内外面ロケロナデ。底部内面割落著しく不明瞭だがナデか。体部外面ヘラウケズリ。	内外面とも 2.5Y8/2 灰白	中強軟質、黒・白・透明細砂～粗砂、赤粒 焼成：中強軟質	No 3・31 床直	口縁部～体部1/3

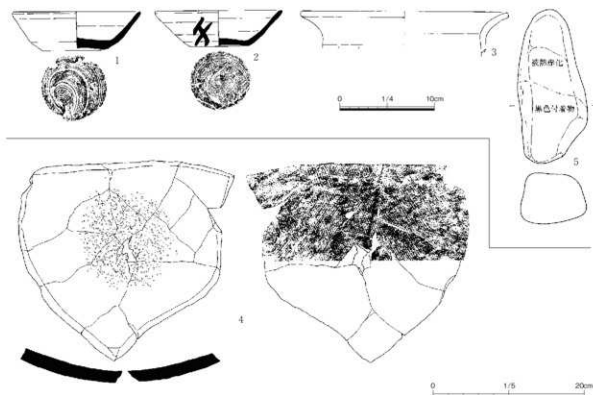
6	土師器 甕	(口) 18.4 高 [4.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。胴部内 面ヘラナナ。	内: 7.5YR6/6 橙 外: 10YR6/4 に近い橙	やや粗い、黒・白細砂、黒 灰砂、赤鉄 焼成; やや硬質	№ 2 1.5	口縁部 1/4
7	鉄製品 鉄鏝	長 [3.8] 幅 [0.7] 重 [2.1]	長距離の破片。断面形状は長方形で、幅 4.0 mm、厚 さ 3.0 mm。重 7.0 mm。	—	鉄製	№ 1 28.0	鎌首・茎先 端部欠損
8	石器 扁物石	長 16.4 幅 11.1 厚 3.8 重 1180.4	未加工の自然礫。表面に付着物(ヌスカ)あり。 平面形: 不整な楕円形 断面形: 不整な楕円形	10YR5/3 に近い黄褐色	—	№ 21 床面	完存
9	石器 扁物石	長 19.5 幅 10.8 厚 4.5 重 1525.6	未加工の自然礫。表面に炭化物付着。 平面形: 不整な長方形 断面形: 不整な楕円形	7.5YR5/1 黄灰	—	№ 5 床面	完存
10	石器 扁物石	長 17.7 幅 5.7 厚 3.9 重 635.9	未加工の自然礫。 平面形: 楕円形 断面形: 不整な楕円形	10YR5/1 黄灰	—	№ 24 床面	完存

3区 SI-30 (遺構: 第 69 図、遺物: 第 70 図、図版一〇・八四)

位置 グリッド 89.0-46.5 重複遺構 古墳時代終末期の建物跡 SI-59 より新しい。平面形 隅丸長方形
規模 東西 3.55 × 南北 2.8 m 主軸方向 N-1.5° - E 覆土 自然堆積 壁 壁高 14 ~ 20 cm 床 ほぼ
全面貼床だが概ね平坦。硬化面は未確認。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方
部分的に土坑状の浅い掘り込み(深さ 10cm 弱)あり。カマド 北壁中央部やや東寄りに位置する。壁
を半円形に掘り込む。煙道の立ち上がりは緩やか。小型のカマドだが、多量の焼土が確認された。遺物
主にカマド前面から出土。1 は床面直上の須恵器環。内面に黒色物が付着し、灯明具の可能性あり。2 は墨
書の見られる須恵器環。カマド煙道脇から出土しているが、本住居に伴う可能性があると考え掲載した。4
は須恵器裏破片を石皿または台石状に再利用したものか。不掲載遺物は小コンテナ箱 1/3 程度。鏝は未確認
である。遺物から平安時代(9世紀後半)の建物跡と考えたい。



第 69 図 西荆部西原遺跡 3区 SI-30 実測図



第70図 西刑部西原遺跡3区 SI-30出土遺物

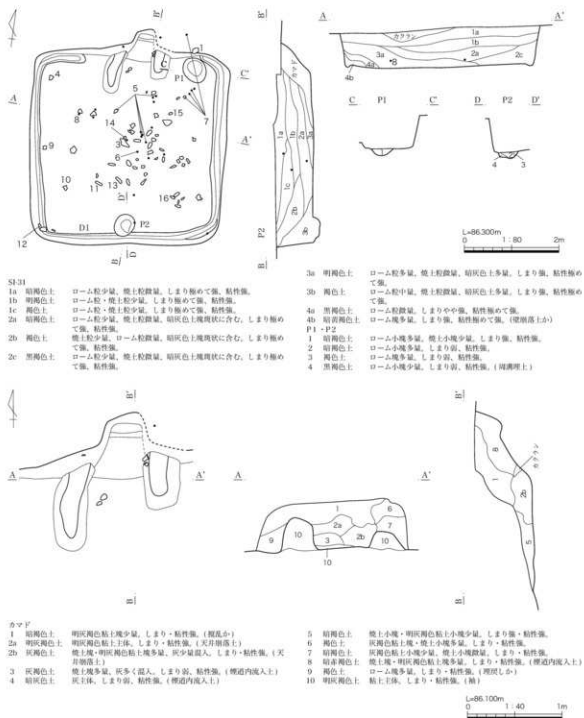
第23表 3区 SI-30 出土遺物観察表

掲載番号	図種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	粘土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須虫器 杯 (打 明瓦)	口 (13.6) 底 6.9 高 4.2	内外面口コナデ。底部外面に転糸切り。内面ター ル状の付着物あり。大芝草目器胎跡。	内：2.5Y6/3 に近い黄 外：2.5Y6/2 灰黄	中々緻密。灰燻砂。赤褐 焼成：中々硬質	No 4 床直	口縁部一体 部1/4。底 部完全
2	須虫器 杯	口 13.3 底 6.0 高 3.7	内外面口コナデ。底部外面に転糸切り。体部外面の 滑溝は「千」か。	内外面とも 5Y6/1 灰	中々緻密。黒・白燻砂 焼成：硬質	No 9 2.6	口縁部 3/4。底部 完全
3	土師器 費	口 (22.0) 高 [4.7]	口縁部内外面コナデ。体部外面ナデか。	内：10YR3/1 黒褐 外：7.5YR5/3 に近い黒	中々粗い。白粉。雲母。 白燻砂 焼成：中々硬質	覆土中	口縁部 1/5
4	須虫器 費 (転 用台石)	長 [27.0] 幅 [27.5] 厚 1.6	大型の須虫器費破片内面を台石として転用したものか。 中央部の径 15 cmほどの範囲に転打痕あり。中央部の 打撃により最終的に破損し廃棄されたものか。	内：N5 灰 外：7.5Y6/1 灰	緻密。白燻砂。白燻 砂。硬質	No 1~3 1~6 cm 床直	割断破片
5	石部 陶物石 か	長 16.4 幅 7.1 厚 5.2 断面形 868.6	上部は赤化。下部は黒色の付着物あり。支脚か。 断面形：小梨形 断面形：隅丸台形	2.5YR5/4 に近い赤褐	—	No 7 床直	完全

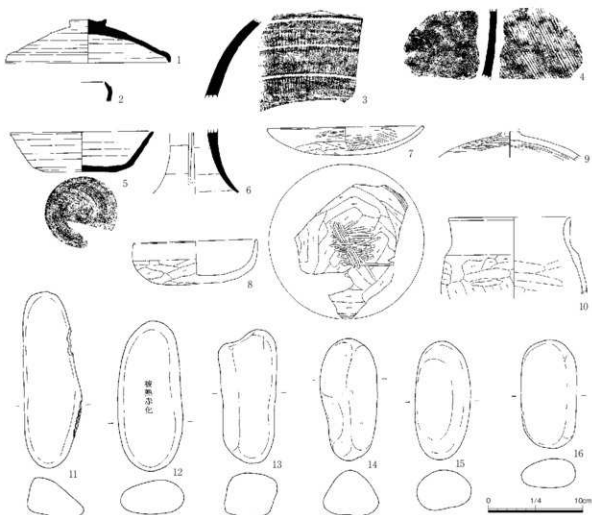
3区 SI-31 (遺構：第71図、遺物：図版〇・八四)

位置 グリッド 87.5-49.5・88.0-49.5 重複遺構 無し。平面形 隅丸正方形 規模 東西 4.08×南北 4.13 m 主軸方向 N-6°-W 覆土 自然堆積 壁 壁高 63～87 cm 床 ローム地山を床面とする。柱穴 確認できなかった。入口ピット P2 (径 47～41 cm、深さ 16 cm) は南壁際中央にある。貯蔵穴 P1 (長軸 58～短軸 49 cm、深さ 16 cm) は北東コーナーに位置する。溝溝 D1 (幅 15～34 cm、深さ 10 cm) はカマド両側を除く壁際を全周する。カマド 北壁中央部を方形に掘り込む。煙道部には途中段をもち、急角度で立ち上がる。袖は明灰褐色粘土で構築する。遺物 主に中・上層から出土。このうち1は壁際上の確認面から出土したが本住居に伴う可能性があるものとして掲載した。須臾器は底部外面外周をヘラケズ

りした環(5)や、高環脚部破片(6)などがある。7は床面直上出土の土師器環。底部外面に乾燥時のヒビ割れを補修した痕跡がある。不掲載土器は土師器甕・環類が主体で小コンテナ2箱程度、霰が多く、総重量12kg出土している。遺物から奈良時代中頃(8世紀中葉)の建物跡と考えたい。



第71図 西刑部西原遺跡3区 SI-31実測図



第72図 西刑部西原遺跡3区 SI-31 出土遺物

第24表 3区 SI-31 出土遺物観察表

掲載番号	西稱	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 蓋	口 17.2 高 4.6	内外面口ケロナデ。大月部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：7.5Y6/1 灰	中・中硬密。白・灰層 砂焼成：中・中硬質	№ 21 床直	口縁部 1/2
2	須恵器 環	高 [2.1]	口縁部内外面口コナデ。体部外面口ケロナデ。	内：5Y6/2 灰オリーブ 外：5Y6/1 灰	中・中硬密。白・灰層砂。灰・黒・白砂。白粒 焼成：中・中硬質	№ 10 5.0	口縁部破片
3	須恵器 甕	高 [9.5] 厚 1.2	内外面口ケロナデ。頸部外面平行叩きのち沈線及び縞 縞状文。	内：NS/1 灰 外：N6/1 灰	細密。白細砂 焼成：硬質	№ 61 17.8	頸部破片
4	須恵器 甕	厚 0.8	内面無文あて具皿。外面平行叩き。	内：7.5Y5/1 灰 外：7.5Y4/1 灰	中・中粗い。白・黒層砂～ 縞 焼成：硬質	№ 1 60.7	胴部破片
5	須恵器 環	口 (14.8) 底 8.0 高 4.3	内外面口ケロナデ。底部外面回転ヘラケズリのちナデ。	内：10BG4/1 暗青灰 外：10Y4/1 灰	細密。白細砂。白砂。白 粒 焼成：硬質	№ 24・65・ 66・69 104/1 № 66)	口縁部 3/8、底部 4/5
6	須恵器 高杯分	高 (6.8) 径 5.0	内外面口ケロナデ。脚部は三方透。	内：7.5Y7/2 灰白 外：5Y7/2 灰白	細密。白・灰・黒層砂。黒・ 白砂 焼成：中・中硬質	№ 47 10.2	脚部 1/4

7	土師器 坪	口 (16.4) 高 3.0	口縁部内面の全面及び口縁部外面ヘラミガキ。体部～底部外面ヘラケズリ。底部外面中央部粘土製のちへラミガキ。焼成面はヒ種焼の磁粉か。	内：2.5YR5/6 明赤褐色；2.5YR4/8 赤褐色	やや微細。白・灰・磁粉、赤粒 焼成；やや軟質	№ 18・19・20・22 22(№ 22)	口縁部～1/8、体部～底部7/8
8	土師器 坪	口 (13.0) 高 4.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。体部内面ヨコナデ。全体に薄く褐色を帯びる。漆仕上げか。	内：10YR7/1 灰白 外：10YR6/4 に近い黄褐色	やや微細。白・磁粉、赤粒 焼成；やや硬質	№ 53 20.7	口縁部～体部1/5
9	土師器 蓋	高 [3.1]	天井部ツツミ彫刻のちへラミガキ基部及び天井部外面ヘラケズリのちへラミガキ。内面ヨコナデのちへラミガキ。	内外面とも7.5YR7/4 に近い橙	やや微細。黒・白・磁粉、赤粒 焼成；やや硬質	№ 3 46.4	ツツミ彫刻 体部1/4
10	土師器 甕	口 (13.6) 高 [8.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ナメ及び口縁部ラケズリのちへラミガキ。	内：2.5GY2/1 黒 外：5YR6/6 橙	やや微細。白・透明・黒 磁粉～糠 焼成；やや軟質	№ 4 36.2	口縁部～胴部土平1/4
11	石器 編物石	長 [18.3] 幅 6.0 厚 4.0 重 [531.0]	右ト側縁に籠打状の割痕あり。 平面形：長い楕円形 断面形：楕丸三角形	2.5YR/4 浅黄	-	№ 5 51.9	部欠
12	石器 編物石	長 15.8 幅 6.7 厚 3.6 重 619.0	未加工の自然礫。全面風熟し赤化している。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	10YR6/4 に近い黄褐色	-	№ 7 4.1	完存
13	石器 編物石	長 14.0 幅 5.3 厚 4.4 重 601.3	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：楕丸三角形	2.5Y7/1 灰	-	№ 58 19.3	完存
14	石器 編物石	長 13.0 幅 6.0 厚 4.7 重 461.1	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕丸長方形 断面形：楕丸方形	5Y7/1 灰白	-	№ 62 14.9	完存
15	石器 編物石	長 12.4 幅 5.8 厚 3.9 重 383.8	未加工の自然礫。 平面形：楕丸長方形 断面形：楕円形	2.5Y6/1 黄灰	-	№ 74 36.7	完存
16	石器 編物石	長 11.4 幅 5.9 厚 3.1 重 332.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	2.5Y7/3 浅黄	-	№ 29 46.8	完存

3区 SI-32 (遺構：第73図、遺物：第74図、図版一〇・八四)

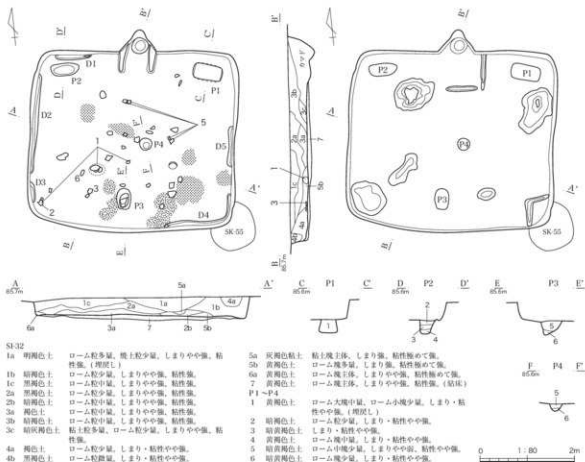
位置 グリッド 90.0-45.0 重複遺構 時期不明土坑のSK-55より新しい。平面形 隅丸長方形 規模 東西4.34×南北3.82m 主軸方向 N-9°-E 覆土 自然堆積 壁 壁高26～41cm 床 ローム地山を床面とする。一部貼床あり。ピット P2(長軸58～短軸26cm、深さ28cm)、P4(径26cm、深さ14cm)は用途不明。入口ピット P3(径44～30cm、深さ28cm)は南壁からやや離れる。貯蔵穴 P1(長軸61～短軸32cm、深さ36cm)はオーバーハングする。壁溝 D1～D5が途切れながら壁際を巡る。幅は20cm前後、深さ2～5cmと浅い。掘方 極めて浅い土坑状の掘り込みをもつ。カマド 北壁中央部に隅丸三角形状に掘り込む。煙道は丸みをもち急角度で立ち上がる。遺物 小型でやや器高が高い杯(1～3)などが出土した。不掲載遺物は小コンテナ1/3箱、量は300gである。古墳時代終末期(7世紀前半)の建物跡か。

第25表 3区 SI-32 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm)	技法・特徴	色調	粘土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	土師器 坪	口 12.2 高 5.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面土平はナデ、下部はヘラケズリか。内外面漆仕上げ。	内：10YR6/4 に近い黄褐色；2.5Y7/4 浅黄	やや粗い。黒・白・灰・磁粉、赤粒 焼成；やや軟質	№ 6・8・11・南東床面	ほぼ完存
2	土師器 坪	口 13.6 高 5.2	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ナデのちへラミガキのちへラミガキ処理か。胴部外面ヘラケズリ。口縁部内面は割痕あり。体部～底部外面は厚塗の磁粉。	内：10YR3/1 黒褐色 外：10YR3/2 黒褐色	やや微細。白・磁粉～粗砂、赤粒 焼成；やや軟質	№ 11 4.8	口縁部～体部完存
3	土師器 坪	口 13.6 高 4.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面ナデ。口縁部内面～内面全面漆仕上げ。	内：7.5YR7/4 に近い黄褐色；7.5YR7/6 橙	やや微細。黒・白・磁粉、赤粒 焼成；やや軟質	№ 9・6・ト 1.8	口縁部～底部1/6
4	土師器 高坪	口 (15.0) 高 [3.5]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヨコナデまたはナメヘラケズリのちへラケズリ。体部内面ヘラミガキ。	内：10YR8/4 浅黄褐色；7.5YR8/3 浅黄褐色	やや微細。黒・磁粉、赤粒 焼成；硬質	カマド、南東床面	口縁部～体部1/4、脚部欠損
5	土師器 甕	口 (17.0) 底 (5.2) 高 (29.5)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ、下部に明確な接合痕あり。胴部外面ヘラナデ、下部ヨコナデヘラケズリ。	内：2.5YR3/6 明赤褐色；2.5YR2/1 赤黒	粗い。白・灰・黒・透明・磁粉～糠、雲母片 焼成；軟質	№ 3 3.4	口縁部～1/2、底部1/4

第3章 発見された遺構と遺物

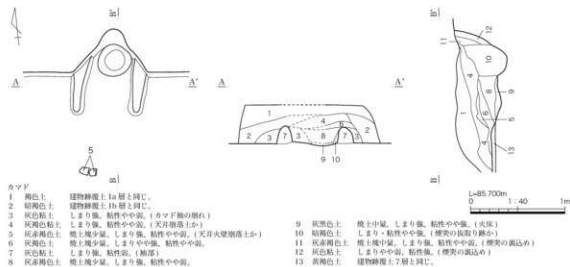
6	石器 副物石	長 12.4 幅 6.3 厚 4.9 重 453.0	未加工の自然産。 平面形：不整な三角形 断面形：隅丸三角形	2.5V5/3 淡黄	-	No 14 1.8	完存
---	-----------	-------------------------------------	-------------------------------------	------------	---	--------------	----



SI-32

- 1a 明褐色土 ローム粒多量、焼土粒少量、しまりや中強、粘性強。(埋戻し)
- 1b 暗褐色土 ローム粒少量、しまりや中強、粘性強。
- 1c 黒褐色土 ローム粒中量、しまりや中強、粘性強。
- 2a 暗褐色土 ローム粒少量、しまりや中強、粘性強。
- 2b 暗褐色土 ローム粒中量、しまりや中強、粘性強。
- 3a 褐色土 ローム粒中量、しまりや中強、粘性強。
- 3b 暗褐色土 ローム粒中量、しまりや中強、粘性強。
- 3c 暗褐色土 粘土粒多量、ローム粒少量、しまりや中強、粘性強。
- 4a 褐色土 ローム粒少量、しまり・粘性や中強。
- 4b 暗褐色土 ローム粒少量、しまり・粘性や中強。

- 5a 灰褐色粘土 粘土塊主体、しまり強、粘性極めて強。
 - 5b 黄褐色土 ローム塊多量、しまり強、粘性極めて強。
 - 6a 黄褐色土 ローム塊主体、しまりや中強、粘性極めて強。
 - 7 黄褐色土 ローム塊主体、しまりや中強、粘性強。(粘土)
- P1~P4
- 1 黄褐色土 ローム大塊中量、ローム小塊少量、しまり・粘性や中強。(埋戻し)
 - 2 暗褐色土 ローム粒少量、しまり・粘性や中強。
 - 3 暗褐色土 ローム大塊中強。
 - 4 黄褐色土 ローム塊中量、しまり・粘性や中強。
 - 5 暗褐色土 ローム中塊少量、しまりや中強、粘性や中強。
 - 6 暗褐色土 ローム塊少量、しまり・粘性や中強。

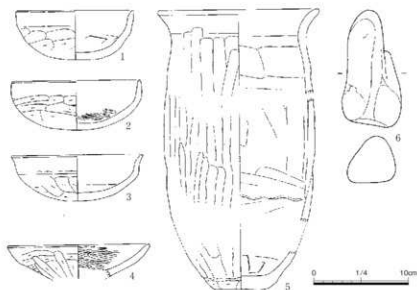


カマド

- 1 褐色土 建物跡土1a層と同じ。
- 2 暗褐色土 建物跡土1b層と同じ。
- 3 灰褐色土 しまり強、粘性や中強。(カマド軸の周り)
- 4 灰褐色粘土 しまり強、粘性や中強。(天井礎落土上)
- 5 灰赤褐色土 焼土塊少量、しまり強、粘性や中強。(天井火壁礎落土上)
- 6 灰褐色土 焼土塊少量、しまりや中強、粘性や中強。
- 7 灰褐色土 しまり強、粘性強。(軸芯)
- 8 灰赤褐色土 焼土塊少量、しまり強、粘性や中強。

- 9 灰赤褐色土 焼土中量、しまり強、粘性や中強。(灰床)
- 10 暗褐色土 しまり・粘性や中強。(煙突の取寄り部分)
- 11 灰赤褐色土 焼土塊中量、しまり強、粘性や中強。(煙突の裏返し)
- 12 灰褐色土 しまりや中強、粘性強。(煙突の裏返し)
- 13 黄褐色土 建物跡土7層と同じ。

第73図 西刑部西原遺跡3区 SI-32 実測図



第74図 西刑部西原遺跡3区 SI-32 出土遺物

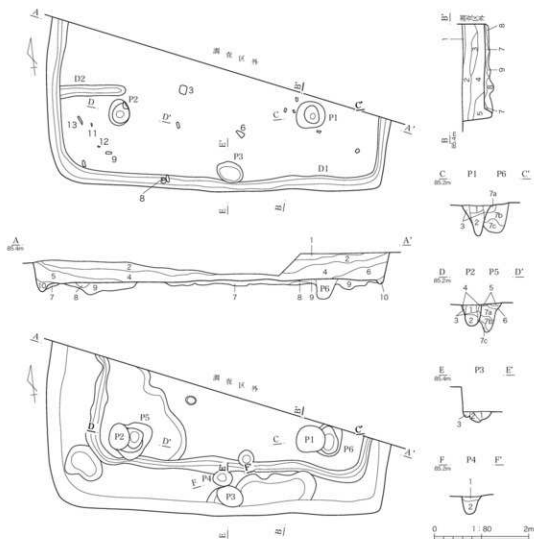
3区 SI-33 (遺構：第75図、遺物：第76図、図版——・——二、——三、——五)

位置 グリッド 88.5-47.5・89.0-47.5・88.5-48.0・89.0-48.0 重複遺構 重複遺構は無いが、床面を精査した結果、建替えを確認。平面形 全形は不明だが隅丸方形か。規模 新建物：東西7.15m×南北3.26m以上。旧建物：東西約6m×南北2.2m以上。主軸方向 不明 覆土 自然堆積か。壁 壁高は42～57cm残る。床 若干の凹凸あり。新建物：柱穴 P1 (径60cm、深さ59cm)、P2 (径54～43cm、深さ43cm)は柱痕を確認。入口ピット P3 (径53～42cm、深さ22cm)は南壁際より確認。P4 (径41～32cm、深さ36cm)も入口ピット関連の掘り込みか。貯蔵穴 未確認。壁溝 D1 (20～25cm、深さは10～17cm)は残存部壁際の全域に確認。間仕切り溝 東西軸のD2 (幅22～27cm、深さ7cm)がある。旧建物：柱穴 P5 (長軸82～短軸60cm以上、深さ60cm)、P6 (径45～65cm、深さ59cm)。壁溝 幅20～38cm、深さ8～20cm。残存部の壁際すべてに確認。掘方 新建物は南壁に、旧建物は南西コーナーに不整形の掘り込みあり。深さは最深部で20cm前後。カマド 確認できなかった。遺物 須

第26表 3区 SI-33 出土遺物観察表

図版番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置・層上 (cm)	残存
1	須恵器 杯	底 (R.0) 高 (1.2)	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのも外面ナデか。型入品。	内：2.5YR/1灰白 外：10YR7/1灰白	焼成：灰・白磁砂 焼成：硬質	南西埋土中	底部2/5
2	須恵器 蓋	口 (11.0) 高 (1.6)	内外面ロクロナデ。大径部外面自然軸が厚く付着し、調整不明。内面も薄く軸付着。焼成時に隙間から自然軸が入り込んだためか。	内：10Y6/1灰 外：7.5Y3/2灰オリーブ	焼成：灰・白磁砂、黒・白砂 焼成：硬質	南西埋土中	体部1/4、ツマミ欠損
3	須恵器 甕	高 [6.5] 厚 1.0	内面同心円状あて貝痕。外面格子甲子。	内外面とも 2.5YR/2 灰白	やや緻密。白・灰磁砂。 灰砂 焼成：やや硬質	No.17 1.4	割取破片
4	土師器 杯	口 (13.4) 高 [3.3]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面厚塗のため不明瞭だがヘラケズリか。	内：10YR8/3 浅黄橙 外：2.5YR8/2 灰白	やや緻密。黒・白磁砂。 赤砂、赤・白磁 焼成：やや硬質	駆込中、南 西埋土中	口縁部一体部1/4
5	土師器 甕	口 (18) 高 [7.8]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラナデ。一部ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。外面一部に黒炭あり。	内：7.5Y3/3 暗黒 外：7.5YR6/6 橙	やや粗い。白・黒磁砂。赤 母片、白粒。漆の痕が多い 焼成：やや軟質	南東埋土中	口縁部一部1/8
6	石器 編物石 か	長 [16.0] 幅 9.1 厚 4.4 重 [100g]	下縁側面凸化。上縁側面敲打痕か。 平面形：不整な楕形 断面形：不整な長方形	10YR7/4 に近い黄褐色	-	No.6 1.4	部欠

恵器蓋・甕、土師器坏・甕、編物石、焼成粘土塊、鉄製品などが出土。この他に掲載の土器類は土師器坏・甕類の小破片を主体とし、小コンテナ1/2箱が出土。量は4.5kgである。床面直上の遺物は殆どないが、短期的には古墳時代終末期（7世紀前半）の建物跡と考えたい。

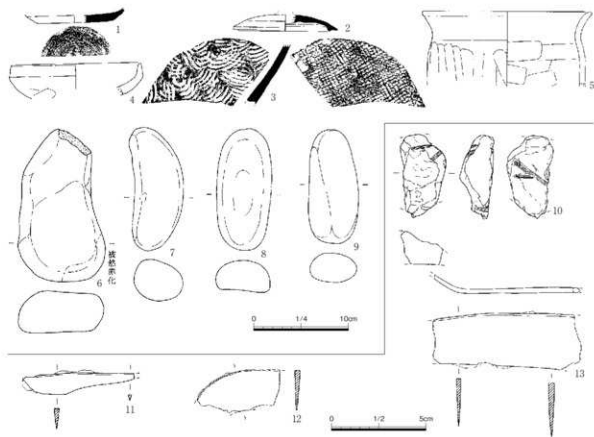


SI-33

- 1 黒色土 焼土小塊少量、ローム小塊微量、しまり強。
- 2 暗褐色土 ローム小塊多量、焼土小塊少量、しまり強。
- 3 褐色土 ローム多量、焼土小塊少量、しまり強。
- 4 黒褐色土 焼土小塊多量、ローム小塊少量、しまり強。
- 5 暗褐色土 ローム小塊多量、焼土小塊少量、しまり弱。
- 6 黒褐色土 焼土小塊・炭化物小塊多量、ローム小塊少量、しまり弱。
- 7 褐色土 ローム塊上層、しまり特に強。(筋床)
- 8 黄褐色土 ローム小塊少量、しまり強。(筋床)
- 9 黄褐色土 ローム小塊少量、しまり強。(筋床)
- 10 暗褐色土 ローム小塊多量、しまり弱。
- P1, P2, P5, P6
1 黒褐色土 ローム小塊多量、焼土小塊微量、しまり弱、粘性強。(柱窟)
- 2 暗褐色土 ローム多量、しまり弱、粘性強。(柱窟)

- 3 褐色土 ローム塊主体、しまり強。(裏込め)
- 4 黒褐色土 ローム小塊少量、しまり強、粘性強。(裏込め)
- 5 褐色土 ローム大塊主体、しまり特に強。(筋床)
- 6 黒褐色土 ローム小塊多量、しまり弱、粘性強。
- 7a 暗黄褐色土 ローム大塊主体、しまり弱、粘性強。(埋戻し)
- 7b 褐色土 ローム塊主体、しまり弱、粘性強。(埋戻し)
- 7c 黄褐色土 ローム大塊主体、しまり弱、粘性強。(埋戻し)
- P3
1 暗褐色土 ローム塊多量、しまり弱、粘性強。(埋戻し)
- 2 黒褐色土 ローム塊少量、しまり強。
- 3 暗褐色土 ローム小塊多量、しまり弱、粘性強。(埋戻し)
- P4
1 暗褐色土 ローム大塊多量、しまり弱、粘性強。(埋戻し)
- 2 黒褐色土 ローム塊多量、しまり弱、粘性強。(埋戻し)

第75図 西刑部西原遺跡3区 SI-33 実測図

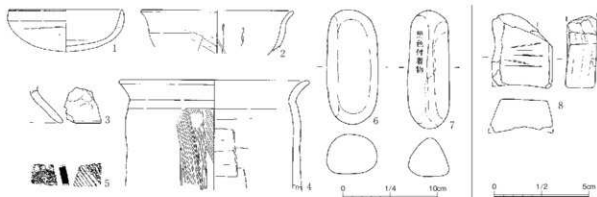


第76図 西刑部西原遺跡3区 SI-33 出土遺物

7	石器 編物石	長 13.0 幅 5.1 厚 4.4 重 413.6	未加工の自然礫。 平面形：三日月形 断面形：楕円形	5Y7/1 灰白	-	埋土中	完存
8	石器 編物石	長 12.9 幅 5.7 厚 3.4 重 342.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：方マボコ形	2.5Y7/3 浅黄	-	No.10 2.7	完存
9	石器 編物石	長 12.0 幅 5.1 厚 3.1 重 325.7	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：不整な楕円形	7.5Y7/1 灰白	-	No.12 4.7	完存
10	焼成粘 土塊	長 4.4 幅 2.2 厚 1.8 重 9.3	ワラの表面が目立つ。やや多量の赤色粘土を含む。	5YR8/4 淡橙	粗い、赤粘、白粘、砂粒、 ワラ 焼成：軟質	南東埋土中	破片か
11	鉄製品 刀子	長 [5.8] 幅 1.1 重 [3.8]	背に刃はなく直線的。棟幅 2.5mm。刃部側の刃はなだ らみ。平造り。	-	鉄製	No.13	刃部及び基 部端部欠損
12	鉄製品 鎌	長 [4.5] 幅 2.1 重 [7.6]	曲刃鎌先端部付近の破片。刃部が壊かに残る。平造り。	-	鉄製	No.14 20.2	先端部付近 残存
13	鉄製品 直刀か	長 [7.9] 幅 2.9 重 [27.6]	切っ先に近い破片か。背は僅かに弧状を呈するが、棟 幅 3.6mmとやや厚手。角棟で平造り。	-	鉄製	No.16 22.3	部分残存

3区 SI-34 (遺構：第78図、遺物：第77図、図版一)

位置 グリッド 88.0-50.0・88.5-50.0・88.5-50.5・88.0-50.5 重複遺構 奈良時代前葉の建物跡 SI-35 より古い。平面形 四角形 規模 東西 4.66×南北 4.33 m 主軸方向 N-8°-W 覆土 下層は人為埋戻し、上層は自然堆積か。壁 壁高 51～60 cm 床 貼床あり。部分的に凹凸あり。柱穴 P1 (径 46～34 cm、深さ 47 cm)、P2 (径 36～32 cm、深さ 16 cm)、P3 (径 42～35 cm、深さ 21 cm)、P4 (径 33 cm、深さ 40 cm)。入口ピット P6 (径 34～27 cm、深さ 19 cm)。貯蔵穴 P5 (長軸 74～短軸 67 cm、深さ 10 cm)。壁溝 確認できなかった。掘方 中央部を掘り残し、南～西部にかけ不整な土坑状の掘り込みをもつ。深さ 20 cm 前後と浅い。カマド 北壁中央部やや東寄りにあり、壁を U 字状に掘り込む。煙道の立ち上がりは約 57° である。遺物 土師器環・ハケ調整環、編物石などがあるが、床面直上の遺物は殆ど無い。不掲載土器は小コンテナ 1 箱弱、量は 1.5 kg。建物の時期は古墳時代後期末葉 (6 世紀末) と考えたい。



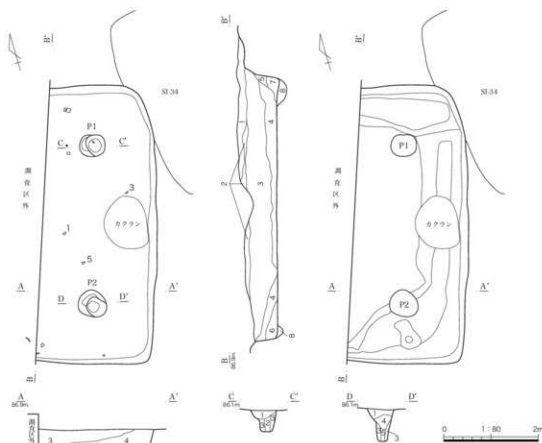
第77図 西刑部西原遺跡3区 SI-34 出土遺物

第27表 3区 SI-34 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	土師器環	口 (11.8) 高 4.4	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部～底部外面磨滅のため不明だがヘラケズリか。内面のみ残存。	内：10YR6/4 に近い黄褐色 外：7.5YR7/6 橙	繊維、白・透明・黒細砂一練。赤粘焼成：軟質	No. 3 35.4	口縁部～底 部 1/6
2	土師器環	口 (8.0) 高 [4.7]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデのちみぎキ。体部外面ナメヘラケズリ。内外面黒色仕上げ。	内外面とも 5Y2/1 黒	今や緻密。白細砂焼成：今や硬質	No. 14 0.9	口縁部～体 部 1/8
3	土師器片付環	高 [2.6]	体部内外面ヨコナデのちナデ。面磨損付。	内外面とも 10YR7/4 に近い黄褐色	繊維。灰・白細砂一練。赤粘焼成：今や軟質	No. 2 74.3	割破片
4	土師器環	口 20.0 高 [11.5]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。製部外面ハケ目。ハケ目は製部上半では全周していない。	内：10YR6/2 灰黄褐色 外：7.5YR6/4 に近い橙	今や緻密。灰・黒砂。灰・黒細砂焼成：今や硬質	No. 16+17 21.4	口縁部～胴 部 1/4
5	須忠器環	高 [2.2]	内面無文あて貝組。外面平行甲子。	内：5Y5/1 灰 外：5Y6/1 灰	今や緻密。白細砂。白練焼成：今や硬質	覆土中	割破片
6	石製編物石	長 [16.0] 幅 9.1 厚 4.4 重 444.5	未加工の自然産。平面形：楕円形 断面形：楕円形	5Y7/1 灰白	—	No. 12 5.8	完存
7	石製編物石	長 12.4 幅 4.3 厚 3.9 重 358.6	未加工の自然産。斑点状に黒色付着物あり。平面形：長い楕円形 断面形：隅丸三角形	10YR7/1 灰白	—	No. 10 4.8	完存
8	石製品破石	長 [3.5] 幅 [3.2] 厚 [1.6] 重 [25.0]	断面は計 5 面。右側面上部は破面に砥面を再生したも のか。断面は風化が顕著のため詳細など不明瞭。 平面形：長方形か 断面形：不整な台形	5Y8/1 灰白	凝灰岩	覆土中	破片

3区 SI-35 (遺構：第79図、遺物：第80図、図版——)

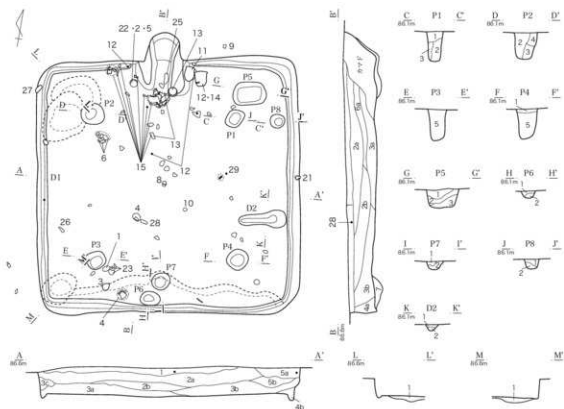
位置 グリッド 88.0-50.0 重複遺構 古墳時代後期末葉の建物跡SI-34より新しい。平面形 西半部が調査区外のため不明だが、隅丸方形または長方形か。規模 東西2.4m以上×南北5.9m 主軸方向 N-16°-E (推定値) 覆土 自然堆積だが下層の一部に人為埋戻しの可能性あり。壁 壁高は43~74cm残る。床 中央部はローム地山を床面とし、その他は貼床。柱穴 P1 (径52×45cm、深さ45cm)、P2 (径60×53cm、深さ67cm) は主柱穴である。上半部の崩れは採取痕か。遺物 図示可能な遺物が極めて少なく、須恵器環・蓋(ツمام部)・甕、土師器環などである。床面直上の遺物は確認できなかった。不掲載の土器類は小コンテナ 1/2箱分、礫は確認できなかった。遺物から奈良時代前葉の建物跡と考えたい。



- SI-35
- 1 暗褐色土 ローム粒微量、しまり強、粘性や中強。(自然埋戻)
 - 2 黄褐色土 ローム粒微量、しまり・粘性強。(自然埋戻)
 - 3 暗褐色土 ローム粒少量、粘土肥・白色テフラ粒微量、しまり・粘性強。(自然埋戻)
 - 4 暗褐色土 ローム粒多量、しまりや中強、粘性強。(埋戻し)
 - 5 暗褐色土 ローム粒多量、粘土粒中量、しまり・粘性強。
 - 6 暗褐色土 ローム粒多量、しまりや中強、粘性強。

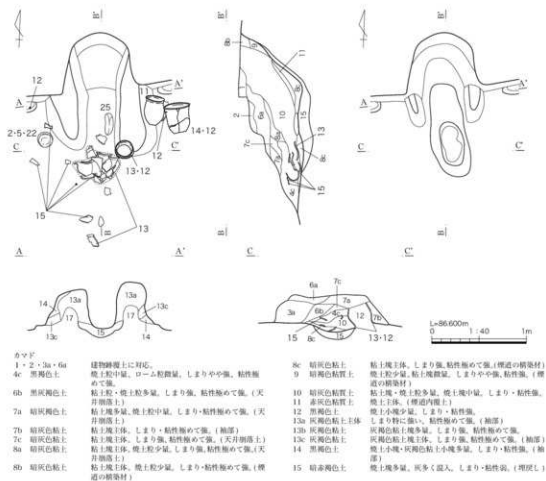
- 7 暗褐色土 粘土塊多量、ローム粒少量、しまり・粘性強。(カマド)
 - 8 黄色土 ローム塊より成る、しまり・粘性極めて強。
- P1・P2
- 1 建物跡覆土・4層に均化。
 - 2 暗褐色土 ローム粒少量、しまり強、粘性強。(柱石)
 - 3 黄褐色土 ローム塊多量、しまり・粘性強。(柱穴裏込め)
 - 4 暗褐色土 ローム塊中量、しまり強、粘性強。
 - 5 暗褐色土 ローム塊中量、しまり強、粘性強。

第79図 西判部西原遺跡3区 SI-35実測図

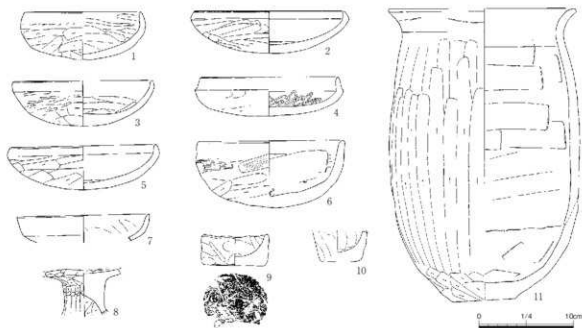


- | | | | | | |
|----------|------------------------------|---------|-------------------------|----------|----------------------|
| SI-36 | | P1~P4 | | P7 | |
| 1 褐色土 | ローム粒・焼土粒微量。しまり強。粘性極めて強。 | 1 暗褐色土: | ローム塊多量。しまり強。粘性強。 | 1 暗褐色土: | ローム塊多量。しまり弱。粘性強。 |
| 2a 暗褐色土 | ローム粒・焼土粒少量。しまり中強。粘性強。 | 2 黒褐色土: | ローム塊多量。しまり弱。粘性強。(柱根) | 2 黄褐色土: | ローム塊主体。しまり弱。粘性強。 |
| 2b 褐色土 | ローム粒中量。焼土粒少量。しまり中強。粘性強。 | 3 褐色土: | ローム大塊主体。しまり中弱。粘性強。(裏込め) | P8 | |
| 3a 明褐色土 | ローム粒少量。しまり中弱。粘性極めて強。 | 4 明褐色土: | ローム大塊主体。しまり中弱。粘性強。 | 1 暗褐色土: | ローム小塊多量。しまり強。粘性強。 |
| 3b 褐色土 | ローム粒多量。焼土粒少量。しまり中強。粘性極めて強。 | 5 褐色土: | ローム大塊主体。しまり中弱。粘性強。 | 2 黒褐色土: | ローム小塊多量。しまり強。粘性強。 |
| 3c 黒褐色土 | ローム粒中量。焼土粒少量。しまり中強。粘性極めて強。 | P5 | | D2 | |
| 4a 黒褐色土 | ローム塊多量。しまり中強。粘性極めて強。 | 1 暗褐色土: | ローム小塊多量。しまり弱。粘性強。 | 1 暗褐色土: | ローム塊多量。しまり弱。粘性強。 |
| 4b 褐色土 | ローム塊多量。しまり中強。粘性極めて強。 | 2 黒褐色土: | ローム小塊少量。しまり弱。粘性強。 | 2 黄褐色土: | ローム塊主体。しまり弱。粘性強。 |
| 5a 褐色土 | ローム粒中量。焼土粒微量。しまり中強。粘性強。(覆瓦小) | 3 褐色土: | ローム塊多量。しまり強。粘性強。 | L・L'・MM' | |
| 5b 暗褐色土: | ローム粒・焼土粒少量。しまり中強。粘性強。(覆瓦小) | P6 | | 1 暗褐色土: | ローム塊多量。しまり強。粘性強。(居床) |
| 6a 暗褐色土: | 粘土粒・焼土粒多量。しまり強。粘性極めて強。 | 1 暗褐色土: | ローム塊少量。しまり弱。粘性あり。 | | |
| 7 暗褐色土: | ローム塊主体。しまり強。粘性強。(居床) | 2 褐色土: | ローム塊多量。しまり弱。粘性強。 | | |

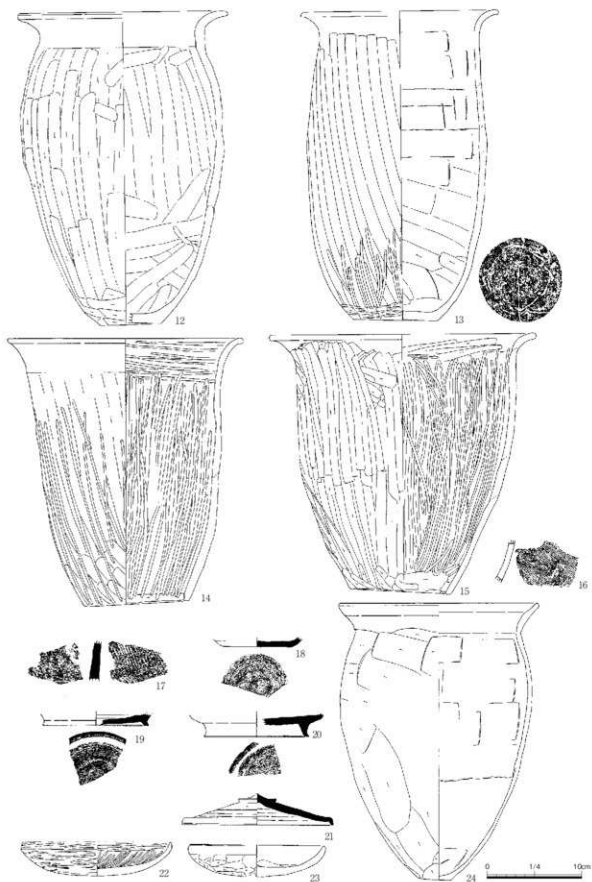
第81図 西刑部西原遺跡3区 SI-36実測図(1)



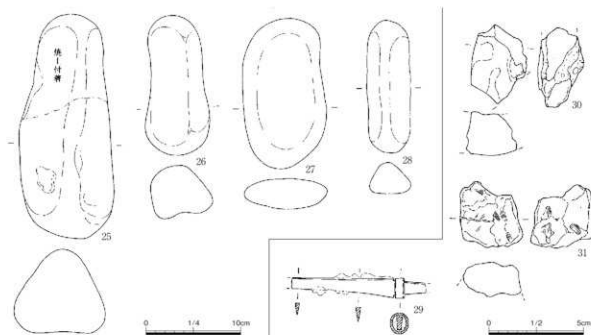
第82図 西刑部西原遺跡3区 SI-36 実測図(2)



第83図 西刑部西原遺跡3区 SI-36 出土遺物(1)



第84図 西刑部西原遺跡3区 SI-36 出土遺物(2)



第85図 西刑部西原遺跡3区 SI-36出土遺物(3)

第29表 3区 SI-36出土遺物観察表

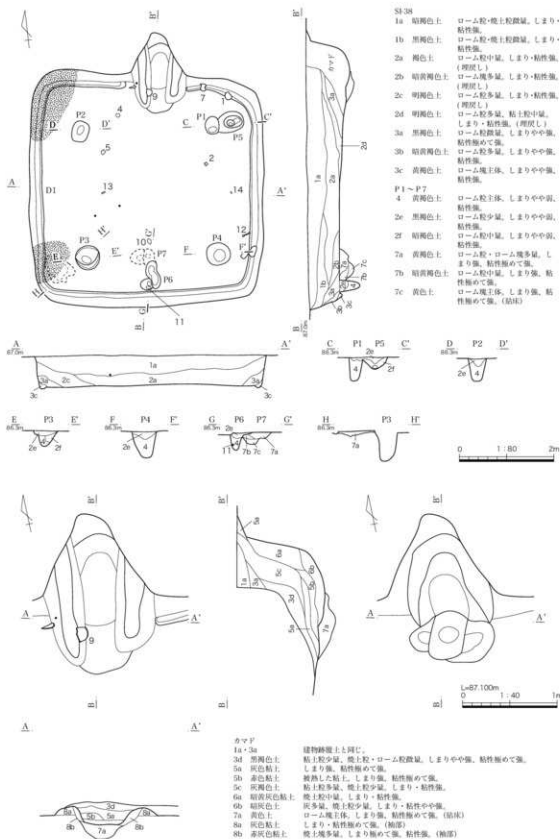
図録番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	粘土・素材・焼成	出土位置・土上 (cm)	現存
1	土師器 土師 環	口 12.2 高 5.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヨコナデのち埋陶なヘラナデ。胴部外面へラケズリの一部ヘラナデ。口縁にナメの正圧痕が著。	内: 10YR7/4 に近い黄褐色 外: 7.5YR7/6 橙	中々緻密。灰・白細砂。赤粒 焼成: 中々硬質	No.2 2.2	完存
2	土師器 土師 環	口 15.5 高 4.5	口縁部外面-体部内面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆上げ。底部外面使用による磨滅顯著。	内: 10YR7/4 に近い黄褐色 外: 7.5YR7/2 に近い黄褐色	中々緻密。灰黒砂。赤粒 焼成: 軟質	No.57 2.6	完存
3	土師器 土師 環	口 14.5 高 4.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面-底部埋陶なヘラナデ。胴部外面-底部ヘラケズリのちヘラミガキ。	内: 10YR7/4 に近い黄褐色 外: 7.5YR7/4 に近い黄褐色	中々緻密。黒細砂。赤粒。黒粒 焼成: 中々硬質	No.1 2.7	ほぼ完存
4	土師器 土師 環	口 14.4 高 4.1	体部外面上半部ナデか。体部外面下半部及び底部外面ヘラケズリか。口縁部外面-体部内面ヨコナデ。体部内面縦らなヘラミガキ。内外面漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR7/4 に近い黄褐色	中々緻密。黒・灰・白細砂。黒・灰・白・赤粒 焼成: 中々硬質	No.49-50 床面 (No.50)	口縁部-体部 3/5
5	土師器 土師 環	口 15.2 高 4.6	口縁部外面-体部内面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部-底部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。底部外面使用による磨滅顯著。	内: 7.5YR7/6 橙 外: 7.5YR6/6 橙	緻密。黒・白細砂 焼成: 軟質	No.58 0.3	完存
6	土師器 土師 環	口 15.8 高 7.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半部ハケ目状ヘラナデ。下半部ヘラケズリ及びナデ。体部内面ヘラナデ。底部内面欠損部(破面)に沿ってヘラミガキあり。焼成前のヒビ補修痕か。	内: 10YR6/4 に近い黄褐色 外: 10YR7/4 に近い黄褐色	中々緻密。白・灰・黒粗砂-泥。赤粒 焼成: 軟質	No.9-10 床面 (No.10)	ほぼ完存
7	土師器 土師 環	口 (13.6) 高 [2.8]	口縁部内外面ヨコナデか。体部外面調整不明。体部内面ヘラナデ。全体的に胎厚は薄。北武蔵系の坏か。	内: 10YR8/4 浅黄褐色 外: 10YR8/3 浅黄褐色	中々緻密。黒・灰・白細砂。赤粒 焼成: 中々硬質	覆土上面	口縁部
8	土師器 高杯	高 [4.7]	杯面は破面を打ち欠き磨いている。杯底部内面ヘラミガキのち黒色磨面。杯部外面はヘラナデ。胴部外面は圧痕が全周する。正圧は棒状工具による。胴部内面ヘラケズリのちヘラナデ。	内: 1.5N5/1 黒 外: 2.5YR3/3 淡黄	中々緻密。灰黒砂。虫歯片。赤粒 焼成: 中々硬質	No.45 10.3	杯部底面の一部。胴部
9	土師器 手取ね 土師 土器	口 6.6 底 6.5 高 3.3	内面指ナデ。モミ圧痕あり。外面指ナデ及び頸部押圧。底部外面ナデか。	内外面とも 6.0/6 橙	中々緻密。灰黒砂。赤粒 焼成: 中々軟質	No.32 57.1	口縁部 1/4, 底部完存
10	土師器 手取ね 土師 土器	底 4.0 高 [3.5]	口縁部-体部内外面ナデ。底部外面ナデ。	内外面とも 5YR6/6 橙	粗い。白・黒・灰粗砂-泥。赤粒 焼成: 軟質	No.23 55.6	体部-底部はほぼ完存 口縁部に欠損
11	土師器 甕	口 20.0 底 6.3 高 31.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面上半部ヘラナデのち下半部ヘラケズリ。底部外面磨滅のため調整不明。胴部外面中に粘土(粘土カ)若干付着。	内: 10YR7/4 に近い黄褐色 外: 10YR7/6 明黄褐色	中々粗い。白・黒・灰粗砂-泥 焼成: 中々軟質	No.60 6.3	ほぼ完存
12	土師器 甕	口 21.3 底 6.0-6.3 高 33.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリのち上半部ナデ。下半部ナメあるいはヨコナデナデ。胴部内面上半部タテヘラナデのち下半部ナメあるいは横方向ナデ。胴部外面一部に炭化物付着(ススカ)。	内: 7.5YR8/4 浅黄褐色 外: 7.5YR7/6 橙	中々粗い。白・灰粗砂。灰・白・黒。赤・白粒 焼成: 中々硬質	No.13-17 59-67, 69-67, カマド 床面	ほぼ完存

第3章 発見された遺構と遺物

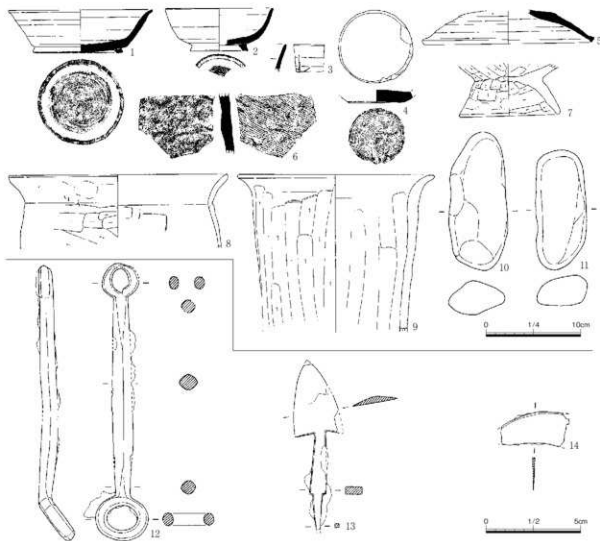
13	土師器 甕	口 20.6 底 9.0 高 32.7	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上平ヘラナデ、下平 ヘラナデのちヘラミガキ。底部外面ナデのち円形 口の浅腹または圧痕が。胴部外面壁土付着。	内：7.5YR6/6 橙 外：7.5YR6/8 橙	中や粗い、白・灰黒砂～ 硬、赤鉄 焼成：軟質	№ 4-64 7.5 (№ 64)	ほぼ完存
14	土師器 甕	口 24.4 底 11.0 高 28.3	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面垂直ヘラミガキ。 胴部内面下部ヨコナデのちヘラミガキ。 胴部外面上平部ヘラナデ、下平部ヘラナデのちヘラ ミガキ。口はヘラナデにて穿孔。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR7/4 に近い橙	中や粗密、白・灰黒砂、白・ 灰・黒砂、白硬、白粒 焼成：中や硬質	№ 4-65 1.6	ほぼ完存
15	土師器 甕	口 28.3 底 10.5 高 27.6	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上平部は下方向、下 平部は上方向のちヘラナデ。下部ナメヘラナ デ。胴部内面一部にナメヘラナデ。胴部内面下 部部ヘラナデのち、全面に中や粗なタテヘラミガキ。 口はヘラナデにて穿孔。	内：5YR6/6 橙 外：5YR6/8 橙	中や粗密、灰黒砂、赤鉄 焼成：中や軟質	№ 11-12- 14～16・ 51～52-63 10 (№.63)	ほぼ完存
16	土師器 甕	厚 7.0 高 4.3	内面ヘラナデ。外面ハケ目。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	中や粗い、白・灰・黒粒 砂～硬 焼成：軟質	覆土上面	胴部破片
17	須恵器 甕	高 [4.4] 厚 1.1	内面無文であり、外面陶器印付き。	内：5Y8/1 灰白 外：N4/0 灰	中や粗密、白・灰黒砂、白・ 黒砂、白硬 焼成：軟質	覆土上面	胴部破片
18	須恵器 杯	底 [7.0] 高 [1.2]	内面ロクロナデ。外面回転ヘラナデ。	内外面とも 10Y5/1 灰	中や粗密、白・灰・黒粒 砂、白・黒砂、赤鉄 焼成：中や硬質	覆土上面	底部 1/2
19	須恵器 高台付 杯	高 [10.8] 底 [1.3]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラナデのち高台 取付け。高台側面に接合浅痕あり。	内：7.5Y6/1 灰 外：2.5Y6/1 灰黄	中や粗密、灰・白・黒粒 砂、灰・白砂、赤鉄 焼成：硬質	覆土上面	底部 1/5
20	須恵器 高台付 杯	底 [10.8] 高 [2.4]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラナデのち高台 取付け。断面から接合浅痕を確認。	内外面とも 2.5Y5/1 黄灰	中や粗密、灰・白・黒砂、 白・灰・黒粒砂、白硬 焼成：硬質	覆土上面	底部 1/6
21	須恵器 甕	口 [15.8] 高 [3.3] 口径 2.8	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラナデのちつ マミ取付け。赤み著しく、法照は復元推。	内：10Y5/1 灰 外：5Y5/1 灰	粗密、白細砂、白砂 焼成：硬質	№ 36 56.5	天井部～体 部 1/4
22	土師器 杯	口 15.4 高 3.6	口縁部内外面ヨコナデのちヨコヘラミガキ。胴部内面 放射状ヘラミガキ。外面ヘラナデのちヨコヘラミガ キ。内外面壁土上げ。	内：10YR7/3 に近い黄緑 外：7.5YR7/4 に近い黄 橙	中や粗密、白・黒・灰黒 砂、白・黒砂、赤鉄 焼成：中や硬質	№ 56 3.7	ほぼ完存
23	土師器 杯	口 14.1 高 3.3	口縁部内外面ヨコナデ。胴部～底部内面ヘラナデ。体 部外面上平部ヘラナデ及び背直理止。下平部ヘラナ デ。	内：10YR7/3 に近い黄緑 外：10YR7/4 に近い黄緑	中や粗密、白・灰・白細 砂、黒・白砂・赤鉄 焼成：中や硬質	№ 48 6.3	口縁部～体 部 3/5
24	土師器 甕	口 23.0 底 3.3 高 29.3	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナメヘラナデ。底 部外面一方方向ヘラナデ。外面にスズ及び多量の粘 土が付着する。ため調整の単位不明。	内：2.5YR4/6 赤 外：5YR4/3 に近い赤	中や粗密、白・灰・黒粒 砂 焼成：中や硬質	覆土中	口縁部 2/3、 胴部 1/2
25	石器 支脚か 文輪	長 23.5 幅 9.5 厚 8.8 重 269.8	未加工の自然礫。上下面に焼土付着。支脚か。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	10YR2/4 黄灰濁	—	№ 65 床直	完存
26	石器 輪布石	長 14.7 幅 6.4 厚 5.5 重 700.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：不整な隅丸台形	2.5Y3/3 黄濁	—	№ 4 33.8	ほぼ完存
27	石器 輪布石	長 15.8 幅 0.7 厚 3.1 重 664.0	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：楕円形	2.5Y6/1 黄濁	—	№ 33 42.6	完存
28	石器 輪布石	長 14.0 幅 3.6 厚 4.0 重 322.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：隅丸三角形	2.5Y6/3 に近い黄	—	№ 38 48.6	完存
29	鉄製品 刀子	長 [7.1] 幅 1.1 厚 1.0 重 [6.3]	照は両面。刃部は平直で、中央は鋭角張りしたものか。 内縁で縁幅は 2.5 mm。柄の幅は 4.7 mm。断面形は上 下に長い楕円形を呈し、内部に本質が残る。	—	鉄製	№ 43 38.5	先端部及び 基部部を欠 損
30	瓦片	長 [4.2] 幅 [2.9] 厚 [2.2] 重 [30.6]	椀形磨治の破片。断面 4 面。磨面で重い。上面はめ らからで気孔無し。右に上部にサビ。下面は気孔多い。 9 程度の付着なし。	表：サビ有 7.5YR5/6 明 黄 裏：サビ有 7.5YR5/6 明 黄 重：サビ無 10Y4/1 灰	磁器質 3	覆土中	部欠
31	焼成粘 土塊	長 3.4 幅 3.0 厚 1.8 重 11.8	ワラなどの器人骨あり。表面全面が破面と考えられる。	5YR5/6 明赤	粗い、白細砂～粗砂、透 明黄、赤鉄 焼成：軟質	覆土中	部分欠損

3区 SI-38 (遺構：第 86 図、遺物：第 87 図、図版一〇・八五・八六・一一二・一一五)

位置 グリッド 92.0-52.0 重複遺構 無し。平面形 隅丸正方形 規模 東西 4.88 × 南北 4.96 m 主軸
方向 N-5.5° - E 覆土 覆土下層は埋戻し、上層は自然堆積か。壁 壁高は 63 ～ 75 cm 残存。床
ローム地山を床面とし、概ね平坦である。硬化面は確認できない。柱穴 P1 (径 37 ～ 29 cm、深さ 49 cm)、
P2 (径 45 ～ 35 cm、深さ 46 cm)、P3 (径 51 ～ 60 cm、深さ 61 cm)、P4 (径約 48 cm、深さ 55 cm) は主柱



第86図 西刑部西原遺跡3区 S1-38実測図



第 87 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-38 出土遺物

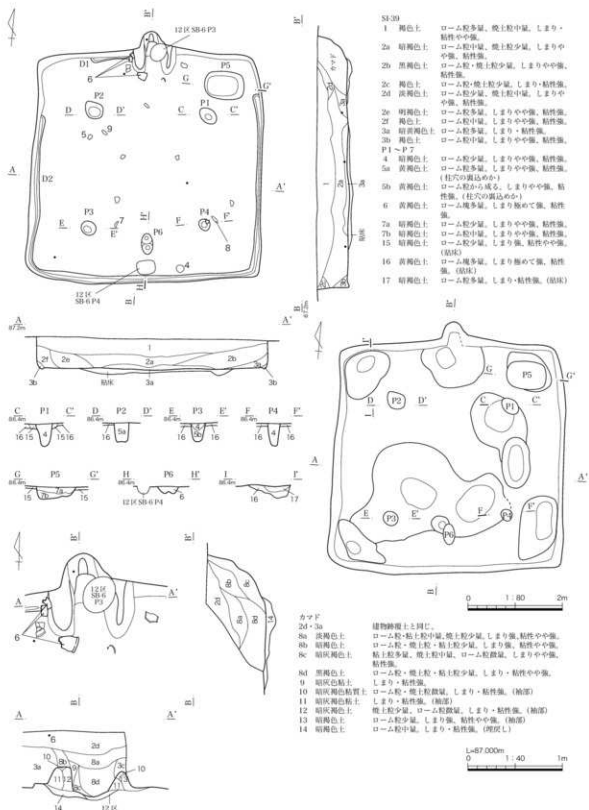
穴か。柱痕は確認できなかった。 入口ピット P6 (径 57 ~ 23 cm、深さ 36 cm)、P7 (径 49 ~ 32 cm、深さ 25 cm) は位置的に入口関連の痕跡と思われる。 貯蔵穴 P5 (径 52 ~ 43 cm、深さ 25 cm) は P1 に近接する。 壁溝 D1 (幅 7 ~ 13 cm、深さ cm) は壁際を全周する。 掘方 南西隅に浅い掘り込みあり。ローム塊主体の 7a 層で埋戻している。 カマド 北壁中央部を、先端の丸い三角形に掘り込んでいる。煙道は 77° と急角度で立ち上がる。また焼土も煙道部に多く認められる。燃焼部は不定形に掘り込み 7a 層で埋戻す。袖は灰色粘土を使用する。9 の土師器甕はカマド芯材に転用されたものか。 遺物 殆どが覆土中から出土し、床面付近の遺物は礫と編物石のみである。土器類は須恵器環・高台付杯・蓋、土師器甕・台付甕、石器類は編物石、鉄製品は鎌・鉄・引手がある。3 は坯体部側面にヘラ記号が見られる。4 は須恵器環底部破片の縁辺を打ち欠いている。8 は薄手の武蔵型甕。12 の引手は柄と壺が一体となる、いわゆる一本引手である。不掲載土器類の総量は小コンテナ 1 箱弱、礫の重量は約 5.2 kg である。遺物から奈良時代前葉の建物跡と考えられる。

第30表 3区 S1-38 出土遺物観察表

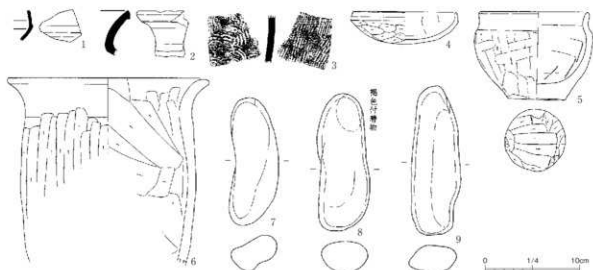
図録番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (m)	残存
1	須恵器 高台付 杯	口 15.0 底 9.2 高 4.5	内外面口クロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。内面脚部に彫刻的着物あり。	内外面とも 2.5Y7/4 浅黄緑	やや緻密。白・灰釉砂一層焼成；やや硬質	№ 11 10.9	口脚部 1/2。底部 完存
2	須恵器 高台付 杯	口 (11.2) 底 (6.0) 高 4.5	口脚部内外面口クロナデ。体部外面下端回転ヘラケズリ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。内面は赤褐色。外面は全面剥離。伏せて焼かれたものか。	内：7.5YR6/4 に近い青 外：7.5YR6/1 灰	緻密。灰・黒・白釉砂 焼成；硬質	№ 12 53.1	口脚部 1/10。 体部～底部 1/4
3	須恵器 杯	高 [3.0] 径 14.5	内外面口クロナデ。体部外面へラ記号あり。	内外面とも 10YR8/4 浅黄緑	緻密。白釉砂 焼成；硬質	覆土中	口脚部破片
4	須恵器 杯	底 6.0 高 [1.4]	底部内面口クロナデ。底部外面回転糸切り。破面一部を打ち欠いて整えている。パレットなどの転用品か。	内外面とも 2.5Y5/1 黄灰	緻密。灰・白釉砂 焼成；硬質	№ 6 71.3	底部のみ完 存
5	須恵器 蓋	口 (18.0) 高 [3.5]	大口径外面回転ヘラケズリ。内外面口クロナデ。	内外面とも 5Y6/1 灰	緻密。白釉砂。白濁 焼成；硬質	№ 5 70.7	口脚部～体 部 1/6
6	須恵器 蓋	高 (6.5)	内面ナデのち無文あて具皿。外面平打叩成。	内：7.5YR6/1 灰 外：10YR6/1 灰	やや粗い。白・灰釉砂 焼成；硬質	覆土中	胴部破片
7	土師器 台付鉢	底 10.4 高 [5.6]	底部内面ナデ。胴部外面下端ヘラケズリ。脚部内外面下端深いヨコナデ。脚部外面脚部滑石のちナデのちタテナデナリ。胴部内面ヘラケズリ。	内外面とも 10YR5/2 灰 黄濁	粗い。白・灰・黒釉砂一 層焼成；硬質	№ 10 8.9	底部～脚部 ほぼ完存
8	土師器 鉢	口 (17.0) 高 [8.6]	口脚部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラケズリ。	内：5YR6/6 橙 外：5YR6/8 橙	やや緻密。白釉砂～彩砂 焼成；軟質	覆土中	口脚部～胴 部 1/9
9	土師器 鉢	口 (20.4) 高 [17.1]	口脚部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面タテヘラナデ。特に外面は酸化風化が著しく調整は不明瞭。	内外面とも 10YR8/4 浅 黄緑	やや緻密。灰・黒・白釉 砂。白・灰砂。赤粒 焼成；やや硬質	№ 18 15.6	口脚部一部 ～胴部上 1/4
10	石函 編物石	長 14.5 幅 6.1 厚 3.6 重 427.7	未加工の自然産。平面形；楕円形 断面形；不整なレンズ状	10YR7/3 に近い黄橙	-	№ 17 3.0	完存
11	石函 編物石	長 12.8 幅 5.3 厚 3.3 重 334.1	未加工の自然産。平面形；不整な楕長方形 断面形；不整な楕円形	N4/1 灰	-	№ 18 15.6	完存
12	鉄製品 棒 (引手)	長 14.7 幅 2.8 厚 0.9 重 44.2	柄と歯が一体となる一本引手。端部の外径は約 2cm。上端のみ細く、磨り減ったためか。柄の断面形は中央部では菱形に近い棒を有する。最大幅約 1cm。厚さ約 0.9cm。歯は径 2.6～2.8cm の楕円形を呈し、柄に對するの字に屈曲する。	-	鉄製	№ 1 4.8	引手部分完 存
13	鉄製品 鉄錐	長 [8.8] 幅 2.4 厚 [16.2]	錐身に比べ胴部が短い短錐錐。錐身は片丸造りで、筒状をもつ三角形を呈する。貫孔は台形間で、最大幅 9mm ほどの断面長方形。茎下端面は欠損。	-	鉄製	№ 3 60.3	茎下端面欠 損
14	鉄製品 鎌か	長 [3.5] 幅 [1.8] 厚 [3.9]	曲刃鎌の先端部破片か。刃部は平造り。鎌は平田で、幅約 1.8 ミリと薄い。	-	鉄製	№ 15 5.5	先端部のみ 残存

3区 S1-39 (遺構：第 88 図、遺物：第 89 図、図版一一・八六)

位置 グリッド 92.5-52.5 重複遺構 12区 SB-6 (時期不明) より新しい。平面形 隅丸方形 規模 東西 4.82 × 南北 4.87 m 主軸方向 N-3.5° - E 覆土 7層に分層される。自然堆積と考えられる。壁
壁高は 56 ~ 69 cm 残る。床 中央部及び四隅に貼床あり。概ね平坦で硬化面は確認できなかった。柱
穴 P1 (径 41 ~ 28 cm、深さ 47 cm)、P2 (径 44 ~ 35 cm、深さ 40 cm)、P3 (径 31 ~ 29 cm、深さ 37 cm)、
P4 (径 26 ~ 24 cm、深さ 38 cm) は主柱穴。柱痕は未確認。入口ピット P6 (径 46 ~ 24 cm、深さ 15 cm)
は浅く平面楕円形を呈する。貯蔵穴 P5 (長軸 82 ~ 短軸 59 cm、深さ 24 cm) は建物跡北東隅に位置する。
壁溝 北西隅・カマド東側から北東隅を除く壁際を巡る。D1 (幅 10 ~ 15 cm、深さ 5 cm)、D2 (幅 10 ~
24 cm、深さ 2 ~ 5 cm) 共に幅は狭く浅い。掘方 四隅に土坑状の掘り込みをもつ。深さは 20 ~ 30 cm で、
16・17 層で埋戻している。中央部の掘り込みは浅く不整形。カマド 北壁中央部を台形状に浅く掘り込み
煙道としている。焼土は全体的に少ないが煙道部に集中する。遺物 土器類は須恵器環・高坏・甕が、土
師器は坏・小型甕・甕などが出土。この他編物石 3点を図示した。4の土師器環は床面付近の出土。口径が
小さくミガキをもたない。不掲載土器類は小コンテナ 1箱弱、碟の総重量は 2.2 kg である。遺物から古墳時
代終末期 (7世紀前半) の建物跡と思われる。



第88図 西刑部西原遺跡3区 SI-39実測図



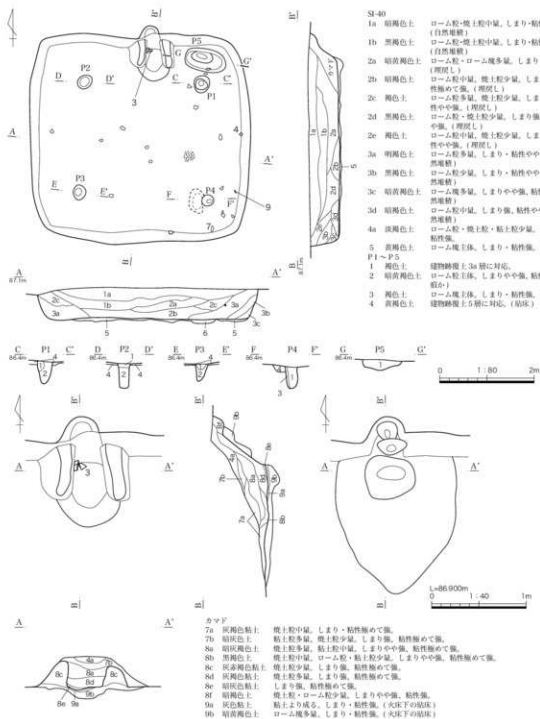
第 89 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-39 出土遺物

第 31 表 3 区 SI-39 出土遺物観察表

図録番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・状況 (cm)	残存
1	須恵器 高杯	高 [3.3]	ロクロナデ。口縁部外面自然斜付存。薄手で焼成良好。東海産か。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：2.5Y7/1 灰白	細密、白・灰・黒細砂 焼成：硬質	覆土中	杯部破片
2	須恵器 甕	厚 0.9 高 [9.8]	口縁部内外面ロクロナデ。口縁端部は肥厚。	内：7.5Y5/1 灰 外：7.5Y6/1 灰	細密、白・黒灰黒砂～礫 焼成：硬質	上面	口縁部破片
3	須恵器 甕	高 [5.2] 厚 0.6～0.7	内面同心円状あて貝面。外面平行甲き。	内：7.5Y8/1 灰白 外：5Y6/1 灰	細密、黒細砂、白砂 焼成：硬質	覆土中	胴部破片
4	土師器 杯	口 10.7 高 3.4	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。	内：7.5Y8/6 橙 外：5Y8/6 橙	やや粗い、黒・灰・白細 砂、灰砂 焼成：やや硬質	№ 18 3.6	完存
5	土師器 小型甕	口 (11.4) 底 6.5 高 9.3	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラナデ。底部外面ヘラケズリ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや粗密、灰・黒・白細 砂、黒・白砂、赤粒 焼成：やや軟質	上面	口縁部～体 部 1/3、底 部完存
6	土師器 甕	口 (21.0) 高 [19.8]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面タテヘラナデのち強めのナメヘラナデ。胴部外面タテヘラケズリ。	内：7.5YR6/8 橙 外：5YR6/8 橙	やや粗い、白・灰・黒細 砂～礫、赤粒 焼成：やや軟質	方マド	口縁部～胴 部 1/3
7	石器 編物石	長 12.8 幅 4.5 厚 3.1 重 307.0	未加工の自然礫。平面形：不整な楕円形 断面形：不整形	10Y7/1 灰白	—	№ 2 床底	完存
8	石器 編物石	長 14.3 幅 5.0 厚 3.3 重 413.0	未加工の自然礫。一部に褐色の付着物あり。平面形：長い楕円形 断面形：楕円形	2.5Y7/3 淡黄	—	№ 13 15.1	完存
9	石器 編物石	長 15.6 幅 5.2 厚 2.8 重 367.0	未加工の自然礫。平面形：不整な棒状 断面形：楕円の菱形	5Y8/1 灰白	—	№ 5 2.4	完存

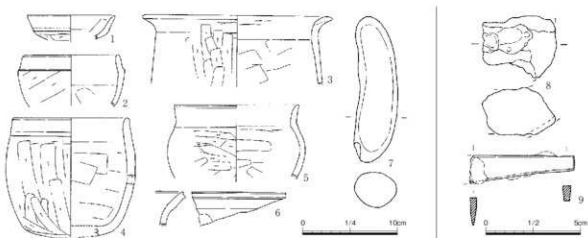
3区 SI-40 (遺構：第90図、遺物：第91図、図版一・二・三・五・六)

位置 グリッド92.5-52.5 重複遺構 12区SB-6(時期不明)より新しい。平面形 兩丸方形 規模 東西4.82×南北4.87m 主軸方向 N-3.5°-E 覆土 覆土下層は人為埋戻しの可能性がある。壁 壁高は56～69cm残る。床 ほぼ全面的に薄く貼床あり。柱穴 P1(径41～28cm、深さ47cm)、P2(径44～35cm、深さ40cm)、P3(径31～29cm、深さ37cm)、P4(径26～24cm、深さ38cm)は主柱穴。



第90図 西刑部西原遺跡3区 SI-40 実測図

このうちP4には柱痕が見られる。入口ピット・壁溝 未確認。貯蔵穴 P5(長軸84×短軸44cm、深さ22cm)は北東コーナーに位置する。掘方カマド 北壁中央部に位置し、壁面を小さく半円形に掘り込む。煙道は上半部で段をもつ。床面は浅く広く掘り込み、ローム塊を多量に含む9a・9b層で埋戻している。遺物 土師器は坏・鉢・甕が出土。石器は編物石、鉄製品は刀子、その他鉄滓が見られる。不掲載遺物のうち土器類は殆どが土師器甕・坏類で、小コンテナ1箱弱、礫は約600g出土した。遺物から古墳時代終末期(7世紀前半)の建物跡と考えられる。



第91図 西刑部西原遺跡3区 SI-40 出土遺物

第32表 3区 SI-40 出土遺物観察表

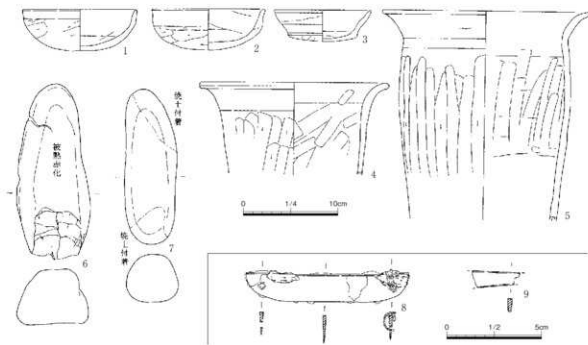
掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	土師器 坏	口 (0.1) 高 [2.6]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面ナデ。縁上上げ。	内: 10YR6/2 灰黄緑 外: 10YR7/2 に近い黄緑	中今織布、黒・灰・白細砂、黒・灰・赤粒 焼成: 中今硬質	覆土中	口縁部~体部 1/4
2	土師器 鉢	口 (0.8) 高 [5.4]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ナメヘラケズリか。	内外面とも 2.5Y7/1 灰白	中今織布、黒・白・灰細砂、黒・白・赤粒 焼成: 中今硬質	覆土中	口縁部~体部 1/4
3	土師器 甕	口 (20.0) 高 [7.8]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面タテヘラケズリ。	内: 7.5YR7/6 橙 外: 10YR6/4 に近い黄緑	中今粗い、黒・灰・透明・白細砂一層 焼成: 軟質	№ 20 9.3	口縁部~胴部 上 1/6
4	土師器 甕か	口 15.7 高 [13.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。底部外面ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。	内: 2.5Y7/3 浅黄 外: 10YR7/4 に近い黄緑	中今織布、黒・灰・白細砂、黒・赤粒 焼成: 中今硬質	№ 15 38.7	口縁部 1/6、 底部 1/5
5	土師器 鉢	口 (14.0) 高 [7.8]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヨコまたはナメヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。	内: 10YR8/4 浅黄橙 外: 10YR8/6 黄緑	織布、黒・灰・白細砂・赤粒 焼成: 中今軟質	覆土中	口縁部~胴部 上 1/6
6	土師器 甕	口 (26.0) 高 [3.7]	口縁部内外面ヨコナデ。	内: 5YR6/6 橙 外: 5YR6/4 に近い橙	中今織布、白・透明・黒細砂、白・黒砂、白・赤粒 焼成: 中今硬質	覆土中	口縁部 1/8
7	石器 編物石	長 15.0 幅 4.4 厚 3.7 重 347.0	未加工の自然礫。平面形: 曲がった棒状。断面形: 不整な楕円形。	2.5Y7/2 灰黄	-	№ 8 27.2	完存
8	鉄滓	長 [3.2] 幅 [3.9] 厚 [2.5] 重 [30.1]	板形鉄滓片。上面は気孔1か所、錆化あり。下面は気孔1か所あり。下面の一部には砂粒の混入したが底の粘土が付着。	表: サビ色 5YR6/4 に近い橙 裏: サビ色 10YR5/4 に近い黄緑	磁粒度: 5	覆土中	部分残存
9	鉄製品 刀子	長 [5.5] 幅 [1.5] 重 [13.7]	刃部が僅かに残る刀子破片。幅は4.8mmと基部が最も広い。刃は浅く、刃部側にのみ認められる。	-	鉄製	№ 12 17.4	刃部一部、 葉完存

3区 SI-41 (遺構：第93図、遺物：第92図、図版一三・八六・一一三)

位置 グリッド92.0-52.5 重複遺構 3区 SI-42、12区 SI-3と重複し、いずれより古い。平面形 兩丸長方形 規模 東西5.05m以上×南北3.55m 主軸方向 N-1°-E (推定値) 覆土 人為埋戻しと考えられる。壁 壁高43~56cm 床 概ね平坦で全面が貼床。硬化面なし。柱穴 確認できなかった。

入口ピット P2 (径53~50cm、深さ24cm) 貯蔵穴 P1 (長軸57×短軸46cm、深さ27cm) はカマド西側に位置する。壁溝 確認できなかった。掘方 全面的に不整形な掘り込みをもつ。最深部で30cm。

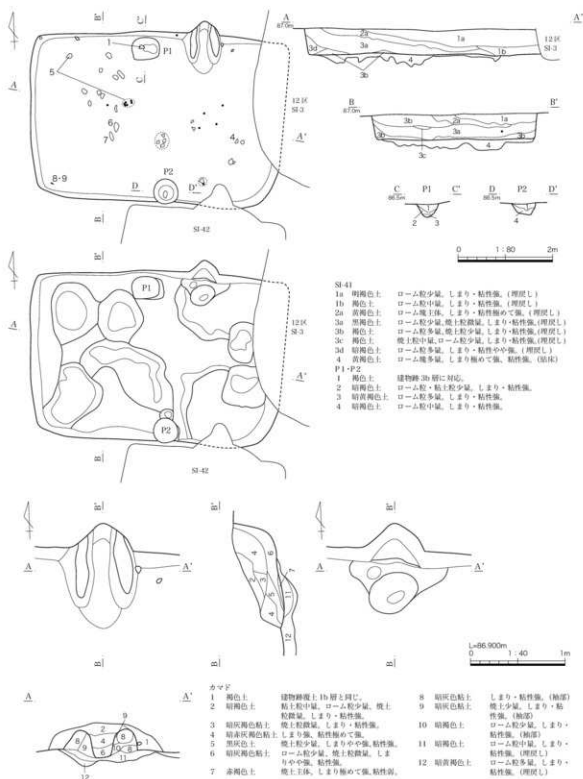
カマド 北壁中央部やや東寄り位置する。壁際を三角形に掘り込む。煙道は短く約80°で直線的に立ち上がる。床下は皿状に掘り込み暗褐色土(11層)で埋戻している。火床面は強く被熱している。遺物 出土遺物は少なく、土師器環・甕の他、編物石、鉄製品を図示した。床面直上遺物は1の土師器環と5の土師器甕がある。手鎌(8)は完形品。背には木製の持ち手と、それを括り付ける紐が残っている。6・7は編物石としたが、被熱しており他の用途に用いられた可能性もある。不掲載遺物のうち土器類は殆どが土師器環・甕類の小破片で、小コンテナ1/3弱、礫は約4kg出土した。遺物から古墳時代終末期(7世紀前半~中葉)の建物跡と考えられる。



第92図 西刑部西原遺跡3区 SI-41 出土遺物

第33表 3区 SI-41 出土遺物観察表

掲載番号	図種	法量(m/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・構成	出土位置・床土(m)	残存
1	土師器環	口(11.8) 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ナデ、体部~底部外面ヘラケズリか。口縁部内外面一部暗褐色を呈する。	内外面とも 5YR5/6 橙	中~中硬密、白・透明・灰緑砂、白・灰砂、白・赤粒構成・中~中硬質	No 5 床直	体部~底部 1/2
2	土師器環	口 11.7 高 4.3	口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ナデ、体部外面的風のため不明瞭だが、ヘラケズリか。	内外面とも 10YR8/4 浅黄橙	中~中硬密、白・灰緑砂構成・軟質	甕土中	口縁部~体部 5/6
3	土師器環	口(10.0) 底 7.3 高 3.3	口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ナデ、体部~底部外面ヘラケズリ。	内：7.5YR7/6 橙 外：10YR7/4 に近い黄橙	中~中硬密、白・透明・黒細砂~粗砂、赤粒構成・硬質	甕土中	口縁部~体部 1/2、底部 3/6
4	土師器甕	口(19.6) 高(9.8)	口縁部内外面ヨコナデ、胴部内面ナメヘラケズリ、胴部外面タテヘラケズリ、外面の一部黒炭あり。	内：10YR5/4 に近い黄橙 外：10YR6/4 に近い黄橙	中~中粗い、白・黒・灰緑砂~粗砂構成・硬質	No 2、南内、北東、南東部土平 1/4	44.5

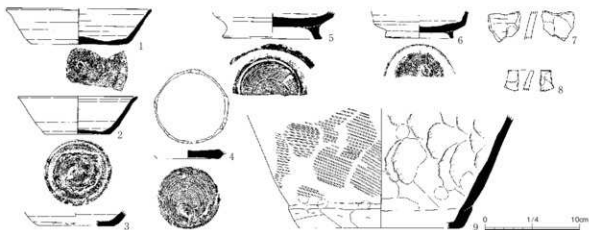


第93図 西刑部西原遺跡3区 SI-41 実測図

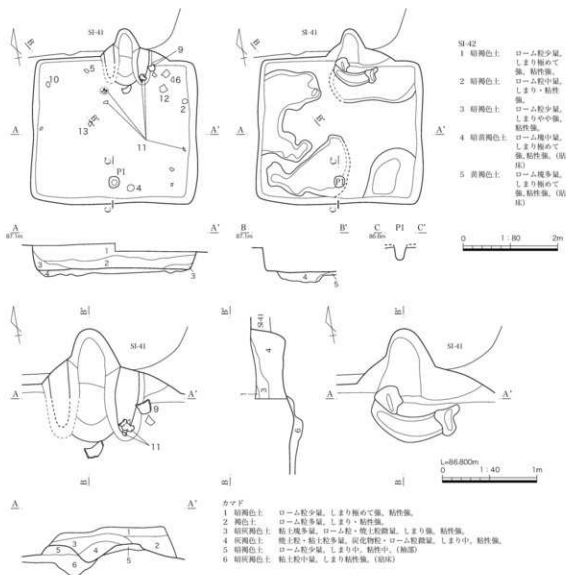
5	土師器 甕	口 [21.7] 高 [22.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面 タテヘラナズリ。外面部部分的に焼土付着。黒炭あり。	内外面とも 7.5YR6/6 類	中や粗い。灰・黒・白磁 砂～礫 焼成：中や軟煎	No 3・27・ 甕土中 床 No 16	口縁部 1/3、胴部 土平 1/2
6	石器 扁石	長 [33.2] 幅 6.9 厚 5.8 重 [1052.0]	未加工の自然産。 平面形：不整な楕円形 断面形：扇形の台形	10YR5/4 に近い黄褐色	—	No 16 8.9	完存
7	石器 扁石	長 16.2 幅 5.5 厚 5.1 重 750.0	未加工の自然産。 平面形：不整な楕円形 断面形：不整な円形	5Y6/1 オリーブ灰	—	No 14 7.6	完存
8	石器 手鏡	長 8.4 幅 1.45 厚 [0.7] 厚 7.7	木質の残る手鏡。背の両面を約 7 mm ほどの薄く、木材で 嵌めたのち、孔に漆（墨状の糊塗か）を塗り固定する。 木材は孔の位置にあわせ、四角い切り込みを入れる。 背はまっすぐで、縁幅は 1.8 mm、孔径 2.5 mm。	—	鉄製・木質・織麻質	No 10 1.6	縁部完存
9	鉄製品 刀子	長 [2.4] 幅 [1.2] 重 [2.2]	床部分の破片。角縁で、縁幅は 2.5 mm。断面形は台形。	—	鉄製	No 10 1.6	部分残存

3区 SI-42 (遺構：第 95 図、遺物：第 94・96 図、図版一三・八六)

位置 グリッド 92.0-52.5 重複遺構 古墳時代終末期の建物跡 SI-41 より新しい。平面形 東西が僅かに長い隅丸長方形。規模 東西 3.40×南北 3.10 m 主軸方向 N-9.5°-E 覆土 暗褐色土主体の 3 層からなり、自然堆積と考えられる。壁 壁高は 45～51 cm 残存。床 概ね平坦で、全面的に貼床あり。柱穴 確認できなかった。入口ピット P1 (径 24～21 cm、深さ 25 cm) は南壁中央部の壁際から 25 cm 離れて位置する。貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 建物跡西部及び南東隅、カマド前から北東隅にかけて不整な掘り込みが認められる。深さ 20 cm 暗黄褐色土で埋戻す。カマド 北壁中央部僅かに東寄りに位置する。煙道は途中で段を有し約 80° の角度で立ち上がる。覆土は焼土を多量含む。遺物 土器類は須恵器環・高台付环・甕、土師器は製塩土器、甕などがある。女瓦破片も 2 点出土する。このうち 5・9・11 は床面付近の遺物である。4 は破片縁辺を打ち欠き整えている。転用品と考えたい。製塩土器 (8) の口縁端部は平坦面をもつ。不掲載の土器類は小コンテナ 1/3 箱、礫の総重量は 200 g と少量である。遺物から奈良時代後葉の建物跡と考えられる。



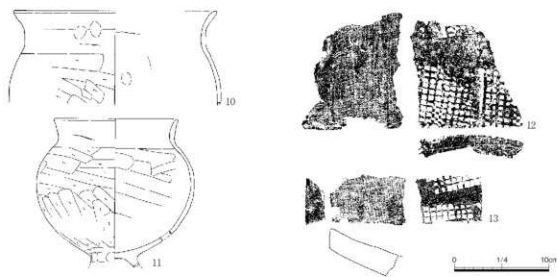
第 94 図 西刑部西原遺跡 3区 SI-42 出土遺物 (1)



第95図 西刑部西原遺跡3区 SI-42 実測図

第34表 3区 SI-42 出土遺物観察表

図録番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・表材	出土位置・土上(m)	現存
1	須恵器 罎	口 (15.1) 底 10.0 高 3.8	内外面ロクロナデ。底部外面回転へら切り。	内外面とも 5Y6/2 灰オリーブ	今今破断、白・灰・黒細砂、白・黒砂 焼成：今今破断	覆土中	1口縁部 1/8、底部1/8
2	須恵器 罎	口 12.5 底 7.0 高 4.0	内外面ロクロナデ。底部外面回転へら切り。	内外面とも 5Y6/1 灰	今今破断、白・灰・黒細砂、白・灰・黒砂 焼成：今今破断	№5 13.7	1口縁部 1/2、底部1/8、底部1/8
3	須恵器 罎	底 [11.0] 高 (8.0)	内外面ロクロナデ。体部外面下端へらケズリ。底部外面斜へらケズリ。	内：2.5Y6/3 に近い黄外：2.5Y7/2 灰黄	細砂、白・灰・透明細砂～粗砂 焼成：硬質	覆土中	底部1/4、体部一部
4	須恵器 罎	底 6.6 高 [1.0]	底部外面回転系切り。破面の縁辺を打欠き凹部に整えたものか。	内外面とも 5Y6/1 灰	今今破断、白・灰・黒細砂、黒・灰・白砂 焼成：今今破断	№4 29.0	底部完全
5	須恵器 高付罎	底 (10.4) 高 [3.1]	内外面ロクロナデ。底部回転系切りのち高台貼付。	内：5Y6/2 灰オリーブ外：10Y6/1 灰	今今破断、白・灰・黒細砂、白・灰・黒砂 焼成：今今破断	№2 0.8	底部3/5、体部一部
6	須恵器 高付罎	高 [2.9]	内外面ロクロナデ。底部外面回転へら切りのち高台貼付のちナデ。	内外面とも N4/0 灰	今今破断。白細砂～粗砂 焼成：硬質	№6 29.5	体部下端～底部1/2



第96図 西刑部西原遺跡3区 SI-42出土遺物(2)

7	製塩土器	厚 05~07	内面横方向のナデ。外面指道押圧およびナデ。やや外傾気味に立ち上がる。	内外面とも 7.5YR6/3 に近い色	中・中硬質。黒色ガラス質粘土。白色粘土。白色粉状物組成。中・中硬質	覆土中	製塩破片
8	製塩土器	高 04~06	内面ヨコナデか。外面指道押圧およびナデ。やや外傾し立ち上がる。口縁端部に平坦面あり。	内外面とも 7.5YR6/3 に近い色	中・中硬質。白色粘土。灰色微砂。白色粉状物組成。中・中硬質	覆土中	口縁部破片
9	指道器	底 17.0 高 [12.7]	製部内面無文に近い平行あて具面か。下端部はナデ。製部外面平行叩き。下端部は指道押圧及びヨコのヘラケズリ。底部外面砂付か。	内：5Y6/1 灰 外：7.5Y6/1 灰	中・中硬質。白色粘土。灰色微砂。黒・灰・白・透明砂組成。中・中硬質	№9 0.9	製下部 1/4。底部欠損
10	土師器	口 [21.1] 高 [10.0]	口縁部内外面ヨコナデ。製部外面ナメヘラケズリ。製部内面ヘラナデ。	7.5YR6/6 橙	中・中硬質。白・黒・黒細砂～粗砂。赤紅組成。軟質	№1 5.2	口縁部上部。製部上半1/5
11	土師器 台付器	口 [12.8] 高 [15.7]	口縁部内外面ヨコナデ。製部内面ヘラナデ。製部外面ヘラケズリ。製部台外面ナデおよび指道押圧。製部内面ヨコナデか。製部内面下半～底部にかけ割痕顯著で調整不明瞭。	内外面とも 5YR6/6 橙	中・中硬質。灰・白・黒細砂・白・黒砂組成。中・中硬質	№3, 12 区SI-4 №3-12 1.6	口縁部上部。製部ほぼ完全。製部欠損
12	瓦瓦	長 [19.4] 幅 [14.7] 厚 1.8 重 [57.0]	凸面：格子叩き 凹面：布目風	2.5YR/2 灰白	粗い。白・灰粗砂～微砂組成。硬質	№7。覆土中 9.8	部分残存
13	瓦瓦	長 [7.8] 幅 [5.2] 厚 2.1 重 [145.0]	凸面：格子叩き 凹面：布目風	7.5Y5/1 灰	粗い。白・黒・透明粗砂～微砂組成。硬質	№6 5.9	部分残存

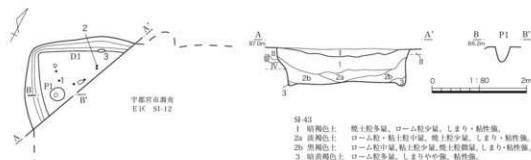
3区 SI-43 (遺構：第97図、遺物：第98図、図版一三)

位置 グリッド90.0-52.0 重複遺構 無し。平面形 大部分は宇都宮調査E区SI-12として調査報告済み。

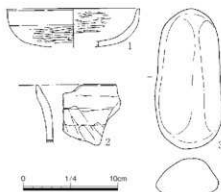
規模 東西5.4×南北5.6m 主軸方向 N-28°-W 覆土 計5層に分層、自然堆積と考えられる。

壁 壁高は45～58cm残る。床 薄い貼床あり。柱穴 4本柱穴である。P1は掘方の可能性あり。

貯蔵穴 北東隅にあり。壁溝 D1 (幅16～39cm、深さ7cm) は宇都宮調査では北壁のカマド東側部分と東壁には壁溝はみられない。カマド 北壁中央部に位置する。遺物 殆どが覆土中から出土し、床面直上の遺物は皆無である。図示した遺物は土器類は土師器杯・鉢、石器類は編物石がある。不掲載遺物は、土器類は小コンテナ箱1/5弱、碟の重量は約200gである。遺物から古墳時代終末期(7世紀中葉)の建物跡と考えられる。



第97図 西刑部西原遺跡3区 SI-43実測図



第98図 西刑部西原遺跡3区 SI-43出土遺物

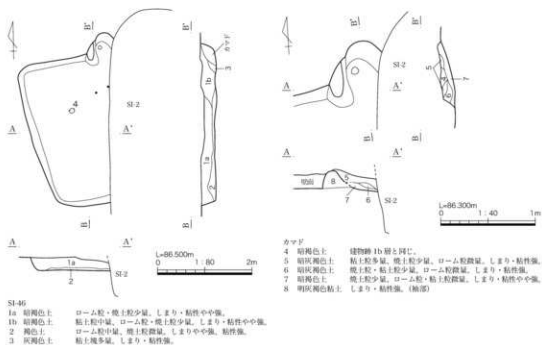
第35表 3区 SI-43 出土遺物観察表

図載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	現存
1	土師器 坏	口 14.0 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。体部内面ヘラミガキ。口縁部内外面漆仕上げ。	内：7.5YR5/4 に近い黄赤 外：10YR5/3 に近い黄赤	今や破部。透明・白・黒 細砂～粗砂 地成；軟質	No.3 14.5	口縁部～体部1/5
2	土師器 鉢	高 6.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナメヘラケズリ。接合痕顕著。体部内面ヘラナデ。	内：10YR5/2 灰黄黒 外：10YR5/3 に近い黄赤	今や粗い。白・黒・透明 細砂～粗砂 地成；やや軟質	No.6 32.5	口縁部～体部破片
3	石器 編物石	長 14.6 幅 6.0 厚 3.8 重 622.1	未加工の自然産。平面形；楕円形。断面形；楕円三角形	5Y6/1 灰	—	No.7 7.3	完存

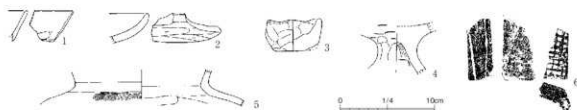
3区 SI-46 (遺構：第99図、遺物：第100図、図版一三・八六)

位置 グリッド 86.5-50.5・87.0-50.5 重複遺構 奈良時代の竪穴建物跡 SI-2 より古い。平面形 東半分を SI-2 に壊され詳細は不明。規模 東西 2.2 m 以上 × 南北 3.15 m 軸方向 不明 覆土 暗褐色土主体の3層からなる。自然堆積。壁 壁高やや斜めに立ち、30 cm 残存。床 ローム地山を床面とする若干の凹凸あり。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。カマド 北壁に位置し、半部が欠失する。壁面を半円形に掘り込む煙道の立ち上がりは緩やかである。遺物 殆どが覆土中の遺物で、床面直上の遺物は皆無である。土器類は土師器坏・手捏ね土器・高坏・甕、瓦破片など6点を図示した。不掲載遺物は土師器裏胸部破片及び坏小破片が主で、小コンテナ 1/2 箱、碟の総重量は 2.2 kg である。遺物から古墳時代終末期（7世紀前半）の建物跡と思われる。

第3章 発見された遺構と遺物



第99図 西刑部西原遺跡3区 SI-46 実測図



第100図 西刑部西原遺跡3区 SI-46 出土遺物

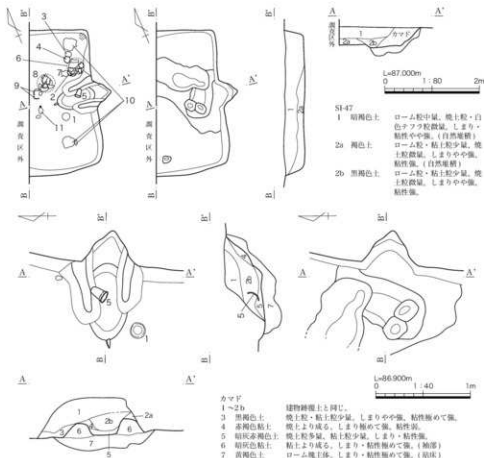
第36表 3区 SI-46 出土遺物観察表

発掘番号	部種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	胎土位置・土上(cm)	残存
1	土師器 杯	高 [3.1]	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部外面ト端部ナデ。漆住上げ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	中々緻密。白・黒細砂。黒砂、赤粒 焼成：中々硬質	腹土中	口縁部 1/8 底部 1/2
2	土師器 杯	高 [3.1]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。	内外面とも 10YR8/3 浅黄	中々緻密。白・黒・灰細砂。黒砂、赤粒 焼成：中々硬質	腹土中	口縁部破片
3	土師器 手取石 土器	口 [5.4] 底 [4.5] 高 3.3	内外面直造押圧のちナデ。底部外面ナデ。	内外面とも 5YR6/6 橙	中々緻密。白・黒細砂。黒砂、赤粒 焼成：中々硬質	腹土中	口縁部 1/4, 底部 1/2
4	土師器 高杯	高 [5.1]	脚部外面ヘラナデのちナデ。脚部内面ハケ目のちヘラナデ。杯内面の調整不明。	内：10YR7/3 にぶい黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	中々緻密。白・灰・黒・細砂。黒・灰砂 焼成：中々硬質	部 1 不明	脚部破片
5	土師器 甕	高 [4.1] 胴径 [14.0]	球割焼。口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ナデ。胴部外面ハケ目。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR6/4 にぶい橙	中々緻密。灰・黒・白細砂。灰・白・黒砂。黒砂、赤粒 焼成：中々硬質	腹土中	胴部 1/6
6	灰瓦	長 [7.0] 幅 [4.1] 厚 1.8 重 [50.3]	凸面：格子印キ 凹面：布目織 割面：ヘラナデ 器入品小。	7.5YR8/4 浅黄橙	中々粗い。灰・黒砂、白・灰・黒細砂。赤粒少 焼成：中々硬質	腹土中	部分残存

3区 SI-47 (遺構: 第101図、遺物: 第102図、図版一三・一四・八六・八七)

位置 グリッド 91.0-51.0・91.0-51.5 重複遺構 無し。平面形 西半部は調査区外のため不明だが方形もしくは長方形。規模 東西1.65m以上×南北3.1m 軸方向 不明 覆土 自然堆積 壁 壁高は約40cm残る。床 貼床なし。若干の凹凸あり。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。

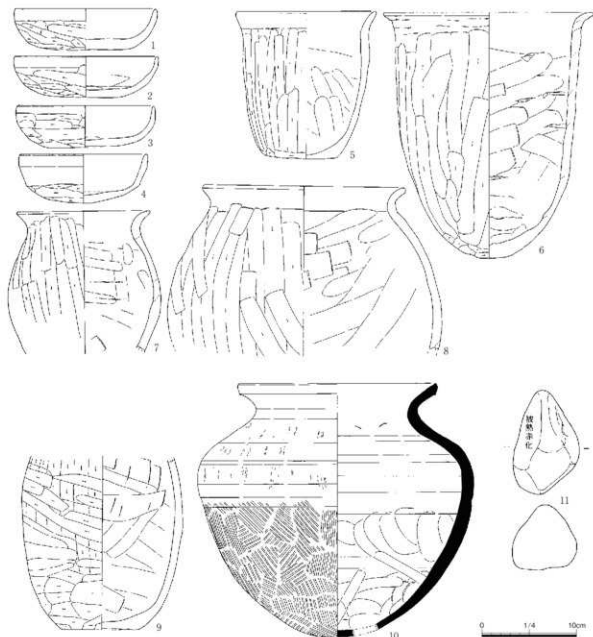
カマド 東壁中央部の壁面を三角形に掘り込む。小型の土師器甕(5)が出土。遺物 土師器環・甕、須恵器甕、編物石がある。カマド西側の覆土下層中に土師器環(2・3・4)、土師器甕(6・7)が集中する。不掲載の土器類は小コンテナ箱1/2弱、礫は約400g。古墳時代終末期の建物跡と考えられる。



第101図 西刑部西原遺跡3区 SI-47実測図

第37表 3区 SI-47 出土遺物観察表

発見番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・構成・素材	出土位置	残存
1	土師器環	口 14.8	口縁部外面～体部内面コナデ。底部内面ナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。内面及び口縁部外面塗仕上げ。	内: 7.5YR7/6 橙	中～微砂、白磁砂、赤粒 構成: 中～微質	No 7	ほぼ完存
		高 4.4		内: 7.5YR8/6 浅黄橙		No 5.5	
2	土師器環	口 14.8	口縁部内外面コナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面ヘラケズリ。口縁部内面～体部内面塗仕上げ。	内外面とも 10YR7/3 に ぶい・黄橙	中～微砂、白・黒磁砂・ 粗砂 構成: 中～微質	No 14	口縁部一部 欠損
		高 4.3		内: 10YR8/2 灰白		No 11	
3	土師器環	口 14.4 高 4.5	口縁部外面～体部内面コナデ。底部内面ナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。全面塗仕上げ。	内: 10YR7/6 黄橙	磁密。白磁砂 構成: 中～微質	No 5.2	ほぼ完存
4	土師器環	口 13.2	口縁部外面～体部内面コナデ。底部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。全面塗仕上げ。	内: 10YR8/3 浅黄橙	中～粗い。白・黒磁砂・ 粗砂 構成: 中～微質	No 12	ほぼ完存
		高 5.1		外: 10YR6/4 にぶい・黄橙		No 5.1	
5	土師器甕	口 14.6	口縁部内外面コナデ。胴部内面ヘラナデのち一部ナデ(ナデは補修痕)。胴部外面タテヘラケズリのち下部端部コヘラケズリ。底部外面ヘラケズリのちナデ。外面の黒帯はススか。部分的に焼熱した粘土付着。	内外面とも 7.5YR6/4 に ぶい・橙	中～微砂、白・灰・黒砂、 白・灰・黒磁砂、赤・白 粒 構成: 中～微質	カマドNo 16	完存
		底 7.6 高 15.5		内: 10YR8/3 浅黄橙		No 7.0	

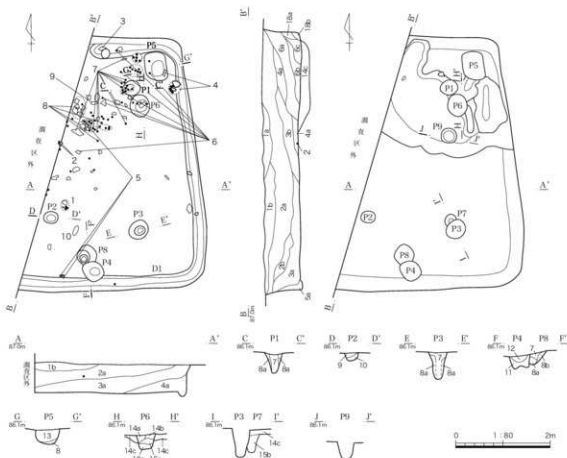


第102図 西刑部西原遺跡3区 SI-47 出土遺物

6	土師器 口 22.2 高 26.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面タテヘラズリ。底部外面多方向ヘラズリ。外面一部に粘土付着。	内：2.5Y7/4 浅黄 外：2.5Y6/3 に近い黄	中・中粗い。白・灰・透明粗砂。白・灰・透明粗砂・赤・黒粘 焼成：中・中硬質	No 13 5.2	ほぼ完存
7	土師器 口 (13.8) 高 (15)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラズリ。胴部内面タテヘラナデのちヨコ・タテ方向のナデ。外面に黒熱による赤染あり。部分部に粘土付着。	内：10YR7/4 に近い黄褐色 外：5YR6/6 橙	中・中粗い。灰・黒。白砂。黒・白・黒粘 焼成：中・中硬質	No 15 5.7	口縁部～胴部 1/2
8	土師器 口 21.0 高 (17.1)	口縁部内外面ヨコナデ。外面タテヘラズリ。内面ナメヘラナデ。縁部の裏。胴部内面～胴上半部黒色付着物あり。コゲカ。	内：7.5YR7/4 に近い橙 外：10YR7/6 明黄褐色	中・中粗密。白・灰・黒・黒粘砂。黒・白・灰砂。灰・黒粘。赤粘 焼成：中・中硬質	No 8 5.5	胴上半部はほぼ完存
9	土師器 底 8.2 高 (18.3)	胴部外面タテヘラズリのち下半部ヨコヘラズリ。一部ヘラナデ。胴部内面ヘラナデ。底部内面が僅かに黒熱色を見せる。底部外面多方向ヘラズリ。	内：10YR5/4 に近い黄褐色 外：10YR6/4 に近い黄褐色	中・中粗密。灰・白・黒粘。灰・白・黒粘砂。赤粘 焼成：中・中硬質	No 9 5.6	胴部下半部はほぼ完存。底部 1/2
10	須恵器 口 20.8 高 26.8	胴部外面～底部外面平行的なナデ。口縁部～胴部中央にかけてクワナデ。胴部内面無文で其輪のち口縁部～胴部中央のクワナデ。胴下半部内面～底部内面一部クワナデのちナデ。	内：2.5Y6/4 1 暗オリーブ 外：N3/O 暗灰	中・中粗密。白・黒・灰・黒粘砂～黄 (白色層極めて多量) 焼成：硬質	No 10 5.3	口縁部一部欠損
11	石部 支脚か 長 10.9 幅 6.8 厚 6.8 重 608.5	全面強く焼熟赤化。平面形：不整形 断面形：隅丸三角形	5YR4/6 赤褐色	—	No 4 4.2	完存

3区 SI-50 (遺構: 第103図、遺物: 第104図、図版一四・八七)

位置 グリッド 88.5-50.0・88.5-50.5 重複遺構 無し。平面形 西半部が調査区外だが方形もしくは長方形か。規模 東西3.49 m以上×南北5.32 m 主軸方向 不明 覆土 自然堆積か。壁 壁高56～74 cm 床 北半部に貼床あり。柱穴 P1 (径38～32 cm、深さ39 cm)、P6 (径46～41 cm、深さ27 cm)、P3 (径40 cm、深さ56 cm)、P7 (径24 cm、深さ48 cm) は主柱穴か。P7とP3の重複は拡張の痕跡か。入口ビット P4 (径41 cm、深さ27 cm)、とP8 (径40 cm、深さ24 cm) は重複しP4が新しい。貯蔵穴 P5 (長軸60×短軸46 cm、深さ28 cm) は北東隅に位置。P2 (径30～24 cm、深さ13 cm) は浅く用途不明。P9 (径32 cm、深さ35 cm) は床下から確認。壁溝 D1 (幅16～43 cm、深さ11 cm) 掘方 北東隅を不整土坑状に掘り込む。遺物 土師器環・鉢・甕・甔、編物石がある。4の土師器大型鉢は薄手で砂粒を多く含む。強く被熱しており煮沸具の可能性ある。1～3は床面付近の出土遺物。不掲載の土器類は小コンテナ1.5箱、礫2.6 kg。古墳時代終末期(7世紀中葉から後葉)の建物跡と考えられる。



SI-50

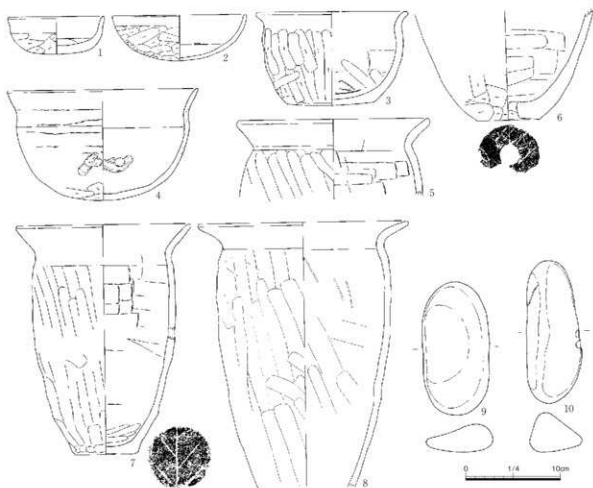
- 1b 褐色土
2a 暗褐色土
2b 暗褐色土
3a 褐色土
3b 黒褐色土
4a 暗褐色土
5a 暗褐色土
6a 深褐色土
6b 暗褐色粘質土
6c 暗褐色粘土
11a 赤灰色粘土
11b 同色粘土
P4
7 暗黄褐色土

- ローム粒中量、焼土粒少量、しまり・粘性強。
ローム粒少量、焼土粒少量、しまり・粘性強。
ローム粒少量、しまり・粘性強。
ローム粒中量、焼土粒少量、しまり・中量、粘性強。
ローム粒少量、焼土粒少量、しまり・中量、粘性強。
ローム粒少量、しまり・中量、粘性強。
ローム粒少量、しまり・中量、粘性強。
ローム粒中量、ローム塊少量、しまり・中量、粘性強。
粘土塊少量、焼土粒中量、しまり・粘性強。(カマド跡部上)
焼土粒少量、しまり強、粘性極めて強。(カマド跡部上)
焼けた粘土塊、しまり極めて強、粘性強。(カマド跡部上)
しまり・粘性極めて強。(カマド跡部上)

- 8a 暗黄褐色土
9 黄褐色土
10 黄褐色土
11 黄褐色土
12 暗褐色土
13 暗黄褐色土
14a 褐色土
14b 黄褐色土
15a 黄褐色土
15b 黄褐色土
16a 黄色土

- ローム粒多量、ローム塊中量、しまり・中量、粘性強。
ローム粒・ローム塊多量、しまり・粘性強。(溝込め)
ローム塊土、しまり・粘性強。
ローム粒中量、ローム塊少量、しまり・粘性強。
ロームから成る、しまり極めて強、粘性強。
ローム粒中量、しまりあまりない、粘性強。
ローム粒中量、ローム塊少量、焼土粒少量、しまり・中量、粘性強。
粘性強。
ツブトローム塊主体、しまり・粘性極めて強。
ローム塊多量、しまり・粘性極めて強。
ローム塊主体、しまり粘性極めて強。(窪込)
ローム粒・粘土塊少量、しまり・中量、粘性強。
ローム粒多量、しまり・粘性強。
ローム塊主体、しまり・粘性極めて強。

第103図 西刑部西原遺跡3区 SI-50実測図



第 104 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-50 出土遺物

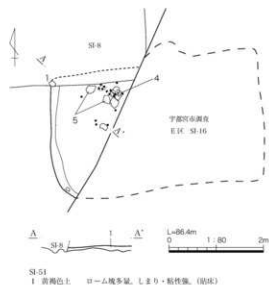
第 38 表 3 区 SI-50 出土遺物観察表

編號 番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置	残存
1	土師器 杯	口 10.0 高 3.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ナデのちヘラケズリ。内外面塗仕上りか。	内外面とも 2.5Y5/1 黄褐色	細密。白・黒黒砂 焼成：早中硬質	No 44 欠損	口縁部一部
2	土師器 杯	口 (13.8) 高 4.8	口縁部内外面ヨコナデ。内外面塗仕上り。体部内面モミ止飯。内外面塗仕上り。	内外面とも 10Y8R/3 浅黄褐色	早中硬質。黒・灰・白細砂。黒砂 焼成：早中硬質	No 60・68 2.0	口縁部～体部 1/4
3	土師器 鉢	口 (15.7) 底 9.2 高 9.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部～底部内面ヘラナデ。底部外面多方向ヘラケズリ。内面黒色処理。内外面一部に褐色の付着物あり。口縁部～体部 1/4 ほどが焼熟し、弾けるように割れたものか。	内：7.5YR7/6 褐色 外：10Y8R/2 灰黄褐色	早中硬質。白・灰・黒黒砂。黒・灰・赤砂。赤砂少量 焼成：早中硬質	No 1 2.9	口縁部 3/4、底部 半分
4	土師器 鉢	口 (20.0) 高 11.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。口縁部外面から胴部上下にかけて接合面露呈。底部外面ヘラケズリ。体部ナデによる両面からの補修痕あり。極めて強く焼熟し器面の割離及び赤化顕著。非常に脆い。	内：10Y8R/3 に近い黄褐色 外：2.5YR7/6 褐色	粗い。灰・黒・白細砂～微。灰・黒・白・赤粒 焼成：軟質	No 7・66 床直 (No 66)	口縁部 1/3、底部 1/2
5	土師器 甕	口 (20.0) 高 (8.2)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラナデ。	内：5YR6/6 褐色 外：5YR5/8 明赤褐色	早中粗い。白・黒・灰黒砂～微。赤粒。雲母片多量 焼成：早中軟質	No 24・ 48・61 5.8 (No 24)	口縁部～胴部 1/3
6	土師器 散	底 (6.6) 高 [12.4] 乳 2.0	胴部外面ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。底部外面本葉のちナデ。乳は内外面両面からヘラケズリにより穿孔。	内外面とも 5YR5/6 明赤褐色	粗い。白・灰・黒黒砂～微。赤粒。雲母片多量 焼成：軟質	No 2・6・ 9・14・20・ 21・30 6.5 (No 21)	底部 5/8
7	土師器 甕	口 (18.3) 底 6.2 高 (24.4)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラナデ。下部器底消研じか。胴部内面上半部ヘラナデ。底部内面ナデ。底部外面本葉箱。胴部外面炭化物多量付着。底部は赤化。小型の甕。	内：5YR5/4 に近い赤褐色 外：7.5YR6/4 に近い褐色	早中粗い。白・灰・黒砂。白微。白・黒・灰黒砂 焼成：早中硬質	No 3・10・ 11・12・ 19・35・ 36・37 4.5 (No 35)	胴部 1/4

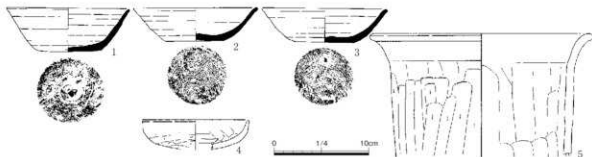
8	土師器 甕	口 高 [21.8] [28.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラナデ。胴部 内面ヘラナデ。胴部外面帯状の黒色部分あり。又スガ 付着したものか。	内外面とも 5YR5/8 明赤 色	やや粗い、黒・白砂、白・ 灰・黒磁砂、白・灰緑、雲 母 焼成：中～硬質	№ 64・ 71・72・ 74 床土 (№ 64)	口縁部 1/8、胴部 2/5、底部 欠損
9	石器 編物石	長 13.9 幅 7.1 厚 2.8 重 421.5	未加工の自然産。 平面形：楕円形 断面形：水滸状	5Y5/4 オリーブ	—	№ 50 1.6	完存
10	石器 編物石	長 14.9 幅 5.6 厚 4.1 重 434.0	未加工の自然産。 平面形：楕円形 断面形：楕丸三角形	5Y4/1 灰	—	№ 49 7.7	完存

3区 SI-51 (遺構：第105図、遺物：第106図、図版一四・八七)

位置 グリッド 89.5-52.0・89.5-51.5 重複遺構 平安時代の竪穴建物跡3区 SI-8より古い。平面形 東西軸の長方形。西半部は宇都宮市教委調査報告済み。規模 東西4.56×南北3.6m 主軸方向 N-8°-W 覆土 図示できなかったが黒色土が堆積。壁 20cm弱 床 概ね平坦。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 未確認。掘方 宇都宮調査区では土坑状の掘り込みあり。ローム塊を含む1層で埋戻す。カマド 宇都宮市教委参照。遺物 殆どが覆土上面からの出土である。遺物は須恵器環・土師器環・甕を図示した。須恵器環3点(1～3)は平安時代の建物跡3区 SI-8からの混入品であろうか。このため4・5の土師器類から時期は古墳時代終末期(7世紀中葉)の建物跡と考えられる。



第105図 西刑部西原遺跡3区 SI-51実測図



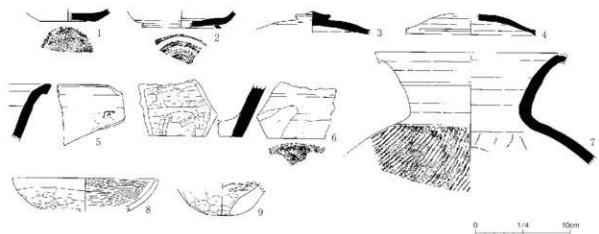
第106図 西刑部西原遺跡3区 SI-51出土遺物

第39表 3区 SI-51 出土遺物観察表

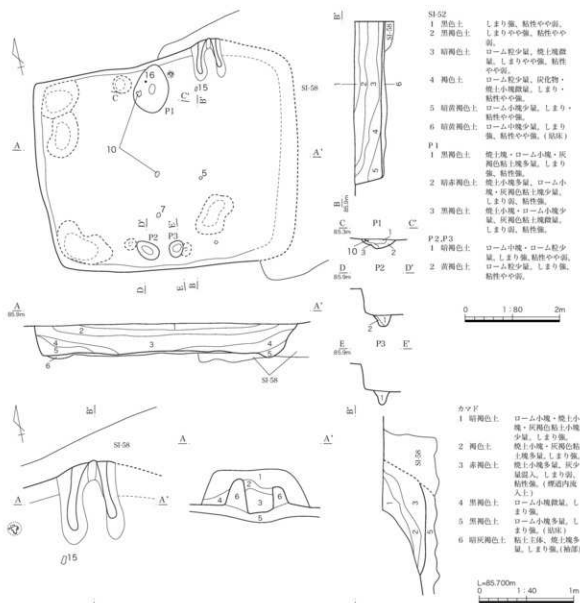
掲載番号	器種	法型(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・ 床土(cm)	残存
1	須恵器 環	口 12.6 底 7.0 高 4.6	内外面口コナデ。底部外面回転ヘラケズリのちナデ。口縁部内面は平滑でスベスベしている。底部外面、渦巻状の接合痕あり。体部下平部黒色付着物あり。	内：5YR4/2 灰黒 外：5YR4/3 に近い赤黒	磁赤、白・灰粗砂～礫 焼成：硬質	No 1 29.5	ほぼ完全
2	須恵器 環	口 12.9 底 6.3 高 3.6	内外面口コナデ。底部外面回転糸切り。全体的に褐色を呈する。	内：7.5Y6/1 灰 外：7.5Y7/1 灰白	中～中硬質、白・黒・灰粗砂 焼成：中～軟質	No 25 35.5	ほぼ完全
3	須恵器 環	口 12.9 底 6.2 高 3.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。底部回転糸切り。口縁部内面上端部に輪軸痕あり。内面にうすく褐色の付着物あり。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	中～中硬質、白・灰・黒粗砂～礫 焼成：中～軟質	No 21 42	ほぼ完全
4	土師器 環	口 (11.2) 高 [2.9]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部一底面外面ヘラケズリ。	内外面とも 5YR6/6 橙	中～中硬質、白・透明・黒粗砂～粗砂 焼成：中～軟質	No 8 32.4	口縁部一底面 1/3
5	土師器 甕	口 (23.4) 高 [13.2]	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面タテヘラケズリ。体部内面タテヘラナデ。外面に少量の粘土付着。	内：5YR4/8 明赤黒 外：5YR5/6 明赤黒	中～中粗い、透明・白・灰粗砂～礫、赤粒 焼成：中～軟質	No 3・10 8.4 (No 3)	胴部上半部 1/2

3区 SI-52 (遺構：第108図、遺物：第107・109図、図版一四・一五・八七・一一三)

位置 グリッド90.0-45.5 重複遺構 古墳時代終末期の建物跡 SI-58より新しい。平面形 カマド部分を頂点とする不整な五角形状。規模 東西5.6×南北4.7m以上 主軸方向 N-8°-E 覆土 自然堆積 壁 壁高は62cm残る。床 全面に薄い貼床あり。柱穴 確認できなかった。入口ピット P3 (径34～31cm、深さ28cm) 貯蔵穴 P1 (長軸95～短軸76cm、深さ20cm) は貯蔵穴と考えたが、焼土を含むことから旧カマド掘方の可能性もある。不明ピット P2 (径52～33cm、深さ21cm) 壁溝 確認できなかった。掘方 住居の四隅に極めて浅い掘り込みあり。ローム中塊を含む暗褐色土で埋戻す。カマド 北壁の東寄りに位置する。壁の掘り込みは極めて浅いが、煙道を頂点に浅く広い三角形に掘削した可能性もある。煙道の立ち上りは60°。床下はローム小塊を含む5層で埋戻している。遺物 殆どが破片で、覆土中層から上層にかけて出土。須恵器は環・蓋・甕・甔があり、土師器は環・甕・甔などがある。その他鉄製品(釘)、石製紡錘車などがある。床面直上の遺物は確認できなかったが、10の土師器武蔵型甕は床面より7cm上から出土する。5の須恵器(甔)口縁部には墨書が見られるが文字は不明である。不掲載の土器類は小コンテナ2箱分、礫は確認できなかった。奈良時代(8世紀前半)の建物跡と考えたい。



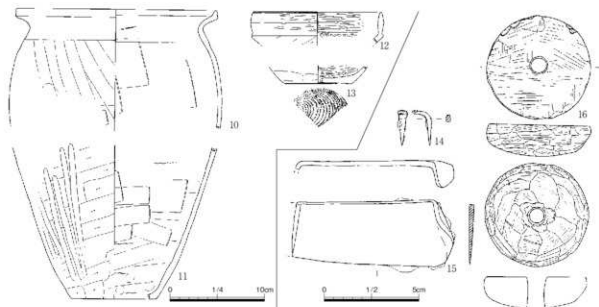
第107図 西刑部西原遺跡3区 SI-52 出土遺物(1)



第108図 西刑部西原遺跡3区 SI-52 実測図

第40表 3区 SI-52 出土遺物観察表

図帳番号	器種	法層(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵器 杯	底 (5.8) 高 (1.4)	体内外面口クロナデ。底部回転糸切り、個人品。大芝原系。	内外面とも 5Y6/2 灰オリーブ	中強密。黒・白磁砂、黒・灰砂、白磁少量 焼成：中強密	南西	底部 1/2
2	須恵器 高台付 杯	底 8.2 高 [2.0]	内外面口クロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台付。高台部分が突出する。益子産か。	内：2.5Y5/2暗灰黄 外：5Y7/1 灰白	中強密。白・灰磁砂、白・灰砂、白磁 焼成：中強密	北東	底部 1/4
3	須恵器 蓋	高 [2.3] 径 1.7	天井部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付。天井部からツマミの一部に障灰がみられる。益子産か。	内：2.5Y5/1 黄灰 外：5Y6/1 灰	中強密。灰・黒・白磁砂、灰・黒砂、白磁 焼成：中強密	南西	ツマミ完存、 体部 1/4
4	須恵器 蓋	口 (13.5) 高 [2.1]	天井部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付。端部外面に濃緑色の自然釉。内面に障灰。益子産か。	内：2.5Y4/1 黄灰 外：2.5Y6/1 黄灰	中強密。灰・白磁砂、灰・黒・白砂、白磁 焼成：中強密	北西、ベルト	体部 1/4、 口縁部 1/8
5	須恵器 飯か	高 [6.0]	口縁部内外面口クロナデ。口縁部外面に黒色付着物あり。筆書と考えられるが、文字は不明。	内外面とも 5Y7/1 灰白	中強密。黒・黒磁砂、黒・白砂 焼成：硬質	No. 22	口縁部破片、底部 1/8
6	須恵器 甕	厚 0.1	側面外面口クロナデのち下端面ヘラケズリ。側面内面口クロナデのち下端面～底面にかけてヘラケズリにて穿孔。底部外面ヘラケズリのちナデ分。三義産。	内外面とも 5Y8/7/1 灰白	中強密。白・黒磁砂、黒・白砂 焼成：硬質	覆土中	底部 1/6

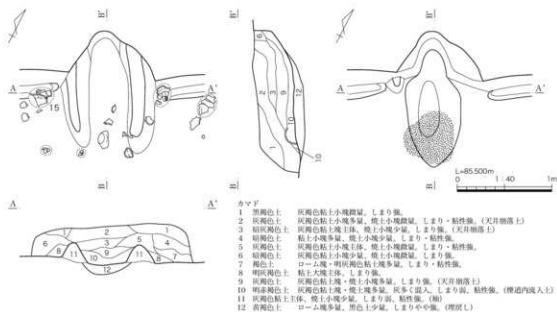


第109図 西刑部西原遺跡3区 SI-52 出土遺物(2)

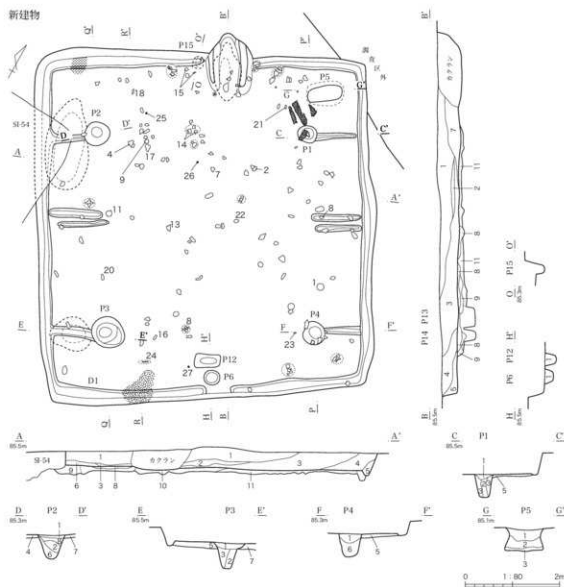
7	須恵系 甕	口 (20.0) 高 (11.5)	口縁部内外面口ロナデ。胴部内面無文あて貝組。胴部外面平行印垂。	内：2.5GY4/1 暗オリーブ 外：2.5GY5/1 オリーブ灰	中・中緑い、白・灰組砂～ 緑 組成：硬質	No 4、南西 7.1	胴部～胴部 1/6
8	土師器 杯	口 (15.0) 高 (3.5)	口縁部内面～体部内面ヘラミガキ。口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。口縁部内面褐色付着物あり。	内：10YR7/4 に近い黄緑 外：5YR5/6 明赤黒	中・中緑帯、白・灰組砂～ 粗砂、赤鉄 組成：軟質	SI.58・上 口縁部～体 部 1/4	
9	土師器 鉢	口 (2.0) 高 (3.5)	胴部下面下端部ヘラナデのちヘラミガキ。底部ヘラケズリにより穿孔のちケナデ成形。胴部外面下端部ヘラナデか。底部外面ヘラケズリ。	内：5Y2/1 黒 外：10YR7/4 に近い黄緑	中・中緑帯、灰・白・黒組 砂、黒・白砂 組成：中・中硬質	覆土中	胴部完存
10	土師器 甕	口 (21.0) 高 (12.5)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラナデ及び指摺理。胴部内面ヘラナデ。	内外面とも 7.5YR6/6 紺	中・中緑帯、灰・白・黒・ 透明粗砂、灰・白砂、雲 母片 組成：中・中硬質	No 8、町成 1/6	口縁部～胴 部 1/6
11	土師器 甕	底 (9.0) 高 (16.0)	胴部外面ナメヘラケズリのち練らなタテヘラミガキ。胴部内面ヘラナデ及び指摺理。底部外面ヘラケズリ。内面黒色を呈する。炭化物が付着したものか。	内外面とも 7.5YR6/4 に 近い紺	中・中緑帯、灰・白砂、白・ 黒粗砂、赤鉄、雲母片 組成：中・中硬質	No 9、南東 B-B'	胴部～胴部 1/4
12	土師器 杯	口 (13.4) 高 (3.3)	口縁部内外面ヨコナデのちヘラミガキ。体部外面ヘラケズリ。体部内面ヘラミガキ。内外面黒色処理。混入品か。	内外面とも 2.5Y4/2 暗灰黄	中・中緑帯、灰・白・透明 粗砂、黒・白砂 組成：中・中硬質	南東	口縁部 1/8
13	土師器 杯	底 (7.0) 高 (16.6)	内外面口ロナデ。内面ヘラミガキのち黒色処理。体部外面下端部ナデか。底部外面回転軌系切り。	内：2.5Y2/1 黒 外：10YR5/3 に近い黄緑	中・中緑帯、白・透明粗砂 ～粗砂 組成：中・中硬質	北西	底部 1/3
14	鉄製品 釘か	径 (1.9) 軸 0.3 重 0.5	釘か、錆がくの字に曲がるため釘と考えた。断面形は長方形で、最大幅 3.2 mm、厚さ 2.0 mm。	—	鉄製	北西部埋土 中	完存
15	鉄製品 鎌	長 (8.5) 幅 3.5 厚 1.7 重 (38.7)	折れ面がり先端を欠損しているが、残存部の背はほぼ直線的。穂は平坦で、幅 2.5 mm。基部は一端を斜めに折り曲げている。折り幅は 1.2 cm。刃部は平直。	—	鉄製	No 7 3.3	先端部欠損
16	土製粘 土車	長 5.4 幅 3.5 厚 1.7 重 55.6	上面はほぼ平削。側面は水平方向のヘラケズリにより、2～3段の段を有する。下面はレンガ状にもみを帯び褐色付着物(塗か)あり。孔は両面から穿たれる。孔径 8.3～8.8 mm。	内外面とも 5Y7/1 灰白	中・中緑帯、白・灰・透明 粗砂、白濁 組成：中・中硬質	No 5	完存

3区 SI-53 (遺構：第110～112図、遺物：第113・114図、図版一五・八七・八八・一一五)

位置 グリッド 89.5-46.5・89.0-46.5・89.5-46.0 重複遺構・建替え 平安時代の建物跡 SI-54 より古い。
2 時期以上の建替えを確認。新建物：平面形 正方形 規模 東西 7.18×南北 6.9～7.6 m 主軸方向 N-60°-W (新旧共通) 覆土 自然堆積 壁 壁高 32～43 cm ほど (新旧共通) 床 貼床あり。概ね平坦。
柱穴 P1 (径 40 cm、深さ 48 cm)、P2 (径 55～48 cm、深さ 49 cm)、P3 (径 71～65 cm、深さ 46 cm)、P4 (径 51～47 cm、深さ 42 cm) は主柱穴。入口ピット P6 (径 32 cm、深さ 17 cm)、P12 (径 53～27 cm、深さ 25 cm) は規模・形態は異なるが覆土は共通。貯蔵穴 P5 (長軸 78～短軸 52 cm、深さ 46 cm) はオーバーハンクする。壁溝 幅 15～30 cm、深さ 15 cm で南壁際で途切れるがほぼ壁際を全周する。P15 (径 23 cm、深さ 18 cm) がカマド西に近接するが用途は不明。掘方 西壁際に土坑状の掘り込みあり。カマド 北壁中央やや東寄りに位置する。煙道は火床面から緩やかに立ち上がったのち垂直に立つ。火床面は極めて良く焼けている。旧建物：平面形 規模 東西 6.0×南北 5.6 m。覆土 貼床が残るのみ。柱穴 P7 (径 32 cm、深さ 58 cm)、P8 (径 55～49 cm、深さ 51 cm)、P9 (径 63～54 cm、深さ 54 cm)、P10 (径 42～38 cm、深さ 56 cm)。入口ピット P11 (径 38 cm、深さ 32 cm)、P13 (径 45～28 cm、深さ 23 cm)、P14 (径 54～25 cm、深さ 24 cm) のうち、P13・14 は規模が類似する。貯蔵穴 確認できず。壁溝 幅 20 cm、深さ 5～10 cm で南壁際で途切れるがほぼ壁際を全周。掘方 南西部及び北東隅部に楕円土坑状の掘り込みあり。カマド 北壁際中央部に楕円形の窪みあり。カマドの痕跡か。遺物 新建物と旧建物の遺物は区別出来なかった。遺物は建物全面に散在しているが床面直上の遺物は礫 (編物石) が多い。須恵器は坏・瓶類・甕があり、土師器は坏・高坏・手ねえ土器・甕・甌などがある。この他編物石、焼成粘土塊、鉄製品、玉類などがある。床面直上または床面付近の遺物は 1 の須恵器坏、8・9 の土師器坏、15 の土師器甕などがある。鎌子状鉄製品 (24) が出土している。不掲載の土器類は小コンテナ 5 箱分と多く、礫の総量は 4.2 kg である。古墳時代終末期の建物跡と考えたい。



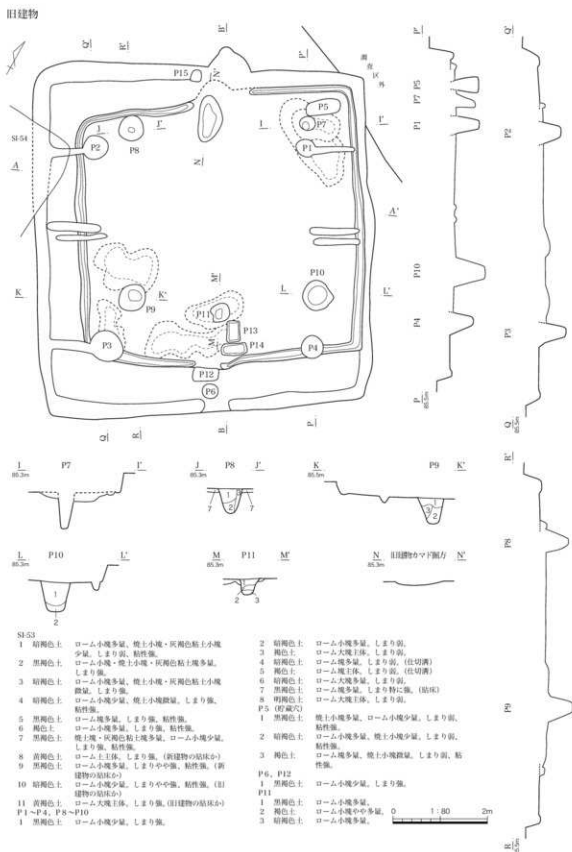
第110図 西刑部西原遺跡3区 SI-53実測図(1)



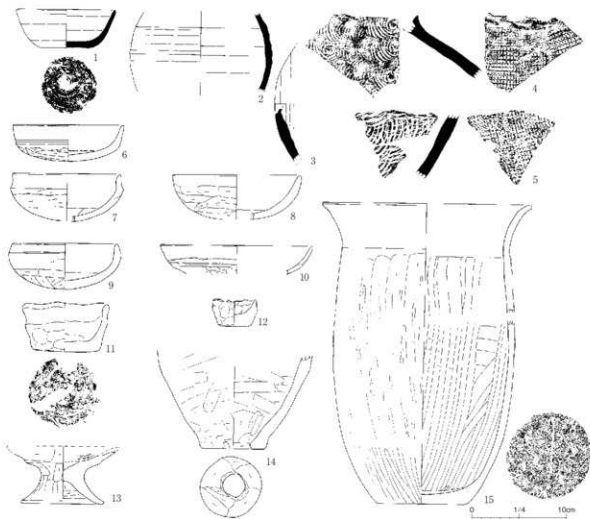
第111図 西刑部西原遺跡3区 SI-53実測図(2)

第41表 3区 SI-53出土遺物観察表

相対番号	部材	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 環	口 (6.1) 高 4.2	内外面口ケラナデ。底部回転ヘラ切りのチナデ。内面薄く自然軸付着。外面は隆成。赤みが大きく、口縁は補正して実測したため変形。	内外面とも 2.5GY3/1 オリーブ灰	中々緻密、白細砂～礫焼成：硬質	No 6 0.7	ほぼ完存
2	須恵器 飯椀	径 (15.1) 高 (8.3)	内外面口ケラナデ。外面自然軸付着。捺産産か。	内外面とも 7.5Y7/1 灰白	細密、灰・白細砂、灰・黒砂 焼成：硬質	No 19 床直	胴部中位 1/5
3	須恵器 フラスコ コ胆	厚 1.2	内外面口ケラナデ。外面回転ヘラケズリ。外面自然軸付着。鋭り切り隆成。捺産産か。	内：2.5Y7/2 灰黄 外：2.5Y7/1 灰白	細密、白・黒細砂 焼成：硬質	南西	胴部破片
4	須恵器 甕	厚 1.2	内面同心円状あて具痕。外面格子印き。	内外面とも N5/D 灰	中々粗い、白・黒細砂～礫焼成：中々軟質	No 40 床直	胴部～頸部 破片
5	須恵器 甕	厚 1.3	内面同心円状あて具痕。外面格子印き。	内：10YR7/4 に近い黄赤 外：2.5Y7/1 灰白	中々緻密、白・灰細砂、赤赤 焼成：中々軟質	No 19 魔土中	胴部破片
6	土師器 環	口 516.0 高 3.8	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。口縁下陥部隆成状。底部内面ヘラケズリ。体部～底部外面ヘラケズリ。内外面塗仕上げ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	中々緻密、黒・灰砂、灰・黒・白細砂、赤赤 焼成：中々硬質	No 18 床直	口縁部 1/4 ～体部 1/2
7	土師器 環	口 (112) 高 (5.1)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面磨滅し不明瞭だがヘラケズリか。内外面塗仕上げ。	内：10YR6/3 に近い黄赤 外：10YR7/4 に近い黄赤	中々粗い、白・透明細砂～粗砂 焼成：中々軟質	No 23・33 2.2 (No 23)	口縁部 1/2、体部 ～底部 3/4

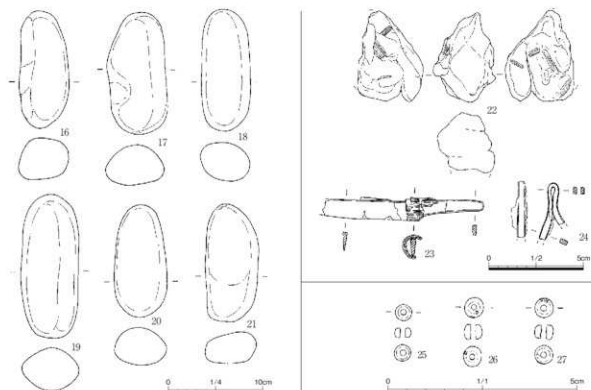


第112図 西刑部西原遺跡3区 SI-53実測図(3)



第 113 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-53 出土遺物 (1)

8	土師器 環	口 13.4 高 12.9	口縁部外面~体部内面ヨコナデ。体部外面~底部外面ヘラケズリ。内外面塗土上げ。	内：7.5Y7/6 橙 外：7.5Y8/6 浅黄橙	織漆、灰織紗、赤粒 焼成：早卒硬質	No 5・45、 東 床直 (No 5)	口縁部 1/2、体~ 底部 2/3
9	土師器 環	口 (11.4) 高 4.8	口縁部外面~体部内面ヨコナデ。体部~底部外面ヘラケズリ。底部内面ナデ。	内外面とも 7.5Y87/6 橙	織漆、白織紗、赤粒砂 焼成：早卒硬質	No 54・43、西 西理土中 1.7	口縁部 1/3、体部 ~底部 4/5
10	土師器 環	口 (16.0) 高 3.0	口縁部~体部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリの ちなデ。踵の手土。非在地系の土器中。	内外面とも 7.5Y87/6 橙	織漆、白織紗 焼成：早卒硬質	西	口縁部~体部 1/5
11	土師器 手取石 土器	口 84・83 底 73~78 高 5.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面指道押止。体部外面 指道押止のちなデ。底部外面植物土痕あり。ワラカ。 口縁は楕円形に歪む。	内外面とも 10Y88/3 浅 黄橙	早卒硬質。透明織紗 焼成：早卒硬質	No 42 床直	ほぼ完存
12	土師器 手取石 土器	口 4.6 底 3.4 高 2.9	外面指道押止。内面ナデ。底部外面ナデ。口縁部は凸 凹多く、小さく波打つ。	内外面とも N5/0 灰	早卒粗い。白・灰織紗 焼成：軟質	南西、南、 西理土中	ほぼ完存
13	土師器 高環	底 (8.3) 高 (6.0)	口縁部外面ヨコヘラケズリ。体部外面タテヘラケズリ。 体部内面ヘラミガキのち黒色包埋。胴部外面タテヘラ ナデのち縁部内外面ヨコナデ。脚部内面上平部ヘラケ ズリ。	内：7.5Y87/6 橙 外：7.5Y86/6 橙	早卒織漆。白・灰織紗~ 織。赤粒 焼成：早卒硬質	西理土中	胴部 1/2、 杯部 1/3
14	土師器 瓶	底 6.5 高 [10.2] 口 2.4	胴部外面ナデか。胴部内面ヘラナデのち下部~底部 にかへラケズリ穿孔。底部外面多方向ヘラケズリ及 びナデか。	内：5YR6/8 橙 外：5YR7/8 橙	早卒織漆。白・灰・透明 織紗~粗紗 焼成：早卒硬質	No 27、西、 東 1.8	胴下部 1/3、底部 完存
15	土師器 鉢	口 (21.7) 底 9.2 高 [32.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリのち タテヘラミガキ。胴部内面タテヘラナデ。底部外面ミ 殻色。胴部内面上平部赤。一部黒痕あり。全面的に 赤化した粘土付着のため調性不明瞭。	内：10Y87/4 に近い黄 外：5YR6/6 橙	早卒織漆。灰・栗・白織 紗。黒・灰・白砂。白織。 雲母 焼成：早卒硬質	No 75 床直	口縁部 1/10、胴部 1/4、底部 完存
16	石製 輪布石	長 12.3 幅 5.3 厚 4.3 重 359.0	未加工の自然産。 平面形：不整な楕円形 断面形：不整な圓丸形	2.5Y8/2 灰白	—	No 66 11.1	完存



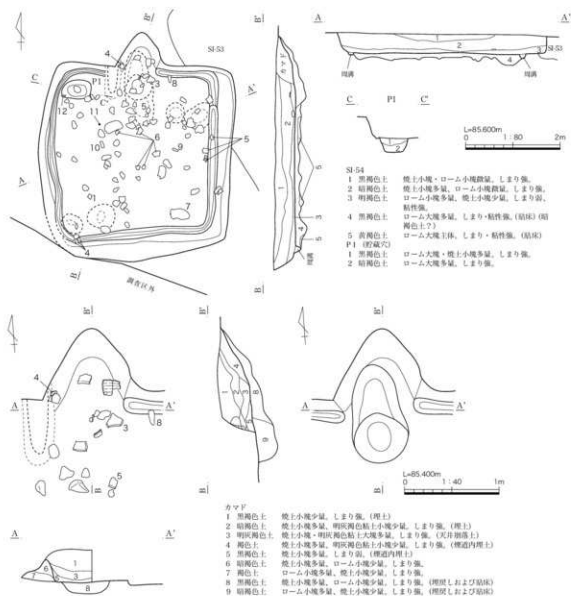
第114図 西刑部西原遺跡3区 SI-53出土遺物(2)

17	石器 編物石	長 12.9 幅 6.1 厚 4.2 重 516.0	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：楕丸半円形	5Y6/1 灰	-	No.71 床直	完存
18	石器 編物石	長 12.8 幅 5.2 厚 4.0 重 633.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	2.5Y6/1 黄灰	-	No.73 0.7 床直	完存
19	石器 編物石	長 15.1 幅 6.0 厚 4.5 重 455.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：楕丸の菱形	10Y7/1 灰白	-	No.68 床直	完存
20	石器 編物石	長 11.9 幅 5.5 厚 3.9 重 425.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：楕形	2.5Y5/3 黄褐色	-	No.59 床直	完存
21	石器 編物石 刀子	長 12.5 幅 5.4 厚 3.3 重 315.0	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：不整な楕丸方形	2.5Y7/6 黄褐色	-	No.62 3.0 床直	完存
22	焼成粘土 土塊	長 4.7 幅 [3.6] 厚 [3.0] 重 [22.9]	ワラ若干混入。胎土はきめ細かくマープル状。縦面あり。	7.5YR7/4 に近い橙	彫い、夾雑砂 炭灰；軟質	埋土中	部分残存
23	鉄製品 刀子	長 [8.4] 幅 1.3 重 [6.6]	刃部側に浅い凹をもつ。背は緩む直線的で、縁は平坦。縁幅は約 2.0 mm。刃部は平直で、柄録金具は長さ 1.5 cm幅 7.0 mmの断面円形を引し、内部に木眼が残る。柄録を彎う際、柄録状の付着物は脆く思われる。	-	鉄製	No.47 不明	跡欠損
24	錐子状 鉄製品	長 [3.1] 幅 [1.5] 重 [1.7]	頭部を環状に曲す。基部で一度捻した後、頂部はなだらかに開く。胴部は大きく欠損する。側面は胴部から脚部にかけて徐々に幅が広がる。素材の断面は長方形。	-	鉄製	No.14 不明	部分残存
25	石製品 丸玉	長 0.88 幅 0.87 厚 0.53 重 0.63	26・27と比較して硬めの石材を使用。上下面に厚縁を現す。表面孔の周囲には幅 1.0 mm弱の凹みあり。磨滅(使用)痕か。平面形は円形。側面は丸みを帯びる。孔径 2.4 ~ 2.7 mm。	10YR2/1 黒	軟質岩	No.74 床直	完存
26	石製品 丸玉	長 1.03 幅 0.97 厚 0.8 重 0.87	全面的に人念に磨飾。両面穿孔。孔内面には光沢ある長軸方向の溝痕あり。平面形は楕円形。側面は丸みを帯びる。孔径 2.8 mm。	10YR5/4 に近い黄褐色	結晶片岩	No.24 4.0 床直	完存
27	石製品 丸玉	長 0.97 幅 0.98 厚 0.75 重 1.0	全面的に人念に磨飾。両面穿孔。孔内面には光沢ある長軸方向の溝痕あり。平面形は円形。側面は丸みを帯びる。孔径 2.7 ~ 3.0 mm。	10YR3/1 黒褐色	結晶片岩	No.46 0.7 床直	完存

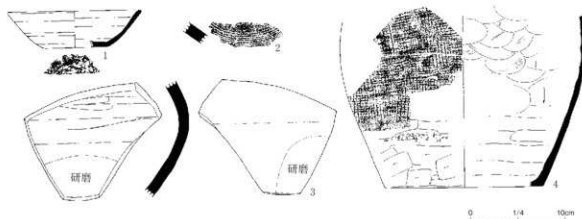
3区 SI-54 (遺構：第115図、遺物：第116・117図、図版一五・一六・八八・一一三)

位置 グリッド 89.5-46.0・89.5-46.5・89.0-46.0・89.0-46.5 重複遺構 古墳時代終末期の建物跡 SI-53 より新しい。平面形 西壁が丸みをもつ隅丸正方形。規模 東西 4.30×南北 4.11m 主軸方向 N-1°-E 覆土 自然堆積 壁 壁高は42~46cm 床 全面貼床 柱穴・入口位置 確認できなかった。

貯蔵穴 P1 (径62~40cm、深さ30cm)は北西コーナーから確認。壁溝 北壁・西壁は壁際に掘られるが、南側及び東側の周溝は壁際から20~30cm離れている。掘方 南西隅及び北東部に土坑状の掘り込みをもち、ローム塊主体の覆土で埋戻す。カマド 北壁中央部に位置し、壁を三角形に掘り込む。袖の粘土は残っておらず、持ち去られた可能性がある。遺物 礫が多量に出土したが、殆どが自然礫。須恵器は坏・甕・瓶、土師器は武藏型甕がある。この他土製紡錘車(11)、鉄製品の鋤先(12)が出土した。床面



第115図 西刑部西原遺跡3区 SI-54実測図

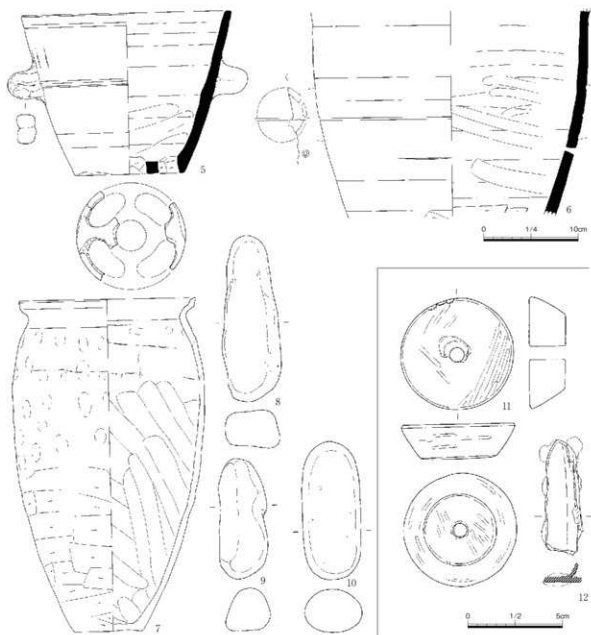


第116図 西刑部西原遺跡3区 SI-54出土遺物(1)

直上及び床面付近の遺物は1・3・4・7である。6の須恵器甗は大型品で、把手が脱落した痕跡(貼付位置を示した沈線)が残る。不掲載の土器類は小コンテナ1箱分、量は2kg出土した。平安時代(9世紀中葉)の建物跡と考えたい。

第42表 3区 SI-54出土遺物観察表

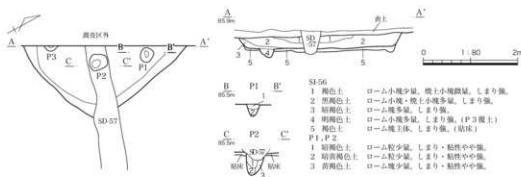
掲載番号	器種	法長(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床高(cm)	残存
1	須恵器 杯	口(13.8) 底(6.7) 高 3.8	内外面ロコロナデ。底部外面凹輪ヘラケズリのみナデか。漢ノ人・倉見於産産。	内外面とも5YR5/6明赤陶	やや粗い、白・灰胎砂一纏。赤粒 焼成；やや軟質	№16 0.9	口縁部一縁部1/5、底部1/3
2	須恵器 盤類	厚 1.2	内面ナデ。外面カキ目。	内外面ともN4/0 灰	やや粗い、白・透明胎砂 焼成；硬質	南東	口縁部破片
3	須恵器 盤	厚 1.1 高 [11.0]	ロコロナデ。内外面の上部部に研磨痕あり。破石として転用したものか。外面自然剥付痕。	内：N6/0 灰 外：2.5GY8/1 灰白	やや粗い、白・黒・灰胎砂 焼成；硬質	№8 0.8	口縁部破片
4	須恵器 甗	胴(26.0) 底(16.7) 高 [18.0]	胴部内面無文および具痕(木口工具か)のち下部ナデ。胴部上下部格子明きのち下部ヘラケズリ。底部外面ナデか。	内：10YR3/2 黒陶 外：10YR3/1 黒陶	やや粗い、白・灰・黒・透明胎砂一纏。赤粒 焼成；やや軟質	№30-31 0.6	胴部下半2/5
5	須恵器 甗	口(21.8) 底(11.4) 高 17.1	内外面ロコロナデ。口縁部外面横位沈線(平截竹管か)胴部中位2条の沈線のち把手貼付。胴部外面凹輪ヘラケズリ。胴部内面下部ナメナデ。底部外面ナデのちヘラケズリによる穿孔。底部は5丸。	内：2.5GY5/1 オリーブ 外：7.5GY5/1 緑灰	やや粗い、白・透明・灰胎砂一纏 焼成；やや軟質	№5・6・10・13・14 1.2	口縁部1/8、胴部1/4、下半一底部1/2
6	須恵器 甗	高 [21.7]	内外面ロコロナデ。胴部中位の横位沈線に径5cmほどの縦線状の沈線が透す。把手貼付部の凹輪と思われる。縦線孔は沈線から穿孔。胴部内面下部のヘラケズリは底部穿孔に伴うものか。	内：7.5Y 灰 外：5Y6/1 灰	細滑。白・透明胎砂一纏 焼成；硬質	№11・12・19 床直	胴部1/4
7	土師器 甗	口(18.2) 底 7.2 高 35.5	口縁部内外面ロコロナデ。胴部内面上部指道押上及びナデのち下部ヘラケズリ。胴部内面上下部指道押上及びナデ。底部外面調整不齊。外面に多量の粘土付着。	内外面とも7.5YR4/6 陶	やや粗い、白・灰胎砂 焼成；やや軟質	№1 床直	口縁部2/5、胴部1/3、底部2/3
8	石器 輪切石	長 17.5 幅 5.8 厚 4.0 重 712.0	木加工の自然礫。 平面形：不整な扇形 断面形：扇丸方形	7.5Y5/2 灰オリーブ	-	№24 25.2	完存
9	石器 輪切石	長 12.6 幅 4.8 厚 4.5 重 432.0	木加工の自然礫。 平面形：不整な扇形 断面形：扇丸方形	10YR6/4 に近い黄褐色	-	№27 7.9	完存
10	石器 輪切石	長 14.3 幅 6.0 厚 4.6 重 617.0	木加工の自然礫。 平面形：扇形 断面形：扇形	7.5Y6/2 灰オリーブ	-	№22 3.4	完存
11	土製 紡錘石	径 5.9 厚 3.9 厚1.78~1.88 孔 0.78 重 71.1	やや扁平な断面形をもつ。上面の孔周辺の距離は使用痕か。上下面は多方向。側面は水平方向のヘラミガキを施すが、磨減が著しく不明瞭な部分が多い。	2.5Y7/3 浅黄	細滑。白・黒・透明胎砂 焼成；硬質	№29 0.9	完存
12	鉄製品 鋸先	長 [6.0] 幅 [1.9] 厚 [1.1] 重 [15.8]	U字形または凸字形を呈する鋸先の刃部破片。上部部は鋸先の三角形状を呈する。刃部内側のV字に切り込んだ溝部は、銹化のためか一方が大きく壊れ上がる。	-	鉄製	№18 41.5	刃部一部残存



第117図 西刑部西原遺跡3区 SI-54出土遺物(2)

3区 SI-56 (遺構：第118図、遺物：第119図、図版一六)

位置 グリッド90.0-44.5・90.0-45.0 重複遺構 奈良時代の溝跡SD-57より古い。平面形 不明だが方形若しくは長方形。規模 東西1.68m以上×南北2.66m以上 主軸方向 不明 覆土 自然堆積と考えられる。壁 壁高20～24cm 床 全面が貼床。硬化面は確認できない。柱穴 P1(径30cm、深さ27cm)、P2(径32～23cm、深さ35cm)、P3(径約27cm、深さ17cm)があるが用途は不明。入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。カマド 確認できなかった。遺物 非常に少なく殆どが小破片。床面直上の遺物は皆無である。須恵器裏破片(1)は擬格子叩きのちカキ目を施す。不掲載遺物は土器類は小コンテナ1/5箱弱、碟の総重量は200gである。古墳時代終末期(7世紀代)の建物跡と思われる。



第118図 西刑部西原遺跡3区 SI-56実測図

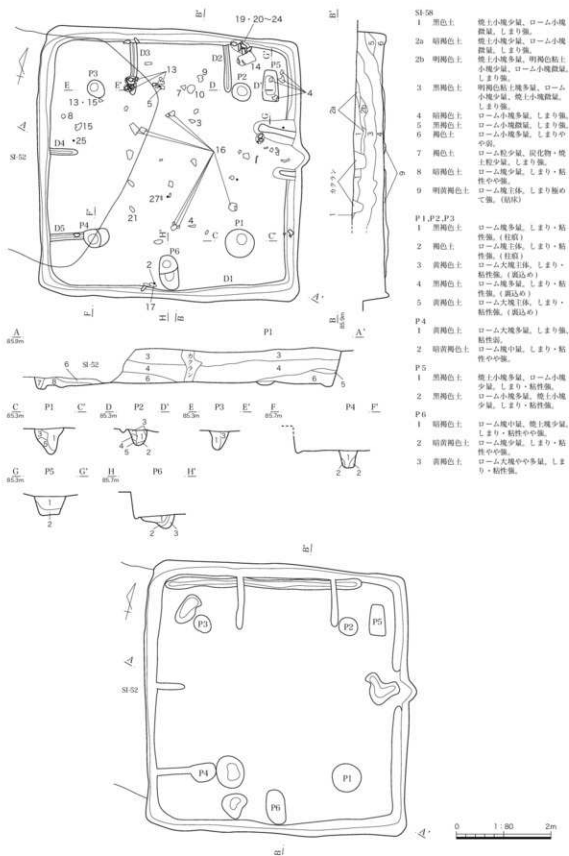


第119図 西刑部西原遺跡3区 SI-56出土遺物

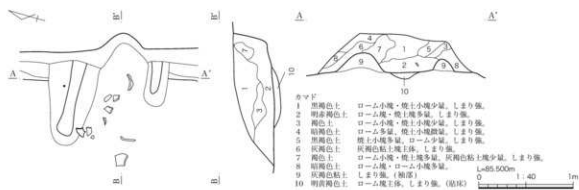
第43表 3区 SI-56 出土遺物観察表

図版番号	器種	法層(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置	残存
1	須恵器 甕	厚 0.9	内面同心円状あて具痕。外面陶格子明きのちかき白。	内：7.5Y7/1 灰白 外：10YR6/1 灰	中～細密。白・灰・黒細砂。 灰・黒・白砂、黒・白礫 焼成：硬質	北東隅土中	胴部破片
2	土師器 環	口 (11.7) 高 [3.5]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヨコヘラケズリ。体部内面ヘラケズリの残らなヘラミガキ。内面塗土上付。	内外面とも 10YR7/4 に 近い黄褐色	中～細密。灰・白・黒細 砂、黒砂、赤粒 焼成：中～硬質	南東隅土中	口縁部 1/7

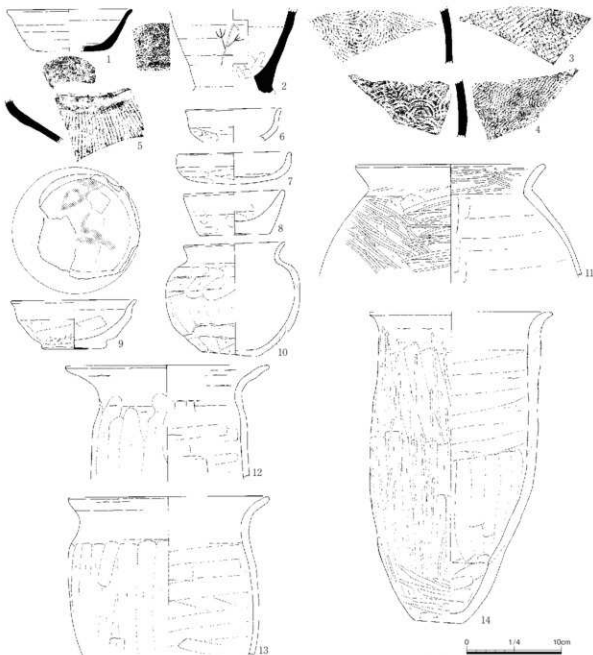
3区 SI-58 (遺構：第120・121図、遺物：第122・123図、図版一四・一六・一七・八八・一一二・一一五)
 位置 グリッド90.0-45.5 重複遺構 平安時代の建物跡 SI-52 より古い。平面形 隅丸正方形 規模 東西5.53×南北5.60m 主軸方向 N-15°-W 覆土 自然堆積か。壁 壁高58～69cm 床 やや細かな凹凸があり、中央部に貼床が見られる。柱穴 P1 (径60cm、深さ54cm)、P2 (径38cm、深さ34cm)、P3 (径36cm、深さ29cm)、P4 (径54～38cm、深さ29cm) は主柱穴と考えられる。入口ビット P6 (径71～40cm、深さ27cm) は南壁中央部に位置する。貯蔵穴 P5 (長軸64×短軸34cm、深さ36cm) は北東隅に位置する。壁溝 D1 (幅17～50cm、深さ7cm) は壁際を全周する。間仕切り溝 D2 (幅11～14cm、深さ6cm)、D3 (幅約13cm、深さ7cm)、D4 (幅約12cm、深さ3cm)、D5 (幅約14cm、深さ5cm) は北壁及び西壁に接する。掘方 部分的に土坑状の掘り込みがあるが平坦。カマド 東壁中央部やや北寄りに位置し、壁面を三角形に掘り込む。煙道は急角度で立つ。焼土が多量堆積し、長期間の使用が伺える。遺物 覆土中層から上層に多い。掲載した遺物は須恵器環・控鉢・甕、土師器環・粗製環・甕、幅物石、焼成粘土塊、金銅製耳環、鉄鏃などがある。掲載物は床面付近の遺物が多い。2は胴部外面に解読不明のヘラ描きのある須恵器控鉢。漢字の「木」を逆にしたような形状で、文字或いは鳥の脚を表現したものであろうか。9は底部に削りを施さない粗製環。内面は墨書風の文様が見られるが、褐色の樹脂状(漆か)の塗料を用いたものか。14・15の大型ハケ甕は非在地系の土器か。不掲載遺物は小コンテナ2箱、礫は6.6kg出土した。遺物から古墳時代終末期(7世紀前半から中葉)の建物跡と考えられる。



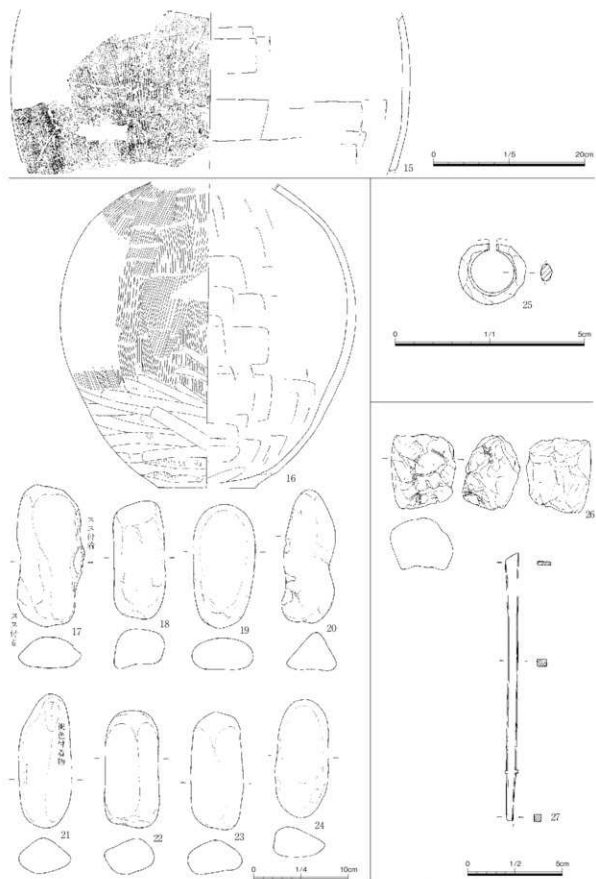
第120図 西刑部西原遺跡3区 SI-58実測図(1)



第121図 西刑部西原遺跡3区 SI-58実測図(2)



第122図 西刑部西原遺跡3区 SI-58出土遺物(1)



第123図 西刑部西原遺跡3区 SI-58 出土遺物 (2)

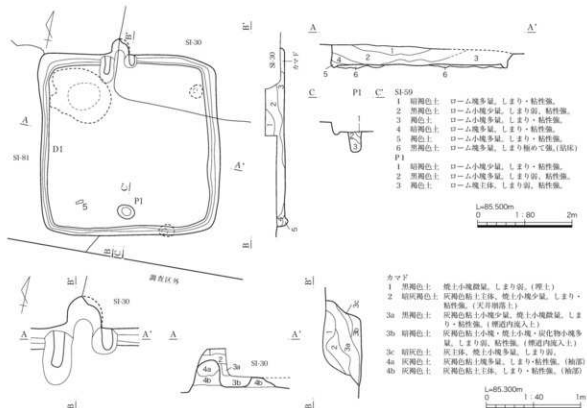
第44表 3区 S1-58 出土遺物観察表

図録番号	器種	法量 (cm/g)	注 法・特 徴	色調	粘土・素材・焼成	出土位置・土上 (m)	現存
1	須恵器 杯	口 (13.0) 底 (8.0) 高 4.4	内外面口クロナテ。底部外面中央部へラ切りのちナデか、器入品。	内外面とも 10Y2/1 黒	やや粗い。白・灰黒砂一確 焼成；やや硬質	南東	胴部～底部 1/3
2	須恵器 若鉢か	高 [8.4]	口ロコ仕上げ。体部外面中央部にへら記号あり（解説不明）。底部内面ナデ。外面一部に緑色の自然釉付着。	内：10Y8/2 灰黄緑 外：2.5Y7/1 灰白	やや硬質。白・灰・黒砂。 白・灰黒砂。白確 焼成；やや硬質	№2 4.8	胴部下平 1/2
3	須恵器 費	厚 0.8	内面同心円状表て具痕。外面格子印き。内外面薄く自然釉付着。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：2.5Y3/4 灰	やや硬質。灰・白・黒砂。 白・灰黒砂 焼成；硬質	№42 4.4	胴部破片
4	須恵器 費	厚 0.9	内面同心円状表て具痕。外面縦格子印き。横位のカキ目。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：2.5Y7/1 灰白	縦筋。黒・灰・白黒砂。灰・ 白・黒砂 焼成；硬質	№6 52.9	胴部破片
5	須恵器 若鉢か	厚 0.9	胴部内外面ナデ。胴部外面平行印き。胴部内面ヘラナデ及び同心円状表て具痕。	内：5Y6/1 灰 外：5Y7/1 灰	縦筋。白・灰黒砂一確 焼成；硬質	№57 45.8	胴部～頸部 破片
6	土師器 杯	口 (9.8) 底 (3.4) 高 [3.4]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内外面とも 10YR7/3 に 近い黄緑	やや硬質。白・灰黒砂。白・ 黒砂。赤粒 焼成；やや硬質	北西、北東	口縁部～体部 1/3
7	土師器 杯	口 (11.8) 底 3.2	口縁部内外面黒色肌現。口縁部内外面ヨコナデか。体部外面ヘラケズリか。器面焼痕著で調整不明瞭。	内：7.5Y4/1 灰 外：7.5Y3/1 灰	やや硬質。白黒砂。灰黒 砂 焼成；やや硬質	№40 3.3	口縁部 1/4, 底部 1/3
8	土師器 粗製杯	口 (13.2) 底 6.8 高 4.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ及び指頭押上。底部外面ナデ。口縁部～底部内面にかけ磨かれたようにスベスベしている。	内：2.5Y6/2 灰黄 外：2.5Y7/3 浅黄	やや硬質。黒白黒砂。黒・ 灰・白砂 焼成；やや硬質	№3 8.2	口縁部 1/4, 底部 完全
9	土師器 粗製杯	口 (13.2) 底 6.8 高 4.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラナデのち漆塗き文字か（解説不明）。体部外面ナデ。底部外面ナデ。	内：10YR7/3 に近い黄緑 外：10YR4/4 浅黄緑	やや硬質。白・灰黒砂 焼成；やや硬質	№38 10.6	口縁部 1/4, 底部 3/4
10	土師器 小型費	口 12.3 高 12.0	内面割漆の丸蓋跡不明。（焼熱によるものか）外面上半部はナメのちヨコヘラケズリ。下半部はタテヘラケズリ。胴下半部～底部にかけて黒肌あり。スズなどが付着したものが、費として使用された可能性あり。	内外面とも 10YR8/4 浅 黄緑	やや硬質。灰・白黒砂。灰・ 白・灰黒砂。赤粒 焼成；やや硬質	№29 2.1	ほぼ完全
11	土師器 費	口 (19.4) 底 6.0 高 [12.1]	口縁部外面ヨコナデ。口縁部内面ヨコナデのちヘラミガキ。胴部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。胴部内面ヘラナテ。全面色色を有する球粒の肌。焼熱痕なし。	内外面とも 5YR6/8 橙	やや硬質。白・灰・黒肌 砂。白・黒・灰砂。赤粒 焼成；やや硬質	カマド	口縁部 1/4
12	土師器 費	口 21.0 高 [12.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナテ。胴部外面裡方に粘土（カマド材か）付着。	内外面とも 10YR6/4 に 近い黄緑	やや硬質。灰・黒・白砂。 白・黒肌砂 焼成；やや硬質	№33-34 3.5, 北東 24.1 (№ 34)	胴部上半 3/4
13	土師器 費	口 (17.0) 高 21.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリのちヘラミガキ。胴部内面ヘラナテ。胴部外面黒肌現及び焼熱による赤化部分あり。	内：7.5YR2/1 黒 外：7.5YR6/6 橙	やや粗い。白・透明・灰・ 黒肌砂一確 焼成；やや硬質	№41・51・ 52 5.3 (№ 51)	口縁部 3/4, 口縁部 破片 7片
14	土師器 費	口 19.2 底 5.6 高 32.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリのちヘラミガキ。胴部内面上平ヨコヘラナテ。胴部内面下半タテヘラナテ。底部外縁ヘラケズリのちナデ。胴面のうちタテ1/2は赤化。	内：10YR7/6 明赤褐 外：7.5YR6/6 橙	やや粗い。白・透明肌砂。 白・灰・黒肌砂一確 焼成；やや硬質	№39 0.5	ほぼ完全
15	土師器 費	口 (52.4) 高 [20.1]	内面ヘラナテ。外面ハケ目。	内：2.5Y7/3 浅黄 外：10YR5/4 に近い黄緑	やや粗い。白・黒肌砂一確 焼成；やや硬質	№49-51 4.3 (№ 51)	胴部中位
16	土師器 費	長 [32.2] 径 (31.0)	内面ヘラナテ。外面タテハケ目のち下半部ヨコヘラナテ。底部外面多方向のヘラケズリのちナデ。外面に若干スズが付着するが焼熱は弱い。	内：10YR5/3 に近い黄緑 外：10YR7/6 明黄緑	やや粗い。透明・白黒砂。 白・灰・赤粒。白確 焼成；やや硬質	5-20-43 1.4 (№6.5)	胴部下平 1/2, 上半 1/8, 底部 1/3
17	石器 編物石	長 15.7 幅 [6.6] 厚 3.2 重 [419.0]	部分的黒色付着物あり。スカ。右側面に割痕あり。平面形：楕円長方形 断面形：不整なレンズ状	2.5Y8/2 灰白	-	№8 5.8	部欠
18	石器 編物石	長 12.25 幅 5.3 厚 4.1 重 471.2	未加工の自然産。平面形：楕円長方形 断面形：不整な楕円長方形	10Y5/1 灰	-	№37 3.5	完全
19	石器 編物石	長 13.2 幅 6.4 厚 2.4 重 442.3	未加工の自然産。平面形：楕円形 断面形：楕円形	2.5Y7/2 灰黄	-	№37 3.5	完全
20	石器 編物石	長 14.5 幅 5.4 厚 4.0 重 383.1	未加工の自然産。平面形：不整形 断面形：楕円三角形	5Y7/3 浅黄	-	№37 3.5	ほぼ完全
21	石器 編物石	長 14.0 幅 5.5 厚 4.1 重 451.0	未加工の自然産。平面形：楕円形 断面形：楕円菱形状	2.5Y7/1 灰白	-	№11 床面	完全
22	石器 編物石	長 12.2 幅 5.5 厚 3.6 重 433.2	未加工の自然産。平面形：楕円長方形 断面形：楕円長方形	5Y7/2 灰白	-	№37 3.5	完全
23	石器 編物石	長 12.2 幅 5.4 厚 3.4 重 377.3	未加工の自然産。平面形：不整な楕円長方形 断面形：不整な楕円長方形	7.5Y5/1 灰	-	№37 3.5	完全

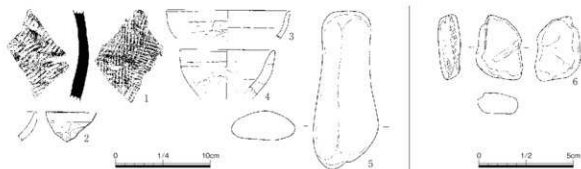
24	石器 燼物石	長 12.5 幅 5.3 厚 3.2 重 32.9	未加工の自然産。 平面形：楕円形 断面形：不整な楕円形	10V7/1 灰白	—	No 37 3.5	完存
25	金銅製 品 耳環	縦径 11.7 横径 14.6 重 3.4	内側面及び端部の一部を残し、その他は大きく割落。 平面形はほぼ円形を呈したものの、残存部から断面形は縦長の可能性がある。内側面には僅かに金箔が見える。	—	銅・金箔	No 1 9.6	部分欠損
26	焼成粘土 土塊	長 3.8 幅 2.6 厚 3.4 重 19.0	破面の一部にワラの痕跡がみられる。胎土は坏類に較べ軟質で、軽い。遺存部から観察すると厚さ2.6～3.4mmほどの板状を呈した可能性がある。	5YR8/4 淡橙	やや緻密。白・赤微粉砂 質成：軟質	No 南東 部燼土	
27	鉄製品 鉄鏃	長 114.3 幅 7.0 重 12.6	片刃箭式の長頭鏃。鏃身最大幅7.0mm。頸部断面は長方形で、幅5.0mm、厚さ4.0mmほど。鏃穂後、鏃の下端部は欠損。	—	鉄製	No 16・南 東部燼土	55.5

3区 SI-59 (遺構：第124図、遺物：第125図、図版一七)

位置 グリッド 89.0-46.5 重複遺構 古墳時代後期の建物跡 SI-81 より新しく平安時代の建物跡 SI-30 より古い。平面形 隅丸方形 規模 東西3.72×南北3.84m以上 主軸方向 N-12.5°-W 覆土 自然堆積 壁 壁高は20～46cm残る。床 北西部に明瞭な貼床あり。柱穴 確認できなかった。入口ピット P1 (径34～30cm、深さ43cm) は南壁際中央部から20cm離れる。貯蔵穴 確認できなかった。壁溝 D1 (幅14～25cm、深さ5～10cm) 掘方 北西隅付近に土坑状の掘り込みあり。ローム塊多量含む6層で埋戻す。カマド 北壁中央やや西寄りの壁面をU字形に掘り込む。構築材は灰褐色粘土を使用する。遺物 非常に少なく殆どが小破片。床面直上の遺物は皆無である。須石器燼破片(1)、土師器杯(2・3)・粗製坏(4)などがあり、その他燼物石、焼成粘土塊を図示した。不掲載の土器類は小コンテナ1/3箱弱である。遺物が少なく不明な点も多いが、古墳時代終末期の建物跡と思われる。



第124図 西刑部西原遺跡3区 SI-59実測図



第125図 西刑部西原遺跡3区 SI-59 出土遺物

第45表 3区 SI-59 出土遺物観察表

面載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 甕	厚 1.2	内面平行あて貝類。外面平行明き。	内: 5Y4/1 灰 外: N4/0 灰	やや緻密。白・灰・黒細砂・灰・白砂 焼成: やや硬質	埋土中	胴部破片
2	土師器 杯	口 (13.8) 高 (3.0)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヨコヘラケズリ。口縁部外面及び内面漆仕上げ。	内外面とも 10YR8/4 浅黄糖	やや緻密。黒・白・灰・黒細砂・灰 焼成: やや硬質	南	口縁部1/8
3	土師器 杯	口 (12.8) 高 (3.1)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内外面とも 10YR7/3 に ぶい・黄糖	やや緻密。灰・白細砂 焼成: やや硬質	南西	口縁部1/6
4	土師器 粗製杯	口 (9.8) 高 (5.0)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面指節印に赤いナデか (風化のため不明)。外面絵合痕が面著。	内: 10YR7/4 にぶい・黄糖 外: 7.5YR7/6 糖	やや緻密。白・黒・細砂・灰 焼成: やや硬質	北西	口縁部・体部1/4
5	石器 扁卵石	長 16.6 幅 6.7 厚 3.0 重 492.2	木加工の自然産。平面形: 楕円の薄形 断面形: 不整な楕円形	5Y6/1 灰	-	No.1 7.2	完存
6	焼成粘土塊	長 3.2 幅 2.4 厚 1.1 重 6.4	断面は風化が顕著で部分的にワラの残痕がみられる。平面不整形で扁平。	10YR8/4 浅黄糖	やや緻密	埋土中	部分残存か (断面のため不明)

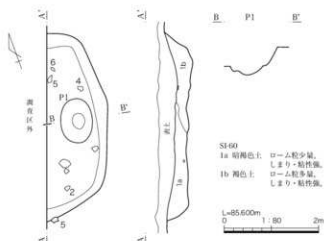
3区 SI-60 (遺構: 第126図、遺物: 第127図、図版一七・八九)

位置 グリッド 84.5-49.0 重複遺構 無し。平面形 各辺が弧状を呈する隅丸の方形または長方形か。

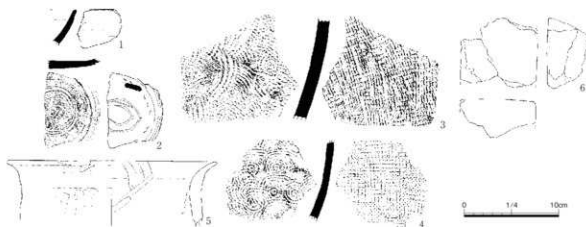
規模 東西 1.38 m以上 × 南北 3.39 m以上 主軸方向 不明 覆土 自然堆積か。壁 壁高 12 ~ 37 cm

床 やや凹凸が多い。貼床は確認できなかった。柱穴・入口ヒット・貯蔵穴 確認できなかった。ピット P1 (径 92 ~ 67 cm、深さ 17 cm) は東壁際にあるが性格不明。壁溝 確認できなかった。掘方 や

や凹凸を有する。カマド 調査範囲では確認できなかったが、6はカマド芯材と思われる。調査区外にカマドが存在した可能性が高い。遺物 建物全面に散在しているが床面直上の遺物は皆無である。須恵器環・高台付環・甕、土師器は甕が出土した。2は高台付環の底部破片だが、底部外面に墨書(文字不明)と渦巻状のヘラ記号が見られる。5は口縁部内外面に粘土の貼付及びナデを施す。乾燥時のヒビ割れ補修の痕跡と考えられる。不掲載の土器類は小コンテナ 1/5 箱分と少ない。遺物から奈良時代中葉の建物跡と考えたい。



第126図 西刑部西原遺跡3区 SI-60 実測図



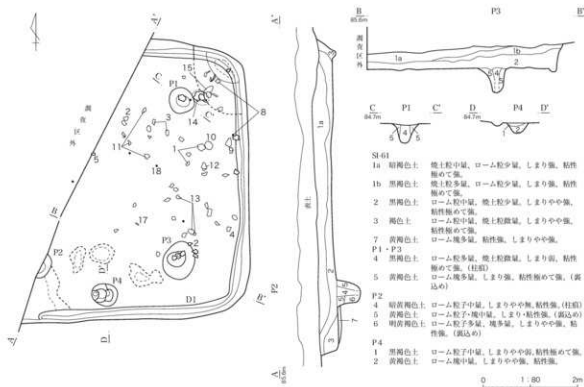
第127図 西刑部西原遺跡3区 SI-60 実測図・出土遺物

第46表 3区 SI-60 出土遺物観察表

図版番号	図種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 環	高 [6.3]	内外面口ケラナデ。口縁部内外面に僅かに自然釉付着。	内外面とも 2.5Y5/1 黄灰	中・中緻密、白・灰細砂、灰・黒・白砂 焼成：中・中硬質	覆土中	口縁部破片
2	須恵器 高台付 環	高 [1.0]	底部外面到底ヘラケズリのち高台貼付。爪状正縁あり。また底部外面には幾ばな溝をき状のヘラ記号及び黒色の付着物（黒書か）も認められる。	内外面とも 5Y7/1 灰白	中・中緻密、白・灰細砂、黒・白砂、白釉 焼成：中・中硬質	No.2 7.4	底部2/5
3	須恵器 甕	厚 1.3	外面格子叩き。内面同心円状あて具痕。混入品か。	内：10YR5/1 黄灰 外：5Y6/1 灰	中・中緻密、灰・灰・白細砂、黒砂、灰層 焼成：硬質	No.1 24.4	胴部破片
4	須恵器 甕	厚 0.9	外面格子叩き。内面同心円状あて具痕。混入品か。	内：7.5Y4/1 灰 外：N4/0 灰	細密、白・灰細砂、黒砂 焼成：硬質	No.6 12.3	胴部破片
5	土師器 甕	口 (21.6) 高 (6.3)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。口縁部内外面のヒビ補修のため薄く粘土を貼付けたのちナデを施す。	内外面とも 7.5YR7/4 に 近い橙	中・中緻密、白・灰・黒細砂、灰・黒・白砂、赤黒 焼成：中・中硬質	No.7 30.6	胴部上半 1/6
6	切石（方 マド織 薬材か）	長 (7.4) 幅 8.0 厚 4.2 重 (108.0)	平面形：全形不明 断面形：方形か	10YR8/6 黄橙	凝灰岩	No.8 7.6	部残

3区 SI-61 (遺構：第128図、遺物：第129図、図版一七・八九・一一六)

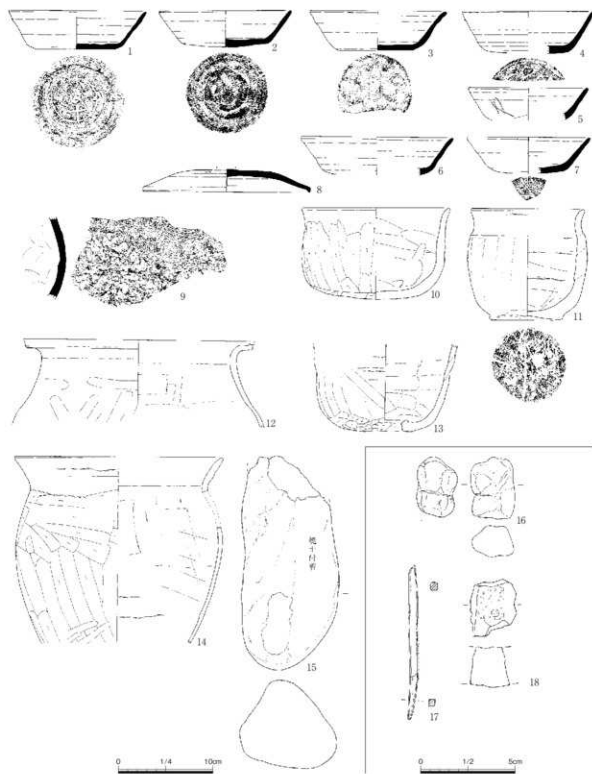
位置 グリッド 84.0-49.0・84.5-49.0 重複遺構 無し。平面形 残存部から隅方方形若しくは長方形と想定される。規模 東西3.54m以上×南北5.92m 主軸方向 不明 覆土 暗褐色土及び黒色土主体の自然堆積か。壁 壁高33.0～54.0cm残存する。床 部分的に貼床あり。柱穴 P1 (径56～52cm、深さ37cm)、P2 (径56cm以上、深さ約50cm)、P3 (径80～66cm、深さ53cm) は主柱穴か。入口ピット P4 (径54～47cm、深さ23cm) は南壁際に位置する。貯蔵穴 確認できなかった。壁溝 D1 (幅19～37cm、深さ9cm) は南壁の調査区際で途切れる。掘方 北東隅及び南部壁際付近に浅い掘り込みあり。ローム塊多量含む7層で埋戻す。カマド 被熱礫(15)や若干の焼土があることから調査区外に存在すると思われる。遺物 覆土中層から上層の遺物が多い。計18点を図示した。須恵器の環が多く、その他蓋・甕がある。土師器は鉢・甕・甔などがあり、その他被熱礫、焼成粘土塊、鉄製品、鉄滓などがある。床面直上の遺物は3の須恵器環、10の被熱した土師器鉢のみである。1と3の須恵器環底部にはヘラ記号もしくはヘラ描きが見られる。11はハケ目調整の小型甕。12は常総型の甕である。17は釘又は錐状の鉄製品である。不掲載遺物は土器類は小コンテナ1箱強。礫は約2.5kg出土した。遺物から奈良時代中葉の建物跡と考えられる。



第128図 西刑部西原遺跡3区 SI-61実測図

第47表 3区 SI-61出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・深さ(cm)	残存
1	須恵器 坪	口 14.6 底 8.3 高 4.1	内外面ロクロナデ。体部外面下端回転ヘラケズリ。底部外面回転ヘラケズリのちへら記号。	内外面とも 2.5Y6/1 黄灰	中～冷織造。白・透明細砂～粗砂、白炭、雲母 焼成：硬質	No. 20-54 29.2 (No. 20)	ほぼ完全存 （口縁部一部欠損）
2	須恵器 坪	口 (14.0) 底 8.6 高 3.8	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのちナデ。体部外面一文字のちへら記号か。	内外面とも 7.5Y5/1 灰	中～冷織造。白・黒細砂～粗砂 焼成：硬質	No. 12-36 20.9 (No. 36)	口縁部～底部 3/4 完全存
3	須恵器 坪	口 14.1 底 7.6 高 4.3	内外面ロクロナデ。底部内面中央部滑し平滑。底部外面多方向ヘラケズリのちナデのちへら記号（一文字）あり。	内：7.5YR5/3 に近い黄 外：7.5YR5/4 に近い黄	中～冷織造。白・灰細砂～粗砂 焼成：硬質	No. 10-51 床底	口縁部～底部 3/4
4	須恵器 坪	口 (13.8) 底 8.5 高 4.4	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。	内外面とも 7.5YR6/4 に近い黄	中～冷織造。白・灰・黒細砂～粗砂、白・灰燐 焼成：硬質	No. 24 30.4	口縁部 1/3、底部 1/4
5	須恵器 坪	口 (13.0) 底 (7.5) 高 [3.3]	内外面ロクロナデ。体部外面へら記号あり。体部外面下端ヘラナデか。赤みが大きく復元数は参考程度。	内外面とも 5Y5/1 灰	中～冷織造。白・灰細砂、白・灰砂、白炭 焼成：中～硬質	No. 46 10.8	口縁部～体部 1/3
6	須恵器 坪	口 15.8 底 10.2 高 [4.0]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリか。	内外面とも 7.5YR/1 灰白	中～冷織造。灰・白・黒細砂、黒砂、灰・黒燐 焼成：中～硬質	覆土中	口縁部～体部 3/5
7	須恵器 坪	口 (12.9) 高 (7.2) 底 [3.8]	ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデのちへら記号。	内外面とも N4/0 灰	中～冷粗い。白細砂、白粗砂、白炭 焼成：硬質	覆土中	口縁部～底部 1/6
8	須恵器 鉢	口 (17.6) 高 [2.3]	内外面ロクロナデ。大井部外面回転ヘラケズリのちツマミ刺付。ツマミ欠損を平打ち欠き蓋として転用したものか。天井部内面は磨き仕上げスベスベ。	内外面とも 2.5Y6/1 黄灰	中～冷織造。白・灰・黒細砂～粗砂 焼成：硬質	No. 2-58 11.6 (No. 58)	口縁部～体部 2/5
9	須恵器 罎	厚 0.8	外面同心円印。内面無文である。外面は風化著しく剥落部分が多い。	内外面とも 7.5YR/2 灰オリーブ	中～冷織造。雲母、灰・黒・白細砂 焼成：中～硬質	No. 56 34.8	割製破片
10	土師器 鉢	口 15.6 底 (20)～(22) 高 (7.2) 底 [3.8]	口縁部内外面ロクロナデ。胴部外面ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。底部外面不定方向ヘラケズリ。取土は黄と同じく多量の砂粒を含む。若干焼熟している。	内：2.5G2/1 黒 外：5YR4/6 明赤褐	中～冷粗い。白・灰・透明細砂～粗砂 焼成：中～軟質	No. 55 床底	ほぼ完全存
11	土師器 罎	口 (12.0) 底 7.5 高 11.7	口縁部外面～胴部内面上下コナデ。胴部外面へら目。胴部～底部内面ヘラナデ。底部外面木葉肌。焼熟顯著。	内：10YR4/2 灰黄褐 外：7.5YR5/4 に近い黄	粗い。透明・白・灰・黒・白細砂～粗砂、雲母、石英 焼成：硬質	No. 9-18-22 18.8	口縁部～胴部 1/2、底部 完全存
12	土師器 罎	口 (24.0) 高 [8.3]	口縁部内外面ロクロナデ。胴部内面上部ナデもしくはヘラナデ。胴部内面ヘラナデ。頸部に焼土付着。	内外面とも 5YR5/6 明赤褐	中～冷粗い。白・灰・黒・透明細砂～粗砂、雲母 焼成：中～硬質	No. 18 30.4	口縁部～胴部 1/4

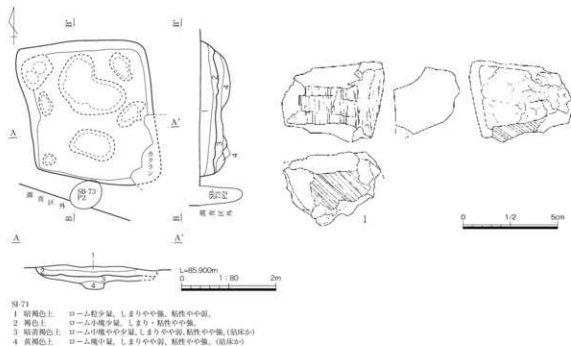


第129図 西刑部西原遺跡3区 SI-61 出土遺物

13	土師器 土師	高 [9.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面タテヘラケズリのうち不定方向のナデ。底部外面多方向ヘラケズリのうち外面から穿孔。	内：10YR5/2 灰黄褐色：7.5YR6/6 橙	やや緻密。白・灰・透明・黒細砂、灰・白砂、白礫、赤粒： 焼成：やや硬質	№ 30-35 31 (№ 35)	底部完存、 胴部一部
14	土師器 甕	口 21.6 高 [10.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラケズリのうち一部ナメヘラナデ。口縁部内面黒炭あり。炭化物が付着したものか。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密。灰・黒・白細砂、黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	№ 7 30.5	口縁部 5/6、胴部 1/3
15	石器 支脚か	長 [22.6] 幅 10.1 厚 9.3 重 [25.990]	焼物のためヒビ・欠損部のみられる。全面的に焼土付着。カマドの支柱またはカマドの構築材か。 平面形：小楕円形 断面形：楕円三角形	10YR5/2 灰黄褐色	—	№ 14	部欠
16	焼成粘 土塊	長 3.3 幅 1.7 厚 2.2 重 6.7	きめ細かい粘土を手で丸めたものか。ワラ少量混入。	7.5YR8/4 浅黄橙	粗い、赤粒 焼成：軟質	覆土中	部分残存か (割棄のため不明)
17	鉄製品 釘か	長 [7.9] 厚 0.4 重 5.4	先端はやや斜め。上部の断面は一辺 3.5～4 mm のほぼ正方形。下部断面は 2.5 cm の範囲で木質残存。鏝の可能性がある。	—	鉄製	№ 41 3.8	ほぼ完存
18	鉄片	長 [2.7] 幅 [2.3] 厚 [2.1] 重 [25.9]	周囲 4 面すべてが破面。上面は若干のサビ。緻密。細かい気孔多数あり。下面はやや多量の気孔あり。全面にサビあり、一部にサビ付着。	表：サビ有 7.5YR6/8 橙 サビ無 5Y5/1 灰 裏：サビ有 7.5YR4/4 褐	組織度：5	№ 21 28.6	部欠

3区 SI-71 (遺構・遺物：第130図、図版一七・八九)

位置 グリッド 89.5-45.5 重複遺構 奈良時代の掘立柱建物跡 SB-73 より新しい。平面形 歪んだ隅丸方形 規模 東西 2.57 × 南北 3.03 m 主軸方向 N-10°-W 覆土 自然堆積 壁 壁高は約 18～40 cm 残る。床 やや凹凸あり、全面が粘床。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 底面は不整形な土坑状の掘り込みが多数あり。ローム塊を多量含む 4 層で埋戻している。カマド 確認できなかった。遺物 遺物はほぼ皆無で、図示可能な遺物は 1 点のみである。1 は一見焼成粘土塊にも見えるが、器面にワラの圧痕が極めて多い点、全面的に赤化が顕著である点など、若干趣を異にする。また一部溶融する所も見られることから、が壁の破片とも考えられる。本建物の帰属時期は SB-73 との切り合いから奈良時代以降と考えられるが、詳細は不明である。



第130図 西刑部西原遺跡3区 SI-71 実測図・出土遺物

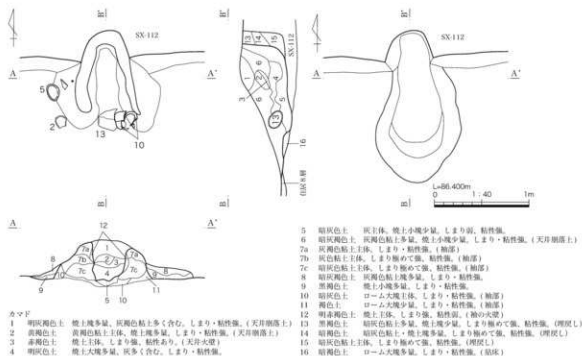
第48表 3区 SI-71 出土遺物観察表

採取番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置	残存
1	焼成粘土塊	高 4.2 幅 5.3 厚 3.4 重 48.4	胎土は環輪に似たキヌ細かい粘土を使用。全体に2次的に焼熟・赤化した可能性が高い。特に裏面の焼熟は顕著で一部溶融している。表、右側面、裏面にワラ庄痕あり。9等あるいは器体の一部分。	5YR4/8 赤褐色	中卒粗い、黒・灰・白・透明副砂 焼成：中卒破質	ベルト	部分残存

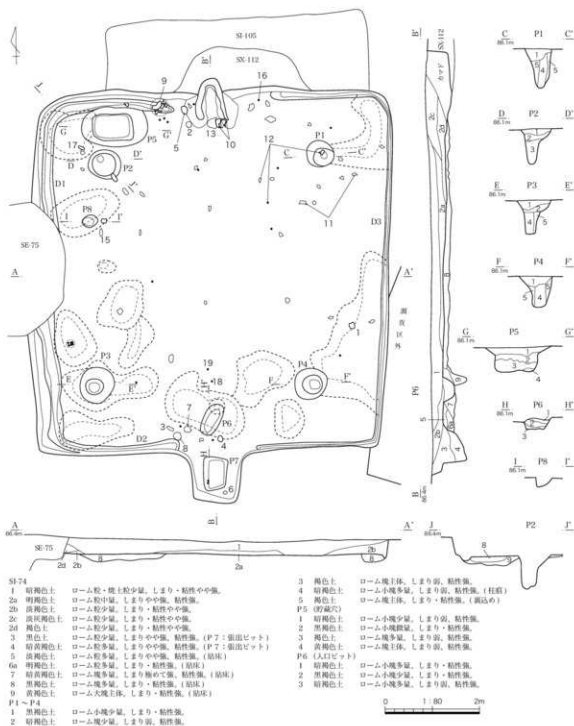
3区 SI-74 (遺構：第131・132図、遺物：第133図、図版一八・八九・九〇)

位置 グリッド 86.0-51.5・86.5-51.5 重複遺構 時期不明のSI-105・SX-112より新しく、奈良時代中葉の井戸SE-75より古い。平面形 隅丸方形 規模 東西7.51×南北8.90m 主軸方向 N-3°-E 覆土 自然堆積 壁 壁高26～38cm 床 貼床部分多いが、概ね平坦である。柱穴 P1 (径59～54cm、深さ83cm)、P2 (径68～60cm、深さ74cm)、P3 (径76～71cm、深さ71cm)、P4 (径70cm、深さ65cm)。入口ピット P6 (径69～36cm、深さ24cm) 貯蔵穴 P5 (長軸137×短軸82cm、深さ51cm)。

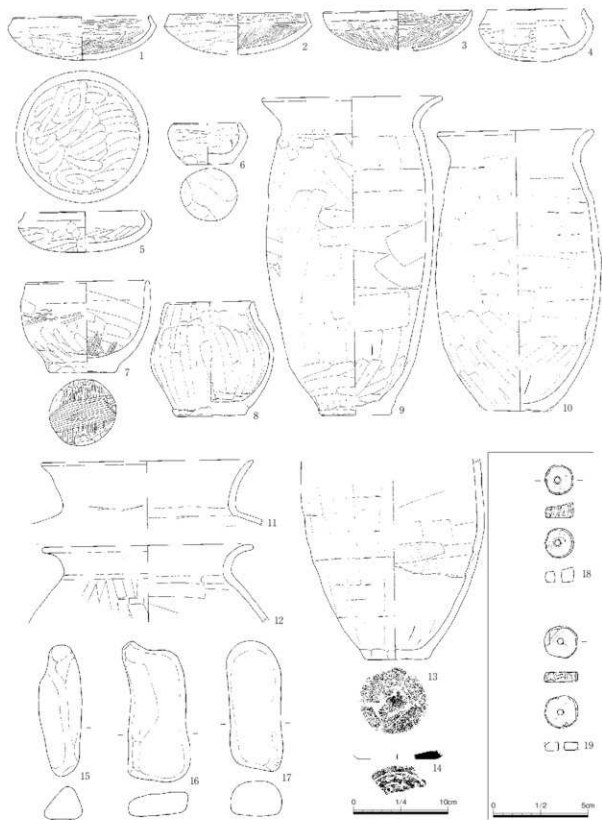
張出ピット 南壁を1m四方の方形に拡張し、中央部にP7 (長軸72×短軸50cm、深さ50cm)を掘り込む。P8 (径33～27cm、深さ19cm)は用途不明のピット。壁溝 D1 (幅37～49cm、深さ7～10cm)、D2 (幅7～19cm、深さ14cm)が壁際を巡る。掘方 壁際、特に南部から西部にかけ、不整な土坑状の掘り込み多数あり。概ね浅く、最深部で20cm弱。カマド 北壁中央部をU字形に掘り込む。煙道は奥壁を埋戻しており、ほぼ垂直に立ち上がる。構築材は灰褐色粘土を主体とする。遺物 計19点を図示した。土師器環(1～6)が多く、内外面にミガキを施すものが多い。5の内面に螺旋状のユビナデが顕著である。7の土師器鉢は底部内外面に焼成前のヘラミガキあり。ヒビの補修跡か。床面直上又は床面に近い遺物は3・4・6・12である。この他土師器裏、編物石、粘板岩製の白玉などがある。不掲載の土器類は小コンテナ1.5箱分。礫は約12.5kg出土した。遺物から、古墳時代後期後葉(TK43段階)の建物跡と考えられる。



第131図 西刑部西原遺跡3区 SI-74 実測図 (1)



第132図 西刑部西原遺跡3区 SI-74実測図(2)



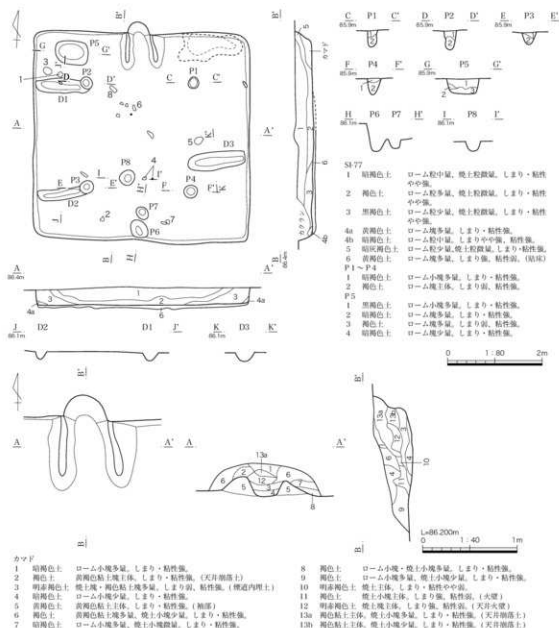
第133図 西刑部西原遺跡3区 SI-74出土遺物

第49表 3区 SI-74 出土遺物観察表

図録番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・出土 (m)	現存
1	土師器 杯	口 14.2 高 4.5	口縁部外面一体部内面上下ヨコナデ。内面やや線ならへタミガキ。体部外面ヘラケズリ。内外面磨上げ。	内：10YR7/3 に近い黄褐色 外：2.5Y7/3 浅黄	中々緻密。白・灰・黒細砂・灰・白砂。白濁少量焼成；中々硬質	№ 30 11.7	口縁部 1/2
2	土師器 杯	口 (14.4) 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデのちヘラミガキ。体部内面放射状のヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのち上半部ヘラナデ。	内：7.5YR7/6 橙 外：10YR6/4 に近い黄褐色	中々粗い。白・灰・透明黒細砂・赤粒 焼成；中々硬質	№ 57 17.8	口縁部 1/2、底部 3/4
3	土師器 杯	口 (15.4) 高 [4.2]	口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。口縁部一体部内面線ならへタミガキのち黒色処理。	内外面とも 7.5YR5/2 灰 外：10YR6/3 に近い黄褐色	中々粗い。白・灰・黒細砂・赤粒 焼成；中々硬質	№ 27 1.3	口縁部～体部 5/12
4	土師器 杯	口 10.2 高 5.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面ヘラナデ。	内外面とも 2.5Y7/4 浅黄	中々粗い。白・灰・黒細砂・赤粒 焼成；中々硬質	№ 59 床面	口縁部 1/3、底部 全存
5	土師器 杯	口 13.4 高 4.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面、上半部磨理ヨコナデのち下半部ヘラケズリ。体部内面全面にらせん状の磨理ナデ。口縁部内外面磨きに塗布。	内：10YR7/2 に近い黄褐色 外：10YR6/3 に近い黄褐色	細密。黒・透明・白・灰・黒細砂。白濁。赤粒。雲母片焼成；硬質	№ 54 6.6	全存
6	土師器 杯	口 7.2 底 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半部ヨコナデ、下半部ナデ及び指頭押圧。底部外面ナデのち縁部一部ヘラケズリ。	内外面とも 7.5YR7/4 に近い橙	中々粗い。白・灰・黒細砂・赤粒 焼成；軟質	№ 60 床面	口縁部 1/2、底部 全存
7	土師器 鉢	口 12.7 底 7.0 高 9.7	口縁部内外面ヨコナデ。製部内面上半ヘラナデ、下半部～底部ヘラミガキ。製部外面上半部ナデ、指頭押圧。下半部ヘラナデ及びナデ。底部外面ヘラケズリのち縦縞の入念なヘラミガキ（ヒビの連続痕あり）。	内：5YR7/6 橙 外：10YR8/4 浅黄橙	中々緻密。白・透明・黒細砂・赤粒 焼成；軟質	№ 25 4.9	全存
8	土師器 鉢	口 9.2 底 7.4 高 12.1	口縁部内外面ヨコナデ。製部内面ヘラナデ。製部外面ヘラケズリ。底部外面ヘラケズリのちナデか。外面の裏面付着物はススカ。	内：2.5Y4/1 黄灰 外：2.5Y6/2 灰黄	中々緻密。白細砂～粗砂・赤粒 焼成；中々硬質	№ 26 3.5	ほぼ全存
9	土師器 甕	口 18.6 底 8.4 高 33.6	口縁部内外面ヨコナデ。製部～底部内面ヘラナデ、下半部ヘラナデ後ヘラケズリ。製部～底部外面ヘラケズリ。下半部ヘラケズリのちナデ。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	中々緻密。灰・白・透明黒細砂・灰・白・黒細砂。白・灰・黒細砂。赤粒 焼成；中々硬質	№ 1 5.6	ほぼ全存
10	土師器 甕	口 16.2 底 6.4 高 29.7	口縁部内外面ヨコナデ。製部内面ヘラナデ。輪縁部あり。接合部の処理は中々薄でナデ痕が見る。底部外面ヘラケズリ。製部外面タテヘラケズリのち下半部ナメヘラナデ。外面焼熱のため剥離部分多い。粘土付着。	内：5YR6/6 橙 外：7.5YR6/6 橙	中々緻密。黒・灰・白砂。白・灰・黒細砂。白・灰・黒細砂 焼成；中々硬質	№ 62 9.3	口縁部 3/4、製部～底部ほぼ全存
11	土師器 甕	口 (22.0) 高 [7.2]	球面の腹。口縁部内外面ヨコナデ。製部内面接合部あり。製部内面上半ヘラナデ。製部外面ヘラケズリ。またはヘラナデか（滑感のため不明）。	内：7.5YR6/6 橙 外：7.5YR7/6 橙	中々粗い。白・灰・黒細砂・赤粒 焼成；軟質	№ 37+41 45 7.3 (№ 37)	口縁部～製部 1/2
12	土師器 甕	口 (22.0) 高 [8.2]	口縁部内外面ヨコナデ。製部内面ヘラナデ。製部外面タテハケキ。	内外面とも 5YR6/6 橙	中々粗い。白・灰・黒・透明黒細砂・赤粒 焼成；中々硬質	№ 36+44 床面 (№ 36)	口縁部～胴部 1/2
13	土師器 甕	底 7.0 高 [21.1]	製部内外面ヘラナデ。底部外面草履。内面の積上げ休止痕が顕著。下半部は焼熱のため赤化している。	内：10YR7/4 に近い黄褐色 外：10YR5/4 に近い黄褐色	粗い。白・灰・黒・透明黒細砂・赤粒 焼成；軟質	№ 63 9.1	底部全存
14	須恵器 杯	底 (8.0) 高 [0.7]	口口上仕上げ。底部外面回転ヘラ切り。	内外面とも 5Y6/1 灰	中々粗い。白・透明・灰・黒細砂・赤粒 焼成；硬質	覆土中	底部 1/4
15	石製 輪物石	長 13.8 幅 4.0 厚 3.5 重 298.0	未加工の自然産。平面形；楕円長方形 断面形；楕円台形	5Y7/2 灰白	—	№ 15 12.2	ほぼ全存
16	石製 輪物石	長 14.8 幅 6.3 厚 2.45 重 462.0	未加工の自然産。平面形；不整な楕円長方形 断面形；楕円長方形	2.5Y6/2 灰黄	—	№ 64 1.6	ほぼ全存
17	石製 輪物石	長 [13.2] 幅 5.4 厚 3.8 重 [523.0]	未加工の自然産。平面形；棒状 断面形；楕円三角形	7.5Y5/1 灰	—	№ 13 6.1	部欠
18	石製 輪物石	長 1.5 幅 1.5 厚 0.5 重 2.2	側面の3か所に切刃痕残る。又側面を弧状にするため研削を上下2段（一部3段か）に分けている。下面は原磨面か。理か研削面がある。上面にも研削を施すが、厚は一定していない。孔は穿孔等孔の可能性あり。	表：7.5Y4/1 灰黄 裏：2.5Y7/3 浅黄	粘板質	№ 22 4.2	ほぼ全存
19	石製 輪物石	長 1.6 幅 1.8 厚 0.32～0.38 厚 0.9	側面1か所に切刃痕あり。側面研削は1回で終了しており直線的。左上部を研削するとすれば上面の割痕は破損したのもと思われる。下面は強化した原磨面（あるいは原磨面か）。若干の研削痕が確認できる。	表：10Y4/1 灰黄 裏：5Y7/3 浅黄	粘板質	№ 21 18.6	ほぼ全存

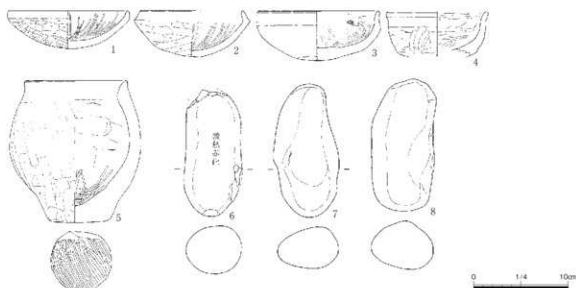
3区 SI-77 (遺構：第134図、遺物：第135図、図版一八・九〇)

位置 グリッド 86.0-53.0・85.5-53.0・85.5-53.5 重複遺構 無し。平面形 隅丸正方形 規模 東西 4.46 × 南北 4.45 m 主軸方向 N-3°-W 覆土 自然堆積 壁 壁高 34~38 cm 床 全面的に薄い貼床あり。硬化面は未確認。柱穴 P1 (径25~21 cm、深さ36 cm)、P2 (径25 cm、深さ36 cm)、P3 (径28 cm、深さ30 cm)、P4 (径28 cm、深さ37 cm)。入口ビット P6 (径43~32 cm、深さ19 cm)、P7 (径30~24 cm、深さ17 cm) は南壁中央部に位置し南北に列ぶ。貯蔵穴 P5 (長軸84 × 短軸49 cm、深さ31 cm) は北西隅に位置する。ビット P8 (径約30 cm、深さ21 cm) の用途は不明。壁溝 確認できなかった。間仕切り溝 D1 (幅20~31 cm、深さ10 cm)、D2 (幅19~23 cm、深さ10 cm)、D3 (幅26~39 cm、



第134図 西刑部西原遺跡3区 SI-77 実測図

深さ 18 cm) はいずれも東西軸。カマド 北壁中央部を半円形に掘り込む。煙道は中位で段を有し、立ち上がる。袖及び天井部は黄褐色粘土で構築される。遺物 遺物量は少なめで、覆土中層から上層にかけ出土した。土師器環は器高がやや高く、内面をヘラミガキするもの(1~3)が多い。4は平底の環か。体部下端に焼成前の補修跡(強いナデ)がある。5の小型甕は底部内面及び底部外面に焼成前のヘラミガキあり。乾燥時のヒビ補修の痕跡と考えられる。この他編物石が出土した。不掲載の土器類は小コンテナ 1/5 箱弱。礫は 2.2 kg 出土した。遺物から本建物は古墳時代後期前葉~中葉に位置づけられ、本調査区では最も古手の建物である。



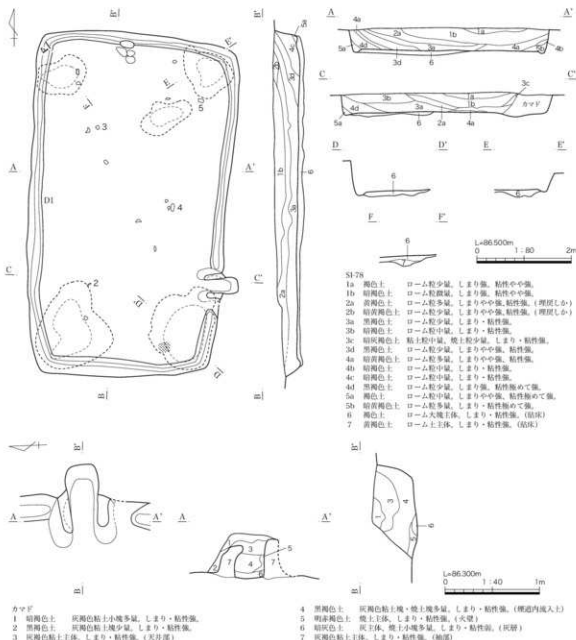
第 135 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-77 出土遺物

第 50 表 3 区 SI-77 出土遺物観察表

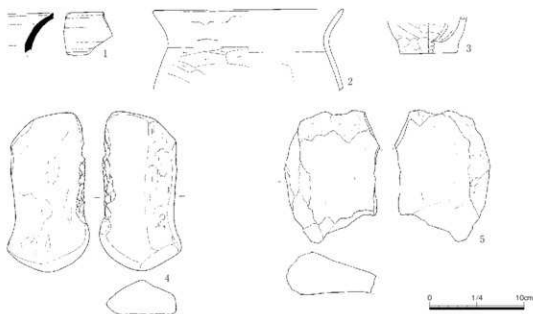
掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	粘土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	土師器 環	口 (12.5) 高 4.0	口縁部外面~体部内面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのち底部外面ヘラミガキ。体部内面疎らな放射状ヘラミガキ。内外面塗仕上げ。	内: 5YR6/8 橙 外: 5YR6/6 橙	やや緻密。白・黒・灰緑 砂。黒砂。白粒 焼成: やや破置	№ 9 11.5	口縁部~体部 2/5
2	土師器 環	口 10.4 高 4.9	口縁部外面~体部内面ヨコナデ。体部内面疎らな放射状ヘラミガキ。体部内面1面ナデ。下部ヘラケズリ。内外面塗仕上げ。	内: 10YR7/4 に近い黄緑 外: 7.5YR7/6 橙	やや緻密。黒・白・灰緑。赤粒 焼成: やや破置	№ 7 6.1	口縁部~体部 1/2
3	土師器 環	口 12.8 高 5.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面やや破置なヘラミガキ。体部外面剥落著しく調整不明。口縁部内面モミ圧痕1カ所あり。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密。白・黒・灰緑 砂。灰・黒砂。灰・黒粒 焼成: やや破置	№ 8 0.8	ほぼ完存 口縁部一部欠損
4	土師器 粗製環	口 (10.4) 高 [4.7]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ及び微凸磨正。体部~底部内面ヘラナデのちやや疎なヘラミガキ。体部外面にヘラナデによる焼成前のヒビ補修痕あり。	内: 10YR7/6 明黄緑 外: 7.5YR7/6 橙	やや緻密。白・黒・灰緑 砂。焼成: やや破置	№ 2-3 0.3 (№ 2)	口縁部~体部 2/3
5	土師器 小型甕	口 10.7 高 15.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面中子ヘラケズリのち部分的にヘラミガキ。胴部内面ヘラナデのち底部付近ヘラミガキ(ヒビ補修のためか)。底部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。	内: 7.5YR7/6 橙 外: 7.5YR8/4 黄緑橙	やや緻密。白・黒・灰緑 砂。黒・灰砂。赤粒 焼成: やや破置	№ 1 21.5	ほぼ完存
6	石器 編物石	長 13.3 幅 5.9 厚 5.1 重 595.0	全面焼熱のため赤化しているまた部分的に刺傷ヒビなどが見られ非常に悪い。 平面形: 楕円形 断面形: 不整な円形	5G5/1 オリーブ灰	-	№ 17 床直	部欠
7	石器 編物石	長 13.7 幅 6.5 厚 5.0 重 779.0	未加工の自然礫。 平面形: 不整な長方形 断面形: 不整な楕円形	2.5G5/1 オリーブ灰	-	№ 5 床直	ほぼ完存
8	石器 編物石	長 14.1 幅 6.4 厚 4.4 重 599.0	未加工の自然礫。 平面形: 不整な楕円形 断面形: 不整な楕円形	2.5YR6/3 に近い橙	-	№ 10 0.9	完存

3区 SI-78 (遺構: 第136図、遺物: 第137図、図版一八・九〇)

位置 グリッド86.0-53.5 重複遺構 無し。平面形 南北に長い隅丸長方形 規模 東西4.38×南北7.28 m 主軸方向 N-93.5°-E 覆土 一部に人為埋戻しの可能性あり。壁 壁高24~44 cm 床 細かな凹凸がある概ね平坦。貼床あり。柱穴・入口ピット・貯蔵穴 確認できなかった。壁溝 D1 (幅18~42 cm、深さ9 cm) は壁際を全周する。掘方 四隅に土坑状の掘り込みをもつ。カマド (位置・規模・遺残) 東壁際南寄りに位置し、壁を方形に掘り込む。規模の割に焼土が多量残る。遺物 土器類が極めて少ない。図示した遺物は須恵器甕 (1)、土師器武蔵型甕 (2)、小型の土師器手捏ね土器 (3)、この他石器類がある。砥石 (5) は多孔質安山岩製で、荒砥と考えられる。不掲載の土器類は小コンテナ 1/6 箱弱。礫は多く約 16.5 kg 出土した。奈良時代以降の建物の可能性が高いが、遺物量が少なく正確な時期は不明である。



第136図 西刑部西原遺跡3区 SI-78実測図



第137図 西刑部西原遺跡3区 SI-78 出土遺物

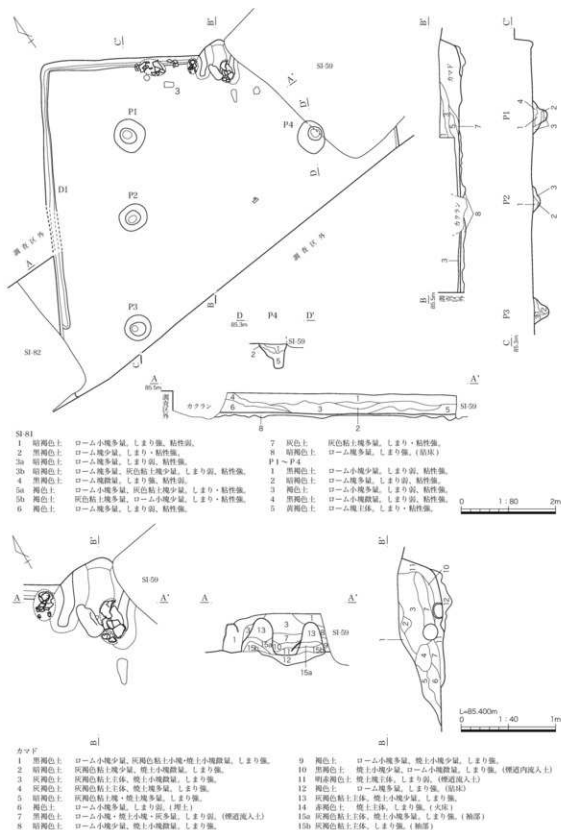
第51表 3区 SI-78 出土遺物観察表

図載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	粘土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	現存
1	須恵器 釜	口 (17.0) 厚 0.7 高 [4.7]	内外面ロクロナデ。	内: N6/O 灰 外: N5/O 灰	やや磁質。白・灰・黒釉 砂。黒砂 焼成: 中・硬質	覆土中	口縁部破片
2	土師器 壺	口 (19.8) 高 [8.9]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヨコヘラケズリの内ヘラナデか。胴部内面ヘラナデか。	内外面とも 7.5Y6.6 糖	やや磁質。白・黒・灰雜砂 他成: 中・硬質	No. 2 27.8	口縁部～胴部 土平 1/5
3	土師器 手捏ね 土器	底 (5.8) 高 [3.8]	体部外面指押圧及びナデ。体部内面丁寧なヘラナデ。底部外面ナデ。	内: 7.5YR7/6 糖 外: 7.5YR8/4 浅黄糖	やや磁質。黒・白雜砂。黒・白砂 焼成: 中・硬質	No. 11 29.5	体部土平～ 底部 1/2
4	石器 編物石	長 [16.4] 幅 7.3 厚 3.8 重 [743.0]	一側縁を両面から打ち欠いている。 平面形: 不整なハチ形 断面形: 楕円の五角形	10YR7/1 灰白	-	No. 7 3.9	部欠
5	石器 砥石	長 [13.0] 幅 [9.3] 厚 [4.4] 重 [474.0]	表裏面に滑らかな凹面をもち側面の端面は凹凸が現る。 磨滅しているため研削の方向は不明。 平面形: 不整形 断面形: 不整形	N4/O 灰	-	No. 8 1.7	部欠

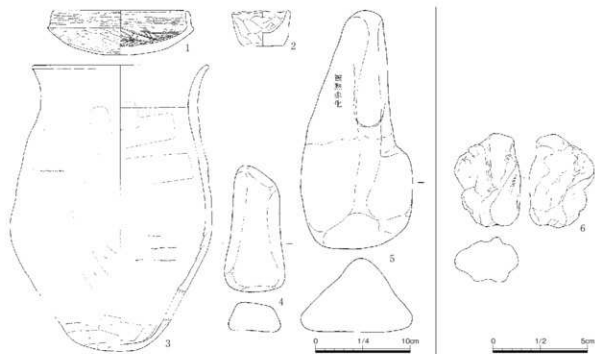
3区 SI-81 (遺構: 第138図、遺物: 第139図、図版一九・九〇)

位置 グリッド 88.5-46.0・89.0-46.0・88.5-46.5・89.0-46.5 重複遺構 古墳時代終末期のSI-59、奈良時代のSI-82より古い。平面形 方形と思われる。規模 東西7.46×南北7.2m以上 主軸方向 N-30°-E (推定) 覆土 自然堆積 壁 壁高30～35cm 床 部分的に薄い貼床あり。硬化面は未確認。柱穴 P1 (径約70cm、深さ30cm)、P2 (径61～50cm、深さ13cm)、P3 (径56cm、深さ30cm)、P4 (径72～56cm、深さ52cm)。P2は浅く、柱穴でない可能性あり。入口ピット・貯蔵穴 確認できなかったが、調査区外に存在する可能性あり。壁溝 D1 (幅11～21cm、深さ8cm) は西壁及び北壁西側に確認。

掘方 底面の細かな凹凸を埋戻す。カマド 北壁中央部を三角形に掘り込む。袖及び炉体は灰褐色粘土で構築。遺物 カマド周辺及び内部を中心に出土。土師器環・手捏ね土器・甕、その他未加工礫が多い。1の土師器環のヘラミガキは内面及び口縁部外面に及ぶ。5はカマド内から出土した支脚か。3は在地面の土師器胴、胴部下に最大径をもち左右に大きく歪む。6は焼成粘土塊。不掲載の土器類は小コンテナ1箱弱、礫は約18kg出土。遺物から古墳時代後期後葉 (TK43期) の建物跡と考えられる。



第138図 西刑部西原遺跡3区 SI-81 実測図



第139図 西刑部西原遺跡3区 SI-81出土遺物

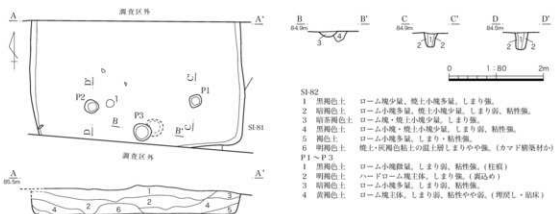
第52表 3区 SI-81出土遺物観察表

図帳 番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・ 床土 (cm)	残存
1	土師器 罎	口 13.9 高 4.7	口縁部内外面ヨコナデのちヨコヘタミガキ。体部内面不定方向のヘラミガキ。体部外面ヘラケズリ。口縁部内外面の一部に漆面跡あり。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密。灰・透明・黒・白細砂。白・黒砂。赤粒焼成；やや硬質	№ 5 3.3	口縁部 2/3。体部 ～底部ほぼ 完存
2	土師器 手取ね 土師器	口 (5.6) 高 3.7	外面指頭押上及びナデ。内面ヘラナデ及び指頭押上。底部外面ナデ。粘土付着。	内：10YR6/3 に近い黄褐色 外：10YR7/3 に近い黄褐色	やや緻密。白・黒細砂 焼成；硬質	№ 16 5.5	口縁部～体 部 2/5
3	土師器 甕	口 18.0 高 (30.2)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面上半部タテヘラナデか。下半部ナメまたはヨコヘラケズリか。底部外面一方向ヘラケズリ。全面的に酒風着しく調整不可解。胎土平部の黒灰は焼成時のものか。	内：10YR7/6 明黄褐色 外：10YR8/6 黄褐色	やや緻密。白・灰・黒砂。 白・灰・黒細砂。灰粒 焼成；やや硬質	№ 2 4.6	口縁部 5/6。底部 完存
4	石器 編物石	長 13.0 幅 5.5 厚 3.1 重 435.0	未加工の自然産。支脚か。上半部は焼熟赤化している。平面形；ハチ形 断面形；台形	N6/O 灰	—	№ 8 床直	完存
5	石器 編物石	長 25 幅 11.8 厚 7.9 重 2362.0	未加工の自然産。支脚か。上半部は焼熟赤化している。平面形；ハチ形 断面形；隅丸三角形	7.5YR6/2 灰褐色	—	№ 11 4.3	完存
6	焼成粘 土塊	長 4.9 幅 3.3 厚 2.3 重 22.1	僅かに織物質の痕跡がみられる。胎土は軽キメ細か で環の胎土に類似する。	7.5YR7/3 に近い黄褐色	やや緻密	№ 9 3.4	部分残存

3区 SI-82 (遺構：第140図、遺物：第141図、図版一九・九〇)

位置 グリッド 89.0.46.0 重複遺構 古墳時代後期の建物跡 SI-81 より新しい。平面形 北半部が調査区外だが、隅丸方形か又は長方形か。規模 東西 4.43×南北 2.64 m以上 主軸方向 ほぼ真北(推定値)
覆土 自然堆積 壁 壁高 30～39 cm 床 ローム面を床とする。概ね平坦で硬化面は未確認。柱穴 P1 (径 30～26 cm、深さ 27 cm)、P2 (径 30 cm、深さ 36 cm) は 4 本柱穴のうちの 2 本か。入口ピット P3 (径 39～36 cm、深さ 10 cm) は南壁際中央部に位置。貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。カマド 調査区

外に位置するか。遺物 極めて少ない。図示した遺物は須恵器蓋・蓑破片、土師器杯・常総型甕の4点のみ。1は床面直上の須恵器蓋でリング状のつまみが付く。不掲載の土器類は小コンテナ 1/5 箱弱。遺物量が少な
く正確な時期は不明瞭だが、遺物から奈良時代前葉の建物と考えられる。



第140図 西刑部西原遺跡3区 SI-82実測図



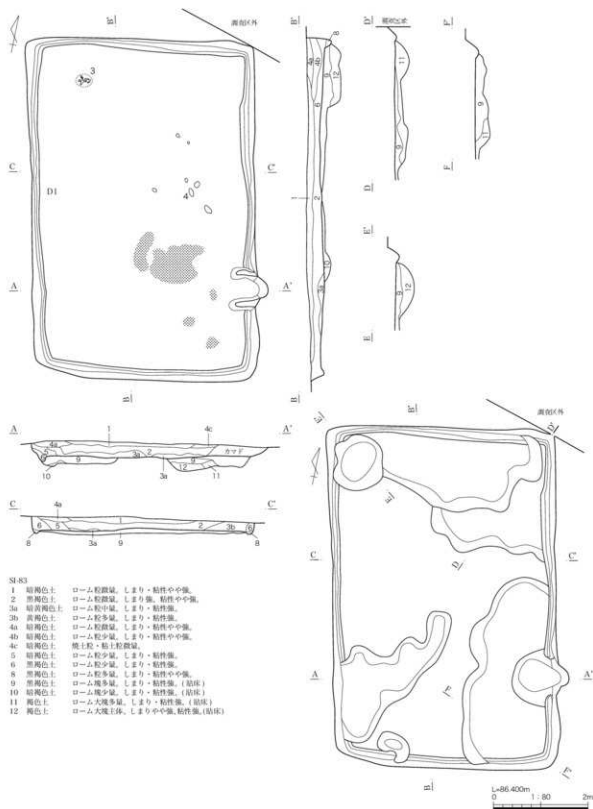
第141図 西刑部西原遺跡3区 SI-82出土遺物

第53表 3区 SI-82 出土遺物観察表

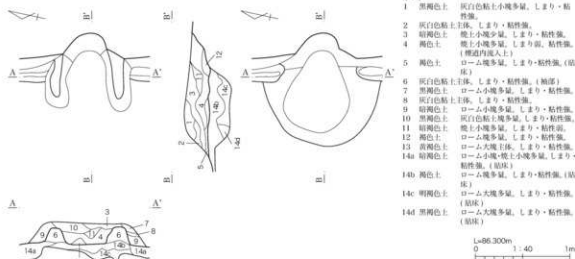
掲載番号	図種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器蓋	口 16.1 高 3.0 内径 3.9	内外面ロクナデ。天井部外面回転ヘラケズリのちつまみ貼付。	内：S77/1 灰白 外：S77/2 灰白	中・中焼密。白・灰・黒黒砂。白砂 焼成：中・中焼置	No.1 床直	ほぼ完存
2	須恵器蓋	厚 0.8	外面格子明記。内面同心円状あて具痕。	内：S56/1 灰白 外：S54/1 灰白	中・中焼密。白・灰・黒黒砂。白・灰砂。白粒 焼成：中・中焼置	南東	割部破片
3	土師器杯	口 14.6 高 [3.7]	口縁部一休部内面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。底部内面ナデ。内外面直仕上げ。	内：10YR6/4 に近い黄褐色 外：10YR7/4 に近い黄褐色	中・中焼密。白・灰・黒砂。赤粒 焼成：中・中焼置	南東	口縁部 1/3、体部一底部 3/5
4	土師器甕	口 (20.8) 高 [4.1]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラナデか。胴部内面ヘラナデ。常総型の甕。	内：S5R5/4 に近い赤褐色 外：S5R4/3 に近い赤褐色	中・中焼密。白・灰・黒黒砂。白・黒砂 焼成：中・中焼置	甕土中	胴部上平 1/6

3区 SI-83 (遺構：第142・143図、遺物：第144図、図版一九・二〇)

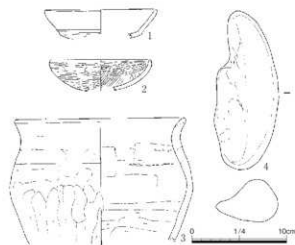
位置 グリッド 86.0-54.0・86.5-54.0 重複遺構 無し。平面形 南北に長い隅丸長方形 規模 東西 4.93 × 南北 7.22 m 主軸方向 N-79.5° - E 覆土 自然堆積 壁 壁高 20 ~ 38 cm 床 全面的に薄い貼床あり。柱穴・入口ピット・貯蔵穴 確認できなかった。壁溝 D1 (幅 14 ~ 36 cm、深さ 13 cm) 掘方 壁際を中心に不整形な掘り込みあり。深さは 20 ~ 30 cm で、ローム塊と黒色土の混土で埋戻す。カマド 東壁際南寄りに位置する。壁を半円形に浅く掘り込む。燃焼部から煙道にかけ厚く焼土が堆積する。遺物 極めて少ない。図示した遺物は土師器杯・蓑及び編物石の計4点。2は混入品の可能性が高い。不掲載遺物は土器類は小コンテナ箱1/6弱。礫は 3.1 kg である。遺物が極めて少なく明確にはできないが、1・3の遺物から古墳時代終末期の建物跡と考えたい。



第142図 西刑部西原遺跡3区 SI-83実測図(1)



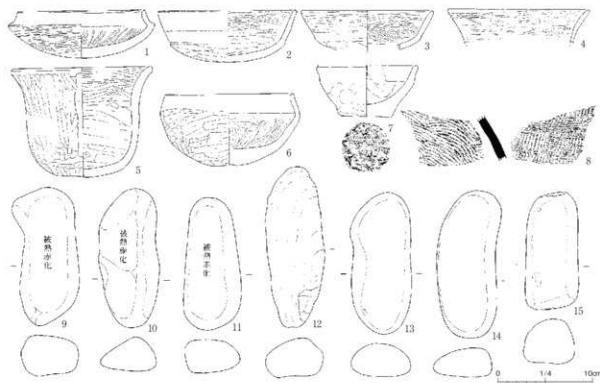
第 143 図 西刑部西原遺跡3区 SI-83 実測図



第 144 図 西刑部西原遺跡3区 SI-83 出土遺物

第 54 表 3区 SI-83 出土遺物観察表

編號 番号	器種	法量(cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色 調	胎土・素材・焼成	出土位置・ 床土 (cm)	残存
1	土師器 杯	口 (11.5) 高 [3.0]	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。捺仕上げか。	内：10YR7/3 に近い黄緑 外：10YR8/4 浅黄緑	中～中硬質。白・黒・灰緑 砂～漚	覆土中	口縁部 1/6
2	土師器 杯	口 (10.8) 高 [3.3]	口縁部内外面ヨコナデ。内面ヘラミガキ。体部～底部 外面ヘラケズリのちヘラミガキ。	内外面とも 5YR5/8 明赤 間	中～中硬質。白・黒・灰緑 砂～漚	覆土中	口縁部～体 部 1/4
3	土師器 甕	口 (18.0) 高 [13.2]	口縁部内外面ヨコナデ。側部内面上平部ヘラナデ。下 平部ヨコヘラケズリ。側部外面上平部面押し及びナデ。 上平部タテヘラケズリ。	内：5YR5/6 明赤間 外：5YR6/6 橙	粗い。灰・白・黒・赤緑 細砂～粗砂。白・赤緑 焼成：中～中硬質	No 1 1.3	口縁部～胴 部 上平 1/4
4	石部 副物石	径 16.6 幅 6.4 厚 4.4 重 584.0	未加工の自然産。 平面形：不整形 断面形：不整形	5Y6/1 灰	—	No 7 8.2	ほぼ残存



第146図 西刑部西原遺跡3区 SI-84出土遺物

3区 SI-84 (遺構：第145図、遺物：第146図、図版二〇・九〇)

位置 グリッド 86.5.52.0・86.5.52.5・87.0.52.0・87.0.52.5 重複遺構 無し。平面形 ほぼ正方形 (北半部は宇都宮市調査E区SI-2として報告済み) 規模 東西7.55×南北7.4m 主軸方向 N-9°-W
 覆土 自然堆積 壁 壁高42～60cm 床 貼床は殆ど認められない。硬化面は確認できなかった。柱穴 P1 (径58～54cm、深さ50cm)、P2 (径42～35cm、深さ57cm)。入口ピット 確認できなかった。
 張りピット 南壁を幅1.5m×長さ1.3mの方形に拡張し、中央部にP3 (長軸86×短軸70cm、深さ85cm) を掘り込む。壁溝 D1 (幅18～32cm、深さ6cm)、D2 (幅25～43cm、深さ5cm)。カマド (宇都宮調査区で北壁から新旧2基確認)。遺物 計15点を図示。土師器環(1～4)のうち、2は口縁部が長く内面にミガキを施す。栗囲系の土器か。3・4は内外面にヘラミガキを施す。5は口縁部内面および、胴部外面には細かなヘラミガキをもつ。器形は甕に似るが、胎土は灰類と同様である。このほか編物石が壁際を中心にまとまって出土。床面付近の遺物は編物石以外はほぼ皆無。不掲載の土器類は小コンテナ1箱分、礫は8.4kg出土。遺物から古墳時代後期後葉(TK43段階)の建物跡と考えられる。

第55表 3区 SI-84出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・出土量(cm)	現存
1	土師器環	口 13.1 高 5.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面飾らな放射状のヘラミガキ。体部外面ヘラズリのちヨコヘラミガキ。	内：7.5YR6/4 に灰・糖外：7.5YR5/3 に灰・糖	中・空焼成。黒・白・透明織物。黒・白砂、赤粘焼成：中・空焼成	No.21 34.4	ほぼ完存
2	土師器環	口 13.7 高 5.5	口縁部外面ヨコナデ。口縁部内面～体部内面ヘラミガキのち黒色処理。体部外面ヘラナデ。	内外面とも 5YR5/8 明赤褐色	中・空焼成。灰・白・黒織物。白・黒砂焼成：中・空焼成	No.20 10.0	口縁部 1/4、体部～底部 1/3
3	土師器環	口 (13.8) 高 (4.1)	口縁部外面ヨコナデのちヘラミガキ。体部外面ヘラナデ。口縁部～体部内面ヨコヘラミガキのち顔面部に顔面状のヘラミガキのち黒色処理。	内：2.5Y 2/1 黒 外：10YR8/6 黄褐色	織物。灰・白砂焼成：中・空焼成	No.2 35.6	口縁部～底部 1/4

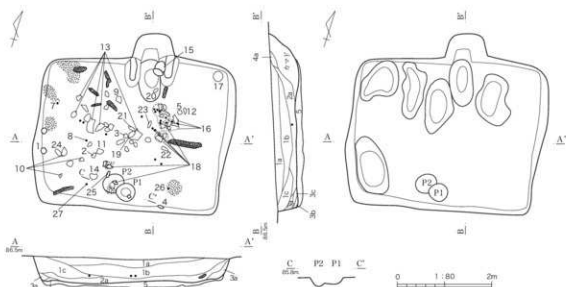
4	土師器 坪	口 高	(15) [3.6]	口縁部内外面ヨコナデのちみぎキ、内外面黒色処理。 口縁部は外反し、体部との境に段を有する。	内外面とも 5YR5/6 明赤 色	黒密、白・灰黒砂・白砂 焼成；やや硬質	覆土中	口縁部 1/3
5	土師器 小甕 (跡カ)	口 高	(14.6) 11.6	口縁部～胴部外面タテヘラケズリ一部ナデカ。底部外 面多方向ヘラケズリ、口縁部内面ヘラケズリのちへラ ナデカあるいはヘラミガキ。胴部～底部内面ヘラケズリ のちみぎがあるヘラナデ。胎土はキメ細かく塊、厚順と 同じ。	内外面とも 10YR7/4 に 近い黄緑	黒密、黒・白細砂、赤緑 焼成；硬質	№ 3・4・ 5・10 11.9 (№ 10)	口縁部～体 部 1/4、底 部完全
6	土師器 鉢カ	口 高	13.2 7.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハウ状工具による強 めのナデあるいはヘラケズリ。体部内面たく繰らな放 射状のヘラミガキ。底部内面に焼成前ヒビ線跡のヘラ ミガキあり。内外面漆仕上げ。	内外面とも 10YR7/4 に 近い黄緑	やや緻密、黒・白細砂、 白砂、赤粒 焼成；やや硬質	№ 25 30.2	完存
7	土師器 手取皿 土器	口 底 高	(10.6) 5.0 5.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面 指節押し及びナデ。底部外面ナデ、敷物仕込。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや粗い、白・黒細砂、 白粒、赤粒 焼成；軟質	№ 56 35.0	口縁部 1/4、 底部完全
8	須恵器 甕	—	—	内面同心円状に貝殻、外面格子明きのちみぎ目。	内外面とも 5Y6/1 灰	やや緻密、灰・白・黒細 砂、白砂 焼成；やや硬質	№ 7 44.2	胴部破片
9	石器 編物石	長 幅 厚 重	14.3 6.0 4.2 590.0	未加工の自然産。表面のみ赤褐色を呈する。焼熟したも のか。 平面形：不整な隅丸長方形 断面形：不整な隅丸長方形	10R4/4 赤褐	—	№ 34 13.7	完存
10	石器 編物石	長 幅 厚 重	14.1 5.5 3.6 420.0	未加工の自然産。 平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸三角形	10YR6/4 に近い黄緑	—	№ 42 8.0	完存
11	石器 編物石	長 幅 厚 重	13.6 5.8 3.6 520.0	未加工の自然産。 平面形：隅丸の楕形 断面形：不整な隅丸方形	2.5YR7/1 明赤灰	—	№ 46 不明	完存
12	石器 編物石	長 幅 厚 重	16.8 6.0 4.2 571.5	未加工の自然産。 平面形：不整な楕円形 断面形：不整な隅丸方形	5Y7/3 浅黄	ホルンフェルスカ。	№ 31 4.3	ほぼ完存
13	石器 編物石	長 幅 厚 重	14.4 6.3 3.4 534.0	未加工の自然産。 平面形：不整な楕円形 断面形：不整な楕円形	2.5Y6/1 黄灰	—	№ 48 不明	完存
14	石器 編物石	長 幅 厚 重	15.4 6.2 3.1 558.0	未加工の自然産。 平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸のくまび形	2.5Y7/2 黄灰	—	№ 33 7.0	完存
15	石器 編物石	長 幅 厚 重	12.2 5.5 4.6 531.0	上縁部、下縁部の刺刺は縁打痕カ。 平面形：隅丸方形 断面形：不整な半円形	10YR6/1 明灰	—	№ 43 4.9	ほぼ完存

3区 SI-85 (遺構：第 147 図、遺物：第 148～150 図、図版二〇・九〇・九一)

位置 グリッド 86.0.52.0・86.5.52.0 重複遺構 無し。平面形 やや不整な隅丸長方形 規模 東西 4.09 × 南北 3.76 m 軸方向 N-9°-W 覆土 自然堆積カ。暗褐色土主体の 9 層に分層される。2a 層中から焼土・炭化材が集中して出土。壁 壁高 40～53 cm 床 ほぼ全面が貼床。若干の凹凸を有する。柱穴 確認できなかった。入口ビット P1 (径 38 cm、深さ 14 cm)、P2 (径 42 cm、深さ 20 cm) は入口関連の痕跡カ。貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 底面に土坑状の掘り込み及び若干の凹凸を有し、ローム大塊を多量含む 5 層で埋戻している。カマド 北壁中央部に位置し、壁を隅丸の台形状に掘り込む。煙道の立ち上がりは緩やかで、燃焼部から煙道にかけ焼土が多く残る。完形の土師器甕 (15) が出土する。遺物 平面的には中央部に集中し、覆土上層からの出土量が多い。掲載遺物を見ると、須恵器は環 (1～5)、高台付甕 (6)、高環 (7)、鉄鉢型土器 (9) 短頸甕 (8・10)、大型甕 (11・13) が、土師器は武蔵型甕 (15・

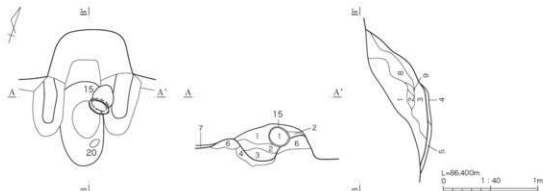
第 56 表 3区 SI-85 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・出土 (cm)	残存	
1	須恵器 坪	口 高	(15.6) 4.8	口縁部～体部内外面ヨコナデ。底部外面回転糸切りの ちみぎ周平持ちヘラケズリ。	内：5Y7/2 灰白 外：7.5Y6/1 灰	やや緻密、黒・白細砂、 白砂 焼成；やや硬質	№ 21 37.9	口縁部 1/4、底部 4/5
2	須恵器 坪	底 高	6.6 [1.1]	体部外面ヨコナデ。底部外面回転糸切りのちみぎ記 号。ヘラ記号は尻尻を帯びる。程度乾燥が差入ら だのちみぎ記されたものか。	内外面とも 7.5Y6/1 灰	やや緻密、白・灰・黒細 砂、白・黒砂、白粒 焼成；やや硬質	№ 13 40.7	底部 3/4



SI-85

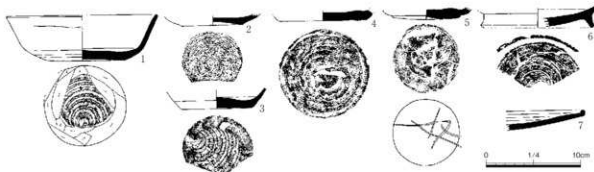
- 1a 珉褐色土 ローム粒・焼土粒跡。しまり強、粘性中少強。
 1b 珉褐色土 ローム粒・焼土粒少。しまり強、粘性中少強。
 1c 褐色土 ローム粒中。焼土粒少。しまり強、粘性中少強。
 2a 淡褐色土 炭粒多。ローム粒・焼土粒中。しまり、粘性強。
 2b 淡褐色土 ローム粒少。しまり中強、粘性強。
 3b 暗青褐色土 ローム粒多。しまり中強、粘性強。
 3c 暗青褐色土 焼土粒多。ローム粒中。しまり・粘性強。
 3d 黄褐色土 ローム粒多。しまり・粘性強。
 4a 暗灰色土 粘土粒多。焼土粒中。しまり・粘性強。
 4b 暗褐色土 ローム大塊多。しまり・粘性強。(跡)



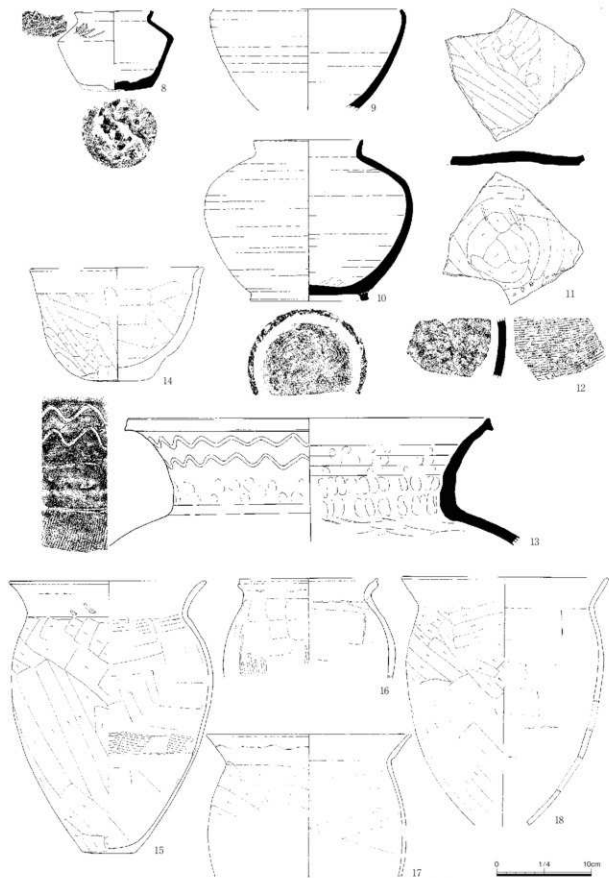
カマド

- 1 黒褐色土 ローム小塊多。焼土小塊少。しまり強。
 2 灰褐色土 灰褐色粘土塊・焼土小塊多。しまり強。(天井積上)
 3 黒褐色土 焼土小塊多。しまり強。(壁内積上)
 4 暗灰色粘土 焼土小塊多。しまり強。(大床、珉褐色粘土)
 5 珉褐色土 焼土小塊少。しまり・粘性強。(跡)
 6 灰褐色粘土 しまり・粘性強。(跡)
 7 珉褐色土 ローム塊多。しまり・粘性強。
 8 暗褐色土 灰褐色粘土塊・焼土小塊多。しまり・粘性強。(天井積上)
 9 赤褐色焼土主体 しまり強、粘性弱。(大壁)

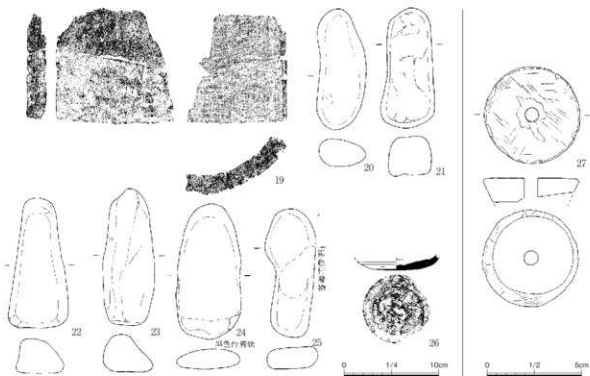
第147図 西刑部西原遺跡3区 SI-85実測図



第148図 西刑部西原遺跡3区 SI-85出土遺物(1)



第149図 西刑部西原遺跡3区 SI-85出土遺物(2)



第150図 西刑部西原遺跡3区 SI-85出土遺物(3)

17・18)を中心に、常総型甕(16)が少量認められる。この他男瓦破片(19)、編物石(20～25)、石製紡錘車(27)がある。このうち2・3は底部外面にヘラ記号をもつが、3は文字の可能性もある。4は底部周縁を調整しており、パレットなどに転用した可能性がある。8は肩部に文字風のヘラ描きがあるが、解読は不能。11は底部外面に縄圧痕がある。13は頸部にための粗大な波状文が見られる特徴的な甕である。19の男瓦はSE-76の出土遺物と遺構間接合が確認された。27は結晶片岩製の紡錘車破片。不掲載の土器類は小コンテナ2箱分。窯の重量は15.8kgに及ぶ。遺物から奈良時代後葉(8世紀後葉)の建物跡と考えられる。

3	須恵器 環	口(10.4) 底(7.4) 高(1.9)	内外面口クロナデ。底部外面回転糸切りのち外面回転ヘラケズリ。	内: 2.5Y8/1 灰白 外: 2.5Y8/2 灰白	磁器、白・灰・黒細砂、 灰色砂、黒色砂 焼成: 中・中硬質	№55 11.8	底部3/4、 体部一部
4	須恵器 環(転 用破片)	口 9.5 底 1.0	底部外面回転ヘラ切りのちヘラ記号か、黒色の付着物あり。底部内面はやや平直に研磨される。側縁を打ち欠き丁寧に調整している。痕あるいはパレットなどに転用したものか。	内外面 2.5Y6/2 灰黄	磁器、白・灰・黒細砂、灰・ 白砂 焼成: 硬質	№36 3.7	底部完全
5	須恵器 環	底 7.1 高(1.2)	底部外面回転ヘラ切りのち若干のナデ。底部内面口クロナデ。底部外面へラ記号あり。底部のヘラ切りは極めて薄で、切り残しによる段差が残る。	内外面とも 5Y6/1 灰	中・中硬質、白・灰・白砂、白 細砂 焼成: 中・中硬質	№3 25.2	底部破片
6	須恵器 高台付 盤	底(12.0) 高(2.2)	底部内面口クロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台転付。	内: 5Y7/1 灰白 外: 5Y7/2 灰白	中・中硬質、白・灰・黒細 砂、灰色砂 焼成: 中・中硬質	ベント №20	底部1/4
7	須恵器 高環	口(22.6) 高(1.7)	内外面口クロナデ。	内: 5Y6/2 灰オリーブ 外: 7.5Y6/1 灰	中・中硬質、白・灰・黒細 砂、灰・白砂 焼成: 中・中硬質	№22 30.9	口縁部破片
8	須恵器 小型短 頸甕	口 7.8 底(7.4) 高 8.4	口縁部内外面口コナデ。側部外面焼成ヘラ記号。同部内外面口クロナデ。底部外面に大きな段差あり。縄な回転ヘラ切りで大きく凹んだ部分に転付けた粘土がさらに削取したためか、おみが見える。	内: N4/0 灰 外: 10Y5/1 灰	中・中硬質、白・灰・黒細 砂、灰色砂、白細、白粗 焼成: 中・中硬質	№62 18.6	完全
9	須恵器 鉢鉢型 土器	口(19.6) 制(20.7) 高(10.7)	内外面口クロナデ。口縁部端で小さく内湾する。	内: 7.5Y4/1 灰 外: 7.5Y5/1 灰	中・中硬質、白・灰・透明細砂 一層 焼成: 硬質	№33 10	側部1/4、 口縁部一部
10	須恵器 短頸甕	口(11.4) 制(22.1) 底(12.4) 高(21.8)	内外面口クロナデ。側部外面下部回転ヘラケズリの制(22.1)ちクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台転付。底部内面一方面ナデあり。底面側の種輪縁と考えられる。	内: 7.5Y5/1 灰 外: 7.5Y6/1 灰	中・中硬質、白・灰・黒細 砂一層 焼成: 硬質	№16・ 18・19 9.5(№ 19)	口縁部 1/4、底部 3/4、胴部 1/2
11	須恵器 甕	厚 1.0	底部内面面ナデ、指頭押正、自然転付着。底部外面ヘラケズリ。中央部はやや窪む。縄(1段目)の側面の圧痕がみられる。甕の底部と考えられるが器形は不明。	内: 2.5Y6/2 灰黄 外: 2.5Y6/1 灰	磁器、白・灰・黒細砂、黒・ 灰色砂 焼成: 硬質	№12 22.2	底部破片

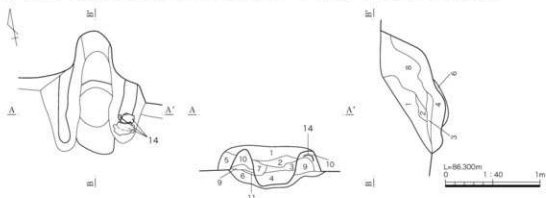
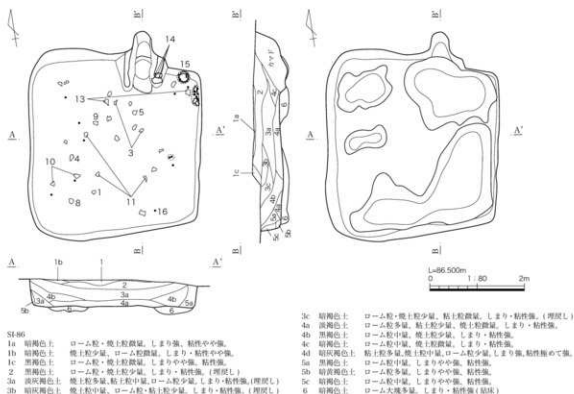
12	須恵器 甕	厚 0.8	内面無文あて具底。外面平行印き。	内外面とも N5/6 灰	やや緻密。白・灰砂。白・灰細砂。白磁 焼成；やや硬質	№ 2 24.1	胴部破片
13	須恵器 甕	口 47.4 高 [16.6]	口縁部内外面口ロナナ。口縁部外面輪山の二条の流状文。胴部内面無文印。胴部内面及び胴部外面に凹痕。	内：5Y5/1 灰 外：7.5Y3/1 オリーブ黒	やや緻密。白・灰・黒細砂。白・黒・灰色砂。白磁 焼成；硬質	№ 23・40・ 59 4.6 (№ 40)	口縁部 1/2
14	土師器 鉢	口 (18.0) 底 7.0 高 12.0	口縁部内外面口ロナ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面下部ヘラケズリ、上半部ナデ。底部外面ヘラケズリのちヘラナデ。赤みが大きい。砂粒の混入が多く粘土は硬と同様だが焼物はしていない。	内外面とも 10YR7/4 に 近い黄緑	やや緻密。白・灰・黒細砂。白色砂。黒色砂。白磁 焼成；やや硬質	№ 14 7.3	口縁部 7/12、体部 ～底部 5/6
15	土師器 甕	口 21.0 底 5.1 高 28.7	口縁部内外面口ロナ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面上半部口コ又はナメヘラケズリ、下半部ナメヘラケズリ。胴部外面一方ヘラケズリ。胴部外面にはほぼ全面にコゲ付着。内面底部のみ黒色付着物。	内：5YR6/8 橙 外：5YR5/6 明赤褐	やや緻密。白・透明・灰・黒細砂～粗砂 焼成；軟質	№ 19 9.5	ほぼ完存
16	土師器 甕	口 14.4 高 [10.6]	口縁部内外面口ロナ。底部をつまみ上げる。胴部内面ヘラナデ。胴部外面上半部ナデあるいはヘラナデのち粗いタテヘラミガキ。胴部一部に粘土付着。	内：7.5YR4/3 黄 外：7.5YR4/4 黄	粗い。白・透明・灰・黒細砂～粗砂。赤砂。灰砂。雲母片 焼成；やや軟質	№ 3・21・ 35 20.8 (№ 35)	口縁部～胴 部 上半完存
17	土師器 甕	口 21.6 高 [15.2]	口縁部内外面口ロナ。体部内面ヘラナデ。体部外面ナメヘラケズリ。胴部外面中位に多量の粘土が付着し、調整不可解。	内：5YR6/6 橙 外：5YR6/6 橙	やや緻密。透明・白・灰・黒細砂。赤色粘礫。白磁 焼成；やや軟質	№ 1 床直	口縁部～胴 部 上半部 2/5
18	土師器 甕	口 21.6 高 [26.3]	口縁部内外面口ロナ。胴部内面ヘラナデ。胴部内面ヘラケズリ。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密。白・灰・黒・細砂。黒・白・灰色砂。白磁付か 焼成；やや硬質	№ 8・10・ 42・46 5.8 (№ 42)	口縁部完存。 胴部 2/5 底 部欠損
19	瓦 瓦	長 [12.5] 幅 [7.2] 厚 2.4 重 [246.0]	西面：布目織 凸面：格子目 3区 SE-76-2と遺構外接合。	5YR7/6 橙	やや緻密。白・透明・黒細砂。白・灰粗砂～硬質 焼成；硬質	№ 50 8.5	部分残存
20	石器 編物石	長 12.5 幅 4.9 厚 2.8 重 264.2	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：球形	10YR7/1 灰白	—	№ 48 22.4	完存
21	石器 編物石	長 12.5 幅 4.6 厚 4.0 重 455.6	未加工の自然礫。 平面形：楕丸の楕形 断面形：楕丸方形	5Y5/1 灰	—	№ 51 5.2	完存
22	石器 編物石	長 13.6 幅 5.1 厚 3.7 重 450.2	未加工の自然礫。 平面形：楕丸の楕形 断面形：不整な楕丸形	7.5Y7/2 灰白	—	№ 40 14.8	完存
23	石器 編物石	長 14.3 幅 5.2 厚 4.0 重 457.3	未加工の自然礫。 平面形：不整な長方形 断面形：楕丸三角形	5Y7/2 灰白	—	№ 44 9.5	完存
24	石器 編物石	長 14.1 幅 6.6 厚 2.1 重 319.9	未加工の自然礫。下端部表面のみ黒色付着物あり。ススカ。 平面形：楕丸の楕円形 断面形：楕丸のレンズ状	5Y7/1 灰白	—	№ 20 26.4	完存
25	石器 編物石	長 13.5 幅 5.3 厚 2.2 重 316.0	未加工の自然礫。中央部に黒色付着物あり。ススカ。 平面形：不整な長方形 断面形：楕丸長方形	2.5Y6/1 黄灰	—	№ 9 12.4	完存
26	須恵器 坏か	高 5.5	口コ仕上げ。底部外面回転ヘラケズリ。やや古手の黒丸遺物か。	内：7.5Y5/1 灰 外：2.5GY5/1 オリーブ 灰	緻密。白・灰・黒細砂。黒・灰砂 焼成；硬質	№ 37 床直	底部完存
27	石製品 紡錘車	径 5.1 厚 [1.7] 重 [40.6]	上面緩む平坦。上面の磨痕は明瞭。側面に製菓文様の磨痕(比喩か)は浅く、線別かどうかは不明瞭。孔径 6.8 mm。～7.2 mm。	内外面とも 10GY4/1 暗 緑灰	結晶片質	№ 15 33.8	下部欠損 1/2 程度か

3区 SI-86 (遺構: 第151図、遺物: 第152・153図、図版二〇・二一・九一・九二・一三)

位置 グリッド86.0-52.0 重複遺構 古墳時代後期後葉のSI-87より新しい。平面形 不整な隅丸台形状
規模 東西3.54×南北3.2～4.1m 主軸方向 N-10°-E 覆土 覆土中に人為的な埋戻しが認められる。壁 壁高50～61cm残る。床 若干の凹凸あり。中央部を残し、周縁部は広く粘土となる。
柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 底面には不整形の土坑掘り込みあり、ローム塊を多量含む第6層で埋戻している。カマド 北壁中央部やや東寄りに位置し、壁面を凸字状に掘り込む。煙道からの流入土には焼土を多量含む。14はカマド芯材に転用されたものか。遺物 須恵器は坏(1・4～9)・瓶類(10)・甕(2・3・11)が、土師器は坏(12)・甕(13～15)があり、他に鉄製品の鎌(16)が出土する。4・7の底部外面にはヘラ記号が見られる。8の底部外面周囲には繊維質の圧痕あり。15の胴部内面には粘土を撫でつける。焼成前の補修跡か。16の鎌は完形品で、基部を直角に折り曲げる。不掲載の土器類は小コンテナ2箱弱、礫は約700g出土。遺物から奈良時代後葉の建物跡と考えられる。

第57表 3区 SI-86 出土遺物観察表

編號番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置	残存
1	須恵器 坏	底 [7.0] 高 [1.7]	内外面ロクロナデ。底部外面にヘラ切りのちナデのちヘラ記号。ヌノコ様の圧痕あり。	内外面とも 5Y7/1 灰白	中・中焼。灰・黒・白細砂。灰・黒砂。黒糖少々焼成；中・中硬質	No 19	底部1/2
2	須恵器 甕	厚 0.9	口縁部に平行してための沈線。以下8条1期の纏構造状文を施す。	内：5Y4/1 灰 外：10Y2/1 黒	中・中硬い。白細砂～礫焼成；硬質	覆土中	口縁部破片
3	須恵器 甕	厚 1.0	内面無文あて具のちナデ。外面平行タタキ。外面一部に灰色の自然釉。	内：10Y5/3にぶい黄褐色；2.5Y5/2 暗灰黄	中・中硬い。白・灰細砂～礫焼成；硬質	No 14・26 21.2 (No 14・26)	胴部破片
4	須恵器 坏	口 [14.6] 底 10.3 高 3.9	内外面ロクロナデ。底部外面にヘラ切りのちナデのちヘラ記号。	内外面とも 10Y5/4にぶい黄褐色	中・中硬い。白・灰細砂～礫焼成；中・中硬質	No 18 23.6	口縁部1/8、 底部3/4
5	須恵器 坏	口 14.0 底 9.3 高 4.2	内外面ロクロナデ。底部ヘラ切りのちナデ。	内外面とも 5Y6/1 灰	中・中硬。白・灰細砂。灰・白砂。白濁焼成；中・中硬質	No 28 57.0	口縁部1/3
6	須恵器 坏	口 15.0 底 7.9 高 4.1	内外面ロクロナデ。底部外面にヘラ切りのちナデおよび補正痕あり。やや赤みがあり。補正した測定値で表す。	内外面とも 2.5Y7/2 灰黄	中・中硬。白・灰・黒細砂～礫。赤鉄焼成；中・中硬質	覆土中	ほぼ完存
7	須恵器 坏	口 [13.6] 底 8.4 高 4.2	口縁部～体部内外面ロクロナデ。底部外面にヘラ切りのちヘラ記号。	内：5Y5/1 灰 外：5Y4/2 オリーブ灰	中・中硬。白・白細砂～礫焼成；硬質	覆土中	口縁部1/8、 底部1/2
8	須恵器 坏	口 14.0 底 8.4 高 4.3	内外面ロクロナデ。体部外面下端部手持ちヘラケズリ。底部外面にヘラ切りのちナデのちヘラケズリ。底部外面アラあるいは木質の圧痕あり。横け赤みが著しいため補正して実測。体部外面一部に自然釉付着。	内：10Y5/1 灰 外：5Y5/1 灰	中・中硬。灰・白・黒砂。白濁焼成；中・中硬質	No 20 6.9	口縁部3/4、 体部～底部 ほぼ完存
9	須恵器 坏	口 13.5 底 8.6 高 3.7	内外面ロクロナデ。底面ヘラケズリ。赤みが大きいため、補正して実測。	内外面とも 5Y5/1 灰	中・中硬。灰・白・黒細砂。灰・白・黒砂。黒糖焼成；中・中硬質	No 32 37.4	口縁部1/2、 底部完存
10	須恵器 瓶類	口 [22.6] 底 [9.6]	内外面ロクロナデ。胴部外面下半部にヘラケズリ。胴部外面には黄色の陶灰。胴部外面には黒色の自然釉が付着。	内：N5/0 灰 外：N3/0 暗灰	中・中硬い。白細砂～礫焼成；中・中硬質	No 36・38 45.0 (No 38)	口縁部1/5
11	須恵器 甕	厚 0.9	外面平行タタキ。内面無文あて具。破片下端部沈線ヘラミガキ風斜色のヘラナデ。	内外面とも 2.5Y5/3にぶい黄褐色	中・中硬。白・灰・黒細砂。白・灰砂。白濁焼成；中・中硬質	No 25・34 2.0 (No 35)	胴部破片
12	土師器 坏	口 [14.8] 高 3.7	口縁部外面ヨコナデ。口縁部～体部内面ヘラナデのちミガキ。体部外面ヘラケズリ。	内：7.5Y7/6 橙 外：7.5Y5/6 橙	中・中硬。白・黒・黒細砂。白・黒・黒砂。赤鉄焼成；中・中硬質	覆土中	口縁部1/2、 底部3/4
13	土師器 甕	口 [22.0] 高 [11.5]	筒箱型。口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラナデのち平行叩き。胴部内面黒色あり。	内外面とも 7.5Y5/6 橙	中・中硬い。白・灰細砂～礫焼成；中・中硬質	No 7・13 20.8 (No 13)	口縁部1/4
14	土師器 甕	口 [22.5] 底 10～15	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデのち胴部中底10～15位のみハケ目風のナデ。胴部外面ヘラケズリ。底部外面ヘラケズリ。	内外面とも 7.5Y5/6 橙	中・中硬。白・黒・灰細砂。白・灰砂。赤鉄焼成；中・中硬質	No 40・41、 K 1.6	胴部1/4
15	土師器 甕	口 24.0 底 [15.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。内面中底に黒土粒を押しし刷毛でナデを施す。補修跡か。胴部外面斜めのヘラケズリ。外面又ス付着。	内外面とも 5Y5/6 橙	中・中硬。灰・白・黒細砂。灰・白・黒砂。赤鉄焼成；中・中硬質	No 21 21.1	胴部上完存
16	鉄製品 鎌	品 12.8 重 39.3	背が緩やかな丸みをもち完形の鎌。基部はくの字に折曲がり。面欠幅は1.2cmほど。刃部断面は平直。穂は角棒で、最大幅は2.6mm。	前	鉄製	No 5 3.5	完存

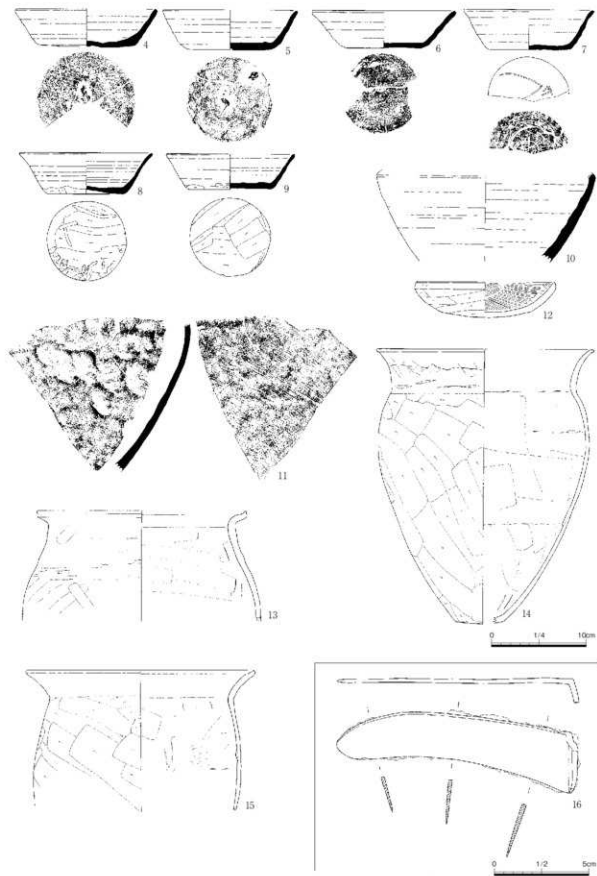


- カサフ
- 1 暗褐色土 ローム小塊少量。しまり・粘性強。
 2 黒褐色土 ローム小塊多量。しまり・粘性強。
 3 暗灰色土 焼土塊多量。しまり強。粘性強。(天守櫓落土)
 4 暗灰色土 焼土塊少量。しまり強。粘性強。(埋戻し内填入土)
 5 暗褐色土 ローム小塊少量。焼土小塊微量。しまり・粘性強。
 6 褐色土上層。しまり・粘性強。(陥没)

第151図 西刑部西原遺跡3区 SI-86 実測図



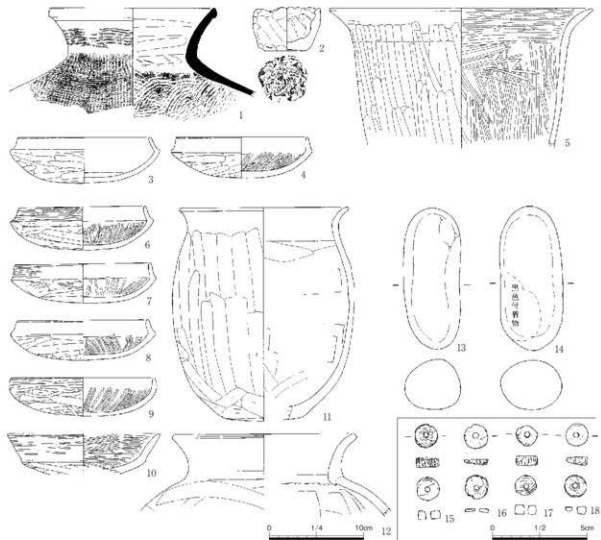
第152図 西刑部西原遺跡3区 SI-86 出土遺物 (1)



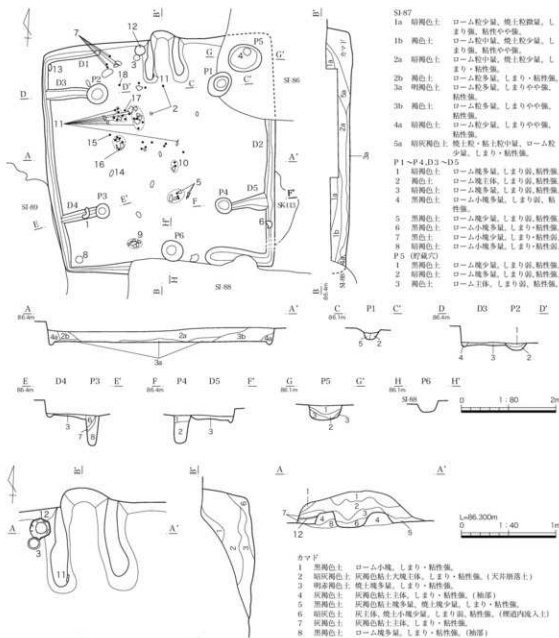
第153図 西刑部西原遺跡3区 SI-86出土遺物(2)

3区 SI-87 (遺構：第155図、遺物：第154図、図版二〇・二一・九二)

位置 グリッド 86.0-51.5・85.5-52.0・86.0-52.0 重複遺構 奈良時代の建物跡 SI-86・88 より古い。平面形 やや不整な正方形 規模 東西 4.79×南北 4.95 m 主軸方向 N-6.5°-W 覆土 自然堆積 壁 壁高 30～56 cm 床 概ね平坦で、ローム面を床面とする。柱穴 P1 (径 58～45 cm、深さ 13 cm)、P2 (径 44～40 cm、深さ 15 cm)、P3 (径 31 cm、深さ 63 cm)、P4 (径 40～32 cm、深さ 58 cm) は主柱穴か。入口ピット P6 (径 46～43 cm、深さ 22 cm) は南壁際中央部にある。貯蔵穴 P5 (長軸 70×短軸 57 cm、深さ 31 cm) は楕円形。壁溝 D1 (幅 11～26 cm、深さ 9 cm)、D2 (幅 17～39 cm、深さ 8 cm) を壁際に確認。間仕切り溝 D3 (幅 21～22 cm、深さ 9 cm)、D4 (幅 16～20 cm、深さ 9 cm)、D5 (幅 14～36 cm、深さ 8 cm)。カマド 北壁際中央部の壁際を半円形に掘り込む。袖部及び天井部は灰褐色粘土で構築。遺物 覆土上層からの出土が多い。掲載遺物は床面付近の遺物が多く、須恵器裏、土師器坏・手捏ね土器・甕・甗、その他副物石、白玉がある。1 の須恵器裏は波状文の振幅が非常に小さい。15～18 の石製模造品は粘板岩製で、側面の研磨は粗雑。不掲載の土器類は小コンテナ箱 4/5 ほど、罐の重量は 2.3 kg。遺物から古墳時代後期後葉の建物跡と考えられる。



第154図 西刑部西原遺跡3区 SI-87 出土遺物



第155図 西刑部西原遺跡3区 SI-87 実測図

第58表 3区 SI-87 出土遺物観察表

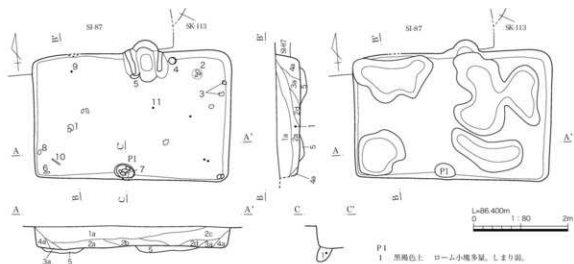
掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	粘土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	現存
1	築地器 土師器	口 (17.0) 高 [9.4]	口縁部内外面ワロコナデ。胴部内面凹み心印あり具縁。胴部外面成文状。胴部外面平行叩きのちたきナリ。	内：7.5Y6/1 灰 外：7.5Y4/1 灰	中～破砕。白磁砂～礫 焼成：破質	No. 17 33.2	口縁部 1/2
2	土師器 手捏ね 土器	口 6.4 高 4.6	口縁部外面～体部外面強い指ナデ。口縁部内面～体部内面強い指ナデによる明瞭な整形痕。底部外面ナデあるいは縮痕の上向き。	内：7.5Y8/6 橙 外：10YR7/6 明黄褐色	粗い。白・透明・黒磁砂～礫 焼成：中～軟質	No. 9-28 床直 (No. 9)	ほぼ正完存 (口縁部一部欠損)
3	土師器 坪	口 13.8 高 4.9	口縁部外面～体部内面ワロコナデ。体部外面ヘラケズリ。ちへラナデ。漆仕上げ。	内：10YR7/4 に近い黄褐色 外：10YR6/4 に近い黄褐色	中～粗い。白・透明・灰 磁砂～礫。赤鉄 焼成：破質	No. 43 1.8	正完存
4	土師器 瓶	口 13.7 高 4.3	口縁部内外面ワロコナデ。体部内面ワロコナデ。体部内面ヘラケズリ。体部内面斜め放射状のヘラミガキ。内外面漆仕上げあるいは黒色処理か。	内：2.5Y2/1 黒 外：2.5Y3/1 黒褐色	中～粗い。灰・白磁砂～礫 焼成：破質	No. 45 2.1	正完存
5	土師器 瓶	口 (28.0) 高 [14.6]	口縁部内外面ワロコナデ。口縁部内面ワロコナデ。胴部外面ワロコナデ。胴部内面ヘラミガキ。	内：2.5Y8/4 淡黄 外：10YR6/4 に近い黄褐色	細砂。白磁砂 焼成：破質	No. 26-32 2.0	口縁部 1/4
6	土師器 坪	口 (13.0) 高 4.6	口縁部外面ヘラミガキ。体部外上下ナデ及び指頭押圧。下半部光沢を帯びたヘラケズリ。口縁部～体部内面ワロコナデのち細かな放射状ヘラミガキ。内外面漆仕上げ。	内：2.5Y3/1 黒褐色 外：2.5Y2/1 黒	細砂。白・灰磁砂～礫 焼成：破質	No. 22 3.1	ほぼ正完存
7	土師器 坪	口 (14.1) 高 4.1	口縁部外面面ワロコナデ。体部外面ヘラケズリのちへラナデ。体部内面ワロコナデ。口縁部内面ワロコナデ。体部内面斜め放射状のヘラミガキ。内外面漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR7/4 に近い橙	中～破砕。白・黒・灰磁砂。白・黒・赤鉄 焼成：中～破質	No. 24-25 44 床直 (No. 44)	口縁部～体部 2/5
8	土師器 瓶	口 13.4 高 4.3	口縁部内外面ワロコナデ。体部内面斜め放射状のヘラミガキ。体部外面ヘラケズリ。漆仕上げ。口縁部部の剥落痕。巻用によるものか。	内：7.5YR7/6 橙 外：10YR3/3 に近い黄褐色	中～破砕。白磁砂。白磁砂。白・灰磁砂 焼成：中～破質	No. 18 2.9	正完存
9	土師器 瓶	口 15.0 高 4.1	口縁部内外面ワロコナデ。体部内面ナデの放射状のヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのちへラナデ又はヘラミガキ。内外面漆仕上げ。	内：2.5Y2/1 黒 外：10YR7/6 明黄褐色	中～破砕。灰・白磁砂～礫 焼成：破質	No. 19 床直	3/4。底部 5/6
10	土師器 坪	口 (15.8) 高 [4.3]	口縁部外面ワロコナデのちヘラミガキ。体部外面ヘラナデ。口縁部～体部内面ヘラミガキのち黒色処理。	内：N2/0 黒 外：10YR7/6 明黄褐色	中～破砕。灰・黒・白磁砂。白砂。赤鉄 焼成：中～軟質	No. 10-31 10 床直 (No. 10)	口縁部 1/6
11	土師器 瓶	口 17.5 高 22.5	口縁部内外面ワロコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラケズリ。胴部外面下指ナデもあるいはワロコナデ。底部外面ヘラケズリのちナデ。胴部外面下半部は黒熱による赤化や剥落がみられる。	内：10YR7/4 に近い黄褐色 外：7.5YR6/6 橙	中～粗い。白・灰・黒・透明磁砂～礫 焼成：中～軟質	No. 4-5 6-7 29-46 覆土 床直 (No. 7)	3/4。底部 1/7
12	土師器 瓶	口 19.0 高 [8.5]	口縁部内外面ワロコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラケズリ。胴部外面ヘラケズリによるナデ。胴部に明褐色の彩色あり。唇口とて転用された可能性あり。	内：5YR5/6 明赤褐色 外：5YR5/6 赤褐色	中～破砕。白・黒・透明・灰磁砂～礫 焼成：破質	No. 42 2.8	口縁部 1/4
13	石製 編物石	長 14.7 幅 5.9 厚 5.2 重 660.9	未加工の自然産。断面形：不整な楕円形	10YR7/6 明黄褐色	-	No. 2 床直	ほぼ正完存
14	石製 編物石	長 15.1 幅 6.6 厚 5.2 重 782.0	未加工の自然産。部分的に黒色味を帯びる。ススカ。断面形：楕円形	10YR5/2 灰黄褐色	-	No. 15 24.6	正完存
15	石製 硯石	径 1.2 厚 0.4 重 1.0	上面は穿孔の際の剥離あり。側面は切肉痕あり。縁らで緩な研削。下面は大きく丸鈍。孔 0.28 ~ 0.3 mm。	10Y4/1 灰	粘板岩	No. 13 床直	ほぼ正完存
16	石製 硯石	径 1.2 厚 0.4 重 0.5	上面は剥離面。側面は切肉痕あり。粗い研削。下面は一部に原産面を残す。穿孔の際の剥離あり。孔 0.28 ~ 0.35 mm。	10Y4/1 灰	粘板岩	No. 41 3.9	ほぼ正完存
17	石製 硯石	径 1.1 厚 0.5 重 0.7	上面は大きく丸鈍するが、一部平滑。研削したものか。側面は切肉痕および剥離面を残す。研削は粗いが2段に及ぶ。下面は原産面を残す。孔 0.26 ~ 0.27 mm。	10Y4/1 灰	粘板岩	No. 12 床直	ほぼ正完存
18	石製 硯石	径 1.2 厚 0.4 重 0.7	上面は大きく丸鈍するが、一部平滑。研削したものか。側面は粗い縁らな研削を残す。下面は原産面または剥離面か。孔 0.27 ~ 0.29 mm。	N4/0 灰	粘板岩	No. 11 床直	ほぼ正完存

3区 SI-88 (遺構：第156図、遺物：第157・158図、図版二〇・二一・九二・九三・一一二)

位置 グリッド 85.5-52.0 重複遺構 古墳時代後期の建物跡 SI-87 より新しい。平面形 隅丸長方形 規模 東西 4.11×南北 2.95 m 主軸方向 N-4° - E 覆土 自然堆積 壁 壁高 36 ~ 46 cm 床 部分的に貼床あり。柱穴 確認できなかった。入口ピット P1 (径 43 ~ 31 cm、深さ 31 cm) は南壁際中央部にある。貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 中央部は平坦だが、周囲を不整な土坑状に掘り込む。

カマド 北壁中央部を半円形にする。燃焼部には焼土・灰が残る。袖左側から小型甕 (4) が出土した。遺物 計 11 点を図示した。9 は用途不明の鉄製品。先端は片刃箭状で一見鉄鏃に似るが、筈が無く、基部を環状に加工している点が大きく異なる。11 は結晶片岩製の紡錘車。雲母片を含み橙色に近い色調を呈する。不掲載の土器類は小コンテナ 1.3 箱分。礫の重量は 1.2 kg。遺物から奈良時代後葉の建物跡と考えられる。

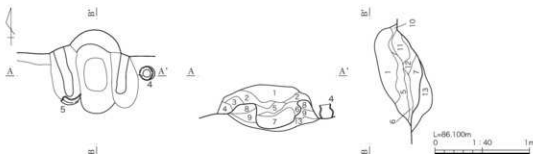
第3章 発見された遺構と遺物



PI
1 黒褐色土。ローム小塊多量。しまり面。

SI-88

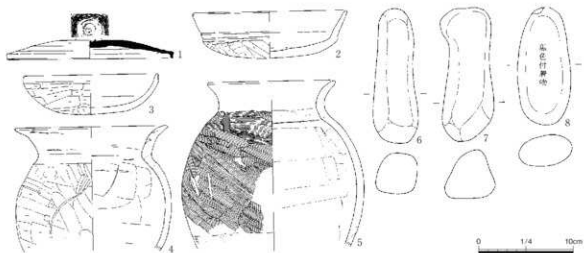
- 1a 褐色土。ローム粒中量。しまり・粘性中強。 2a 暗褐色土。ローム粒中量。しまり中強。粘性強。 4a 暗褐色土。ローム粒中量。しまり中強。粘性強。
 2b 暗褐色土。ローム粒少量。しまり中強。粘性強。 2d 暗褐色土。ローム粒少量。しまり・粘性強。 5 暗褐色土。ローム大塊多量。しまり・粘性強。(灰床)
 2c 褐色土。ローム粒中量。しまり中強。粘性強。 3a 褐色土。ローム粒中量。しまり・粘性強。



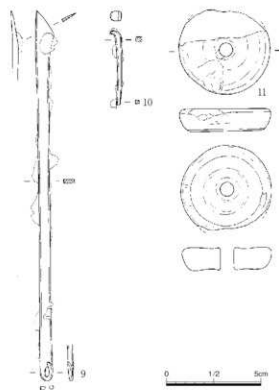
あやフ

- 1 黒褐色土。ローム小塊少量。焼土小塊散在。しまり・粘性強。 8 暗灰色粘土。しまり・粘性強。(灰部)
 2 暗褐色土。ローム小塊・焼土小塊多量。しまり・粘性強。 9 暗灰色粘土。焼土少量。しまり・粘性強。(灰部)
 3 暗褐色土。焼土小塊・灰褐色粘土多量。しまり・粘性強。 10 褐色土。ローム小塊少量。焼土小塊少量。しまり強。
 4 暗褐色土。ローム小塊多量。しまり・粘性強。 11 暗褐色土。ローム小塊・焼土小塊少量。しまり強。
 5 暗褐色土。灰褐色粘土多量。焼土小塊散在。しまり・粘性強。(灰厚層部土) 12 暗褐色土。ローム小塊・焼土小塊多量。しまり強。
 6 赤褐色土。焼土塊多量。しまり・粘性強。 13 黒褐色土。ローム塊多量。しまり強。粘性あり。(灰床)
 7 暗灰色土。ローム小塊・焼土塊多量。灰散在。しまり弱。粘性強。

第156図 西刑部西原遺跡3区 SI-88実測図



第157図 西刑部西原遺跡3区 SI-88出土遺物(1)



第158図 西刑部西原遺跡3区 SI-88 出土遺物 (2)

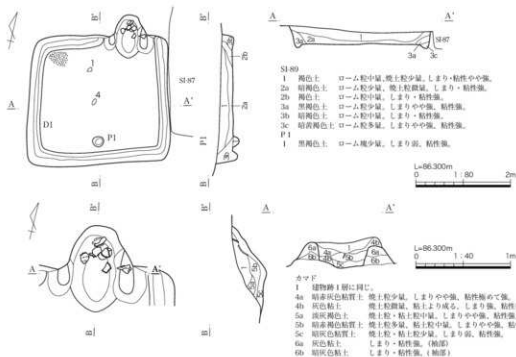
第59表 3区 SI-88 出土遺物観察表

図録番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	粘土・素材・構成	出土位置・床土 (m)	残存
1	銅匙頭	口 17.2 底 [2.0]	内外面口クロナデ。大片部外面回転ヘラケズリ。ツマミ部に螺旋状の深い接合沈線あり。銅製品。	内：7.5Y5/1 灰 外：7.5Y6/1 灰	やや緻密。白・灰緑砂、白灰・黒砂 構成：やや硬質	№15 4.8	大片部 1/4
2	土師器 坪	口 (16.0) 坪 高 4.8	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。底部内面ナデか。体部～底部外面ヘラケズリ。漆仕上げ。	内：5YR5/8 明赤褐色 外：5YR6/6 橙	やや緻密。灰・黒緑砂・赤粒 構成：やや硬質	№4 1.7	口縁部 1/2。底部 完存
3	土師器 坪	口 (13.8) 坪 高 4.2	口縁部内外面ヨコナデ。製部内面ヘラナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内：10YR8/4 淡黄褐色 外：10YR7/4 に近い黄褐色	緻密。白陶砂 構成：やや硬質	№1 0.3	口縁部 3/4。底部 完存
4	土師器 甕	口 16.0 高 13.2	口縁部内外面ヨコナデ。製部内面ヘラナデ。製部外面ヨコヘラケズリのち上半部ナデ一部ヘラミガキか。製部外面は焼熟し黄褐色を呈する。一部粘土付着。製部下平内面は赤変し剥落している。	内：5YR5/8 明赤褐色 外：5YR6/6 橙	やや粗い。白・透明細砂～粗砂。白濁 構成：やや硬質	№5 床直	製上半部 完存
5	土師器 甕	口 (13.4) 高 [16.7]	口縁部内外面ヨコナデ。製部内面ヘラナデ。製部外面上半部ナデヨコ目。下部タケ目。製部外面中位には黄黒。部分的に焼熟した粘土付着。頸部断面ヨコヘラケズリ。	内外面とも 10YR7/6 明黄褐色	やや粗い。白・灰緑砂～粗砂。赤粒 構成：やや硬質	№22。力 7.7 0.2	口縁部 1/16。頸部 1/2
6	石器 編物石	長 14.2 幅 4.4 厚 4.4 重 434.0	未加工の自然産。平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸正方形	2.5Y7/2 灰黄	—	№110.4	完存
7	石器 編物石	長 13.8 幅 5.2 厚 5.0 重 460.9	未加工の自然産。平面形：不整形 断面形：隅丸三角形	10YR6/6 明黄褐色	—	№18 17.8	完存
8	石器 編物石	長 12.3 幅 5.6 厚 3.3 重 323.2	未加工の自然産。全面に黒色付着物あり。平面形：楕円形 断面形：楕円形	10YR6/2 灰黄褐色	—	№17 床直	完存
9	不明鉄 製品	長 19.6 幅 1.0 厚 3.1 重 16.4	完形品。先端部は片刃状で、刃部の断面は平造り。頸部は非常に長く直線形で、断面形は幅 6.0 mm 厚さ 2.5 mm ほどの長方形。基部は一端を細く加工したのもちれめしている。細など変遷したのもか。	—	鉄製	№10 2.6	完存
10	鉄製品 釘	長 [4.0] 幅 0.5 重 [1.6]	頭部を十字に折り曲げ、5 mm 四方の平面面を作り出している。断面形は上部は長方形。下部は正方形。	—	鉄製	№6 床直	端部欠損

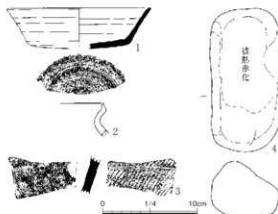
11	石製品 紡錘石	径 4.7 厚 1.2 孔 0.72-0.71 重 (39.5)	断面は磨滅風化が進む。砥分付着のための研磨痕など不明瞭。上面、下面ともに孔の周囲が浅くリング状に凹凸。上面に破損部を再度研磨し修復した痕跡あり。 平面形：円形。断面形：丸みを帯びた台形	内外面とも IOYR6/6 明黄褐色	結晶片岩	No 12 4.2	4/5 部欠
----	------------	---	---	--------------------	------	--------------	--------

3区 SI-89 (遺構：第 159 図、遺物：第 160 図、図版二一・二二)

位置 グリッド 85.5-51.5・85.5-52.0・86.0-51.5 重複遺構 無し。平面形 不整な隅丸方形 規模 東西 2.9×南北 3.10 m 主軸方向 N-12° -W 覆土 自然堆積 壁 壁高は 21~40 cm 残る。床 ローム地山を床面とし、概ね平坦。柱穴 確認できなかった。入口ピット P1 (径 23 cm、深さ 15 cm) 貯蔵穴 確認できなかった。壁溝 D1 (幅 20~30 cm、深さ 11 cm) カマド 北壁際東寄りに位置。遺物 殆どが小破片が主体。1 は床面直上出土の須恵器環である。不掲載の土器類は小コンテナ箱 1/3 弱ほど出土した。遺物から奈良時代前葉 (8 世紀前葉) の建物跡と考えられる。



第 159 図 西刑部西原遺跡 3区 SI-89 実測図



第 160 図 西刑部西原遺跡 3区 SI-89 出土遺物

第60表 3区 SI-89 出土遺物観察表

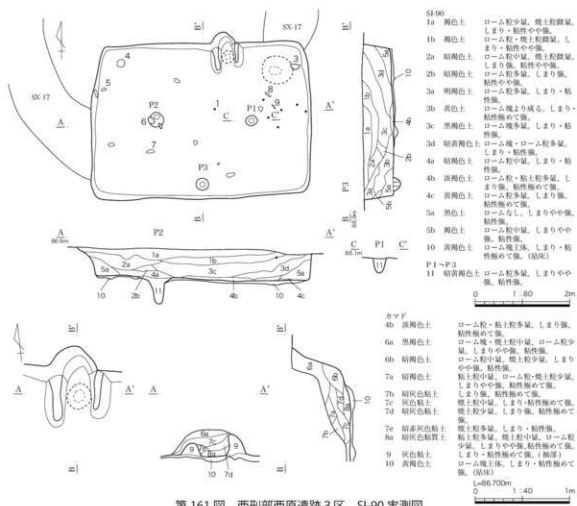
掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 環	口 (14.8) 底 10.2 高 [4.3]	内外面ロクロナデ。底部外面回転切り痕のちナデ。	内: 10YR5/1 黄灰 外: 10YR5/2 黄黄緑	やや微赤。白・灰・黒緑 砂。白・黒砂。白磁 焼成: 硬質	№1 床直	口縁部 1/8、底部 2/5
2	土師器	高 [2.4]	常陸型斐の口縁部破片。口縁部内外面ヨコナデ。口縁部端部をつまみ上げている。	内: 7.5YR/6 橙 外: 7.5YR/6/4 に近い黄緑	やや微赤。白・灰砂。白・灰・透明磁粉。雲母片 焼成: やや硬質	覆土中	口縁部 1/12
3	須恵器	高 [4.2] 厚 1.2	内面無文あて具組のちナデ。外面縦格子甲きのち横紋状。	内: 5Y5/1 灰 外: 5Y6/1 灰	やや微赤。灰・黒緑砂。白・灰砂。白磁 焼成: やや硬質	覆土中	割部破片
4	石器 編物石 か	長 15.0 幅 7.1 厚 5.6 重 974.0	未加工の自然産。上平部は僅かに赤化。焼熟したものか。平面形: 楕丸長方形 断面形: 不整な楕丸方形	2.5Y6/3 に近い黄	—	№2 17.1	完存

3区 SI-90 (遺構: 第161図、遺物: 第162図、図版二二・一一五)

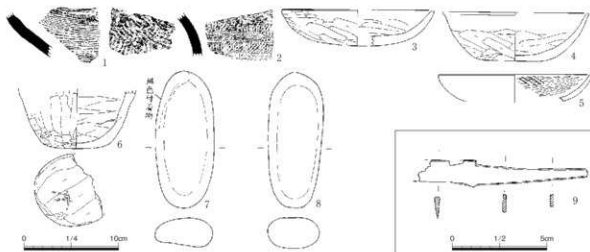
位置 グリッド 89.0-50.5・89.5-50.5・89.0-51.0・89.5-51.0 重複遺構 古墳時代終末期の円形周溝遺構 SX-17 より新しい。平面形 東西軸の長方形 規模 東西 4.58×南北 3.51m 主軸方向 N 2.5° - E 覆土 自然堆積 壁 壁高は 56～63cm 残る。床 全面的に薄い貼床があるが概ね平坦。柱穴 P1 (径 25cm、深さ 32cm)、P2 (径 30cm、深さ 48cm) があるが柱痕は未確認。入口ピット P3 (径 26cm、深さ 14cm) は南壁際中央部にある。貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 北東隅に若干の掘り込みがあるが概ね平坦。ローム塊主体の 10 層で埋戻す。カマド 北壁中央部やや東寄りに位置し、壁面を半円形に掘り込む。構築材は灰色粘土を主体とする。遺物 中央部の 1～2 層中から礫と共に出土。須恵器甕 (1・2)、土師器環 (3～5)・甕 (6)、石器は編物石 (7・8)、鉄製品は刀子 (9) が出土している。4 の土師器環は平底化が進むが、完全ではない。6 は底部外面には焼成前のヘラ描きがみられる。一見刻書とも思えるが判読できない。このうち床面付近の遺物は 3・6 である。不掲載の土器類は小コンテナ約 1/2 箱、礫の重量は 1.6kg である。環類の特徴から古墳時代終末期 (7 世紀後半) の建物跡と考えられる。

第61表 3区 SI-90 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 甕	厚 1.0	内面割漆着なため状態不明。外面平行甲き。	内外面とも 2.5Y5/1 黄灰	やや微赤。白・黒緑砂。白・黒砂。白雲母 焼成: やや硬質	№13 86.0	割部破片
2	須恵器 環	厚 1.0	外面縦格子甲きのちナデ。内面同心円あて具組。外面オリーブ色の自然焼付着。	内: 2.5Y6/1 黄灰 外: 2.5Y7/1 灰白	やや微赤。灰・白・黒緑 砂。灰・白砂。白磁 焼成: やや硬質	覆土中	割部破片
3	土師器 環	口 (16.0) 高 3.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデのちナデ。体部→底部外面ヘラケズリ。	内: 7.5Y7/6 橙 外: 7.5YR8/3 浅黄緑	やや微赤。白・灰磁粉 粗砂。赤粘 焼成: やや硬質	№1 3.2	口縁部→底 部 1/2
4	土師器 環	口 15.4 高 5.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。口縁部→体部外面上平部仕上げ。底部外面多方向ヘラケズリ。極めて平直に張りが得たに丸みを帯びる。	内: 10YR7/4 に近い黄緑 外: 7.5YR8/6 浅黄緑	やや微赤。灰磁粉→粗砂。 赤粘 焼成: やや硬質	№11 12.2	口縁部一部 欠損
5	土師器 環	口 (15.8) 高 [2.8]	外面割漆のため状態不明。内面ヘラミナデ。赤色盤状環。	内: 5YR6/8 橙 外: 7.5YR6/8 橙	やや微赤。黒・白磁粉。黒・透明砂。赤粘 焼成: やや硬質	№3 33.9	口縁部 1/6
6	土師器 甕	底 7.0 高 [6.7]	割部外面タテヘラケズリ。底部外面→方向ヘラケズリ。底部外面ヘラ記号または別書か (文字不明)。	内外面とも 5YR4/8 赤黒	やや微赤。灰・白・黒砂。 白磁砂。白粘 焼成: やや硬質	№5 1.3	底部 3/4、 割部一部
7	石器 編物石 厚	長 14.3 幅 6.0 厚 3.0 重 458.7	未加工の自然産。平面形: 楕円形 断面形: 歪んだ楕円形	7.5Y6/1 灰	—	№7 22.3	完存
8	石器 編物石 厚	長 14.2 幅 5.5 厚 3.2 重 408.3	未加工の自然産。平面形: 楕円形 断面形: 楕円形	10YR7/4 に近い黄緑	—	№20 6.3	完存
9	鉄製品 刀子	長 [9.0] 幅 1.5 重 8.1	両側の刀子。刃部側の刃は鈍角で鋭やか。刃部は平直刃で鋭角減りしたものが。縁は内縁で。幅は 2.5cm。裏の断面形は長方形。	—	鉄製	№23 24.6	刃部先端部 欠損



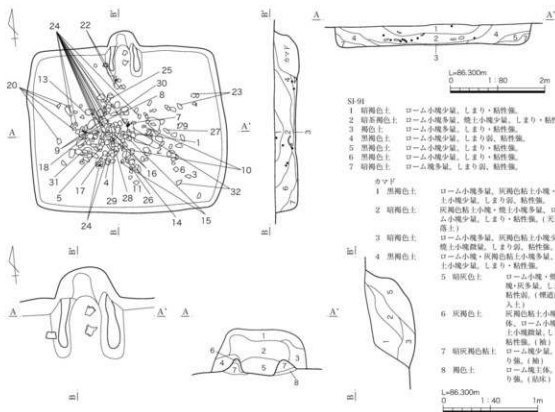
第161図 西刑部西原遺跡3区 SI-90実測図



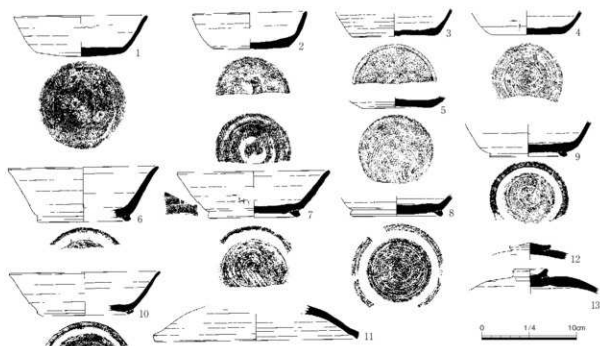
第162図 西刑部西原遺跡3区 SI-90出土遺物

3区 SI-91 (遺構: 第163図、遺物: 第164～166図、図版二二・九三・九四)

位置 グリッド 87.0-50.0・87.5-50.0 重複遺構 無し。平面形 やや東辺が弧状に張り出す隅丸長方形 規模 東西4.11×南北3.87m 主軸方向 N-4°-E 覆土 自然堆積 壁 壁高は43～47cm残る。床 ローム地山を床面とする。若干の凹凸残るが概ね平坦である。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。カマド 北壁中央部を隅丸の台形状に掘り込む。煙道は垂直に立ち上がったのち緩やかに立つ。燃焼部から煙道にかけ多量の焼土が堆積している。構築材は灰褐色粘土を使用。遺物 平面的には中央部に集中し、層位は2層中からの出土量が多い。計32点を図示した。図示した遺物は須恵器は環(1～5)・高台付環(6～10)・蓋(11～13)・甕(14)・瓶類(15・19)・大型鉢(16)・甕(17・18・32)、土師器類は環(20・21)・甕(22～24)、石器は編物石(25～30)、被熱礫(31)などがある。このうち体部外面にヘラ記号をもつ須恵器環類は4・7がある。7の体部下端の梯子状のヘラ記号はSI-2出土の石製紡錘車側面の線刻に類似するものか。8の底部外面には「X」字状のヘラ描きが見られる。14は平底の甕。口縁部を欠損するがその他はほぼ完存。また、肩部及び口縁部に褐色の付着物が見られる。16は体部外面の下端部に赤色付着物あり。18は頸部接合部の剝離面に研磨痕がある。砥石に転用されたものか。不掲載の土器類は小コンテナ約1箱、礫の重量は6kg。環類の特徴から奈良時代前葉期(8世紀前葉)の建物跡と考えられる。



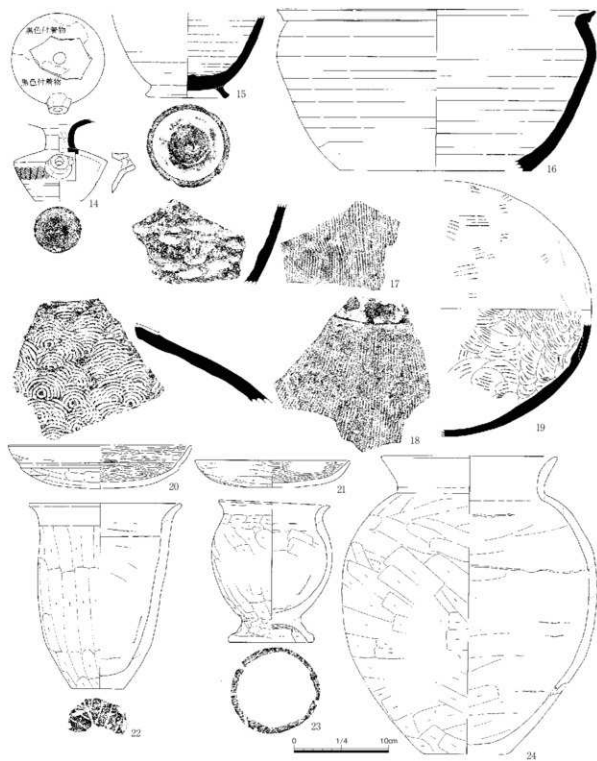
第163図 西刑部西原遺跡3区 SI-91 実測図



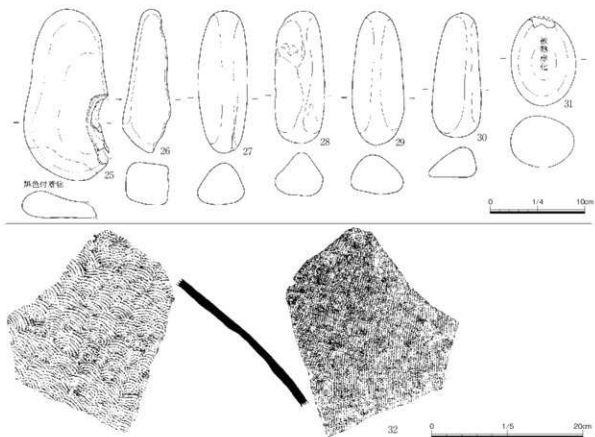
第164図 西刑部西原遺跡3区 SI-91 出土遺物 (1)

第62表 3区 SI-91 出土遺物観察表

図表番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置・床土 (cm)	現存
1	須恵器 高台付 杯	口 (13.8) 底 9.0 高 4.3	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのみナデ。白線部～体部外面の一部ターム状の付着物あり。底面内面は厚削し、スベスベしている。右明孔としたものもナ。	内：2.5Y/1 黄灰 外：2.5Y6/1 黄灰	半中焼部。灰・白・黒細砂。黒・白砂 焼成：半中焼部	№122 21.4	白線部 1/4、底部 欠存
2	須恵器 高台付 杯	口 (11.8) 底 8.0 高 3.8	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのみナデ。	内：5Y7/1 灰白 外：5Y6/1 灰	半中焼部。白・透明・黒細砂～黒 焼成：硬質	№106 9.3	白線部 1/3、底部 1/2
3	須恵器 高台付 杯	底 9.0 口 (11.8) 高 3.8	内外面ロクロナデ。体部下端部回転ヘラケズリ。底部外面回転ヘラ切りのみ回転ヘラケズリ。端部(外側)に粒あり。赤み著しい。底部外面～体部にかけて降灰。	内：5Y6/1 灰 外：5Y5/1 灰	半中焼部。白・黒・灰細砂。白・灰・黒砂 焼成：半中焼部	№9 30.9	体部下半部 1/3
4	須恵器 高台付 杯	底 12.6 高 7.6	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリ。体部外面ヘラ記号あり。	内外面とも 7.5Y5/1 灰	半中焼部。白・灰・黒砂。白・灰・黒砂。白線 焼成：半中焼部	№62 16.4	底部 3/4
5	須恵器 高台付 杯	底 7.8 口 (11.3) 高 1.3	内外面ロクロナデ。底部外面回転系切りのち外面ヘラケズリか(測線誤差のため不明瞭)。	内：2.5Y7/4 浅黄 外：2.5Y7/3 浅黄	半中焼部。灰・白・黒砂。灰・白砂。灰線 焼成：半中焼部	№21 40.6	底部 4/5
6	須恵器 高台付 杯	口 (15.5) 底 9.4 高 5.8	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのみ高台貼付。底面は青色の火傷あり。	内：5Y6/2 灰オリーブ 外：10Y8/4 に近い黄緑	半中焼部。灰・白・黒砂。白細砂。白線 焼成：半中焼部	№7 20.7	体部 1/6、底部 1/4
7	須恵器 高台付 杯	口 (15.1) 底 9.0 高 4.9	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのみ高台貼付。底部内面スノコ状の圧痕あり。体部外面種子状ヘラ記号あり。	内外面とも 5Y6/2 灰オリーブ	半中焼部。白・灰・黒砂。白・赤・灰・黒砂。白線 焼成：半中焼部	№125 23.7	底部 1/4
8	須恵器 高台付 杯	底 9.6 口 (12.6) 高 2.6	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのみ高台貼付。のち「X」字状のヘラ記号あり。	内外面とも 5Y7/1 灰白	半中焼部。灰・黒・白砂。灰・白線 焼成：半中焼部	№115- 179、5.東、 北西 19.3 (№179)	底部 3/4
9	須恵器 高台付 杯	底 8.0 口 (12.6) 高 3.7	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのみ高台貼付。	内外面とも 5Y6/2 灰オリーブ	半中焼部。白・灰・黒細砂。灰・白砂。白線 焼成：半中焼部	№113- 148 27.6 (№133)	底部欠存
10	須恵器 高台付 杯	口 (14.2) 底 9.2 高 4.5	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのみ高台貼付。高台は外面が段地。胎土は中々細かく焼成良好。	内：10Y8/5/2 灰黄緑 外：2.5Y5/2 黄灰黄	細部。灰・白・白細砂。白細砂。白線 焼成：半中焼部	№137- 148 20.6 (№148)	白線部 1/6、底部 1/3
11	須恵器 高台付 杯	口 (22.6) 底 13.1 高 3.1	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリ。	内外面とも 5Y6/2 灰オリーブ	半中焼部。灰・黒・白細砂。灰・白・黒砂。灰線 焼成：半中焼部	№140 33.3	白線部～体部 1/12
12	須恵器 高台付 杯	高 1.8 口 4.5	ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリのみツマミ貼付。	内外面とも 5Y7/2 灰白	半中焼部。白・黒細砂。白・灰砂。白線 焼成：半中焼部	北西	ツマミ部は 欠存
13	須恵器 高台付 杯	高 2.6 口 3.8	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリのみツマミ貼付。ツマミはリング状。	内：2.5Y7/3 浅黄 外：2.5Y5/1 黄灰	半中焼部。黒・白・透明細砂。黒・灰・白砂 焼成：半中焼部	№106 27.4	ツマミ・天 井部欠存。 白線部欠存



第165図 西刑部西原遺跡3区 SI-91 出土遺物 (2)



第 166 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-91 出土遺物 (3)

14	須恵器 甕	径 9.7 底 5.0 高 8(8.6)	全面ロクロナデ。体部外面上下は横位比輪による区画内に波状文を施す。体部下下部及び底部外面回転ヘラケズリのちナデ。体部は底が厚く平底。高台は付かない。注ぎ口は胴部の横線の上に穿孔。粘土を駆付し作出する。胴部及び口縁部に黒色付着物(漆か)あり。	内外面とも 2.5Y6/1 黄灰	白・灰緑砂、灰砂、白磁 焼成：中卒破質	No 143 0.1	口縁部欠損
15	須恵器 飯甕	底 8.6 高 9(9.1)	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台附付。胴部外面下端部回転ヘラケズリ。底部を含む外面ほぼ全面に黒色の自然焼付着。一部黒色の焼灰あり。	内：5Y5/1 灰 外：5Y4/1 灰	中卒破質、白・灰・黒磁 砂一層 焼成：硬質	No 145・ 150 3.9 (No 150)	胴部下下部 1/4
16	須恵器 鉢	口 (33.4) 底 (20.2) 高 (17.1)	内外面ロクロナデ。胴部外面下端部回転ヘラケズリ。底部外面回転ヘラケズリ。胴部外面下部に赤色の付着物(漆か)あり。湯子変か。	内外面とも 7.5Y6/1 灰	中卒破質、白・灰緑砂、灰 白砂、白・灰緑、赤粒砂 焼成：中卒破質	No 65 15.2	胴部一 体部一 部
17	須恵器 甕	厚 1.2	内面無文あり具根。外面縦格子甲子。	内：5Y7/2 灰白 外：7.5Y4/1 灰	中卒破質、白・黒砂、白 磁砂、黒・白磁 焼成：中卒破質	No 63 17.0	胴部破片
18	須恵器 甕	厚 1.4	内面同心円状のあて具根。外面平行甲子。外面に若干の隙灰あり。裾腰部の斜線面に研磨痕あり。砥石として再利用したものか。	内：N4/0 灰 外：7.5Y5/1 灰	中卒破質、白・黒磁砂、黒 灰・白砂、赤粒 焼成：中卒破質	No 68 12.4	胴部破片
19	須恵器 横瓶	径 (27.4)	胴部内面同心円あて具根。胴部外面平行甲子のちナデ。開口部を若干絞ったのち埋塞している。	内：N7/0 灰 外：2.5GY8/1 灰白	中卒破質、白・黒磁砂一層 焼成：硬質	No 147 13.7	胴部破片
20	土師器 杯	口 18.8 高 4.6	口縁部内外面ヨコナデ。内面ほぼ全面ヘラミガキ。口縁部外面側面がヘラミガキ。体部一底部外面ヘラケズリ。	内：5YR6/6 橙 外：5YR6/8 橙	中卒破質、黒・灰・白磁 砂、白・黒砂、赤粒 焼成：中卒破質	No 15-16- 01+04 14.1 (No 01)	口縁部一 体部 2/3
21	土師器 土鈴	口 (16.2) 高 2.8	口縁部内外面ヨコナデ。内面ヘラナデのちヘラミガキ。体部一底部、外面ヘラケズリ。赤色盤状灰。	内外面とも 2.5YR5/8 明 赤陶	中卒破質、白・黒磁砂、白 磁砂、赤磁 焼成：中卒破質	北東 No 11、北 東 5.3	口縁部一 部、体部一 底部 2/5
22	土師器 甕	口 15.9 底 5.4 高 19.7	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面 タテヘラケズリ。底部外面木炭痕。側面一部強く焼熟。	内：5YR6/8 橙 外：5YR6/6 橙	軽い、白・透明・黒・灰 緑、赤粒 焼成：中卒破質	No 11、北 東 2/3、底部 1/2	口縁部 1/2、底部 存在
23	土師器 付台甕	口 (11.5) 底 9.0 高 15.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデのちヨコヘラケズリ。胴部外面ナメヘラケズリ。胴部結合部ヘラナデ。胴部外面一底部側面埋込及びナデ。胴部内面ヘラケズリのちヘラナデ。後地部に木炭痕あり。側面一部赤化。	内外面とも 5YR6/6 橙	中卒破質、黒・灰・白砂、 灰・黒・白磁砂 焼成：中卒破質	No 1-132- 197	

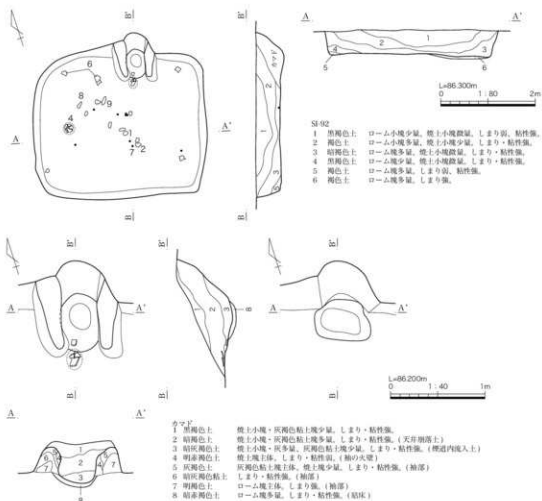
24	土師器 甕	口 (18.6) 胴 27.2 底 8.9 高 31.6	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ、内面の接合部ヨコヘラケズリ。胴部上平ヘラナデのち下部ヨコ又はナメヘラケズリ。底部外面一方ヘラケズリ。内面の接合部不明。焼熱していない。	内外面とも 10YR7/4 に ぶい黄緑	やや粗い、灰・透明・白・ 黒細砂～黒 焼成；軟質	№34・5 25・27・30・ 77・105・ 109・112・ 114・116・ 117・120・ 128・170・ 179 6.5 (№170)	口縁部 2/3、底部 完存
25	石器 編物石	長 17.7 幅 7.9 厚 2.0 重 6080	右側面は裏面から打ち欠けている。	5Y6/2 灰オリーブ	—	№78 床面	ほぼ完存
26	石器 編物石	長 15.8 幅 4.5 厚 4.3 重 457.0	未加工の自然産。 平面形；不整なバチ形 断面形；正方形	2.5Y6/3 にぶい黄	—	№195 1.7	ほぼ完存
27	石器 編物石	長 15.0 幅 5.0 厚 4.4 重 497.0	未加工の自然産。 平面形；楕円形 断面形；楕丸三角形	5Y5/1 灰	—	№134 11.0	完存
28	石器 編物石	長 13.9 幅 5.0 厚 4.4 重 406.0	未加工の自然産。 平面形；楕円形 断面形；楕丸三角形	5Y6/1 灰	—	№82 17.0	完存
29	石器 編物石	長 13.9 幅 5.4 厚 4.1 重 423.0	未加工の自然産。 平面形；楕円形 断面形；楕丸三角形	9.5Y7/1 灰白	—	№118 23.0	ほぼ完存
30	石器 編物石	長 13.0 幅 5.0 厚 3.2 重 283.0	未加工の自然産。 平面形；楕円形 断面形；楕丸三角形	5Y7/1 灰白	—	№118 23.0	完存
31	石器 被熱燻	長 9.2 幅 6.7 厚 5.5 重 401.0	未加工の自然産。全面焼熱して赤化。	5YR6/4 にぶい黄	—	№24 22.6	完存
32	須恵器 甕	厚 1.1	内面同心円状であり、外面平行引き。	内：2.5Y5/1 黄灰 外：N5/0 灰	やや粗密、黒・灰・白砂、 白細砂、灰燻、赤粒 焼成；やや硬質	№151 11.4	肩部破片

3区 SI-92 (遺構：第167図、遺物：第168図、図版二三・九四)

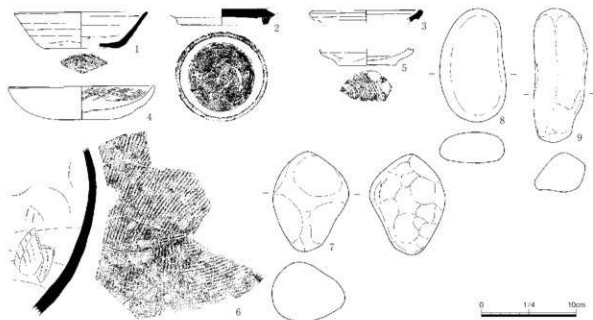
位置 グリッド 86.5-50.0 重複遺構 無し。平面形 不整な長方形。南東隅以外丸みを帯びる。規模 東西3.62×南北3.49 m 主軸方向 N-20°-E 覆土 自然堆積と考えられる。壁 壁高は50～57 cmほど。床 未確認。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。カマド 北壁中央部やや東寄りに位置する。壁面を半円形に掘り込む。煙道は約50°の角度で立ち上がる。遺物 平面的には中央部に集中し、3層中からの出土量が多く、床面付近の遺物は殆どない。図示した遺物は須恵器は環(1)・高台付環(2)・瓶頸(3)・甕(6)、土師器は環(4・5)、編物石(8・9)などがある。2の高台付環は底部外面にヘラ記号がある。破片側縁部を打ち欠き整えており、パレットなどに転用されたものか。7は多孔質安山岩製。器面は磨滅し不明瞭だが、砥石の可能性もある。不掲載土器の総量は小コンテナ箱1/2、確重量は1.8 kg。遺物から奈良時代前葉の建物跡と考えたい。

第63表 3区 SI-92 出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	粘土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵器 環	口 (13.8) 底 (7.8) 高 3.8	内外面ロクロナデ。体部外面下部及び底部外面回転ヘラケズリ。	内外面とも 2.5Y6/1 黄灰	やや粗密、灰・白細砂、白灰・黒砂 焼成；やや硬質	№15 47.1	口縁部～底部 1/6
2	須恵器 高台付 環	底 9.6 高 1.8	体部外面下部回転ヘラケズリ。底部外面回転ヘラケズリのち外面回転のちヘラケズリ。底部内面中央部は磨滅のため平滑。底部の破片側縁部を外面から打ち欠き整形している。転用破片。	内外面とも N4/0 灰	やや粗密、白・灰粗砂～黒 焼成；硬質	№17 25.3	底部完存
3	須恵器 瓶頸	口 (11.2) 高 (1.5)	内外面ロクロナデ。接合口縁の薄手の瓶頸。	内：5Y7/1 灰白 外：5Y8/1 灰白	やや粗密、灰・白・黒細 砂、白砂 焼成；やや硬質	北東	口縁部1/7
4	土師器 環	口 15.1 高 3.5	外面磨滅のため磨滅不明瞭。ヨコヘラケズリか。口縁部～体部内面ヘラミガキ。	内外面とも 5YR5/8 明赤 褐	やや粗密、灰・白・黒細砂、 黒・白砂、赤粒、黒雲母 焼成；やや硬質	№3 13.0	ほぼ完存



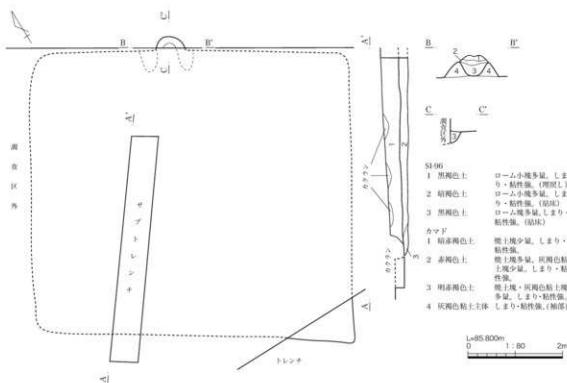
第167図 西刑部西原遺跡3区 SI-92 実測図



5	土師器 坏か	底 高	6.0 [1.9]	口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面指頭 押し及びナデ。底部外面回転糸切り。	内：2.5Y5/2 暗灰黄 外：2.5Y6/2 灰黄	やや微黄。黒・灰・白釉 砂。黒・白砂。赤釉 焼成：やや硬質	北西	底部 1/3
6	須恵器 甕	厚	[1.2]	胴部内面ナデのち無文あて具組。外面平行叩き。	内外面とも 5Y6/2 灰オ リーブ	やや粗い。白・黒煎砂～ 硬 焼成：硬質	№9・10、 北西 43.6	胴部破片
7	石器 砥石か	長 幅 厚	10.3 7.3 6.1	磨石面に使用したものか。ほぼ全面に複数の砥面を有 するが砥面は磨滅著しく、磨痕などは不明瞭。	2.5Y5/2 暗灰黄	多孔質安山岩	№18 24.1	ほぼ完存
8	石器 扁物石	長 幅 厚 重	11.9 6.8 3.2 403.0	未加工の自然産。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	5Y7/1 灰白	—	№5 21.0	完存
9	石器 扁物石	長 幅 厚 重	14.1 5.5 0.4 439.0	全体的に薄く赤みを帯びるが焼熟かは不明。 平面形：不整形 断面形：不整形隅丸方形	2.5Y7/3 黄黄	—	№8 37.7	完存

3区 SI-96 (遺構：第169図)

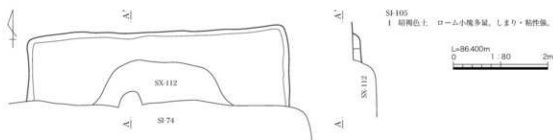
位置 グリッド 89.5-44.5・89.5-45.0・90.0-45.0・90.0-44.5 重複遺構 無し。平面形 やや東西に長い長方形か(カマド煙道部の位置と南東隅の状況から判断)。規模 東西6.3×南北6.7m(いずれも推定値)
 主軸方向 N-30°-E(推定値) 覆土 トレンチ断面から判断すると、黒褐色土主体の1層からなる自然堆積と考えられる。壁 壁高は22～37cm残る。床 貼床があるがその範囲は不明。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 トレンチ内では概ね平坦。カマド 北壁中央部近辺に位置すると想定した。覆土中に焼土を多く含み、構築材は灰褐色粘土を使用する。遺物 出土遺物は確認できなかった。時期 時期は不明であるが、遺構の規模など勘案して古墳時代の建物跡の可能性がある。



第169図 西刑部西原遺跡3区 SI-96 実測図

3区 SI-105 (遺構：第170図)

位置 グリッド 86.5-51.5 重複遺構 古墳時代終末期の建物跡 SI-74、時期不明の SX-112 と重複し、本住居跡が最も古い。平面形 隅丸方形 規模 東西 5.48×南北 1.68 m以上 主軸方向 N-2°-W(推定値)
 覆土 暗褐色土からなる1層で自然堆積か人為埋戻しかは判断できなかった。壁 壁高 16～18 cm 床 ローム地山を床面とする。硬化面は確認されなかった。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 概ね平坦。カマド 北壁には確認できなかった。東壁に存在していた可能性もある。遺物 確認できなかった。時期 明確な時期は判定できないが、古墳時代後期以前の建物と想定される。

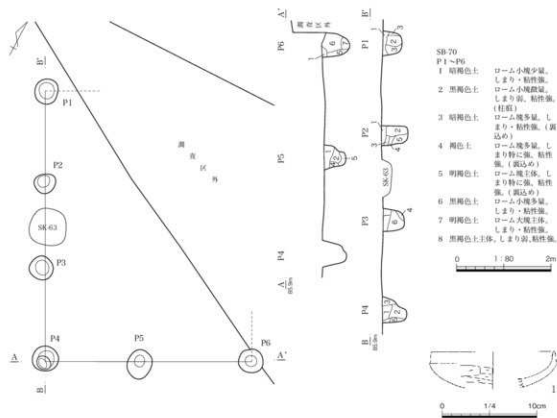


第170図 西刑部西原遺跡3区 SI-105 実測図

2. 掘立柱建物跡

3区 SB-70 (遺構・遺物：第171図、図版二三)

位置 グリッド 89.0-47.0・89.0-47.5 重複遺構 SK-63が遺構範囲にあるが、重複関係は不明。平面形・規模 北東部は調査区外となり、全形は不明だが、桁行3間×梁行2間の南北棟の側柱式建物と考えられる。桁行総長5.65m、梁行総長4.36m。柱間 桁行の柱間寸法は南から2m+1.8m+2m、梁行は東から2.4m+2m。主軸方向 N-28°-W 柱穴 P1 (径52~48cmの円形、深さ41cm)、P2 (径46~40cmの円形、深さ56cm)、P3 (径51cmの円形、深さ46cm)、P4 (径55~52cmの円形、深さ51cm)、P5 (径61~52cmの楕円形、深さ46cm)、P6 (径51~49cmの円形、深さ49cm)がある。P1・P2・P4の断面から柱痕が確認された。掘方は概ね不整な円形を呈するものが多い。遺物 柱穴番号は不明だが、覆土中から古墳時代後期の土師器環破片が出土しているのみで、明確な帰属時期は不明である。



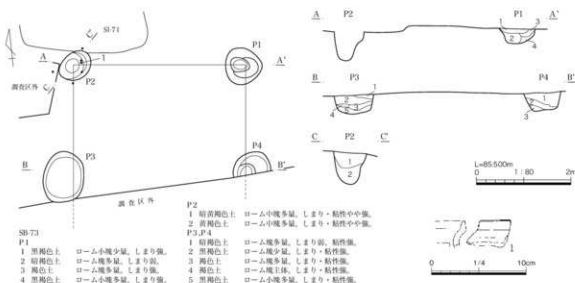
第171図 西刑部西原遺跡3区 SB-70 実測図・出土遺物

第64表 3区 SB-70 出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	粘土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	土師器 環	口 (12.8) 高 [3.8]	口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ナデ、体部外面ヘラケズリ。内面及び外面口縁部遺土上付。	内：5Y6/6 橙 外：5YR7/8 橙	中冷織物、白・灰・透明 粗紗〜微、赤粒 焼成；硬質	埋土中	口縁部1/3、 底部1/4

3区 SB-73 (遺構・遺物：第172図、図版二三)

位置 グリッド 89.5-45.5 重複遺構 時期不明の竪穴建物跡 SI-71 より古い。平面形・規模 桁行2間以上×梁行1間の南北棟の側柱式建物と考えられる。桁行総長2.30m以上、梁行総長3.60m。柱間 桁行の柱間寸法は約2.3m、梁行の柱間寸法は3.6mである。主軸方向 N-7°-W 柱穴 P1 (径約78cmの円形、深さ32cm)、P2 (径71～56cmの楕円形、深さ67cm)、P3 (径106～86cmの楕円形、深さ40cm)、P4 (長径80cm以上の楕円形、深さ39cm) ともに柱痕は確認できなかった。遺物 P2 覆土中から土師器常総型甕の口縁部破片が出土した。



第172図 西刑部西原遺跡3区 SB-73 実測図・出土遺物

第65表 3区 SB-73 出土遺物観察表

掲載番号	部材	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・深さ (cm)	残存
1	土師器 甕	高 (2.5)	口縁部内外面ヨコナデ。端部をつまみ上げる。常総型。	内外面とも7.5YR7/6 橙	中々粗い、白・灰・黒砂、白濁質。白雲母焼成。中々硬質	P2	口縁部破片

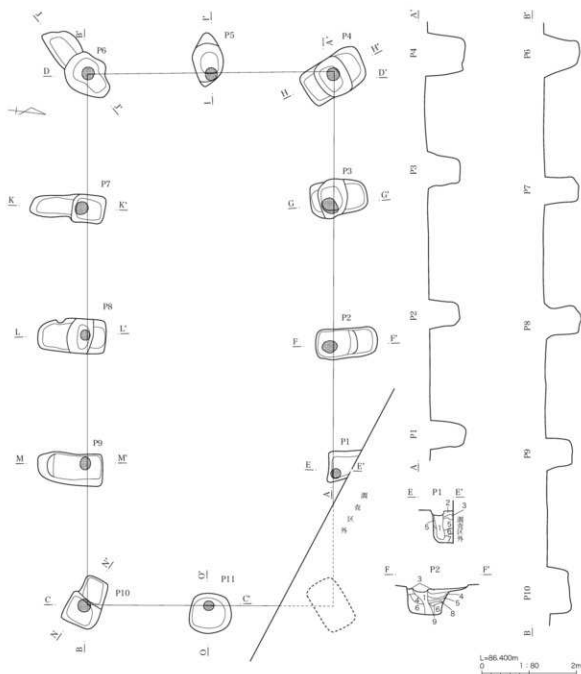
3区 SB-100 (遺構：第173・174図、図版二三・二四)

位置 グリッド 86.0-53.0・86.5-53.0・86.5-53.5 重複遺構 重複遺構は無いが西にSB-101が近接する。

平面形・規模 桁行5間×梁行2間の南北棟の側柱式建物。桁行総長11.20m、梁行総長5.20mである。

柱間 桁行の柱間寸法は平均約2.8m、梁行の柱間寸法は2.6mである。主軸方向 N-83°-E 柱穴

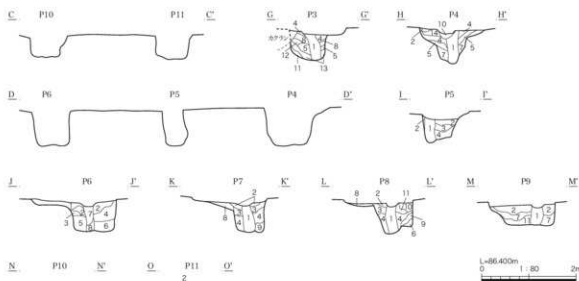
P1 (長軸残65×短軸62cmの隅丸方形、深さ73cm)、P2 (長軸130×短軸64cmの隅丸方形、深さ63cm)、P3 (長軸119×短軸80cmの隅丸方形、深さ70cm)、P4 (長軸138×短軸83cmの隅丸方形、深さ80cm)、P5 (径112～65cmの楕円形、深さ72cm)、P6 (長軸184×短軸84cmの不整な楕円形、深さ70cm)、P7 (長軸160×短軸59cmの隅丸方形、深さ72cm)、P8 (長軸142×短軸72cmの隅丸長方形、深さ74cm)、P9 (長軸136×短軸65cmの隅丸長方形、深さ52cm)、P10 (長軸120×短軸71cmの隅丸方形、深さ45cm)、P11 (径89～83cmの円形、深さ53cm) の計11本からなる。北東隅柱のみが調査区外となるため、断定できないが、



第173図 西刑部西原遺跡3区 SB-100実測図(1)

確認された全ての掘方からは柱痕が確認された。断面観察などから柱の直径は20cm弱のものが多い。遺物は極めて少なく、P2覆土中(掘方か柱痕かは確認できなかった)から須恵器裏胴部破片が1点のみ出土したが、時期の判別は難しい。ただし、西に近接するSB-101とは規模・形態とも類似することから、时期的に近い可能性が大きい。

第3章 発見された遺構と遺物



SB-100

P1→P4

- 1 黒褐色土 ローム小塊 (φ5~10mm) 多量, しまり面, 粘性強, (柱痕)
- 2 黒褐色土 ローム塊 (φ10mm) 少量, しまり・粘性強
- 3 暗褐色土 ローム塊 (φ10~30mm) 多量, しまり・粘性強
- 4 褐色土 ローム塊 (φ30mm) 多量, しまり・粘性強
- 5 黒褐色土 ローム塊 (φ10~20mm) 少量, しまり・粘性強
- 6 黄褐色土 ローム大塊 (φ30~50mm) 主体, しまり・粘性強
- 7 暗褐色土 ローム塊 (φ30~50mm) 多量, しまり・粘性強
- 8 褐色土 ローム塊 (φ10~20mm) 多量, しまり・粘性強
- 9 黒褐色土 黒褐色土 主体, しまり・粘性強
- 10 暗褐色土 ローム小塊 (φ2~5mm) 多量, しまり・粘性強
- 11 黒褐色土 黒褐色土 主体, しまり・粘性強
- 12 黄褐色土 ローム塊 (φ30~50mm) 主体, しまり・粘性強
- 13 明黄褐色土 ローム大塊 (φ50~100mm) 主体, しまり・粘性強
- 14 黄褐色土 ローム大塊 (φ50~100mm) 主体, しまり・粘性強

P5

- 1 黒褐色土 ローム塊 (φ10~30mm) 多量, しまり面, 粘性強, (柱痕)
- 2 暗褐色土 ローム塊 (φ5~10mm) 多量, しまり・粘性強, (面込め)
- 3 褐色土 ローム塊 (φ20~50mm) 多量, しまり・粘性強
- 4 黒褐色土 ローム小塊 (φ2~3mm) 少量, しまり・粘性強

P6

- 1 黒褐色土 ローム小塊 (φ2~3mm)・ローム塊 (φ10~30mm) 多量, しまり・粘性強, (面込め)

- 2 褐色土 ローム大塊 (φ50~100mm) 多量, しまり・粘性強
 - 3 黄褐色土 ローム大塊 (φ50~100mm) 主体, しまり・粘性強
 - 4 暗褐色土 ローム塊 (φ10~30mm) 多量, しまり・粘性強
 - 5 明黄褐色土 ローム大塊 (φ50~100mm) 主体, しまり・粘性強
 - 6 黄褐色土 ローム大塊 (φ100~150mm) 主体, しまり・粘性強
 - 7 黒褐色土 ローム塊 (φ10mm) 少量, しまり面, 粘性強, (柱痕)
 - 8 褐色土 ローム塊 (φ30~50mm) 多量, しまり面, 粘性強, (柱痕)
- P7→P10
- 1 黒褐色土 ローム小塊 (φ5mm) 多量, ローム大塊 (φ50mm) 少量, しまり面, 粘性強, (柱痕)
 - 2 褐色土 ローム大塊 (φ50mm) 多量, しまり・粘性強
 - 3 暗褐色土 ローム大塊 (φ50mm) 少量, しまり・粘性強
 - 4 黒褐色土 ローム小塊 (φ5~10mm) 少量, しまり・粘性強
 - 5 暗褐色土 ローム塊 (φ30~50mm) 多量, しまり・粘性強
 - 6 褐色土 ローム塊 (φ10~30mm) 多量, しまり・粘性強
 - 7 黄褐色土 ローム大塊 (φ100mm) 主体, しまり・粘性強
 - 8 暗褐色土 ローム塊 (φ30~50mm) 少量, しまり・粘性強
 - 9 黄褐色土 ローム大塊 (φ50~100mm) 主体, しまり・粘性強
 - 10 褐色土 ローム塊 (φ5~10mm) 多量, しまり・粘性強
 - 11 明黄褐色土 ローム塊 (φ30~50mm) 主体, しまり・粘性強
 - 12 褐色土 ローム小塊 (φ5~10mm) 多量, しまり面, 粘性強, (柱痕)
- P11
- 1 黒褐色土 ローム小塊 (φ2~10mm) 少量, しまり面, 粘性強, (柱痕)
 - 2 黒褐色土 ローム小塊 (φ2~10mm) 多量, しまり・粘性強
 - 3 暗褐色土 ローム塊 (φ10~20mm) 多量, しまり・粘性強
 - 4 黄褐色土 ローム大塊 (φ30~100mm) 主体, しまり・粘性強

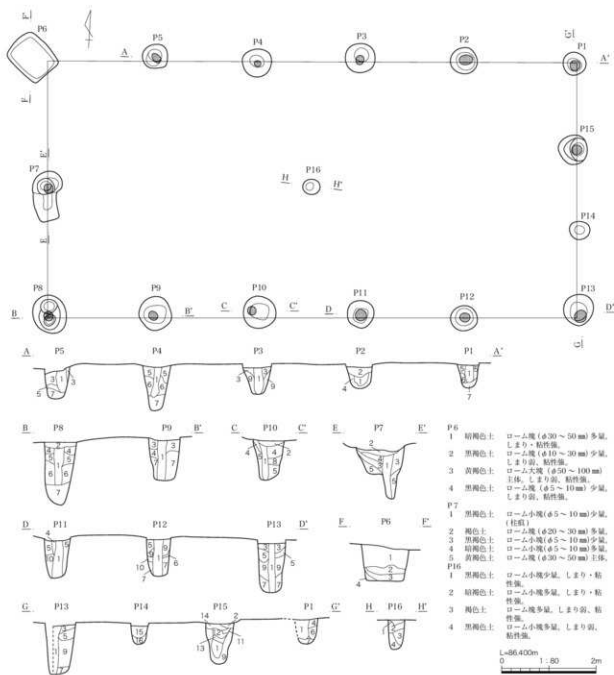
第174図 西刑部西原遺跡3区 SB-100実測図(2)

3区 SB-101 (遺構・遺物: 第175図、図版二四)

位置 グリッド 86.0-52.5・86.5-52.5・86.5-53.0 重複遺構 重複遺構は無いが、東にSB-100が近接する。

平面形・規模 桁行5間×梁行2間の東西棟側柱式建物。桁行総長11.2m、梁行総長5.40mである。

柱間 桁行の柱間寸法は東から2.4m+2.2m+2.2m+2.2m+2.4m、梁行の柱間寸法は西側は2.6m、東側は1.8mである。主軸方向 N-86°-E 柱穴 P1 (径44cmの円形、深さ52cm)、P2 (径56cmの円形、深さ50cm)、P3 (径62cmの円形、深さ64cm)、P4 (径62cmの円形、深さ96cm)、P5 (径72cmの円形、深さ64cm)、P6 (長軸96×短軸78cmの長方形、深さ74cm)、P7 (長軸104×短軸64cmの不整長方形、深さ112cm)、P8 (径84~70cmの楕円形、深さ132cm)、P9 (径70cmの円形、深さ92cm)、P10 (径68cmの円形、深さ84cm)、P11 (径56cmの円形、深さ84cm)、P12 (径56cmの円形、深さ83cm)、P13 (径64cmの円形、深さ110cm)、P14 (径44cmの円形、深さ46cm)、P15 (径62cmの円形、深さ90cm)の計15本の柱痕が確認される。ただし、東妻柱列のP7は棟持柱と考えられるが、西妻柱列は2本の柱(P14・P15)を使用しており、同一建物内でも若干の構造の違いが見られる。このうちP6・P14以外の柱穴からは



SB-101

P1～P5, P8～P15

- 1 黒褐色土 ローム塊(φ10mm)・ローム大塊(φ50mm)少量。しまり高、粘性強。(柱石)
- 2 暗褐色土 ローム小塊(φ5mm)多量。しまり・粘性強。
- 3 黒褐色土 ローム小塊(φ5mm)少量。しまり・粘性強。
- 4 暗褐色土 ローム塊(φ20～30mm)多量。しまり・粘性強。
- 5 黄褐色土 ローム大塊(φ20～50mm)多量。しまり・粘性強。
- 6 褐色土 ローム塊(φ10～20mm)多量。しまり・粘性強。
- 7 暗褐色土 ローム大塊(φ20～50mm)少量。しまり・粘性強。
- 8 黒褐色土 ローム塊(φ10～20mm)少量。しまり・粘性強。
- 9 暗褐色土 ローム塊(φ10～20mm)少量。しまり・粘性強。
- 10 暗褐色土 ローム大塊(φ30～50mm)1層。しまり・粘性強。
- 11 暗褐色土 ローム小塊(φ5～10mm)少量。しまり・粘性強。
- 12 褐色土 ローム小塊(φ5～10mm)多量。しまり弱、粘性強。(柱石)
- 13 黒褐色土 ローム小塊(φ3～10mm)少量。しまり弱、粘性強。(柱石)
- 14 褐色土 ローム塊(φ10mm)多量。しまり・粘性強。
- 15 暗褐色土 ローム小塊(φ2～5mm)多量。しまり・粘性強。
- 16 黒褐色土 ローム小塊(φ2～5mm)少量。しまり・粘性強。



第175図 西刑部西原遺跡3区 SB-101実測図・出土遺物

第66表 3区 SB-101 出土遺物観察表

採取番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 高台付 環	底 (9.0) 高 (3.5)	内外面ロケロナテ。	内：2.5GY7/1 明オリーブ灰 外：2.5GY8/1 灰白	緻密。白・黒粗砂 焼成：硬質	上面	底部 1/2
2	須恵器 環	厚 0.5	内外面ロケロナテ。	内：2.5GY6/1 オリーブ灰 外：N5/O 灰	やや緻密。白粗砂 焼成：硬質	上面	口縁部破片
3	土師器 甕	厚 1.0	内外面へうミガキ。	内：7.5YR6/6 橙 外：10YR7/4 に近い黄橙	やや緻密。灰・黒粗砂～ 橙。赤粒 焼成：硬質	P6	胴部破片

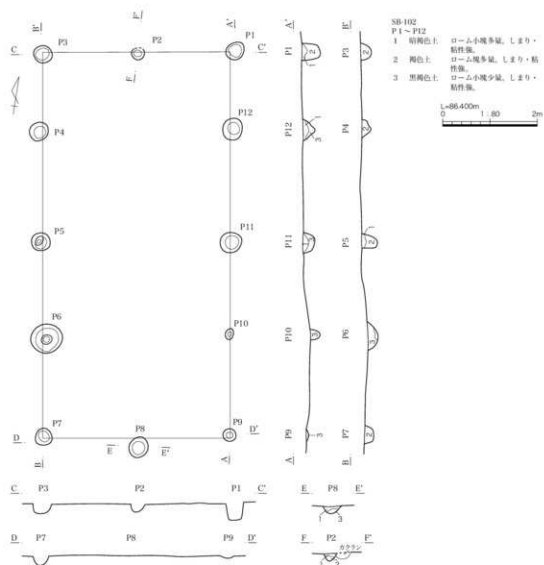
柱痕が確認されており、その直径は 14～20 cm である。また、P6 は他の柱穴と違い、長方形の大型の掘方をもつ。断面図から柱痕は確認できなかったが、東隅の壁際に柱を設置した可能性がある。遺物 須恵器高台付環 (1)、須恵器環 (2) は柱穴は特定できないが、覆土上層から出土したものである。土師器甕 (3) は P6 覆土中から出土した。出土位置が明確でないため特定できないが、須恵器類から判断すると、奈良時代の建物跡の可能性が高い。

3区 SB-102 (遺構：第 176 図、図版二四)

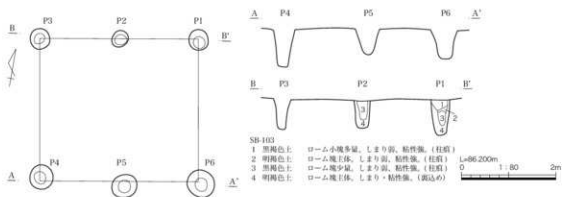
位置 グリッド 85.5-52.0・85.5-52.5・86.0-52.0・86.0-52.5 重複遺構 重複遺構は無いが北部に SB-101 が近接する。平面形・規模 桁行 4 間 × 梁行 2 間の南北棟の側柱式建物で、桁行総長 8.10 m、梁行総長 3.87 m である。柱間 桁行の柱間寸法間は南から 2.1 m + 2.0 m + 2.4 m + 1.6 m と一定していない。梁行の柱間寸法間は約 1.95 m である。主軸方向 N-8°-W 柱穴 P1 (径 38 cm の円形、深さ 39 cm)、P2 (径 28 cm の円形、深さ 16 cm)、P3 (径 39～36 cm の円形、深さ 22 cm)、P4 (径 40 cm の円形、深さ 18 cm)、P5 (径 40 cm の円形、深さ 33 cm)、P6 (径 67 cm の円形、深さ 20 cm)、P7 (径 37 cm の円形、深さ 20 cm)、P8 (径 43～40 cm の円形、深さ 15 cm)、P9 (径 28 cm の円形、深さ 5 cm)、P10 (径 22～17 cm の楕円形、深さ 19 cm)、P11 (径 45 cm の円形、深さ 25 cm)、P12 (径 46～41 cm の楕円形、深さ 25 cm) の計 12 本が確認された。確認面からの掘り込みは浅く、断面図及び平面図からも柱痕は確認できなかった。遺物 遺物は出土しなかったが、近接する掘立柱建物跡 SB-101 との位置関係から、同時期に存在していた可能性が高い。

3区 SB-103 (遺構：第 177 図、図版二四)

位置 グリッド 85.5-53.5・85.5-54.0・86.0-53.5 重複遺構 重複遺構は無いが、北約 8 m に SB-100 が位置する。平面形・規模 桁行 2 間 × 梁行 1 間の東西棟側柱式建物で、桁行総長 2.94 m、梁行総長 3.32 m 間尺 桁行の柱間寸法は約 1.7 m、梁行の柱間寸法は約 3 m である。主軸方向 N-10°-W 柱穴 P1 (径 43～36 cm の楕円形、深さ 75 cm)、P2 (径 35 cm の円形、深さ 57 cm)、P3 (径約 43 cm の円形、深さ 62 cm)、P4 (径約 51 cm の円形、深さ 61 cm)、P5 (径約 50 cm の円形、深さ 57 cm)、P6 (径約 57 cm の円形、深さ 81 cm) の計 6 本が確認された。このうち P1・P2 は断面から柱痕が確認されており、径は 16～20 cm の太さと考えられる。遺物 確認できなかったが、周辺の掘立柱建物跡と時期的に近いものと考えられる。



第176図 西刑部西原遺跡3区 SB-102 実測図



第177図 西刑部西原遺跡3区 SB-103 実測図

3区 SB-106 (遺構・遺物：第178図、図版二五)

位置 グリッド 89.0-50.0・89.0-51.0・88.5-51.0・88.5-50.5 重複遺構 P・8・14・16～18・26 が遺構範囲にあるが重複関係は不明。南に SB-114 が近接する。平面形・規模 桁行 4 間 × 梁行 2 間の南北棟の側柱式建物(身舎)の西側に桁行 4 間の庇を付したのか。桁行総長 7.83 m、梁行総長 6.08 m (このうち身舎は 4.7 m)。柱間 桁行の柱間寸法は平均 1.95 m (身舎・庇共通)。梁行の柱間寸法は 2.35 m、庇と身舎の柱間は約 1.4 m である。主軸方向 N-22°-W 柱穴 P1 (径 70～53 cm の楕円形、深さ 54 cm)、P2 (径約 45 cm の円形、深さ 40 cm)、P3 (径約 50 cm の円形、深さ 77 cm)、P4 (径 47～41 cm の楕円形、深さ 52 cm)、P5 (径約 42 cm の円形、深さ 61 cm)、P6 (径 49 cm の円形、深さ 46 cm)、P7 (径約 45 cm の円形、深さ 62 cm)、P8 (径 48～42 cm の楕円形、深さ 17 cm)、P9 (径約 43 cm の円形、深さ 73 cm)、P10 (径 40～33 cm の楕円形、深さ 18 cm)、P11 (径 37～29 cm の楕円形、深さ 27 cm)、P12 (径 29 cm の円形、深さ 29 cm)、P13 (径約 32 cm の円形、深さ 22 cm)、P14 (径 40～35 cm の円形、深さ 20 cm)、P15 (径 37～残 35 cm の円形、深さ 22 cm)、P16 (径 47～残 45 cm の円形、深さ 24 cm)、P17 (径 38～37 cm の円形、深さ 32 cm) の計 17 本があるが、身舎の北東隅柱および西妻柱列棟持柱について柱穴(掘方)を確認できなかった。相対的に見ると身舎の柱穴はやや規模が大きく、P1・P2・P5・P7～P9 の断面から柱痕が確認された。これに対して庇の柱穴は規模が小さく、明確な柱痕をもつものも確認できなかった。

また P15・16 は P1 に切られているため別遺構(ビット)の可能性もある。また P17 は土層が観察できず不明瞭だが本遺構に伴う可能性もある。

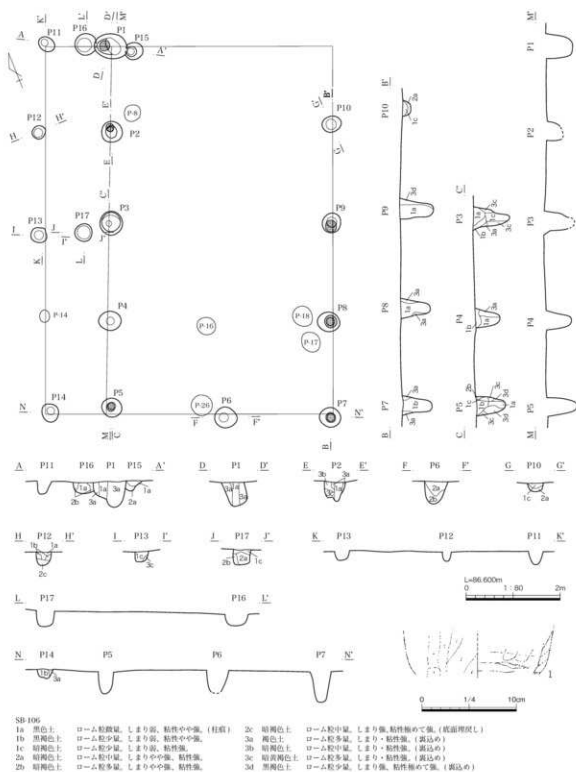
遺物 出土遺物は覆土中から土師器鉢胴部破片 1 点が確認されたのみである。古墳時代後期～終末期の遺物だが、本遺構に確実に伴うものかは不明である。

第 67 表 3区 SB-106 出土遺物観察表

編年 番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・ 床土(cm)	残存
1	土師器 鉢か	高 [4.8]	胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラケズリ。	内：7.5YR5/6 明褐色 外：7.5YR7/6 暗	緻密、白磁砂、赤粒 焼成：硬質	覆土中	体部破片

3区 SB-114 (遺構：第179図、図版二四)

位置 グリッド 88.5-51.0・88.5-50.5・88.0-50.5・88.0-51.0 重複遺構 P-34・35・39・46・47・50 が遺構範囲にあるが、掘方との重複関係にあるものはなく不明。北に SB-106 が近接する。平面形・規模 桁行 5 間 × 梁行 2 間の南北棟の柱式建物と考えた。桁行総長 13.5 m、梁行総長 3.07 m。柱間 桁行の柱間寸法は南から 2.9m + 2m + 2.9m + 2.7m + 3m で、断面 D 列と E 列の間のみ短い。梁行の柱間寸法は約 1.5 m である。主軸方向 N-17°-E 柱穴 P1 (径約 44 cm の円形、深さ 53 cm)、P2 (径 53～43 cm の楕円形、深さ 56 cm)、P3 (径 43～34 cm の楕円形、深さ 53 cm)、P4 (径 49 cm の円形、深さ 42 cm)、P5 (径 46～39 cm の楕円形、深さ 26 cm)、P6 (径 48 cm の円形、深さ 63 cm)、P7 (径 48 cm の円形、深さ 42 cm)、P8 (径 50～40 cm の楕円形、深さ 45 cm)、P9 (径 45～42 cm の不整形円形、深さ 47 cm)、P10 (径 38 cm の円形、深さ 45 cm)、P11 (径 53～41 cm の楕円形、深さ 34 cm)、P12 (径 54～47 cm の楕円形、深さ 43 cm)、P13 (径 43 cm の円形、深さ 45 cm)、P14 (径 40～35 cm の楕円形、深さ 30 cm)、P15 (径 41～35 cm の楕円形、深さ 41 cm)、P16 (径約 39 cm の円形、深さ 23 cm)、P17 (径 38～33 cm の楕円形、深さ 25 cm)、

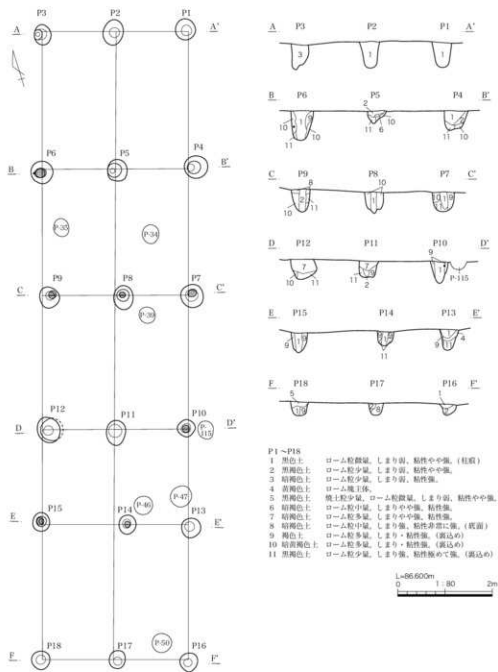


第 178 図 西刑部西原遺跡 3 区 SB-106 実測図・出土遺物

P18（径約38cmの円形、深さ28cm）がある。

このうち、P6～P10・P14・P15の計6本から柱痕が確認された。P16～18の柱穴は他と較べやや浅めである。断面から想定される柱の太さは13～20cmほどである。遺物 遺物は確認されなかったため本建物の明確な時期は不明である。北に位置するSB-106とは重複はしていないが、若干主軸方向が違う点、双方が近接し過ぎている点など、若干の時期差をもつ可能性もある。

備考 桁行の柱間寸法に極端な差異がある。これについてはP1からP12を「桁行3間×梁行2間の南北棟総柱式建物」とし、P13からP18を「桁行1間×梁行2間の側柱式建物」の2つに分割するという解釈も成り立つものと考えられる。

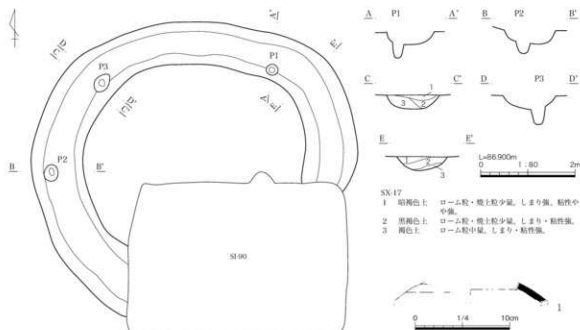


第179図 西刑部西原遺跡3区 SB-114実測図

3. 円形周溝遺構

3区 SX-17 (遺構・遺物：第180図、図版二五)

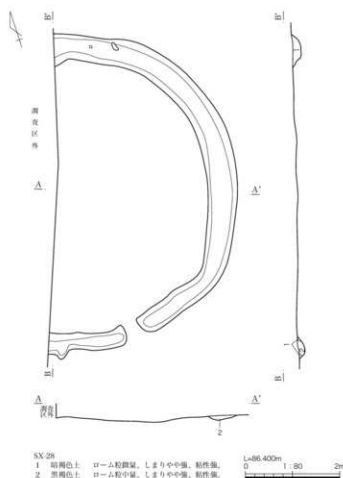
位置 グリッド 89.5-50.5・89.5-51.0 重複遺構 古墳時代終末期の竪穴建物跡SI-90より古い。規模・平面形 長径：外6.98m：内4.8m、短径：外推定6.3m：内推定4.2m、上幅86～116cmの不整な楕円形。覆土 自然堆積 壁・断面形 壁高は23～31cm、断面形はカマボコ状。底面 概ね平坦。ピット P1 (径22cm、深さ25cm)、P2 (径30～42cm、深さ18cm)。P3 (径30～37cm、深さ29cm)の計3本が確認されたが柱痕は確認できなかった。遺物 覆土中から1の須恵器長頸瓶肩部の破片が出土したが、混入品の可能性あり。竪穴建物跡の時期及び切り合いから判断すると古墳時代後期の可能性が高い。



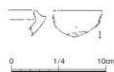
第180図 西刑部西原遺跡3区 SX-17実測図・出土遺物

第68表 3区 SX-17出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床(cm)	現存
1	須恵器長頸瓶	高 [2.2] 径 [16.2]	内外面ロクロナデ。肩面外面回転ヘラケズリか。	内外面とも7.5Y6/1灰	中・中緻密。灰・白・黒細砂。灰・白砂。白濁 焼成：中・中硬質	覆土中 肩部 1/6	



第181図 西刑部西原遺跡3区 SX-28 実測図・出土遺物



3区 SX-28 (遺構・遺物：第181図、図版二五)

位置 グリッド 86.0-50.0・86.5-50.0 重複遺構 無し。規模・平面形 長径：外6.8：内5.6m、短径：外3.8m以上の円形を呈すると思われるが、西半部が調査区外の為不明瞭。溝の上幅は0.38～0.64mと南部が狭い。覆土 自然堆積と考えられる。

壁・断面形 壁高は深さ6～20cm残るのみである。南部は極めて浅いが、周溝が途切れる部分は確認面の高さに起因するものと考えたい。底面 底面は概ね平坦で、ピットなどは確認できなかった。遺物 確認された遺物は極めて少なく、床面直上の遺物もない。覆土中から土師器環小破片1点が出土したのみである。土器は古墳時代終末期の特徴をもつ。

第69表 3区 SX-28 出土遺物観察表

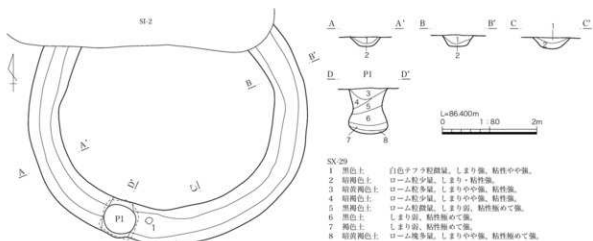
図載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	現存
1	土師器 坪	口 (16.1) 高 (1.9)	口縁部内外面ココナデ。体部内外面ヘラケズリ。内外面部に土好。	内：10YR7/2にふい黄褐色 外：10YR3/1栗褐色	中々緻密。白・黒黒砂。透明・灰・白砂。焼成：中々破損	覆土中	口縁部 1/10

SX-29 (遺構：第182図、遺物：第183図、図版二五)

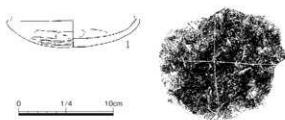
位置 グリッド 86.5-50.5・86.5-51.0 重複遺構 北部を奈良時代の竪穴建物跡 SI-2 に切られる。規模・平面形 長径：外約5.84m：内4.42mの円形を呈するものか。覆土 黒色土及び暗褐色土主体の2層からなる自然堆積と考えられる。壁・断面形 壁高は20～24cmほどで、断面形は逆台形を呈する。底面 概ね平坦。ピット 南部にあるP1(1辺70cm四方、底面からの深さ74cm)は柱痕などは確認できなかった。遺物 南部の床面付近から古墳時代後期末～終末期の土師器環が出土、本遺構に伴うものと考えられる。

第70表 3区 SX-29 出土遺物観察表

図載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	現存
1	土師器 坪	高 (3.0)	体部内面ヘラナデのちナデか。体部外面ヘラケズリのちヘラナデ及びヘラミガキ。底部外面焼成前の観察あり。	内外面とも 10YR5/4にふい黄褐色	中々緻密。白・灰黒砂。黒・白砂。雲母。焼成：中々破損	No.1 9.6	口縁部欠損。体部へ底部 4/5

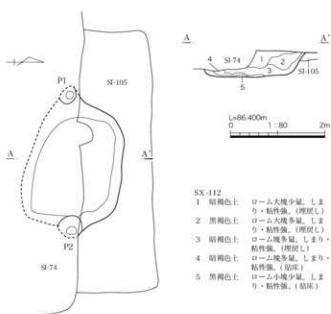


第182図 西刑部西原遺跡3区 SX-29 実測図



第183図 西刑部西原遺跡3区 SX-29 出土遺物

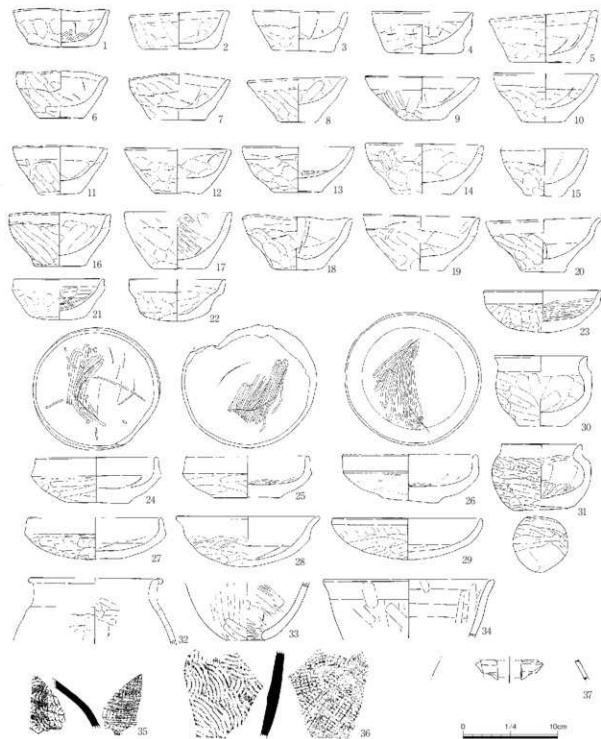
4. 性格不明遺構



第184図 西刑部西原遺跡3区 SX-112 実測図

3区 SX-112 (遺構：第184図)

位置 グリッド 86.5-51.5 重複遺構 古墳時代終末期の建物跡 SI-74 より古く、時期不明の建物跡 SI-105 より新しい。規模・平面形 長径 3.14×短径 2.07 m の不整な隅丸長方形。覆土 人為埋戻しか。壁・断面形 壁高は 58 cm 残る。底面 ローム面を床面とし、概ね平坦 ピット P1 (径 30～40 cm、深さ 34 cm)、P2 (径約 52 cm、深さ 12 cm) の 2 本を確認。遺物 確認できなかった。備考 形状は中世の方形竪穴遺構に似るが、SI-74 より古いため、古墳時代後期頃の建物跡と考えたい。



第186図 西刑部西原遺跡3区 SX-21 出土遺物

3区 SX-21 (遺構: 第185図、遺物: 第186図、図版二五・九四・九五)

位置 グリッド 88.5-48.0 重複遺構 無し。 規模・出土状況 3区表土除去中に検出された遺物集中地点で、南北約3.5m、東西約2.3mの広がりをもつが、明確な平面プランやピットなどは確認できなかった。

覆土 遺物は地表から約25cm下の暗灰褐色土中にあり、遺物包含層は20cm前後の厚さに及ぶ。遺物出土遺物は殆どが土師器の小型平底環(粗製環)で、大部分が口径10~12cmの間に収まる。形態を大まかに分類すると、比較的底径の広いもの(1~5)、底径の小さいもの(6~20)、丸底気味のもの(21~22)などがある。この他24~26はやや大型の粗製環だが、いずれも内面にはヘラミガキによる乾燥段階でのヒゲ割れ補修跡が見られる。この他27~29のような、集落で通常使用される模倣環も含まれる。また、厚手の小型鉢(30・31)や、土師器甕(32)、甕(33・34)、須恵器甕破片(35・36)などが少量出土している。37は円面硯の脚部小破片である。混入品と考えられるが稀少な資料であるため掲載した。また本遺物は3区遺構外出土遺物(6)と同一個体と考えられる。出土状況 これら主体となる土師器粗製環類は、出土状況図にもあるように数枚を上向きに重ねて一か所に遺棄した状況も認められる。すべての遺物がこのように置かれたとは断定できないが、これら遺物が後世において攪乱され散在した可能性が高いと思われる。祭祀的な意味合いの強い遺構と考えたい。不掲載遺物は小コンテナ1箱強あり、その殆どが粗製環で占められている。遺物から本遺構は古墳時代後期末葉に帰属するものと考えられる。

第71表 3区 SX-21 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	土師器粗製環	口 9.8 底 7.0 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。体内内面ナデのヘラミガキ。体部外面ナデ。底部外面ナデ。内面塗仕上げ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	中々磁器。白磁砂、黒・白砂 焼成: 中々硬質	覆土中	口縁部1/2、底部完存
2	土師器粗製環	口 10.2 底 4.2	口縁部内外面ヨコナデ。体内内面ヘラナデのちナデ。体部外面ナデ。底部外面ナデ。内面一部黒色処理。	内: 7.5YR7/8 黄橙 外: 7.5YR7/6 橙	中々磁器。黒・白磁砂、灰色・黒砂、赤粒 焼成: 中々硬質	№3・18 床面 0m3	口縁部2/3、体部一部底面一部欠損
3	土師器粗製環	口 (10.0) 底 4.3	口縁部内外面ヨコナデ。体内内面ヘラナデ。体部外面指頭押圧及びナデ。底部外面ナデ。口縁部内外面1/4ほどに黒色処理。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	中々粗粒。灰色・黒・白・赤黒磁砂・粗砂 焼成: 軟質	№77 17.7	口縁部1/2、底部完存
4	土師器粗製環	口 10.5 底 8.0 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体内内面ヘラナデ。体部外面指頭押圧のちナデ。底部外面ナデ。	内: 7.5YR7/6 橙 外: 10YR7/4 に近い黄橙	中々磁器。白・灰・黒磁砂、白砂、赤粒 焼成: 中々硬質	覆土中	ほぼ完存
5	土師器粗製環	口 11.0 底 7.0 高 5.6	口縁部内外面ヨコナデ。体内内面ヘラナデのちナデ。体部外面ナデ及び指頭押圧。底部外面ナデ。赤みは大きい。土質軟らか。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	中々磁器。黒磁砂、赤粒 焼成: 中々硬質	№16 -7.3	ほぼ完存
6	土師器粗製環	口 9.2 底 4.6 高 4.8	口縁部内外面ヨコナデ。体内内面ヘラナデ。体部外面指頭押圧及びナデ。底部外面ナデ。	内: 10YR7/4 に近い黄橙 外: 7.5YR7/6 橙	中々磁器。白・黒磁砂、黒砂、赤粒 焼成: 中々硬質	覆土中	ほぼ完存
7	土師器粗製環	口 10.5 底 5.8 高 4.3	口縁部内外面ヨコナデ。体内内面ナデ。体部外面指頭押圧のちナデ。底部外面ナデ。内面黒色処理。	内: 5YR7/4 に近い橙 外: 5YR7/6 橙	中々磁器。白・黒磁砂、黒砂、赤粒 焼成: 中々硬質	覆土中	口縁部3/4、底部完存
8	土師器粗製環	口 10.4 底 4.2 高 4.8	口縁部内外面ヨコナデ。体内内面ヘラナデのちナデ。体部外面指頭押圧のちナデ。底部外面ナデ。(一部散物同)。赤みが非常に大きく、つくりは粗。	内: 7.5YR7/4 に近い橙 外: 7.5YR8/6 淡黄橙	中々磁器。黒・白・赤磁砂・粗砂 焼成: 中々硬質	№1 19.4	口縁部3/8、底部完存
9	土師器粗製環	口 (12.0) 底 4.6 高 7.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの最底位の深めの内面ナデ(亀裂などの補修痕)。内面ヘラナデ。底底 4.6 体部外面ナデ及び散物状の圧痕あり。	内: 5YR6/6 橙 外: 5YR5/4 に近い赤砂	中々磁器。黒・白・赤磁砂 焼成: 中々硬質	№58 3.0	口縁部破片、底部完存
10	土師器粗製環	口 10.7 底 4.8 高 5.1	口縁部内外面ヨコナデ。体内内面ヘラナデのちナデ。体部外面指頭押圧及びナデ。底部外面ナデ。赤みは大きい。	内外面とも 5YR6/6 橙	中々磁器。白・灰色・黒磁砂、白砂・赤粒 焼成: 中々硬質	№26 2.7	口縁部5/8、底部完存
11	土師器粗製環	口 9.8 底 4.3 高 5.3	口縁部内外面ヨコナデ。体内内面ヘラナデ。体部外面指頭押圧のちナデ。底部外面ナデ。赤みは大きい。土器。胎土は赤黒色。	内外面とも 7.5YR 橙	磁器。黒磁砂・粗砂、赤色磁砂・粗砂 焼成: 中々硬質	№17、西 34.2	ほぼ完存
12	土師器粗製環	口 (10.8) 底 5.0 高 4.7	口縁部内外面ヨコナデ。体内内面ナデ。外面体部指頭押圧及びナデ。底部外面ナデ。	内外面とも 7.5YR7/4 に近い橙	中々磁器。白・黒磁砂、黒砂、赤粒 焼成: 中々硬質	覆土中	口縁部1/2、底部完存
13	土師器粗製環	口 (11.8) 底 4.8 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体内内面ナデのち一部ミガキ。体部外面指頭押圧及びナデ。底部外面ナデ。内面黒色処理。	内: 7.5YR2/1 黒 外: 7.5YR6/6 黄橙	中々粗粒。白・黒磁砂・粗砂、赤粒 焼成: 中々硬質	№3・8・ 10・13 床面	口縁部3/8、底部完存
14	土師器粗製環	口 12.0 底 6.0 高 5.6	口縁部内外面ヨコナデ。体内内面ヘラナデ。体部外面指頭押圧のちナデ。底部外面ナデ。口縁部外面一部ヒゲ割れを補修したナデが明確に残る。	内: 7.5YR7/6 橙 外: 7.5YR8/6 淡黄橙	中々磁器。白・黒磁砂、赤粒 焼成: 中々硬質	覆土中	口縁部1/2、底部完存

第3章 発見された遺構と遺物

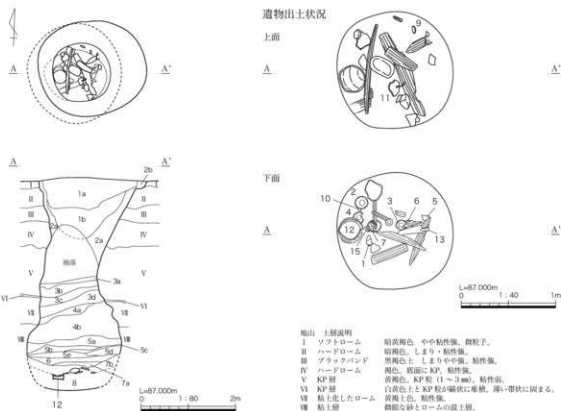
15	土師器 甕製片	口 9.2 底 4.0 高 5.2	口縁部外面ヨコナデ。口縁部～体部内面ヘラナデ。体部外面指通押圧及びびナデ。底部外面ナデ。内面黒色処理。口縁部外面指通痕跡あり。内面は外面より丁寧な仕上げ。	内：7.6YR6/6 體 外：7.6YR7/6 體	中・中褐色。透明・白・灰色・赤錆～緑 焼成：中・中褐色	甕土中	口縁部1/4、 底部完存、 体部4/5
16	土師器 甕製片	口 10.1 底 5.4 高 5.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ナデ。口縁部～体部内面黒色処理。底部外面ナデ。口縁部中・高5.5。	内：10YR7/6 明黄緑 外：10YR7/4 に近い黄緑	中・中褐色。白・黒細砂、赤錆 焼成：中・中褐色	甕土中	ほぼ完存
17	土師器 甕製片	口 (10.8) 底 6.0 高 5.5	口縁部内外面黒いナデか。体部外面ナデ及び指通押圧。体部～底部内面ヘラミガキ調整のち黒色処理か。底部外面ナデ。	内：5Y2/1 黒 外：7.5YR7/6 體	中・中褐色。白・灰細砂 焼成：中・中褐色	No.31 1.1	口縁部1/8、 底部完存、 体部1/3
18	土師器 甕製片	口 11.3 底 5.6 高 5.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面指通押圧のちナデ。底部外面ヘラナデか。一部植物(ワラカ)圧痕あり。全体的に平直。	内外面とも 7.5YR7/6 體	中・中褐色。黒・白細砂、透明・黒砂、赤錆 焼成：中・中褐色	甕土中	ほぼ完存
19	土師器 甕製片	口 13.0 底 4.7 高 6.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面指通押圧及びびナデ。口縁部接合痕。つくりは素素で歪みが大きい。	内外面とも 7.5YR7/6 體	中・中褐色。白・灰色細砂 焼成：中・中褐色	甕土中	ほぼ完存
20	土師器 甕製片	口 12.1 底 5.0 高 4.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面指通押圧及びびナデ。底部外面ナデ。	内外面とも 7.5YR7/6 體	中・中褐色。白・黒細砂、灰・黒・白砂、赤錆 焼成：中・中褐色	甕土中	口縁部1/2、 底部完存
21	土師器 甕製片	口 9.1 底 4.3 高 4.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ後ヘラミガキ。体部外面指通押圧のちナデ。底部外面ナデ。内外面平直仕上げ。ヘラミガキは縁で不定方向に施す。ヒビ割れを穿つたもの可能性がある。	内外面とも 5YR7/6 體	中・中褐色。白・黒・灰色細砂、灰色、赤砂 焼成：中・中褐色	No.76 15.2	ほぼ完存
22	土師器 甕製片	口 9.8 底 4.4 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面指通押圧及びびナデ。底部外面ナデ。体部外面～内面黒色処理。	内：7.5YR4/1 赭灰 外：7.5YR7/4 に近い白	中・中褐色。白・黒細砂、赤砂、赤錆 焼成：中・中褐色	No.14 1.1	ほぼ完存
23	土師器 片	口 12.4 底 4.4 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキのち黒色処理。体部外面ヘラナズリ。内面平直仕上げ。	内：7.5YR8/6 浅黄緑 外：10YR5/2 灰黄緑	中・中褐色。白細砂～緑、赤錆 焼成：中・中褐色	No.15 1.2	口縁部3/4、 底部3/4
24	土師器 片	口 12.5 底 4.9 高 4.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部～底部外面ナデ及び指通押圧。内面に僅かな黒色の付着物あり。底部内面にはヒビ割れのヘラミガキが見られる。	内外面とも 7.5YR7/6 體	中・中褐色。白・黒細砂、黒砂、赤錆 焼成：中・中褐色	No.22 14.3	口縁部2/3
25	土師器 片	口 (12.6) 底 7.0 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ナデ及び指通押圧。底部外面ナデ。底部内面は乾燥時のヒビ補修のヘラミガキあり。	内：7.5YR7/6 體 外：7.5YR8/6 浅黄緑	中・中褐色。黒細砂～赤錆 焼成：中・中褐色	No.24・75 1.1	口縁部1/2、 底部完存
26	土師器 片	口 13.9 底 5.8 高 5.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面ナデのち指通押圧。底部外面ナデ。内面黒色処理か。底部内面接合痕のヒビ割れを補修したミガキあり。	内外面とも 7.5YR7/6 體	黄緑。白色細砂 焼成：中・中褐色	No.21 8.6	完存
27	土師器 片	口 14.0 底 4.4 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデのちナデ。体部外面ヘラナズリ内外面平直仕上げ。造器品と同じつくり。	内：7.5YR7/6 體 外：2.5YR5/8 明赤銅	黄緑。白色細砂、赤錆 焼成：中・中褐色	No.11 1.1	完存
28	土師器 片	口 (14.8) 底 5.3 高 5.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラナズリのちナデか。内外面平直仕上げ。造器品と同じつくり。	内外面とも 7.5YR7/6 體	中・中褐色。黒・白・黒細砂、白砂、赤錆 焼成：中・中褐色	甕土中	口縁部1/4、 体部～底部 2/5
29	土師器 片	口 15.6 底 4.4 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面指通押圧のちナデのちヘラナズリ。口縁部外面～内面は平直仕上げ。造器品と同じつくり。	内外面とも 2.5YR5/6 明赤銅	中・中褐色。黒・白・灰色細砂～緑 焼成：中・中褐色	No.10 1.1	口縁部3/4、 底部完存
30	土師器 小型鉢	口 9.7 底 4.7 高 7.4	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラナデ。底部外面ナデ。内面黒色処理。	内：7.5YR2/1 黒 外：2.5YR8/6 浅黄緑	黄緑。灰色細砂、黒錆、赤錆 焼成：黄緑	No.13、表 採。西 1.1	ほぼ完存
31	土師器 小型鉢	口 8.3 底 5.0 高 7.9	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナズリ。体部内面ヘラナズリのちナデか。胴部外面ナズリのちヘラミガキ。底、底部外面ナズリのちヘラナズリ。	内外面とも 7.5YR7/6 體	中・中褐色。黒・白細砂、黒砂、赤錆 焼成：中・中褐色	甕土中	完存
32	土師器 片	口 (13.6) 底 (6.8) 高 (5.7)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ナデか。口縁部～胴部一部に黒色処理あり。	内外面とも 7.5YR7/6 體	中・中褐色。赤錆。白・灰色細砂～緑 焼成：中・中褐色	甕土中	口縁部1/6、 口縁部～胴部 1/6
33	土師器 片	口 (18.0) 底 (6.1) 高 (5.7)	胴部外面タテヘラナズリのち下部ナメヘラナズリ。胴部内面ナメヘラナズリのちヘラミガキ。孔はヘラナズリ。	内：7.5YR7/6 體 外：7.5YR8/6 體	中・中褐色。灰色・黒・赤細砂～緑 焼成：黄緑	甕土中	胴部～底部 破片
34	土師器 片	口 (18.0) 底 (6.1) 高 (5.7)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面タテ色の軽いナデ。胴部外面ナメ及びタテのナデ。	内：7.6YR6/6 體 外：7.6YR7/6 體	中・中褐色。白・黒・赤細砂～緑 焼成：黄緑	甕土中	口縁部2/5
35	須恵器 片	口 (5.8) 底 (8.0) 高 (5.5)	胴部内面同心円状で具痕。胴部外面格子明きのちナデ日痕。	内外面とも 5YR6/6 體	中・中褐色。白・黒細砂～緑 焼成：黄緑	甕土中	胴部破片
36	須恵器 片	口 (5.8) 底 (8.0) 高 (5.5)	胴部内面同心円状で具痕。胴部外面格子目。	内：5YR6/6 體 外：5YR7/6 體	中・中褐色。黒細砂 焼成：黄緑	甕土中	胴部破片
37	須恵器 片	口 (5.8) 底 (8.0) 高 (5.5)	底縁の面破。方形と考えられる透かしの一部とタテ色(中ナデ)の交差の一部が見える。外面には磁肉の基の自然釉が若干平直。3区遺構外No.6と同一個体。	内外面とも 7.5YR4/2 灰黄	中・中褐色。白・灰細砂 焼成：黄緑	甕土中	胴部破片

5. 井戸

3区 SE-23 (遺構：第187図、遺物：第188・189図、図版二六・九五～九七)

位置 グリッド 92.0-52.0 重複遺構 無し。規模・形態 開口部は長径2.24～短径2.0mの楕円形を呈する素掘の井戸。中央部で細く括れた後、オーバーハングし底部に至る。壁高 確認面から4.43m 底面 白色粘土層(V層)中まで掘り込む。覆土 概ね自然堆積と考えられるが、壁面からの崩落土も随所に確認される。底面付近の7a層及び7b層から土飾器・須器などの土器類と共に多くの自然遺物が出土した。

遺物 1～7は墨書が見られる環類。1の底部外面の墨書は薄く不明瞭だが「来」の可能性が高い。2～6は体部及び底部外面に「来」の墨書が確認できる。7の体部外面には3文字の墨書が確認できる。8・9の高台付环のうち、8の底部外面墨書は薄く判読不能。10は唯一確認された土飾器破片。12～15は木製品。12はヒノキ製の曲物(桶)。円筒形に曲げた側板は樺皮紐で綴じており、嵌め込んだ底板は側面から木釘で打ち付けて固定している。直径は20cm弱、高さ10.5cm。13はアカガシ製の居木である。4枚居木の右端



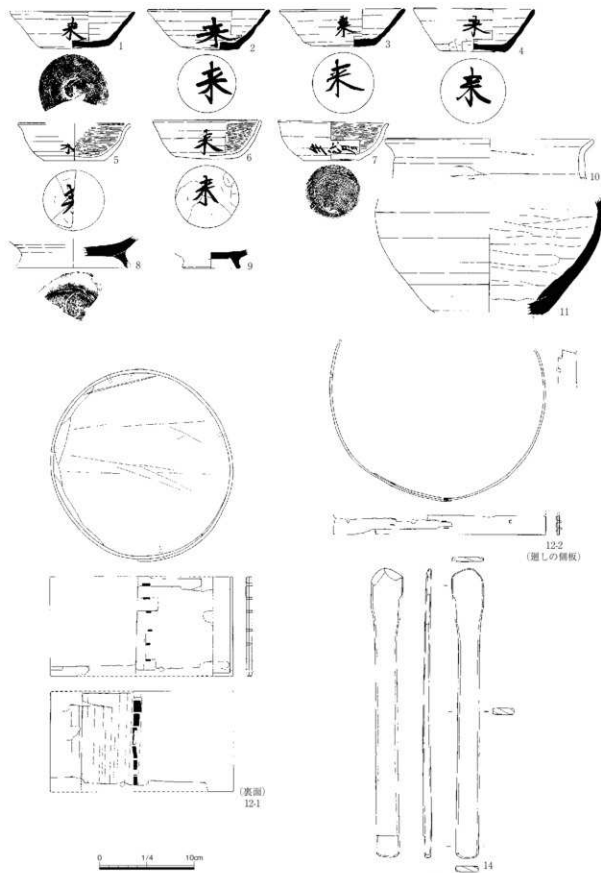
SE-23

- 1a 暗褐色土 ローム粒・白色テフラ粒・焼土粒散見。しまり・粘性強。
(SI層上に似る)
1b 褐色土 ローム粒少量。白色テフラ粒・KP粒・焼土粒散見。しまり・粘性強。(SI層上に似る)
2a 暗褐色土 ローム粒多量。KP粒少量。しまり・粘性強。
2b 暗褐色土 ローム粒中量。しまり・粘性強。
3a 褐色土 ローム粒中量。しまりやや強。粘性極めて強。
3b 黄色土 ローム粒・KP粒多量。しまりやや強。粘性強。
3c 黄褐色土 ローム粒・KP粒多量。しまりやや強。粘性強。
3d 褐色土 ローム粒中量。焼土粒散見。しまりやや強。粘性極めて強。
3e 黄褐色土 ローム粒多量。KP粒少量。しまり・粘性弱。(照準者しい)
4b 黄色土 ローム粒多量。しまりやや強。粘性弱。(照準者しい)

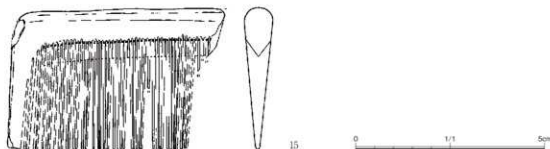
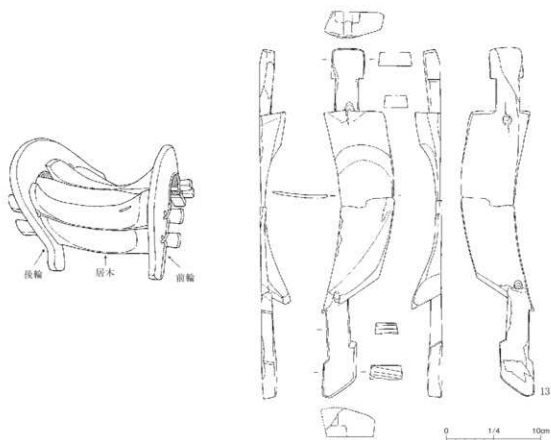
- 5a 褐色土 ローム粒多量。しまりやや強。粘性極めて強。
5b 黄褐色土 KP粒多量。ローム粒多量。しまり・粘性やや強。(顕化したKP壁面の明瞭)
5c 褐色土 ローム粒中量。しまり・粘性やや強。
5d 黄褐色土 ローム粒少量。しまり・粘性やや強。
5e 褐色土 ローム粒多量。しまりやや強。粘性強。
6 暗褐色土 砂多量。しまりやや強。粘性強。
7a 暗褐色土 しまりやや強。粘性強。
7b 黄褐色土 しまりやや強。粘性強。
8 灰色砂 灰砂多量。しまりやや強。粘性強。(遺物は7b層の下、R層中に多い)
R層中に多い

※4a, 4bにVIIとVが落下 5a～eはVIIの崩落土大量混入。

第187図 西刑部西原遺跡3区 SE-23実測図



第188図 西刑部西原遺跡3区 SE-23 出土遺物(1)



第189図 西刑部西原遺跡3区 SE-23 出土遺物(2)

の1枚で、ほぼ完存している。前後に張り出した居木先は立体的に加工され、付け根には装着用の孔を穿つ。座面は曲面に削られ、中央部の厚さは5mm弱である。前後の居木先および右側面には黒色の漆が残っている。15はイスノキ製の横櫛、平面長方形を呈し、中央部より折損。櫛歯は約0.5mm間隔で挽き出される。14はヒノキ製の不明木製品。板状の木材の先端部を楕円形に加工する。基部には段差があり、何らかの部材と組み合わせて使用したことが想定される。土器類から本遺構は9世紀中葉の井戸と考えられる。なお本遺構の自然遺物および動植物遺存体については第5章で記載している。

第72表 3区 SE-23 出土遺物観察表

図表番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (m)	現存
1	須恵器 坏	口 (13.0) 底 7.3 高 4.0	底部内面一体部外面口クロナデ。底部外面回転へう切り・斜いナデ。体部外面のみに黒書「葉」あり。かなり薄く割部はやや肉質。体部及び底部外面の一部に僅かに鉄分が付着。	内外面とも 7.5Y5/1 灰	やや粗い、白色胎やや少量。白燐少量、黒色(炭化物もしくは粘土)粒焼成; 破片	№31、底1/4、底部3/4	底面欠損
2	須恵器 坏	口 12.6 底 6.2 高 4.3	内外面口クロナデ。底部外面回転へう切りのナデナ。体部及び底部外面には鉄分付着。全体中にやや多量。	内: 2.5Y6/1 黄灰 外: 2.5Y5/1 黄灰	粗い、赤褐色やや多量、白燐やや少量 焼成: やや破片	№24 床面	完存
3	須恵器 坏	口 12.8 底 6.5 高 3.9	底部内面一体部外面口クロナデ。底部外面回転へう切りのち斜いナデ。体部及び底部外面に黒書「葉」あり。体部外面鉄分付着。二次底面あり。	内: 7.5Y5/1 灰 外: 5Y5/1 灰	やや破片、白色砂粒やや多量、白燐少量 焼成: やや破片	№27 床面	完存
4	須恵器 坏	口 12.6 底 6.9 高 4.6	底部内面一体部外面口クロナデ。体部外面下端(手もちヘラクス)。底部外面(一方)へラクス(へう切り)。体部及び底部外面に黒書「葉」あり。外面に鉄分付着(井戸出土のため)。内面部分付着。あるいは口縁分を削削跡。	内: 7.5YR5/4 にぶい黒 外: 10YR6/4 にぶい黄黒	やや破片、白粒砂粒及び黒色粒(炭化物あるいは粘土状のもの)少量 焼成: やや破片	№25 床面	口縁部一部欠損、底部完存、体部3/4
5	土師器 坏	口 (11.4) 底 (6.4) 高 4.0	底部内面一体部外面口クロナデ。内面へラクスミガキのち黒色処理。底部外面口クロナデのち手もちヘラクス(多方向)。体部及び底部外面に黒書「葉」。内面のへラクスミガキは底部を密に一方肉化したのち体部をなく。井戸から出土したため内面の黒色処理は光沢を残す。	内: N2/0 黒 外: 10YR6/4 にぶい黄黒	やや破片、砂粒少量、黒色ガラス質粒少量 焼成: やや破片	№29 床面	口縁部一部、底部2/5、体部1/3
6	土師器 坏	口 11.1 底 6.6 高 4.1	底部内面一体部外面口クロナデ。底部外面一方へう切りのみ多方向へラクス。内面へラクスミガキのち黒色処理。底部内面へラクスミガキは密に一方。体部及び底部外面に黒書「葉」あり。井戸内出土のため、内面に鉄分付着。内面のミガキは光沢を留め、いぶされた瓦のようである。	内: 5Y3/1 オリーブ黒 外: 5YR6/6 橙	やや粗い、砂粒やや少量、燐少量 焼成: やや破片	№28 床面	口縁部一部欠損
7	土師器 坏	口 11.4 底 5.7 高 4.2	底部内面一体部外面口クロナデ。内面へラクスミガキのち黒色処理。底部のへラクスミガキは一方に密に施したのち斜行するように再度削削している。底部外面回転痕あり。体部外面に「午」(比か) □ (塚か) の黒書あり。文字部分は割れねむり鉄分が付着により不明な部分が多い。体部外面上部は鉄分が多量付着する。	内: 2.5GY2/1 黒 外: 2.5YR5/5 明赤黒	やや破片、砂粒やや少量、燐少量 焼成: やや破片	№30 床面	口縁部一部欠損
8	須恵器 高台付 坏	高 [3.0]	内外面口クロナデ。底部回転系切りのち高台貼付。底部外面黒書あり(文字不明)。	内: 5Y6/1 灰 外: 2.5Y6/3 にぶい黄	やや破片、白・灰・黒細砂・粗砂 焼成: 破片	覆土中	底部-脚部1/4
9	須恵器 高台付 坏	高 6.2	内外面口クロナデ。底部外面回転へう切りのち高台貼付。体部一端へ土を据するが、この部分の周辺を意図的に打ち抜いたようにみえる。ただし、周辺の底面の面跡無し。本遺構出土遺物中、唯一器蓋のない器種。口縁部内外面口クロナデ。割部上下へラクス。	内: 7.5Y6/1 灰 外: 5YR6/3 にぶい赤黒	やや粗い、白色砂粒多量、苔目片やや多量 焼成: 破片	№3 床面	口縁部欠損、底部ほぼ完存、体部一部
10	土師器 遺灰	口 [22.0] 高 [4.2]	口縁部内外面口クロナデ。割部内面へラクス。体部外面調整不明。高台貼付のための接合痕あり。	内: 10YR3/4 暗赤 外: 5YR6/4 にぶい赤黒	やや破片、白・灰・黒細砂・粗砂 焼成: やや破片	№38 1.2	口縁部破片
11	須恵器 短頸 甕	高 [12.3]	割部外面口クロナデ。割部内面へラクス。体部外面調整不明。高台貼付のための接合痕あり。	内: N7/0 灰 外: N5/0 灰	やや粗い、白・灰・黒細砂・粗砂 焼成: 破片	№1 1.2	口縁部破片
12	木製品 曲物	径 188-202 高 10.5 径 12	全形が破れる曲物。厚さ2~3mmの側板は円筒状に曲げ、樽成筒で組む。樽成筒は1列で、7段組じ。上端部と下端部の止め方(内側は外側としか)は不明。側板内には目打ちするたため釘の跡が認められる。外面の目打ちきは樽成筒を造る際の目打ちか、樽成筒の底板は底面から3.0mmほど浮いた状態で密に貼られる。本釘は1本のみ残るが、側面に4か所の釘跡あり。12は「廻しの側板」で、上端または下端部に付属していた可能性が高い。	-	ヒノキ	№41	部分欠損
13	木製品 榎木	長 37.0 幅 6.1 厚 [3.1]	板の断面にあたる榎木。本葉4枚あるうちの1枚で、榎木の節間本と考えられる。断面は曲線形に割っており、最も薄い中央部の厚さは5.0mm。前後に突出する榎木先は、それぞれ前後・後端の切り込みと組み合わせた体的に加工する。榎木先の付け組には正面及び裏面から締道し用の孔(径約1.0cm)が穿たれ、両先端部には黒漆が塗られる。右側面一部にも漆が現れる。	-	アサガシ	№16	完存
14	不明 木製品	長 30.8 幅 3.4 厚 0.9	薄・板状の木材を素材とし、先端部を樽門形状に加工する。筒やなくびれ部の幅は2.3cm。基部は若干丸みもち、さらに直線的な部分が付く。基部の幅約2.5cmである。側面は筒丸の長方形を呈する。	-	ヒノキ	底面一括	部分残存か
15	木製品 櫛	長 [5.6] 幅 [3.7] 厚 0.8	平面長方形を呈する櫛。背は極めて緩やかに弧状を呈しており、前部は僅かに横をもつが緩やかな平円形を呈する。基部は若干丸みもち、側縁部はやや開きながら直線的に延びる。櫛面を強く磨削を示す「切り過ぎ」は裏面側面に見られ、櫛の形状の形状に平行して研削している。櫛は計14本が現存しており、約0.5mm間隔で、両面から極めて整然と並列している。15-2は櫛の残り部分。乾燥してしまったが、櫛歯の本数は55本確認できる。	-	イスノキ	№14・23	1/2



第190図 西刑部西原遺跡3区 SE-27実測図

3区 SE-27 (遺構: 第190図、図版二六)

位置 グリッド 88.0-51.0 重複遺構 重複遺構はないが、奈良時代の井戸 SE-37 と近接する。

規模・形態 有段の井戸。開口部は長軸 1.80 m、短軸 1.48 m の楕円形を呈し、深さは 54 cm。井筒部は径 47 ~ 75 cm の断面円筒形で、下半部に最大径をもつ。壁高 確認面からの深さ 3.8 m。底面 粘土化したローム層まで掘り込む。底面は平坦。覆土 底面付近は壁面(地山のローム土・鹿沼土)から崩落した混入土が多く自然堆積と考えられるが、その後堆積した黒色土(1a・1b層)は極めて短期間で埋没した可能性が高く人為埋戻しの可能性もある。開口部の鹿沼軽石を多量含む2層は井戸側を設置した際の裏込め土の可能性はある。遺物 覆土中から殆ど遺物が確認できなかったため明確な時期は不明である。



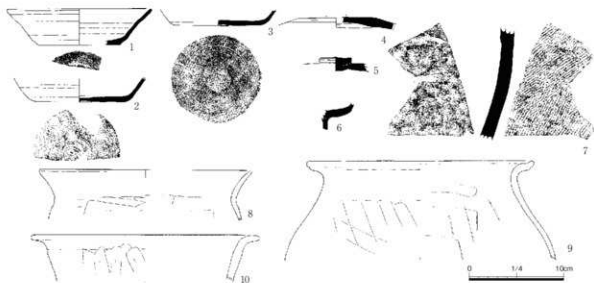
第191図 西刑部西原遺跡3区 SE-37実測図

3区 SE-37 (遺構: 第191図、遺物: 第192図、図版二六)

位置 グリッド 87.5-50.5 重複遺構 重複遺構はないが、時期不明の井戸 SE-27 と近接する。

規模・形態 有段の井戸。開口部は長軸 2.11 ~ 短軸 1.57 m の不整な隅丸長方形で、深さ約 20 cm である。井筒部は径 50 ~ 110 cm。断面形は不整な円筒形で、下半部に最大径をもつ。

壁高 確認面からの深さ 4.14 m。底面 灰色粘土層まで掘り込む。底面はレンズ状を呈する。覆土 井筒部(9~11層)は短期間で堆積したものか。出土遺物も殆ど確認できない。これに対し上面の土層は不整合面を境にレンズ状に堆積し、遺物を多く含む。遺物 主に開口部付近の3~4層中から出土し、計9点を図示した。須恵器環(1~3)・蓋(4・5)・高台付盤(6)・甕(7)のほか土師器甕(8)・9・甕(10)がある。遺物から奈良時代(8世紀中葉)の井戸と考えられる。



第192図 西刑部西原遺跡3区 SE-37出土遺物

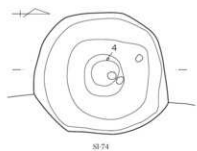
第73表 3区 SE-37 出土遺物観察表

編號 番号	器種	法量(m/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・ 床土(cm)	残存
1	須恵器 環	口 (15.0) 底 (8.6) 高 4.9	内外面ロケロナデ。底部外面回転ヘラ切り。	内外面とも 5Y6/1 灰	中卒緻密。灰・白・黒細砂。灰・白砂 焼成：中卒硬質	土層	口縁部一 部 1/6
2	須恵器 環	底 9.0 高 [2.7]	内外面ロケロナデ。底部外面回転ヘラ切りのち外面回転ヘラケズリ。	内外面とも 5Y6/2 灰オリーブ	中卒緻密。白・黒細砂。灰・白砂。白緑 焼成：中卒硬質	№ 18 36.9	底部 1/2
3	須恵器 環	底 9.2 高 [1.7]	内外面ロケロナデ。底部外面回転ヘラ切りのち外面回転ヘラケズリ。	内：2.5Y8/1 灰白 外：5Y8/1 灰白	中卒緻密。灰・白・黒細砂。白。黒砂 焼成：中卒硬質	№ 21 36.2	体部 1/8。 底部完好
4	須恵器 蓋	高 [1.9]	内外面ロケロナデ。天井部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付。	内：2.5Y7/1 灰白 外：5Y7/1 灰白	中卒緻密。灰・黒細砂。灰・白砂。白緑 焼成：中卒硬質	6b 層	天井部破 片。ツマミ 欠損
5	須恵器 蓋	高 [2.6] 巾 [3.2]	天井部回転ヘラケズリのちツマミ貼付。天井部内面黒油押上。	内：2.5Y7/2 灰黄 外：2.5Y6/2 灰黄	中卒緻密。白・灰砂。白・灰細砂。白緑少量 焼成：中卒硬質	№ 11 40.2	ツマミ完 存。天井部 一部
6	須恵器 高台付 盤	底 (15.8) 高 [2.6]	内外面ロケロナデ。高台面付。	内外面とも 5Y5/1 灰	中卒緻密。白・灰細砂 焼成：中卒硬質	№ 19 37.4	底部 1/6
7	須恵器 甕	厚 1.5	外面平行平坦。内面ヘラナデのち無文あて具刷。	内：5Y6/1 灰 外：7.5Y5/1 灰	中卒緻密。白・灰細砂。白砂。白緑 焼成：中卒硬質	№ 9 40.0	側面破片
8	土師器 甕	口 (17.7) 高 [4.9]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヨコヘラケズリ。	内：5YR6/6 橙 外：7.5YR6/6 橙	中卒緻密。白・灰・黒細砂・白砂。赤粒 焼成：中卒硬質	№ 6 40.0	胴上半部～ 口縁部 1/6
9	土師器 甕	口 (23.6) 高 [10.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヨコナデ。胴部内面強めのヘラナデ。胴部中位(破片下端部)黒色付着物。ススカ。	内：10YR7/6 明黄褐色 外：7.5YR7/6 橙	中卒緻密。白・透明・灰砂。白・灰・黒細砂。白砂。白・灰・赤粒少量 焼成：中卒硬質	6b 層	口縁部～胴 部上半 1/4
10	土師器 甕	口 (23.4) 高 [4.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。外面黒灰あり。	内外面とも 2.5YR5/6 明赤褐	中卒緻密。黒・白・灰細砂。白・黒砂。黒色ガラス質粒子 焼成：中卒硬質	№ 16 38.0	胴上半部～ 口縁部 1/6

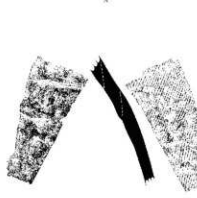
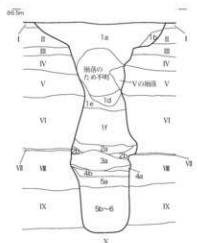
3区 SE-75 (遺構・遺物：第193図、図版二七・九七・一一三)

位置 グリッド 86.5-51.5 重複遺構 SI-74 より新しい。規模・形態 有段の井戸。開口部は長軸 2.80×短軸 2.50 m 以上の隅丸長方形形状を呈し、深さ約 56 cm。井筒部は径 80～100 cm の断面円筒形で、下半部は崩落したものか。壁高 確認面からの深さ 4.8 m。底面 礫層(地山のX層)まで掘り込む。底面は平坦。

覆土 井筒部は厚めの土層と薄い土層が混在するが、自然堆積と考えられる。開口部はローム塊を多量含



33-74



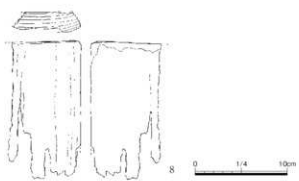
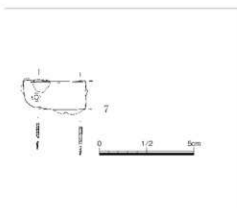
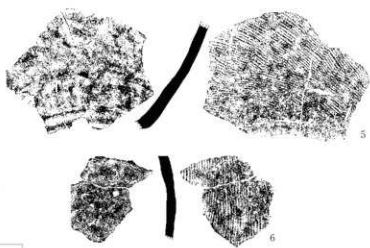
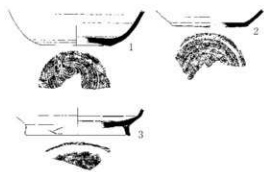
SE-75

- 1a 暗褐色土 大礫 (φ10cm以上) 中量, ローム粒微量, しまり・粘性強。
- 1b 褐色土 ローム粒中量, KP粒少量, しまり・粘性強。
- 1d 褐色土 ローム粒多量, しまり・粘性強。
- 1e 茶褐色土 泥礫類を記載無し
- 2a 褐色土 ツァトローム粒多量, 粘性強。
- 2b 黄褐色土 ハードローム粒多量, しまり・粘性強。
- 3a 茶褐色土 フラックバンド粒多量, しまり・粘性強。
- 4a 褐色土 ローム粒多量, 粘性強。
- 4b 暗褐色土 ローム塊少量, KP含む。
- 5a 黄褐色土 KP粒子 (φ1~3mm) 中や多量, しまり強。
- 5b 黄褐色土 KP塊状に混入, しまり中や強。
- 5d 黄褐色土 ローム塊少量。
- 6 黄土色土 粘土化したローム, 微粒子, しまり弱, 粘性強。

堆山 土層説明

- I ツァトローム 茶褐色, 粘性や中強, 微粒子。
- II ハードローム 黄褐色, しまり・粘性強。
- III ハードローム 黄褐色, しまり・粘性強。
- IV フラックバンド 黄褐色, しまりや中強, 粘性強。
- V ハードローム 褐色, 粘面にKP, 粘性弱。
- VI 黄褐色土 KP粒 (1~3mm), 粘性弱。
- VII 白黄色土 KPが塊状に連続, 薄い帯状に混入。
- VIII 粘土化したローム 黄褐色土, 粘性強。
- IX 暗褐色土 砂礫, 小礫含む。
- X 埋戻土

0 1:80 2m



第193図 西刑部西原遺跡3区 SE-75 実測図・出土遺物

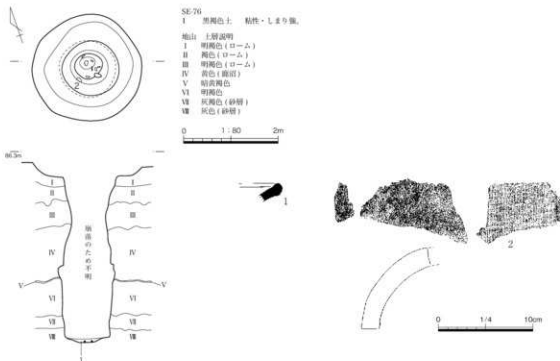
む人為埋戻しの可能性がある。遺物 須臾器坏(1・2)・高台付坏(3)・甕(4～6)、手鎌(7)の他、木材や自然遺物が出土した。遺物から奈良時代中葉の井戸と考えたい。種子などの自然遺物については第5章で記載している。

第74表 3区 SE-75 出土遺物観察表

図録番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須臾器坏	底 (7.3) 高 [3.8]	内外面口ケロナデ。底部外面回転糸切り。	内外面とも 2.5Y3/2 暗灰黄	中・中緻密、白・灰黒細砂、黒・白砂 焼成：中・中硬質	東側	底部～体部 1/2
2	須臾器坏	底 18.0 高 [1.9]	体部内面口ケロナデ。体部外面回転ヘラ切り。	内外面とも 10Y5/1 灰	中・中緻密、白・灰黒細砂、白・灰砂、白・赤粒 焼成：中・中硬質	上側	底部 3/8、体部一部
3	須臾器高台付坏	底 (10.8) 高 [2.8]	内外面口ケロナデ。底部外面回転ヘラケズリのみ高台貼付。底部内面研磨されてスベスベしている。	内外面とも 5Y8/6 橙	中・中緻密、灰・白・灰黒細砂、白・黒砂 焼成：中・中硬質	上側	底部 1/6
4	須臾器甕	高 [14.5] 厚 1.6	内面無文あて具痕。外面平行叩き。内面に明確な接合痕あり。	内外面ともに 7.5Y5/1 灰	中・中緻密、白・黒・灰黒細砂、灰・白砂、白雲母 焼成：中・中硬質	No.2 1.7	胴部破片
5	須臾器甕	厚 90-130 高 [13.0]	胴部内面無文あて具痕、下端部指頭押止及びナデ。胴部外面斜白の平行叩き。底部外面磨滅のため調整不明。	内：7.5Y5/1 灰 外：10Y8/4 褐灰	中・中粗い、白・灰黒細砂・赤色片 焼成：硬質	上側	胴部破片
6	須臾器甕	高 [9.5]	内面無文あて具痕。外面平行叩き。	内：2.5Y5/1 黄灰 外：10Y8/5/1 褐灰	中・中緻密、白・灰黒細砂、白・灰砂、白雲母 焼成：中・中硬質	上側	胴部破片
7	鉄製品手鎌	長 [3.2] 幅 1.5 重 [2.9]	一端を残す手鎌破片。背は極めて緩やかに弧状に伏れる。孔の位置は片面(裏面)から穿ったためか、若干盛り上がる。平造りで、穂幅 1.5 cm。	—	鉄製	覆土上層	部分残存
8	不明木製品	長 [14.0] 幅 [7.3] 厚 [2.2]	板目材の端部破片。工具跡は認められない。	—	—	榎樹判定は未実施だが、針葉樹の可能性あり。	覆土中 部分残存

3区 SE-76 (遺構・遺物：第194図、図版二七・九八)

位置 グリッド 85.5-53.0 重複遺構 重複遺構は無いが、古墳時代後期の建物跡 SI-77 と近接する。規模・形態 有段の井戸。開口部は直径約 2.3 m の円形を呈する。深さは 20 ～ 28 cm。井筒部は上径 110 cm、中央



第194図 西刑部西原遺跡3区 SE-76 実測図・出土遺物

部で75cmとやや窄まり、以下直径1mほどの筒状を呈し底面に至る。壁高 確認面からの深さは4.40m。

底面 皿状を呈し、砂層に達している。覆土 大部分が土層断面の記録前に崩落してしまったため、底面付近の黒褐色土(1層)が確認できたのみである。遺物 黒褐色土中の出土遺物は須恵器甕口縁部破片(1)と男瓦(2)の計2点のみである。なお男瓦は3区SI-85出土遺物(19)と遺構間接合が確認されている。遺物から井戸の帰属時期は奈良時代と考えられる。

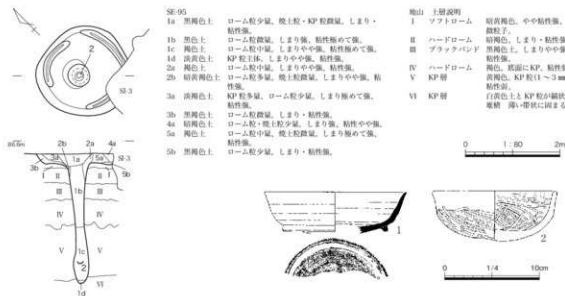
第75表 3区 SE-76 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(m/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・残土(cm)	現存
1	須恵器 甕	厚 1.1	内外面ロケロナテ。	内: 5Y8/1 灰白 外: 5Y8/1 灰白	緻密、白磁砂 焼成; 硬質	覆土中	口縁部破片
2	男瓦	長 [10.2] 幅 [5.4] 厚 1.9 重 [169.0]	両面が布目織。凸面がナデ。3区SI-85-19と遺物間接合。	7.5YR5/4 に近い濁	粗い、白・灰・黒磁砂一 層 焼成; 硬質	% 1 0.2	部分残存

3区 SE-95 (遺構・遺物: 第195図、図版二七・九八)

位置 グリッド 87.5-50.5 重複遺構 8世紀後葉の建物跡SI-3より古い。規模・形態 有段の井戸。開口部は直径1.84mの不整な円形状を呈する。深さ約20cm。また底面の壁際には溝状の掘り込みが部分的に見られる。井筒部は上面径40cm、中央部で20cmと細く、下部はやや紡錘状に膨らみ、直径30cmほどである。

壁高 確認面からの深さは2.76m。底面 鹿沼軽石層まで掘り込む。平坦面はない。覆土 井筒部には黒色土及び褐色土からなる均質な土が厚く堆積するが、廃絶後短期間に埋没したと考えられる。開口部はローム粒・鹿沼軽石粒を含む覆土(3a~5b層)が認められ、井戸側の裏込め土の可能性が高い。遺物 遺物は下層(1C層)中から僅かに出土する。1の須恵器高台付環は高台が低く底部が突出する湖西産の須恵器に似るが、やや胎土が粗い感がある。2の土師器環は歪みが多く、内外面が入念にヘラミガキされる。遺物から8世紀前葉の井戸と考えたい。



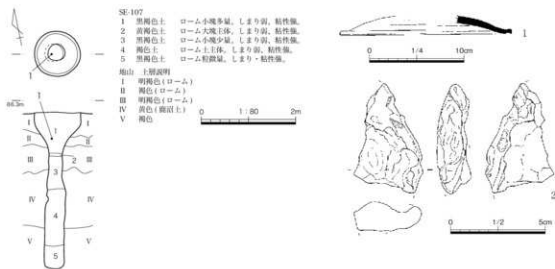
第195図 西刑部西原遺跡3区 SE-95 実測図・出土遺物

第76表 3区 SE-95 出土遺物観察表

掲載番号	部種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 高台付 高台 高	口 (14.9) 底 11.0 高 [4.4]	内外面口ケラナデ。体部外面回転ヘラズリのち高台取付。出灰タイプの高台付付。体部内面及び口縁部外面に黒色物付着 (カールカ)。裏内凹み。	内: 5Y7/2 灰白 外: 5Y6/2 灰オリーブ	緻密。黒・灰・白細砂。黒・灰砂 焼成: 硬質	No 1 26.0	口縁部 1/3。底部 4/5
2	土師器 杯	口 12.7 高 5.3	口縁部内外面口ケラナデ。内面はやや丁寧なミガキ。外面は部分的に異なる箇所のミガキ。非常に歪みが大きく、器厚もバラツキが多い。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密。白・黒細砂。赤粘。黒砂。微細粒。赤色粘土 (胎土中の混入物) 焼成: やや硬質	No 3 40.2	口縁部一体 1/3

3区 SE-107 (遺構・遺物: 第196図、図版二七)

位置 グリッド 86.0-52.5 重複遺構 重複遺構は無いが、SB-102と近接する。規模・形態 有段の井戸。開口部は漏斗状を呈し直径約96cmと小さく、井筒部直上までの深さは約70cmである。井筒部の上面は径約27cmと狭く、その後若干広がり底部まで円筒形に掘られる。最大径は約42cmである。壁高 確認面からの深さ約3.26m。底面 鹿沼軽石層下の褐色ローム層まで掘り込む。底面は皿状を呈する。覆土 底面付近は黒褐色土(5層)が堆積する。3・4層はしまりが弱く、極めて短期間で埋没した可能性が高い。開口部の1層はローム小塊を多量含む土で、人為埋戻しの可能性がある。遺物 覆土中からの遺物は極めて少なく、図示可能な遺物は2点のみである。1の須恵器蓋は1層中から出土した。2の焼成粘土塊は出土層位は不明である。遺物から本遺構は奈良時代の井戸と考えたい。



第196図 西刑部西原遺跡3区 SE-107 実測図・出土遺物

第77表 3区 SE-107 出土遺物観察表

掲載番号	部種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 蓋	口 (17.8) 高 [2.0]	内外面口ケラナデ。天井部外面回転ヘラズリ。	内: N5/0 灰 外: 5Y6/1 灰	やや緻密。灰・白・黒細砂。白・黒砂。白微 焼成: やや硬質	No 1 不明	体部 1/4
2	焼成粘 土塊	長 5.2 幅 3.5 厚 1.5 重 16.2	植物質などの混入物はごく少量。胎土は土師器に使われるものとほぼ同一。左側面及び下面。裏面は破面となっている。	5YR7/4 に近い橙	粗い。白細砂。赤粘 焼成: 軟質	覆土中	部分欠損

6. 溝



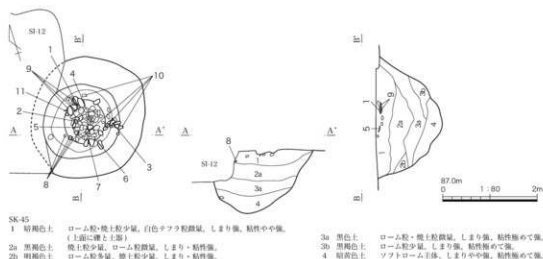
第78表 3区 SD-57出土遺物観察表

編號 番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・ 床土(cm)	残存
1	須恵器 蓋	高 [2.0]	内外面クロナデ。	内：N4/O 灰 外：5GY5/I オリーブ灰	中・中緻密、白粗砂 焼成：硬質	東理土中	口縁部破片
2	須恵器 坪	口 [12.0] 高 [3.6]	内外面クロナデ。	内：10G5/I 緑茶	中・中緻密、白粗砂 焼成：硬質	東理土中	口縁部一休 部1/8
3	須恵器 甕	高 [6.7]	頸部内面無文である。頸部外面格子印さ。	内外面とも 5YR6/1 灰	中・中緻密、灰・白・黒粗 砂、白・灰砂、白濁 焼成：中・中硬質	西理土中	頸部破片
4	土師器 手取石 土器	口 [10.5] 高 4.7	口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラナデ、体部外面 微細押止及びナデ。底部外面ナデあるいはヘラナデ。	内外面とも 5YR6/6 橙	中・中緻密、灰・白粗砂、白 粗砂、赤粒 焼成：中・中硬質	東理土中	口縁部 1/4、底部 完存
5	土師器 鉢	口 [14.0] 底 [5.0]	口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ナデか、体部外面へ ラケズリか、口縁部内面～外面にかけ黒色付着物あり。	内：10YR6/4 に近い黄橙 外：10YR4/1 褐灰	中・中緻密、白・黒粗砂、白・ 黒粗砂 焼成：中・中硬質	西理土中	口縁部1/8
6	鉄坪	長 [4.3] 幅 [2.5] 厚 [0.9] 重 [15.4]	鍛冶滓（流動滓）。長軸の上端部に欠損する。表面と もに裏面は滑らか。表面中央部に錆化部がみられ、木 炭の残屑も認められる。	表面ともサビ有 7.5YR4/3 間	硬さ度：5	東理土中	部欠

7. 円形有段遺構

SK-45（遺構：第198図、遺物：第199図、図版二八・九八・一一五）

位置 グリッド 52.0-90.0・52.0-90.5 重複遺構 平安時代の竪穴建物跡 SI-12 より古い。規模・平面形東西推定 2.36 m、南北 2.56 m の不整な円形。壁・断面形 壁面はやや凹凸を有する。底面は緩やかに傾斜し小穴に至る。壁高 深さは土坑底面までは 1.08～1.16 m、小穴底面まで 1.4 m である。床 土坑底面の直径は 1.4～1.6 m の不整な円形を呈し、小穴は径約 1.2 m、深さ約 20 cm である。底面は鹿沼軽石層に及んでいる。覆土 6層に分層、断面観察から自然堆積と考えられるが、1層下面の遺物は廃棄されたものと思われる。遺物 主に1層中から集中して出土した。須恵器環（1・2）・高台付環（3・4）・短頸壺蓋（5）・甕（6～8）、瓦（9・10）、鉄製品（刀子：11）などがある。4の高台付環には体部外面下端にヘラ記号が見られる。9の平瓦は制作時の凹み或いは亀裂に粘土を補充した跡が顕著に残る。型押文の番号は国分寺231と思われる。10の型押文の番号は国分寺369か。遺物から8世紀中葉の遺構と考えたい。東約 35m の宇都宮調査 E 区にはほぼ同時期の円形有段遺構 SK-17 が位置する。

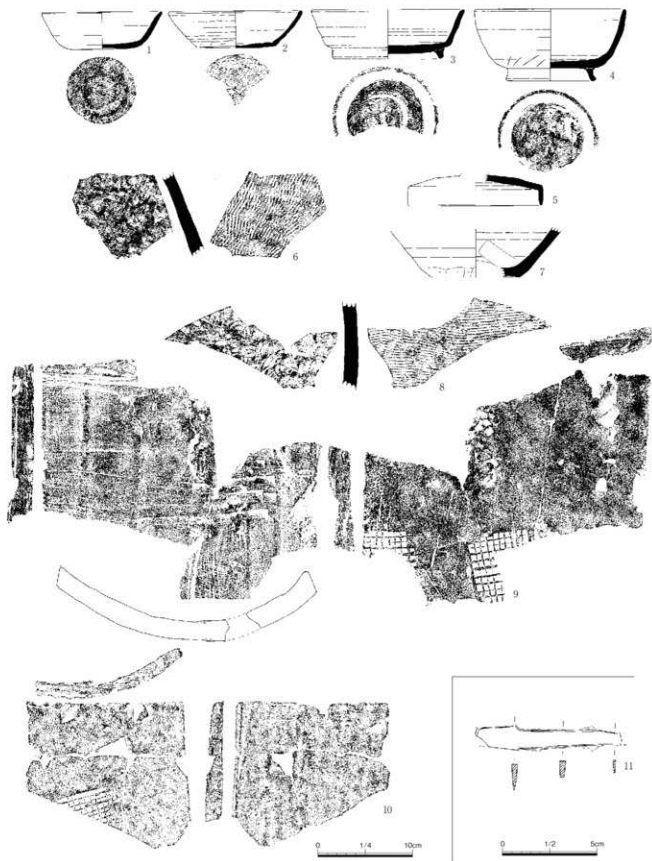


SK-45:

- 1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少量、白色チカラ粒散見、しまり強、粘性中強、
（上面に礫と土層）
2a 黒褐色土 焼土粒少量、ローム粒散見、しまり・粘性強。
2b 明褐色土 ローム粒多量、焼土粒少量、しまり・粘性強。

- 3a 黒色土 ローム粒・焼土粒散見、しまり強、粘性極めて強。
3b 黒褐色土 ローム粒少量、しまり強、粘性極めて強。
4 暗褐色土 ソフトローム土層、しまり中強、粘性極めて強。

第198図 西刑部西原遺跡3区 SK-45実測図



第199図 西刑部西原遺跡3区 SK-45出土遺物

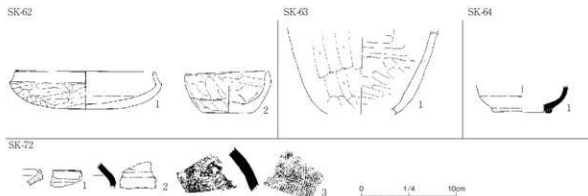
第79表 3区 SK-45 出土遺物観察表

図録番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵器 環	口 12.4 底 6.9 高 3.9	内外面口ロナテ。底部外面回転糸切りのち外面回転ヘラケズリ。	内外面とも 5Y6/1 灰	中々緻密、白・灰細砂、白・灰・黒砂、白粉 焼成：中々硬質	No 8 1層	ほぼ完存
2	須恵器 環	口 (13.8) 底 (8.4) 高 3.9	口縁部～体部内外面口ロナテ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。体部下端手もちヘラケズリ。	内外面とも 5Y6/1 灰	中々緻密、灰・透明・黒・白細砂、灰・黒炭塊 焼成：中々硬質	No 20 2a層	口縁部～底部 1/6
3	須恵器 高台付 環	口 (15.8) 底 (11.0) 高 5.2	内外面口ロナテ。底部外面回転ヘラ切りのち高台筋付。爪先状圧痕あり。口縁端部磨減痕。口縁内面研磨痕。底部内面研磨痕。高台端部磨減痕。	内：2.5Y6/2 灰黄 外：2.5Y7/1 灰白	中々緻密、白細砂～黒 焼成：硬質	No 17 1層	口縁部 1/4、底部 2/3
4	須恵器 高台付 環	口 (15.6) 底 8.6 高 7.5	内外面口ロナテ。底部外面回転ヘラ切りのち高台筋付。体部下端下部にヘラ記号あり。接合沈線僅か認められる。口縁端部磨減痕。口縁内面研磨痕か。底部内面研磨痕か。高台端部磨減痕。	内：5GY5/1 緑灰 外：5GY4/1 暗緑灰	中々緻密、白・灰細砂～黒 焼成：硬質	No 16 1層	口縁部 3/8、底部 3/4
5	須恵器 短須恵 器	口 13.0 高 [3.3]	内外面口ロナテ。天井部外面回転ヘラケズリのちツマミ筋付のちナデ。ツマミ2欠損。	内外面とも 5Y5/1 灰	中々緻密、白・白細砂、灰・白・黒砂、灰塊 焼成：中々硬質	No 15 1層	口縁部 1/3
6	須恵器 甕	高 [8.9]	製部内面無文あて具皿。製部外面平行押き。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：5Y6/1 灰	中々緻密、白・灰細砂、白・灰・黒砂、白粉 焼成：中々硬質	No 9 1層	製部破片
7	須恵器 甕	底 (9.3) 高 (5.3)	内外面口ロナテ。製部外面下端部手もちヘラケズリ。底部外面ナデ。残存少なく若干歪みあり。	内外面とも 5Y7/1 灰白	中々緻密、灰・白・黒細砂、灰・黒砂、灰塊 焼成：硬質	No 10 1層	底部～製部 下端 1/5
8	須恵器 甕	高 [9.0]	製部内面同心円あて具皿。製部外面平行押き。	内外面とも 5Y6/1 灰	中々緻密、白・灰細砂、黒・灰砂 焼成：硬質	No 2-3 14-19 2a層 (No 19)	製部破片
9	女瓦	長 [26.0] 幅 [25.0] 厚 2.1 重 [631.0]	凸面：格子明き。 凹面：布目風のちヘラナデ。側面はヘラナデ。	2.5Y5/1 灰	中々緻密、白・灰・黒細砂、白・黒砂、黒塊 焼成：中々硬質	No 1-12 -13 1層 (No 13)	約 1/2
10	女瓦	長 [17.2] 幅 [15.4] 厚 2.0 重 [625.0]	凸面：格子明き。 凹面：布目風。側面はヘラナデ。	5YR6/6 橙	中々緻密、黒・灰・細砂、白・灰・黒砂、赤粒 焼成：中々硬質	No 4-5 -6-18 1層 (No 18)	部分残存
11	鉄製品 刀子	長 [7.7] 重 [9.4]	両側の刀子。刃部は僅かに崩れをもつものか。種幅は約30mm。裏は端部を欠損し、前面は逆台形を呈する。	—	鉄製品	No 7 2a層	刃部欠損

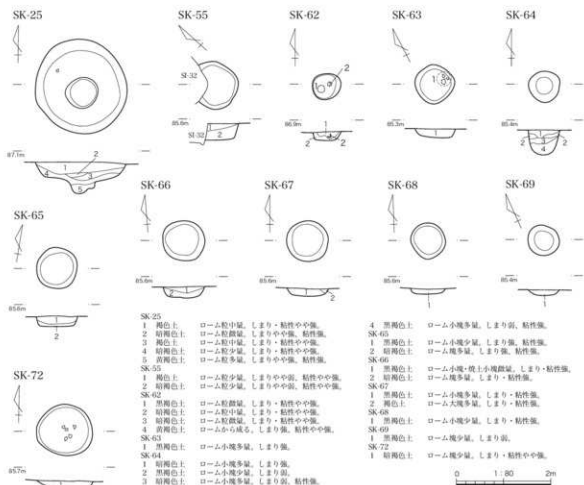
8. 土坑

本調査区からは計20基の土坑が確認された。土坑は遺物の出土量が少ないため明確な時期を確定できないものが多い。ただし建物跡などとの切り合いから、ある程度の時間幅を想定できるものもある。

ここでは遺構個別の事実記載は行わないが、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめて掲載した。このうち、特徴的な遺構・遺物については補足説明を行うこととしたい。



第200図 西刑部西原遺跡3区 SK-62～64・72出土遺物



第 201 図 西刑部西原遺跡 3区 土坑実測図 (1)

第 80 表 3区 土坑計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
SK-25	92.0-51.5 92.0-52.0	円形	2.02	1.90	0.67	
SK-55	90.0-45.0	円形	(0.99)	(0.92)	0.36	SI-32と重複
SK-62	90.0-52.0	円形	0.61	0.54	0.19	
SK-63	89.0-47.0	円形	0.84	0.83	0.18	SB-70と重複
SK-64	89.0-47.5	円形	0.66	0.65	0.54	
SK-65	89.5-46.5	円形	0.87	0.85	0.22	
SK-66	89.5-46.5	円形	0.87	0.84	0.25	
SK-67	89.5-46.5	円形	0.86	0.84	0.18	
SK-68	89.5-46.5	円形	0.77	0.73	0.12	
SK-69	89.0-47.0	円形	0.67	0.63	0.11	
SK-72	89.5-45.5	円形	1.16	1.08	0.15	
SK-93	86.5-50.5	円形	1.11	0.95	0.96	
SK-94	87.5-50.0	楕円方形	1.54	1.40	0.28	
SK-99	87.0-51.0 87.5-51.0	楕円形	1.27	1.11	0.17	
SK-108	87.5-50.5	円形	1.82	1.61	0.46	
SK-109	87.5-50.5 87.5-51.0	—	0.96	0.89	0.07	
SK-110	87.5-50.5	—	2.14	0.94	0.55	
SK-111	90.0-51.5	円形	1.65	(1.10)	0.64	
SK-113	86.0-52.0 85.5-52.0	不明	(1.57)	(1.10)	(0.48)	
SK-116	87.5-51.0	—	2.15	1.17	0.05	SI-4と重複

第3章 発見された遺構と遺物

第81表 3区 SK-62 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	土師器 杯	口 14.5 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面塗仕上げ。	内外面とも 7.5YR6/4 に 近い青	中々緻密、白・黒細砂、白・黒砂、白・赤粒 焼成：中々硬質	No 1 不明	ほぼ完全
2	土師器 杯	口 8.5 底 5.5 高 4.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ及び指道押圧。底部外面ナデ。	内：7.5YR7/6 青 外：10YR7/4 に近い黄青	中々緻密、黒・白・灰細砂、黒・灰砂、赤粒 焼成：中々硬質	No 2 不明	完全

第82表 3区 SK-63 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	土師器 甕	高 (9.0)	胴部内面ヘラケナデ。胴部外面ヘラケズリ。	内：7.5YR7/6 青 外：7.5YR6/3 に近い青	緻密、白細砂・白粗砂・白粒・赤粒 焼成：硬質	No 1 0.7	胴下半部 1/4

第83表 3区 SK-64 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵系 高台付 杯	底 6.0 高 (2.9)	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのみ高台取付。	内外面とも 5Y6/1 灰	中々粗い、白粗砂 焼成：硬質	甕土中	底部～体部 下半 1/6

第84表 3区 SK-72 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	灰釉陶器 匜	高 (1.7)	口クロ仕上げ。内面の釉は緑色で薄い。外面はあまりみられない。	内外面とも 2.5Y7/1 灰白	中々緻密、灰・白・黒細砂焼成：中々硬質	埋土中	口縁部破片
2	須恵系 短頸甕	高 (1.5)	内外面ロクロナデ。	内外面とも 5Y5/1 灰	中々緻密、灰・白・黒細砂、白・黒・灰砂 焼成：中々硬質	埋土中	胴部破片
3	須恵系 短頸甕		内面無文あて具痕。外面カキ目。	内：5Y4/1 灰 外：N2/0 黒	中々緻密、白・灰・黒細砂、灰・白・黒砂 焼成：硬質	埋土中	胴部破片

第85表 3区 SK-99 出土遺物観察表

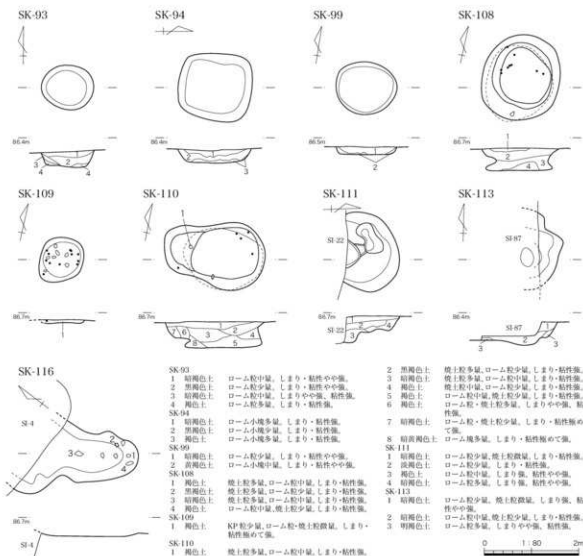
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	土師器 甕	高 (3.4)	口縁部つまミ上げ。その他磨滅のため調整不明。	内外面とも 7.5YR5/6 明 青	中々粗い、灰・白・黒細砂・赤粒 焼成：中々軟質	甕土中	口縁部 1/10

第86表 3区 SK-108 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵系 甕	厚 0.9	胴部内面無文あて具痕か。胴部外面刷格子印あて。	内：7.5YR7/3 に近い青 外：10YR7/2 に近い黄青	中々緻密、灰・白砂、灰・白細砂 焼成：中々軟質	甕土中	胴部破片
2	土師器 甕	口 (17.3) 高 (5.0)	口縁部内外面ヨコナデ及び指道押圧。胴部内面上半部ヘラケナデ。胴部外面上半部ヘラケズリ。	内外面とも 5YR5/6 青	中々緻密、白・灰細砂、黒・灰砂、雲母 焼成：中々硬質	甕土中	口縁部～胴部 上半部 1/8

第87表 3区 SK-109 出土遺物観察表

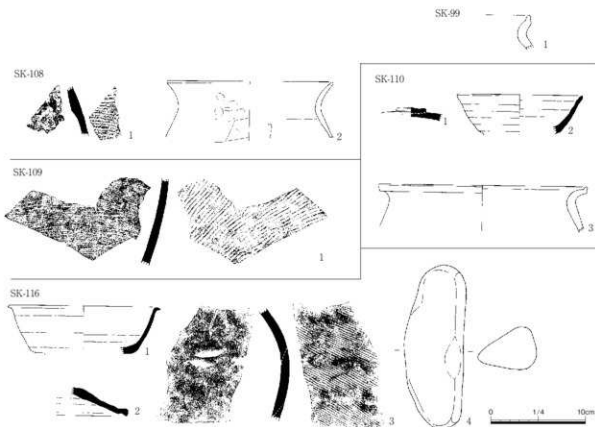
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵系 甕	厚 0.7	胴部内面細い同心円状あて具痕のちヘラケナデ(ハケ目) 胴部外面平行印あて。外面に褐色の自然釉付着。	内：2.5Y7/3 浅黄 外：7.5YR5/3 に近い青	中々緻密、白・灰細砂、白・灰砂、灰・白粒 焼成：中々硬質	甕土中	胴部破片



第202図 西刑部西原遺跡3区 土坑実測図(2)

土坑を形態別に概観すると、平面形は円形又は楕円形を呈し、比較的浅めのものが大多数を占める。このうち多くが径60～90cmと小型(SK-55・62・63・65～69, 109)で、1mを超えるもの(93・99)は少ない。この他やや大型で、底面にビットをもつもの(SK-25・111)や、オーバーハンクするもの(SK-108・110)もある。不整形な土坑(SK-113・116)も若干認められる。覆土は、埋戻しか自然堆積かは明確にできないが、明らかな人為埋戻しは確認できなかった。

遺物は概して少なく、土師器及び須恵器の破片を少量含むものが殆どである。このうちSK-62は小型だが、ほぼ完形の土師器環類が2点出土し、古墳時代終末期と考えられる。SK-116は須恵器環・蓋・甕などが出土するが、奈良時代の建物跡(SI-4)からの混入品の可能性もある。またSK-55・111・113はいずれも古墳時代後期～終末期の竪穴建物跡より古いことが断面観察から確認されている。



第203図 西刑部西原遺跡3区 SK-99・108～110・116出土遺物

第88表 3区 SK-110出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・土上 (cm)	残存
1	須恵器蓋	高 [1.3] 内径 [3.6]	大井部内面ロケロナデ。大井部外面回転ヘラケズリ後ツマミ取付。	内：2.5Y7/1 灰白 外：2.5Y6/1 黄灰	中・中緻密、白・灰・黒細砂、白砂 焼成：中・中硬質	甌土中	ツマミ2/3
2	須恵器環	口 [13.1] 高 [4.1]	内外面ロケロナデ。底部外面回転ヘラケズリ。高台部付用の接合沈線あり。	内：5Y6/1 灰 外：10Y6/1 灰	中・中緻密、白・灰・黒砂、白砂 焼成：中・中硬質	甌土中	白縁部～体部 1/7
3	土師器蓋	口 [21.8] 高 [4.8]	白縁部内外面ロケロナデ。胴部内外面磨滅のため調整不明。	内外面とも 5Y8/6 橙	中・中粗い、白・灰・砂、白・灰・黒細砂・白砂、白雲母 焼成：中・中硬質	甌土中	白縁部～胴上平部 1/6

第89表 3区 SK-116出土遺物観察表

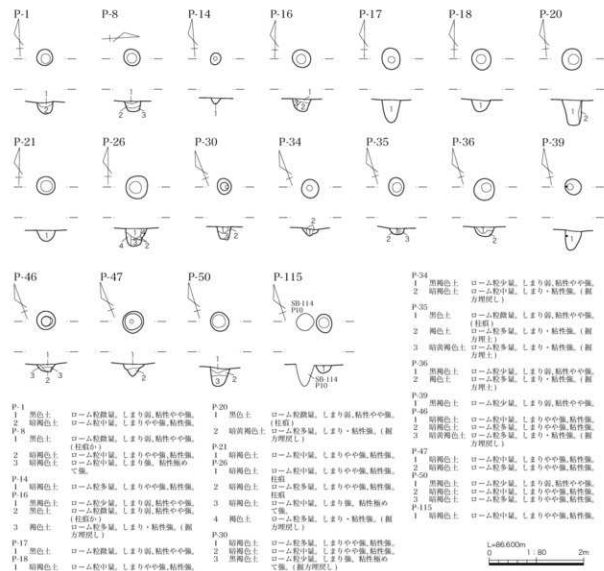
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・土上 (cm)	残存
1	須恵器高台付環	口 [15.5] 高 [4.9]	内外面ロケロナデ。白縁部端部が突出する。	内外面とも 5Y5/1 灰	中・中緻密、黒細砂、白砂、白雲母 焼成：中・中硬質	№6 6.4	白縁部 1/3
2	須恵器蓋	口 [16.0]	内外面ロケロナデ。大井部回転ヘラケズリ。	内：N6/0 灰 外：2.5GY5/1 オリーブ灰	緻密、白細砂、白雲母 焼成：硬質	№4 0.9	白縁部 1/12
3	須恵器蓋	高 [11.8] 底 0.9	内面（彫りの浅い同心円状）あて具痕。外面平行明き。	内：N6/0 灰 外：7.5Y5/1 灰	中・中緻密、白雲母、砂粒、黒色粒 焼成：硬質	№1 7.7	胴部破片
4	石部編物片	径 17.3 幅 6.3 厚 4.5 重 660.0	全面的に著しく焼熟しており、上端部は破損。3片の破片が接合。カマド軸構築材と考えられる。全面的に著しく焼熟しており、上端部は破損。3片の破片が接合。カマド軸構築材と考えられる。平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸三角形	7.5Y7/1 灰白		K141 (カマド内) 8.6	先端部 1/10 程度欠損

9. ピット

本調査区から確認されたピット（小穴）は計 18 基である。土坑と同様、遺物の出土量が少ないため明確な時期を確定できないものが殆どであるが、他遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を想定できるものもある。

ここでは土坑と同様に個別の事実記載は行わず、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめ掲載した。

ピットはその殆どが3区中央部や北側の掘立柱建物跡 SB-106 及び 114 近辺から確認されており、グリッドでは X=88.0～89.0、Y=50.5～51.0 の間に大多数が集中している。覆土は、単層で自然堆積と考えられるもの、レンズ状の堆積を示すもの、或いは掘立柱建物跡の柱穴同様に柱痕をもつものなど多様である。



第 204 図 西刑部西原遺跡 3 区 ピット実測図

第90表 3区 ビット計測表

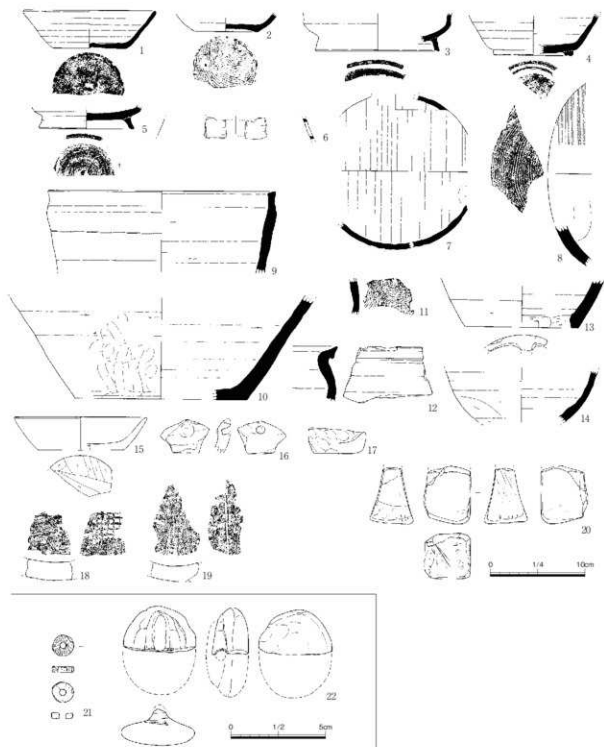
遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
P-1	89.0 51.0	円形	0.35	0.34	0.24	
P-8	89.0 51.0	円形	0.37	0.33	0.21	
P-14	88.5 50.5	楕円形	0.25	0.22	0.13	
P-16	88.5 51.0	円形	0.38	0.37	0.27	
P-17	88.5 51.0	楕円形	0.45	0.38	0.48	
P-18	88.5 51.0	円形	0.45	0.40	0.24	
P-20	88.5 51.0	楕円形	0.45	0.41	0.53	
P-21	88.5 51.0	円形	0.38	0.38	0.22	
P-26	88.5 51.0	楕円形	0.47	0.44	0.38	
P-30	88.5 50.5	楕円形	0.34	0.31	0.28	
P-34	88.5 51.0	楕円形	0.39	0.35	0.15	
P-35	88.5 50.5	楕円形	0.39	0.34	0.13	
P-36	88.5 50.5	楕円形	0.46	0.42	—	
P-39	88.0 51.0	円形	0.35	0.35	0.40	
P-46	88.0 50.5	円形	0.40	0.39	0.15	
P-47	88.0 51.0	円形	0.45	0.45	0.26	
P-50	88.0 50.5	円形	0.40	0.38	0.39	
P-115	88.0 51.0	円形	0.40	0.32	0.17	

10. 遺構外出土の遺物

明確な遺構に伴わない出土遺物をまとめた。大多数はグリッド位置などの記載があるが、中には明確な出土位置が判別できないものも含まれる。遺物は計22点を図示し、詳細は遺物観察表に記載した。このうち特徴のある遺物について追記することとした。

第91表 3区 遺構外出土遺物観察表

図録番号	遺物	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	現存
1	須恵器 環	口 113.8 底 7.4 高 14.0	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切り。	内外面とも 7.5Y4/1 灰	中・中黄褐色～ 黄褐色・黄褐色 焼成：硬質	38.5-51.5 表層	口縁部 1/3、底部 1/2
2	須恵器 環	底 6.6 高 12.0	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切り。	内外面とも 5Y6/1 灰	中・中黄褐色、白・ 白粉砂 焼成：中・中硬質	88.5-31 上	胴部一部
3	須恵器 高台付 杯	底 112.8 高 14.0	ロクロナデ。底部外面回転ヘラズリのち高台貼付。 高台部～胴部外面に薄く自然磨り着。	内外面とも 2.5Y6/1 黄灰	中・中黄褐色、白・ 灰・黒粉砂 焼成：中・中硬質	89-51.5 上 面	底部 1/5
4	須恵器 高台付 杯	底 8.1 高 4.3	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラズリのち高台貼付。	内：2.5Y5/2 暗灰黄 外：2.5Y3/1 黒灰	中・中黄褐色、白粉砂～ 黄褐色・硬質	88-49.5 上 面	底部 1/4
5	須恵器 高台付 杯	径 10.4 高 3.1	内外面ロクロナデ仕上げ。底部外面回転ヘラ切りのち回転ヘラズリのち高台貼付。高台接合部段台状線あり。底部外面磨面顕著。転出品か。	内外面とも N5/0 灰	中・中黄褐色、白粉砂 焼成：硬質	84.5-49 上 面 S 60, 61	底部 1/2
6	須恵器 円面碗	厚 0.4	透壁の薄板。方形と考えられる透かしの一部とタナ位 (ややナメ) 沈線の一部が残る。外面には磨り残りの自然磨り着付着。3区 SX-21-37 と同一個体。	内：10YR3/2 黒褐色 外：7.5YR3/3 暗褐色	磁赤、白・透明磁片、白 粉砂 焼成：硬質	89-48	製破片
7	須恵器 轆轤	径 10.4	内外面ロクロナデ。胴部外面回転ヘラズリか。蓋部分は接合部より剥離。口縁部 (頸部より上) は欠損するが、底部内面に粘が付着している。このため強部厚の還元が可能なもの。種別の形態を有する。	内外面とも 2.5Y7/2 灰黄	中・中黄褐色、白・灰・黒 粉砂 焼成：中・中硬質	89.5-46.5、 89.5-46 上	胴部 1/8
8	須恵器 埴輪	径 119.2 高 10.6	内面無文突起。外面平片目。	内外面とも N4/0 灰	中・中黄褐色、白粉砂 焼成：硬質	№5 89.5-45.5	胴部 1/5
9	須恵器 鉢	口 23.6 高 8.4	輪縁 (紐づくり) あり。内外面ロクロナデ。頸部は小さくくびれる。口縁部下端は平円で内側が状を呈す。	内外面とも 10Y4/1 灰	中・中黄褐色、白・灰・黒 粉砂～ 黄褐色・硬質	笠原トレン チ 85.5 軌 内	口縁部 1/4
10	須恵器 甕	底 118.0 高 10.6	内外面ロクロナデ。底部外面ヘラナデ。輪縁あり。	内：7.5Y6/1 灰 外：5Y6/2 灰オリーブ	靱い、白・灰粉砂～ 黄褐色・硬質	85.5-52.5	底部 1/4
11	須恵器 甕	高 14.7	内面調整不明。外面同心円状突起あり。	内：2.5Y6/3 に近い黄 外：2.5Y5/2 暗灰黄	中・中黄褐色、透明・黒・白 粉砂 焼成：中・中硬質	89-47.5 上	製破片
12	須恵器 鉢	高 5.7	内外面ロクロナデ。	内：7.5Y5/1 灰 外：7.5Y4/1 灰	中・中靱い、白・灰・黒 粉砂～ 黄褐色・硬質	89-50.5 上	口縁部～胴 部破片
13	須恵器 轆	底 112.0 高 14.8	内外面ロクロナデ。胴部外面回転ヘラズリ。底部外面回転ヘラズリのちヘラズリにより穿孔。	内：10Y5/1 灰 外：7.5Y5/1 灰	中・中黄褐色、灰・白 粉・黒粉砂 焼成：中・中硬質	89.5-46.5	底部 1/6



第205図 西刑部西原遺跡3区 遺構外出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物

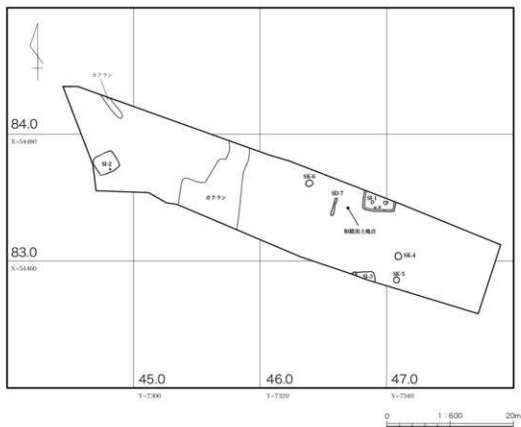
14	須恵器 飯類	高	[5.9]	内面ロクロナデ。胴部外面上平ロクロナデ。胴部外面ト平回転ヘラケズリ。底部がやや厚いためフラスコ瓶の可能性あり。湖西産か。	内外面とも 2.5Y7/2 灰青 黄緑	緻密、黒細砂 焼成：硬質	89.5-46.5 上面、 89.5-47 上 面	胴下部 1/4
15	土師器 杯	口 径	(13.8) (9.0)	体部外面～内面全面カキ目状のロクロナデ。底部外面多方向ヘラケズリ。	内外面とも 7.5YR8/6 浅 黄緑	緻密、赤粒 焼成：硬質	88.5-51 上 面	口縁部一部、 体部～底部 1/4
16	土師器 器種不 明	径	[4.8] [3.5]	内外面ヘラナデか。径 6.5 mmほどの竹管状工具で左ナデメと方から穿孔。内面はやや突出するが未貫通。口縁部附近の破片か。胎土のキメは粗かく、鉢または甌の可能性あり。	内外面とも 7.5YR5/4 に 近い間	やや緻密、白細砂 焼成：やや軟質	89.5-45.5	口縁部一部
17	土師器 手捏ね 土器	口 径	5.7 底 5.0 高 2.7	内外面歯状押印痕のちナデ。底部外面ナデか。	内外面 5YR6/6 橙	やや緻密、白・黒細砂、 赤粒 焼成：やや硬質	89-51.5	口縁部 3/4
18	女瓦	長 幅 厚 重	[8.7] [8.2] 2.1 [29.0]	凸面が格子印。凹面が布目紋。	7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・灰・黒細 砂、灰・黒砂 焼成：やや硬質	甌土甲	部分残存
19	女瓦	長 幅 厚 重	[5.7] [4.9] 1.9 [65.0]	凸面がヘラナデ。凹面が布目紋。	10YR6/4 に近い黄緑	粗い、白・灰・黒細砂～ 橙 焼成：やや軟質	88.5-48 上 面	部分残存
20	石器 砥石	長 幅 厚 重	5.9 4.9 4.7 162.0	中央部付近で折損したものか。計 5 面の砥面が認められる。 平面形：長方形 断面形：方形か	2.5Y8/2 灰白	凝灰岩	No 1	平存
21	石製品 白玉	長 幅 厚 孔	1.1 1.1 0.31 0.31-0.33	表面は割縁～中央部にかけて放射状のケズリを備す。裏面は未加工。孔は裏面から穿孔したものか。割面の研削は縁かに見られるが極めて浅く不明瞭。	7.5Y5/1 灰	粘板岩	87.5-51、 SI-4 東側	ほぼ完好
22	土製 模造品 (鏡形)	長 幅 厚 重	[2.4] 3.8 [1.9] 10.2	ハンバーグ状に全体をナデ成形したのち銚をつまみ出している。銚は長軸方向に縦長く、中央の孔は左右両方向から穿孔される。半分のみ残存。平面形は楕円形か。	7.5YR7/4 に近い間	やや緻密、白細砂 焼成：やや軟質	89.5-47.0	約 1/2

須恵器類は、杯（1・2）、高台付杯（3～5）、円面甌（6）、瓶類（7・8・14）、鉢（9・12）、甕類（10・11）、甌（13）などがある。6は3区SX-21で出土した円面甌脚部と同一個体の可能性が高い。7は須恵器フラスコ瓶。底部内面に付着する自然軸から頸部の位置が判明し、図上復元が可能となった。1は多孔式の須恵器甌、本調査区ではSI-54から同様の甌が出土している。14は湖西産の瓶類。胴部下端には回転ヘラケズリが見られる。フラスコ瓶の可能性もある。16は器種不明の土師器口縁部破片。外面から棒状工具で深く押圧するが、貫通していない。18・19は女瓦の小破片。本調査区ではSK-45の他SI-42・45から瓦が少量出土する。21は粘板岩製の白玉。上面には深い放射状の削り痕が顕著である。22は本遺跡で唯一出土した鏡形の土製模造品。中央部で破損するが、おおその形は推定できる。銚は縦長で一体成形。両側から穿孔している。

近接する立野遺跡5区SI-08及び遺構外から計5点が出土しており、これらは古墳時代後期に位置付けられている。立野遺跡例は平面円形を呈し、鈕の形状がやや短い。また孔は片面からの穿孔が多いなど、若干の相違点が見られる。

第4節 4区の遺構と遺物

本調査区は遺跡西部に位置する。西の低地に向かい緩やかに傾斜しており、遺構密度の低い区域となっている。調査された遺構は、竪穴建物跡3棟、溝1条、土坑3基が確認されたのみである。本調査区の北西には宇都宮調査区が位置するが、こちらの遺構密度もやや疎らである。



第206図 西刑部西原遺跡4区 全体図 (S=1/600)

1. 竪穴建物跡

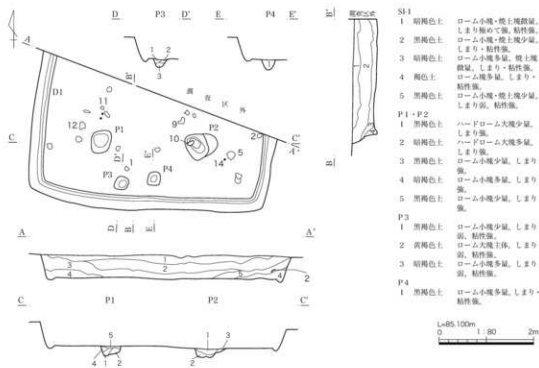
4区 SI-1 (遺構：第207図、遺物：第208・209図、図版二九・九九)

位置 グリッド 83.0-46.5・83.0-47.0・83.5-46.5 重複遺構 無し。平面形 方形もしくは長方形 (北半部は調査区外) 規模 東西5.04×南北3.0m以上 主軸方向 N-6.5°-E (推定値) 覆土 暗褐色土・黒褐色土主体の4層からなる。自然堆積。壁 42.0～50.9cm残る。床 ローム地山を床面とする。概ね平坦。

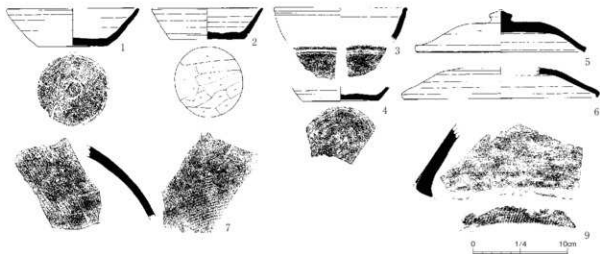
柱穴 P1 (径48～40cm、深さ48cm)、P2 (径68～56cm、深さ48cm) はいずれも浅く、柱痕は残っていない。入口ピット P3 (径約30cm、深さ22cm)、P4 (一辺28cm、深さ18cm) 共に南壁際に位置する。

壁溝 D1 (幅20～32cm、深さ56cm) 南半部では壁際を全周する。カマド 調査区外に存在する可能性が大きい。遺物 須恵器環 (1～4)、須恵器蓋 (5・6)、甕 (7～12)、土師器甕 (13)、碁石 (14)

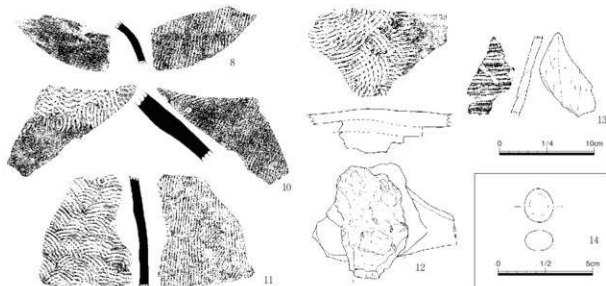
などがある。1の須恵器坏の底部外面にはヘラ記号が見られる。3は内面に凹線、外面には2条の沈線が見られる。新羅系土器の可能性が高い。9は頸頭部の接合剥離面に研磨痕がある。細かな凹凸をヤスリ或いは砥石として再利用したものか。不掲載遺物のうち、土器類は少コンテナ1箱弱。礫は5.9kgほど出土している。遺物から奈良時代後葉（8世紀後葉）の建物跡と考えられる。



第207図 西刑部西原遺跡4区 SI-1実測図



第208図 西刑部西原遺跡4区 SI-1出土遺物(1)



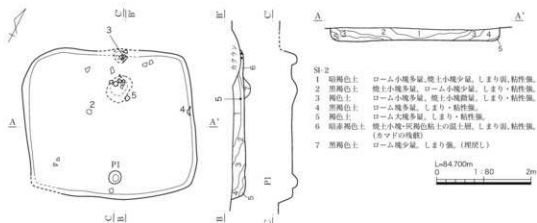
第 209 図 西刑部西原遺跡 4区 SI-1 出土遺物(2)

第 92 表 4区 SI-1 出土遺物観察表

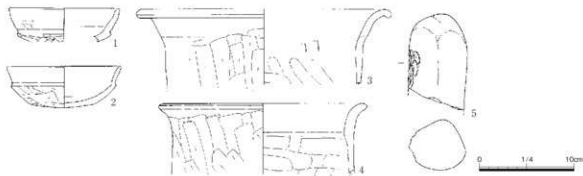
図録番号	器種	法量(m/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・土層(m)	残存
1	須恵部 坪	口 (13.7) 底 7.3 高 4.0	内外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。ヘラ 記号あり。	内外面とも 2.5Y8/2 灰白	中今敏赤、白・黒細砂、灰・ 黒細砂、赤粒 焼成：中今敏赤	№ 11、南 西 14.1	口縁部1/8、 底部完存
2	須恵部 坪	口 (11.4) 底 7.8 高 3.3	内外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切りのち多方向ヘラ ケズリ。	内：5Y6/1 灰 外：5Y7/1 灰白	中今敏赤、白・黒細砂・ 砂、黒粒 焼成：硬質	№ 22 15.0	口縁部1/4、 底部完存
3	須恵部 坪	口 (13.8) 底 (3.4)	内外面ロクロナデ。口縁部外面直下に二条の浅線あり。 口縁部内面浅い凹線あり。外面一部黒色の自然粘付着。 新藤系土跡か。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：2.5Y6/2 灰黄	中今敏赤、白・灰細砂、白・ 灰細砂 焼成：軟質	南西	口縁部破片
4	須恵部 坪	底 7.8 高 [2.0]	内外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切りのち回転ヘラケ ズリか。体部下回転ヘラケズリ。	内外面とも N5/0 灰	中今敏赤、白・灰・黒細 砂、白・灰・黒粒 焼成：硬質	南西	底部2/3
5	須恵部 蓋	口 17.6 底 4.3 径 2.4	内外面ロクロナデ。大開口部回転ヘラケズリのちツ マミ跡付。ツマミは宝珠形を呈する。	内外面とも 5Y6/1 灰	中今敏赤、白・黒・灰細 砂、白砂、白・黒粒 焼成：硬質	№ 19、南 東 11.1	口縁部5/6
6	須恵部 蓋	口 (20.4) 高 [3.2]	内外面ロクロナデ。大開口部回転ヘラケズリのちナデ。 重七階きの痕跡あり。	内：5C4/1 暗緑灰 外：5G5/1 緑灰	中今敏赤、白・灰細砂、白・ 灰細砂 焼成：中今敏赤	南東、南西	口縁部へ体 部1/2、ツ マミ欠損
7	須恵部 費	厚 1.0	内面ロクロナデのち平行あて具痕。外面平行叩き。	内外面とも 2.5Y8/1 黄 灰	中今敏赤、白・黒細砂、白・ 灰細砂 焼成：硬質	南東	口縁部一部 破片
8	須恵部 費	厚 0.8	内面無文あて具痕。外面平行叩きのち浅い横位の浅線。	内：2.5Y6/2 灰黄 外：5Y6/1 灰	中今敏赤、白・黒細砂、白・ 黒細砂 焼成：硬質	南西	口縁部一部 破片
9	須恵部 費	口 (37.0) 高 [7.8]	口縁部内外面ロクロナデ。口縁部に6条以上の波状文。 口縁部外面の平行叩きを正装をヤスリ(砥石)として 処理したものか。平滑である。	内：N6/0 灰 外：N4/0 灰	中今敏赤、白細砂、白・ 黒細砂、白粒 焼成：硬質	№ 15 21.7	口縁部一部 破片
10	須恵部 費	厚 2.0	内面同心円状のあて具痕。外面磨格子叩き。	内：2.5Y7/1 灰白 外：2.5Y5/1 黄灰	中今敏赤、白・黒細砂、 白粒 焼成：硬質	№ 16 27.5	口縁部一部 破片
11	須恵部 費	厚 1.5	内面同心円状のあて具痕。外面平行叩き。	内：7.5Y5/1 灰 外：N5/0 灰	中今敏赤、白・灰細砂、白・ 灰細砂、白粒、赤・白粒 焼成：硬質	№ 2 8.7	口縁部破片
12	須恵部 費	厚 4.6	須恵部費内面同心円叩き。外面平行叩き。焼台が付着 したまま流通した須恵部費の破片と考えられる。	内外面とも 5Y7/1 灰白	中今敏赤、白細砂、灰・黒 白砂、白粒 焼成：硬質	№ 7 14.9	底部破片
13	土師部 費	厚 0.9	内面白の粗い糸織風のハケ目。外面タテヘラケズリ。	内外面とも 5Y8/5-6 明赤 粒	中今敏赤、白・灰・黒細 砂、黒・白・灰粒、赤粒 焼成：中今敏赤	南西	口縁部破片
14	石製品 砂石か	長 1.3 幅 1.5 厚 1.1 重 3.6	平面形、断面形とも楕円形の自然礫。	5Y8/1 灰白	石英	№ 18 5.4	完存

4区 SI-2 (遺構: 第210図、遺物: 第211図、図版二九・九九)

位置 グリッド83.5-44.5 重複遺構 無し。平面形 北東隅が丸みをもつ方形。規模 東西3.47×南北3.11m 主軸方向 N-35°-W 覆土 自然堆積か。壁 壁高は20.4～28.7cm残る。床 ローム地山を床面とし、概ね平坦。柱穴 確認できなかった。入口ピット P1 (径約28cm、深さ9cm)は南壁際中央部に位置。貯蔵穴 未確認。カマド 北壁中央やや東寄りに位置するが、擾乱により痕跡を残すのみである。遺物 少ないが床面付近の遺物を中心に図示した。小型の土師器環・甕、編物石破片などがある。3の甕はカマド跡から出土する。不掲載遺物は土器類が小コンテナ約1/5箱出土した。遺物から古墳時代終末期の建物跡と考えられる。



第210図 西刑部西原遺跡4区 SI-2実測図



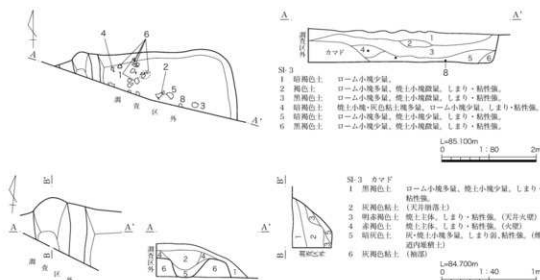
第211図 西刑部西原遺跡4区 SI-2出土遺物

第93表 4区 SI-2出土遺物観察表

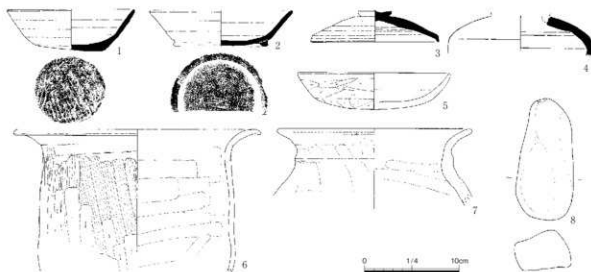
掲載番号	図略	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	土師器環	口 (11.3) 高 (3.6)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラナデのちヘラケズリ。	内外面とも 10YR7/4 に 近い黄緑	中・中硬質。黒・白砂 焼成: 中・中硬質	北西	口縁部 1/5
2	土師器環	口 (11.8) 高 4.4	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。 口縁部一部黒炭あり。口縁部外面～体部内面磨仕上げ。	内: 10YR8/4 浅黄緑 外: 7.5YR7/6 橙	中・中硬質。黒・黒砂。黒炭。 赤粘 焼成: 硬質	№3、北西 2.1	口縁部 3/8、底部 3/4
3	土師器甕	口 (25.6) 高 (8.0)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ及びナメナデ。胴部外面タテヘラケズリ。	内外面とも 5YR8/8 橙	中・中硬質。灰・透明・黒炭 焼成: 中・中硬質	№13、北 東 2.2	口縁部～胴 部 1/4
4	土師器甕	口 (21.0) 高 (7.7)	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部～胴部外面タテヘラケズリのちナメヘラケズリ。胴部内面ヘラナデあるいはナデか。口縁部直下～胴部は黒色を呈する(ヌスカ)。	内: 10YR7/4 に近い黄緑 外: 7.5YR7/6 橙	中・中硬質。灰・黒・白砂。 灰・黒炭 焼成: 中・中硬質	№17 3.0	口縁部～胴 部 1/4
5	石器 編物石	長 (9.4) 幅 6.1 厚 5.2 重 (440.4)	左側面には両面からの鈔線が集される。 平面形: 楕円形か 断面形: 不整な圓丸三角形	2.5Y7/2 灰黄	—	№4 1.8	部穴

4区 SI-3 (遺構: 第212図、遺物: 第213図、図版二九・九九)

位置 グリッド 82.5-46.5 重複遺構 無し。平面形 隅丸方形か。規模 東西残 3.35 m以上×南北 1.3 m以上。覆土 自然堆積 壁 壁高は最深部で 58.5 cm。床 概ね平坦で貼床無し。柱穴・貯蔵穴 未確認。カマド 北壁に位置し壁際を半円形に浅く掘り込む。遺物 覆土下層からの出土が多い。1・2の底部外面にはスノコ状の圧痕あり。3の須恵器蓋はリング状のツマミをもつ。須恵器瓶類(4)は肩部がや丸みを帯びる。土師器は坏・甕などがある。6は上半部をハケ成形した後、下半部にヘラケズリを施している。不掲載遺物は土器が小コンテナ約 1/5 箱出土した。遺物から奈良時代前葉(8世紀前葉)の建物跡と考えたい。



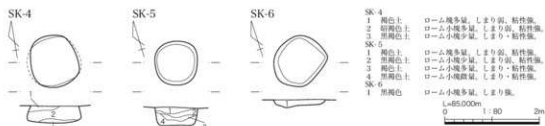
第212図 西刑部西原遺跡4区 SI-3実測図



第213図 西刑部西原遺跡4区 SI-3出土遺物

3. 土坑

土坑は計3基確認された。遺物量が少なく帰属時期を明確に出来ないが、概ね集落の時期に近いと考える。詳細は個別に記載せず第96表に示した。平面形は不整な円形及び楕円形を呈し、断面形は皿状・筒状・オーバーハングする。覆土はいずれもローム塊を多量含むが、レンズ状堆積のSK-5は自然堆積と考えられる。



第215図 西刑部西原遺跡4区 土坑実測図

第96表 4区 土坑計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
SK-4	83.0-47.0	楕円形	1.12	0.98	0.37	
SK-5	82.5-47.0	円形	0.93	0.9	0.39	
SK-6	83.5-46.0	楕円形	1.15	1.03	0.15	



第216図 西刑部西原遺跡4区 SK-4出土遺物

第97表 4区 SK-4出土遺物観察表

図録番号	図種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	銅製器 鏡	厚 0.8	内面ナデあるいは無文アテ具装。外面平行叩き。	内：7.5Y4/1 灰 外：N4/O 灰	中～微密、白・透明・灰 粗砂～硬 焼成：硬質	覆土中	銅製破片

4. 遺構外の出土遺物 遺物：第217図、図版二九・一一六・一一七

4区調査区北部中央やや東寄りの遺構確認作業中に鏡面を上に向けた状態で出土した。周辺を入念に精査したが、遺構の平面プランや伴遺物は確認出来なかった。本遺跡では和鏡以外の中世の遺物・遺構は確認できず、単独の出土といえる。ローム面まで掘り込まれない墓坑が存在した可能性もあるが、詳細は不明である。遺物は完形品で、直径 11.5 cm、縁厚 9 mm、紐部分の厚さは 7.5 mm、最も薄い無文部の厚さは 1～1.5 mm、断面カマボコ状の界隈及び蝶・雀の隔刻部分はやや厚く 2～2.5 mm である。向かい合う雀は躍動的なに対し、蝶は画的で動きに乏しい。蝶は一見全く判で押したようだが、一匹ずつ微妙に異なる。雀・蝶は先端が丸みをもつ棒状またはヘラ状工具で表現されたと考えられる。鏡面の縁銘が無い部分は平滑で、色調は鉛色に近い。鏡面を研磨した後施した錫メッキが残存しているためか、13世紀前半から中葉の鏡の特徴をもつ。

第98表 4区 遺構外出土遺物観察表

図録番号	図種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	銅製品 和鏡 (部鏡双 葉鏡)	径 11.5 厚 0.9 重 236.0	縁銘のため全体的に緑色を帯びるが鏡面は藍色を帯び僅かに光沢を残す。紐は花紋漆絵で、乳は鏡のため日詰まりする。紐の周りは向かい合う2匹の雀と4匹の蝶が見られ、更に界隈との間に10匹、外区に13匹の雀を配している。鎌倉時代の遺物。	鏡面：7.5GY3/1 暗緑灰	青銅か	遺構確認面	完存

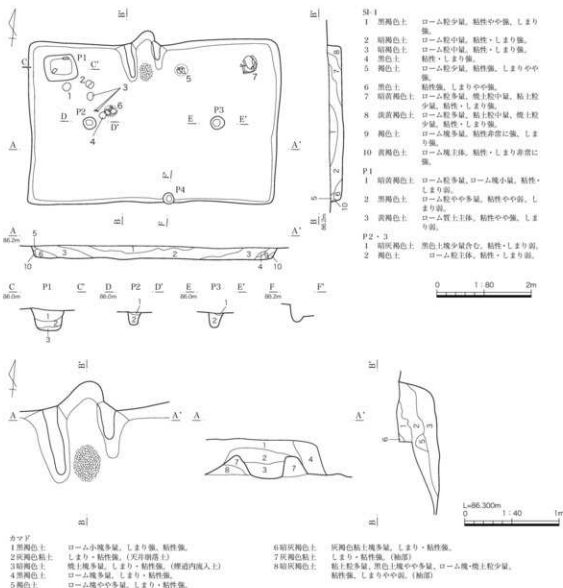


第 217 図 西州郡西原遺跡 4 区 遺構外出土 群蝶双雀鏡

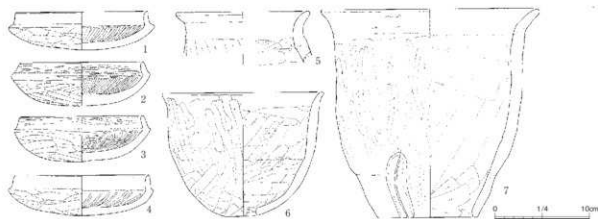
1. 竪穴建物跡

5区 SI-1 (遺構：第219図、遺物：第220図、図版三一・九九)

位置 グリッド 85.0-52.5・85.5-52.5 重複遺構 無し。平面形 東西軸の長方形 規模 東西5.2×南北3.4m 主軸方向 N-5.5°-W 覆土 自然堆積 壁 17.8～30.8cm 床 ローム面を床面とする。概ね平坦。柱穴 P2 (径27cm、深さ27cm)、P3 (径約30cm、深さ30cm)の2本が確認される。柱痕は未確認。入口ピット 南壁中央部に位置する。貯蔵穴 P1 (長軸67×短軸54cm、深さ44cm)は不整な長方形を呈する。カマド 北壁中央部を不整なU字状に掘り込む。燃焼部には厚く焼土が堆積する。遺物 いずれも床面付近から土師器環(1～4)・甕(5)・甕(6・7)が出土した。土師器環は内面に放射状のミガキが施され器高がやや高い。7の甕は底部から生じた縦の亀裂に粘土を貼付け補修している。不掲載の土器類は土師器環・甕類が主体で、小コンテナ約1/5箱である。遺物から古墳時代後期後葉の建物跡と考えられる。



第219図 西刑部西原遺跡5区 SI-1実測図



第220図 西刑部西原遺跡5区 SI-1出土遺物

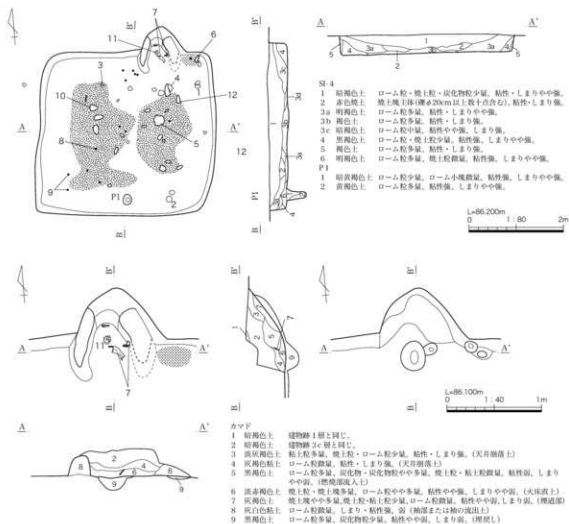
第99表 5区 SI-1出土遺物観察表

図録番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・表材・焼成	出土位置・残上 (cm)	残存
1	土師器 環	口 13.8 高 4.0 径 15.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面放射状ヘラミガキ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内: 5YR4/6 赤黒 外: 7.5YR3/1 黒陶	やや粗い、白粉砂、赤・黒粒 焼成: 中々軟質	No.2 1.3	口縁部 1/2、底部 完存
2	土師器 環	口 12.8 高 4.7	口縁部内外面ヨコナデのちヘラミガキ。体部外面放射状のちヘラミガキ。体部内面放射状ヘラミガキ。全面漆仕上げ。	内: 7.5YR6/6 橙 外: 7.5YR7/6 橙	やや粗い、白・灰・黒細砂～粗砂 焼成: 中々硬質	No.4 2.5	ほぼ完存
3	土師器 環	口 12.6 高 5.0 径 14.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデのちヘラミガキ。体部外面ヘラケズリ。一部黒陶あり。	内: 5YR6/6 橙 外: 7.5YR7/6 橙	中々緻密、白・黒細砂、黒粒、赤粒 焼成: 中々硬質	No.5・6 1.0 (No.5)	口縁部～体部 1/2
4	土師器 環	口 (13.0) 高 4.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面放射状のミガキ。体部外面上半部指頭押圧。下半部ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	中々緻密、白・黒・灰粉砂、灰・白・黒粉砂 焼成: 中々硬質	No.7 2.2	口縁部～体部 1/2
5	土師器 甕	口 13.7 高 [3.5]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面上半部ヘラケズリのちヘラナデ。胴部外面斜めヘラケズリ。ふみが大きく粗面なつくり。外周一部に粘土(カサリ黒陶材)付着。	内外面とも 10YR7/4 に 近い黄緑	中々粗い、灰・白・黒粉砂、赤粒 焼成: 中々硬質	No.2 1.3	口縁部～胴部 1/2
6	土師器 甕	口 16.8 高 13.0 底 3.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ(ナデケズリあり)のちナメヘラナデ。胴部内面ヨコヘラナデのち上半部ナメヘラナデ。孔は単孔でヘラケズリにより穿孔。	内外面とも 5YR6/6 橙	中々緻密、黒粉砂、赤粒 焼成: 硬質	No.8 3.5	完存
7	土師器 甕	口 21.6 底 10.5 高 22.0 径 23.0	単孔の甕。胴部外面タテヘラケズリのち太目のヘラミガキ。胴部内面ナメヘラナデのち上半部ヨコヘラナデ。下半部ヘラケズリ。孔はヘラケズリにより穿孔。外周の黒陶は焼成時のものか。下部部に焼成前の甕の地輪痕がみられる。	内外面とも 7.5YR6/8 橙	中々緻密、白・灰粉砂 焼成: 中々軟質	No.1 4.2	口縁部はほぼ 完存、底部 1/2

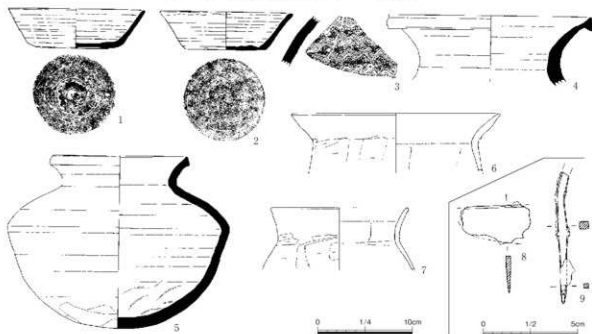
5区 SI-4 (遺構: 第221図、遺物: 第222・223図、図版三一・九九・一一二・一一三)

位置 グリッド 84.5-51.0 重複関係 無し。平面形 隅丸方形、特に北西・南東隅が丸みをもつ。規模 東西 3.72×南北 3.45 m 主軸方向 N-7.5°-E 覆土 埋没途中で、焼土及び多量の礫が廃棄された様子がうかがえる。壁 壁高 29～41 cm 床 ローム地山を床面とし、概ね平坦である。入口ピット P1 (径 22～18 cm、深さ 41 cm) は南壁際中央部に位置する。貯蔵穴 確認できなかった。カマド 北壁東寄り位置する。煙道は奥壁をV字状に掘り込み、約 37°と緩やかに立ち上がる。袖は灰褐色粘土で構築されるが、残りは良くない。火床面から煙道部にかけて焼土が堆積し、7の土師器甕、10の支脚が出土した。

遺物 須臾器類が比較的多い。1・2は床面直上の須臾器環。底部外面はいずれも回転ヘラ切りである。3～5は須臾器甕、5は焼け歪みが大きく、底部外面に焼台が付着する。この他土師器甕(6・7)、手鎌(8)、鉄鎌(9)、被熱礫(10～12)がある。不掲載の土器類は土師器環・甕類が主体で、小コンテナ約 1/5 箱弱である。礫の重量は 24.2 kg に及ぶ。遺物から奈良時代後葉の建物跡と考えられる。



第221図 西刑部西原遺跡5区 SI-4実測図



第222図 西刑部西原遺跡5区 SI-4出土遺物(1)



第223図 西刑部西原遺跡5区 SI-4出土遺物(2)

第100表 5区 SI-4出土遺物観察表

図録番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	粘土・焼成・素材	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵器 坪	口 14.2 底 8.4 高 4.2	内外面ロクロナデ。底部外面回転へう切りのちナデ。	内：10Y5/1 灰 外：N6/0 灰	やや緻密、白粉砂、白磁 焼成：硬質	№9 床直	口縁部～体 部3/4、底 部完存
2	須恵器 坪	口 13.8 高 4.0 径 14.0	内外面ロクロナデ。底部外面回転へう切りのちナデ。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：2.5Y7/1 灰白	やや緻密、白・透明・灰粗砂、 灰塵、空白片 焼成：やや硬質	№10 床直	口縁部～体 部3/4、底 部完存
3	須恵器 甕	厚 1.0	内面ナデ。外面屈成状文。	内外面とも N4/0 灰	やや緻密、白・灰粗砂、 白磁 焼成：硬質	№4 12.5	胴部破片
4	須恵器 甕	口 (21.2) 高 [7.3]	内外面ロクロナデ。口縁部内面オリープ色の自然釉。 外面の釉は剥落している。	内：5Y7/2 灰白 外：5Y7/1 灰白	やや緻密、白・灰・黒細砂 ～砂、白・灰塵 焼成：硬質	№22 8.0	口縁部 1/4
5	須恵器 甕	口 (13.8) 高 (18.2) 径 (23.3)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。底部内面無文である。口縁部内面及び底部内面及び胴部に分厚く降灰がみられる。底部外面には焼き付(須恵器付着)付着。焼け込みが大きい。	内外面とも N6/0 灰	粗い、白・灰塵 焼成：硬質	№27 4.2	口縁部 1/3、胴部 ～底部完存
6	土師器 甕	口 (21.8) 高 [6.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面へラナデ。胴部外面ヨコへラナデ。	内外面とも 5YR5/6 明赤 紅	やや緻密、白・灰・透明 粗砂、透明粗砂 焼成：やや硬質	№6 0.8	口縁部～胴 部 1/4
7	土師器 甕	口 (14.3) 高 [6.5]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面へラナデ。胴部外面ヨコへラナデ。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、白・黒・透明 粗砂 焼成：やや硬質	№49・50 2.3 (№ 50)	口縁部～胴 部 1/2
8	鉄製品 平鏡か	径 [3.4] 厚 1.4 幅 0.2 重 [4.7]	刀の断面は平造り。縁は角縁で縁幅約 2.0 mm。孔は確認できないため月子の可能性もある。	—	鉄製	№3 29.3	部分残存
9	鉄製品 鉄線	径 6.9 幅 0.5 厚 0.3 重 4.9	縄段城の長直線。頸部の断面形は長方形。茎には縄縷を巻付けた痕跡あり。	—	鉄製	№1・2 14.1 (№1)	頸部～茎部 残存
10	石器 編物石	径 24.9 厚 11.1 重 504.1	表面に褐色付着物(漆か)。未加工の自然産。断面形：楕丸三角形	5G7/1 明オリープ灰	—	№8 17.7	完存
11	石器 編物石	径 16.2 幅 8.0 厚 7.2 重 1367.0	上半部は帯状にタール状物質付着。下半部は炭素により部分的に水化。平面形：不整な楕円形 断面形：楕丸三角形	10YR7/6 明黄褐	—	№52、カ マド 4.6 (№ 52)	ほぼ完存
12	石器 編物石	径 14.7 幅 10.8 厚 7.9 重 237.0	未加工の自然産。塊土およびタール状物質付着。支脚か。平面形：不整な楕円形 断面形：楕丸三角形	10YR7/4 に近い黄褐	—	№23 5.0	ほぼ完存

5区 SI-5 (遺構: 第224図、遺物: 第225・226図、図版三一・三二・九九・一〇〇・一一三)

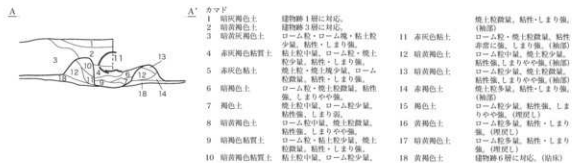
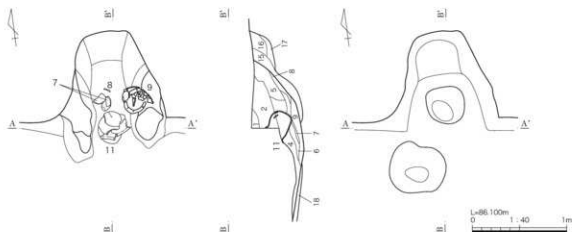
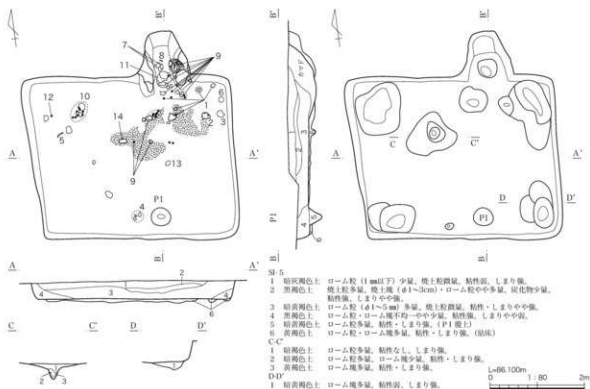
位置 グリッド84.0-50.5 平面形 隅丸長方形 規模 東西4.21×南北3.42m 主軸方向 N 6.5° - E

覆土 自然堆積 壁 27~38cm 床 概ね平坦。全面的に貼床あり。 入口ピット P1(径40~39cm、深さ25cm)は南壁際に位置する。 掘方 四隅に土坑状の掘り込みあり。ローム塊主体の覆土で埋戻される。

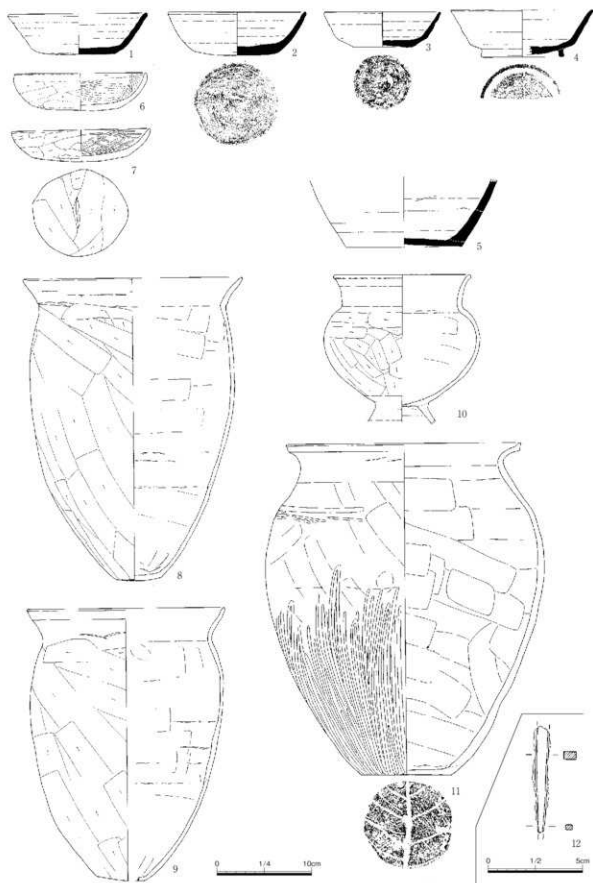
カマド 北壁東寄りに位置し、壁際を台形状に掘り込む。燃焼部から土師器環(7)・裏(9・11)が出土する。 遺物 中層から上層に遺物(特に礫)が多い。図示した遺物は床面付近の出土で、須臾器環類(1~4)・瓶類(5)、土師器環(6・7)、土師器裏類(8~11)、鉄製品(12)、礫(13・14)がある。土師器裏は武蔵型(8・10)、常総型(11)が多い。不掲載の土器は土師器裏類が主体で、少量の環類がこれに続き、その総量は小コンテナ約1/4箱である。礫の重量は18.8kgに及ぶ。遺物から奈良時代中葉の建物跡と考えられる。

第101表 5区 SI-5 出土遺物観察表

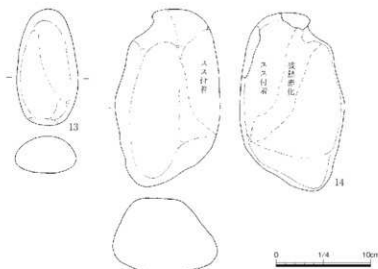
掲載番号	部材	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置・床土(cm)	残存
1	須臾器環	口 14.6 底 7.6 径 4.3 径 14.8	内外面口コナナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。全体に赤みを帯びる。	内: 10YR7/6 明黄褐色 外: 10YR5/4 に近い赤褐色	中々粗い。白・黒細砂〜礫 焼成: 中々硬質	№21-22、35-38 12.3 (№33)	口縁部3/4、底部完存
2	須臾器環	口 14.3 底 8.5 径 4.6	内外面口コナナデ。底部外面回転ヘラケズリ。外面黒褐色の付着物。ススあるいは漆。	内外面とも7.5Y7/1 灰白	粗粒。白細砂。黒礫 焼成: 硬質	№34 床直	ほぼ完存
3	須臾器環	口 12.0 底 5.9 径 3.7	内外面口コナナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。底部内面及び外部内面磨滅のため平滑である。	内: 10Y4/1 灰 外: 7.5R4/3 に近い赤褐色	中々緻密。白細砂〜礫 焼成: 硬質	№35 床直	口縁部〜体部3/4、底部完存
4	須臾器高付付環	口 (14.8) 底 (8.6) 径 5.0	内外面口コナナデ。底面回転ヘラケズリのち高台割付け。底部外面へうり切あり。	内外面とも7.5Y5/1 灰	中々緻密。白・灰・黒細砂。白・黒礫 焼成: 硬質	№9 16.4	口縁部1/4、底部1/3
5	須臾器瓶頸	高 17.3 厚 12.4	内外面口コナナデ。底面停止ヘラ切りのち不定方向のナデ。	内: 2.5Y6/1 黄灰 外: 2.5Y5/1 黄灰	中々緻密。白・黒細砂〜砂。白・黒礫 焼成: 硬質	№5 30.4	底部〜胴部 下1/2
6	須臾器環	口 13.8 高 3.9	内面ヘラミガキ。口縁部外面ヨコナデ。	内外面とも5YR5/8 橙	粗粒。白・黒細砂。赤粘質土・赤土 焼成: 硬質	№36 床直	ほぼ完存
7	土師器環	口 14.3 高 3.3	内面ナデのちヘラミガキ。体部〜底部外面ヘラケズリ。中央部の濃灰の輪帯は磁石として転用したものが。底部は平直に近い。	内外面とも7.5YR7/6 橙	中々緻密。灰・黒細砂。白・黒礫。赤粘質土 焼成: 中々硬質	№43-44 11.5 (№44)	ほぼ完存
8	土師器裏	口 22.8 底 4.8 高 32.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面下平部ナメヘラケズリのち上半部ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。下半部に明顯な接合止痕あり。底部外面一方へラケズリ。胴部外面粘土及びスス付着。	内外面とも2.5YR4/8 赤褐色	中々緻密。白・灰・黒細砂 焼成: 中々軟質	№40 不明	胴部3/4、口縁部完存、底部完存
9	土師器環	口 20.6 高 29.8 底 15.0 径 20.8	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラケズリ。胴部外面下平部少量スス付着。部分的に粘土付着。	内: 7.5YR6/6 橙 外: 2.5YR5/6 明赤褐色	中々緻密。白・灰・黒細砂 焼成: 中々軟質	№11-13、15-17、19 20.9 11.0 (№20) 0.8 (№20)	口縁部7/8、底部〜胴部1/2
10	土師器台付糞	口 (14.0) 高 (15.3) 径 16.3	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面下平部はナメ。上半部はヨコヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。胴部内外面ヨコナデ。胴部外面炭化物付着。	内外面とも5YR5/6 橙	中々緻密。白・灰・黒細砂 焼成: 中々硬質	№3 床直	口縁部2/5、胴部2/3、糞部2/3
11	土師器裏	口 24.0 底 9.4 高 35.1 径 29.2	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラナデのち下半部ナメヘラミガキ。胴部に2~3段の沈線状タタキ目あり。胴部内面ヘラナデ。底部外面木炭粒。外面の黒褐色は焼熱によりススが付着したもののか。	内: 2.5Y3/1 黒 外: 5Y2/1 黒	中々粗い。白・透明・黒細砂。白礫。雲母片 焼成: 中々硬質	№41 7.0	ほぼ完存
12	鉄製品鉄鏝か	長 5.6 幅 0.8 厚 0.3 重 5.2	断面形は長方形。表面は確認できないため釘の可能性もあるが木製などは決っていない。	—	鉄質	№37 10.4	部分残存
13	石器扁卵石	長 12.2 幅 6.4 厚 3.8 重 496.4	未加工の自然礫。断面形: 楕円形	2.5Y6/2 灰黄	—	№26 床直	完存
14	石器扁卵石	長 17.9 幅 [10.9] 厚 7.9 重 [2213.8]	焼熱のためか一部赤化し黒色付着物もみられる。未加工の自然礫。断面形: 不整形 断面形: 隅丸台形	2.5Y7/3 浅黄	—	№29 5.0	部欠



第224図 西刑部西原遺跡5区 SI-5実測図



第 225 図 西刑部西原遺跡 5 区 SI-5 出土遺物 (1)



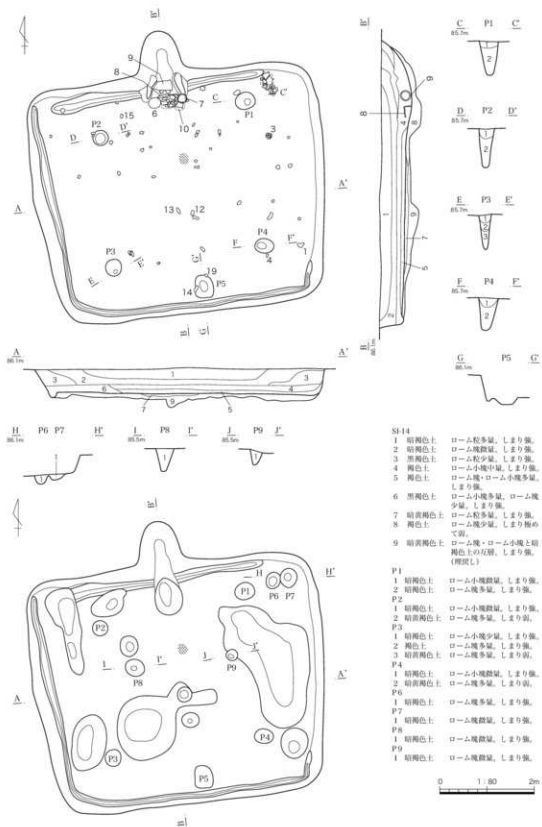
第226図 西刑部西原遺跡5区 S1-5出土遺物(2)

5区 S1-14 (遺構: 第227・228図、遺物: 第229・230図、図版三二・一〇〇)

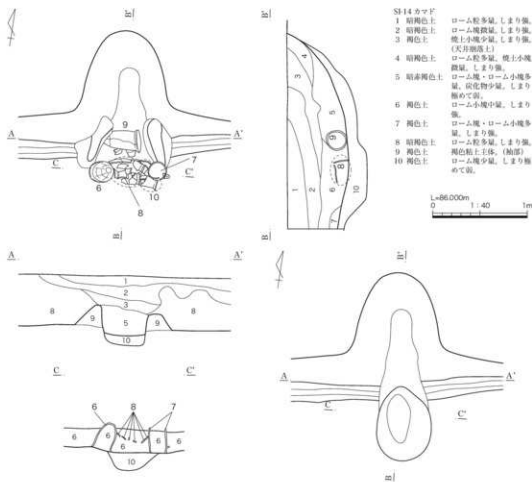
位置 グリッド84.5-53.0 重複関係 無し。平面形 正方形 規模 東西6.1×南北5.1m 主軸方向 N-6°-W 覆土 自然堆積 壁 44~51cm 床 概ね平坦。全面的に貼床。柱穴 P1(径42~36cm、深さ71cm)、P2(径33cm、深さ81cm)、P3(径約36cm、深さ74cm)、P4(径40~32cm、深さ67cm)。いずれも深いが柱痕は見られない。入口ピット P5(径52~37cm、深さ62cm) ピット P6(径35~30cm、深さ18cm)、P7(径40~35cm、深さ12cm)、P8(径42~35cm、深さ48cm)、P9(径25cm、深さ31cm)は用途不明。壁溝 幅18~22cm、深さ13cm。北西隅と東壁を除く壁面に巡る。掘方 浅く不整な土坑状掘り込みをもつ。カマド 北壁中央を深くU字形に掘る。6・7は逆位に置かれた長胴甕。8は焼き口部にブリッジ状に渡したのか。遺物 床面付近の遺物を多く図示した。土師器環(1~5)の他は土師器甕(6~10)が多い。11は凝灰岩の砥石。12~14は編物石か。須臾器類は混入品と思われる。不掲載の土器は小コンテナ約2箱で、礫の重量は4.9kgである。遺物から奈良時代中葉の建物跡と考えられる。

第102表 5区 S1-14出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・構成・素材	出土位置・埋上(m)	残存
1	土師器 環	口 13.8 高 4.4	内面~口縁部外面ヨコナデのち漆仕上げ。体部外面ヘラケズリ。内面に部分的に黒色付着物あり。	内外面とも7.5YR7/6 靑	中~中硬密。微砂粒。赤色。粘 構成: やや軟質	№46 2.8	口縁部 1/4、体部 3/5
2	土師器 環	口 (13.2) 高 3.7	体部内面中位~口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面~口縁部外面漆仕上げ。口縁部外縁。	内: 10YR7/3 に近い黄緑 外: 10YR7/6 明黄緑	中~中硬密。微砂粒。赤色。 粘少量 構成: やや軟質	カマド 床直	口縁部~体 部 1/3
3	土師器 環	口 (12.5) 高 4.1	体部内面~口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面タール状の付着物少量あり。	内外面とも7.5YR7/6 靑	中~中硬密。赤硬。微砂粒。 赤色粘 構成: やや軟質	№42 5.4	口縁部 2/5、体部 3/5
4	土師器 環	口 (10.8) 高 (3.0)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面調整不明。口縁部外面~体部内面漆仕上げ。口縁部僅かに内磨する。	内: 10YR7/2 に近い黄緑 外: 10YR7/3 に近い黄緑	中~中硬密。灰黒砂 構成: やや硬質	№5 1.5	口縁部~体 部 1/2
5	土師器 環	口 (14.6) 高 3.3	体部内面中位~口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリか。(鈔磨顕著で不明瞭)。体部内面~口縁部外面漆仕上げ。	内: 7.5YR7/4 に近い黄緑 外: 7.5YR7/6 靑	細密。細砂粒。白色粘少量 構成: やや硬質	覆土中	口縁部~体 部 3/4
6	土師器 甕	口 20.5 底 5.5 高 29.3	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。下部部ナメヘラケズリ。胴部内面ナデのち一部ヘラナデ。底部外面ヘラケズリのチナデ。胴部中位の腹上休止部分で大きく歪む。縁合部に薄く帯状の縞を施した後沈線状のナデを平置除すがこの部分から折損する。	内外面とも7.5YR7/6 靑	中~中硬密。黒細砂。白・黒砂。白・黒硬 構成: やや硬質	№32 4.3	胴部一部欠 損
7	土師器 甕	口 21.5 高 [25.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦位のヘラケズリ。胴部内面下半部ユビナデのちヘラナデ。内面上半部ヨコナデ。	内外面とも7.5YR7/6 靑	中~中硬密。白・灰・黒細砂。白・灰砂。雲母 構成: やや硬質	№34 床直	口縁部~胴 部 土平2/3 残存。底部 欠損



第227図 西刑部西原遺跡5区 SI-14実測図(1)

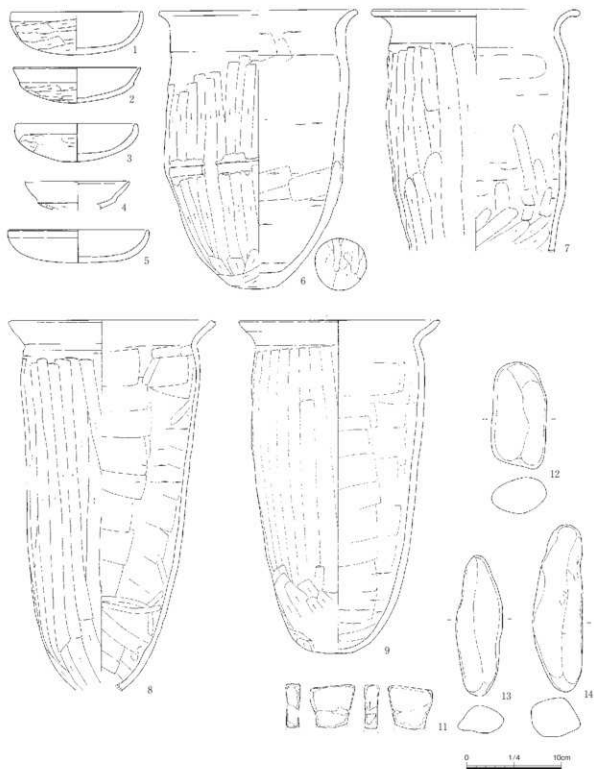


- SI-14 カマド
- 1 暗褐色土 ローム層多量、しまり肌
 - 2 暗褐色土 ローム層多量、しまり肌、焼土小塊少量、しまり肌、(天井部店上)
 - 3 褐色土 ローム層多量、焼土小塊少量、しまり肌
 - 4 暗褐色土 ローム層多量、焼土小塊少量、しまり肌
 - 5 暗赤褐色土 ローム層・ローム小塊多量、炭化物少量、しまり肌極めて弱
 - 6 褐色土 ローム小塊少量、しまり肌
 - 7 褐色土 ローム層・ローム小塊多量、しまり肌
 - 8 暗褐色土 ローム層多量、しまり肌
 - 9 褐色土 褐色粘土状、(内部)ローム層少量、しまり肌極めて弱
 - 10 褐色土

L=86.00m
0 1:40 1m

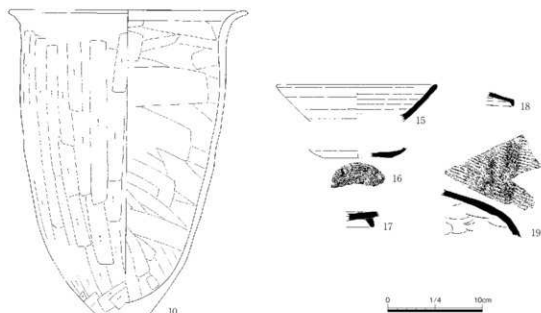
第228図 西刑部西原遺跡5区 SI-14実測図(2)

8	土師器 甕	口 21.2 高 [38.8]	口縁部内外面口コナデ。胴部外面タテ方向ヘラケズリ。胴部内面口コまたはナメヘラナデ。長軸化の器入だ。カマド構築材に転用か。焼熱した粘土付着。	内外面とも 10YR7/6 明黄緑	やや緻密、白・灰緑砂、白砂、礫 構成：やや硬質	№32・34 床直	底部欠損
9	土師器 甕	口 20.9 高 35.9	口縁部内外面口コナデ。胴部外面タテヘラケズリ。下端部ナメヘラケズリ。底部外面ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。底部内面ナデ。	内：10YR7/4 に近い黄緑 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・灰緑砂、白砂 構成：やや硬質	№33・37・38 床直(№37)	底部一部欠損
10	土師器 甕	口 24.6 底 5.4 高 32.4	口縁部内外面口コナデ。胴部外面タテ・下端部ナメヘラケズリ。胴部内面下部ナデ(布目か)。上半部ヘラナデ。底部外面ヘラケズリ(一方方向観取部)。カマド構築材に転用か。	内：10YR7/4 に近い黄緑 外：10YR7/6 明黄緑	やや緻密、白・灰緑砂、白砂、礫 構成：やや硬質	№37 床直	口縁部及び胴部下部一部欠損
11	石製品 砥石	長 (4.4) 幅 4.6 厚 1.4 重 40.0	砥面は長軸方向に4面認められる。両側面には短軸方向の磨痕が若干認められる。長軸方向に若干磨痕がみられるが明確ではない。仕上げ砥と考えられる。	2.5Y8/2 灰白	脆質岩	覆土中	中央部から欠損
12	石器 編物石	長 11.0 幅 6.0 厚 4.0 重 350.0	未加工の自然砥。平面形：不整な横丸方形 断面形：楕円形	10Y6/2 灰黄褐	-	№44 2.3	完存
13	石器 編物石	長 14.9 幅 5.0 厚 2.9 重 291.3	未加工の自然砥。平面形：不整な楕円形 断面形：不整形	5Y7/1 灰白	-	№43 2.2	完存
14	石器 編物石	長 17.5 幅 5.3 厚 4.0 重 559.3	未加工の自然砥。平面形：不整な長楕円形 断面形：不整な台形	5Y6/1 灰	-	№47 10.3	完存
15	須恵器 坪	口 (6.6) 高 [3.9]	内外面口コナデ。内面にタール状の付着物微量あり。器入品か。	内：5Y7/2 灰白 外：5Y5/1 灰白	緻密、砂粒、白色粒 構成：やや硬質	№30 1.5	口縁部～胴部1/6
16	須恵器 坪	底 7.0 高 [1.0]	底面外面回転ヘラケズリ。器入品か。	内外面とも 5Y7/1 灰白	緻密、砂粒、黑色粒、白色粒、礫 構成：やや硬質	覆土中	底部1/4
17	須恵器 高台付 型	高 [1.6]	底面外面回転ヘラケズリの高台部分。内面に僅かに付着。転用品か。器入品か。	内外面とも 5Y7/1 灰白	緻密、白・灰・黒緑砂、灰礫 構成：やや硬質	覆土中	底部1/6



第 229 図 西刑部西原遺跡 5 区 SI-14 出土遺物 (1)

18	須恵器 蓋	高 [1.5]	内外面口ケロナ子。説人品か。	内外面とも 5Y7/1 灰白	緻密。白・灰緑砂。黒砂 焼成：中・中硬質	白緑部一部
19	須恵器 甕	高 [4.9] 厚 0.8	外面平行両子。僅かに自然釉かゝる。内面無文あて具 痕あり。説人品か。	内：5Y5/1 灰 外：N5/0 灰	緻密。白・灰緑砂。白砂。 白色粒 焼成：硬質	No 1 1.4 肩部破片



第230図 西刑部西原遺跡5区 SI-14出土遺物(2)

2. 掘立柱建物跡

5区 SB-19 (遺構：第231図、図版三二)

位置 グリッド 85.0.51.0 重複遺構 SK-10との重複関係は不明。西2.5mにSB-21が近接する。平面形・規模 桁行3間×梁行1間の東西棟側柱式建物。桁行総長6.4m、梁行総長1.92m。柱間 桁行の柱間寸法は北側柱列と南側柱列でばらつきが大きい。主軸方向 N-88.5°-E 柱穴 P1(径50～46cmの円形、深さ31cm)、P2(径48～47cmの円形、深さ56cm)、P3(径39～38cmの円形、深さ59cm)、P4(径55～50cmの円形、深さ45cm)、P5(径29～27cmの円形、深さ19cm)、P6(径30～29cmの円形、深さ17cm)、P7(径50～46cmの円形、深さ36cm)、P8(径37～34cmの円形、深さ35cm)の計8本が確認された。いずれも柱痕は残っていない。南側柱列の掘方は北側柱列に比べ、規模も小さく浅い。遺物・時期 遺物は確認されなかったため、明確な帰属時期は不明である。

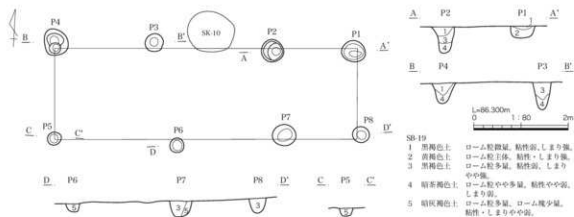
5区 SB-21 (遺構：第232図、図版三二)

位置 グリッド 85.0.50.5 重複遺構 P-13との切り合いは不明。東2.5mにSB-22が近接する。平面形・規模 桁行2間×梁行1間の側東西棟側柱式建物。桁行総長3.6m、梁行総長2.08m。柱間 桁行の柱間寸法は東から2m+1.8m、梁行の柱間寸法は2.08mである。主軸方向 N-83.5°-E 柱穴 P1(径53～44cmの楕円形、深さ52cm)、P2(径45～40cmの円形、深さ42cm)、P3(径55～52cmの円形、深さ39cm)、P4(径30～25cmの円形、深さ23cm)、P5(径約29cmの円形、深さ36cm)、P6(径45～35cmの楕円形、深さ19cm)の計6本を確認。P2・P3は柱痕が残る可能性もあるが不明瞭である。遺物・時期 遺物は確認されず、明確な帰属時期は不明である。

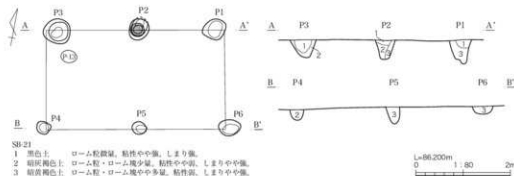
5区 SB-22 (遺構：第233図、図版三三)

位置 グリッド 84.5-51.0・84.5-50.5 重複遺構 重複遺構は無いが、北部約2mにSB-19・21が近接する。

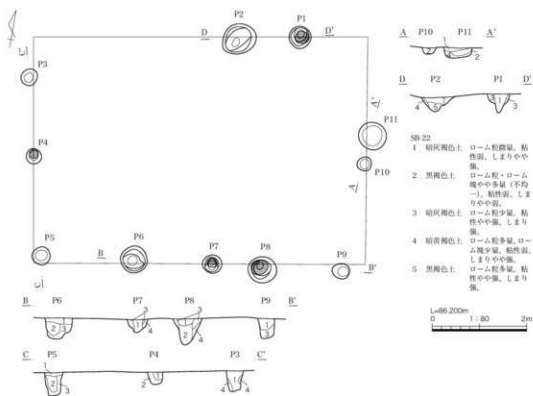
平面形・規模 桁行4間×梁行2間の東西棟側柱式建物。桁行総長7m、梁行総長4.8m。柱間 桁行の柱間寸法は一定していないが、梁行の柱間寸法は2.1～2.5mほどである。主軸方向 N-83.5°-W
柱穴 P1(径47cmの円形、深さ40cm)、P2(径70～65cmの円形、深さ29cm)、P3(径35cmの円形、深さ45cm)、P4(径32cmの円形、深さ26cm)、P5(径40cmの円形、深さ48cm)、P6(径57cmの円形、深さ44cm)、P7(径40cmの円形、深さ26cm)、P8(径59～55cmの円形、深さ55cm)、P9(径37～32cmの円形、深さ43cm)、P10(径30cmの円形、深さ13cm)、P11(径59cmの円形、深さ22cm)の計11基を確認した。柱間間隔が不定な部分も多いが、柱痕の見られる掘方(P1・4・7・8)もあることから建物の可能性があると考え掲載した。遺物・時期 遺物は確認できず、時期は不明である。



第231図 西刑部西原遺跡5区 SB-19実測図



第232図 西刑部西原遺跡5区 SB-21実測図



第233図 西刑部西原遺跡5区 SB-22 実測図

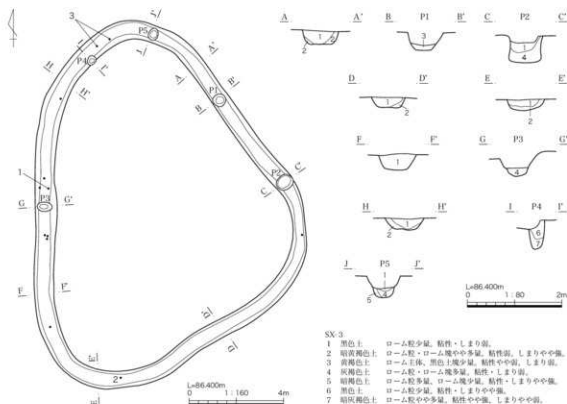
3. 円形周溝遺構

5区 SX-3（遺構：第234図、遺物：第235図、図版三三）

位置 グリッド 85.0-52.0・85.0-51.5・84.5-51.5・84.5-52.0 重複遺構 周溝内にSK-26～28があるが、重複関係は不明。規模・平面形 長径：外15.6m：内14.0m、短径：外11.2m：内9.8mの不整な隅丸三角形。溝の上幅48～88cm。覆土 自然堆積 壁・断面形 壁高は20～38cm残る。断面は逆台形。底面概ね平坦。ピット P1（径52cm、深さ24cm）、P2（径60～72cm、深さ40cm）、P3（径40～60cm、深さ18cm）、P4（径約20cm、深さ42cm）、P5（径40～65cm、深さ20cm）があるが、柱痕は未確認。遺物 図示した遺物は、須恵器裴破片（1）、土師器環（2・3）とともに床面から浮いた状態で出土した。不掲載遺物は土師器環・裴類の小破片20点弱である。遺物から古墳時代後期後葉の遺構と考えられる。

4. 土坑

本調査区からは計20基の土坑が確認された。土坑は遺物の出土量が少なく、他遺構との重複も殆ど無いため、時期不明なものが多い。ここでは出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめ掲載し、若干の補足説明を行う。土坑を形態別にみると、平面形は1群：不整な円形又は楕円形を呈するものと、2群：方形のものがある。1群は径70～90cmと比較的小型の土坑（SK-10・16・23～31）と、1mを超えるもの（SK-2・8・13・15・17・18）がある。断面形は浅い皿状もしくは逆台形状で、自然堆積か。2群の土坑（SK-6・7）はやや大形で、底面に傾斜が見られる。覆土は自然堆積か。遺物は概して少なく、土師器片を少量含む土坑が散見される程度である。このうちSK-8からは製塩土器破片が1点出土した。



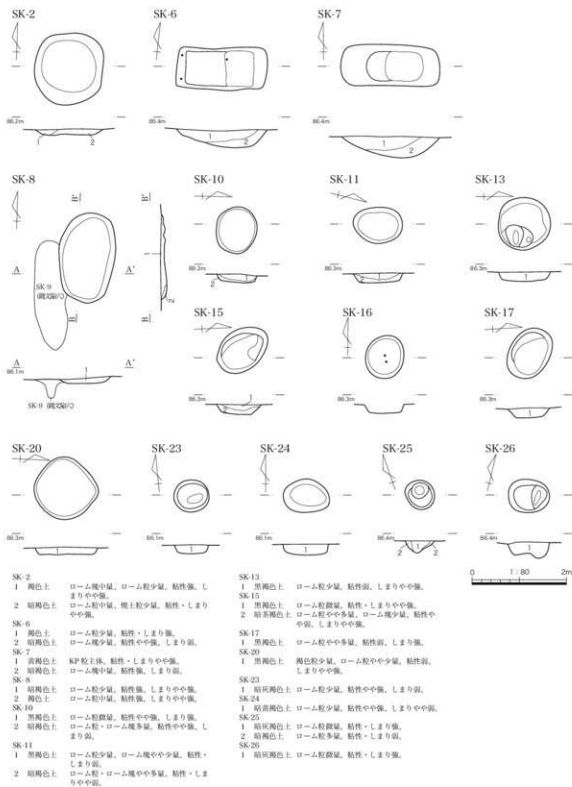
第234図 西刑部西原遺跡5区 SX-3実測図



第235図 西刑部西原遺跡5区 SX-3出土遺物

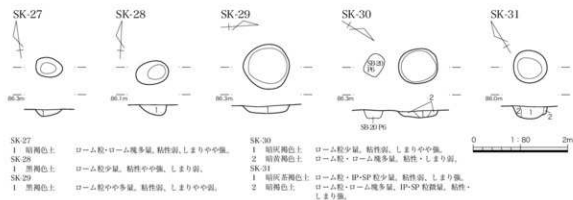
第103表 5区 SX-3出土遺物観察表

採取番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床:(cm)	残存
1	須出陶器	厚 1.3	外面平行明き、内面ナデ、外面薄く自然釉付着。	内: 5Y6/1 灰 外: N5/0 灰	中卒磁器、白・灰・黒磁砂、白・黒砂、白釉 焼成: 灰質	No 7 18.7	胴部破片
2	土師器 杯	口 (12.4) 高 (4.5)	口縁部内外面ヨコナデのちへらミガキ、体部内面へらナデのちへらミガキ、体部外面へらケズリのちへらミガキ (剥離顕著で不明瞭)、内外面塗仕上げ。	内: 10Y86/2 灰黄緑 外: 10Y87/4 に近い黄緑	中卒磁器、白・黒磁砂・砂、白釉 焼成: 中卒硬質	No 11 13.0	体部~底部 1/2、口縁部 1/3
3	土師器 杯	口 (9.4) 高 (4.7)	内外面口縁部ヨコナデ、体部内面へらミガキ、体部外面へらケズリ、内面黒色処理。	内外面とも 7.5Y87/4 に近い橙	中卒磁器、白・灰・黒砂、白・黒磁砂、赤粒 焼成: 中卒硬質	No 1 7.0	口縁部 1/6、 体部 1/2



第 236 図 西刑部西原遺跡 5 区 土坑実測図 (1)

第3章 発見された遺構と遺物



第 237 図 西刑部西原遺跡 5 区 土坑実測図 (2)

第 104 表 5 区 土坑計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
SK-2	85.0-52.5	円形	1.51	1.42	0.12	
SK-6	85.5-52 85.0-52	隅丸方形	1.88	0.91	0.36	
SK-7	84.0-51.5 84.0-52.0	隅丸方形	2.07	0.87	0.45	
SK-8	85.0-50.0	楕円形	1.91	1.18	0.11	縄文時代陥穴 SK-9 と重複
SK-10	85.0-51.0	円形	0.99	0.84	0.19	SB-19 と重複
SK-11	85.0-51.0	楕円形	1.04	0.78	0.19	
SK-13	85.5-51.0	円形	1.11	1.08	0.22	
SK-15	85.5-51.0 85.0-51.0	楕円形	1.17	0.84	0.22	
SK-16	85.0-51.0	円形	0.92	0.8	0.19	
SK-17	85.0-51.0	楕円形	1.12	0.85	0.21	
SK-20	85.0-50.5 85.0-51.0	円形	1.35	1.32	0.16	
SK-23	83.5-52.0	円形	0.73	0.68	0.19	
SK-24	83.5-52.0	楕円形	0.95	0.71	0.22	
SK-25	85.0-51.5	円形	0.64	0.59	0.26	
SK-26	85.0-51.5	楕円形	0.87	0.71	0.34	
SK-27	85.0-52.0	楕円形	0.56	0.41	0.14	
SK-28	84.0-52.0	楕円形	0.7	0.49	0.22	
SK-29	85.5-51.0	円形	0.97	0.95	0.16	
SK-30	85.0-50.5	円形	0.82	0.8	0.15	
SK-31	84.0-52.0	円形	0.7	0.7	0.25	



第 238 図 西刑部西原遺跡 5 区 SK-8 出土遺物

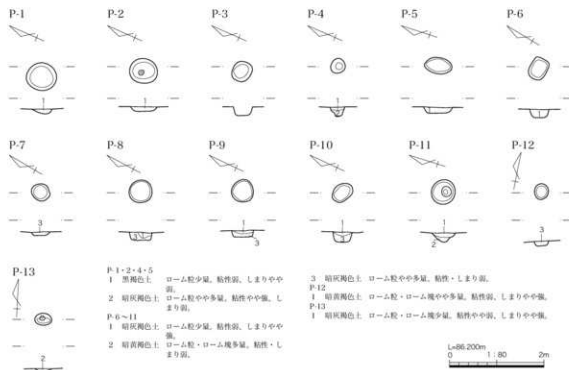
第 105 表 5 区 SK-8 出土遺物観察表

編號 番号	図略	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・ 床土 (cm)	残存
1	土師類 製土 器	厚 0.8	内外面ナデか、上・下とも接合部より折痕。二次的な焼熱により赤化している。	内：7.5YR7/6 橙 外：10YR8/4 に近い濃橙	胎土・素材・焼成	覆土中	割部破片

5.ピット

本調査区から確認されたピット（小穴）は計13基である。土坑と同様、遺物の出土量が少なく時期不明なものが殆どである。また他遺構との明確な切り合いを確認できた遺構は無かった。

ここでは土坑と同様に個別の事実記載は行わず、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめて掲載した。ピットはその殆どが5区北西部の独立柱建物跡SB-19～22近辺から確認されている。覆土は、単層で自然堆積と考えられるもの、レンズ状の堆積を示すものが殆どで、柱痕などの明確な人為埋戻しを示すものは確認できなかった。



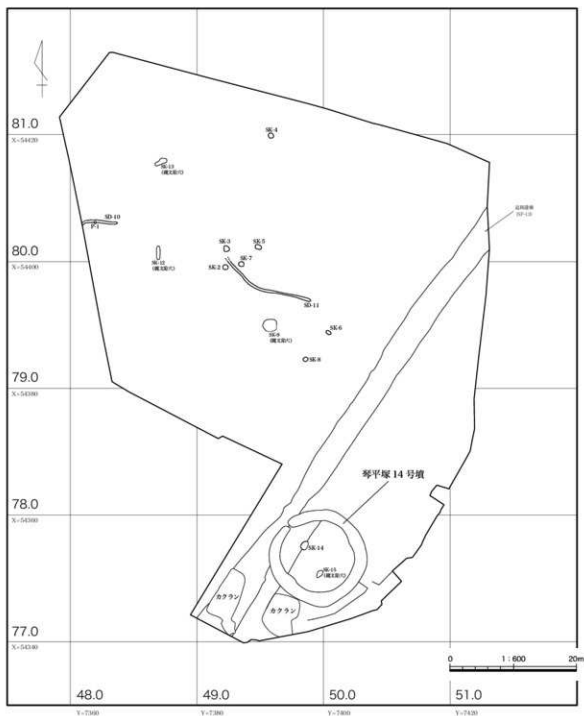
第 239 図 西刑部西原遺跡 5 区 ピット実測図

第 106 表 5 区 ピット計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
P-1	85.0-90.5	円形	0.63	0.6	0.1	
P-2	85.0-90.5	円形	0.58	0.52	0.11	
P-3	85.0-90.5	楕円形	0.46	0.42	0.19	
P-4	85.5-90.5	円形	0.32	0.3	0.2	
P-5	85.5-90.5	楕円形	0.58	0.35	0.12	
P-6	85.0-90.5	楕円形	0.49	0.4	0.17	
P-7	85.0-90.5	楕円形	0.48	0.48	0.07	
P-8	85.5-90.5	円形	0.48	0.5	0.17	
P-9	85.5-90.5	円形	0.48	0.47	0.14	
P-10	85.0-90.5	楕円形	0.44	0.37	0.21	
P-11	85.0-90.5	円形	0.53	0.5	0.2	
P-12	85.0-90.5	円形	0.35	0.3	0.1	
P-13	85.0-90.5	楕円形	0.35	0.26	0.06	

第6節 6区の遺構と遺物

本調査区では溝2条、土坑8基、ピット1基が確認されたのみである。位置的には琴平塚古墳群の北端部にあたり、集落域からは外れている。なお全体図に記載された縄文時代の土坑、円墳（琴平塚14号墳）、道路状遺構はすでに報告済みであり、本節では記載していない。



第240図 西刑部西原遺跡6区 全体図 (S=1/600)

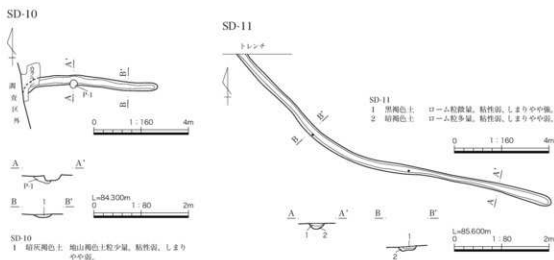
1. 溝

SD-10 (遺構：第241図、図版三四)

位置 グリッド 80.0-48.0 規模・平面形 長さ 5.80 m以上、最大幅 0.44m。東西軸の溝だが、調査区壁際で南に曲がる。覆土 地山と同じ褐色土粒を含む1層のみが堆積する。自然堆積か。壁・断面形 壁高は浅く 10～15 cmほど。断面形は逆台形状である。底面 概ね平坦であるが、西側に向かって緩やかに傾斜している。遺物 覆土中から遺物は確認されなかったため、明確な帰属時期は不明である。

SD-11 (遺構：第241図、図版三四)

位置 グリッド 79.5-49.0・79.5-49.5・80.0-49.0 規模・平面形 長さ 14.8 m以上、最大幅 0.46 m。北西から南東方向に主軸をもち、若干のカーブを有する。覆土 ローム粒子を含む黒褐色土及び暗褐色土を主体とし、自然堆積と考えられる。壁・断面形 確認面からの壁高は8～15 cmと浅い。底面 概ね平坦である。遺物 覆土中から遺物は確認されなかったため、明確な帰属時期は不明である。備考 西約 18 mに位置する時期不明の溝 SD-10と規模・形態が類似することから同一の溝の可能性もある。



第241図 西刑部西原遺跡6区 SD-10・11実測図

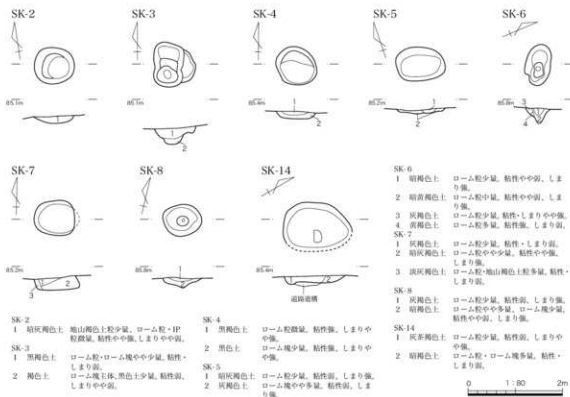
2. 土坑

本調査区からは計 8 基の土坑が確認された。遺物の出土量が極めて少ないため明確な時期を確定できないものが多い。ただし時期判別可能な遺構との切り合いから、ある程度の時期を想定できるものもある。

第107表 6区 土坑計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
SK-2	79.5-49.0	円形	0.83	0.77	0.16	
SK-3	80.0-49.0	不明	0.93	0.85	0.34	
SK-4	80.5-49.5 81.0-49.5	円形	0.83	0.81	0.16	
SK-5	80.0-49.0 80.0-49.5	楕円形	1.0	0.72	0.07	
SK-6	79.0-50.0	楕円形	0.88	0.53	0.33	
SK-7	79.5-49.0	円形	0.84	0.73	0.25	
SK-8	79.0-49.5	円形	0.83	0.68	0.21	
SK-14	77.5-49.5	楕円形	1.43	(1.04)	0.15	

ここでは個別の記載は行わず、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容を表にまとめた。土坑を形態別にみると、平面形は不整な円形または楕円形を呈する。断面形はSK-7が一部オーバーハングする以外は、皿状か逆台形状を呈するものが多い。壁は概ね浅めである。この他底面に小ピットをもつ土坑(SK-3・6・8)があるが、用途は不明である。多くが径80～90cm台(SK-2～8)に収まり、1mを越えるものはSK-14のみである。覆土はその多くが自然堆積と考えられる。SK-14は道路遺構の上面から掘り込んでいることから古代以降の土坑と考えられるが、遺物は礫が一点出土したのみで正確な時期は不明である。



第242図 西刑部西原遺跡6区 土坑実測図

3. ピット



第243図 西刑部西原遺跡6区 P-1実測図

6区においても他の調査区同様、個別の事実記載は行わず、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめ掲載した。

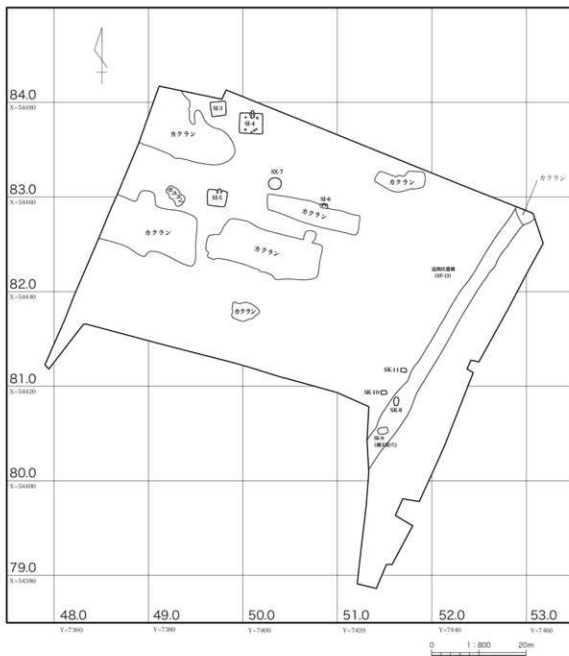
本調査区でピットとして調査した遺構はP-1の1基のみである。他遺構との切り合いを見ると、時期不明のSD-10の中央部を掘り込んでいるが、遺物が無いため明確な時期は確定できない。

第108表 6区 ピット計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
P-1	80.0-478.0	円形	0.37	0.30	残0.15	

第7節 7区の遺構と遺物

先述した調査6区の北部に位置する。竪穴建物跡4棟、円形有段遺構1基、土坑3基が調査されたのみで、遺構分布は疎らである。但し総長20m強ある大規模な攪乱が数か所にわたり存在しており、これにより、若干の遺構が削平されてしまった可能性もある。また本調査区は、西刑部西原遺跡の居住域の南限となっている。全体図には縄文時代の土坑や、道路状遺構が記されているが、既に報告済みであり、本節では特に詳細には記載していない。



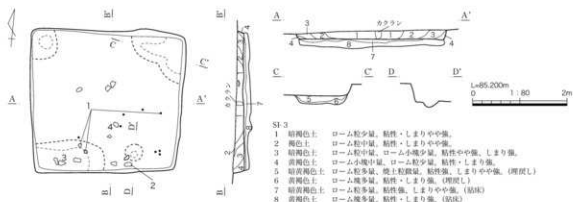
第244図 西刑部西原遺跡7区 全体図 (S=1/800)

1. 竪穴建物跡

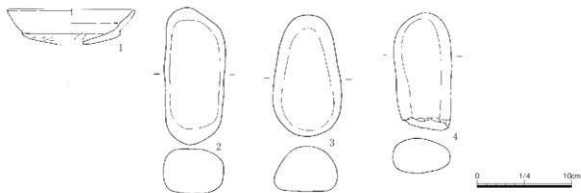
7区 SI-3 (遺構：第245図、遺物：第246図、図版三六)

位置 グリッド 84-49.5・83.5-49.5 平面形 隅丸方形 規模 東西3.0～3.3×南北3.0m 主軸方向 N・3°・W 覆土 自然堆積 壁 壁高9.0～23.6cm残。床 全面貼床で若干の凹凸あり。掘方 南東隅以外のコーナーには土炕状の掘り込みあり。ローム土で埋戻す。柱穴・カマド 確認できなかった。

遺物 礫が多く、南東部から出土した。図示可能な土器は土師器環(1)のみで、その他は編物石(2～4)である。不掲載の土器は常総型甕や土師器環類の小破片20点弱、礫の総量は1.9kgである。明確な時期は確定できないが、建物跡が小形である点と常総型甕が出土することから奈良時代の建物跡の可能性がある。



第245図 西刑部西原遺跡7区 SI-3実測図



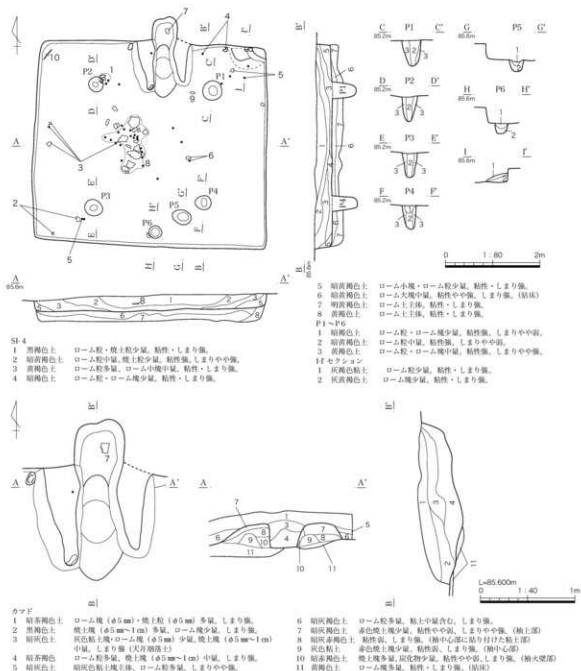
第246図 西刑部西原遺跡7区 SI-3出土遺物

第109表 7区 SI-3出土遺物観察表

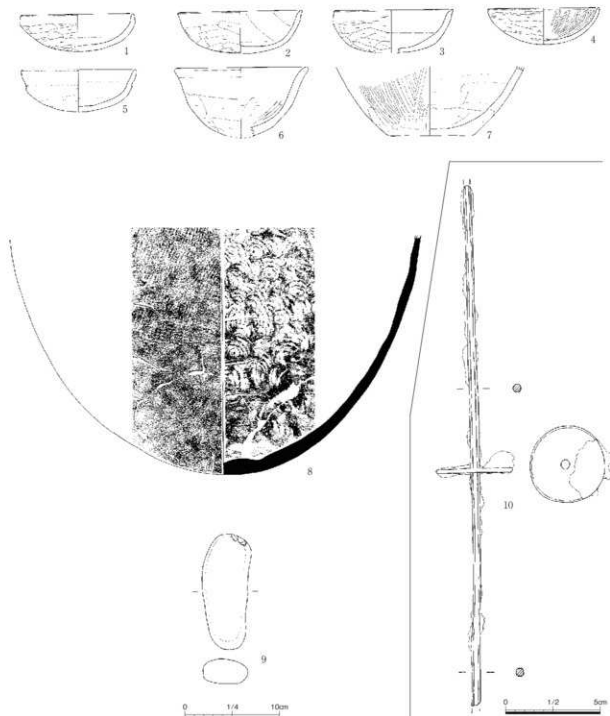
図録番号	器種	法量(m/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・出土量(cm)	現存
1	土師器環	口 13.4 高 3.9 径 23.6	口縁部外面～体部内面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ。体部内面ナデ。口縁部外面～内面全面塗仕上り。	内：2.5Y7/1 黒黄 外：2.5Y8/3 淡黄	中～中緻密、白・黒・透明細砂 焼成：中～中軟質	No.10・17、口縁部～体部1/2 No.8 (No.17)	完存
2	石器編物石	長 14.5 幅 6.4 厚 4.7 重 772.2	未加工の自然礫。平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸長方形	5Y7/1 灰白	—	No.4 2.8	完存
3	石器編物石	長 12.7 幅 6.6 厚 4.8 重 589.3	未加工の自然礫。平面形：楕円形 断面形：カマボコ形	2.5Y7/1 灰白	—	No.2 床底	完存
4	石器編物石	長 [12.3] 幅 6.0 厚 4.0 重 [471.5]	下端側面には連続した割線が施されている。平面形：楕円形か 断面形：楕円形	2.5Y7/2 灰黄	—	No.6 4.4	部欠

7区 SI-4 (遺構: 第247図、遺物: 第248図、図版三六・一〇一—四)

位置 グリッド 83.5-49.5・83.5-50 平面形 東西軸の長方形 規模 東西 4.85×南北 4.30 m 主軸方向 N-1.5°-E 覆土 自然堆積 壁 15.4~37.0 cm 床 全面が貼床 柱穴 P1 (径40 cm、深さ54 cm)、P2 (径30 cm、深さ52 cm)、P3 (径約36 cm、深さ50 cm)、P4 (径34~30 cm、深さ50 cm) は主柱穴か。すべての断面に柱痕が確認できた。P5 (径39~30 cm、深さ19 cm) の用途は不明。入口ピット P6 (径27 cm、深さ21 cm) で、南壁際中央部に位置する。掘方 北東隅を若干深めに掘る他、全体的に凹凸あり。カマド 北壁中央部やや東寄りの壁際をU字状に掘り込む。灰色粘土で構築され、燃焼部は浅く楕円形で



第247図 西刑部西原遺跡7区 SI-4実測図



第248図 西刑部西原遺跡7区 SI-4出土遺物

掘り込む。遺物 図示した遺物は土師器坏類（1～5）、土師器鉢（6）、常総型狭の底部（7）、須志器裏の大形破片（8）の他編物石、鉄製紡錘車がある。坏類は漆仕上げが多いが、4は赤色系の坏で内面を人念に磨く。10は床面直上の遺物。両端部を欠損するが軸残存長は27.4cmあり、軸断面は部分的に円形に整えている。紡錘車の断面は板状を呈する。不掲載遺物は在地系及び常総型の土師器裏・坏類が小コンテナ1/5箱、碟の重量は1.9kgである。遺物から古墳時代終末期（7世紀後半）の建物跡と考えられる。

第110表 7区 SI-4 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・土上(cm)	残存
1	土師器 杯	口 11.6 高 4.0	口縁部内面～体部内面ヨコナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。体部内面ナデ。内外面漆仕上げ。	内外面とも 10YR8/3 浅黄褐色	黒煎。黒・白・透明細砂焼成；やや軟質	№10 4.5	ほぼ完存
2	土師器 杯	口 12.8 高 4.5	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。口縁部外面～内面全面漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR7/6 赤	やや軟質。黒・灰黒砂。赤煎；やや軟質	№4・5 5.8 (№5)	口縁部～体部 1/2
3	土師器 杯	口 12.8 高 4.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。	内外面とも 10YR8/3 に近い黄褐色	やや軟質。白・黒細砂。白・灰砂焼成；やや軟質	№2・3・7 5.7 (№7)	口縁部～体部 5/12
4	土師器 杯	口 11.5 高 3.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面放射状ヘラミガキ。体部外面磨滅のため不明瞭だがヘラケズリのちへラミガキか。赤系の杯。	内外面とも 5YR6/8 赤	やや軟質。黒・灰・白細砂焼成；やや軟質	№16・17 3.1 (№16)	口縁部～体部 1/3
5	土師器 杯	口 11.9 高 4.4	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリか。口縁部外面～内面全面漆仕上げ。	内：2.5Y3/1 黒褐色；2.5YR/2 灰白	やや軟質。白・灰黒細砂焼成；やや軟質	№5・18・20、北西 3.0 (№20)	口縁部～体部 7/8
6	土師器 鉢	口 13.6 高 8.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。体部内面ヘラナデ及びナデ。一部放射状のヘラ置きか。内面黒色処理。	内：10Y2/1 黒；7.5YR5/4 に近い黒	やや粗い。白・灰黒砂～焼成；やや軟質	№5・12 0.8 (№12)	口縁部～体部 1/4
7	土師器 甕	高 7.2 底 9.0	胴部外面タテヘラミガキのち下端部ヨコヘラナデ。胴部外面平行印。胴下部～底部外面ナデ。底部外面用ひのため着平の副底あり。	内：7.5YR5/4 に近い黄褐色；7.5YR6/6 赤	やや軟質。白・透明細砂。白・黒煎。雲母焼成；やや軟質	№1 床底	胴下部 1/4、底部 1/2
8	須恵器 甕	高 25.0 径 41.6	胴部内面同心円状あて具痕。下平部～底部内面ナデ。胴部外面平行印。胴下部～底部外面ナデ。底部外面用ひのため着平の副底あり。	内外面とも 5Y5/1 灰	やや軟質。白・灰黒細砂焼成；硬質	№29 9.7	胴下部～底部 4/5
9	石製 輪軸物	径 12.1 軸 4.8 厚 2.6 重 243.6	断面若干の割縁は意図的なものか不明。平面形：不整な楕円形。断面形：不整な楕円形	2.5Y7/2 灰黄	—	№23 20.5	ほぼ完存
10	鉄製品 鉄鉢	径 27.4 径 4.0 厚 0.5 重 32.1	鉢縁は円形で断面板状。中央部に径 0.5 mm の円孔あり。軸は径 4.0 mm ほどで上端がやや鋭い。断面形上部は不整な円形。下部は正方形に近い。	—	鉄製	№1 床底	部分欠損

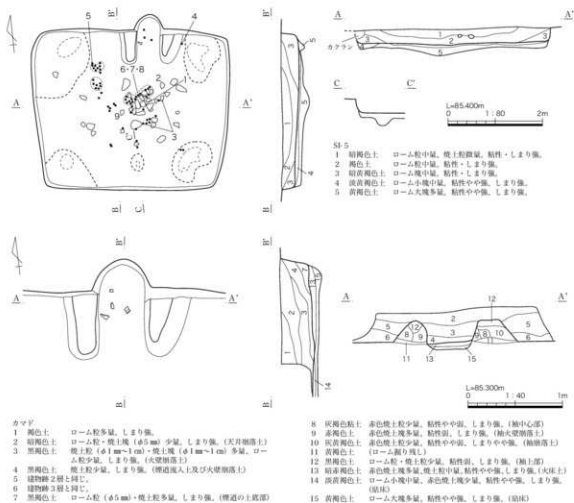
7区 SI-5 (遺構：第249図、遺物：第250図、図版三六・〇一)

位置 グリッド 83-49.5・82.5-49.5 平面形 隅丸方形 規模 東西 3.6～4.2 m × 南北 3.38 m 主軸方向 N-4.5°-E 覆土 自然堆積 壁 17～34.8 cm 床 全面が貼床で概ね平坦。柱穴・壁溝 未確認。

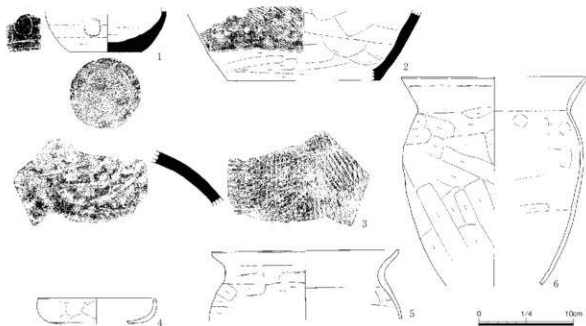
掘方 四隅を土坑状に掘り、ローム塊主体の4・5層で埋戻す。カマド 北壁を半円形に掘り込む。煙道は80°の急角度で立つ。遺物 覆土層から多く出土。1は須恵器瓶類か。胴部外面には円形のヘラ描きか、底部外面にはヘラ記号がある。須恵器甕類の内面あて具は無文化している。土師器甕は武蔵型甕が多い。

第111表 7区 SI-5 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・土上(cm)	残存
1	須恵器 甕	底 7.2 高 14.1 径 13.0	内外面口コナデ。胴部外面口コナデのち下端部内面ヘラケズリ。樽口へのラ描きあり。底部外面用ひヘラケズリのち「X」字状のヘラ記号あり。	内：2.5G4/1 粗オリーブ灰；N4.0 灰	粗い。白細砂～焼成；硬質	№39 15.2	胴部～底部 完存
2	須恵器 甕	口 24.4 高 7.2 底 16.0	内面無文化あて具痕のちナデ。外面平行印のち下端部ヘラケズリ。底部外面多方向ヘラケズリ。内外面一部に黒色物付着。	内：10Y6/1 灰；外：10Y5/1 灰	やや軟質。白・灰黒細砂焼成；硬質	№41 1.8	胴部～胴底 1/8
3	須恵器 甕	厚 1.2	内面無文化あて具痕のちナデ。外面平行印。	内外面とも N4.0 灰	やや粗い。白細砂。白・灰焼成；軟質	№37・40 12.8 (№40)	胴部破片
4	土師器 杯	口 12.1 高 2.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのちナデか。体部～底部内面ナデ。底部外面多方向ヘラケズリ。平底が着目。	内外面とも 5YR5/6 明赤	やや軟質。灰・白・黒細砂。赤煎；やや軟質	№50 33.8	口縁部 1/7
5	土師器 甕	口 19.4 高 7.3	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。	内外面とも 7.5YR6/4 に近い赤	やや軟質。白・灰・黒細砂。赤煎；やや軟質	№49・55 1.2 (№49)	口縁部 4/5
6	土師器 甕	口 19.4 高 22.1	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ及び指節押圧。胴部外面タテヘラケズリ及びナメヘラケズリ。	内外面とも 5YR5/8 明赤	やや軟質。白・灰細砂。灰焼成；軟質	№49 1.2	口縁部 7/8
7	土師器 甕	口 19.8 高 27.2	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上平部ナメまたはヨコヘラケズリ。下平部タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。	内：5YR5/8 明赤；外：5YR5/6 明赤	やや軟質。灰・黒・白細砂。黒・灰砂。灰焼成；やや軟質	№49 1.2	胴部 1/12
8	土師器 甕	口 20.8 高 22.8	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。輪軸付止あり。胴部外面中位ナメヘラケズリ。下平部タテヘラケズリ。	内：5YR5/8 明赤；外：5YR6/6 赤	やや軟質。白・透明・灰黒細砂焼成；やや軟質	№46・47・48、北東 9.0 (№47)	口縁部 3/4
9	瓦片	長 37.6 幅 2.1 厚 8.2 重 228.7	凸面正格子印。凹面布目痕。軸巻き。	内：2.5Y6/3 に近い黄褐色；2.5Y7/4 浅黄	粗い。白・灰黒砂～焼成；やや軟質	№42 1.3	部分残存

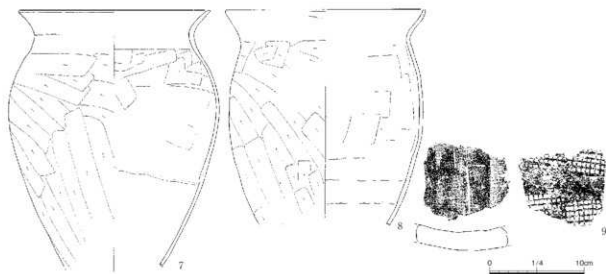


第249図 西刑部西原遺跡7区 SI-5実測図



第250図 西刑部西原遺跡7区 SI-5出土遺物(1)

また床面付近から女瓦破片(9)が出土している。不掲載の土器類は小コンテナ箱1/3程度、窯は計測できなかった。遺物から奈良時代中葉(8世紀中葉)の建物跡と考えられる。

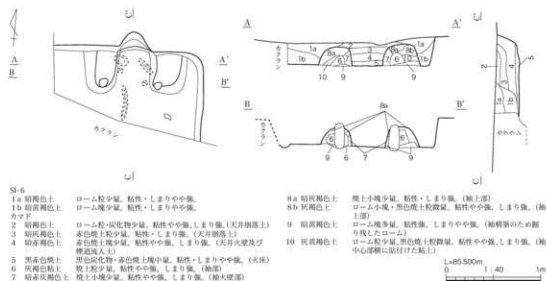


第251図 西刑部西原遺跡7区 SI-5出土遺物(2)

7区 SI-6 (遺構: 第252図、図版三七)

位置 グリッド 82.5-50.5 平面形 方形か。南部及び西部を広く攪乱され全形は不明。規模 東西1.56m以上×南北0.9m以上 主軸方向 N-2°-W(推定値) 覆土 自然堆積か。壁 16~30cm 床 確認できる範囲では概ね平坦。床面からは柱穴などの掘り込みは確認できなかった。掘方 確認できなかった。

カマド 北壁を山形に掘り込む。煙道は67°の角度で立ち上がる。両袖は礫を立て芯材にし、灰褐色粘土を貼付け構築する。遺物 図示できなかったが、常総型甕の胴部破片が数点出土することから、奈良時代(8世紀代)の建物跡の可能性が高い。



SI-6

1 8 暗褐色土

1 9 暗褐色土

カマド

2 暗褐色土

3 暗褐色土

4 暗褐色土

5 暗褐色土

6 灰褐色粘土

7 暗赤灰褐色土

ローム粒少量、粘性・しまりの中強。
ローム塊少量、粘性・しまりの中強。
ローム粒・灰化物少量、粘性・中強、しまり強。(天井掘落土)
赤色焼土塊少量、粘性・しまり強。(天井掘落土)
赤色焼土塊少量、粘性・中強、しまり強。(天井火壁及び構造土)
黒色灰化物・赤色焼土塊中量、粘性・しまりの中強。(火床)
焼土粒少量、粘性・中強、しまり強。(袖部)
焼土小塊少量、粘性・中強、しまり強。(袖火壁部)

8a 暗灰褐色土

8b 灰褐色土

9 暗赤褐色土

10 灰赤褐色土

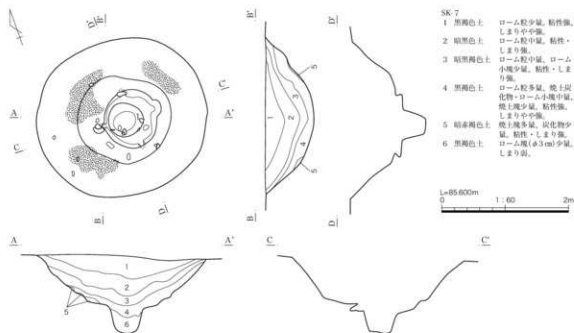
焼土小塊少量、粘性・しまり強。(袖上部)
ローム小塊、赤色焼土粒微量、粘性・中強、しまり強。(袖上部)
ローム塊多量、粘性強、しまりの中強。(袖構築のための掘り戻したローム)
ローム粒少量、黒色焼土粒微量、粘性・中強、しまり強。(袖中心部間に貼付けた粘土)

第252図 西刑部西原遺跡7区 SI-6実測図

2. 円形有段遺構

7区 SX-7 (遺構：第253図、遺物：第254図、図版三七)

位置 グリッド83.0-50.0 規模・平面形 東西2.67m、南北2.46mの楕円形を呈する。覆土 6層に分層。自然堆積と考えられるが、壁側面には焼土(5層)が認められる。上層で出土した礫は投棄された可能性が高い。壁・断面形 壁面は僅かな凹凸をもち、底面は緩やかに傾斜する。壁高 土坑底面までは0.75～0.85m、小穴底面まで1.2mある。床 土坑底面は径1.35～1.5mの不整形円形を呈する。底面には径約90cm、深さ15cmの穴を掘り、その側壁に幅10cm、奥行き15cmの直交する2対のピットを掘り込む。小穴は更にその底面にあり、規模は径約50cm、深さ約35cmである。底面は鹿沼軽石層に及んでいる。遺物 時期判別可能な遺物は、覆土中から出土した1の高台付坏底部破片のみである。遺物から8世紀中葉の遺構と考えたい。また同時期と考えられる円形有段遺構は北方約150mの3区SK-45、さらに調査区外ではあるが、宇都宮調査E区SK-17がある。この他遺物は出土していないが330m北の13区SX-94も円形有段遺構である。



第253図 西刑部西原遺跡7区 SX-7実測図



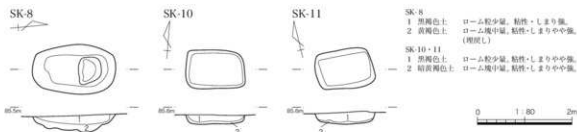
第254図 西刑部西原遺跡7区 SX-7出土遺物

第112表 7区 SX-7出土遺物観察表

図表番号	図種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	調査区高台付坏	高 [1.1] 厚 9.3	内外面ロケロナデ。底部外面回転ヘラケズリの高台付胎付。内面中央部磨滅している。	内外面ともにSY6/2灰青リープ	中々緻密。白・灰・黒層砂。灰・白砂焼成：硬質	No.20 20.1	底部 1/4

3. 土坑

土坑は計3基確認された。いずれも長方形土坑だが、SK-10・11は他遺構との重複や出土遺物も無く、時期不明である。これに対し、SK-8は道路状遺構(SF-13)底面から確認されたため、古代以前の土坑と考えられる。SK-8は、北壁際の遺構底面が一段深く掘り下げられている特徴をもつ。この掘り込みはローム塊を多量含む2層で埋戻されている。これと似た遺構が琴平塚古墳群から土壌墓として報告されている。また今回報告する8区SK-1も類似する特徴をもつ土壌墓と考えたい。SK-8をこれらの土壌墓と比較すると琴平塚古墳群最小の4号土壌墓(長軸2.14m、最大幅1.1m、深さ0.38m)より更に小型の土壌墓といえる。



第255図 西刑部西原遺跡7区 土坑実測図

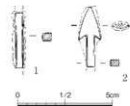
第113表 7区 土坑計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
SK-8	80.5-51.5	楕円形	1.74	1.05	0.36	
SK-10	80.5-51.0	隅丸長方形	1.22	0.82	0.19	
	80.5-51.5					
SK-11	81.0-51.5	隅丸長方形	1.2	0.86	0.26	

4. 道路状遺構

7区 SF-13 (遺物: 第256図、図版一一二)

SF-13については、すでに東谷・中島地区遺跡群3 推定東山道関連地区(栃木県埋蔵文化財調査報告第274集 平成15年度)で報告済みであるため、ここでは詳細は省略する。路面底面付近から出土した遺物が前出報告書で掲載から漏れていたため、ここで取り上げることとしたい。1は長頸鎌の頸部破片と思われる。断面長方形で幅約5mm、厚さは約3mmである。2は腸袂長三角形鎌の鎌身部の破片である。銹化が進み不明瞭だが鎌身は両丸造りか。



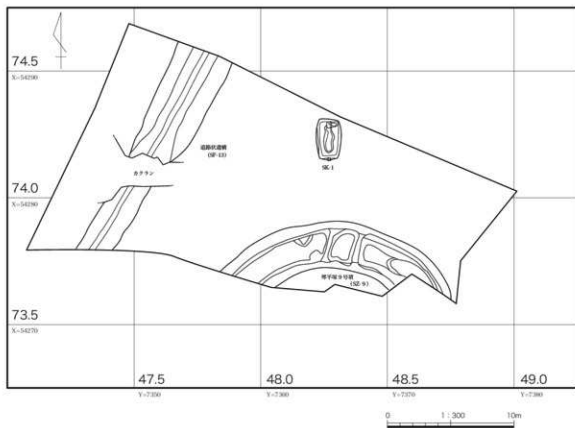
第256図 西刑部西原遺跡7区 SF-13 出土遺物

第114表 7区 SF-13出土遺物観察表

観察番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	肌土・素材・焼成	出土位置・深上 (cm)	残存
1	鉄製品 鉄鎌	長 3.0 幅 0.5 厚 0.3 重 [2.4]	長頸鎌の頸部破片。断面は長方形。	—	鉄製	No.1 0.5	頸部一部
2	鉄製品 鉄鎌	長 3.3 幅 1.1 厚 0.3 重 2.8	腸袂長三角形鎌。鎌身は両面造りか。頸部の断面は長方形。	—	鉄製	No.2 1.0	鎌身部～頸部一部

第8節 8区の遺構と遺物

本区では土坑1基、琴平塚9号墳、道路状遺構が確認された。

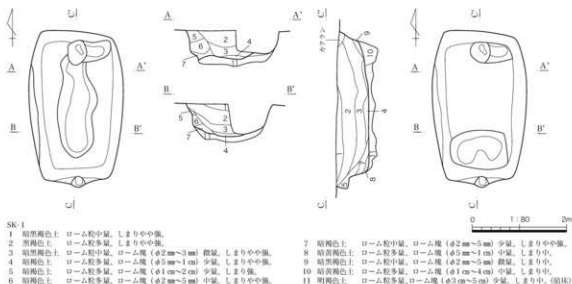


第257図 西刑部西原遺跡8区 全体図 (1/300)

1. 土坑

8区SK-1 (遺構：第258図、図版三九)

位置 グリッド74.0-48.0。9号墳の北5mに位置する。 **規模・平面形** 東西3.29×南北1.96mの南北軸の長方形。 **壁・断面形** 壁高は40～50cm残る。 **床** 貼床上に中央部に長さ1.7m、幅0.7mの溝状の浅い凹みをもつ。 **掘方** 底面はやや凹凸を有し、南北の壁際にビット状の掘り込みをもつ。ローム土を多量含む11層で埋戻している。掘方の最深部は65cmである。 **覆土** 断面観察から壁際の1～4層と、中央部の5～7層に分けられる。1～4層はややレンズ状に堆積し、5～7層は版築状に埋戻されている。 **遺物** 出土遺物は確認されなかった。 **備考** 本遺構は調査時は土塚墓としたが、中央部の凹みは木棺の痕跡と考えられ、また壁際の版築状の覆土は裏込めと考えられることから、木棺が設置されていた可能性が高い。時期は古墳時代後期のものか。



第258図 西刑部西原遺跡8区 SK-1実測図

第115表 8区 SK-1計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	備考
SK-1	74.0-48.0	楕円長方形	3.29	1.96	0.69	

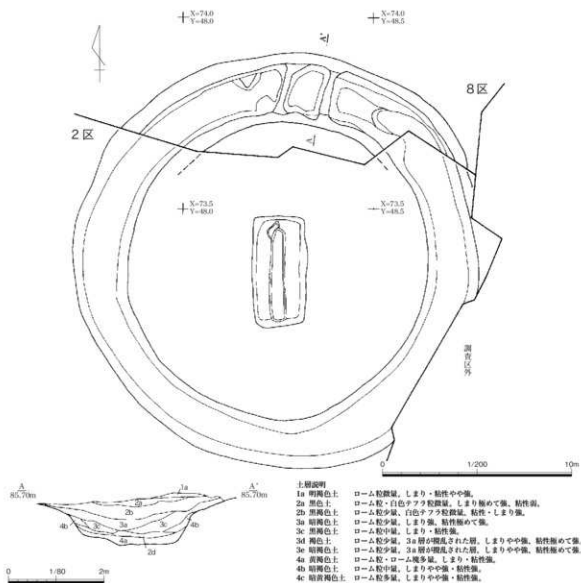
2. 古墳

琴平塚9号墳(遺構:第259図)

琴平塚古墳群は主に平成11年度に発掘調査、平成16年度に報告書が刊行されている。この中で、琴平塚9号墳の周溝北端部に若干の未調査部分があったが、今回はこれを補足し報告するものである。

琴平塚古墳群は琴平塚1号墳を主墳とする前方後円墳3基(1・3・5号墳)と、円墳11基(13号墳は周溝一部のみで不明瞭)からなる後期の群集墳である。墳丘は主に1号墳・2号墳に良好に認められるが、その他は削平され僅かに残るか、流失してしまったものが多い。これら古墳の埋葬施設は1.旧地表下にローム塊を基礎として築かれる構造(4号・6号・8号・10号・12号・14号墳)2.旧地表から掘削された掘方をもつ構造(7号・9号・11号墳)3.横穴式石室(2号・3号・5号墳)があり、その内訳は割竹型木棺、箱形木棺、箱形石棺、土城墓、小石室、埴輪棺、側壁扶込土坑、横溝を有する土坑など多様である。出土遺物は土器(須恵器器・環・甕、土師器環・甕)、埴輪(形象埴輪:武人形・女子形・馬形、円筒埴輪)、馬具(主に9号墳:内轡槽円形鍔板付轡、辻金具、帯金具、鉸具)、武器(鉄刀、刀子、鉄鏃)がある。以上報告書を要約したが、詳細は調査報告書(中村:2004)を参照されたい。

本墳は円墳で中央部に粘土礫をもち、馬具類や鉄鏃などが出土した。周溝内からは土師器環、円筒埴輪が出土し、時期的には6世紀中葉と位置付けられた。今回、周溝北端部の調査により規模が確定した。前回報告では周溝外縁は東西20.95mだったが、南北はやや長く、22.1mある。北部の周溝上面幅は3.7~4.0mと、前回報告の数値(2.8m)よりやや幅広である。また、北部中央の周溝底面には周溝と直交するブリッジ状の高まりをもつことが判明した。図面では2条あるが、西側は若干の高まりをもつ程度で不明瞭であるのに対し、東側は高まりが大きく、下幅約90cm、周溝底面との標高差は20cmある。ブリッジ部を挟んだ両脇部分の標高差はほぼ無い。周溝断面は側面に段をもつ逆台形で、確認面からの深さは90cm前後である。底面付近の4層はローム土を埋戻したと思われる。なお、南側調査区の墳丘盛土は今回調査区では確認できなかった。



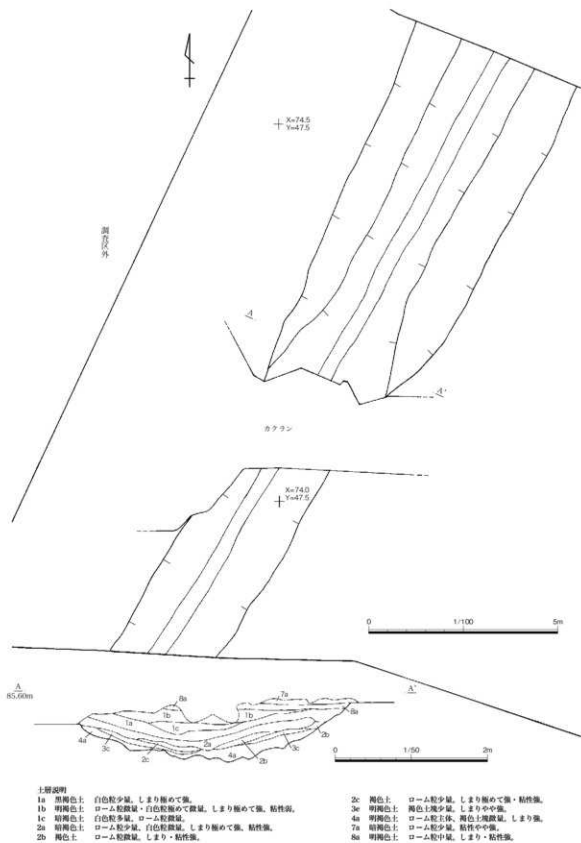
第259図 西刑部西原遺跡8区 琴平塚9号墳実測図

3. 道路状遺構

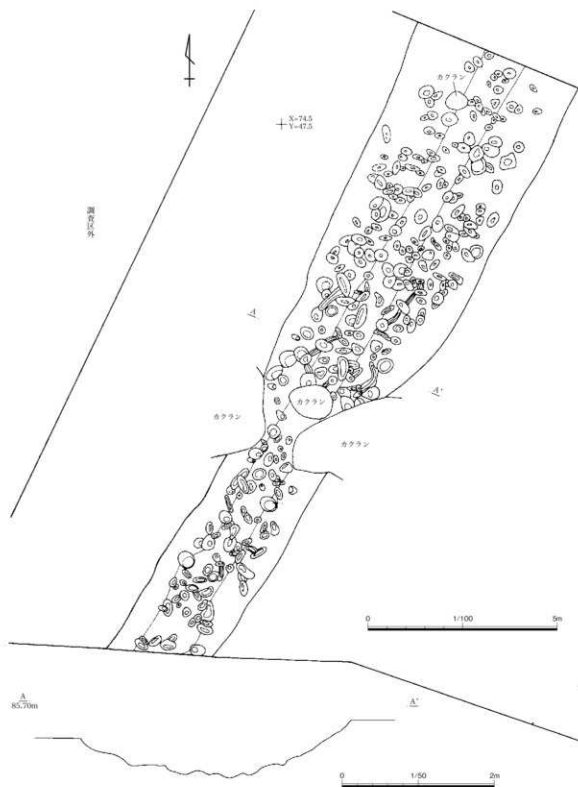
8区 SF-13 (遺構：第260・261図、遺物：第262図、図版三九、一一二)

道路状遺構は、東谷・中島地区遺跡群において南西方向から北東方向に確認された。その範囲は権現山遺跡 SG 1区、杉村遺跡 SG 1区、磯岡北遺跡 SG 3区・14区・6区・11区、西刑部西原遺跡 2区・6区・7区の4遺跡に跨り、総延長1.5kmにおよぶ長大な遺構である。

このうち権現山遺跡、杉村遺跡、磯岡北遺跡の各地区においては平行する2条の溝状遺構が確認されている。溝状遺構は若干蛇行しながらも直線的に作られており、これらは道路遺構の側溝であることが推定されている。側溝間の芯々距離は10～14mと一定でなく、低地部分で幅が狭くなる傾向が指摘されている。また側溝は大きく2回の作り替えが確認されている。なお、側溝以外の路体構造としては磯岡北遺跡 SG11区の低地落ち際で、波板状の凹凸痕跡が確認されている。



第260図 西刑部西原遺跡8区 SF-13実測図(1)路面の掘り込み状況



第261図 西刑部西原遺跡8区 SF-13実測図(2)路床の掘方の状況



第 262 図 西刑部西原遺跡 8 区 SF-13 出土遺物

第 116 表 8 区 SF-13 出土遺物観察表

図録番号	器種	法量 (cm)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置	残存
1	鉄製品 鉄鏃	長 [3.2] 幅 [0.7] 厚 0.2 重 [2.4]	鑿箭式の長頭鏃破片と考えられる。鏃身は両丸造りであるが、やや薄手。	—	鉄製	4層	部分残存

磯岡北遺跡より1段高い台地上に位置する西刑部西原遺跡では、それまでの側溝を備えた道路ではなく切り通し状の道路遺構が確認された。この溝状遺構は古墳時代後期の琴平塚古墳群の墳丘を迂回しながら直線的に敷設されている。この道路状遺構は、本遺跡内を470 mにわたり縦断する長大な遺構で、平成11年度には2区が、平成12年度に6・7区の道路状遺構が調査され、平成15年度には報告書が刊行されている。

今回の報告分は未調査であった8区の状況を示すものである。8区の道路状遺構は、北部の(2区)D区、南部の(2区)C区に挟まれた範囲で1条が、長さ18 mにわたり確認されたものである。

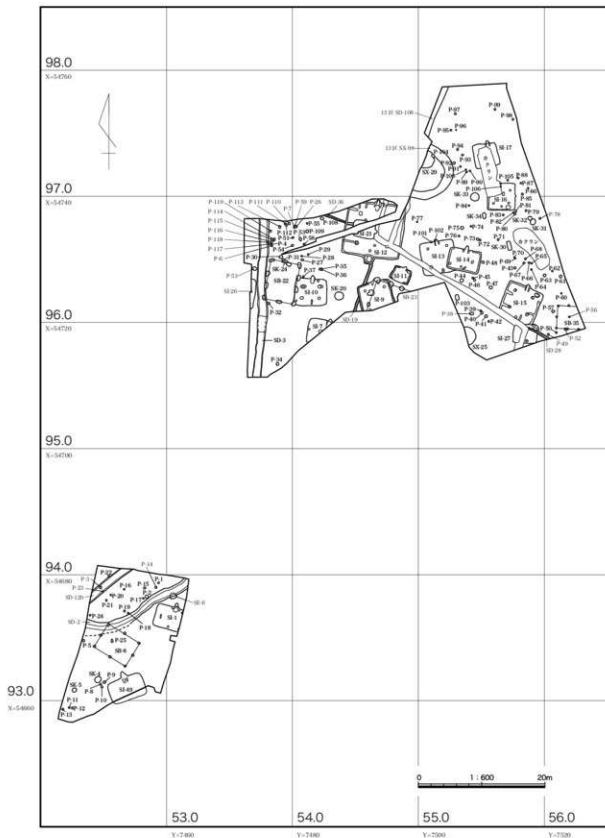
立地 西刑部西原遺跡が立地する台地の中央部。西側から低地が入り込む場所にあたる。重複関係 前回調査のC区では琴平塚6号墳との重複が認められ、古墳より新しいことが確認されている。**主軸方向** N-30°-E **路面・路盤** 路床が確認された。路床は中央部を中心に不規則なビット状の掘り込みが多数検出された。土層断面は、遺構中央部で(Aライン)確認した。

路面 断面形状・規模 路面の平面的な広がり不明だが、断面観察では良好に遺存する。セクション図採取断面で確認したところ、路面幅は3.2 m以上、確認面からの深さは0.20～0.56 mである。また路面までの断面形は逆台形状を呈している。**覆土** 3e層および4a層が路盤を構成する土層でこの上面が路面となる。これより上層の1a～1c、2a～2c、7a、8a層は覆土と考えられる。

路床 平面形状・規模 路床は残りが良く、規模は幅0.8～1.3 m、確認面からの深さは0.7～0.8 mで、ローム層を掘り込んで路床面を形成している。断面は皿状または船底状で、硬化部分は認められない。**凹凸痕跡** 路床中央部を中心に細かく不規則なビット状の凹凸が確認される。ビットの形状は楕円形が多く、長軸0.3～0.5 m前後、深さ0.1 m前後のものが多い。中には0.7～0.8 mのほどの大形の掘り込みや、溝状を呈するものもある。南側のC区および北側のD区に見られるような、主軸方向に直交する波板状の痕跡は本調査区では確認できなかった。覆土は4a層としたローム土主体の層で硬く埋戻されている。

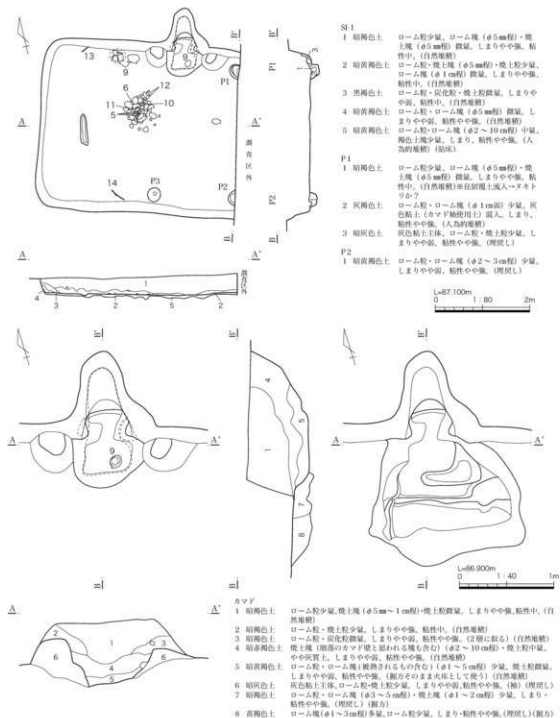
出土遺物 極めて少ないが、路床覆土中から鉄鏃破片が出土した。1は鑿箭式の長頭鏃の鏃身の破片と考えられる。頭部の断面形は長方形。鏃身の断面形は両丸造りである。今回の出土遺物から時期の判別は難しいが、報告書(藤田2003)によると本遺構の時期は8世紀後葉以降に位置付けられている。

第9節 9区の遺構と遺物

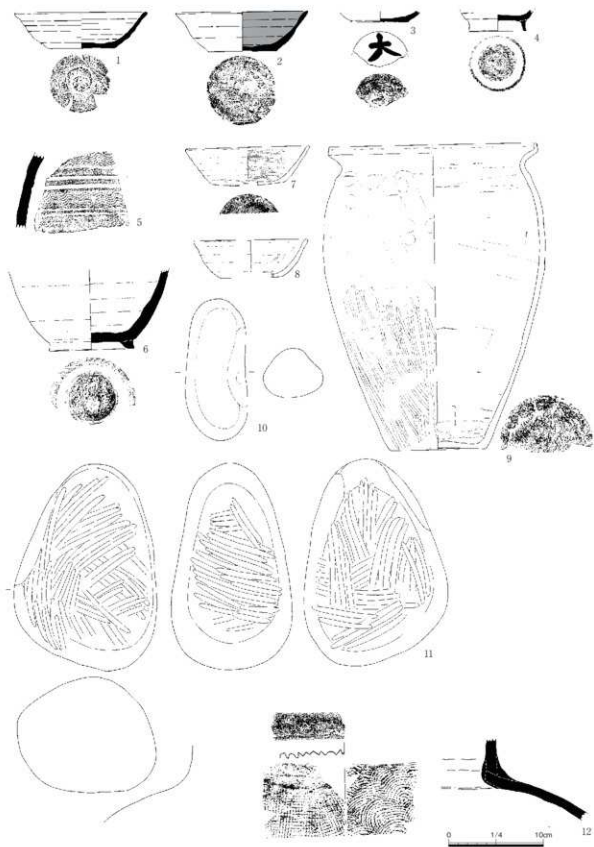


本調査区は竪穴建物跡 15棟（古墳時代 11棟、平安時代 4棟）、掘立柱建物跡 4棟、性格不明遺構 2基、井戸 1本、溝 6条、土坑 10基、ピット 118基が確認された。

1. 竪穴建物跡



第264図 西刑部西原遺跡9区 SI-1実測図



第265図 西刑部西原遺跡9区 SI-1出土遺物(1)

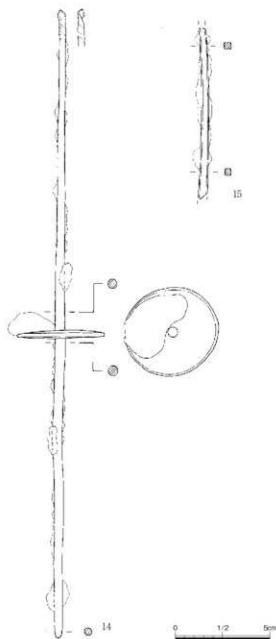


第266図 西刑部西原遺跡9区 SI-1出土遺物(2)

9区 SI-1 (遺構: 第264図、遺物: 第265
 ~267図、図版四一・一〇・一一・一二・
 一四・一五)

位置 グリッド 53.0-93.0・53.0-93.5 重複
 遺構 無し。平面形 東西軸の隅丸長方形
 規模 東西4.1m以上×南北3.6m 主軸
 方向 N-17.5°-E 覆土 自然堆積 壁
 壁高30~50cm 床 全面貼床だが、概ね平
 坦。硬化面は未確認。柱穴 P2(径28cm
 以上、深さ17cm)があるが掘方の可能性あり。

入口ピット P3(径約30cm、深さ21cm)
 南壁際に位置する。貯蔵穴 P1(径30cm
 以上、深さ19cm)はカマド東に近接する。
 周囲に堤防状の掘り残しあり。壁溝・間仕
 切り溝 確認できなかった。掘方 南西部
 及び北東部に若干の浅い凹凸を確認。カマ
 ド 北壁を長いU字形に掘り込む。煙道は約
 60°で立ち上がる。カマド前面は浅く広い掘
 方あり。遺物 平面的には中央部から遺物
 が多く出土。須志器坏・高台付坏・瓶類・甕、
 土師器坏・甕、刀子、鉄製紡錘車が出土。3
 の坏底部外面には墨書「大」あり。4は高台
 部が高い。9は床面直上出土の常総型甕。底
 部外面に砂目痕跡あり。13は完形品の刀子。
 本遺跡中最も大形で、全長24.2cmある。14
 は完形品の紡錘車。軸上端部を叩き延ばし、
 螺旋状に加工している。不掲載の土器類は小
 コンテナ1/3程度、礫は600gほどが出土。
 遺物から平安時代(9世紀前葉)の建物跡と
 考えたい。



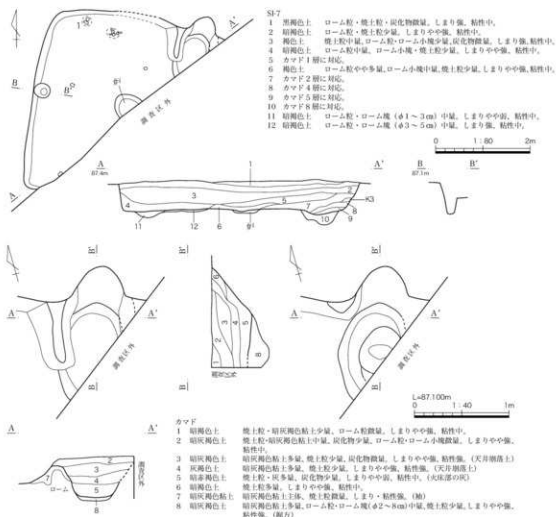
第267図 西刑部西原遺跡9区 SI-1出土遺物(3)

第117表 9区 SI-1出土遺物観察表

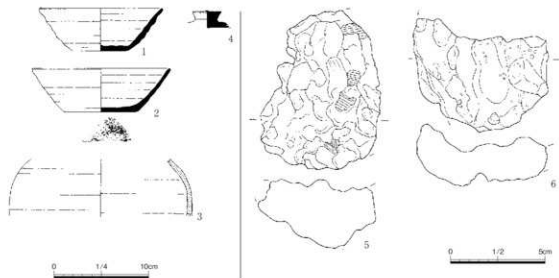
編號番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵器 環	口 [13.8] 高 3.8 底 7.1	内外面口クロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。	内外面とも 2.5YR6/6 橙	中・中粗い、白・灰黒砂～ 礫 焼成：中・中硬質	不明	口縁部 1/4、底部 7/8
2	須恵器 環	口 13.6 高 4.2 底 7.2	内外面口クロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。敷物上面から、内面黒色付着物あり。漆か。磁子産。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	細漚、白細砂、白・灰黒 焼成：軟質	No 59 15.6	口縁部～体 部 3/4、底 部 2/5 存
3	須恵器 環	高 [2.1] 底 (6.0)	内外面口クロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。漆著「火」か。磁子産。	内：7.5YR6/6 橙 外：5YR6/6 橙	中・中細漚、灰・白砂、灰・ 白・黒細砂 焼成：中・中硬質	覆土中	中部 1/2
4	須恵器 高台付 環	高 [2.1] 底 6.0	内外面口クロナデ。底部外面回転ヘラ切りのち高台貼付。磁子産。	内：7.5Y/1 灰 外：2.5YR4/2 灰赤	中・中細漚、白・灰・粗砂 ～礫 焼成：硬質	覆土中	底部 2/5 存、 体部 1/5 存
5	須恵器 環	厚 1.0	内外面口クロナデ。頸部外面横位沈線及び波状文がある。内外面に若干の障灰あり。	内：7.5Y4/1 灰 外：10Y6/1 灰	中・中細漚、白・白・黒細 砂、白・灰砂 焼成：硬質	No 41 4.5	頸部破片
6	須恵器 瓶	高 [8.5] 底 9.0	内外面口クロナデ。頸部外面下半部回転ヘラケズリ。底部外面ナデか。高台は細位で混合沈線あり。回転ヘラケズリの上面に平漚の加工痕がみられる。	内：5Y6/1 灰 外：5Y5/1 灰	粗い、灰・白・黒細砂～ 礫 焼成：硬質	No 40 床直	頸部下平～ 底部 1/2
7	土師器 環	口 (12.8) 高 4.0 底 [7.6]	内外面口クロナデ。内面ヘラミガキ。体部外面下部手持ヘラケズリ。底部外面静止系切あり。	内：5YR5/6 明赤 外：7.5YR5/6 明褐	中・中細漚、白・黒細砂 焼成：中・中硬質	カマド	口縁部 1/4、底部 1/4
8	土師器 環	口 (11.8) 高 4.0	内外面口クロナデ。内面ヘラミガキと考えられるが磨滅不明で不明確。黒色仕上げ。	内：10Y2/1 黒 外：10YR6/4 にぶい黄緑	中・中細漚、白・黒細砂 焼成：中・中硬質	不明	口縁部 2/5、底部 1/4
9	土師器 高台付 環	口 (21.8) 高 (32.2) 底 (14.0)	頸部外面上半部漚押し及びナデ。外面下半部コベラケズリのちナデヘラミガキ。底部外面本葉筋及び砂目痕あり。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	中・中細漚、白・灰・黒砂、 灰漚、白砂同時 焼成：中・中硬質	No 3・4・ 54 床直 (No 3)	口縁部～底 部 3/2
10	石器 輪軸石	長 14.8 幅 6.3 厚 5.1 重 653.0	未知上の自然産。全面に褐色の付着物あり。断面形：不整な隅丸三角形	2.5Y7/3 浅黄	—	No 35 4.7	完存
11	石器 破石	長 21.8 幅 14.8 厚 12.0 重 4.973	表面左右側面、下面の計5か所の風面あり。磨面は明瞭。幅広である。片破か。断面形：不整な楕円形	2.5Y6/3 にぶい黄	多孔質安山石か	No 50 床直	完存
12	須恵器 環	高 18.7 径 [5.1] 厚 1.0	内面同心円状に具眼。外面格子目明き。頸部内外面種強粘貼付のちクロナデ。頸部外面タテハケ自のちナデのち一本筋きの浅い横線状の波状文。胴部に黒白色の障灰あり。	内：N4/0 灰 外：N7/0 灰	中・中粗い、白細砂粒、白礫 焼成：硬質	No 6・7 6.0 (No 7)	頸部 1/5
13	鉄製品 刀子	長 24.2 幅 1.6 厚 0.5 重 28.0	背は角線で若干反りをもつ。種軸は約6.0mmと厚い。刃部は中央部を僅かに鋭角減りにしたものが、葉は長く断面は逆台形または長方形。	—	鉄製	No 2 12.5	完存
14	鉄製品 紡錘車	長 31.6 径 4.9 厚 0.6 重 35.4	定形の紡錘車。紡輪は杏仁だ円形。断面はレンズ状。中央部に径5.0mmの円孔あり。軸断面は径5.0mmの円形。上端部を薄く延ばし、らせん状に丸める。また側面に織物筋が付着。糸か。軸下端部は丸みをもつ。	—	鉄製	No 1 7.4	完存
15	鉄製品 鉄鏝	長 [9.0] 径 0.4 重 [7.3]	紡錘車の軸破片と考えられるが断面形は一辺5.0mmほどの方形に近い。	—	鉄製	覆土中	部分残存

9区 SI-7 (遺構：第268図、遺物：第269図、図版四一・一〇・一一六)

位置 グリッド54.0-95.5・54.0-96.0 重複遺構 無し。東西軸の長方形か。規模 東西3.3m以上×南北3.8m 主軸方向 N-10° -E 覆土 自然堆積と考えられる。壁 壁高35～55cm 床 部分的に薄い貼床あり。硬化面は見られない。柱穴 P1 (径35～28cm、深さ34cm)は西壁際中央部にある。入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 小さな凹凸があるが、10～12層で埋戻す。カマド 北壁際をU字状に掘り込む。燃焼部には灰・焼土が厚く堆積する。燃焼部底面は深く楕円形の掘方をもつ。炉 建物跡ほぼ中央に位置する。推定径50cmほどの楕円形を呈し、底面は良く焼けている。遺物 遺物は殆ど中層～上層からの出土である。須恵器環(1・2)・蓋(4)、灰軸陶器(3)がある。鉄滓(5・6：坩堝鍛冶滓)が出土。灰軸陶器は本遺跡中から計3点が確認されたのみである。不掲載土器は土師器変類(常総型、武蔵型)の破片が多く、総量は小コンテナ1/4程度と少ない。遺物から9世紀中葉の建物跡と考えられる。



第268図 西刑部西原遺跡9区 SI-7実測図



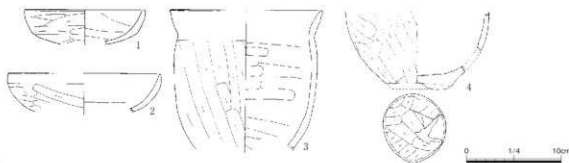
第269図 西刑部西原遺跡9区 SI-7出土遺物

第118表 9区 SI-7出土遺物観察表

掲載番号	器種	法型(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	遺土器 環	口(12.8) 底(5.8) 高 4.5	内外面ロクロナデ。体部下端に鋭へラケズリ。底部外面磨面のため不明。	内外面とも 2.5Y6/2 灰黄	中や粗い、白・透明陶質、雲母片 焼成：硬質	No 3 0.9	口縁部～体部1/3、底部完存
2	遺土器 環	口(14.8) 底(7.5) 高 4.6	内外面ロクロナデ。底部外面に鋭へラ切りのちナデ。	内外面とも 5Y6/1 灰	中や緻密、白細砂 焼成：硬質	覆土中	口縁部～底部1/8
3	灰釉陶 器瓶	高 [6.3]	内外面ロクロナデ。口は丸みを帯びる。外面磨面。蓋投在否。	内：2.5Y5/2 暗灰黄 外：2.5Y7/1 灰白 軸：7.5Y2/4 灰オリーブ	中や緻密、白・黒細砂～砂 焼成：中や硬質	覆土中	胴部1/6
4	遺土器 蓋	高 [1.8] 径 3.0	ロクロナデ。宝珠形のツマミ部。	内外面とも 5Y7/1 灰白	中や緻密、白・黒細砂、白・黒砂 焼成：中や硬質	覆土中	ツマミ部完存
5	鉄片	長 [8.3] 幅 [6.1] 厚 [3.5] 重 [170.2]	板形鍛冶片か。比較的緻密で重い。左側縁部は残存部が多いがその他は破面となっている。上面は気孔が多い。凹んだ部分には木炭粒がみられる。下面は中央部付近の凹部に錆化を確認。錆は剥がれたためかほとんど残っていない。	表：サビ色 5YR4/3 に近い赤黒 サビ無 5Y5/1 灰黄 裏：サビ色 5YR4/3 に近い赤黒	磁石度：4	覆土中	部欠
6	鉄片	長 [5.1] 幅 [6.9] 厚 [1.9] 重 [85.7]	板形鍛冶片。左側縁の一部を残し他は破面。破面は4面。上面は左平部の錆化が進む。右平部は発蝕のため錆起厚し若干気孔が目立つ。下面は白色錆を含む中や硬質が付着している凹部は底の痕跡がみられる。	表：サビ色 7.5YR4/4 期 サビ無 7.5Y5/1 灰黄 裏：サビ色 7.5Y5/6 明期 サビ無 7.5Y5/1 灰	磁石度：3	覆土中	部欠

9区 SI-9 (遺構：第271図、遺物：第270図、図版四一・四六・一〇一)

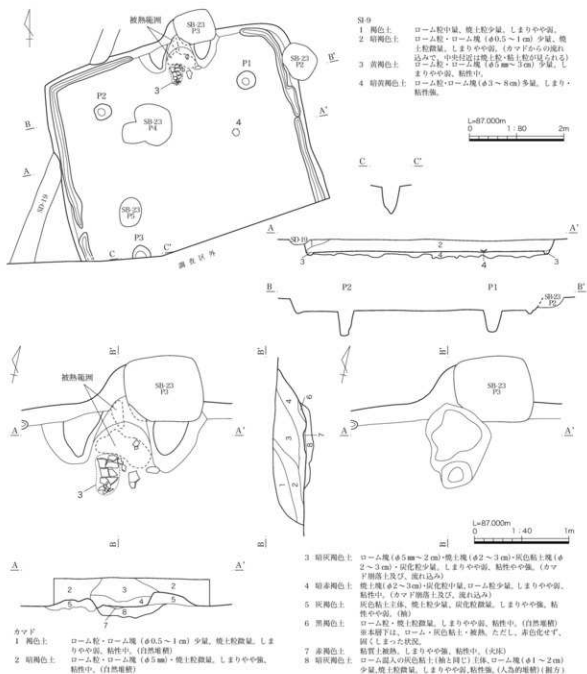
位置 グリッド54.5-96.0 重複遺構 時期不明のSB-23より古い。平面形 隅丸方形か。規模 東西5.3×南北4.3m以上 主軸方向 N-14°-W 覆土 3層からなる自然堆積。壁 壁高24～27cm 床 全面が薄い貼床。概ね平坦である。柱穴 P1(径38cm、深さ45cm)、P2(径35cm、深さ53cm)、P3(径38cm以上、深さ57cm)の3本を確認。入口ピット・貯蔵穴 確認されなかった。壁溝 若干途切れるが、カマド両脇の一部を除きほぼ壁際を全周するようである。規模は幅11～21cm、深さ4～8cmである。掘方 全面的に小さな凹凸のあるのみ。カマド 北壁中央部やや東寄りに位置する。壁を浅く半円形に掘り込む。床面から3の土師器甕が出土した。遺物 床面付近の遺物は3・4の甕のみで、他は覆土中の出土。4の底部外面は、焼成前に補修した粘土が、使用中に割れ落ちた可能性がある。底部補修の一例として興味深い。古墳時代終末期(7世紀代)の建物跡と考えられる。



第270図 西刑部西原遺跡9区 SI-9出土遺物

第119表 9区 SI-9出土遺物観察表

掲載番号	器種	法型(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	土師器 環	口 [12.4] 高 [3.6]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面へラケズリ。口縁部外面～体部内面へラケズリのちへラナデ。体部内面へラナデ。内外面磨面仕上げ。	内：10YR7/4 に近い黄緑 外：10YR8/4 浅黄緑	緻密。白細砂、赤色粒 焼成：中や硬質	南覆土	口縁部～底部1/4
2	土師器 環	口 [15.8] 高 [4.0]	底部内面～口縁部外面ヨコナデ。体部外面へラケズリ。内外面磨面仕上げ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	緻密。赤色粒 焼成：中や軟質	北覆土	口縁部1/8、体部1/5



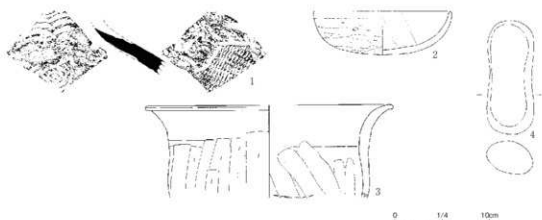
第271図 西刑部西原遺跡9区 SI-9実測図

3	土師器 甕	口 (15.8) 高 [14.6]	口縁部内外面口コナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面片念目コナデ。	内: 7.5YR8/6 浅黄褐色 外: 7.5YR7/6 黄	中割粗い。白・灰・黒粗砂・粗地成: 中割硬質	マフドNo 1 1.3	口縁部~胴部上平1/3
4	土師器 甕	底 (6.2) 高 [8.3]	胴部外面タテヘラケズリのちなメナデ。内面割高面斬なため調整不明。底部外面木炭灰のち多方向ヘラケズリのちな粘土貼付。最初に作った底部(多方向ヘラケズリ)が不安定なため、粘土を張り底部を作り直したが、乾燥が進行しており充分に接合せず。焼成後(あるいは焼成中)割がれたものと考えたい。	内: 5YR7/6 黄 外: 10YR7/6 暗黄	中割細面。白・黒粗砂。白・灰・黒粗砂。赤色粘地成: 中割硬質	No 7, SI 10 北区, 南区 床直 (No 7)	胴下部 1/4, 底部 1/5, 底部 1/5完存

9区 SI-10 (遺構：第 273 図、遺物：第 272 図、図版四二・一〇一)

位置 グリッド 54.0-96.0 重複遺構 西壁際で奈良時代の SB-22 と重複し、これより古い。平面形 東西軸の隅丸長方形。規模 東西 5.0×南北 4.4 m 主軸方向 N-4°-E 覆土 自然堆積と考えられる。壁 壁高 25～32 cm 残る。床 全面的に浅い貼床。若干の凹凸あり。柱穴 P1 (径 80～47 cm、深さ 40 cm)、P2 (径 90～56 cm、深さ 47 cm) は形状から判断して柱を抜き取った可能性あり。P3 (径 53～45 cm、深さ 44 cm)、P4 (径約 40 cm、深さ 45 cm) は柱痕など確認できなかった。入口ピット P5 (径 18 cm、深さ 26 cm)、P6 (径 29～25 cm、深さ 25 cm)、P7 (径 20 cm、深さ 20 cm) の 3 本が縦列して確認されたが、その他 P8 (径 24 cm、深さ 27 cm) は本遺構に伴うものか不明瞭。貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。

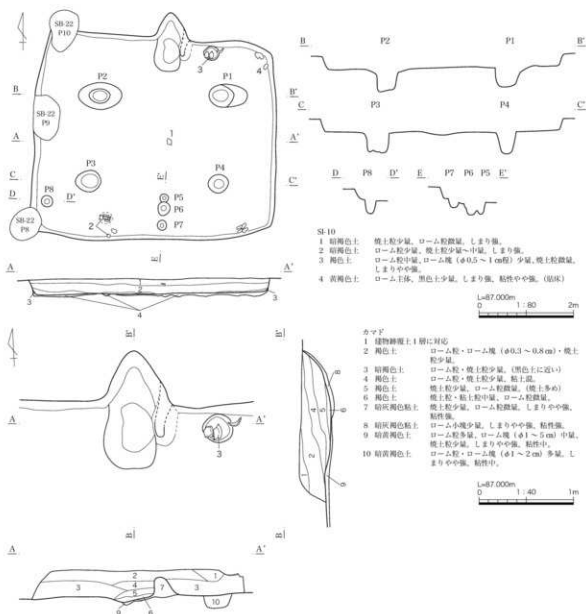
掘方 細かな凹凸があるが土坑状の掘り込みなどは確認されなかった。カマド 北壁中央部やや東寄りに位置し、壁面を V 字形に掘り込む。煙道の立ち上がりは約 50° である。燃焼部の掘り込みは浅く、被熱度は弱い。遺物 遺物は須恵器甕破片、土師器環・甕、編物石を図示した。2～4 は床面付近の遺物である。1 は覆土中の土師器環だが、体部側面にモミ圧痕が見られる。不掲載遺物は土師器甕胴部破片が小コンテナ箱 1/3 程度である。遺物から古墳時代終末期 (7 世紀代) の建物跡と考えたい。



第 272 図 西判部西原遺跡 9 区 SI-10 出土遺物

第 120 表 9 区 SI-10 出土遺物観察表

掲載番号	図種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 甕	高 [7.5] 厚 1.2	内面同心円状あて具痕。外面格子印き。	内：7.5YR7/6 橙 外：5Y7/2 灰白	中・やや粗い、白・灰黒部～ 緑 焼成：中・やや硬質	No 13 19.5	胴部破片
2	土師器 環	口 (14.4) 高 4.6 径 (14.6)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。口縁部外面～内面全面部仕上げ。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	緑紫、赤鉄 焼成：中・やや軟質	No 11・12 0.8 (No 12)	口縁部 1/2、底部 3/4
3	土師器 甕	口 (25.6) 高 (19.8) 径 (26.0)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面タテヘラケズリ。破片下端部は焼熟して赤化する。	内：10YR6/4 に近い黄橙 外：10YR5/3 に近い黄橙	中・粗い、白・黒・灰黒 部～緑、赤鉄 焼成：硬質	No 2	口縁部～胴 部 1/3
4	石器 編物石	長 12.0 幅 4.8 厚 3.6 重 340.0	未加工の自然産。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	N6/O 灰	—	No 4 床直	完存



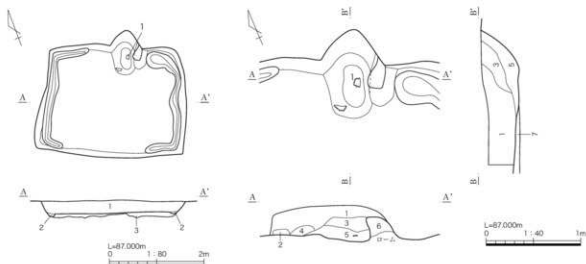
第273図 西刑部西原遺跡9区 SI-10実測図

SI-11 (遺構：第274図、遺物：第275図、図版四二)

位置 グリッド54.5-96.0 重複遺構 無し。平面形 東西軸の長方形 規模 東西3.1×南北2.3m 主軸方向 N-25°-E 覆土 自然堆積 壁 壁高20～26cm 床 全面が貼床でやや凹凸が多い。硬化面は未確認。柱穴・入口ピット・貯蔵穴 確認できなかった。壁溝 西壁際をD1(幅11～35cm、深さ6cm)、東壁際をD2(幅13～21cm、深さ7cm)とした。南壁中央部および北壁のカマド西側には確認できなかった。

掘方 土坑状の掘方はないが、細かな凹凸をもつ。ローム土を多量含む黄褐色土(3層)で埋戻す。カマド 北壁中央部やや東に位置し、壁面を半円形若しくは三角形に掘り込む。袖残りは悪く、僅かに右袖の一部が残る。遺物 床面直上の遺物はなく、図示可能な遺物は1の土器器裏小破片のみである。不掲載土器は土器器裏胸部破片主体で小コンテナ箱1/4程度である。遺物は古墳時代後期～終末期のものが多く、建物の小形である点など奈良時代以降の建物の可能性も捨てきれない。

第3章 発見された遺構と遺物



SI-11

- 1 暗褐色土 ローム殻・焼土層・灰色粘土少量。しまりや中強、粘性中。
(自然堆積)
2 黒褐色土 ローム殻・ローム塊(φ3~5cm)・黒色土少量。しまりや中強、粘性中。
3 黄褐色土 ローム主体、黒色土少量。しまり・粘性強。
カマド
1 建物跡壁土1層に対応。
2 黄褐色土 ローム塊(φ10cm程度)主体。しまり・粘性やや強。
3 暗褐色土 灰色粘土主体、焼土層(φ1~3cm程度)少量。やや灰質土。しまりや中強、粘性やや中強。(自然堆積)

- 4 暗褐色土 灰色粘土主体、炭化粒・焼土粒少量。やや灰質土。しまりや中強、粘性中。(陶器残片を層に散る)
5 暗赤褐色土 焼土塊(φ1~5cm程度)中強。炭化物微量。しまりや中強、粘性中。(木屑下焼跡あり。ただし、赤色土の部分は少なく、固くしまった状態)(地溝に埋り自然堆積)
6 暗褐色土 ローム殻・ローム塊(炭化粒少量。しまりや中強、粘性中。(焼)ローム殻・ローム塊(φ2~3cm程度)・黒色土塊(φ2~3cm程度)少量。カマド前面西面しまり層(部分のやや中強)、粘性やや中強。(貼土)

第274図 西刑部西原遺跡9区 SI-11実測図



第275図 西刑部西原遺跡9区 SI-11出土遺物

第121表 9区 SI-11出土遺物観察表

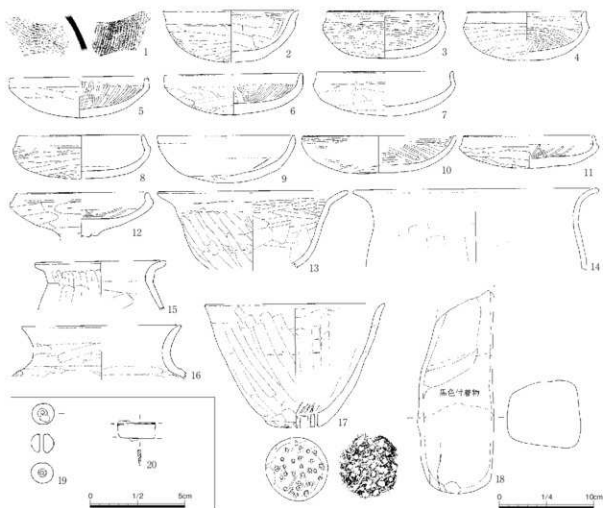
編號番号	図柄	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	土師器 甕	口 (15.7) 高 (6.2)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラナデのちヘラナデ。胴部外面粘土・焼土少量付着。	内外面とも 2.5YR5/6 明赤褐色	やや粗い。白・黒・灰砂。灰・白磁 焼成：やや硬質	カマドNo.2 5.5	口縁部一側 上半1/7

9区 SI-12 (遺構：第277・278図、遺物：第276図、図版四二・四三・一〇一・一〇二)

位置 グリッド 54.5-96.5・54.5-96.0 重複遺構 SI-21、SD-36と重複し、本建物が最も古い。平面形やや東西に長い方形 規模 東西9.4×南北8.78m 主軸方向 N-9°-E 覆土 自然堆積 壁高 約50cm 床 薄い貼床あり。概ね平坦。柱穴 P1 (径61~53cm、深さ58cm)、P2 (径60cm、深さ52cm)、P3 (径41cm、深さ55cm)。北東の柱は調査区外か。入口ピット P5 (径35cm、深さ16cm)は張出ピットの北部に位置する。貯蔵穴 P4 (長軸推定50×短軸30cm、深さ38cm)はカマド東部に近接する。張出ピット 南壁中央部を幅1.9m、長さ1.0mに亘り台形状に広げ、中央部にP6 (長軸86×短軸70cm、深さ60cm)を掘る。P7 (径33cm、深さ60cm)、P8 (径35~30cm、深さ19cm)は用途不明のピット。

壁溝 D1 (幅18~40cm、深さ6cm)は入口ピットを含むすべての壁際を巡る。間仕切り溝 D2 (幅18~24cm、深さ10cm)、D3 (幅17~23cm、深さ7cm)、D4 (幅26~37cm、深さ12cm)、D5 (幅35

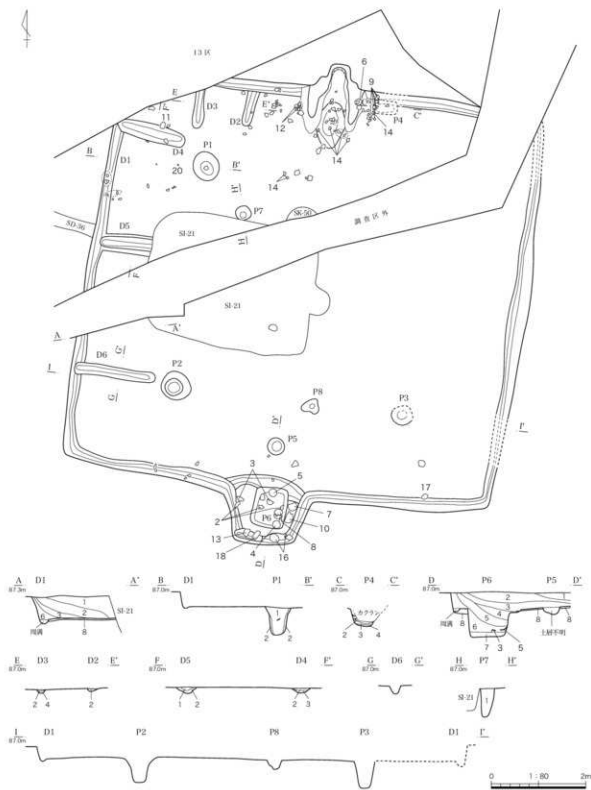
～40cm、深さ16cm)、D6(幅21～24cm、深さ18cm)の計5本確認。掘方平坦に掘り、第8層で埋戻す。カマド北壁中央部を凸字状に掘り込み、煙道はほぼ垂直に立つ。燃焼部は溝状の掘方をもつ。遺物 入口ピット及びカマド周辺に遺物が多い。図示した遺物は須恵器甕(1)、土師器環(2～11)、高坏(12)、鉢(13)、甕(14～16)、甕(17)、土玉(19)、刀子(20)、編物石(18)がある。6・9・12・14はカマド周辺から、2～5・7・8の環類は入口ピット付近から出土している。不掲載遺物は土師器環・甕類の小破片が主で、小コンテナ2箱程度。遺物から古墳時代後期後葉(TK43段階)の建物跡と考えたい。



第276図 西刑部西原遺跡9区 SI-12出土遺物

第122表 9区 SI-12出土遺物観察表

図録番号	器種	法厚(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵器甕	厚 0.5	内面同心円あて具施。外面平行叩きのちかみ目。	内：2.5Y7/1 灰白 外：5Y6/1 灰	今や織部。灰・白・黒織部。黒・白砂焼成；今や破瓦	ピット入口	割部破片
2	土師器環	口 12.0 高 5.5 径 12.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデのちへラミガキ。口縁部内面は染ミサデあるいはヘラミガキ。内外面漆仕上げ。体部外面ヘラケズリ。	内：10YR5/2 灰黄緑 外：5YR7/6 橙	今や織部。白粗砂～織部焼成；今や破瓦	№5・18・19・20 床直(№5)	ほぼ完存
3	土師器環	口 12.0 高 5.0 径 12.9	口縁部内外面ヨコナデのちへラミガキ。体部内面ヘラナデのちへラミガキ。体部外面ヘラケズリのちへラミガキ。口縁部内外面一部に黒色付着物(漆か)。	内：7.5YR7/6 橙 外：5YR6/6 橙	今や粗い。灰・白粗砂～織部。赤鉄焼成；今や軟瓦	№4・17 1.5(№4)	ほぼ完存
4	土師器環	口 12.3 高 5.1 径 13.4	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部内面ミガキ織の染ミナデ。体部内面ヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのちへラナデ。口縁部および体部外面漆仕上げ。	内：5YR6/6 橙 外：5YR6/6 橙	細砂。灰黄。赤鉄焼成；今や破瓦	№21 39.7	ほぼ完存



第 277 図 西刑部西原遺跡 9 区 SI-12 実測図 (1)

SI-12

- 1 暗褐色土 ローム粒中量、焼土粒微量、しまり中～やや弱、粘性中。
 2 褐色土 ローム粒中～やや多量、ローム小塊・焼土粒微量、しまり中～やや強、粘性中。
 3 暗褐色土 ローム粒中量、ローム塊(φ1cm)・焼土粒微量、しまり中～やや強、粘性中。
 4 暗褐色土 ローム粒少量、ローム小塊・焼土粒微量、しまり中～やや弱、粘性中。
 5 暗褐色土 ローム粒多量、ローム塊(φ1～3cm)少量、炭化物微量、しまり弱、粘性中～やや強。
 6 黒褐色土 ローム粒中～やや多量、ローム塊(φ1～3cm)少量、しまり中～やや弱、粘性中。
 7 暗褐色土 ローム粒中量、ローム塊(φ1～2cm)微量、しまり中～やや弱、粘性中～やや強。
 8 暗褐色土 ローム塊(φ3～4cm)多量、ローム粒少量、しまり弱、粘性中、(原状)

P1

- 1 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ1～3cm)少量、しまり中～やや弱、粘性中、

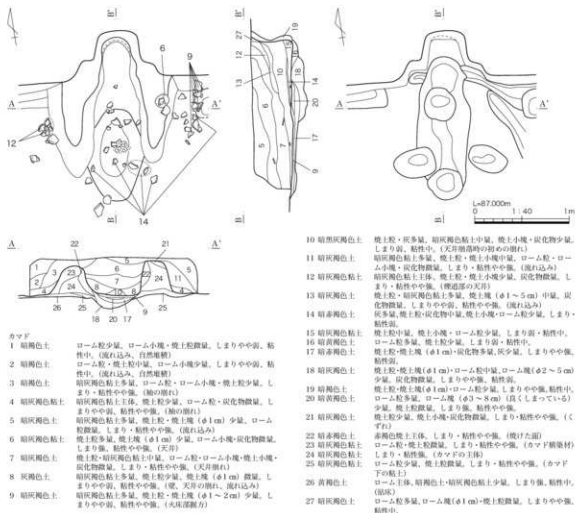
- 2 暗褐色土 ローム主体、黒褐色土少量、しまり・粘性中～やや強。

P4

- 1 暗褐色土 焼土粒中量、焼土小塊・炭化物少量、しまり弱、粘性中～やや強。
 2 暗褐色土 焼土粒・炭化物中量、焼土小塊少量、しまり・粘性中～やや強。
 3 暗褐色土 ローム粒中量、焼土粒・炭化物少量、ローム塊(φ1～2cm)微量、しまり中～やや弱、粘性中～やや強。
 4 暗褐色土 ローム粒多量、ローム塊(φ1～2cm)少量、焼土粒微量、しまり中～やや弱、粘性中～やや強。

P7

- 1 黒褐色土 D2, 3, 4, 5
 2 ローム塊(φ1～2cm)中量、ローム粒少量、しまり弱、粘性中。
 3 暗褐色土 ローム粒多量、ローム小塊少量、しまり中～やや弱、粘性中～やや強。
 4 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ1～3cm)多量、しまり中～やや弱、粘性中。
 5 黄褐色土 ローム主体、しまり中～やや弱、粘性中～やや強。



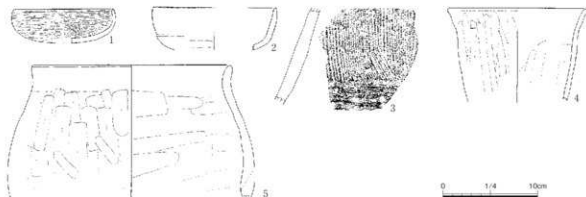
第278図 西刑部西原遺跡9区 SI-12実測図(2)

5	土師器 坪	口 14(2) 高 14.3	口縁部内外面コナデ。体部内面放射状ヘラムミガキ。体部外面ヘラナデ。内外面漆仕上げ。口縁部が全層14.6。昭和25年寸方量。使用品少。	内: 10YR7/3に濃い黄褐色。2.5Y7/4浅黄	冷や微澱。黒・灰・白濁砂。黒・白砂。黒塵埃成: 冷や微澱	№15 11.5	口縁部欠削
6	土師器 坪	口 14.3 高 4.3	口縁部内外面コナデ。体部内面放射状ヘラムミガキ。体部外面ヘラウケツクリのち上半部ヘラナデ。口縁部内外面漆仕上げ。	内外面と10YR7/3に濃い黄褐色	冷や微澱。白・灰・黒塵埃成: 冷や微澱	カマツド№36 3.6 浅黄	ほぼ完存
7	土師器 坪	口 14(2) 高 4.7	口縁部内外面コナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラウケツクリ。	内: 7.5YR7/6 橙 外: 7.5YR8/4 浅黄橙	微澱。白・白砂。赤粒成或: 冷や微澱	№11 1.6	口縁部1/4。底面完
8	土師器 坪	口 12.9 高 4.6 深 14.4	口縁部外面ヘラコナデ。体部内面ナデ。体部外面コナヘラナデのちヘラムミガキ。底部外面一方ヘラウケツクリ。漆仕上げ。	内: 5YR6/6 橙 外: 5YR6/8 橙	微澱。赤粒成或: 冷や微澱	№19 20.0	口縁部一部欠削
9	土師器 坪	口 14.2 高 10.0	口縁部内外面コナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面磨滅のため調整不明。底部外面ヘラウケツクリ。	内: 5YR7/6 橙 外: 7.5YR7/6 橙	冷や微澱。白・灰・黒塵埃成: 冷や微澱	№93・94・96・97 96 93	ほぼ完存

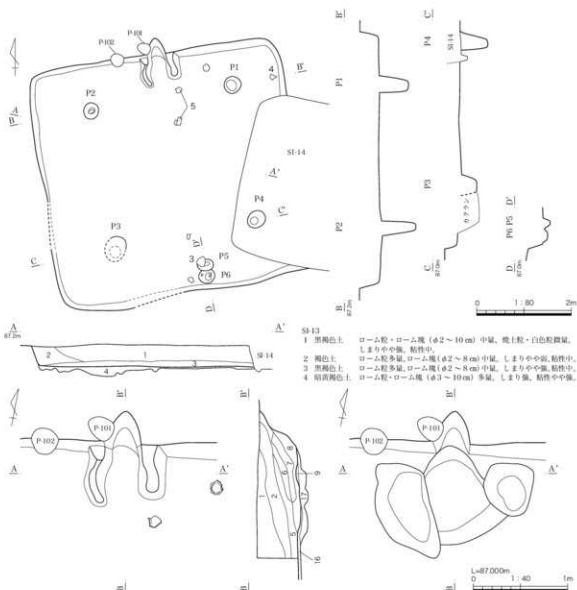
10	土師器 土師環	口 16.0 高 3.9	口縁部内外面ヨコナデのちへらミガキ。体部内面へらミガキ。体部外面磨滅のため不明瞭だがヘラケズリのちへらミガキか。内外面漆仕上げ。	内：10YR3/1 黒褐色 外：10YR5/3 黄褐色	中・中硬質 焼成：中・中硬質	No 10 床直	口縁部 1/2、底部 完好
11	土師器 土師環	口 13.6 高 3.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面縦らな放射状へらミガキ。体部外面へラケズリのち上半部へラナデ。口縁部外面～内面漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	中・中硬質。白・黒・黒褐色の砂。赤粒 焼成：中・中硬質	No 61 15.9	口縁部～体 部 2/3
12	土師器 高杯	口 13.5 高 [4.7]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面縦らな多方向へらミガキ。体部外面へラケズリ。胴部との接合部はナデか。	内：7.5YR6/3 に近い黄褐色 外：10YR6/3 に近い黄褐色	中・中硬質。黒・灰・白砂。白・黒・黒褐色の赤粒 焼成：中・中硬質	K26 床直	杯部 2/3、 胴部欠損
13	土師器 鉢	口 [10.7] 残 [8.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面一部へラケズリのちへラナデ。胴部外面へラケズリのちナメヘラナデ。内外面漆仕上げ。	内：7.5YR7/4 に近い黄褐色 外：7.5YR7/3 に近い黄褐色	中・中硬質。黒・白・灰・白砂。白・黒・黒褐色の赤粒 焼成：中・中硬質	No 6 床直	口縁部～体 部 1/3
14	土師器 甕	口 [25.2] 高 [8.3]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテへラケズリか。胴部内面へラナデか。いずれも磨滅著しく不明瞭。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR7/8 黄褐色	中・中硬質。白・灰・黒褐色の砂 焼成：中・中硬質	No 64・ K31・K33・ K39・K44・ K46・K63 3.1 (No. 64)	口縁部 1/3、胴部 上半 1/2
15	須恵器 高	口 [13.4] 高 [3.2]	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部～胴部上半タテへラケズリ。胴部内面ヨコナデヘラナデ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	中・中硬質。黒・灰・黒・透明細砂～粗砂 焼成：硬質	覆土中	胴部上半一 部
16	土師器 甕	口 16.6 高 [5.6]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面へラナデ。胴部外面へラナデのち一部へらミガキか。器台として再利用したと考えられる。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR6/6 橙	中・中硬質。黒・白・透明細砂～砂。黒・白・赤粒 焼成：中・中硬質	No 8・9 床直 (No 8)	口縁部～頸 部はほぼ完 存
17	土師器 甕	口 [18.8] 高 [13.0] 残 6.5	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面縦らなタテヘラナデ。胴部外面へラケズリ。胴部内面～外側の縦らな放射状の磨滅のち内面から内側の横状工具で穿孔。胴部外面ナデ。	内外面とも 5YR6/6 橙	中・中硬質。黒・灰・黒褐色の砂。赤粒 焼成：中・中硬質	No 23、79 1.4 (No 79)	口縁部 1/6、胴部 完好
18	石製 磁物石	長 [19.6] 幅 8.0 厚 7.1 重 [1777.0]	表面中央部に磨耗に黒色物質付着（ススカ）。平面形：楕丸長方形 断面形：楕丸方形	10YR6/4 に近い黄褐色	—	No 7 床直	部欠
19	土製品 土玉	孔 0.2 径 2.0 厚 1.1 厚 1.0	球状の粘土塊に穿孔。表面とも孔の周辺は剥離・磨滅している。黒色処理または漆仕上げか。	5YR2/1 黒褐色	黒微細砂 焼成：中・中硬質	K51 床直	ほぼ完 存
20	鉄製品 刀子	長 2.0 幅 1.3 厚 0.2 重 1.6	平直りで輪幅は 2.0 mm ほど。切先・間の形状は不明。	—	鉄製品	No 52 11.9	部分残存

9区 SI-13 (遺構：第 280 図、遺物：第 279 図、図版四三)

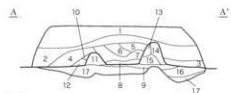
位置 グリッド 55.0-96.0・55.0-96.5 重複遺構 SI-14、P-101・102 と重複し、本遺構が最も古い。平面形 隅丸方形 規模 東西 5.4×南北 5.2 m 主軸方向 N-9°-W 覆土 自然堆積と考えられる。壁 壁高 29～42 cm 床 全面的に貼床。概ね平坦である。柱穴 P1 (径 36 cm、深さ 62 cm)、P2 (径 34～31 cm、深さ 72 cm)、P3 (推定径 45～50 cm、深さ 33 cm)、P4 (径 40～35 cm、深さ 56 cm) の 4 本主柱。入口ビット P5 (径 34～28 cm、深さ 16 cm)、P6 (径 34 cm、深さ 10 cm) に 2 基が縦に並ぶ。貯蔵穴・壁溝 確認されなかった。掘方 若干の凹凸をもつ。カマド 北壁中央部に位置し、壁を船首状に掘り込む。煙道は途中で段をもち立ち上がる。燃焼部床下は浅い皿状の掘方が確認された。本体は黄褐色粘土で構築される。遺物 1 は内外面に入念な磨きを施す小形の環。4 は胴下半部を欠損するが、床面付近から



第 279 図 西刑部西原遺跡 9区 SI-13 出土遺物



- SI 13
- 1 黒褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ2~10 cm) 中量、焼土粒・白色粒少量、しまりや中強、粘性中。
 - 2 褐色土 ローム粒多量、ローム塊 (φ2~8 cm) 中量、しまりや中強、粘性中。
 - 3 黒褐色土 ローム粒多量、ローム塊 (φ2~8 cm) 中量、しまりや中強、粘性中。
 - 4 暗黄褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ1~10 cm) 多量、しまり強、粘性や中強。



- カマド
- 1 褐色土 ローム粒中量、ローム塊 (φ1~5 cm)、七本塚P・白色粒少量、焼土粒少量、しまりや中強、粘性中。(住居跡1跡に付随)
 - 2 暗褐色土 ローム粒多量、ローム塊 (φ1~5 cm) 中量、焼土粒少量、七本塚P・白色粒少量、しまりや中強、粘性中。(住居跡1跡に付随)
 - 3 暗褐色土 ローム粒中量、ローム塊・炭化物少量、焼土粒少量、しまりや中強、粘性中。(住居跡3跡に付随)
 - 4 暗黄褐色土 ローム粒多量、ローム塊 (φ1~5 cm)、焼土粒少量、七本塚P・白色粒少量、しまり弱、粘性や中強。(竈の附随)
 - 5 暗黄褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ1~3 cm) 多量、焼土粒中量、七本塚P・白色粒少量、しまり弱、粘性中。

- 6 黄褐色粘土 焼土粒中量、七本塚P・白色粒少量、しまり弱、粘性中。(天井部)
- 7 暗赤褐色土 焼土粒・暗灰褐色粘土多量、七本塚P・白色粒少量、しまりや中強、粘性強。(火室壁内)
- 8 暗灰褐色土 灰多量、焼土粒中量、ローム粒・ローム塊 (φ1~3 cm)・炭化物少量、七本塚P少量、しまり弱、粘性中。(火床上部灰層)
- 9 黒褐色土 ローム塊 (φ1~2 cm) 中量、ローム粒・炭化物少量、焼土粒少量、しまりや中強、粘性中強。(火室部中央部より)
- 10 暗褐色土 ローム粒・焼土粒中量、白色粒少量、ローム小塊・炭化物少量、しまりや中強、粘性中。(竈跡内部分含む)
- 11 黄褐色粘土 焼土粒多量、七本塚P・炭化物少量、しまり弱、粘性中。(竈跡内部分含む)
- 12 褐色土 ローム粒・焼土粒中量、七本塚P・白色粒・炭化物少量、しまり弱、粘性中。(竈跡内部分含む)
- 13 赤褐色土 焼土粒多量、ローム粒中量、七本塚P少量、白色粒・炭化物少量、しまり弱、粘性中。
- 14 暗黄褐色粘土 焼土粒中量、七本塚P少量、白色粒少量、しまりや中強、粘性中。
- 15 黄褐色粘土 焼土粒・七本塚P・白色粒少量、しまりや中強、粘性中。
- 16 黒褐色土 ローム塊 (φ1~3 cm) 中量、ローム粒・焼土粒少量、しまり強、粘性中。
- 17 黄褐色土 ローム塊 (φ3~5 cm) 中量、ローム粒少量、しまり強、粘性中。

第280図 西刑部西原遺跡9区 SI-13実測図

出土した小型の瓶である。不掲載遺物は土師器灰類類の小破片が小コンテナ箱 1/4 程度、不掲載の礫も 100 g と極めて少ない。遺物から古墳時代終末期（7世紀前半から中葉）の建物跡と考えられる。

第123表 9区 SI-13 出土遺物観察表

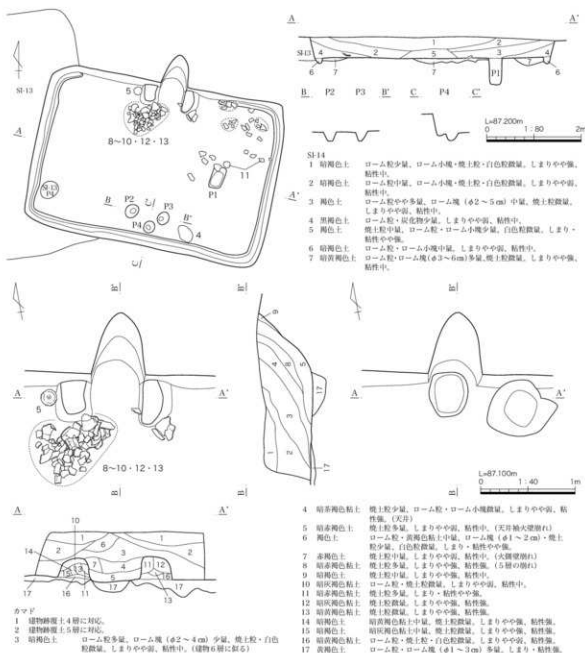
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	土師器 環	口 (10.2) 高 (3.6)	口縁部外面ヨコナデのちヘラミガキ。体部外面ヨコヘラズリのちヘラミガキ。口縁部～体部内面ヘラミガキ。	内外面とも 5YR6/8 橙	中々緻密、白粉砂～礫、赤粘 焼成：中々硬質	南	口縁部～体 部 1/2
2	土師器 環	口 (12.8) 径 (4.5)	口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ナデ、体部外面ヘラズリ。内外面漆仕上げ。袋入品。	内：7.5YR7/4 に近い橙 外：7.5YR7/6 橙	中々緻密、白・黒・灰～礫 砂、黒砂、赤粘 焼成：中々硬質	南	口縁部～体 部 1/4
3	土師器 環	径 10.8 幅 0.8	胴部外面タテハケ調整のち下部ヨコヘラズリ。全体的に被熱強化している。内面調整不明。	内：5YR8/4 淡橙 外：5YR5/6 明赤	中々緻密、白・黒・灰～礫 焼成：中々硬質	No.6 0.6	胴部破片
4	土師器 環	口 (14.5) 高 (4.7)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ナデ。胴部外面ヘラナデ。	内外面とも 10YR7/6 明赤	中々緻密、灰・黒砂、灰・ 白・黒粘砂 焼成：中々硬質	No.4 2.0	口縁部～胴 部 1/6
5	土師器 環	口 (20.6) 高 (14.2) 径 (25.0)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面ヘラズリ。外面大きな黒斑あり。	内：7.5YR2/1 黒 外：7.5YR6/6 橙	粗い、白・灰・黒粘砂～ 礫、赤粘 焼成：中々軟質	No.2・3 2.2 (No.3)	口縁部～胴 部 1/2 平直

9区 SI-14 (遺構：第281図、遺物：第282図、図版四三・一〇二)

位置 グリッド 55.0-96.0・55.0-96.5 重複遺構 SI-13 と重複しこれより新しい。平面形 東西軸の隅丸長方形 規模 東西 5.1×南北 3.5 m 主軸方向 N-11°-E 覆土 自然堆積 壁 壁高 36～44 cm 床 一部貼床あるが、概ね平坦。ビット P1 (径 46～27 cm、深さ 56 cm) はこれに対応するビットがなく用途不明瞭。入口ビット P2 (径 31 cm、深さ 19 cm)、P3 (径 27 cm、深さ 21 cm)、P4 (径 25 cm、深さ 16 cm) の 3 基を確認。貯蔵穴 確認できなかった。壁溝 カマドを除く壁際を全周する。D1 (幅 15～20 cm、深さ 14 cm)。掘方 底面に浅い凹凸をもつ。カマド 北壁中央部を船首状に掘り込む。煙道は約 50°で立ち上がる。遺物 主にカマド前面から出土した。掲載物は須恵器環(1)・鉢か(2)・蓋(3・4)・大形の高環(5)、土師器裏(6・7 混入品)。武蔵型の土師器裏(8～13)は 11 の台付裏を除き、カマド前面の床面直上から出土している。不掲載遺物は小コンテナ箱 1/3 で、殆どが武蔵型裏の小破片で、少量の須恵器環蓋破片が混入する。奈良時代後葉の建物跡と考えられる。

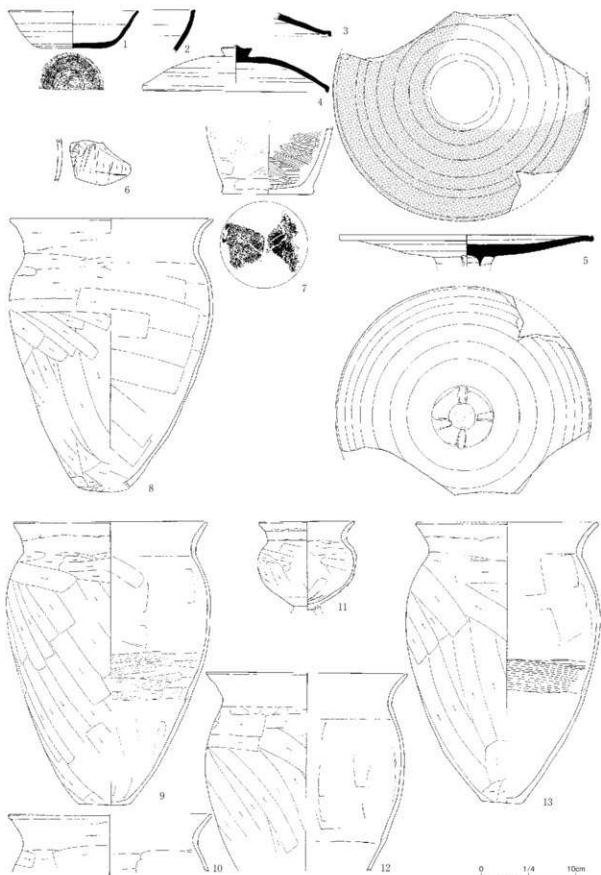
第124表 9区 SI-14 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵器 環	口 (13.4) 底 6.7 高 3.9	ロクロナデのち底部外面周を回転ヘラズリ。底部外面回転糸切のち口縁部回転ヘラズリ。	内外面とも 5Y6/2 灰オリーブ	中々緻密、白粉砂 焼成：硬質	南平	口縁部 3/8、 底部 1/2
2	須恵器 鉢か	高 [6.4]	胴縁縁部の須恵器か。内外面ロクロナデ。丸みをもつて立ち上がる。口縁部部は平坦面をもつ。	内外面とも 5Y5/1 灰	中々緻密、白粉砂～礫、 黒色のシミ状 焼成：硬質	北	口縁部 1/10
3	須恵器 蓋	高 [2.3]	内外面ロクロナデ。大井部外面回転ヘラズリ。	内外面とも 2.5Y5/1 黄緑	中々緻密、白・灰～礫 砂 焼成：硬質	A/A ベルト	口縁部破片
4	須恵器 蓋	口 (19.2) 高 [4.9] 径 [3.3]	内外面ロクロナデ。大井部外面回転ヘラズリのちツマミ貼付。ツマミは窪状。	内：5Y5/1 灰 外：5Y4/1 灰	中々緻密、白・黒粘砂、 白礫 焼成：硬質	No.5、南平 ビット一括 遺部 1/4	口縁部 1/8、 体部 2/3、 胴部欠損
5	須恵器 高環	口 26.6 高 [3.5]	平部ロクロナデ。底部外面回転ヘラズリ。脚部貼り付けのち内外面ロクロナデ。脚部の透かしは長方形状。先に廻りの切り込みを入れた。内部を削り取っている。	内外面とも N6/0 灰	中々緻密、白・灰～礫 砂、白・灰 焼成：中々硬質	No.1 8.3	口縁部 1/2、 体部 2/3、 胴部欠損
6	土師器 小型裏	高 [4.4]	胴部外面タテヘラズリのちナメヘラズリ。内面調整部域のため不明。胴部外面の黒色線は霏霏と考えられるが、定かならぬ。	内：10YR8/4 浅黄橙 外：7.5YR6/6 橙	中々緻密、透明細砂、赤 粘 焼成：硬質	A/A ベルト	胴部破片
7	土師器 環	底 9.2 高 [7.6]	胴部外面タテヘラズリ。下部ナデ(指ナデ)。胴部～底内面ヨコまたはナメのハケ目。底部外面木炭痕。	内：5YR4/3 に近い赤 外：5YR2/1 黒	粗い、白・灰・透明細砂～ 礫 焼成：軟質	北E、 SI-13 No.4	底部～胴 部 1/2 平直 1/2
8	土師器 環	口 21.0 底 (5.4) 高 28.8	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面下部タテ・胴部中内面ナメ・胴部上内面ヨコヘラズリ。胴部内面ヘラナデ。底部外面多方向ヘラズリ。口縁部及び胴部外面の一部に黒色物(スス)付着。	内：5YR6/8 橙 外：5YR5/6 明赤	中々緻密、白・灰・黒粘 砂 焼成：中々軟質	No.4、北、 胴上平部は 床直	胴上平部は ほぼ存在



第281図 西刑部西原遺跡9区 SI-14実測図

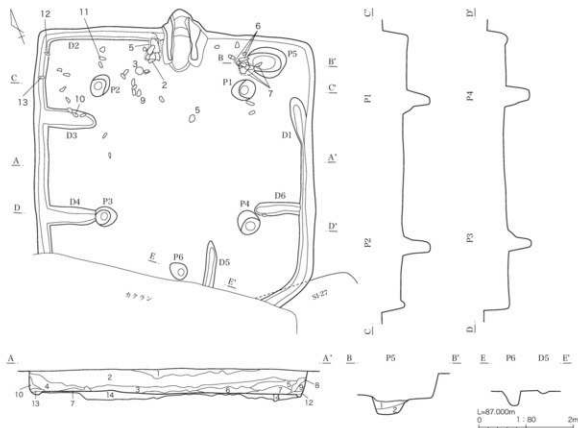
9	土師器 費	口 20.0 底 5.5 高 30.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナナメハケズリ。胴部上面はヨコナケズリ。底部外面一方内ヘケズリ。胴部内面ヘナナデ。内面接合部付近ハケ調整。	内外面とも 5YR6/6 粘赤褐色土	中今軟質。白・灰・黒燧砂一砂。灰燧焼成；中今軟質	No 4 床直	口縁部 1/12、底部 底存
10	土師器 費	口 21.1 高 [5.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半部ヨコナケズリ。胴部内面ヨコナケズリ。	内外面とも 5YR5/8 明赤褐色土	中今軟質。白・灰・黒燧砂一砂。雪印焼成；中今軟質	No 4 床直	口縁部一部 2/3。
11	土師器 小型付 費	口 (10.0) 底 [9.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半はナナメハケズリ。下半部はタテハケズリ。底部鉄付のち内外面ヨコナデ。胴部外面焼熱のため剥落・赤変が顕著。器面に酸化銅付着。	内：5YR5/6 明赤褐色土 外：5YR4/6 赤褐色土	中今軟質。白・灰・黒燧砂一砂。雪印焼成；中今軟質	No 21・22 1B.3	口縁部一部 1/3、胴部 欠損
12	土師器 費	口 21.1 高 [21.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半ヨコナケズリ。下半部ナナメハケズリ。胴部内面ヘナナデ。胴部外面中へ下段若干の粘土付着。部分的に黒色物(又スカ)付着。	内：2.5YR5/6 明赤褐色土 外：5YR3/6 明赤褐色土	中今軟質。白・灰・黒燧砂一砂。灰燧焼成；中今軟質	No 4 床直	口縁部一部 床直 上半完存
13	土師器 費	口 19.0 底 4.2 高 29.8	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナナメハケズリ。胴部外面上面はヨコナケズリ。底部外面一方内ヘケズリ。下半部の焼熱は顕著。内外面に若干の剥落あり。胴部外面酸化物及び粘土付着。	内：5YR5/6 明赤褐色土 外：5YR5/8 明赤褐色土	中今軟質。白・灰・黒燧砂一砂。灰燧焼成；中今軟質	No 4 床直	口縁部 1/2、底部 完存。胴部 中位 2/3



第282図 西刑部西原遺跡9区 SI-14出土遺物

9区 SI-15 (遺構：第283・284図、遺物：第285図、図版四三・一〇二・一〇三)

位置 グリッド 55.5-96・55.5-95.5 重複遺構 SI-27、SD-28に切られる。平面形 南東隅が特に丸みをもつ不整な方形。規模 東西5.9×南北5.6m以上 主軸方向 N-22°-E 覆土 自然堆積 壁 壁高43～53cm 床 ほぼ全面が貼床。柱穴 P1 (径51～43cm、深さ58cm)、P2 (径52～40cm、深さ60cm)、P3 (径45cm、深さ50cm)、P4 (径50～45cm、深さ53cm)の4本主柱。入口ピット P6 (径40～33cm、深さ31cm)は南壁際に位置する。貯蔵穴 P5 (長軸82×短軸64cm、深さ41cm)は長方形を呈し北東隅に位置する。壁溝 D1 (幅14～21cm、深さ5.3cm)は東壁際、D2 (幅21～25cm、深さ8cm)は西壁から北壁西半部に見られる。間仕切り溝 D3 (長さ110cm、幅30～41cm、深さ12cm)、D4 (長さ102cm、幅32～38cm、深さ9cm)、D5 (長さ108cm、幅17～21cm、深さ5cm)、は壁際から東西軸で掘られるが、D6 (長さ100cm、幅23～28cm、深さ10cm)のみ南北軸である。掘方 細かな凹凸をもつ。ローム塊を含む14層で埋戻している。カマド 北壁中央部に位置し、壁面を凸字状に掘り込む。



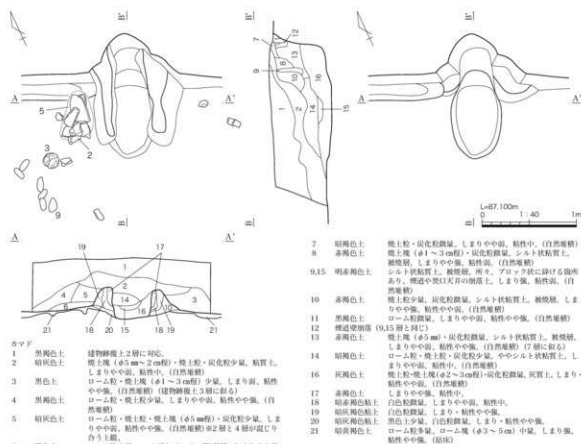
SI-15

- 1 暗褐色土 ローム粒中量、ローム塊(φ5mm程度)微量、しまりや中弱、粘性中、(自然堆積)
 2 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ5mm程度)微量、しまりや中弱、粘性中、(自然堆積)
 3 黒褐色土 ローム粒・ローム塊(φ1～3cm程度)微量、やや粘質上、しまりや中弱、粘性やや強、(自然堆積)
 4 褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ1～3cm程度)微量、しまりや中弱、粘性中、(自然堆積)
 5 暗褐色土 ローム粒中量、しまりや中弱、粘性中、(自然堆積)
 6 暗褐色土 ローム粒微量、しまりや中弱、粘性中、(自然堆積)
 7 暗褐色土 ローム粒中量、ローム塊(φ1～3cm程度)・焼土粒微量、しまりや中弱、粘性中、(自然堆積)
 8 黒色土 ローム粒微量、しまりや中弱、粘性やや強、(自然堆積)
 9 茶褐色土 ローム粒・ローム塊(φ1～3cm程度)少量、しまりや中弱、粘性やや強、(自然堆積)

- 10 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ1～3cm程度)少量、しまりや中弱、粘性やや強、(自然堆積)
 11 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ1～3cm程度)中量、しまりや中弱・粘性中、(自然堆積)
 12 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ1cm程度)微量、しまりや中弱・粘性中、(自然堆積)
 13 黒褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ1cm程度)微量、しまりや中弱・粘性やや強、(自然堆積)
 14 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ5mm～15mm程度)少量を、黒色土に混入、しまり・粘性やや強、(人為的)
 P5
 1 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ5mm～3cm程度)・焼土粒(φ1cm程度)少量、しまりや中弱、粘性中、(自然堆積)
 2 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ5mm程度)少量、しまりや中弱、粘性やや強、(自然堆積)

第283図 西刑部西原遺跡9区 SI-15実測図(1)

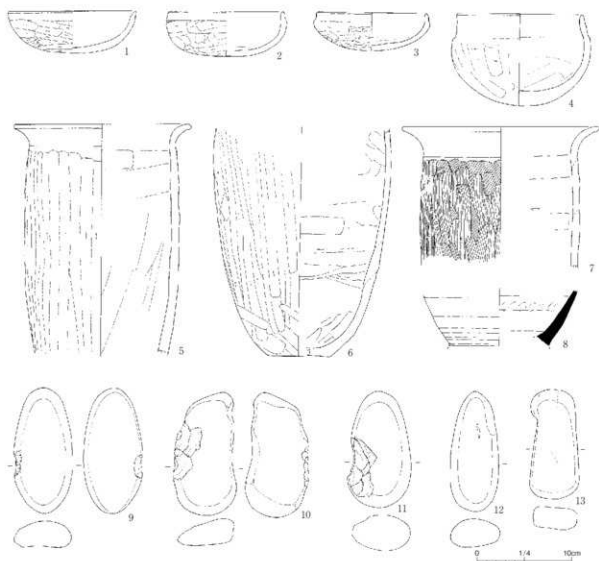
遺物 遺物はカマド前面及び貯蔵穴付近から多く出土する。掲載遺物は土師器環（1～3）・鉢（4）・甕（5～7）で、このうち2・3・5はカマド西側の床面付近の遺物である。7は胴下半部を欠損するハケ調整甕。貯蔵穴付近から出土した。編物石はカマド西側から北西隅にかけて多く出土している。不掲載の土器類は殆どが土師器環類の小破片で、小コンテナ3/5箱程度。礫は6.4kg出土した。遺物から古墳時代終末期（7世紀前半～中葉）の建物跡と考えられる。



第284図 西刑部西原遺跡9区 SI-15実測図(2)

第125表 9区 SI-15出土遺物観察表

掲載番号	部種	法型(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・構成	出土層・床土(cm)	残存
1	土師器環	口12.8-13.7 高 4.4	体部内面-口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヨコラケズ式I。内外面直上上げ。	内: 10YR5/4にぶい黄褐色・炭質 外: 10YR7/4にぶい黄褐色	細砂。白磁砂 炭質・炭質	貯蔵穴 床土	ほぼ完存
2	土師器環	口 11.8 高 4.7	体部内面-口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズ形。一部直前押し。内外面直上上げ。	内外面とも 10YR6/4 浅黄褐色	細砂。白磁粒 炭質・炭質	№17 2.1	口縁部1/2。体部~底部2/3
3	土師器環	口 11.5 高 4.0	内面-口縁部外面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部-底部外面ヘラケズ形。内面黒色処理。部直上上げ。	内外面とも 10YR7/4にぶい黄褐色	中々微砂。白・灰・黒磁粉・灰・黒砂。赤色粒少量 炭質・中々微質	№13 1.1	完存
4	土師器鉢	口 13.2 高 9.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部-底部内面ヘラナデ。体部外面タテヘラケズI。底部外面側溝のため不明瞭。内面黒色処理。体部内面-内面にかけて部分的に漆残る。全体的に熟練。直上上げ。	内: 10YR5/2 灰黄褐色 外: 10YR7/4にぶい黄褐色	中々微砂。白・灰・黒磁粉・砂 炭質・中々微質	№10 床土	口縁部1/2。体部2/3
5	土師器甕	口 18.0 高 [24.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズ形。胴部内面下半部ナメヘラナデ。上半部ヨコラケズ形。全体的に熟練。上半部は黒色付着物(炭)が多い。	内外面とも 2.5YR4/6 赤褐色	中々粗い。白・黒磁粉の礫 炭質・中々微質	№11 0.6	胴部上半部~中下部4/5
6	土師器甕	底(6.0) 高 [24.1]	胴部内面タテの軸の残ったヘラケズ形。下部ナメの強いヘラナデ。胴部内面ヨコラケズ形。一部指ナデ残る。底部外面ヘラケズ形のちね指ナデ。	内: 10YR4/1 泥灰 外: 7.5YR6/4にぶい黄褐色	中々粗い。白・灰・黒磁粉の礫 炭質・中々微質	№11・3・5 7。魔土中 10.6(№7)	胴部-底部~中下部1/2

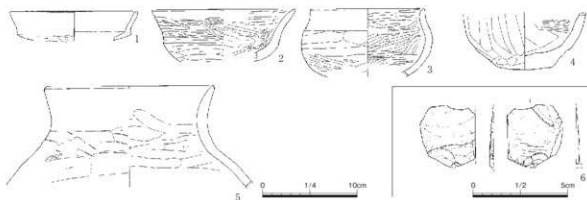
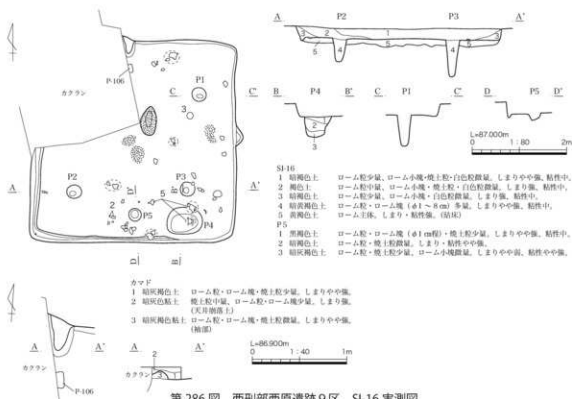


第285図 西刑部西原遺跡9区 SI-15出土遺物

7	土師器 甕	口 20.2 高 15.2	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテハケ目調整。胴部内面ヨコヘラナデ。	内外面とも7.5YR6/6 紺	やや粗い。白・灰相砂一様 焼成：やや軟質	№1・2・4、 覆土中 9.7 (№4)	口縁部 1/2
8	須恵器 甕類	高 6.3	内外面ロケロナデ。胴部内面一部指通押圧残る。量入品。	内：2.5Y6/2 灰黄 外：5Y5/1 灰	やや軟質。黒面砂一様。 白相砂。茶色カビ状粒 焼成：硬質	覆土中 1/4	胴下部 1/4
9	石器 扁物石	長 13.3 幅 [6.0] 厚 2.7 重 [341.0]	胴縁の一部を打ち欠いている。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	5Y6/2 灰オリーブ	—	№24 1.8	部欠
10	石器 扁物石	長 12.6 幅 [6.1] 厚 2.6 重 [331.0]	一側縁中央部を去裏内面から打ち欠いている。 平面形：不整形 断面形：不整形	5G7/1 明オリーブ灰	—	№36 9.9	部欠
11	石器 扁物石	長 12.2 幅 [6.0] 厚 3.7 重 [407.0]	左側縁部のみ裏面から数回剝離したちぎ行を施す。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	2.5Y8/3 淡黄	—	№30 3.4	部欠
12	石器 扁物石	長 12.5 幅 5.3 厚 2.8 重 255.0	未加工の自然産。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	10YR5/3 に近い黄緑	—	№40 2.8	ほぼ完存
13	石器 扁物石	長 11.5 幅 4.7 厚 2.2 重 248.0	未加工の自然産。 平面形：不整な長方形 断面形：楕丸長方形	2.5G5/1 オリーブ灰	—	№32 9.6	ほぼ完存

9区 SI-16 (遺構：第 286 図、遺物：第 287 図、図版四四・一〇三)

位置 グリッド 55.5-96.5・55.5-97.0 重複遺構 P-106 に切られる。平面形 北西隅が傾乱されるが、ほぼ正方形か。規模 東西 4.3×南北 4.25 m 主軸方向 ほぼ真北 覆土 自然堆積 壁 壁高 22～27 cm 床 全面が貼床だが、概ね平坦。柱穴 P1 (径約 30 cm、深さ 67 cm)、P2 (径 30 cm、深さ 52 cm)、P3 (径 32 cm、深さ 78 cm) の 3 本が残る。入口ピット P5 (径 26 cm、深さ 15 cm) は南壁際中央部に有る。貯蔵穴 P4 (長軸 74～短軸 56 cm、深さ 45 cm) は南東隅にあり、隅丸方形に近い。壁溝 D1 (幅 5～16 cm、深さ 6.3 cm) は極めて浅く、西壁～南壁 3/4 の範囲で壁際を巡る。掘方 底面に若干の凹凸あり、ローム土主体の 5 層で埋戻す。カマド 北壁中央部やや西寄りに、袖の一部が残るのみで全形は不明。中央部には楕円形の浅い皿状の凹みあり。焼土が見られ、*カ* の可能性が高い。遺物 比較的南部に集中する。また覆土中には大形の自然礫もふくまれていた。2 は内外面を入念に磨く土師器環、3 は床面直上出土の土



師器鉢。4・5は土師器裏、6は粘板岩製の剥片。石製模造品の破片か。不掲載の土器類はすべて土師器片で、小コンテナ箱約1/5と少ない。古墳時代後期前葉の建物か。

第126表 9区 SI-16出土遺物観察表

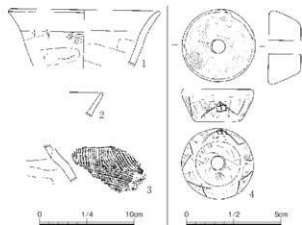
掲載番号	器種	寸法(cm/g)	注 記・特 徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・深さ(cm)	現存
1	土師器 坏	口 13.2 高 [2.8]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。外面に黒色の付着物あり。炭化物か。混入品か。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや緻密。白細砂焼成；やや破損	北、南	口縁部～体部1/6
2	土師器 坏	口 14.8 高 [5.5]	体部内面ヘラミガキ。口縁部内外面ヨコナデのちヘラミガキ。体部外面ヨコナデヘラケズリ。ミガキ太くやや薄で不定方向。内外面塗仕上げ。	内：5YR6/8 橙 外：5YR7/8 橙	緻密。白細砂焼成；やや破損	№10、北、南、管轄、カマド	口縁部～体部3/4
3	土師器 鉢	口 11.6 高 [7.2]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラナデのち種なヘラミガキ。体部内面不定方向のヘラミガキ。内外面塗仕上げ。器面の磨滅度が高く調整不明瞭。	内：5YR6/8 橙 外：5YR6/6 橙	やや緻密。白細砂、赤色粒焼成；やや破損	№1 床直	底部2/3欠損
4	土師器 小甕	底 5.8 高 6.0	胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。底部外面ナデか。器面の磨滅著しく調整は不明瞭。焼熟のため赤化し懸い。	内外面とも 5YR6/8 橙	緻密。白細砂。赤色粒焼成；やや破損	貯蔵穴	胴部下半～底部完存
5	土師器 甕	口 17.5 高 [10.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヨコナデヘラケズリのちヘラナデのちヘラミガキ。胴部内面ヘラナデ。外面は特に磨滅（磨滅）顕著で不明瞭。	内：7.5YR6/6 橙 外：7.5YR6/4 に近い	やや緻密。白・灰・黒細砂～砂。赤色粒焼成；やや破損	№17・18・19、北、南、床直（№19）	口縁部1/3
6	石製模 造品 石板	長 [3.3] 幅 [2.9] 厚 [0.2] 重 [2.4]	粘板岩製の石製模造品。薄く割れた剥片のため全形は不明。孔（約直径2mm）が貫通しており、側面は直線的。表面は多方向からの擦痕。側面は縦軸方向に擦痕がみられる。	10Y4/1 灰	粘板岩	不明	那塊

9区 SI-17（遺構：第289図、遺物：第288図、図版四・一〇三）

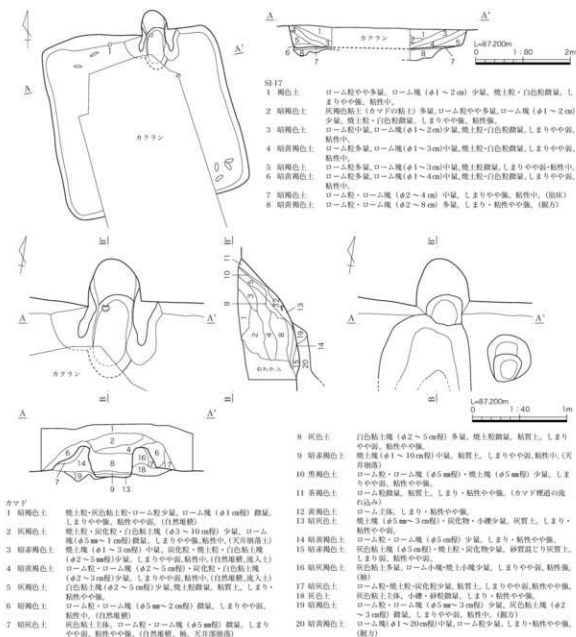
位置 グリッド 55.0-97.0・55.5-97.0 重複遺構 無し。平面形 隅丸方形。中央部を大きく視乱される。

規模 東西3.8×南北3.7m 主軸方向 N-10°-W 覆土 レンズ状堆積が見られるため、自然堆積か。

壁 壁高22～48cm 床 全面が貼床。若干の凹凸あり。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 全体的にやや凹凸を有し、最も深い場所で20cm弱埋戻す。カマド 北壁やや東寄りの壁際をU字形に掘り込む。煙道は約43°で立ち上がる。袖及び天井は暗灰褐色粘土で構築している。火床面の焼土の堆積はやや薄い。遺物 土器類は非常に少なく、覆土中から土師器片が少量出土した他は石製紡錘車が出土したのみである。また図示しなかったが、建物跡北西部及び南東隅には編物石が出土している。1は小形の甕か。口縁部は外反し、胴部内外面はナデ成形。2は漆仕上げの土師器坏口縁部破片。3は胴の張るハケ調整の裏破片。4は完形の滑石製紡錘車。器面は入念に磨かれ光沢をもつが、擦痕も多く残る。側面には複雑な銀歯文が見られ、一部に文字状の線刻もあるが不明瞭である。不掲載の土器は小コンテナ箱1/6と少ない。帰属時期を推定できる遺物が少ないが、古墳時代後期の建物の可能性がある。



第288図 西刑部西原遺跡9区 SI-17出土遺物



- SI17
- 1 褐色土 ローム粒の中多量、ローム塊(φ1~2cm)少量、焼土粒・白色粘土層。しまりやや強、粘性中。
 - 2 暗褐色土 灰褐色粘土(カマドの粘土)多量、ローム粒の中多量、ローム塊(φ1~2cm)少量、焼土粒・白色粘土層。しまりやや強、粘性強。
 - 3 暗褐色土 ローム粒中量、ローム塊(φ1~2cm)少量、焼土粒・白色粘土層。しまりやや弱、粘性中。
 - 4 暗黄褐色土 ローム粒多量、ローム塊(φ1~3cm)中量、焼土粒・白色粘土層。しまりやや弱、粘性中。
 - 5 暗褐色土 ローム粒多量、ローム塊(φ1~3cm)中量、焼土粒層。しまりやや弱、粘性中。
 - 6 暗黄褐色土 ローム粒多量、ローム塊(φ1~4cm)中量、焼土粒・白色粘土層。しまりやや弱、粘性中。
 - 7 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ2~4cm)中量、しまりやや強、粘性中。(埋戻)
 - 8 暗黄褐色土 ローム粒・ローム塊(φ2~8cm)多量、しまり・粘性やや強。(掘方)

- カマド
- 1 暗褐色土 焼土粒・灰褐色粘土・ローム粒少量、ローム塊(φ1cm程度)。しまりやや強、粘性やや強。(自然埋戻)
 - 2 灰褐色土 焼土粒・灰褐色粘土(φ3~10cm程度)少量、ローム塊(φ5mm~1cm程度)少量。しまりやや強、粘性中。(天井埋戻土)
 - 3 暗赤褐色土 焼土塊(φ1~3cm程度)中量、炭化粒・焼土粒・白色粘土層(φ2~5mm程度)少量。しまりやや強、粘性中。(自然埋戻、流入土)
 - 4 暗黄褐色土 ローム粒・ローム塊(φ2~5mm程度)少量、白色粘土層(φ2~3cm程度)少量。しまりやや弱、粘性中。(自然埋戻、流入土)
 - 5 灰褐色土 白色粘土層(φ2~5cm程度)少量、焼土粒層。粘質土。しまり・粘性やや強。
 - 6 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ5mm~2cm程度)少量。しまりやや弱、粘性中。(自然埋戻)
 - 7 暗灰色土 灰褐色土主体、ローム粒・ローム塊(φ5mm程度)少量。しまりやや弱、粘性やや強。(自然埋戻、焼、天井埋戻土)

- 8 灰褐色土 白色粘土層(φ2~5cm程度)多量、焼土粒層。粘質土。しまりやや弱、粘性やや強。
- 9 暗赤褐色土 焼土塊(φ5mm~3cm程度)・炭化粒・小礫少量。灰質土。しまり・粘性やや強。
- 10 黒褐色土 ローム粒・ローム塊(φ5mm程度)・焼土塊(φ5mm程度)少量。しまりやや弱、粘性やや強。
- 11 赤褐色土 ローム粘土層。粘質土。しまり・粘性やや強。(カマド埋戻の流石込み)
- 12 黄褐色土 ローム土塊。しまり・粘性やや強。
- 13 暗灰色土 焼土塊(φ5mm~3cm程度)・炭化粒・小礫少量。灰質土。しまり・粘性やや強。
- 14 暗黄褐色土 ローム粒・ローム塊(φ5mm程度)少量。しまり・粘性やや強。
- 15 暗赤褐色土 灰褐色粘土(φ5mm程度)・焼土粒・炭化物少量。砂質混じり灰質土。しまり弱、粘性中弱。
- 16 暗灰褐色土 灰褐色土多量、ローム小塊・焼土小塊少量。しまりやや弱、粘性強。(掘)
- 17 暗灰色土 ローム粒・焼土・炭化粒少量。粘質土。しまりやや弱、粘性やや強。
- 18 灰褐色土 灰褐色粘土主体、小礫・砂粒少量。しまり・粘性やや強。
- 19 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ5mm~3cm程度)少量、灰褐色土層(φ2~3cm程度)少量。しまりやや弱、粘性中。(掘方)
- 20 暗黄褐色土 ローム塊(φ1~20cm)中量、ローム粒少量。しまり・粘性やや強。(掘方)

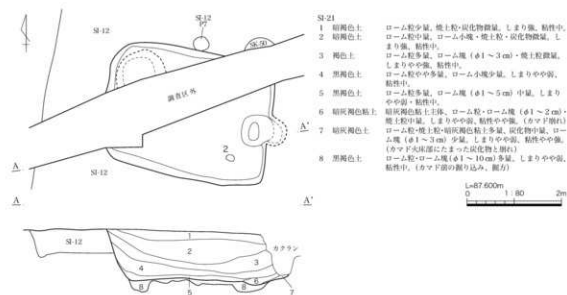
第289図 西刑部西原遺跡9区 SI-17実測図

第127表 9区 SI-17出土遺物観察表

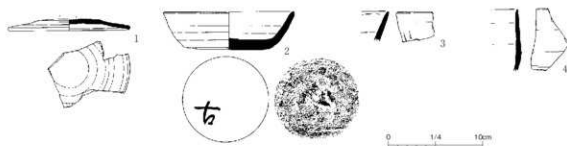
箱取番号	部材	法長(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成・石材	出土位置・床土(cm)	残存
1	土師器 甕	口 (11.5) 高 (5.9)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面軽イナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部内面黒色味を帯びる。芯みが大きく、残存率低いため復元は参考程度。	内: 10YR8/3 浅黄褐色 外: 10YR7/4 に近い黄褐色	中・中硬質、白・灰・黒點 灰・黒砂、赤色粒少量 焼成: 中・中硬質	南区	口縁部 1/4
2	土師器 杯	高 (2.3)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上り。	内: 2.5Y2/1 黒 外: 10YR8/4 浅黄褐色	中・中硬質、白細砂 焼成: 中・中硬質	南区	口縁部破片
3	土師器 甕	高 (4.8)	頸部外面ヨコナデ。胴部外面ハケ目。胴部内面ヘラナデ。焼跡顯著。断面は紅色に赤変。緑釉の残り。	内: 5YR5/6 明赤褐色 外: 5YR4/6 赤褐色	中・中硬質、白・灰・黒點 焼成: 中・中硬質	南区	頸部破片 跡一層
4	石製品 鉄砲車	長 3.8 厚 1.7 孔 0.7 重 40.6	全面を銅鍍し光沢を帯びるがノミ痕、擦痕が多く残る。側面に鎌足型文及び、文字状の模刻があるが解読不明。	5Y3/1 オリーブ黒	滑石	No.3 6.0	完存

9区 SI-21 (遺構: 第290図、遺物: 第291図、図版四四・一〇三)

位置 グリッド 54.5-96.5 重複遺構 SI-12の中央部を掘り込み、これより新しい。平面形 隅丸長方形
規模 東西3.5×南北2.7m 主軸方向 N-12°-E 覆土 壁 壁高98～108cmと深い。床 貼床あり。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 土坑状の掘り込みが部分的に見られる。最深部は22cm、ローム粒主体の覆土で埋戻す。カマド 東壁中央部やや南寄りの壁際を半円形に掘り込む。但しカマド両袖は欠損しており、持ち去られた可能性が高い。遺物 遺物は少ないが、須恵器類を中心に図示した。1は小形の須恵器蓋。2の須恵器環底部外面には墨書「古」あり。3は側面にヘラ記号あり。不掲載遺物は土器類が小コンテナ箱 1/6。奈良～平安時代の建物跡と考えられる。



第290図 西刑部西原遺跡9区 SI-21 実測図



第291図 西刑部西原遺跡9区 SI-21 出土遺物

第128表 9区 SI-21 出土遺物観察表

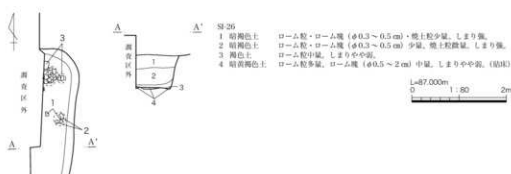
図版番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (m)	残存
1	須恵器蓋 (転用版)	口 12.6 高 1.2	内外面ロクロナデ。大片部外面回転ヘラケズリ。ツマミ部溝状の複合沈線あり。ツマミ部欠損するが、径は小さい。内面を面に転用している。	内: 2.5Y5/3 黄褐色 外: 2.5Y4/1 黄灰	中々粗粒、白・灰細砂・粗砂 焼成: 中々硬質	覆土中	口縁部1/8、 体部 1/4
2	須恵器環	口 13.6 高 4.1 径 9.1	内外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切りのみナデ。墨書「古」か。	2.5Y7/3 浅黄	中々粗粒、白・灰粗粒・黄	No. 24 5.2	口縁部1/2、 底部完存
3	須恵器鉢か	高 [0.5]	内外面ロクロナデ。口縁部内面に接合痕あり。外面にヘラ記号あり。	内外面とも 5Y6/1 灰	中々粗粒、白・灰・黒細砂、 砂、黒・灰砂 焼成: 中々硬質	西	口縁部破片
4	須恵器鉢か	高 [0.6]	全周部 (胴部) 回転の須恵器。内外面ロクロナデ。幅広い口縁部下端に明確な稜をもつ。	内: NS.0 灰 外: 5Y5/1 灰	中々粗粒、灰・白細砂、灰・黒砂 焼成: 中々硬質	P1	口縁部一体 破片

9区 SI-26 (遺構：第292図、遺物：第293図、図版四四・四五・一〇三)

位置 グリッド53.5-96.0 重複遺構 無し。平面形 大部分が調査区外だが、隅丸方形或いは長方形か。

規模 東西0.9m以上×南北4.7m 主軸方向 N-12°-E (東壁のみで計測) 覆土 暗褐色土主体の3層からなり、自然堆積と考えられる。壁 壁高60～73cm 床 極めて薄い粘土床あり。概ね平坦である。

柱穴・入口ピット・貯蔵穴・カマド 確認できなかったが、調査区外に存在する可能性が高い。掘方底面に細かな凹凸あり、ローム粒を含む4層で埋戻す。遺物 平面的には北東コーナー付近から多く出土し、このうち床面直上の遺物を中心に図示した。1・2は1/2程度の遺存度だが、径が小さく口縁部が幅広い特徴をもつ。3の土師器裏は口縁部を欠損するが、胴部から底部が残る。内面に磨きを施している。不掲載遺物は小コンテナ約1/2箱である。古墳時代終末期の建物跡と考えられる。



第292図 西刑部西原遺跡9区 SI-26 実測図



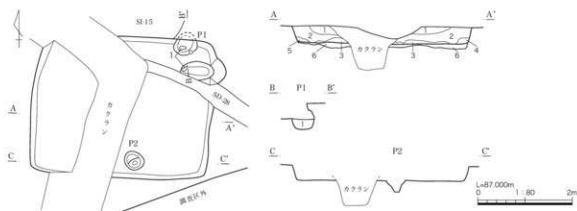
第293図 西刑部西原遺跡9区 SI-26 出土遺物

第129表 9区 SI-26 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(m/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	土師器 杯	口 (10.0) 高 3.6	内面～口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。外面漆仕上げ。	内：2.5Y3/1 黒褐 外：2.5Y4/1 黄灰	緻密。白・灰緑砂 焼成：中・中硬質	No.5・6 床直 (No.5・6)	口縁部～底部 1/2
2	土師器 杯	口 (12.2) 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。後合面あり。体部外面ヘラケズリ。底部内面ナデ。内外面漆仕上げ。	内：7.5YR6/6 橙 外：5YR6/8 橙	緻密。細砂。白色粒 焼成：中・中硬質	No.5 床直	口縁部～体部 1/2
3	土師器 鉢	底 (6.6) 高 (9.7)	胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラミガキ。底部外面一方向ヘラケズリ。内面黒色を呈する。	内：10YR4/1 暗灰 外：10YR5/1 暗灰	緻密。白微細粒 焼成：硬質	No.1・3 2.8 (No.1・3)	胴下部
4	須恵器 蓋	高 1.5	内外面ロクロナデ。混入品。	内：2.5Y5/2 暗灰黄 外：2.5Y7/4 浅黄	中・中緻密。白細砂 焼成：中・中硬質	覆土中	口縁部～丸 片破片

9区 SI-27 (遺構: 第294図、遺物: 第295図、図版四五・一〇三)

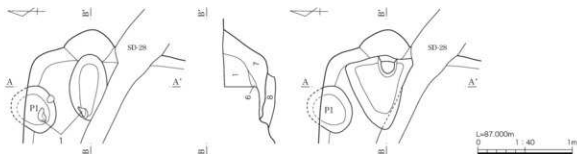
位置 グリッド 55.5-95.5 重複遺構 古墳時代終末期の建物跡 SI-15 より新しい。平面形 隅丸長方形
規模 東西 3.8×南北 2.8 m 主軸方向 N-3°-E 覆土 暗褐色土主体の4層に分層。自然堆積と考えられる。壁 壁高 33~35 cm 床 全面が貼床。柱穴 確認できなかった。その他ピットは P2 (径 42~36 cm、深さ 25 cm)。貯蔵穴 P1 (長軸 50~短軸 47 cm、深さ 22 cm) は北壁東部の壁際に位置する。平面形は不整形を呈し、北壁はオーバーハングする。壁溝 確認できなかった。掘方 細かな凹凸を有し、ローム土を多量含む6層で埋戻す。カマド 東壁北部に位置し、壁面を半円形に掘り込む。袖などの土師器は殆ど見られず、持ち去られたものか。遺物 主にカマド周辺から出土する。1・2は平底気味の土師器環で、口縁部付近までヘラケズリを施す。3は筒形土製品、6は板状の不明鉄製品。4の須恵器環と5の灰軸陶器は混入品か。床面直上の遺物は1のみ。不掲載の遺物は小コンテナ箱 1/5弱と少ない。遺物から古墳時代終末期(7世紀後半)の建物跡と考えられる。



SI-27

- 1 暗褐色土 ローム土少量、焼土塊(φ5 mm程)散見。しまりや中弱、粘性中。(自然堆積)
2 暗褐色土 ローム土少量、ローム塊(φ1~3 cm程)散見。しまりや中弱、粘性中。(自然堆積)
3 暗褐色土 ローム塊(φ2~5 cm程)少量、ローム粒・焼土粒・焼土塊(φ1 cm程)散見。しまり・粘性や中弱。(自然堆積)

- 4 暗褐色土 ローム土少量。しまりや中弱、粘性中。(自然堆積)
5 暗褐色土 ローム土少量、ローム塊(φ1 cm程)散見。しまりや中弱、粘性や中弱。(自然堆積)
6 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ5 mm~10 cm程)、黒褐色土塊(φ1~5 cm程)少量。しまり・粘性や中弱。(人為的堆積)(掘方)



- カマド
1 建物跡埋土2層に対応。
2 建物跡埋土3層に対応。
3 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ5 mm程)・焼土塊(φ5 mm程)散見。しまりや中弱、粘性中。(自然堆積)
4 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ5 mm程)散見。しまりや中弱、粘性や中弱。(自然堆積。2層に対応)
5 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ2~5 cm程)・灰土粘土塊(φ2 cm程)・焼土粒・焼土塊(φ3 mm~1 cm程)少量。しまりや中弱、粘性中。(掘りごり)
6 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ1 cm程)・焼土粒・焼土塊(φ5 mm~1 cm程)少量。しまりや中弱、粘性中。
7 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ1 cm程)・焼土粒・焼土塊(φ5 mm~1 cm程)中量。しまりや中弱、粘性中。
8 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ5 mm~10 cm程)少量、焼土粒・焼土塊(φ2~10 cm程)散見。しまりや中弱、粘性中。(人為的堆積)(掘方)

第294図 西刑部西原遺跡9区 SI-27実測図



第295図 西刑部西原遺跡9区 SI-27 出土遺物

第130表 9区 SI-27 出土遺物観察表

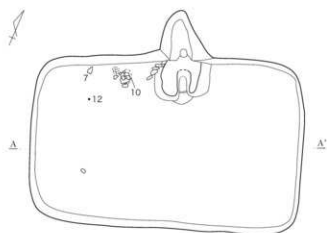
掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	土師器環	口 023-130 高 3.4	口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面ヘラナズリ。内外面漆仕上げ。赤みが大きく口縁部は若干波打つ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	中・中細粒。白・灰黒砂 焼成：中・中硬質	No. 1・2 床直 (No. 2)	ほぼ全存
2	土師器環	口 (13.8) 高 4.1	口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面及び底部外面ヘラナズリ。内外面に漆仕上げの痕跡あり。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR8/6 浅黄橙	細密。白細砂。白礫。白色粘 焼成：中・中硬質	カマド内	口縁部 1/5
3	陶器土製品	径 (5.0) 厚 1.5 孔 2.0	外面タテヘラナズリ。上端部ナデ。内面ヘラナデ。	内：10YR6/3 に近い黄緑 外：10YR7/4 に近い黄緑	中・中粗粒。白・黒細砂～礫。赤色粘 焼成：中・中硬質	覆土中	部分残存
4	須恵器環	径 (7.0) 高 (1.7)	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切り。器入品。	内：N5/0 灰 外：N4/0 灰	中・中粗粒。白・灰黒砂 焼成：硬質	覆土中	底部 1/4、 体部一部
5	灰黒陶器破片	高 (4.6) 幅 (4.0) 厚 0.1 重 (4.5)	内外面ロクロナデ。外面に飾輪。ハケ塗りの痕はみられない。器入品。捺投産の短胎軸か。	内：5Y6/1 灰 外：5Y5/2 灰オリーブ	中・中細密。白細砂 焼成：中・中硬質	カマド	割断破片
6	不明鉄製品	長 (4.2) 幅 (4.0) 厚 0.1 重 (4.5)	平面形は不明だが、一端は圓丸の三角形状を呈する。全体に湾曲している。	—	鉄製品	一括	部分残存

9区 SI-49 (遺構：第296図、遺物：第297図、図版四五・一〇三・一一五)

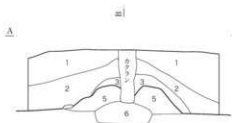
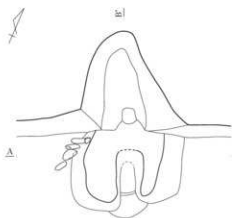
位置 グリッド 52.5-93・52.5-92.5 重複遺構 無し。平面形 隅丸長方形 規模 東西 5.6×南北 3.6 m 主軸方向 N-21°-W 覆土 自然堆積と考えられる。壁 壁高は 49～61 cm 残る。床 全面が貼床で概ね平坦である。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 部分的に凹凸を有するが明瞭な掘り込みはない。カマド 北壁中央部に位置する。煙道は浅く船首状に掘るが、燃焼部は小さな凸字状である。袖は灰褐色(粘土)で構築される。燃焼部の掘り込みは深い。遺物 平面的にはカマド西側に多いが、床面直上の遺物は極めて少ない。図示した遺物は須恵器裏(1～3)、土師器環(4～6)、甕(7)、甗(8～10)、のほか凝灰岩製の砥石(11)、土玉(12)、刀子(13)がある。甗は9・10のように単孔のもの、8のように小孔を多数穿つものがある。床面近くで出土した遺物は5の土師器環のみである。不掲載の土器類は小コンテナ箱約 1/5 である。遺物から平安時代の建物の可能性がある。

第131表 9区 SI-49 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器甕	厚 0.8	外面平行明き。内面同心円状あて具痕。	内：10YR3/1 黒褐 外：N5/0 灰	中・中粗粒。白礫 焼成：中・中硬質	南	頸部 1/5
2	須恵器甕	高 (5.6)	外面平行明きのちか半日。内面同心円状あて具痕及びナデ。	内外面とも 7.5Y5/1 赤灰	中・中粗粒。白細砂～礫 焼成：硬質	No. 3、南、 北 45.5	頸部破片
3	須恵器甕	口 (16.6) 高 (2.7)	口縁部内面に発泡灰塊の自然軸付着。	内：2.5Y7/4 浅黄 外：N6/0 灰	中・中細密。白細砂。黒細砂 焼成：硬質	覆土中	口縁部 1/12
4	土師器環	口 13.6 高 3.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面放射状ヘラミガキ。体部外面ヘラナズリ。内外面漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	中・中細密。白細砂～粗砂 焼成：中・中硬質	覆土中	口縁部 1/2、 体部～底部 3/4

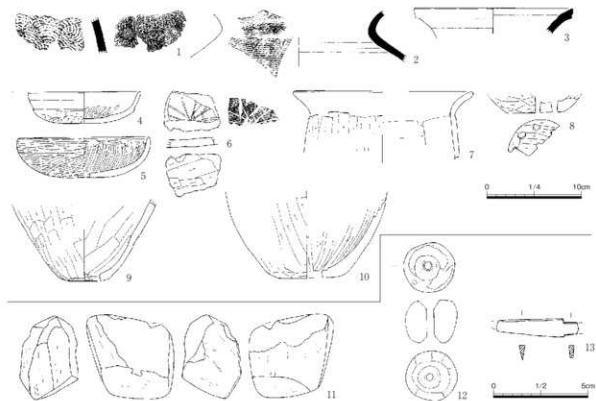


- SI-49
- 1 黄褐色土 ローム層(φ1 cm程)・ローム粒少量, しまりや中強, 粘性中。(自然堆積)
 - 2 暗褐色土 ローム層(φ1 cm程)・ローム粒微量, しまりや中弱, 粘性中。(自然堆積)
 - 3 褐色土 ローム粒少量, ローム層(φ5 mm程)微量, しまりや中弱・粘性中。(自然堆積)
 - 4 暗褐色土 ローム層(φ1 cm程)・ローム粒微量, しまりや中弱, 粘性中。(自然堆積)
 - 5 黒褐色土 ローム粒微量, 粘質土, しまり・粘性中・強。(自然堆積)
 - 6 茶褐色土 ローム粒・ローム層(φ1 cm程)・炭化粒微量, 粘質土, しまりや中弱, 粘性や中強。(自然堆積)
 - 7 褐色土 ローム粒少量, ローム層(φ3 cm程)微量, しまりや中強・粘性中。(自然堆積)
 - 8 暗褐色土 ローム粒・ローム層(φ5 mm程)微量, しまりや中強, 粘性中。(自然堆積)
 - 9 暗褐色土 ローム粒・ローム層(φ2~3 cm程)微量, しまり・粘性や中強。(自然堆積)
 - 10 暗黄褐色土 ローム粒少量, ローム層(φ2~3 cm程)微量, しまりや中弱, 粘性中。(自然堆積)
 - 11 黒褐色土 ローム粒・ローム層(φ2~3 cm程)少量, しまりや中弱, 粘性や中強。(自然堆積)
 - 12 黒色土 ローム粒微量, しまりや中弱, 粘性中。(自然堆積)
 - 13 灰褐色土 ローム層(φ2~15 cm程)主体, しまり強, 粘性や中強。(自然堆積)
 - 14 黒褐色土 ローム粒・ローム層(φ3~10 cm程)微量, しまり・粘性や中強。(自然堆積)
 - 15 暗黄褐色土 ローム粒・ローム層(φ3~10 cm程)・焼土粒微量, しまり・粘性や中強。(自然堆積)
 - 16 褐色土 ローム粒・ローム層(φ2~3 cm程)少量, しまりや中弱, 粘性や中強。(自然堆積)
 - 17 黄褐色土 ローム層(φ3~10 cm程)多量, 黑色土微量, しまり強, 粘性や中強。(人為的堆積) (原状)
 - 18 暗黄褐色土 ローム粒・ローム層(φ1~10 cm程)中量, 黑色土少量混入, しまり・粘性や中強。(人為的堆積) (原状)
 - 19 黒褐色土 ローム粒・ローム層(φ1~5 cm程)少量, しまり・粘性や中強。(人為的堆積)
 - 20 褐色土 ローム粒・ローム層(φ2~3 cm程)・焼土粒少量, しまり・粘性や中強。(人為的堆積)
 - 21 黒色土 ローム粒少量, ローム層(φ1~2 cm程)微量, しまりや中強, 粘性中。(人為的堆積)



- カマド
- 1 自然堆積土3層に相当
 - 2 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少量, しまりや中弱
 - 3 暗褐色土 ローム粒中量, ローム層(φ0.5~1 m), 焼土粒少量, しまりや中弱
 - 4 灰褐色土 焼土粒中量, 焼土塊少量, ローム粒微量, (天目原遺跡7か?)
 - 5 灰褐色土 焼土粒少量, ローム粒微量
 - 6 暗褐色土 ローム粒・ローム層(φ0.5~1.5 cm程)少量, しまり弱, (焼土層部6か?)

第296図 西刑部西原遺跡9区 SI-49実測図



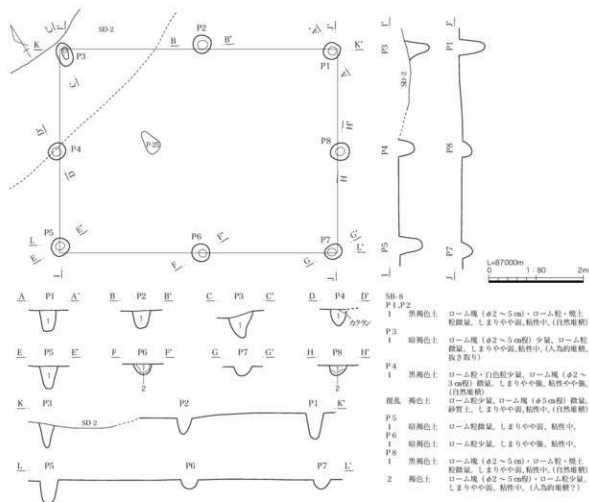
第 297 図 西荆部西原遺跡 9 区 SI-49 出土遺物

5 土師器 杯	口 (13.6) 高 4.2	口縁部内面ヨコナデのちヨコヘラミガキ。体部内面左 めのヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのち不定放射状 のヘラミガキ。内外面漆仕上げ。	内：7.5YR6/6 橙 外：7.5YR7/6 橙	縞密、白・赤細砂 焼成：中・中硬質	カマド№ 13 5/2	口縁部 1/3、 底部 1/2
6 土師器 杯か	縦 3.8 横 5.9 厚 0.8	底面内面ヘラナデのち放射状ミガキを意図した ものか。底面外面一方向ヘラケズリ。一部に黒色付着 物あり。漆か。	内：10YR5/2 灰黄期 外：10YR4/1 褐灰	縞密、白細砂、赤色粒 焼成：硬質		底部破片
7 土師器 甕	口 (17.4) 高 17.4	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴 部内面ヨコヘラナデ。外面に若干の付着物あり。漆か。 口縁部厚部に赤染みあり。	内：5YR5/6 明赤期 外：7.5YR6/6 橙	中・中粗い、白・灰・透明 細砂一練 焼成：中・中硬質	№ 2 41.0	口縁部 1/4
8 土師器 甕	高 (1.9)	胴部内面ヨコヘラケズリ。胴部及び底部内面ヘラナデ。 底部外面一方向ヘラナデのち外面から穿孔。丸棒状の 工具を使用。	内：7.5YR6/6 橙 外：5YR6/6 橙	中・中硬密、白・黒細砂、 赤色粒 焼成：中・中硬質	カマド	胴部～底部 破片
9 土師器 甕	底 (5.2) 高 (9.6)	胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面タテヘラナデ。底 部外面中央部に向ヘラケズリ。孔はヘラケズリのち ナデ。外面黒染みあり。	内：2.5Y4/1 黄灰 外：10YR7/3 に近い黄橙	中・中粗い、白・灰細砂、 白練 焼成：中・中硬質	北東、ベル ト、覆土中	胴部下平 ト、底部 1/2
10 土師器 甕	底 (6.4) 高 (9.2) 厚 2.3 孔 2.3	胴部外面タテヘラケズリ。胴部～底部内面漆で太め のヘラミガキあり。底部外面不定方向ヘラケズリ。孔 はヘラケズリで穿孔したのちナデ。	内：2.5Y2/1 黒 外：2.5Y4/1 黄灰	縞密、白練、白色粒 焼成：硬質	№ 5 49.6	底部完存、 胴下部 3/4
11 石器 砥石	長 (4.1) 幅 (4.2) 厚 (2.7) 重 (57.4)	中央が研ぎ減りし折損した砥石を再利用したものか。 平面形：不整形 断面形：不整形	7.5N8/1 灰白	凝灰岩		覆土中 部欠
12 土製品 土玉	幅 2.6 厚 2.3 重 14.4	ナデ整形。孔は焼成前に上面から穿孔。上面及び下 面の孔の周囲は歯状に磨削している。焼成後漆仕上げ。 平面形：円形 断面形：中・中不整形円形	10YR3/1 黒期	中・中硬密、白細砂 焼成：中・中硬質	№ 1 33.5	ほぼ完存
13 鉄製品 刀子	長 (4.2) 幅 (1.0) 厚 (0.3) 重 (3.9)	片は直線的、角棒で縁幅は 0.8 mm。刀部断面は平辺り。 基断面は逆台形。	—	鉄製		北西部 切先、先端 部欠損

2. 掘立柱建物跡

9区 SB-8 (遺構: 第298図、図版四五)

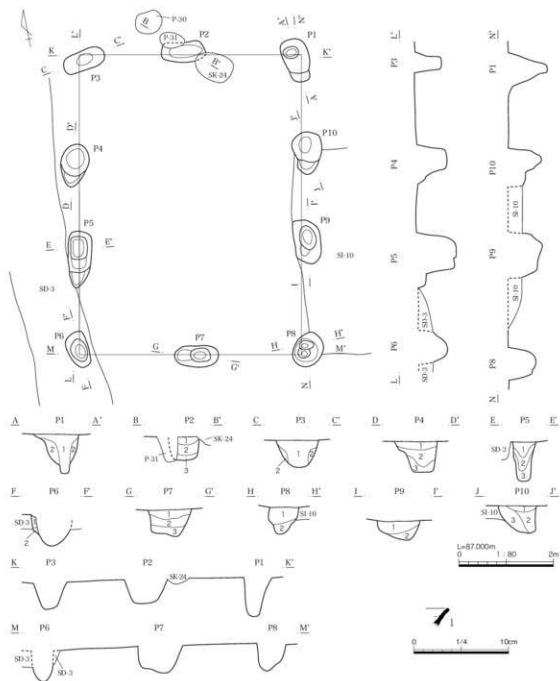
位置 グリッド 52.0-93.0・52.5-93.5・52.0-93.5・52.0-93.0 重複遺構 P-25 との重複は不明。SD-2 より古い。平面形・規模 桁行3間×梁行2間の東西棟側柱式建物。桁行総長5.88m、梁行総長4.3m
柱間 桁行の柱間寸法は平均2.94m、梁行の柱間寸法は平均2.15mである。主軸方向 N-46°-W
柱穴 P1 (径35cmの円形、深さ44cm)、P2 (径38cmの円形、深さ37cm)、P3 (径50~31cmの楕円形、深さ推定62cm)、P4 (径39~35cmの円形、深さ35cm)、P5 (径39cmの円形、深さ48cm)、P6 (径約40cmの円形、深さ22cm)、P7 (径37~30cmの楕円形、深さ20cm)、P8 (径40~37cmの円形、深さ23cm) の計8本を確認した。明瞭な柱痕を確認できる掘方は無かったが、P6に僅かにその痕跡が窺える。備考 出土遺物は無いが、SD-2 (奈良時代中葉~後葉) より古い。



第298図 西刑部西原遺跡9区 SB-8実測図

9区 SB-22 (遺構: 第299図、遺物: 第299図、図版四五)

位置 グリッド 96.0-53.5・96.0-54.0 重複遺構 SD-3、SI-10、SK-24、P-31 平面形・規模 桁行3間



SB22

P1, P3, P6

- 1 暗褐色土 ローム粒微量, しまり強。
- 2 褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ0.5~1cm) 少量, しまり強。

P2

- 1 暗褐色土 ローム粒少量, ローム塊 (φ0.3~0.5cm程度) 微量, しまり強。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒多量, ローム塊 (φ0.5~1cm程度) 中量, しまり中。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒中量, ローム塊 (φ0.5~1cm程度) 少量, しまり中~中強。

P4

- 1 褐色土 ローム塊 (φ0.5~1cm) 少量, ローム粒微量。
- 2 褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ0.5~1cm) 中量。
- 3 褐色土 ローム粒多量, ローム塊 (φ0.5~1cm) 中~中多量。

P5

- 1 褐色土 ローム粒少量, しまり中弱。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒多量, しまり中~中弱。

3 黄褐色土 ハードローム主体, しまり強。

P7 (P4に類似)

- 1 暗褐色土 ローム塊 (φ0.5~1cm) 少量, ローム粒微量, しまり強。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ0.5~2cm) 中量, しまり中~中強。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒多量, ローム塊 (φ0.5~2cm) 少量, しまり中~中強。

P8

- 1 暗褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ0.3~0.5cm) 少量, しまり強。
- 2 褐色土 ローム粒中量, ローム塊 (φ0.5~2cm) 少量, しまり中~中強。

P9 (P10の2,3層に類似)

- 1 暗褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ0.5~1cm) 少量, しまり中~中強。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒多量, ローム塊 (φ1~2cm) 中量, しまり中~中強。

P10

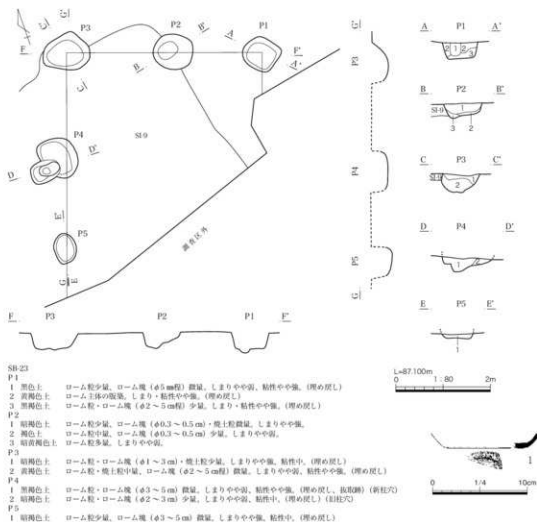
- 1 暗褐色土 ローム粒微量, しまり強。
- 2 褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ0.5~1cm) 少量, しまり中~中強。
- 3 褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ0.5~2cm) 中量, しまり中~中強。

第299図 西刑部西原遺跡9区 SB-22 実測図・出土遺物

× 梁行2間の南北棟側柱式建物。桁行総長6.36 m、梁行総長4.7 m 柱間 桁行の柱間寸法は南から約2.36 m + 2 m + 2 m、梁行の柱間寸法は平均2.35 mである。主軸方向 N -11° - E 柱穴 P1 (径93 ~ 40 cmの楕円形、深さ82 cm)、P2 (径92 ~ 43 cmの楕円形、深さ50 cm)、P3 (径90 ~ 40 cmの楕円形、深さ57 cm)、P4 (径92 ~ 50 cmの楕円形、深さ65 cm)、P5 (径119 ~ 48 cmの楕円形、深さ83 cm)、P6 (径77 ~ 44 cmの楕円形、深さ35 cm)、P7 (径92 ~ 45 cmの楕円形、深さ57 cm)、P8 (径74 ~ 60 cmの楕円形、深さ57 cm)、P9 (径96 ~ 55 cmの楕円形、深さ41 cm)、P10 (径91 ~ 45 cmの楕円形、深さ59 cm)の計10本の掘方を確認した。平面形は楕円形を呈するものが殆どである。断面から柱痕を確認できたものはP1のみで柱の直径は20 cm前後と推定される。遺物 確認された遺物は土師器・須恵器小破片の4点のみである。1はP3の覆土中から出土した須恵器坏口縁部破片で、奈良時代と考えられる。

第132表 9区 SB-22 出土遺物観察表

図録番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・出土 (cm)	残存
1	須恵器坏	高 1.8	内外面明瞭なワタロ目。	内外面とも 5Y5/1 灰	やや粗い、粗砂、白磁、白色粘焼成；やや軟質	P3 覆土中	口縁部一部



第300図 西刑部西原遺跡9区 SB-23 実測図・出土遺物

9区 SB-23 (遺構・遺物: 第300図、図版四六)

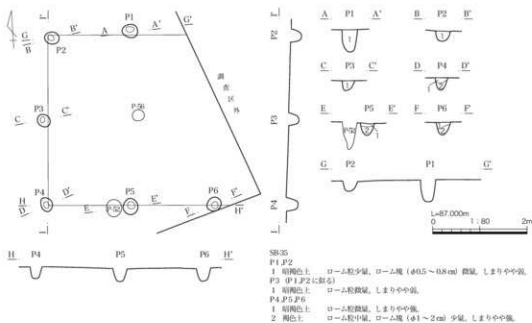
位置 グリッド96.0-54.5 重複遺構 古墳時代終末期の建物跡SI-9より新しい。平面形・規模 建物南東部が調査区外のため全形は不明だが、桁行2間以上×梁行2間の南北棟側柱式建物と推定する。桁行総長5.2m以上、梁行総長4.2m 柱間 桁行の柱間寸法は北から2.2m+2.0m、梁行の柱間寸法は西から2.2m+2.0mである。主軸方向 N-19°-E 柱穴 P1(長軸73×短軸67cmの隅丸方形、深さ36cm)、P2(径82~75cmの不整円形、深さ32cm)、P3(径98~80cmの不定形、深さ38cm)、P4(径92~73cmの不定形、深さ残31cm)、P5(径64~45cmの楕円形、深さ残10cm) の計5本を確認。このうち柱痕が確認できたのはP1のみで、推定される柱の直径は20cm前後である。遺物 遺物はP3の覆土中から須恵器環底部の小破片が出土。帰属時期は奈良時代と考えられる。

第133表 9区 SB-23出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・深さ(cm)	残存
1	須恵器環	底 (7.5) 高 (1.7)	内外面ロウロナデ。底部外面回転ヘラケズリ。二次底面まで回転ヘラケズリが見える。	内外面ともN4/D灰	やや粗い、粗砂。白色釉。焼成・産製	P3 覆土中	底部1/6

9区 SB-35 (遺構: 第301図、図版四六)

位置 グリッド96.0-56.0・95.5-56.0 重複遺構 無し。平面形・規模 桁行2間以上×梁行2間の東西棟側柱式建物。桁行総長4m以上、梁行総長3.6m 柱間 桁行の柱間寸法は平均約1.8m、梁行の柱間寸法も1.8mである。主軸方向 N-86°-W 柱穴 P1(径32cmの円形、深さ47cm)、P2(径30~25cmの楕円形、深さ22cm)、P3(径28~24cmの楕円形、深さ21cm)、P4(径31~25cmの楕円形、深さ27cm)、P5(径35~32cmの円形、深さ27cm)、P6(径約29cmの円形、深さ27cm)の計6本を確認。掘方の規模は小さく、柱痕は確認できなかった。遺物 遺物は確認できず明確な帰属時期は不明である。

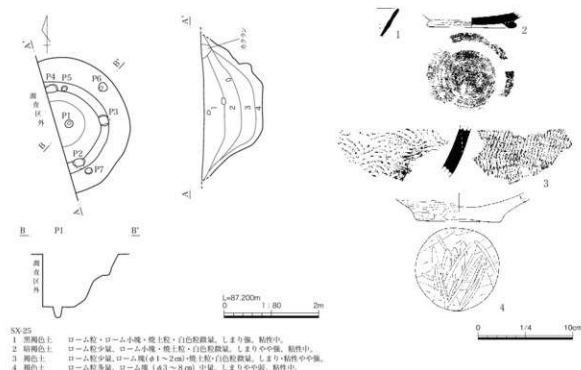


第301図 西刑部西原遺跡9区 SB-35実測図

3. 性格不明遺構

9区 SX-25 (遺構・遺物：第302図、図版四六)

位置 グリッド 95.5-55.0 規模・平面形 東半部は調査区外のため全形は不明だが、東西1.4 m以上、南北2.83 mの円形を呈するものと思われる。覆土 4層に分類。自然堆積と考えられる。壁・断面形 壁面は僅かな凹凸を有する。底面確認面から深さ約55 cmと約1 mの位置に緩やかな段をもつ。この2段目の壁面には4か所のピットを掘り込む。このピットが未調査部の西壁際にあるとすれば、7区SX-7に掘られた「直交する2対のピット」と類似した状況が想定される。壁高 土坑底面までは1.24 m、小穴底面までは1.46 mある。床 土坑底面は径約0.95 mの不整な円形を呈する。底面には径約20 cm、深さ22 cmの穴を掘る。遺物 図示した遺物は須恵器環・高台付環・甕、土師器甕などがある。不掲載遺物は土師器片9点のみである。1・2から8世紀中葉の遺構と考えたい。前述した7区SX-7とは時期や土坑の形状が類似するが、底面のピットが小さい点、底面がKP層まで達していないなどの相違点がある。



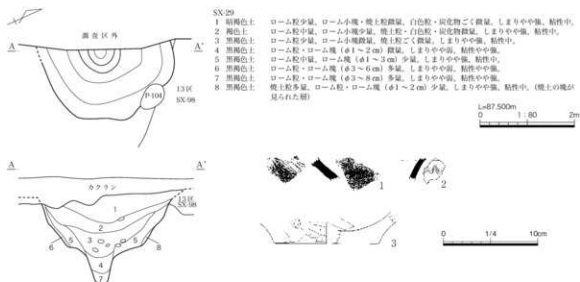
第302図 西刑部西原遺跡9区 SX-25実測図・出土遺物

第134表 9区 SX-25出土遺物観察表

図版番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・深上 (cm)	残存
1	須恵器環	高 13.4	内外面口ケロナデ。	内: NSの灰 外: 5Y5/1 灰	中々緻密。粗砂。白色粘 地成。中々硬質。	覆土中	口縁部破片
2	須恵器高台付環	底 (8.8) 高 [15.5] 径 (8.9)	内外面口ケロナデ。底部外面回縁へラケズリのち高台付。貼付。高台接合部欠損。	内: 5Y7/1 灰白 外: 5Y7/2 灰白	中々粗い。粗砂～鏝。白色粘 地成。中々硬質。	覆土中	底部4/5、 高台1/2
3	須恵器甕	厚 1.0	外面格子印き。内面同心円状あり具柄。	内: 7.5YR5/6 明黄 外: 2.5Y5/1 黄灰	中々緻密。白・灰・透明 粗砂 地成。硬質。	覆土中	胴部破片
4	土師器甕	底 8.8 高 [3.0]	胴部外面下部ナメヘラケズリのちナメヘラミガキ。底部外面一方向へラケズリのち中々粗いヘラミガキ。球製の裏か。内面風化剥離面著で調整不明。	内: 10YR7/3 に近い黄砂 外: 10YR5/3 に近い黄砂	中々粗い。白・灰粗砂～ 地成。中々硬質。	覆土中	底部存存。 胴部一部

9区 SX-29 (遺構・遺物：第303図、図版四六)

位置 グリッド 97.0-55.0 重複関係 SX-98より新しく、P-104より古い。規模・平面形 西半部が調査区外のため全形は不明だが、一辺約2.7mの隅丸方形と考えられる。覆土 7層に分層。自然堆積と考えられるが、壁側面には焼土(8層)が認められる。3層で出土した礫は投棄された可能性が高い。壁・断面形 壁面は深さ60cmで段を有し、底面は緩やかに傾斜する。壁高 土坑底面までは1.05～1.25m、小穴底面まで1.84mある。床 土坑底面は一辺約1.4mの不整な方形を呈する。底面には径約50cm、深さ約60cmの断面逆台形のピットを掘る。遺物 出土遺物は礫の他、土師器小破片が30点弱出土したのみである。遺物は古墳時代後期のものが多い。備考 遺構の性格は不明である。覆土の堆積状況や遺構の形状は有段の井戸に類似するが、円形有段遺構にも類似している。



第303図 西刑部西原遺跡9区 SX-29 実測図・出土遺物

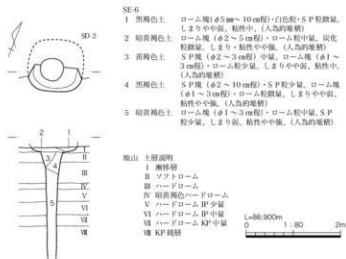
第135表 9区 SX-29 出土遺物観察表

発掘面号	層種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	粘土・素材・構成	出土位置・土上(cm)	残存
1	須恵期 覆	高 [3.2]	内面同心円状あて具か。外面カキ目あり。	内:5GV4/1 磁子ローブ灰 外:2.5GV3/1 オリーブ灰	白・白・灰 焼成:硬質	覆土中	須部破片
2	須恵期 壁	厚 0.6	内外面ロケロナデ。波状文は4本一組で上下の幅幅は狭い。	内:7.5Y7/1 灰白 外:7.5Y6/1 灰	中・中・硬質。白・黒 焼成:中・中・硬質	覆土中	須部破片
3	土師期 覆	底 (11.0) 高 [3.2]	側部下端外面タテヘラケズリ。一部タテハケ目あり。底部外面一方ヘラケズリ。	内外面とも 5YR6/6 橙	中・中・軟い。白・灰 焼成:中・中・硬質	覆土中	底部 1/3

4. 井戸

9区 SE-6 (遺構: 第304図、図版四六・四七)

位置 グリッド93.5-53.0 重複遺構 奈良時代の溝跡SD-2より古い。規模・形態 有段の井戸。開口部は北部を欠失するが、一辺1.12mほどの隅丸方形を呈したものと考えられる。深さは10cm弱しか残っていない。井筒部は上面径44cmで、筒状に直線的に掘られる。確認面からの深さは2.4m以上あるが、調査の都合上底面までは確認できなかった。覆土 自然堆積と考えられる。遺物 時期を確定できる遺物は確認できなかったが、SD-2との重複関係から奈良時代以前の井戸と考えられる。

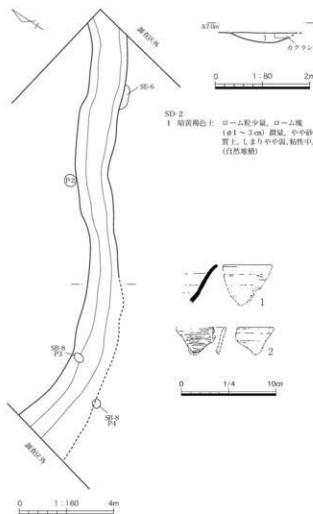


第304図 西刑部西原遺跡9区 SE-6実測図

5. 溝

9区 SD-2 (遺構・遺物: 第305図、図版四七)

位置 グリッド53.0-93.5・52.5-93.5・52.0-93.5 重複遺構 SE-6、SB-8と重複し、いずれより新しい。規模・形態 長さ16.6m、幅1.08~2.7m。幅が一定せず、やや蛇行気味である。壁・断面形 壁高22cm。断面形は逆台形及び皿状を呈する。底面 細かな凹凸を多数有するが概ね平坦である。覆土 自然堆積と考えられる。遺物 覆土中から土師器環・甕や須恵器環小破片が数点出土。1は須恵器環口縁部破片。2は内面が磨かれ、黒色処理されたロクロ土師器環。遺物から推定される時期は、奈良時代中葉から後葉と考えられる。



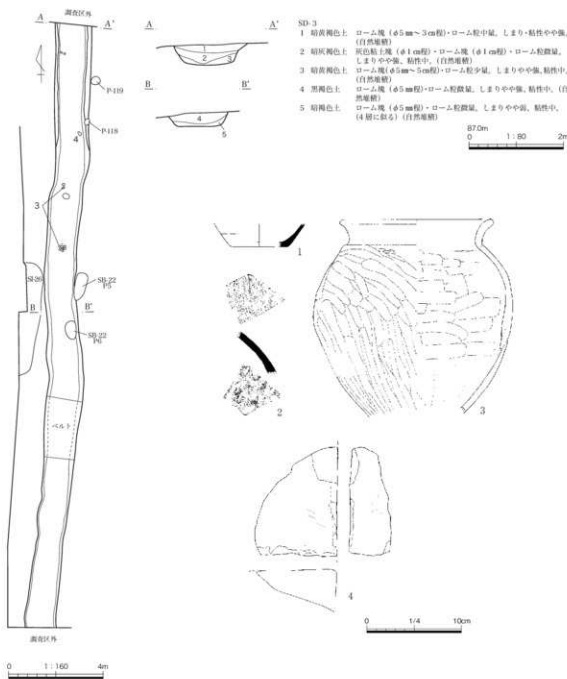
第305図 西刑部西原遺跡9区 SD-2実測図・出土遺物

第136表 9区 SD-2出土遺物観察表

編號番号	器種	法量(cm/g)	技法・種類	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須虫器 杯	口 (16.0) 高 (4.1)	内外面口ケロナテ。	内外面とも 5YR6/6 橙	中々緻密、白・灰・黒細砂・砂、赤色粒粒成；中々硬質	覆土中	口縁部～体部 1/8
2	土師器 杯	口 (11.0) 高 (2.8)	内外面口ケロナテ。内面ヘラミガキのち黒色処理。	内外面とも 5YR5/4 に近い	中々緻密、白・灰・黒細砂粒成；中々硬質	ベルト東側	口縁部 1/10

9区SD-3 (遺構・遺物：第306図、図版四七・一〇三)

位置 グリッド 53.0-93.5・53.5-95.5・53.5-96.0・53.5-96.5 重複遺構 SB-22、P-118 と重複する。規模・形態 長さ25.5 m以上、幅1.24～1.54 m。壁・断面形 壁高は最深部で56 cm、断面形は逆台形を呈する。



第306図 西刑部西原遺跡9区 SD-3実測図・出土遺物

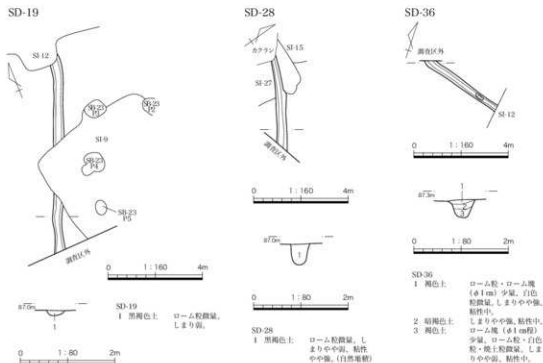
底面 若干の小穴があるが、概ね平坦である。覆土 暗黄褐色土及び暗褐色土主体の土層で、自然堆積と考えられる。遺物 図示した土器は、須恵器環(1)・横瓶(2)、土師器甕(3)、砂岩製の砥石(4)などである。不掲載土器は、土師器環・甕・瓶が主体。その他手捏ね土器、須恵器甕破片が1点ずつで総量は小コンテナ箱1/2程度。古墳時代終末期(7世紀前葉から中葉)の溝跡と考えたい。

第137表 9区 SD-3出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(m/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	現存
1	須恵器環	底 (6.0)	内外面口クロナデ。底部外面回転糸切り。蓋人品か。	内外面とも 5Y5/1 灰	やや緻密、白・黒炭砂粒焼成；硬質	覆土北部	底部 1/5、 体部下平 1/4
2	須恵器横瓶	厚 0.6	体部外面カキ目。体部内面輪めて縦かい同心円印キ。	内：5Y6/1 灰 外：5Y7/2 灰白	やや緻密、白・黒炭砂粒焼成；硬質	覆土北部	胴部一部
3	土師器甕	口径 [15.6] 高 [20.4]	口縁部内外面コナデ。胴部外面上平ナメ・下平部タテヘラナデ。胴部内面上平部コナ、下平部タテヘラナデ。内面黒色を呈する。炭化物が付着したものか。	内：N2.0 黒 外：7.5YR7/6 橙	やや粗い、白・灰黒砂一層焼成；やや硬質	覆土中	底部欠損
4	石部砥石	長 [11.7] 幅 [8.4] 厚 [4.5] 重 [392.0]	2面の砥面を確認。磨面は殆ど残っていない。 平面形：楕円形 断面形：不整な楕円三角形	10YR7/6 明黄緑	砂質	No.8	部欠

9区 SD-19 (遺構：第307図)

位置 グリッド 54.5-96.0・54.5-96.5 重複遺構 SI-9・12より古い。規模・形態 長さ5.9m以上、幅0.34m。南北軸の溝。壁・断面形 壁高は最深部で14cm、断面形は逆台形もしくは皿状を呈する。底面 若干の凹凸がある。覆土 黒褐色土主体の土層で、自然堆積と考えられる。遺物 出土しなかったため明確な時期は不明だが、竪穴建物との切り合いから古墳時代後期以前の可能性がある。



第307図 西刑部西原遺跡9区 SD-19・28・36測図

9区 SD-28 (遺構：第307図、図版四七)

位置 グリッド 55.5-95.5 重複遺構 古墳時代終末期の建物跡 SI-27 より新しい。 規模・形態 長さ 3.75 m以上、最大幅 0.35 mの南北軸の溝。 壁・断面形 壁高は最深部で 42 cmと深く、断面形は U 字形を呈する。

底面 若干の凹凸がある。 覆土 黒褐色土主体の 1 層で、自然堆積と考えられる。 遺物 出土しなかったため明確な時期は不明だが、竪穴建物との切り合いから古墳時代後期以降の溝跡と考えられる。

9区 SD-36 (遺構：第307図、図版四七)

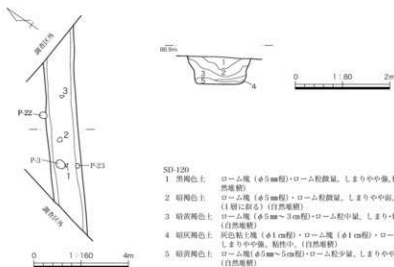
位置 グリッド 54.0-96.5 重複遺構 古墳時代後期の建物跡 SI-12 より古い。 規模・形態 長さ 3.6 m、最大幅 0.3 m 壁・断面形 壁高約 40 cmとしっかりした据方をもつ。 底面 若干の凹凸を有する。 覆土 暗褐色土主体の 2 層からなり自然堆積と考えられる。 遺物 殆ど出土しなかったため明確な時期は不明

だが、竪穴建物との切り合いから古墳時代後期以前の可能性がある。

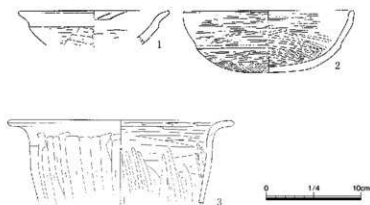
SD-120 (遺構：第308図、遺物：第309図、図版四七・一〇三)

位置 グリッド 52.0-93.5・52.5-93.5・52.5-94.0 重複遺構 P・3・22 より古い。 規模・形態 東西残 8.6 m、最大幅 1.3 m 壁・断面形 壁高最深部で 59 cm、断面形は逆台形。 底面 若干の凹凸がある。

覆土 5層に細分され、自然堆積と考えられる。 遺物 3点を図示した。1は床面付近から出土した高坏。内面は漆仕上げである。2は大形の土師器环。内外面を入念に磨いている。3は土師器甕。内面をヘラケズリ成形した後、太いタテのヘラミガキを施している。不掲載遺物は土師器环・甕などが主体で小コンテナ箱 1/3弱。古墳時代終末期（7世紀前葉から中葉）の溝跡と考えたい。備考 9区北部で確認された SD・3と規模・断面形などが類似しており、同一遺構の可能性あり。



第308図 西刑部西原遺跡9区 SD-120 実測図



第309図 西刑部西原遺跡9区 SD-120 出土遺物

第138表 9区 SD-120 出土遺物観察表

図録番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・深上 (cm)	残存
1	土師器 高杯	口 (15.6) 高 [3.6]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面部仕上げ。	内: 5YR6/6 橙 外: 5YR3/1 黒褐色	やや粗い。灰・黒點砂～ 焼成; やや破損	№1 3.0	口縁部～体部 1/4
2	土師器 杯	口 (17.6) 高 6.6	内外面全面に人念なヘラミガキ。口縁部内面僅かにヨコナデ痕残る。外面は広範囲に黒斑がみられる。	内: 10YR6/3 に近い黄褐色 外: 10YR4/2 灰黄褐色	細密。透明・白細砂。白 砂。赤色粒 焼成; 破損	№2 28.5	口縁部1/8。 底部完存
3	土師器 甕	口 (23.4) 高 [9.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。口縁部内面ヨコヘラケズリのちヨコナデ。胴部内面タテヘラケズリのちよいとタテヘラミガキ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密。白・灰・黒細 砂。灰・黒砂 焼成; やや破損	№3 28.7	口縁部～胴部 1/4

6. 土坑

本調査区からは計 10 基の土坑が確認された。本調査区の土坑は遺物の出土量が極めて少ないため明確な時期を確定できないものが多い。ただし他遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものもある。

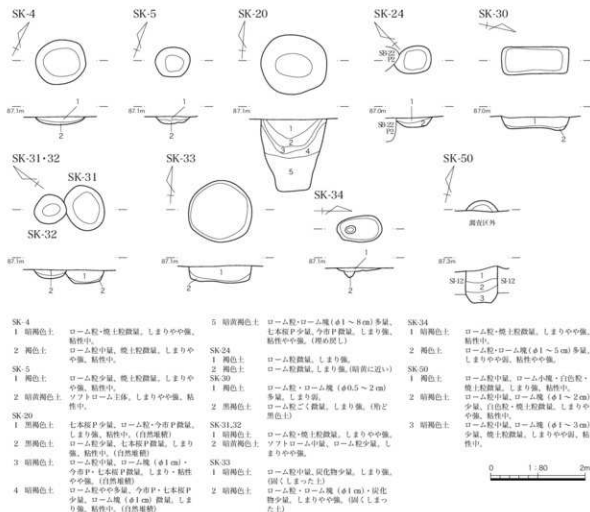
ここでは遺構個別の事実記載は行わず、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめ掲載した。特徴的な遺構については補足説明を行うこととしたい。土坑を観察すると、平面形は円形又は楕円形を呈し、比較的浅めのものが多い。このうち径 1m 以下の土坑は 5 基 (SK-5・24・31・32・34)、1m を越えるものは 2 基 (SK-4・33) である。覆土は、埋戻しか自然堆積かは明確にできないが、明らかに人為埋戻しは確認できなかった。時間的には古墳時代から平安時代のものが多いと考えられる。

SK-20 は円筒形土坑としているもので、約 1.5 m の深さを有する。SK-50 は古墳時代後期の建物跡を掘り込む。掘立柱建物の柱穴にも見える。SK-30 は近現代の土坑の可能性が高い。

第139表 9区 土坑計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
SK-4	52.0-93.0	不整な楕円形	1.04	0.95	0.17	
SK-5	52.0-93.0	不整な円形	0.72	0.63	0.15	
SK-20	54.0-96.0	楕円形	1.4	1.28	1.52	
SK-24	53.5-96.0	不整な楕円形	0.79	0.57	0.2	
SK-30	55.5-96.5	長方形	1.4	0.57	0.29	
SK-31	55.5-96.5	楕円形	0.93	(0.80)	0.27	SK-32 より古い
SK-32	55.5-96.5	不整な円形	0.68	0.62	0.19	SK-31 より新しい
SK-33	53.0-96.5 55.0-97.0	円形	1.31	1.3	0.36	

SK-34	55.0・96.5 55.5・96.5	楕円形	0.04	0.53	0.2	
SK-50	54.5・96.5	—	0.671	0.222	0.77	



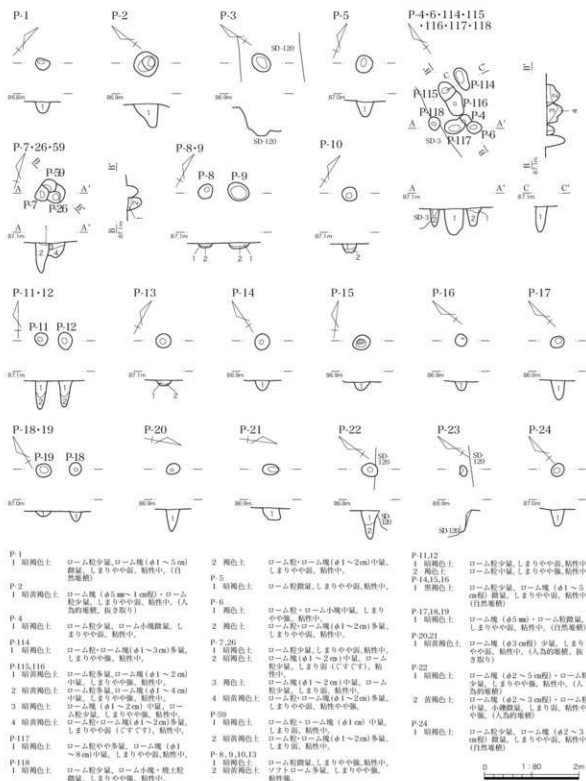
第310図 西刑部西原遺跡9区 土坑実測図

7.ピット

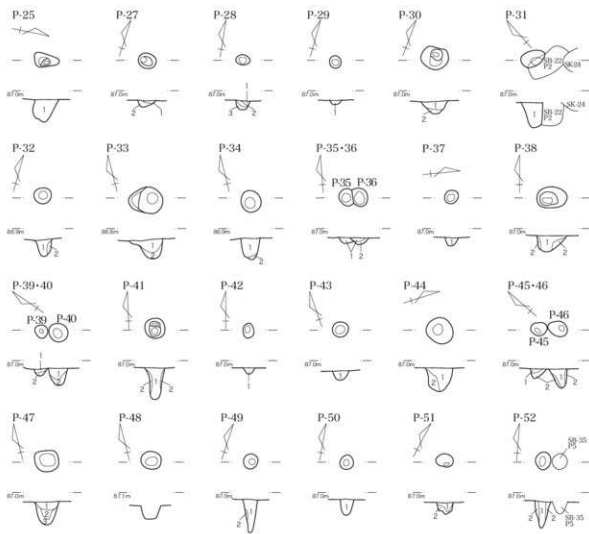
本調査区から確認されたピット(小穴)は計118基である。土坑と同様、遺物の出土量が少ないため明確な時期を確定できないものが殆どであるが、他遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものもある。ここでは土坑と同様に個別の事実記載は行わず、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめて掲載した。

本調査区では、ピットは全体的に確認されているが、敢えて言えば、9区北部の東半部付近が最も集中している区域といえる。グリッドではX=96.0以北、Y=55.0以東の範囲である。覆土は、単層で自然堆積と考えられるもの、レンズ状の堆積を示すもの、或いは掘立柱建物跡の柱穴同様に柱痕をもつものなど多様である。

遺物が出土したピットはP-29のみである。1はロクロ成形の土師器坏で、体内内面はヘラミガキのち黒色処理されている。奈良時代の遺物と考えられる。



第311図 西刑部西原遺跡9区 ビット実測図(1)



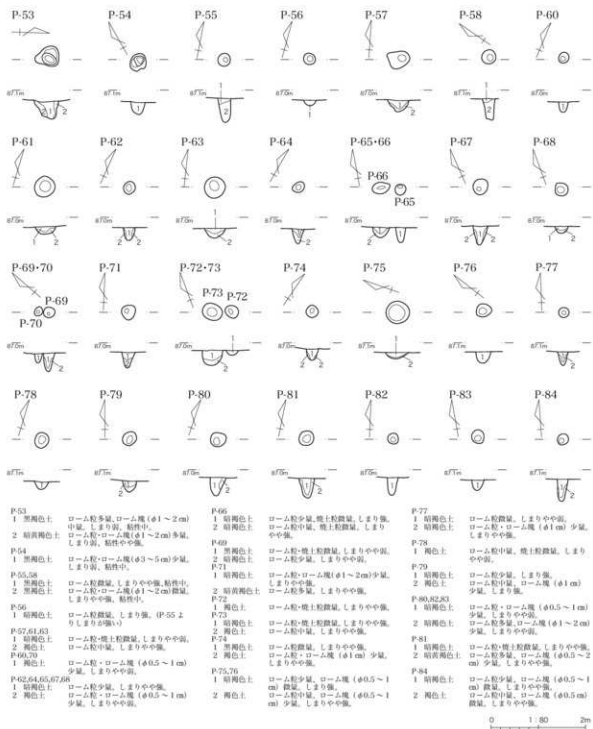
- P-25
1 暗褐色土 ローム塊(φ2~5cm)少量,ローム粒微量,しまり中硬,粘性中,(人為的堆積,灰き取り)
- P-27
1 暗褐色土 ローム粒微量,しまり中硬,
2 褐色土 ローム粒少量,しまり中硬
- P-28
1 暗褐色土 ローム粒主体,しまり強
2 暗褐色土 ローム粒微量,しまり中硬
3 暗褐色土 ローム粒少量,しまり中硬
- P-29
1 暗褐色土 ローム粒少量,しまり中硬
- P-30,33
1 暗褐色土 ローム粒少量,しまり強
2 褐色土 ローム粒中量,しまり強
- P-31
1 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ1~2cm)多量,しまり・粘性弱,(ボツボツの上で覆瓦とも良い)
- P-32
1 褐色土 ローム粒少量,しまり中硬,
2 暗褐色土 ローム粒中量,ローム塊(φ0.5cm)少量,しまり中硬
- P-34
1 暗褐色土 ローム粒少量,しまり中硬,
2 暗褐色土 ローム粒中量,ローム塊(φ0.5cm)少量,しまり中硬,(振りすきに近い)
- P-35
1 褐色土 ローム粒少量,しまり中硬,
2 暗褐色土 ローム粒微量,しまり強
- P-36
1 暗褐色土 ローム粒中量,しまり強
2 褐色土 ローム粒中量,しまり中硬
- P-37
1 暗褐色土 ローム塊(φ0.5~1.5cm)少量,ローム粒・塊(灰)少量,しまり中硬,
2 褐色土 ローム粒中量,ローム塊(φ1cm)少量,しまり強

- P-39
1 暗褐色土 ローム粒微量,しまり中硬,
2 褐色土 ローム粒中量,しまり中硬
- P-40 (P-39に似る)
1 暗褐色土 ローム粒少量,塊上粒微量,しまり中硬,
2 褐色土 ローム粒中量,ローム塊(φ1m)少量,しまり中硬
- P-41
1 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ0.3~0.5cm)少量,しまり中硬,
2 褐色土 ローム粒中量,ローム塊(φ1cm)少量,しまり中硬
- P-42
1 暗褐色土 ローム粒微量,しまり中硬
- P-43
1 褐色土 ローム粒少量,塊上粒微量,しまり強,
2 暗褐色土 ローム粒中量,ローム塊(φ0.5~1cm)少量,しまり中硬,
3 暗褐色土 ローム粒多量,ローム塊(φ0.5~1cm)少量,しまり中硬
- P-45
1 褐色土 ローム粒中量,しまり中硬,
2 暗褐色土 ゴットローム主体,しまり中硬
- P-46
1 褐色土 ローム粒中量,ローム塊(φ0.5~1cm)少量,しまり中硬,
2 暗褐色土 ローム粒中量,ローム塊(φ1~2cm)少量,しまり中硬
- P-47
1 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ0.5cm)微量,しまり強
2 暗褐色土 ローム粒多量,しまり強
3 暗褐色土 ローム粒多量,ローム塊(φ0.5~2cm)少量,しまり中硬
- P-49
1 暗褐色土 ローム粒・塊上粒微量,しまり中硬,
2 暗褐色土 ゴットローム主体,しまり中硬



第312図 西刑部西原遺跡9区 P-29出土遺物

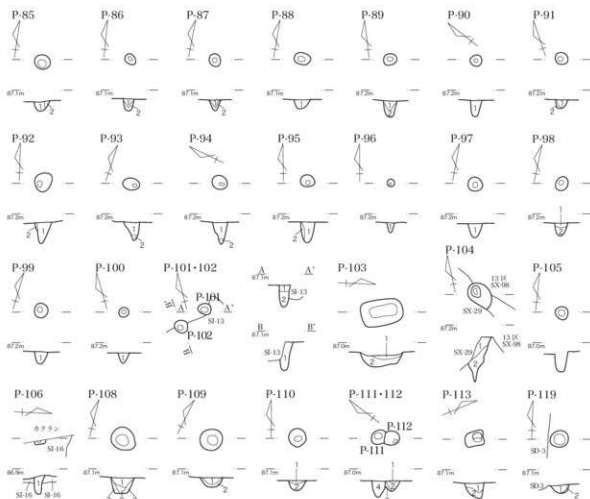
第313図 西刑部西原遺跡9区 ビット実測図(2)



第314図 西刑部西原遺跡9区 ビット実測図(3)

第140表 9区 P-29出土遺物観察表

図録番号	部位	法量(cm/g)	投法・特徴	色調	粘土・素材・焼成	出土位置・深下(cm)	現存
1	土師器 坪	口(11.8) 底[6.2] 高3.5	ロケロ仕上げ、内面や中縁からヘラミガキ、内外面染色処理、底部外面に転染未切り。	内:5Y2/1 黒 外:5Y3/1 オリーブ黒	中々緻密、白磁彩~粗彩 焼成:中々硬質	覆土中	口縁部 1/10、底部 2/5



- P-85
1 暗褐色土
2 褐色土
P-86,87,88
1 暗褐色土
2 暗褐色土
P-89,90,91,93,94,96,100
1 暗褐色土
2 暗褐色土
P-92,95
1 暗褐色土
2 褐色土
P-97
1 暗褐色土
P-98
1 暗褐色土
2 暗褐色土
P-98
1 暗褐色土
P-101
1 褐色土
- ローム粒・ローム塊 (φ0.5~1 cm) 少量、焼土粒微量~少量、しまり中~多量、ローム粒少量、しまり中~多量。
ローム粒・ローム塊 (φ0.5~1 cm) 少量、焼土粒微量~少量、しまり中~多量、ローム粒少量、ローム塊 (φ0.5~1 cm) 少量、焼土粒微量、しまり中~多量。
ローム粒少量、しまり中~多量。
ローム粒多量、しまり中~多量。
ローム粒少量、ローム塊 (φ0.5~1 cm) 微量、しまり中~多量。
ローム粒中量、ローム塊 (φ0.5~1 cm) 微量、しまり中~多量。
ローム粒・ローム塊 (φ0.5~1 cm) 少量、しまり中~多量。
ローム粒・ローム塊 (φ0.5~1 cm) 少量、しまり中~多量。
ローム粒・ローム塊 (φ0.5~1 cm) 少量、しまり中~多量。
ローム粒中量、ローム塊少量、しまり中~多量、粘性中、OS13を切る。

- 2 暗褐色土
P-102
1 暗褐色土
P-103
1 暗褐色土
2 暗褐色土
P-104
1 暗褐色土
2 暗褐色土
P-106
1 暗褐色土
P-108
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 褐色土
P-109
1 暗褐色土
2 褐色土
- ローム粒中量、ローム塊 (φ0.3~0.5 cm) 少量、焼土粒微量、しまり中~多量、粘性中。
ローム粒微量、しまり中~多量、粘性中。
ローム粒・ローム塊 (φ0.5~1 cm) 少量、焼土粒微量、しまり中~多量、粘性中。
ローム粒・ローム塊 (φ0.5~2 cm) 中量、焼土粒微量、しまり中~多量、粘性中。
ローム粒少量、焼土粒微量、しまり中~多量、粘性中、OS25に切らる。
ローム粒多量、ローム塊 (φ0.5~1 cm) 微量、しまり弱、粘性中。
ローム粒・ローム塊 (φ1 cm)・焼土粒少量、しまり強、粘性中。
ローム粒・白色粒微量、しまり・粘性中~多量。
ローム粒中量、ローム小塊・白色粒微量、しまり・粘性中~多量。
ローム粒中~多量、ローム塊 (φ1 cm) 微量、しまり中~多量、粘性中~多量。
ローム粒微量、しまり中~多量、粘性中。
ローム粒少量、ローム塊 (φ)~3 cm) 微量、しまり中~多量、粘性中~多量。
褐色土。

- P-110
1 褐色土
2 黒褐色土
P-111,112
1 暗褐色土
2 黒褐色土
3 暗褐色土
4 褐色土
P-113
1 暗褐色土
2 暗褐色土
P-119
1 暗褐色土
2 暗褐色土
- ローム粒少量、ローム塊 (φ1 cm) 微量、しまり中~多量、粘性中。
ローム粒・ローム塊 (φ1~5 cm) 少量、しまり中~多量、粘性中~多量。
しまり中~多量、粘性中。
ローム粒・ローム塊 (φ1~3 cm) 多量、しまり弱 (くすくす)、粘性中。
ローム粒・ローム塊 (φ1~3 cm) 多量、しまり中~多量 (くすくす)、粘性中。
ローム粒・ローム塊 (φ3 cm) 少量、焼土粒微量、しまり中~多量、粘性中。
ローム粒・ローム塊 (φ1~3 cm) 多量、しまり中~多量、粘性中~多量。
ローム粒微量、しまり強、粘性中。
ローム粒・ローム塊 (φ1~2 cm) 中量、しまり中~多量、粘性中。

第315図 西刑部西原遺跡9区 ビット実測図(4)

第141表 9区 ビット計測表

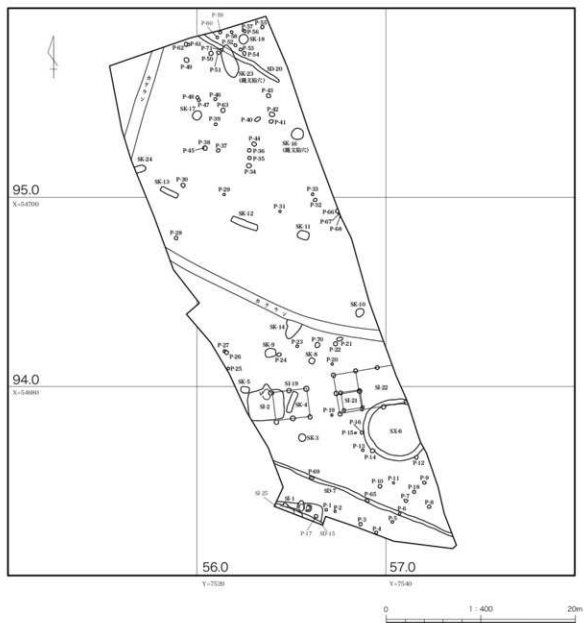
遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
P-1	52.5-93.5	—	0.29	0.25	0.24	
P-2	52.5-93.5	円形	0.5	0.5	0.5	
P-3	52.0-93.5	楕円形	0.42	0.34	0.12	
P-4	53.5-96.5	—	0.23	0.18	0.16	P-6・117 と重複
P-5	52.0-93.0	円形	0.38	0.35	0.31	
P-6	53.5-96.5	円形	0.32	0.26	0.39	P-4 と重複
P-7	54.0-96.5	—	0.34	0.26	0.64	P-26・59 と重複
P-8	52.0-93.0	—	0.34	0.29	0.1	
P-9	52.5-93.0	—	0.46	0.39	0.12	
P-10	52.0-93.0	—	0.32	0.3	0.19	
P-11	52.0-92.5	円形	0.27	0.26	0.6	
P-12	52.0-92.5	円形	0.36	0.29	0.55	
P-13	52.0-92.5	円形	0.31	0.3	0.12	
P-14	52.5-93.5	円形	0.33	0.31	0.21	
P-15	52.5-93.5	円形	0.37	0.36	0.17	
P-16	52.5-93.5	円形	0.25	0.24	0.19	
P-17	52.5-93.5	円形	0.3	0.25	0.42	
P-18	52.5-93.5	円形	0.26	0.25	0.2	
P-19	52.5-93.5	円形	0.34	0.3	0.11	
P-20	52.5-93.5	楕円形	0.3	0.23	0.46	
P-21	52.0-93.5	楕円形	0.34	0.23	0.25	
P-22	52.5-94.0	楕円形	0.35	0.26	0.51	SD-120 と重複
P-23	52.0-93.5	—	(0.24)	(0.15)	(0.38)	SD-120 と重複
P-24	52.0-93.5	円形	0.29	0.25	0.34	
P-25	52.5-93.0	—	0.53	0.3	0.48	
P-26	54.0-96.5	—	0.4	0.31	0.31	P-7・59 と重複
P-27	54.0-96.0	円形	0.37	0.32	0.14	
P-28	54.0-96.0	円形	0.29	0.21	0.19	
P-29	54.0-96.0	円形	0.26	0.25	0.09	
P-30	53.5-96.5 53.5-96.0	—	0.57	0.46	0.26	
P-31	53.5-96.0	—	0.48	0.34	0.53	SB-22 と重複
P-32	53.5-96.0	円形	0.37	0.35	0.35	
P-33	53.5-96.0	楕円形	0.71	0.55	0.42	
P-34	53.5-95.5	円形	0.47	0.43	0.45	
P-35	54.0-96.0	円形	0.36	0.27	0.12	P-36 と重複
P-36	54.0-96.0	円形	0.41	0.31	0.16	P-35 と重複
P-37	54.0-96.0	円形	0.28	0.28	0.17	
P-38	55.0-96.0	楕円形	0.64	0.45	0.34	
P-39	55.0-96.0	円形	0.29	0.28	0.15	
P-40	55.5-96.0	円形	0.42	0.4	0.36	
P-41	55.5-96.0	円形	0.42	0.41	0.56	
P-42	55.5-95.5	楕円形	0.31	0.24	0.13	
P-43	55.5-96.0	円形	0.34	0.33	0.2	
P-44	55.0-96.0	楕円形	0.57	0.54	0.5	
P-45	55.0-96.0	楕円形	0.31	0.3	0.21	
P-46	55.0-96.0	—	0.4	0.32	0.4	
P-47	55.5-96.0	—	0.49	0.45	0.48	
P-48	55.5-96.0	円形	0.42	0.39	0.3	
P-49	56.0-95.5	円形	0.32	0.3	0.7	
P-50	56.0-95.5	円形	0.31	0.29	0.35	
P-51	54.0-96.5	楕円形	0.36	0.27	0.24	
P-52	56.0-95.5	円形	0.38	0.33	0.55	
P-53	54.0-96.5	—	0.52	0.43	0.37	
P-54	54.0-96.5	—	0.39	0.33	0.27	
P-55	54.0-96.5	円形	0.27	0.26	0.51	
P-56	56.0-96.0	円形	0.25	0.25	0.12	
P-57	56.0-96.0	—	0.47	0.4	0.23	
P-58	54.0-96.5	円形	0.3	0.29	0.46	
P-59	54.0-96.5	—	0.3	0.27	0.29	P-7・26 と重複
P-60	56.0-96.0	円形	0.23	0.21	0.22	
P-61	56.0-96.0	円形	0.44	0.43	0.15	
P-62	56.0-96.0	楕円形	0.28	0.25	0.27	
P-63	55.5-96.0 56.0-96.0	円形	0.45	0.44	0.21	
P-64	55.5-96.0	楕円形	0.27	0.2	0.32	
P-65	55.5-96.0	円形	0.23	0.23	0.32	
P-66	55.5-96.0	楕円形	0.37	0.24	0.23	
P-67	55.5-96.0	円形	0.35	0.32	0.39	
P-68	55.5-96.0 55.5-96.5	円形	0.31	0.29	0.15	

第3章 遺跡の環境

P69	55.5-96.5	円形	0.25	0.23	0.40	
P70	55.5-96.5	円形	0.21	0.16	0.20	
P71	55.5-96.5	円形	0.31	0.29	0.33	
P72	55.0-96.5	円形	0.28	0.26	0.10	
P73	55.5-96.5	橢円形	0.43	0.35	0.32	
P74	55.5-96.5	橢円形	0.27	0.26	0.24	
P75	55.0-96.5	円形	0.49	0.49	0.15	
P76	55.5-96.5	円形	0.33	0.29	0.25	
P77	54.5-96.5	円形	0.21	0.21	0.3	
P78	55.5-96.5	円形	0.34	0.3	0.15	
P79	55.5-96.5	円形	0.3	0.3	0.23	
P80	55.5-96.5	円形	0.33	0.3	0.4	
P81	55.5-96.5	円形	0.32	0.31	0.41	
P82	55.5-96.5	円形	0.22	0.22	0.38	
P83	55.5-96.5	円形	0.3	0.27	0.21	
P84	55.0-96.5	円形	0.23	0.23	0.46	
P85	55.5-96.5	円形	0.33	0.3	0.2	
P86	55.5-97.0	橢円形	0.26	0.2	0.27	
P87	55.5-97.0	円形	0.27	0.25	0.22	
P88	55.5-97.0	橢円形	0.35	0.26	0.19	
P89	55.0-97.0	円形	0.29	0.25	0.34	
P90	55.0-97.0	円形	0.24	0.24	0.35	
P91	55.0-97.0	円形	0.25	0.25	0.18	
P92	55.0-97.0	橢円形	0.39	0.35	0.45	
P93	55.0-97.0	橢円形	0.35	0.25	0.38	
P94	55.0-97.0	円形	0.32	0.3	0.47	
P95	55.0-97.0 55.0-97.5	橢円形	0.3	0.27	0.44	
P96	55.0-97.0 55.0-97.5	円形	0.16	0.15	0.21	
P97	55.0-97.5	円形	0.3	0.3	0.31	
P98	55.5-97.5	円形	0.29	0.26	0.27	
P99	55.5-97.5	円形	0.31	0.31	0.26	
P100	55.0-97.0	円形	0.21	0.21	0.23	
P101	55.0-96.5	橢円形	0.28	0.24	0.46	SI-13と重複
P102	55.0-96.5	円形	0.27	0.27	0.6	SI-13と重複
P103	55.0-96.0	橢円形	0.87	0.56	0.24	
P104	55.0-97.0	橢円形	0.62	0.41	0.95	SX-29と重複
P105	55.5-97.0	円形	0.29	0.25	0.38	
P106	55.5-97.0	—	(0.18)	(0.08)	0.38	SI-16と重複
P108	54.0-96.5	橢円形	0.53	0.47	0.33	
P109	54.0-96.5	円形	0.47	0.46	0.2	
P110	53.5-96.5	円形	0.4	0.37	0.22	
P111	53.5-96.5	円形	0.35	0.29	0.35	P-112と重複
P112	53.5-96.5	円形	0.35	0.3	0.22	P-111と重複
P113	53.5-96.5	—	0.46	0.4	0.32	
P114	53.5-96.5	橢円形	0.48	0.26	0.54	
P115	53.5-96.5	—	0.37	0.33	0.33	P-116と重複
P116	53.5-96.5	—	0.43	0.36	0.29	P-115と重複
P117	53.5-96.5	—	0.39	0.3	0.55	P-4と重複
P118	53.5-96.5	円形	0.26	0.25	0.37	SD-3と重複
P119	53.5-96.5	円形	0.4	0.35	0.17	

第10節 10区の遺構と遺物

本調査区は遺跡北東部に位置し、台地状の平坦面にあたる。北は9区北部と、南は14区とそれぞれ境を接する。遺構は、南部は建物が多いのに対し、北部は土坑・ピットなどが多い。遺構の総数は、竪穴建物跡3棟、掘立柱建物跡3棟、円形周溝遺構1基、溝3条、土坑13基、ピット70基が確認された。

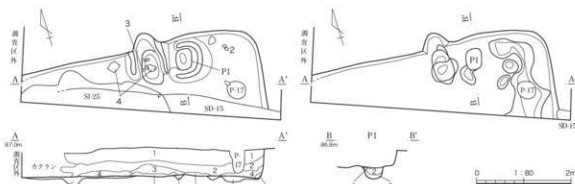


第316図 西刑部西原遺跡10区 全体図 (S=1/400)

1. 竪穴建物跡

10区 SI-1 (遺構：第317図、遺物：第318図、図版五〇・一〇四)

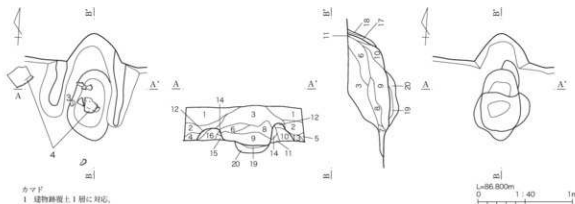
位置 グリッド93.0-56.0・93.0-56.5 重複遺構 SI-25より新しく、P-17より古い。平面形 兩丸方形か。規模 東西5.0m以上×南北1.8m以上 主軸方向 N-6°-W 覆土 自然堆積か。暗褐色土及び黒褐色土を主体とする。壁 壁高31～62cm 床 部分的に貼床で、やや凹凸あり。柱穴・入口ピット・壁溝 確認できなかった。貯蔵穴 P1(長軸45×短軸32cm、深さ25cm)は南北軸の兩丸長方形で、周



SI-1

- 1 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ5mm～3cm程) 散見。しまりや中密、粘性中。
- 2 黒褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ5mm～5cm) 散見。しまり中密、粘性やや強。
- 3 黒灰褐色土 灰色粘土層(φ1cm程)・ローム粒少量、ローム塊(φ5mm～3cm程)・焼土塊(φ5mm程) 散見。しまりやや弱、粘性中。
- 4 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ5mm～1cm程) 散見。やや弱、しまりやや弱、粘性中。
- 5 黒褐色土 ローム塊(φ5mm～3cm程)・ローム粒少量。しまりやや弱、粘性中。

- 6 黒灰色土 焼土塊(φ5mm程) 少量、砂粒散見。灰質土。しまり弱、粘性中、ローム主体。暗褐色土散見。建物外周に沿うにつれ、暗褐色土混入量若干増加する。しまり強、粘性やや強。
 - 7 黄褐色土
- P1
- 1 暗褐色土 ローム塊(φ5mm～1cm)・焼土塊(φ5mm～1cm)・暗灰色粘土層(φ5mm～1cm)・ローム中層。しまり中密、粘性中。
 - 2 暗褐色土 ローム塊(φ5mm～2cm)・ローム粒中層、炭化炭(φ1cm程)・暗灰色粘土層(φ5mm程) 少量。しまりやや弱、粘性中。
 - 3 暗褐色土 ローム主体、褐色土混入。しまりやや弱、粘性やや強。



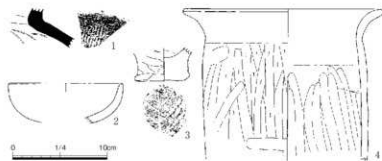
カマド

- 1 建物跡覆土1層に対応。
- 2 建物跡覆土2層に対応。
- 3 黒褐色土 ローム塊(φ5mm程)・焼土塊(φ5mm程)・炭化炭・ローム粒散見。灰色粘土層に黒色土中に混入。しまり・粘性やや強。
- 4 暗灰褐色土 ローム塊(φ5mm～5cm程)・ローム粒少量。焼土粒散見。褐色土層に灰色粘土。しまりやや弱、粘性やや強。
- 5 黄褐色土 暗褐色土層(φ5mm～2cm程)・ローム粒・砂粒少量。褐色土層にローム。しまりやや弱、粘性やや強。
- 6 赤灰色土 焼土塊(φ5mm～3cm程)・焼土粒中層、ローム粒散見。灰質に粘土。しまりやや弱、粘性やや強。
- 7 建物跡覆土4層に対応。
- 8 暗赤褐色土 焼土塊(φ5mm～2cm程)・灰色粘土層(φ1～3cm程) 少量、ローム粒・炭化炭散見。灰質土。しまりやや弱、粘性やや強。
- 9 暗赤褐色土 焼土塊(φ5mm程)少量、炭化炭散見。灰質土。しまりやや弱、粘性強。
- 10 暗灰色土 焼土塊(φ5mm程)・ローム塊(φ5mm程)・ローム粒散見。灰質土に混入。しまり強、粘性中密。
- 11 灰色土 焼土塊(φ1cm程)・ローム塊(φ1～3cm程)散見。いすれのブロックも灰中にみられる淡赤色(焼土層)及び、水分の抜けに引き継ぎられた状態(ローム塊)。灰色粘土少量混入。カマドに混入されたもの。しまりやや弱、粘性やや強。

- 12 暗灰色土 ローム塊(φ1～3cm程)・焼土塊(φ1cm程) 散見。褐色土層に灰色粘土に混入。しまり・粘性やや強。
- 13 暗赤褐色土 ローム塊(φ5mm～5cm程)中層、ローム粒少量。褐色土層に灰色粘土に混入。しまり・粘性やや強。
- 14 赤灰色土 焼土塊(φ5mm～1cm程)・炭化炭(φ5mm程) 散見。灰色粘土に混入。しまり・粘性やや強。層跡により赤色化強い。
- 15 灰褐色土 暗褐色土層(φ5mm～2cm程)中層、ローム粒少量。粘性中。
- 16 灰色土 灰色粘土層(φ1cm程)・炭化炭散見。しまり・粘性中密。
- 17 暗灰色土 ローム塊(φ1～3cm程)少量、炭化炭に混入。ローム塊は、やや塊状を受けひきまする。しまりやや弱、粘性中。
- 18 黒灰色土 ローム塊(φ5mm～1cm程)・焼土塊(φ5mm程) 散見。褐色土・炭化炭混じり暗灰色粘土に混入。しまり中密、粘性中密。
- 19 暗赤褐色土 焼土塊(φ1～3cm程)・焼土粒中層、ローム塊(φ1～3cm程)・焼土粒少量。しまり中密、粘性中。
- 20 暗褐色土 焼土塊(φ1～3cm程)・焼土粒中層、ローム塊(φ1～3cm程)・焼土粒中層。ローム中層。しまり・粘性中密。(覆土)

第317図 西刑部西原遺跡10区 SI-1実測図

圓に堤防状の掘り残しあり。掘方 底面に凹凸あり、7層で埋戻す。カマド 北壁を半円形に掘り込む。煙道は約65°で立ち上がる。袖は灰色粘土を主体に構築する。燃焼部の底面付近から在地産の長胴甕(4)が出土した。遺物 4点を図示した。1は須恵器甕破片。2の土師器環は磨滅が顕著で調整不明。3は土師器の手捏ね土器か。底部外面の木の葉痕跡が極めて明瞭である。不掲載遺物は在地産土師器甕や土師器環小破片が主体で、小コンテナ箱1/8弱と少ない。古墳時代終末期(7世紀後半)の建物跡と考えられる。



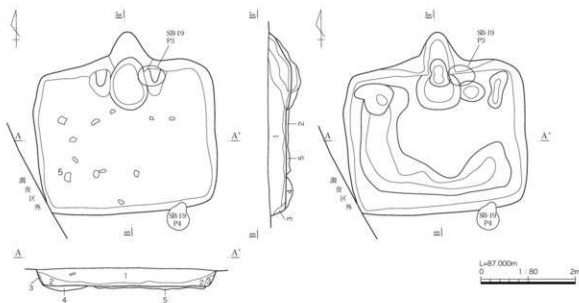
第318図 西刑部西原遺跡10区 SI-1出土遺物

第142表 10区 SI-1出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(m/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵器甕	高 [3.7] 厚 1.2	頸部内外面ナデ。胴部内面無文あて貝殻。胴部外面平打ち印キ。	内: 5Y4/1 灰 外: 5Y6/1 灰	やや粗い。白粉細砂～礫焼成; やや破損	北西	頸部破片
2	土師器環	口 (11.8) 厚 [4.2]	内外面約5割磨滅で調整不明。	内外面とも 2.5Y4/1 黄灰	粗い。白粉砂焼成; やや破損	No.7	口縁部～体部 1/2
3	土師器手捏ね土器	底 4.5 高 [3.5]	体部外面指道押止及びナデ。内面ヘラナデ。底部外面明瞭な木葉痕。	内外面とも 2.5Y8/3 淡黄	やや緻密。白・黒細砂焼成; やや破損	No.3 5.1	底部 3/5
4	土師器甕	口 (22.0) 高 [16.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面タテジビナデか。胴部外面タテヘラケズリのチナデ。外面一部に焼土付着。	内: 10YR7/4 に近い黄褐色 外: 10YR6/4 に近い黄褐色	やや粗い。白・灰細砂～礫焼成; やや破損	No.1-4 3.9 (No.1)	口縁部～胴部上平 1/4

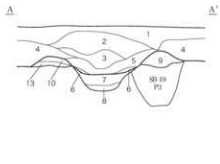
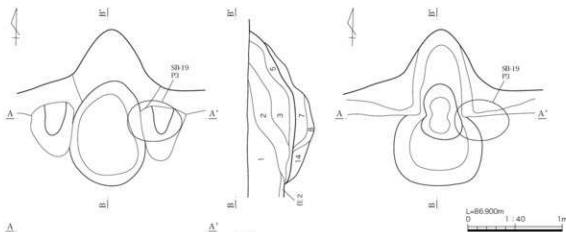
10区 SI-2 (遺構: 第319図、遺物: 第320図、図版五〇・一〇四)

位置 グリッド 93.5-56.0 重複遺構 SB-19と重複し本遺構が新しい。平面形 隅丸方形を呈する。規模 東西3.7×南北3.1m 主軸方向 N-4.5°・W 覆土 自然堆積と考えられる。壁 壁高27～37cm 床 全面的に薄い貼床が見られる。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 建物跡の四隅及び南西部にかけて浅い掘り込みをもち、ローム土主体の5層で埋戻している。カマド 北壁中央部に位置する。壁をU字状に深く掘り込み、袖は暗灰褐色の粘土で構築する。燃焼部から煙道にかけて掘方をもち、7・8・14層で埋戻している。遺物 床面直上の遺物は皆無で殆どが覆土中の遺物である。計5点を図示した。1は須恵器環。2・3は須恵器甕の口縁部・胴部の破片。4は小形の甕で台付甕の可能性もある。5は多孔質安山岩製の砥石で、6面すべてに明瞭な使用痕が見られる。不掲載の土師器は環小破片や、武蔵型・常総型の甕小破片が多く、須恵器は環・蓋小片が計3点のみである。総量は小コンテナ箱1/10程度と極めて少ない。奈良時代前葉の建物跡と考えられる。



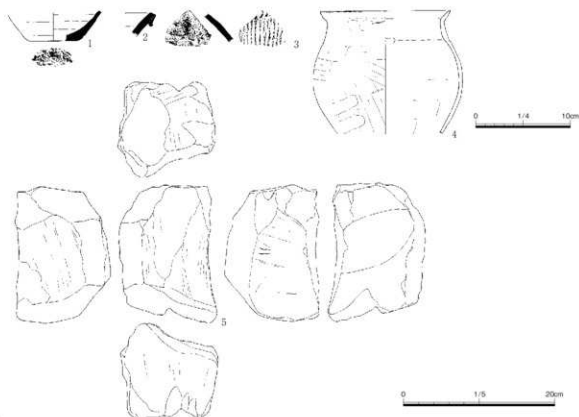
- SI-2
 1 暗褐色土 ローム粒中～少量、焼土粒微量(ほぼ黒土)。しまり強、粘性中。
 2 褐色土 ローム粒少～中量、焼土粒・ローム塊(φ0.5～1cm)微量。しまりやや強、粘性中。

- 3 暗褐色土 ローム粒・ローム塊主体、しまりやや強、粘性強。
 4 暗褐色土 ローム粒多量、ローム塊(φ1～2cm程)少量、しまりやや弱、粘性中。(結核)
 5 暗褐色土 ローム粒中量、ローム塊(φ1～3cm程)少量、しまりやや強、粘性中。(結核)



- クマツ
 1 建物跡視上1層に对应、焼土粒少量。ローム粒・焼土塊(φ0.3～0.5cm程)微量。しまり強、粘性中。(1層より焼土粒が多少)
 2 暗褐色土 焼土粒少量。ローム粒微量。しまり強。
 3 灰褐色土 ローム粒中量、ローム塊(φ0.5～2cm)少量、焼土粒微量。しまりやや強。(建物跡視上2層と同レベル)
 4 褐色土 ローム粒中量、ローム塊(φ0.5～2cm)少量、焼土粒微量。しまりやや強。
 5 灰褐色土 焼土粒中量。ローム粒・焼土塊(φ0.3～0.5cm程)少量。しまり強。
 6 灰褐色土 ローム粒中量、焼土粒・ローム塊(φ0.5～1cm程)少量。しまりやや強、粘性中。
 7 灰褐色土 焼土粒微量。しまりやや強、粘性強。(クマツ基部の火床を形成する)
 8 暗灰褐色土 焼土粒少量。ローム粒・焼土塊(φ1～1.5cm程)・ローム小塊微量。しまり強、粘性やや強。
 9 暗灰褐色土 ローム粒・焼土粒微量。しまり・粘性強。(層)
 10 暗褐色土 ローム粒多量、暗褐色土・ローム塊(φ1～2cm)中量、焼土粒微量。しまり・粘性やや強。
 13 灰褐色土 ローム主体、暗灰褐色土少量。しまり強、粘性中。
 14 暗灰褐色土 暗灰褐色土中量、ローム粒・ローム塊(φ0.5～1cm)少量。しまり・粘性やや強。

第319図 西荆部西原遺跡10区 SI-2実測図



第320図 西刑部西原遺跡10区 S1-2出土遺物

第143表 10区 S1-2出土遺物観察表

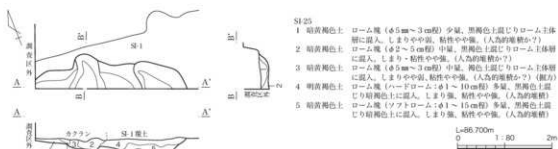
発掘 番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・ 出土 (m)	残存
1	須恵器 杯	底 [3.0] 高 (5.0)	内外面ロクロナデ。底部外面多方向手持ちヘラケズリ。	内外面ともに NS/O 灰	緻密、白細砂～硬 焼成；硬質	カマド中 口縁部～底 部 1/4	
2	須恵器 甕	高 [2.6] 厚 0.7	内外面ロクロナデ。口縁部折り返し。	内：5Y4/1 灰 外：10YR3/2 黒期	やや粗い、白・透明細砂 ～硬 焼成；やや硬質	北東 口縁部破片	
3	須恵器 甕	高 [3.0] 底 0.5	内面ナデ、外面平行押き。	内：N5/O 灰 外：N7/O 灰白	やや緻密、白細砂 焼成；硬質	南東 胴部破片	
4	土師器 甕	口 [13.6] 高 [13.1]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半はヨコまたはナ デヘラケズリ。下半部はタテヘラケズリ。胴部外面 炭化物付着。	内外面とも 5YR5/6 明赤 期	緻密、白細砂 焼成；やや軟質	カマド中 胴部 1/3、 口縁部 1/4	
5	石製品 砥石	長 16.7 幅 11.6 厚 12.5 重 1974.8	両面は6面あるが風化が著しく研磨痕(擦痕)は極めて不明瞭。	7.5Y5/1 灰	多孔質貫山岩か	№4 9.0	完存

10区 S1-25 (遺構：第321図)

位置 グリッド 93.0-56.0・93.0-56.5 重複遺構 古墳時代終末期の S1-1 調査時に底面から確認された住居。

平面形 大部分が調査区外のため不明。規模 東西 3.5 m 以上 × 南北 0.6 m 以上 主軸方向 不明 覆土 自然堆積と考えられる。壁 壁高 15 ~ 34 cm 残存。床 やや凹凸がある。硬化面など未確認。柱穴・

入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 北西隅に浅い土坑状の掘方あり。カマド 北壁をU字状に掘り込んだ状況のみ確認。焼土などの覆土は残っていない。遺物 切り合いから、古墳時代終末期以前の建物であることは判明しているが、遺物は確認されず、詳細な時期は不明である。

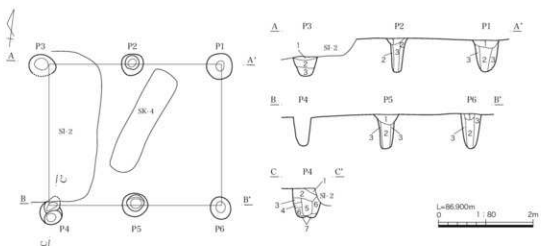


第 321 図 西刑部西原遺跡 10 区 SI-25 実測図

2. 掘立柱建物跡

10 区 SB-19 (遺構：第 322 図、図版五〇)

位置 グリッド 93.5-56.5・93.5-56.0 重複遺構 SI-2、SK-4 との重複は不明。SI-2 (7 世紀末～8 世紀初) より古いと考えられる。平面形・規模 桁行 2 間 × 梁行 1 間の東西軸側柱式建物。桁行総長 3.64 m、梁



SB-19
P1、P2、P5、P6

- 1 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊 (φ1 m) 散見。しまりや中強、粘性中。
 - 2 褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ2～4 cm) 中量。しまりや中弱、粘性中。
 - 3 暗褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ2～3 cm) 多量。しまりや中強、粘性中。
- P3
- 1 暗褐色土 ローム粒多量、暗褐色土・ローム塊 (φ1～2 cm) 中量。焼土粒散見。しまり・粘性中強。
 - 2 暗褐色土 ローム粒多量、ローム塊 (φ0.5～1 m) 中量。しまり・粘性中強。
 - 3 暗褐色土 ローム粒多量、ローム塊 (φ1.5～5 cm) 中量。しまり・粘性中強。

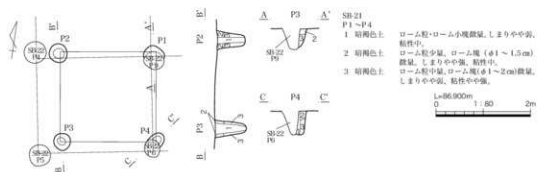
- 1 黒褐色土 ローム粒少量、ローム塊 (φ5 mm～1 cm) 散見。しまり弱、粘性中。
- 2 暗褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ5 mm～1 cm) 少量。しまりや中強、粘性中。
- 3 暗褐色土 ローム塊 (φ5 mm～3 cm) 中量、ローム粒散見。しまりや中強、粘性中。
- 4 暗褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ5 mm～1 cm) 少量、粘質土。しまり・粘性中強。
- 5 黒褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ1 m) 散見。しまりや中弱、粘性中。
- 6 暗褐色土 ローム塊 (φ5 mm～5 cm) 中量、ローム粒散見。粘質土。しまり・粘性中強。
- 7 黒褐色土 ローム塊 (φ1～3 cm) 少量。しまりや中強・粘性中。

第 322 図 西刑部西原遺跡 10 区 SB-19 実測図

行総長 2.95 m。 柱間 桁行の柱間寸法は約 1.8 m、梁行の柱間寸法は 2.95 m である。 主軸方向 N-82°-E 柱穴 P1 (径約 55 cm の円形、深さ 67 cm)、P2 (径 45 cm の円形、深さ 73 cm)、P3 (径 54 ~ 49 cm の楕円形、深さ 71 cm)、P4 (径 45 cm の円形、深さ 73 cm)、P5 (径 58 ~ 51 cm の円形、深さ 80 cm)、P6 (径 59 ~ 46 cm の楕円形、深さ 61 cm) の計 6 本を確認。このうち P3 と P4 を除くピットから柱痕が確認できた。断面から柱の太さは 12 ~ 20 cm 程度と推定される。 遺物 出土遺物は確認できなかった。

10区 SB-21 (遺構：第 323 図、図版五一)

位置 グリッド 93.5-56.5 重複遺構 SB-22 より古い。 平面形・規模 桁行 1 間 × 梁行 1 間の東西棟あるいは南北棟側柱式建物、桁行総長 1.99 m、梁行総長 1.88 m。 柱間 左に同じ。 主軸方向 N-6°-W 柱穴 P1 (推定径 43 cm 前後の円形、深さ 40 cm)、P2 (径約 40 cm の円形、深さ 58 cm)、P3 (径約 36 cm の円形、深さ 64 cm)、P4 (推定径 32 cm の楕円形、深さ 50 cm) の計 4 本を確認した。P2 及び P3 から柱痕が確認され、柱の径は 10 ~ 20 cm 前後と推定される。 遺物 時期判別可能な遺物は確認できなかった。

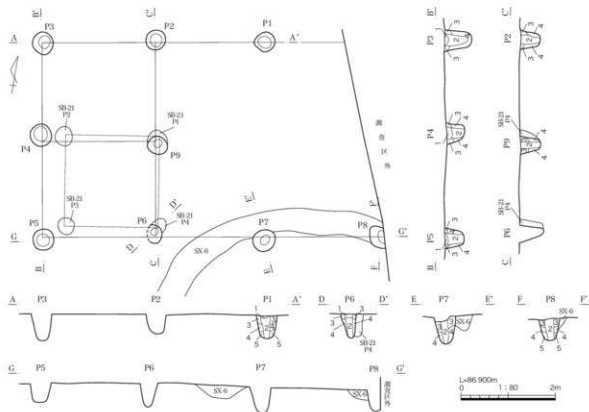


第 323 図 西刑部西原遺跡 10区 SB-21 実測図

10区 SB-22 (遺構：第 324 図、図版五一)

位置 グリッド 94.0-56.5・93.5-56.5・93.5-57.0 重複遺構 SB-21 及び円形周溝遺構 SX-6 より新しい。

平面形・規模 桁行 3 間以上 × 梁行 2 間の東西棟側柱式建物。桁行総長 7.2 m、梁行総長 4.1 m 柱間 桁行の柱間寸法は平均 2.4 m、梁行の柱間寸法は 2.05 m である。 主軸方向 N-81.0°-E 柱穴 P1 (径 45 ~ 42 cm の円形、深さ 48 cm)、P2 (径 41 cm の円形、深さ 45 cm)、P3 (径 47 cm の円形、深さ 57 cm)、P4 (径 46 cm の円形、深さ 37 cm)、P5 (径 44 cm の円形、深さ 41 cm)、P6 (径 37 ~ 30 cm の楕円形、深さ 51 cm)、P7 (径 47 cm の円形、深さ 60 cm)、P8 (長軸残 42 × 短軸残 36 cm の隅丸方形、深さ 45 cm)、P9 (径 44 ~ 37 cm の円形、深さ 42 cm) の計 9 本の柱穴を確認した。掘方の規模は大きくないが、柱痕が残るものが多い。柱痕は細いもので約 10 cm、太いもので 20 cm 程度と推定される。 遺物 時期判別可能な遺物は出土しておらず、詳細な時期は不明である。



SB-22

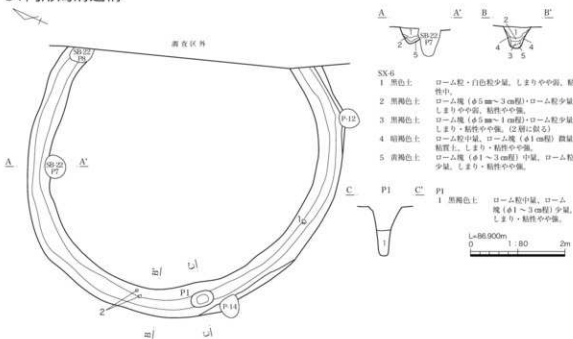
P1~P9

- 1 暗褐色土 ローム粒少量、ローム小塊散見、しまり中～強、粘性中。
- 2 黒褐色土 ローム粒散見、しまり中～強、粘性中。
- 3 暗褐色土 ローム粒散見、しまり中～強、粘性中。

- 4 暗褐色土 ローム小塊(φ0.5~1.5cm)多量、ローム粒中量、しまり中～強、粘性中。
- 5 暗褐色土 ローム粒中量、しまり中～強、粘性中。

第324図 西刑部西原遺跡10区 SB-22実測図

3. 円形周溝遺構



SX-6

1 黒色土

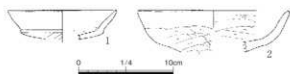
- 1 黒色土 ローム粒・白色粒少量、しまり中～強、粘性中。
- 2 黒褐色土 ローム塊(φ5mm~3cm程)・ローム粒少量、しまり中～強、粘性中～強。
- 3 黒褐色土 ローム塊(φ5mm~3cm程)・ローム粒少量、しまり・粘性中～強、(2層に似る)。
- 4 暗褐色土 ローム粒中量、ローム塊(φ1cm程)散見、粘質土、しまり・粘性中～強。
- 5 黒褐色土 ローム塊(φ1~3cm程)中量、ローム粒少量、しまり・粘性中～強。

P1

1 黒褐色土

- 1 黒褐色土 ローム粒中量、ローム塊(φ1~3cm程)少量、しまり・粘性中～強。

第325図 西刑部西原遺跡10区 SX-6実測図



第326図 西刑部西原遺跡10区 SX-6出土遺物

10区 SX-6 (遺構:第325図、遺物:第326図、図版五一)

位置 グリッド 93.5-56.5・93.5-57.0 重複遺構 SB-22、P-12・14と重複し、いずれより古い。

規模・平面形 長径:外6.92m:内5.72m、短径:外6.48m:内5.4mの不整な円形を呈する。溝の上幅0.48～0.72m。覆土 黒褐色

土及び暗褐色土主体の自然堆積と考えられる。壁・断面形 壁高34～46cm 底面 細かな凹凸あり。南西部に小穴(P1)あり。ビット P1(長軸52～短軸30cm、底面からの深さ54cm)は隅丸長方形を呈する。

遺物 図示した遺物は2点のみで、いずれも覆土上層から出土した。不掲載遺物は土師器環及び甕の小破片が数点出土した。古墳時代終末期の遺構と考えたい。

第144表 10区 SX-6出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	粘土・素材・焼成	出土位置・出土(cm)	残存
1	土師器環	口 [11.2] 高 [3.1]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面ナデ。内面および口縁部外面漆仕上げ。	内外面とも10YR8/4 浅黄褐色	細密、白微粒焼成; 中硬質	No.1 36.8	口縁部~体部 1/4
2	土師器環	口 [15.4] 高 [4.4]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリのちヘラナデ。体部外面ヘラケズリ。	内外面とも7.5YR7/6 黄褐色	細密、白微粒、赤粒焼成; 硬質	No.2・3 36.3 (No.3)	体部 1/4

4. 溝

10区 SD-7 (遺構:第327図、図版五一)

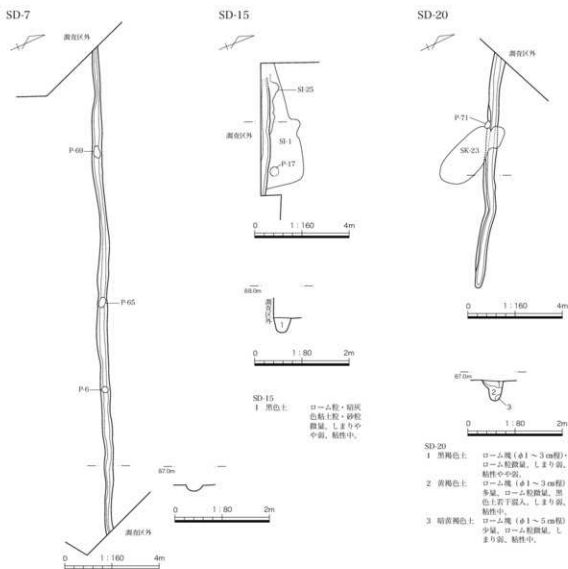
位置 グリッド 93.0-56.0・93.0-56.5・93.0-57.0 重複遺構 P-6・65・69と重複し、いずれより古い。

規模・形態 長さ20.5m以上、上幅0.28～0.41m。僅かに蛇行するが、ほぼ直線的に掘られる。覆土 自然堆積と考えられる。壁・断面形 壁高は28～45cm、断面形はカマボコ形で、部分的に逆台形を呈する。底面 若干の凹凸があるが、概ね平坦である。覆土 暗褐色土主体の土層で、自然堆積と考えられる。

遺物 遺物は確認できなかったため正確な時期は不明であるが、覆土にしまりが無く、近現代の溝の可能性はある。備考 南4mにSD-15が平行しており、本遺構との関連が窺える。

10区 SD-15 (遺構:第327図、図版五一)

位置 グリッド 93.0-56.0・93.0-56.5 重複遺構 古墳時代終末期の竪穴建物跡SI-1・25と重複し、いずれより古い。規模・形態 長さ4.5m以上、幅36cm。壁・断面形 壁高は最深部で31cm、断面形は逆台形を呈する。底面 若干の小穴があるが、概ね平坦である。覆土 ローム粒および灰褐色粘土粒を含む黒色土主体の土層で、自然堆積と考えられる。遺物 遺物は確認できなかったが、重複関係から古墳時代終末期(7世紀前葉から中葉)以降の溝跡と考えられる。備考 北4mにSD-7が平行しており、本遺構との関連が窺える。

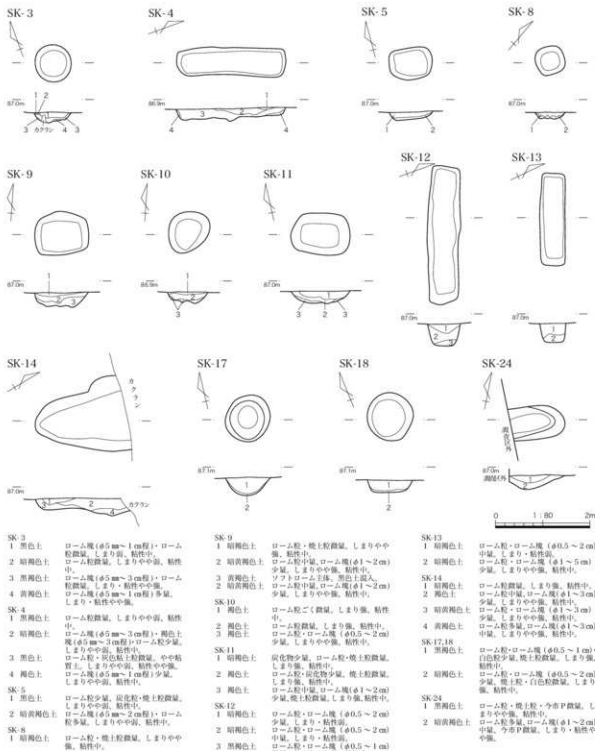


第 327 図 西刑部西原遺跡 10 区 SD-7・15・20 実測図

10 区 SD-20 (遺構：第 327 図、図版五二)

位置 グリッド 95.5-56.0 重複遺構 縄文時代の陥穴 SK-23 より新しく、P-71 より古い。規模・形態 長さ 9.81m 以上、幅 0.44 m。壁・断面形 壁高は最深部で 41 cm、断面形は U 字状逆を呈する。底面 若干の凹凸がある。覆土 黒褐色土・黄褐色土及び暗黄褐色土からなり、自然堆積と考えられる。遺物 確認できなかった。備考 正確な帰属時期は不明だが、前述した SD-7 及び SD-15 と規模・形態・方向などが類似しており、同時期に存在していた可能性がある。

5. 土坑



第328図 西刑部西原遺跡10区 土坑実測図

本調査区からは計13基の土坑が確認されたが、他の調査区同様遺物の出土量が極めて少ないため明確な時期は確定できない。ただし他遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものもある。ここでは

遺構個別の事実記載は行わず、表にまとめて掲載し、特徴的な遺構については補足説明を行う。土坑を概観すると、平面形は円形又は楕円形を呈し、比較的浅めのものが多い。このうち径1m以下の土坑は5基(SK-3・8・10・17・18)、1m以上は2基(SK-14・24)である。覆土は、人為埋戻しか自然堆積かは明確にできないが、明らかな人為埋戻しは確認できなかった。時期は古墳時代から平安時代が多いと考えられる。この他長方形の土坑があり、幅広で小型のもの(SK-5・9・11)と、長く幅の狭いもの(SK-4・12・13)に分類できる。後者は覆土にしまりがなく、中世以降(近現代)の土坑の可能性が高い。

第145表 10区 土坑計測表

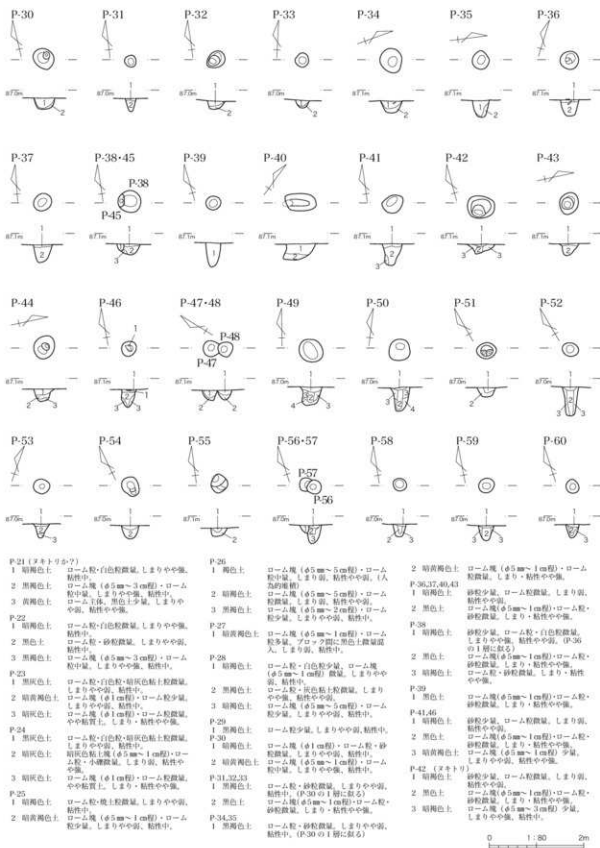
遺構番号	グリッド	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	備考
SK-3	93.5-96.5	円形	0.8	0.76	0.24	
SK-4	93.5-96.5 93.5-96.0	方形	2.34	0.56	0.23	中世以降の長方形坑と考えられる
SK-5	93.5-96.0	円形	0.91	0.69	0.16	やや不整な長方形
SK-8	94.0-96.5	円形	0.67	0.66	0.14	楕円形に近い
SK-9	94.0-96.0	楕円長方形	1.15	0.93	0.31	
SK-10	94.0-96.5 94.0-97.0	円形	0.96	0.81	0.24	不整な円形 底面には小さな凹凸が見られる
SK-11	94.5-96.5	楕円長方形	1.25	0.85	0.25	
SK-12	94.5-96.0	方形	2.9	0.65	0.46	中世以降の長方形土坑と考えられる
SK-13	95.0-95.5	方形	1.95	0.52	0.4	
SK-14	94.0-96.5 94.0-96.0	—	(1.04)	1.61	0.36	土坑北端部は、覆瓦により破壊されている
SK-17	95.0-95.5 95.0-96.0	円形	1.0	0.9	0.41	
SK-18	95.5-96.0	円形	1.02	0.96	0.25	
SK-24	95.0-95.5	—	(1.14)	0.7	0.32	

6. ビット

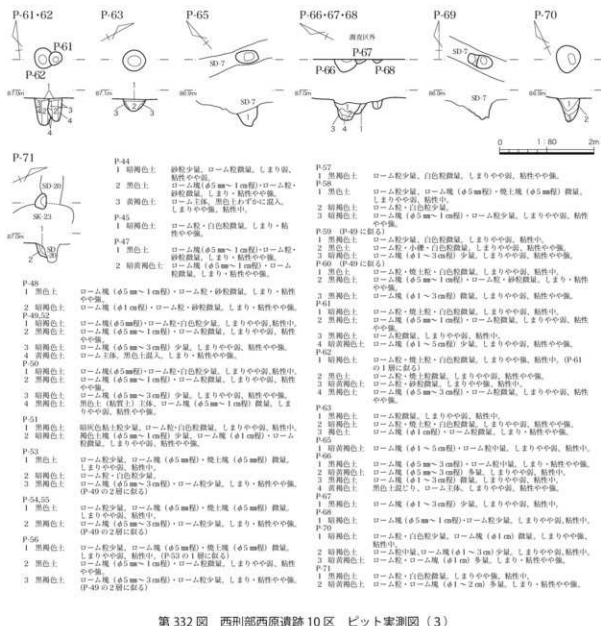
本調査区から確認されたビット(小穴)は計70基である。土坑と同様、遺物の出土量が少ないため明確な時期を確定できない場合が多いが、他遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものもある。ここでは土坑と同様に個別の事実記載は行わず、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめて掲載した。本調査区では、ビットは全体的に確認されているが、10区中央部の分布密度がやや低いようである。覆土は、単層で自然堆積と考えられるもの、レンズ状の堆積を示すもの、或いは掘立柱建物跡の柱穴同様に柱痕をもつものなど多様である。図示可能な遺物が出土したビットはP-46のみである。1は平行引きの須恵器破片で、古墳時代以降の遺物と考えられる。



第329図 西刑部西原遺跡10区 P-46出土遺物



第331図 西刑部西原遺跡10区 ビット実測図(2)



第332図 西刑部西原遺跡10区 ビット実測図(3)

第146表 10区 P-46遺物観察表

採取番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	粘土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	現存
1	須臾器	高 11.3 厚 1.6	内面同心円状状で貝類。外面格子明き。	内: 2.5Y7.5/靑 外: 5Y5/灰	中々粗い、白・灰・黒砂。 灰塵	第1 33.6	制御破片

第147表 10区 ビット計測表

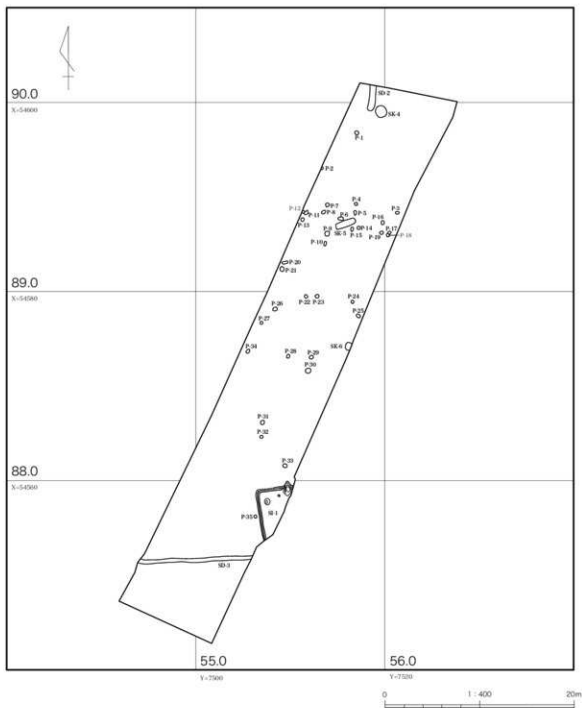
遺構番号	グリッド	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	備考
P-1	56.5-93.0	円形	0.28	0.27	0.07	
P-2	56.5-93.0	円形	0.25	0.22	0.08	
P-3	56.5-93.0	楕円方形	0.42	0.37	0.26	
P-4	56.5-93.0	円形	0.32	0.28	0.32	
P-5	57.0-93.0	円形	0.3	0.28	0.31	
P-6	57.0-53.0	円形	0.29	0.25	0.22	SD-7と重複
P-7	57.0-93.0	—	0.42	0.35	0.34	
P-8	57.0-93.0	円形	0.38	0.36	0.22	

第3章 遺跡の環境

P-9	57.0-93.0	楕円形	0.39	0.31	0.37	
P-10	56.5-93.0	円形	0.4	0.38	0.38	
P-11	57.0-93.0	円形	0.25	0.23	0.14	
P-12	57.0-93.5	(円形)	0.41	(0.35)	0.25	SX6と重複
P-13	56.5-93.5	円形	0.26	0.26	0.25	
P-14	56.5-93.5	楕円形	0.44	0.41	0.36	SX6と重複
P-15	56.5-93.5	楕円形	0.21	0.17	0.17	
P-16	56.5-93.5	楕円形	0.37	0.34	0.37	
P-17	56.5-93.0	円形	0.4	0.37	0.47	SI-1と重複
P-18	57.0-93.0	円形	0.36	0.34	0.24	
P-19	56.5-93.5	円形	0.24	0.24	0.21	
P-20	56.5-94.0	円形	0.25	0.24	0.22	
P-21	56.5-94.0	楕円形	0.66	0.4	0.39	
P-22	56.5-94.0	円形	0.43	0.42	0.41	
P-23	56.5-94.0	円形	0.29	0.27	0.22	
P-24	56.0-94.0	楕円形	0.48	0.35	0.24	
P-25	56.0-94.0	円形	0.29	0.28	0.34	
P-26	56.0-94.0	—	0.44	0.36	0.36	P-27と重複
P-27	56.0-94.0	—	0.32	0.24	0.34	P-26と重複
P-28	55.5-94.5	円形	0.39	0.39	0.6	
P-29	56.0-95.0	円形	0.25	0.25	0.16	
P-30	55.5-95.0	楕円形	0.46	0.42	0.24	
P-31	56.0-94.5	円形	0.25	0.25	0.28	
P-32	56.5-94.5	楕円形	0.41	0.33	0.17	
P-33	56.5-95.0	円形	0.3	0.28	0.17	
P-34	56.0-95.0	楕円形	0.53	0.46	0.25	
P-35	56.0-95.0	楕円形	0.4	0.35	0.35	
P-36	56.0-95.0	円形	0.4	0.38	0.34	
P-37	56.0-95.0	円形	0.4	0.34	0.37	
P-38	56.0-95.0	(円形)	0.47	(0.34)	0.22	P-45と重複
P-39	56.0-95.0	円形	0.31	0.29	0.51	
P-40	56.0-95.0	楕円形	0.62	0.37	0.34	
P-41	56.0-95.0	楕円形	0.45	0.35	0.46	
P-42	56.0-95.0	楕円形	0.57	0.47	0.2	
P-43	56.0-95.5	楕円形	0.48	0.4	0.25	
P-44	56.0-95.0	楕円形	0.51	0.43	0.25	
P-45	56.0-95.0	—	(0.27)	(0.15)	0.15	P-38と重複
P-46	56.0-95.5	円形	0.34	0.30	0.37	
P-47	56.0-95.5	—	0.34	(0.30)	0.21	P-48と重複
P-48	56.0-95.5	円形	0.31	0.3	0.21	P-47と重複
P-49	55.5-95.5	円形	0.53	0.48	0.39	
P-50	56.0-95.5	円形	0.5	0.45	0.5	
P-51	56.0-95.5	楕円形	0.41	0.34	0.2	
P-52	56.0-95.5	楕円形	0.34	0.28	0.61	
P-53	56.0-95.5	円形	0.35	0.31	0.29	
P-54	56.0-95.5	—	0.42	0.35	0.28	
P-55	56.0-95.5	—	0.35	0.34	0.17	
P-56	56.0-95.5	円形	0.31	0.3	0.39	P-57と重複
P-57	56.0-95.5	—	0.29	0.17	0.16	P-56と重複
P-58	56.0-95.5	円形	0.28	0.27	0.27	
P-59	56.0-95.5	円形	0.33	0.3	0.31	
P-60	56.0-95.5	円形	0.3	0.25	0.29	
P-61	55.5-95.5	円形	0.3	0.27	0.49	
P-62	55.5-95.5	(円形)	0.44	0.32	0.56	
P-63	56.0-95.0	円形	0.45	0.45	0.25	
P-65	56.5-93.0	楕円形	0.47	0.27	0.35	
P-66	56.5-94.5	—	0.42	0.27	0.38	
P-67	56.5-94.5	—	0.2	0.1	0.21	
P-68	56.5-94.5	—	0.2	0.08	0.16	
P-69	56.5-93.5	楕円形	0.52	0.28	0.32	
P-70	56.5-94.0	楕円形	0.57	0.5	0.5	
P-71	56.0-95.5	—	0.32	0.24	0.3	

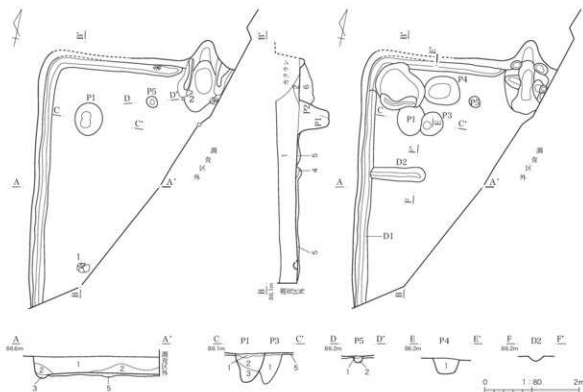
第11節 11区の遺構と遺物

本調査区は台地上の平坦面に位置する。11区は北に14区、西に宇都宮調査E区と境を接しており遺構の分布密度は比較的低い区域である。竪穴建物跡1棟、溝2条、土坑3基、ピット35基が確認された。



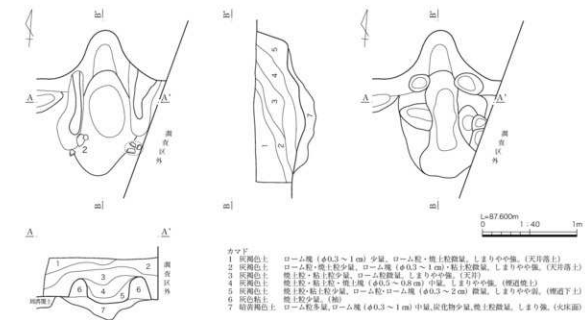
第333図 西刑部西原遺跡11区 全体図 (S=1/400)

1. 竪穴建物跡



SI-1

- | | |
|---|---|
| <p>1 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ0.5~1.5cm)・焼土粒散見。しまり強。</p> <p>2 褐色土 ローム粒中量、ローム塊(φ0.5~1cm)・焼土粒散見。しまり中強。</p> <p>3 褐色土 ローム粒中量、ローム塊(φ0.5~1.5cm)散見。しまり中強。(埋土)</p> <p>4 暗褐色土 ローム粒中量、ローム塊(φ0.5~1.5cm)少量。しまり中強。(間仕切り)</p> <p>5 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ1.5~2cm)中量。しまり強。(原土)</p> <p>6 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ1.5~2cm)中量。</p> | <p>2 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ1~3cm)中量。しまり中弱、粘性中強。(P4の覆土と同じ)</p> <p>3 暗褐色土 ローム粒主体、ローム塊(φ1~3cm)中量。しまり弱、粘性中強。</p> <p>P4
1 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ1~3cm)中量。しまり中弱、粘性中強。(P1,P3の覆土と同じ)</p> <p>P5
1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒散見。しまり中弱。</p> <p>2 暗褐色土 ローム粒中量、ローム塊(φ0.5~2cm)少量。しまり弱。</p> |
|---|---|



カマツ

- | |
|--|
| <p>1 灰褐色土 ローム塊(φ0.3~1cm)少量、ローム粒・焼土粒散見。しまり中強。(天井落土)</p> <p>2 灰褐色土 ローム粒・焼土粒少量、ローム塊(φ0.3~1cm)・粘土粒散見。しまり中強。(天井落土)</p> <p>3 灰褐色土 焼土粒・粘土粒少量、ローム粒散見。しまり中強。(天井)</p> <p>4 灰褐色土 焼土粒・粘土粒・焼土塊(φ0.5~0.8cm)中量。しまり中強。(埋遺物上)</p> <p>5 灰褐色土 焼土粒・粘土粒少量、ローム粒・ローム塊(φ0.3~2cm)散見。しまり中弱。(埋遺物下)</p> <p>6 灰色粘土 焼土粒少量。(土)</p> <p>7 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ0.3~1cm)中量、灰化物少量、焼土粒散見。しまり強。(火床面)</p> |
|--|

第334図 西刑部西原遺跡11区 SI-1実測図

11区 SI-1 (遺構: 第334図、遺物: 第335図、図版五三・一〇四)

位置 グリッド 87.7-55.0・87.5-55.5 平面形 隅丸方形 規模 東西3.68m以上、南北5.37m以上 主軸方向 N-8°-E (推定値) 覆土 自然堆積 壁 壁高40~56cm残る。床 薄く全面に貼床あり。

柱穴 P1 (径55~34cm、深さ63cm)、P3 (径49~46cm、深さ65cm)、P5 (径24cm、深さ12cm)。入口ピット 確認できなかった。貯蔵穴 P4 (長軸76×短軸59cm、深さ33cm)は北壁際のカマド西側にあり、隅丸方形を呈する。壁溝 D1 (幅28~39cm、深さ16cm)はカマド西側を除き残存部の壁際を全周する。間仕切り溝 D2 (幅20~30cm、深さ8cm)は東西方向に掘られ、西壁に接する。掘方北西隅に土坑状の掘り込みをもつ。カマド 北壁際を裾広がりU字状に掘り込む。袖天井部ともに極めて残りが悪い。袖付け根に当たる部分には対になるピット状の掘り込みを有する。遺物 遺物は計3点を図示した。1はハケ目の付いた鉢で床面直上の出土。2はカマド内出土の甕。3は焼成粘土塊である。不掲載の土器類は、土師器甕破片が主体で、他に少量の土師器環、焼成粘土塊などがある。遺物から本建物は古墳時代終末期(7世紀前半から中葉)の建物と考えられる。



第335図 西刑部西原遺跡11区 SI-1出土遺物

第148表 11区 SI-1出土遺物観察表

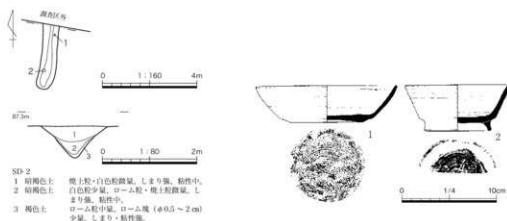
図版番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・深土(cm)	残存
1	土師器鉢	口 12.6 底 (6.8) 高 17.8	口縁部内外面ヨコナデ。内面胴部ヘラナデ。胴部外面上半ナメハケ目。下部部側面のため不明だがヘラケズリか。底部ヘラケズリ。	内外面とも 5YR6/8 糖	やや粗い、白・灰胎砂、赤胎 焼成; やや硬質	No.1 床直	口縁部 3/4、底部 1/5
2	土師器甕	口 (9.8) 高 [17.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラケズリ。胴部外面ススス及び粘土付着。	内: 5YR5/6 明赤褐色 外: 5YR4/6 赤褐色	粗い、白・透明・黒糖、多量の雲母片 焼成; 軟質	No.3、カマド	口縁部 2/5、胴部 上半1/4
3	焼成粘土塊	長 4.3 幅 3.3 厚 1.1 重 8.9	ワラ状の繊維質の脱色及びナゲ痕跡あり。胎土はほぼ均一に散るがやや砂の混入が多い。	内: 10YR7/3 に近い黄褐色 外: 10YR8/4 浅黄褐色	やや硬質、白微砂 焼成; 軟質	カマド	部分残存

2. 溝

11区 SD-2 (遺構・遺物: 第336図、図版五三・一〇四)

位置 グリッド 89.5-55.5・90.0-55.5 重複遺構 無し。規模・平面形 長さ2.75m以上、上幅0.65m。若干の曲がり有するが、調査区外が多く不明。覆土 暗褐色土主体の3層に分層。自然堆積と考えられる。

壁・断面形 壁高は深さ66cm。断面採取部分は葉研状だが、その他部分は逆台形状。底面 やや凹凸あ



SD-2
 1 粘褐色土 焼土粒・白色粘粒質。しまり強、粘性中。
 2 粘褐色土 白色粘粒質。ローム粒・焼土粘粒質。しまり強、粘性中。
 3 褐色土 ローム粒中質。ローム塊(φ0.5~2cm)少量。しまり・粘性強。

第336図 西刑部西原遺跡11区 SD-2実測図・出土遺物

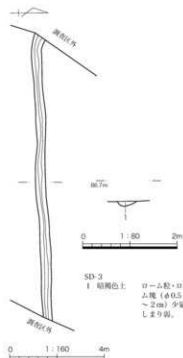
り。遺物 2点を図示した。1は須恵器杯、2は須恵器高台付杯。いずれも覆土中の出土である。不掲載遺物は須恵器蓋・杯、土師器杯など計10点弱と少ない。奈良時代から平安時代の溝と考えられる。

第149表 11区 SD-2出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵器杯	口(14.6) 底 7.6 高 3.9	内外面ロケロナデ。底部外面羽根帯切りのち外周手持ちヘラケズリ。	内：5Y8/2 灰白 外：2.5Y8/3 淡黄	中々緻密。灰粒砂〜硬焼成；中々硬質	No 2 23.0	口縁部1/3、底部完存
2	須恵器高台付杯	口(10.8) 高 4.9	内外面ロケロナデ。底部外面羽根帯ヘラケズリのち高台部分。	内：5Y4/1 灰 外：5Y3/2 オリーブ黒	中々緻密。白磁砂〜硬焼成；硬質	No 1 17.7	口縁部〜底部1/2

11区 SD-3 (遺構：第337図、図版五三)

位置 グリッド 87.5-54.5・87.5-55.0 重複遺構無し。規模・平面形 長さ12.0m以上、上幅平均0.4mで東西軸の直線的な溝である。覆土 自然堆積か。ローム粒・ローム塊を少量含み、しまりは弱い。壁・断面形 断面は皿状もしくは逆台形。確認面からの深さは10~20cmと極めて浅い。底面凹凸が多い。遺物 遺物は殆ど出土せず、時期は不明だが、覆土のしまりが弱く、近現代の溝の可能性もある。

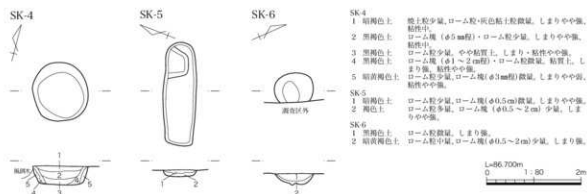


第337図 西刑部西原遺跡11区 SD-3実測図

3. 土坑

本調査区からは計 3 基の土坑を確認したが、他の調査区同様、遺物の出土量が極めて少なく明確な時期は確定できない。ただし他遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものもある。ここでは遺構個別の事実記載は行わず、表にまとめて掲載し、特徴的な遺構については補足説明を行う。

SK-4 は直径 1 m 以上の断面円筒形を呈し、しっかりとした掘方をもつ。SK-6 は円形で、皿状の断面形を有する。これらは自然堆積で、古墳時代から平安時代の遺構の覆土に似ている。これに対し SK-5 は長方形を呈し、近現代の長方形土坑に似るが、しまりが良いため中世の土坑の可能性もある。



第 338 図 西刑部西原遺跡 11 区 土坑実測図

第 150 表 11 区 土坑計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
SK-4	89.5-55.5	円形	1.24	1.15	0.4	
SK-5	89.0-55.5	方形	2.18	0.69	0.14	
SK-6	88.5-55.5	不整な円形	0.81	(0.62)	0.24	

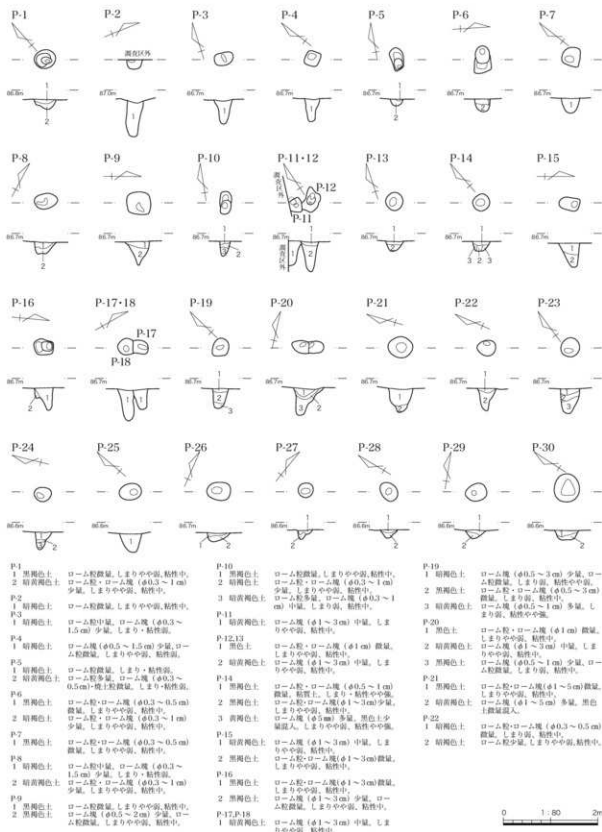
4. ピット

本調査区から確認されたピット（小穴）は計 35 基である。土坑と同様、遺物の出土量が少ないため明確な時期を確定できない場合が多いが、他遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものもある。

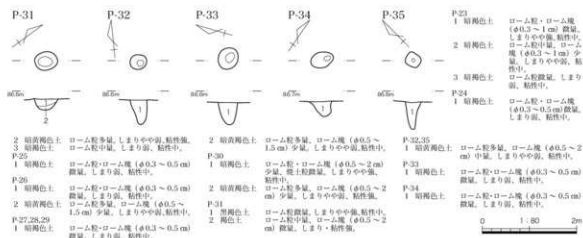
ここでは土坑と同様に個別の事実記載は行わず、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめて掲載した。本調査区では、ピットは中央部からまとめて出土した。柱穴状の形状を呈するものが多いが、柱痕の残るピットは確認できなかった。

第 151 表 11 区ピット計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
P-1	89.5-55.5	円形	0.45	0.4	0.21	
P-2	89.5-55.5	—	(0.33)	(0.20)	0.73	
P-3	89.0-56.0	楕円形	0.41	0.27	0.48	
P-4	89.0-55.5	圓丸方形	0.37	0.36	0.47	
P-5	89.0-55.5	楕円形	0.47	0.27	0.14	
P-6	89.0-55.5	—	0.59	0.35	0.29	
P-7	89.0-55.5	—	0.45	0.44	0.32	
P-8	89.0-55.5	楕円形	0.49	0.32	0.25	
P-9	89.0-55.5	圓丸方形	0.57	0.53	0.49	



第339図 西刑部西原遺跡11区 ビット実測図(1)



第340図 西刑部西原遺跡11区 ヒット実測図(2)

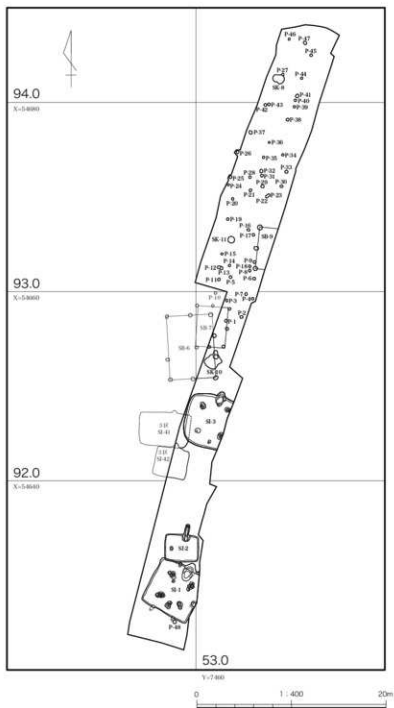
P-10	89.0-55.5	—	0.47	0.25	0.32	
P-11	89.0-55.5	—	0.32	0.32	0.52	
P-12	89.0-55.5	—	0.52	0.4	0.62	
P-13	89.0-55.5	円形	0.38	0.37	0.2	
P-14	89.0-55.5	円形	0.36	0.34	0.2	
P-15	89.0-55.5	楕円形	0.42	0.26	0.5	
P-16	89.0-55.5	—	0.41	0.34	0.47	
P-17	89.0-56.0	—	0.39	0.35	0.42	
P-18	89.0-56.0	—	0.36	0.35	0.65	
P-19	89.0-55.5	—	0.41	0.36	0.42	
P-20	89.0-55.0	楕円形	0.67	0.28	0.57	
P-21	89.0-55.0	円形	0.52	0.45	0.5	
P-22	88.5-55.5	楕円形	0.39	0.34	0.47	
P-23	88.5-55.5	円形	0.4	0.39	0.52	
P-24	88.5-55.5	楕円形	0.36	0.3	0.37	
P-25	88.5-55.5	楕円形	0.46	0.35	0.39	
P-26	88.5-55.0	楕円形	0.49	0.39	0.19	
P-27	88.5-55.0	円形	0.31	0.31	0.18	
P-28	88.5-55.0	楕円形	0.41	0.35	0.17	
P-29	88.5-55.5	楕円形	0.45	0.37	0.18	
P-30	88.5-55.5	円形	0.6	0.52	0.2	
P-31	88.0-55.0	楕円形	0.48	0.38	0.22	
P-32	88.0-55.0	円形	0.35	0.31	0.52	
P-33	88.0-55.0	円形	0.45	0.42	0.47	
P-34	88.5-55.0	楕円形	0.48	0.33	0.32	
P-35	87.5-55.0	—	0.35	0.33	0.57	

第12節 12区の遺構と遺物

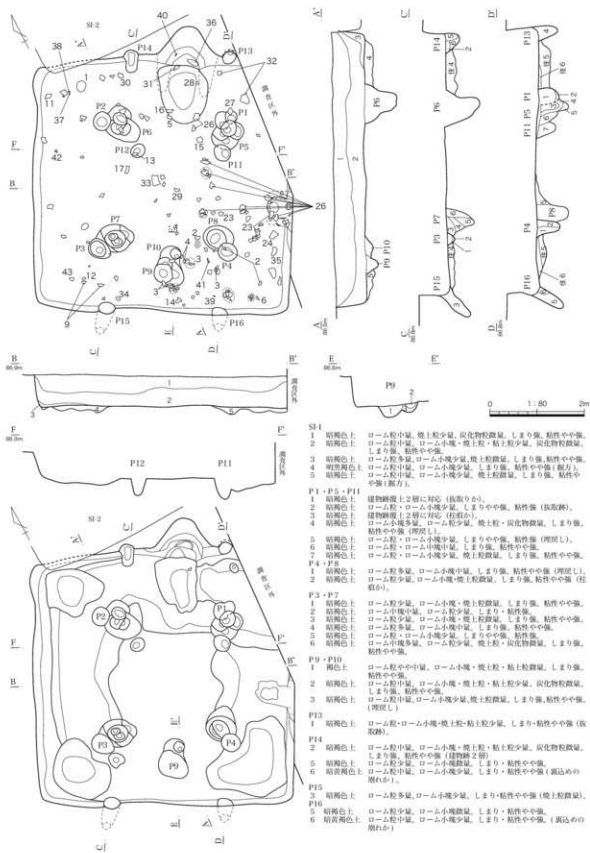
本調査区では竪穴建物跡3棟、掘立柱建物跡3棟、土坑3基、ピット48基が確認された。

1. 竪穴建物跡

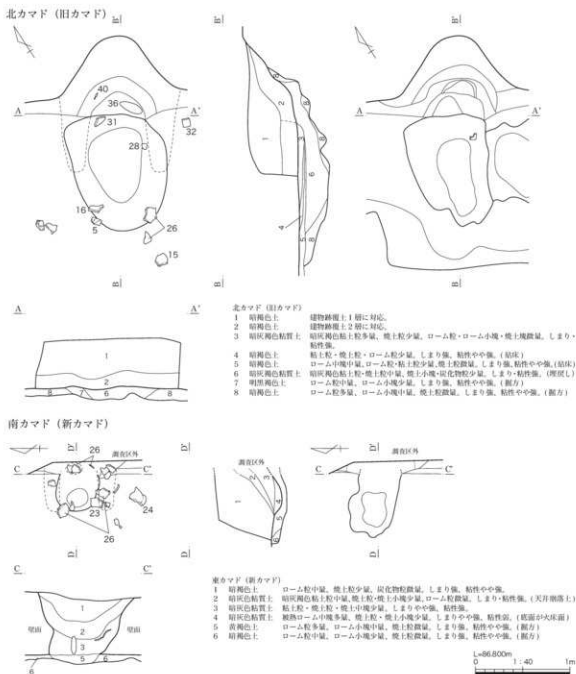
12区 SI-1 (遺構：第342・343図、遺物：第344～346図、図版五四・一〇四・一〇五・一一二・一一三・一一五)



第341図 西刑部西原遺跡12区 全体図 (S=1/400)



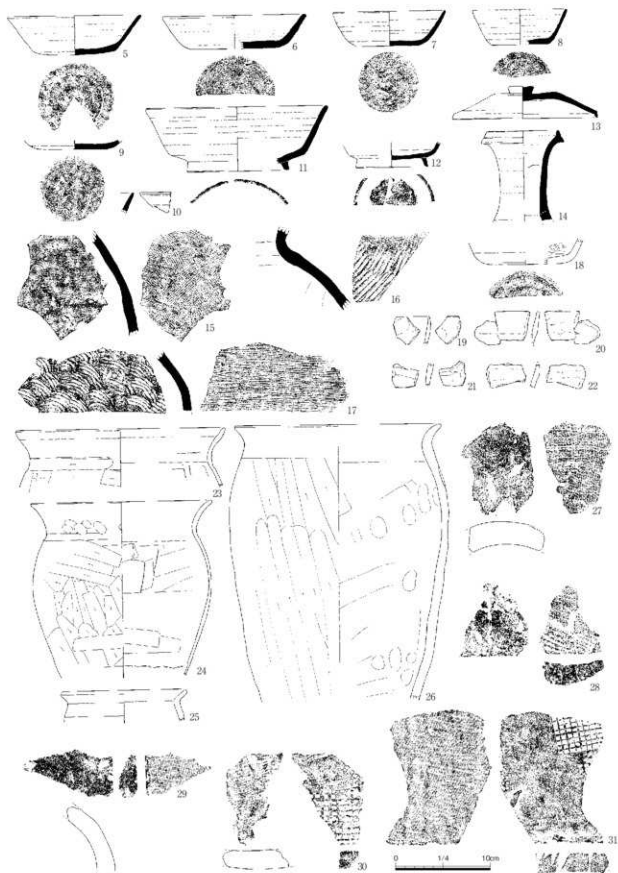
第342図 西刑部西原遺跡12区 SI-1実測図(1)



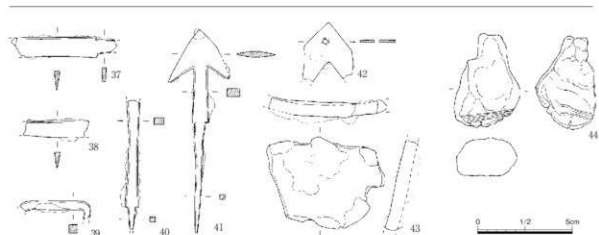
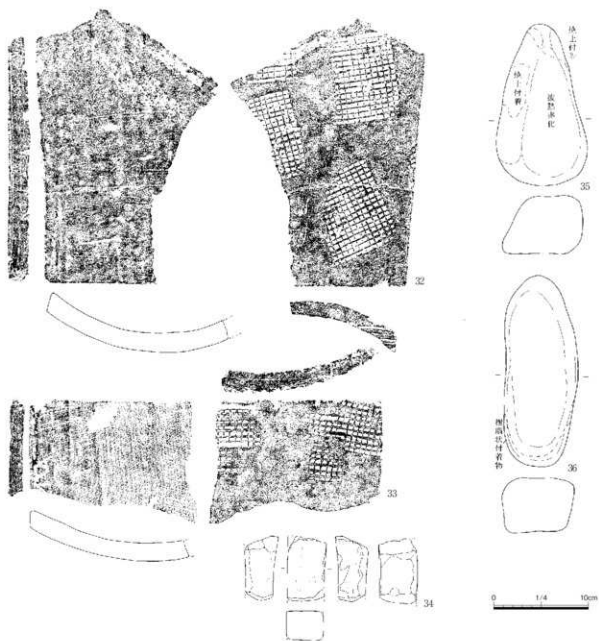
第343図 西刑部西原遺跡12区 SI-1実測図(2)



第344図 西刑部西原遺跡12区 SI-1出土遺物(1)



第345図 西刑部西原遺跡12区 SI-1出土遺物(2)



第346図 西刑部西原遺跡12区 SI-1出土遺物(3)

位置 グリッド 91.0-52.5・91.5-52.5 重複遺構 SI-2より新しい。柱の重複から2～3時期の建替えが想定される。平面形 方形か。規模 東西5.42×南北6.04 m 主軸方向 N-28°-E 覆土 自然堆積 壁 壁高75.3 cm 床 貼床あり。柱穴 1時期目:P11 (径40～33 cm、深さ40 cm)、P12 (径約31 cm、深さ30 cm)があるが、対応するピットが無く不明瞭。2時期目:P5 (径70～51 cm、深さ64 cm)、P6 (径85～64 cm、深さ71 cm)、P7 (径77～60 cm、深さ62 cm)、P8 (径63～55 cm、深さ66 cm)が対応する。3時期目:P1 (径45～32 cm、深さ41 cm)、P2 (径42～37 cm、深さ31.9 cm)。P3 (径51～38 cm、深さ41.5 cm)、P4 (径約42 cm、深さ46 cm)が対応する。P13 (径約30 cm、深さ32 cm)、P14 (径48～32 cm、深さ30 cm)、P15 (径35～17 cm、深さ65 cm)、P16 (径33～17 cm、深さ66 cm)は壁柱穴か。入口ピット P9 (径69～55 cm、深さ24 cm)、P10 (径42～32 cm、深さ17 cm)は3時期目に対応。

掘方 中央部を島状に残す。カマド 北カマドは改築時に壊され東に移る。東カマドは煙道部が調査区外となり全形不明。袖部の裏破片は芯材に転用されたものか。遺物 須臾器類は坏・蓋・瓶類・甕が、土師器類は坏・甕の他、製塩土器(19～22)が出土。この他瓦、砥石、鉄製品(刀子・鋸釘・鉄鏝・鋤物:銅か)、焼成粘土塊がある。口縁部に沈線のある須臾器(10)は新羅系土器の可能性がある。不掲載遺物は土師器坏・甕類が主体で、小コンテナ4箱に及ぶ。量は約9 kgある。平安時代(9世紀代)の建物と考えられる。

第152表 12区 SI-1出土遺物観察表

図号 番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・ 床土(cm)	残存
1	須臾器 坏	口 13.2 底 8.3 高 4.1	内外面ロクナデ。底部外面回転ヘラケズリ。二次底面をもつ。底部に焼成時のヒビ割れあり。底部外面部塗あり「財」か。	内:2.5Y6/1黄灰 外:2.5Y7/1灰白	やや粗い、白・灰白砂～礫 焼成; 今や破片	№1 10.9	完存
2	須臾器 坏	口(13.4) 底 7.0 高 4.2	内外面ロクナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。	内:2.5Y5/1黄灰 外:10YR4/1赭灰	やや粗い、白胎砂～礫 焼成; 破片	№12・22・ 1/3、底部 5.8(№23)	口縁部 1/3、底部 1/2
3	須臾器 坏	口(13.0) 底 6.7 高 4.2	内外面ロクナデ。赤みが大きく口径は復元前。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。中央部に爪状足あり。	内外面とも 5Y5/2 オリーブ 黄	やや粗い、白胎砂～礫 焼成; 今や破片	№18・34・ 42、南西区 1区、南へ5 上層(№5.8)	口縁部 3/4、底部 1/2
4	須臾器 坏	口(12.8) 底(6.7) 高(3.9)	内外面ロクナデ。底部外面回転ヘラケズリのちナデ。二次底面を有する。	内:7.5Y6/2灰オリーブ 外:7.5Y5/2灰オリーブ	やや粗い、白胎砂～礫 焼成; 破片	№43 12.2	口縁部～体 部1/3、底 部1/2
5	須臾器 坏	口(13.8) 底 8.6 高 4.1	内外面ロクナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。	内:5Y6/2灰オリーブ 外:5Y6/2灰オリーブ	やや粗い、黒・白胎砂 焼成; 今や破片	№77、北 西一括 21.3	口縁部 1/4、底部 3/4
6	須臾器 坏	口(14.8) 底 9.0 高 3.5	内外面ロクナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。二次底面をもつ。	内:5Y6/1灰 外:5Y5/1灰	やや粗い、白・灰胎砂～ 礫 焼成; 破片	№114 21.3	口縁部～底 面1/2
7	須臾器 坏	口(11.8) 底 6.5 高 3.7	内外面ロクナデ。底部外面回転ヘラケズリ。	内:2.5Y 暗灰黄5/2 外:2.5Y 灰黄6/2	やや粗い、白・灰色胎砂 焼成; 今や破片	西ベルト一 括、北東区	口縁部1/8 底部完存
8	須臾器 坏	口(9.8) 底(6.0) 高 3.7	内外面ロクナデ。底部回転ヘラ切りのちナデのちヘラ記号。	内:2.5Y 黄灰5/1 外:5Y 灰1/4	やや粗い、白胎砂 焼成; 破片	南東区一 括、南西区 1区	口縁部 1/8、底部 1/2
9	須臾器 坏	高(11.1)	底部外面回転ヘラケズリ。二次底面をもつ。底部内面磨滅のため平坦。使用痕あり。	内外面とも 7.5Y6/1灰	やや粗い、白・灰胎砂 焼成; 今や破片	№7・31 17(№31)	底部完存
10	須臾器 坏	径 2.2 底 3.2 厚 4.5	内外面ロクナデ。口縁部に一葉の沈線あり。新羅土器の可能性あり。	内:2.5Y 黄灰6/1 外:2.5Y 灰黄6/2	磨光、白胎砂 焼成; 破片	南ベルト一 括	口縁部破片
11	須臾器 高台付 坏	口(18.8) 底(10.5) 高 6.7	内外面ロクナデ。高台貼付。	内:2.5Y6/2灰黄 外:5Y7/1灰白	やや粗い、白・透明磨粒、 白・透明礫、雲母片 焼成; 今や破片	№88、北 西一括 26.8	口縁部～高 台部1/4、 底部欠損
12	須臾器 高台付 坏	口 7.5 底 7.5 高(2.7)	内外面ロクナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。	内:10Y 灰5/1 外:7.5Y 灰5/1	やや粗い、白・礫砂 焼成; 破片	№7、南西 区一括 43.3	底部1/2、 体部半平 1/4
13	須臾器 甕	口 15.2 穴 2.7 高 3.4	天井部外面回転ヘラ切りのち回転ヘラケズリのちツマミ貼付。	内外面とも N5/O 灰	やや粗い、白胎砂～礫砂 焼成; 今や破片	北ベルト一 括、北東区 1区 1.7	ほぼ完存
14	須臾器 長頸甕	口 7.5 高(9.5)	内外面ロクナデ。底部外面一部褐色貼付。	内:7.5Y5/1赤灰 外:7.5Y5/1赤灰	やや粗い、白・黒胎砂～ 礫砂 焼成; 破片	№38 10.8	口縁部～頸 部完存

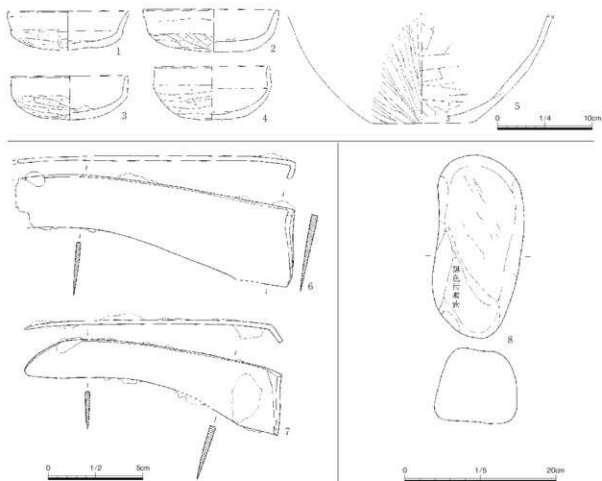
第3章 発見された遺構と遺跡

15	須恵器 甕	厚 1.0	内面無文であり、外面細かな平行印き。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：2.5Y6/2 黄灰	中々粗い、黒・透明・白 緑砂、白緑、雲母片 焼成：灰質	№ 26 59.2	割部破片
16	須恵器 甕	厚 1.3	割部内面無文であり、割部外面平行印き。割部内外 面口ロナデ。	内：N3.0 暗灰 外：N5.0 灰	中々粗い、白緑砂～緑 砂；灰質	№ 76 7.2	割部～須部 破片
17	須恵器 甕	長 [6.2] 厚 0.8	内面同心円状であり、外面細かな平行印き。	内外面とも 5Y5/1 灰	中々粗い、白・灰緑砂～緑 砂；灰質	№ 4 51.2	割部破片
18	土師 土坏 土師 土坏	底 9.0 高 [2.4]	体部内面～底部内面口ロナデのちヘラナデ。体部 外面口ロナデ。底部外面回転車切りの外周回転ヘ ラナデ。	内：5YR5/6 明赤陶 外：7.5YR6/6 橙	中々粗い、白・黒細砂 焼成：中々硬質	北へ6ト 底部 1/4	
19	土師器 製塩土 器	厚 0.4	内外面直滑押およびナデ。口縁端部光線り。薄。	内：7.5YR6/6 橙 外：10YR6/4 に近い黄緑	中々粗い、白色・灰色・黒 砂、白緑、白色針状物 焼成：硬質	底面一括	口縁部破片
20	土師器 製塩土 器	厚 0.6	内面深いヨコナデが、外面ナデ及び直滑押。口縁端 部に平凹面あり。焼熟したため赤化する。	内：2.5YR6/6 橙 外：2.5YR6/6 橙	中々粗い、 焼成：中々軟質	南西一括	口縁部破片
21	土師器 製塩土 器	厚 0.6	内面ナデが、外面直滑押。接合痕あり。	内：10YR5/3 に近い黄緑 外：10YR7/4 に近い黄緑	中々粗い、白色・灰色・ 黒砂、白色針状物 焼成：中々硬質	北東区	割部破片
22	土師器 製塩土 器	厚 0.6	内面ナデ、外面ナデ及び直滑押および輪轆み痕あり。	内：7.5YR6/6 橙 外：7.5YR6/6 橙	中々粗い、白色・灰色・黒 砂、白色針状物 焼成：中々軟質	北西一括	口縁部付近 破片
23	土師器 甕	口 (22.0) 高 [6.9]	口縁部内外面ヨコナデ、割部上下内面ヘラナデ。割部 上下外面ヨコヘラナデ。武器形の土流。	内：5YR5/6 明赤陶 外：5YR4/6 赤陶	中々硬質、白・黒細砂 焼成：中々軟質	№ 50・55・ 65、重約 23.6 (№ 65)	口縁部～須 部 1/2
24	土師器 甕	口 (17.8) 高 [18.5]	口縁部内外面ヨコナデ、割部内面ヘラナデ、割部外面 上半部ナメヘラナデ。下半部ナメ及びナメヘラ ナデ。割下半部外面一部にヌが付着。内面明らかな 縞み及び休止痕。割部上半部中心にカマドの粘土付着。	内：10YR5/3 に近い黄緑 外：10YR4/2 灰黄緑	中々硬質、白緑砂、赤色 砂；灰質	№ 27・28・ 54・60・64・ 67・69・71・ 72・110・ 111 重約 (№ 111)	口縁部～須 部 1/4
25	土師器 小型甕	口 (12.8) 高 [3.4]	口縁部～割部上下の内外面口ロナデ。外面には黒色 の付着物が認められる。小型の常盤甕。口縁端部をツ まみ上げている。	内：10YR8/4 浅黄橙 外：7.5YR7/6 橙	中々粗い、白・黒細砂 焼成：軟質	北へ6ト、 北東区一括	口縁部 1/4
26	土師器 甕	口 (21.4) 高 [29.2]	口縁部内外面ヨコナデ、割部外面上半部ヘラナデ。下 半部ヘラナデのちヘラナデ。割部内面ナメ・直滑押 止のちヘラナデ。非常に曇りつくりの常盤甕。	内外面とも 5YR5/6 明赤 陶	粗い、白緑多量、砂粒・ 雲母片や中々多量 焼成：軟質	№ 52 16.8	口縁部 下半部 1/2、 下半部は底 面一括
27	男瓦	長 [10.1] 幅 [7.9] 厚 [3.0] 重 [261.0]	凹面が布目紋。凸面がヘラナデ。	10YR7/3 に近い黄橙	粗い、白・灰緑砂～緑 砂；灰質	№ 74 4.3	部分残存
28	男瓦	長 [7.0] 幅 [6.2] 厚 [3.0] 重 [130.0]	凹面が布目紋。凸面がヘラナデ。	5Y3/1 オリーブ灰	粗い、白・灰緑砂～緑 砂；軟質	№ 108 8.1	部分残存
29	男瓦	長 [4.3] 幅 [8.5] 厚 [2.0] 重 [76.0]	凹面が布目紋。凸面がヘラナデ。	10YR6/4 に近い黄	粗い、白・灰緑砂～緑 砂；中々軟質	№ 97 44.3	部分残存
30	女瓦	長 [9.8] 幅 [6.7] 厚 [2.0] 重 [137.0]	凸面が格子甲。凹面が布目紋。縞巻き。	2.5Y7/3 浅黄	粗い、白・灰・黒細砂～ 緑砂；軟質	№ 2 46.6	部分残存
31	女瓦	長 [14.0] 幅 [11.1] 厚 [2.0] 重 [425.0]	凸面が格子甲。凹面が布目紋。縞巻き。	5YR6/8 橙	中々粗い、白・灰緑砂 焼成：中々硬質	№ 106 9.3	部分残存
32	女瓦	長 29.3 幅 [20.5] 厚 [2.0] 重 [386.0]	凸面が格子甲。凹面が布目紋。縞巻き。	5YR5/8 明赤陶	粗い、白・灰・黒細砂～ 緑砂、赤粒 焼成：中々硬質	№ 75・105 0.3 (№ 75)	部分残存
33	女瓦	長 [13.0] 幅 [16.5] 厚 [2.0] 重 [692.0]	凸面が格子甲。凹面が布目紋。縞巻き。	2.5YR/2 灰白	中々粗い、白・黒細砂～ 粗砂 焼成：中々硬質	№ 94 11.6	部分残存
34	石器 砥石	長 [6.7] 幅 [4.5] 厚 [3.1] 重 [130.0]	長軸方向に 4 面の砥面が見られる。 平面形：長方形 断面形：長方形	2.5YR/1 灰白	凝灰質	№ 32 0.6	部欠
35	石器 支脚か	長 21.2 幅 10.7 厚 7.6 重 2553.0	焼熟のため全面的に赤味を帯びる。一部焼土付着。力 マド構成材かあるいは支脚か。 平面形：隅丸三角形 断面形：隅丸台形	7.5YR5/4 に近い褐	—	№ 47 4.6	ほぼ完 存
36	石器 編物石	長 24.6 幅 5.5 厚 7.4 重 3065.0	下縁部に褐色の付着物あり。漆か。 平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸方形	2.5Y7/3 浅黄	—	№ 109 17.5	ほぼ完 存
37	鉄製品 刀子	長 [5.5] 幅 1.0 厚 0.2 重 [7.6]	切先と筆を欠損。背は直線的。種幅は約 2.0 mm。両面 で平造り。	—	鉄製	№ 85 20.8	部分残存

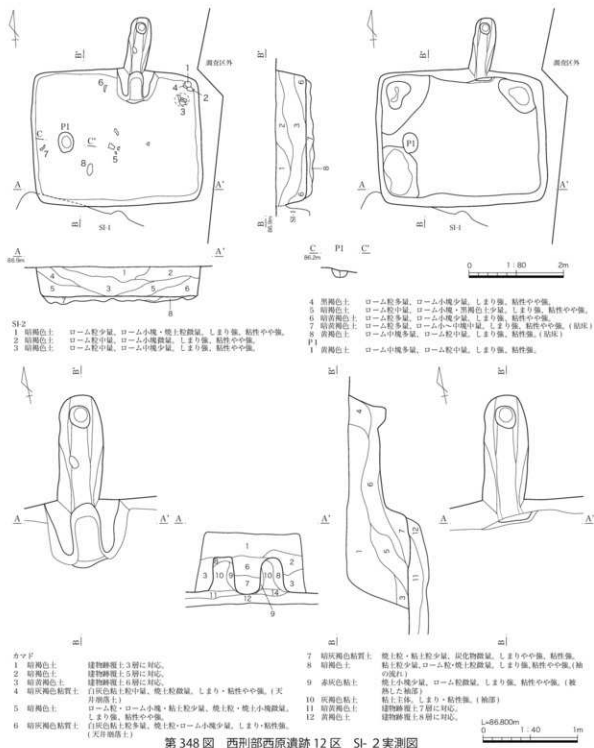
38	鉄製品 刀子	長 幅 厚 重 [3.2] 0.8 0.2 [3.0]	刃部のみ残る。背は直線的、棟は平明で刃部は平直り。37と同一個体の可能性もある。	—	鉄製	№102 6.0	部分残存
39	鉄製品 釘	長 幅 厚 重 [3.6] 0.4 0.4 [3.2]	一辺40mm四方の角断面の鉄材をつの字に曲げており、釧と考えられる。木質などの付着は確認できない。	—	鉄製	№13 38.9	部分残存
40	鉄製品 鉄鏝	長 幅 厚 重 [6.9] 0.8 0.2 [6.6]	長辺鏝の破片。鏝身は欠損するがノミ筋式の可能性が高い。間は台形間。葉は短く、断面は正方形に近い。	—	鉄製	№107 22.2	部分欠損
41	鉄製品 鉄鏝	長 幅 厚 重 10.8 3.1 0.3 12.1	間状の三角形鏝。鏝身は両丸直りで厚さ3.0mm。葉部は短く断面形は長方形。間は台形間で葉は完存している。	—	鉄製	№16 37.0	完存
42	鉄製品 鉄鏝	長 幅 厚 重 3.2 2.6 0.1 3.6	五角形の無葉鏝。間状の両端部を欠損。孔は径3.0mmで先端に穿っている。断面は板状。	—	鉄製	№3 35.2	部分欠損
43	不明鉄 製品	長 幅 厚 重 [4.8] [6.2] 0.7 [46.3]	厚さ6.0～7.0mmの鉄物の破片。上面から見ると丸みをもつため鏝の可能性あり。	—	鉄製	№115 未定	部分残存
44	焼成粘 土塊	長 幅 厚 3.1 3.1 2.0	不定形でやや扁平な粘土塊。磨滅著しく不明だが左側面は破面と考えられる。部分的にワラ(?)の股痕あり。粘土は地坏類と類似。	7.5YR7/6 粗	やや緻密 焼成：軟質	不明	部分残存

12区 SI-2 (遺構：第348図、遺物：第347図、図版五五・一〇五・一一三)

位置 グリッド91.5-52.5 重複遺構 SI-1より古い。平面形 隅丸長方形 規模 東西3.91×南北3.57 m 主軸方向 N-2.5°-E 覆土 自然堆積 壁 壁高37.0～66.8cm残る。床 貼床あり。柱穴



第347図 西刑部西原遺跡12区 SI-2出土遺物



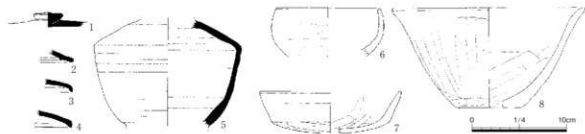
P1 (径 42 ～ 32 cm、深さ 15 cm) が 1 本のみ確認されるが、用途は不明。掘方 南東コーナーを除く、四隅を土坑状に掘る。カマド 北壁中央部やや東に位置し、壁の上半部から長さ 1.1 m に渡り細長く掘り込む。先端部には小ビットがあり、煙突などを設置した痕跡と考えられる。遺物 土師器環(1～4)・常総型甕(5)の他鎌が 2 本出土した。不掲載遺物は土師器甕・環が主体で、これに少量の須恵器蓋・甕などがあり、総量は小コンテナ箱 1/5 程度と非常に少ない。遺物から奈良時代の建物跡と考えたい。

第153表 12区 SI-2出土遺物観察表

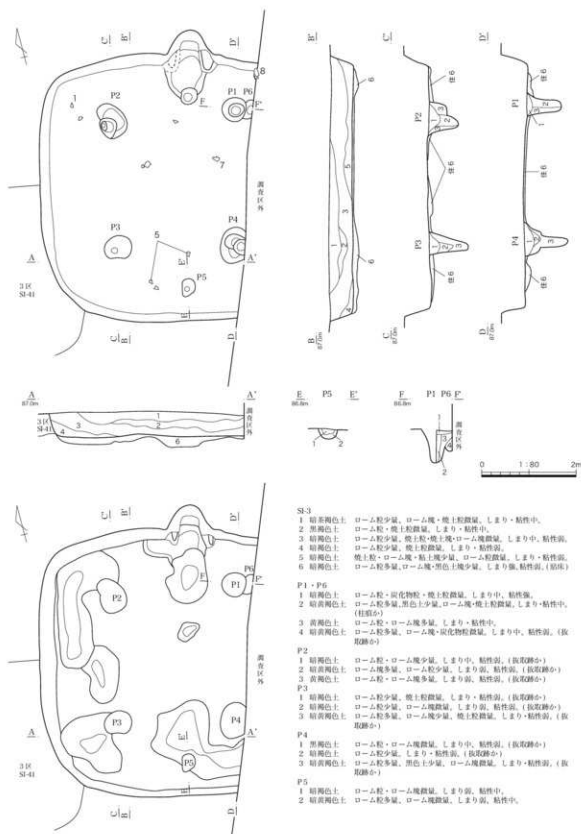
図載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (m)	現存
1	土師器 杯	口 12.6 高 4.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部内面ナデ。体部外面上半部指頭押し。下半部ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内：10YR7/4 ぶい黄褐色 外：10YR8/4 浅黄褐色	中～微細。黒磁砂焼成；中～軟質	№1 37.1	ほぼ完存
2	土師器 杯	口 (14.0) 高 4.5	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。底部内面指頭押し及び爪正気あり。体部外面ヘラケズリ及び一部ナデ。口縁部外面～内面全面漆仕上げ。	内：10YR3/1 黒黒 外：10YR8/4 浅黄褐色	細密。白・黒・灰磁砂焼成；中～軟質	№3 4.3	口縁部～底部2/5
3	土師器 杯	口 (12.0) 高 4.6	口縁部外面～体部内面ヨコナデ及び漆仕上げ。体部外面ヘラケズリ。底部内面ナデ。	内：7.5YR7/6 橙 外：5YR7/6 橙	中～粗い。白・灰・黒磁砂。赤鉄焼成；中～軟質	№4、カマ 下一括 1.9	口縁部3/4、 底部3/4
4	土師器 杯	口 (11.8) 高 5.6	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。体部外面ヨコヘラケズリ。底部外面多方向ヘラケズリ。口縁部内外面漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	中～微細。黒磁砂・赤鉄焼成；中～軟質	№2 3.9	口縁部～底部
5	土師器 甕	底 (10.0) 高 [11.4]	側部内面ヘラナデ。側部外面タテヘラナデ。底部外面一方向ヘラナデ。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	中～粗い。白・灰磁砂～礫。雲母片焼成；中～軟質	№10、AA ペルト一括 14.2	側部下平 1/8、底部 一部
6	鉄製品 鏝	長 [14.8] 幅 4.1 厚 0.3 重 [90.1]	先端部を欠損。背は僅かに丸みをもち、角縁で幅は2.8cm。刃部は平直り。基部は鋭角に作り出している。	—	鉄製	№6 7.0	部分欠損
7	鉄製品 鏝	長 13.7 幅 3.3 厚 0.3 重 [40.8]	背は緩やかに丸みを帯び先端にかけ曲がりがある。角縁で幅は2.0cm。刃部は平直り。基部の折り曲げは浅く、くの字型。	—	鉄製	№5 2.2	完存
8	石器 輪布石	長 23.6 幅 11.2 厚 9.3 重 3916.0	表面に黒色付着物（ヌスカ）あり。支脚か。平面形；不整な楕円形 断面形：楕円台形	5Y6/2 灰オリーブ	—	№12 52.1	ほぼ完存

12区 SI-3 (遺構：第350・351図、遺物：第349図、図版五五・一〇五)

位置 グリッド 92.0-52.5・92.0-53.0 重複遺構 古墳時代終末期の3区 SI-41 より新しい。平面形 東壁は調査区外。壁が弧状に膨らむ隅丸方形か。規模 東西4.38m以上、南北6.05m 主軸方向 N-15°-E 覆土 自然堆積 壁 壁高51.9～58.9cm 床 貼床あり。柱穴 P1 (径50cm、深さ72cm)、P2 (径75～57cm、深さ62cm)、P3 (径58～50cm、深さ78cm)、P4 (径78～残52cm、深さ92cm)、P6 (推定径40cm、深さ残28cm)の計5本である。入口ピット P5 (径40～27cm、深さ20cm)は南壁際にある。掘方 中央部を掘り残し、周縁部を不整な土坑状に掘り下げる。カマド 北壁際を隅丸台形状に掘り込む。煙道は先端部では垂直に立つ。両袖はローム地山を掘り残した上に、灰色粘土を貼り付け構築している。遺物 殆どが覆土上層～中層にかけ出土した。図示した遺物は須恵器蓋(1～4)、長頸瓶(5)土師器杯(6・7)・甕(8)がある。不掲載の土器類は土師器甕が最も多く、次いで土師器杯類・武蔵型甕、須恵器杯の順で、総量は小コンテナ箱1/2である。本遺構は奈良時代前葉の建物跡と考えられる。



第349図 西刑部西原遺跡12区 SI-3出土遺物



第350図 西刑部西原遺跡12区 SI-3実測図(1)

SK-3

- 1 暗赤褐色土 ローム粒少量、ローム塊・焼土粒散見、しまり・粘性中、
- 2 黒褐色土 ローム粒・焼土粒散見、しまり・粘性中、
- 3 暗褐色土 ローム粒少量、焼土粒・焼土塊・ローム塊散見、しまり中、粘性弱、
- 4 暗褐色土 ローム粒少量、焼土粒散見、しまり・粘性弱、
- 5 暗褐色土 焼土粒・ローム塊・焼土塊少量、ローム粒散見、しまり・粘性弱、
- 6 暗褐色土 ローム粒多量、ローム塊・黒色土塊少量、しまり強、粘性弱、(採取跡)

P1・P6

- 1 暗褐色土 ローム粒・炭化物粒・焼土粒散見、しまり中、粘性強、
- 2 暗赤褐色土 ローム粒多量、黒色土少量、ローム塊・焼土粒散見、しまり・粘性中、(柱頭部)
- 3 黄褐色土 ローム粒・ローム塊多量、しまり・粘性中、
- 4 暗赤褐色土 ローム粒多量、ローム塊・炭化物粒散見、しまり中、粘性弱、(板取跡小)

P2

- 1 暗褐色土 ローム粒・ローム塊少量、しまり中、粘性弱、(板取跡小)
- 2 暗赤褐色土 ローム粒少量、ローム塊少量、しまり弱、粘性弱、(板取跡小)
- 3 黄褐色土 ローム粒・ローム塊多量、しまり弱、粘性弱、(板取跡小)

P3

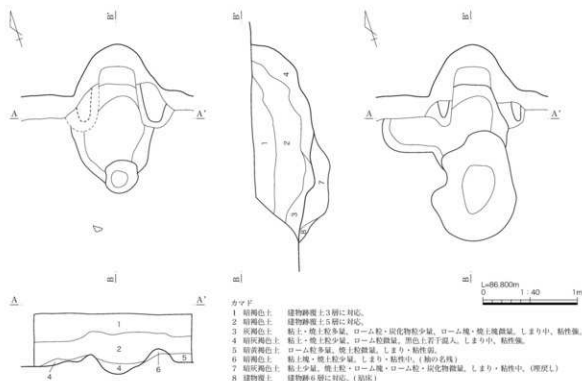
- 1 暗褐色土 ローム粒少量、焼土粒散見、しまり・粘性弱、(板取跡小)
- 2 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊散見、しまり弱、粘性弱、(板取跡小)
- 3 暗赤褐色土 ローム粒多量、ローム塊少量、焼土粒散見、しまり・粘性弱、(板取跡小)

P4

- 1 黄褐色土 ローム粒・ローム塊散見、しまり中、粘性弱、(板取跡小)
- 2 暗赤褐色土 ローム粒少量、しまり・粘性弱、(板取跡小)
- 3 暗赤褐色土 ローム粒多量、黒色土少量、ローム塊散見、しまり・粘性弱、(板取跡小)

P5

- 1 暗褐色土 ローム粒・ローム塊散見、しまり弱、粘性中、
- 2 暗赤褐色土 ローム粒多量、ローム塊散見、しまり弱、粘性中、



第351図 西刑部西原遺跡12区 SI-3実測図(2)

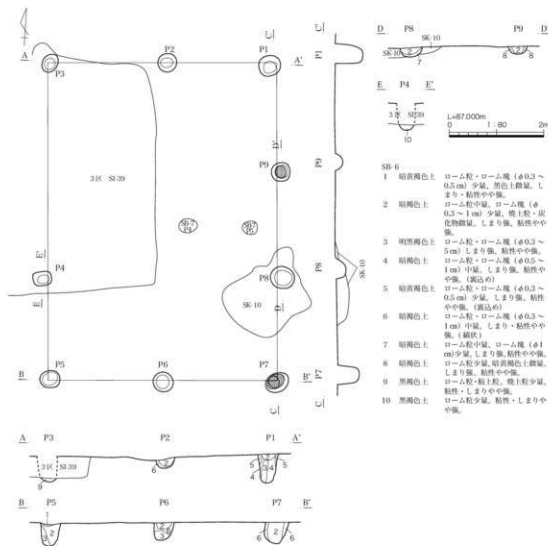
第154表 12区 SI-3出土遺物観察表

図載番号	遺種	法量 (cm/g)	注 法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・残土 (cm)	現存
1	須恵器蓋	高 [1.6] 内径 3.1	大井部外面にヘラケズリのちナデのちツマミ貼付。内面口クロナデ。	内: 25YR/4 淡黄 外: 2.5YR/3 淡黄	今中緻密、白・灰粗砂焼成; 今中硬質	№9 10.2	大井部破片、ツマミ定存
2	須恵器蓋	高 [1.0]	内外面口クロナデ。内面に盛りあり。混入品。	内外面とも 5Y3/1 オリーブ黒	今中緻密、白細砂〜礫。一部破片焼成; 硬質	一括	口縁破片
3	須恵器蓋	高 [1.3]	内外面口クロナデ。	内: 2.5GY オリーブ灰 外: 10Y5/1 灰	今中緻密、白粗砂焼成; 硬質	北東区一括	口縁部1/6
4	須恵器蓋	高 [1.8]	内外面口クロナデ。外面緑色の自然釉付着。	内: 2.5Y6/1 黄灰 外: 2.5YR/3 淡黄	今中緻密、白・灰粗砂焼成; 硬質	北東区一括、南東区一括	口縁部破片
5	須恵器 長頸瓶	径 [15.4] 高 [11.3]	内外面口クロナデ。胴部外面下半部にヘラケズリ。胴部に厚めの筒状がみられる。胴部内面緑色の自然釉。口の盛りが強い。二条の太い沈み跡の口クロ目あり。	内: NS/O 灰 外: 7.5Y6/1 灰	今中粗い、白・黒粗砂焼成; 硬質	№6,8、南東区一括、北東区一括	胴部〜胴部区1/4、北東区一括
6	土師器 坪	口 (10.8) 高 [5.1]	口縁部内外面口クロナデ体部外面ヘラケズリ。体部内面割離著しく調整不明。外面漆仕上げ。混入品。	内: 5YR7/6 橙 外: 5YR6/6 橙	今中粗い、灰・白粗砂。赤配焼成; 今中軟質	北東区一括	口縁部〜体部1/3
7	土師器 坪	口 (14.6) 高 4.4	口縁部内外面口クロナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内: 10YR2/1 黒 外: 5Y2/1 黒	今中緻密、白粗砂焼成; 今中軟質	№3、北東区一括	口縁部一括 3/8、底部1/2
8	土師器 甕	口 (20.0) 底 6.6 高 10.6 孔 2.5	口縁部内外面口クロナデ。胴部外面タテヘラケズリのちナデ口コヘラケズリ。胴部内面ナメヘラケズリ。底部外面ヘラケズリのちナデが。孔は外面より穿孔する。	内: 7.5YR6/6 橙 外: 10YR6/4 に近い黄橙	粗い、白・灰・黒焼成; 軟質	№2 3.1	胴部1/3、底部完存

2. 掘立柱建物跡

12区 SB-6 (遺構：第352図、図版五六)

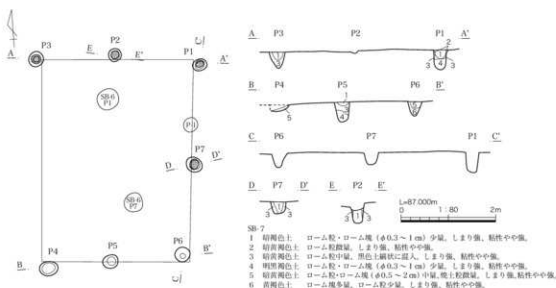
位置 グリッド92.5-52.5・92.5-53.0 重複遺構 古墳時代終末期の3区SI-39より古く、SB-7との切り合いは不明。SK-10より新しい。規模・平面形 桁行3間×梁行2間の南北棟側柱建物。桁行総長6.7m、梁行総長4.8m 柱間 桁行の柱間寸法は東側柱列で南から2.2m+2.2m+2.3m、梁行の柱間寸法は平均2.4mである。主軸方向 N-2.5°-W 柱穴 P1(径47cmの円形、深さ61cm)、P2(径39cmの円形、深さ20cm)、P3(径43~32cmの楕円形、深さ47cm)、P4(径38~25cmの不整形円形)、P5(径42cmの不整形円形、深さ50cm)、P6(径44cmの円形、深さ37cm)、P7(径51~40cmの楕円形、深さ46cm)、P8(径約50cmの楕円形、深さ22cm)、P9(径42cmの楕円形、深さ16cm)の計9本が見つかった。このうちP1から確認された柱痕から、柱の直径は15cm前後と推定される。遺物 遺物は図示できるものは殆ど無く、土師器甕小破片が数点出土したのみである。古墳時代終末期の建物より古い可能性があるが、明確な時期は不明である。



第352図 西刑部西原遺跡12区 SB-6実測図

12区SB-7（遺構：第353図、図版五六）

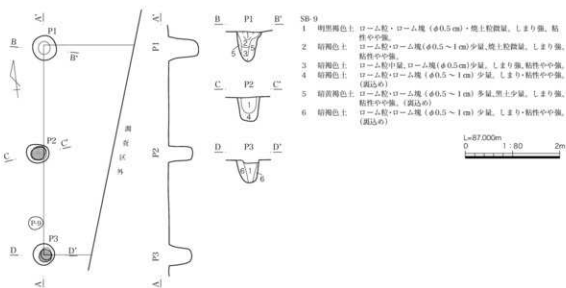
位置 グリッド92.5-52.5・92.5-53.0 重複遺構 SB-6、P-1との重複関係は不明。規模・平面形 桁行2間×梁行2間の南北棟側柱式建物で、桁行総長4.2m、梁行総長3.1mである。柱間 桁行の柱間寸法は平均2.1m、梁行の柱間寸法は平均1.55mである。主軸方向 N-2.0°-E 柱穴 P1（径31～26cmの楕円形、深さ43cm）、P2（径28cmの円形、深さ29cm）、P3（径33cmの円形、深さ35cm）、P4（径39～29cmの楕円形、深さ4cm）、P5（径34～30cmの円形、深さ42cm）、P6（径32cmの円形、深さ31cm）、P7（径35～30cmの楕円形、深さ26cm）の計7本を確認した。このうちP1～P3・P7の4本から柱痕が確認された。柱の推定直径は15～20cmである。遺物 遺物は出土しなかったため、明確な帰属時期は不明である。



第353図 西刑部西原遺跡12区 SB-7実測図

12区SB-9（遺構：第354図、図版五六）

位置 グリッド93.0-53.0 重複遺構 P-9との重複は不明。南西5mにSB-7が位置する。規模・平面形 多くが調査区外のため全形は不明だが、桁行2間×梁行推定1間の南北棟側柱式建物と考えた。桁行総長4.5m、梁行総長2m以上。柱間 桁行の柱間寸法は南から2.2m+2.3m、梁行の柱間寸法は不明である。主軸方向 N-7°-E 柱穴 P1（径約50cmの円形、深さ63cm）、P2（径47～40cmの楕円形、深さ51cm）、P3（径46cmの円形、深さ43cm）の計3本を確認した。断面の柱痕から推定できる柱の太さは15cm前後である。遺物 遺物が出土しなかったため、正確な帰属時期は不明である。

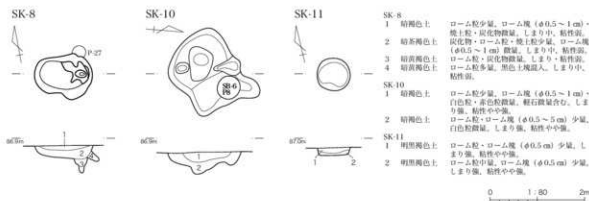


第354図 西刑部西原遺跡12区 SB-9実測図

3. 土坑

本調査区からは計3基の土坑を確認した。他の調査区同様、遺物の出土量が極めて少なく、明確な時期は確定できない。ただし遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものもある。ここでは遺構個別の事実記載は行わず、表にまとめて掲載し、特徴的な遺構については補足説明を行う。

SK-11は径64cmの平面円形で、浅い筒状の断面形をもつ。自然堆積と考えられる。SK-8・10は不整形で、底面の凹凸が顕著である。これらの帰属時期は不明と言わざるを得ないが、SK-10は掘立柱建物跡SB-6より古いことが判明している。

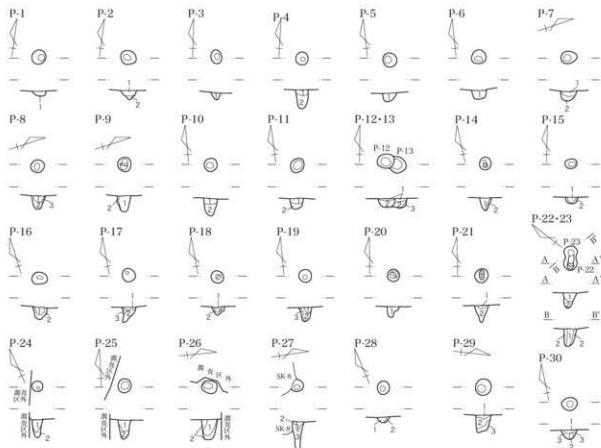


第355図 西刑部西原遺跡12区 土坑実測図

第155表 12区 土坑計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
SK-8	94.0 53.0	—	1.2	0.95	0.59	P-27と重複
SK-10	92.5 53.0	—	1.97	1.65	0.46	SB-6と重複
SK-11	93.0 53.0	円形	0.7	0.70	0.16	

4.ピット



P-1
1 暗褐色土 ローム粒中量、ローム塊(φ0.5~1m)少量、白色粘層、赤色粘層にて敷層。しまり強、粘性中強。

P-2
1 暗褐色土 ローム粒少量、赤色粘層にて敷層。しまり強、粘性中強。
2 暗褐色土 ローム粒中量。しまり・粘性中強

P-3
1 暗褐色土 ローム粒少量、赤色粘層にて敷層。しまり強、粘性中強。

P-4, P-10, P-11
1 暗褐色土 ローム粒少量、白色粘・赤色粘層にて敷層。しまり強、粘性中強。

P-5
1 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ0.5~1m)・赤色塊(φ0.5~1m)(1P)少量、白色粘層。しまり強、粘性中。

P-6
1 暗褐色土 ローム塊(φ0.5~1m)少量、ローム粒少量。しまり強、粘性中強。(腐状)

P-7
1 暗褐色土 ローム粒少量、赤色粘ごく敷層。しまり強、粘性中強。
2 暗褐色土 ローム塊(φ0.5~1m)少量、ローム粒少量。しまり強、粘性中強。

P-8
1 暗褐色土 ローム粒少量、白色粘・赤色粘層にて敷層。しまり強、粘性中強。
2 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ0.5m)少量。しまり強、粘性中強。

P-9
1 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ0.5m)少量。しまり強、粘性中強。
2 暗褐色土 ローム粒中量。しまり強、粘性中強。

P-12
1 暗褐色土 ローム粒少量、白色粘・赤色粘ごく敷層。しまり強、粘性中強。
2 暗褐色土 ローム塊(φ0.5~1m)少量、ローム粒少量、赤色粘層にて敷層。しまり強、粘性中強。

P-13
1 暗褐色土 ローム粒少量、白色粘・赤色粘層にて敷層。しまり強、粘性中強。

2 明黒褐色土 ローム粒少量。しまり強、粘性中強。
3 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ0.5m)少量。しまり強、粘性中強。(腐状)

P-14
1 暗褐色土 ローム粒少量、白色粘・赤色粘層にて敷層。しまり強、粘性中強。
2 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ0.5m)少量。しまり強、粘性中強。(腐状)

P-15
1 明黒褐色土 ローム粒少量。しまり強、粘性中強。
2 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ0.5m)少量。しまり強、粘性中強。

P-16
1 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ0.5m)少量、赤色粘層。しまり強、粘性中強。
2 暗褐色土 ローム粒少量(腐状)、ローム塊(φ0.5m)少量。しまり・粘性中強。

P-17
1 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ0.5m)少量。しまり強、粘性中強。
2 明黒褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ0.5m)少量。しまり強、粘性中強。(柱石)

P-18
1 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ0.5m)少量。しまり強、粘性中強。

P-19
1 明黒褐色土 ローム粒中量(腐状)。しまり強、粘性中強。
2 暗褐色土 ローム粒少量(腐状)。しまり強、粘性中強。

P-20
1 暗褐色土 ローム粒少量(腐状)。しまり強、粘性中強。

P-21
1 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ0.5~1m)少量。しまり強、粘性中強。
2 明黒褐色土 ローム粒中量(腐状)。しまり強、粘性中強。

P-22
1 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ0.5m)少量。しまり強、粘性中強。
2 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ0.5~1m)少量。しまり強、粘性中強。

P-23
1 明黒褐色土 ローム粒少量、赤色粘層にて敷層。しまり・粘性中強。(柱石)
2 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ1m)中量。しまり・粘性中強。(SK-8)

P-24
1 暗褐色土 明黒褐色土・ローム塊(φ0.5~1m)中量、ローム粒少量、赤色粘層。しまり強、粘性中強。

P-25
2 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ0.5~1m)中量。しまり強、粘性中強。

P-25
1 明黒褐色土 ローム粒・ローム塊(φ0.5m)少量。しまり強、粘性中強。
2 明黒褐色土 ローム粒・ローム塊(φ0.5m)少量。しまり強、粘性中強。

P-26
1 暗褐色土 ローム粒・赤色粘層。しまり中、粘性弱。(柱石)

P-27
2 暗褐色土 ローム粒少量。しまり・粘性中。
1 暗褐色土 ローム粒少量。しまり・粘性中。
3 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊少量。しまり中、粘性中。

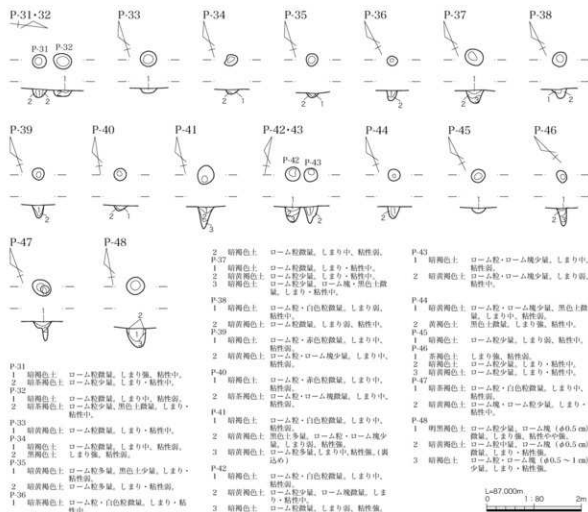
P-28
1 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ0.5m)少量。しまり強、粘性中強。
2 暗褐色土 ローム粒中量(腐状)、ローム塊(φ0.5m)少量。しまり強、粘性中強。

P-29
1 暗褐色土 ローム粒少量。しまり強、粘性中強。
2 明黒褐色土 ローム粒・ローム塊(φ0.5m)少量、ローム粒少量(腐状)、ローム塊(φ0.5m)少量。しまり強、粘性中強。(柱石)

P-30
3 暗褐色土 ローム塊(φ0.5m)少量、ローム粒中量(腐状)。しまり強、粘性中強。(腐状)

L=87000m
0 1:80 2m

第356図 西刑部西原遺跡12区 ピット実測図(1)



第 357 図 西刑部西原遺跡 12 区 ビット実測図 (2)

本調査区からは計 48 基のビットが確認された。土坑と同様、遺物の出土量が少ないため明確な時期を確定できない場合が多いが、他遺構との切り合いから、ある程度の間隔を推定できるものもある。

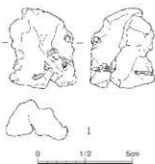
ここでは土坑と同様に個別の事実記載は行わず、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめて掲載した。前述の通り、ビットは 12 区北部において多く分布している。柱状穴の形状を呈するものが多く、掘立柱建物跡の掘方が混在している可能性もある。柱痕は P-23・31・39・43・44 から認められる。

第 156 表 12 区 ビット計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
P-1	92.5-53.0	円形	0.3	0.29	0.1	
P-2	92.5-53.0	楕円形	0.33	0.31	0.19	
P-3	92.5-53.0	楕円形	0.29	0.23	0.16	
P-4	92.5-53.0	楕円形	0.28	0.26	0.4	
P-5	93.0-53.0	円形	0.3	0.3	0.17	
P-6	93.0-53.0	円形	0.32	0.3	0.19	
P-7	92.5-53.0	楕円形	0.35	0.27	0.2	
P-8	93.0-53.0	円形	0.3	0.28	0.29	
P-9	93.0-53.0	円形	0.31	0.29	0.34	
P-10	92.5-53.0	円形	0.28	0.28	0.37	

P-11	93.0-53.0	楕円形	0.29	0.29	0.22	
P-12	93.0-53.0	—	0.35	0.31	0.18	P-13 と重複
P-13	93.0-53.0	—	(0.34)	0.28	0.21	P-12 と重複
P-14	93.0-53.0	円形	0.27	0.26	0.27	
P-15	93.0-53.0	楕円形	0.26	0.2	0.14	
P-16	93.0-53.0	楕円形	0.32	0.26	0.26	
P-17	93.0-53.0	楕円形	0.28	0.28	0.32	
P-18	93.0-53.0	楕円形	0.26	0.26	0.17	
P-19	93.0-53.0	円形	0.28	0.27	0.3	
P-20	93.0-53.0	円形	0.26	0.26	0.23	
P-21	93.5-53.0	円形	0.28	0.28	0.37	
P-22	93.0-53.0	—	(0.29)	—	0.33	P-23 と重複
P-23	93.5-53.0	—	(0.29)	—	0.38	P-22 と重複
P-24	93.5-53.0	円形	0.22	0.22	0.37	
P-25	93.5-53.0	円形	0.3	0.28	0.41	
P-26	93.5-53.0	楕円形	0.33	0.28	0.43	
P-27	94.0-53.0	—	(0.26)	0.25	0.52	SK-8 と重複
P-28	93.5-53.0	円形	0.27	0.26	0.12	
P-29	93.5-53.0	円形	0.36	0.33	0.37	
P-30	93.5-53.0	楕円形	0.33	0.29	0.21	
P-31	93.5-53.0	円形	0.3	0.28	0.17	
P-32	93.5-53.0	楕円形	0.38	0.33	0.13	
P-33	93.5-53.0	円形	0.35	0.32	0.1	
P-34	93.5-53.0	—	0.3	0.23	0.09	
P-35	93.5-53.0	円形	0.26	0.25	0.1	
P-36	93.5-53.0	円形	0.21	0.21	0.22	
P-37	93.5-53.0	楕円形	0.4	0.33	0.28	
P-38	93.5-53.0	楕円形	0.32	0.29	0.2	
P-39	93.5-53.0	楕円形	0.28	0.24	0.28	
P-40	93.5-53.0	円形	0.27	0.27	0.1	
P-41	94.0-53.0	楕円形	0.42	0.35	0.45	
P-42	93.5-53.0	円形	0.31	0.31	0.32	
P-43	93.5-53.0	円形	0.3	0.29	0.35	
P-44	94.0-53.5	円形	0.25	0.24	0.26	
P-45	94.0-53.5	円形	0.3	0.27	0.1	
P-46	94.0-53.0	楕円形	0.25	0.2	0.37	
P-47	94.0-53.5	楕円形	0.41	0.32	0.4	
P-48	91.0-52.5	円形	0.38	0.37	0.4	

5. 遺構外



第 358 図 西刑部西原遺跡 12 区
調査区一括出土遺物

遺構外から出土した遺物は少なく、少量の土師器・須恵器類などが出土したのみである。

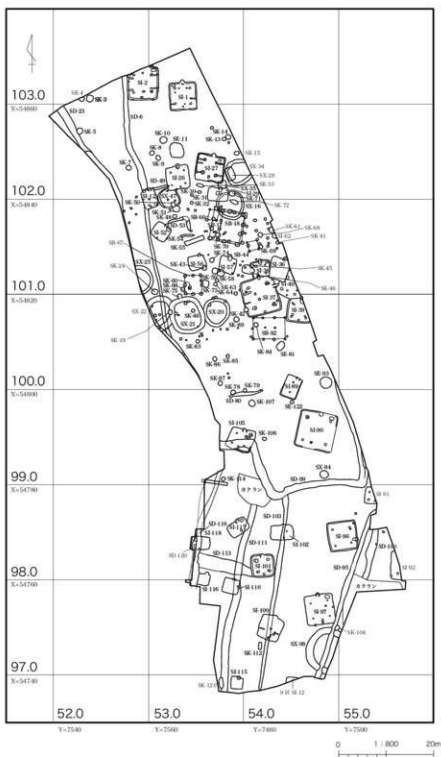
1 は焼成粘土塊である。胎土はキメが細かく、坏類の胎土と類似している。表裏面を貫通する円形の孔があるが、ワラ織繊維の脱痕と考えられる。

第 157 表 12 区 調査区一括出土遺物観察表

図録番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (m)	残存
1	焼成粘土塊	長 4.2 幅 3.2 厚 2.0 重 13.9	胎土は坏類に似るが管状の繊維質を多く含む。その脱痕が顕著。	内外面とも 5YR4/8 淡黄	緻密・白・灰黄粉砂焼成；軟質	調査区一括	部分欠損

第13節 13区の遺構と遺物

本区では竪穴建物跡30棟、掘立柱建物跡6棟、周溝遺構8基、円形有段遺構1基、性格不明遺構2基、井戸4本、溝13条、土坑56基、ピット97基が確認された。

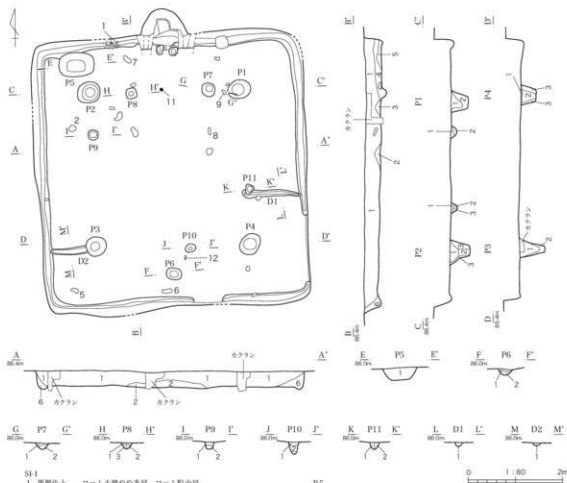


第359図 西刑部西原遺跡13区 全体図 (S=1/800)

1. 竪穴建物跡

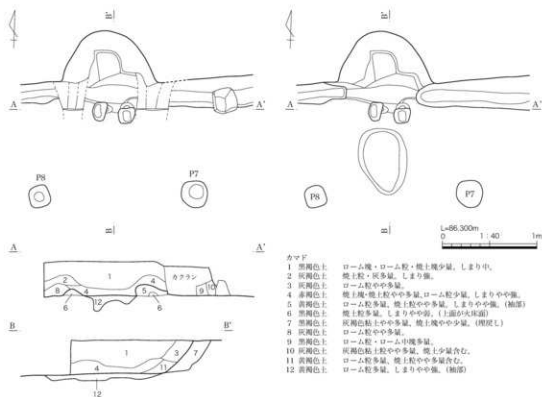
13区SI-1 (遺構: 第360・361図、遺物: 第362図、図版五八・一〇五)

位置 グリッド102.5-53.0・103.0-53.0 重複遺構 無し。平面形 隅丸正方形 規模 東西5.67×南北6.05m 主軸方向 N-3°-W 覆土 自然堆積 壁 壁高33~41cm 床 ローム面を床面とし、概ね平坦。柱穴 P1 (径49~41cm、深さ36cm)、P2 (径50~44cm、深さ41cm)、P3 (径42cm、深さ52cm)、P4 (径46~38cm、深さ31cm) は主柱穴。入口ビット P6 (径31~24cm、深さ12cm) は南壁より50cmほど離れて位置する。貯蔵穴 P5 (長軸62×短軸51cm、深さ26cm) は北西隅にある。ビット P7 (径30cm、深さ12cm)、P8 (径25cm、深さ12cm)、P9 (径22cm、深さ14cm)、P10 (径23~17cm、深さ25cm) は用途不明。P11 (径20cm、深さ13cm) は間仕切り溝関連のビットか。壁溝 南

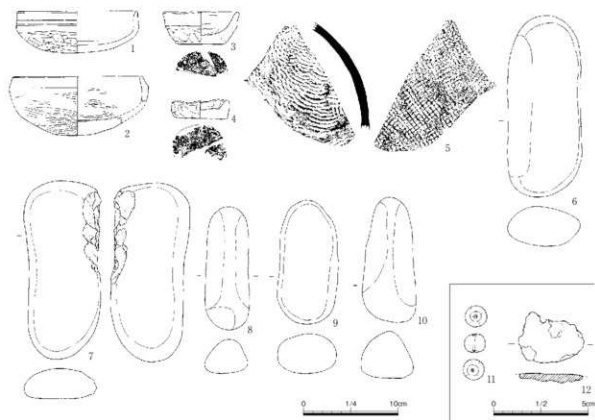


- SI-1
- | | |
|--------|-------------------|
| 1 黒褐色土 | ローム小塊やや多量、ローム粒少量。 |
| 2 灰褐色土 | ローム粒多量、しまり面。 |
| 3 黒褐色土 | ローム粒少量。 |
| 4 黒褐色土 | 焼土粒、灰多量。 |
| 5 黒褐色土 | ローム粒やや多量。 |
| 6 黒褐色土 | ローム中塊やや多量、ローム粒少量。 |
- P1・P2
- | | |
|--------|----------------------------|
| 1 黒褐色土 | ローム小塊やや多量、ローム粒少量、しまり面、(柱腔) |
| 2 黄褐色土 | ローム中~大塊多量、しまりやや多量 (頂込め) |
- P2
- | | |
|--------|----------------------------|
| 1 黒褐色土 | ローム小塊やや多量、ローム粒少量、しまり面、(柱腔) |
| 2 黒褐色土 | ローム粒多量、しまり面、(柱腔) |
| 3 黄褐色土 | ローム中~大塊多量、しまりやや多量、(頂込め) |
- P4
- | | |
|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色土 | ローム粒多量、しまり面 |
| 2 黄褐色土 | ローム小塊・ローム粒多量、しまり面 (柱腔) |
| 3 黄褐色土 | ローム中~大塊多量、しまりやや多量、(頂込め) |
- P5
- | | |
|--------|-----------|
| 1 黒褐色土 | ローム粒やや多量。 |
|--------|-----------|
- P6
- | | |
|--------|-----------------------|
| 1 灰褐色土 | ローム小塊・ローム粒少量、しまりやや多量。 |
| 2 黒褐色土 | ローム小~中塊やや多量、しまりやや多量。 |
- P7
- | | |
|---------|--------------------------|
| 1 弱灰褐色土 | ローム粒・ローム小塊・焼土塊やや多量、しまり弱。 |
| 2 灰褐色土 | ローム小塊少量、しまり弱。 |
- P8
- | | |
|---------|-----------------------------|
| 1 弱灰褐色土 | ローム粒・ローム小塊・焼土塊やや多量、しまり弱。 |
| 2 灰褐色土 | ローム小塊少量、しまり弱。 |
| 3 弱黄褐色土 | ローム小塊・ローム粒・灰色粘土塊少量、しまりやや多量。 |
- P9・P10・P11
- | | |
|--------|-----------------------|
| 1 弱褐色土 | ローム小塊・ローム粒少量、しまりやや多量。 |
| 2 弱褐色土 | ローム小~中塊やや多量、しまりやや多量。 |
| 1 黄褐色土 | ローム小塊・ローム粒多量、しまりやや多量。 |

第360図 西刑部西原遺跡13区 SI-1実測図(1)



第361図 西刑部西原遺跡13区 SI-1実測図(2)



第362図 西刑部西原遺跡13区 SI-1出土遺物

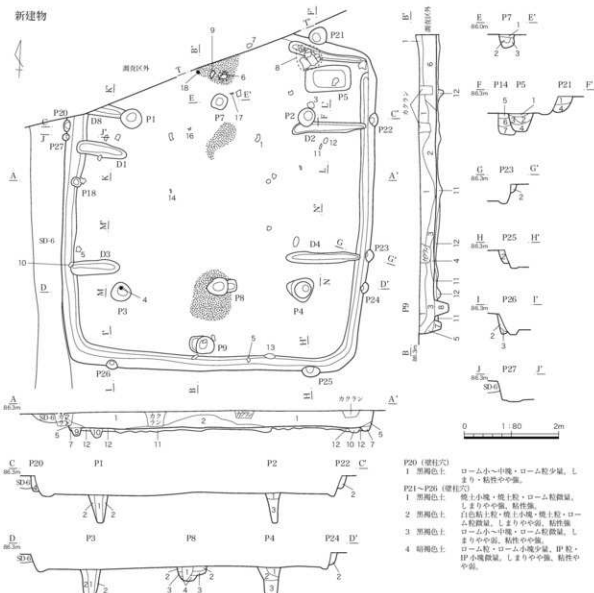
東コーナー付近で2か所途切れる。幅15～20cm、深さ5～10cmと浅い。間仕切り溝 南半部にD1(長幅8～16cm、深さ13cm)、D2(長さ76cm、幅10～16cm、深さ7cm)がある。カマド 北壁中央部を半円形に掘り込むが、床面では凸字状を呈する。構築材の粘土は殆ど残っていない。燃焼部底面には小さなピット状の掘り込みが並ぶ。遺物 12点を図示。土師器環、手捏ね土器、編物石、土玉の他鉄製品が出土。1の土師器環はカマド内、2が床面直上の出土。3は覆土中から出土した粗製環。12は不明鉄製品だが、厚みがあり若干湾曲することから鋳物の破片の可能性あり。不掲載遺物は土器類が小コンテナ1箱弱、量が3.7kg。遺物から古墳時代終末期の建物跡と考えられる。

第158表 13区 SI-1 出土遺物観察表

図載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・出土(cm)	現存
1	土師器 土師環	口 12.5 高 4.4	体部内面～口縁部外面ココナデ。体部外面上平ナデナ部へラケズリ。底部内面ナデ。内面全面及び口縁部外面～体部外面上平直上上げ。口縁部は直上し、2条(あるいは2段)の直線状のココナデを施す。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや粗い。灰・白・黒粉粒～澱、赤色粘焼成；やや軟質	№1, カマド下 4.1	完存
2	土師器 杯	口 13.3 高 6.3	口縁部内外面ココナデ。体部外面へラケズリのちぎれたヘラミガキ。体部～底部内面や人念なヘラミガキ。通気が著しい。内面～体部外面にかけ漆仕上げ。	内：7.5YR6/6 橙 外：5YR6/8 橙	やや粗い。白・灰・黒細砂～澱 焼成；やや軟質	№3, 北西、北ベルト床	口縁部～体部2/3、底部ほぼ現存
3	土師器 粗製環	口 (8.4) 底 (6.0) 高 5.2	口縁部内外面ココナデ。体部～底部内面ナデ。体部外面直線押圧し、及びナデ。底部外面ナデか。	内：7.5YR6/6 橙 外：5YR7/8 橙	やや粗い。白・灰・黒細砂焼成；軟質	南西	口縁部1/8、底部1/2
4	土師器 手捏ね土器	口 5.6 底 5.8 高 2.0	内面全面～体部外面直線押圧及びナデ。底部外面へラケナデか。	内外面とも 5YR5/6 明赤褐色	やや粗い。白・赤粉粒砂～澱 焼成；軟質	南西	口縁部1/4、底部1/2
5	須恵器 甕	厚 6.8 高 9.0	内面同心円状あて具痕。外面格子印系。胴部に筒状が見られる。	内：5Y6/1 灰 外：5Y4/1 灰	やや粗い。白・灰・黒粗砂～澱、黒色粘焼成；硬質	№7 1.0	割部破片
6	石器 編物石	長 18.8 幅 7.7 厚 3.2 重 832.0	未加工の自然礫。平面形；楕円形 断面形；不整な楕円形	2.5Y6/2 灰黄	-	№19 1.2	完存
7	石器 編物石	長 10.1 幅 7.6 厚 4.4 重 1127.0	長軸の素面側上平部を両面から剥離している。平面形；不整な楕円形 断面形；不整な楕円形	10R5/3 赤褐色	-	№11 2.1	ほぼ完存
8	石器 編物石	長 13.2 幅 4.5 厚 36.0 重 352.0	未加工の自然礫。平面形；楕円形 断面形；楕円の三角形	2.5Y6/1 黄灰	-	№16 1.3	完存
9	石器 編物石	長 13.1 幅 6.2 厚 4.1 重 498.0	未加工の自然礫。平面形；不整な楕円形 断面形；楕円形	10YR6/2 灰黄緑	-	№15 床直	ほぼ完存
10	石器 編物石	長 13.2 幅 5.5 厚 4.9 重 456.0	未加工の自然礫。平面形；不整な楕円形 断面形；楕円の三角形	N7/0 灰白	-	P2 覆土中	完存
11	土製品 土玉	長 0.1-0.06 幅 1.02-1.05 重 1.0	孔の1/4ほどの部位に横あり。片面から穿孔したのもう一方から孔の端部を磨いたものか。平面形；円形 断面形；不整な円形 全体に黒褐色を呈する。漆仕上げか否かは不明。	2.5Y3/1 黒褐色	やや粗い。白細砂焼成；やや軟質	№9 15.2	完存
12	不明鉄製品	長 [2.1] 幅 [3.4] 厚 [0.2] 重 [5.3]	平坦面に僅かな丸みを帯び、鋳物などから剥離した破片か。	-	鉄質	南北ベルト中	部分現存

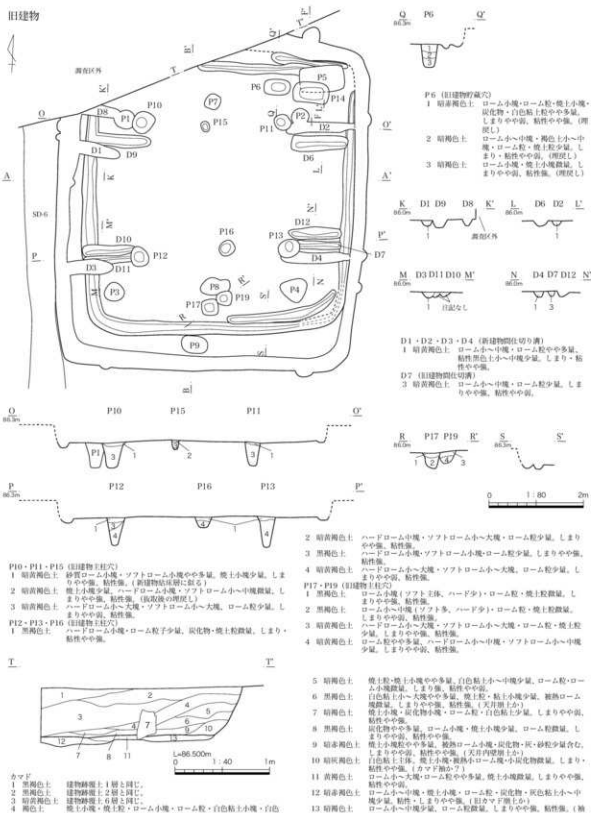
13区 SI-2 (遺構：第363・364図、遺物：第365図、図版五八・一〇五・一〇六・一一二・一一五)

位置 グリッド 103.0-53.0・103.0-52.5 重複遺構 古墳時代後期の溝SD-6より新しい。規模・平面形 新建物：東西6.57m以上×南北6.32mの隅丸長方形 旧建物：一辺約5.7mの隅丸方形 主軸方向 N-1°-E 覆土 自然堆積 壁 壁高39～25cm 床 ほぼ全面が貼床。床下から2時期以上の建替えを確認。以下新建物から述べる。柱穴 P1(径47～42cm、深さ58cm)、P2(径38cm、深さ63cm)、P3(径42cm、深さ58cm)、P4(径36cm、深さ58cm)は主柱穴。P7(径37～29cm、深さ28cm)、P8(径45～38cm、深さ27cm)はしっかりした掘方をもつが、性格不明。P18(径21～18cm、深さ45cm)も不明。

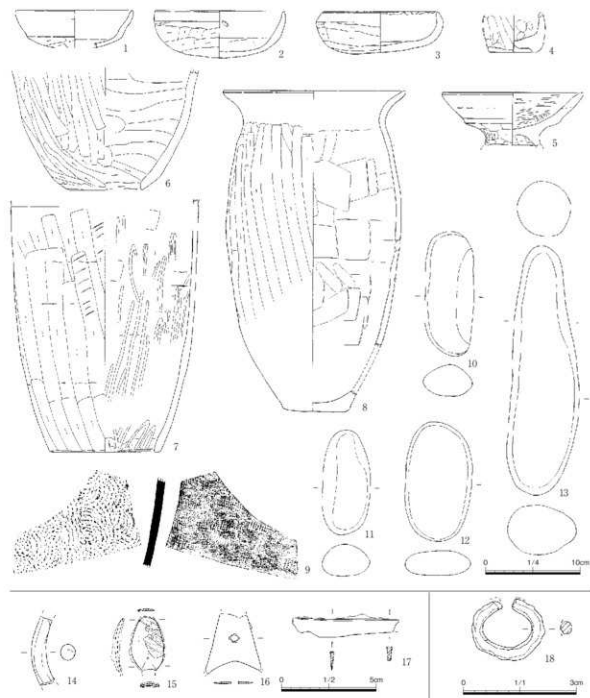


- S1-2**
- 1 黒褐色土 焼土塊少量、ローム粒微量、しまりやや弱、粘性強。
 - 2 黒褐色土 ローム塊・焼土小塊・炭土粒・ローム粒少量、白色粘土小〜中塊・炭化物微量、しまり、粘性やや強。
 - 3 暗赤褐色土 ローム小塊・焼土小塊・炭化物・ローム粒少量、しまりやや弱、粘性強。
 - 4 暗赤褐色土 焼土小〜中塊・炭化物やや多量、ローム小塊・ローム粒少量、しまり、粘性やや強。
 - 5 暗赤褐色土 ローム小〜中塊・ローム粒少量、焼土粒・砂粒微量、しまり、粘性やや弱。
 - 6 暗赤褐色土 焼土塊・ローム塊やや多量、白色粘土塊少量、炭化物微量、しまりやや弱、粘性強。
 - 7 黒褐色土 ローム小〜中塊少量、ローム粒微量、しまり、粘性やや強。(新建物壁)
 - 8 暗赤褐色土 ローム粒・ローム小塊・焼土粒・焼土小塊少量、しまりやや弱、粘性強。(採取層:P9入口ロフト)
 - 9 暗赤褐色土 焼土塊・ローム塊やや多量、白色粘土塊少量、炭化物微量、しまり、粘性やや弱。(採取層:P19ローム小塊・ローム粒少量、しまり、粘性やや強。(旧建物壁面))
 - 10 黒褐色土 ソフトローム小〜中塊、ローム粒少量、焼土粒・炭化物微量、しまり、粘性やや強。(新建物築二層うら垣土)
 - 12 黄褐色土 ハード・ソフトローム小〜中塊多量、しまり、粘性やや強。(旧建物壁面)
- P1～P3 (新建物柱状)**
- 1 暗褐色土 ローム小〜中塊・ローム粒少量、しまり、粘性やや強。(柱石)
 - 2 暗赤褐色土 ローム小〜大塊やや多量、ローム粒少量、しまりやや弱、粘性強。(柱石)
- P2・P4 (新建物柱状)**
- 1 暗褐色土 ローム小〜中塊・ローム粒少量、しまりやや弱、粘性やや強。(採取層)
 - 2 暗赤褐色土 ローム小〜大塊・ローム粒少量、しまりやや弱、粘性強。(採取層)
- 3 暗赤褐色土** ハードローム塊主体、ローム粒やや多量、しまりやや弱、粘性強。
- P8 (新建物柱状)**
- 1 暗褐色土 ローム小〜大塊、ローム粒やや多量、焼土小塊・炭化物微量、しまり、粘性やや強。(柱石)
 - 2 暗褐色土 ローム小塊・ローム粒やや多量、しまり、粘性やや強。(溝込の白粘土土粒・焼土小塊・焼土粒・ローム粒少量、ローム小〜中塊微量、しまりやや弱、粘性やや強。)
 - 3 暗赤褐色土 ローム小塊多量、しまりやや強、粘性やや強。(溝込の白粘土土粒)
 - 4 暗赤褐色土 焼土小塊、白色粘土小塊やや多量、炭化物微量、しまり、粘性やや強、白色粘土少許、しまりやや弱、粘性強。
 - 5 暗赤褐色土 焼土小塊・ローム小塊・炭土粒、ローム粒少量、しまりやや弱、粘性やや強。
 - 6 暗褐色土 砂質ハードローム小〜大塊・焼土小塊・白色粘土小塊微量、しまりやや弱、粘性やや強。
 - 7 黄褐色土 焼土小塊、ローム小塊微量、しまりやや強、粘性強。(埋戻し)
 - 8 黄褐色土 砂質ハードローム塊主体、焼土小塊・ローム小塊微量、しまり、粘性やや強。(埋戻し)
 - 7 暗赤褐色土 砂質ハードローム小〜中塊少量混入する暗褐色粘土土層、しまりやや弱、粘性やや強。(埋戻し)
- P7 (旧建物柱状)**
- 1 暗褐色土 白色粘土小塊少量、ローム塊・ローム粒少量、焼土粒・砂粒微量、しまりやや弱、粘性やや強。(埋戻し)
 - 2 暗褐色土 ローム塊・ローム粒やや多量、焼土粒微量、しまりやや弱、粘性強。(採取層)
 - 3 暗赤褐色土 ローム小塊・ローム粒やや多量、ローム土と暗褐色土の互層、しまりやや弱、粘性やや強。(採取層)
- P20 (壁柱状)**
- 1 黒褐色土 ローム小〜中塊・ローム粒少量、しまり、粘性やや強。
- P21～P26 (壁柱状)**
- 1 黒褐色土 焼土小塊・焼土粒、ローム粒微量、しまりやや強、粘性強。
 - 2 黒褐色土 白色粘土土粒・焼土小塊・焼土粒・ローム粒微量、しまりやや強、粘性強。
 - 3 黒褐色土 ローム小〜中塊・ローム粒微量、しまりやや弱、粘性やや強。
 - 4 暗褐色土 ローム粒・ローム小塊少量、IP粒・IP小塊微量、しまりやや強、粘性やや弱。

第363図 西刑部西原遺跡13区 S1-2実測図(1)



第 364 図 西刑部西原遺跡 13 区 SI-2 実測図 (2)



第365図 西刑部西原遺跡13区 SI-2出土遺物

P20 (径 22 ~ 13 cm、深さ 18 cm)、P21 (径 38 cm、深さ 33 cm)、P22 (径 27 ~ 19 cm、深さ 43 cm)、P23 (径 26 ~ 18 cm、深さ 41 cm)、P24 (径 23 ~ 15 cm、深さ 36 cm)、P25 (径 39 ~ 21 cm、深さ 38 cm)、P26 (径 24 ~ 17 cm、深さ 47 cm)、P27 (径 16 ~ 14 cm、深さ 18 cm) は壁柱穴。深さは確認面からの計測値。入口ピット P9 (径 53 ~ 35 cm、深さ 61 cm) は南壁中央に位置する。貯蔵穴 P5 (長軸 85 × 短軸 55 cm、深さ 40 cm) は北東部にある。壁溝 幅 20 ~ 32 cm、深さ 10 ~ 15 cm で壁際をほぼ全周する。間仕切り溝 D1 (幅 13 ~ 31 cm、深さ 13 cm)、D2 (幅 11 ~ 22 cm、深さ 9 cm)、D3 (幅 14 ~ 28 cm、深さ 12 cm)、D4 (幅 12 ~ 23 cm、深さ 13 cm)、D8 (幅 24 cm、深さ 14 cm) と東西方向に計 5 本確認。旧建物は更に 2 時

期の建替えが想定されるが区別は困難なため、まとめて述べる。P10 (径 51 ~ 43 cm、深さ 52 cm)、P11 (径 37 ~ 34 cm、深さ 48 cm)、P12 (径 45 ~ 38 cm、深さ 58 cm)、P13 (径 48 ~ 38 cm、深さ 63 cm) は主柱穴。P15 (径 22 ~ 16 cm、深さ 20 cm)、P16 (径 34 ~ 32 cm、深さ 23 cm) は不明ピット。P17 (径 40 ~ 33 cm、深さ 34 cm)、P19 (径 35 cm、深さ 25 cm) は入口ピットか。P6 (長軸 55 × 短軸 33 cm、深さ 47 cm)、P14 (長軸 77 × 短軸 41 cm、深さ 42 cm) は貯蔵穴。壁溝は幅 20 ~ 25 cm、深さ 10 cm 前後で、ほぼ全周する。D6 (幅 24 ~ 33 cm、深さ 11 cm)、D7 (幅 16 cm、深さ 11 cm)、D9 (幅 28 cm、深さ 16 cm)、D10 (幅 22 ~ 25 cm、深さ 11 cm)、D11 (幅 14 cm 前後、深さ 11 cm)、D12 (幅 17 ~ 26 cm、深さ 12 cm) は間仕切り溝で、東西方向に 6 本確認できた。カマド 調査区外のため不明。焼土・白色粘土を確認したのみ。遺物 18 点を図示。土師器環・手捏ね土器・甕・高坏・甕がある。石器類では編物石、金属製品は鉄鏃・刀子の他銅製耳環が出土した。このうち床面直上は 1・5・14・18 などがある。18 は破損した脚部を研磨し再利用している。不掲載物は土器類が小コンテナ 2.5 箱、礫が 2.1 kg 出土した。古墳時代後期末葉の建物と考えた。

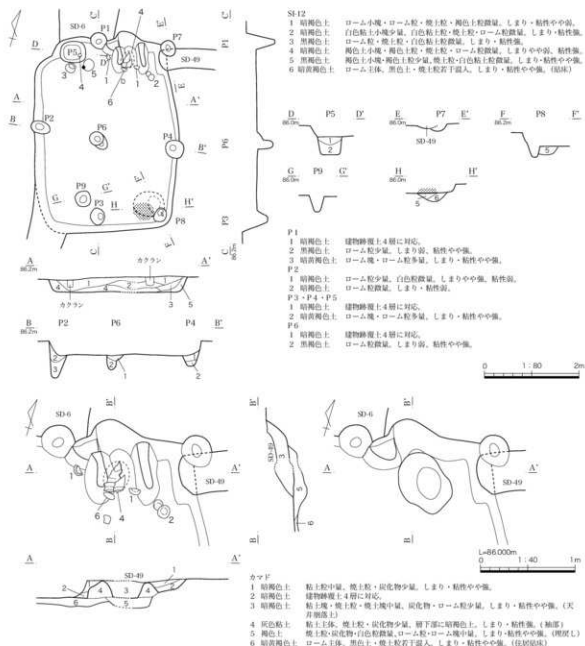
第 159 表 13 区 S1-2 出土遺物観察表

図録番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床下 (cm)	現存
1	土師器 坪	口 (12.2) 高 4.0	内面~口縁部外面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内：10YR6/2 灰黄緑 外：10YR8/4 浅黄緑	やや磁器。灰・白・黒釉砂 焼成：やや軟質	№ 6 床直	口縁部 1/2、 底部 1/8
2	土師器 坪	口 (13.4) 高 5.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面上平ヘラナデ。下平部ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。口縁部内面に赤土を塗ったと思われる科粉の付着あり。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや磁器。白・灰釉砂 焼成：やや軟質	№ 5 P5、南西、 北東	口縁部 3/4、底部 1/2
3	土師器 坪	口 12.0 高 4.3	体部内面~口縁部外面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面ヨコヘラケズリ。内外面漆仕上げ。口縁部内面に漆に剥離のみられる。	内外面とも 7.5YR8/6 浅黄緑	やや磁器。白・灰釉砂~ 黒、赤色粒 焼成：やや軟質	№ 5 3.5	ほぼ完存
4	土師器 手捏ね 土師器	口 (5.8) 底 4.9 高 4.0	内面直押圧。外面直押圧及びナデ。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや粗い。白・赤粒釉砂 焼成：やや軟質	№ 34 柱穴の中	口縁部及び 底部欠損。 体部 3/4
5	土師器 高坏	口 (14.8) 高 5.6	口縁部外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキのち黄色地。体部外面~脚縁部ヘラケズリのちナデ。脚部内面ヨコヘラケズリ。脚部底面に研磨痕あり。脚部欠損後、再利用したと思われる。	内：7.5YR2/1 黄 外：10YR7/4 鈍い黄緑	やや粗い。白・透明・灰 色釉砂~黒 焼成：やや軟質	№ 14・33、 1/4、南西 床直 (№ 14)	口縁部 1/4、底部 完存。脚部 一部
6	土師器 甕	高 [2.5]	胴部外面中位タテヘラケズリ。下位~下端部ナメヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。孔内面ヘラケズリにより穿孔。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや磁器。灰・赤・白粒 砂。黒・赤色粒 焼成：硬質	№ 27、 10.3、北東	胴部~底部 1/2
7	土師器 甕	底 11.6 高 [26.8]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナデのち緑ならタテヘラミガキ。底部外面やや外側平状のヘラケズリ。	内：10YR7/6 明黄緑 外：5YR6/6 橙	やや磁器。白・灰色赤粒 釉砂 焼成：硬質	№ 28 9.5	口縁部一 部、胴部~ 底部 5/6
8	土師器 甕	口 (18.0) 底 7.0 高 34.5	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面タテヘラケズリ。底部外面ヘラナデか。胴部中位に磁珪をもつ。胴下平部は赤土・剥離が顕著で態々調整不明。	内：10YR5/1 紅灰 外：10YR7/4 鈍い黄緑	粗い。白・灰・黒釉砂~ 黒 焼成：軟質	№ 1 7.6	口縁部 1/4、底部 完存
9	須恵器 甕	厚 0.7	外面方角目のち車位の小さな格子印。内面同心円状とも貝痕。	内外面とも 7.5YR6/1 灰	やや粗い。白・黒釉砂~ 黒、 黒色のシミ状粒子含む 焼成：硬質	№ 11 27.4	胴部破片
10	石器 編物石	長 13.0 幅 5.2 厚 3.3 重 320.0	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：不整な楕円形	5Y6/2 灰オリーブ	-	№ 27 床直	完存
11	石器 編物石	長 11.0 幅 5.0 厚 3.4 重 290.0	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：不整な楕円形	5Y6/1 灰	-	№ 21 床直	完存
12	石器 編物石	長 12.6 幅 6.9 厚 2.6 重 339.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	2.5Y6/4 に赤い黄	-	№ 22 床直	完存
13	石器 編物石	口 26.4 底 7.2 高 5.9 重 1352.0	未加工の自然礫。 平面形：長い楕円形 断面形：不整な楕円形	2.5YR4/2 灰赤	-	№ 15 床直	完存
14	不明土 製品	長 [3.6] 径 7.5	若干のナデ。 平面形：やや湾曲した棒状 断面形：円筒を呈する	10YR7/4 に近い黄緑	やや磁器。細砂 焼成：やや軟質	№ 26 床直	部分残存
15	不明砥 製品	長 [1.8] 幅 2.8 厚 0.2 重 [2.5]	楕円面に近いサ状の平面形を呈する。若干の反りを 含む。基部に稜を有する。下端部以下を欠損し、全部 及び用途は不明。	-	鉄製	南東部	部分残存
16	鉄製品 鉄鏃	長 [2.9] 幅 [2.9] 厚 0.2 重 [2.6]	無稜の楕長三方形形鏃。孔は径 4.0 mm で中央部に穿た れる。先端部を欠損。	-	鉄製	№ 25 先端部欠損 14.8	先端部欠損

17	鉄製品 刀子	長 [5.5] 幅 1.0 厚 0.2 重 [4.5]	刀子破片。刃は不明瞭。鋒幅は2.0mmで刃部は平直の。	—	鉄製	No.24 24.2	端部欠損
18	銅製品 耳環	長 [1.0] 幅 1.9 厚 0.4 重 [2.9]	平面形は楕円形。断面形は円形の。内側面の一部を残すのみで他は大きく剥落。金箔などは確認できない。	—	銅製	No.27 27.直	外面剥落

13区 SI-12 (遺構：第366図、遺物：第367図、図版五九・一〇六)

位置 グリッド102.0-52.5・102.0-53.0 重複遺構 SD-6より新しくSD-49より古い。 平面形 南北に長い隅丸長方形 規模 東西3.02×南北4.23m 主軸方向 N-22°-W 覆土 自然堆積 壁 壁高28～36cm残存。 床 ローム地山を床面とし、概ね平坦。 柱穴 P1 (径35～34cm、深さ57cm)、P2 (径



第366図 西刑部西原遺跡13区 SI-12実測図

39～26 cm、深さ63 cm)、P3(径36～30 cm、深さ51 cm)、P4(径38～38 cm、深さ25 cm)、P6(径43～29 cm、深さ28 cm)は支柱か。P7(径33～29 cm、深さ14 cm)は浅く、P8(径29～25 cm、深さ23 cm)、P9(径35～32 cm、深さ34 cm)はしっかりした掘方をもつが位置的にも柱穴とは考えにくい。

入口ピット 確認できなかった。貯蔵穴 P5(長軸53×短軸42 cm、深さ38 cm)は北西隅に位置する。

壁溝 確認できなかった。カマド 北壁東寄りに位置し壁を浅く掘り込む。煙道の立ち上がりは54°と緩やか。袖は灰色粘土を主体とする。覆土中から土師器甕(4)が出土した。遺物 6点を図示した。2・3・5が床面直上の遺物で、5の土師器甕は胴部外面下半部に縄の圧痕がみられる。不掲載遺物は土器類が小コンテナ1/2で、礫は約500 g出土した。古墳時代後期後葉(6世紀中葉)の建物跡と考えられる。



第367図 西刑部西原遺跡13区 Si-12出土遺物

第160表 13区 Si-12出土遺物観察表

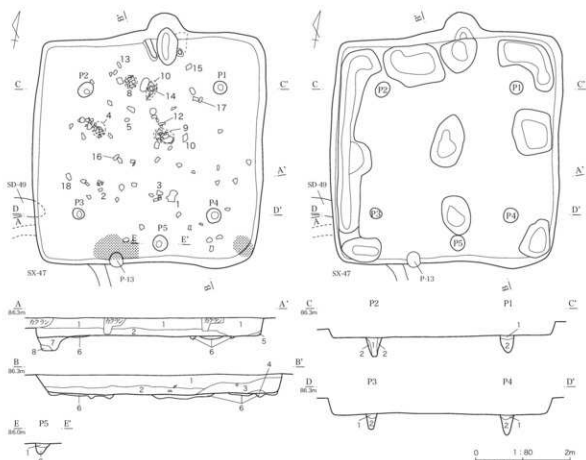
掲載番号	器種	法径(cm/g)	技法・特徴	色調	粘土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	土師器 杯	口 12.6 高 4.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上端部ナデ。中位～下位ヘラケズリのちナデ。体部～底部内面ナデ。	内: 10YR8/6 黄橙 外: 10YR7/4 にぶい黄橙	やや粗い。白・灰・黒・赤 粘砂～礫。赤色粘 焼成: やや硬質	No 8 3.0	ほぼ完存
2	土師器 杯	口 13.1 高 5.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面タテヘラケズリのち下部ヨコナデズリ。体部内面放射状ヘラミガキ。体部内面ほぼ全面塗仕上げ。	内: 10YR7/6 明黄橙 外: 7.5YR7/6 橙	やや粗い。白・灰・黒・赤 粘砂～礫 焼成: やや硬質	No 10 床直	完存
3	土師器 甕	口 14.6 底 7.6 高 16.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上平ヘラナデ。下平ナメヘラケズリのちヘラミガキ。胴部内面ヘラナデのち黒色粘埋。胴中央部に黒斑。胴下平～底部赤塗。	内: N2の黒 外: 2.5Y6/3 にぶい黄	やや粗い。灰・黒・白・赤 粘砂 焼成: やや硬質	No 1 床直	ほぼ完存
4	土師器 甕	口 (17.4) 高 [28.9]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリのち上半部及び下端部をナメヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。胴部内面に帯状(幅6-7cm)の珉化物の道筋あり。	内外面とも 10YR7/4 にぶい黄橙	粗い。白・灰・粘砂～礫 焼成: 軟質	No 6カマ下 3.9	口縁部 7/8。底部 1/2
5	土師器 甕	口 22.8 高 26.8	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半部タテヘラケズリ。下半部ナメヘラケズリのちヨコヘラケズリのちやや粗いヘラミガキ。底部ヘラケズリのち内外面ヨコナデ。胴下半部外面の結合部付近に縄圧痕あり。	内: 7.5YR6/6 橙 外: 7.5YR4/1 暗灰	やや緻密。白・黒・赤・粘 砂 焼成: 硬質	No 4 床直	口縁部 7/8。底部 完存
6	石器 扁物石	長 17.0 幅 7.6 厚 5.2 重 920.9	上半部はやや褐色味を帯びる。焼熱したものか。平面形: 扇形 断面形: 不整な楕円形	上部: 7.5YR5/2 灰黒 下部: 5Y8/2 灰白	-	No 11 6.3	部欠

13区 SI-26 (遺構: 第368図、遺物: 第369図、図版五九・一〇六・一〇七・一一六)

位置 グリッド 102.0-52.5・102.0-53.5 重複遺構 円形周溝遺構 SX-47より新しい。平面形 やや不整な隅丸方形 規模 東西4.81×南北5.25m 主軸方向 N-7°-W 覆土 自然堆積 壁 壁高32～37cm 床 概ね平坦。部分的に貼床あり。柱穴 P1 (径29cm、深さ37cm)、P2 (径37～27cm、深さ32cm)、P3 (径25cm、深さ38cm)、P4 (径32cm、深さ42cm)。主柱穴P2には明瞭な柱痕が認められた。入口ビット P5 (径34～30cm、深さ23cm)は南壁際中央やや東寄りに位置する。掘方 壁際を中心に深めの土坑状掘り込みあり。西部では床面から30cm以上の深さをもつ。カマド 北壁中央部やや東寄りに位置し、奥壁を半円形に掘り込む。煙道は段を有し、その後丸みをもって立ち上がる。袖などは殆ど残っていない。遺物 須恵器は甕や瓶類、土師器は坏・鉢・甕類、その他は編物土器、鉄滓破片(19)が出土した。床面付近の遺物は、2・4・8がある。2は平底短頸瓶の底部付近の破片、8はハケ目調整された小型の甕で、下半部はヘラケズリ調整を施す。11は器台の破片。混入品だが数少ない古墳時代前期の遺物として掲載した。不掲載遺物の総量は小コンテナ2箱弱、不掲載際重量は12kgに及ぶ。遺物から古墳時代終末期の建物跡と考えたい。

第161表 13区 SI-26出土遺物観察表

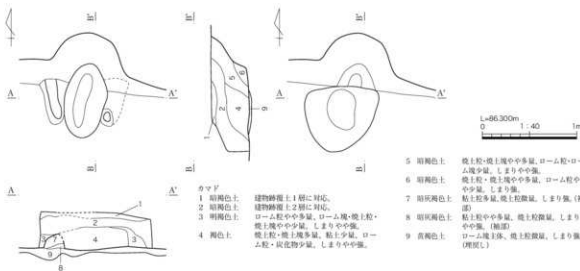
図表番号	部材	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 瓶破片	高 [21.9]	内外面ロケロナテ。胴部外面上平カキ目。胴部外面下部部一底部外面両ヘラケズリ。内面底部上縁。底部は合部内面ヘラケズリのうち細部直上。合部外面底部一部に凹みあり。黄褐色の粘土土 (種別不明) 敷付。	内: N5/6 灰 外: 10Y6/1 灰	やや粗い。白・灰・黒細砂～微塵 焼成: 硬質	No 17 0.6	胴部～口縁部2/3
2	須恵器 平底短頸瓶	底 (8.2) 高 (6.8)	内外面ロケロナテ。胴部外面下部手持ちヘラケズリ。底部外面調整不明。	内外面とも N5/1 灰	やや粗い。白・灰・黒細砂～微塵 焼成: 硬質	No 25, S1, 27 No 94 0.8	底部～胴部1/2
3	須恵器 甕	厚 1.0 高 [7.7]	外面平行明ち。内面浅い同心円状あて具痕。	内: 5G5/1 緑灰 外: 5B4/1 青灰	やや粗い。白・灰色粗砂～微塵 焼成: 硬質	No 18 20.4	胴部破片
4	土師器 坏	口 13.3 高 4.8	口縁部内外面及び外面内面ヨコナテ。体部～底部外面多方向ヘラケズリ。全体土直上仕上げ。	内: 10YR7/3 に近い黄褐色 外: 10YR7/4 に近い黄褐色	粗い。白・灰・黒細砂～微塵 焼成: やや軟質	No 36, 北西 2.6	口縁部3/4
5	土師器 手挽ひ土器	口 (5.4) 底 4.4 高 2.5	内外面直造り押し及びナテ成形。口縁部は打ち欠いたような痕跡があるが不明瞭。	内: 5YR7/8 橙 外: 5YR6/6 橙	やや軟質。灰・白・黒細砂。赤色粘 焼成: やや軟質	No 42 25.0	口縁部一部、底部完存
6	土師器 手挽ひ土器	底 4.3 高 [2.3]	外面縦位のナテ。内面不明。底部外面スタレ状圧痕少。	内: 5YR7/6 橙 外: 7.5YR7/6 橙	粗い。白・灰・黄粘砂。黒・灰・黒細砂～微塵 焼成: 軟質	南東	底部完存、体部一部
7	土師器 鉢	口 (14.4) 高 (8.2)	内外面ともに人念へラミガキ。底部外面木炭痕のち多方向ヘラケズリ。内面一部に褐色の付着物あり。漆か。	内: 5YR6/6 橙 外: 2.5YR5/6 明赤褐	やや軟質。白細砂。赤色粘 焼成: やや軟質	北西	口縁部1/4、底部2/5
8	土師器 甕	口 15.9 底 6.5 高 18.4	口縁部外面ハケ目のちヨコナテ。胴部外面ハケ目のち下部タテヘラケズリ。口縁部内面ヨコナテのちハケコ・ナメヘラケズリ。胴部内面タテヘラケズリ。底部外面多方向ヘラケズリのちナテ。胴上半部は内外面とも黄褐色が著しく調整は不明瞭。	内外面とも 5YR6/8 橙	粗い。白・灰・黒細砂～微塵 焼成: やや軟質	No 50 1.4	口縁部3/4、底部完存
9	土師器 甕	口 (18.0) 底 5.3 高 30.4	口縁部内外面ヨコナテ。胴部内面ヘラナテ。胴部外面上下部タテヘラケズリ、下部ナメヘラケズリ。底部外面木炭痕。	内: 10YR6/3 に近い黄褐色 外: 10YR7/4 に近い黄褐色	粗い。白・灰・黒細砂～微塵 焼成: やや軟質	No 60, 覆土中、北西、北11.2	口縁部1/2、底部完存
10	土師器 甕	口 18.8 底 5.3 高 20.3	口縁部内外面ヨコナテ。胴部内面タテヘラナテのちヨコ・ナメヘラケズリ。胴部外面タテヘラケズリ。底部外面多方向ヘラケズリのちナテ。胴上半部は内外面とも黄褐色が著しく調整は不明瞭。	内外面とも 10YR7/4 に近い黄褐色	粗い。黒・白・灰・赤色粘細砂～微塵 焼成: やや軟質	No 52、67、北へ6ト、北東 15.0 (No 52)	口縁部1/2、底部完存
11	土師器 器台	高 [4.0]	外面内面直造り調整不明。環部～胴部外面タテヘラケズリ。底部の孔はヘラケズリにより両面から穿孔。環部は3か所孔あり。表面から穿孔か。混入品。	内: 5YR6/6 橙 外: 7.5YR6/6 浅黄褐	粗い。白・透明・黒・赤粘・灰細砂～微塵 焼成: 軟質	北西	底部～胴部の破片
12	石器 編物土器	長 13.1 幅 5.2 厚 4.5 重 450.0	未加工の自然礫。平面形: 不整形 断面形: 歪んだ円形	7.5Y7/1 灰白	—	No 58 13.8	ほぼ完存
13	石器 編物土器	長 13.0 幅 5.5 厚 3.5 重 395.5	未加工の自然礫。平面形: 長い楕円形 断面形: 楕円形	2.5Y6/3 に近い黄	—	No 46 床直	完存
14	石器 編物土器	長 11.4 幅 6.0 厚 3.4 重 331.0	未加工の自然礫。平面形: 楕円形 断面形: 隅丸の菱形	10YR7/2 に近い黄褐	—	No 53 18.9	ほぼ完存



SI26

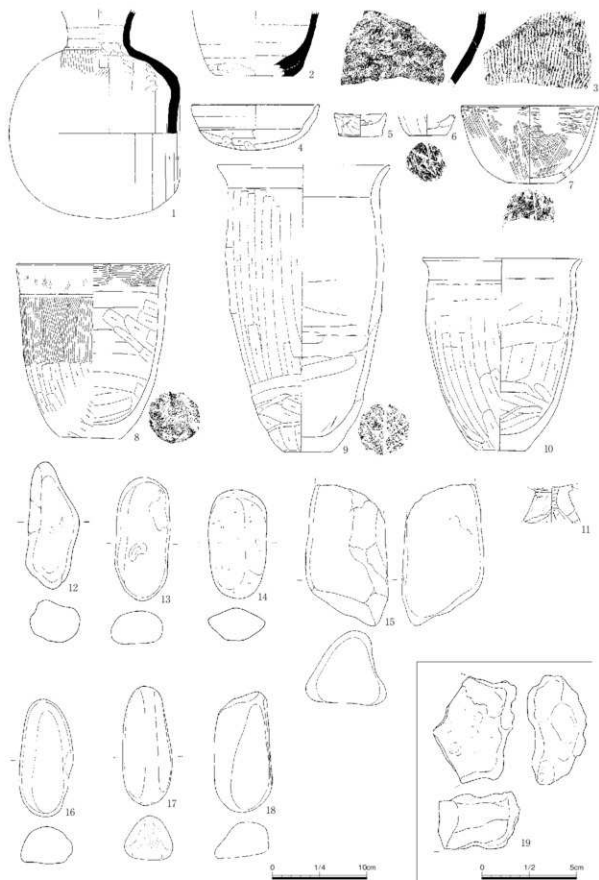
- 1 暗褐色土 焼土粒・ローム粒・炭化物少量、白色粒散見、しまり強。
- 2 暗褐色土 ローム粒・白色粒・炭化物少量、焼土粒散見、しまり中強。
- 3 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・焼土塊中少量、白色粒散見、しまり中強。
- 4 暗褐色土 ローム粒・焼土粒中少量、しまり中強。
- 5 暗褐色土 ローム粒・白色粒・焼土粒少量、炭化物・焼土塊散見、しまり中強。
- 6 褐色土 ローム粒中少量、しまり中強。(原状)
- 7 褐色土 ローム粒中少量、ローム塊少量、しまり中強。(原状)

- 8 黄褐色土 ローム塊と暗褐色土の混土层、しまり強。(原状)
- P1・P3～P5 ローム粒・白色粒・炭化物少量、焼土粒散見、しまり中強。(採取時)
- 1 暗褐色土 ローム粒・白色粒・炭化物少量、焼土粒散見、しまり中強。
- 2 暗褐色土 ローム粒多量、ローム塊少量、しまり中強。(採取時)
- P2
- 1 褐色土 ローム粒・白色粒少量、しまり強。(柱状)
- 2 黄褐色土 ローム粒・ローム塊多量、しまり強。(掘込時)



- 5 暗褐色土 焼土粒・焼土塊中多量、ローム粒・ローム塊少量、しまり中強。
- 6 暗褐色土 焼土粒・焼土塊中多量、ローム粒中少量、しまり強。
- 7 暗褐色土 粘土粒多量、焼土粒散見、しまり強。(掘込時)
- 8 暗褐色土 粘土粒中多量、焼土粒散見、しまり中強。(原状)
- 9 黄褐色土 ローム塊主体、焼土粒散見、しまり強。(原状)

第368図 西刑部西原遺跡13区 SI-26 実測図



第369図 西刑部西原遺跡13区 SI-26出土遺物

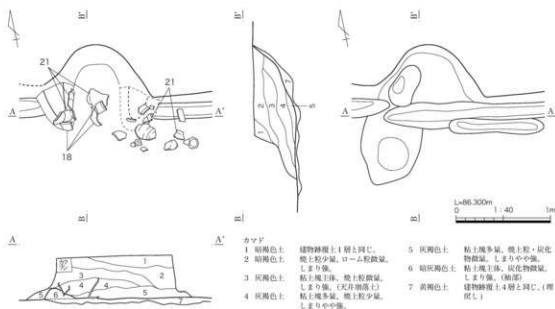
15	石器 編物石	長 13.5 幅 8.4 厚 7.6 重 1052.3	上部部は鋭く赤変、下部部は黒みを帯びスあるいは タール状の炭化物が附状に付着。上部部欠損。 平面形：棒状 断面形：楕丸三角形	10YR5/3 に近い黄褐色	-	No.1 2.8	部欠
16	石器 編物石	長 12.4 幅 5.0 厚 3.8 重 407.7	未加工の自然産。 平面形：長い楕円形 断面形：楕円形	5YR/1 灰	-	No.32 20.3	完存
17	石器 編物石	長 12.5 幅 5.2 厚 4.5 重 417.6	上端・下端部には縦行幅あり。 平面形：楕円形 断面形：楕丸三角形	7.5YR/2 灰オリーブ	-	No.3 12.6	完存
18	石器 編物石	長 12.4 幅 5.8 厚 3.6 重 488.0	未加工の自然産。 平面形：楕丸の長方形 断面形：平整な台形	7.5Y5/2 灰オリーブ	-	No.29 7.6	完存
19	鉄片	長 [5.7] 幅 [4.2] 厚 [2.9] 重 [69.9]	板形鍔治湾と考えられるが不明瞭。破面に分厚いサビ がみられることから廢棄された鉄片に2次的に鉄分が 付着したと考える。	表面ともサビあり 7.5YR5/6 明褐色	埋藏深度：6	1層中	部欠

13区 SI-27 (遺構：第370・371図、遺物：第372・373図、図版一〇七・一一二)

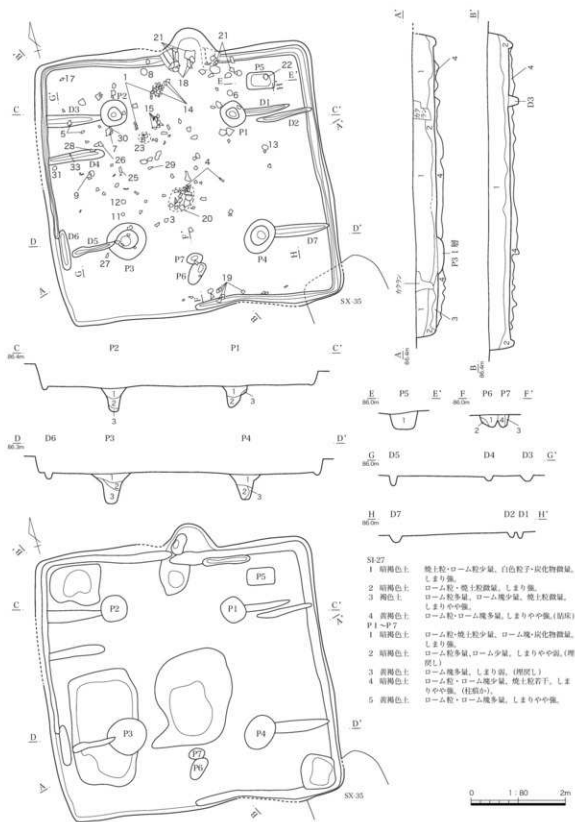
位置 グリッド 102.0-53.5 重複遺構 奈良時代の竪穴状遺構 SX-35 より古い。平面形 概ね正方形 規模 東西 5.92×南北 6.03 m 主軸方向 N-4°-E 覆土 暗褐色土主体の3層に分層、自然堆積か。

壁 壁高 42～47 cm 床 細かな凹凸があるが概ね平坦。柱穴 P1 (径 56～48 cm、深さ 45 cm)、P2 (径 58～54 cm、深さ 50 cm)、P3 (径 83～78 cm、深さ 57 cm)、P4 (径 73～66 cm、深さ 54 cm)。いずれも柱痕は確認できなかった。入口ピット P6 (径 66～33 cm、深さ 26 cm) は南壁際から 60 cm ほど離れて位置する。貯蔵穴 北東コーナーの P5 (長軸 58×短軸 37 cm、深さ 37 cm) は長方形の掘方をもつ。壁溝 確認できなかった。掘方 北西・南東隅、中央部及び南西部にはやや浅い土坑状の掘り込みが認められ、ローム土主体の4層で埋戻す。カマド 北壁中央部やや東寄りに位置する。煙道部は隅丸台形状に掘り込む。煙道はくの字に段をもち立ち上がる。袖の残存は非常に悪い。土師器甕(18・21)が覆土中から出土する。

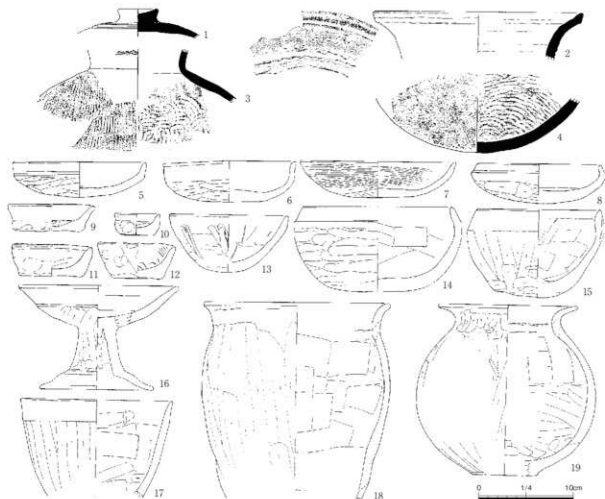
遺物 須臾器は蓋・甕類、土師器は坏・粗製坏・手捏ね土器・鉢・高坏・甕・甗と器種も豊富で、その他編物石、焼成粘土塊、土玉、鉄鏃がある。この内 6・8・15・20 などが床面付近からの出土遺物である。不



第370図 西刑部西原遺跡13区 SI-27 実測図(1)



第371図 西刑部西原遺跡13区 SI-27実測図(2)

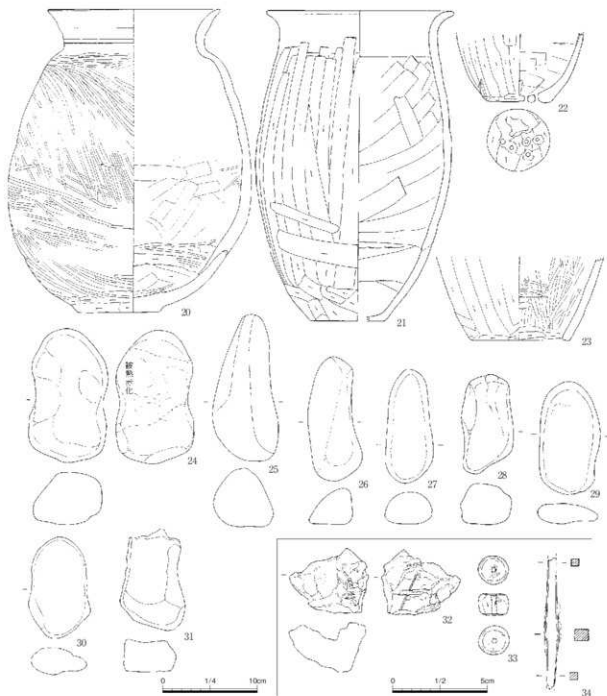


第372図 西刑部西原遺跡13区 SI-27出土遺物(1)

掲載遺物は土器類が小コンテナ4箱分と多く、礫の総重量は9.4kgである。古墳時代後期末(6世紀末~7世紀初頭)の建物跡と考えられる。

第162表 13区 SI-27出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	粘土・素材・焼成	出土位置・深上(cm)	残存
1	須恵器 甕	口 (12.8) 高 (3.0) 径 (3.9)	ツマミ分厚いリング状。天井部回転ヘラケズリのちか手白。表面は灰色。裏面及び断面は褐色を呈する焼成不良の土器。高杯の蓋か。	内: 5YR6/8 橙 外: 5Y5/2 灰オリーブ	中々粗い、白・灰・黒粗砂-礫 焼成: 中々軟質	№13・37 21.9 (№13)	天井部1/2、ツマミ底部欠損
2	須恵器 甕	口 (22.0) 径 (5.2)	口縁部~頸部内外面ロケロナデ。頸部外面縞波状文。	内: N4/0 灰 外: N3/0 暗灰	中々粗い、白・灰粗砂-礫 焼成: 硬質	北西	口縁部1/高
3	須恵器 甕	高 [5.3] 径 (5.2)	外面平行印キ。内面同心円状あて具痕。頸部内外面ロケロナデのち外面縞波状文。	内: N4/0 灰 外: 2.5YR/1 黄灰	中々粗い、白・黒・灰粗砂、白色粘多量、灰色礫少量、石英粒微量 焼成: 硬質	№98、南 10.8	胴部破片
4	須恵器 甕	高 [5.7]	内面同心円状あて具痕。外面平行印キのちナデ。	内: N5/0 灰 外: N4/0 灰	中々粗い、白・灰・黒粗砂-礫 焼成: 硬質	№73・80、 南 18.6 (№73)	底部2/3
5	土師器 坪	口 (13.9) 高 3.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面ナデ。漆仕上げ。口縁部は使用により磨滅したものか。	内: 10YR8/4 浅黄橙 外: 10YR7/4 に近い黄橙	細密、透明・赤色粘・灰 黄粗砂 焼成: 中々硬質	№3・22 9.7 (№22)	口縁部 1/2、底部
6	土師器 坪	口 14.0 高 4.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面ナデか。漆はほぼ全面に使われたものと考え、体部内面、1か所にミソ仕痕確認。	内外面とも7.5YR6/6 橙	中々細密、白・赤・黒・灰粗砂-粗砂 焼成: 中々硬質	№66 1.9	口縁部 3/4、底部 完存
7	土師器 坪	口 16.5 高 3.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデのちヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。内面及び体部外面漆仕上げ。	内: 10YR7/4 に近い黄橙 外: 7.5YR7/6 橙	中々細密、白・灰粗砂-礫 焼成: 中々硬質	№18 10.8	口縁部 3/4、底部 4/5
8	土師器 坪	口 12.8 高 4.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面ナデ。	内: 5YR7/8 橙 外: 5YR6/6 橙	中々粗い、白・灰・黒・赤色粘粗砂-礫 焼成: 中々軟質	№8 2.2	完存



第373図 西刑部西原遺跡13区 SI-27出土遺物(2)

9	土師器 坏	口 12.9 底 8.1 高 2.9	体部内面~口縁部外面ヨコナデ。底部内面焼成前の電 装補修痕あり。体部外面~底部外面ナデ及び指頭押圧。 粗雑なつくり。	内：10YR5/3に淡い黄褐色 外：7.5YR7/6 橙	中今織物、白・黒・灰緑 砂 焼成：硬質	№141 6.4	口縁部 3/4、底部 完存
10	土師器 坏	口 4.1~4.5 底 3.5 高 2.5	体部~底部内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。体部外 面~底部外面指頭押圧及びナデ。小型で雑なつくり。	内：10YR6/6 明黄褐色 外：10YR3/1 黒黄	中今粗い、白・灰緑砂 焼成：中今軟質	北	ほぼ完存
11	土師器 坏	口 8.1 底 6.7 高 3.3	口縁部内外面へラナデ工具による沈靨。体部内面へラナ デ。体部外面~底部外面ナデ及び指頭押圧。磨減が 著しく調整は不明瞭。	内：2.5Y4/1 黄灰 外：10YR 灰黄褐色 5/2	粗い、白・赤・黒細砂~ 粗砂 焼成：中今硬質	№83 3.7	ほぼ完存
12	土師器 坏	口 8.0 底 5.0 高 3.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ指頭押圧。体部 内面へラナデ及びナデ。底部外面ナデ。線刻あるいは 糸状物(毛髪)の正痕。磨減顯著のため調整は不明瞭。 雑なつくり。	内：10YR4/1 黄灰 外：10YR5/2 灰黄褐色	中今粗い、白・黒・赤・ 灰緑砂 焼成：中今軟質	№86 2.7	ほぼ完存

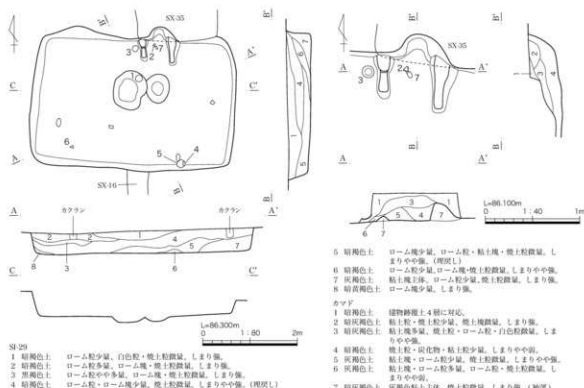
13	土師器 坪	口 12.4 高 6.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。輪軸痕あり。体部内面ヘラナデ。体部外面には乾燥段階で生じた褐色の焼痕を補修した包帯が3か所認められる。	内：10YR8/4 に近い黄褐色：10YR7/2 に近い黄褐色	やや粗い。灰・黒・赤粗砂 焼成：硬質	№ 70 26.1	完存
14	土師器 鉢	口 (15.5) 高 8.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面のちヘラナズリ。内面直仕上げ。平底に近い。	内：10YR7/2 に近い黄褐色：10YR8/2 灰白	細密。白・黒粗砂 焼成：やや軟質	№ 10・12 5.7 (№ 10) № 41	口縁部 1/2。底部 1/2
15	土師器 鉢	口 12.8 高 9.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面タテヘラズリ。体部内面ヘラナデ。内面黒色処理。底部外面には粘土を積り足したと考えられる痕跡あり。溝なつくり。おみ大。口縁部一体部上半にかげ割線が面著。特に口縁部直下の割線は帯状に透っており、このうちの一部分は焼成時に割線した可能性もある。	内：2.5Y3/1 黒褐色：10YR8/4 浅黄褐色	やや粗い。灰・黒・白粗砂 焼成：やや軟質	№ 41・ 42・44。北 中央 床直 (№ 44)	ほぼ完存
16	土師器 高坪	口 (16.6) 高 (11.0)	内面へ口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラズリ。側部外面タテヘラズリ。内面ヨコヘラズリ。底部ヨコナデ。	内：5YR6/6 褐色：5YR5/6 明赤褐色	細密。白・灰・黒粗砂 焼成：やや軟質	北へ中央、 北。南東	口縁部1/4、 脚1/2
17	土師器 小型壺	口 (16.0) 高 [10.4]	側部外面タテヘラズリのち口縁部内外面ヨコナデ。側部内面ヘラナデ。	内：10YR6/4 に近い黄褐色：2.5Y4/3 オリーブ黒	やや粗い。白・透明・黒・白粗砂一雜。赤色粒 焼成：やや軟質	№ 1。北 17.6	口縁部 1/5。側部 2/3
18	土師器 甕	口 (19.2) 高 [21.0]	口縁部内外面ヨコナデ。側部外面タテヘラズリ。側部内面ヘラナデのち下部全体状にヘラズリ。おみ大きい。側部内底の一部に炭化物付着。	内外面とも 10YR6/3 に近い黄褐色	やや粗い。白・灰・黒粗砂一雜 焼成：やや軟質	№ 120・ 123・124。 47。下 3.3 (№ 120)	口縁部 1/2。側部 1/2
19	土師器 甕	口 (14.8) 底 (7.0) 高 17.6	口縁部内外面ヨコナデ。側部外面タテヘラズリ。側部内面ヨコまたはナメヘラナデ。	内：10YR4/1 褐灰 外：7.5YR7/6 褐色	やや粗い。灰・黒・白粗砂一粗砂 焼成：やや軟質	№ 112・ 113・114・ 115。南 内。南東 4.6 (№ 114)	口縁部 1/8。底部 1/4
20	土師器 甕	口 18.0 底 8.6 高 32.0	口縁部内外面ヨコナデ。側部外面上半部タテヘラナデのち粗いヘラミガキ。下半部～下部はヨコヘラズリのちヨコまたはナメヘラミガキ。側部内面上半部ヘラナデか。下半部ヘラナデのち内面の積み上げ体止部分をヘラズリのち織ならヘラミガキ。底部内面ヘラナデのち一方ヘラミガキ。側部内底に2か所の黒痕あり。底部外面多方向タテヘラズリ。	内：5YR6/6 褐色：5YR7/6 褐色	やや粗い。灰・黒・白・赤粗砂一雜 焼成：やや軟質	№ 87。北 1.9	ほぼ完存
21	土師器 甕	口 (19.6) 高 33.0	口縁部内外面ヨコナデ。側部外面タテヘラズリ。下部はナメヘラズリのち下部ヨコヘラズリ。側部外面ナメヘラナデのち下部ヨコヘラズリ。底部外面ヘラズリ。底部内面付近は黒色を呈する。炭化物も。	内：10Y5/3 に近い黄褐色：7.5YR7/6 褐色	粗い。白・灰・黒粗砂一雜 焼成：やや軟質	№ 119・ 123・47 № 129・№ 125・№ 137 2.7 (№ 137)	底部一部。 口縁部～側 部3/4
22	土師器 甕	口 (13.4) 底 (6.6) 高 [7.4]	側部外面タテヘラズリ。下部はナメヘラズリ。側部～底部内面ヘラナデ。底部外面一方ヘラズリのち外面から修整工具で穿孔。孔は群8つ。	内外面とも 10YR7/4 に近い黄褐色	やや粗い。灰・白・黒粗砂一雜 焼成：やや軟質	№ 142 7.0	底部完存。 側下部 1/2
23	土師器 甕	底 10.4 高 [8.9]	側部外面タテヘラズリ。側部内面ヘラナデ。一部ヘラズリのちタテヘラミガキ。底部内外面ヘラズリ。	内外面とも 7.5YR7/6 褐色	やや粗密。白・灰・黒・赤粗砂一雜 焼成：硬質	№ 55。北 9.4	底部1/2。 側下部部 1/4
24	石部 編物石	長 14.2 幅 7.9 厚 5.5 重 915.4	前面の中央部に縦長の痕跡あり。支脚か。平面形：くびれの小さい分脚形 断面形：不整形	10Y4/1 灰	—	カマド	ほぼ完存
25	石部 編物石	長 15.5 幅 6.8 厚 6.2 重 741.3	全面が暗い赤褐色を呈する。被熱したものか。平面形：不整な楕円形 断面形：楕丸三角形	5YR3/2 明赤褐色	—	№ 33 2.8	完存
26	石部 編物石	長 13.0 幅 5.4 厚 4.3 重 390.4	未加工の自然産。平面形：不整な楕円形 断面形：楕丸三角形	5Y5/1 灰	—	№ 50 28.0	完存
27	石部 編物石	長 12.1 幅 4.9 厚 3.4 重 214.0	未加工の自然産。平面形：不整な楕円形 断面形：不整な楕円形	5Y7/1 灰白	—	№ 105 23.0	完存
28	石部 編物石	長 10.6 幅 5.3 厚 4.3 重 338.1	未加工の自然産。平面形：不整な長方形 断面形：不整な楕丸正形	2.5Y7/3 浅黄	—	№ 25 15.9	部欠
29	石部 編物石	長 11.9 幅 6.3 厚 2.0 重 246.2	未加工の自然産。平面形：不整な楕円形 断面形：不整な楕円形	2.5Y7/1 灰白	—	№ 59 14.0	部欠
30	石部 編物石	長 10.8 幅 6.3 厚 2.9 重 267.0	未加工の自然産。平面形：不整な楕円形 断面形：不整な楕円形	2.5Y6/4 に近い黄	—	№ 19 6.6	ほぼ完存
31	石部 砥石か	長 [10.8] 幅 5.5 厚 3.6 重 [397.7]	右側面を打ち欠く。編物を転用した砥石か。表面は表面一面のみで磨削は明瞭。	2.5Y6/2 灰黄	—	№ 29 2.2	部欠
32	焼成粘 土塊	長 3.4 幅 4.2 厚 2.4 重 15.9	土に左面及び右面にワラ状の繊維状痕あり。灰の粘土と似ており粗い。	内外面とも 5YR6/6 褐色	やや粗い。白・赤色粗砂 焼成：やや軟質	履土中	一部残存

第3章 発見された遺構と遺物

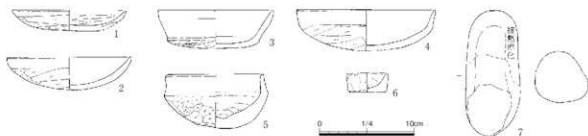
33	土製品 土玉	長 1.6 穴 0.22-0.35 孔 0.14-0.15	上面の孔はメガネ状（8の字）を呈する。孔を開け直したためか。	内外面とも 5YR7/6 程	中や微細、白微粘砂 焼成：中や軟質	No 28 22.8	完存
34	鉄製品 鉄鏃	長 (6.8) 幅 0.7 厚 0.4 重 [6.9]	長径端の破片。頸部・莖部・茎とも断面形は正方形に近い。莖部は台形。茎下部欠損。	—	鉄製	南東部覆土 中	鏃身部分欠損

13区 SI-29（遺構：第374図、遺物：第375図、図版五九・六〇・一〇七・一〇八）

位置 グリッド 102.0-53.5・101.5-53.5 重複遺構 円形周溝遺構 SX-16 より新しく、竪穴状遺構 SX-35 より古い。平面形 東西軸の長方形 規模 東西 4.25×南北 3.05 m 主軸方向 N-2°-E 覆土 埋戻しと考えられる。壁 壁高 40～55 cm 床 ローム面で、概ね平坦。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 中央部に浅いピット状の凹みあり。カマド 北壁中央部やや東寄りに位置し、壁を凸字状に掘り込む。煙道は丸みをもって立つ。構築材には灰褐色粘土を使用、残りは非常に悪い。遺



第374図 西刑部西原遺跡13区 SI-29実測図



第375図 西刑部西原遺跡13区 SI-29出土遺物

物 土師器環、手捏ね土器、礫などを掲載。1・3の土師器環が床面付近の出土。不掲載遺物のうち土器類は小コンテナ1/2箱程度、礫は1.3kgである。古墳時代終末期（7世紀後半）の建物か。

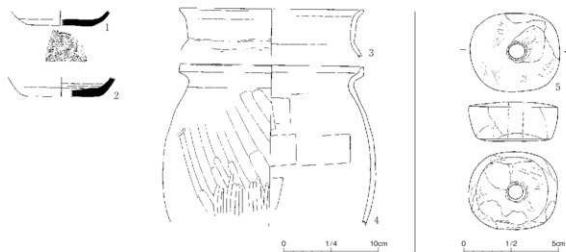
第163表 13区 SI-29 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(m/g)	投法・特徴	色調	粘土・素材・焼成	出土位置・圧上(cm)	現存
1	土師器環	口 12.0 高 2.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面強いヘラナデ。体部外面ヘラケズリ。口縁部内外面に漆喰る。	内：10YR7/3にふい黄褐色 外：10YR6/4にふい黄褐色	細密、白・灰微粒砂焼成；中々軟質	№1、南へ5mト	口縁部3/4、底部完存
2	土師器杯	口 12.9 高 3.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面磨滅のため調整不明。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内外面とも10YR7/6明黄褐色	中々粗い、白微粒砂焼成；中々軟質	マダ下№10	ほぼ完存
3	土師器杯	口 12.0 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。口縁部外面褐色付着物あり。漆か。	内：5YR6/6 粗 外：7.5YR6/6 粗	中々粗い、白・灰微粒砂焼成；中々軟質	№9、マダ下東、南東	口縁部1/2、底部3/4
4	土師器杯	口 (14.4) 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面ヨコ、底部外面一方向のヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内：10YR3/1 黒褐色 外：10YR5/3にふい黄褐色	中々細密、白微粒、赤色粒焼成；中々軟質	№6	口縁部3/4、底部1/2
5	土師器杯	口 10.1 高 5.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部一底部内面ナデ。体部外面細かいヘラケズリのちナデか。底部外面一方向ヘラケズリ。漆みが大きく厚手。全体的に磨滅なつくり。	内：10YR7/6明黄褐色 外：7.5YR7/6 粗	中々細密、白微粒、白微粒焼成；中々軟質	№7	ほぼ完存
6	土師器手捏ね土器	口 (4.2) 高 2.0	口縁部一内部内外面ナデ及び指道押上。底部外面ナデ。	内外面とも7.5YR6/6 粗	中々微密、灰微粒砂、赤色粒焼成；中々軟質	№5	ほぼ完存
7	石部編物石	長 13.1 幅 5.6 厚 5.5 重 551.7	支脚か。焼熱のため上部赤化。一部黒色染帯ひる。平面形：船門形 断面形：全整な門形	10YR5/3にふい黄褐色	-	№11、カマダ	部欠

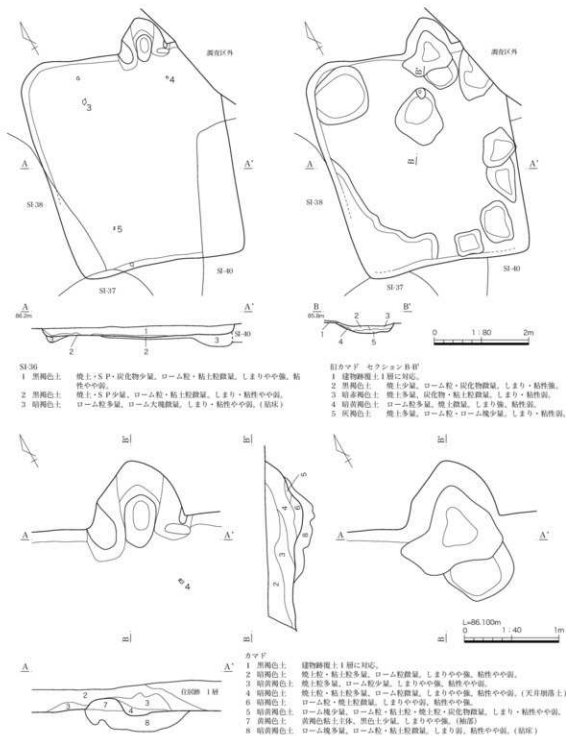
13区 SI-36 (遺構：第377図、遺物：第376図、図版六〇・一〇八)

位置 グリッド101.0.54.0 重複遺構 古墳時代後期から終末期の建物跡 SI-37・38・40より新しい。平面形 南北軸の隅丸長方形 規模 東西3.85～南北4.99m 主軸方向 N-12°-E 覆土 自然堆積か。

壁 壁高5～27cm 床 貼床あり。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 壁際に深さ20cm前後の土坑状の掘り込みが断続的にみられる。カマド 北壁中央部東寄りに位置し、丸みをもつ三角形に掘り込む。床下の掘方は深さ約10cmで、ローム塊主体の8層で埋戻す。遺物 床面直上の遺物は皆無で、1・2の須恵器環、3・4土師器裏、5の石製紡錘車が覆土中から出土。不掲載物は土師器裏類を主体とし、少量の須恵器環・蓋などがある。小コンテナ箱約1/5と少ない。遺物から平安時代の建物跡と考えたい。備考 カマド前面の床下から検出された掘り込みは、規模の小さい旧建物を拡張した際のカマドの痕跡と考えられる。



第376図 西刑部西原遺跡13区 SI-36 出土遺物



第377図 西刑部西原遺跡13区 SI-36実測図

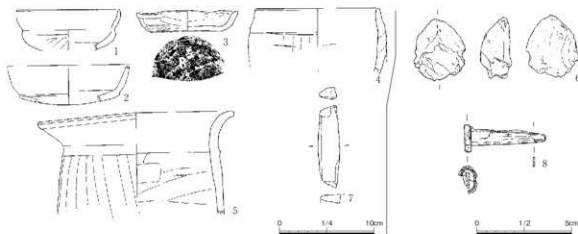
第164表 13区 SI-36 出土遺物観察表

図録番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・法上 (m)	残存
1	須恵部 坏	底 (7.0) 高 [1.7]	内外面ロクロナデ。底面外面回転系切りのち外周手持ちヘラケズリ。	内外面とも 10YR6/4 に ぶい黄緑	やや粗い、白・灰細砂～ 粗砂、灰塵 焼成：硬質	覆土	底部 1/4
2	須恵部 坏	底 (7.0) 高 [2.1]	内外面ロクロナデ。底面外面回転ヘラケズリのちナデ。	内：5Y6/1 灰 外：5Y5/1 灰	やや粗い、白・灰細砂～ 硬質 焼成：硬質	南西	底部 1/4
3	土師部 土器	口 (19.2) 高 [5.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。コの字口縁の残。	内外とも 5YR5/6 明赤褐	緻密、白・灰・黒細砂～ 硬質 焼成：やや軟質	№4、北東、 北西 7.0	口縁部 1/3
4	土師部 土器	口 (19.0) 高 [16.8]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上下ナメナデ。下部タテヘラミガキ。胴部内面ヘラナデ。	内外面とも 7.5YR5/4 に ぶい黄	やや粗い、白・灰細砂～ 硬質 焼成：やや軟質	№2、カマ 下、北東 9.5	口縁部 上 1/5
5	石製品 経線磨	長 4.7 幅 4.2 厚 2.0 重 52.5 孔 0.7-0.75	平面形は楕円長方形。上面はレンズ状に丸みをもつ。側面は土に横方向の擦痕あり。黒黒あるいは褐色を呈する部分があり、被熱したものか。	10YR7/3 にぶい黄緑	凝灰岩	№5 4.9	ほぼ完好

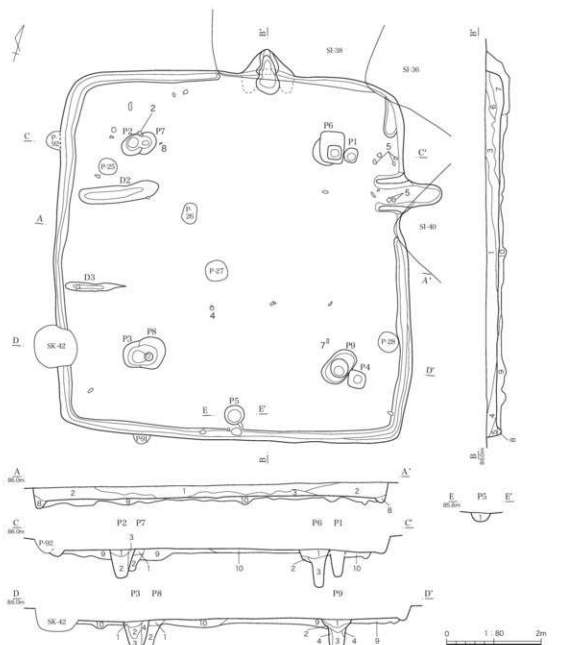
13区 SI-37 (遺構：第379～381図、遺物：第378図、図版六〇・六一・一一一五)

位置 グリッド 101.0-53.5・100.5-54.0・101.0-54.0 重複遺構・建替え SI-36 (平安時代)、SK-42 より古く、SI-38・40 (古墳時代後期) より新しい。2時期以上の建替えを確認。平面形 新旧建物とも正方形 規模

新建物：一辺 8.05 m 旧建物：一辺推定 6.4～6.5 m 主軸方向 N-15.5° -W (新建物) 覆土 自然堆積と考えられる。壁 壁高 27～38 cm 床 概ね平坦で、全面が貼床(新旧建物は床面を共有)。新建物：柱穴 P6 (長軸 79×短軸 61 cm、深さ 79 cm)、P2 (径 56～40 cm、深さ 58 cm)、P3 (径 57 cm、深さ 60 cm)、P9 (径 79～50 cm、深さ 64 cm) は主柱穴。入口ピット P5 (径 41～41 cm、深さ 19 cm)。貯蔵穴 未確認。壁溝 幅 15～20 cm、深さ 10～16 cm。間仕切り溝 D2 (幅 33～45 cm、深さ 15 cm)、D3 (幅 14～17 cm、深さ 8 cm) の2本を確認。掘方 新・旧建物とも周囲を浅く掘り込む。カマド 新カマドは東壁北寄りに位置し、平面U字状に掘り込む。煙道は長く、端部で急角度で立ち上がる。袖は灰色粘土で構築される。燃焼部から煙道にかけ、多量の焼土が堆積する。旧建物：柱穴 P1 (径 31 cm、深さ 55 cm)、P7 (推定径 40～50 cm、深さ 46 cm)、P8 (径約 70 cm、深さ 67 cm)、P4 (一辺 36～40 cm、深さ 58 cm) は主柱穴か。入口ピット P10 (径約 36 cm、深さ 15 cm) 壁溝 外側に D4、内側に D5 があり 2時

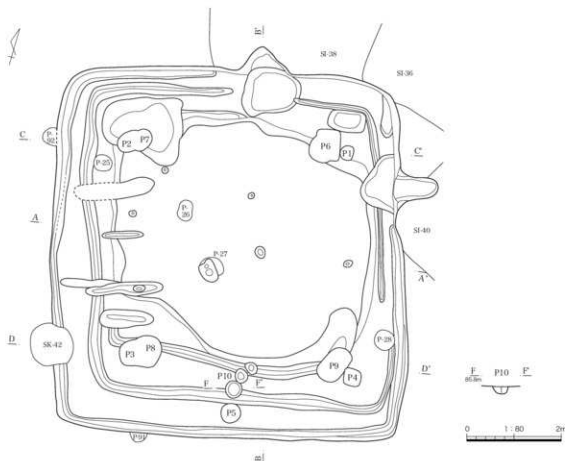


第378図 西刑部西原遺跡 13区 SI-37 出土遺物



- SI-37
- | | | | |
|---------|--|---------|---------------------------------|
| 1 褐色土 | ローム粒中少量、ローム塊少量、焼土粒・白色粒微量、しまり中平強。 | 2 褐色土 | ローム粒中少量、ローム塊中少量、しまり中平強。(採取層) |
| 2 褐色土 | ローム粒中少量、焼土粒・白色粒微量、しまり中平強。 | 3 褐色土 | ローム粒・ローム塊多量、しまり中平強。(採取層) |
| 3 褐色土 | ローム粒中少量、粘土粒・粘土塊・焼土粒・焼土塊少量、炭化物微量、しまり中平強。 | 4 暗黄褐色土 | ローム粒・ローム塊多量、しまり強。(埋戻し) |
| 4 褐色土 | ローム粒中少量、粘土粒・粘土塊少量、ローム塊・焼土粒微量、しまり中平強。 | P5・P10 | 1 暗黄褐色土 |
| 5 褐色土 | ローム粒少量、焼土粒・炭化粒微量、しまり中平強。(自然埋戻) | P6 | 1 褐色土 |
| 6 褐色土 | ローム粒・ローム塊・粘土粒・粘土塊・焼土粒少量、炭化物微量、しまり中平強。 | P7 | 2 褐色土 |
| 7 暗黄褐色土 | ローム粒・粘土粒・粘土塊・焼土粒中少量、ローム塊少量、しまり中平強。(柱サマ下から流れた土) | P8 | 3 褐色土 |
| 8 暗褐色土 | ローム粒中少量、焼土粒少量、しまり中平強。 | P7・P8 | 1 褐色土 |
| 9 暗褐色土 | ローム粒多量・ローム塊中少量、しまり中平強。(埋戻) | 1 褐色土 | ローム粒中少量、ローム塊少量、焼土粒微量、しまり強。(埋戻し) |
| 10 暗褐色土 | ローム塊中少量、ローム粒少量、しまり中平強。(埋戻) | 2 褐色土 | ローム粒中少量、ローム塊少量、しまり中平強。(埋戻し) |
| P2 | | P9 | 1 褐色土 |
| 1 暗褐色土 | ローム粒少量、焼土粒微量、しまり中平強。(建物覆土上好定) | 1 暗褐色土 | ローム粒少量、焼土粒若干、しまり中平強。(採取層) |
| 2 褐色土 | ローム粒中少量、ローム塊中少量、しまり中平強。(採取層) | 2 暗褐色土 | ローム粒少量、焼土粒若干、しまり中平強。(採取層) |
| 3 暗黄褐色土 | ローム塊多量、しまり強。(埋戻し) | 3 褐色土 | ローム粒・ローム塊多量、しまり中平強。(埋戻) |
| P3 | | 4 暗褐色土 | ローム土塊、炭土少量、しまり強。(埋戻し) |
| 1 暗褐色土 | ローム粒少量、焼土粒微量、しまり中平強。(建物覆土上好定) | | |

第 379 図 西刑部西原遺跡 13 区 SI-37 実測図 (1)



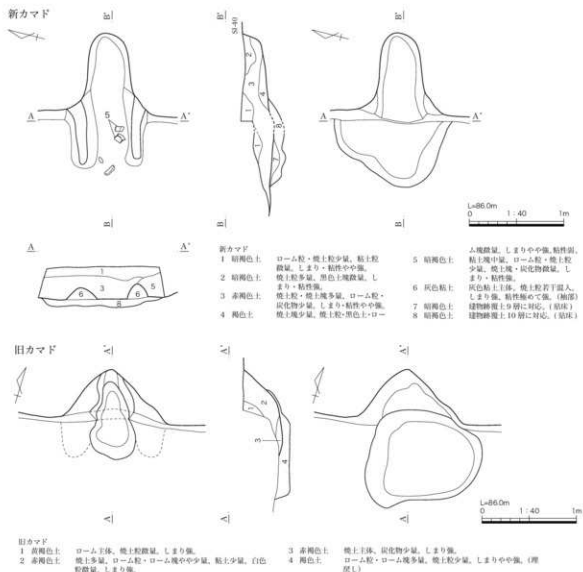
第380図 西刑部西原遺跡13区 SI-37実測図(2)

期以上の変遷が伺える。間仕切り溝 D6～D8は建物跡西部に集中。カマド 旧カマドは北壁中央部を三角形に掘り込む。煙道部は68°の角度で立ち上がる。袖部は旧住居に壊され不明。多量の焼土が認められる。遺物 出土遺物は極めて少なく、床面直上の土器類は皆無である。計8点を図示した。土器器環・手捏ね土器・鉢・甕などがある。石器類では砥石や軽石(浮きか)がある。鉄製品の刀子破片(8)は刃部を欠損するが柄の木質が残る。また柄縁金具には鞘の一部が付着している。不掲載の土器類は小コンテナ約1/2箱、際の重量は5.6kgである。遺物から古墳時代終末期(7世紀後葉)の建物跡と考えられる。

第165表 13区 SI-37出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	粘土・素材・焼成	出土位置・残土(cm)	現存
1	土師器 環	口 (10.7) 高 [4.3]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面ナデ。内面-口縁部外面部仕上げ。小型の環。縁が明確で器高が高い。	内外面とも7.5YR7/6 橙	やや微密。白・黒焼砂 やや破損	北カマド	口縁部1/8、 底部1/6
2	土師器 坪	口 (12.8) 高 [3.8]	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。全部に漆仕上げ。	内：10R6/6 赤橙 外：5YR6/6 橙	やや微密。白・黒焼砂 焼成；やや破損	№9 14.5	口縁部一 部、底部 1/5
3	土師器 坪	口 (10.4) 底 (7.4) 高 2.3	口縁部内外面強いヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面スノコあるいは敷物状の二本の沈線残止痕あり。その後、ヘラナデのも一部ヘラミガキ。体部下端ヘラケズリか。器み大きい。平底を呈する。	内：7.5YR7/6 橙 外：10YR6/3 に近い黄橙	やや粗い。灰・黒・赤砂 ～濃 焼成；やや破損	北西	口縁部1/4、 底部1/4
4	土師器 鉢	口 (12.8) 高 [6.9]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラナデか。体部内面ヘラナデか。内外面割落が著しく調整不明瞭。	内：5YR7/6 橙 外：7.5YR7/6 橙	やや粗い。白・黒・赤砂 焼成；やや破損	№16 16.0	口縁部1/4
5	土師器 甕	口19.4-20.3 高 [11.3]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面上下ナメヘラナデ。胴部外面タテのヘラナデ。器み大きく口縁部は稍門形。	内外面とも5YR5/6 明赤	やや粗い。灰・白・赤砂 ～濃 焼成；やや破損	№1・2・ 27・30、重 量マド 6.0 (№27)	胴上下1/3、 口縁部1/2

第3章 発見された遺構と遺物

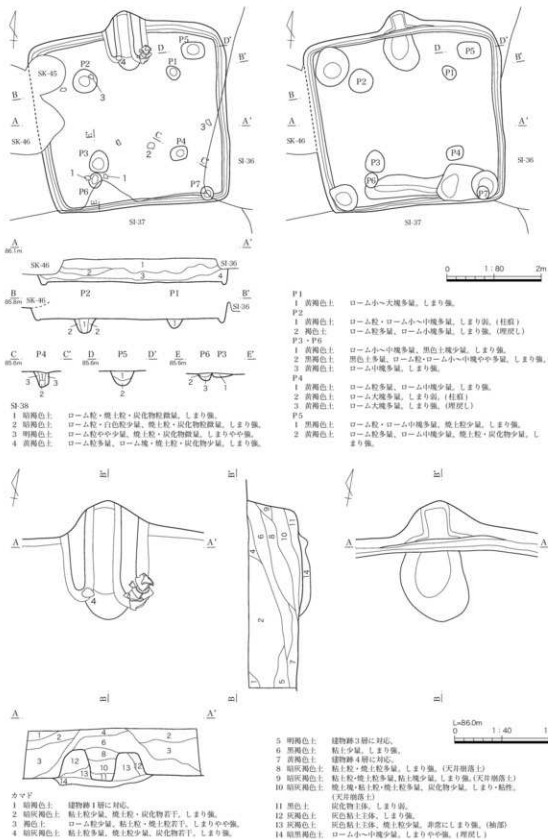


第381図 西刑部西原遺跡13区 SI-37実測図(3)

6	石器 砥石	長 3.3 幅 2.6 厚 1.5 重 3.4	加工面などはみられない。	10YR8/3 浅黄橙	—	北東	部分残存
7	石器 砥石	長 8.7 幅 2.3 厚 0.9 重 28.6	推知などは確認できない。仕上げ砥石か。上端は白黒面で未使用。 平面形：不明 断面形：不明	2.5G/Y6/1 オリーブ灰	チャートか	No.22 床直	部分残存
8	鉄製品 刀子	長 4.4 幅 0.9 厚 0.2 重 12.5	刀部欠損。柄縁の幅約3.0mm。内部には木質が残り、外面には鞘が付着する。鞘は薄く柄の木質が付着。	—	鉄製	No.8 9.0	某部残存

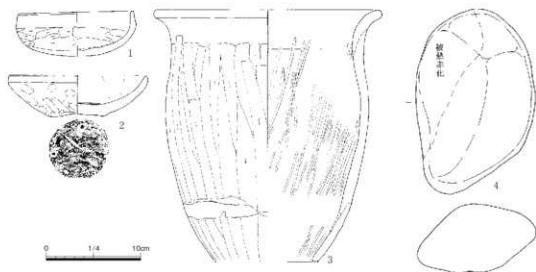
13区 SI-38 (遺構：第382図、遺物：第383図、図版六一・一〇八)

位置 グリッド 101.0-54.0 重複遺構 建物跡 SI-36 (平安時代)・37 (古墳時代終末期)、SK-46 と重複し、いずれよりも古い。平面形 正方形 規模 東西 3.94×南北 4.21 m 主軸方向 N-9.5°-W 覆土 自然堆積と思われる。壁 壁高 45 cm 床 ローム地山を床面とするが一部に貼床あり。柱穴 P1 (徑



第382図 西刑部西原遺跡13区 SI-38 実測図

31～24 cm、深さ17 cm)、P2 (径50 cm、深さ28 cm)、P3 (径45～39 cm、深さ15 cm)、P4 (径39～29 cm、深さ31 cm) は主柱穴か。入口ピット 確認できなかった。貯蔵穴 P5 (長軸48～短軸36 cm、深さ30 cm) は隅丸の長方形を呈する。その他、P6 (径33～25 cm、深さ18 cm) P7 (径26 cm、深さ37 cm) は用途不明。壁溝 幅約15 cm、深さ7～10 cmで壁際をほぼ全周する。掘方 北西隅、南壁際に土坑状の掘り込みをもつ。カマド 北壁中央部を浅く凸字形に掘り込む。袖は灰色粘土で構築する。焼土は煙道部からの流れ込みか。遺物 土師器環・埴類が少量出土。4はカマド袖内から出土した碟で、芯材と考えられる。この他不掲載遺物は土器類が、小コンテナ1/2弱、碟は約14 kg出土している。遺物から古墳時代後期末(6世紀末葉～7世紀初頭)の建物跡と考えたい。



第383図 西刑部西原遺跡13区 SI-38出土遺物

第166表 13区 SI-38出土遺物観察表

編號番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・量(m)	残存
1	土師器 環	口 11.8 高 4.7	口縁部内外面ヨコナデ内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。底部内外面顕著しく調整不明。内外面磨仕上げ。	内：10YR8/3 浅黄褐色 外：7.5YR8/4 浅黄褐色	中々粗い。赤・黒煎砂 焼成：中々硬質	№3・4。西、 南西 23.2 (№3)	口縁部3/4、 底部存
2	土師器 環	口 (14.4) 底 5.8 高 4.2	内面ヘラナデのちナデ。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ及び首調閉止。底部外面ヘラ切り。通常の土師器の胎土と比べやや硬の混入が多い。	内外面とも 7.5YR6/6 褐色	中々粗い。白・赤・黒煎砂～濃 焼成：中々硬質	№6 14.6	口縁部1/2、 底部存
3	土師器 皿	口 (23.0) 底 (10.7) 高 26.7	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナデのちタテヘラミガキ。乳の下部部分が一部残存が調整不明瞭。	内：10YR/6 明黄褐色 外：10YR5/1 弱灰	中々粗密。黒・白・赤煎砂～煎砂 焼成：硬質	№7。カマド 1/2。底部 3/4。胴部 3/5。	口縁部 1/2。底部 3/4。胴部 3/5。
4	石器 支脚	長 19.5 幅 12.1 厚 7.2 重 2329.6	側縁近辺に地熱による赤化及びスガが見える。 平面形：不整な楕円形 断面形：不整な楕円形	2.5YR/3 淡黄	—	№3。カマド 23.2	ほぼ存

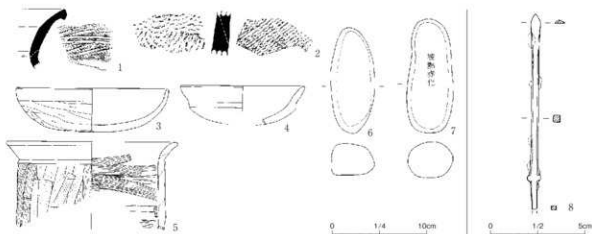
13区 SI-39 (遺構：第384図、遺物：第385図、図版六一～一一二)

位置 グリッド100.5-54.0・100.5-54.5 重複遺構・建替え 古墳時代後期の建物跡SI-40より新しい。柱穴の状況から建替え(拡張か)が想定できる。東半部は調査区外。平面形 北壁がやや丸みをもつ隅丸方形か。規模 東西4.97 m以上×南北5.31 m 主軸方向 N-8°-E 覆土 黒褐色土及び黄褐色土の2層に分層。自然堆積。壁 壁高20～27 cm 床 全面が貼床。若干の凹凸あり。柱穴 P1 (径38～33 cm、深さ50 cm)、P2 (径約35 cm、深さ55 cm)、P3 (径約36 cm、深さ33 cm)は拡張後の柱穴。P4 (径



第384図 西刑部西原遺跡13区 SI-39 実測図

37～30 cm、深さ 67 cm)、P5 (径 46～46 cm、深さ 48 cm)、P6 (径 38～31 cm、深さ 33 cm) は拡張前の主柱穴。入口ピット P7 (径 38～34 cm、深さ 29 cm) は南壁中央部に位置する。貯蔵穴 確認できなかったが、調査区外に存在する可能性が高い。壁溝 西壁と南壁に確認できる (幅 20～25 cm、深さ 4～8 cm)。掘方 全体的に浅い凹凸を有し、四隅に土坑状の掘り込みがある。深さは 15～20 cm で、黄褐色土 (3層) で埋戻している。カマド 左半部を調査。北壁中央部やや東に位置し、煙道は浅く半円形に掘り込む。袖は灰褐色粘土で構築。主体焼土は煙道部に厚く堆積する。遺物 土器類は須恵器裏小破片、土師器環・埴、編物石、鉄製品 (鉄鏝) が出土。土師器環 (3) のみが床直の遺物。不掲載土器類は小コンテナ箱 1/3、碟は 3.6 kg 確認された。本建物跡は古墳時代終末期 (7世紀前半から中葉) と考えられる。



第 385 図 西刑部西原遺跡 13 区 SI-39 出土遺物

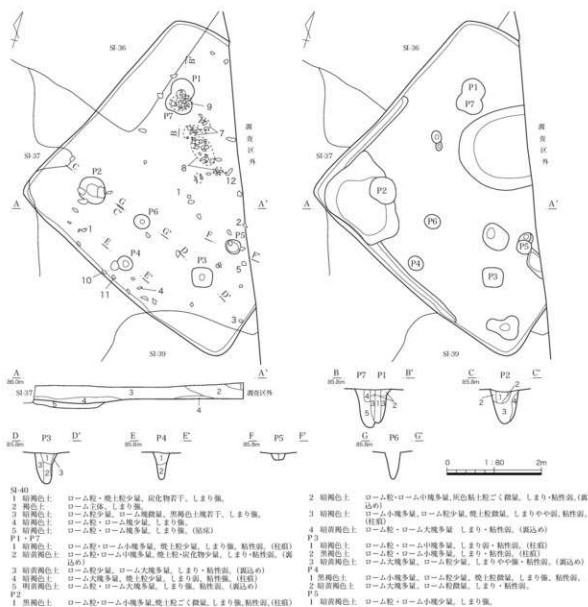
第 167 表 13 区 SI-39 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・残土 (cm)	現存
1	須恵器 鏝	高 [5.6]	口縁部2条の横位沈線を挟み、その上下に斜位の細刺突文を施す。	内: N5/O 灰 外: N4/O 灰	中・中硬形、白細砂 焼成: 硬質	No. 23	口縁部破片
2	須恵器 鏝	高 [4.6]	外面格子印。内面同心円状あて貝痕。	内: IOY86/3 にぶい黄緑 外: IOY88/1 灰白	中・中硬形、白細砂 焼成: 硬質	北東	胴部破片
3	土師器 環	口 [15.8] 高 4.6	口縁部内外面ヨコナデ。縁部外面ヘラケズリ。体部内面ナデ。内外面磨上げ。	内: IOY87/4 にぶい黄緑 外: IOY86/3 にぶい黄緑	緻密、黒・白・赤細砂 焼成: 硬質	No. 6・25・ 26・36、北東 床直 (No. 25・ 26)	口縁部 1/2、底部 完存
4	土師器 環	口 [12.8] 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面的風のため調整不明。内外面コロケ仕上げ。	内: 7.5YR7/6 橙 外: IOY88/4 浅鉄橙	中・中硬形、白・黒細砂 焼成: 中・中軟質	No. 3、南 14.6	口縁部 1/2、底部 1/2
5	土師器 鏝	口 [17.6] 高 [9.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテハケ目。胴部内面ヨココケ目。粘土の接合痕が明確に認められる。	内外面とも 5YR5/6 明赤 濁	中・中粗い、黒・白・灰・ 赤細砂 焼成: 中・中硬質	No. 1・2 5.2 (No. 1)	口縁部一側 部上平 1/4
6	石器 編物石	長 11.2 幅 4.5 厚 3.4 重 278.9	未加工の自然産。平面形: 楕円形 断面形: 隅丸方形	IOY4/1 灰	—	No. 30 1.8	ほぼ完存
7	石器 編物石	長 12.0 幅 4.8 厚 3.8 重 331.0	焼熟したものか今体系的に赤化している。平面形: 楕円形 断面形: 楕円形	IOYR5/2 灰黄濁	—	No. 34 6.7	完存
8	鉄製品 鉄鏝	長 [11.2] 幅 0.5 厚 0.3 重 [6.0]	前式の長頸錐。錐身は片丸造り。頸部は正方形を呈し、一辺 3.7 mm ほど。刺突部で、頸の下端部を欠損。	—	鉄製	No. 21 11.4	頸部欠損

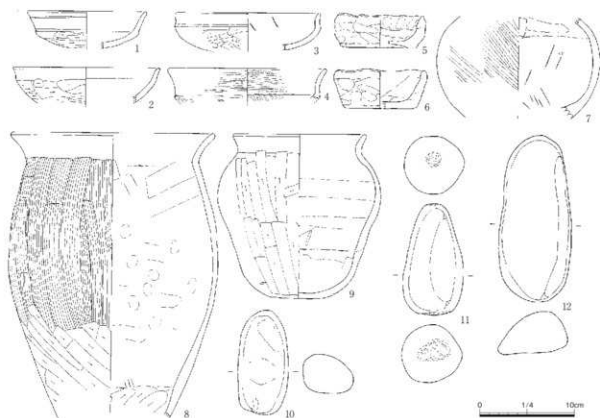
13 区 SI-40 (遺構: 第 386 図、遺物: 第 387 図、図版六一・一〇八)

位置 グリッド 100.5-54.0・101.0-54.0 重複遺構 SI-36 (平安時代)・37・39 (いずれも古墳時代終末期)

と重複し、いずれより古い。平面形 不整形 規模 東西5.36～南北5.38 m 主軸方向 N・21.5°・E
 覆土自然堆積か。壁 壁高35～40 cm 床 部分的に貼床あり。硬化面は未確認。柱穴 P1(径50 cm、
 深さ70 cm)、P2(径56～53 cm、深さ66 cm)、P3(径49～46 cm、深さ64 cm)、P7(径約56 cm、深さ78 cm)
 は主柱穴と考えられる。貯蔵穴 未確認。入口ピット P4(径34～30 cm、深さ56 cm)は南壁際にあ
 る。ピット P5(径31～28 cm、深さ14 cm)、P6(径33～30 cm、深さ58 cm)は用途不明。壁溝
 南壁・西壁の一部に確認。幅約20 cm、深さ約10 cm。掘方 中央部には浅く、南西隅は土坑状の掘り込み
 を確認。暗褐色土5層で埋戻す。カマド 確認できなかった。遺物 土師器環・手捏ね土器・鉢・小形壺・
 甕のほか編物石が見られる。3・7・8・9・12は床面直上出土。不掲載の土器類は小コンテナ1箱弱、礫
 は17.2 kgと多い。古墳時代後期(6世紀末から7世紀初頭)の建物跡と考えられる。



第386図 西刑部西原遺跡13区 SI-40 実測図



第 387 図 西刑部西原遺跡 13 区 SI-40 出土遺物

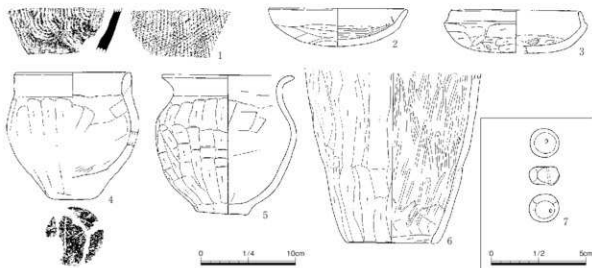
第 168 表 13 区 SI-40 出土遺物観察表

掲載番号	図略	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	土師器 坏	口 (12.4) 高 [3.9]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。全体漆仕上げ。口縁部に明かな沈線あり。	内：7.5YR7/4 に近い橙 外：7.5YR6/4 に近い黄	胎土・素材・焼成 中～やや粗い。赤・黒・白・灰・透明細砂～粗砂。赤色粒。礫 焼成：中～軟質	No.45, 南東 床土 7.5	口縁部 1/2, 底部 2/5
2	土師器 坏	口 (15.2) 高 [4.2]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヨコナデ。体部外面ナデのちヘラケズリ。内外面薄く褐色の付着物あり。漆か。	内：10YR4/4 黒 外：10YR5/3 に近い黄黒	胎土・素材・焼成 中～粗い。白・黒・赤細砂～粗砂。礫。赤色粒 焼成：中～軟質	No.21 20.6	口縁部～体 部破片
3	土師器 坏	口 (14.8) 高 [3.9]	体部内面～口縁部外面ヨコナデ。口縁部内面一部ヘラナデあり。体部外面ヨコヘラケズリ。漆仕上げか(漆は内面に多く残る)。	内：10YR7/4 に近い黄黒 外：10YR7/6 明黄橙	胎土・素材・焼成 中～粗い。白・黒・灰細砂～粗砂。礫少量 焼成：中～軟質	No.28 床直	口縁部 1/8, 底部 1/8
4	土師器 坏	口 (8.2) 高 [3.5]	体部内面ヘラミガキのち黒色処理。体部外面ヘラミガキ。体部内外面漆仕上げか。	内：2.5Y2/1 黒 外：2.5Y5/3 黄黒	胎土・素材・焼成 中～粗い。白・灰・透明細砂～粗砂 焼成：中～軟質	No.38 13.3	口縁部～体 部 1/6
5	土師器 坏	口 8.8 底 8.3 高 [3.4]	口縁部内外面薄なヨコナデ。体部内面輪轡帯のち指頭押圧。体部外面ヘラナデ。	内：2.5Y2/1 黒 外：10YR1.7/1 黒	胎土・素材・焼成 中～粗い。黒・白細砂～粗砂 焼成：中～軟質	No.25 28.7	ほぼ完全 存
6	土師器 坏	口 (8.8) 高 [4.0]	口縁部内外面薄なヨコナデ。体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面ナデのち指頭押圧。底部外面ナデ。漆仕上げか。	内：10YR6/3 に近い黄黒 外：10YR6/2 灰黄黒	胎土・素材・焼成 中～粗い。白・黒・灰細砂～粗砂 焼成：中～軟質	南東	口縁部 1/3, 底部 1/3
7	土師器 小型壺	高 [10.7]	胴部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。胴部内面ヘラナデ。胴部内面ナデか。内面の赤化は二次的に被膜したためか。内面にモエミ痕あり。	内：2.5YR6/3 に近い黄黒 外：7.5YR6.6 橙	胎土・素材・焼成 粗い。黒・白・灰細砂～粗砂 焼成：中～軟質	No.13・14, 西 南東, 南西 床直 No.13・14)	胴部ほぼ完 全 存
8	土師器 甕	口 (21.0) 高 [27.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテハケ目。下底部ナナメヘラケズリ。胴部内面指頭押圧・ナデ成形のち上半部ヘラナデ。下底部ナナメヘラケズリ。	内：10YR4/3 に近い黄黒 外：10YR5/2 灰黄黒	粗い。白・灰・黒細砂。灰礫 焼成：軟質	No.15・16 床直 (No.15・16)	口縁部 1/4, 胴部 3/4

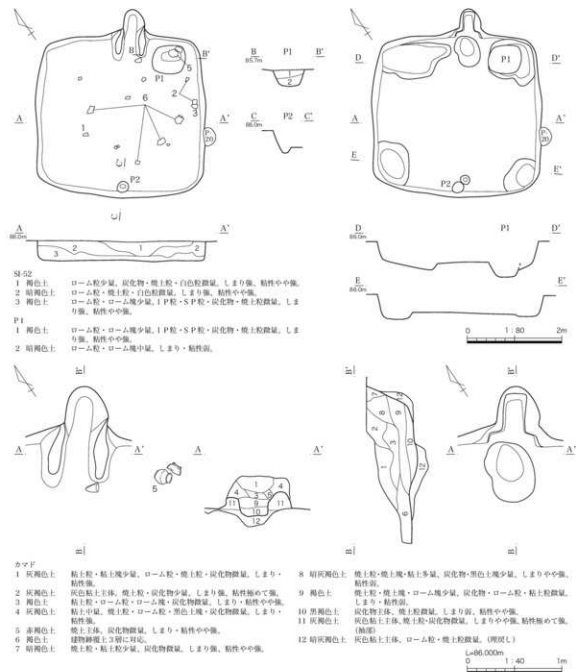
9	土師器 鉢か	口 13.6 高 17.4	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナゲ。底部外面多方向ヘラケズリ。惟かに褐色の塗灰付着物あり。漆仕上げか。外面モミ仕直しあり確認。	内：2.5Y7/3 浅黄 外：2.5Y8/3 浅黄	やや微黄。白・灰緑砂 焼成；やや硬質	№11・12、 南東 床直 (№ 11・12)	胴部～底部 1/2
10	石器 編物石	長 11.0 幅 5.3 厚 4.1 重 399.5	中央部に窪みに凹みあり。 平面形：楕円形 断面形：不整な楕円形	7.5GY4/1 暗緑灰	—	№42 7.0	完存
11	石器 編物石 か	長 11.7 幅 6.0 厚 6.0 重 626.7	上部部と下部部に縦行筋あり。若干平坦面が認められる。 平面形：洋ナシ形 (定型) 断面形：不整な円形	5Y6/1 灰	—	№41 6.9	完存
12	石器 編物石	長 17.5 幅 7.5 厚 4.3 重 816.4	未加工の自然産。 平面形：楕円形 (定型) 断面形：楕丸の三角形	2.5Y6/2 灰黄	—	№18 床直	完存

13区 SI-52 (遺構：第389図、遺物：第388図、図版六二・一〇八)

位置 グリッド 101.5-53.0 重複遺構 無し。 平面形 北壁と南壁が丸みをもつ隅丸の正方形 規模 東西 3.55×南北 4.00m 主軸方向 N-55°-E 覆土 3層に分層。自然堆積と考えられる。 壁 壁高 41～43cm 床 中央部はローム地山を床面とする。概ね平坦で、硬化面は未確認。 柱穴 確認できなかった。 入口ピット P2 (径 25～24cm、深さ 47cm) は南壁中央部の壁際に位置する。 貯蔵穴 P1 (長軸 48×短軸 43cm、深さ 34cm) は北東隅に位置する。 壁溝 確認できなかった。 掘方 四隅を土坑状に掘り込み、ローム塊混じりの暗褐色土で埋戻す。 カマド 北壁中央やや東寄りに位置する。北壁を凸字状に掘り込み、煙道の立ち上がりは約 65° で直線的に立つ。構築材は灰色粘土を主体とする。燃燒部は皿状に掘り込み、暗灰褐色土で埋戻し火床面としている。 遺物 遺物は須恵器甕破片、土師器杯・小型甕・甌の他、土玉がある。床面付近の遺物は 2・3 の土師器杯で、6 の甌は建物跡中央部の床面直上から破片で出土したものが接合した。不掲載遺物のうち土器類は小コンテナ 1/3 箱程度、礫は 1.2 kg である。古墳時代後期末 (6 世紀末～7 世紀初頭) の建物か。



第388図 西荆部西原遺跡13区 SI-52出土遺物



第 389 図 西刑部西原遺跡 13 区 SI-52 実測図

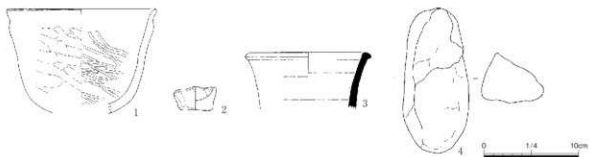
第 169 表 13 区 SI-52 出土遺物観察表

図章番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	現存
1	須恵器 甕	厚 0.7-1.0	外面磨き明き。内面同心円状赤て貝痕。	内：N4/0 灰 外：N6/0 灰	中～中粗い。白粗砂 焼成：硬質	No 12 35.8	脚部破片
2	土師器 杯	口 14.6 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデのちヘラミガキ。全面に塗仕上げか。	内：10YR7/2 に近い黄褐色 外：10YR7/4 に近い黄褐色	中～中粗質。黒・白・透明 粗砂 焼成：硬質	No 5・6 2.2 (No. 6)	口縁部 3/4、胴部一部 →一部実存
3	土師器 杯	口 (13.4) 高 4.5	口縁部内外面ヨコナデ。胴部底面内面ナデのち繰らなミガキ。胴部底面外面ナデのちヘラケズリ。一部縦線あり。内外面塗仕上げ。平底に近い。	内外面とも 10YR7/3 に近い黄褐色	中～中粗質。白・灰・黒粗砂 焼成：中～硬質	No 6 2.2	口縁部 1/4、底部 1/4
4	土師器 小型甕	口 (11.8) 高 (13.4)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリのみナデか。胴部内面ヘラナデ。底面内面ヘラナデのちミガキ。底面外面木葉痕か。胴内面下部は黒色を呈し外面下部はスス付着。酒減調整などの調整不明瞭。	内：2.5YR7/6 褐色 外：7.5YR4/1 灰褐色	中～中粗い。黒・白・透明 粗砂～塵 焼成：中～軟質	カマフ	口縁部 3/4、底部 4/5、胴部 1/2

5	土師器 甕	口 13.7 底 5.2 高 14.8	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半タテヘラナデ。下半部タテヘラケズリのちナナメヘラケズリ。底部外面一方角ヘラケズリ。熱を強く受けたためか、胴下半部は黒色。底部付近は紅色を呈する。貯蔵が完全に埋没した(あるいは埋戻し)後、この位置にあった。	内：10YR4/1 褐灰 外：7.5YR4/2 灰褐	やや粗い、灰・白・透明 黒粗砂～礫 焼成；やや硬質	№2 34.3	ほぼ完存
6	土師器 甕	底 9.6 高 [18.0]	胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面タテヘラケズリまたはヘラナデのち瀬なへラミガキ。底部はヘラケズリにより穿孔。胴部内面下半部は粘土の接合部を薄く引き延ばした跡が残る。	内：7.5YR5/2 灰褐 外：7.5YR4/2 灰褐	やや緻密。黒・白・赤粗 砂 焼成；硬質	№7・8・9・ 13 床直 (№ 13)	口縁部～胴 部 7/8
7	土製品 土玉	長 1.5 幅 1.6 厚 0.85-0.95 孔 1.0-1.8 重 2.03	孔は斜めに穿たれ、一方から突き出ている。球状の粘土粒を押しつぶしたような形状。塗装 13F。	内：7.5YR5/6 明灰 外：10YR8/2 灰白	やや緻密。黒・透明微粗 砂 焼成；やや硬質	覆土中	完存

13区 SI-56 (遺構：第391図、遺物：第390図、図版六二・一〇八)

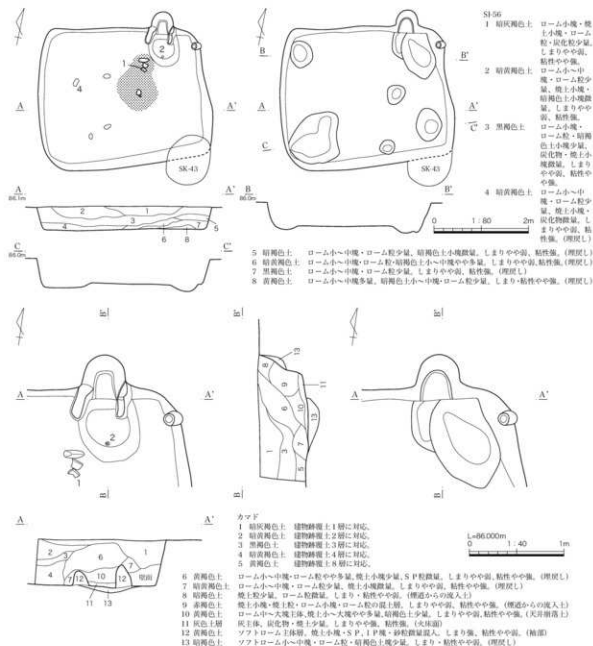
位置 グリッド 101.0-53.0・101.0-53.5 重複遺構 時期不明の土坑 SK-43 より古い。平面形 やや東辺が短い隅丸長方形 規模 東西 3.61×南北 2.8～3.0m 主軸方向 N-12.5°-W 覆土 8層に分層。いずれも自然堆積と考えられる。壁 壁高 42～56cm 残存 床 中央部はローム地山を床面とし概ね平坦である。四隅に貼床が見られる。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 建物跡の四隅に土坑状の掘り込みがある。深さ 10～15cm と浅く、ローム塊混じりの暗褐色土で埋戻している。カマド 北壁際の北東コーナー付近に設置される。壁面を半円形に掘り込み、煙道は中位で段を有する。燃焼部から煙道部にかけて焼土が厚く堆積している。遺物 器種不明の須臾器口縁部破片(平瓶か)、土師器鉢・手捏ね土器、石器(編物石)があるが床面直上の遺物は皆無である。1は土師器鉢としたが、内面にヘラミガキを施すことから甕の可能性もある。不掲載遺物のうち土器類は小コンテナ 1/3 箱程度、礫は 2.6kg である。古墳時代終末期(7世紀前半～中葉)の建物か。



第390図 西刑部西原遺跡13区 SI-56 出土遺物

第170表 13区 SI-56 出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	粘土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	土師器 鉢	口 (15.2) 高 [11.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデのちミガキ。胴部外面ナデのちケズリ。全体塗装上げか。	内外面とも 10YR6/4 に 近い黄褐色	やや緻密。黒・赤粗砂 焼成；やや硬質	№8 31.4	口縁部 1/8、胴部 1/4
2	土師器 手捏ね 土器	口 (4.4) 高 2.4	口縁部～体部外面指節押圧。内面指ナデ。底部外面ナデ。	内：10YR5/3 に近い黄褐色 外：10YR5/2 灰黄褐色	緻密。黒・白粗砂。硬少 量 焼成；やや軟質	№1 36.0	口縁部 1/2 ～底部完存
3	須臾器 器種不明	口 (12.0) 高 [6.0]	内外面ロクロナデ。口縁は断面三角形に突出する。混入品。	内外面とも NS-0 灰	やや粗い、白・灰粗砂～ 礫 焼成；硬質	南ベルト	口縁部～胴 部破片
4	石器 編物石	長 15.0 幅 6.7 厚 4.8 重 661.3	未加工の自然産。平面形；楕円形 断面形；三角形	2.5Y7/1 灰白	-	№4 27.7	完存

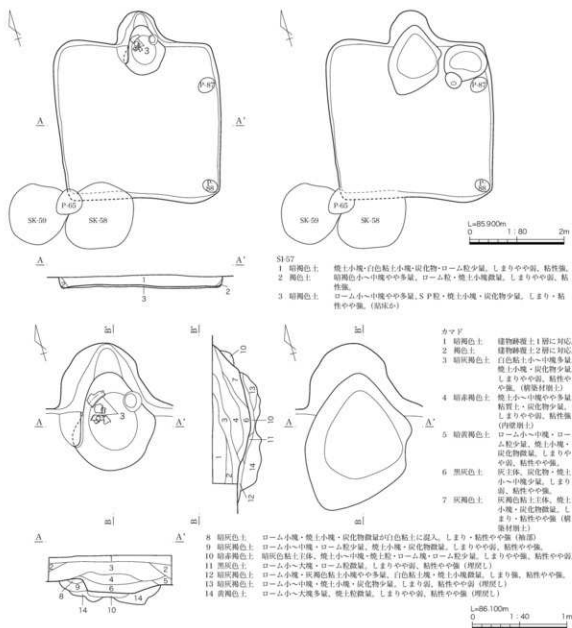


第391図 西刑部西原遺跡13区 SI-56実測図

13区 SI-57 (遺構：第392図、遺物：第393図、図版六二)

位置 グリッド101.0.53.5・101.0.54.0 重複遺構 SK-58・59、P-65より古い。平面形 やや不整な隅丸正方形 規模 東西3.45×南北3.35m 主軸方向 N-7°-E 覆土 暗褐色土主体の2層からなり自然堆積と考えられる。壁 壁高20～24cm 床 全体的に浅い粘土床あり。概ね平坦で、硬化面は確認できず。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかつた。掘方 北東コーナーに土坑状の掘り込みあり。

カマド 北壁中央部に位置し壁を半円形に掘り込んでいる。燃焼部には灰土主体の層(6層)が認められる。袖の残りは悪く、左側が僅かに残るのみである。粘土は取り去られたものか。床下は広く皿状に掘り込み、黄褐色土及び灰褐色土で埋戻し、燃焼部としている。遺物は3の武蔵型甕が燃焼部の床面から出土している。

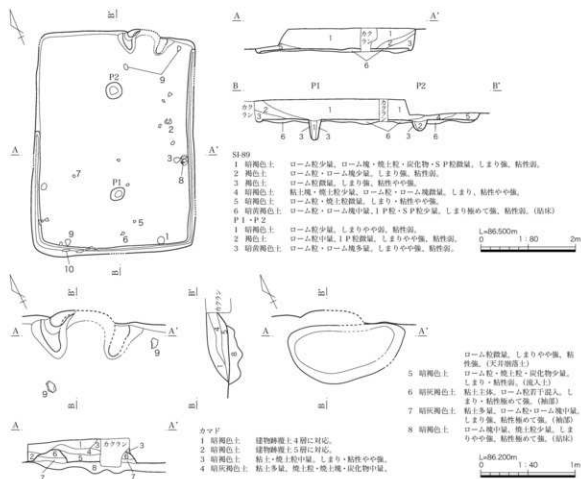


第392図 西刑部西原遺跡13区 SI-57実測図

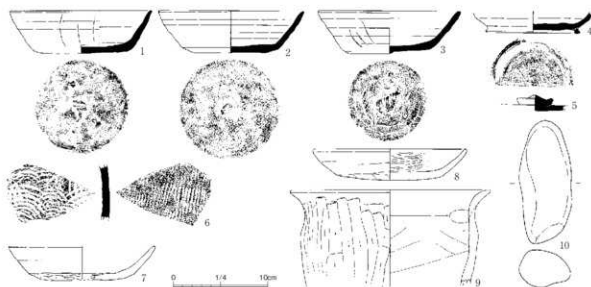
遺物 須恵器環(1)・甕小破片(2)、土師器甕(3)を図示した。遺物量は極めて少なく、床面付近の遺物は3の土師器甕のみである。不掲載遺物は土師器環・甕類が主体で、小コンテナ1/5弱、碟の出土は皆無である。遺物から平安時代(9世紀前葉から中葉)の建物跡と考えたい。

13区 SI-89 (遺構:第395図、遺物:第396図、図版六三・一〇八・一〇九)

位置 グリッド 99.5-54.0・99.5-54.5・100.0-54.0・100.0-54.5 重複遺構 無し。平面形 南北軸の長方形 規模 東西3.42×南北4.70m 主軸方向 N-21°-E 覆土 暗褐色土及び褐色土主体の5層からなり、自然堆積と考えられる。壁 壁高は45cm残る。床 ほぼ全面が貼床。概ね平坦で、硬化面などは認められない。柱穴 P1(径33~24cm、深さ37cm)、P2(径36~34cm、深さ17cm)は建物跡の中心軸状に位置する。P1は掘り込みも深く、柱痕を残す。P2も柱痕はあるが、深さはP1の1/2弱。入口ピット・貯蔵穴 確認できなかった。壁溝 東壁際及び南壁際の全面と西壁際南半部に確認。幅12~18cm、深さ5~6cmと非常に浅い。カマド 北壁中央部東寄りに設置。壁際を極めて浅く弧状に掘り込んでいる。袖は暗灰褐色粘土で構築されている。遺物 計10点を図示した。土器は須恵器環・高台付環・蓋・甕などがあり、土師器は環・甕が出土している。このうち床面付近の遺物は須恵器環(1・2・3)、土師器環(7・8)などがある。1・3の須恵器環は体部側面に同様のへら記号が見られる。8は平底化した環で、赤褐色を呈する。不掲載の土器類は土師器甕・環が主体で、少量の須恵器類があり、小コンテナ箱1/5、礫は3.1kg確認された。遺物から奈良時代中葉の建物跡と考えられる。



第395図 西刑部西原遺跡13区 SI-89 実測図



第 396 図 西刑部西原遺跡 13 区 SI-89 実出土遺物

第 173 表 13 区 SI-89 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床 (cm)	残存
1	須恵器 環底器	口 14.6 底 9.7 高 4.6	口縁部内外面ロクロナデ。体部内面ロクロナデ。体部外面ロクロナデのちへう掻き。底部外面回転へう切りのちナデ。	内：5YR7/8 橙 外：7.5YR8/6 浅黄橙	粗い、白・黒細砂～粗砂。硬。赤色粒焼成・軟質	No 4 2.2	ほぼ完全
2	須恵器 環底器	口 15.0 底 8.0 高 4.4	体部内外面ロクロナデ。底部外面回転へう切りのちナデ。二次底部面を有する。器面の滑減著しい。	内：2.5YR2/1 灰白 外：2.5YR3/3 浅黄	粗い、白・灰細砂～粗砂。焼成・軟質	No 1, 北東	口縁部 5/6, 底部完全
3	須恵器 環底器	口 14.8 底 8.3 高 4.5	体部内外面ロクロナデ。体部外面 2か所にへう掻きあり。底部外面回転へう切りのちナデ。	内：7.5YR7/6 に近い黄橙 外：10YR7/2 に近い黄橙	粗い、白・黒細砂～粗砂。硬。白色粒焼成・軟質	No 5	口縁部 3/4, 底部完全
4	須恵器 高台付環底器	底 (9.5) 高 [2.1]	内面ロクロナデ。底部外面回転へうケズリのち高台筋付。色調は黄褐色。焼成が不十分なためか。	内：10YR6/4 に近い黄橙 外：10YR5/4 に近い黄橙	粗い、白・赤・黒細砂～粗砂。焼成・硬質	北東	体部一部、底部 1/2
5	須恵器 蓋	高 [1.6] 径 3.8	大円形内面ロクロナデ。外面回転へうケズリのちナデ。ツマミ筋付。	内：7.5Y6/1 灰 外：N8/0 灰白	細砂、白・黒・透明細砂～粗砂。焼成・硬質	No 5 4.8	ツマミ完全、大円部一部
6	須恵器 土師器	厚 0.6-0.85	外面磨子叩きのちへう目。内面同心円状あて貝痕。	内：N6/0 灰 外：2.5GY5/1 オリーブ灰	細砂、白・黒細砂～粗砂。焼成・硬質	No 14 6.8	割部破片
7	土師器 環底器	口 [15.2] 高 [3.6]	口縁部内外面ロクロナデ。体部内面ロクロナデ。底部外面多方向へうケズリ。一部縁仕上げ。平底に近い形状。	内：10YR8/3 浅黄橙 外：10YR7/3 に近い黄橙	粗い、黒・白・透明細砂～粗砂。焼成・軟質	No 15, 北東 南東 1.6	口縁部 2/3
8	土師器 環底器	口 15.8 高 3.3	体部内面へうミガキ。体部外面へうケズリのちミガキか（滑減のため不明確）。底部外面多方向へうケズリ。	内外面とも 2.5YR4/6 赤黒	粗い、黒・白細砂～粗砂。硬。赤色粒焼成・軟質	No 3	ほぼ完全
9	土師器 蓋	口 [20.6] 高 [11.2]	口縁部内外面ロクロナデ。体部内面へうケズリ。体部外面ナデのちへうケズリ。	内：5YR7/4 に近い橙 外：5YR7/6 橙	粗い、白・赤・黒細砂～粗砂。硬。白色粒焼成・硬質	No 6・7・17 2.8 (No 17)	口縁部～割部 土半 1/3
10	石器 輪布石	長 12.2 幅 5.4 厚 3.7 重 368.2	未加工の自然産。平面形：不整な楕円形。断面形：不整形	5YR6/2 灰黒	粗い、白・黒細砂～粗砂。硬。赤色粒焼成・硬質	No 22 1.1	完全

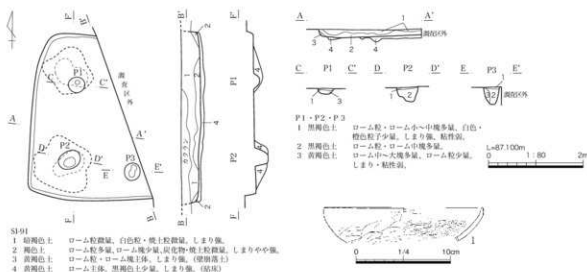
13 区 SI-90 (遺構：第 397 図、図版六三)

位置 グリッド 99.5-54.5-99.0-54.5 重複遺構 無し。平面形 隅丸正方形 規模 東西 7.81×南北 7.92 m 主軸方向 N-15°-E 覆土 柱穴及び貯蔵穴中に僅かに残る。壁・床 削平され不明。柱穴 P1 (径 49～43 cm、深さ 58 cm)、P2 (径 72～71 cm、深さ 52 cm)、P3 (径約 40 cm、深さ 75 cm)、P4 (径 54～45 cm、深さ 58 cm) は主柱穴。入口ピット P5 (径 54～38 cm、深さ 25 cm) はやや壁から離れる。貯蔵穴 P6 (長軸 92×短軸 63 cm、深さ 33 cm) は北東コーナー付近に位置する。壁溝 南壁・東壁・北壁

13区 SI-91 (遺構・遺物：第398図、図版六三)

位置 グリッド98.5-55.0・99.0-55.0 重複遺構 無し。平面形 東半部が調査区外の為不明。規模 東西2.54 m以上～南北3.47 m 主軸方向 N-5°-E (西壁のみで推定) 覆土 自然堆積と考えられる。

壁 壁高は36～40 cm残る。床 調査部分では全面が貼床で、やや凹凸がある。硬化面は未確認。柱穴 P1 (径32～34 cm、深さ13 cm)、P2 (径48 cm、深さ32 cm) は主柱穴と考えられる。P3 (径33～37 cm、深さ36 cm) は位置的に入口ピットの可能性もある。貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 四隅に不整形の掘り込みをもち、ローム土主体の4層で埋戻している。カマド 確認できなかった。遺物 覆土中から20点ほど出土した土師器片のうち、器形復元可能な土師器環1点を図示した。遺物は古墳時代終末期(7世紀後葉)の様相を呈するが、建物跡が小型なため後世(奈良時代以降)の建物の可能性もある。



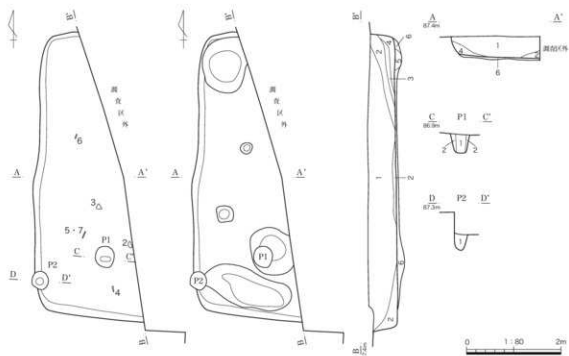
第398図 西刑部西原遺跡13区 SI-91 実測図・出土遺物

第174表 13区 SI-91 出土物観察表

掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	粘土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	土師器環	口 1(16.6) 高 3(8.8)	口縁部内外面口ナデ。体部内面へうみガキ。体部外面口コヘラケズリのチナメヘラケズリ。	内：2.5YR5/6 明赤褐 外：2.5YR5/8 明赤褐	中々粗い。白・灰・透明 細砂～粗砂。硬。赤色粒 焼成：中々軟質	南	口縁部～体部1/3

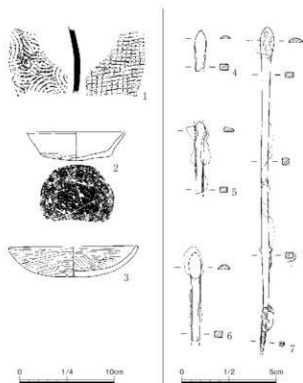
13区 SI-92 (遺構：第399図、遺物：第400図、図版六四・一一二)

位置 グリッド97.5-55.5・98.0-55.5 重複遺構 無し。平面形 建物跡西部を調査したのみで全形は不明。規模 東西2.2 m以上×南北5.76 m 主軸方向 N-1.5°-E (西壁から推測) 覆土 自然堆積と考えられる。壁 壁高50～60 cm 床 ほぼ全面が貼床。硬化部分は確認できなかった。柱穴 P1 (径46～41 cm、深さ40 cm) は断面から柱痕が確認できた。P2 (径39～34 cm、深さ34 cm) は壁柱穴の可能性もある。入口ピット・貯蔵穴 確認できなかったが、調査区外に存在する可能性が高い。壁溝 確認できなかった。掘方 北西及び南西コーナーに不整形の掘り込みをもつ。深さは20～30 cmほどで、ローム塊を多量含む5層で埋戻している。カマド 確認できなかった。調査区外に存在する可能性が高い。



- SI-92
 1 褐色土 ローム粒多量、ローム小～中塊・白色粒少量、褐色粒少量、しまり強、粘性弱。
 2 暗黄褐色土 ローム粒・ローム小～中塊多量、白色粒・褐色粒少量、しまり強、粘性弱。
 3 黒褐色土 ローム粒・ローム小塊・褐色粒少量、しまり強、粘性弱。
 4 暗黄褐色土 ローム粒多量、ローム大塊少量、褐色粒少量、しまり・粘性弱。
 5 暗黄褐色土 ローム粒・ローム塊多量、黒色土少量、しまり強、粘性中強。(照北)
 6 黄褐色土 ローム粒・ローム塊多量、黒色土少量、しまり・粘性中強。(照北)
 P1 暗黄褐色土 ローム粒・ローム小～中塊多量、しまり強、粘性弱(短柱)。
 2 明黄褐色土 ローム粒少量、ローム小～大塊多量、しまり・粘性弱(真込め)。
 P2 1 黒褐色土 ローム粒・ローム小塊多量、白色粒・褐色粒少量、しまり・粘性弱。

第399図 西刑部西原遺跡13区 SI-92 実測図



第400図 西刑部西原遺跡13区 SI-92 出土遺物

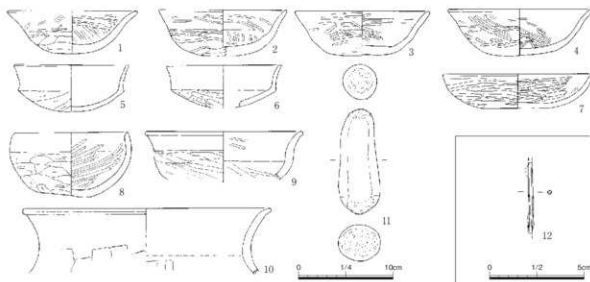
遺物 殆どが覆土中から出土。計7点を図示した。土器は須恵器甕、土師器環などで、この他鉄鎌がある。2の土師器環は径が小さく、底部外面に「井」の字状の線刻がある。3は内外面を入念に磨く土師器環。鉄鎌はいずれも床面付近から出土。鎌身は片丸の鑿前式が多く、7はほぼ完形に近い。不掲載遺物は土器類は小コンテナ箱1/2程度、確は確認できなかった。遺物から古墳時代終末期(7世紀前半から中葉)の建物跡と考えられる。

第175表 13区 SI-92 出土遺物観察表

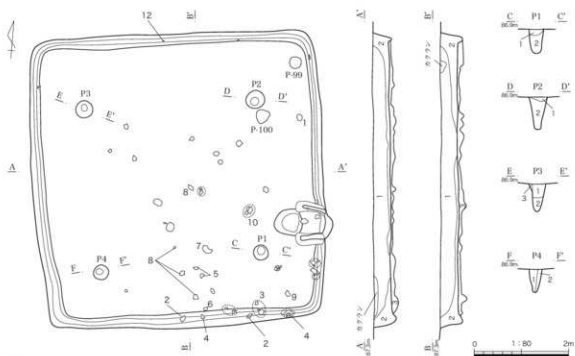
編號番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・土上 (cm)	残存
1	須恵皿 器	厚 0.68-0.55	胴部外面格子母、胴部内面同心円状あて貝組。	内：N6/O灰 外：N5/O灰	織肌、白・黒・灰細砂～粗砂、緑、白色粒 焼成：中や硬質	南西	胴部破片
2	土師瓶 坏	口 (10.0) 高 3.0	口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面多方向へラケズリ。内面及び口縁部外面漆仕上げ。底部外面に焼成前の「卍」の字状の線刻あり。	内：1OYR5/3にぶい黄緑 外：1OYR6/4にぶい黄緑	粗い、黒細砂～粗砂、赤 色粒 焼成：軟質	No.4 35.4	口縁部～底部2/3
3	土師瓶 坏	口 (12.0) 高 3.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヨコナデのちへラミ 目本。体部外面へラケズリのちへラミ若干。部分的に 褐色付着物あり。漆の可能性あり。	内：1OYR6/4にぶい黄緑 外：1OYR5/4にぶい黄緑	中や粗い、黒・赤細砂～ 粗砂、緑、赤色粒 焼成：中や軟質	No.2 19.8	口縁部～底部1/3
4	鉄製品 鉄線	長 [2.0] 幅 0.6 厚 0.3 重 [0.7]	製鉄式の長圓線破片。線身部は片丸造り。線身部の幅5.5 mm、厚さ1.8mm。	—	鉄製	No.5 床直	部分残存
5	鉄製品 鉄線	長 [3.9] 幅 0.7 厚 0.3 重 [2.6]	片刃器式の長圓線。線身は片丸造りで、幅6.0mm、厚 さ2.5mm。断面形状は長方形。	—	鉄製	No.3 6.5	部分残存
6	鉄製品 鉄線	長 [4.9] 幅 0.9 厚 0.6 重 [3.8]	製鉄式の長圓線。線身は片丸造りで、幅6.5mm、厚さ2.2 mm。断面は幅4.2mm、厚さ3.3mmの長方形。	—	鉄製	No.1 4.8	部分残存
7	鉄製品 鉄線	長 [17.2] 幅 0.8 厚 0.4 重 [10.0]	製鉄式の長圓線。線身は片丸造りで、幅7.5mm、厚さ2.0 mm。線型線。線には織肌を巻き付けている。矢柄の本 質も残る。	—	鉄製	No.3 6.5	ほぼ完存

13区 SI-96 (遺構：第402図、遺物：第401図、図版六四・一〇九・一一二)

位置 グリッド 98.0-54.5・98.0-55.0・98.5-54.5・98.5-55.0 重複遺構 無し。平面形 正方形 規模 東西6.20×南北6.14m 主軸方向 N-9°-W 覆土 自然堆積 壁 壁高35～49cm 床 概ね平坦。全面的に貼床。柱穴 P1 (径31cm、深さ50cm)、P2 (径38cm、深さ68cm)、P3 (径36cm、深さ56cm)、P4 (径30cm、深さ48cm) は主柱穴か。入口ピット・貯蔵穴 確認できなかった。壁溝 壁際を全周する(幅15～25cm、深さ10cm前後)。掘方 細かな凹凸が多いローム粒・ローム塊主体の3層で埋戻す。カマド 東壁際やや南寄りに位置する。壁面を弧状に浅く掘り込み、煙道の立ち上がりは約68°と急角度である。強く被熱した天井崩落土(2層)が堆積する。遺物 平面的には南東部を中心に分布する。遺物



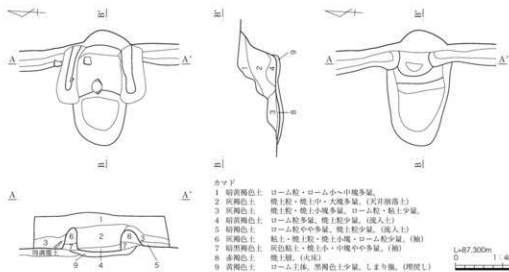
第401図 西刑部西原遺跡13区 SI-96 出土遺物



SI-96

- 1 黒褐色土 ローム粒・ローム小塊多量。しまり強。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒・ローム小・中塊多量。しまり強。
- 3 黄褐色土 ローム粒・ローム塊多量。暗褐色土少量。しまり強。(柱状)
- P1・P2
- 1 暗黄褐色土 ローム粒・ローム小塊多量。しまり強。(取柄弱)
- 2 明黄褐色土 ローム粒・ローム小～中塊多量。(取柄弱)

- P3
- 1 暗黄褐色土 ローム粒・ローム小～中塊多量。しまり中強。(取柄弱)
- 2 明黄褐色土 ローム粒・ローム小～中塊多量。しまり中強。(取柄弱)
- 3 暗黄褐色土 ローム粒・ローム中塊多量。しまり強。(蓋込)
- P4
- 1 暗黄褐色土 ローム粒・ローム小塊多量。しまり強。(柱状)
- 2 明黄褐色土 ローム粒・ローム小～中塊多量。(蓋込)



第402図 西刑部西原遺跡13区 SI-96実測図

は土師器環類(1～9)が多く、このほか甕(10)がある。このほか磁石や鉄製品がある。1は床面直上の遺物で、口縁は外反し、内外面にミガキを施す。5・6の土師器環は非在地系の土器か。鉄製品は鉄鐙の茎下端部の破片か。不掲載遺物は土師器環・甕類が主体で、小コンテナ1/2弱と少ない。遺物から古墳時代後期前葉の建物跡と考えたい。

第176表 13区 SI-96 出土土物観察表

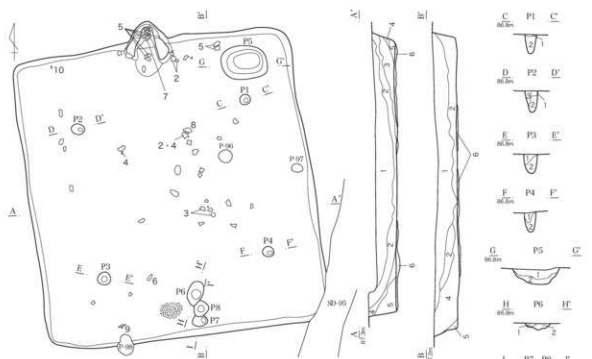
編號 番号	器種	法量(cm/g)	技法・特 徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・ 床土(cm)	残存
1	土師器 杯	口 (13.4) 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデのちへらミガキ。体部内面へラミガキ。体部外面へラケズリのちナデナ。	内：5YR5/8 明赤褐 外：5YR6/8 橙	中々粗い、黒・白・灰緑砂～粗砂、礫、赤色粒 焼成：中々軟質	№37 床直	口縁部 1/2、底部 1/2
2	土師器 杯	口 (13.4) 高 4.7-4.9	口縁部内面ヨコナデ、口縁部外面ヨコナデのちへらミガキ。体部内面ヨコナデのちへらミガキ。体部外面へラケズリのちへらミガキ。全体に塗上げか。	内：5YR5/6 明赤褐 外：5YR4/3 に近い赤	中々粗い、透明・白・赤細砂～粗砂 焼成：中々軟質	№9・13、南 東、南東一帯 22.2 (№9)	口縁部 2/3、底部 1/2
3	土師器 杯	口 (14.0) 高 4.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヨコナデのちへらミガキ。体部外面ヨコナデのちへらミガキ。底部外面回転へラ切りのちへらミガキ。全体的に暗褐色を呈する。器面の磨滅は顕著である。底部は平底突縁。	内外面とも 5YR6/8 橙	中々粗い、黒・赤・透明細砂～粗砂、礫、赤色粒 焼成：中々軟質	№8、南東 17.5	口縁部 1/2、底部 2/3
4	土師器 杯	口 14.8 高 4.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面へラミガキ。体部外面へラケズリのちへらミガキ。体部外面に塗上げか。底部は平底突縁。	内：7.5YR3/2 黒褐 外：7.5YR4/3 暗	中々粗い、白・白細砂～粗砂、礫、赤色粒 焼成：中々軟質	№7・12・ 13 28.9 (№13)	口縁部 1/2、底部 3/4
5	土師器 杯	口 (11.6) 高 4.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデか。体部外面へラケズリ。	内：7.5YR7/6 暗 外：7.5YR6/4 に近い橙	中々粗い、黒・灰・白細砂～粗砂 焼成：中々硬質	№16・17、 南東、南 下、南西 3.8	口縁部 1/2、底部 2/3
6	土師器 杯	口 (11.6) 高 14.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面へラケズリのちナデ、体部外面黒褐色あり。口縁部底部は平頭。	内：7.5YR5/4 に近い橙 外：7.5YR5/3 に近い黄	粗い、黒・灰・赤細砂 焼成：中々軟質	№11、南東 19.5ト 12.8	口縁部 1/2、底部 2/3
7	土師器 杯	口 (15.6) 高 3.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデのちへらミガキ。体部外面へラケズリのちへらミガキ。全体的に塗上げか。	内：10YR4/2 灰黄緑 外：10YR3/3 に近い黄緑	中々粗い、黒・灰・白細砂～粗砂 焼成：中々軟質	№19 22.0	口縁部～底 部2/5
8	土師器 杯	口 11.8 高 6.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面へラナデのちへらミガキ。体部外面へラケズリのちへらミガキ。底部外面多方向へラケズリ。	内：5YR6/8 橙 外：7.5YR6/6 暗	中々粗い、白・透明・黒細砂～粗砂、礫、赤色粒 焼成：中々軟質	№14・18・ 20・33、南 東、南 下、南東一 帯 (№18)	ほぼ完存
9	土師器 杯	口 (16.4) 高 (25.8)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面へラミガキ。体部外面強めのナデ。	内外面とも 2.5YR6/8 橙	中々粗い、白・白細砂～粗砂、礫、赤色粒 焼成：中々軟質	№6 1.2	口縁部～体 部1/4
10	土師器 甕	口 55.4 高 7.1	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面上部へラナデ。胴部外面上部テヘラナデ。部分的に焼成時の黒痕あり。	内：10YR6/4 に近い黄緑 外：10YR6/3 に近い黄緑	中々粗い、白・赤・灰緑砂～粗砂 焼成：中々軟質	№35 27.6	口縁部1/4
11	石部 磁石	長 11.0 幅 3.8 厚 3.7 重 274.7	上端部及び下端部に線行面あり。平面形：長方形。断面形：不整な楕円形	5Y7/1 灰白	粗い、透明・黒細砂～粗砂、透明粒 焼成：硬質	北西	完存
12	鉄製品 鉄鏝か	長 (3.7) 径 0.2 重 (0.5)	断面は丸に近く、径 2.0mmと推定。鉄鏝の筭の可能性あり。	—	鉄製	№28 4.1	部分残存

13区 SI-97 (遺構：第403図、遺物：第404図、図版六四・一〇九・一一二・一一三)

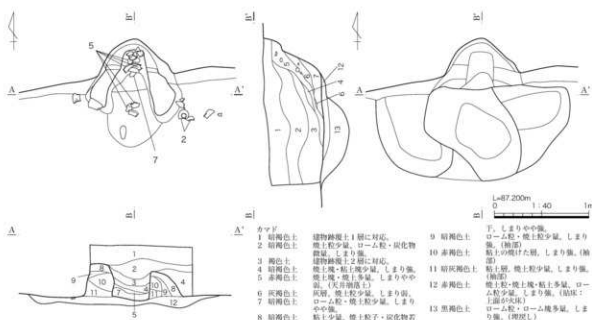
位置 グリッド 97.5-54.5 重複遺構 時期不明の溝 SD-95 と重複するが切り合い不明。平面形 僅かに南北に長い長方形 規模 東西 5.92×南北 6.65 m 主軸方向 N 8.5° - W 覆土 下層は埋戻した可能性あり。壁 壁高は 46 ～ 58 cm 残る。床 中央部に薄く貼床あり。硬化面は確認できなかった。柱穴

P1 (径 22 cm、深さ 42 cm)、P2 (径 27 ～ 21 cm、深さ 46 cm)、P3 (径 27 cm、深さ 41 cm) P4 (径 15 cm、深さ 42 cm) は主柱穴と考えられる。入口ピット P7 (径 31 ～ 21 cm、深さ 9 cm) は入口関連のピットと考えられるが、P6 (径 51 ～ 32 cm、深さ 13 cm)、P8 (径 32 cm、深さ 22 cm) は掘り込みも浅く不明瞭。

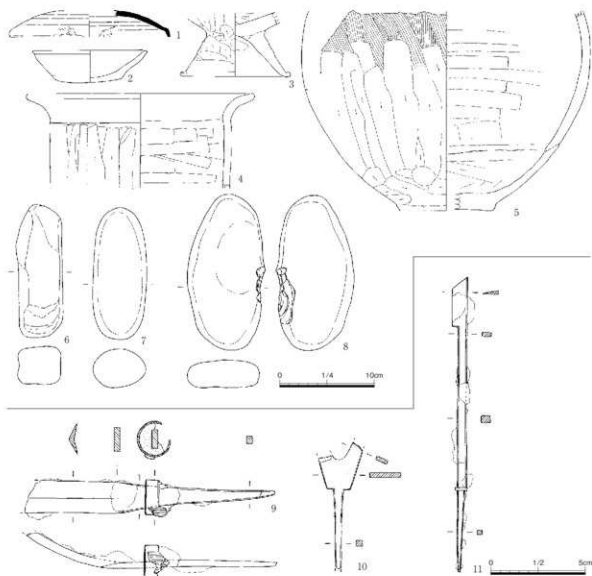
貯蔵穴 P5 (長軸 98 × 短軸 71 cm、深さ 31 cm) は隅丸長方形を呈し、壁の立ち上りは緩やか。北東隅に設置される。壁溝 確認できなかった。掘方 概ね平坦。カマド 北壁中央部に位置し、壁面を半円形に掘り込むが底面は方形を呈する。煙道は急角度で立ち上がり上端部で段を有する。遺物 カマド内からは強く被熱した球陶甕が出土。芯材に転用されたものか。平面的にはカマドから中央部にかけて集中する。土師器は杯・台付甕・甕などが、須恵器は蓋が出土した。この他陶物石や鉄製品がある。2 は床面直上の遺物。口縁は僅かに内湾し平底部が進んでいる。鉄製品では籾 (9) が注目される。柄縁部は銷彫れにより著しく歪むが、大きく反った刃部がその特徴を良く残している。その他、雁又鐵 (10) 及び完品の長頭鐵 (11) が出土した。不掲載遺物は土師器杯・甕胴部破片が主体で、小コンテナ 1 箱弱。礫の重量は 3.6 kg 出土した。遺物から奈良時代前葉の建物跡と考えたい。



- SI97
- 1 暗褐色土 ローム粒・炭化物微量、焼土粒・白色粒若干、しまり強。
 - 2 褐色土 ローム粒少量、ローム塊微量、白色粒・焼土粒・炭化物若干、しまり強。
 - 3 赤褐色土 ローム粒・ローム塊多量、I P粒・S P粒若干、しまり強。(埋戻し)
 - 4 黒褐色土 ローム粒少量、焼土粒若干、しまり強。(埋戻し)
 - 5 褐色土 ローム粒少量、ローム塊微量、焼土粒若干、しまり強。
 - 6 赤褐色土 ローム土塊、黒褐色土少量、しまり強。(埋戻)
- P1 P3
1 褐色土 ローム粒少量、ローム塊微量、白色粒・焼土粒・炭化物若干、しまり強。
(採取面)
- P2
2 褐色土 ローム粒・ローム塊多量、しまり強。(採取面)
- P4
1 褐色土 ローム粒少量、ローム塊微量、白色粒・焼土粒・炭化物若干、しまり強。
(採取面)
- P5
1 褐色土 ローム粒少量、ローム塊微量、白色粒・焼土粒・炭化物若干、しまり強。
(採取面)
- P6
1 暗褐色土 ローム粒・ローム塊少量、しまり強。
- P7 P8
1 暗褐色土 ローム粒・ローム塊少量、しまり強、
2 褐色土 ローム土塊、しまり強。
- P9
1 暗褐色土 ローム土塊、しまり強。
- 0 1:80 2m



第403図 西刑部西原遺跡13区 SI-97実測図

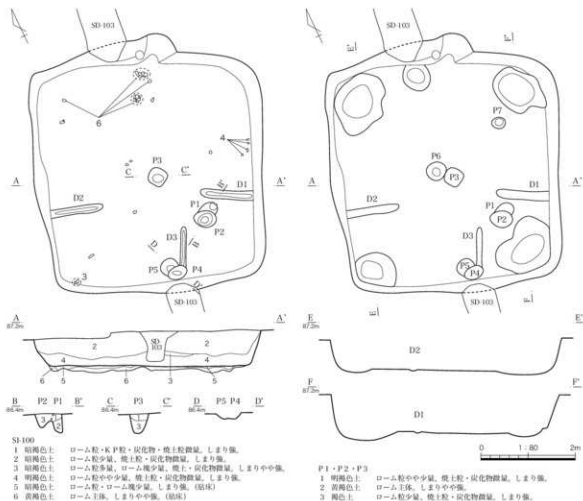


第404図 西刑部西原遺跡13区 SI-97出土遺物

第177表 13区 SI-97出土遺物観察表

図載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須出器蓋	口 (16.7) 高 [2.8]	ロウロ仕上げ。天井部外面回転ヘラケズリ。端部はつまみ上げ。外反する。端部外面には凹みを轉移した粘土の貼付けが認められる。	内：7.5Y5/1 灰 外：7.5Y6/1 灰	中・中細粒。白・灰・黒點 焼成：硬質	南東	ほぼ完全
2	土師器杯	口 12.0 高 3.3	内面全面～口縁部外面ヨコナデ。体部～底部外面ヘラケズリか（磨滅著しく不明瞭）。内外面塗仕上げ。口縁部厚めに肥厚。	内：2.5Y7/4 浅灰 外：10Y86/4 に近い黄緑	中・中細粒。白・白・赤細砂～硬 焼成：中・中硬質	No 40 床直	ほぼ完全
3	土師器台付鏝	高 [6.7] 脚 [11.3]	脚部端部内外面ヨコナデ。底部外面ナデ。脚部上平一脚	内外面とも 2.5YR5/6 明赤	中・中粗い。白・灰・黒點砂～硬 焼成：中・中硬質	No 21・23 10.4 (No 21)	底部完全、脚部部 1/8
4	土師器鏝	口 [23.6] 高 [10.0]	口縁部内外面ヨコナデ。側部外面タテヘラケズリ。側部内面ヨコナデ。外面炭化物(ススか)の付着あり。	内：7.5YR5/4 に近い黒 外：5YR5/6 明赤	中・中粗い。白・灰・黒點砂～硬 焼成：中・中硬質	No 12・16 12.0 (No 16)	口縁部～側部 1/3
5	土師器鏝	高 [21.0]	外面ナメハ白調整のら製下部タテヘラケズリ。製下部はヨコナデあるいはナメハケズリ。内面ヘラケズリ。下部に轆み上げ休止痕が見られる。底部外面一方向ヘラケズリ。	内：7.5YR7/6 體 外：2.5YR6/8 體	中・中粗い。白・黒・灰點砂～硬 焼成：硬質	No 12・16・30・33・35・37・44・45 2.8 (No 30)	側部～底部部 1/4
6	石製編物石	長 13.6 幅 4.6 厚 4.0 重 469.0	未加工の自然塊。平面形；不整な長方形 断面形；隅丸方形	5G6/1 緑灰	—	No 4 0.3	完全

7	石器 編物石	長 14.0 幅 5.8 厚 3.9 重 490.4	未加工の自然産。 平面形：長い楕円形 断面形：楕円形	2.5GY6/1 オリーブ灰	-	№ 38 19.3	完存
8	石器 編物石	長 16.3 幅 7.5 厚 2.8 重 561.6	扁平な産。側面の一部を両面から剥離する。 平面形：不整な楕円形 断面形：不整な楕円形	5YB/1 灰	-	№ 15 2.5	完存
9	鉄製品 銚	長 [13.3] 幅 1.9 厚 0.3 重 [24.0]	対部は幅 1.7 mm と均一で、閉はなく緩やかにすぼまり、某へつながら。対部は中央に稜をもち表面もこれに合わせた窪みを有する。柄縁は中央部には柄の本質が、外側には柄が付着する。某の断面は長方形。	-	鉄製	№ 1 24.8	部分欠損
10	鉄製品 鉄鏝	長 [13.3] 幅 1.9 厚 0.4 重 [24.0]	先端部を欠損する板状の鉄鏝。鏝身の断面は長方形で厚さ 2.0 mm。頭部断面は一辺 3.0 mm の正方形。	-	鉄製	№ 10 11.9	部分欠損
11	鉄製品 鉄鏝	長 15.4 幅 0.9 厚 0.4 重 11.0	片刃板式の長頭鏝。鏝身は片側で片丸造り、厚さ 1.5 mm。閉尾端で、某には木質が残る。頭部は幅 5.0 mm、厚さ 3.8 mm の断面長方形。	-	鉄製	北東部	完存



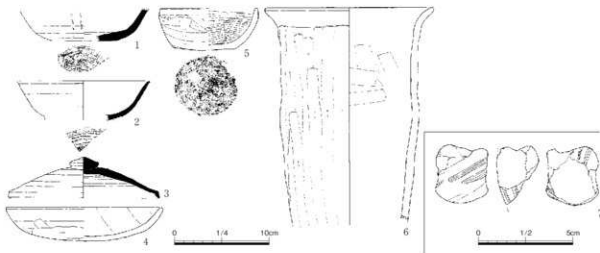
第405図 西刑部西原遺跡13区 SI-100実測図

13区 SI-100 (遺構：第405図、遺物：第406図、図版六四・六五・一〇九)

位置 グリッド 97.0-54.0・97.5-54.0 重複遺構 奈良時代の溝 SD-103 より古い。平面形 隅丸の正方形に近い。規模 東西 4.78×南北 5.10 m 主軸方向 N-21.5°・E 覆土 自然堆積か。壁 壁高は 51～79 cm 残る。床 貼床あり。硬化面は認められない。柱穴 明確な柱穴は確認できなかった。入口ピット P4 (径 41～27 cm、深さ 14 cm) は位置的に入口ピットの可能性があるが不明瞭。貯蔵穴 確

認できなかった。不明ビット P1 (径30～18 cm、深さ40 cm)、P2 (径46～33 cm、深さ36 cm)、P3 (径40 cm、深さ40 cm)、P5 (径36～24 cm、深さ13 cm)、P6 (径41～39 cm、深さ8 cm)、P7 (径29～24 cm、深さ21 cm)があるが性格は不明。壁溝 確認できなかった。間仕切り溝 D1 (幅18～20 cm、深さ5 cm)、D2 (幅15～18 cm、深さ3 cm)、D3 (幅10～13 cm、深さ2 cm)の計3本が確認されたがいずれも極めて浅く不明瞭。掘方 中央部は若干凹凸をもち四隅に浅く土坑状の掘り込みをもつ。カマド 北壁中央部の壁面を半円形に掘り込む。構築材の粘土や焼土は殆ど残っていないため、取り去られた可能性が高い。

遺物 須恵器環(1)・高台付環(2)・蓋(3)、土師器環(4・5)・甕(6)が出土。その他焼成粘土塊(7)が出土した。不掲載遺物の総量は小コンテナ箱1/2弱、不掲載罐の重量は約400 gである。遺物から古墳時代終末期～奈良時代前葉の建物跡と考えられる。



第406図 西刑部西原遺跡13区 SI-100出土遺物

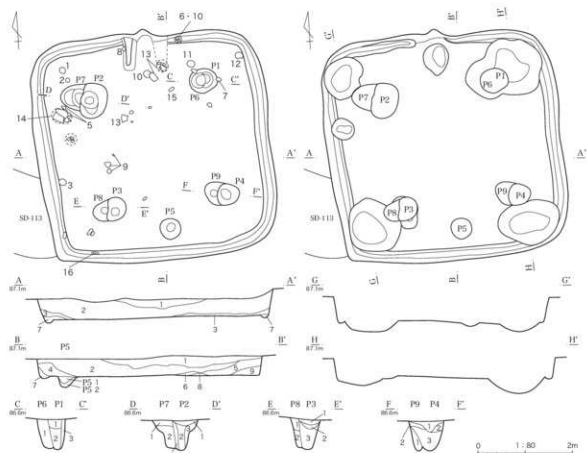
第178表 13区 SI-100出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器環	高 3.4	内外面口ロコナデ。底部外面回転ヘラケズリ。二次底部面を有する。側面にヘラ記号あり。	内外面とも 7.5Y6/1 灰	中々緻密。白・灰黒砂焼成；硬質	北西	口縁部～底部 1/4
2	須恵器高台付環	口 (13.8) 高 (4.1)	内外面口ロコ仕上げ。底部外面回転ヘラケズリのち明瞭な接合痕あり。高台部剥落。内面赤褐色を呈する。焼成良好。産地不明。全周割線微か。高台部穴組。	内：N6/0 灰 外：7.5Y5/1 灰	中々緻密。白粗砂～硬質；硬質	北西	口縁部～体部 1/5
3	須恵器蓋	高 4.3 内 3.1	大径部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付。内外面口ロコ仕上げ。端部はつまみ上げ。中々外反する。	内外面とも 2.5C/6/1 オリーブ灰	中々緻密。白・黒褐色。黒色粒。白色塵焼成；硬質	№ 16, 南東 2.6	口縁部～天目部 1/2
4	土師器環	口 (16.4) 高 3.6	口縁部内外面コナデ。体部～底部内面ナデ。体部外面上端ナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。内外面部仕上げ。内面ヘラケツリの前縁顕著。	内：5YR2/1 黒褐色 外：7.5YR5/3 に近い	中々緻密。黒・灰・白粗砂焼成；硬質	№ 10～13, 北西 1.0 (№ 12)	口縁部 1/2, 底部 2/3
5	土師器環	口 10.0 高 4.4	口縁部内外面コナデ。体部外面ヨコまたはナメヘラケズリ。体部～底部内面ヘラミガキ。底部外面多方向のヘラケズリ。	内外面とも 2.5YR5/6 明赤褐色	緻密。白・灰粗砂焼成；中々軟質	北西	口縁部 3/4, 底部存在
6	土師器甕	口 (19.4) 幅 (22.7)	口縁部内外面コナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。	内：5YR6/6 橙 外：7.5YR6/6 橙	粗い。白・灰・黒粗砂～硬質；軟質	№ 1・2・4・5, 北西 1.0 (№ 5)	口縁部～胴部 1/4
7	焼成粘土塊	長 (3.1) 幅 (2.5) 厚 (2.2) 重 (8.9)	正面は丸みを帯び一部にワラツ跡あり。側面右側下部にワラツ痕あり。	7.5YR6/3 に近い	中々緻密。白・赤粗砂焼成；軟質	覆土中	一部

13区 SI-101 (遺構：第407・408図、遺物：第409図、図版六五・一〇九)

位置 グリッド98.0-54.0 重複遺構 奈良～平安時代のSD-113より古い。平面形 隅丸正方形 規模 東西4.93×南北4.87m 主軸方向 N-3.5°-W 覆土 自然堆積 壁 壁高約36～53cm 床 四隅に貼床。中央部はロームを床面とする。柱穴 P1(径45×35cm、深さ64cm)、P2(径75×52cm、深さ63cm)、P3(径50×45cm、深さ62cm)、P4(径73×46cm、深さ61cm)は主柱穴。P6(推定径50cm、深さ60cm)、P7(推定径60cm、深さ58cm)、P8(推定径45cm、深さ61cm)、P9(推定径50cm、深さ56cm)は旧時期の柱穴あるいは掘方の可能性あり。入口ピット P5(径44cm、深さ20cm)は南壁際中央部にある。

壁溝 幅20～30cm、深さ5～8cm。掘方 四隅を土坑状に掘る。カマド 北壁中央部を僅かに掘り窪め煙道とする。煙道の立ち上がりはほぼ垂直。灰褐色粘土土主体の残りは非常に悪い。カマド前から10が、右袖先端部から13が出土。遺物 須恵器環、土師器環・鉢・粗製環・甕などが出土。石器類は編物石2点を図示。1～10の環類は、6を除きすべてが床面直上あるいは床面付近の遺物である。8は乾燥途中で生じ



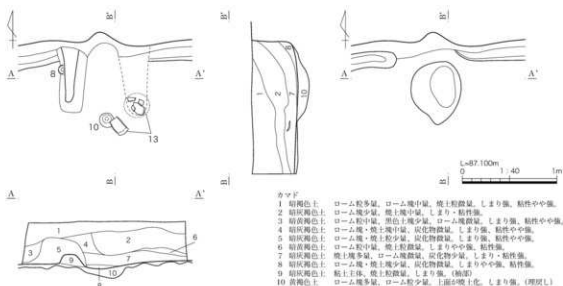
SI-101

- 1 黒褐色土 ローム粒多量、ローム塊中量、黒色土塊少量、しまり・粘性強。(裏込し)
 2 黒褐色土 ローム粒多量、ローム塊・黒色土塊中量、粒上堆少量、しまり強、粘性中強。(裏込し)
 3 粘黄褐色土 ローム粒多量、ローム塊・黒色土塊少量、しまり強、粘性中強。
 4 粘黄褐色土 ローム粒・ローム塊・黒色土塊少量、しまり強、粘性中強。
 5 粘黄褐色土 ローム粒中量、ローム塊少量、灰色粘土少量、しまり強、粘性中強。
 6 粘黄褐色土 ローム粒少量、粒上堆少量、しまり強、粘性中強。
 7 粘黄褐色土 ローム土主体、しまり・粘性強。
 8 粘黄褐色土 ローム土主体、しまり・粘性強。
 9 粘黄褐色土 粒上土堆、粒上堆少量、しまり・粘性強。(前庭)
 P1～P2
 1 黄褐色土 ローム塊少量、黒色土混入、しまり中強、粘性強。
 2 粘黄褐色土 ローム塊少量、灰化物質混入、しまり弱、粘性強。(柱頭)
 3 黄褐色土 ローム土堆、しまり中強、粘性強。(裏込め)
 P3
 1 黒褐色土 ローム塊少量、黒色土混入、しまり中強、粘性強。

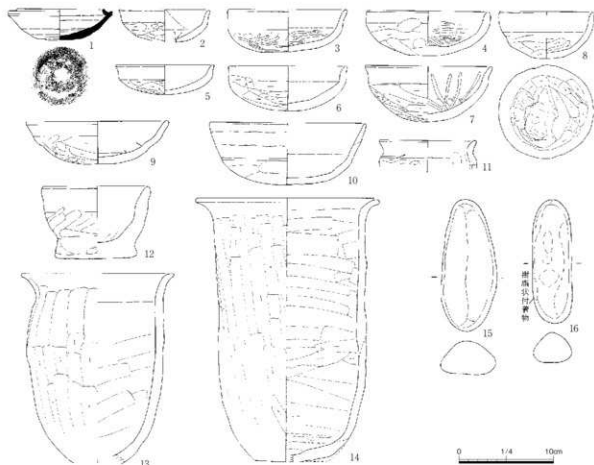
- 2 黄褐色土 ローム土堆、しまり中強、粘性強。
 3 黄褐色土 ローム塊・黒色土少量、しまり弱、粘性強。
 P4
 1 黄褐色土 ローム塊少量、黒色土混入、しまり中強、粘性強。
 2 粘黄褐色土 ローム塊少量、灰化物質混入、しまり弱、粘性強。(表取痕み)
 3 黄褐色土 ローム塊・黒色土少量、しまり弱、粘性強。(表取痕み)
 P5
 1 粘黄褐色土 ローム粒・ローム塊少量、しまり・粘性強。
 2 粘黄褐色土 ローム土堆、しまり・粘性強。
 P6
 1 黄褐色土 ローム塊・黒色土少量、しまり弱、粘性強。(表取痕み)
 P7～P8
 1 粘黄褐色土 ローム土堆、黒色土混入、しまり、粘性強。(裏込め)
 2 粘黄褐色土 ローム土堆、しまり中強、粘性強。(裏込め)
 P9
 1 黄褐色土 ローム塊中量、黒色粒少量、しまり弱、粘性強(表取痕み)

第407図 西刑部西原遺跡13区 SI-101実測図(1)

たヒビに外面から粘土を撫で付け補修したのか。不掲載遺物のうち土器類は小コンテナ 1/2 箱、碟の重さは 3.5 kg である。遺物から古墳時代終末期（7世紀前半～中葉）の建物と考えられる。



第 408 図 西刑部西原遺跡 13 区 SI-101 実測図 (2)



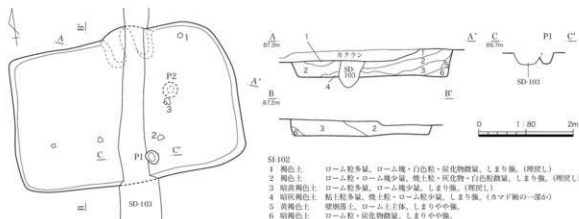
第 409 図 西刑部西原遺跡 13 区 SI-101 出土遺物

第179表 13区 SI-101 出土遺物観察表

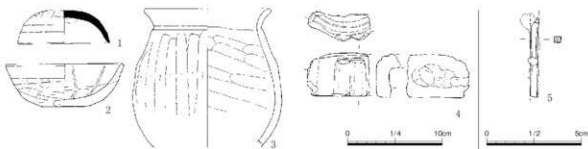
図帳番号	器種	法量(cm/g)	注 法・特 徴	色 調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	現存
1	土師器 坪	口 9.0 高 3.3	内外面口クロナデ。底部外面回転ヘラ切りの外周部回転ヘラケズリか。	内：2.5Y7/3 浅黄 外：2.5Y7/2 灰黄	やや磁焼。白・灰・透明 細砂・雲母片 焼成：やや磁焼	№15 床面	ほぼ完存
2	土師器 坪	口 9.3・10.0 高 [3.5]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデのちミガキ。体部外面ヘラケズリ。内外面磨仕上げか。小型で赤みが大きく、厚薄を一定していない。	内：10YR7/4 に近い黄褐色 外：10YR7/3 に近い黄褐色	やや磁焼。白・赤磁砂。 灰黄 胎成：やや磁焼	№14 床面	ほぼ完存
3	土師器 坪	口 12.2 高 4.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデのちミガキ。体部外面ヘラケズリのちミガキ。内外面磨仕上げ。	内：10YR7/4 に近い黄褐色 外：10YR7/3 に近い黄褐色	やや磁焼。黒・赤・灰磁砂。 礫。赤色粒 焼成：磁焼	№5 2.4	ほぼ完存
4	土師器 坪	口 12.9 高 4.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデのちミガキ。体部外面ヘラケズリのちヘラナデか。内外面黒色焼成か。	内：10YR3/1 黒期 外：10YR3/4 暗期	やや磁焼。白・黒磁砂。 黒磁。赤色粒 焼成：やや磁焼	№16 3.6	口縁部～体部 1/2
5	土師器 坪	口 10.2 高 3.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面に黒色を呈する。	内外面とも 10YR3/1 黒期	やや磁焼。白・赤・黒磁砂。 砂～粗砂 焼成：やや磁焼	№12・13 床面 (№12, 13)	ほぼ完存
6	土師器 坪	口 12.2 高 4.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面ヘラケズリ。内面黒色焼成か。	内：10YR3/1 黒期 外：10YR5/2 灰黄期	やや磁焼。白・灰磁砂。礫。 赤色粒 焼成：やや磁焼	№25 31.0	口縁部～底部 3/4
7	土師器 坪	口 13.2 高 5.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデのち放射状ミガキ。体部外面ヘラケズリのちヘラナデ。	内：10YR6/4 に近い黄褐色 外：10YR7/3 に近い黄褐色	やや磁焼。黒・灰・赤磁砂。 砂～粗砂。礫。赤色粒 焼成：やや磁焼	№24 床面	口縁部 1/2、 底部 1/2
8	土師器 坪	口 9.8 高 4.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面指通押止及びナデ。全体的に磨仕上げ。内外面に焼成前のヒビに粘土を埋めつけた補修跡あり。	内：10YR6/2 灰黄期 外：10YR7/3 に近い黄褐色	やや磁焼。黒・灰・赤磁砂。 砂～粗砂。礫。赤色粒 焼成：やや磁焼	№12・カマ 子№29 床面 (№12)	ほぼ完存
9	土師器 坪	口 15.0 高 4.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヨコナデのちヘラナデ。体部外面放射状押止のちヘラケズリ。内外面磨仕上げか。黒色の斑状付着物あり。漆か不明。	内外面とも H 2.5Y7/3 浅黄	やや磁焼。黒・灰磁砂。 焼成：磁焼	№6・7、 №4・5、 床面 (№6-8)	口縁部 1/2、 底部 1/2
10	土師器 坪	口 16.3 高 6.5	口縁部内外面ヨコナデ。底部～体部内面ナデ。体部～底部外面ヘラケズリか。磨仕上げ。大型の坪。口縁部内面～外面にかき割れ跡あり。	内外面とも 5YR7/6 橙	やや磁焼。白・灰・透明 細砂～礫 胎成：やや磁焼	カマ子№ 29 床面	ほぼ完存
11	土師器 鉢	口 10.2 高 [13.2]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヨコナデのち外面正扁。体部外面ヘラケズリ。口縁部内外面磨仕上げか。	内：10YR8/3 浅黄期 外：10YR8/4 浅黄期	やや磁焼。灰・黒・白磁砂。 砂 焼成：やや磁焼	№23 5.8	口縁部完存
12	土師器 粗製坪	口 11.1 高 8.7 底 7.8	口縁部外面～体部内面下平部ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面ヨコナデまたはナメナデ。底部外面木炭痕か。粗製。	内：5YR2/1 黒期 外：5YR3/1 黒期	やや磁焼。白・灰磁砂 焼成：磁焼	№24 1.1	口縁部7/8、 底部1/3
13	土師器 鉢	口 17.8 高 [20.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面上平ヘラケズリのちナデ。下平部ヘラケズリか。磨仕上げ。胴部内面ヘラナデ。胴部下平部の焼成跡あり。	内：7.5YR/6 橙 外：5YR6/6 橙	やや磁焼。白・灰・赤磁砂～礫。 黒色粒子。石灰粒子 焼成：やや磁焼	№17・カマ 子№29 1.8 (№17)	口縁部7/8、 胴部3/4
14	土師器 鉢	口 19.0 高 27.9	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。下平部不明焼。胴部内面ヘラナデ。胴部下平(後合部)内面ヘラケズリ。底部外面ナデ。	内外面とも 2.5YR5/8 明赤期	やや磁焼。白・黒・灰磁砂。 砂～礫 焼成：やや磁焼	№11 床面	ほぼ完存
15	石器 輪物石	長 13.7 厚 6.9 断面積 3.4 重 394.3	未加工の自然礫。平面形：不整な楕円形 断面形：鱗丸三角形	10Y7/1 灰白	-	№19 5.8	完存
16	石器 輪物石	長 13.0 厚 4.1 断面積 3.1 重 256.2	褐色付着物あり。平面形：楕円形 断面形：鱗丸三角形	2.5Y5/2 暗灰黄	-	№1 床面	完存

13区 SI-102 (遺構：第410図、遺物：第411図、図版六五・一〇〇)

位置 グリッド 98.0-54.0・98.0-54.5・98.5-54.0・98.5-54.5 重複遺構 奈良時代の溝跡 SD-103 と重複し、SD-103 より古い。平面形 北東隅の丸い不整な長方形 規模 東西 4.76× 南北 3.07 m 主軸方向 N-1.5° -W 覆土 埋戻しと考えられる。壁 壁高は 40～58cm 残る。床 ロームを床面とし、概ね平坦。貼床・硬化面共に未確認。ピット P1 (径 38～23 cm、深さ 25 cm)、P2 (径 31 cm、深さ 20 cm) があるが、位置的に柱穴とは考えにくい。入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。カマド 北壁中央部に位置するが、SD-103 によりその大部分を壊されており、詳細は不明。壁際を浅く弧状に掘り込み、煙道は 90° 近い角度で立ち上がる。袖は僅かに残った灰褐色粘土から破線でその範囲を想定し復元した。遺物 遺物量は非常に少ないが、1～3 は床面付近の出土遺物として、時期判定の基準とすることが出来た。4 は型押しした土人形の台座部分の破片か。混入品と考えられる。5 は長頸罐の頸部破片か。不掲載遺物は小コンテナ箱約 1/3。礫は確認できなかった。遺物から古墳時代終末期 (7 世紀中葉～後葉) の建物跡と考えられる。



第410図 西刑部西原遺跡13区 SI-102実測図



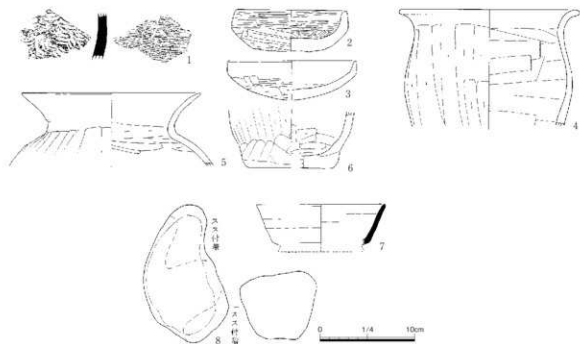
第411図 西刑部西原遺跡13区 SI-102出土遺物

第180表 13区 SI-102出土遺物観察表

編號 番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特 類	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・ 床土 (cm)	残存
1	須恵器 蓋	口 9.5 高 3.5	口縁上上げ、天井部外面ヘラケズリ、天井部内面ナデ、裾熱面煮、外面一部角土付着。	内：10YR4/3 に近い黄緑 外：10YR5/4 に近い黄緑	磁素、灰黒砂 焼成：硬質	No.5 3.7	ほぼ完存
2	土師器 坏	口 (12.2) 高 4.5	口縁部内外面コナデ、体部～底部内面ナデのち疎らな放射状の不定方向ミガキ、体部外面面滑押圧及びナデ、体部～底部外面ヘラケズリ、内外面黒色思理か、底部は平定気味。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	磁素、灰・黒細砂 焼成：硬質	No.3 1.7	口縁部～体 部 1/3
3	土師器 甕	口 (13.0) 高 (14.6)	口縁部内外面コナデ、胴部外面タテヘラケズリ、胴部内面ナメナデ。	内：10YR5/2 灰黄相 外：5YR4/3 に近い赤褐	中々粗い、白・黒粗砂～ 砂多量、雲母片微量 焼成：中々軟質	No.4、南 2.0	口縁部 1/4、 胴部 1/3
4	不明土 製品	長 (6.5) 幅 (2.8) 高 (4.7) 重 53.7	型押しで作られた土人形台座か、内面に指造押圧を施す。上面は明瞭な段をもつ。側面にカマボコ状の隅切が施す。	内：N4/0 灰 外：5YR6/6 橙	中々粗い、白・黒・赤粗 砂～硬 焼成：中々軟質	北	底部破片
5	鉄製品 鉄鏝	長 (4.2) 幅 0.4 厚 0.3 重 (3.1)	長頸部の頸部破片か。断面は長方形。	—	鉄製	南部	部分欠損

13区 SI-105 (遺構：第412図、遺物：第413図、図版六五・〇—〇)

位置 グリッド 99.0-53.5・99.0-54.0・99.5-53.5・99.5-54.0 重複遺構 奈良時代の溝跡 SD-99 により、南西コーナーを欠失する。平面形 西辺に比べ東辺がやや長い不整な長方形 規模 東西 5.18×南北 4.86 m 主軸方向 N-23.5°・E 覆土 黒褐色土主体の2層からなり、自然堆積と考えられる。壁 壁高は 30～38cm 残存する。床 ローム面を床面とする。概ね平坦で、硬化面は確認できなかった。柱穴 P7 (径 67～63 cm、深さ 68 cm)、P2 (径 36～28 cm、深さ 36 cm)、P3 (径 36～31 cm、深さ 24 cm)、P4 (径 31～29 cm、深さ 26 cm) は主柱穴と考えたい。P7 は柱を抜き取った跡か。P1 (径 44～37 cm、深さ 45 cm)



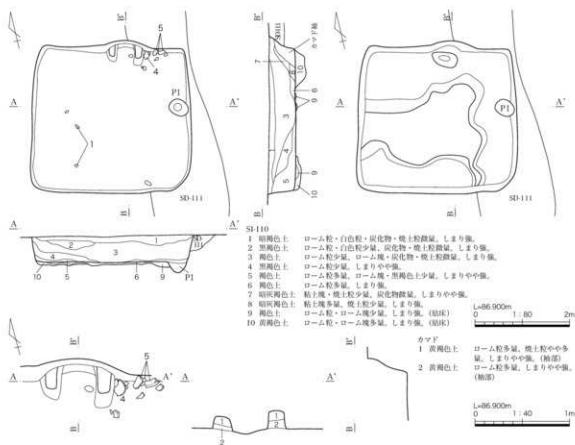
第413図 西刑部西原遺跡13区 SI-105 出土遺物

第181表 13区 SI-105 出土遺物観察表

図録番号	図種	法基(m/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	現存
1	須弥瓶	厚 1.1	外面織かな平厚引き。内面同心円状。あて具痕あり。	内：5Y5/2 灰オリーブ 外：5Y6/2 灰オリーブ	織素、白細砂 焼成：硬質	No 11 7.0	割部破片
2	土師器 杯	口 11.3 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデのちヨコヘラミガキ。底部内面不定方向ヘラミガキ。胴部外面ヨコヘラケズリ。底部外面多方向ヘラケズリ。	内：5YR6/6 橙 外：10YR7/4 に近い黄橙	冷や粗い、黒・赤粗砂 焼成：硬質	No 7 14.0	口縁部3/4、 底部完存
3	土師器 杯	口 13.3 高 4.2	口縁部内外面ヨコナデ。胴部～底部内面ナデ。底部外面ヘラケズリ。胴部上半はヘラナデのち一部に強いミガキ。内外面部仕上げ。	内：10YR4/2 灰黄緑 外：10YR3/1 黒黒	冷や粗い、白・黒粗砂～ 硬 焼成：冷や軟質	No 1, カマ ド 7.8	口縁部1/2、 底部1/2
4	土師器 甕	口 (18.4) 高 (12.5)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面被熱のため赤化し脆弱。	内外面とも 10YR6/3 に 近い黄橙	粗い、灰・白粗砂～ 硬 焼成：軟質	No 8, 北東 6.7	口縁部 2/5、胴部 上半1/3
5	土師器 甕	口 18.6 高 [7.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラナデ。胴部～胴部内面ヨコヘラナデ。球脚の痕。	内：10YR6/3 に近い黄橙 外：10YR5/3 に近い黄橙	冷や緻密。白・灰・黒粗 砂～ 硬 焼成：冷や軟質	No 9、14、 P6 床直 (No 9)	口縁部4/5 完存
6	土師器 甕	底 (8.6) 高 [6.1]	胴部外面タテヘラケズリのち下端部ナデ。胴部内面ナデのち一部ヘラケズリ。底部内面不明。底部外面ヘラケズリのちナデ。	内：7.5YR7/6 橙 外：10YR7/6 明黄橙	冷や粗い、灰・赤・黒粗 砂～ 硬 焼成：冷や硬質	No 8, 北東 P6	底部1/3
7	須弥瓶 高台付 杯	口 (14.6) 高 [3.1]	内外面口クロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち接合 状痕あり。嵌込品。	内：N4/0 灰 外：N5/0 灰	冷や緻密。白・灰細砂～ 粗砂 焼成：硬質	SI-105 周辺	胴部1/6
8	石器 支脚	長 14.4 幅 8.3 厚 7.0 重 99.3	上半部はスス及びサビの付着物あり。下端部スス付 平面形・不整形 断面形：楕円台形	5YR7/3 に近い橙	粗い 焼成：硬質	No 2, カマ ド 12.5 (No 2)	ほぼ完存

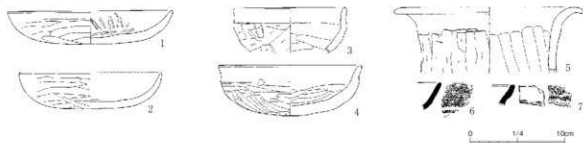
13区 SI-110 (遺構：第414図、遺物：第415図、図版六六・一〇〇)

位置 グリッド 97.5-53.5・98.0-53.5 重複遺構 古墳時代終末期の溝跡 SD-111 より新しい。平面形やや不整な正方形 規模 東西 3.31×南北 3.19 m 主軸方向 N-12.5° - E 覆土 自然堆積と考えられる。壁 壁高 53～57 cm 床 全面的に薄い貼床あり。概ね平坦で、硬化面などは認められない。柱穴 入口ピット・貯蔵穴 確認できなかった。ピット P1 (径 40～31 cm、深さ 20 cm) は東壁際中央部にある。断面観察により本建物に伴うことは確実だが用途は不明である。壁溝 確認できなかった。掘方



第414図 西刑部西原遺跡13区 SI-110実測図

建物中央部から西壁際部分を鳥状に残し周囲を掘り窪める。深さは12～24cmあり、ローム塊混じりの9・10層で埋戻す。カマド 北壁中央部やや東寄りに位置する。壁面を浅く弧状に掘り込み煙道としている。煙道は急角度で立ち上がる。袖はローム土と粘土の混合土で構築する。燃燒部は皿状に掘り窪めた後埋戻している。遺物 平面的にはカマド周辺部に集中する。遺物は土師器環や裏類が少量出土し、殆どが覆土中のものである。床面付近の遺物は1の土師器環と5の土師器裏である。小破片であるが、須恵器磁の破片(6・7)が2点出土している。不掲載遺物は土器類が小コンテナ箱1/3程度、礫は約300g。遺物から奈良時代前葉(7世紀末葉～8世紀前葉)の建物跡と考えられる。



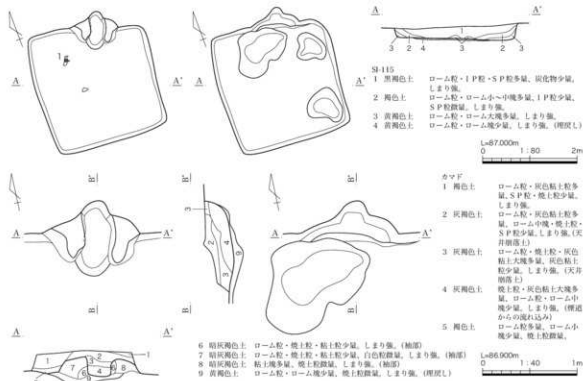
第415図 西刑部西原遺跡13区 SI-110出土遺物

第182表 13区 SI-110 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	土師器 杯	口 (17.2) 高 3.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部内面ややや不整なヘラナデ。体部～底部内面やヘラケズリ。底部外面一方のヘラケズリ。	内：10YR5/3 に近い黄褐色； 外：7.5YR7/6 相	磁素、磁粉、赤色顔、シヤモットか 焼成：硬質	№2・3、高 ×6.5ト、南東 3.7 (№3)	口縁部1/4、 底部1/2
2	土師器 杯	口 (14.8) 高 3.7	口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部～底部外面ヘラケズリのちヘラナデか。口縁部内外面黒色を塗り、内面褐色。塗り上げ。	内：10YR7/4 に近い黄褐色； 外：7.5YR6/6 相	磁素、黒・白磁粉 焼成：硬質	北西、高 床、南東	口縁部1/5、 底部4/5
3	土師器 杯	口 (11.6) 高 [4.7]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのち濃い(深い)沈線状のナデ。体部内面強いヘラナデ。内外面塗り上げ。	内：10YR4/2 灰青褐色； 外：10YR7/4 に近い黄褐色	磁素、白・灰・赤磁粉 焼成：やや硬質	南東	残存1/2、 口縁部一部
4	土師器 杯	口 15.0 高 5.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヨコヘラケズリのちヘラナデ。底部外面一方のヘラケズリ。内面一部に黒ナデ。外面黒褐色は焼成時のものか。	内：10YR6/4 に近い黄褐色； 外：10YR5/3 に近い黄褐色	磁素、白・黒磁粉 焼成：硬質	カマド№12・ 13 8.5 (シヤマド 12、13)	口縁部1/2、 底部1/4
5	土師器 甕	口 [20.0] 高 [2.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面タテヘラナデ。	内：7.5YR6/4 に近い黄褐色； 外：7.5YR7/6 相	やや粗い、白・灰・赤磁粉 焼成：やや硬質	№7・10 2.1 (№) 10	口縁部一側 部上1/3
6	須恵器 遺器	高 [2.9]	口縁部外面7ホー組の縞線状波状文あり。破片下端面に太い2本の沈線あり。	内：5Y5/2 灰オリーブ 外：5Y5/1 灰	やや緻密。灰・黒磁粉 焼成：硬質	南東	口縁部破片
7	須恵器 遺器	高 [1.3]	口縁部。上下の面輪小さな縞線状波状文がみられる。口縁は横かたに湾し、端部は凹線状に深く凹む。	内外面に同、7.5Y6/1 灰	やや粗い、黒・灰・白磁粉 焼成：硬質	南ベルト	口縁部破片

13区 SI-115 (遺構：第416図、遺物：第417図、図版六六・一—〇)

位置 グリッド96.5-53.5 重複遺構 無し。平面形 やや不整な正方形 規模 東西2.52×南北2.76 m 主軸方向 N-6.5°-E 覆土 自然堆積か。壁 壁高18～31cm 床 概ね平坦で、硬化面は未確認。貼床あり。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 カマド前面及び北東隅及び南東隅に土坑状の掘り込みあり。ローム土を少量含む4層で埋戻している。カマド 北壁中央部を不整な凸字状に掘り込む。袖は暗灰褐色土で構築する。遺物 極めて少なく、図示できる遺物は2点のみであった。1は床面付近から出土した須恵器横版破片。黒色付着物があり、二次的に被熱したもののか。2は器種不明の



第416図 西刑部西原遺跡13区 SI-115実測図

土器。小型の壺形を呈するものか。右端部には縦位の透かしをもち、器面には弧状の浅い沈線文を施す。不掲載遺物は土師器片・裏胴部破片が主体で、僅か10片ほどである。遺物が少なく明確な年代は確定できないが、奈良時代から平安時代の建物跡と考えたい。



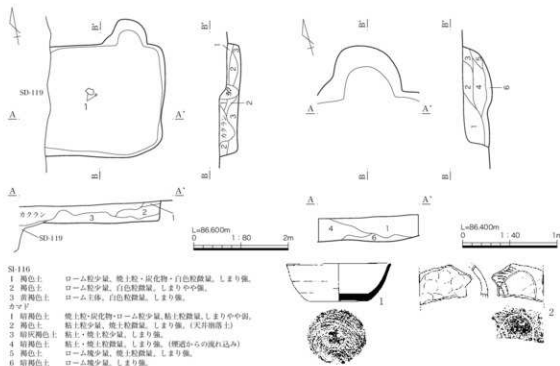
第417図 西刑部西原遺跡13区 SI-115出土遺物

第183表 13区 SI-115出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	注 法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・残土(cm)	残存
1	須恵器 破片	高 13.5	外面平行叩き。内面あて具痕及びナデ。内外面一部に黒色付着物あり。炭化物か。	内：2.5YR/2灰白 外：2.5YR/3淡黄	中卒硬質。灰燼砂 焼成：中卒硬質	No.2 3.0	須恵破片
2	土師器 器種不明	厚 0.0	文様は人形の両腕の上部に細かな規矩の弧線を組み合わせており、モチーフは不明である。施文は浅い。SI-116-2と同一個体か。	内外面とも10YR4/3に 近い黄褐色	中卒粗い。白・灰・灰燼 砂・粗砂 焼成：中卒硬質		須恵破片 (覆土 上層)

13区SI-116 (遺構・遺物：第418図、図版六六・一一〇)

位置 グリッド97.5-53.5・98.0-53.5 重複遺構 時期不明の溝SD-119より古い。平面形 隅丸長方形
規模 東西2.4m以上×南北2.38m 主軸方向 N-15°-E 覆土 自然堆積 壁 壁高は25～40cm残る。床 ローム地山を床面とする。概ね平坦で硬化面などは見られない。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。カマド 北壁コーナー付近に位置する。袖は残っておらず取り去られたものか。焼土は極めて少ない。遺物 遺物は極めて少なく、図示可能な遺物は2点のみである。1は糸切りの須恵



第418図 西刑部西原遺跡13区 SI-116実測図・出土遺物

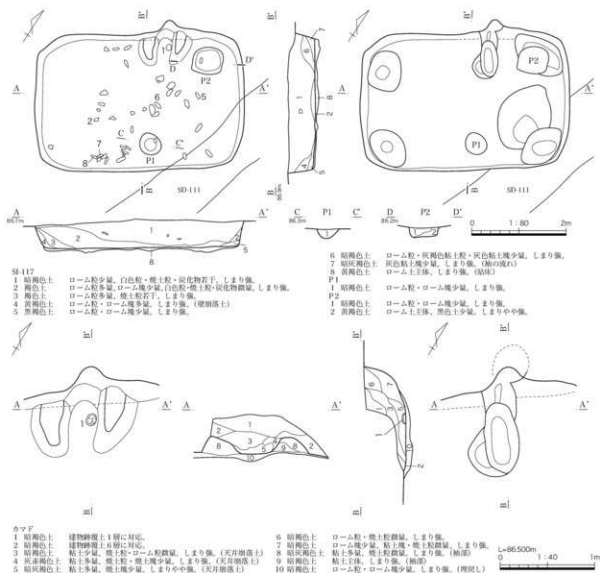
器环。2はSI-115出土の器種不明土器と胎土・焼成共に酷似しており、同一個体と考えられる。不掲載遺物は土器類小破片が10点出土。1の土師器环から奈良時代後葉（8世紀後葉）の建物跡と考えられる。

第184表 13区 SI-116 出土遺物観察表

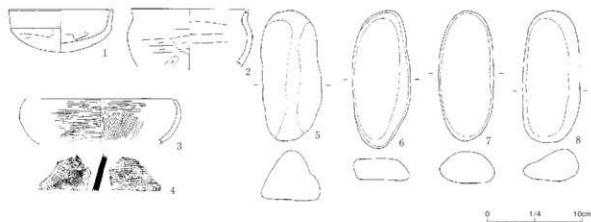
掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器环	口 10.8 高 3.9	口ケ上上げ。底部外面回転糸切り。	内外面とも 10Y98/3 浅黄橙	中々緻密。白・黒・赤褐色～粗砂 焼成：中々軟質	No 1 25.3	口縁部 1/4、底部 完存
2	土師器器種不明	高 [4.0] 径 12.0	側部外面ナデのち沈線により施文。底底の沈線から遺物のようにさらにさらに細かい気線状の沈線が認められる。内面面筋消し。氣色の透かし彫りは一方へラケズリ。SI-115と同一個体か。	内外面とも 10Y94/3 に近い黄緑	中々粗い。白・黒・灰褐色～粗砂 焼成：中々硬質	南西	側部破片

13区 SI-117 (遺構：第419図、遺物：第420図、図版六六・六七・一一〇)

位置 グリッド 98.0-53.5・98.5-53.5・98.5-54 重複遺構 古墳時代終末期の溝 SD-111 より古いか。平面形 隅丸長方形 規模 東西 4.36×南北 3.05 m 主軸方向 N-34°-W 覆土 自然堆積 壁 壁高



50～52 cm 床 概ね平坦。ほぼ全面に薄い貼床あり。ピット P1 (径47～40 cm、深さ18 cm) は南壁際中央部にあり、入口ピットの可能性もあるか。貯蔵穴 P2 (長軸71×短軸61 cm、深さ20 cm) は北東隅に位置する。壁溝 確認できなかった。掘方 四隅を浅く土坑状に掘り込み、ローム土主体の8層で埋戻す。カマド 北壁中央部やや東寄りに位置し、壁をU字形に掘り込む。焼土は少なく、燃焼部には天井崩落土が堆積する。カマド内の床面からは土師器環(1)が伏せた状態で単独で出土した。遺物 土師器環や小型甕、須恵器甕破片、編物石などが出土した。編物石は床面からの出土が多く、量目が均一なものが多い。不掲載遺物は土器類が小コンテナ箱1/5強、礫は20 kg近くが確認された。古墳時代終末期(7世紀前葉から中葉)の遺物が多いが、住居跡の規模が小さく、また古墳時代以降の遺物も若干含んでいるなど、やや新しい要素も見られる。



第420図 西刑部西原遺跡13区 SI-117出土遺物

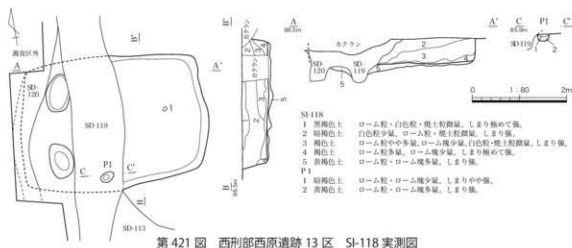
第185表 13区 SI-117出土遺物観察表

発見番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・出土 (cm)	残存
1	土師器環	口 10.8 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデのちヘラケズリか。体部～底部内面ヘラナデ。内外面漆仕上げ。体部外面刺状溝溝。口縁部楕円形に歪む。	内: 7.5YR6/6 橙 外: 7.5YR7/6 橙	中～中硬。白・赤・黒。粗砂焼成; 中～軟質	№.39 (方平下内)	口縁部定存。体部～底部一部欠損
2	土師器小型甕	口 (12.2) 高 (6.1)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヨコヘラケズリのちヘラナデ。胴部内面ナデ。	内: 10YR4/2 灰黄褐色 外: 10YR5/4 に近い黄褐色	中～粗い。白・灰粗砂～硬焼成; 軟質	№.6 1.8	割 1/6
3	土師器環	口 (7.8) 高 [4.7]	内面口縁部ヨコヘラミガキのち体部入念な放射状ヘラミガキ。口縁部外面ヨコナデのちヨコヘラミガキ。体部～底部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。内外面漆仕上げ。墨入品か。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	細密。白・赤細砂焼成; 中～硬質	北西	口縁部1/8。体部1/5
4	須恵器甕破片	高 [4.1] 厚 0.6	外面細かく浅い平行甲斐。内面細かく浅い同心円状甲斐。墨入品。	内外面とも 2.5Y6/1 黄灰	細密。白・灰細砂焼成; 硬質	北西	胴部破片
5	石編物石	長 14.0 幅 6.2 厚 5.1 重 603.2	平面形: 楕円形 (定形) 断面形: 楕円の三角形 右側縁にやや凹みあり。縦をかけた可能性あり。	10YR5/4 に近い黄褐色	-	№.11 床直	定存
6	石編物石	長 15.0 幅 6.0 厚 2.2 重 351.8	平面形: 中～小サイズの楕円形 (定形) 断面形: 楕円の方形 表面面とも平坦で表面は平滑だが、人為的に磨いた痕跡はない。	5Y6/2 灰オリーブ	-	№.19 13.0	定存
7	石編物石	長 13.8 幅 5.9 厚 3.2 重 372.3	平面形: 楕円形 断面形: 表面はやや丸みを帯び。表面は概ね平坦くびれ・凹みなどはみられない。	10YR6/3 に近い黄褐色	-	№.30 床直	定存
8	石編物石	長 13.9 幅 6.0 厚 3.2 重 385.9	未加工の自然産。 平面形: 楕円の丸く短冊形 断面形: 楕円の三角形	2.5Y6/3 に近い黄褐色	-	№.31 床直	定存

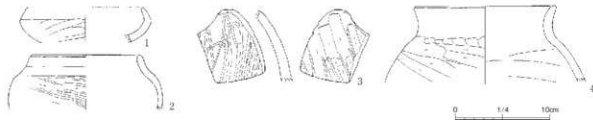
SI-118 (遺構：第421図、遺物：第422図、図版六七)

位置 グリッド98.5-54.0・98.0-53.5 重複遺構 SD-119・120と重複し、いずれの遺構より古い。平面形 中央部から西を大きく欠失するが、東西軸の隅丸長方形と考えられる。規模 東西推定3.92×南北2.85m以上 主軸方向 確認できなかった。覆土 4層からなる自然堆積と考えられる。壁 壁高は47～52cm残る。床 ローム地山を床面とする。概ね平坦で、全面に浅く貼床を施す。柱穴 確認できなかった。

入口ピット P1 (径30～19cm、深さ14cm)はSD-119に上面を削られるが、位置的に入口ピットと考えたい。貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 北西部、南西部に土坑状の掘り込みあり。ローム土を多量に含む5層で埋戻している。カマド 確認できなかった。SD-119に削平されたためか。遺物 その殆どが小破片であり、図示可能な遺物は4点のみである。3は内外面にヘラミガキを施す。大型の鉢あるいは甗の可能性もある。不掲載遺物は土師器環・甕胴部破片が主体で、小コンテナ箱1/5弱。礫は確認できなかった。古墳時代後期末葉(6世紀末から7世紀初頭)の建物跡と考えられる。



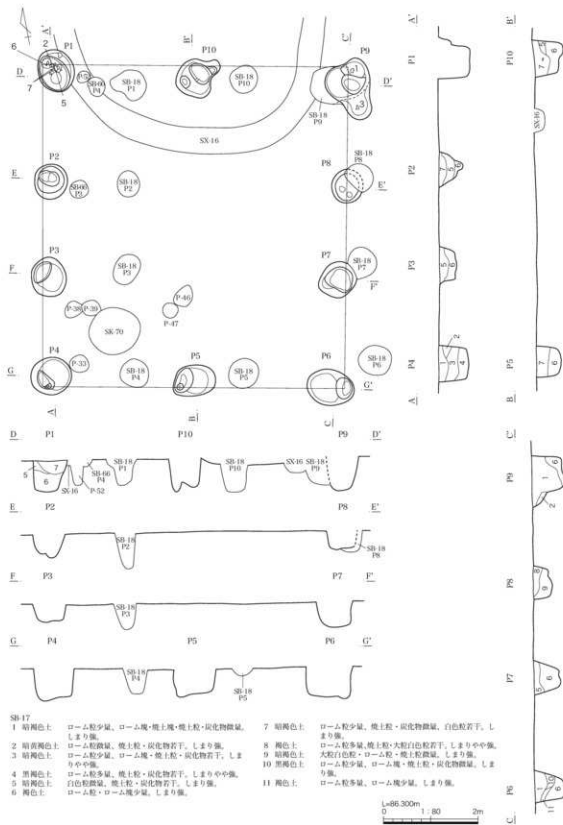
- SI-118
- 1 黒褐色土 ローム粒・白色粒・焼土粒多量。しまり極めて強。
 - 2 黒褐色土 白色粒少量。ローム粒・焼土粒多量。しまり強。
 - 3 褐色土 ローム粒や中多量。ローム塊少量。白色粒・焼土粒多量。しまり強。
 - 4 褐色土 ローム粒多量。ローム塊少量。しまり極めて強。
 - 5 黄褐色土 ローム粒・ローム塊多量。しまり強。
- P1
- 1 黒褐色土 ローム粒・ローム塊少量。しまり中強。
 - 2 黒褐色土 ローム粒・ローム塊多量。しまり強。



第186表 13区 SI-118出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	現存
1	土師器環	口(12.0) 高(3.7)	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ナデか。内面～口縁部外面直上上げ。	内外面とも5YR7/6橙	中々粗い。白・赤・黒顔砂～粗砂 焼成：軟質	ベルト	口縁部～体部1/4
2	土師器鉢	口(11.0) 高(5.8)	内面～口縁部外面ヨコナデ。体部外面ナメヘラケズりのちヘラミガキ。	内：5YR5/6橙 外：5YR5/8明赤褐	中々粗部。白・灰黒砂～粗砂 焼成：硬質	南へルト	口縁部1/4。体部上1/5
3	土師器鉢か	高(7.7)	体部内面上平～口縁部外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ。体部外面タテヘラケズりのち疎らなヘラミガキ。大型の鉢か。	内：10YR3/1黒赤 外：7.5YR6/4に5YR7/6橙	中々粗部。白・灰・黒顔砂 焼成：硬質	No.1 1.0	胴部破片
4	土師器甕	口(14.8) 高(8.2)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデか(割傷磨滅のため不明瞭)。胴部外面タテヘラナデのちナメヘラケズリ。	内外面とも7.5YR7/6橙	粗い。白・灰粗砂～硬質 焼成：軟質	南東	口縁部～胴部1/8

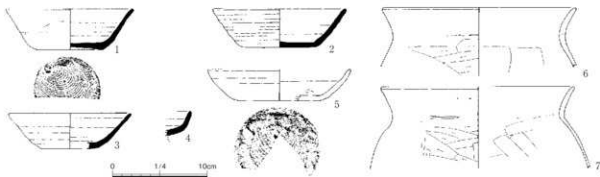
2. 掘立柱建物跡



第 423 図 西刑部西原遺跡 13 区 SB-17 実測図

13区 SB-17 (遺構: 第423図、遺物: 第424図、図版六七・一一〇)

位置 グリッド53.5-101.5 重複遺構 SB-66、SK-70、P-33・38・39・46・47・52と重複するが、新旧関係は不明。SX-16、SB-18より新しい。規模・平面形 桁行3間×梁行2間の南北棟柱式建物。桁行総長6.8m、梁行総長6.4m。柱間 桁行の柱間寸法は南から2.2m+2.1m+2.5m、梁行の柱間寸法は3.2mである。主軸方向 N-11°-E 柱穴 P1(径90~75cmの楕円形、深さ67cm)、P2(径73~68cmの円形、深さ47cm)、P3(径85~72cmの円形、深さ32cm)、P4(径85~80cmの円形、深さ67cm)、P5(径94~64cmの楕円形、深さ51cm)、P6(径98~75cmの楕円形、深さ63cm)、P7(径79~74cmの不整形円形、深さ59cm)、P8(径約70cmの円形、深さ37cm)、P9(径126~76cmの不整形楕円形、深さ72cm)、P10(径98~80cmの不整形円形、深さ73cm)が確認された。掘方は大型の楕円形が多いが、柱痕は確認できなかった。遺物 須恵器環(1・3)はP8覆土中から出土。須恵器環(2)、土師器環(5)・甕(6・7)はP1覆土中からそれぞれ出土した。遺物から奈良時代から平安時代の建物跡と考えられる。備考 土層断面では把握できなかったが、調査時の所見では底面の状況から2時期の建替えが行われた可能性が指摘されている。



第424図 西刑部西原遺跡13区 SB-17出土遺物

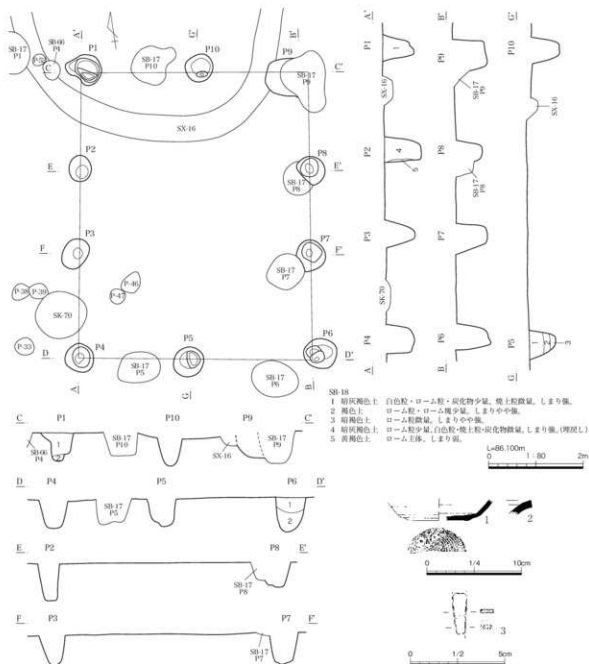
第187表 13区 SB-17出土遺物観察表

編年番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器環	口 (13.2) 底 7.0 高 4.3	内外面口コナテ。底部外面回転糸切り。体部外面接合部が顕著。	内: 10YR7/3 に近い黄緑 外: 10YR8/4 浅黄緑	中々粗い、白・灰・黒 焼成: 中々硬質	P8 No.1 26.5	口縁部 1/2、底部 3/5
2	須恵器環	口 13.8 底 8.0 高 4.1	内外面口コナテ。底部外面一方傾ヘラケズリ。体部外面下端ヘラケズリか。新治産。	内: 10YR6/1 赭灰 外: 10YR4/1 赭灰	中々粗い、白色粒。灰白色 色濃。雲母片多量 焼成: 硬質	P1 No.7 28.7	口縁部 1/2、底部 完存
3	須恵器環	口 (12.6) 底 (6.3) 高 3.8	内外面口コナテ。底部外面回転ヘラケズリのみチナテか。	内外面とも 7.5Y5/1 灰	中々粗い、白・灰・黒 焼成: 硬質	P8 No.2 11.9	口縁部 1/6、底部 一部
4	須恵器高台付盤	口 1.9 高 3.8	内外面口コナテ。高台部剥落。接合注線。	内: 2.5YR5/2 暗灰黄 外: 10YR4/2 灰黄緑	中々緻密、白粒、白色粒、 黒色粒 焼成: 硬質	覆土中	口縁部~体 部 1/12 程 破か
5	土師器環	口 (14.8) 底 (8.6) 高 3.6	内外面口コナテ。体部外面磨面のため不明瞭だがヘラミガキか。体部外面下端ヘラケズリにより二次底部面をつくる。底部外面回転糸切りのち外周手持ちヘラケズリ。内面黒色付着物あり。漆か。	内: 7.5YR8/6 浅黄緑 外: 10YR4/2 灰黄緑	中々緻密、白・灰・黒 砂~粗砂 焼成: 中々硬質	P1 No.2 50.1	口縁部 3/8、底部 1/2
6	土師器甕	口 (20.2) 高 (6.3)	口縁部内外面口コナテ。胴部外面ヨコまたはナメヘラケズリ。胴部内面ヘラケテ。	内: 5YR4/4 に近い赤黒 外: 5YR5/6 明赤黒	中々緻密、灰・黒細砂~ 粗砂 焼成: 中々硬質	P1 No.10 20.1	口縁部~胴 部 上 1/6
7	土師器甕	口 (20.2) 高 (8.7)	口縁部内外面口コナテ。胴部外面ヘラケズリ。胴部内面ヘラケテ。破片左側の黒点は土層破壊後二次的付いた焦げ跡か。	内: 2.5YR5/8 明赤黒 外: 5YR5/6 明赤黒	中々緻密、白・灰・黒 粗砂~ 粗砂、雲母片 焼成: 中々軟質	P1 No.3 41.0	口縁部~胴 部 上 1/5

13区 SB-18 (遺構・遺物：第425図、図版六七・六八)

位置 グリッド 53.5-101.5 重複遺構 P-46・47、SK-70 との重複関係は不明。SX-16 より新しく、SB-17 より古い。

平面形・規模 桁行3間×梁行2間の南北棟側柱式建物。桁行総長6.0m、梁行総長4.8m。
柱間 桁行の柱間寸法は南から2.2m+1.8m+2.0m、梁行の柱間寸法は2.4mである。主軸方向 N-2°-E 柱穴 P1(径72~66cmの不整形円形、深さ56.3cm)、P2(径54~46cmの楕円形、深さ78.1cm)、P3(径67~50cmの楕円形、深さ60.1cm)、P4(径約60cmの円形、深さ59.8cm)、P5(径65~60cmの円形、深さ54.1cm)、P6(径約66cmの円形、深さ51.1cm)、P7(径約65cmの不整形円形、深さ64.7cm)、P8(径67~50cmの不整形円形、深さ55.1cm)、P9(径推定110~94cmの楕円形、深さ69cm)、P10(径約57



第425図 西刑部西原遺跡13区 SB-18実測図・出土遺物

cmの円形、深さ57.6cm)である。据方は円形または楕円形が主で、北東隅柱のP9が最も大きいと思われるが、SB-17のP9に壊されており、全形は不明である。また断面観察から柱痕は確認されなかった。遺物 遺物は少なく、須恵器環(1)・甕(2)が遺構確認面から出土する。またP7覆土中からは鉄鍍身部の破片が出土している。遺物及びSB-17との切り合いから、本遺構は奈良時代末から平安時代の建物跡と考えられる。

第188表 13区 SB-18 出土遺物観察表

掲載番号	図種	法量(cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵器環	底 (6.2) 高 (2.4)	内外面ロケロナテ。底部外面側系切り。二次底面を有する。	内外面とも 7.5Y3/1 灰	中々緻密。白・灰褐色焼成：中々硬質	覆土中	口縁部2/5
2	須恵器甕	高 (11.7) 厚 0.8	内外面ロケロナテ。	内外面とも N5/0 灰	緻密。白・透明細砂焼成：硬質	覆土中	口縁部一部
3	鉄製品鉄鍍	法 (2.2) 幅 0.7 厚 0.2 重 (1.3)	壺形式の長圓錐か、鍍身の上平部を欠損するため形状は不明瞭。断面長方形。	—	鉄製	P7 2層中	部分残存

13区 SB-44 (遺構：第426図、図版六八)

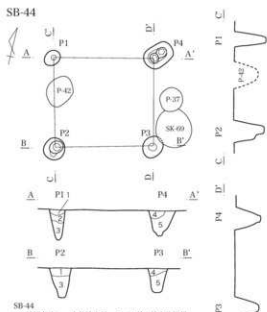
位置 グリッド54-101.5 重複遺構 SK-69より古い。P-42との切り合いは不明。規模・平面形 桁行1間×梁行1間の東西棟側柱式建物跡。桁行総長2.1m、梁行総長1.9m。柱間 桁行及び梁行の柱間寸法は桁行・梁行総長と同じ。主軸方向 N-75°-E 柱穴 P1(径39～30cmの楕円形、深さ65cm)、P2(径46cmの円形、深さ63cm)、P3(径48～44cmの楕円形、深さ53cm)、P4(径65～45cmの楕円形、深さ54cm)である。北西隅のP4のみ他より大きい長方形を呈する。柱痕は確認できなかった。遺物 遺物は出土しておらず、本遺構の帰属時期は不明である。

13区 SB-66 (遺構：第426図、図版六八)

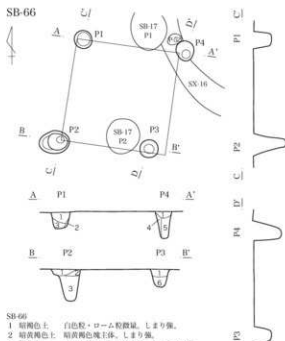
位置 グリッド101.5-53.5 重複遺構 SB-17、SX-16、P-52と重複するが、新旧関係は不明。規模・平面形 桁行1間×梁行1間の側柱式建物跡か。但し柱間が一定しないなど、平面形が乱れており建物の可能性がある遺構として掲載した。桁行総長・梁行総長共に2.2m。柱間 桁行及び梁行の柱間寸法は桁行・梁行総長と同じ。主軸方向 N-10°-E 柱穴 P1(径38cmの円形、深さ37cm)、P2(径64～48cmの楕円形、深さ66cm)、P3(径39cmの円形、深さ37cm)、P4(径40cmの円形、深さ57cm)の計4本を確認。P4のみ柱痕が残っていた。遺物 確認できなかったため、時期は不明である。

13区 SB-67 (遺構：第426図、図版六八・六九)

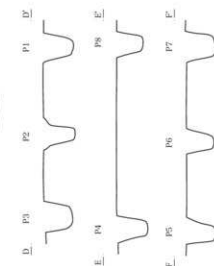
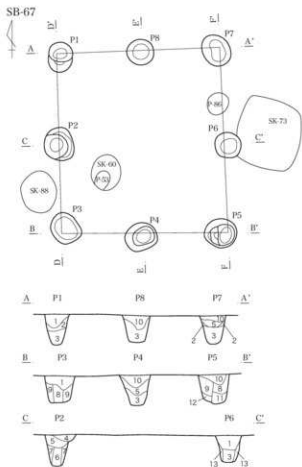
位置 グリッド101.0-53.0 重複遺構 SK-60、P-53・86との重複関係は不明。SK-73より新しい。規模・平面形 桁行2間×梁行2間の南北棟側柱式建物跡。桁行総長4.0m、梁行総長3.5m。柱間 桁行の柱間寸法は2m、梁行の柱間寸法は1.75m。主軸方向 N-1°-W 柱穴 P1(径63～51cmの楕円形、深さ51cm)、P2(径72～65cmの楕円形、深さ67cm)、P3(径66～63cmの不整形円形、深さ62cm)、P4(径69～61cmの不整形楕円形、深さ64cm)、P5(径67～61cmの円形、深さ62cm)、P6(径54cmの円形、深さ59cm)、P7(径70～56cmの楕円形、深さ59cm)、P8(径56cmの円形、深さ56cm)の計8本を確認。このうちP2・3・5・6から柱痕が確認されており、推定される柱の直径は17～20cmである。遺物 本建物からは時期判別可能な遺物は出土しなかった。



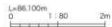
- SB-44
- 1 暗褐色土 白色粒少量、ローム粒・焼土粒微量、しまり強。
 - 2 暗褐色土 ローム粒微量、しまり強。
 - 3 褐色土 ローム粒多量、ローム塊微量、しまり中強。
 - 4 暗褐色土 白色粒多量、ローム粒・焼土粒少量、しまり強。
 - 5 暗褐色土 ローム粒少量、焼土粒微量、しまり中強。



- SB-66
- 1 暗褐色土 白色粒・ローム粒微量、しまり強。
 - 2 暗褐色土 暗褐色塊土体、しまり強。
 - 3 褐色土 ローム粒・ローム塊少量、しまり中強。
 - 4 暗褐色土 白色粒・ローム粒・焼土粒微量、しまり中強。
 - 5 暗褐色土 暗褐色土塊・ローム粒少量、しまり中強。
 - 6 暗褐色土 ローム粒・ローム塊多量、しまり強。



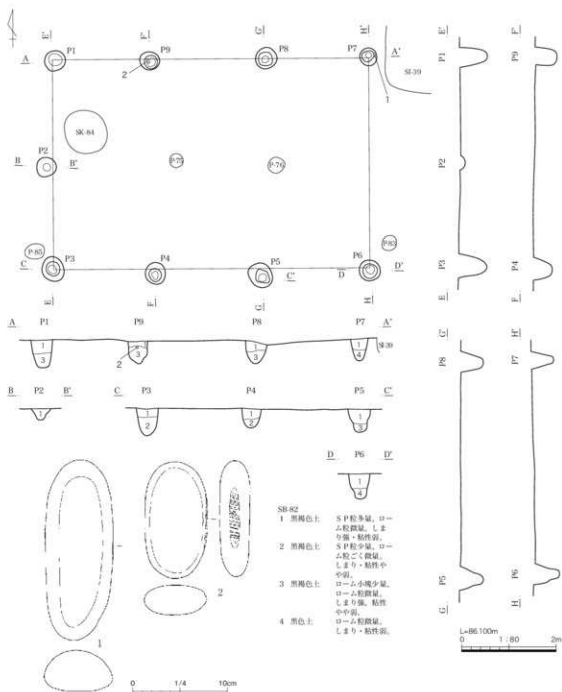
- SB-67
- 1 褐色土 ローム粒・ローム塊・I P粒少量、しまり強。
 - 2 暗褐色土 ローム塊多量、ローム粒微量、しまり強。
 - 3 暗褐色土 ローム土塊、しまり中強。
 - 4 暗褐色土 白色粒微量、しまり強。
 - 5 暗褐色土 大粒白色粒、ローム粒微量、しまり強。
 - 6 暗褐色土 ローム粒・ローム塊微量、しまり中強。(粒粒小)
 - 7 暗褐色土 ローム粒・ローム塊多量、しまり強。(周辺のみ)
 - 8 褐色土 ローム粒少量、ローム塊若干、しまり中強。(柱粒小)
 - 9 褐色土 ローム粒・ローム塊少量、I P粒微量、しまり中強。(周辺のみ)
 - 10 暗褐色土 白色粒・ローム粒・焼土粒・炭化物微量、しまり強。
 - 11 暗褐色土 ローム粒微量、しまり中強。(柱粒小)
 - 12 褐色土 ローム粒多量、ローム塊少量、しまり強。
 - 13 褐色土 ローム粒・ローム塊少量、しまり強。



第426図 西刑部西原遺跡13区 SB-44・66・67実測図

13区 SB-82 (遺構・遺物：第427図、図版六九)

位置 グリッド 100.5-54.0 重複遺構 SK-84、P-75・76 との重複関係は不明。 規模・平面形 桁行3間 × 梁行2間の東西棟側柱式建物。桁行総長6.4m、梁行総長4.4m。 柱間 桁行の柱間寸法は東から2.2m + 2.2m + 2.3m、梁行の柱間寸法は3.2mである。 主軸方向 N-90°-E 柱穴 P1 (径約45cmの円形、深さ60cm)、P2 (径41cmの不整形円形、深さ27cm)、P3 (径53~45cmの不整形円形、深さ52cm)、



第427図 西刑部西原遺跡13区 SB-82実測図・出土遺物

P4（径45cmの円形、深さ41cm）、P5（径54～48cmの楕円形、深さ50cm）、P6（径45cmの円形、深さ55cm）、P7（径37cmの円形、深さ47cm）、P8（径45cmの円形、深さ45cm）、P9（径約40cmの円形、深さ44cm）の計9本の柱穴が調査されたが、柱痕は確認できなかった。また東妻柱列の棟持柱は確認できなかった。遺物 遺物は石器2点が確認されたのみで、時期判別可能な遺物は出土していない。

第189表 13区 SB-82 出土遺物観察表

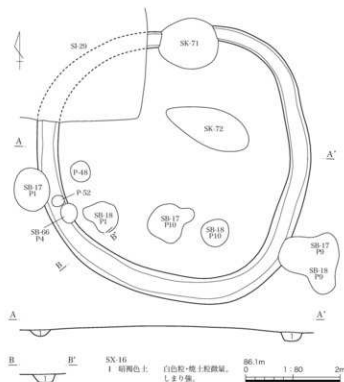
図録番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・深さ(cm)	現存
1	石器 扁形石	長 19.1 幅 7.2 厚 43.0 重 929.9	未加工の自然産。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	2.5Y7/1 灰白	-	P9 9.7	完存
2	石器 砥石か	長 13.2 幅 6.6 厚 3.2 重 407.4	右側面に深い磨痕あり。砥石か。断面全体に研磨した痕跡あり。	N6/O 灰	-	P7 25.6	完存

3. 円形周溝遺構

13区 SX-16（遺構：第428図、図版六九）

位置 グリッド101.5-53.5・102.0-53.5 重複遺構 7世紀中葉の建物跡 SI-29、8世紀代の掘立柱建物跡 SB-17・18・66、SK-71・72と重複する。SB-17・18より古いと考えられるが、他の遺構との明確な切り合いは不明。

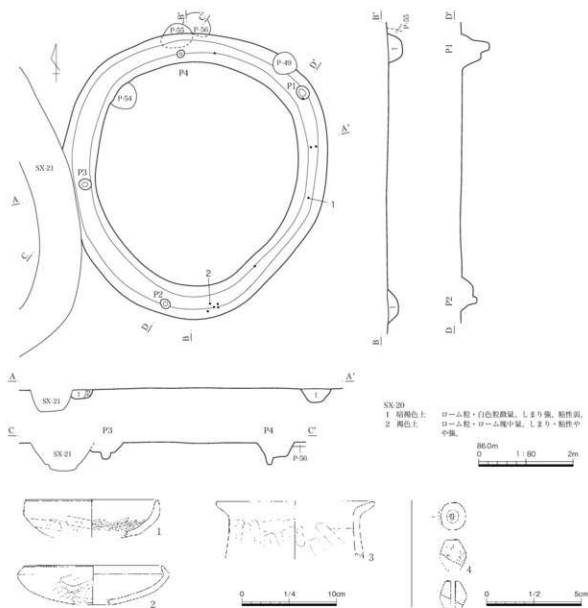
規模・平面形 長径：外5.87m：内5.05m～短径：外5.68m：内4.81m、溝の上幅42～54cmの不整な円形。覆土 暗褐色土単層で、自然体積と考えられる。壁・断面形 壁の残りが少ないため、不明瞭だが、概ね直線的に立ち上がる。壁高は最も浅い北部で6cm、南部から東部にかけてやや深く、14～18cm残る。底面 細かな凹凸があるが、概ね平坦。ビット 確認できなかった。遺物 確認できなかったが、遺構の形態・覆土の様子から古墳時代後期の遺構と考えられる。



第428図 西刑部西原遺跡13区 SX-16実測図

13区 SX-20 (遺構・遺物：第429図、図版六九・——○)

位置 グリッド100.5-53.5 重複遺構 円形周溝遺構 SX-21より古い、P49・54～56との新旧関係は不明である。規模・平面形 長径：外6.0m：内5.5m～短径：外4.75m：内4.18m、上幅約62～76cmの不整な円形を呈する。覆土 暗褐色土および褐色土からなる2層に分層される。壁・断面形 壁高は西部で17～20cmと浅く、東部は25cm前後、最も深い北東部は39cm残る。断面形は丸みをもった逆台形を呈する部分が多い。底面 部分的に工具痕が残り、やや凹凸が多い。ピット 底面にはP1(径約25cm、深さ19cm)、P2(径23cm、深さ10cm)、P3(径23cm、深さ17cm)P4、(径16cm、深さ18cm)の計4か所にピットが見られるが、覆土の様子は確認できなかった。遺物 覆土中から土師器杯・甕・甗などの小破片70点が出土し、このうち4点を図示した。1は東部の覆土下層、床上3cmから出土した土師器杯で内面にミガキを施す。4は切子玉を模した土玉で、北西部覆土中から出土した。遺物から7世紀中葉の遺構と考えたい。



第429図 西刑部西原遺跡13区 SX-20 実測図・出土遺物

第190表 13区 SX-20 出土遺物観察表

図版番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	土師器 杯	口 (13.8) 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラナデか。体部内面不定方向の雑なヘラミガキ。	内: 7.5YR7/6 橙 外: 10YR8/4 浅黄橙	やや粗い、白・灰・黒編砂 焼成: 中々軟質	№5 3.0	口縁部 1/4、底部 1/10
2	土師器 鉢	口 (14.3) 高 [4.1]	内面及び口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのみヘラナデ。体部内面黒色付着物あり。漆か。焼成時の形み大きい。	内: 10R5/6 赤 外: 5YR3/1 黒紫	やや粗い、白・灰・黒編砂 焼成: 中々硬質	№9 18.6	口縁部 1/8、体部 1/6
3	土師器 甕	口 (16.2) 高 [5.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラナデ。胴部内面ナメヘラナデ・加温押し。	内: 10YR6/4 に近い黄緑 外: 10YR6/3 に近い黄緑	やや粗い、白・灰・黒編砂～粗砂 焼成: 硬質	d区、西へ 1.6	口縁部～胴部 1/6
4	土製品 土玉	径 1.4 厚 [1.3] 孔 0.21-0.27 重 1.51	筋線状あるいは切り玉状を呈する。中央部に絞をもつがあまり明瞭ではない。孔は上面から穿孔。ヘラミガキのち塗り仕上げしたもののか。	内: 7.5YR2/1 黒 外: 7.5YR5/4 に近い黄	細密、白炭編砂 焼成: 中々硬質	d区、覆土 中	1/2

13区 SX-21 (遺構・遺物: 第430図、図版六九・七〇・一〇〇)

位置 グリッド 110.5-53.0・100.5-53.5 重複遺構 円形周溝遺構 SX-20・22、P-89より新しい。SK-19・75より古い。SK-76、P-3・57・58・74との切り合いは不明。規模・平面形 長径: 外 7.84 m: 内 6.96 m、短径: 外 7.02 m: 内 5.11 m、溝の上幅 80～100 cmの不整な隅丸長方形。覆土 褐色土及び暗褐色土からなる3層に分層。壁・断面形 壁は直線的で、断面形は隅丸台形、壁高は 46～51 cm。底面 概ね平坦だが、溝に直交する工具痕を明瞭に残す。ピット 北東隅に P1 (径 23～43 cm、深さ 36 cm)、東部に P2 (長軸 120×短軸 43 cmの長方形、深さ 15 cm) の計 2か所の掘り込みあり。遺物 古墳時代後期の土師器甕・坏類及び須恵器甕破片が少量出土し、このうち 2点を図示した。いずれも覆土下層から出土しているが SX-20・22 から混入した可能性もある。

13区 SX-22 (遺構・遺物: 第431図、図版七〇)

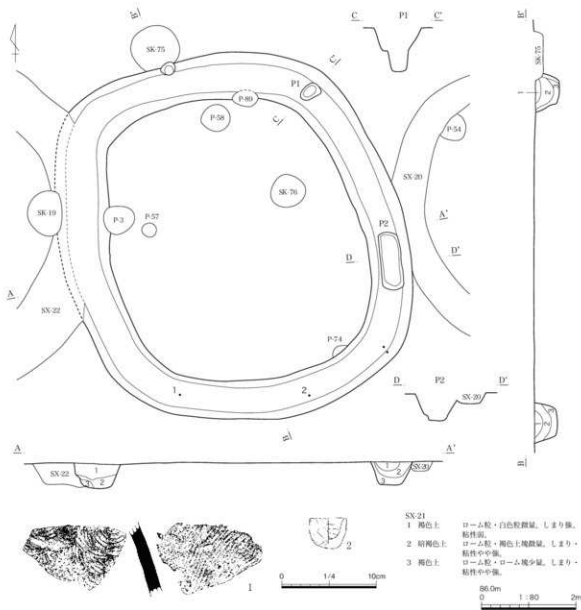
位置 グリッド 100.5-53.0 重複遺構 SK-19、SD-6・23、SX-21と重複し、本遺構が最も古い。P-4・5・77～80との新旧関係は不明。規模・平面形 長径: 外 5.6 m以上、短径: 外 7.0 m: 内 4.6 m、溝の上幅 1.0～1.23 m。南西部 1/3 が調査区外となるが楕円形を呈するものか。覆土 褐色土及び暗褐色土を主体とし、自然堆積と考えられる。壁・断面形 壁高は最深部で 43 cm、断面形は逆台形。底面 溝に直交する2列の工具痕を明瞭に残す。遺物 僅かに土師器 1点が出土した。小型の坏で内外面漆仕上げである。古墳時代終末期の遺物であるが、遺物が少なく不明瞭である。

13区 SX-25 (遺構: 第433図、図版七〇)

位置 グリッド 101.0-52.5・101.0-53.0 重複遺構 SD-23より古い。規模・平面形 南北径: 外 6.16 m: 内 4.84 m。溝の上幅 57～78 cm。西半分が調査区外となるが、平面形は円形もしくは楕円形か。覆土 自然堆積か。褐色土及び暗褐色土主体の4層からなる。壁・断面形 壁高は最深部で確認面から 32 cm、断面形は逆台形。底面 所々に工具痕を明瞭に残す。遺物 出土遺物は確認できなかったため、明確な時期は不明だが、古墳時代後期から終末期の遺構と考えられる。

13区 SX-34 (遺構: 第433図、遺物: 第432図、図版七〇・一〇〇)

位置 グリッド 102.0-53.5 重複遺構 SX-28 規模・平面形 長径: 外 5 m以上、短径: 外 4.81 m: 内 4.25 m。溝の上幅 54～90 cm。東端部が調査区外となり不明だが、不整な隅丸三角形形状を呈するものか。覆土 白色粒子を含む暗褐色土主体で、自然堆積と考えられる。壁・断面形 壁高 20～26 cm。断面形は逆台形を

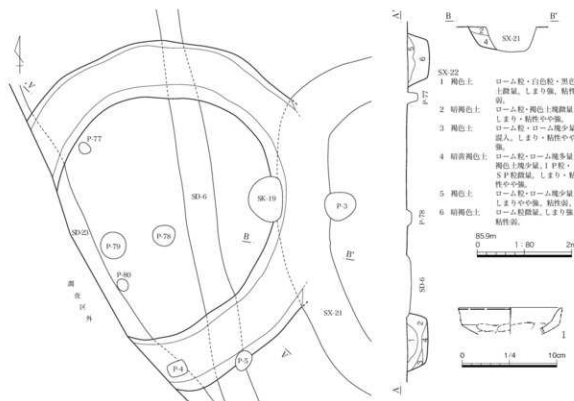


第 430 図 西刑部西原遺跡 13 区 SX-21 実測図・出土遺物

第 191 表 13 区 SX-21 出土遺物観察表

採取番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	現存
1	須恵器 甕	厚 1.3 口 (10.6)	外面平白叩き。内面同心円状あて具痕。破面の一部が焼熱している。焼成時に張を安定させるために挿んだ破片か。	内：N2/O 黒 外：N4/O 灰	中々粗い。白・灰黒砂～ 礫 焼成：硬質	No 4 4.4	底部付近破片
2	土師器 手捏ね 土器	口 (3.6) 高 3.2 厚 1.3	外面指頭押圧及びナデ。内面指ナデ。	内：10YR5/2 灰黄緑 外：7.5YR6/0 糖	細赤。白・黒黒細砂 焼成：中々硬質	No 3 15.1	口縁部一部、底部～底面 1/2

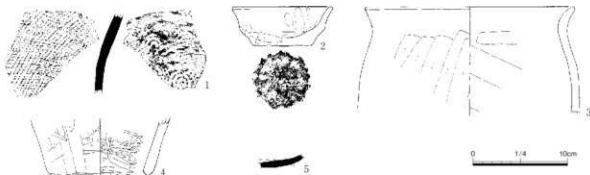
呈する。底面 若干の凹凸あり。遺物 周溝北部の覆土中から遺物が 14 点出土した。いずれも破片で残存度は低いが、このうち 4 点を図示した。1 は格子叩きのある須恵器甕、2 は土師器粗製坏、3 は土師器甕、4 は内面が磨かれた土師器甕である。遺物から、本遺構は古墳時代後期前半のものと考えられる。



第431図 西刑部西原遺跡13区 SX-22実測図・出土遺物

第192表 13区 SX-22 出土遺物観察表

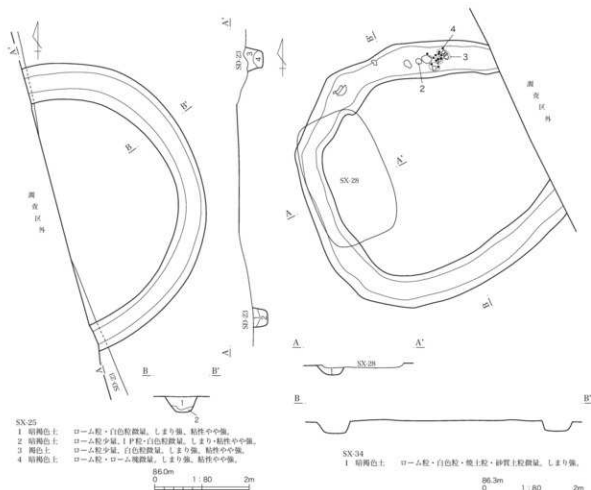
掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	土師器 坪	口 (10.6) 高 [2.8]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外へラナデ。体部外面磨光のため不明瞭だがナデガ。内外面塗仕上げ。	内: 10YR7/3 に近い黄褐色 外: 10YR7/4 に近い黄褐色	空今緻密。灰粒砂 焼成: 空今硬質	覆土中	体部~口縁部 1/4



第432図 西刑部西原遺跡13区 SX-34 出土遺物

第193表 13区 SX-34 出土遺物観察表

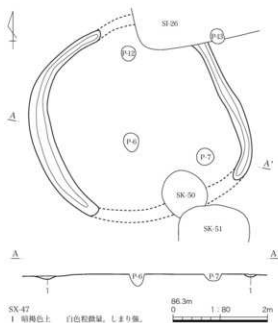
掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 甕	高 [9.0]	胴部外面ナメ格子母。胴部内面同心円状あて具編のちヨコへラナデ。	内: 10YR6/1 赤灰 外: 10YR7/1 灰白	空今粗粒。白・黒細砂 焼成: 硬質	覆土中	胴部破片
2	土師器 粗製坪	口 (10.2) 底 6.0 高 4.1	口縁部内面~体部内面ヨコナデ。底部内面へラナデ。口縁部外面ヨコナデ。体部外面~底部外面指頭押上茂げナデ。全体の広縁なつくりで歪みあり。	内: 5YR7/6 粗 外: 5YR6/6 粗	粗密。白粗砂、赤色粒 焼成: 軟質	№ 5 5.7	口縁部~体部 1/4、底部共存
3	土師器 甕	口 (21.8) 高 [11.5]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ナメヘラナデ。	内外面とも 10YR7/4 に近い黄褐色	空今粗粒。白・灰・黒粗砂 焼成: 空今軟質	№ 11, 正 18.3	口縁部 1/8、胴部 上平 1/5
4	土師器 甕	底 (10.0) 高 [6.3]	胴部外面タテヘラナデのち縦らなヘラミガキ。胴部内面強いへラナデのちやや人念なヘラミガキ。底部(端部)はヘラケズリで調整。	内: 5YR5/6 明赤褐色 外: 5YR6/6 粗	粗密。微粒砂。白色粒。赤色粒 焼成: 硬質	№ 10 10.2	底部 1/4



第433図 西刑部西原遺跡13区 SX-25・34実測図

13区 SX-47 (遺構：第434図、図版七一)

位置 グリッド102.0-53.0 重複遺構 SI-26より古い。SK-50、P-6・7・12との重複関係は不明。規模・平面形 長径：外5.36m：内4.04m、短径：外4.81m：内4.25m、溝の上幅20～43cm。不整な隅丸方形に近い。上面が深く削られた結果、溝が一部欠失している。覆土 白色粒子を含む1層が確認され、自然堆積と考えられる。壁・断面形 壁高は最深部で12cm。断面形はカマボコ状、或いは皿状を呈する。底面 やや凹凸を有する。出土遺物 出土遺物は確認されなかったため、明確な帰属時期は不明であるが、古墳時代以降に建てられた可能性が高い。

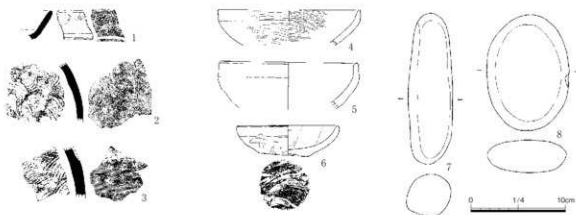


第434図 西刑部西原遺跡13区 SX-47実測図

13区 SX-98 (遺構: 第436図、遺物: 第435図、図版七一・一〇)

位置 グリッド 54.0-97.0・55.0-97.0 重複遺構 9区 P-104、SX-29、13区 SK-104、SD-95 より古いと思われる。規模・平面形 長径:外12.6m:内9.76m、短径:外9.4m:内6.8m、溝の上幅は1.18~1.6mである。本遺構は、東は9区西は13区に分けて調査したもので、平面形は東西に長い楕円形を呈する。

覆土 自然堆積か。ローム粒子を多量含む、褐色土及び黒褐色土からなる。壁・断面形 確認面から50~71cm。底面 凹凸が顕著。北東部の底面は段を有し、周辺より一段低くなっている。ピット P1 (長軸75cm×短軸50cm、底面からの深さ42cm)は北西部の周溝に対し直角に掘られる。ローム塊主体の黒褐色土で、しまりは弱く人為的埋戻しか。遺物 総量は小コンテナ約1/4箱で、土師器甕・坏類の小破片が主体となる。このうち8点を図示した。1は須恵器甕の口縁部破片。極めて浅く不明瞭だが、縞描波状文がみられる。2はプラスチック瓶か。3は瓶類の肩部破片と考えられる。いずれも内面には同心円状あて具痕が見られる。4・5は土師器坏。4は内外面に人念なヘラミガキを施す。5は底部外面が静止糸切りの土師器粗製坏である。この他環(7・8)が少量出土した。遺物から古墳時代終末期の遺構と考えられる。



第435図 西刑部西原遺跡13区 SX-98出土遺物

第194表 13区 SX-98 出土遺物観察表

品目番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・深さ (cm)	残存
1	須恵器甕	高 [3.2]	口縁部に5~6本単位の縞描波状文が認められるが磨滅のため不明瞭。腹部には低い帯状の幾何形が認められる。	内: 5Y7/1 灰白 外: 5Y6/1 灰	やや破砕。白・灰磁砂の焼成; やや破砕	北	口縁部破片
2	土師器プラスチック瓶	高 [6.5]	外面に同心円状の細かなカキ目跡を施す。内面同心円状あて具痕。	内: 2.5GY4/1 暗オリーブ灰 外: N4/0 灰	やや粗い。白・灰磁砂。少量の焼成; 破砕	北	胴部破片
3	須恵器甕	高 [5.5] 厚 1.1	外面は水平方向のカキ目が見られる。内面は同心円状あて具痕。	内: 5Y4/2 灰オリーブ 外: 5Y5/2 灰オリーブ	やや粗い。灰・白磁砂の焼成; 破砕	北	胴部破片
4	土師器坏	口 [14.8] 高 [1.7]	内外面人念な横方向または斜方向のヘラミガキ。内外面色見出し。	内: 10YR3/1 茶褐 外: 2.5Y3/1 黒褐色	縞帯。白・灰磁砂の焼成; やや破砕	覆土中	口縁部一帯
5	土師器粗製坏	口 [14.4] 高 [4.9]	内外面及び口縁部外面ヨコナデ。体部外面磨滅のため調整不明。底部外面静止糸切り。	内: 5YR7/6 橙 外: 7.5YR7/6 橙	縞帯。白・灰磁砂。赤色。焼成; やや破砕	覆土中	口縁部一帯 上半1/3
6	土師器粗製坏	口 10.6 径 5.5 高 3.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ。体部外面面磨滅しヨコナデ。底部外面静止糸切り。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	縞帯。白・灰磁砂。赤色。焼成; やや破砕	No.1, 53.9	口縁部1/4, 底部完存
7	石器 磨物石	長 15.9 幅 4.7 厚 4.4 重 526.3	未加工の自然産。平面形: 棒状 断面形: 円形	5Y6/2 灰オリーブ	-	周溝覆土	ほぼ正形
8	石器 磨物石	長 12.1 厚 3.3 重 455.0	縄文時代の磨石の可能性あり。平面形: 楕円形 断面形: 楕円形	2.5Y6/3 に近い黄	-	周溝覆土	ほぼ正形

4. 円形有段遺構

13区 SX-94 (遺構：第437図、図版七一)

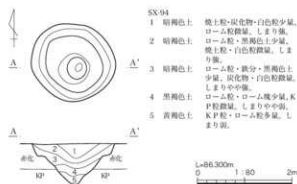
位置 グリッド99.0-54.5 重複遺構 無し。規模・平面形 東西1.75m、南北1.65mの楕円形。

覆土 5層に分層。自然堆積だが、上層部出土の礫は投棄された可能性あり。壁・断面形 壁面は僅かな凹凸をもち、底面は幅狭の平坦面をもつ。

壁高 確認面から土坑底面まで0.2m、小穴底面まで0.86m。底面 土坑底面は長径1.55×短径

1.36mの不整な楕円形で、底面には長径1.26×短径1.06mの不整楕円形のピットを掘る。断面形

は深さ0.64mの円錐状で、壁面はKP層に達する。遺物 時期判別可能な遺物は出土しなかったが、円形有段遺構は南方約180mに3区SK-45と宇都宮調査E区SK-17が、更に330m南には7区SK-7が位置し、いずれも8世紀中葉に位置付けられている。



第437図 西刑部西原遺跡13区 SX-94実測図

遺物 時期判別可能な遺物は出土しなかったが、円形有段遺構は南方約180mに3区SK-45と宇都宮調査E区SK-17が、更に330m南には7区SK-7が位置し、

5. 性格不明遺構

13区 SX-28 (遺構・遺物：第438図、図版七〇)

位置 グリッド102.0-53.5 重複遺構 SX-34より新しい。規模・平面形 長軸2.76×短軸1.64mの隅丸長方形。覆土 白色粒子、焼土、炭化物を含む暗褐色土1層。自然堆積。壁・断面形 壁高8～15cm残。底面から丸みをもって立つ。底面 概ね平坦。貼床無し。遺物 須恵器環底部破片1点出土。底部外面回転ヘラ切り。備考 小型の竪穴建物の可能性もあるが、柱穴・カマドは確認できない。

13区 SX-35 (遺構・遺物：第438図、図版七〇)

位置 グリッド102.0-53.5 重複遺構 SI-27・29より新しい可能性が高い。規模・平面形 長軸1.8×短軸1.68mの不整な隅丸長方形。覆土 白色粒子、焼土、炭化物を含む暗褐色土単層。自然堆積。壁・断面形 壁高は11～20cm残る。立ち上がりは緩やか。底面 概ね平坦で貼床。硬化面は未確認。遺物 覆土中より2点出土した。1は須恵器環口縁部破片で、櫛歯波状文が見られる。2は須恵器環底部破片である。

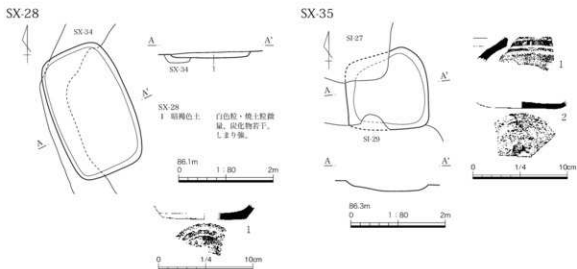
備考 SX-28同様小型の竪穴建物の可能性もあるが、柱穴・カマドは確認できない。

第195表 13区 SX-28 出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	粘土・素材・構成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵器環	底(8.7) 高(1.6)	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。	内外面とも7.5Y5/灰	細部、白・灰細砂 構成：硬質	南	底部1/4

第196表 13区 SX-35 出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	粘土・素材・構成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵器環	高(3.7)	口縁部内外面(ロクロ)ナデ。僅かに肥厚する口縁直下には沈線が富る。以下、櫛歯波状文が一部みられる。	内外面ともN2/O黒	やや粗い、白細砂～礫 構成：硬質	覆土中	口縁部破片
2	須恵器環	底(8.0)	ロクロ仕上げ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。モミ圧痕あり。底部内面に若干磨痕あり。	内：N3/O暗灰 外：N4/O灰	やや粗い、細砂～礫、白色砂 構成：硬質	覆土中	底部2/5

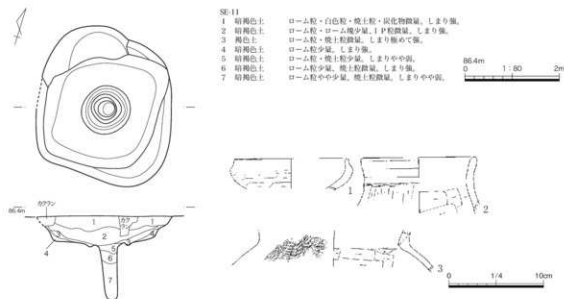


第438図 西刑部西原遺跡13区 SX-28・35実測図・出土遺物

6. 井戸

13区 SE-11 (遺構・遺物：第439図、図版七一)

位置 グリッド102.0-53.0 重複遺構 無し。規模・形態 有段の井戸。開口部は東西2.94～南北3.38mの隅丸方形で、深さ54cm。底面中央の井筒開口部周縁には、外径約1m、幅約15cmの溝が環状に掘られる。井戸枠を設置した痕跡と考えられる。井筒の開口部は径約50cm、断面形は筒状で徐々に窄まる。壁 壁高は確認面から1.82mである。底面 丸みを帯び平坦面は無し。覆土 自然堆積と考えられる。焼土を含む土層が多い。遺物 覆土中から出土した遺物を全て図示した。1は土師器環、2は小型の甕、3はハケ目調整の球胴甕である。遺物が少なく断定できないが、古墳時代終末期の可能性がある。



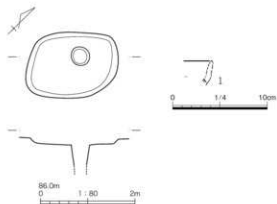
第439図 西刑部西原遺跡13区 SE-11実測図・出土遺物

第197表 13区 SE-11 出土遺物観察表

図録番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・出土 (cm)	残存
1	土師器 井	口 (11.8) 高 [3.4]	内面～口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面磨仕上げ。	内：2.5Y3/1 黒褐 外：7.5YR6/6 橙	中～軟質。白・灰・黒縞 砂。赤色粒 焼成：中～硬質	北東	口縁部～体部 1/4
2	土師器 甕	口 (11.8) 高 [5.9]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。	内：1.0YR8/4 浅黄橙 外：7.5YR8/6 浅黄橙	中～軟質。黒縞砂。赤色粒 焼成：硬質	覆土中	口縁部一部。胴上半部 1/5
3	土師器 甕	径 12.4 高 [4.2]	外面細かなタテハケ目。内面ヨコヘラナデ一部ヨコヘラケズリ。焼熱のため外面磨減著しい。	内：1.0YR7/4 に近い黄緑 外：1.0YR8/4 浅黄橙	中～軟質。白・灰粗砂 焼成：中～軟質	南東、北東	胴部 1/6

13区 SE-81 (遺構・遺物：第440図、図版七一・七二)

位置 グリッド100.0-54.0 重複遺構 無し。
規模・形態 有段の井戸。開口部は東西1.95～南北1.39mの不整な隅丸長方形。深さ約10cmである。井筒部は中心を外れた位置に開口し、直径は34cmである。壁 確認面から約60cmの深さで調査を終了したため底面の様子は不明である。覆土 井筒部には暗褐色土が堆積。入為埋戻しか自然堆積かは判別できなかった。遺物 覆土中から1の土師器環口縁部破片1点のみが出土。遺物は古墳時代終末期のものである。



第440図 西刑部西原遺跡13区 SE-81 実測図・出土遺物

第198表 13区 SE-81 出土遺物観察表

図録番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・出土 (cm)	残存
1	土師器 井	高 [2.6]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面磨仕上げ。	内外面とも 2.5Y3/2 黒褐	中～軟質。白細砂 焼成：中～硬質	覆土中	口縁部～体部 1/8

13区 SE-93 (遺構・遺物：第441図、図版七二)

位置 グリッド100.0-54.5 重複遺構 無し。規模・形態 大型の素掘りの井戸。開口部は東西2.38～南北2.43mの不整な円形を呈する。壁・断面形 確認面からの深さは3.64m。断面形はは徐々に窄まる円筒状か。オーバーハング部分は所々崩落したものか。底面 礫層まで掘り込む。底面は概ね平坦。覆土 自然堆積か。壁面からの崩落土及び廃絶後の流入土がレンズ状に堆積する。遺物 覆土中から少量の遺物が出土。1は口クロ成形の土師器環。内面は入念に磨かれ、黒色処理される。底部外面には長口の墨書がある。2は須恵器甕破片。3は編物石か。本遺構の時期は、1の土師器環から奈良時代後葉の井戸と考えたい。

第199表 13区 SE-93 出土遺物観察表

図録番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・出土 (cm)	残存
1	土師器 環	口 (10.8) 径 (5.6) 高 4.2	口クロ仕上げ。内面ヘラミガキのち黒色処理。外面口クロ部分のみ磨。ヘラミガキ。底部外面回転削り。ち磨「口」あり。	内：1.0Y2/1 黒 外：1.0YR7/6 明黄褐	緻密。灰・白細砂 焼成：中～硬質	覆土中	口縁部1/2。底部 1/2
2	須恵器 甕	高 [5.9]	内面同心円状赤て貝殻。外面平行叩きのちカキ目。混入品か。	内外面とも N5.0 灰	中～軟質。白細砂 焼成：硬質	覆土中	胴部破片
3	石製 編物石	径 10.5 幅 6.2 厚 3.8 重 508.4	右側上半部には中～硬かな剥離。左側面中央部やや上りの位置には1回ないし2回の剥離を行っている。引っかかりを付ける加工か。平面形：不整な楕円形 断面形：不整な三角形	7.5Y6/1 灰	—	覆土中	部欠

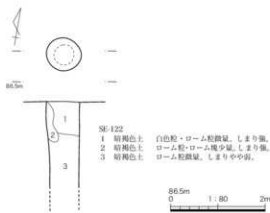


第441図 西刑部西原遺跡13区 SE-93実測図・出土遺物

13区 SE-122 (遺構: 第442図)

位置 グリッド99.5-54.0・54.5 重複遺構 切り合う遺構はないが、北に奈良時代後葉の竪穴建物跡SI-89が近接する。規模・形態 平面形は直径0.72mの円形を呈する。素掘りの井戸だが、上面の開口部が削平されて井筒部が残った可能性もある。壁・断面形 壁高は確認面から深さ1.8mで終了したため、底面の様子は確認できなかった。断面形は直線的な筒状の形状を保っていた。覆土 自然堆積と考えられる。2層は壁の崩落土か。3層はしまりが弱く、井戸廃絶後、短時間で埋没した可能性が高い。

遺物 確認されなかったため、遺構の归属時期は不明である。



第442図 西刑部西原遺跡13区 SE-122実測図

7. 溝

13区SD-6 (遺構・遺物：第443図、図版七二)

位置 グリッド X=100.5～103.0, Y=52.5～53.0 重複遺構 SI-2・12, SX-22, SD-23 より古い。規模・形態 長さ52 m以上、上幅0.55～1.6 m。南北に延び部分的に蛇行する。壁・断面形 壁高12～22 cmと浅く、断面皿状を呈する。底面 概ね平坦。覆土 白色・ローム・焼土・炭化物粒を含む単層で、自然堆積と考えられる。遺物 床面直上の遺物は皆無である。また図示した遺物の他にハケ調整の球胴張破片があり、こちらは中期まで遡る可能性がある。遺構の重複関係から推定すると古墳時代後期のSI-12、古墳時代終末期のSI-2より古い時期の溝である可能性が高い。

13区SD-23 (遺構・遺物：第445図、図版七二)

位置 グリッド X=100.0～102.0, Y=52.0～53.0 重複遺構 SX-22・25, SD-6 より新しく、SK-5より古い。

規模・形態 長さ64 m以上、幅1.6 m。調査区の区画に沿って南北に延びる。壁・断面形 壁高22～38 cm、断面形は皿状。底面 北部の底面は船底状で平坦面はない。南部は調査区外のため不明。覆土 暗褐色土主体。自然堆積と考えられる。遺物 遺物は極めて少なく、図示した土師器小型壺1点が出土したのみである。古墳時代後期から終末期の円形周溝遺構より新しいが、明確な時期は不明である。

13区SD-49 (遺構：第444図、図版七二)

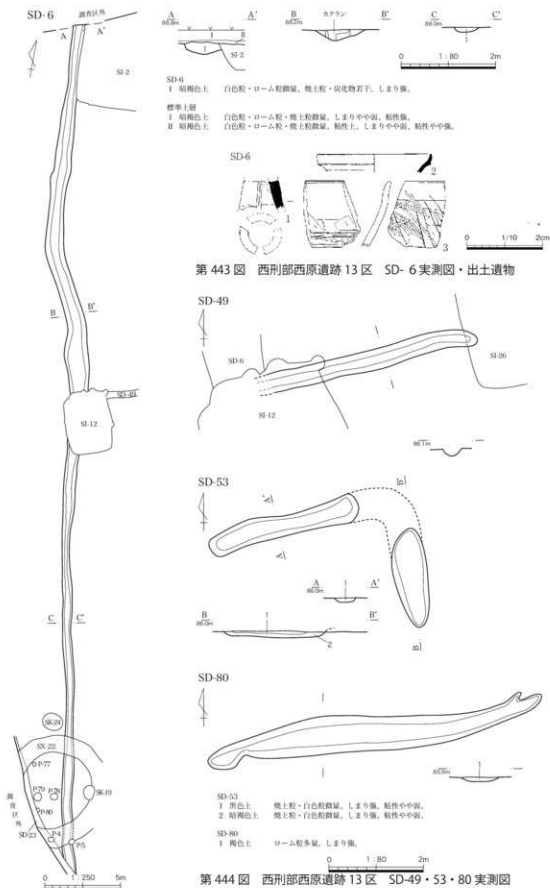
位置 グリッド 102.0-53.0 重複遺構 SI-12・26 より新しい。規模・形態 長さ3.9 m以上、幅0.41 m。東部はSI-26内で完結するが更に東に延びる可能性もある。壁・断面形 壁高は16～22 cm残る。断面はカマボコ状。底面 概ね平坦。覆土 確認できなかった。遺物 古墳時代終末期の建物跡SI-26より新しいが、遺物が出土しなかったため、遺構の時期は不明である。

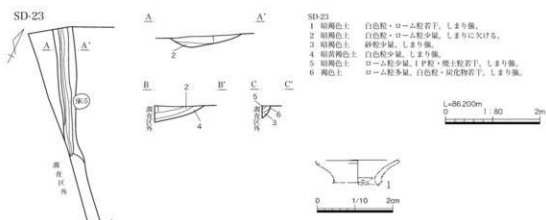
13区SD-53 (遺構：第444図、図版七二)

位置 グリッド 101.5-53.0 重複遺構 無し。規模・形態 東西6.65 m以上、南北2.1 m以上、上幅0.48～0.75 m。L字型に曲がる。壁・断面形 壁高8～16 cm。断面は皿状。底面 概ね平坦である。覆土 白色粒子を含む黒色土及び暗褐色土で自然堆積と考えられる。遺物 遺物は出土しなかったため、溝の時期は不明である。

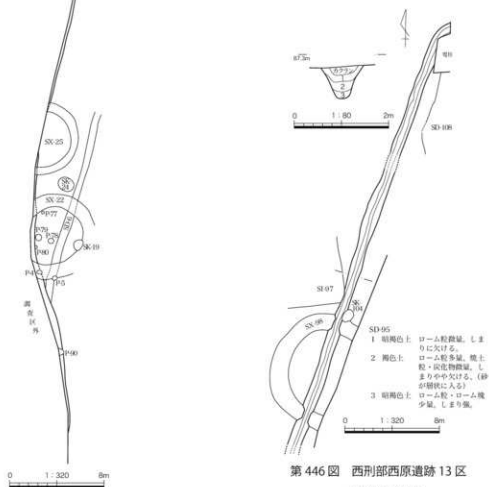
13区SD-80 (遺構：第444図、図版七三)

位置 グリッド 99.5-53.5 重複遺構 無し。規模・形態 長さ7.1 m以上、最大幅0.8 m、蛇行しながら東西方向に延びる。壁・断面形 壁高は10 cm前後、断面は皿状である。底面 若干の凹凸がある。覆土 自然堆積か人為埋戻しかは判別不能。遺物 遺物は出土しなかったため、溝の時期は不明である。





第445図 西刑部西原遺跡13区 SD-23 実測図・出土遺物



第446図 西刑部西原遺跡13区

SD-95 実測図

第200表 13区 SD-6 出土遺物観察表

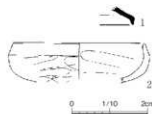
採取番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 高坏	厚 1.0 高 [3.1]	内外面ロケロナデ。三方透かしの高坏脚部破片。	内：5B3/1 暗青灰 外：10YR4/1 灰	中・やや粗い、白・透明・灰 細砂～粗砂 焼成：硬質	A区	脚部破片
2	須恵器 罐	口 (11.8)	ロケロナデ。口縁部は外反したのち小さく内湾する。内面は煮れている。外面薄く自然釉付着。	内：N4/0 灰 外：N2/0 黒	中・やや粗い、白・灰黒砂。 白色粒多量 焼成：硬質	A区	口縁部 1/8
3	土師器 鉢ある いは瓶	径 7.0 幅 5.5 厚 0.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面へラナデのち沈線(平行沈線・平織竹首)を巻す。体部外面へラナデのち深く深い沈線施したのちヘラミガキ。沈線は刀子のような鋭い工具を使用。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	中・やや粗密、白・赤細砂 焼成：硬質	B区	口縁部～胴部破片

第201表 13区 SD-23 出土遺物観察表

採取番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	土師器 小型壺	口 (8.6) 高 [2.6]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面へラケズリか。	内：10YR7/3 に近い黄緑 外：10YR7/4 に近い黄緑	中・やや粗い、灰・白細砂～粗砂 焼成：中・やや硬質	覆土中	胴部破片

13区 SD-95 (遺構：第446図、遺物：第447図、図版七三)

位置 グリッド X=96.5～98.5、Y=54.5～55.0 重複遺構
SX-98より新しく、SK-104より古い。SI-97は不明。規模・形態 長さ37.8m、上幅0.85～1.22m。調査区の壁際に沿って南北に延びる。壁・断面形 壁高は最深部で68cm、断面形は逆台形。底面 部分的に底面に直交する工具痕が残る。覆土 下層はややしまりが強く、上層はしまりが弱い。遺物 覆土中から土師器環や須恵器蓋の小破片が出土するが混入品の可能性あり。近現代の溝の可能性はある。



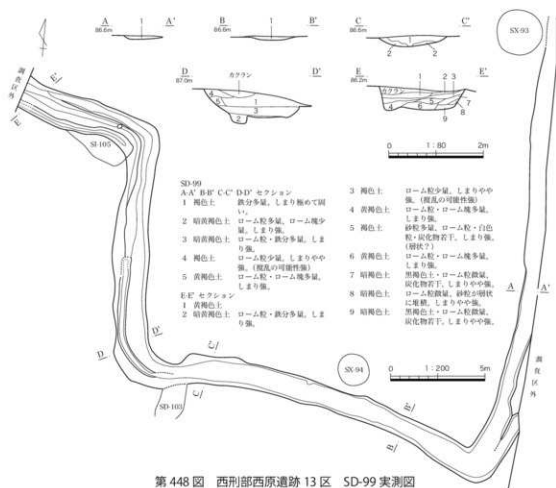
第447図 西刑部西原遺跡13区 SD-95 出土遺物

第202表 13区 SD-95 出土遺物観察表

採取番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 蓋	高 [1.9]	内外面ロケロナデ。縁部つまみ上げ。	内外面とも 2.5GY5/1 オリーブ灰	中・やや硬密、白・灰黒砂 焼成：硬質	覆土中	縁部破片
2	土師器 杯	口 (13.6) 高 [4.2]	口縁部内外面ヨコナデ、内面ナデ、体部外面上半部ナデ、上半部へラケズリ。内外面薄く上塗り。	内：10YR3/1 黒濁 外：10YR7/4 に近い黄緑	中・やや硬密、白細砂 焼成：中・やや硬質	覆土中	口縁部 1/5

13区 SD-99 (遺構：第448図、図版七三)

位置 グリッド X=98.5～100.0、Y=53.5～55.0 重複遺構 古墳時代終末期のSI-105より新しい。SD-103との切り合いは不明である。規模・形態 総延長62m以上、上幅1.1～2.2m。調査区東部では壁際に沿うが、調査区内を鍵の手状に曲がり西壁へ抜ける。壁・断面形 壁高は調査区東部では極めて浅いが、西部に行くにつれ深くなり40～50cmの深さを有する。E-E'断面では溝を掘り直した形跡が見られる。底面 細かな凹凸が残る。覆土 レンズ状に分層される部分は自然堆積と考えられるが、D-D'断面は水平に堆積する部分がある。鉄分の沈着が認められ、水が流れたか或いは沈殿した可能性がある。遺物 殆ど遺物が出土していないため明確な時期は不明である。



第448図 西刑部西原遺跡13区 SD-99実測図

13区 SD-103 (遺構・遺物：第449図、図版七三・一一三)

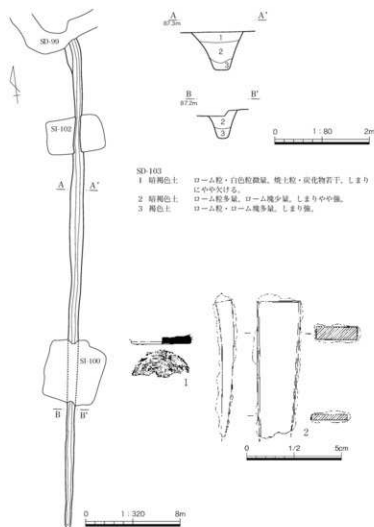
位置 グリッド X=96.5~98.5, Y=54.0 重複遺構 SI-100・102より新しい。SD-99との切り合いは不明瞭。

規模・形態 長さ41.5m、上幅0.61~1.04m。北はSD-99のコーナー付近から始まり南へと続く。壁・断面形 壁高は59~83cm残り、断面形はしっかりとした逆台形を呈する。底面 若干の凹凸が残る。

覆土 上層にややしまりの弱い層があるが、下層はしまりが強い。自然堆積と考えられる。遺物 覆土中から出土した遺物は2点のみで、いずれも図示した。1は須恵器坏底部破片で、底部外面は回転糸切りである。2は鉄製品で、楔の可能性がある。1の須恵器は奈良時代の可能性が高いが、溝中の遺物の少なさから、断定はできない。

第203表 13区 SD-103 出土遺物観察表

図録番号	器種	法量(m/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・出土(m)	残存
1	須恵器坏	底 [6.2]	底部外面回転糸切り。	内外面とも2.5GY3/1オリーブ灰	やや粗い、白・灰緑 焼成：腐質	2層中 底部1/3	先端部欠損
2	不明鉄製品(楔か)	長 [7.6] 幅 2.2 厚 0.7 重 [41.0]	下端部を欠損する。側面から見ると若干曲がっている。棟部は平坦で、下端部にかげ輪がゆるやかに残る。	-	鉄製	SI-101付近	先端部欠損



第449図 西刑部西原遺跡13区 SD-103実測図・出土遺物

13区 SD-108 (遺構：第450図、図版七三)

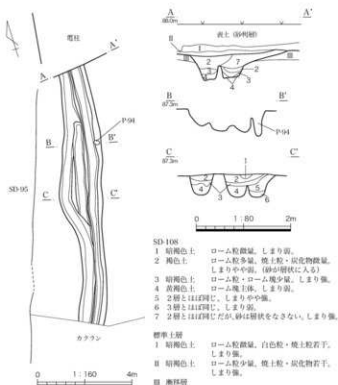
位置 グリッドX=97.5～98.5、Y=55.0 重複遺構 重複遺構はないが、西に位置するSD-95と平行している。

規模・形態 長さ10.4m以上、上幅0.5～1.4m 壁・断面形 壁高は48～57cm、断面形は逆台形状を呈する。底面 細かな凹凸が見られる。覆土 しまりの弱い土層が大部分を占める。遺物 時期判別可能な遺物は出土しなかった。近現代の溝の可能性が高い。

SD-111 (遺構・遺物：第451図、図版七三・——)

位置 グリッドX=96.5～98.5、Y=53.5～54.0 重複遺構 SI-110、SD-113、SK-121より古く、SI-117との切り合いは不明。規模・形態 長さ40m以上、上幅1.22～1.50m 壁・断面形 壁高21～51cm

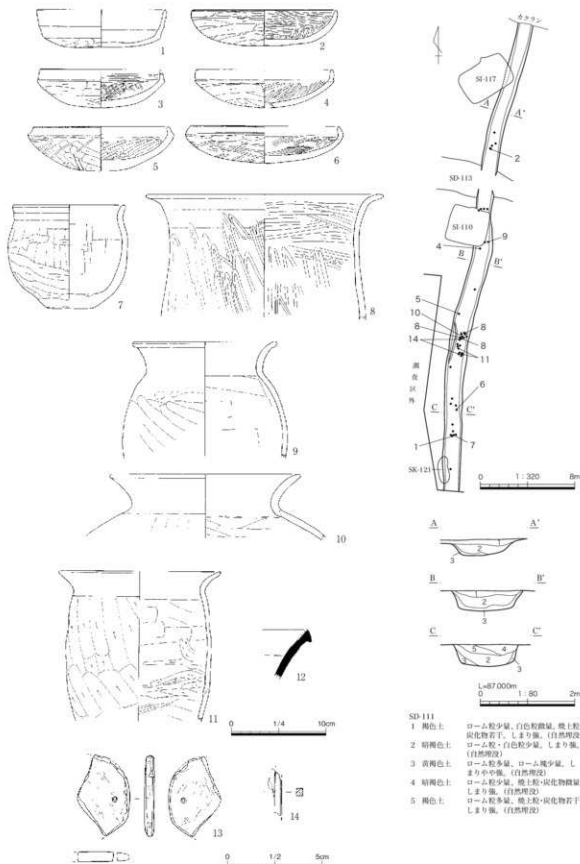
底面 若干の凹凸あるが概ね平坦。覆土 褐色土及び暗褐色土主体の覆土で概ねしまりが強い。自然堆積か。遺物 総量で小コンテナ2箱分出土。このうち14点を図示した。1～6は土師器環、7・9～11は土師器甕、8は内面を磨いている甕。12は須恵器甕、13は滑石製の鏡形石製模造品、14は鉄鍔(長頭鍔)の頸部破片である。遺物から時期は古墳時代後期末(6世紀末～7世紀初頭)の溝跡と考えられる。



第450図 西刑部西原遺跡13区 SD-108実測図

第204表 13区 SD-111 出土遺物観察表

図録番号	器種	法量 (cm/g)	投法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (m)	残存
1	土師器 杯	口 13.4 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部内面ナデ。体部～底部外面多方向ヘラケズリ。口縁部は直線的に立ち上がり、中央部に絞をもつ。底部は横かに丸みをもつが、平底に近い。	内: 5YR7/6 橙 外: 10YR7/6 暗黄緑	中・中緻密, 白・黒・赤粒砂 焼成: 中・中硬質	№13 15.9	7/8, 底部 欠存
2	土師器 杯	口 15.0 高 3.7	口縁部外面ヨコナデ。口縁部内面ヨコヘラミガキ。底部内面一方のヘラミガキ。口縁部外面～体部外面ヨコヘラケズリ。底部外面多方向ヘラケズリ。	内: 10YR4/6 褐 外: 10YR4/4 褐	中・中緻密, 白磁砂 焼成: 中・中硬質	№44 24.7	ほぼ完存
3	土師器 杯	口 (13.0) 高 3.7	口縁部外面ヨコナデ。口縁部内面ヨコナデのちヨコヘラミガキ。体部内面不定方向ヘラミガキ。体部外面ヘラケズリ。内外面直仕上げ。	内外面とも 10YR4/2 灰 黄緑	中・中粗い, 白磁砂, 赤色 粒 焼成: 中・中硬質	覆土中	口縁部 1/3, 底部 1/3
4	土師器 杯	口 (14.2) 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデのちヘラミガキのち黒色処理。体部外面ヘラケズリのちヘラナデ。口縁部直下接合部あり, 明確な絞をもつ。丁寧なつくり。	内: 7.5YR2/1 黒 外: 5Y2/1 黒	中・中緻密, 白磁砂～粗砂 焼成: 中・中硬質	№7 29.4	口縁部 1/3
5	土師器 杯	口 14.0 高 1.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面やや雑なヘラミガキ。体部外面ナメヘラケズリ及びナメヘラナデのちヘラミガキ。内外面黒色仕上げ。非常に丁寧なつくり。	内外面とも 7.5Y2/1 黒	中・中緻密, 白磁砂～粗砂 焼成: 中・中硬質	№34 27.9	口縁部 1/2, 底部 5/6
6	土師器 杯	口 (15.5) 高 3.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。体部内面ヘラミガキ。内外面直仕上げ。	内: 7.5YR3/1 黒黄 外: 7.5YR4/2 灰黄緑	中・中緻密, 白磁砂～粗砂 焼成: 中・中硬質	№38 24.7	口縁部～体 部 1/3
7	土師器 小型甕	口 12.0 底 4.9 高 10.9	胴部内面上部～口縁部外面ヨコナデ。胴部内面下部～底部内面ヘラナデ。胴部外面タテヘラケズのち下部ヨコヘラケズリ。底部外面一方ヘラケズリ。	内外面とも 5YR6/6 橙	緻密, 白・赤磁砂 焼成: 中・中軟質	№14, D区 12.5	口縁部 2/3, 底部 7/8
8	土師器 甕	口 (24.4) 高 (13.0)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラミガキ。口縁部～胴部内面ヨコヘラミガキ。胴部内面タテヘラミガキ。	内: 5YR5/6 明赤褐 外: 7.5YR6/6 橙	中・粗い, 白・灰・黒粒 砂～硬 焼成: 中・中軟質	№33 28.2	口縁部一 部, 胴部 ～胴部上 半 1/2
9	土師器 甕	口 (15.0) 高 (12.1)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナメヘラナデ。胴部内面ヨコヘラナデ。口縁部内面に赤褐色を呈する部分あり。赤砂。	内: 5YR5/6 明赤褐 外: 10YR6/4 に黄・黄緑	中・粗い, 白・灰・黒粒 砂～硬 焼成: 中・中軟質	№5, S1-10 南東 25.9	口縁部 1/3, 胴部 上半 1/5



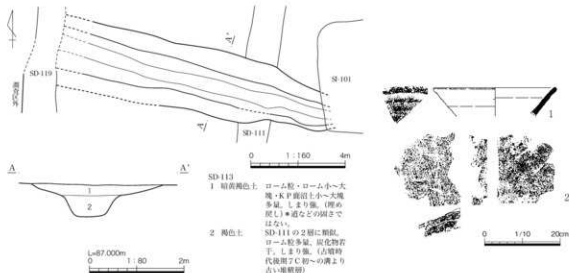
- SD-111
 1 褐色土 ローム粒少量、白色粘微量、焼土粒・炭化物若干、しまり強。(自然埋没)
 2 暗褐色土 ローム粒・白色粒少量、しまり強。(自然埋没)
 3 黄褐色土 ローム粒多量、ローム塊少量、しまり中強。(自然埋没)
 4 暗褐色土 ローム粒少量、焼土粒・炭化物微量、しまり強。(自然埋没)
 5 褐色土 ローム粒多量、焼土粒・炭化物若干、しまり強。(自然埋没)

第451図 西刑部西原遺跡13区 SD-111実測図・出土遺物

10	土師器 口高 [10.8] [6.9]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラナデ。胴部内面ヨコヘラナデ。縁製の糞。非常に丁寧なつくり。胴部内面の検出地不明。	内：10YR7/3 に近い黄褐色 外：10YR7/4 に近い黄褐色	やや軟質。白・黒細砂～粗砂 焼成：やや軟質	№31, D区 37.5	口縁部1/5
11	土師器 口高 [16.7] [15.9]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラナデのうち中位を短くナメにヘラケズリ。胴部内面ヘラナデのち、横み上げ体止肩付蓋を掛り取るように削っている。	内：7.5YR6/4 に近い黄褐色 外：10YR6/3 に近い黄褐色 内：2.5Y5/3 黄褐色 外：2.5Y5/1 黄灰	粗い。黄・白・灰粗砂～砂。黒色粘りや多。 焼成：やや軟質	№23 16.3	口縁部1/8
12	須恵器 高 [6.1]	内外面クロコナデ。	—	やや軟質。黒・白細砂～粗砂 焼成：硬質	南西	口縁部～胴部破片
13	石製模造品(有孔円板) 径 [45.11] 厚 [9.1] 厚 [0.47] 厚 [0.16-0.20]	石材は滑石。表面に細かな溝彫。一部に削り痕あり。側面は長軸に対し垂直方向の溝彫がみられる。両面から穿孔。ほぼ半分を欠損するが、大型の有孔円板と考えている。	内：7.5GY/1 明緑灰 外：2.5GY/1 明オリーブ灰	滑石	C区	一部破片
14	瓦 長 [2.3] 幅 [0.4] 厚 [0.4] 重 [1.7]	長辺側の胴部破片か。断面は長方形。	—	鉄製	№27 2.3	胴部一部

13区 SD-113 (遺構・遺物：第452図、図版七三・一)

位置 グリッド 98.0-53.5・98.0-54.0 重複遺構 SI-101、SD-111より新しく、SD-119より古い。規模・形態 長さ11.6m以上、上幅1.68～2.7m。東西に直線的に延びる。壁・断面形 壁高66cm。断面は途中に段をもつ逆台形を呈する。掘り直しをしたためか。底面 細かな凹凸あり。覆土 暗黄褐色土及び褐色土の2層からなる自然堆積と考えられる。遺物 遺物の総量は僅か4点で、このうち1の須恵器環と2の女瓦を図示した。8世紀中葉～9世紀代の溝と考えられる。



第452図 西刑部西原遺跡13区 SD-113 実測図・出土遺物

第205表 13区 SD-113 出土遺物観察表

図載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	粘土・素材・焼成	出土位置・床土(m)	残存
1	須恵器 坪	口 [12.6] 高 [3.0]	内外面クロコナデ。外面縁部あるいはヘラ掻きあり。	内外面とも 5GY3/1 暗オリーブ灰	やや粗い。灰・白粗砂～砂 焼成：硬質	2層中	口縁部～体部 1/6
2	女瓦	長 [7.6] 幅 [6.4] 厚 [1.4-1.8] 重 [120]	凹面布目痕。凸面ナデ。側面ヘラケズリのちナデ。	内外面とも 2.5Y7/3 浅黄	やや粗い。白・黒粗砂～砂 焼成：やや軟質	覆土中	一部破片

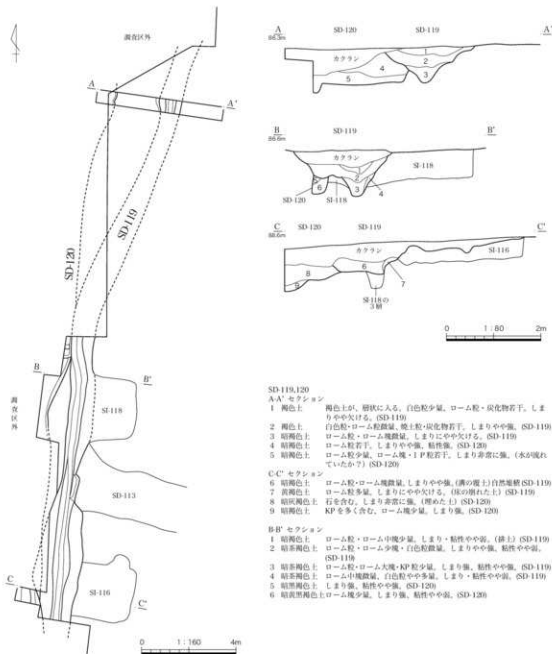
13区 SD-119 (遺構：第453図、図版七三)

位置 グリッド X=97.5～99.0, Y=53.0～53.5 重複遺構 SI-116・118、SD-113・120より新しい。規模・形態 長さ24.8m以上、上幅1.4～1.9m。やや蛇行しながら調査区西壁際を南北にはしる。壁・

断面形 壁高76～94cmの箱葉研状もしくは逆台形を呈する。底面 凹凸(工具跡か)を残す。覆土 上層の覆土はややしまりが弱い。自然堆積と考えられる。遺物 時期を確定できる遺物は殆ど出土していない。重複関係や覆土の様子から近現代の溝の可能性もある。

SD-120 (遺構：第453図、図版七三)

位置 グリッドX=97.5～99.0, Y=53.0～53.5 重複遺構 SI-116・118より新しく、SD-119より古い。SD-113との重複は不明。規模・形態 長さ23m以上、上幅2m以上 壁・断面形 壁高85～95cm 底面 部分的に凹凸があると思われるが、未調査部分が多く不明瞭。覆土 自然堆積か。遺物 遺物は殆ど出土していないが、重複関係や覆土の様子から古代の溝と考えたい。



第453図 西刑部西原遺跡13区 SD-119・120 実測図

SD-119,120

A-A' セクション

1 褐色土 褐色土が、層状に入る。白色砂少量。ローム粒・炭化物若干。しまりやや欠ける。(SD-119)

2 褐色土 白色砂・ローム粒微量。焼土粒・炭化物若干。しまりやや弱。(SD-119)

3 暗褐色土 ローム粒・ローム塊微量。しまりにやや欠ける。(SD-119)

4 暗褐色土 ローム粒若干。しまりやや弱。粘性強。(SD-120)

5 暗褐色土 ローム粒少量。ローム塊・土P粒若干。しまり非常に強。(水が吸われていたか?) (SD-120)

C-C' セクション

6 暗褐色土 ローム粒・ローム塊微量。しまりやや弱。(溝の埋土)自然堆積(SD-119)

7 黄褐色土 ローム粒多量。しまりにやや欠ける。(溝の埋土?) (SD-119)

8 暗褐色土 石を含む。しまり非常に強。(埋めた土) (SD-120)

9 暗褐色土 KPを多く含む。ローム塊少量。しまり強。(SD-120)

B-B' セクション

1 暗褐色土 ローム粒・ローム中塊少量。しまり・粘性やや弱。(積土) (SD-119)

2 暗褐色土 ローム粒・ローム少量。白色砂微量。しまりやや弱。粘性やや弱。(SD-119)

3 暗褐色土 ローム粒・ローム大塊・KP粒少量。しまり強。粘性やや弱。(SD-119)

4 暗褐色土 ローム中塊微量。白色砂やや多量。しまり・粘性やや弱。(SD-119)

5 暗褐色土 しまり強。粘性やや弱。(SD-120)

6 暗褐色土 ローム塊少量。しまり強。粘性やや弱。(SD-120)

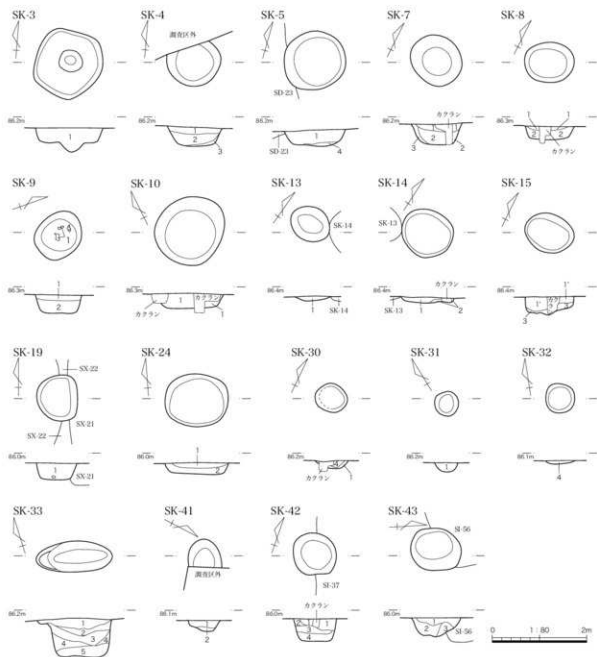
8. 土坑

土坑は計 56 基確認された。遺物が少なく明確な時期を確定できないものが多いが、他遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものもある。ここでは遺構個別の事実記載は行わないが、出土位置・規模・平面形、切り合い状況などを表にまとめ掲載した。また特徴的な遺構・遺物については補足した。

土坑を概観すると、平面形は円形もしくは楕円形を呈し、比較的浅めのものが大多数を占める。断面形は

第206表 13区 土坑計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
SK-3	103.0-52.0	不整な円形	1.56	1.43	0.51	
SK-4	103.0-52.0	円形	(1.14)	(1.12)	0.38	
SK-5	102.5-52.5	円形	1.33	1.22	0.34	
SK-7	102.0-52.5	円形	1.14	0.95	0.4	
SK-8	102.5-53.0 102.0-53.0	円形	1.08	0.83	0.43	
SK-9	101.0-53.5	円形	1.07	0.88	0.41	
SK-10	102.5-53.0	円形	1.53	1.35	0.32	
SK-13	102.5-53.5	円形	0.84	0.73	0.9	SK-14と重複
SK-14	102.5-53.5	円形	1.08	0.97	0.12	SK-13と重複
SK-15	102.5-53.5	円形	1.06	0.83	0.38	
SK-19	100.5-53.0	円形	0.96	0.84	0.35	SK-21より新しい SK-22より新しい
SK-24	100.5-53.0 101.0-53.0	円形	1.32	1.11	0.25	
SK-30	102.0-53.5	円形	0.69	0.63	0.17	
SK-31	102.0-53.0	円形	0.52	0.5	0.2	明確な時期不明
SK-32	101.5-53.0	円形	0.65	0.58	0.04	
SK-33	102.0-53.5	楕円形	1.61	0.64	0.79	
SK-41	101.5-54.0	楕円	(0.59)	(0.70)	0.24	
SK-42	100.5-54.0	円形	0.99	0.9	0.47	SI-37より新しい
SK-43	101.0-53.5	円形	1.07	0.9	0.4	SI-56より新しい
SK-45	101.0-54.0	円形	0.88	0.8	0.12	SK-46より新しい SI-38より新しい
SK-46	101.0-53.5 101.0-54.0	不整形	2.63	1.8	0.27	SI-38より新しい SK-45より古い P-84は不明
SK-48	101.5-53.0	円形	0.88	0.73	0.28	
SK-50	101.5-53.0	円形	1.03	0.88	0.3	SK-51重複
SK-51	101.5-53.0	円形	1.57	1.25	0.33	SK-50重複
SK-54	101.5-53.0	不整形楕円形	2.95	0.36	0.1	
SK-55	101.5-53.5 101.5-53.0	長方形	4.1	0.79	0.44	
SK-58	101.0-53.5 101.0-54.0	不整形	1.56	1.37	0.3	SK-59より新しい P-65より古い
SK-59	101.0-53.5	-	1.3	1.25	0.3	P-65より古い SK-58とは断面不明
SK-60	101.0-53.0	円形	0.74	0.6	0.25	P-65より古い
SK-61	101.5-54.0	円形	(0.94)	(1.38)	0.77	SI-53と重複
SK-63	101.0-53.5	円形	0.7	0.64	0.33	底面緩やかな凹あり
SK-64	101.0-53.5	円形	0.76	0.71	0.16	性格・時期不明
SK-68	101.5-54.0	円形	0.13	0.94	0.11	
SK-69	101.0-54.0 101.5-54.0	円形	0.82	0.77	0.34	P-37重複 SB-44重複
SK-70	101.5-53.5	円形	1.07	0.98	0.12	
SK-71	102.0-53.5	不整な円形	1.24	1.06	0.36	SK-16と重複(断面不明)
SK-72	101.5-53.5	楕円形	1.83	0.83	0.18	
SK-73	101.0-53.0	楕丸方形	1.45	1.22	0.24	SK-67重複
SK-74	101.0-53.5	円形	1.04	0.92	0.4	
SK-75	100.5-53.0 101.0-53.0	円形	1.04	1.02	0.24	SK-21より新しい
SK-76	100.5-53.0	円形	0.74	0.7	0.11	
SK-78	99.5-53.5	円形	1.04	0.92	0.16	
SK-79	99.5-53.5 99.5-54.0 100.0-53.5 100.0-54.0	円形	0.82	0.71	0.19	
SK-83	100.5-53.5 100.0-53.5	円形	0.8	0.75	0.27	



SK-3,4,5,7,8,9,10

- 1 粘褐色土 白色粒・ローム粒微量、焼土粒・炭化物若干、しまり強。
- 2 粘褐色土 1層より細い、ローム粒少量、焼土粒・炭化物若干、しまり強。
- 3 黄褐色土 ローム粒・ローム塊多量、しまり強。
- 4 粘褐色土 ローム粒・ローム塊多量、しまり強。

SK-13,14,15,19,30,31,32

- 1 粘褐色土 白色粒微量、焼土粒若干、しまり強。
- 1' 12, ローム粒が露出する。
- 2 粘黄褐色土 ローム粒若干、しまり強。
- 3 褐色土 ローム粒多量・ローム塊微量、しまり強。
- 4 粘褐色土 1層に炭化物入る、しまり強。

SK-24

- 1 粘褐色土 白色粒・ローム粒微量、焼土粒・炭化物若干、しまり強。
- 2 褐色土 ローム粒・ローム塊少量、白色粒・1P粒若干、しまり強。

SK-33

- 1 粘褐色土 白色粒・ローム粒微量、1P粒・SP粒・焼土粒・炭化物若干、しまり強。
- 2 粘褐色土 ローム粒・焼土粒微量、しまり強。

SK-30

- 3 粘黄褐色土 粘黄褐色塊多量、ローム粒少量、1P粒若干、しまりや中強。
- 4 粘褐色土 ローム粒多量、ローム塊微量、しまりにやや欠ける。

SK-41

- 1 白色粒微量、ローム粒・焼土粒・炭化物若干、しまり強。
- 2 黄褐色土 ローム粒・ローム塊多量、しまり強。

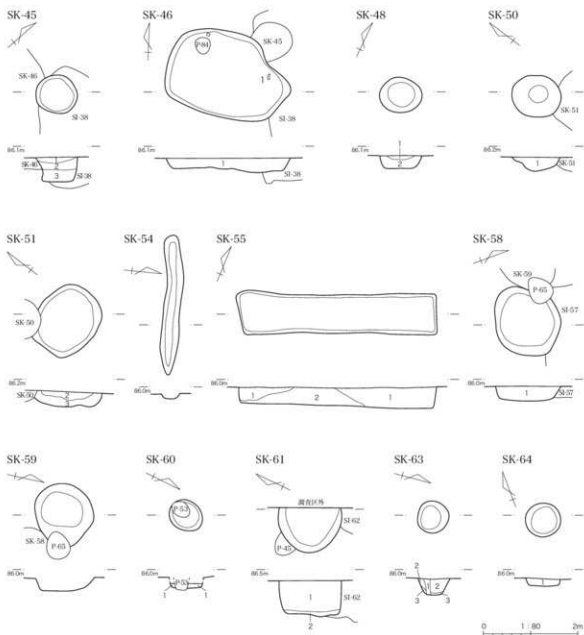
SK-42

- 1 粘褐色土 ローム粒・焼土粒微量、白色粒・炭化物若干、しまりや中強。
- 2 褐色土 ローム粒少量、焼土粒微量、炭化物若干、しまりや中強。

SK-43

- 1 褐色土 ローム粒多量、白色粒・炭化物若干、しまりや中強、粘性強。
- 2 粘褐色土 褐色土小へ中強少量、焼土小へ中強・ローム粒微量、しまりや中強、粘性強。

第454図 西刑部西原遺跡13区 土坑実測図(1)

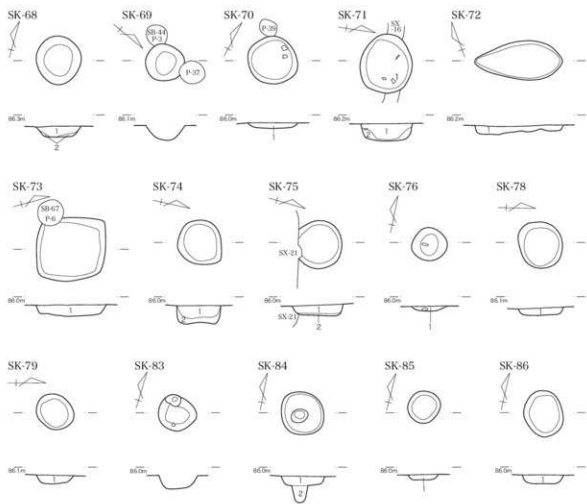


- SK-45**
 1 暗褐色土
 2 褐色土
 3 褐色土
- SK-46**
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土
 3 暗褐色土
- SK-48**
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土
 3 暗褐色土
- SK-50**
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土
 3 暗褐色土
- SK-51**
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土
 3 暗褐色土
- SK-54**
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土
 3 暗褐色土
- SK-55**
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土
 3 暗褐色土
- SK-58**
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土
 3 暗褐色土
- SK-59**
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土
 3 暗褐色土
- SK-60**
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土
 3 暗褐色土
- SK-61**
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土
 3 暗褐色土
- SK-63**
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土
 3 暗褐色土
- SK-64**
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土
 3 暗褐色土

- SK-38**
 1 暗褐色土
- SK-49**
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土
 3 暗褐色土
- SK-41**
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土
 3 暗褐色土
- SK-62**
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土
 3 暗褐色土
- SK-63**
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土
 3 暗褐色土
- SK-64**
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土
 3 暗褐色土

第 455 図 西刑部西原遺跡 13 区 土坑実測図 (2)

第3章 発見された遺構と遺物



- SK-68,72
1 黒褐色土
2 黒褐色土
- SK-70
1 黒褐色土
- SK-71
1 黒褐色土
2 褐色土
- SK-73
1 黒褐色土
- SK-74
1 黒褐色土
2 黒褐色土
- SK-75
1 黒褐色土
2 黒褐色土
- SK-76
1 黒褐色土
2 褐色土
- SK-77
1 黒褐色土
- SK-78
1 黒褐色土
2 黒褐色土
- SK-79
1 黒褐色土
2 黒褐色土
- SK-83
1 黒褐色土
2 黒褐色土
- SK-84
1 黒褐色土
2 黒褐色土
- SK-85
1 黒褐色土
- SK-86
1 黒褐色土
2 黒褐色土

- SK-68,72
1 白色粒層。ローム粒・焼土粒・炭化物若干、しまり強。
2 ローム粒・ローム塊多量、しまり強。
- SK-70
1 白色粒・焼土粒層。炭化物・ローム粒若干、しまり強。
- SK-71
1 白色粒・ローム粒層。焼土粒・炭化物若干、しまり強。
2 ローム粒・ローム塊少量、しまり強。
- SK-73
1 黒褐色土
2 褐色土
- SK-74
1 黒褐色土
2 褐色土
- SK-75
1 黒褐色土
2 褐色土
- SK-76
1 黒褐色土
2 褐色土
- SK-77
1 黒褐色土
- SK-78
1 黒褐色土
2 褐色土
- SK-79
1 黒褐色土
2 黒褐色土
- SK-83
1 黒褐色土
2 黒褐色土
- SK-84
1 黒褐色土
2 黒褐色土
- SK-85
1 黒褐色土
- SK-86
1 黒褐色土
2 黒褐色土

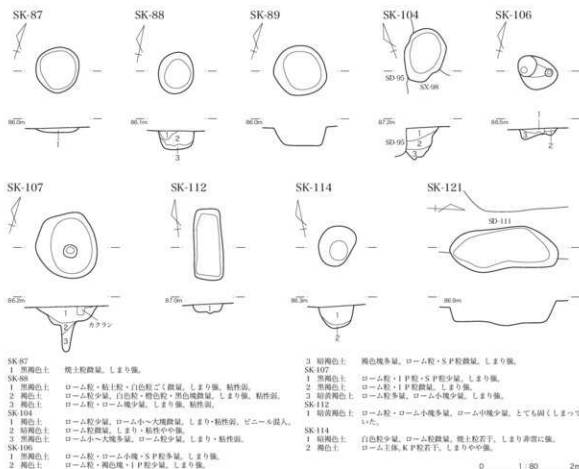
第 456 図 西刑部西原遺跡 13 区 土坑実測図 (3)

第 207 表 13 区 SK-9 出土遺物観察表

図録番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	土師器 甕	口 (20.8) 高 (9.2)	口縁部内外面口コナデ。胴部外面タテハケ目。胴部内面斜方向ヘラナデ。胴部外面、赤化した粘土付着。	内: 5Y2/1 黒 外: 5Y2/2 オリーブ黒	中々粗い。白・灰黒砂 焼成: 中々硬質	No 3 21.0	口縁部 1/4、胴部 上半 1/8

第 208 表 13 区 SK-15 出土遺物観察表

図録番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵系 瓶類	高 (4.5) 厚 0.75	胴部外面平行; 明きのうち半白。内面口コナデ。	内: N5/0 灰 外: N4/0 灰	中々粗い。灰・白砂 焼成: 硬質	覆土中	胴部破片



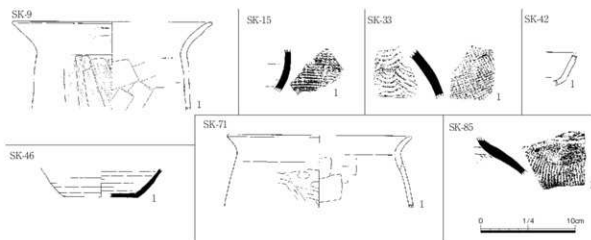
第457図 西刑部西原遺跡13区 土坑実測図(4)

SK-84	100.5-54.0	円形	0.99	0.9	0.56	
SK-85	100.0-53.5	円形	0.7	0.69	0.12	
SK-86	100.0-53.5	円形	0.98	0.8	0.19	
SK-87	100.0-53.5	円形	0.98	0.88	0.11	
SK-88	101.0-53.0	円形	0.89	0.77	0.4	
SK-89	100.5-53.5	不整な円形	1.12	1.05	0.37	
SK-104	97.0-54.5 97.5-54.5 97.0-55.0 97.5-55.0	楕円形	1.16	0.83	0.68	SD-95とSK-98との 新旧関係は不明
SK-106	99.0-54.0	円形	0.87	0.67	0.22	
SK-107	99.5-54.0	円形	1.42	1.25	0.95	
SK-112	97.0-54.0	長方形	1.51	0.59	0.21	
SK-114	99.0-53.5	円形	0.89	0.71	0.47	
SK-121	96.5-53.5	楕円形	2.24	0.85	0.42	SD-111より新しい

皿状もしくは逆台形状を呈し、殆どが自然堆積の様相を呈する。この他、深い円筒形を呈するもの(SK-61)、底面にピットをもつもの(SK-107)、楕円形で深いもの(SK-33)、不整形で浅い土坑(SK-46)、溝状の土坑(SK-59)などがあるが、断面観察からいずれも自然堆積と考えられる。

長方形の土坑は少ないが、このうち浅く自然堆積と考えられるもの(SK-73・112)と、人為埋戻しとしまりの弱いもの(SK-55)がある。前者は古墳時代～古代の土坑と考えられるが、後者は近現代の土坑と思われる。遺物は概して少なく、第458図に示したが、土師器及び須恵器の小破片が殆どであり、時期を確定できるような状況は見られなかった。

第3章 発見された遺構と遺物



第458図 西刑部西原遺跡13区 土坑出土遺物

第209表 13区 SK-33出土遺物観察表

編號番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 甕	高 [5.7] 厚 0.9	外面磨子明き。内面同心円状あて具痕。	内外面とも N4/D 灰	中卒粗い、白・灰緑砂～粗砂、少量々焼成；硬質	甕土中	胴部破片

第210表 13区 SK-42出土遺物観察表

編號番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	土師器 環	高 [3.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。口縁端部直下に沈線あり。	内：10YR7/6 明黄褐 外：10YR8/6 黄橙	中卒緻密。濃、赤色焼成；中卒破質	甕土中	胴部破片

第211表 13区 SK-46出土遺物観察表

編號番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 環	底 [7.8] 高 [2.9]	内外面口クロナデ。底部外面回転ヘラ切りのチナデ。	内外面とも 5Y5/1 灰	中卒緻密。白細砂～粗砂焼成；硬質	No 2 22.9	底部 1/5、 胴部 1/4

第212表 13区 SK-71出土遺物観察表

編號番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	土師器 甕	口 [18.2] 高 [7.6]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上平張道押止及びチナデ。胴部内面上平ヘラチナデ。	内：10YR5/4 に近い黄橙 外：10YR6/4 に近い黄橙	中卒粗い。黒・白粗砂焼成；中卒軟質	No 1 21.8	口縁部一部、胴部上平 1/6

第213表 13区 SK-85出土遺物観察表

編號番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 甕	高 [3.8]	頭部内外面口クロナデ及びチナデ。胴部外面カキ目立ち磨き明き。	内：10YR6/2 灰黄褐 外：N5/D 灰	中卒粗い。白・黒・灰粗砂焼成；硬質	甕土中	胴部破片

9.ピット

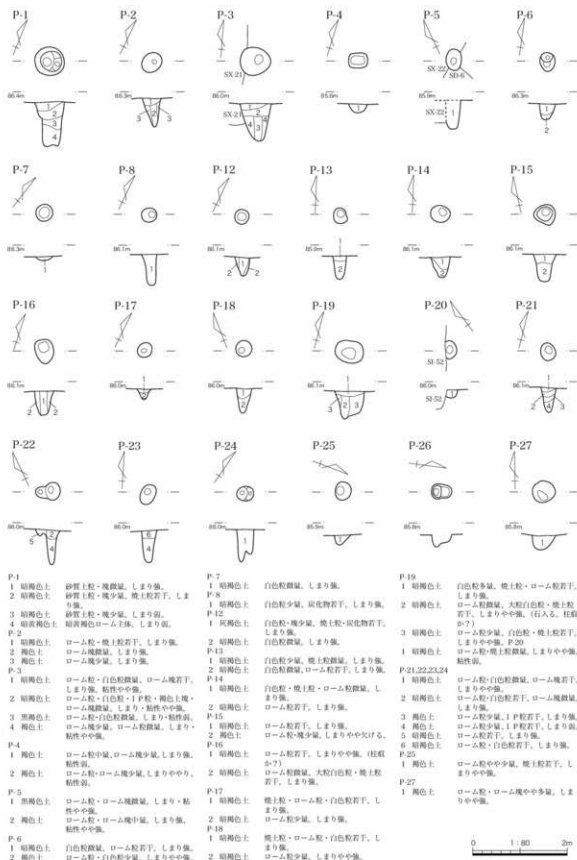
本調査区から確認されたピット（小穴）は計97基である。土坑と同様、遺物が少なく明確な時期を確定できないものが多いが、他遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものもある。

ここでは土坑と同様に個別の事実記載は行わず、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめて掲載した。

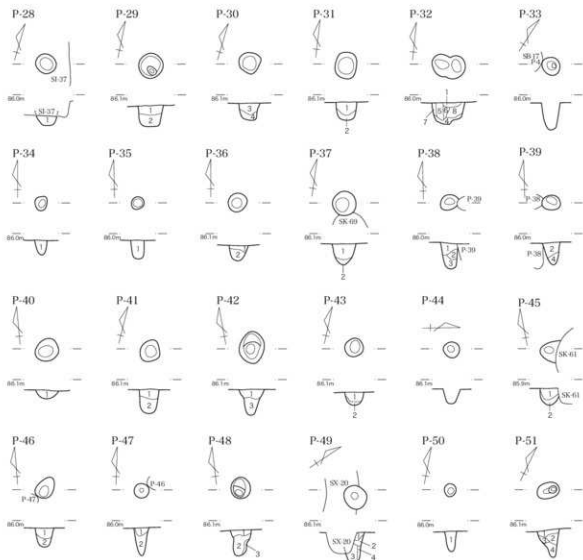
ピットは主に13区北部の遺構集中範囲から確認されており、他の調査区と比べ、柱穴状の形態をもつものが多いようである。覆土は、単層で自然堆積と考えられるもの、レンズ状の堆積を示すもの、或いは掘立柱建物跡の柱穴同様に柱痕をもつものなど多様である。このうち柱痕が明瞭なものは、P-3・12・16・19・49・61・62・79・88・90・93などがある。遺物は図示可能なものを第463図にまとめた。

第214表 13区 ピット計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
P-1	102.5-53.5	円形	0.63	0.6	0.94	
P-2	102.5-53.5	—	0.45	0.39	0.648	
P-3	100.5-53.0	楕円形	0.57	0.55	0.804	
P-4	100.5-53.0	方形	0.4	0.3	0.185	
P-5	100.5-53.0	楕円形	0.43	0.37	0.466	
P-6	101.5-53.0 102.0-53.0	—	0.4	0.33	0.34	
P-7	101.5-53.0	円形	0.37	0.35	0.08	
P-8	101.5-53.0	円形	0.33	0.3	0.67	
P-12	102.0-53.0	円形	0.32	0.29	0.4	
P-13	102.0-53.0	—	0.32	0.29	0.707	
P-14	101.5-53.0	円形	0.42	0.36	0.42	
P-15	101.5-53.0	—	0.47	0.43	0.59	
P-17	101.0-54.0	円形	0.31	0.29	0.237	
P-18	101.0-53.5	円形	0.35	0.34	0.512	
P-19	101.5-54.0	楕円形	0.62	0.47	0.59	
P-20	101.5-53.0	楕円形	(0.38)	(0.24)	0.17	
P-21	101.5-52.5	—	0.4	0.3	0.52	
P-22	101.5-52.5	—	0.53	0.36	0.784	
P-23	101.5-52.5	—	0.41	0.31	0.67	
P-24	101.5-52.5	—	0.35	0.3	0.52	
P-27	100.5-54.0	円形	0.49	0.46	0.3	
P-29	101.5-54.0	円形	0.54	0.52	0.44	
P-30	101.5-54.0	—	0.48	0.44	0.37	
P-31	101.5-54.0	楕円形	0.56	0.45	0.38	
P-32	101.5-54.0	—	0.7	0.5	0.46	
P-36	101.5-54.0	円形	0.4	0.39	0.33	
P-37	101.5-54.0	円形	0.52	0.49	0.45	
P-40	101.5-54.0	円形	0.5	0.47	0.18	
P-41	101.5-54.0	円形	0.49	0.44	0.51	
P-42	101.0-54.0	円形	0.47	0.44	0.606	
P-43	101.0-54.0	円形	0.41	0.4	0.28	
P-44	101.5-54.0	円形	0.36	0.34	0.32	
P-45	101.5-54.0	—	(0.46)	(0.35)	0.36	
P-48	101.5-53.5	円形	0.45	0.42	0.55	
P-49	100.5-53.5	円形	0.5	0.46	0.66	
P-50	101.0-53.5	円形	0.26	0.24	0.475	
P-51	102.0-52.5	—	0.48	0.33	0.376	
P-52	101.5-53.5	円形	0.29	0.25	0.4	
P-53	101.0-53.0	円形	0.42	0.32	0.35	
P-54	100.5-53.5	—	(0.58)	(0.44)	0.07	
P-55	100.5-53.5	—	0.65	0.55	0.383	
P-56	100.5-53.5	—	0.63	0.43	0.117	
P-57	100.5-53.0	円形	0.31	0.31	0.61	
P-58	100.5-53.0	円形	0.62	0.58	0.21	
P-59	101.0-54.0	円形	0.28	0.2	0.16	
P-60	101.0-54.0	—	0.09	0.5	0.389	
P-61	101.0-54.0	円形	0.49	0.45	0.456	
P-62	101.0-53.5	円形	0.7	0.65	0.409	
P-63	100.5-53.0	円形	0.53	0.52	0.72	
P-64	100.5-53.0	円形	0.32	0.29	0.38	



第459図 西刑部西原遺跡13区 ヒット実測図(1)



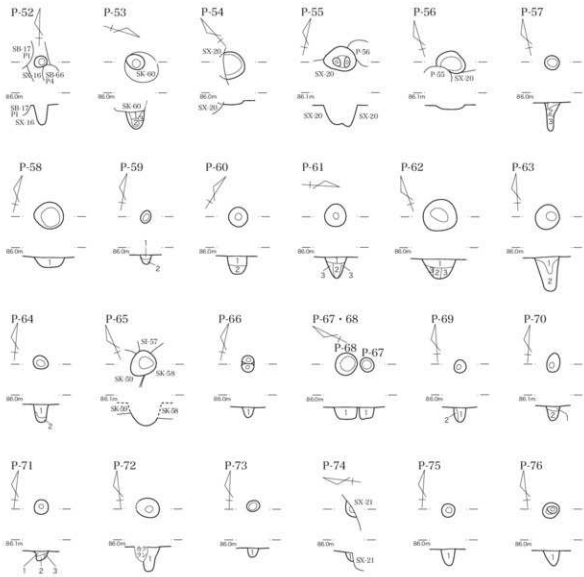
- P-28
1 褐色土 ローム粒中々多量、ローム塊少量、焼土粒微量、しまりや中強。
- P-29
1 暗褐色土 焼土粒・ローム粒・白色粒若干、しまり強。
2 暗褐色土 ローム粒少量、しまり強。
- P-30,31,32
1 暗褐色土 焼土粒・ローム粒・白色粒若干、しまり強。
2 暗褐色土 ローム粒少量、しまり強。
3 暗褐色土 焼土粒・ローム粒・白色粒微量、炭化物若干、しまりや中強。
- P-33
1 暗褐色土 ローム粒・ローム塊少量、白色粒若干、しまりや中強。
- P-34
1 暗褐色土 焼土粒・ローム塊少量、白色粒若干、しまりや中強。
- P-35
1 暗褐色土 ローム粒少量、しまり強。
- P-36
1 暗褐色土 焼土粒・ローム塊少量、白色粒若干、しまりや中強。
- P-37
1 暗褐色土 焼土粒・ローム塊少量、白色粒微量、しまりや中強。
- P-38
1 暗褐色土 焼土粒・ローム塊少量、白色粒若干、しまり強。
- P-39
1 暗褐色土 焼土粒・ローム塊少量、白色粒若干、しまり強。
- P-40
1 暗褐色土 焼土粒・ローム塊少量、白色粒若干、しまりや中強。
- P-41
1 暗褐色土 焼土粒・ローム塊少量、白色粒若干、しまりや中強。
- P-42
1 暗褐色土 焼土粒・ローム塊少量、白色粒若干、しまりや中強。
- P-43
1 暗褐色土 白色粒・焼土粒少量、炭化物若干、しまり強。
- P-44
1 褐色土 ローム塊・ローム塊少量、白色粒微量、しまり強。
- P-45
1 暗褐色土 白色粒・焼土粒少量、炭化物若干、しまり強。
- P-46
1 暗褐色土 焼土粒・ローム塊少量、白色粒若干、しまりや中強。
- P-47
1 暗褐色土 白色粒・ローム粒若干、しまりや中強。
- P-48
1 暗褐色土 白色粒・焼土粒少量、炭化物若干、しまり強。
- P-49
1 暗褐色土 白色粒・焼土粒少量、炭化物若干、しまり強。
- P-50
1 暗褐色土 白色粒・ローム塊少量、白色粒若干、しまりや中強。
- P-51
1 暗褐色土 白色粒・ローム塊少量、白色粒若干、しまりや中強。

- P-38,39
1 暗褐色土 ローム粒少量、焼土粒若干、しまり強。
2 暗褐色土 ローム粒少量・白色粒・焼土粒若干、しまりや中強。
- P-41
1 暗褐色土 焼土粒・ローム粒・白色粒若干、しまり強。
2 褐色土 ローム粒・ローム塊少量、白色粒微量、しまり強。
- P-43
1 暗褐色土 白色粒・焼土粒少量、炭化物若干、しまり強。
- P-45
1 暗褐色土 白色粒・焼土粒少量、炭化物若干、しまり強。
- P-46
1 暗褐色土 白色粒・ローム粒若干、しまりや中強。
- P-47
1 暗褐色土 白色粒・焼土粒微量、炭化物・ローム粒若干、しまり強。
- P-48
1 暗褐色土 白色粒・焼土粒少量、炭化物・ローム粒若干、しまり強。

- P-48
1 暗褐色土 白色粒・焼土粒微量、炭化物・ローム粒若干、しまり強。
2 暗褐色土 白色粒・焼土粒若干、ローム粒微量、しまり強。
3 褐色土 ローム粒少量、ローム塊若干、しまり強。
- P-49
1 褐色土 白色粒・焼土粒・ローム粒若干、しまり強。
2 暗褐色土 ローム塊・ローム塊少量、しまり強。
3 暗褐色土 ローム粒・白色粒微量、焼土若干、しまり強。
4 黄褐色土 ローム主体、しまり強。
- P-51
1 暗褐色土 ローム粒・白色粒微量、ローム塊若干、しまりや中強。
2 暗褐色土 ローム粒・ローム塊少量、ローム塊微量、しまり強。
3 褐色土 ローム粒少量、1P粒若干、しまり強。
4 褐色土 ローム粒少量、1P粒若干、しまり強。

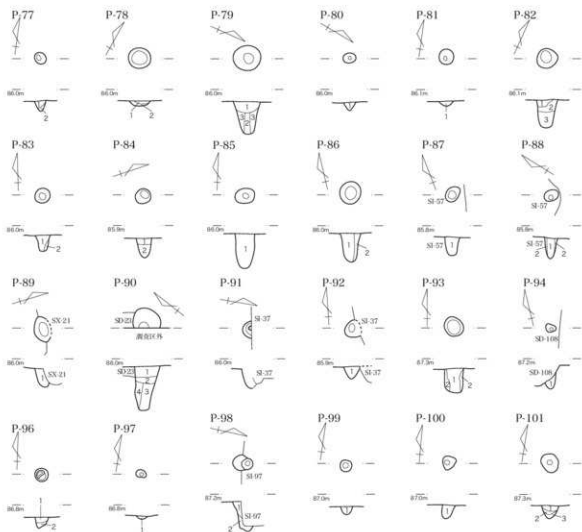
0 1/80 2m

第 460 図 西刑部西原遺跡 13 区 ビット実測図 (2)

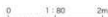


- | | | | | | |
|--|--|--|---|---|---|
| <p>P-52
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土</p> | <p>P-53
1 褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土</p> | <p>P-54
1 褐色土
2 暗褐色土
3 褐色土</p> | <p>P-55
1 褐色土
2 暗褐色土
3 褐色土</p> | <p>P-56
1 褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土</p> | <p>P-57
1 褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土</p> |
| <p>P-58
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土</p> | <p>P-59
1 褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土</p> | <p>P-60
1 褐色土
2 暗褐色土
3 褐色土</p> | <p>P-61
1 褐色土
2 暗褐色土
3 褐色土</p> | <p>P-62
1 褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土</p> | <p>P-63
1 褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土</p> |
| <p>P-64
1 褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土</p> | <p>P-65
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土</p> | <p>P-66
1 褐色土
2 暗褐色土
3 褐色土</p> | <p>P-67・68
1 褐色土
2 暗褐色土
3 褐色土</p> | <p>P-69
1 褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土</p> | <p>P-70
1 褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土</p> |
| <p>P-71
1 褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土</p> | <p>P-72
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土</p> | <p>P-73
1 褐色土
2 暗褐色土
3 褐色土</p> | <p>P-74
1 褐色土
2 暗褐色土
3 褐色土</p> | <p>P-75
1 褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土</p> | <p>P-76
1 褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土</p> |

第461図 西荆部西原遺跡13区 ビット実測図(3)



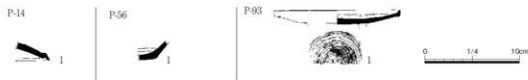
- P-77
1 黒褐色土 ローム粒・橙色粒ごく微量。しまり強、粘性弱。
2 暗黄褐色土 ローム小塊多量、赤色粒微量。しまり強、粘性弱。
- P-78
1 黒褐色土 橙色粒ごく微量。炭化物多量。しまり強、粘性弱。
2 褐色土 ローム粒・白色粒ごく微量。しまり強、粘性強。
- P-79
1 褐色土 ローム粒・橙色粒微量。ローム小塊ごく微量。しまり強、粘性弱。
2 黒褐色土 ローム粒多量。しまり強、粘性弱。
3 暗黄褐色土 ローム粒多量、白色粒ごく微量。粘性強。
- P-81
1 褐色土 橙色粒ごく微量。しまり強、粘性弱。
- P-82
1 黒褐色土 ローム粒多量、白色粒ごく微量。しまり強、粘性弱。
2 黄褐色土 ローム粒多量。しまり・粘性弱。
- P-83
1 褐色土 橙色粒ごく微量。炭化物多量。しまり強、粘性弱。
2 黒褐色土 ローム粒多量。しまり強、粘性弱。
3 暗黄褐色土 ローム粒多量、白色粒ごく微量。粘性強。
- P-84
1 黒褐色土 ローム粒多量、白色粒ごく微量。しまり強、粘性弱。
2 褐色土 ローム粒多量、白色粒ごく微量。しまり強、粘性弱。
3 暗黄褐色土 ローム中塊多量。しまり強、粘性弱。
- P-85
1 暗黄褐色土 ローム粒・ローム小塊多量、赤色塊少量。しまりやや弱、粘性弱。
- P-86
1 黒褐色土 ローム粒多量。ローム大塊・橙色粒微量。しまり強、粘性弱。
2 黒褐色土 ローム粒・ローム塊多量。赤色粒微量。しまり・粘性弱。
- P-87
1 黒褐色土 ローム粒・ローム小塊多量。しまり強。
- P-88
1 暗黄褐色土 ローム粒・ローム小塊やや多い。ローム中塊少量。しまり強。
- P-89
1 黒褐色土 ローム粒・ローム小塊・橙色粒少量。
- P-90
1 黒褐色土 ローム粒若干。しまり強。
2 黒褐色土 ローム粒微量。ローム小、中塊少量。しまり強。
- P-91
1 黒褐色土 ローム粒・ローム小、中塊少量。しまり強。(柱間)
- P-92
1 黒褐色土 ローム粒多量。ローム小塊少量。ばさばさ。
- P-93
1 黒褐色土 ローム粒微量。白色粒・炭化物ごく微量。橙色粒少量。
- P-94
1 黒褐色土 ローム粒・炭化物・白色粒若干。しまり強。
2 黒褐色土 ローム粒・ローム塊少量。しまり強。
- P-96
1 黒褐色土 ローム粒・炭化物・白色粒・赤色粒若干。しまり強。
2 暗黄褐色土 ローム粒・ローム塊少量。しまり強。
- P-97
1 暗黄褐色土 ローム粒少量。炭土若干。しまりやや弱。
- P-98
1 暗黄褐色土 ローム粒少量。ローム塊少量。しまり強。
- P-99
1 暗黄褐色土 ローム粒少量。ローム塊少量。しまり強。
- P-100
1 黒褐色土 ローム粒少量。しまり強。
- P-101
1 暗黄褐色土 ローム粒少量。しまり強。
2 暗黄褐色土 ローム粒多量。しまり強。
3 明黄褐色土 ローム土・ローム小、中塊多量。黒色土粒少量。



第462図 西刑部西原遺跡13区 ビット実測図(4)

第3章 発見された遺構と遺物

P65	101.0-53.5	—	0.53	0.53	0.162	
P66	100.5-53.5	—	0.34	0.26	0.22	
P67	100.5-53.5	円形	0.32	0.29	0.25	
P68	100.5-53.5	円形	0.48	0.45	0.25	
P69	100.5-53.5	円形	0.27	0.27	0.32	
P70	100.5-53.5	—	0.4	0.29	0.31	
P71	100.5-53.5	円形	0.32	0.29	0.21	
P72	100.5-53.5	—	0.44	0.41	0.51	
P73	100.5-53.5	円形	0.26	0.24	0.19	
P74	100.5-53.5	—	(0.39)	(0.15)	0.17	
P75	100.5-54.0	円形	0.29	0.28	0.34	
P76	100.5-54.0	—	0.35	0.34	0.34	
P77	100.5-53.0	円形	0.25	0.25	0.218	
P78	100.5-53.0	円形	0.47	0.43	0.114	
P79	100.5-53.0	円形	0.55	0.53	0.67	
P80	100.5-53.0	円形	0.25	0.21	0.151	
P81	100.0-53.5	円形	0.32	0.31	0.11	
P82	100.0-53.5	—	0.42	0.41	0.6	
P83	100.5-54.0	円形	0.34	0.31	0.34	
P84	—	円形	0.34	0.3	0.417	
P85	100.5-54.0	橢円形	0.41	0.31	0.74	
P86	101.0-53.5	円形	0.47	0.4	0.582	
P87	101.0-53.5	円形	0.37	0.29	0.38	
P88	101.0-53.5	円形	0.3	0.25	0.746	
P89	100.5-53.0	—	0.56	0.31	0.39	
P90	100.0-53.0	—	(0.59)	(0.41)	0.93	
P91	100.5-54.0	—	(0.36)	(0.19)	(0.41)	
P92	101.0-53.5	—	0.35	0.29	0.321	
P93	98.0-55.0 98.5-55.0	円形	0.4	0.4	0.5	
P94	98.0-55.0	—	0.21	0.18	0.49	
P96	97.5-54.5	円形	0.29	0.29	0.24	
P97	97.5-54.5	—	0.22	0.16	0.07	
P98	97.5-54.5	—	0.43	0.34	0.64	
P99	98.5-55.0	—	0.25	0.25	0.18	
P100	98.5-55.0	—	0.3	0.28	0.3	
P101	98.5-55.0	橢円形	0.4	0.37	0.28	



第463図 西刑部西原遺跡13区 ビット出土遺物

第215表 13区 P-14出土遺物観察表

編號番号	図柄	法量(m/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(m)	残存
1	須忠跡遺	高 [1.9]	内外面ロケロナデ。大径部外面回転ヘラケズリ。	内外面とも7.5Y5/1灰	中々緻密、灰・白磁砂焼成・硬質	甌土中	口縁部破片

第216表 13区 P-56出土遺物観察表

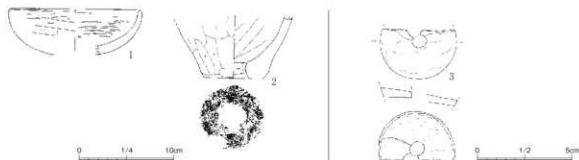
編號番号	図柄	法量(m/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(m)	残存
1	須忠跡環	高 [1.9]	内外面ロケロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデか。	内：7.5Y5/1灰 外：7.5Y6/1灰	中々緻密、白・黒磁砂焼成・硬質	甌土中	底部～体部下破破片

第217表 13区 P-93出土遺物観察表

編號番号	図柄	法量(m/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(m)	残存
1	須忠跡高台付皿または高杯	口 [13.2] 高 [1.5]	内外面ロケロナデ。口縁部ツマミ上げ。底部外面回転ヘラケズリのうち接合沈線の高台部分。底部内面半径3cmほどの範囲で研ぎ痕あり。	内外面とも7.5Y5/1灰	中々緻密、白磁砂焼成・硬質	甌土中	口縁部1/5、高台部分欠損

8. 遺構外

遺構外から出土した遺物は総数20点ほどで、いずれも土師器・須恵器類の小片が多い。このうち3点を図示した。1は内外面ヘラミガキのある土師器環。2は土師器甕の底部付近の破片。底部の孔はヘラケズリによる穿孔。3は泥岩の石製紡錘車の剥片である。



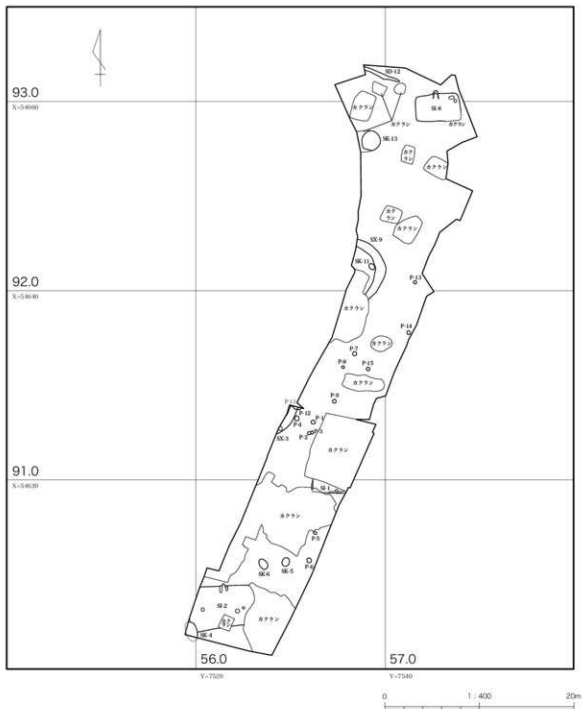
第464図 西刑部西原遺跡13区 遺構外出土遺物

第218表 13区 遺構外出土遺物観察表

図録番号	器種	法量(m/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成・石材	出土位置・床土(m)	残存
1	土師器環	口 (13.6) 高 [4.7]	口縁部内外面ヨコナデ。体部から底部内面ヨコヘラミガキ。体部外面ヨコヘラケズリ。体部～底部磨減のため調整不明。内外面漆仕上げ。	内：5YR5/6 明赤陶 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密。白磁砂～粗砂焼成；やや軟質	H02-03.5	口縁部1/4、底部1/4
2	土師器甕	底 6.0 高 [6.6] 孔 2.4	胴部外面タテヘラケズリ。下端ナデ。底部外面ヘラナデのち孔部ヘラケズリ。胴部内面ナメ方向ヘラナデ。	内外面とも5YR6/6 橙	やや粗い。白・黒粗砂焼成；やや軟質	H02.5-53	底部完存
3	石製品紡錘車	孔 0.7 厚 [0.5] 重 [7.2]	上面下面共に約離し欠損。孔は垂直方向のノミ痕を明確に残す。未だ成型か。	N4/O 灰	泥岩	表土中	部分残存

第14節 14区の遺構と遺物

本調査区は台地上平坦面に位置し、南部の11区、北部の10区と境を接する。竪穴建物跡3棟、周溝遺構2基、溝1条、土坑5基、ピット14基が確認されたが、攪乱部分が非常に多く、より多くの遺構が存在した可能性がある。

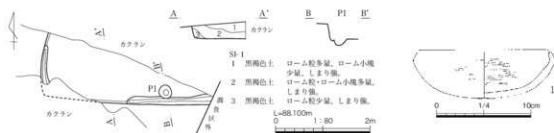


第465図 西刑部西原遺跡14区 全体図 (S=1/400)

1. 竪穴建物跡

14区 SI-1 (遺構・遺物：第466図、図版七六)

位置 グリッド 90.5-56.5 平面形 北部の大半と南西コーナーを掘乱される。方形あるいは長方形と思われる。規模 東西3.62m以上×南北1.35m以上 主軸方向 不明 覆土 自然堆積と考えられる。壁 壁高は31～39cmである。床 ローム面を床面としており概ね平坦である。柱穴 P1 (径29cm、深さ14cm)は壁際にあるため、入口ピットの可能性もある。壁溝 壁溝は残存部の南壁及び西壁の一部に見られる。幅9～16cm、深さ約7cm。カマド 調査区外に存在するものと思われる。遺物 遺物は極めて少なく、土師器甕及び坯の小破片が計6点出土したのみで、このうち1点を図示した。1の土師器坯は内外面にヘラミガキが施されるが、磨滅が顕著で不明瞭。古墳時代後期から終末期の遺物と考えられる。



第466図 西刑部西原遺跡14区 SI-1実測図・出土遺物

第219表 14区 SI-1出土遺物観察表

図版番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・深さ (cm)	残存
1	土師器 坯	径 (14.8) 高 (4.9)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面の磨り著しく不明瞭だがヘラミガキの跡へラミガキか。体部内面へラミガキ。口縁部外面塗上げ。	内：7.5YR5/4 に近い黄 外：7.5YR6/4 に近い橙	粗い。黒・灰・白粗砂・緑・赤粒 焼成：焼直	覆土中	口縁部1/4

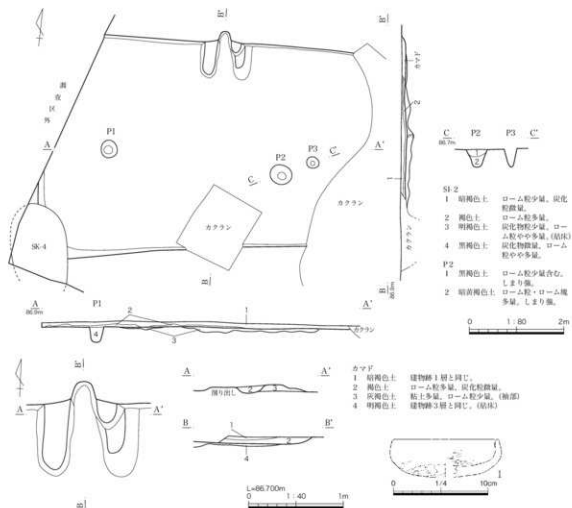
14区 SI-2 (遺構・遺物：第467図、図版七六)

位置 グリッド 90.0-55.5・90.0-56.0 重複遺構 SK-4 平面形 北西隅と東壁は掘乱を受け不明だが、東西軸の長方形と推定可能。規模 東西6.9m以上×南北4.7m以上 主軸方向 不明 覆土 暗褐色土及び明褐色土からなる自然堆積か。壁 壁高は最深部で12cmと極めて浅い。床 ほぼ全面に薄い貼床あり。

柱穴 P1 (径35cm、深さ31cm)、P2 (径45～40cm、深さ39cm)、P3 (径26cm、深さ38cm)がある。二本主柱の建物か。掘方 底面に若干の凹凸を残し、ローム粒を少量含む3層で埋戻す。カマド 北壁中央部付近の壁際をU字状に掘り込む。焼土は非常に少ない。袖は灰褐色粘土で構築されていた。遺物 遺物は土師器甕及び坯の小破片が計14点出土し、このうち1点を図示した。1は赤色塗彩が見られ、内面にヘラミガキを施す。遺物は古墳時代後期中葉の土器と考えられるが、出土量が少なく遺構の帰属時期は明確にはできなかった。

第220表 14区 SI-2出土遺物観察表

図版番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・深さ (cm)	残存
1	土師器 坯	口 (10.8) 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面へラミガキ。体部外面へラケズリ。外面に赤色塗彩あり。	内：10YR8/4 浅黄橙 外：5YR5/6 赤褐色	中・細い。灰・黒砂・赤粒 焼成：焼直	南西	口縁部-体部1/4



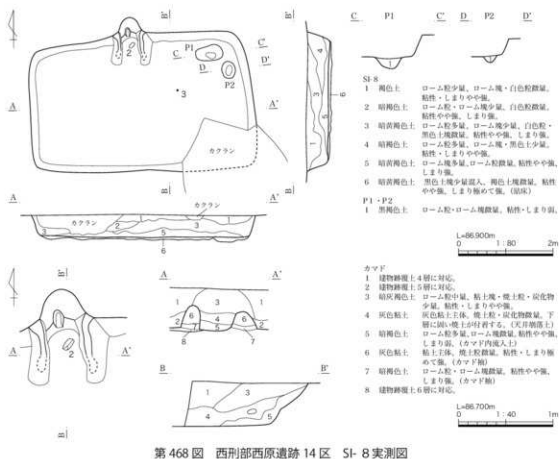
第467図 西刑部西原遺跡14区 SI-2実測図・出土遺物

14区 SI-8 (遺構：第468図、遺物：第469図、図版七六・一一一)

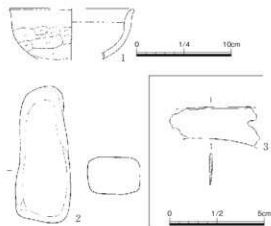
位置 グリッド92.5-57.0・93.0-57.0 平面形 東西軸の長方形。南西隅を覆乱される。規模 東西4.76×南北2.92m 主軸方向 N-4°-E 覆土 自然堆積と考えられ、褐色土及び暗黄褐色土主体の5層からなる。壁 壁高40~46cm 床 全面的に貼床を施すが、概ね平坦である。ピット P2(径27~35cm、深さ17cm)は柱穴の可能性があるが、対応する柱穴が確認できなかった。貯蔵穴 P1(長軸55×短軸34cm、深さ26cm)は北東隅にあり、不整な長方形状を呈する。掘方 底面には細かな凹凸があり6層で、

第221表 14区 SI-8出土遺物観察表

図載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	粘土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	土師器 環	口 12.8 高 [5.3]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面へラケズリ。口縁部外面及び内面建仕上り。	内外面とも10YR7/4に 近い黄褐色	中々粗い。白・灰・黒煎 砂~漚。赤粒 精成：中々軟質	カマド 口縁部~体 部1/2	
2	石器 扁物石	口 14.3 底 5.5 高 3.7 厚 602.0	未加工の自然産。 平面形：楕丸長方形 断面形：楕丸長方形	10GY4/1暗緑灰	—	No 2 7.7	完存
3	不明 鉄製品	長 [4.6] 幅 2.0 厚 0.2 重 [4.5]	鉄鏝あるいは鎌か。	—	鉄製	No 1 床直	部分残存



平坦に埋戻している。カマド 北壁中央部をU字状に掘り込み煙道部としている。煙道は約45°の角度で立ち上がる。燃焼部には天井崩落土が厚く堆積する。遺物 遺物は極めて少なく、覆土中から土師器甕及び環類の小破片16点が出土し、うち3点を図示した。1は器高の高い土師器環で、口縁はやや外反気味である。2はカマド内から出土したが、被熱しておらず支脚の可能性は低い。3の鉄製品は、鎌または刀子の破片で、床面直上から出土している。最も遺存度の高い土師器環(1)から判断すると、古墳時代後期中葉(6世紀中頃)の建物と考えられる。

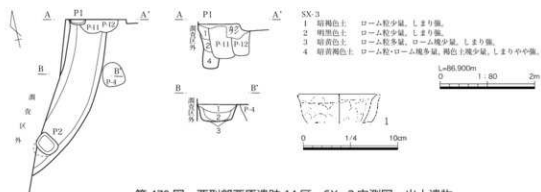


第469図 西刑部西原遺跡14区 SI-8出土遺物

2. 円形周溝遺構

14区 SX-3 (遺構・遺物：第470図、図版七六)

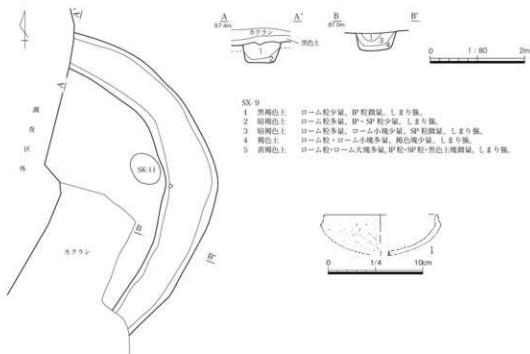
位置 グリッド91.0-56.0 重複遺構 P-11・12より古い。規模・平面形 周溝の一部が残るのみで、全体の形状は不明。溝の上幅50～75cm。覆土 自然堆積か。壁・断面形 壁厚38cm。断面形は逆台形状を呈する。底面 概ね平坦である。ピット P1(長軸34cmの隅丸方形、周溝底面からの深さ40cm)、P2(長軸44×短軸36cmの隅丸方形、周溝底面からの深さ44cm)は周溝に直交して掘り込まれる。またP2の南側面はオーバーハングしている。遺物 覆土中から土師器粗製灰が1点出土した。1点のみで時期の確定は難しいが、古墳時代後期から終末期の可能性が高い。



第470図 西刑部西原遺跡14区 SX-3実測図・出土遺物

第222表 14区 SX-3出土遺物観察表

掲載番号	図種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・構成	出土位置・床土(cm)	残存
1	土師器 粗製灰	口(8.2) 高(3.1)	口縁部内外面ヨコナデ。内面体部ヘラナデのちナデ。外面体部押し及びナデ。	内：5YR7/6橙 外：10YR5/3にぶい黄濁	繊維、白磁砂 構成：硬質	覆土中	口縁部3/8



第471図 西刑部西原遺跡14区 SX-9実測図・出土遺物

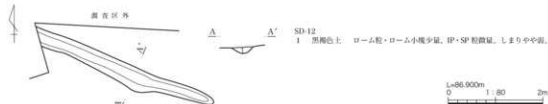
14区 SX-9 (遺構・遺物：第471図、図版七七)

位置 グリッド 91.5-56.5・92.0-56.5 規模・平面形 周溝の多くが調査区外及び掘点を受け不明である。残存部は全体の1/3程度か。溝の上幅79～108cm。覆土 自然堆積と考えられる。壁・断面形 壁高36～43cm残。断面形は逆台形状を呈する。底面 周溝に直交する工具跡が残る。遺物 覆土中から土師器小破片(鏝・環)40点が出土。図示可能な1の土師器環を掲載した。時期は古墳時代終末期のものと考えられる。

第223表 14区 SX-9出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	土師器環	口(11.8) 高 [4.3]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのも一部ナデ。体部内面一部ナデ。	内：SYR6/6 橙 外：SYR6/8 橙	中・微密。黒・白細砂～ 硬。赤粒 焼成：中・硬質	北	口縁部 1/2、底部 1/2

3. 溝



第472図 西刑部西原遺跡 14区 SD-12実測図

14区 SD-12 (遺構：第472図、図版七七)

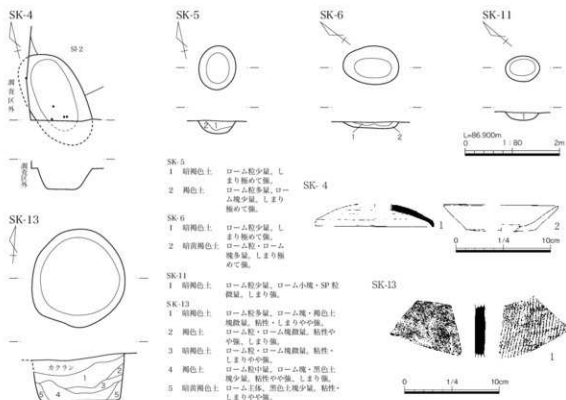
位置 グリッド 93.0-56.5・93.0-57.0 規模・平面形 長さ4.04m以上、上幅0.30～0.50mである。大部分が調査区外にあるため全形は不明だが、若干蛇行している。覆土 黒褐色土単層からなる自然堆積と考えられる。壁・断面形 壁高は10cm弱と浅く、遺構底面がかろうじて残ったものと考えられる。断面形は皿状。遺物 時期を判別できるような遺物は出土しなかった。

4. 土坑

本調査区からは計5基の土坑が確認された。位置的には調査区南部にまとまりがある。土坑は遺物の出土量が少ないため明確な時期を確定できないものが多い。ただし建物跡などの切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものもある。ここでは出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめ掲載した。このうち、特徴的な遺構・遺物については補足説明を行うこととした。

土坑を形態別に概観すると、平面形はいずれも楕円形を呈し、比較的浅めのものが大多数を占める。土坑は小型のもの(SK-5・6・11)と推定長軸2mを超えるやや大型のもの(SK-4)がある。出土遺物は古墳時代終末期から奈良時代の遺物が散見される。

SK-13は径約2mの円形を呈し、断面形は円筒形を呈する。覆土は自然堆積と考えられる。遺物は内面に無文あて具痕を有する須恵器鏝破片が出土する。8世紀代の遺物か。



第473図 西刑部西原遺跡14区 土坑実測図・出土遺物

第224表 14区 土坑計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
SK-4	90D	楕円形	(1.53)	(1.13)	0.54	
	55.5・56D					
SK-5	90.5・56.0	楕円形	0.95	0.77	0.29	
SK-6	90.5・56.0	楕円形	1.15	0.80	0.16	
SK-11	92.0・56.5	楕円形	0.7	0.57	0.15	
SK-13	92.5・56.5	円形	20.6	13.0	0.84	

第225表 14区 SK-4出土遺物観察表

編號番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	現存
1	須恵器 蓋	口 (12.2) 高 (2.3)	内外面口クロナデ。天井部外面回転ヘラケズリ。	内外面とも 10YR6/4 褐色	やや粗い、白粉砂 焼成：硬質	覆土中	口縁部～天井部 1/4
2	土師器 杯	口 (11.8) 底 (7.4) 高 (2.8)	口縁部内外面口コナデ。体部外面ヘラケズリ。全面仕上げ。口縁部は長くほぼ底に近い形状。	内：10YR7/4 に近い黄褐色 外：7.5YR8/6 浅黄褐色	緻密、白粉砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/4

第226表 14区 SK-13出土遺物観察表

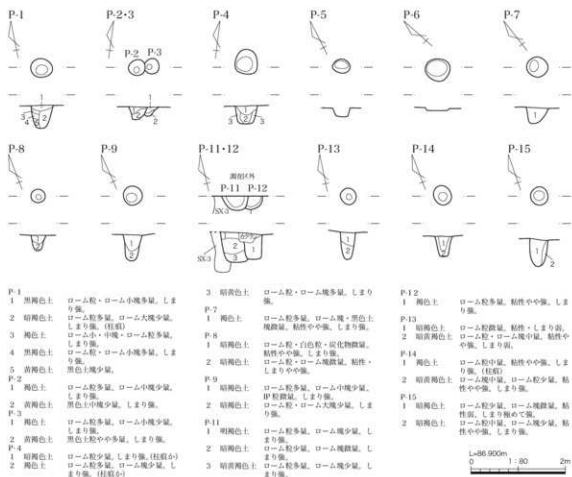
編號番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	現存
1	須恵器 甕	高 (5.8) 厚 0.9	内面無文あて貝面のちヘラナデ。外面縦格子叩き及び凹坑あり。	内：5Y5/1 灰 外：5Y5/2 灰オリーブ	やや粗い、白粉砂～硬質 焼成：硬質	覆土中	胴部破片

5. ビット

本調査区から確認されたビット（小ズ）は計 14 基である。土坑と同様、遺物の出土量が少ないため明確な時期を確定できないものが多いが、他遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものもある。

ここでは土坑と同様に個別の事実記載は行わず、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめて掲載した。

ピットはその殆どが14区中央部の円形周溝遺構近辺から確認されている。形態は柱穴状のものが多い。覆土は、単層で自然堆積と考えられるもの、レンズ状の堆積を示すもの、或いは掘立柱建物跡の柱穴同様に柱痕をもつものなど多様である。明瞭な柱痕があるピットはP-1・4・14・15などがある。



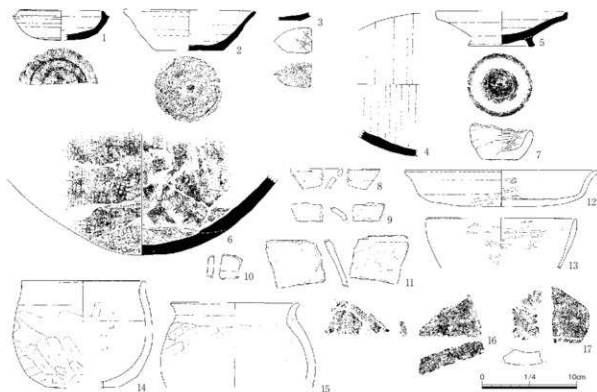
第474図 西刑部西原遺跡14区 ピット実測図

第227表 14区 ピット計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
P-1	91.0-56.5	円形	0.45	0.40	0.47	
P-2	91.0-56.5	円形	0.35	0.35	0.19	P-2はP-3より新しい
P-3	91.0-56.5	円形	0.34	0.30	0.21	P-3はP-2より古い
P-4	91.0-56.0	円形	0.51	0.45	0.36	
P-5	90.5-56.5	円形	0.35	0.30	0.18	
P-6	9.5-56.5	円形	0.51	0.50	0.06	
P-7	91.5-56.5	円形	0.46	0.43	0.34	
P-8	91.5-56.5	円形	0.30	0.29	0.33	
P-9	91.0-56.5	円形	0.42	0.40	0.57	
P-11	91.0-56.5	円形	(0.6)	(0.24)	0.62	SX-3、P-12と重複
P-12	91.0-56.5	円形	(0.36)	(0.24)	0.54	P-11と重複
P-13	92.0-57.0	楕円形	0.36	0.35	0.58	
P-14	91.5-57.0	円形	0.42	0.40	0.44	
P-15	91.5-56.5	円形	0.40	0.38	0.60	

第15節 試掘トレンチ

ここでは試掘トレンチ調査で出土した遺物をまとめた。トレンチ調査を実施した範囲は遺跡中央部東側で、3～7区の西側部分にあたる。3区西部は平地上の坦面にあたり、遺構密度も比較的高く遺物も多い。このため3区同様の集落が存在する可能性が高い。これに対し、5・7区西部の4区周辺地域は低地に向け若干傾斜しつつあり、遺構密度が低く、当然遺物の出土も少ない。トレンチは東西軸に設定し掘削順に番号を付した。詳細な位置は第3区調査区割図を参照されたい。なお、遺物観察表中の出土位置の欄には、トレンチ番号だけでなく、東西方向の位置関係を把握しやすくするためグリッド番号を併記している。



第475図 西刑部西原遺跡 試掘トレンチ出土遺物

第228表 西刑部西原遺跡 試掘トレンチ出土遺物

掲載番号	図種	法量(m/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置	残存
1	須恵系 碗	口 (8.6) 底 [3.1]	内外面ロクナデ。底部外面回転ヘラケズリ。	内：5Y5/1 灰 外：5Y4/1 灰	中や緻密。白細砂～粗砂 焼成：硬質	TX90-47 トレンチ 286	口縁部 1/2, 底部 1/2
2	須恵系 碗	口 (13.8) 底 7.0 高 4.3	内外面ロクナデ。底部外面回転ヘラ切りのちへラ記号。	内外面とも 2.5Y8/2 灰黄	中や粗い。白粗砂～硬 焼成：中や硬質	TX93-48 トレンチ 283	口縁部 1/4, 底部完存
3	須恵系 碗	底 (8.0) 高 [0.9]	ロクナデ。底部外面回転ヘラケズリのちナデのちへラ記号。	内：2.5Y7/3 黄褐 外：2.5Y6/2 灰黄	中や緻密。白・灰・黒細 砂 焼成：硬質	TX85-46 トレンチ 290	底部 1/6
4	須恵系 横板	径 (15.0)	外面回転ヘラケズリ。内面ロクナデ。外面一部に緑色の白炭酸付着。	内外面とも 10YR7/3 に 近い黄緑	中や緻密。黒細砂。微砂 粒。黒色粒 焼成：硬質	TX91-47 トレンチ 285	割部破片
5	須恵系 高付付 碗	口 (13.8) 高 3.7	ロクナ仕上げ。底部外面回転系切りのち高台輪付。焼け跡み顕著。芯みを修正して実用。伏せた杯を寄せ重ね焼きしたため、口縁部内面に割けし取った痕が残る。このため杯の内面は触がられない。	内：2.5Y7/1 灰白 外：2.5Y4/2 暗灰黄	中や粗い。白・黒細砂～ 硬 焼成：硬質	TX91-47 トレンチ 285	体部 1/2, 底部完存

6	須恵器 費	高 [9.1]	胴部内面下平～底部内面平行線文あり。外面格子印 き。	内：2.5YR/3 淡黄	やや緻密。白磁砂。灰層 焼成；軟質	TX01-47 西 トレンチ 285	底部完存
7	土師器 手取ね 土器	口 径 [5.6] 底 径 [3.7] 高 [4.0]	内面ナデのち一部ヘラミガキ。口縁部～体部外面指頭 押圧。輪轆あり。底部外面ナデ。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR6/6 橙	やや緻密。白磁砂 焼成；やや軟質	TX32-52 トレンチ 284	ほぼ完存
8	土師器 有孔壺 か	厚 [4.5]	口縁部内外面張りヨコナデのちナメのナデ。孔は焼 成前に内外面両方から穿つ。孔径外面5mm、内面0.5mm。	内：5YR5/6 明赤褐 外：5YR6/8 橙	やや緻密。白磁砂 焼成；やや軟質	UT-TN トレンチ 不明	口縁部破片 不明
9	土師器 小型壺 か	厚 [4.5]	胴部外面ヨコナデのちヨコヘラズリか。内面ナデ。	内：10YR4/2 灰黄褐 外：10YR3/2 黒濁	やや粗い。灰磁砂 焼成；やや軟質	UT-TN トレンチ 不明	胴部破片 不明
10	土師器 製塩土 器	厚 [6.5]	内外面ナデ。外面輪轆あり。極めてよく焼熟しており 脆い。器形は不明。筒状か。	内：10YR8/4 淡黄橙 外：5YR6/8 橙	やや粗い。白・灰磁砂。 白色針状物 焼成；軟質	TX30-46 トレンチ 286	小破片
11	土師器 費か	厚 [6.5]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ。輪轆あり。外 側内面ナデ及びヘラナデ・指頭押圧あり。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや粗い。小砂粒。礫。 白色粒。白色針状物散在 焼成；軟質	TX01-47 西(木の根) トレンチ 285	胴部破片 不明
12	土師器 坪	口 [20.2] 高 [3.9]	口縁部内外面ヨコナデ。内面ヘラミガキ。体部～底部 外面ヘラズリのちヘラミガキか。大型の盤状。全 体は褐色を呈する。器面は納減が著しく調整不可解。	内：2.5YR5/8 明赤褐 外：5YR5/6 明赤褐	やや緻密。白・黒磁砂～ 粗砂 焼成；やや軟質	TX01-47 西(木の根) トレンチ 1/3	口縁部 西(木の根) 1/3、底部 不明
13	土師器 坪	口 [15.6] 高 [5.4]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラ ズリのちヘラミガキか。器面内外共に磨減が顕著で 調整不可解。	内外面とも 2.5YR5/8 明 赤褐	やや緻密。白・灰磁砂～ 粗砂 焼成；やや軟質	TX01-47 西(木の根) トレンチ 285	口縁部～体 部 1/4
14	土師器 鉢	口 [12.8] 底 [7.2] 高 [11.3]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上平ナデ。下平～部 外面ヘラズリ。体部外面下平ヨコヘラズリ。底 部外面ヘラズリ。体部～底部内面ヘラナデ。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや粗い。白・灰・黒・ 赤磁砂～礫 焼成；やや軟質	TX01-47 西 トレンチ 285	口縁部 1/2、 底部 1/4
15	土師器 費	口 [13.2] 径 [16.3] 高 [8.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上平ヘラズリ。胴 部内面ヘラナデ。外面部分的に黒線あり。	内外面とも 5YR5/6 明赤 褐	やや緻密。白・黒磁砂～ 粗砂 焼成；やや軟質	TX01-47 西 トレンチ 285	口縁部～胴 部上平 3/4
16	女瓦	長 幅 [7.0] 厚 [6.6] 厚 [1.7] 重 [58.0]	凹面布目皷。凸面がナデ。	内外面とも 5YR4/4 にぶ い赤褐	やや粗い。白・灰・黒・ 赤磁砂～礫 焼成；やや軟質	TX01-49 トレンチ 285	部分残存
17	男瓦	長 [6.3] 幅 [4.2] 厚 [1.5] 重 [41.0]	凹面布目皷。凸面履位のケズリ。横位の波線状のナデ あり。	内：7.5YR4/6 褐	やや粗い。灰・黒・赤 磁砂 焼成；やや軟質	TX00-46 トレンチ 286	部分残存

遺物は計 17 点を図示した。1 は返りをもつ須恵器環。底部外面に回転ヘラズリが見られる。2 の須恵器環は底部外面に「×」字状のヘラ記号が見られる。3 の須恵器環底面のヘラ記号はやや複雑である。4 は横長の横瓶である。図示していないが胴部外面の緑色の自然軸が見られる。5 の須恵器高台付環は非常に歪み
が大きい。黄褐色の自然軸が付着している。8・9 は小形の土師器類。8 は有孔の小形壺と考えられる。孔
は焼成前に両面から穿孔される。本遺跡からはこの 1 点のみが出土した。9 は小形の壺か。10・11 は覆土中
に白色針状物を含む土器。10 は褐色を呈する製塩土器と考えられる。11 はやや深い器形で裏の可能性
がある。製塩土器以外の土器で、白色針状物を含む土器は極めて少なく、小破片が数点出土するのみである。12 は大
形の盤状環である。赤褐色を呈し、内面は入念に磨かれている。13 は内外面を入念に磨く土師器環で、薄手
で入念なつくりである。16 は女瓦、17 は男瓦である。瓦は 3 区の円形有段遺構 (SK-45) と 12 区の SI- 2
からも出土している。小破片ではあるが掲載した。

これらの遺物は殆どがトレンチ 284～トレンチ 286 から出土している。しかも東部に集中しており、この
部分においても古墳時代後期から平安時代の遺構が存在することが想定される。

第4章 まとめと成果

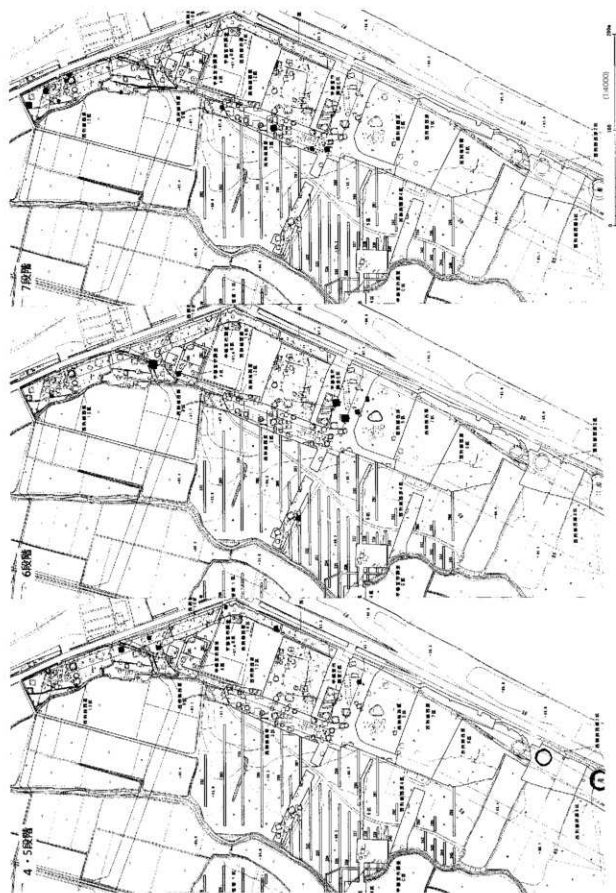
第1節 遺構の変遷について

西刑部西原遺跡の今回調査区内においては古墳時代中期末(TK 23-47 段階)から平安時代(9世紀後葉)にかけ、竪穴建物跡を中心とした遺構群により構成されている。ここでは西に近接する中島笹塚遺跡の段階別の土器変遷(内山 2008)をもとに、その重複関係・出土遺物の検討により帰属時期の判別可能な遺構について述べてみたい。その変遷は第229表と第476-478図に示すとおりである。

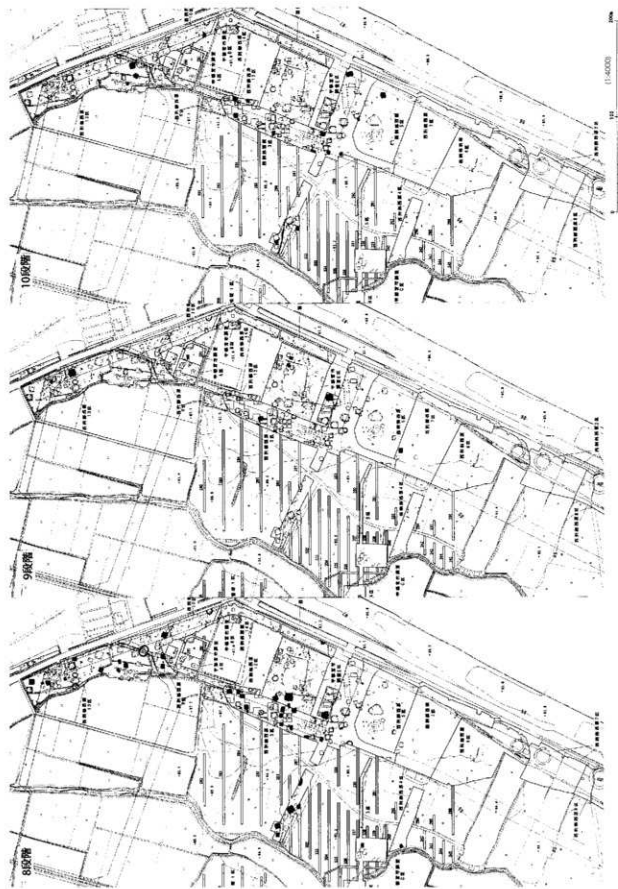
1～3段階:今回調査区内では未確認。4段階:14区SI-21のみ。5段階:3・9・13・14区から竪穴建物4棟。8区に琴平塚9号墳。13区に南北方向の溝1条、円形周溝遺構1基。6段階:竪穴建物7棟のうち、張り出しピットを持つ大型建物が3棟。円形周溝遺構1基。7段階:竪穴建物10棟、13区から9区にかけ溝1条、3区に遺物集中地点(SX-21)。8段階:3区を中心に竪穴建物38棟を確認。比較的小型の建物が多い中、宇都宮調査E区に複数回建て替えられた大型建物(SI-012)あり。最大規模の円形周溝遺構(SX-98)を含む6基を確認。井戸2本。遺構数は一回目のピークを迎える。9段階:竪穴建物8棟、円形周溝遺構1基と激減する。これ以降円形周溝遺構は見られなくなる。10段階:竪穴建物19棟。掘立柱建物3棟、井戸2本。遺構も多様性を持ち2回目のピークを迎えるが北部で遺構数が減少し始める。11段階:竪穴建物11棟、井戸3本、溝1条の他、円形有段遺構(7区SX-7)と類似する遺構を9区から確認。宇都宮調査E区SK-017も8世紀中葉である。12段階:竪穴建物10、掘立柱建物跡1棟、円形有段遺構1基、井戸1本、溝1条を確認。道路状遺構(SF-13)が5～8区に作られる。円形有段遺構(3区SK-45)は覆土上層から礎・須恵器・瓦等が出土。13～15段階:遺構のバリエーションは少なくなるが居木などの自然遺物を多く出土するSE-23がある。宇都宮調査区では、この時期の遺構が一番多い。最も新しい建物は3区SI-30で、9世紀後葉以降の建物は確認できていない。

第229表 西刑部西原遺跡 各調査区遺構時期変遷表

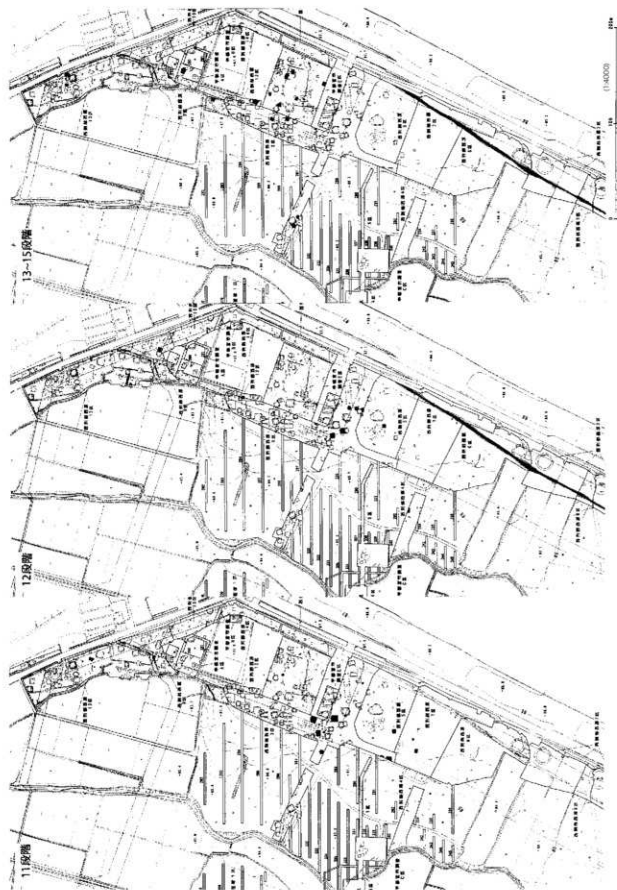
時代	層年代	段階	3区	4区	5区	6区	7区	8区	9区	10区	11区	12区	13区	14区
古墳時代中期末	TK 23-47	4段階												SI-2
古墳時代後期前期	MT15-TK10	5段階	SI-77					SZ-9	SI-13・SI-16				SI-96・SX-34・SD-6	SI-8
古墳時代後期後葉	TK43	6段階	SI-74・SI-81・SI-84・SI-87				SI-1・SX-3		SI-12				SI-12	
古墳時代後期末	6世紀末葉 ～7世紀初頭	7段階	SI-11・SI-34・SI-36・SX-21						SI-49・SD-3・SD-120				SI-2・SI-27・SI-38・SI-40・SI-52・SI-118・SD-111	
古墳時代終末期前期	7世紀前半 ～中葉 飛鳥I新・飛鳥II	8段階	SI-7・SI-10・SI-14・SI-15・SI-18・SI-22・SI-24・SI-32・SI-33・SI-39・SI-40・SI-41・SI-43・SI-46・SI-50・SI-51・SI-53・SI-56・SI-58・SI-59・SI-60・SX-28	SI-2					SI-9・SI-10・SI-15・SI-26	SX-6・SI-1			SI-1・SI-26・SI-30・SI-56・SI-62・SI-92・SI-101・SI-102・SI-105・SI-117・SX-20・SX-22・SX-08・SE-11・SE-81	SX-9
古墳時代終末期後半	7世紀後半 飛鳥中・IV	9段階	SI-13・SI-26・SI-47・SX-29				SI-4			SI-1			SI-29・SI-37・SI-91	
奈良時代前期	7世紀末 ～8世紀前期	10段階	SI-4・SI-16・SI-35・SI-38・SI-52・SI-82・SI-83・SI-89・SI-91・SI-92・SB-73・SE-95・SE-107・SD-57	SI-3	SI-14				SB-22・SB-23	SI-2	SD-2	SI-2	SI-97・SI-100・SI-110	
奈良時代中葉	8世紀中葉	11段階	SI-1・SI-5・SI-6・SI-31・SI-60・SI-61・SE-37・SE-75・SE-76		SI-5		SI-5・SI-6・SX-7		SI-21・SD-2・SX-25				SI-89	
奈良時代後葉	8世紀後葉	12段階	SI-2・SI-3・SI-42・SI-85・SI-86・SI-88・SB-101・SK-45	SI-1	SI-4	SF-13	SF-13	SF-13	SI-14				SI-116・SE-93・SD-113	
平安時代	9世紀前期	13段階											SI-36・SI-57	
平安時代	9世紀中葉	14段階							SI-1・SI-7			SI-1		
平安時代	9世紀後葉	15段階	SI-30											



第476図 西刑部西原遺跡 遺構変遷図(1)



第477図 西刑部西原遺跡 遺構変遷図(2)



第478図 西刑部西原遺跡 遺構変遷図(3)

第2節 出土遺物について

(1) 土器 古墳時代 土師器：供養具は坏・高坏・椀・鉢・鉢、煮炊具は甕・甕、貯蔵用大型甕などがある。後期前葉の13区SI-96は内外面を磨く橙色の坏類が出土する一方、薄手で口縁が外反する土器（北武蔵系：401図5・6）が見られる。6段階の3区SI-74から放射状ミガキの坏が多く見られる。北武蔵系と考えられる坏類は3区SI-11-7（薄手の坏）とSI-367・8（有段口縁の坏）でみられる。その他、底部外面に静止系切り跡を残す土器が13区SI-38・SX-98から出土する。これらは体部外面をナデ成形する特徴があり、磯岡遺跡SI-4（6世紀後葉）に類例が認められる。高坏は少なく、13区SI-2・27、3区SI-53などで散見される程度である。甕は在地系の長胴甕を主体とし、少量のハケ調整甕が3区SI-11・34、9区SI-15、13区SI-26・39・40等から出土する。3区SI-7-10は常総型甕。東谷遺跡群に於いては9-10段階以降一般化するもので早い段階（8段階）に取り入れた例と言える。3区SI-50-4は薄手の鉢で、極めて強く被熱する。器厚は薄く非在地系の土器と考えられる。小型甕は9区SI-12・同SI-13等にあり、本遺跡では5・6段階から見られる。大型甕は6・7段階では内面に人念なミガキを施す3区SI-87・同SI-36が残るが後に簡略化していく。その他、3区SI-13-10及びSI-58-15・16はハケ調整大型甕。最大径は40-50cmの大型品である。非在地系の土器の可能性もある。須恵器：器種は供養具に坏・高坏・蓋が、貯蔵具に甕・甕がみられる。甕は3区SI-87をはじめ比較的多いが、その他の器種は非常に少ない。坏は3区SI-18・同SI-53、13区SI-101、試掘トレンチから計4点出土するのみである。3区SI-39（89図1）の高坏は東海産か。13区SI-27-1は高坏の蓋。蓋は3区SI-33、13区SI-102より出土する。3区SI-53（113図2）の甕類は東海産と思われる。3区SI-53（113図3）のフラスコ甕は湖西産か。13区SI-26からは横甕と平底短頸甕が出土。

奈良時代 土師器：供養具の器種は坏・蓋・椀・鉢・鉢、煮炊具は甕・台付甕、そのほか貯蔵用の甕がある。奈良時代にはいと赤色の盤状坏（3区SI-5・6・31等）が増える。また12段階になるとロクロ土師器坏（3区SI-2・25・26等）が出現する。底部に静止系切りを持つ土師器坏が3区SI-14にある。古墳時代のものと若干異なり、体部外面をヘラケズリする。3区SI-92-5も静止系切りの坏だが、こちらは体部がナデ及び指頭押圧調整で、混入品かもしれない。3区SI-2-27は北武蔵系の坏か。こちらも混入品の可能性がある。胎土中に白色針状物を含む製塩土器は、3区SI-3・42から計3点確認され、いずれも12段階にあたる。製塩土器は砂田遺跡17区SI-150（奈良時代）、及び西刑部西原遺跡県土整備部調査第三区で器形復元可能な個体が出土している。鉢類は少ないが、3区SI-61-10や、ロクロ成形の大型鉢（3区SI-2-23）はいずれも被熱しており、煮炊具と思われる。ロクロ成形の大型鉢は八幡桶東遺跡に類例がある。甕類は在地産の長胴甕が引き続き使用され、5区SI-14から多く出土する。常総型甕は10段階から急激に増え、武蔵型甕は11段階以降に一般化する。ハケ調整甕は少なくなるが、4区SI-3（長胴甕）、3区SI-88（胴張形）、同SI-61（小型甕）など若干残る。3区SI-1・SI-2・SI-3からは白色針状物の混入する土師器小破片。胎土は砂粒を多く含むため、甕と考えられる。南比企産であろうか。大型のハケ調整甕は3区SI-14、13区SI-97等から出土する。前者は最大径40cmあり、貯蔵用と考えられる。須恵器：坏・高台付坏・椀・鉢・蓋・高坏・甕・捏ね鉢と器種も豊富になる。煮炊具は甕、貯蔵具は甕・甕などがある。須恵器の産地は益子産を主体とし、三倉窯産や新治窯産が少量確認されている。坏類は奈良時代後半になると須恵器が主体となり、高台付坏が新たに器種に加わる。SE-95-1の高台付坏は湖西産と考えられる。高坏は四方の透かしをもつ大型品（9区SI-14）がある。甕は3区SI-91から出土する。湖西産の甕と法量が極めて類似するが、こちらは無文で、高台を持つのに対し、本

例は体部に波状文を持ち、高台を持たない。年代は8世紀前葉（後藤 1989）とされており、建物跡の年代とほぼ一致する。金属製品模倣の土器は3区 SI-85 から鉄鉢型土器が1点、9区 SI-21 からは銅剣模倣の鉢が1点出土する。3区 SI-91-16 の大型鉢は口径約 33 cm ある。瓶類は比較的多く、長頸瓶（3区 SI-1・SI-2・SI-5 等）、短頸壺（3区 SI-2・6・85 等）短頸壺蓋（3区 SI-3・SK-45）小型短頸壺（3区 SI-2・85）横瓶（3区 SI-91）、平瓶（3区 SI-1）等がある。このうち3区 SI-1-9（長頸瓶）は東海産と考えられる。小型の甕は3区 SI-2・SI-8・SI-5、5区 SI-4 などがある。このうち3区 SI-5（31 図 18）は口縁部に凸帯を持つ特徴的な形態を持つ湖西産の甕と考えられる。年代は8世紀前半に位置付けられており（後藤 1989）本遺構の年代観と合致する。3区 SI-1 の大型甕は頸部文様が粗大な一本描きの波状文となる。新羅土器境と思われる土器が4区 SI-1（208 図 3）から出土する。新羅土器は栃木県内では7遺跡から計 16 点が確認されている。このうち8点が出土する西下谷田遺跡の資料は7世紀後葉から8世紀前葉とやや古い。本遺跡例は体部が丸みを帯びる点、刺突列を持たない点など、周辺の前田遺跡（SI-097: 8世紀中葉）や免の内台遺跡（SI-306: 8世紀初頭）出土遺物に類似する。陶磁は脚部小破片が3区 SX-21 及び遺構外から計 2 点出土。奈良時代以降の遺物と考えられる。

平安時代 土師器：供膳具は坏、炊煮具は甕・台付甕が確認される。坏は殆どがロクロ成形で、3区 SI-8・SE-23、9区 SI-1 等から出土する。甕は常総型及び武蔵型が主体で、常総型甕は3区 SI-8 や9区 SI-1、武蔵型甕は12区 SI-1、13区 SI-36・57 等がある。また小破片であるが、製塩土器が12区 SI-1 から4点出土する。前述した泉上整備部調査Ⅲ区の SI-57（9世紀中葉）と時期的に近い資料である。須恵器：供膳具は坏・壺・高台付坏・蓋・瓶類など、炊煮具は甕・甗、貯蔵具は大型甕がみられる。産地は奈良時代同様、益子・新治・三義が主体を成す。供膳具の主体を成す須恵器坏を見ると、9世紀中葉の3区 SI-54-1 は益子の滝ノ入・倉見沢窯、最も新しい9世紀後葉の3区 SI-30-2 は三義の大芝原 B 窯式段階と考えられる。このうち SI-57-1 は胎土中に多量の白色針状物を含む須恵器坏で、本遺跡中僅かこの1点が確認されたのみである。遺物の残存が少なく歪みもあるため不明瞭だが、埼玉県鳩山窯跡群の出土例と比較するとⅧ期（9世紀中葉）の土器に類似するようである（渡辺 1990）。また時期は若干遅れるが、琴平塚 5号墳前方部北東側にも白色針状物を含む蓋があり、時期は奈良時代で南比企産とされている。12区 SI-1-10 は口縁部直下に沈線が見られる。新羅土器境か。甕は3区 SI-54 から複数確認された。117 図 5 は4孔の甗、117 図 6 は脚部復元最大径が 39 cm 程の大型品である。小型の甕は3区 SI-8・54 から出土し、大型の甕はほとんど見られなくなる。灰陶陶器は9区 SI-27（原始灰陶か）、3区 SK-72、3区遺構外から計 3 点が出土する。産地はいずれも湖西産か。（2）

墨書・線刻 墨書土器：計 15 点出土。3区 SE-23 からは底部及び体部に「来」の墨書をもつ坏（土師器 2、須恵器 4）が6点。「生氏□」（土師器坏）が1点の計 7 点出土。その他「財」「大」「千」「古」「長□」等の墨書があり、いずれも平安時代の坏に記される。刻書：判読可能な文字が2点ある。3区 SI-3 の須恵器甕は「厨」と読めるか。3区 SI-5-7 の須恵器蓋の刻書は「里」か。3区 SI-58-2 の捏ね鉢は鳥の脚を彷彿とさせる。

(3) 石製模造品 5段階の9区 SI-8 から器種不明の穿孔刺片が1点、7段階の13区 SD-111 から鏡型が1点出土する。白玉は3区 SI-11 から4点、同区 SI-74 から2点、同区 SI-87 から4点、3区 SI-4 の1点は混入品と考えられ、グリッド出土の1点も含め殆どが古墳時代後期の6～7段階に限定される。(4) 石製紡錘車 石製紡錘車は計 9 点出土。いずれも奈良時代以降のものである。9区 SI-17 は滑石片岩製で粗雑な鋸歯文が残る。3区 SI-2・SI-3・SI-6・SI-85・SI-88 からは奈良時代中～後葉の紡錘車が出土した。石材は滑石片岩及び結晶片岩が主体となるが、SI-2-36 は粘板岩製、13区 SI-36 は凝灰岩製である。(5) 金属製品 釧付足金物は古墳時代終末期の3区 SI-22 覆土中から出土した。本来大刀の鞘尻に付する佩用金具で、全

国で119例が確認されている(田村2010)。本例は斜地銀装であることから、銀装の主頭(または方頭)大刀に付されていた可能性が高い。栃木県内では足利市立岩1号墳から銅製の鍔付足金物1点が出土している。鉄製品は計115点出土し、近現代の遺物を除き可能な限り図化した。器種は刀子・鎌・手鎌・鋤先・鋤・釘・錐・楔・鋳物等がある。このほか轡の引手、籬子状鉄製品、弓筈型鉄製品、また刺突具状の用途不明鉄製品(3区SI-88)などがある。点数は鉄鎌・刀子・鎌・手鎌の順で多い。鉄鎌:殆どが長頭鎌で、少量の短頭鎌、無茎鎌がある。古墳終末期で鎌身の形態が判別できるもの7本のうち5本が鑿箭式で、残り2本が片刃箭式である。奈良時代以降の長頭鎌は鑿箭式他、方頭斧箭式(3区SI-6)や片刃箭式などがある。このほかやや大型の短頭鎌(3区SI-38、12区SI-1)もある。鎌は奈良時代に多く、背は直線のもの、先端部が丸みを持つもの、全体的に弧状を呈する物などがある。鉄製紡錘車は軸・紡錘車共に鉄製のものが5個体、軸が鉄製で紡錘車が石製のものが1点(3区SI-5)ある。このうち平安時代の9区SI-1-14は完形品で、上端部を螺旋状に加工している。籬子状鉄製品(3区SI-53)は峰高前遺跡に類似がある。(6)木製品 3区SE-23-13の居木は漆塗りである点、正倉院宝物の素地無垢木靴(第8号靴)に類似する。第8号靴は居木に赤漆、居木先に黒漆を塗り分けているが、本例は全面に黒漆が塗布されていた可能性が高い。居木の素材は10ある靴の内8つの靴に櫻の木が使用されている。15の横櫛は平城宮出土の類例(9世紀前葉)を見ると、幅は11-12cm、高さ4cm前後のものが多く素材は殆どがイスノキ製である。平城宮6ABO区出土櫛(24点)は、3cmあたりの平均歯数32枚とされているが、本例もほぼ同一で、極めて共通点が多い。(7)和鏡 4区出土の和鏡「群蝶双雀鏡」の類例は栃木県日光市二荒山神社所蔵品及び鹿児島県指宿市指宿神社所蔵品がある。2羽の雀と蝶のモチーフは共通するが、二荒山神社鏡は径20.15cm、指宿神社鏡は径19.83cm、と本遺跡例と較べ極めて大きい。年代は二荒山神社鏡の嘉永元年(1387)の銘文がある。指宿神社鏡も南北朝時代(1336-1392)の年代観が与えられている(内川1999)。なお本遺跡の鏡は13世紀前半から中葉の鎌倉時代の所産とされている(國學院大學 内川隆志氏のご教示による)。

参考・引用文献

- 足利市1979『近代足利市史』第3巻 資料編 原始・古代中世 近世 足利市史編さん委員会
- 大隅市良2008『岡崎古墳群の研究』鹿児島大学総合研究博物館研究報告№3 鹿児島大学総合研究博物館
- 亀田幸久1996『八幡根東遺跡』栃木県教育委員会(財)栃木県文化振興事業団
- 合田恵美子2007『峰高前遺跡』栃木県教育委員会(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 今平利幸1991『前田遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第29集 宇都宮市教委委員会
- 山武考古学研究所1992『免の内台遺跡』栃木県芳賀町文化財報告 第15集 栃木県芳賀町教育委員会
- 後藤健一1989 第5章付載1「關西空跡群の須臾器と構造」『静岡県史』静岡県史資料調査報告書第42集 静岡県教育委員会
- 田村隆太郎2010『合代島丘陵古墳群』第2東名№124・125地点 静岡県埋蔵文化財調査研究所報告第218集 静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 福山林羅・原田一敏・青木豊・内川隆志・金城南海子1999『岡原の神社奉納鏡』-大型和鏡を中心として-『國學院大學考古学資料館紀要』第15輯 國學院大學考古学資料館
- 福山林羅・青木豊・内川隆志2000『関東・東北地方の神社奉納鏡』-大型和鏡を中心として-『國學院大學考古学資料館紀要』第16輯 國學院大學考古学資料館奈良国立文化財研究所1993 木器集成図録 近畿原始編(解説) 奈良国立文化財研究所資料 第36冊
- 鈴木友也1990『日本馬具大鑑』第一巻 古代上 日本中央競馬会 吉川弘文館
- 津野 仁2005『東谷・中島地区遺跡群6 磯岡遺跡(2~7区)』栃木県教育委員会(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 渡辺 一1990『鳩山空跡群』II 空跡編 鳩山空跡群遺跡調査会 鳩山町教育委員会

第5章 西刑部西原遺跡の自然化学分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

第1節 西刑部西原遺跡3区の自然科学分析(1)

はじめに

西刑部西原遺跡3区では、古代の井戸跡等が検出されている。このうち、SE-23 からは、曲物や櫛等の木製品、SE-75 からは昆虫遺体や種実遺体がそれぞれ出土している。

今回の分析調査では、井戸跡から出土した木製品、種実遺体、昆虫遺体の種類同定を行い、木材利用、植物利用、古植生等に関する資料を得る。

1. 木製品の樹種 (第230表、第479図)

(1) 試料

試料は、古代(9世紀中葉)の井戸跡(SE-23)から出土した木製品4点(試料番号1~4)である。このうち、試料番号1の曲物は、側板(a)と底板(b)の2点の部材について同定を行う。したがって、合計点数は5点である。

(2) 方法

剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柁目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製し、ゴム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

(3) 結果

樹種同定結果を第230表に示す。木製品は、針葉樹1種類(ヒノキ)と広葉樹2種類(コナラ属アカガシ亜属・イスノキ)に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

第230表 西刑部西原遺跡3区の樹種同定結果

番号	遺種	図版番号	時期	種類	樹種
1a	SE-23(井戸跡)第188区	188	図	古代 曲物(側板)	ヒノキ
1b	SE-23(井戸跡)第188区	188	図	古代 曲物(底板)	ヒノキ
2	SE-23(井戸跡)第189区	189	図	古代 櫛	イスノキ
3	SE-23(井戸跡)第189区	189	図	古代 器木	コナラ属アカガシ亜属
4	SE-23(井戸跡)第188区	188	図	古代 不明木製品	ヒノキ

・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか〜やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はヒノキ型〜トウヒ型で、1分野に1~3個。放射組織は単列、1~15細胞高。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸〜厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高のものや複合放射組織とがある。

・イスノキ (*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.) マンサク科イスノキ属

散孔材で、道管は横断面で多角形、ほとんど単独で散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は階段穿孔を有するが、段数は5前後で少ない。放射組織は異性II型、1~3細胞幅、1~20細胞高。柔組織は、独立帯状または短接線状で、放射方向にほぼ等間隔に配列する。

(4) 考察

木製品は、曲物、櫛、居木、不明木製品に分けられる。曲物は、側板と底板があるが、いずれも針葉樹のヒノキであった。ヒノキは、木理が直道で割裂性が高く、楔の使用で薄い板の作成が可能である。また、精油成分により、耐水性や殺菌性に優れた材質を有するので、このような材質が木材利用の背景に考えられる。ところで、近世・近代の民俗事例（農商務省山林局，1912）では、曲物に使用する木材としてヒノキを第一とし、他にスギやモミ属を挙げている。今回の結果は、近世・近代の民俗事例とも一致しており、同様の木材利用が古代まで遡ることが推定される。

櫛は、常緑広葉樹のイスノキであった。イスノキは重硬で加工はやや困難であるが、硬い方が櫛の歯等の細かい加工には適している。このような材質を考慮したことが推定される。古代におけるイスノキの櫛は、西日本を中心に報告例があり、東日本でも新潟県曾根遺跡や長野県屋代遺跡群等で報告されている（川村，1983；島地・伊東，1988；高橋・辻本，1999）。イスノキの櫛は、民俗事例でもツゲに次ぐ良材とされており（農商務省山林局，1912）、これらの出土例は民俗事例とも一致する。

イスノキは、暖温帯常緑広葉樹林に生育する常緑広葉樹で、現在の栃木県には生育していない。このことから、本遺跡の櫛については、イスノキが生育している地域（静岡以西）で製作された櫛が持ち込まれた可能性がある。

不明木製品はヒノキ。居木はアカガシ亜属であった。不明木製品については、曲物と同じくヒノキ材の加工性や耐水性等を考慮した用材の可能性がある。アカガシ亜属の居木は、一木で中央部が薄く削られた長方形の板状に柄が削り出されており、柄の付け根付近には穿孔が認められる。板状の部分が柁目板となる木取りである。アカガシ亜属は、重硬で強度の高い材質を有することから、強度等が考慮された可能性が高いが、現時点では詳細は不明である。

2. 種実遺体の同定（第231表、第482図）

(1) 試料

試料は、古代の井戸跡(SE-75)の底面付近の土壌を水洗選別して得られた種実遺体1点(試料番号6)である。

(2) 方法

種実遺体は、1試料中に複数の種類が混在していた。そこで、双眼実体顕微鏡下でこれらを観察・分類し、その形態的特徴および当社所有の現生標本との比較から種類を同定した。同定後の種実遺体等は、種類毎にビンに入れ、ホウ酸・ホウ砂水溶液による液浸保存をおこなう。

(3) 結果

結果を第231表に示す。木本2種類、草本7種類の種実の他に、炭化材、不明植物遺体、動物遺骸等が検出された。検出された種実の種類は、木本は、落葉低木のサンショウ、落葉藤本のブドウ科で、針葉樹・常緑樹や高木を含まない。草本は、単子葉植物1種類（イネ）、双子葉植物6種類（カナムグラ、アサ、タデ属、アカザ科—ヒユ科、イヌコウジュ属、ナス科）である。以下に、同定された種実の形態的特徴などを記す。

第231表 西刑部西原遺跡3区の種実遺体同定結果

番号	遺構	位置	時期	種類名	部位	点数
6	SE-75 (井戸跡)	底面付近	古代	サンショウ	核	1
				イネ	胚乳	1
				カナムグラ	種子	4
				アサ	種子	4
				タデ属	果実	1
				アカザ科—ヒユ科	種子	1
				ブドウ科	種子	1
				イヌコウジュ属	果実	1
				ナス科	種子	1
				炭化材	破	1
				不明植物遺体		1
動物遺骸		1				

・サンショウ (*Zanthoxylum piperitum* DC.) ミカン科サンショウ属

縦半分に割れた核の破片が検出された。黒色、倒卵形体で、長さ3.7mm、幅2.5mm程度。片方に臍がみられる。表面は浅く細かな網目模様が見られる。核皮は硬く黒いため、炭化の有無の識別は困難である。

・イネ (*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

炭化した胚乳が検出された。黒色。長楕円形でやや扁平。長さ5mm、幅2.5mm、厚さ1.5mm程度。一端に胚が脱落した凹部があり、両面には2~3本の縦溝がある。表面はやや平滑。脱穀した米を蒸したり炊いたりし過ぎて「おこげ」となった場合には、このように明瞭に胚乳の形をとどめることはないと考えられる。おそらく脱穀前の穎に入った生米の状態では火を受け、炭化した穎は脆く壊れやすいので脱落し胚乳のみが残ったものと思われる。

・カナムグラ (*Humulus japonicus* Sieb. et Zucc.) クワ科カラハナソウ属

種子が検出された。灰褐色で側面観は円形、上面観は両凸レンズ形。径3.5mm程度。全個体が縦方向に一周する稜に沿って、半分に割れている。基部には淡黄褐色でハート形の臍点をもつ。種皮は薄く、表面はざらつく。

・アサ (*Cannabis sativa* L.) クワ科アサ属

種子が検出された。灰褐色、広倒卵状楕円形。長さ3.5mm、幅3mm、厚さ2.5mm程度。基部には大きな楕円形の臍点がある。全個体が縦方向に一周する稜に沿って、半分に割れている。種皮には、うっすらと葉脈状網目模様がある。

・タデ属 (*Polygonum*) タデ科

果実が検出された。黒褐色、片凸レンズ状卵円形。長さ2.5mm、幅1.5mm程度。先端は尖り、2花柱が残存する。表面には網目模様があり、ざらつく。

・アカザ科-ヒユ科 (Chenopodiaceae - Amaranaceae)

種子が検出された。黒色、円盤状でやや扁平。径1mm程度。一端が凹み、臍がある。種皮表面は光沢が強く、微細な網目模様が見られる。

・ブドウ科 (Vitaceae)

種子破片が検出された。灰褐色。完形ならば広倒卵形、側面観は半広倒卵形で丸みがあり、基部はやや尖る。径3.5mm程度。属以下の同定の根拠となる背面部分が欠損しているため、ブドウ科と同定するにとどめた。

・イヌコウジュ属 (*Mosla*) シソ科

果実が検出された。茶褐色、卵円形。径1.3mm程度。下端は舌状にわずかに突出する。果皮はやや厚く硬く、表面には大きく不規則な網目模様がある。

・ナス科 (Solanaceae)

種子が検出された。淡褐色、歪な腎臓形で扁平。径3.5mm程度。種皮は薄く柔らかい。側面のくびれた部分に臍があり、表面は臍を中心として同心円状に星型網目模様が発達する。網目模様は比較的大きく、網目を構成する壁の幅は太くしっかりしている。

(4) 考察

同定された種実遺体の種類のうち、イネ、アサは、大陸から渡来した栽培種とされている。穀類のイネは完全に炭化した状態で検出された。アサは、果実が食用に、繊維が衣料や縄用に利用可能である。また、自生する有用植物では、サンショウは、香辛料・薬用として利用される。ブドウ科は、果実が多汁で生食可能な種を含む。ナス科やアカザ科には、山菜として食用可能な種類や渡来した栽培種が含まれる。これらの有

用植物が遺構から検出された状態（破片や何らかの理由により火熱を受け炭化した等）を考慮すると、生活残渣が破棄されたこと等が考えられる。

遺跡周辺における自然環境を推定するため、自生する植物に着目すると、カナムグラ、タデ属、アカザ科ーヒユ科、イヌコウジュ属などは、開けた草地に生育する、いわゆる「人里植物」であることから、林縁部や集落周辺の明るく開けた場所に生育していた可能性がある。サンショウやブドウ科も、これらの人里植物とともに林縁部や集落周辺の明るく開けた場所に生育していた可能性がある。

3. 昆虫遺体の種類

(1) 試料

試料は、古代の井戸跡（3区SE-75）から出土した昆虫遺体1点（試料番号5）である。

(2) 方法

ルーペを用いて各部位の形態的特徴を観察し、現生標本と比較しながら種類を同定する。なお、同定は、藤山家徳先生にお願いした。

(3) 結果

・ヒラタゴミムシの一種

頭部、前胸腹板？、中胸腹板、左右上翅、以上同一個体のもと思われる。

ヒラタゴミムシには近縁種が多く、断片的な資料では種までの同定は難しい。

・マイマイカブリ (*Damaster blaptoides* Kollar)

前胸背板、前胸腹板。

マイマイカブリは北海道から九州まで分布する我が国の代表的な大型甲虫で、形態的特徴などから5～6亜種に分けられている。しかし、今回の資料は部分的でこの遺骸から亜種の決定は出来ない。ただし、生息域が関東地方で、時代もさほど古くないので、亜種ヒメマイマイカブリとして問題ないであろう。

・マグソコガネ？の一種

小型のマグソコガネではないかと思うが、種までは決められない。

・不明甲虫

前胸背板、後胸腹板ほか。

両側が薄色に録取られた扁平な前胸背板は特徴的であるが、その所属を決定できなかった。

・アオオサムシ (*Carabus insulicola* Chaudoir)

左上翅先端部、2片。

アオオサムシは、本州北端部から近畿地方北部まで生息する代表的なオサムシで、関東地方ではよく地表を歩いているのに出くわすことがある。

(4) 考察

アオオサムシ、マイマイカブリは、共に食餌（マイマイカブリの餌はカタツムリ）を求めて地表を歩き回る。ヒラタゴミムシも地上性。井戸幹が低かったなら、これらの甲虫が井戸に落ちることは不思議ではない。ジョウカイ類は、ホタル類に近縁の体の柔らかい甲虫で、野山の樹上などにめづらしくない。マグソコガネ類もよく飛翔する。遺跡からよく出土するものに、飛翔力の強いコガネムシ類があるが、ここの昆虫群の中には含まれていなかった。

4. 引用文献

- 川村忠洋(1983) 曾根遺跡出土木材の識別, 新潟大学農学部演習林報告, 16, p.75-82.
- 農商務省山林局編(1912) 木材ノ工藝的利用, 1308p., 大日本山林會.
- 島地 謙・伊東隆夫編(1988) 日本の遺跡出土木製品総覧, 296p., 雄山閣.
- 高橋 敦・辻本崇夫(1999) 木製品・自然木, 炭化材の樹種, 『長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 42 上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 26 -更埴市内その5- 更埴条里遺跡・屋代遺跡群(含む大境遺跡・窪河原遺跡) -古代1編- 本文』, p.333-337, 日本道路公団・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター.

まとめ

東谷・中島地区遺跡群の西刑部西原遺跡3区、権現山遺跡SG 1区および10区から出土した木材は、曲物の部材が多く、他に櫛や用途不明の加工木、加工痕の認められない木材が各1～2点あった。曲物の部材についてみると、ヒノキの利用が多く見られる。この結果は、ヒノキの耐水性や殺菌性などの材質を考慮した木材利用と考えられ、古代・中世を通して同様の利用が行われたことが推定される。

ヒノキは、関東地方では、山地の尾根筋などに生育しており、平野部には生育していない。したがって、これらの曲物は、木材または曲物として持ち込まれた可能性がある。曲物については、これまで行われた樹種同定結果で、地域に関わらずヒノキが多い傾向が見られる。このことから、用途と用材が確立しており、周辺で木材を入手したのではなく、木材あるいは製品として地域間を移動していたことも想定される。

※(報告書編者註) 報告の原文は西刑部西原遺跡3区の井戸(SE-23・75)および権現山遺跡SG 1区の井戸(SE-169)出土遺物と一緒に報告になっているため、「まとめ」ではこれらの木材を含めた記述になっている。

第2節 西刑部西原遺跡3区の自然化学分析(2)

はじめに

本報告では、西刑部西原遺跡の発掘調査で出土した種実や昆虫、動物遺体の同定、さらに木製品の漆塗膜構造等の理化学的検討を目的として、自然科学分析調査を実施した。以下に分析結果を記す。

1. 漆塗膜薄片作製・観察(第481図)

(1) 試料

試料は、平安時代の井戸跡(3区SE-23)から出土した鞍の部品(居木:第188図)より採取された漆塗膜片1点(試料番号3)である。

(2) 分析方法

塗膜片を合成樹脂で包埋し、樹脂を固化させる。塗膜の断面が出るようにダイヤモンドカッターで切断し、切断面を研磨する。研磨面をスライドガラスに接着し、反対側も切断と研磨を行ってプレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡、落射蛍光顕微鏡、反射顕微鏡で塗膜構造や混和物について観察する。

(3) 結果

漆塗膜片(試料番号3:SE-23 出土居木)の薄片写真を第481図に示す。漆塗膜片は、木地が認められず、塗膜層が2層認められる。下部には透過光で赤褐色、落射蛍光で鈍い黄褐色の層が認められ厚さ約60 μm を測る。この層の最下部には黒色粒子が部分的に認められ、下地の一部に由来すると考えられる。その他には混和物は認められないことから、下地の上に透明漆が塗布されていると考えられる。透明漆の上には、透過光・落射蛍光共に黒色を呈する層が約30~40 μm の厚さで認められることから、黒色顔料を混和させた漆層と考えられる。黒色粒子は微細であり、油煙等の可能性があるが、詳細は不明である。

(4) 考察

井戸跡(SE-23)から出土した9世紀代の資料と考えられる鞍の部品(居木)の塗膜は、肉眼で黒色を呈する。塗膜片の薄片観察の結果、下地の上に透明漆と黒色粒子を混和した黒漆が塗布されており、この黒漆によって黒色を呈すると考えられる。

関東地方では、下田町遺跡(埼玉県熊谷市)の平安時代の井戸跡から出土した黒漆塗の鞍部品(前輪)の漆塗膜を対象とした調査事例があり、黒色物質を混和した下地層(40~100 μm)の上に透明漆(100~150 μm)が厚く塗られた資料であることが確認されている(ハリノ・サーヴェイ株式会社,2004)。今回の試料と比較すると、漆層が厚く、表面に黒漆が塗られない等の塗膜構造の違いが指摘される。

2. 種実同定・昆虫同定(第482図)

(1) 試料

試料は、平安時代の井戸跡(3区SE-23)下~最下層より出土した曲げ物内埋植物より採取された種実遺体(試料番号1)と昆虫遺体(試料番号2)である。種実および昆虫遺体は、いずれも抽出・選別された複数の試料がタッパー容器内に水漬けて保管された状態にある。

本分析では、種実遺体については全点を対象として、昆虫遺体は50点程度を目安として抽出し、同定を行った。

第232表 種実同定結果

分類群	部位	状態	試料番号	
			1	3区 SE-23
木本				
コナラ亜属	果実	破片	4	長さ 21.04+ mm, 幅 10.74+ mm
クワ属	核	完形	4	
サンショウ	種子	完形	1	
		破片	1	
草本				
イネ	穎	破片	1	長さ 4.08 mm, 幅 3.77 mm, 厚さ 3.17 mm 2種(表面稜目2個, 平滑1個)
カヤツリグサ科	果実	完形	1	
アサ	果実	完形	1	
イヌタデ近似種	果実	完形	3	
タデ属	果実	完形	3	
ナデシコ科	種子	完形	3	
アカザ科	種子	完形	1	
ヒユ科	種子	完形	1	
		破片	3	
カタバミ属	種子	完形	24	
		破片	2	
ヒメミカンソウ	種子	完形	1	長さ 2.70 mm, 幅 3.57 mm, 厚さ 1.37 mm 長さ 1.6-2.0 mm, 幅 2.0-2.3 mm, 厚さ 0.7 mm
スマレ属	種子	完形	4	
ナス近似種	種子	完形	1	
ナス科	種子	完形	26	
メナモミ属	果実	完形	1	
昆虫類			16	

(2) 分析方法

1) 種実同定

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて種実遺体を抽出する。種実遺体の同定は、現生標本と石川(1994)、中山ほか(2000)等との対照より実施し、個数を集計して一覧表で示す。分析後は、種実遺体と昆虫類を70%程度のエタノール溶液を入れた容器中で保存する。

2) 昆虫同定

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定が可能な昆虫遺体50片程度を抽出する。昆虫遺体の同定は、形態的特徴より実施し、結果を一覧表で示す。分析後は、乾燥を防ぐために昆虫遺体を入りの管瓶で保管する。なお、同定解析は、松本浩一氏(東京農業大学)の協力を得ている。

(3) 結果

1) 種実同定

結果を第232表に示す。井戸跡(3区SE-23)から出土した曲げ物内埋植物からは、被子植物17分類群(コナラ亜属、クワ属、サンショウ、イネ、イネ科、カヤツリグサ科、アサ、イヌタデ近似種、タデ属、ナデシコ科、アカザ科、ヒユ科、カタバミ属、ヒメミカンソウ、スマレ属、ナス近似種、ナス科、メナモミ属)86個の種実遺体が抽出同定されたほか、昆虫類が16個確認された。

栽培種は、イネの穎の破片、アサの果実、ナス近似種の種子が各1個確認された。一方、栽培種を除く分類群では、木本が森林の林縁部や二次林などの明るく開けた場所に生育する落葉広葉樹3分類群(高木のコナラ亜属、クワ属、低木のサンショウ)10個と、草本が明るく開けた場所に生育する、いわゆる人里植物に属する11分類群(カヤツリグサ科、イヌタデ近似種、タデ属、ナデシコ科、アカザ科、ヒユ科、カタバミ属、ヒメミカンソウ、スマレ属、ナス科、メナモミ属)73個が確認された。栽培種を除く分類群では、カタバミ属とナス科が各26個と多い。

以下に、栽培種や木本等の主な分類群の形態的特徴等を記す。

・コナラ亜属 (*Quercus* subgen. *Quercus*) ブナ科コナラ属

果実は灰褐色、破片の大きさは、最大で長さ 21.04 mm、幅 10.74 mm。基部の着点部分を欠損する。破片は丸みを帯びる。完形ならば球～長楕円体の可能性があるが、全形は不明。果皮表面は平滑で、ごく浅く微細な縦筋がある。本地域に分布するコナラ亜属は、クヌギ節クヌギ (*Q. acutissima* Carruthers) とコナラ節コナラ (*Q. serrata* Thunb. ex Murray)、ミズナラ (*Q. crispula* Blume) が普通にみられるほか、カシワ (*Q. dentata* Thunb. ex Murray)、ナラガシワ (*Q. aliena* Blume.)、コナラ節内の種間雑種が存在するとされる。

・クワ属 (*Morus*) クワ科

核は灰褐色、長さ 2.0 mm、幅 1.3 mm、厚さ 1 mm 程度の三角状広倒卵体。一側面は狭倒卵形で、他方は稜になりやや薄い。一辺が鋭利で、基部に爪状突起を持つ。表面には微細な網目模様がありざらつく。本地域に分布するクワ属は、ヤマガワ (*M. australis* Poir.) と栽培種のマゴ (*M. alba* L.) があるが、核の実体顕微鏡下観察による判別は困難である。

・サンショウ (*Zanthoxylum piperitum* (L.) DC.) ミカン科サンショウ属

種子は灰黒褐色、長さ 4.11 mm、幅 3.01 mm、約半分に分れた厚さ 1.55 mm 程度のやや扁平な倒卵体。腹面正中線上基部に斜切形の臍がある。種皮は厚く硬く、表面には浅く細かな網目模様がある。

・イネ (*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

穎は淡灰褐色。完形ならば長さ 6.0-7.5 mm、幅 3.0-4.0 mm、厚さ 2.0 mm 程度のやや扁平な長楕円体。破片の大きさは 1.9 mm 程度。基部に斜切円柱形の果実序柄と 1 対の護穎を有し、その上に外穎 (護穎と言う場合もある) と内穎がある。外穎は 5 脈、内穎は 3 脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや扁平な長楕円形の稲粒を構成する。穎は柔らかく、表面には顆粒状突起が縦列する。

第 233 表 検出分類群一覧

コウチュウ目 Coleoptera
オサムシ科 Carabidae
オサムシ属 Carabus
オナガゴビムシ <i>Preustichus fortis</i>
モリヒラタゴビムシ属 <i>Colpodetes</i>
セアカヒラタゴビムシ <i>Dolichus halensis</i>
ソウヤヒラタゴビムシ <i>Synuchus atricolor</i>
ヒラタゴビムシ属 <i>Synuchus</i>
クワヤヒラタゴビムシ属 <i>Synuchus</i>
ナガヒラタゴビムシ <i>Scatites terricola</i>
カワチマルカビゴビムシ <i>Nebria lewisii</i>
オオゴモクムシ <i>Harpalus capito</i>
ゴモクムシ属 <i>Harpalus</i>
キボシマゴモクムシ <i>Sternolophus smaragdulus</i>
ヒメゴモクムシ <i>Antinodactylus trispadatus</i>
ヒメゴモクムシ属 <i>Antinodactylus</i>
アトホシアオゴビムシ <i>Chlaenius raeveiger</i>
アオゴビムシ <i>Chlaenius pallipes</i>
ガムシ科 Hydrophilidae
キベリヒラタガムシ <i>Enochrus japonicus</i>
ヒラタガムシ属 <i>Enochrus</i>
ハネカクシ科 Staphylinidae
アリガタハネカクシ属 <i>Paederus</i>
ナガエハネカクシ属 <i>Ochtheptilum</i>
コガネムシ科 Scarabaeidae
オオマゴクコガネ <i>Aphodius quadratus</i>
ウスマゴクコガネ <i>Aphodius comatus</i>
マゴクコガネ属 <i>Aphodius</i>
コケシマゴクコガネ <i>Myrheosus samurai</i>
カナブン <i>Rhomborrhina japonica</i>
エンマコガネムシ属 <i>Oreophagus</i>
ゾウムシ科 Curculionidae
ハナゾウムシ亜科 Anthrenomus
ハエ目 Diptera
イヌバエ科 Muscidae
ハチ目 Hymenoptera
アリ科 Formicidae
クロオアリ <i>Camponotus japonicus</i>
ケアリ属 <i>Lasius</i>
アズマオオズアリ <i>Pheidole levivida</i>
カワゲラ目 Psephenoptera
カワゲラ科 Perlidae
カメムシ目 Hemiptera
サシガメ科 Reduviidae
クロサシガメ <i>Phytos cinctiventris</i>

・アサ (*Cannabis sativa* L.) クワ科アサ属

果実は灰褐色、長さ 4.08 mm、幅 3.77 mm、厚さ 3.17 mm の歪な広倒卵体。縦方向に一周する稜がある。両端は切形で、頂部に径 1 mm 程度の淡灰褐色、楕円形の突起がある。果皮表面には葉脈状網目模様があり、断面は櫛状。

・カタバミ属 (*Oxalis*) カタバミ科

種子は黒褐色、長さ 1.3-1.5 mm、幅 1.0 mm 程度の扁平な倒卵体。基部はやや尖る。種皮は薄く、表面には 4-7 列の横線条が配列する。

・ナス近似種 (*Solanum cf. melongena* L.) ナス科ナス属

種子は黄灰褐色、長さ 2.70 mm、幅 3.57 mm、厚さ 1.37 mm の扁平で歪な腎臓形。基部はやや肥厚し、くびれた部分に臍がある。種皮はやや厚く、表面には微細な星型状網目模様が臍から同心円状に発達する。なお、長さ 1.6-2.0 mm、幅 2.0-2.3 mm、厚さ 0.7 mm 程度の野生種と考えられる小型の種子をナス科 (*Solanaceae*) と区別している。

2) 昆虫同定

検出された昆虫遺体分類群一覧を第233表、同定結果を第234表に示す。井戸跡(3区SE-23)から出土した曲げ物埋積物における昆虫遺体群については、状態が良好で同定が比較的容易なものを中心としたことから、コウチュウ類の割合が高くなった。これらはいずれも、現在の北関東地域の平地に普通に生息する分類群である。

コウチュウ目は、オサムシ科が種数・個体数ともに圧倒的に多く、オオナガゴミムシ、セアカヒラタゴミムシ、ヒメゴミムシなど、平地の乾燥した草地・荒地に生息するものが多い。ただし、アオゴミムシとアトボシアオゴミムシのアオゴミムシ類の2種は比較的湿潤な環境を好む分類群である。さらに、これらゴミムシ類を捕食するクロサシガメおよびキク科のヨモギを摂食するハムシ科のヨモギハムシも確認された。

また、ナガヒョウタンゴミムシは比較的乾燥した河川敷のような環境に生息する種類であり、比較的川幅の広い河川環境が付近にあったことが推定される。これは、河川中流域に生息するカワゲラ目一種(種の確定は不能)の出現からも裏付けられる。水生昆虫では、ケバヒラタガムシやヒラタガムシ属の一種も見出され、いずれも止水域の落葉下や泥中に生息する種類である。

この他には、出土数は少ないながらクヌギやコナラの樹液に集合するコガネムシ科のカナブン、広葉樹の樹上に生息するオサムシ科のモリヒラタゴミムシ属の一種、広葉樹の朽木に営巣するアリ科のアズマオオズアリ・アリ科の一種(ハヤシケアリと思われる)などが確認された。さらに、人獣糞や腐植質を摂食するオオマゴソコガネ、ウスゴマゴソコガネ、コケシマゴソコガネなどが多くみられ、イエバエ科の一種およびハエのウジなどを捕食するアリガタハネカクシ属の一種も確認された。

(4) 考察

平安時代の井戸跡(3区SE-23)の下〜最下層より出土した曲げ物埋積物の種実遺体群には、栽培種のイネの籾、アサの果実、ナス近似種の種子が確認された。イネは胚乳が、アサおよびナス近似種は果実が食用として利用されるほか、アサは果実が油料や薬用に、茎が繊維等として利用される。これらの栽培種の種実の検出から、当時の植物質食料としての利用や植物利用が示唆される。本遺跡では、過去の分析調査において、古墳時代後期〜奈良・平安時代と推定されているE区(宇都宮市教委調査区)の竅穴住居跡のカマドや土坑、円形周溝状遺構から、炭化した栽培種のイネ、アワ(近似種)、キビ(近似種)、コムギ、ムギ類、マメ類等の種実が確認されている。

一方、栽培種を除いた種実遺体群は、木本では森林の林縁部や二次林などの明るく開けた場所に生育する落葉高木のコナラ亜属、クワ属、落葉低木のサンショウが確認された。これらの出土種実、本遺跡周辺域の森林の林縁部などに生育していたものに由来すると考えられる。草本では人里植物のカヤツリグサ科、イヌタデ近似種、タデ属、ナデシコ科、アカザ科、ヒユ科、カタバミ属、ヒメミカンソウ、スミレ属、ナス科、メナモミ属が確認された。これらは、調査区周辺域の明るく開けた草地環境に由来すると考えられる。

なお、上記した栽培種を除く種実遺体群や昆虫遺体群からみた遺跡周辺の環境は、カヤツリグサ科、イヌタデ近似種、タデ属、ナデシコ科、アカザ科、ヒユ科、カタバミ属、ヒメミカンソウ、スミレ属、ナス科、メナモミ属、ヨモギ等を含む比較的乾燥した草地環境が広がっており、クヌギ・コナラなどのコナラ亜属やクワ属、サンショウ等の落葉広葉樹からなる二次林的環境も存在していたと推定される。また、昆虫遺体群には水生昆虫も検出されたことから、付近には湿地環境を伴う泥質の止水域もしくは田圃と、乾燥した河川敷をもつ河川の存在が示唆される。さらに、人獣糞や腐植質を摂食する分類群の検出から、調査地点付近に人獣糞の集積地や生活残渣の廃棄場等の存在も窺える。

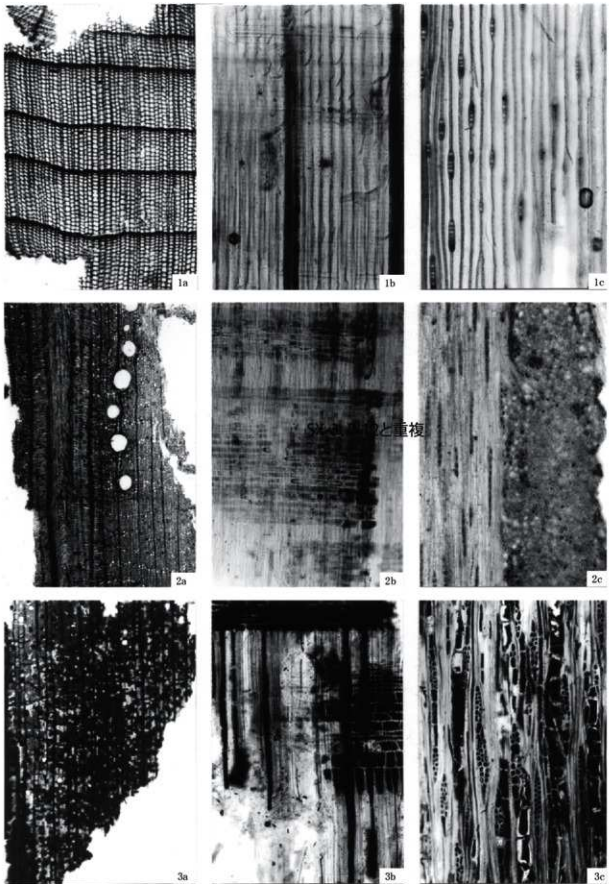
第234表 昆虫同定結果

目名	科名	分類群	部位	備考	生息環境
コウチュウ目	オサムシ科	オオナガゴミムシ	頭部	同一個体と思われる	平地の草地・荒れ地
コウチュウ目	オサムシ科	オオナガゴミムシ	前胸背板	同一個体と思われる	
コウチュウ目	オサムシ科	オオナガゴミムシ	右上翅	同一個体と思われる	
コウチュウ目	オサムシ科	オオナガゴミムシ	左上翅	同一個体と思われる	
コウチュウ目	オサムシ科	アトボシアオゴミムシ	右上翅	比較より確定	平地の草地・沼地
コウチュウ目	オサムシ科	セアガヒラタゴミムシ	右上翅	雄端部先端点孔の位置より確定	平地の草地・荒れ地
コウチュウ目	オサムシ科	セアガヒラタゴミムシ	左上翅先端部	他にも多数本種の破片あり	
コウチュウ目	オサムシ科	セアガヒラタゴミムシ	右上翅基部		
コウチュウ目	オサムシ科	セアガヒラタゴミムシ	右上翅基部		
コウチュウ目	オサムシ科	セアガヒラタゴミムシ	右上翅先端部		
コウチュウ目	コガネムシ科	カナブン	右後脚節		広葉樹林・二次林に多い
コウチュウ目	コガネムシ科	カナブン	後胸背板		
コウチュウ目	コガネムシ科	カナブン	胸端部		
コウチュウ目	オサムシ科	アサゴミムシ	左上翅基部		平地の沼地・草地
コウチュウ目	オサムシ科	ヒメゴミムシ	左上翅	上翅合弁部小糸に形状より確定	平地の荒れ地
コウチュウ目	オサムシ科	オオモリタムシ	左上翅基部	上翅端部毛点と大きさより確定	田畑・荒れ地・草地
コウチュウ目	オサムシ科	カワチマルクビゴミムシ	前胸背板		
コウチュウ目	オサムシ科	オオナガゴミムシ	前胸背板		
コウチュウ目	オサムシ科	オオナガゴミムシ	後胸背板		
カワゲラ目	カワゲラ科	カワゲラ科の一種	翅の一部		川筋の広い河川
コウチュウ目	オサムシ科	ツバヒラタゴミムシ属の一種	右上翅	他にも多数本種の破片あり	平地の沼地・草地
コウチュウ目	オサムシ科	ツバヒラタゴミムシ属の一種	左上翅		
コウチュウ目	オサムシ科	ゴモクムシ属の一種	右上翅		平地から低山の荒れ地
コウチュウ目	コガネムシ科	オオマガソコガネ	前胸背板		
コウチュウ目	オサムシ科	ナガヒラタゴミムシ	頭部・大脚		河川敷・乾燥した草地
コウチュウ目	コガネムシ科	ウスゴロマガソコガネ	左上翅		
コウチュウ目	オサムシ科	ツバヒラタゴミムシ属の一種	前胸背板		
コウチュウ目	コガネムシ科	マガソコガネムシ属の一種	前胸背板		
コウチュウ目	オサムシ科	キボシマゴモクムシ	雄脚端部と交尾器		平地の草地・荒れ地
ハエ目	イエハエ科	イエハエ科の一種	脚節		腐植質に集合
コウチュウ目	ハネカクシ科	アリガタハネカクシ属の一種	頭部		獣人糞のワジを採食
コウチュウ目	ハムシ科	カミナリハムシ属の一種	右前脚		
コウチュウ目	オサムシ科	モリヒラタゴミムシ属の一種	雄交尾器		広葉樹林の樹上
コウチュウ目	ガムシ科	ヒラタガムシ属の一種	右上翅		停水域
カメムシ目	サシガメ科	クロサシガメ	前胸		荒れ地の地表部でゴミムシなどを採食
コウチュウ目	コガネムシ科	コケシマガソコガネ	右前脚	前脚趾節と間室列状顆粒により確定	平地の湿な草地・芝地の散葉など
コウチュウ目	ガムシ科	キベリヒラタガムシ	前胸背板		止水域の湧水の散葉下
コウチュウ目	ハムシ科	ヨモギハムシ	前胸背板		草地のヨモギを採食
ハチ目	アリ科	アズマオオアリ	頭部		樹林内の右下・朽木に営巣
ハチ目	アリ科	ケアリ属の一種	頭部	ハギンケアリと混同されるが確定できず	樹林内の木の腐朽部に営巣
コウチュウ目	ゾウムシ科	ハダゾウムシ亜科の一種	左上翅		明るい林縁部などに生息
コウチュウ目	コガネムシ科	マガソコガネムシ属の一種	右上翅	他にも多数本種の破片あり	
ハチ目	アリ科	クロオオアリ	頭部の一部		開けた荒れ地・草地
コウチュウ目	コガネムシ科	コケシマガソコガネ	頭部・前胸	他にも多数本種の破片あり	
コウチュウ目	オサムシ科	クロツバヒラタゴミムシ属の一種	前胸背板		平地から低山の樹林内・林縁部
コウチュウ目	オサムシ科	ヒメゴモクムシ属の一種	前胸背板		平地の草地
コウチュウ目	ハネカクシ科	ナガヒハネカクシ属の一種	頭部		平地・低山の草地
コウチュウ目	コガネムシ科	エンマコガネムシ属の一種	左中脚		開けた荒れ地・草地の散葉など
コウチュウ目	オサムシ科	オサムシ属の一種	脚節	アオオサムシと思われるが確定できず	平地の林縁部
コウチュウ目	オサムシ科	ホツツヤヒラタゴミムシ	左上翅基部		樹林の樹上に生息

引用文献

石川茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑, 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.

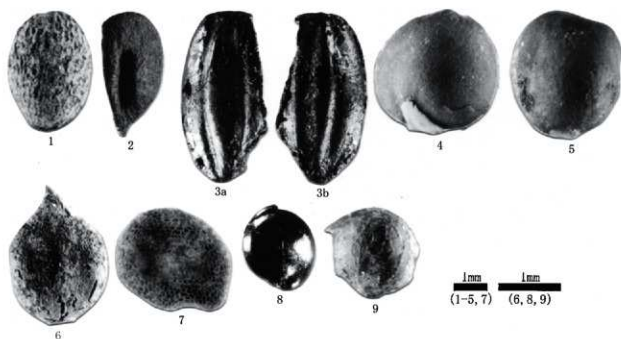
中山至大・井之口希秀・南谷忠志, 2000, 日本植物種子図鑑, 東北大学出版会, 642p.



1. ヒノキ (試料番号1)
 2. コナラ属アカガシ亜属 (試料番号3)
 3. イスノキ (試料番号2)
 a: 木口, b: 柾目, c: 板目

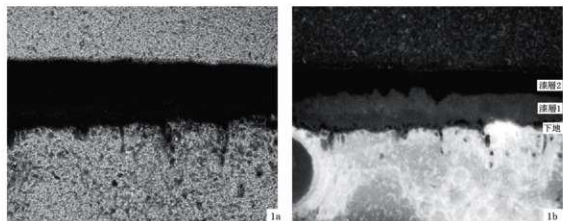
200 μ m: a
 200 μ m: b, c

第479図 西刑部西原遺跡3区SE-23出土の木材



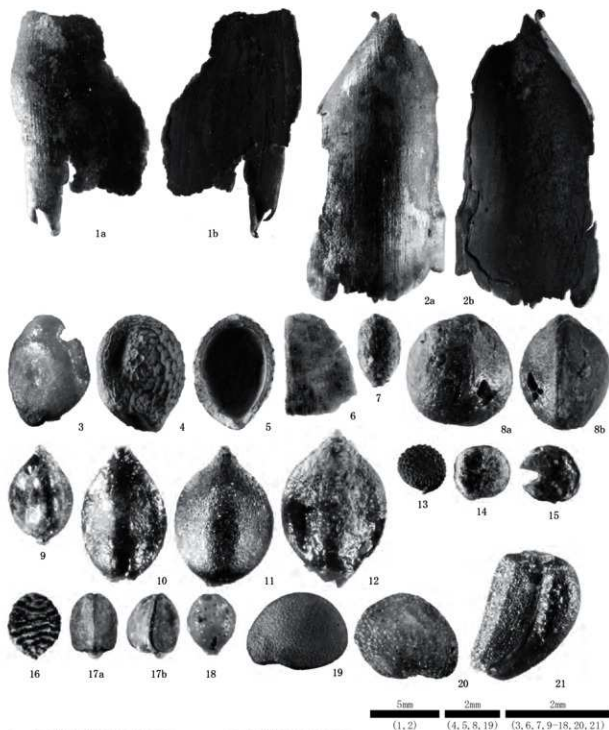
1. サンショウ 核(試料番号6) 2. ブドウ科 種子(試料番号6)
 3. イネ 胚乳(試料番号6) 4. カナムグラ 種子(試料番号6)
 5. アサ 種子(試料番号6) 6. タデ属 果実(試料番号6)
 7. ナス科 種子(試料番号6) 8. アカザ科-ヒユ科 種子(試料番号6)
 9. イヌコウジュ属 果実(試料番号6)

第 480 図 西刑部西原遺跡 3 区 SE-75 出土の種実遺体



1. 塗膜断面(SE-23出土居木;3)
 a:透過光,b:落射蛍光

第 481 図 西刑部西原遺跡出土居木の塗膜断面



- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1.コナラ亜属 果実(3区 SE23;1) | 2.クリ 果実(3区 SE23;1) |
| 3.クワ属 核(3区 SE23;1) | 4.サンショウ 種子(3区 SE23;1) |
| 5.サンショウ 種子(3区 SE23;1) | 6.イネ 穎(3区 SE23;1) |
| 7.カヤツリグサ科 果実(3区 SE23;1) | 8.アサ 果実(3区 SE23;1) |
| 9.イヌタデ近似種 果実(3区 SE23;1) | 10.タデ属 果実(3区 SE23;1) |
| 11.タデ属 果実(3区 SE23;1) | 12.タデ属 果実(3区 SE23;1) |
| 13.ナデシコ科 種子(3区 SE23;1) | 14.アカザ科 種子(3区 SE23;1) |
| 15.ヒユ科 種子(3区 SE23;1) | 16.カタバミ属 種子(3区 SE23;1) |
| 17.ヒメミカンソウ 種子(3区 SE23;1) | 18.スミレ属 種子(3区 SE23;1) |
| 19.ナス近似種 種子(3区 SE23;1) | 20.ナス科 種子(3区 SE23;1) |
| 21.メナモミ属 果実(3区 SE23;1) | |

第482図 西刑部西原遺跡 SE-23 出土の種実遺体

写真図版

図版一 西刑部西原遺跡全景・3区航空写真



西刑部西原遺跡 全景(北西上空から)



3区航空写真(南西上空から)

図版二
3区遺構



3区 SI-1 掘方(南から)



3区 SI-1 カマド遺物出土状況(南から)



3区 SI-2 遺物出土状況(東から)



3区 SI-2 炭化材出土状況(南から)



3区 SI-2 カマド掘方(南から)



3区 SI-2 紡錘車出土状況(東から)



3区 SI-2 環・紡錘車出土状況(南から)



3区 SI-2 鏝出土状況(北から)



3区 SI-3 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-3 完掘 (南から)



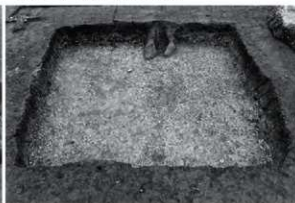
3区 SI-3 掘方 (南から)



3区 SI-3 カマド完掘 (南から)



3区 SI-4 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-4 完掘 (南から)



3区 SI-4 カマド完掘 (南から)



3区 SI-5 遺物出土状況 (南から)

図版四
3区遺構



3区 SI-5 完掘 (南から)



3区 SI-5 カマド完掘 (南から)



3区 SI-5 紡錘車出土状況 (東から)



3区 SI-6 遺物出土状況 (西から)



3区 SI-6 完掘 (南から)



3区 SI-7 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-7 完掘 (南から)



3区 SI-7 カマド完掘 (南から)



3区 SI-7 カマド構築材出土状況 (南から)



3区 SI-7 高環出土状況 (東から)



3区 SI-8 カマド完掘 (南から)



3区 SI-8 須恵器甕出土状況 (南から)



3区 SI-10 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-10 完掘 (南から)



3区 SI-10 カマド完掘 (南から)



3区 SI-11 遺物出土状況 (南から)

図版六
3区遺構



3区 SI-11 完掘 (南から)



3区 SI-11 カマド遺物出土状況 (南から)



3区 SI-11 鉄線出土状況 (南から)



3区 SI-12 完掘 (南から)



3区 SI-12 カマド袖断ち割り状況 (南から)



3区 SI-13 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-13 カマド遺物出土状況 (南から)



3区 SI-13 掘方 (南から)



3区 SI-14 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-14 完掘 (南から)



3区 SI-14 カマド遺物出土状況 (南から)



3区 SI-14 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-15 完掘 (西から)



3区 SI-15 カマド完掘 (西から)



3区 SI-15 掘方 (西から)



3区 SI-16 完掘 (南から)

図版八
3区遺構



3区 SI-16 カマド完掘 (南から)



3区 SI-18 遺物出土状況 (西から)



3区 SI-18・19 掘方 (南から)



3区 SI-18 カマド完掘 (西から)



3区 SI-18 P1 遺物出土状況 (西から)



3区 SI-18 完掘 (西から)



3区 SI-18 セクション (南から)



3区 SI-22 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-22 完掘 (南から)



3区 SI-22 カマド完掘 (南から)



3区 SI-22 掘方 (南から)



3区 SI-22 鉄製品出土状況 (東から)



3区 SI-22 刀装具 (足金物) 出土状況 (東から)



3区 SI-24 完掘 (南西から)



3区 SI-26 完掘 (南東から)



3区 SI-26 カマド完掘 (南から)

図版一〇
3区遺構



3区 SI-30 完掘 (南から)



3区 SI-30 カマド完掘 (南から)



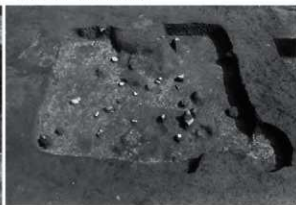
3区 SI-31 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-31 完掘 (南から)



3区 SI-31 カマド完掘 (南から)



3区 SI-32 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-32 完掘 (南から)



3区 SI-32 カマド完掘 (南から)



3区 SI-33 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-33 完掘 (南から)



3区 SI-34 完掘 (南から)



3区 SI-34 カマド完掘 (南から)



3区 SI-35 完掘 (南から)



3区 SI-36 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-36 完掘 (南から)



3区 SI-36 カマド完掘 (南から)



3区 SI-36 環出土状況（西から）



3区 SI-36 罎・甔出土状況（東から）



3区 SI-38 完掘（東から）



3区 SI-38 掘方（東から）



3区 SI-38 轡の引手出土状況（西から）



3区 SI-39 完掘（南から）



3区 SI-40 完掘（南から）



3区 SI-40 カマド完掘（南から）



3区 SI-40 掘方(南から)



3区 SI-41 カマド完掘(南から)



3区 SI-41 掘方(西から)



3区 SI-42 遺物出土状況(西から)



3区 SI-43 遺物出土状況(西から)



3区 SI-46 カマド完掘(南から)



3区 SI-46 カマドセクション(南から)



3区 SI-47 遺物出土状況(北西から)

図版一四
3区遺構



3区 SI-47 完掘 (南から)



3区 SI-47 カマド完掘 (西から)



3区 SI-50 遺物出土状況 (東から)



3区 SI-50 完掘 (南から)



3区 SI-50 カマド完掘 (南東から)



3区 SI-51 完掘 (西から)



3区 SI-52・58 完掘 (北から)



3区 SI-52 カマド完掘 (南から)



3区 SI-52 掘方(南から)



3区 SI-52 紡錘車出土状況(西から)



3区 SI-53 遺物出土状況(南から)



3区 SI-53 完掘(南から)



3区 SI-53 カマド完掘(南から)



3区 SI-53 掘方(南から)



3区 SI-53 間仕切溝セクション(西から)



3区 SI-53・54 遺物出土状況(南西から)

図版一六
3区遺構



3区 SI-54 完掘 (南西から)



3区 SI-54 カマド完掘 (南から)



3区 SI-54 カマド前面遺物出土状況 (南から)



3区 SI-54 掘方 (南から)



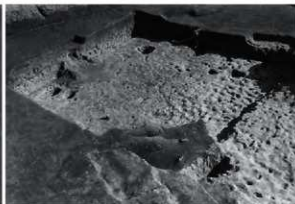
3区 SI-54 紡錘車出土状況 (北西から)



3区 SI-56 掘方 (南から)



3区 SI-58 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-58 完掘 (北西から)



3区 SI-58 耳環出土状況（南から）



3区 SI-59 カマド完掘（南から）



3区 SI-60 完掘（南東から）



3区 SI-60 遺物出土状況（東から）



3区 SI-61 北東部遺物出土状況（北から）



3区 SI-61 北東部完掘（北から）



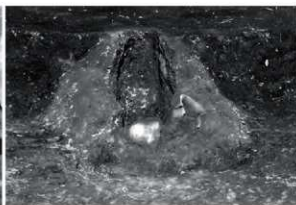
3区 SI-71 完掘（南から）



3区 SI-71 掘方（南から）



3区 SI-74 完掘 (南から)



3区 SI-74 カマド完掘 (南から)



3区 SI-74 掘方 (南から)



3区 SI-77 完掘 (南西から)



3区 SI-77 カマド完掘 (南西から)



3区 SI-77 掘方 (南から)



3区 SI-78 完掘 (南から)



3区 SI-78 カマド完掘 (西から)



3区 SI-81 完掘(南から)



3区 SI-81 カマド完掘(南から)



3区 SI-82 遺物出土状況(南から)



3区 SI-82 完掘(南から)



3区 SI-82 P3セクション(北から)



3区 SI-82 遺物出土状況(南から)



3区 SI-83 完掘(西から)



3区 SI-83 カマド完掘(西から)

図版二〇
3区遺構



3区 SI-83 掘方(西から)



3区 SI-84 遺物出土状況(北から)



3区 SI-84 完掘(南から)



3区 SI-84 掘方(南から)



3区 SI-85 遺物出土状況(南から)



3区 SI-85 カマド完掘(南から)



3区 SI-85 掘方(南から)



3区 SI-86・87・88 遺物出土状況(西から)



3区 SI-86・87・88 完掘（南から）



3区 SI-87 カマド完掘（南から）



3区 SI-87 貯蔵穴遺物出土状況（南から）



3区 SI-87 掘方（南から）



3区 SI-88 完掘（南から）



3区 SI-88 カマド完掘（南から）



3区 SI-88 入口ピット遺物出土状況（北西から）



3区 SI-89 完掘（南から）

図版三二
3区遺構



3区 SI-89 カマド遺物出土状況 (南から)



3区 SI-90 南西部遺物出土状況 (西から)



3区 SI-90 完掘 (南から)



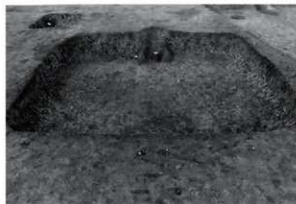
3区 SI-90 カマド完掘 (南から)



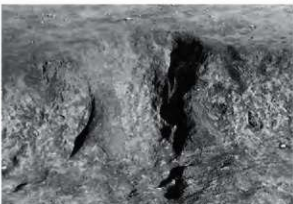
3区 SI-90 刀子出土状況 (南から)



3区 SI-91 遺物出土状況 (西から)



3区 SI-91 完掘 (南から)



3区 SI-91 カマド完掘 (南から)



3区 SI-92 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-92 完掘 (南から)



3区 SI-92 カマド完掘 (南から)



3区 SB-70 完掘 (南から)



3区 SB-70 P6セクション (東から)



3区 SB-73 完掘 (北から)



3区 SB-73 P2上面遺物出土状況 (南から)



3区 SB-100 完掘 (西から)



3区 SB-100 P11 セクション (南から)



3区 SB-101 完掘 (西から)



3区 SB-101 P8 セクション (南から)



3区 SB-101 P12 セクション (南から)



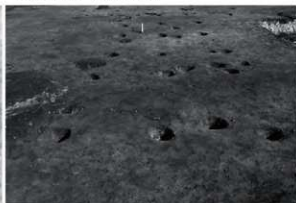
3区 SB-102 完掘 (東から)



3区 SB-103 完掘 (西から)



3区 SB-103 P2 セクション (南から)



3区 SB-114 完掘 (南から)



3区 SB-106 P7 セクション (西から)



3区 SX-17・SI-90 セクション (南から)



3区 SX-17 セクション (南から)



3区 SX-29 確認状況 (南から)



3区 SX-29 B-B' セクション (南東から)



3区 SX-28 セクション (南から)



3区 SX-21 セクション (北から)



3区 SX-21 遺物出土状況 (北西から)



3区 SE-23 上面セクション (南から)



3区 SE-23 底面遺物出土状況 (東から)



3区 SE-27 セクション (西から)



3区 SE-27 完掘 (西から)



3区 SE-27 底面アップ (西から)



3区 SE-37 上部セクション (南から)



3区 SE-37 底面セクション (南から)



3区 SE-37 完掘 (南東から)



3区 SE-75 中央部セクション (西から)



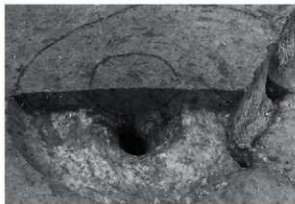
3区 SE-75 底面付近のセクション (西から)



3区 SE-75 遺物出土状況 (西から)



3区 SE-76 完掘 (南から)



3区 SE-95 上面セクション (南西から)



3区 SE-95 完掘 (南から)



3区 SE-107 セクション (南から)



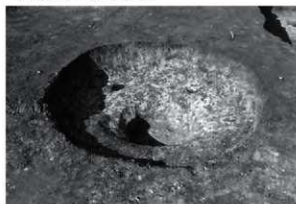
3区 SE-107 完掘 (南から)



3区 SD-57 完掘 (南から)



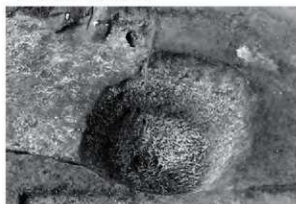
3区 SD-57 D-D' セクション (東から)



3区 SK-25 完掘 (南から)



3区 SK-45 遺物出土状況 (西から)



3区 SK-45 完掘 (南から)



3区 SK-62 遺物出土状況 (南から)



3区 SK-63 完掘 (南から)



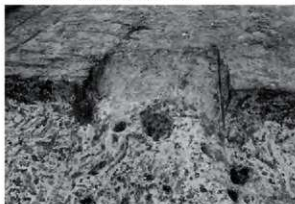
3区 SK-94 完掘 (南から)



4区 SI-1 遺物出土状況 (南から)



4区 SI-2 完掘 (南から)



4区 SI-2 カマド完掘 (南から)



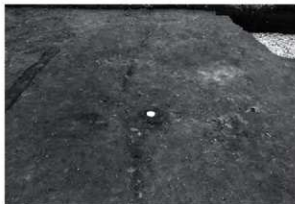
4区 SI-3 遺物出土状況 (東から)



4区 SI-3 完掘 (北東から)



4区 SD-7 完掘 (南東から)



4区遺構外 和鏡出土地点 (南から)



4区遺構外 和鏡出土状況 (南から)

図版三〇
5区・6区航空写真



5区航空写真(北東上空から)



6区航空写真(東上空から)



5区 SI-1 北西部遺物出土状況(北から)



5区 SI-1 完掘(南から)



5区 SI-1 カマド完掘(南から)



5区 SI-4 遺物出土状況(南から)



5区 SI-4 完掘(南から)



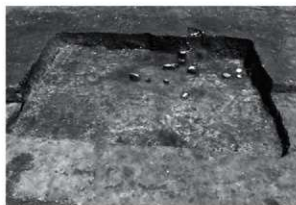
5区 SI-4 カマド遺物出土状況(南から)



5区 SI-4 須恵器出土状況(南東から)



5区 SI-5 甕方(南から)



5区 SI-5 遺物出土状況 (南から)



5区 SI-5 カマド遺物出土状況 (南から)



5区 SI-14 北部遺物出土状況 (西から)



5区 SI-14 完掘 (南から)



5区 SI-14 掘方 (南から)



5区 SI-14 カマド遺物出土状況 (南から)



5区 SB-19 完掘 (東から)



5区 SB-21 周辺 (西から)



5区 SB-22 完掘 (東から)



5区 SB-22 P7 セクション (南から)



5区 SB-22 P8 セクション (南から)



5区 SX-3 完掘 (南から)



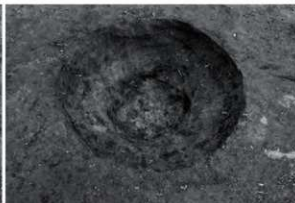
5区 SX-3 北西コーナー (北から)



5区 SX-3 周溝内西側遺物出土状況 (北東から)



5区 SK-16 完掘 (南から)



5区 SK-25 完掘 (南から)

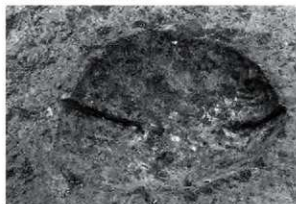
図版三四
6区遺構



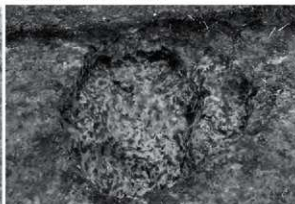
6区 SD-10 西側（東から）



6区 SD-11 全景（北西から）



6区 SK-2 完掘（南から）



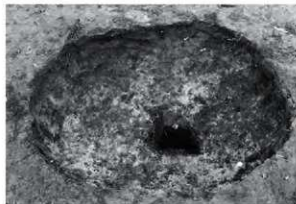
6区 SK-3 完掘（南から）



6区 SK-5 完掘（南から）



6区 SK-6 遺物出土状況（南から）



6区 SK-7 完掘（南から）



6区 SK-8 完掘（南から）



7区西部航空写真(南西上空)

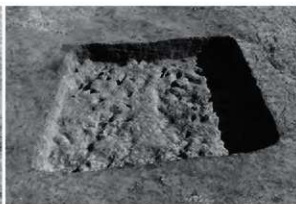


6区·7区东部航空写真(南西上空)

図版三六
7区遺構



7区 SI-3 完掘(南から)



7区 SI-3 掘方(西から)



7区 SI-4 遺物出土状況全景(南から)



7区 SI-4 貼床面柱穴(南から)



7区 SI-4 カマド遺物出土状況(南から)



7区 SI-5 遺物出土状況(南から)



7区 SI-5 完掘(南から)



7区 SI-5 カマド完掘(南から)



7区 SI-6 完掘 (南から)



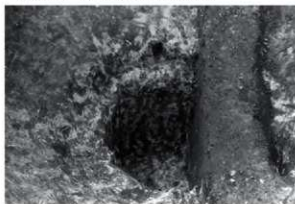
7区 SI-6 掘方完掘 (南から)



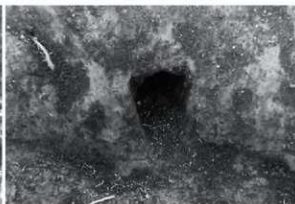
7区 SX-7 南側遺物出土状況 (南から)



7区 SX-7 有段下部セクション (南から)



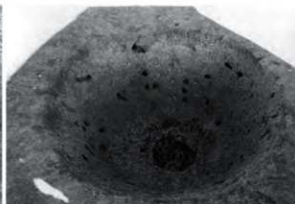
7区 SX-7 有段下部セクション (南から)



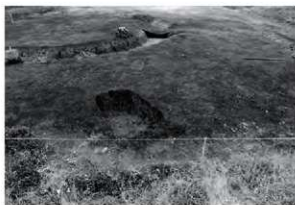
7区 SX-7 下部横穴アップ (東から)



7区 SX-7 焼土範囲状況 (南から)



7区 SX-7 完掘全景 (南上から)



8区全景（北から）



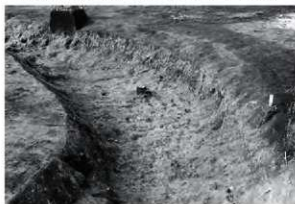
8区琴平塚9号墳周溝 ブリッジ状部分（北から）



8区琴平塚9号墳周溝 ブリッジ状部分完掘（南から）



8区琴平塚9号墳周溝 遺物出土状況（南から）



8区琴平塚9号墳周溝 東部完掘（南東から）



8区琴平塚9号墳周溝 東部完掘（北西から）



8区琴平塚9号墳周溝 北部完掘（東から）



8区琴平塚9号墳周溝 北部完掘（西から）



8区 SK-1 南北セクション (東から)



8区 SK-1 北部南北セクション (東から)



8区 SK-1 完掘 (南から)



8区 SK-1 掘方セクション A-A・B-B' (南から)



8区 SK-1 掘方完掘 (南から)



8区 SF-13 セクション (南から)



8区 SF-13 (道路状遺構) 路床の掘方 (北から)



8区 SF-13 (道路状遺構) 作業風景 (北から)

図版四〇 9区北部・南部航空写真



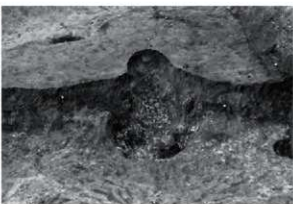
9区北部航空写真(北東上空から)



9区南部航空写真(南上空から)



9区 SI-1 遺物出土状況 (南から)



9区 SI-1 カマド完掘 (南から)



9区 SI-1 刀子・鏡出土状況 (南から)



9区 SI-1 紡績車出土状況 (西から)



9区 SI-7 完掘 (北から)



9区 SI-7 炉完掘 (北から)



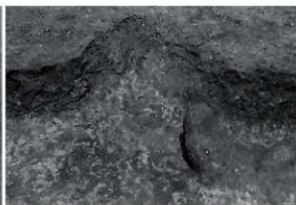
9区 SI-9 完掘 (南から)



9区 SI-9 カマド遺物出土状況 (南から)



9区 SI-10 完掘 (南から)



9区 SI-10 カマド完掘 (南から)



9区 SI-10 カマド遺物出土状況 (南から)



9区 SI-11 完掘 (南から)



9区 SI-11 カマド完掘 (南から)



9区 SI-12 蛭出ピット (P6) 遺物出土状況 (南から)



9区 SI-12 北部完掘 (南から)



9区 SI-12 カマド完掘 (南から)



9区 SI-12 突出ビット (P6) 完掘 (南から)



9区 SI-13・14 遺物出土状況 (南から)



9区 SI-13 カマド完掘 (南から)



9区 SI-14 遺物出土状況 (南から)



9区 SI-14 カマド遺物出土状況 (南から)



9区 SI-15 遺物出土状況 (南から)



9区 SI-15 完掘 (南から)



9区 SI-15 カマド遺物出土状況 (南から)

図版四四
9区遺構



9区 SI-16 遺物出土状況 (南から)



9区 SI-16 完掘 (南から)



9区 SI-17 遺物出土状況 (南から)



9区 SI-17 カマド完掘 (南から)



9区 SI-17 完掘 (南から)



9区 SI-21 完掘 (南から)



9区 SI-21 遺物出土状況 (南から)



9区 SI-26 完掘 (南から)



9区 SI-26・SD-3 遺物出土状況(南から)



9区 SI-27 完掘(西から)



9区 SI-27 カマド遺物出土状況(西から)



9区 SI-49 遺物出土状況(南から)



9区 SI-49 カマド完掘(南から)



9区 SB-8 完掘(南から)



9区 SB-22 完掘(南から)



9区 SB-22 P2、P-31 セクション(西から)

図版四六
9区遺構



9区 SB-23・SI-9 完掘 (南から)



9区 SB-23 P1 セクション (北東から)



9区 SB-35 完掘 (東から)



9区 SX-25 完掘 (東から)



9区 SX-25 完掘 (東から)



9区 SX-29 セクション (東から)



9区 SX-29 底部 (東から)



9区 SE-6 完掘 (南から)



9区 SE-6 断ち割り (西から)



9区 SD-2 完掘 (北東から)



9区 SD-3 完掘 (南から)



9区 SD-3 北部完掘 (南から)



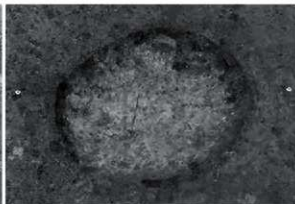
9区 SD-28 完掘 (北西から)



9区 SD-36 完掘 (東から)



9区 SD-120 完掘 (北東から)



9区 SK-4 完掘 (南から)

図版四八
9区遺構



9区 SK-5 完掘 (南から)



9区 SK-20 セクション (南から)



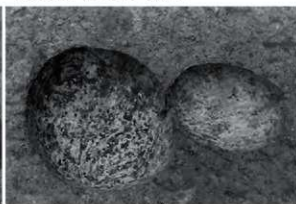
9区 SK-20 完掘 (南から)



9区 SK-24 セクション (西から)



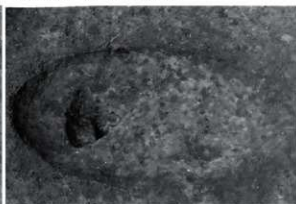
9区 SK-30 完掘 (東から)



9区 SK-31・32 完掘 (東から)



9区 SK-33 完掘 (南から)



9区 SK-34 完掘 (東から)



10区航空写真(西上空から)



11区航空写真(北西上空から)



10区 SI-1 遺物出土状況(東から)



10区 SI-1 完掘(東から)



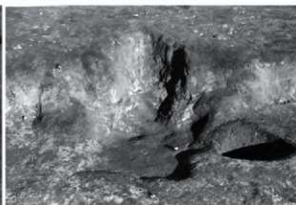
10区 SI-1 カマド遺物出土状況(南から)



10区 SI-2 遺物出土状況(南から)



10区 SI-2 完掘(南から)



10区 SI-2 カマド完掘(南から)



10区 SB-19・SI-2 遺物出土状況(東から)



10区 SB-19 P6 セクション(東から)



10区 SB-21 完掘 (南から)



10区 SB-21・P4, SB-22・P6 完掘 (東から)



10区 SB-22 完掘 (南から)



10区 SB-22 P6 完掘 (西から)



10区 SX-6 完掘 (南から)



10区 SX-6 P1 完掘 (南東から)



10区 SD-7 完掘 (西から)



10区 SD-15 完掘 (東から)



10区 SD-20 完掘 (北西から)



10区 SK-3 完掘 (南から)



10区 SK-4 完掘 (南から)



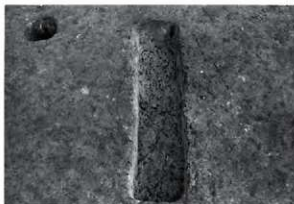
10区 SK-5 完掘 (南西から)



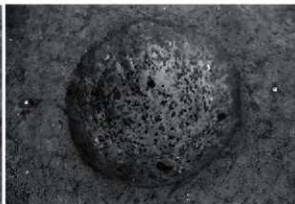
10区 SK-9 完掘 (南から)



10区 SK-12 完掘 (西から)



10区 SK-13 完掘 (西から)



10区 SK-17 完掘 (南から)



11区 SI-1 完掘(西から)



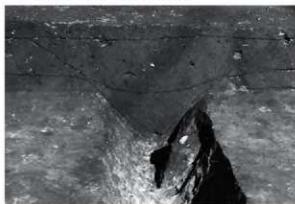
11区 SI-1 カマド完掘(南から)



11区 SD-2・SK-4 完掘(南から)



11区 SD-2 須恵器出土状況(東から)



11区 SD-2 セクション(南から)



11区 SD-3 完掘(東から)



11区 SK-5 完掘(南西から)



11区 SK-6 完掘(西から)



12区 SI-1 遺物出土状況(西から)



12区 SI-1 完掘(南から)



12区 SI-1 東カマド遺物出土状況(西から)



12区 SI-1 東カマド遺物出土状況(西から)



12区 SI-1 東カマドセクション(東から)



12区 SI-1 北カマド完掘(南から)



12区 SI-1 北西部坏出土状況(南から)



12区 SI-1 掘方(南から)



12区 SI-2 遺物出土状況 (南から)



12区 SI-2 カマド完掘 (南から)



12区 SI-2 坏出土状況 (南から)



12区 SI-2 鎌出土状況 (西から)



12区 SI-2 掘方 (南から)



12区 SI-3 完掘 (西から)



12区 SI-3 カマド完掘 (南から)



12区 SI-3 掘方 (南から)

図版五六
12区遺構



12区SB-6 完掘(南から)



12区SB-6 P1完掘(南から)



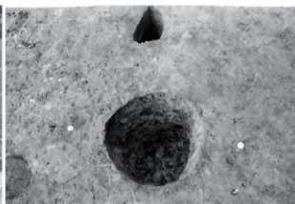
12区SB-7 完掘(南から)



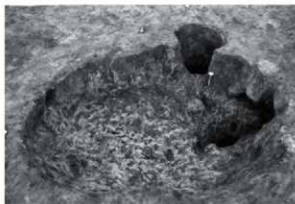
12区SB-7 P1完掘(南から)



12区SB-9 完掘(南から)



12区SB-9 P3完掘(南から)



12区SK-8 完掘(南から)



12区SK-11 完掘(南から)

図版五七 13区北半部・南半部航空写真



13区北半部航空写真（南東上空から）



13区南半部航空写真（南上空から）

図版五八
13区遺構



13区 SI-1 完掘 (南から)



13区 SI-1 遺物出土状況 (南から)



13区 SI-1 カマド完掘状況 (南から)



13区 SI-2 遺物出土状況 (南から)



13区 SI-2 完掘 (南から)



13区 SI-2 掘方 (南から)



13区 SI-2 カマドセクション (東から)



13区 SI-2 耳櫃出土状況 (南から)



13区 SI-12 完掘 (南から)



13区 SI-12 カマド完掘 (南から)



13区 SI-12 カマド遺物出土状況 (南から)



13区 SI-26 遺物出土状況 (南から)



13区 SI-26 完掘 (南から)



13区 SI-26 カマド完掘状況 (南から)



13区 SI-29 遺物出土状況 (東から)



13区 SI-29 完掘 (南から)



13区 SI-29 カマド遺物出土状況 (南から)



13区 SI-36 遺物出土状況 (南から)



13区 SI-36 カマド遺物出土状況 (南から)



13区 SI-36 掘方 (南西から)



13区 SI-37 遺物出土状況 (西から)



13区 SI-37 掘方 (南から)



13区 SI-37 東カマド完掘 (西から)



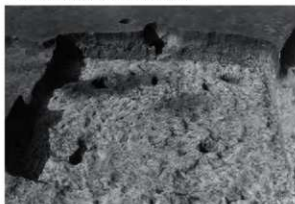
13区 SI-37 北カマド完掘 (南から)



13区 SI-37 北カマド掘方(南から)



13区 SI-38 完掘(南から)



13区 SI-38 掘方(南から)



13区 SI-38 カマド袖断ち割り状況(南から)



13区 SI-39 遺物出土状況(南から)



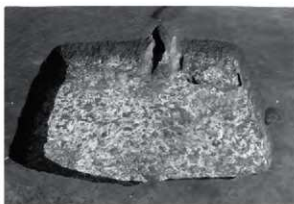
13区 SI-39 完掘(南西から)



13区 SI-40 遺物出土状況(南西から)



13区 SI-40 遺物出土状況アップ(南から)



13区 SI-52 完掘 (南から)



13区 SI-52 カマド完掘 (南から)



13区 SI-52 貯蔵穴遺物出土状況 (南から)



13区 SI-56 遺物出土状況 (南から)



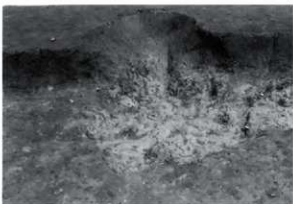
13区 SI-56 カマド完掘 (南から)



13区 SI-57 セクション (南から)



13区 SI-57 カマド遺物出土状況 (南から)



13区 SI-57 カマド掘方 (南から)



13区 SI-62・SK-61 完掘 (南から)



13区 SI-89 完掘遺物出土状況 (東から)



13区 SI-89 完掘 (南から)



13区 SI-89 カマド完掘 (南から)



13区 SI-89 東部遺物出土状況 (西から)



13区 SI-90 完掘 (東から)



13区 SI-91 完掘 (西から)



13区 SI-91 掘方 (西から)

図版六四
13区遺構



13区 SI-92 完掘(西から)



13区 SI-96 遺物出土状況(南から)



13区 SI-96 カマド完掘(西から)



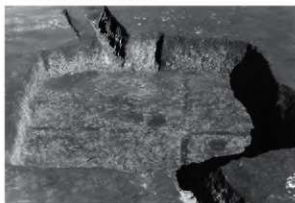
13区 SI-97 遺物出土状況(南から)



13区 SI-97 完掘(南から)



13区 SI-97 カマド遺物出土状況(南から)



13区 SI-100 完掘(南から)



13区 SI-100 掘方(東から)



13区 SI-100 遺物出土状況 (北から)



13区 SI-101 完掘 (南から)



13区 SI-101 カマド完掘 (南から)



13区 SI-101 掘方 (南から)



13区 SI-102 遺物出土状況 (東から)



13区 SI-102 完掘 (南から)



13区 SI-105 完掘 (南から)



13区 SI-105 カマド遺物出土状況 (南から)

図版六六
13区遺構



13区 SI-110 遺物出土状況 (南から)



13区 SI-110 完掘 (南から)



13区 SI-110 カマド完掘 (南から)



13区 SI-115 遺物出土状況 (南から)



13区 SI-115 掘方 (南から)



13区 SI-116 遺物出土状況 (南から)



13区 SI-117 完掘 (南から)



13区 SI-117 遺物出土状況 (南から)



13区 SI-117 カマド遺物出土状況 (南から)



13区 SI-118 遺物出土状況 (東から)



13区 SB-17 完掘 (西から)



13区 SB-17 P3 完掘 (東から)



13区 SB-17 P6 完掘 (南から)



13区 SB-17 P10 完掘 (東から)



13区 SB-17・18 完掘 (西から)



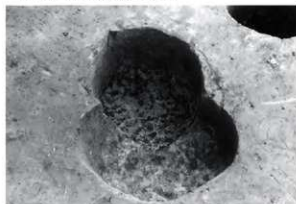
13区 SB-18 P1 完掘 (南から)



13区SB-18 P2 完掘 (南から)



13区SB-18 P3 完掘 (南から)



13区SB-18 P8 完掘 (西から)



13区SB-44 完掘 (西から)



13区SB-44 P4 完掘 (南から)



13区SB-66 完掘 (西から)



13区SB-66 P1 完掘 (南から)



13区SB-67 完掘 (西から)



13区SB-67 P4完掘(西から)



13区SB-67 P5完掘(西から)



13区SB-67 P6セクション



13区SB-82 完掘(西から)



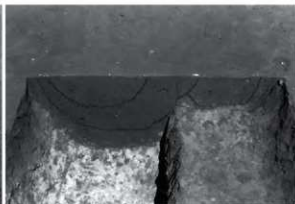
13区SB-82 遺物出土状況



13区SX-16 完掘(南から)



13区SX-20 完掘(南から)



13区SX-20・21 セクション(南から)



13区 SX-21 完掘 (南から)



13区 SX-21・22 セクション (南から)



13区 SX-21・22 底面の状況 (南から)



13区 SX-22 完掘 (南から)



13区 SX-25 完掘 (東から)



13区 SX-28・34 完掘 (南から)



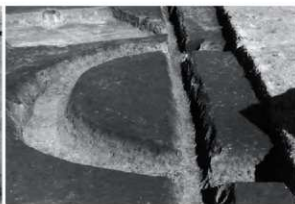
13区 SX-34 遺物出土状況 (南から)



13区 SX-35 完掘 (南から)



13区 SX-47 完掘 (南から)



13区 SX-98 西半部完掘 (南から)



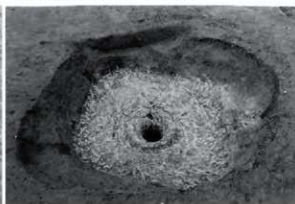
13区 SX-98 東半部完掘 (東から)



13区 SX-98 セクション (南西から)



13区 SX-94 完掘 (東から)



13区 SE-11 完掘 (東から)



13区 SE-11 セクション (南から)



13区 SE-81 全体完掘 (南から)



13区 SE-81 中央部完掘 (南から)



13区 SE-93 セクション (南から)



13区 SE-93 完掘 (南東から)



13区 SD-6 完掘 (南から)



13区 SD-6 セクション (南から)



13区 SD-23 完掘 (南から)



13区 SD-49 完掘 (東から)



13区 SD-53 完掘 (東から)



13区 SD-80 発掘 (東から)



13区 SD-95 発掘 (南から)



13区 SD-99 発掘 (西から)



13区 SD-103 発掘 (南から)



13区 SD-108 発掘 (南から)



13区 SD-111 発掘 (南から)

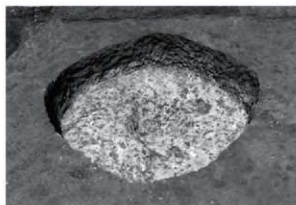


13区 SD-113 発掘 (西から)



13区 SD-119・120 発掘 (南から)

図版七四
13区遺構



13区 SK-3 完掘 (南から)



13区 SK-9 遺物出土状況 (南から)



13区 SK-9 完掘 (南から)



13区 SK-10 完掘 (南から)



13区 SK-45・46 完掘 (東から)



13区 SK-50・51 完掘 (東から)



13区 SK-54 完掘 (東から)



13区 SK-55 完掘 (南東から)



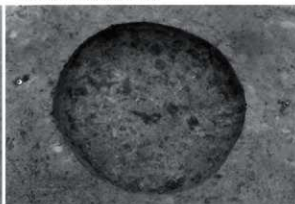
13区 SK-58・P-65 完掘 (南から)



13区 SK-71 完掘 (東から)



13区 SK-73 完掘 (東から)



13区 SK-86 完掘 (南から)



13区 SK-88 完掘 (南から)



13区 SK-107 完掘 (南から)



13区 SK-112 完掘 (南から)



13区調査区全景 (南から)

図版七六
14区遺構



14区 SI-1 完掘(西から)



14区 SI-2 完掘(東から)



14区 SI-2 カマド完掘(南から)



14区 SI-8 完掘(南から)



14区 SI-8 カマド遺物出土状況(南から)



14区 SX-3 完掘(東から)



14区 SX-3 南セクション(南から)



14区 SX-3 北セクション(南から)



14区 SX-9 完掘(南から)



14区 SX-9 B-B' セクション(南から)



14区 SD-12 完掘(南東から)



14区 SK-4 完掘(南から)



14区 SK-6 完掘(南から)



14区 SK-5 セクション(南から)



14区 SK-11 完掘(南から)



14区 SK-13 セクション(南から)

図版七八
西刑部西原遺跡3区



3区 SI- 1- 5



3区 SI- 1- 9



9内面



3区 SI- 1- 12



3区 SI- 1- 14



16内面



3区 SI- 1- 16



3区 SI- 1- 21



3区 SI- 1- 22



3区 SI- 1- 23



3区 SI- 1- 25



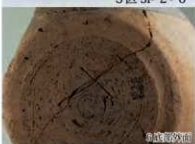
3区 SI- 1- 32



3区 SI- 2- 5



3区 SI- 2- 6



7底部



3区 SI- 2- 7



7底部



3区 SI- 2- 8



8底部外面



3区 SI- 2- 9



3区 SI- 2- 20



3区 SI- 2- 36



3区 SI- 2- 11



3区 SI- 2- 22



3区 SI- 3- 1



3区 SI- 2- 12 底部外面



3区 SI- 3- 1



3区 SI- 2- 13



3区 SI- 2- 25



3区 SI- 3- 2



3区 SI- 2- 14 内面



3区 SI- 2- 31・32



3区 SI- 3- 6



3区 SI- 2- 18



3区 SI- 2- 33・34



3区 SI- 3- 8



3区 SI- 2- 19



3区 SI- 2- 35



8 底部外面

図版八〇 西刑部西原遺跡3区



3区SI-3-12



16内面



3区SI-3-16



3区SI-3-18



3区SI-3-19



3区SI-3-20



3区SI-3-21



3区SI-3-22



3区SI-3-27



3区SI-4-2底部内面



3区SI-4-3



3区SI-4-4



3区SI-4-14



3区SI-5-3



3区SI-5-5



3区SI-5-7



3区SI-5-6



3区SI-5-7



3区 SI- 5- 8



3区 SI- 6- 8



3区 SI- 7- 9



3区 SI- 5- 11



3区 SI- 6- 14



3区 SI- 8- 1



3区 SI- 5- 18



3区 SI- 8- 3



18内面



3区 SI- 7- 7



3区 SI- 8- 4



3区 SI- 5- 20



内面



3区 SI- 8- 6



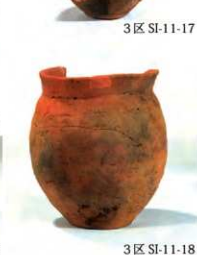
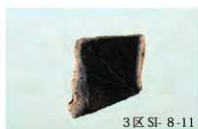
3区 SI- 5- 24



3区 SI- 7- 8



3区 SI- 8- 8





图版八四 西刑部西原遺跡3区



3区 SI-16-3



3区 SI-16-4



3区 SI-18-1



3区 SI-18-3



3区 SI-18-4



3区 SI-18-5



3区 SI-18-6



3区 SI-24-1



3区 SI-30-2



3区 SI-30-4



3区 SI-31-1



3区 SI-31-3



3区 SI-31-5



3区 SI-32-1



3区 SI-32-2



3区 SI-36-1



3区 SI-36-2



3区 SI-36-3



3区 SI-36-4



3区 SI-36-5



3区 SI-36-6



3区 SI-36-9



3区 SI-36-10



3区 SI-36-22



3区 SI-36-11



3区 SI-36-12



3区 SI-36-13



3区 SI-36-23



3区 SI-36-14



3区 SI-36-15



3区 SI-36-24



3区 SI-38-1





3区 SI-47- 5



3区 SI-50- 1



上面



3区 SI-50- 3



3区 SI-52- 16



3区 SI-47- 6



3区 SI-51- 1



3区 SI-53- 1



3区 SI-51- 2



3区 SI-53- 7



3区 SI-47- 8



3区 SI-51- 3



3区 SI-53- 8



3区 SI-47- 10



3区 SI-51- 5



3区 SI-53- 11



3区 SI-53- 12

図版八八 西刑部西原遺跡3区



上半部



下半部



底部



3区 SI-54-5



3区 SI-54-6



上面



3区 SI-54-11



3区 SI-54-7



3区 SI-58-2



3区 SI-58-8



9内面



3区 SI-58-9



3区 SI-58-10



3区 SI-58-12



3区 SI-58-13



3区 SI-58-14



3区 SI-58-16



3区 SI-60-2



3区 SI-61-1



外部



3区 SI-61-3



3区 SI-61-5



3区 SI-61-8



3区 SI-61-10



3区 SI-61-11



3区 SI-61-14



3区 SI-71-1



3区 SI-74-2



3区 SI-74-4



3区 SI-74-5



3区 SI-74-6



内部



3区 SI-74-7



3区 SI-74-8



3区 SI-74-9

図版九〇 西刑部西原遺跡3区



3区 SI-74-10



3区 SI-77- 5



3区 SI-84- 1



3区 SI-74-12



3区 SI-78- 5



3区 SI-84- 2



3区 SI-84- 5



3区 SI-74-18・19



3区 SI-81- 1



3区 SI-84- 6



3区 SI-77- 2



3区 SI-81- 3



7内面



3区 SI-77- 3



3区 SI-84- 7



3区 SI-77- 4



3区 SI-82- 1



3区 SI-85- 4



4底部外面



3区 SI-85- 5



3区 SI-85- 8



8 底部外面



8 刻書



3区 SI-85-10



3区 SI-85-13



3区 SI-85-11



11 繩圧痕



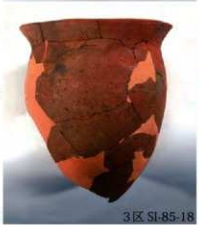
3区 SI-85-14



3区 SI-85-15



3区 SI-85-16



3区 SI-85-18



3区 SI-85-19



3区 SI-85-27



3区 SI-86- 5



3区 SI-86- 6



3区 SI-86- 7 底部外面



3区 SI-86- 8



3区 SI-86- 9



3区 SI-86-12



3区 SI-87- 4



3区 SI-87-12



3区 SI-86-14



3区 SI-87- 6



上面



側面

3区 SI-87-15・16



3区 SI-86-15



3区 SI-87- 7



上面



側面

3区 SI-87-17・18



3区 SI-87- 1



3区 SI-87- 9



3区 SI-88- 1



3区 SI-87- 2



3区 SI-87-11



3区 SI-88- 2



3区 SI-87- 3



3区 SI-88- 3



图版九四 西刑部西原遺跡3区



3区 SI-91-24



3区 SI-92-2



2底部外面



3区 SX-21-1



3区 SX-21-3



3区 SX-21-5



3区 SX-21-6



3区 SX-21-10



3区 SX-21-13



3区 SX-21-14



3区 SX-21-16



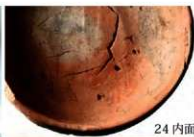
3区 SX-21-18



3区 SX-21-19



3区 SX-21-21



24内面



3区 SX-21-24



25内面



3区 SX-21-25



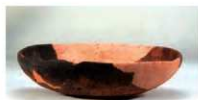
26内面



3区 SX-21-26



3区 SX-21-27



3区 SX-21-29



3区 SX-21-30



3区 SX-21-31



3区 SX-21-37



3区 SE-23- 1



3区 SE-23- 2



2底部外面



2底部外面



3区 SE-23- 3



3底部外面



3区 SE-23- 4



4底部外面



4底部外面



3区 SE-23- 5



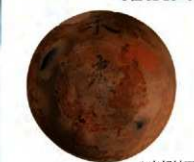
5底部外面



6内面



3区 SE-23- 6



6底部外面



3区 SE-23- 7



7底部外面



7黒書

図版九六 西刑部西原遺跡3区





図版九八
西刑部西原遺跡 3区





4区 SI- 1- 2



4区 SI- 3- 2



5区 SI- 4- 5



4区 SI- 1- 3



4区 SI- 3- 3



5区 SI- 5- 1



4区 SI- 1- 5



5区 SI- 1- 1



5区 SI- 5- 1



4区 SI- 1- 12



5区 SI- 1- 2



5区 SI- 5- 2



4区 SI- 1- 14



5区 SI- 1- 3



5区 SI- 5- 3



4区 SI- 2- 2



5区 SI- 1- 4



5区 SI- 5- 3



4区 SI- 3- 1



5区 SI- 1- 6



5区 SI- 5- 4





7区SI-4-1



7区SI-4-2



7区SI-4-8



7区SI-5-1



7区SI-5-6



7区SI-5-9



7区SI-5-8



9区SI-1-2



9区SI-1-3



9区SI-1-6



9区SI-1-8



9区SI-1-12



9区SI-7-1



9区SI-9-3



9区SI-9-4



9区SI-10-2



9区SI-12-2



9区SI-12-3



9区SI-12-5



9区 SI-12-6



9区 SI-12-8



9区 SI-12-11



9区 SI-12-16



9区 SI-12-17



9区 SI-12-19



9区 SI-13-1



9区 SI-14-1



9区 SI-14-4



9区 SI-14-5



5 底部外面



9区 SI-14-6



9区 SI-14-8



9区 SI-14-9



9区 SI-14-12



9区 SI-14-13



9区 SI-15-1



9区 SI-15- 2



9区 SI-16- 3



9区 SI-26- 2



9区 SI-15- 3



9区 SI-16- 5



9区 SI-27- 1



9区 SI-15- 4



9区 SI-49- 4



9区 SI-49- 4



9区 SI-15- 5



9区 SI-17- 4



9区 SI-49-11



9区 SI-21- 2



9区 SI-49-12



9区 SI-15- 7



9区 SD- 3- 3



9区 SI-16- 2



9区 SI-26- 1



9区 SD-120- 2



10区SI-1-3



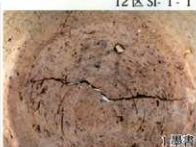
12区SI-1-1



12区SI-1-13



3底部外面



清墨書



12区SI-1-14



10区SI-1-4



12区SI-1-2



12区SI-1-19・20



10区SI-2-5



12区SI-1-3



12区SI-1-21・22



11区SI-1-1



12区SI-1-6



12区SI-1-26



11区SD-2-1



12区SI-1-8



11区SD-2-2



12区SI-1-10



12区SI-1-27凹面





13区 SI-2-8



13区 SI-12-4



13区 SI-26-4



13区 SI-26-5



13区 SI-2-9



13区 SI-12-5



13区 SI-26-7



13区 SI-2-14



5. 割の跡



13区 SI-26-8



13区 SI-12-1



13区 SI-12-2



13区 SI-12-3



13区 SI-26-1



13区 SI-26-9





13区 SI-29-4



13区 SI-29-5



13区 SI-29-6



13区 SI-36-5



13区 SI-38-1



13区 SI-38-2



13区 SI-40-5



13区 SI-38-3



13区 SI-40-8



13区 SI-40-9



13区 SI-52-2



13区 SI-52-5



13区 SI-52-7



13区 SI-56-2



13区 SI-89-1



13区 SI-89-2



13区 SI-89-3



8 底部外面



13区 SI-102- 1



13区 SI-105- 5



13区 SB-17- 1



13区 SI-102- 2



13区 SI-110- 2



13区 SB-17- 2



13区 SI-102- 3



13区 SI-110- 6



5内面



13区 SI-102- 4



13区 SI-115- 2



13区 SB-17- 5



13区 SI-105- 2



13区 SI-116- 2



13区 SX-20- 4



13区 SI-105- 3



2裏面



13区 SX-21- 2



13区 SI-105- 4



13区 SI-117- 1



13区 SX-34- 2



13区 SI-105- 4



13区 SI-117- 1



13区 SX-98- 6



13区SD-111-1



14区SI-8-1



試掘トレンチ



13区SD-111-2



14区SX-9-1



試掘トレンチ-5



13区SD-111-5



試掘トレンチ-1



試掘トレンチ-7



13区SD-111-7



試掘トレンチ-2



試掘トレンチ-8



表面

裏面

13区SD-111-13



2底部外面



試掘トレンチ-14



13区SD-113-2 (凹面)



試掘トレンチ-3



試掘トレンチ-16 (凹面)



13区遺構外-3



試掘トレンチ-4

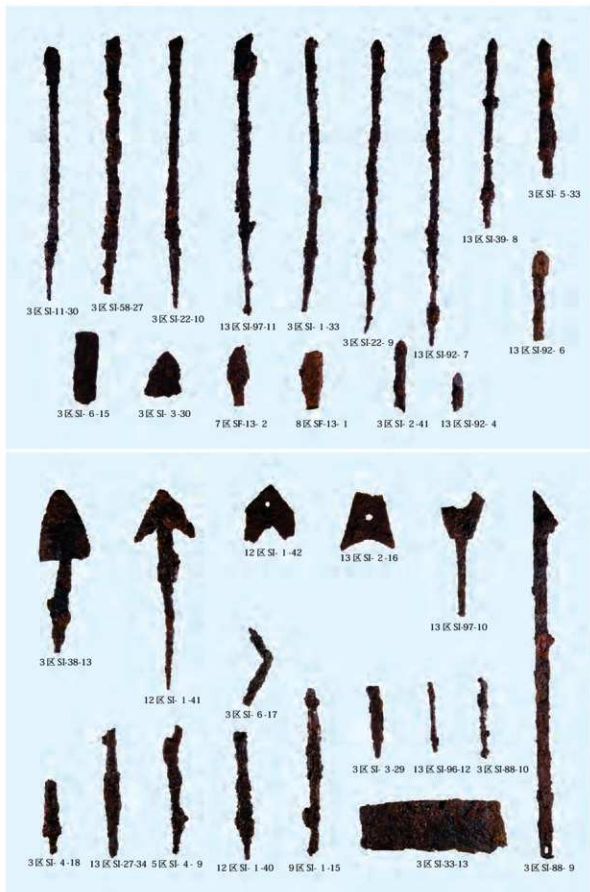


凹面

凸面

試掘トレンチ-17

図版二二二 西刑部西原遺跡 鉄製品(鉄鏃・直刀)



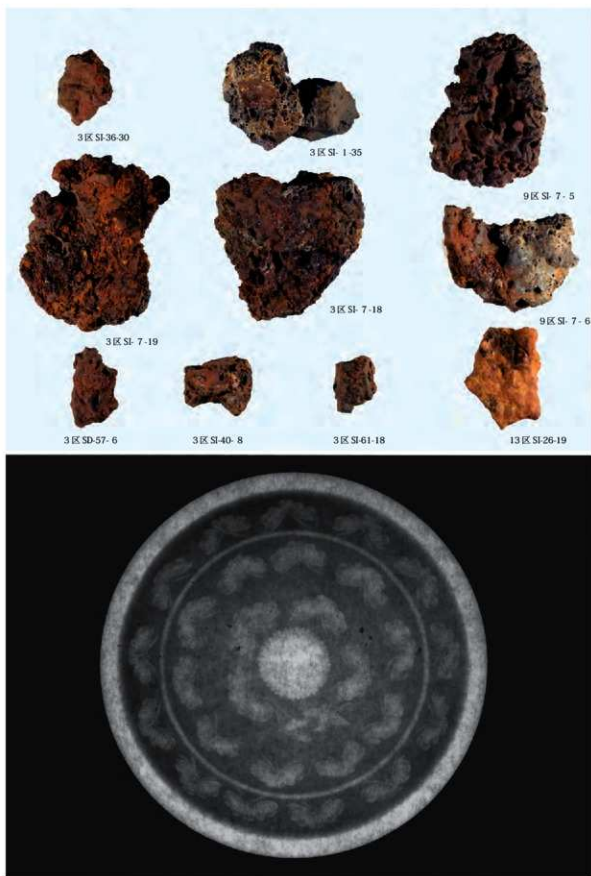


図版二四 西刑部西原遺跡 鉄製品(紡錘車)





図版二一六 西刑部西原遺跡 鉄滓・青銅鏡X線写真



図版一一七 西刑部西原遺跡 青銅鏡（群蝶双雀鏡）



報告書抄録

ふりがな	とうや・なかじまちくいせきぐん 16 にしおさかべにしはらいせき
書名	東谷・中島地区遺跡群 16 西刑部西原遺跡(古墳・奈良・平安時代編)
副書名	一都市再生機構による東谷・中島土地地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査一
巻次	16
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第362集
編者名	亀田幸久
編集機関	財団法人 とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター
所在地	〒329-0418 栃木県下野市紫474番地 TEL 0285-44-8441
発行機関	栃木県教育委員会 財団法人とちぎ未来づくり財団
発行年月日	西暦 2013年3月30日 (平成25年3月30日)

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
西刑部西原 遺跡	栃木県宇都宮市 平塚町字西原地内	09201	271	36度 29分 40秒 (3区)	139度 54分 46秒 (3区)	3区 20000404 ~ 20010206	8,200	東谷・中 島土地地区 画整理事業 に伴う 事前調査
						4区 20000913 ~ 20001200	900	
						5区 20010501 ~ 20010712	3,000	
						6区 20010501 ~ 20010806	2,800	
						7区 20011105 ~ 20020128	4,800	
						8区 20030911 ~ 20031010	100	
						9区 20050707 ~ 20060223	1,200	
						10区 20051128 ~ 20060126	600	
						11区 20051214 ~ 20060217	450	
						12区 20061204 ~ 20070125	600	
						13区 20070703 ~ 20071227	3,375	
						14区 20071206 ~ 20071220	540	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
西刑部西原 遺跡	集落	古墳	3区 竪穴建物跡63棟、竪立柱建物跡8棟、円形周溝遺構3基、性格不明遺構2基、井戸7本、溝1基、円形有段遺構1基、土坑20基、ビット18基	土加器、須恵器、 灰釉陶器、木製品 (原木・桶・櫛)	鉄 製品(鏃・手 鋸先・刀子・鉄 鏃・釘・鏝・ 直刀・引手)、そ の他金属製品(金 製耳環・鍍付足 金物)、石器(砥石・ 組石・石製紡錘車 ・編物石)、石製織造 品・漆器、 白土質・鍍金土製 品・鉄片、 和紙(群蝶双雀籠)	
			奈良	4区 竪穴建物跡3棟、溝1条、土坑3基		銅製品(鏃・手 鋸先・刀子・鉄 鏃・釘・鏝・ 直刀・引手)、そ の他金属製品(金 製耳環・鍍付足 金物)、石器(砥石・ 組石・石製紡錘車 ・編物石)、石製織造 品・漆器、 白土質・鍍金土製 品・鉄片、 和紙(群蝶双雀籠)
				5区 竪穴建物跡4棟、竪立柱建物跡3棟、円形周溝遺構1基、土坑20基、ビット13基		
		平安		6区 溝2条、土坑8基、ビット1基		
			7区 竪穴建物跡4棟、円形有段遺構1基、土坑3基、道路状遺構			
		8区 土坑1基、道路状遺構、野平塚9号墳	銅製品(鏃・手 鋸先・刀子・鉄 鏃・釘・鏝・ 直刀・引手)、そ の他金属製品(金 製耳環・鍍付足 金物)、石器(砥石・ 組石・石製紡錘車 ・編物石)、石製織造 品・漆器、 白土質・鍍金土製 品・鉄片、 和紙(群蝶双雀籠)			
		9区 竪穴建物跡15棟、竪立柱建物跡4棟、円形有段遺構2基、井戸1本、溝6条、土坑10基、ビット118基				
		10区 竪穴建物跡3棟、竪立柱建物跡3棟、円形周溝遺構1基、溝3条、土坑13基、ビット70基	銅製品(鏃・手 鋸先・刀子・鉄 鏃・釘・鏝・ 直刀・引手)、そ の他金属製品(金 製耳環・鍍付足 金物)、石器(砥石・ 組石・石製紡錘車 ・編物石)、石製織造 品・漆器、 白土質・鍍金土製 品・鉄片、 和紙(群蝶双雀籠)			
		11区 竪穴建物跡1棟、溝2条、土坑3基、ビット35基				
		12区 竪穴建物跡3棟、竪立柱建物跡3棟、土坑3基、ビット48基				
		13区 竪穴建物跡30棟、竪立柱建物跡6棟、円形周溝遺構8基、円形有段遺構1基、性格不明遺構2基、井戸4本、溝13条、土坑56基、ビット97基				
		14区 竪穴建物跡3棟、性格不明遺構2基、溝1条、土坑5基、ビット14基				

要約	<p>田川の東岸の低台地状に立地する。開析谷を挟んだ西側に中島塚遺跡、南側に磯岡北遺跡が所在。古墳時代：中期末から後期終末期の竪穴建物跡68棟、円形周溝遺構10基、井戸4本、性格不明遺構(遺物集地点)1、溝跡5条を確認。3区 SI-58からは鳥に似た線刻(或いは刻書か)ある須恵器控線が出土。土器類では少量だが北武蔵系の土師器、東海産の須恵器瓶類等が見られる。SI-22から薮地銀張の鍍付足金物が出土。同 SI-53からは扇子状鉄製品が出土している。この他古墳時代後期の円墳(野平塚9号墳)の周溝、木棺墓1基、土坑墓1基を確認。</p> <p>奈良時代：竪穴建物跡40棟、竪立柱建物跡4棟、井戸6本、円形有段遺構3基、溝跡5条などを確認。円形有段遺構は3区・7区13区から確認される。また7区・8区では道路状遺構の一部を調査した。3区からは刻書のある須恵器蓋(「厨」か)須恵器蓋(「厨」か)が出土。4区 SI-1から新羅土器、3区 SI-5から湖西産の須恵器蓋が出土。鉄製品は3区 SI-38から「槽」の引手が、13区 SI-97から鍮が出土する。</p> <p>平安時代：竪穴建物跡9棟、井戸1本を確認。在地産の土器類の他、製塩土器や、南北企産の須恵器環、湖西産の灰釉陶器類が少量出土する。9世紀中葉の井戸 SE-23からは「来」の墨書土器や多くの自然遺物と供に木製品(原木・桶・櫛等)が出土。完形品の鉄製紡錘車が9区 SI-1から出土。</p> <p>中世：4区から鎌倉時代の青銅製和鏡(群蝶双雀籠)が出土する。</p>
----	--

東谷・中島地区遺跡群埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

- | | | |
|---|---------------------|---------------|
| 1 「磯岡遺跡（1区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第229集 | 1999（平成11）年3月 |
| 2 「砂田遺跡（1区・2区・3区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第265集 | 2002（平成14）年3月 |
| 3 「推定東山道関連地区（権現山遺跡SG1区 杉村遺跡SG1区 磯岡北遺跡SG3区・SG4区・SG6区・SG7区・SG8区・SG11区・SG12区・SG13区・SG14区 西刑部西原遺跡2区・6区・7区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第274集 | 2003（平成15）年3月 |
| 4 「琴平塚古墳群（西刑部西原遺跡1・2・6区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第283集 | 2004（平成16）年3月 |
| 5 「立野遺跡」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第290集 | 2005（平成17）年3月 |
| 6 「磯岡遺跡（2区～7区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第292集 | 2005（平成17）年6月 |
| 7 「磯岡北古墳群（磯岡北遺跡SG12区・SG16～18区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第299集 | 2006（平成18）年3月 |
| 8 「砂田遺跡（4～6・18・19・23・24区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第305集 | 2007（平成19）年3月 |
| 9 「中島笹塚古墳群・中島笹塚遺跡（1～8区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第311集 | 2008（平成20）年3月 |
| 10 「権現山遺跡北部（2～4区・SG1区）・杉村遺跡（GN1区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第331集 | 2010（平成22）年3月 |
| 11 「砂田姥沼遺跡（1～3区）・砂田瀧遺跡（1～3区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第337集 | 2011（平成23）年3月 |
| 12 「西刑部西原遺跡 旧石器・縄文・弥生時代編」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第354集 | 2012（平成24）年3月 |
| 13 「砂田遺跡（10・12・13・16・27区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第355集 | 2012（平成24）年3月 |
| 14 「権現山遺跡南部（SG2区・SG5区・SG9区・SG10区・SG15区）・磯岡遺跡（SG9区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第360集 | 2013（平成25）年3月 |
| 15 「砂田遺跡（7～9・11・14・15・17・20～22・25・26・28～42区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第361集 | 2013（平成25）年3月 |
| 16 「西刑部西原遺跡 古墳・奈良・平安時代編」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第362集 | 2013（平成25）年3月 |

栃木県埋蔵文化財調査報告第362集

東谷・中島地区遺跡群 16

西刑部西原遺跡

（古墳・奈良・平安時代編）

一部市再生機構による東谷・中島土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査一

発行 栃木県教育委員会

宇都宮市埴田1-1-20

TEL 028 (623) 3425

財団法人とちぎ未来づくり財団

宇都宮市本町1-8

TEL 028 (643) 1011

平成25年3月30日発行

編集 財団法人とちぎ未来づくり財団

埋蔵文化財センター

下野市紫474番地

TEL 0285 (44) 8441

印刷 下野印刷株式会社
